日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念

日蓮聖人門下連合会だより

創刊号～第五十号

発行：日蓮聖人門下連合会

日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念

日蓮聖人 門連だより

創刊号～第五十号 目次

目次 …… 1
はじめに …… 2
名簿 …… 329

創刊号 …… 3
第2号 …… 9
第3号 …… 13
第4号 …… 19
第5号 …… 25
第6号 …… 33
第7号 …… 41
第8号 …… 45
第9号 …… 53
第10号 …… 59
第11号 …… 65
第12号 …… 71
第13号 …… 77
第14号 …… 83
第15号 …… 89
第16号 …… 95
第17号 …… 103

第18号 …… 111
第19号 …… 119
第20号 …… 127
第21号 …… 135
第22号 …… 141
第23号 …… 147
第24号 …… 153
第25号 …… 159
第26号 …… 165
第27号 …… 171
第28号 …… 181
第29号 …… 187
第30号 …… 193
第31号 …… 199
第32号 …… 205
第33号 …… 211
第34号 …… 217

第35号 …… 223
第36号 …… 229
第37号 …… 235
第38号 …… 241
第39号 …… 247
第40号 …… 253
第41号 …… 265
第42号 …… 271
第43号 …… 279
第44号 …… 285
第45号 …… 291
第46号 …… 297
第47号 …… 303
第48号 …… 309
第49号 …… 315
第50号 …… 321

門連だより合本　「はじめに」

平成三十三年二月十六日にお迎えする日蓮聖人御降誕八〇〇年のご聖辰に向け、日蓮聖人門下連合会では慶讃事業の一環とし、「門連だより」の合本を刊行する運びとなった。

「門連だより」は昭和六十一年四月二十八日に創刊号が発行。その後、主に年二回のペースで刊行され、平成二十六年十月十三日に第五十号の節目を迎えた。創刊号から実に二十八年の歳月を経ての第五十号刊行であり、その間の当会を取り巻く環境や歴史などを一望することができる。

当会の歴史を振り返ると、昭和三十五年一月二十九日に「日蓮聖人門下懇話会」として発足し、同年二月二十五日に現名称である「日蓮聖人門下連合会」に改組され、「日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする」という本会の根幹をなす規約も定められた。

発足した昭和三十五年には日蓮聖人伊豆法難七〇〇年記念行事が開催され、以降、昭和四十六年に降誕七五〇年慶讃「聖伝劇日蓮」明治座公演、昭和五十六年にお迎えした七百遠忌の四大事業である日蓮聖人展の開催、日蓮聖人劇の全国公演、オラトリオ日蓮聖人の創作、青年の船 サイパン・グァム島への船旅、平成十五年に立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」の開催、平成二十一年に立正安国論奏進七五〇年記念特別展「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」の開催、そして、平成二十二年には門連結成五十周年を迎え、記念法要を開催した。

刊行当初は白黒であった紙面も第三十四号（平成十八年十月十三日刊行）よりフルカラーに一新した。「門連だより」の企画・構成・編集は各宗派より選任された機関紙編集委員により行われ、現編集委員、歴代の編集委員の各聖・各位のご尽力により現在まで号を重ねることができた。

四年後に迫った日蓮聖人御降誕八〇〇年を機に、門下益々の団結・協力による各種慶讃事業の円成と、「門連だより」紙面の更なる充実を目指し、今後も多くの方々のご指導を仰ぎながら末永く刊行していけることを願っている。

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181
昭和61年4月28日
創刊号

創刊の辞

理事長
長瀬　貫公



日蓮聖人門下連合会創立二十五周年の大会が昨年十一月二十一日京都妙顕寺に於て開催されました。

御生前門連活動に御功績のあった先師を追悼申しあげ、過去の歩みを省み、今後の進むべき方向について虚心坦懐に語りあう機会をもち得ましたことはまことに意義深いことでありました。

当日配布されました昭和三十四年～六十年に至る「日蓮聖人門下連合会のあゆみ」は特に貴重な資料で、先師先輩各聖が肝胆を砕いて門下各派の大同団結の道をさぐり、真剣な討議の下、さまざまな活動と事業を展開してこられた足跡は、日蓮門下の歴史の中で強く記録さるべきであると存じます。

私共はこの足跡を有り難く継承し益々の発展を推進すべき責務があると痛感するものであります。

さて門下連合会規約の目的には「本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。」とあり、この目的にそって(1)祖廟護持の組織強化、(2)教育事業の提携、(3)布教の連合強化、(4)懇談会、講演会等の開催、(5)各種出版物の刊行、(6)海外布教の提携及び交流、(7)対外的な各種の運動、(8)その他、等事業を行うことを規定いたしております。

想えば門下連合会の先師達が、叡智を結集した目的と事業が明快な形でここに示されているわけでありますが、特にその目的の柱は「祖廟を中心として団結を強化する」との報恩実践行にあると存じます。

大聖人の御廟に直参し奉り、異体同心の和合体実現の可能性を誓うことこそ、門下連合会の基本姿勢であり今後も門下連合会団結強化の基本理念に据えてまいらなければならないと存じます。門下連合会はこの目的達成に向い、来る年毎、各派代表者による祖廟直参を定例行事とし今後も重要な活動として行ってまいりたいと存じます。

七百遠忌を中心に各種報恩共同事業が展開され、その成果も多大なものがございましたが、これらの成果体験を貴重な流の頁として紙面が活用され門葉団結の絆となる可く充実を期してまいりたいと存じております。

どうか門下連合会発展のため皆々様の御力添えを賜りますよう御願い申上げ、創刊の辞といたします。

創刊を祝う
「二十一世紀に向けて」

日蓮宗管長
金子　日威



日蓮聖人門下連合会結成二十五周年を期し機関紙の刊行を見た事は真に慶賀に堪えません。

思えば昭和三十五年門下連合会の発足より二十五年の星霜を経て、今日まで赫赫たる足跡を残して参りました。その間、小衲昭和三十八年日蓮宗宗務総長の職にあり、新規約に基づき初代理事長に選出され、微力乍ら御門下各派と相はかり、調整、協議に意を傾注して参りました。

御門下各派の皆様方の昼夜をわかたぬ深甚なる御援助、御協力を得て、宗祖日蓮大聖人第七百遠忌記念事業も昭和五十年より正当五十六年をはさんで、五十七年迄の八ヶ年に亘って展開、実施を見たのであります。これひとえに日蓮聖人門下が心を一つに結集、祖恩に報謝し、共に手を携えて事業完遂に向けて一致団結の浄業の賜ものと存ずるのであります。

四半世紀を経て、今日に至り新たに大きく躍進し、来るべき二十一世紀にむけ時代即応の活動が希求されており、中でも次代を荷負う門下青年層の若さ溢れる活力と叡智に期待するものであり、また私共も報恩謝徳の誠を捧げ、知恩感謝の念を再度自覚し、以て真の門下として死身弘法に精進し、僧俗一体となり祖意を顕揚し、新世界、新世代に対応しうる活動を目指すものであります。

今日まで日蓮聖人門下連合会の活動に対し御協力をいただきました、寺壇一統、各委員の方々に深甚の感謝の意を申し述べると共に、会の益々の御発展を祈り、発刊の御祝いの言葉といたします。

創刊を祝う
「信頼と合議を大切に」

顕本法華宗管長
吉田　日康



このたび、日蓮大聖人門下連合会（以下略して門連と云う）に於て機関紙を発行することになり、ここに創刊に当り慶賀を表するものであります。

かつて大正から昭和にかけての御門下の活動は、宗門の歴史を飾るに誠に相応しいものでした。立正大師諡号の宣下、それに併なう祝賀会、勅額の拝戴、水魚会の創立等々私達の先輩諸聖は多くの事業を残されました。

その後戦中の合同、そして終戦と同時に元の組織にかえり、又それ以上に分派してゆきました。それは、信仰と云うものは権力に支配されないと云うことを如実に実証して居り、宗祖を始め、各派先師上人が当時の権力に屈することなく如法弘通せられた歴史が物語っております。

然るにこの門連が創立されてから二十五年と云う永い間続いたことは、権力によらず、お互いの信頼と合議の上に出来上った会であるからであります。

お互い共同して行なわなければならない仕事が沢山あると思います。それらを一つ一つ皆さんで共に研鑽し異体同心の祖訓を体し私達と門連の諸聖と一諸にやがて訪ずれるであろう五十周年に向って前進してゆきたいと思っています。

創刊を祝う
「誕生を祝福する」

法華宗陣門流管長
野口　日騰



昭和五十六年に高祖日蓮大聖人の七百御遠忌を迎えるに当り、門下の各教団は、慶讃法要を盛大に慶修することはもとよりのこと、大いに宗意を高揚するよう、早くから多彩な記念事業を計画し、努力した。その中には「オラトリオ日蓮」の公演と音盤の頒布「日蓮劇」の全国巡演「日蓮聖人展」の主要都市での開催等のことを組み込み、充分に成果を挙げ得たことを喜んだのである。また翌五十七年の春には「青年の船」が出て、参加者一同に生涯忘れ難い楽しく有意義な思い出を作らせたことは、企画として成功したといえる。以上列挙したことは、実は日蓮門下連合会の合議決定のうえになされたことで、一部の人を除いては、大方が連合会を、教団の宗政担当者達のサロン的な存在としか理解していなかっただけに、これを契機として認識を新たにすることにもなった。

門下の教団が虚心に同一の卓について情報を交換し、また懇談する機会を持ち、時には合意のもとに事に当ることは必要と思う。それがために会を持つことに異論のあろうはずがない。だからこそ、戦後の安定期に入ると、昭和二十七年の開宗七百年を大いに慶讃しようと、これに先き立ってその前年に、規模の大きな門下協議会が結成されたのであった。不幸にして、これは十年ほどで自然解散となり、次いで発足したのが現在の本会なのである。それがここにめでたく二十五周年を迎えるというのである。何で祝意を表さずに居られよう。心から慶賀すると共に、健全に、末永く一層発展することを願って止まないのである。

これがその性格というものなのか、本会は殆ど表舞台に立つことをせず、舞台の袖に謙虚に控えていて、それなりの仕事をする立場にあったように見受けられた。それというのも教団を代表する賢人が会して静かに語り合い、そこで得たものを施策に反映させるのが本来の趣旨と理解していたからである。過去二十五年の間には議論もあったであろうが、波瀾もなくて、共にこうして今祝えるのは、和融協調、異体同心の精神が一貫していたからであろう。また運営のよさがあってのことと称賛しなければならない。

このたび、決議に基いて機関紙を発行することになって、舞台の袖から一歩前進し、存在が明確になった。従って一見変質したかのような印象を持つ。事情を知らない者の愚かさかも知れないが、微温的な存在から発展させる当然の帰結とあれば、本会のもつ本旨を逸脱することのないように願い、誕生を祝福する次第である。独自の編集方針をたてて、とりかかるのであろうが、ご苦労のほどが思い遣られる。立派に育つよう心から祈ってやまない。

創刊を祝う
「キラリと光る内容に」

本門仏立宗講有
西村　日地



日蓮聖人門下連合会が結成されて二十五周年を迎え、それを契機に今年、より年二回、門連機関紙が刊行されると伺いました。

これまでは、役員会に役員が出席して、情報の交換を行ってきていた様ですが、機関紙となればより多くの人々の目にふれることとなり、その理解度は深まることと思われます。

一方、現代は情報の氾濫時代といわれていて、錯綜する情報の整理学が必要とされるこの頃です。こういう風潮の中での新情報は、関心をもって見ればどんな情報にも、それなりの意義があって、活用され得るのでしょうが、ウッカリすると見落しやすいものも多くあります。ですからハマトンは『知的生活』の中で、私たちの知能に二種類あって、インテリジェンスとインテレクトがある。インテリジェンスはいろいろな情報データから一つの結論を出したり、問題処理する能力を云うそうですが、インテレクトはその時点では誰も正解を知らない、五年、十年と経ってみると、どれが正解かがわかる。そういう問題が直感的にわかる能力と分けています。

インテリジェンス・レベルの情報をどれだけ多くもっているかでは十分ではなく、折々の情報から全体的、総合的なものを把握する能力がどれだけあるかが重要だそうです。

その基本には、明確な目標というものの有る無しで、インテレクト能力の働きは差が開くといっています。その通りでありましょう。

しかし今度創刊される機関紙は、一歩進んでインテレクト能力を開発して下さるような、キラリと光る内容が一杯入っている、もちろんインテリジェンス的情報も相俟って、豊富な内容のものであってほしいと願うのは私一人ではありますまい。

希望する方は簡単にお願いできますが担当なさる方々はご苦労なこととお察しいたします。

情報氾濫時代にまた一つ情報がふえる程度のものではなく、私たちを啓蒙裨益してやまない筈の門下連合会機関紙の創刊されることを、お祝いしつつ、高い関心を以て見守っています。

創刊を祝う
「墓をばみのぶ沢にせさせ候べく候」

日蓮本宗管長
原　日認



門下連合会結成二十五周年を心からお慶び申しあげる。一口に二十五年というがこの間、会の運営に携わられ、会としても今日不動の態勢にまで育てあげられた関係各聖のご苦心に対しては心からなる敬意を表したい。

ところで、この二十五年の間に会の残した軌跡はまことに大きい。伊豆法難七百忌、聖誕七百五十年慶讃、宗祖七百遠忌など、宗祖へのご報恩の記念の大行事は、いずれも門連態勢が確立していてこそ、はじめて実効の伴うものであったと言い得る。殊に這般の七百遠忌に於ける記念行事は刮目に値いするものだった。末代永劫に残るであろうオラトリオ日蓮の作曲や、前進座に依る聖人劇の各地興行、聖人展の大々的開催、そして斬新な門下「青年の船」の大成功、どれを取りあげても関係者の大いなる苦心のほどが偲ばれて頭がさがるのだった。

さて、これらの記念行事以外で極めて重視されるものとしては、身延山祖廟御真骨問題と祖廟輪番奉仕に関する件であろう。申すまでもなく身延西谷の沢辺に聖骨を埋め墓を建てまいらせることは、「いづくにて死に候とも墓をばみのぶ沢にせさせ候べく候」（波水井殿御報）の祖意に基くものである。普通なら当然御遷化の地池上本門寺に御廟所をご造営したであろうに、わざわざ不便な身延まで聖骨をお運びしてのお墓づくりは御遺言の忠実な具現にほかならなかった。祖師の聖骨の鎮まる祖廟は「みのぶ沢」でなければならないのであって、さもなくば祖意に悖る。だが今やその聖骨は、その「みのぶ沢」の祖廟から他へ遷されている。カラッポの祖廟への参詣の足は、自ら遠ざかるの声が大きく、心ある人びとの眉をひそめさせている。一日も早く聖骨を祖廟に奉還して祖廟本来の姿にたちかえるようにとの声は久しい。今回も七百遠忌という紀年にふさわしい行事として京都日蓮聖人門下連合会も身延山当局に要

二面につづく

請したし、又わが門連としても国柱会田中香浦会長の「御真骨奉遷をめぐる提言」の如き極めて具体的高邁な配慮の提言も打ち出されたのであったが、ついにこの七百遠忌の紀年にその実を結ぶことのできなかったことは、甚だ残念というほかはない。

門下連合会の規約第三条の目的の項にも「祖廟を中心として」とうたっているように、門下各派が文句なしに帰一できる場所は、「祖廟」の他にはないのである。門下全体が祖廟に拝跪して心から額ずけるように一日も早く聖骨の祖廟への奉還が望まれている。ここに門連二十五周年の多大の功を慶ぶと共に、当面するこの祖廟への聖骨奉還を重要課題として、門連の総力を挙げて邁進されることをねがうものである。

創刊を祝う

「未解決の問題をどうするか」

本門法華宗管長　永井　日揮



人生八十年の時代を迎えたお蔭で、一生の間に宗祖日蓮大聖人の御遠忌に、二度（六百五十遠忌と七百遠忌）も遭遇し得た事は、私にとって限りなき感激であります。殊に七百遠忌の砌りには、自ら磬を打って大法会を厳修し得た事は、終生忘れる事の出来ない法悦でありました。この大行事が門連結成二十五周年の期間中に於て執行された事も、又特筆大書すべき慶事であったと思います。門連の全機関をあげて、宗風の刷新と、弘宣流布の実を挙げ得た事は、洵に秀逸な快挙であったと痛感しています。

所が平素余り門連と深いかゝわりをもっていない私にとって、何となく物足りない感じがするのは、二十五年という年月は成程長いと云えば長いかも知れないが、其の長い期間中に於て、右の御遠忌事業を除いて、一体どんな業績を残して来たのか、という点について、判然と示して欲しいと思うのであります。只単に親交を深める為め、という程度の寄合として結成されたのか、それとも何等かの発展的な事業を企画して出来上った機関なのか、その辺の主旨がわかりかねる次第であります。

若し結成当時に、その主旨がはっきり挙げられていたのなら、今までにどれだけの業績を挙げて来たのか知り度いものであります。またこれから何をやろうとしているのか、門連として是非やらねばならぬ、未解決の問題（祖廟関係問題、祖像の首盗難事件）等が片付いたのか、これらの点に就て今まで一向に触れられていないのはどうした事ですか。

門連が結成された事によって、各宗門に何程寄与したものがあったか、という点についても知り度いものです。

毎年度の初めに於て、その年度に於ける事業計画を協議されている筈でありますが、それがどの程度まで実行に移され、どんな効果をもたらしたのか等に就ては、これから機関紙が発行されるので、紙上を通じて充分知る事が出来ることを希望しています。

当宗に於きましては、昨年十一月十二日を以て、大本山妙蓮寺の貫首が交替致しまして、現在佐野日紀師が貫首に就任致しております。また総長も、去る三月の宗会に於て、増田宏雄師から吉村信尚師に文替致しましたので、此の紙上を拝借して御報告申し上げて置きます。

何分不明の為め、筆禍の点も多く、不快感を抱かれた方も相当あったのではないか、と存じますが、悪しからず御寛恕下さいます様お願い致して置きます。

尚今後は門連加盟の各宗派の諸聖は、大同団結して、宗風の発展、四海帰妙の祖意貫徹に向って、一致協力しようではありませんか。その為めに機関紙が果す役割も、亦大である事を念頭に置いて、立派な出来上がりを期待して止みません。

創刊を祝う

「お題目総弘通運動」の一翼に

法華宗真門流管長　林　日圓



日蓮聖人門下連合会結成二十五周年を期し、門連の機関紙が誕生したことは、妙法広布に拍車をかけるものと、寔にご同慶にたえない。

衆知のごとく、五十九年十二月十七日より二十一日に至る五日間、ハワイ大学で、世界最初の「法華経文化研究国際会議」が開催され、法華経が日本の宗教・哲学・文学・美術・政治・慣習制度に、どのような影響を与えたかについての学術会議に参加、研究発表をされたのは、総数二十四名で、そのうち日蓮関係が一〇名、天台関係七名、文学美術関係四名で日本から参加したのは、立正大学の渡辺宝陽・田村芳朗・糸久宝賢・関戸堯海桐谷征一先生と、国柱会々長田中香浦氏のほか、大正大学・大阪大学・竜谷大学・東京国立文化財研究所の各先生であった。

この、史上初めての法華経を中心とする国際会議が、結果的には日蓮談議を中心とする会議となったとか、詳細は、元立正大学教授、日蓮宗ハワイ開教総長としてご活躍の村野宣忠師と国柱会々長田中香浦氏が、国際会議の所感を述べられている。（「真世界」一九八五年二月号）

ところで、旧臘K・B・S京都の、ヨーロッパツアーに参加、ローマからロンドン行の機内で、スチュワーデスが私に笑顔で、ジャパン南無妙法蓮華経？と尋ねられたので、イエスと和顔で答え、記念写真まで撮らせてもらった。たとえ歪曲された日蓮聖人像にしても、お題目がヨーロッパに、広宣流布しつつあることは事実である。

日蓮聖人は、仏法を弘通するためには、教と機と国と順序を知ることが大事であると指南されている。その『教機時国抄』によれば、教を知るとは『法華経』が、一切経の中で第一の経王であることであり、機を知るとは、謗法の者に対して一向に『法華経』を説くことであり、時を知るとは、実大乗の『法華経』でなければ末法の衆生は成仏しないことを、よく考えることであり、国を知るとは、法華一乗の国は日本国で、日本国は一向に法華経の国と知ることであると断ぜられている。

ところが、日本仏教の大半は、日蓮聖人の〝四個格言〟に見られるごとく、成仏とは無縁の権教の雑草がはびこって、世の中を迷惑させているのが現状である。

驚異的な科学の進歩発達は、先端技術を駆使して、ロボットによる産業革命時代・情報革命時代ともいわれているが、要は科学も先端技術も、それを駆使する人間の、〝心の問題〟である。

日蓮聖人は、「事の一念三千」の哲学によって、心の持ち方、用い方によって世の中が極楽浄土ともなり、穢土となると指南されている。

門連の機関紙が、法華経広宣流布、お題目総弘通運動の一翼を担当せられることを期待してご挨拶とする次第である。

創刊を祝う

「門連加盟の経緯と展望」

京都日蓮聖人門下連合会理事長　吉永　正晴

門連機関紙の発刊をお祝い申上げます。異体同心の聖旨に応え奉る門連の隆昌に大きな力となることと期待致します。

門連発足当初の規約第二条には「本会の事務所は東京都……日蓮宗宗務院に置き、関西事務連絡所を京都……顕本法華宗宗務院に置く。」とあり、第五条には「本会は日蓮聖人門下各派及び教団を以って組織し、各地に支部を設置することができる。」とありました。昭和四十年二月片山日幹猊下が理事長に新任されて間もない五月二十八日、当時顕本法華宗宗務院のありました京都市中京区寺町二条総本山妙満寺に於いて「京都理事会」が開催されました。

出席者は次の通りです。

日　蓮　宗―理事長片山日幹、伊藤勝淳、星野純義、斉藤龍遵、小倉課長

顕本法華宗―朝倉俊夫、伊藤無量、古瀬堅徳、吉永正晴、

法華宗真門流―水野日尊、矢放日城、松井東洋

法華宗本門流―寺岡泰徹

法華宗陣門流―水本大岳

日　蓮　本　宗―清水義一

本門仏立宗―木村日玄

国　柱　会―田中香浦、別枝誕爾

日本山妙法寺―丸山行進

京都に於ける門下は、当初「聖祖門下連合会」として折にふれ広宣流布のため活躍しておりましたが、日蓮聖人門下連合会の発足により、昭和四十年名称を「京都日蓮聖人門下連合会」と改称しました。

此の京都理事会と改称が相俟って機運熟し昭和四十九年十一月三十日妙満寺に於ける「京都門連との拡大理事会」開催を第一回として、昨年妙顕寺に於ける門連発足二十五周年第十二回京都理事会に至るまで、昨年記念講演をされました国柱会田中香浦会長の「日蓮聖人門下連合会のあゆみ」に詳しい如く毎年各本山輪番会場として開催されて今日に至って居ります。此の間昭和五十二年六月二十三日京門連細井友晋会長、大西寛美理事長も出席しての身延理事会に於いて、地方支部を廃し地方門下連合会加盟の現今の規約に改正され、京都に於いても翌五十三年二月十六日規約を改正して正式に加盟しました。

京都日蓮聖人門下連合会加盟の経緯を展望して、今後各地に於ける地方門連組織の発足を願い、大聖人門下大同団結統合の日の来らんことを切望致します。



祖廟輪番奉仕の実践

編集部

「祖廟輪番奉仕」は日蓮聖人滅後遺弟により制定されたもの。六老僧はじめ中老僧がたにより一ヵ月間、聖人の御廟所にお仕えし報恩の誠を捧げた。しかし、その輪番の制はくずれ、布教の全国的展開が開始され、分派を見るに至った。

この分派・分流の発生は一面では教義の深化であり、聖人教団の発展であった。

ところが不幸なことに、分派は分裂につながり、相互の対立をきたらす歴史を経験しなければならなかった。近代に入り、再び聖人門下の統合を図ろうとする動きが活発となり本会の設立にもつながってきた。

こうした流れの下で、門下が連合する基点は、やはり「祖廟」であり、聖人入滅の直後の状態、すなわち輪番の制にかえることが、次にくる転回点と思われる。

去る昭和四十年、日蓮宗ならびに身延山は、御門下各教団のかねてからの願望をいれて、祖廟輪番給仕を連合会所属各教団の自由な奉仕に門をひらくべく、その宗制を改めすすんで各派による祖廟輪番の門をひらくに至った。

本会の規約にも祖廟中心の精神は強くうたわれており、この祖廟輪番奉仕を毎年つづけている国柱会にスポットをあて、その方法や内容をご紹介してみたい。

まず、輪番奉仕員への要項説明である。

（昭和五十八年度実施例）

合掌　第十九回の祖廟輪番奉仕を奉行するにあたり、貴台には諸事をなげうって卒先参加の段心よりおよろこび申上げます。

ご承知のとおり本会の祖廟輪番奉仕は、全日蓮聖人御門下を代表して給仕第一の聖訓をそのままに実践する如法のお給仕でありますので、期間中は整斉たる秩序のもとに万全を期したく、各位のご協力を要請いたします。

身延山は朝夕冷気を感ずる折、ご健勝にてご参加下さるよう祈念いたします。

国柱会本部

要　項

●**集合日時**　十月二十一日(金)
午前十一時三十分

●**集合場所**　身延山西谷、「林蔵坊」
☎（〇五五六六二）〇一一一

●**常勤原則**　十月二十一日十四時、開式の結団式に引きつづき常勤開始。団長先生はじめ団員全員が奉仕時間帯により、一座三十分交替にて十月二十三日の十一時に至る間、昼夜不断の唱題給仕を行う。

●**服　装**　男子―制服（黒袴・黒上衣・風折・中啓・黒靴下）黒靴。清掃奉仕の際は黒っぽい洋服（ネクタイ付）にて可。女子―宗章紋付・白足袋・草履。宿舎にて講課・食事等は平服にて可。

●**常勤服務**　奉仕員は、自分の当番（係より予め割当）がきたら身心を整え輪番本部（林蔵坊内、国柱会の）に出仕を告げ、常勤体制に入る。別紙の行軌に基づいて常勤、終ったものは宿舎に帰り、輪番本部へ常勤終了を報告する。

●**常勤宝章**　すでに常勤宝章をお持ちの方は忘れずに持参のこと。別紙日程のとおり宿舎において講課が行われる。

●**講　課**　輪番奉仕団本部を林蔵坊内におき、次の役員ならびに諸係りを設け整正秩序を持し献身奉給の運営をはかる。

●**運　営**　団長
総務―団の全般運営、連絡、起居、指導、受付、会計（正・一、副・一）
進行―常勤奉仕の編成・時間帯作り指示、講課、進行（正・一、副一）その他、奉仕団を班編成し、各班に班長および副班長を置き、班員の掌握と指示事項の伝達徹底をはかる。

●**持参品**　講課用筆記具・洗面用具
次に当日奉仕者のための「行軌」の説明である。

第十九回　国柱会
祖廟輪番奉仕　行軌

●**着　座**　五分前向って左の円座に正座する。

●**三　礼**　座礼頂足礼を登坦時、退坦時におのおの三回行う。

●**線　香**　正面香炉の線香が短かくなっておれば、三礼の前に参進してつけ、火打石で浄める。（大体一人おき）

●**唱　題**　先に登坦の導師の唱題に合せて微音唱題する。

●**鈴　法**　交替時刻がきたら左の規定通り正しく鈴法を行う　鈴法はつぎのごとく黒丸の位置で入れる。

南無妙法蓮華経　●南無妙法蓮華経　南無妙法蓮華経
●南無妙法蓮華経（略）

このようにして国柱会では毎年五六十名の参加のもと奉仕を続けてきている。今年もまた十一月第二十二回目の祖廟輪番奉仕が行われる予定ときく。

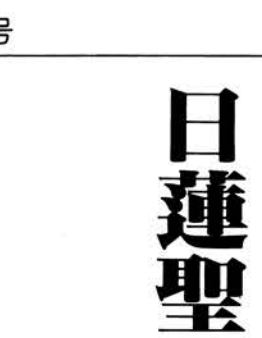


昭和五十九年新調された祖廟輪番奉仕旗

日蓮聖人門下連合会の回顧と展望

本稿は昭和六十年十一月二十一日、京都妙顕寺で開催された日蓮聖人門下連合会創立二十五周年の記念集会において、筆者が行なった記念講話の要旨である。

国柱会会長　田中香浦



日蓮聖人門下連合会創立二十五周年を記念するこの意義ふかい集いにおいて、お話を申上げる機会を得ましたことは、省みてまことに感慨ぶかいものを覚えますと同時に、甚だ光栄に存ずる次第であります。

日蓮聖人門下連合会（日門連と略称）二十五年の歴史については、このたび事務当局がじつに詳細の記録をおつくり下さってありますので、その一々については省略しまして発起者として成立に至った事情を申上げたいと存じます。

「立正安国論」七百年に

昭和三十四年と申せば、祖国は独立して日なお浅く、敗戦ショックは深刻で、日本人の精神的混迷は甚だしく、巷にはあたかも病んだ体に猖獗するピールスのごとく、迷信邪教が流行し、日蓮聖人ご門下として黙視し得ない状況でありました。折しも日蓮宗におかれても、宗風一新の要があり、一宗の輿望を担って当妙顕寺貫主山田日真上人が、たしかその前年の暮ごろと思いますが、八十五歳のご高齢で第三十八代管長にご就任が内定されたのでありました。

昭和三十四年（一九五九）という年は、日蓮聖人が鎌倉において、内に外に末法の危機来ると予測したまい、憂念おく能わず、「仏の未来記」あるいは「之に準じて之を思ふに未来亦然るべきか」と仰せられた世界平和の宝典『立正安国論』を幕府にご上書の、いわゆる第一国諫の文応元年（一二五九）より、ちょうど七百年に相当しておりました。

そう致しますと、その翌年、昭和三十五年は伊豆法難の七百年に相当し、ついで小松原法難、竜口法難の七百年目となり、申すまでもなく佐渡法難、ご本尊顕発、身延ご入山の七百年目があいついで訪れ、昭和五十六年には策七百ご遠忌をお迎えするという順序になるわけでございます。これは唯ごとではないと私は痛感致しました。聖人ご門下の大同団結すべき天の時の訪れではあるまいかと考えたのであります。

そういう思いを抱き、私は昭和三十四年の二月四日、当山に山田日真上人をお訪ね申したのであります。猊下はその趣旨にふかく共鳴同感され、当面しては第一国諫七百年の記念行事を各宗合同で開催するということに意見が一致したのであります。ただし今は自身登局の以前であり、またこの種の件は、日蓮宗からの音頭取りは古往今来あまりよい結果はないので、ぜひ国柱会から門下諸宗団に親しく呼び掛けて欲しいとのことでした。

そこで日を改めて西下し、顕本法華宗吉永日洋上人、本門流松井日宏上人、真門流木下日等上人、日蓮本宗今村開要上人らをお訪ねし、東京では星野智融講師と手分けをして、陣門流村上日宣上人、本門流宗務所、日本山妙法寺等をお訪ねして、いずれもご賛同を得、さらに不受不施派藤原上人を通じ同派の、また文書を通じて同講門派大崎日弘上人のご賛同を得て、同年八月十九日（旧暦七月十六日）、東京の共立講堂で、十一教団の共催による「立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」が盛大に開催され、同夜の懇親会の席で、「日蓮聖人門下懇話会」の常設が決定、やがて、翌三十五年に今日の「日蓮聖人門下連合会」の結成に至り、ついで本門仏立宗、やがて本門法華宗のご加盟があり、さらに各地域に支部をという観点から、門下連合については先に統合の実をあげておられた京都門下連合会とご縁が結ばれ、そのご参加をみるに至ったわけであります。

このような日門連発足に至った経過をふりかえりますと、四海唱導の霊蹟である当妙顕寺こそ日門連誕生の濫觴の地でありまして、二十五周年の記念の集いがこの地に催され、門下連合にご尽瘁の先亡先師の追善法要が営まれたということは、じつに意義ふかいものを覚えます。

因縁の妙はそれに尽きません。実は今から二十年前の昭和四十年の十一月二十一日という日は、不思議にも山田日真上人の祥月ご命日に相当しているということであります。山田上人のみ霊もさぞお喜びのことと存ずるのであります。

ご門下統合に向けて

山田上人と申せば、上人こそ若き日からご門下の統合に心を致された大先輩でありました。話は明治三十四年に溯ります。当時、東洋哲学館（東洋大学）に在学の学生を中心に、橘香会という組織がありました。山田上人のほか中川観秀、柴田顕秀といった方たちが中心で、この会の主催で、ご門下各教団合同の「本化門下夏期講習会」が、片瀬の竜口寺で十日間の会期で開催されました。本多日生上人、脇田堯淳上人や田中智学居士らが講師として出席があり、その翌年も伊東の仏現寺で開催されました。これはご門下統合の歴史において特筆されてよい出来ごとと考えます。

ご門下統合のさらに画期的は事件は、明治三十五年の開宗六百五十年記念大会で、東京でじつに十日間にわたって開催され、未曽有の盛況でありました。これはさきの脇田・本多両上人および田中智学居士が中心で進められました。

明治の門下連合の催しとしては、明治三十六・七年にかけ一ヵ年にわたる大阪立正閣での、田中智学居士指導の「本化宗学研究大会」も画期的な催しと申せましょう。各宗派百数十名の青年学衆が東西より参集されたのであります。

降って大正期に入りますれば、大正十年の聖誕七百年を記念して、本多日生上人は大師号の宣下に尽力され、翌十一年ついにご宣下に接し、上人は「文応の提唱、今、天子のみ声より出づ」と、その感銘を録されたのでありました。

昭和に入っては六年、聖祖六百五十遠忌にさいし「立正」の勅額が身延の祖廟に降賜されました。この件は日蓮宗の酒井日慎上人、岡田日帰上人らとともに、田中智学居士が犬馬の労をとりましたし、ご下賜にさいして事前に各宗団に下問があり、「日蓮聖人の廟墓は身延西谷」と各宗一致して回答し、そのなかには富士大石寺派も加わりました。

これぞまさしく祖廟を、聖人全ご門下の共通の聖標と意識せよとの天の声と申すべきであり、祖廟を中心とすることによって統合の核が確立し、門下連合の道に明るい希望の火がともり、促進の機運が開かれたと信ずるものであります。

門下連合会に至る背景には、とくに近代以降、これら先師各位の如法な思いと熱誠なご努力があったことを、忘れるわけには参りません。そのような貴いご努力があればこそ、先師たちの護念に包まれながら、この二十五年の「異体同心」の実績があり得たと思うのであります。

七百遠忌の反省

結成以来約二十年、私も理事の一員として、各師各聖と仲よく仕事をさせて戴きました。省みて本当に愉しく懐しい思い出ばかりが脳裡にのこっております。

ただ残念に思いますことは、聖祖七百遠忌という千載一遇の好機を迎えながら、四海帰妙の洪願につどうわれわれでありますのに、天下を震撼し「耳目を驚動」せしめる底の広布の活動を展開し得なかったということであります。もう一つはあの機会に、お題目系新教団もふくめて、ともにご遠忌の報恩大会をというそもそもの志が中途にしてついえたということであります。この後者の件については、趣旨に賛同された数個の新教団の幹部各位には、お呼びかけした当事者の一人として、真に遺憾の思いを禁じ得ません。

さて問題はむしろ「将来への展望」にあると存じます。みのり豊かな発展のために、経験をふまえて率直に問題点を指摘致しますならば、この日門連は

第一に、各宗団の限られたトップの集合であって、各宗団のあげての参加体制にはなっておらぬということ

第二に、したがってまた檀信徒を含んだ運動体でないこと

第三に、それゆえに全ご門下を動員する広宣流布の体制も組めず、その姿勢と意欲にも欠けるということであります。願くは「異体同心なれば万事を成ず」とのご聖訓を全ご門下の第一義と銘肝し、各宗こぞって下々に至るまでこの聖なる門下連合の趣旨を徹底周知せしめ、そのつどいの輪をいっそう充実かつ発展せしめるよう、各聖のいちだんのご尽力をつつしんで要請したいのであります。

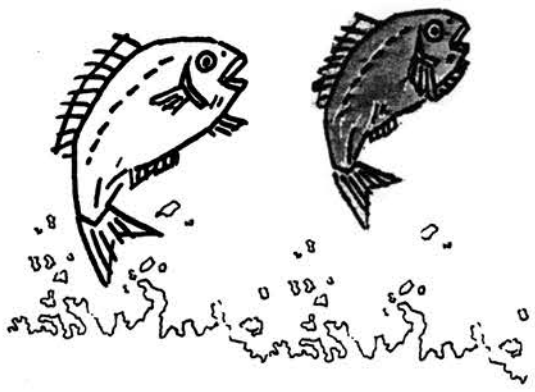
その一大円環の組織の要には、共通の聖的として祖廟があり、祖廟中心をいっそう具体的に実現していただくよう、お願い申し上げたいと存じます。さる昭和三十九年の五月以来日蓮宗および身延山のご配慮で、祖廟輪番制がしかれ、国柱会はご承知のとおり四十年から連年挙行していますが、各派におかれてもご実行下さることを切に期待申上げます。

新しい世紀の世界観

ところで私どもは今、日本人おろか全人類が史上かつて経験したことのない、歴史的な大きな転換期に直面しております。本日、米ソ首脳は会談しておりますが核をめぐる米ソの対立といい、飢餓といい自然破壊といい、教育荒廃といいテロ続発といい、世界をあげて五濁熾盛の末法の様相を呈しております。一天四海の人類一体の時代を迎えながら、しかし平和は夢のかなた、地上には末法の雲が低く垂れて、人類全滅の可能性さえ秘めております。石原莞爾は、大聖人の「前代未聞の大闘諍、閻浮提に起るべし」とのご予言をもとに「世界最終戦争」の接近を予測し、「人類前史の終焉期」と称しましたが、今やその大闘諍時代であります。

これは主に西洋文明によって促されましたが、その行詰りはついに脱近代・脱西欧の叫びとなり、新しい世紀の世界観は仏教であるとの声が西方からあがりつつあり、旧臘、ハワイ大学で行なわれた「法華経の日本文化への影響」という国際会議が開かれた背景も、欧米人の日本文化に対する関心のあらわれで、その的が法華経であるというのは、まさに新しい時の訪れを痛感せしめられるのであります。

今世紀には、仏教に人類の未来の夢を托そうという底流が確実にあります。「末法の大導師」日蓮聖人のご門下は「四海帰妙」の具体化に決起すべき秋であります。日門連はひろく檀信徒とくに婦人青年たち、さらには文化・知識人たちを動員し、世界に向けて聖祖の洪願・絶対平和・立正安国達成の戦力たるようご努力願いたいと切に念願してやみません。



祝創刊

宗教法人国柱会・出版部真世界社

●出版書●（送料別）

田中智学著
田中智学自伝 全10巻　三三、〇〇〇円
日本国体の研究　八、〇〇〇円
日蓮主義の信仰　九三〇円
本仏の三徳　九三〇円

田中芳谷著
田中智学先生略伝　三、六〇〇円

田中芳谷監修
田中智学先生影譜　二、五〇〇円

田中香浦編
田中智学先生遺墨集　一八、〇〇〇円

田中香浦著
田中智学（評伝）これからの世界・人間　一、四〇〇円
日蓮聖人の宗教　一、三〇〇円
日蓮主義の研究　九八〇円
正しい宗教のすすめ　二、〇〇〇円
蘇れ、日本。　五八〇円
一、五〇〇円

西川満著
小説日蓮聖人　一、三〇〇円
聖譚詩日蓮聖人　一、〇〇〇円
長篇叙事詩日蓮聖人　三、八〇〇円

山川智応著
日蓮主義発展史　一、五〇〇円

林瑞岱著
日蓮聖人の生涯　四八〇円

大橋冨士子著
私たちの法華経　八八〇円
和の音　六八〇円
美しく生きるために　九八〇円

〈真世界運動〉機関誌
月刊真世界　年間購読料三、六〇〇円　定価三〇〇円

真世界社
〒132 東京都江戸川区一之江6-19-18
電話（03）656-7111
郵便振替 東京5-19556

日蓮聖人門下連合会規約

（名称）
第一条　本会は日蓮聖人門下連合会と称する。

（事務所）
第二条　本会の事務所は東京都大田区池上一丁目三二番一五号日蓮宗宗務院に置く。

（目的）
第三条　本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

（事業）
第四条　本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合教化
4、懇談会、研究会、講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

（組織）
第五条　本会は日蓮聖人門下各派及び教団並びに地方門下連合会を以って組織する。

（役員）
第六条　本会に左の役員を置く。
理事長　一名
理事　若干名
常任理事　若干名
監査　二名
相談役　若干名
幹事　若干名

（役員の選出）
第七条　門下各派及び教団は三名の理事を推薦し、地方門下連合会は二名の理事を推薦し、うち一名を常任理事とする。
理事長及び監査は理事会が推薦する。
幹事は理事長の指名による。
相談役は理事経験者の中から理事会が推薦する。
理事長は本会を代表し、理事会の議長となる。
理事は本会の理事会を構成し、議決する。
常任理事は本会の企画及び運営に当る。
監査は本会の会計を監査する。
相談役は理事会に出席し、意見を述べることができる。
幹事は本会の庶務、会計を掌る。

（役員の任期）
第九条　役員のうち、監査、相談役の任期は三年とし、再任をさまたげない。

（顧問）
第十条　顧問は各派管長職にある者が就任するほか理事会の推薦により顧問若干名を置くことができる。

（会議の招集）
第十一条　理事会は理事長が招集し、必要に応じて之を開催する。
常任理事会は理事長が招集し、隔月一回以上之を開催する。
その他必要に応じ委員会を設けることができる。

（経費）
第十二条　本会の経費は各派、教団及び地方門下連合会の分担金並びに寄付金による。
本会の会計年度は四月一日に始まり翌年三月末日に終る。

（規約の改正）
第十三条　本会の規約改正は理事会の議決を経る。
第十四条　この規約は昭和三十八年六月二十七日より実施する。

附　則
第十五条　本会に参加しようとする各派及び教団ならびに地方門下連合会は理事会の承認をうけるものとする。
第十六条　本会の役員は規約改正により昭和五十年二月二十四日より就任したものとする。

昭和四十六年六月十四日　改正施行
昭和四十九年十一月二十七日　改正施行
昭和五十年二月二十四日　改正施行
昭和五十一年十一月二十四日　改正施行
昭和五十二年六月二十三日　改正施行
昭和六十一年五月十四日　改正施行

●日蓮聖人門下連合会役員名簿●

（昭和61年5月14日現在）

〈日蓮宗〉
管長　顧問　金子　日威　146　大田区池上一―一―一　本門寺　〇三―七五二―二三三一
総長・理事長　長瀬　貫公　146　大田区池上一―三二―一五　宗務院　〇三―七五一―七一八一
常任理事　冨田　義董　892　鹿児島市松原町六―一　教王寺　〇九九二―二三―二七八五
理事　水谷　諦俊　607　京都市山科区御陵大岩町六　本圀寺　〇七五―五九三―九一九一

〈法華宗本門流〉
管長　顧問　藤田　日浄　297　茂原市鷲巣四八　鷲山寺　〇四七五―二―二九七八
総長・常任理事　松井　孝純　170　豊島区北大塚一―二六―四　宗務院　〇三―九一〇―三五九八
理事　川口　善教　410　静岡県沼津市岡宮一〇四六　西之坊　〇五五九―二一―六六二六

〈顕本法華宗〉
管長　顧問　吉田　日康　299-41　市原市喜多五一―五　寿福寺　〇四三六―七四一―五六二
総長・常任理事　河野　時中　283-01　山武郡九十九里町小関八四二　妙覚寺　〇四七五―七六―四九四九
理事　吉永　正晴　542　大阪市南区中寺一―一―四六　蓮成寺　〇六―七六一―四四八五
理事　山田　信正　140　品川区南品川二―八―二三　天妙国寺　〇三―四七一―七九二一

〈法華宗陣門流〉
管長　顧問　野口　日騰　955　三条市西本成寺一―一―二〇　本成寺　〇二五六三―二〇〇〇八
総長・常任理事　鈴木　昭吾　112　文京区大塚五―二―七　善心寺　〇三―九四一―〇九三一
理事　牧野　琢成　168　杉並区永福三―五六―二九　理性寺　〇三―三二一―二九二八
理事　布施　慧光　107　港区北青山二―一二―八　持法寺　〇三―四〇八―三二四〇

〈本門仏立宗〉
講有　顧問　西村　日地　602　京都市上京区一条通七本松西入滝が鼻町一〇〇五―一　宥清寺　〇七五―四六一―一六六
総長・理事　長谷川日序　192　八王子市小安町一―二二―二五　清流寺　〇四二六―四六―〇二八七
常任理事　泉沢　日涌　164　中野区南台二―四八―七　清隆寺　〇三―三八一―八六九六
理事　水谷　日尚　150　渋谷区鶯谷十一―一五　乗泉寺　〇三―四六一―四五〇三

〈日蓮本宗〉
管長　代務者顧問　原　日認　606　京都市左京区新高倉孫橋上る法皇寺町四四八　要法寺　〇七五―七七一―一九〇
総長・常任理事　太田　奠壌　606　京都市左京区新高倉孫橋上る法皇寺町四四八　真如院　〇七五―七七一―五七四五
理事　嘉儀　裕乗　605　京都市東山区五条橋東六丁目五八八　実報寺　〇三―九六一―七六九六
理事　柳下　義真　175　板橋区板橋二―二二―一四　宗仙寺

〈法華宗真門流〉
管長　顧問　林　日圓　602　京都市上京区知恵光院通り五辻上る紋屋町三三〇　宗務院　〇七五―四四一―五七六一
総長・理事　藤井　文英　916　福井県鯖江市二丁掛町三一―一　本蔵寺　〇七七八―六二―一四一九
常任理事　吉田　勝秀　162　新宿区西五軒町四　真清浄寺　〇三―二六〇―〇九七二
理事　上田　浩岳　602　京都市上京区知恵光院通り五辻上る紋屋町三三〇　是好院　〇七五―四五一―八九九〇

〈本門法華宗〉
管長　顧問　永井　日揮　602　京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺門前町八七五　妙蓮寺　〇七五―四五一―三五二七
総長・理事　吉村　信尚　532　大阪市淀川区東三国一―四一五　大願寺
常任理事　木村　光紹　410　沼津市千本町一九一〇―一八五　本光寺　〇五五九―六二―二四〇三
理事　持地　信行　412　静岡県御殿場市中丸二七一　蓮静寺　〇五五〇―二一―一〇〇六

〈国柱会〉
会長　顧問　田中　香浦　132　江戸川区一之江六―一九―一八　申孝園内　国柱会　〇三―六五六一―七一一一
理事長・理事　加倉井清信　132　江戸川区一之江六―一九―一八　申孝園内　国柱会　〇三―六五六一―七一一一
常任理事　大橋　邦正　132　江戸川区一之江六―一九―一八　申孝園内　国柱会　〇三―六五六一―七一一一
理事　関口　宏　132　江戸川区一之江六―一九―一八　申孝園内　国柱会　〇三―六五六一―七一一一

〈日本山妙法寺〉
大僧伽　102　千代田区九段北三―二―二三　日本山妙法寺　〇三―二六二一―四二七一
常任理事　石山　善邦　230　横浜市鶴見区東寺尾四―一―三三　日本山妙法寺　〇三―二六二一―四二七一

〈京都門下連合会〉
会長　吉田　日康　606　京都市左京区岩倉幡枝町九一　妙満寺　〇七五―七九一―七一七一
理事長・常任理事　吉永　正晴　606　京都市左京区岩倉幡枝町九一　妙満寺　〇七五―七九一―七一七一
理事　藤田　尚慈　600　京都市下京区中堂寺西寺町一　勝光寺　〇七五―八一一―三二九五

顧問　渡部　日皓　272　市川市中山二―十一―一　法華経寺　〇四七三―二四―三三三
塩田　義朗　860　熊本市横手町一―一―三〇　正立寺　〇九六三―二二―三三二二
遠藤　日護　417　富士市中央町一―九―五八　妙祥寺　〇五四五―五二―二九五
及川　真学　160　新宿区西新宿七―一二―五　常円寺　〇三―三七一―一七九七

監査
相談役
日蓮宗　宗斉藤　竜遵　320　宇都宮市大通り五―三―八　妙正寺　〇二八六―二三―四〇
日蓮宗　山口　智光　111　台東区元浅草二―五―一三　妙経寺　〇三―八四一―七二八九
本門仏立宗　木村　日玄　171　豊島区南大塚二―一五―一　遠妙寺　〇三―九四六―五四五一
法華宗陣門流　水本　大岳　114　北区田端三―二一―一　大久寺　〇三―八二一―八九
顕本法華宗　古瀬　堅徳　615　京都市右京区嵯峨二尊院門前長神町一六　妙祐久遠寺　〇七五―八六一―一〇四九
幹事（事務局）高桑　正温・富川　孝恭・肉倉　堯雄・生駒　雅幸・井上　朋胤（日蓮宗宗務院）

祝　門下連合　創刊号

日蓮宗製作の　伝道ビデオ



日蓮聖人(上・下)
700遠忌記念
日蓮聖人伝のビデオ版
お聖人様の生き方を現代に学ぶために！
ビデオ上・下共(130分)
上・下セット価格40,000円

養珠院お萬さま
徳川時代、熱烈な法華経信仰を貫いた女性、お萬さま
主演　大谷　直子
ビデオ(40分)9,800円





宮沢賢治の伝記
われら光の道をふむ
東北の大自然のなか、農民と共に生きた法華詩人
ビデオ(50分)9,800円

なべかむり日親上人
相つぐ法難に屈っせず純粋な法華信仰に生きた先師。
ビデオ(40分)9,800円



ご家庭にお送りします。お申し込みは今すぐ！　送料実費

日蓮宗新聞社　〒146 東京都大田区池上3-16-9　電話 (03) 755-5271(代)

お手持のビデオ(VHS・ベータ)いずれかをご明示下さい。

25周年記念 門連京都大会挙行

60・11・21妙顕寺にて

結成二十五周年を迎えた日蓮聖人門下連合会では、昭和六十年十一月二十一日(木)午後一時より京都妙顕寺にて〈門連京都理事会・懇談会〉を開催、意義深い記念のつどいが行われた。

当日は七十名余の参会者があり、まず午後一時より妙顕寺沖鳳亀貫首導師の下遷化先師追悼法要が厳修され、各派代表者が焼香。

終了後、沖貫首猊下挨拶、記念撮影をすませ、午後二時より国柱会田中香浦会長より記念講演が四十分にわたり行われた。(三面参照)

新理事長就任

午後三時過ぎ、理事会が開始され、まず木村光紹常任理事より提議があり、あたらしく長瀬貫公日蓮宗宗務総長を理事長に推薦したい旨発言あり承認された。

早速長瀬新理事長の就任挨拶があり、理事長座長のもとに議事進行。

議題にそって、「京都門下連合会会報告」「青年代表報告」「門下連合会今後の展望についての懇談」「その他」と進められた。

京都門下連合会の報告は、法華宗本門流本能寺赤田日崇貫首より行われた。また、それに関連して京都門連の風間随仁上人、大西寛美上人より補足説明がなされた。

青年代表報告は、顕本法華宗朝倉俊幸上人より、第七百遠忌記念事業中の「日蓮聖人門下青年の船」を契機として、門下青年の結束を将来に向け強めていく旨の発表がなされた。また、望月身延山総務より青年の船講師団団長として挨拶があった。

今後の展望について提案

ついで門下連合会今後の展望について懇談が行われた。

その中の主なものを列記すると、

○長瀬理事長
門連檀信徒の横のつながりができないか。
門連各派より有為な人材を結集したフォーラムができないか。

○田中香浦相談役
門連各派寺庭婦人の団結について。
昨年ハワイで開催された法華経文化研究国際会議への参加。

○藤田京都門連理事長
日蓮聖人叡山遊学の地、横川定光院護持顕彰について協力援助の説明と依頼。

○望月一靖身延山久遠寺総務
門連が対外的に対応し得るボランティア組織を設置できないか。

○冨田常任理事
祖廟中心体制を、より積極的に押し進める為に各門祖の墓を祖廟近くに設置できないか。
日蓮宗寺院名簿に門連各派宗務所の名簿を掲載してはどうか。
門下連合会結成二十五周年の声明文を採択発表してはどうか。
以上のような積極的な諸提案が行われ活発な討議もかわされたが、すべて常任理事会に附託される事となった。

追悼法要・先師各聖(順不同)

なお、当日の先師追悼法要での先師は左記の各聖である。

日蓮宗
本覚院山田日真上人、一乗院藤井日静上人、一妙院望月日雄上人、大玄院望月日滋上人、真乗院竹下日康上人、正応院小川日進上人、泰篤院日喜安藤順学上人、龍寛院日勝松村寿顕上人、唱静院日実黒沢行静上人、常照院日相鈴木常曜上人、圓隆院日仁福山恵暁上人、勧求院日閑明渡恵雄上人、妙覚院日等鶏内智賢上人、
法華宗本門流
信昌院福島日陽上人、
顕本法華宗
永祥院吉永日洋上人、本慈院土屋日宏上人、法雨院朝倉日夫上人、三妙院島田日憲上人、
法華宗陣門流
明静心院村上日宣上人、
法華宗真門流
寛学院上田日丈上人、文宥院竹内日進上人、智啓院日釋三崎智啓上人、良昌院水野日尊上人、
日蓮本宗
高見日運上人、
本門仏立宗
天真院梶本日颯上人、信照院田中日晨上人、本国土院田中日廣上人、
即三院智融日一星野武男居士、守国院謙信日規松浦克己居士、唱玄院宣道日伸木内伸之居士、
日本山妙法寺
行勝院藤井日達上人、
国柱会
以上

盛り上る懇親会

午後四時半会議を終了。会場を石長松菊園に移し懇親会が催され、和気藹々のもと、門連のさらなる発展と今後の協力が確認された。

宴たけなわとなったとき、門連相談役斉藤龍遵師が立ちあがり緊急動議として「声明文」の案文を提出、全員の賛成を得て採択された。

午後八時散会。

なお、採択された声明文は以下である。

声明文

我が日蓮聖人門下連合会はここに結成満二十五周年を迎え、百尺竿頭更に一歩を進め、僧俗一致以って異体同心の祖訓を体し、四海帰妙の祖願達成に一路邁進せんことを誓願する右声明する。

昭和六十年十一月二十一日

日蓮聖人門下連合会京都大会



S.60.11.21　日蓮聖人門下連合会結成二十五周年記念京都懇談会　於 大本山妙顕寺

日蓮聖人門下連合会のあゆみ

昭和34年～昭和60年

年次	主な動き
昭和34年 2月4日	国柱会田中香浦主幹、京都妙顕寺に日蓮宗管長山田日真師を訪問。立正安国論献諫700年記念大会を御門下共同して開催する件につき提唱、賛同を得る。
2～6月	本大会を御門下各派共催実施を目標とし、2月以来各派を歴訪して賛意を得、参加表明の各宗団は以下の11教団となった。 日蓮宗、日蓮本宗、顕本法華宗、法華宗本門流、法華宗陣門流、法華宗真門流、本門法華宗、日蓮宗不受不施派、日蓮講門宗、国柱会、日本山妙法寺（発生順）
8月19日	日蓮聖人立正安国論700年記念大会、事務局を東京都台東区北清島町日蓮宗宗務院内に設置。
	於　東京一ッ橋　神田共立講堂 日蓮門下各宗派共催
〈日蓮聖人立正安国論献諫700年記念中央大会〉を開催	
昭和35年 1月17日	〈日蓮聖人門下懇話会〉結成の参加各派まとまる。11教団。
2月8日	於　日蓮宗宗務院　懇話会開催、以下要項合意。 1、組織体の名称を日蓮聖人門下連合会とする。 2、その中に協議会、懇話会をもつ。 3、会規作成に星野常任委員があたる。 4、各教団の首脳者懇談会（顔つなぎ交流親睦）を京都で開催。 5、将来連合会機関誌を設ける。 6、伊豆法難700年記念行事を連合会で実施する。 7、伊豆法難慶讃行事として、宗曲「船守」を国柱会の出演で伊東蓮着寺で上演する。
2月25日	於　日蓮宗宗務院〈日蓮聖人門下懇話会〉開催。
懇話会を「日蓮聖人門下連合会」に改組。規約も新しく定め（現行）発足をみる。	
5月12日	日蓮聖人門下連合会主催　日蓮聖人伊豆法難700年記念行事開催。 ●仏現寺にて御法難、正当記念大法要。（各派参加） ●蓮着寺にて聖史劇「まないた岩」上演。 ●伊東大和館にて各派教団首脳者懇談会。 ●伊東市西小学校にて記念講演会（片山日幹師）と聖史劇「まないた岩」上演（国柱会芸術部）。
6月27日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会委員会開催。 規約審議、改正成る 理事長、常任理事、理事制とする。 （歴代理事長は日蓮宗宗務総長が就任する事を申し合わせる。）
9月28日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会総会。 新規約により理事長選出。日蓮宗宗務総長金子日威師を初代理事長に推す。今後の活動方針、各派分担金、連合会発足、祖廟奉告参拝を協議。
11月28日～29日	身延山祖廟奉告式 連合会各派宗務総長ほか理事参加、御廟前に奉告式を行う。 宿舎玉屋旅館にて、門下連合会理事会開催。全日

年次	主な動き
昭和39年 3月4日	仏発行「創価学会の批判的解明」に関する、門下統一見解を草し、全日仏に抗議廃刊陳謝を要求する件決定。
昭和39年 7月2日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会理事会開催。 全日仏に対する抗議の経過報告。2月25日付全仏の回答書を諒承受諾円満解決をみる。
昭和40年 4月29日～5月2日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会理事会開催。 門下連合会各派の祖廟輪番奉仕行法について、各派の自由とすることを確認決定。立正大学日蓮教学研究発表大会各派出講について協議。あわせて立正大学内日蓮教学研究所、各派から研究員の派遣希望表明あり。
昭和41年 5月12日	第1回の祖廟輪番奉仕を行う。 日本山妙法寺祖廟輪番奉仕。
12月14日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会理事会開催。
日蓮聖人門下連合会大講演会開催	
昭和42年 12月27日	於　日比谷公会堂 講師　田中香浦、藤井日達、片山日幹の各師、大会決議文　村上恭学師。
昭和43年 6月10日	於　身延山　本多日生上人銅像建立除幕式挙行。
昭和44年 11月27日	於　日蓮宗宗務院　門下連合会理事会開催。 聖誕750年記念講演会開催。 聖誕750年記念演劇は昭和46年4月聖伝劇を明治座で公演する。動員計画、観劇券取扱い等の方針を協議。 昭和45年聖祖龍口法難700年の催しに関する件協議
日蓮聖人龍口法難700年記念大会開催。	
昭和45年 9月13日	於　九段会館 挨拶　片山日幹理事長。講演　紀野一義、田中日広、福島泰信の各師。琵琶「龍の口」柴田旭堂。 聖史劇「上の宇」国柱会芸術部出演。 法華宗真門流　北海道日泰寺他　祖廟輪番奉仕。 日蓮上人降誕750年慶讃「聖伝劇　日蓮」明治座公演。（松本幸四郎主演）
昭和46年 4月27日～6月14日	於　熱海　玉の井旅館　門下連合会理事会開催。 理事長改選、日蓮宗渡部公九宗務総長就任。 45年度会務及び会計報告。明治座公演報告及び剰余金処分の件。規約改正。
昭和47年 8月2日	日本山妙法寺藤井日達師米寿祝賀へ門連より慶賀。 この年、門連理事会3回実施、主として祖廟輪番奉仕の積極的推進について討議。
昭和48年 6月22日	於　富士屋　常任理事会 会計報告。 題目系教団の門連加盟について協議、その為の小委員会構成。小委員会・斎藤竜遵・蓮池東洋・朝倉俊夫・水本大岳・木村日玄・田中香浦各師で具体的問題の討議を行う。
昭和49年 11月30日	門連理事会を、祖廟参詣を兼ねて身延で行う事を決定した。 於　妙満寺　京都理事会 京都門連との合同拡大理事会を開催し、提携交流

年次	主な動き
昭和50年 7月9日	を深め700遠忌を期し大同団結を目指す。 於　学士会館　常任理事会 700遠忌記念事業の企画検討。聖人劇については前進座に依頼する方向。オラトリオ日蓮聖人については作曲黛敏郎氏、作詞西川満氏の二氏が有力候補としてあがる。聖人展については新聞社との共催の方向が打ち出された。
昭和51年 6月7日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 門下連合会700遠忌記念共同事業としてオラトリオ日蓮聖人、聖人展、聖人劇を三本柱としていくことを決定した。 京都門連より御真骨奉遷実現の懇請書を身延山当局に手交した。
7月10日	於　宗務院　常任理事会 松村寿顕日蓮宗宗務総長、理事長に就任。 規約改正案審議。顧問、相談役を置く事を決定。
昭和52年 6月23日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 事業報告・決算報告・今年度予算承認。 門連共同事業、規約の改正など協議。 オラトリオ日蓮聖人については昭和52年1月4日に作詞が完成。 聖人劇については前進座による興行を昭和54年6月から11月(第1部)。昭和56年後編を上演する事に決定。 聖人展については中井氏案を中心にA班・B班に別れて具体化を図る。 規約改正の件協議。 京都門連より久遠寺当局に手交された御真骨奉遷問題について、重ねてその実現方を当局に申し入れた。この問題をめぐり田中常任理事より御真骨奉遷をめぐる提言が後に参考として配付された。
11月18日	於　宥清寺　京都理事会・京都門連との懇談会 門連共同事業報告。 御真骨奉遷問題の取扱いについて協議。 (身延山当局に対する決議文を採択) 理事長、常任理事が久遠寺に於いて、京都理事会にて採択された「御真骨奉遷に関する要望書」を望月法主に手交した。
昭和53年 2月4日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 昭和52年度門連事業報告、予算、決算承認。 共同事業中聖人劇については、昭和54年5月東京読売ホール興行を皮切りに自主興行4ヶ所、地方買取り巡回興行全国34ヶ所、70乃至80ステージの予定にて推進中。聖人展については昭和56年東京、大阪、九州の各主要都市百貨店で行うべく推進中。 (聖人劇　地方巡演、買取興行6月より11月51ステージ　計82ステージ)
6月22日	於　宗務院　常任理事会 共同事業推進の件協議 (仮称)日蓮聖人700遠忌報恩協議会結成の件協議 (新興教団への呼びかけ)
10月18日	**700遠忌共同事業に加えて日蓮聖人門下青年の集い洋上研修の件につき提案がなされた。** (田中常任理事提案)
11月14日	於　妙蓮寺西陣会館　京都理事会　京都門連との懇談会

年次	主な動き
昭和54年 11月21日	共同事業の推進、特に三本柱の共同事業に加えて御門下青年の結集についての提案がなされ全員の賛同を得、企画の具体化については常任理事会に一任された。 於　要法寺　京都理事会　京都門連との懇談会 事業報告、共同事業、報恩協議会の件協議。 聖人劇については5月18日初演以来11月6日迄全国133ステージの興行を盛況裡に終了。 嵐圭史丈より挨拶。 青年の船については、青年の船企画委員より正式企画書が提出され発表説明が行われた。
昭和55年 10月30日	於　本禅寺　京都理事会　京都門連との懇談会 共同事業推進の件協議。 青年の船企画委員会提出の企画が常任理事会に於て実行が承認され企画委員会が実行委員会に衣更し実働に入った旨報告がなされた。
昭和56年 6月19日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 塩田義朗日蓮宗宗務総長理事長就任 各派管長、会長、総長出席のもと700遠忌報恩法味言上の後理事会開催。 共同事業中、聖人展について古瀬堅徳常任理事、聖人劇について太田奠壌常任理事、オラトリオ日蓮聖人については大橋邦正常任理事、青年の船については木村光紹常任理事よりそれぞれ報告が行われた。
11月10日	於　妙顕寺　京都理事会　京都門連との懇談会 **日蓮聖人展** 大阪　阪神百貨店　昭和56年4月9日～4月21日　35000名動員 東京　上野松阪屋　昭和56年4月23日～5月5日　45000名動員 九州　小倉井筒屋　昭和56年5月8日～5月19日　20000名動員 計100000名動員 **日蓮聖人劇** 東京　浅草公会堂　昭和56年9月2日～9月10日　18ステージ 東京　読売ホール　昭和56年9月11日～9月15日　10ステージ 大阪　朝日座　昭和56年6月28日～7月5日　16ステージ 京都　南座　昭和56年7月22日～7月28日　14ステージ 名古屋　中日劇場　昭和56年8月21日～8月24日　8ステージ 合計66ステージ(以上都市公演) 地方巡業　昭和56年7月7日～11月12日迄　31都市36ステージ 上記計　102ステージ **オラトリオ日蓮聖人** 昭和57年4月、新宿文化センターで行われる可能性について発表。 **青年の船** 本年5月15日コーラルプリンセス号の船主である

年次	主な動き
昭和57年 3月26日	スワイヤーシッピング社と日蓮聖人門下連合会との間で、正式に契約書を取り交して実働に向け計画が進められている。 以上報告の他、オラトリオ日蓮聖人、青年の船の実行について討議。
4月22日	**青年の船実施、サイパン・グァム島　500名** 於　新宿文化センター大ホール　観客1800名 **オラトリオ日蓮聖人発表演奏会**
6月18日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会　青年の船実行委員参加 御廟前に共同事業円成報告並びに青年の船団長持田貫宣「青年の船宣言」朗読。 事業報告、四大事業円成に鑑み各担当理事長より詳細報告。 青年の船記録集の製作承認、編集委員会構成の承認、門下青年の連帯について意見の交換があった。 予算・決算承認。
昭和58年 5月24日	於　宗務院　常任理事会 遠藤日護日蓮宗宗務総長理事長に就任。 祖廟参詣理事会の件協議。 青年の船記録映画、記録集完成祝賀会の件承認。
6月7日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 事業報告、予算、決算承認。 門連共同事業について協議。 青年の船祝賀会に30万円の補助決定。 御門下青年組織化の問題は重要課題で、今後積極的に討議を重ね最善の方向を打ち出すべく検討する事を申し合わせた。
昭和59年 6月6日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 門連事業報告、昭和58年度事業報告、決算・予算承認。 門連活動についてはなお常任理事会に於いて討議を重ね京都理事会に臨む事とした。
昭和60年 5月11日	於　宗務院　常任理事会 身延山祖廟参詣理事会について協議。 門下連合会結成満25周年に相当するので、それにふさわしい事業を行うべきだとの提案がなされ了承され身延山理事会に提案することとなった。
6月25日	於　久遠寺　身延山祖廟参詣理事会 事業報告、決算・予算承認。 門連結成25周年にあたり、来る京都理事会を記念の大会とする。その為に事務局より各派へ先師各聖(御遷化を含む)の名簿及び各派門連のあゆみを御提出頂いて御参加を頂き、先師追悼法要を行い門連の今後について共に語り合う場を持つ事を決定した。尚、門連のあゆみについては常任理事会でまとめることとなった。
10月21日	於　宗務院　常任理事会 長瀬貫公日蓮宗宗務総長理事長に就任。 身延理事会の決定に基づき門連結成25周年を記念する京都理事会とする事を決定した。 会場は妙顕寺とし、法要等については京都門連に一任を決定。

以上は昭和三十四年より六十年に至る〝あゆみ〟の一部である。正式な記録集はいずれ諸資料もあわせて一冊として刊行の予定である。

各派・教団短信

〔本門仏立宗〕 同宗の昭和六十一年度の宗務方針が発表された。同宗宗務総長長谷川日序師による方針文は以下である。「これから四年たつと開導百遠諱になります。このようなとき宗務を担当させて頂くことになったわけですが、この責任の重且つ大なることを身に犇々と感じる次第です。(略)まず宗務に対する姿勢ですが、(1)宗制の完全履行。(2)信行充実正宗徒増加運動は、これをうけつぎ更に強化する。(3)仏立開導日扇聖人百遠諱報恩構想答申書に副って、できるかぎりこれを政策化してゆく。(4)一年以内に宗制解説書の決定、そして刊行。(5)弘通教線拡大を目指し、対社会的活動に一歩ふみ出す。」

〔顕本法華宗〕 同宗では、昭和六十五年が門流開祖日什上人の第六百遠忌に相当するので目下鋭意準備中である。その主な事業は、㈠顕本法華宗年鑑の刊行。㈡日什上人の御霊廟を総本山妙満寺に建立(昭和五十九年建立済み)。㈢ブラジルに新寺建立、現地の信徒と共に推進中。㈣全国檀信徒の研修(総本山にて)である。

〔日蓮宗〕 同宗では去る昭和六十年九月一日付の管長教旨が出され、来る昭和七十七年の開宗七百五十年記念に向け、「お題目総弘通運動の展開」が示された。十八ヵ年計画は三期にわけられ、一期六ヵ年の長期計画がたてられた。第一期は趣旨徹底を目標に、〈合掌で光を・あなたを拝みます〉のスローガンを掲げ、全宗あげてお題目弘通にとりくむ。

るつうぶん

■二十五年、長いようで短かく、短かくて長い区切りである。この区切りを期してようやく創刊された本紙であるが、ともかく世に送りだすことになった。ともかくなどと書くと不謹慎とおしかりをうけそうだが、七百年遠忌の記念事業を門連の総力を結集して成功に導いたあとの、いわば虚脱状態を卒業して、機関紙の発行にまでこぎつけたわけで、ポスト七百遠忌にむけて門連事業の明確なレールが敷かれたわけである。

■さて創刊号の内容だが、理事長の創刊の辞には明確に門連のこれからのあるべき姿が明示されているようである。また、各派管長猊下のご挨拶は、それぞれの立場で祝意が示されてある。ユニークさがあふれていて、連合体のよさとむつかしさが浮き彫りにされている。しかし本紙の使命はある点では各派のおかれた現在の立場を確認し合うということも要求される気がするので、次号からの編集方針の一助にしていきたい。

■二十五周年の記念理事会の報道がどうしても重きをなした。記念講演の要旨、先亡追悼の各師、そして簡潔な声明文、昭和六十年十一月、京都はまっ赤に燃えたのである。この火を願くば、若人の手にひきつがれるよう青年組織の充実を図っていかなければならないであろう。

■本紙は、年二・三回発行の予定で出発する。報道がとうぶんの間主になるかもしれないが、いずれ理論的な面も充実させ、日蓮聖人門下各派教団になくてはならない紙面作りにはげみたいと念じている。

(事務局)

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146　電話(03)751-7181
昭和61年11月１日
第２号

日蓮聖人門下連合会結束の原点

祖廟について

日蓮聖人門下連合会理事長
長瀬貫公

日蓮聖人門下連合会が昨年、結成以来満二十五周年を迎え、京都妙顕寺にて記念の大会を開催し、先師を追悼し、門連の今後の歩むべき道を討議し得ましたことは、誠に意義深いことであったと存じます。

二十五周年を期して、永年の懸案であった機関紙刊行も決定し、日蓮聖人門下の結束が更に強化し共通の課題、目標に向って進むことの出来ますことは洵に慶賀にたえません。

さて、門下連合会結束の原点は、連合会規約〈目的〉第三条に「本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡・協力・団結を強化することを目的とする」とあり、又〈事業〉第四条には「本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。１、祖廟護持の組織強化」と明示されておりますとおり、「祖廟中心」こそが、宗祖滅後今日に至った門下各派結束のよりどころとして私共が意識の根底に据えるべき原点であると存じます。



「祖廟中心」こそが原点

門下各派の教学上の見解・分派伸張の経緯は、いずれも宗祖大聖人の御意を詮明せんとする先師の意より出でたものであることは言うまでもないことでありますが、今や物質科学中心の外道邪智熾盛の今日、立正安国の根本原理を門下が力を併せて世に唱導しなければならないと存じます。虚心坦懐に宗祖の廟前に異体同心を誓う、否、宗祖の廟前に額づくことによってのみ大同団結が可能であるといえましょう。

このように門下連合会の中心理念ともいうべき「祖廟」について、特に祖廟建立に至る史実、経緯、及び祖廟と御真骨の関係等について透明な認識を徹底して欲しいとの御要請に応えるべく、以下いささか記してみたいと存じます。

歴史的変遷は

祖廟建立については皆様周知の如く「いづくにて死に候とも、墓をばみのぶのさわに」（波木井殿御報）との御遺命に依り、宗祖滅後六老僧を中心として主な門下により建立され、守塔輪番制がしかれました。

その後、輪番制が必ずしも円滑に運営されず、日向上人が専任守塔沙門となって以来、今日に至るまで専任制で春秋を送ってまいりました。

（昭和四十年身延山当局は祖廟を門下各派に開放、各派の法式で輪番奉仕ができることとなった。同年四月第一回門下連合会代表による祖廟輪番奉仕が行われ今日に至っている）

身延山久遠寺第十一世行学院日朝上人（一四二二年～一五〇〇年）の御代、大英断を以って西谷の地（現祖廟）より現在の土地に諸堂宇を移転し、祖廟の整備に尽瘁されたと伝えられておりますが、この時御真骨も現在の土地に御移しし、守塔沙門としての責務を果してこられたものと考えられるのであります。

御真骨をはじめ諸堂宇を御移しした理由は、単に西谷の地が、狭隘不備というのみでなく、天変地異による災害等から御真骨、諸堂宇を格護する意味があったのであります。

即ち、日朝上人の弟子日海（一四七八年～一五一八年・海長寺十世）の「日海記」によれば〈大地震が生起し、草庵の付近一帯は荒廃し地形が変化した〉旨明記されています。

こうした自然環境に鑑み、万一の災害を考慮し、その安全を確保するための御真骨、宝蔵をはじめ、諸堂を移転、奉遷申しあげたものと推考致すのであります。

ちなみに「御真骨堂」と呼称するようになったのは第二十二世心性院日遠上人の御代で、慶長十三年（一六〇八年）にお万の方養珠夫人の外護により「宗祖真骨の宝蔵」（三間半四方）が建立されました。「身延山史」には「是れ御真骨堂建立の嚆矢なり」と記されております。

宗祖の御真骨はかくして御真骨堂に安置され、厳重に格護され、歴代法主が常随給仕申しあげて今日に至ったわけであります。

しかしながら、ここで特に明確にしておかなければならないことは、祖廟と御真骨の関係であります。

ご分骨奉安は確実

御真骨は、御真骨堂に安置され厳重に格護されて来たわけでありますが、御真骨堂に御移しする際、全御真骨を御移ししたのではなく、御分骨を西谷祖廟に御祀りし、「祖廟」としての意義をとどめ、御草庵跡と共に宗祖現在前の往時を偲ぶ聖地となしたことであります。

近年、西谷の祖廟を整備する際、当時の関係者により廟塔下に御分骨と荼毘の際の御灰が奉安されている事実が確認されております。

右の史実は祖廟に結集し、異体同心を誓う私共の信仰心に、深く記憶すべきことと存じます。

祖廟に対する尊崇、宗祖に相まみえる心地に住する信仰こそ門下連合の基本となるものであります。

近年、御真骨の祖廟奉遷の議が起りましたが、自然環境の制約等があり、未だに実現されておりません。身延山御当局に於ても専門学者による地質等の調査を行って万全の検討を加えておられますが、御真骨を永遠に安全格護する最適の地としての結論には未だ達し得られない実情と伺っております。

門下連合会としては昭和五十一年六月京都門連より御真骨奉遷実現の「懇請書」を身延山御当局に手交、更に、昭和五十三年二月、門下連合会として「御真骨奉遷に関する要望書」を松村寿顕理事長代表となって時の望月日滋法主に提出されました。

右はいずれも御門下各派が互いに分派対立した過去の歴史を超越し、聖祖のもとに融帰し奉らんとする如法な志の発露であり、共に仰ぐべき中心の聖標としての祖廟について門下一同がこぞって額づくに足る「祖廟」たらしめるよう、御真骨の速やかなる奉遷および、「祖廟」護持のあり方について身延山当局に要望したものであります。

ご奉遷をめぐる提言

ここに昭和五十三年、京都で開催された門下連合会理事会に提出された「御真骨奉遷をめぐる提言」（国柱会々長田中香浦先生執筆）という文章があります。この提言の中に

「戦後日蓮宗におかれては増田日遠師の代にすでに御奉遷の大方針を決定されたけれども、今日新しく論ぜられる御奉遷ということは過去のそれとは性格を異にし、全門下的な規模と視野のもとに行われるべきものであるという点はとくに強調されなければならない。

今日御奉遷についてその最大問題点として、さる昭和三十四年の災害の例にみられる治水上の不安があることは周知の通りである。しかしこれはたんなる技術的領域の問題であって『墓をば身延の沢に』と仰せられた聖意を忠実に体して御真骨を正しく安置した理想の祖廟たらしめるか否かという本質問題とは切りはなして考えるべきものであろう。このさい必要なことは全門下的な立場に立っての御奉遷という基本原則を確認するかどうかということである。

この御奉遷に関連して重要な問題は、とくに日蓮宗および久遠寺当局が、全御門下ならびに世のお題目教団が次第次第に祖廟を中心として結集せられつつあるというこの時代の底流について、虚心に対応されるという如法柔軟な姿勢であり、また一方門下各派にとっては互いに団結して祖廟をわれわれもまたみずからの手で格護し奉賽しお給仕申上げるというふかい覚悟を要するということである。

以上の考えのもとに御奉遷を期待するについて必要な諸点を改めて列記するならば、

㈠超宗派的に御奉遷推進委員会を組織する。

㈡全門下の総意を結集し、衆智をあつめて理想的な廟堂、廟域のプランを作成する。

㈢特に治水対策を万全にするため最高の科学技術をもってその調査を行う。

㈣二、三項の資金については各派が応分に義出する。

㈤御奉遷完了のうえはその格護と奉賽については日蓮宗および久遠寺を中心として各宗派が共同加盟して恭虔奉行の体制をしき祖廟を中心とする全門下統合の実をあげる。（以下略）」

のような指摘がありますが、誠に正鵠を射たものと思料されます。

特に重要な指摘は「聖意を体して全門下的な規模と視野のもとに御奉遷をする」という点であります。

本提言は七百遠忌を目途に報恩奉行の一環として推進すべき最重要事項として提言されたものでありましたが、遺憾ながら七百遠忌は推移し具体化に至らなかったのであります。

今や立教開宗七百五十年を十六年後に迎えるにあたり、わが門下連合会創設以来二十五年、新たな一歩をふみ出さねばなりません。

われら門下共通のみ親「祖廟」の意義をここに改めて思い起し、あるべき祖廟の姿を衆智をあつめてえがき、その実現に向って進んでまいりたいと存じている次第であります。

祝辞

一層の充実と発展を

法華宗（本門流）管長
藤田　日浄



聞けば、日蓮聖人門下連合会が創立されて二十五周年を迎えるという。昨年十一月の門連京都大会では「百尺竿頭更に一歩を進め、僧俗一致以て異体同心の祖訓を体し、四海帰妙の祖願達成に一路邁進せん」の声明文が採択されたこと、誠に慶ばしいことである。

また二十五周年を記念し、門連の機関紙「門連だより」を刊行し、門下各宗団の情報を提供し合い、各宗団が在る現在を、お互いに確認し合いつつ異体同心して、宗祖の立正安国世界平和実現へ向おうというのであるから、誠に慶賀至極である。

祖願達成への門連が担う意義は重要である。その具体化へ「門連だより」創刊の辞を草しつつ思うことがひとつある。それは従来の門連への、吾が宗団の参加運営が、宗団の一部の役員によってなされており、吾が宗団組織全体参加の門連ではなかったということである。私も門連運営に参画する役員から、門連のことを時たま聞く程度であった。

従って機関紙ができ、門連の情報が宗団の末端まで流れていった時、本迹勝劣の教義を説き、宗祖の本当の御魂は身延山に無く本門八品上行所伝のお題目を説えるところに在りと説くのであるから「門連だより」を手にした方々が、身延祖廟護持、輪番制度、聖人門下各宗統合などの字句を見て、どのような反響を起すだろうかと人しれず心配するのである。

四半世紀の間、先師が門連の持つ特色を生かし、門連でなければ出来得ぬ数々の事業を敢行した功を多とし、その労を継承するに吝かではないから、日蓮聖人門下連合体の運営が一層充実発展していくための「門連だより」の発刊を慶祝し、本紙が一層門連機関紙として内容を充実されんことを祈る。（四月一日記）

「門連だより」第二号より、門連加盟の各御門流の御本山の由緒、沿革、現況等を紹介することとなった。その最初に御紹介するのが、今秋十一月六日に門連理事会を開催する会場、顕本法華宗の総本山妙満寺である。

シリーズ　門下御本山巡り　1

顕本法華宗総本山妙満寺

後円融天皇の綸旨を賜わり、帝都弘通という日蓮聖人の御遺志を実践された日什上人開基の妙満寺を訪ねる



顕本法華宗総本山妙満寺
京都市左京区岩倉幡枝町91
〒606　電話075(791)7171(代)
◎国鉄京都駅より京都バス「岩倉木野行」妙満寺前下車。
　または烏丸通経由「岩倉村松行」幡枝下車。
◎叡山電車にて出町柳より「鞍馬行」木野下車(300m)。

日什上人により開かる■

現在、洛北岩倉の地にある妙満寺は、今から五百九十七年前、康応元年(一三八九)五月の創立で、御開山は二位僧都玄妙阿闍梨日什(にちじゅう)上人である。

日什上人は、もと天台宗の学僧で、叡山三千の学頭職にあり、玄能妙化と称されていた。

郷里の会津に帰った後、日蓮大聖人の「開目抄」「如説修行抄」の二著に接し、豁然大悟し、御歳六十七歳という高齢にもかかわらず、宗を改め、自解仏乗して名を日什と改めて、日蓮門下に入られた。

しかし、当時の門下の状況は、宗祖滅後わずか百年たらずにして、宗祖の大悲願を忘れ、法理化儀悉く乱れていた。日什上人これを憂い、自ら任じて一宗の再興を企図し、宗祖の御遺志の帝都弘通にあることを想い、六十八歳の老軀をさげて都に上った。時の帝、後円融天皇に上奏、二位の僧都の位と「洛中弘法の綸旨」を賜わり、天王寺屋通妙という尊き外護者を得た。その支援により、室町六条坊門の地に草庵を構え、〝経巻相承・直受法水〟を旗印に「妙塔山妙満寺」の号を立てて根本道場とした。

妙満寺はその後、応仁の乱をはじめ、幾度かの兵火にあい、その都度洛中に寺域を変えながら興隆してきた。しかし、天文五年(一五三六)二十一坊を誇る大伽藍も、法華宗の隆盛をねたむ比叡山の僧徒による焼き打ち、即ち天文法難により、一時泉州堺に逃れた。天文十一年(一五四二)元の地に復興するも天正十一年(一五八三)豊臣秀吉の時代に、寺町二条に移転され、四百年にわたって「寺町二条の妙満寺」として親しまれるところとなった。

元治元年(一八六四)明治維新前の薩長の争い、いわゆる蛤御門の変に端を発した「どんどん焼け」の大火によって、長州屋敷のすぐ近くにあった妙満寺は、塔頭十四ヶ院と共に七堂伽藍悉く烏有に帰した。

明治以降、順次復興して、再び往時の姿を取り戻してきたが、第二次世界大戦中の強制疎開によって塔頭全部を失い、加えて周囲の喧噪日毎に増し、環境悪化は著しいものとなった。遂に昭和四十三年衆議一決して昭和の大遷堂を挙行し、昭和四十五年遷堂落慶大法要を営み、新たに現在の岩倉の清浄の地に移り、今日に至っている。

さらに、昭和四十八年仏舎利塔建立、昭和五十四年には塔頭を旧来の四ヶ院に復興し、昭和五十九年什祖廟の建立等、逐次伽藍の整備に努めてきた。

遷堂移転の苦労話■

しかし、遷堂移転を決するまでには、かなりの迂余曲折があったという。

移転前の妙満寺の寺有地は、二千八百坪余りで、京都市内の御門下各本山の中でも、寺域は広い方ではなく、それに老朽化した諸堂も目につきはじめていたという。

ましてや、市の中心部に位置するために、読経の声すら車の騒音にかき消されるような、宗教的環境の維持が困難な状況下、郊外移転の青写真が描かれていった。

幸いに、寺町二条の妙満寺は、市役所の隣りにあり、当時市内でも一等地といわれるところにあった。

市当局にも消防局を建てる計画があり、市行政も膨張気味で、いずれは庁舎を増築しなければならないといった状況もあり、財政難をおして寺域譲渡の運びとなったという。

昭和四十一年九月のことであった。

代換地は、国立京都国際会館を建設する時に土砂を採取した、現岩倉幡枝の雑木林跡地に決まった。

周囲にはまだ民家がまばらにあるだけで、交通の便も、京都バスが京都駅前から一時間に一便ほど発車するのみだった。走行すること約四十五分、深泥ヶ池を巡り、峠を越えると、景色は一変し、眼前に田畑も広がるまさに郊外であったという。

一宗の総本山として、信仰の中心道場として、自然に抱かれ、東方に霊峰比叡山、北方に鞍馬山系、西、南方にも小高い山々を臨む風光明媚な岩倉の地は、新本山として蘇るにふさわしい絶好の環境といえた。

しかし、土地所有者の方々との買収交渉も難航した。土地所有者は一人でなく、岩倉木野・賀茂に住む十八人もの農家の人々だった。

農家の人たちの土地に対する愛着には、非常に強いものがあり、交渉役の本山総務さんはじめ、再建委員の方々も腰をすえて一人一人説得して回り、ようやく見通しがついたのは、交渉開始から一年程経ってからだった。一宗門の根本道場である総本山の再建という趣旨と熱意が理解され、先祖伝来の土地を快く妙満寺に解放してくれたのであった。

さらに、諸堂の移築等、殊に墓地移転は、より一層の手間と精密さを必要とした。

以前より四倍の広さになった寺有地には、十三間四面の本堂(旧本堂は十間四面)が一部新築で建立され、祖師堂、書院、客殿、宗務所と順次移築が進み、新たに信徒の宿泊所、研修道場を兼ねた信行道場も建築され、さらには、十五メートル四方の納骨堂つき仏舎利塔も建てられ、ようやく妙満寺の新しい全容が整ったのであった。

名園〈雪の庭〉■

ちなみに、山内には俳句の祖と仰がれる松永貞徳の造営せる「雪の庭」(本坊の庭で、もと塔頭成就院(じょうじゅいん)の庭である)があり、清水寺の「月の庭」北野の「花の庭」、そのいずれもが成就院という坊の庭であったことから、三成就院の雪月花の三名園として並び称された。ただし、花の庭は現存しない。

当初より比叡の峰を借景にとり入れて造園され、観雪の眺望が最も美しく趣があり、それが雪の庭と称される由縁でもある。

仏舎利大塔■

また、昭和四十八年建立された仏舎利大塔は、釈迦牟尼仏が成道をされた聖地、インド・ブッダガヤに、西紀前二百年頃、アショカ王が建てた供養塔を模したものである。



観雪の眺望が最も美しく趣がある「雪の庭」

霊鐘安珍・清姫の鐘■

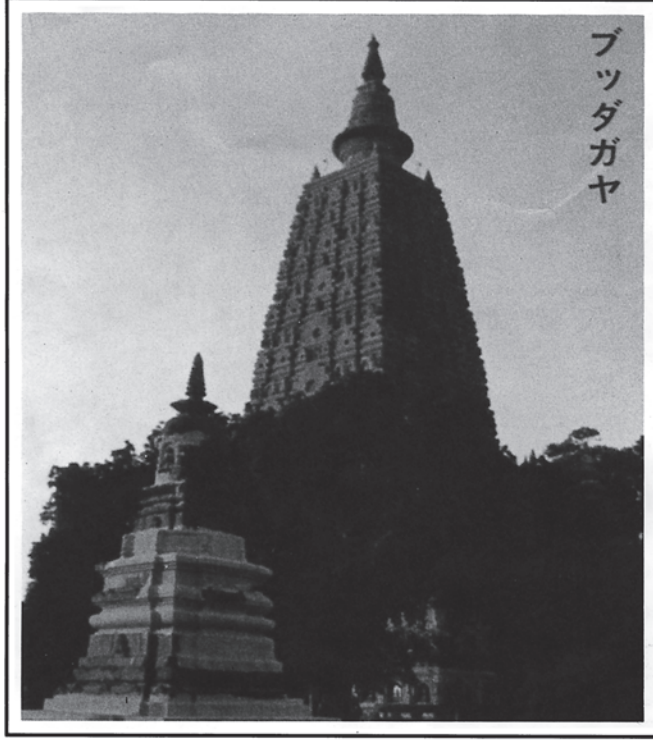
そして、異色な重宝として所蔵しているのが、「鐘に怨みは数々ござる」で有名な紀州道成寺の鐘である。この鐘の霊話は、長唄、歌舞伎、日舞等あらゆる芸能に取り入れられているが、幾多のエピソードを秘めて妙満寺に伝えられていることは、あまり世間に広く知られていない。道成寺を演ずる芸能人には、この鐘に芸道精進を祈る者も多いという。

また、例年四月十二日、鐘供養法要を営み、安珍清姫の霊をなぐさめている。

それ以外にも、宗祖御真筆御曼荼羅をはじめ、什祖御真筆並びに歴代先師の遺筆も多数格護されており、雪の庭の作者である松永貞徳の肖像画や、土佐派の中興といわれる土佐光則画加藤清正公の肖像画等も所蔵されている。

年中行事■

また年中行事は、年頭祈願会(国禱会)に始まり、御開山会(二月二十八日)、立教開宗会(四月二十八日)、春季大法要(四月十二、十三日)、御会式(十月十三日)等がある。年間を通して、盆、彼岸行事、釈尊聖日、宗祖聖日(御法難会)等の御報恩法要並びに毎月例会を通じた信徒との交流を図り、信行増進に励んでいる。



テーマのある旅をもとめて

21世紀へ 豊かさを深める——とうきゅうグループ

東急観光は、皆さまの身近な旅のコンサルタント。

さまざまなカタチをかえてひろがる旅の需要にあらゆる輸送機関、宿泊施設の予約、手配をはじめ、コースのご相談、旅行プランのいろいろなど幅広いサービスをご提供して、数えきれないほどの人びとに確かなご満足をいただいております。

団体参拝、仏蹟巡拝、慰霊、交流使節、研修、大会、会議、奉仕の旅は最寄りの支店、営業所にご用命ください。

TOKYU TOURIST　贈ります、あなたの心にのこる旅——　東急観光

運輸大臣登録一般第38号
本社　〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14
TEL 03(407)4044

シリーズ　門連の進路をさぐる　1

争論をさけ、立脚点のレベルアップを

日蓮聖人門下連合会相談役
顕本法華宗前宗務総長　古瀬堅徳



七百遠忌を節目として

戦後、門下先師の方々の努力によって門連が発足し、それぞれの宗派教団によって教義、伝統、宗風の相異はあるものの、大きく法華経と日蓮大聖人の教えを信奉するという共通の基点から、「祖廟中心」を第一義として相互に理解を深め、結束を固め、組織の充実拡大をはかりつつ前進している時、たまたま大聖人の第七百遠忌を迎え、門連として御報恩の為種々の企画をたてて実行した。

しかし七百遠忌が終ってみると、祖廟中心という第一義の根本理念について、更に深く詳しく会員相互の論議を尽して解明し、そこから出てくる門連の今後のあり方についての具体的方法をうち立ててゆくという、第二段階追求の作業が必要な時期に直面していた。その作業の前で最も慎重を要求されたのは、論議をつくすという事が、過去の門下の歴史にみるように、各教団が「宗我」にとらわれた法論に突入し、感情的な対立や分裂になってはならないという心配で、これは誰もが心中深くもっていた。

組織にとって平穏と融和の大切な事は勿論である。しかし、真剣に考えるべき最も大事な問題点をさけて、殊更に無事安穏の道だけを選んでいては、過去の惰性の中にのみ停滞していて、無難ではあっても激動する時代に対しての門連の新しい前途はきり拓かれないままである。〝広く会議をおこす〟という姿勢も時には最も大切である。

門連第二段階へ

各宗派教団の教義・宗風・伝統はそれぞれ長い歴史をへて今日あるので、一々についてみれば何れも深い意味と由来がある。これを今急にとりあげて議論をつみ重ねてみても、争論岐れになるのがおちである。今この問題に拙速な結論を出す時ではないし、その必要もない。

もっと立脚点を大きく高くふまえて、門連の根本理念である、法華経思想の宇宙的世界観の中での展開、大聖人のお題目南無妙法蓮華経の教えの人類的展開、という点に力を結集してゆく事が、門連第二段階への前進の為、目下の急務ではないかと思う。

「宗我」を捨てる

それにはまず第一に、各々が独立している宗派教団の集合体であるから、決して多数決の原理だけを単純無条件に適用してはならない。平穏親睦の為の集合体で特に目的に向っての急激な行動を必要としない場合は、多数決の原理は自然でもあり、無難であって意義もある。この点は深慮と英知を要する所である。

一例として、全日仏をみれば判るように、形骸は整っていても、動員力も結集した実行力も少なく、従って有機体としての活発な動きはあまり出来ないような状態になる。

第二に、自己中心に、自らの教団誇示の小さな「宗我」をお互いの心中から消去する心がまえを持つ事である。宗派の為だけの自己優先の主張は、結局門連というコップの中だけの近視眼的布教に沈淪してゆく。つまり各教団の先師達が、尊い生命をかけて遺して下さった信徒や教団的地盤の中だけの動きに帰してしまう。

根本理念としての目的達成の対告衆は、今や全人類であり、現にわれらの眼前において日々さまざまの歴史をつくりつつある地球的規模における大衆である。それに尺度をあわせなければ、一天四海の大衆への焦点はぼけてしまう。先師から受けついだ信徒の人々や其の他の教団的地盤を大切な基点として、それより何百万倍もある法華経にまだ縁を結んでいない末法の大衆に向っての姿勢を忘れてはならない。

門連の発展を念じつつ、自ら省みて自身への提案である。

昭和六十一年度
身延理事会開かる
祖廟参詣・多大の成果をおさめる

恒例の日蓮聖人門下連合会身延参詣・理事会は去る昭和六十一年五月十四日奉行され、多大の成果をおさめた。

門下各派代表一行十九名は、あいにくの雨天であったが、長瀬貫公理事長先頭にて祖廟奉仕所出発、唱題しつつ参進。

まず御草庵跡で法味言上、次に祖廟に進み法味言上、各派代表が焼香し、異体同心の誓いを新たにした。

記念撮影の後、大本堂にて法味言上、宝物館拝観、祖師堂巡拝、御真骨堂にて法味言上を行ない、水鳴楼に於て岩間日勇法主の御挨拶をうけて、新書院にて昼食。

午後二時よりいよいよ開議。まず自己紹介が行なわれ、長瀬理事長を座長に選出、議題に従って議事を進め、それぞれ報告・承認・決定を行ない午後四時散会した。尚、夕刻より下部ホテルに会場を移し懇親の会がもたれた。

当日の主な報告・承認・決定事項は左の通り。

1、昭和六十年度会務報告
①祖廟参詣・理事会　六月二十五日　参加十九名。
②京都拡大理事会　十一月二十一日　妙顕寺　参加六十四名　門連結成二十五周年に当り遷化三十二先師追悼会厳修。
③機関紙「日蓮聖人門連だより」創刊、四月二十八日。
2、昭和六十年度決算報告とその承認。
3、昭和六十一年度予算案の件、承認。
4、門連規約改正の件。各派管長及び同相当職にある者を門連顧問とする件、全員賛成にて可決決定。
（旧）第十条　本会に理事会の推薦により顧問若干人を置くことができる。
（新）第十条　顧問は各派管長、同相当職にある者が就任するほか、理事会の推薦により若干名を置くことができる。
5、門下連合会活動の方向について。
右については、①地方門連との連携、現状把握等について「門連だより」を仲立ちとして活用したらどうか。
②身延山に門祖の墓を建立する件は各派の意向が統一されず保留とする。
③御真骨奉遷問題について。
④叡山開創一二〇〇年各宗法要に門連として参加する件。
以上について討議された。

最後に、京都理事会開催日を十一月六日とすることを確認した。



門連京都理事会予告
十一月六日妙満寺に開催

毎年恒例の日蓮聖人門下連合会京都理事会が、今年も十一月六日（木）午後一時より開催される。

会場は各派持ち廻りでえらばれているが、本年は顕本法華宗が担当。したがって同派の総本山妙満寺である。

理事会終了後、席をうつして行われる懇親会は、京都門連のメンバー各師の心づくしにより、毎年大いに盛りあがり門下交流の実をあげている。今回も左京区宝ヶ池の国立京都国際会館において開かれる。

当日、本会相談役古瀬堅徳師の記念講演も予定されている。

日蓮宗新聞社の本

さだるま新書

●本弟子六人（六老僧）の信仰の姿を描く
1 日蓮聖人のお弟子たち―六老僧略伝―　宮崎英修 著　定価六八〇円
2 ご遺文から三十一の章句を選び解説　日蓮聖人のお言葉―一日一訓―　渡辺宝陽 著　定価六八〇円
●生きる指針と希望をあたえる話
3 今を生きる―珠玉の三分間九十九話―　日蓮宗護法伝道部　定価七八〇円
●妙法蓮華経漢訳のいきさつ
4 「妙法蓮華経」の生いたち―鳩摩羅什三蔵について―　野村耀昌 著　定価六八〇円
●すべての女性と子供に贈る愛の物語
5 愛のハーリティー―鬼子母神の物語―　大嶋忠雄 著　定価六八〇円

（好評新刊）
かまくらの草花―四季の寺々をたずねて―　B6判／一五五頁／定価九八〇円
マンガ　にちれんさま　定価五〇〇円
劇画　日親上人　定価六八〇円
※全国どの書店でもお求めになれます。
お問い合わせ　日蓮宗新聞社　TEL（03）755―5271

田中　智学 著
田中智学自伝　全10巻　三三、〇〇〇円
日本国体の研究　八、〇〇〇円
田中　香浦 著
田中智学（評伝）　一、四〇〇円
これからの世界・人間　一、三〇〇円
日蓮聖人の宗教　九八〇円
日蓮聖人の研究　二、〇〇〇円
日蓮主義の研究　五八〇円
正しい宗教のすすめ　一、五〇〇円
蘇れ、日本。

日蓮主義研究〈第10号〉　八〇〇円
日蓮聖人理解のための覚書●田中香浦
明治知識人の見た日蓮●津田　剛
立正安国論管見（その四）●伊藤瑞叡
※第2号～9号の在庫あります。

〈真世界運動〉機関誌
月刊　真世界（年間講読料三、六〇〇円）　三〇〇円

宗教法人　出版部　東京都江戸川区一之江6―19―18
国柱会　真世界社　〒132　☎（03）656―7111　郵便振替　東京5―19556

各派・教団 短信



【法華宗(本門流)】❀同宗では管長及び内局の進退に伴い、門連役員に変更があった（カッコ内は日付）。
管長　顧問　赤田日崇(7・8新任)
総長　常任理事松井孝純(1・8再)
理事　渡辺修翁(1・8新任)
理事　中村宏龍(1・8新任)
❀同宗の布教機関誌『無上道』が本年6月号を以て、発刊38年第450号を迎えた。発行人の松井総長は「日蓮大聖人の正統たる法華宗の信仰弘通を願う宗徒は、本誌に大きな期待を寄せている。一層の面目躍如たらん日の早からんことを」と語り、〝お話しもっと。心で読もう、心を語ろう〟をテーマに読者倍増推進運動を展開中。（矢吹慈英）

【国柱会】❀本部主催少年少女夏期学校は、8月2日から5日まで申孝園(国柱会本部所在地)に行われた。今年で34回目である。東京の他、近畿、九州でも開かれた。
❀聖地池上にて10月12日お会式の当日恒例の屋外宣伝が行われた。池上宣伝は大正8年から続けられている。
❀身延祖廟輪番常勤給仕(前号参照)は今年22回を迎え、11月22日から24日まで、祖廟まじかに昼夜不断の唱題給仕が奉行される。（秋場善弥）

【本門法華宗】❀昭和61年2月26日付き宗会にて、増田宏雄総長辞任により、吉村信尚氏（大阪大願寺）が新たに総長に選定され、同時に新内局も発足した。宗会議長には中村重信氏（大阪法華寺）が選定された。
❀教学部では10月27日より3日間、教学講習会を鹿児島県種子島、屋久島にて開催。参加者は50余名、種子島は一四六三年に宗源院日典上人が弘通し、法難殉死された霊地、不自惜身命の布教を偲び、ご遺徳にふれて、今後の布教の一助とし、500年に及ぶ法華の島々の歴史、今日的宗教事情を学ぶことが目的。（持地優学）

【法華宗真門流】❀総本山本隆寺の本堂と祖師堂が、去る昭和61年3月22日京都府の重要文化財に指定された。6月21日に開催された教学講習会の席上、関西大学教授永井規男氏より「本隆寺の本堂及び祖師堂の文化財指定について」の記念講演があった。
❀来る昭和63年は、総本山本隆寺開創五百年に当り、先達の努力と祈りによって護られた本堂・祖師堂に象徴される本隆寺の信仰のともしびを一層発展させなければならないとの決意を新たに僧俗一体となって「本隆寺開創五百年記念慶讃事業」を進めている。（吉田勝秀）

【日蓮本宗】❀本宗では、昨年11月7日嗣法五十祖高見日運猊下御遷化のあと、しばらく四十九祖原日認猊下の管長代務の状態であったが、この度、大学頭に嘉儀裕乗師が推挙され、去る7月28日大学頭相承式並びに仮入山式が挙行された。また宗政・山務当局の任免がなされ、前宗務総長太田奠壌師がご退任になり、新たに住友顕一師が宗務総長に、総務部長兼教学部長に今村要道師、財務部長に丹治義順師がご就任され、本堂大屋根修復工事に全力を傾けることとなった。なお五十一祖嘉儀日有猊下の晋山式は、明年5月8日の御開山会に奉修される。（柳下義真）

【顕本法華宗】❀10月8・9日の両日、総本山妙満寺を会場に、布教師会主催による全国布教師研修会が開催され、日頃懸案の布教課題や現代社会から派生してくる諸問題等について研究討議がなされた。
❀10月12日、本年、住職を拝命した新任住職が檀家総代を伴って、仏祖三宝並びに御開山日什上人、御歴代先師に対し什祖の教風を体して、専一教化伝道し精進することを、妙満寺御宝前にて誓願する奉誓式(ほうせいしき)が厳粛に奉行された。式後、吉田日康管長猊下より訓戒のお言葉が新任住職に伝えられた。（朝倉俊幸）

【本門佛立宗】❀本年3月末の第116回定例宗会にて、任期満了にともなう次期講有推戴選挙が行われ、現講有・仏立第十八世・西村日地上人が再選された。就任式は来る11月8日に、京都西陣の本山宥清寺本堂に於て行われる。
❀二期目に入る西村講有のもと佛立宗では、来る昭和64年に迎える「佛立開導日扇聖人百回御遠諱」に向かって大きく飛躍しようと、各種の事業を準備企画し進めている。
❀開導百回御遠諱・報恩御奉公の第一弾として「佛立文化講演会」を開催することに決定。その第一回が神津善行氏を迎えて8月に静岡で、第二回は鈴木健二氏を迎え9月に函館で開催。いずれも満員の盛況であった。引き続き明年度初頭から64年にかけて、全国22の布教区で次々と開催していくとの事。（深沢泉奥）

【法華宗陣門流】❀昭和61年度宗内各教師の中央行学講習会が、去る9月9日、10日両日に亘り、約120名の参加者のもと、和歌山「萬波ホテル」に於いて開催された。
第1日目は、開講式に引き続いて、法華宗布教研究所、所長本宮日顕先生によって、「富山藩合寺の提要と日讃派の対応」と題して講義された。第二講は、日蓮教学研究所、所長浅井円道先生が昨年の講義の続き「四箇格言続講」と題して講話をされた。第2日目は、本宗の和歌山久成寺、又日蓮聖人遊学の地、高野山五坊寂静院を参拝して2日間の講習会を終了した。（江坂隆俊）

【日蓮宗】❀長瀬宗務内局初の定期宗会（3月11日～14日）では、昭和60年9月発せられた管長教旨の趣旨をふまえ「お題目総弘通運動」の徹底、特に十六年後の二〇〇二年に迎える立教開宗七百五十年に向って宗内活性化をはかる方針が施政方針として示された。
特に「宗門機構の整備充実」「教育体系の強化確立」「布教体制の樹立」「宗門財政の整備」を四つの柱として重点施策に取り組む決意が表明された。
❀いずれも宗内発展の重要な側面であるが60年度より施行された勧学院制度は宗門発展の基盤たる教学の振興、教師の教学研修を目ざす新たな教育制度として積極的な推進がはかられる方針である。
61年度は中央教学研修会をはじめ各地方六教区で教学研修会が開催された。
❀「宗門機構の整備」の面では審査会規程の全面改正が行われ、新たに紛議を和解調停する「調停委員会」が設置された。本年は宗務院機構の見直しにも着手検討中。
❀「布教体制の樹立」の一環として「布教拠点確保援助規程」が制定され、新たに布教拠点を設置する場合宗門が担保を提供し、二〇〇万円を限度として三年間返済無利子とする制度が施行された。
❀立正大学学園は4月1日仏教学部長渡辺宝陽師を学長に選出した。後任の学部長には佐々木孝憲師が就任。
❀第6次日蓮宗中国訪問使節団は、去る9月2日～13日に至る12日間北京、西安、天台山などを訪問、羅什三蔵の草堂寺顕彰、天台山の題目宝塔開眼法要を岩間日勇法主が督された。
❀本年度宗務院では教務部で60年度よりカリキュラム委員会に諮りつつ編集の『檀信徒教化読本』を刊行、全寺院に配布した。
❀日蓮宗保育連盟では伝道部と共に編集を進めていた『日蓮宗幼児教育読本』を7月15日刊行した。
❀青年の船企画準備委員会が10月30日宗務院で開催され、具体的実施方策が検討される。（富川孝恭）

【日本山妙法寺大僧伽】❀日本山妙法寺藤井日達猊下御本葬儀が、去る60年5月28日、日本武道館で厳修された。門連から長瀬理事長参列弔意を表した。
❀大崎再開発構想、勧募計画の具体化がはかられている。

本紙編集委員自己紹介(1)

富川　孝恭（日蓮宗・編集長）

このたび門下連合会機関紙門連だよりが創刊され、各派より推薦された編集委員により編集業務が行われることとなりました。
特に紙面の構成につきましては、門連常任理事会との密接な連携の下に、①本会創立以来培った共通の場を活かし、門下が等しくかかえる諸問題を考える場の提供。②本会活動の報道、を基本路線として参りたいと存じます。
基本路線①にそって、例えば布教伝道の側面から門下各派が共通して採用できる基礎情報であるとか、各派檀林・本山等教育機関の紹介、又教団の組織論、更に社会への視点として新新宗教の実体、一般社会の動向、世界情報などさまざまな課題があると思います。
基本路線②にそって考えますと、門連活動、各派教団の動向、（機関紙・誌の紹介、人事）等々情報の提供が可能であります。が、要は本紙が門下連合会の潤滑油としてその役割を果し得るよう編集委員一同努力を傾注して参りたいと存じます。
何卒御叱正、御鞭韃の程お願いいたします。

柳下　義真（日蓮本宗）

此度、本宗を代表して「門連だより」の編集委員の委嘱を賜わりました。微力ながらお受けした次第、他の編集委員各位のご指導をいただき、協力していきたいと考えております。
ところで、この新聞の読者層が、当面は門連関与の方々、各教団の役職者、宗会議員の方々等に限定されておりますが、聖祖門下全体からみると、門連とは如何なる機関であるかという認識をどのくらいの人がもっておられるかを考えた時、将来的には各教団の末寺寺院全てに配布され、一人でも多くの人に読まれることが望ましいと考えます。その中で各教団、特に末寺の抱えている諸問題についての投稿を呼びかけ、共通の課題として取り上げられる問題なら、それをテーマにした講演会等を企画して、共に考える場を設けてはどうでしょうか。
この機関紙が、その他多くの諸問題に果たす役割の大きさを考えますと、編集委員の責任の重大さを痛感するものであります。

秋場　善弥（国柱会）

日蓮聖人七百遠忌報恩記念事業の大きな柱として「青年の船」は大事業であった。すべてが初めての経験で、五十四年秋から実施の五十七年三月までの期間は、実に真剣な協議がなされた。企画が固まり万全の準備がなされ御門下青年五百人が乗船して、めでたく出航、諸縁吉祥裡に成満されたが、あの時の意気ごみ、感激を忘れずに、これからも努力していきたいものである。
私は東京下谷に生れ、戦災にあって疎開先の山形県尾花沢で、夏は山野を馳けめぐり冬は雪の中で成長した野人である。学問もなく能力もとぼしいが、日蓮聖人は末法の大導師であられ、聖人の宗教は末法世界を救う唯一の教えである、という信念信仰は固く持っている。
すでに三児の父、青年ともいえないが、常に若さいっぱい、「一天四海皆帰妙法」をめざして、およばずながら勇猛精進していきたい。

朝倉　俊幸（顕本法華宗）

去年の二十五周年大会にて、創立以来種々の活動と事業が積み重ねられてきた足跡に思いをいたし、大きな成果を認め合うことができました。
今日の門下連合会の現状を見る時、各派の大同団結の道をさぐり、連帯協力の輪を広げるという初期の目的は、一歩も二歩も前進したのではと感ずる方も多いかと存じます。
私も本紙の創刊に際し、編集委員の一人として参加させて頂くことになりましたが、本紙の果す役割をふまえつつ、門下連合会活動基本理念を再認識していきたく存じます。
幸いに、宗祖七百遠忌共同事業の「門下青年の船」運営に関与された旧知各師と再度交流させて頂けることは大いに心強く、喜ばしい限りです。

持地　優学（本門法華宗）

私が生まれましたところは、日蓮聖人が身延を離れられ、九月十四日に投宿された竹之下の近郷、霊峰富士山の麓です。
このたび「門連だより」編集委員のお役を頂き、微力ながら務めさせていただきます。
（次号につづく）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合教化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん



＊本紙第二号をお届けする。紙面構成・内容すべてまだ不満足であるが、創刊号をうけいささかの成果も反映させることができた。
＊一面の長瀬理事長論文は、門連存在の根本理念、原点たる祖廟についての所信を表明されたものである。祖廟がもつ問題は複雑さが無しとしないが、信仰的全門下レベルで解決を願いたい。
＊今号から新連載が始まった。各派本山巡り、門連の進路、実のある内容に育ててゆきたい。
＊本紙編集委員の自己紹介をかね、ご挨拶を申し上げた。しっかりやります。乞ご声援。
＊最後に、活字が大きくなりました。
（事務局）

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

昭和62年２月16日
第３号

日蓮聖人の理想を実現するために

各地に門下連合会を

前京都日蓮聖人門下連合会理事長
吉永正晴

日蓮大聖人第七百遠忌を迎えて門下連合会主催の四大事業、日蓮聖人劇、日蓮聖人展、青年の船、オラトリオが盛大に実施されたことは、私達門下の者にとって誠に慶び一入深く感激極めて大きく未だに脳裏に強く残っています。大聖人への鴻恩報謝の一分にといえば自己満足のそしりを免れませんが、一天四海皆帰妙法広宣流布のため大衆動員を益々活潑にしなければと痛感いたします。その為にも祖廟に帰一する門下連合会の前進拡充を真剣に考える必要があると思います。

この四大事業を、就中青年の船を契機として門下の青年組織を確立しようという希望が高まり要望が出され、数度の理事会に於ける検討が加えられながら遂に日の目を見ないで終りました。誠に残念ながら率直に言って経費負担の過重に対する危惧があったのではないでしょうか。

門下連合会の目的「日蓮聖人の理想を実現する」とは取りもなおさず一天四海皆帰妙法です。その為に御遠忌記念事業も高く評価され意義一入深いと言えるのですが、その費用負担が加盟宗派に相当重かったことは否めません。幸い各宗派とも同時期に御遠忌報恩事業を持ち特別予算を組むということで協力態勢をとることが出来ましたが、門下連合会に於いて時々この様な事業を行うことは困難でありましょう。

一昨年、創立二十五周年記念集会を京都大本山妙顕寺で開催の節の国柱会々長田中香浦先生の記念講演(門連だより創刊号所載)の次の言葉を思い出します。

「みのり豊かな発展のために経験をふまえて率直に問題点を指摘致しますならば、この日門連は

第一に、各宗団の限られたトップの集合であって、各宗団のあげての参加体制にはなっておらぬということ

第二に、したがってまた檀信徒を含んだ運動体でないこと

第三に、それゆえに全ご門下を動員する広宣流布の体制も組めず、その姿勢と意欲にも欠けるということ

であります。

誠に門連に対する痛烈な指摘であります。」

日常行事を通じた地域に於ける横の組織体を

要するに、縦の組織の集合体という今の形で、加盟各宗派の指令が下に向って出されても、末端に於いては何の横の連繋もなく、門下の異体同心水魚の交りといっても単なる言葉に過ぎないのです。日常に行事を通じて相携えて信徒を動員して行くには、地域に於ける横の組織体が必要でありましょう。各地に檀信徒や一般大衆を動員する組織ができ、縦横相俟って広宣流布の大運動を展開することができれば、門連の目的達成に向って大きな力となることは明らかであります。

昔から門下の地方組織として各地に大なり小なり聖祖門下連合会といった集りがあったと聞きます。然し消長はげしく組織の確立は仲々難しいようです。又各宗派の寺院配置に疎密偏在があり特殊事情ありで、何処に於いても揃って活動するということは不可能ですが、門連を軸として斜合すれば全国をカバーすることも可能です。その為の調査研究を門連で推進し、各宗派において地方に働きかけることが必要です。幸いにして発足にこぎつけることができたときは、当事者の努力が大事ですが一つ重要なことは行事の確立ということであると思います。



昭和61年・合同御会式

京都門連に於ける組織作りと行事の確立

門連発足以来、初めて昭和五十三年に地方門下組織として「京都日蓮聖人門下連合会」が加盟しました。行事の確立という点を中心として地方門下組織作りの御参考になればと思い、京都門連のことについて御紹介致します。

京都は現在も十六本山を擁する特殊な事情もありますが、会の組織運営等参考になる点は多々あると思います。先ず会則の目的、行事及び事業は次の通りです。

第三条　本会は、日蓮聖人の遺誡を奉じ、異体同心を旨とし、四海帰妙の実現に努力することを目的とする。

第四条　本会は、前条の目的を達成するため、下記の行事及び事業を行う。

一、降誕会、開宗会並びに御会式大法要
二、布教興学に関する事業
三、内外宗教人との交流
四、関係団体との提携
五、その他必要なる行事事業

そして会員は、本山会員(日蓮宗八本山法華宗側八本山)普通会員(住職担任教師)賛助会員。日蓮宗側の会員寺院は百二十二ヶ寺で、日蓮宗京都第一部宗務所に統轄され、宗務所長を代表として役員が出ます。法華宗側は会員寺院四十七ヶ寺で、各本山単位で一年交代で当番となり、当番本山の貫首が会長同執事長が委員長その他の本山執事長が委員となって運営する法華門流懇話会を組織しています。

門下連合会に於いては日蓮宗側と法華宗側が一年交代で表当番裏当番となり、日蓮宗側が表当番の年は日蓮宗八本山の会長貫首が門連会長、法華宗側当番貫首が副会長、宗務所長が理事長、法華宗側委員長が副理事長となり、翌年は表裏入替り正副が替ります。理事は日蓮宗側九名法華宗側八名、会計及び会計監査は夫夫各一名宛。右の陣容で運営に当ります。この外に若手の企画委員十数名があり、行事毎に企画を立てて理事長に出し、理事会で決定の上奉行委員の役課を依頼して実施に移ります。そしてこの行事や運営に要する費用は、本山会費(一山年額二万円)普通会員会費(年額三六〇〇円)賛助会費や助成金と行事毎の収入(各寺千円負担或は志納袋による信徒の志納、参加者の参加費等)に依って賄います。

昨年は法華宗側当番の年で、顕本法華宗総本山妙満寺貫首吉田日康猊下が会長となり小生が理事長となって年中行事を実施して参りました。京都門連には会則第四条により四つの年中行事があります。

一、降誕会――毎年初頭に総会を開き会務報告や決算予算の承認をしていましたが、会の目的からも信徒向けに行事をと、日蓮宗本山立本寺で降誕会を奉行し、貫首細井日苑猊下の法話を頂き、爾後年中行事の一つとなりました。

二、開宗会――比叡山大講堂の放火炎上によって日蓮大聖人の御尊像が焼失したため清澄より奉納されてから、日蓮宗々務院より京都宗務所への特別助成金を元にして京都門連に於いて開宗会を奉行し、大講堂須弥壇に大曼荼羅を掲げ御尊像を奉安して法味言上、続いて大聖人久修練行の横川定光院に参拝します。

三、夏期大学――法華宗真門流の僧籍のあった大阪大学名誉教授佐保田鶴治先生と、同じく僧籍のあった後に大阪弁護士会々長になられた赤鹿勇先生から、京都に門下の大学又は短大を作ってはとの提唱があり、取り敢えず勉強会でもということから夏期大学の構想が生れ、本能寺会館を会場として発足しました。

四、御会式――戦後、有志が相寄り聖祖門下連合会の名の下に合同御会式を始め、発展して東山の円山公園音楽堂で法要、続いて万灯提灯行列で四条通河原町通を経て本能寺に至るという盛大な行事になりました。然し車の増加により交通事故の危険が大となり、殊に老人の多い信徒に万一のことがあってはとの心配から夜の提灯行列を取り止めてきましたが、一昨年より昼間の万灯唱題行進に切替えて実施しています。

昭和六十一年実施しましたこの四大行事の要綱を記します。

一、降誕会(並びに総会)
二月十五日(土)於妙満寺
午前十時半より総会。同十一時半より法要(大導師・吉田日康猊下)。正午より法話(「御降誕の意義について」本法寺貫主・金山寛成猊下)。昼食供養の後散会。

二、開宗会　四月二十六日(土)
午前九時、本山頂妙寺出発。バス四台僧俗二百名、先発後発自家用車七台。同十時、叡山大講堂到着(須弥壇正面中央に大曼荼羅奉掲、清澄より奉納の大聖人尊像をその前に奉安)。講話「開宗会に思うこと」協議会副会長・奥田恵遠上人。法味言上(大導師・吉田日康猊下)。同十一時半、昼食・休憩。午後一時、横川定光院法味言上。同三時、妙満寺法味言上。同五時、頂妙寺にて解散。参加費は一人四千円。

三、夏期大学　於本能寺文化会館
八月二十七日(水)
午前九時、受付、開講式。同十時より十一時半まで「久遠の生命」(顕本法華宗管長・総本山妙満寺貫首・吉田日康猊下)。午後十二時半より二時まで「日蓮聖人の生死観」(立正大学教授・東京池上法養寺住職・小松邦彰先生)。同二時半より四時まで「科学と宗教―生存文化」(医学博士精神鑑定医・医療と宗教を考える会及び有終支援の会世話人・卜部文麿先生)。参加費、一名二千円(昼食共)。

四、御会式　十月四日(土)
午後一時、大本山本能寺集合。同一時十分、法味言上。同一時半、万灯唱題行進(本能寺―河原町三条―東山三条―仁王門通―寂光寺)。同三時、報恩法要(大導師・吉田日康猊下)。同三時半、法話(「不世出の日蓮聖人」立本寺貫首・細井日苑猊下)。同四時、清興琵琶「竜ノ口」木村蓮水先生。福引により参加信徒に本山貫首猊下染筆の色紙を授与。

京都門連の簡単な御紹介を終ります。一日も早く各地に門連組織が出来、全国的な四海帰妙の大展開のできることを心から祈ります。

従地涌出

✳人間にとり、精神世界を大きく意義あるものにするため欠かせないもの、それが信仰である。信仰ある人生とただ欲望充足のためにのんべんだらりと生を送るのとでは、同じ一生でも天地雲泥の差がある。

✳人間にとり必要な信仰だが、これは他でもない、簡単に神仏を信ずるという行為であり、別に難しい理屈はいらない。ただ信じつづけることに意義があるとすれば、たんに信ずるという出発点から、次の持続の世界に入るわけで、その道中過程にはさまざまな障害が起きてくる。その障害をのりこえるため、簡単に信ずる行為から、複雑な理屈も必要とされてくる。

✳複雑な理屈とは、学問をすることによりもたらされる。学問の裏づけが確立され、徹底して信解された状態の信は、何物にもまして強固なものとなる。信と学とは、このような相関関係をもち、たがいに影響し合っているのである。

✳日蓮聖人の宗教も、やはり同様の構造をもつ。聖人が信じられた法華経本門の世界、久遠実成の釈尊を信ずるため、出発は信に発するが、それを徹底させるため、学問の必要性が要求されている。したがって聖人門下たるもの、自己にむかい信の持続を命ずるためにも日夜の精進が求められる。

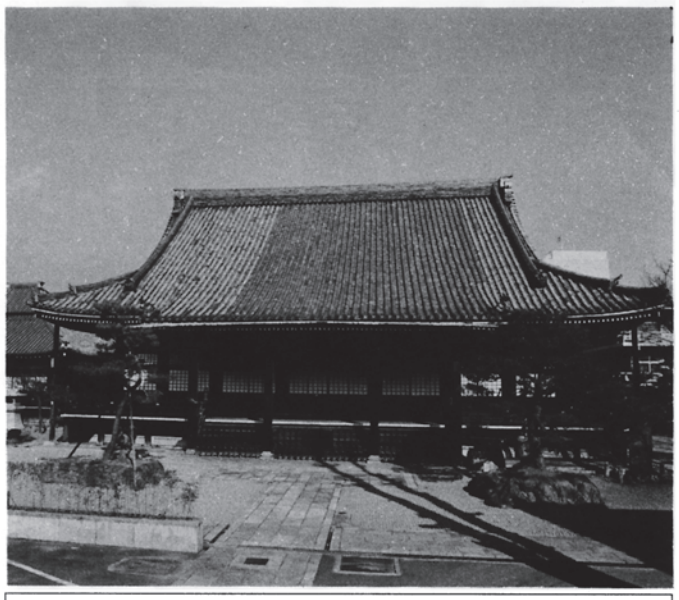
✳しかし、外典にもある通り、「少年老い易く学成り難し」(宋朱熹)である。「少壮努力せず老大徒に憂悲す」ともあるが、とにかく時の流れは早く、学問の道は遠く、かつ深い。万人に共通した世の常に囚われず、一日一日を進歩発展する生活を送らなければならない、その決意が強く求められる。日蓮聖人に同化し奉るためにも、地道な努力と精進を肝に銘じたい。(T)

シリーズ 門下御本山巡り 2

法華宗（真門流）総本山本隆寺

本勝迹劣・本果実証・事一念三千是好良薬の南無妙法

蓮華経を唱えられた日真上人開基の本隆寺を訪ねる



法華宗（真門流）総本山本隆寺
京都市上京区智恵光院通五辻上ル絞屋町
〒602　電話075(441)5762代
◎国鉄京都駅より市バス「衣笠」行今出川智恵光院下車。
◎「三条京阪」より市バス「山越」行今出川浄福寺下車。

日真上人により開かる■

室町時代の中頃、長亨年中（一四八七～一四八八）法華経本門・迹門の論争が頂点に達していた頃、開祖日真大和尚は妙本寺（現在の妙顕寺）の学室を出て、日像菩薩の旧跡、四条大宮に一宇を建立し慧光無量山本妙興隆寺と称した。教義の骨格は一部修行・本勝迹劣・唯壽量・本果実證・事一念三千是好良薬の南無妙法蓮華経で、これが当寺の創まりである。爾来五〇〇年を経過している。歴史としては天文五年（一五三六）に起った天文の法乱によって堂宇を失い、泉州堺に避難し、留まること六年、天文十一年（一五四二）の春、旧跡は幕府の収むるところとなった為に、杉若若狭守の邸跡の現在地を得て、再建。第四世本栖院日映上人の時のこと。

しかし乍ら、承應三年（一六五四）類焼により、本堂・祖師堂・庫裡・塔頭悉く焼失、時の貫主十世日遵上人は、法意日宣、妙福日政、木下権兵衛等の助力を得て、明暦二年春着工、翌年秋に竣工開堂。その後、享保十五年と天明八年の二度にわたり洛中を焼けつくす大火に見舞われたが、奇跡的に難をまぬがれ、今日に至っている。「爾来焼けずの寺」と称されている。この歴史的背景をもつ本堂・祖師堂の文化財的評価は高く昭和六十一年三月京都府文化財に指定された。その主任調査官をつとめられた関西大学永井規男教授の寄稿文を別掲し一読に供したい。

光輝ある伝統■

開祖日真大和尚は、一四四四年に中納言中山親通卿の子として兵庫県豊岡市に生まれ、十二歳出家、叡山三井寺を遊学の後、妙本寺の学室に入り研鑽、四十五歳にして先述の如く一寺を建立するに至る。主要な著述としては、法華経註（文段経）十巻、本迹図形、観心本尊鈔見聞三巻、法華論科註六巻、御書抜書一巻、法華三大部科文三十巻、護持此経論一巻等を挙げることができる。就中、法華経註十巻と法華三大部科文三十巻は文亀三年後柏原天皇の天覧に供すると共に、宮中に招かれて天皇の御前講義をされた由緒ある著である。

また法華経註は別名を文段経と称し、法華経の註書としては、有名な身延の日遠上人（一五一二～一六四二）が慶長十七年に書かれた法華文段経十巻よりも百四十三年も前に書かれたものであることに開祖の学徳を偲ぶことができる。

また開祖上人は学究の人だけでなく地方巡教にもよく出かけられた。

歴祖中では、安土問答に於て、信徒大脇伝内、建部紹智と共に参加し大いに法勲あるも殉死され後七世普傳日門上人、また寛政年間佛像造不に関して妙覚寺五十世日琮上人（一七三三～一八〇三）と共に江戸寺社奉行に出向する往復を日記風に記した「関東下向日記」を残した当山三十世日東上人も忘れてはなるまい。

日東上人はまた華道にも精通された。現在当寺は華道東山未生流の家元として多くの師範、社中を擁し、社会教化活動に力を入れているが日東上人は流祖として仰がれている。

格護している宝物は宗祖御真筆曼荼羅（天目上人授与・立正大学講堂に奉掲されている）朗師、像師の真筆曼荼羅、法華玄論（重文）法華経（重文）十六羅漢絵像（重文）その他五〇〇余点。

本隆寺の文化財価値

関西大学教授　永井　規男

京都の日蓮系寺院は大半が市街地中に営まれている。それは室町時代以来の伝統で、京都町衆によって支持され、町衆の寺として繁栄してきたのである。しかし、反面ではそれが仇となり、市街地には宿命的ともいえる大火に見舞われやすく、伽藍を全焼するといった苦汁を幾度か嘗めなければならなかった。京都の日蓮系寺院に古い建築遺構が少ないのはこのためである。近世京都に起こった大火では、宝永五年、享保十五年、天明八年の大火が有名で、とくに後二者は本隆寺寺地をも巻き込んだものであった。しかし全く奇跡的なことに、当寺の本堂と祖師堂だけは焼けずに残ったのである。その結果この両堂は旧市街地中の日蓮系寺院の中では本圀寺経蔵についで古い遺構になった。旧市街地中では、他宗派の寺院を含めて、その中心伽藍に本隆寺のものに匹敵する古さをもつものは十指に満たないであろう。

本堂は承応三年（一六五四）火災後、第十世真性院日遵上人の尽力で明暦二年（一六五六）春着工、翌年秋に竣工している。正面（柱間）七間、側面七間の本格的な規模、構造をもつ堂であって、近世前期の本山本堂の典型となり得る資格十分である。内陣部は禅宗様、側廻りは和様で構成されるが、全体としてよくまとまり、細部の絵様や彫刻の形もよい。木割が太く風格をもったすぐれた建築である。大工は東山の建仁寺門前に住んだ坂上作左衛門吉貞で、この人は寛永十九年（一六四二）に向日市の南真経寺本堂を建てている。由緒正しい京大工で、加えて、積み重ねられたであろう豊かな経験とがこの本堂に見事に結実している。なお北陸の名刹妙成寺の伽藍は加賀坂上氏を棟梁として建てられたことはつとに知られているが、この坂上氏は京都坂上氏の分流と伝え、福井県鯖江市にある本隆寺末平等会寺の門前に住んだ坂上作左衛門吉貞で、この人は寛永十九年（一六四二）に向日市の南真経寺本堂を建てている。由緒正しい京大工で、加えて、積み重ねられたであろう豊かな経験とがこの本堂に見事に結実している。なお北陸の名刹妙成寺の伽藍は加賀坂上氏を棟梁として建てられたことはつとに知られているが、この坂上氏は京都坂上氏の分流と伝え、福井県鯖江市にある本隆寺末平等会寺の門前に住んだ坂上作左衛門吉貞で、この人は寛永十九年（一六四二）に向日市の南真経寺本堂を建てている。由緒正しい京大工で、加えて、積み重ねられたであろう豊かな経験とがこの本堂に見事に結実している。

祖師堂の歴史は本堂ほど明確でない。本堂より古いという説も以前からあった。子細に見ると新旧の混った建物で、堂の後半部及び小屋組には古い材が用いられている。おそらく古い堂を改造したか、古材を再用して建てられたかしたものである。

屋根瓦には永禄五年（一五六二）の銘をもつものがあり、古材はここまでさかのぼる可能性もあり得よう。京都の日蓮系寺院中では最古の祖師堂遺構であることは間違いない。

正面三間、側面四間、二重屋根寄棟造の建物である。二重屋根とするのは関東の祖師堂にはないが、京都では立本寺や要法寺に類例があり、京都系祖師堂の一タイプとなっていたらしい。なお復原すると本堂も同様であるが、外陣は吹放ちとなる。

本隆寺伽藍の価値はまた、本堂・祖師堂が近世前期のものとしてセットで残っているところにある。日蓮系本山寺院の伽藍配置は、大別してA―本堂と祖師堂とを横並びに配置するもの、B―本堂の前方に祖師堂を斜め向い合せに配置するもの、の二タイプがある。当寺のはAタイプに属するが、この型は関東に多い。しかし関東では祖師堂の方が大きく本堂は二次的なものとなり、京都とは異なる。京都型のAタイプは、近世では本圀寺や妙覚寺でも行なわれていたが、今は見ることが出来ず、僅かに当寺と要法寺において見るだけである。要法寺は本堂・祖師堂とも近世後期の建立になるもので、配置形式はともかく、堂の建築内容にまで至ると本隆寺には一歩を譲る。

こうして私たちは、本隆寺伽藍において、日蓮系寺院伽藍配置の一方の典型を見、また本堂・祖師堂において近世前期の内容、質ともに充実した両堂の典型を見ることができるのである。



本隆寺祖師堂

法華経発祥の地、天竺（インド）霊鷲山の麓に釈尊像を勧請、開眼入仏式をさせていただきました。

インド御霊跡地御参拝の折は是非お立寄り下さい。

インド旅行のお世話は
法華旅行開発がさせていただきます。
東京都台東区上野六―九―十九
〒110　〇三（八三四）二五七六

日親上人第五〇〇年御遠忌
比叡山開創一二〇〇年祭

京都本山めぐりのお泊りは
法華クラブ京都店をご利用ください。
京都駅烏丸中央口正面
〒600　〇七五（三六一）一二五一

法華クラブチェーン店のお申し込みは営業部または最寄の支店が承ります。



インド法華ホテル仏堂内釈尊像

この御尊像は高祖の御遺勅に鑑みて日本の国土で育った樟木を日本の仏教徒が刻んだものであります。
樹齢350～400年、重量1200kg、高さ2ｍ10cm　作者・橋本堅太郎

ホテル法華クラブチェーン

札幌店	(011)221-2141
函館店	(0138)52-3121
弘前店	(0172)34-3811
仙台店	(0222)24-3121
上野池之端店	(03) 822-3111
上野駅前店	(03) 834-4131
藤沢店	(0466)27-6101
京都店	(075)361-1251
大阪店	(06) 313-3171
境港マリーナホテル	(08594)5-3111
小倉店	(093)531-5531
福岡店	(092)271-3171
大分店	(0975)32-1121
熊本店	(0963)22-5001
鹿児島店	(0992)26-0011
インドラジギール店	

心をつくすホテル
法華クラブ

本　社：京都駅烏丸中央口正面
営業部：東京都台東区池之端2-1-48
電　話　03(823)6312

恭賀新春

昭和六十二年丁卯



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(七五一)七一八一(代)

管長 金子日威
宗務総長 長瀬貫公
宗務副総長 加藤海晃
綜合企画部長 冨田義董
庶務部長 神部錬紳
財務部長 浅井玄裕
教務部長 米田淳雄
護法伝道部長 山本龍雄
現代宗教研究所長 長谷川正徳
参与 豊田通證
参与 岡田法順
日蓮宗新聞社社長 豊田英世

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(九一〇)四七五五

管長 赤田日崇
宗務総長 松井孝純
教学部長 古田昭翁
教化部長 渡辺修翁
財務部長 中村宏龍

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長 吉田日康
宗務総長 河野時中
宗務次長 山田信正
財務部長 飯澤道宣
布教部長 浜田顕昭
教務部長 平田浄応
社会部長 因幡信篤
庶務部長 朝倉俊幸

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(九一八)七二九〇

管長 野口日騰
宗務総長 鈴木昭吾
総務部長 牧野琢成
教学部長 土屋善敬
財務部長 田辺信治
教化部長 今井忠良
宗務参事 星川恒雄
宗務参事 都築哲信

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東堅町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 西村日地
講尊 小山日幹
宗務総長 長谷川日序
宗務副総長 高須日薫
宗務副総長 大谷薫
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

管長 嘉儀日有
関居 原日認
宗務総長 住友顕一
法務部長
総務部長 今村要道
教学部長
財務部長 丹治義順

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二

管長 林日圓
宗務総長 藤井文英
総務部長 長鎌泰信
教学部長 吉田研宏
教化部長 蓑輪渓玉
社会部長 田中寛康
財務部長 小西法明
参与 吉田勝秀
参与 上田浩岳
教学主事 岩崎峻暉
教化主事 笹木研秀
財務主事 小島玄城

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三二五二七

管長 永井日揮
宗務総長 吉村信尚
宗務長 高辺誠亮
総務部長 信隆允忠
財務部長 山下通雄
教務部長 飯田信栄
庶務部長 藤井宏長

宗教法人

国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(六五六)七一一一(代)

会長 田中香浦
理事長 加倉井清信
副理事長 中平千三郎
国柱会本部・妙宗大霊廟
講師 大橋冨士子
講師 大屋敬吉
講師事務局長 大橋邦正
講師法務部長 長井君夫
講師教宣部長 関口宏
教務部長 秋場善彌
必武館副館長 家田仙次
会計部長 大屋統子
組織部長 木村司
総務部長 長瀧光雄
庶務部長 江口和敏

日本山妙法寺

〒542 大阪市南区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量

京都日蓮聖人門下連合会

〈事務所〉
〒600 京都府京都市下京区中堂寺西寺町一
勝光寺
電話 〇七五(八一一)三二一九五

会長 沖日亨
副会長 赤田日崇
理事長 藤田尚慈
副理事長 岡沢海宣



恭賀新春

昭和62年丁卯

（順不同）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(二)一〇一一
法主 岩間日勇
総務 望月一靖
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(七五二)二三三一
貫首 金子日威

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
貫首 吉田日康
総務 吉永正晴
執事 木村順静
執事 平田浄應
執事 土持栄孝
執事 三坂岳應

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
貫首 野口日騰
執事長 真保行宣
執事 笹原壮一
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 佐古弘文

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五 七 六二
貫主 林日圓
執事長 上田浩岳
執事 小島玄城
執事 岩崎峻暉
執事補 笹木研秀

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五 二一七
貫首 佐野日紀
執事長 尾崎日愆

日蓮本宗本山
要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通採橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三 三 九〇
貫首 嘉儀日有
関居 原日認
本山執事長 住友顕一
本山執事 今村要道
本山執事 丹治義順

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四 六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四 六 五一
住職十八世講有 西村日地
副住職 梶本日裔
事務局長信徒総代 小倉徳治郎

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 塩田義朗
山務員一同

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一
貫首 水谷日諦
執事長 玉田学雄

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇 八〇八
貫首 沖日亨
執事長本山本土寺貫首 山田一光
執事 原光司
執事補 多田妙鳳

日蓮宗大本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
貫首 片山日幹
執事長 田中慈潮
執事 本間正晃
外五名

公元一九九一年御開山日像菩薩
第六百五十年遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話 〇七五(四六一)六五一一六
貫首 細井日苑

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山寛成

日蓮宗本山
岩本実相寺
〒416 静岡県富士市岩本一八四七
電話 〇五四五(六一)〇九〇九
貫首 佐久間智周
山務員一同

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇 五 六二
貫首 金子光瑩
執事補 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
東京執事 田村宏祐
参与 土屋学周
同 新井智清
同 山田完修

シリーズ　門連の進路をさぐる　2

門下連合会の質的転換を

日蓮聖人門下連合会相談役
法華宗（陣門流）前宗務総長　水本大岳



日本の独立と立教開宗

昭和二十七年四月、それは日本にとって忘れがたい情熱と興奮を覚えた対日平和条約の調印式が行われた月であり、日本は独立国となった。

戦前派にとって屈辱的だった「オキュパイド・ジャパン」からの解放であり、四つの自由、特に「信教の自由」を得たことであった。

そして戦後の混沌から、新生日本という形をとり始め、しかも奇しくも日蓮門下にとって、立教開宗七百年の聖辰でもあった。

まことに「くらげなす漂える時に、天の沼矛をさして、こをろこをろとかきなして……」と記紀が伝える日本の開展と大変よく似ていた。日本の独立と立教開宗七百年には何か因果関係があったのかも知れない。

更に言えば、門下連合の萌芽はこの時にあったと言っていい。

戦後初の連合

門下各派役員有志の懇談と協議がもたれたのは、開宗会に沸いたその年の秋であった。仮称「門下懇談会」という半ば私的な会合で、私もその末席に列なっていた。

たまたまこの頃は、第二次新興宗教ブームで、懇談会もこのブームにいかに対応すべきか、いろいろ情報交換が行われた結果、少くとも題目系新興教団との連携と交流を保つべきだということになった。そして、各自分担して各教団と接触することになり、私は思親会、仏所護念会、大乗教団、孝道教団と接渉した。

当時、各教団の幹部の方々は非常に謙虚で礼儀正しく、些かの驕りももっていなかった。

約六ヶ教団との接触が進み、交流懇親を深める会合が、年二回程度もたれ、数年続けられた。

私は自地復興のため、昭和三十三年宗務役員を辞するまで、各教団の方々と面識を頂いたことは、貴重な体験となった。

そして私をして宗外のみならず、対社会的に大きく開眼すべく薫陶して下さったのは、他ならぬ村上日宣（恭学）上人であった。

連合の定着

昭和三十四年以降の経過は「門下連合会のあゆみ」年表の示す通りである。

戦後における門下連合の歴史は、種々の起伏を辿りながら、昭和三十八年頃から定着しはじめた。

私も昭和四十五年から新しい門下連合会の一員として渡部公允理事長のもと、斉藤、蓮池、朝倉、田中、木村の各聖とともに門連の拡大推進に協力することとなった。

ある時、門下の有識者が「門下連合は国際連合の形で組織すべきであろう」と話したことがあった。

当時は所謂「国連方式」という連合の形が最良だったかも知れない。

全日本仏教会も、これに倣って宗派加盟と各県仏・市仏の参加を得て「全仏方式」という連合の形をとるに到ったのである。

しかし連合体は実動しなければ、何の意味も特長もない。国際間の損益や宗派間の利害の対立が露出するとき、連合は影がうすくなり、衰弱への道を辿る。逆説すれば、連合は連合することによって弱体化する矛盾を、常にはらんでいるのである。

連合の図式

門下連合もこの方式を意識して、題目系教団の加盟を要請し、また各都市に門連の地方組織を作るべく、主要都市の状況調査を行ったこともあった。

私自身、不受不施派、同講門派、最上教の宗務所を訪れ、連合加盟を要請もし、また京都門連の着実な活動と発展を参考として、札幌、函館仙台、名古屋、広島、福岡等のご門下各聖の意向と、都市門連結成の可能性を調査検討してみたことも、私には懐しい思い出として残っている。

しかしそれぞれ消極的であったり或いは不発に終ったことは、「国連」「全仏」方式の組織が、活動体として無力であることと無関係ではない。

国連の無力化がむしろ国際間の自由交流の気運を促し、学問の世界では、専門フィールドを超える学際的研究の方向を辿り、経済界においてさえベンチャー・ビジネスという現象を生じ、その帰趨が注目されている。

連合の未来

時代の変遷と価値観の推移が、連合というものの質に大きな転換を来しはじめたのである。

門下連合の将来を展望するとき、この点に留意しないと、形式的な連携に陥ってしまう恐れがある。「連合」の内容の質的転換を試みない限り、行き詰まってしまう不安がある。

従来の連合が、単に代表者というトップたちの連合にすぎず、そこで企画されるイベントの推進と実現のために、加盟教宗派が資金分担という結果をもたらし、底辺に浸透することなしに、台風の如く過ぎ去ってゆくのみである。

ならばどうすればいいか。

ここで早急に結論を出すことは難しいし、また緊要な事態が生じている訳でもない。

ただ私は、庶民の信仰の所在を問うことからはじめたい。

現実に庶民の信仰の依拠するところは、宗派にあるのでもなく教庁にあるのでもない。その多くは、本山という実体をもっているもの、本殿という実質の伴ったものに、信仰の所在があるのではないか。宗派、教庁やその連合体に、庶民信仰は依処をあずけることをしないであろう。本山や本殿を抜きにして、庶民の力になる信仰はあり得ないし、またその裏付けなしに発らつとした信仰活動は起り得ないものである。

連合の未来を展望するならば、この視点を中心にした本山、本殿間の交流、連携を計ることを基本とすべきではないか。名目的な連合から、信仰の所在を見つめる質的転回を遂げない限り、門下連合はまたも、空転する恐れが充分にあるのである。

昭和六十一年度

京都理事会開催

地方門下連合組織拡充をめざす!!



恒例の京都理事会は昨秋11月6日顕本法華宗総本山妙満寺にて奉行。

当日の報告・承認・決定事項は、

1、記念講演・古瀬堅徳師。

2、中央・京都門連事業報告。

①中央門連。(イ)身延参詣・理事会5月14日、(ロ)門連だより創刊4月28日

(ハ)人事の件（各派短信参照）。

②京都門連。(イ)降誕会2月15日、(ロ)立教開宗会4月26日。(ハ)夏期大学8月27日。(ニ)御会式10月4日。

3、地方門下組織との連携について。

吉永京門連理事長より「大阪日蓮聖人門下懇話会」について、真門流の藤井文英師より福井県鯖江市での門下合同の動きにつき、それぞれ発言。

4、叡山開創一二〇〇年。

日蓮宗加藤海晃師より、「天台宗より日蓮宗宛の要請に門連として対処」が提起された。

5、門連だより刊行の件。

大橋常任理事より「第2号の内容に沿い、年3回発刊。第3号は62年2月に刊行予定」の報告。

6、分担金値上げに関する件。

木村常任理事より「現行5万円を8万円値上げ」が上程され、承認。

7、門下連合会相談役推薦の件。

日蓮本宗太田奠壌師が就任。（以上）

◎叡山開創一二〇〇年慶讃法要の件は、12月18日常任理事会で門連として参加の旨正式決定。5月23日法要。

現代人待望の書！

正しい宗教Q&A

田中香浦・編

B6判並製　定価1200円（〒250円）

質問108の構成

第一章　宗教について（1～19）
第二章　教義について（20～38）
第三章　人生について（39～58）
第四章　生活について（59～88）
第五章　社会について（89～108）

●お求めは、もよりの書店か直接本社へお申し込み下さい。
●「出版案内」をご請求下さい。

宗教法人　国柱会
出版局　真世界社
〒132 東京都江戸川区一之江6-19-18
電話　03(656)7111(代)
郵便振替　東京5-19556

妙法蓮華経　一部八巻　刊行



法華経を信奉する全宗派、全ご寺院、全檀信徒の皆さまにお勧めします。

お経本は巻帙入り、タテ22センチ、ヨコ8センチ（一巻）で、本紙に本コウゾを用い、金箔表装（緋金、茶金）をほどこした豪華本です。

予約募集大好評につき

五月三十一日までの申し込みに限り

刊行記念特価　三万五千円（送料別）

お申し込みは　日蓮宗新聞社
東京都大田区池上三―十六―九
〒146 ☎(〇三)七五五―五二七一

自我得佛來　所經諸劫數
常說法教化　無數億衆生

（上は、実物大文字見本）

各派・教団 短信

【日蓮宗】◇立正大学名誉教授久保田正文師の本葬が10月1日東京仙寿院に於て、立正大学学園葬として執行された。

◇勧学院では毎月1回宗務院を会場として「勧学会」を開催しているが六十一年度の実施は次のとう り。5月16日、6月20日、7月18日、9月19日の4回は茂田井教亨勧学院長の連講で、講題は3回を「御本尊について（一般的概念・日蓮聖人の場合等）」、4回目は「本尊問答抄」について、10月17日は浅井円道講学職が「一念三千」を、11月21日は中野文海講学職が「宗教書ブームと宗教離れについて」、12月19日は勝呂信静講学職が「法華経の成立問題と思想」を講じた。1月16日は茂田井教亨勧学院長、2月20日は上田本昌講学職が担当。

◇日蓮宗加行所入所式　於中山法華経寺・加行僧205名（11月1日）。

◇中山法華経寺聖教殿お風入れ（11月3日）

◇日蓮宗綜合財団賞選考委員会が11月14日宗務院で開催され、教学部門宮崎英修、社会教化部門奥邨学進・加賀美日聰各師を選考、授賞を決定した。

◇11月19日、池上本門寺に於て宗門先師法要（139霊位）が金子管長猊下導師にて厳修され、遺族200余名、長瀬宗務総長以下内局部長参与、審査会、所長代表が参列し先師を偲んだ。

◇同日勧学院学階授与式が宗務院で行われ、金子管長猊下より勧学6名講学37名、嗣学17名に学階が授与された。

◇立正大学名誉教授、身延山短大学頭宮崎英修師の勲四等叙勲祝賀会が12月10日品川のホテルパシフィックで開催され、管長猊下・宗務総長等宗門関係、大学・身延山関係者等多数が集い、功労を讃えた。

◇お題目総弘通運動推進の広宣活動として本年護法伝道部では電通に依頼、シンボルマークと標語を作成した。標語は

△いのち、不思議
△こころの陽だまり

シンボルマークは日蓮聖人の御名をシンボル化して、太陽と蓮の花をイメージした。三枚の蓮の葉は三界を表現し、三界を貫く実乗の一善を太陽の光によって表したもの。（左図）



◇右の標語と総弘通運動の趣旨など、サンデー毎日、週刊女性、毎日新聞に四月・五月・八月・十月に広告掲載を行った。（富川孝恭）

【国柱会】◇11月16・17日、国柱会本部で恩師田中智学先生第48回忌報恩大会が全国同志参集して開会。

◇11月15・16日、本部で国柱会定例協議員会が開会された。会長推戴の件では現田中香浦会長が再任。新年度事業計画に関する件では真世界運動の展開ほかが決議された。昭和63年は田中智学先生第50回忌を迎え報恩記念事業が企画され、都内デパートにおける展示会など8項目にわたる事業内容が発表された。また同年は妙宗大霊廟の創建60周年に当り結縁運動の展開を決定。（秋場善弥）

【顕本法華宗】◇三派統合学院開催さる。去る11月15日、16日、17日の3日間にわたり、法華宗陣門流宗務所内陣門講堂を会場に、三派統合学院が開催された。

この統合学院は、三派（顕本、陣門流、真門流）で協調して毎年前後期2回開設しているもので、青年僧の教学講習の場で、本年も各派より多数の参加があり、講師として顕本法華宗より、小西隆正師が出講され、「法華経の実践」というテーマで講義された。

◇東部連合会僧員講習会開催さる。去る12月5日、東部連合会（関東教区寺院交流団体）の主催により僧員講習会が、千葉市本行寺を会場に開催された。当日、特別講師として立正大学仏教学部教授伊藤瑞叡先生を招請し、「妙法―サッダルマとは何か」のテーマのもと聴講した。（朝倉俊幸）

【日蓮本宗】◇日蓮本宗本山要法寺（京都市左京区東山三条西入る）では本堂大屋根の全面修復を行うことになり、このほど成満に向けて浄財の勧募運動が開始された。

同本山の本堂は安永3年（一七七四）、第三十世日良上人の代に落成しており、212年を経過していることになる。発起から落成まで四代の歴世と35ヵ年の歳月をかけており、総欅造りの堅牢な建築であるが、用材の欅は島根県三瓶山から伐り出し日本海―関門海峡―瀬戸内海を海運し、大阪湾からイカダに組んで淀川―高瀬川をのぼって搬入したという。

本年6月に着工、約15ヵ月の工期を経て昭和63年8月末に完工の予定である。総予算は三億八千万円。（柳下義真）

【法華宗真門流】◇本紙第二号に既報「総本山本隆寺開創五百年記念慶讃事業」の大要は、

1、大法要の厳修

昭和63年4月8日より3日間にわたり、報恩と慶讃の法要を執行する。

2、日蓮大聖人御本尊の復刻

大聖人天目上人授与の御本尊を完全復刻し限定頒布する。

3、御開山御真筆本尊集の発行

各寺院・檀徒に格護されている御開山日真大和尚御真筆の御本尊を集大成する。

4、展示・収蔵棟の新築

昭和62年に完成し、寺宝・文化財を展示し、檀信徒の信仰増進をはかる。

5、その他

・法華経一部八巻読誦カセットの作成
・荘厳具修繕と営繕個所の完成
・開創関係出版物の発刊

以上、今、鋭意僧俗一体となって、その達成に精進を続けている。（吉田勝秀）

【法華宗陣門流】◇12月10・11日の両日法華宗宗務院に於いて、昭和61年度新住職者・学生沙弥合同研修会が開催された。各講師により宗法・法要式の解説、宗門史、布教方法の実践等講義をされた。新住職者には法話実習を行ない、6年以内に3回の受講が義務づけられている。（江坂隆俊）

【本門法華宗】◇同宗では日隆聖人御生誕六百年慶讃事業の一環としてかねてよりその完成が待たれていた『信徒要典』が昨年11月15日発刊された。

この『信徒要典』は、増田宏雄前宗務総長が編集委員長となり、法華経略解説、日蓮聖人御遺文、日隆聖人御聖教、信者の心得などが網羅されている檀信徒向けの教本である。（持地光学）

【日本山妙法寺】◇藤井日達上人（行勝院日達）の第三回忌法要が1月9日、日本山妙法寺清澄山道場で厳修された。

【法華宗（本門流）】◇法華宗布教師会昭和61年度総会及び研修会が、去る昭和61年1月17・18・19日の3日間、尼崎市大本山本興寺において開催された。今回は特別に宗外講師として松原泰道先生を迎え、「初心者のための布教心得」と題して講義を賜り、会場は満員の盛況であった。次回の会場は京都市大本山本能寺を予定。

◇去る昭和61年12月8日より12日まで、沼津市大本山光長寺において青年伝道隊第5期隊員養成第1次特別訓練が行われた。今回の募集は7年ぶりとあって、全国から28名の志願があり、宗内外の講師先生の講義の他、沼津駅前において伝道布教の実習が行われた。この模様はTV・新聞を通して各方面に報道された。第2次特別訓練は、2月20日より25日まで京都市大本山本能寺において開催され、この錬成を修了すると日隆聖人御開山忌において、赤田管長猊下より辞令が交付され、伝道隊員として各地で伝道活動を開始する。（矢吹慈英）

【本門佛立宗】◇昭和62年度は「開導にかえれ・自力を捨て経力に付く改良を」という内容の宗務方針が発表された。

本年は、佛立開導日扇聖人百回御遠諱を、2年後という間近に控えていよいよ教講一体の具体的報恩行に邁進している。先づ昨年9月に「開導百遠諱特別局」が設置され、法要部・記念事業部・推進部・事務文書部と四部門に分れて、報恩事業の詳細が進められている。次に教務局は記念事業として「佛立辞典」の編纂と佛立修学塾の充実・教育体系の再確立を。弘通局では、教化誓願者増加運動を柱に、その手助けとして「現代宗教早わかり問答集」や結縁パンフレットの発行で弘通広宣の援護を計るとの事。広報局は、次のような開導百遠諱記念シンボルマークを決定し、宗門の報恩行の意識昂揚をめざしている。



シンボルマークは、百遠諱の百を図案化したもので、1の太い直線の柱は、佛立宗の教えと伝統をタテに表わし、00の部分は未来に向けて跳躍する宗門の弘通を表わしている。（デザインは、前橋本勝寺信徒の三浦修氏による）（深沢泉奥）

本紙編集委員自己紹介(2)

江坂　隆俊（法華宗陣門流）

日蓮聖人門下連合会「門連だより」の機関紙を刊行することは、誠に意義深いものであります。七百御遠忌事業「門下青年の船」の一要員として参加協力できました事は、生涯忘れ難く楽しい有意義な教訓を得ました。

今般編集に携わるに際し、もとより浅学菲才の者でありますが、諸先輩各位の御指導を仰ぎ、努力精進致す所存であります。

矢吹　慈英（法華宗本門流）

今般、教団からの推薦により本紙の編集委員に名を列ね、末席を汚すこととなりました。

小職が門下連合会の仕事をお手伝いさせていただくことは初めてです。勿論、宗祖日蓮大聖人第七百遠忌を記念して実施された「青年の船」等の催しへも不参加であり、また他の編集委員各師と比べても若輩であるため、いささか不安と戸惑いを感じております。

しかし乍ら、編集作業に関しては惜しみない努力を傾注する所存です。

深沢　泉奥（本門佛立宗）

ありがとうございます。不肖未熟者の小僧が、高祖日蓮大士七百回御遠諱という希なる御縁に出会わせて頂き、更に縁が重なり出会が拡がって、門下連合の活動を知り、青年の船に参加させて頂いたことで、今度、「門連だより」の編集員というお役を御奉公させて頂くことになりました。

つきましては、全くの素人ゆえ、種々と他の委員の方にご迷惑をかけるものと思いますが、何とぞ宜敷くご指導の程、御願い申し上げます。

青年の船を通じ、その後の交流の中で感じます事は、それぞれの方が皆、それぞれの導き因縁をもって妙法のご信心に出会い、各々の立場で妙法弘通に心がけておられること。特に門連役員諸氏、とり分け青年の船で出会った若き世代各位の思いは、小さな自己のカラに閉じこもっているのではなく「お祖師様日蓮聖人のみ教え・上行所伝の妙法を、いかに外に向かって日本国中に、いや全世界に知らしめ拡めるか」という一点であることが確かめられております。

この門連だよりが、そのような意味で少しでも活用されるよう、編集員の一人として努力していきたいと思っております。

吉田　勝秀（法華宗真門流）

日蓮聖人門下連合会創立二十五周年を期して、昭和六十一年四月「門連だより」の発刊がなされました。宗門を代表して、その編集委員の委嘱をうけました。

日蓮聖人門下連合会の目的達成のため、各派教団の特性を生かし、各派教団の連帯と協力の輪の柱になる重要な機関紙であることを自覚して精進を続けてまいります。

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合教化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

＊第三号の一面は、地方門連の現状報道として京都門連の活動につきレポートを吉永理事長（当時）にお願いした。京都方式と呼ばれそうな連合システムは今後の地方門連組織結成には大変参考になるであろう。

＊真門流本山本隆寺の沿革と現状、大変興味深いものである。

＊「門連の進路」今号は水本大岳師に登場願った。師の指摘される論点は、まさに今後の門連活動のキーポイントである。次号では、師の提案をうけ、議論を展開させたいと考えている。

＊第二号はおおむね好評をいただいた。より一層の充実を目指し編集委員一同頑張りたい。

＊「従地涌出」欄を今号より新設しました。

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

昭和62年８月１日
第４号

比叡山開創一二〇〇年・報恩大法要

堂内にお題目の声満つ

日蓮聖人門下全力を結集して奉行！

なんと素晴らしいことか、日蓮聖人門下が結集するということは。本年五月二十三日、時あたかも開創千二百年を迎えた比叡山根本中堂に門下各派の緇素千余名が集い大法要がいとなまれた。

この法要は当初日蓮宗に対し叡山当局より要請が寄せられたが、日蓮宗はこれを門下各教団に呼びかけ、日蓮聖人門下連合会の主催として実現した。すなわち、叡山開祖伝教大師への御報恩の誠を、「伝教大師の門下が異体同心して捧げた。

根本中堂は、叡山が日本仏教史上に、およぼした歴史の重みをいやという程感じさせる。重みと同時に堂内はひとしく暗くかつ荘厳である。普段はこの暗さゆえに保持する伝統なのかもしれないが、この日はちがった。堂内に溢れた南無妙法蓮華経、未来救済の大光明が発せられた。



根本中堂内陣に奉掲された大曼荼羅本尊

根本中堂に湧き上った南無妙法蓮華経の響き

それにしても、雨が強い。風もある。前夜投宿した市内のホテルで目を覚まし、カーテンを開けるや、激しい風雨に滅入ってしまった。

もしかすると、雨天中止か、などと他愛のない心配をしながら朝食を摂り、タクシーで一路叡山を目指した。途中比叡山ドライブウェイは雨に煙り、視界は狭い。

集合予定の午前十時に少し早い九時過ぎ、頂上に着く。駐車場から中堂に向う参道に下げられた横断幕も風雨に濡れ、そして揺れている。風雨は一向に止む様子がない。

午前十時、集合時間に遅れることなく、大型バスが次々に到着、遠近の信者の方々が、それぞれ所属団体のリーダー僧にともなわれ、行儀よく根本中堂へ導かれる。

海の潮が満ちくるように、徐々に堂内は人で埋めつくされて行く。いつのまにか、満堂立錐の余地がない混みよう、私も自分の座すべき所を確保し、ほっとした。

と同時に、誰れとはなく、自然発生のように南無妙法蓮華経の唱題が堂内に響きわたる。本宗関係の法要ではよくお目にかかるスタイルだがここ根本中堂に、こうしたスタイルが現出したことは、開闢以来未曾有のことだ。

少時が経ち、時に十時三十分、式衆第一列が書院を出発、つづいて第二列出発。

第一列には、一般僧侶、京都門連関係者、そして門連相談役、門連理事、その後に各宗管長、本山貫首各聖がつづかれる。第二列には副導師をつとめる門下各派代表（陣門流、本門流、京都門連、日本山妙法寺、本門佛立宗、本門法華宗、真門流、日蓮本宗、顕本法華宗、日蓮宗、国柱会は第一列に）、そして今日の晴れの式典の大導師をつとめる金子日威猊下がつづかれた。

私は、この行列を堂の廻廊にいて眺めていた。済々肅々と進む。雨に霞みよく見えない。予備知識として行列の全貌を把握していたにすぎないが、しかし、日蓮聖人の門下がこぞって参加しているという眼前の姿だけは理解できる。それでよいのだ。

厳粛・荘厳にして雅な大法要、興奮の裡に終る

さて、いよいよ法要の開始である。所定の式次第にもとづき、荘厳裡に法要は進められる。

開式の辞がある。礼拝三宝、鉢が鳴らされる。自我偈の読誦に移るや堂内はゴウーと偈の追誦がおこる。奏楽は今日にふさわしく雅の世界に引きこまれる。そして導師の表白、高齢にもかかわらず、かなりの長文を一語一語かみしめるように表白される。表白ののち、間髪を入れず唱題、これまた堂内は、南無妙法蓮華経が割れんばかりに響きわたる。回向のあと閉式の辞があり、感動と興奮の大式典は終りを告げた。



堂内を埋めつくした門下連合会の清衆

日蓮聖人奠定大曼荼羅奉掲の歴史的意義

この法要にあたり、特筆大書して後世に伝え残さなければならないことがある。

もちろん、日蓮聖人門下連合会により伝教大師への報恩法要が行われたことに尽きるのであるが、今ひとつ、忘れてならないことがある。

それは、根本中堂の内陣に奉掲された十界勧請の大曼荼羅本尊のことだ。その大曼荼羅本尊の両脇に、左方には伝教大師像、右方に日蓮聖人像、この勧請様式のもとに、今日の大法要が挙行せられたことである。

比叡山ご当局の英断もあったであろうが、とにもかくにも天台宗総本山の本堂に、日蓮聖人奠定の曼荼羅を掲げ得たこのゆるぎなき事実は、後世必ず歴史的快挙として語りつがれるに相違ない。

昼食ののち、京都門連主催の開宗会が横川定光院で行われた。聖人が住まわれた聖地に有志の多くが移り敬虔なる法要が営まれた。この頃には、さしもの雨も、すでに我等の頭上を通り過ぎていた。

法華経を奉ずる全てのご宗派
ご寺院、お檀家の皆様に！

経本の表装は、緋金と茶金の二種類を用意しています。いずれかをご指定頂き、数量を明記の上官製ハガキでお申し込み下さい。申し込みに応じて順次頒布させて頂きます。なお、導師席―緋金、出座席―茶金のような表装の組み合わせも出来ます。もちろん全席緋金、同茶金でも結構です。―特漉コウゾ紙・特装金襴使用―

妙法蓮華経一部八巻を
ご奉安下さい！



頒価４万円　経本の体裁：タテ22センチ×ヨコ8.5センチ（１巻）

〒146
東京都大田区池上 3-16-9
日蓮宗新聞社
03-755-5271

〔床の間などへの奉安用に
桐箱を用意しております〕



別売１万円

シリーズ 門下御本山巡り 3

法華宗(陣門流)総本山本成寺

日朗聖人から三箇の重宝を授けられた日印聖人が開

かれ中興の祖日陣聖人布教の本拠本成寺を訪れる。

日印聖人により開かる■

法華宗陣門流総本山本成寺は、朗門九鳳の御一人日印聖人が、永仁五年(一二九七)に開かれた。聖人は文永元年(一二六四)越後寺泊に誕生され、文永八年(一二七一)、宗祖の佐渡配流の途次、寺泊の宿にて知遇を蒙り、摩訶一麈の号を授けられた。

のち越後石瀬天台宗青龍寺智観法橋の弟子となり、天台教学の研鑽に励み日印聖人の名は広く知れ渡った。

永仁二年(一二九四)鎌倉に遊学、日朗聖人の門に入り、宗祖の教学の奥義を究められ、摩訶一阿闍梨日印の称号を授けられた。永仁五年(一二九七)日印聖人は、生国越後に宗祖の教えを弘めようと決意され、白牛に乗って、鎌倉から越後に向い旅立った。

旅立ちに際し、この牛が跪いた所を霊地として、霊場を建立しようと発願された。牛の鞍に経典を積み読誦しながら、山や川を越え旅を続けた。越後の国、蒲原郡大藻荘薄曽称(すゝきそね)村にさしかかると、牛が跪づき、牛の伏した跡から、清水が湧き青蓮華が生じたのを眼のあたりにして、ここが念願の霊地であると、庵室を設け、布教の礎とされた。

当地の領主山吉定明は、深く日印聖人の高徳を慕い、広大な土地と一宇を建立して寄進した。青蓮華寺と称した。

翌永仁六年四月八日、浄明夫人が寄進された仏師肥前法橋の手になる一尊四士の御本尊の造立供養が行われた。この御尊像は、門下で最も古く、今尚客殿に尊置され崇められている。正和二年(一三一三)師日朗聖人を初祖に請待し、山門の称号を請われた。日朗聖人は、その志を嘉して、長久山宝塔院本成寺と命名された。

鎌倉幕府は、日蓮門徒を放逐すべく、諸宗の碩学と日蓮の徒を問答対決させ追放を企てていた。鎌倉の日蓮門徒の代表日朗聖人は、七十四歳の高齢のため、日印聖人を越後より召され、問答にあたらしめた。

文保二年(一三一八)十二月二十日、十宗坊と問答し、元応元年(一三一九)には鎌倉幕府執権北条高時が、八月二十三日使者をもって、日印聖人に法義を問うたことからはじまり九月十日迄、何度か出仕して、意とする所を殿中にて言上している。特に禅、律、真言、念仏などの諸宗との宗論での日印聖人の活躍は見事であった。

諸宗兼学の智者、伊羅護律師道目等の学匠列座の中で、法華経と諸経の優劣、真偽につき対論し、数刻に及んだ。日印聖人は、道目を論破し、道目は問答の中でことごとく口を閉ざすという状態であった。

諸宗無得道、法華最勝の論拠を述べられ、居ならぶ人々をして顔色なからしめた。

日朗聖人は、よろこばれ、宗祖から授けられた三箇の重宝を日印聖人に与えられ、三大秘法の正嫡と定められた。翌元応二年(一三二〇)正月、日朗聖人示寂されると、鎌倉に大光山本勝寺を建立し、三箇の重宝を奉持して、本成寺に移り、弘法の根拠地とした。

嘉暦二年(一三二七)本成寺置文を認められ、本成寺が本門三大秘法の根本道場であり、門徒道俗、諸国貴賤は先師の御遺法の旨を、ひとえに守り、本成寺を門下の棟梁とすべき事を定められた。

日陣聖人と本迹勝劣論■

当門流の祖、日陣聖人は中興の祖と仰ぎ、越後瀬波の荘、荒川郷にお生れになり、九歳の折、本成寺代官日龍師に師事剃髪し、門一麈と称し、長じて円光坊日陣と号した。

十八歳の時上洛、本圀寺日静師の学室に入られ、天台の深義と日蓮教学の奥旨を熱心に究められた。三十一歳の時、日静師示寂に遭われ、本成寺を付され、同門の日伝師は本圀寺を付された。

日陣聖人は弘教と弟子の育成に努められた。当時本成寺の境内に坊舎三十余、学寮百余、そこに学ぶ僧侶は五百人を超えていた。日陣聖人は、近隣を始め、東北、関東、東海の各地を巡化教線を拡張された。

本成寺と木圀寺、日陣、日伝両師の関係は「本成・本圀の両寺は水魚、伝陣二師は雲雨の如し」と言われていたが、それぞれに付されて、二十九年を経た応永四年(一三九七)日陣聖人五十九歳、日伝師五十六歳の年、日陣聖人上洛、本圀寺にて説法して本迹勝劣論を展開し、天台宗の教えが正統視され本迹の区別が曖昧になれる気運に対し、これを覚醒せしめ、宗祖の本迹二門の区別を顕示し、正しい本門の信仰を確立せんとされた。

が、日伝師は、本迹一致論を展開し、日陣聖人を論難した。

八年間に亘る論争の末、応永十一年(一四〇四)日伝師は、五十五箇条の難勢を日陣聖人に送った。これを機として、かつての同門の日伝師と永久訣別するに至った日陣聖人は、本勝迹劣の教義こそ、宗祖日蓮大聖人の本懐であるとして、「五十五箇条答文」「本迹同異決」「撰要略記」「撰要見聞」などを著し、その弘通に力を注いだ。

日陣聖人は京都で本勝迹劣の教義の弘通をはかり、応永十三年(一四〇六)四月、四条堀川油小路に一宇を建立、帝都の拠点とした。光了山本禅寺である。

国家安泰の勅願寺■

爾来、法灯相続いて、九世日覚聖人は、後奈良天皇の為に宮中で法華経を講じて、大僧正に任ぜられ、本成寺は国家安泰の勅願寺と定められ、以来朝恩深く、又上杉、徳川、溝口等の帰依を受けるに至った。

特に将軍徳川家光より、慶安元年(一六四八)七月十七日、寺領三百石の御朱印状が下賜された。

時勢の変遷と共に、寺観も変化した。五世日顕師の代には、二十五間四面の本堂となり、根本道場に相応しい大伽藍となった。世運の移り変りにより、兵火等のため数回、灰儘に帰した。

明治二十六年三月、塔頭より出火、飛火一夕にして本堂、客殿、方丈等主要な堂宇を焼失した。幸い宝物等は難を免れたがその再建に二十余年を要し、十八間四面、総欅造りの大本堂が再建された。

次々焼失前以上の堂塔が建立され、その堂々たる七堂伽藍の美しさは、十ヶ院の塔頭と広い境内と相俟って今尚稀に見る巨刹である。



本成寺の山門

宝物と年間行事■

当山には、宗祖、朗、印、陣の御真筆の御曼荼羅、御消息類、「本成寺置文」「本尊造立供養日記」、客殿の「一尊四士の尊像」等の宗宝約百点、天下三双と称される小栗宗丹の屏風を始め三百点の宝物を格護している。

年間行事は、恒例法要として、元朝の年頭祈願会に始り、除夜の鐘迄、三十回の法要を営む。中でも各地より団参で賑うのは五月の祠堂法要と宗祖の御会式である。御会式のお逮夜には、当山独自の声明が厳粛に修される。五年に一度、千部大法要が五月頃執り行われる。

特に当山の節分は近年、全国的に有名となり、日本三大鬼おどりと言われ、赤青黄等五色の鬼が銅羅と法螺貝、太鼓に合せ大暴れして踊り、歳男歳女の豆つぶてで退散する。

宗派を問わず大勢の参詣で賑い、当地名物の行事となっている。



法華宗(陣門流)総本山本成寺

新潟県三条市西本成寺一―一―二〇番
〒995　電話〇二五六三(三二)〇〇〇八
◎上越新幹線燕三条駅より4キロタクシー15分
◎信越線JR東三条駅より4キロタクシー15分
◎信越線JR三条駅より1キロ徒歩15分
◎関越高速道三条燕インターより4キロ車15分

法華宗宗定・総振かな付

妙法蓮華經　全一巻



昭和六十二年二月待望久しかった法華経読誦法の決定版が法華経読法委員会より刊行されました。勤行練経に一人一冊。篤信の檀信徒各ご家庭にも、法華経の信を深め正しく読むために必備の経典です。

◆編纂　法華経読法委員会／編集　法華宗教学部
◆体裁　A5判(二二cm×一六cm)五三六頁
上製本函入り
中性紙使用(永久保存可能)
◆頒布価格　八〇〇〇円

※ご希望の方は、
発行　法華宗(陣門流)宗務院
頒布取扱店　春嶽堂
〒144　東京都大田区仲六郷一―九―一二
TEL　〇三―七三四―四六五四
まで、お申し込み下さい。

総本山本成寺 千部大法要

自昭和六十二年五月廿一日
至昭和六十三年五月廿五日

御歴代法要　世界平和祈願　日月牌回向
納骨寂光殿法要　永代祠堂法要　戦没者追悼法要
米寿表彰　納経法要　入信授戒

法要時間　午前五時半　午前十一時　午後八時(唱題行)
御親修　七十七世　荒井日幹猊下　八十世　猪熊日祥猊下
八十一世　田辺日伸猊下　八十二世　野口日騰猊下「董職」
御開帳　三箇重宝　置文　門下最古一尊四士御像
幌延長応寺什宝
法華経絵曼荼羅八巻

[問合せ]　詳細は本成寺寺務所執事迄。
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇番
電話　〇二五六三(三二)〇〇〇八

暑中御見舞

昭和六十二年盛夏



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三(七五一)七一八一(代)

管　長　金子　日威
宗務総長　長瀬　貫公
宗務副総長　加藤　海晃
綜合企画部長　冨田　義董
庶務部長　神部　錬紳
財務部長　浅井　玄裕

教務部長　米田　淳雄
護法伝道部長　山本　龍雄
現代宗教研究所長　長谷川正徳
参与　豊田　通證
参与　岡田　法順
日蓮宗新聞社社長　豊田　英世

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五(七九一)七一七一

管　長　吉田　日康
宗務総長　河野　時中
宗務次長　山田　信正
財務部長　飯澤　道宣
布教部長　浜田　顕昭
教務部長　平田　浄応
社会部長　因幡　信篤
庶務部長　朝倉　俊幸

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電　話　〇三(九一〇)四七五五

管　長　赤田　日崇
宗務総長　松井　孝純
教学部長　古田　日穏
教化部長　渡辺　修翁
財務部長　中村　宏龍

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三(九一八)七二九〇

管　長　野口　日騰
宗務総長　鈴木　昭吾
総務部長　牧野　琢成
教学部長　土屋　善敬
財務部長　田辺　信治
教化部長　都築　哲信
宗務参事　星川　恒雄

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東堅町二〇番地
電　話　〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX　〇七五(四六四)五五九九

講有　梶本　日裔
講尊　小山　日幹
宗務総長　長谷川日序
宗務副総長　高須　日薫
宗務副総長　大谷　薫
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通採橋上ル法皇寺町四四八
電　話　〇七五(七七一)三三九〇

管　長　嘉儀　日有
関　居　原　日認
宗務総長法務部長　住友　顕一
総務部長教学部長　今村　要道
財務部長　丹治　義順

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電　話　〇七五(四四一)五七六二

管　長　林　日圓
宗務総長　藤井　文英
総務部長　長鎌　泰信
教学部長　吉田　研宏
教化部長　蓑輪　渓玉
社会部長　田中　寛康

財務部長　小西　法明
参与　吉田　勝秀
参与　上田　浩岳
教学主事　岩崎　峻暉
教化主事　笹木　研秀
財務主事　小島　玄城

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電　話　〇七五(四五一)三五二七

管　長　永井　日揮
宗務総長　吉村　信尚
宗務部長　高辺　誠亮
総務部長　信　隆允
財務部長　山下　通雄
教務部長　飯田　信栄
庶務部長　藤井　宏長

宗教法人　国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三(六五六)七一一一(代)

会　長　田中　香浦
理事長　加倉井　清信
副理事長　中平　千三郎

国柱会本部・妙宗大霊廟

講　師　大橋冨士子　必武館副館長　家田　仙次
講　師　大屋　敬吉　会計部長　大屋　統子
講師事務局長　大橋　邦正　組織部長　木村　司
講師法務部長　長井　君夫　総務部長　長瀧　光雄
講師教宣部長教務部長　関口　宏　庶務部長　江口　和敏
秋場　善彌

日本山妙法寺

〒542 大阪市南区南船場一―三―十一
電　話　〇六(二六一)三二二六

首　座　上野　行量

京都日蓮聖人門下連合会

〒600 〈事務所〉京都府京都市下京区中堂寺西寺町一
勝光寺
電　話　〇七五(八一一)三二九五

会　長　沖　日亨
副会長　赤田　日崇
理事長　藤田　尚慈
副理事長　岡沢　海宣



暑中御見舞

昭和62年盛夏

（順不同）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　望月一靖
役職員一同
〒409-25　山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六(二)一〇一一

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　金子日威
〒146　東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三(七五二)二三三一

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　吉田日康
総務　吉永正晴
執事　平田浄應
執事　土持栄孝
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
〒606　京都府京都市岩倉幡枝町九一
電話　〇七五(七九一)七一七一

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　野口日騰
執事長　真保行宣
執事　笹原壮一
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　佐古弘文
〒955　新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　林日圓
執事長　上田浩岳
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事補　笹木研秀
〒602　京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五(四四一)五七六二

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　佐野日紀
執事長　尾崎日忿
〒602　京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五(四五一)三五二一七

日蓮本宗本山
要法寺
貫首　嘉儀日有
関居　原日認
本山執事長　住友顕一
本山執事　今村要道
本山執事　丹治義順
〒606　京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　十九世講有　梶本日裔
事務局長　信徒総代　小倉徳治郎
〒602　京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX　〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　塩田義朗
〒299-55　千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話　〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
執事補　多田妙鳳
〒602　京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話　〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
貫首　水谷日諦
執事長　玉田学雄
〒607　京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話　〇七五(五九三)九一九一

公元一九九一年御開山日像菩薩
第六百五十年遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
貫首　細井日苑
〒602　京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話　〇七五(四六一)六五一一六

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬貫公
参与　関観康
同　小倉俊明
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
〒272　千葉県市川市中山二―十―一
電話　〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602　京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話　〇七五(四四一)七九九七

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
執事　本間正晃
名誉
〒418-01　静岡県富士宮市北山重須
電話　〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　金子光瑩
執事補　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
東京執事　田村宏祐
参与　土屋学周
同　新井智清
同　山田完修
〒606　京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五(七七一)〇五六二

シリーズ 門連の進路をさぐる 3

広宣流布の第一線に立て！

日蓮聖人門下連合会相談役
日蓮宗妙正寺住職
斎藤龍遵



昭和三十八年十一月二十八日、門下各派代表が聖祖御廟所に参集し、門連結成の報告を奉行した。私はこの時ほど感激し捨身弘法の誓願を強く覚えたことはない。

ここで、その当時から二十数年の歳月を経過した今日、現在まで考え続けてきた愚見を述べ、門連の一段の活性化と着実な充実進展に資する処あれば法悦の至りである。

大地を踏みしめ前進を

何事でも発足当初から思考通りにうまく運ぶものではない。必ず段階がある。

私は門連のあり方と成長を、初期（第一期）中期（第二期）後期（円満結成第三期）の三段に分けて考えている。末法万年の広宣流布をめざして。

第一期は産みの苦しみを経て誕生し結成された今日の門連である。時代はすでに青年期に入っている。何時迄も有志または特殊な人のみの集りや懇話、懇談の状態では実のある成長発展は難しいと思う。

即ち、今日現在は、もう中期第二の時代に入って来たと思う。そしてこの中期において一大飛躍をとげなければ、産み落した赤子を養育出来ない親となる謗りをまぬがれない。

門連の終極大目的は、門下連合会規約の「目的と事業」に明示されているように、四海帰妙を顕現すること、この一事である。

檀信徒を打って一丸となし、檀信徒による唱題の大行進があってこそ祖願が成就され、この事はやがて立正安国・世界平和・楽土建設のための全人類の願望につながることでもある。

これなくしては、題目の精神は失なわれるのではあるまいか、第一期の土台より、もう時は第二期に入っている。

第二期構成に入れ

現在、門連各派で考えていることは、全国に各派の支部（地方門連）組織を作ることではあるまいか。

すでにその第一矢として早くから京都地方門連が昭和五十三年に加盟している。そして活発な活動が展開されていることは周知のところ。

全国府県には各派の宗務所、支所支部が設置され、中央との連絡運営に当っている。

それぞれ本化各派の末端との連絡に当っているこの末端組織に働きかける役目を持つ地方門連結成にむけ実動に入る時が、目前に来ているのではあるまいかと思う。

本紙第三号によれば、大阪と福井にその動きがあるとのこと。門連のため広く題目宗団のため意を強くしているが、さらに門連常任理事会で早急に第二期実現のため審議され、速やかなる結成にむかって発動されることを提唱する。そして、全国地方門連が誕生することを熱願する。

このことが実現してこそ後期である第三期に入ることが可能である。

各派の檀信徒を常時動員し、唱題読誦の聖なる声を世界のすみずみまで広め、そして全人類が入信する暁まで死身弘法の精進に邁進しなければならない。

これが、門連の理想である。祖願達成はこれあるのみである。

第三期の花を眺めるために、中期第二期の各地方門連支部の結成に総力を傾けることである。

名目から実質へ

過日五月二十三日、比叡山開創一二〇〇年の記念法要に当り、昨年十一月六日天台宗よりの要請に、門連として対処方が協議され、門連各派信徒一五〇〇人と共に参列した。

雨降りであったが整然と一乗止観院（根本中堂）に端座し、一同題目を声高らかに唱えた。

この一事は各派代表参列者の感激であったろうし、これ正しく第三期に入ったような感すら覚えたのである。

十界本尊曼荼羅と日蓮聖人尊像が安置された根本中堂は題目で塗り変えられた感すらしたのである。

そして第三期実現への第一歩となることを願ったのである。

すでに門連の基礎作りは出来た。

今日、今より第二期実現に推進したい。異体同心にして一定法華経は弘まるとの宗祖の願いを無にしてはならない。

要は名目から実質へ、そして結実への暁を待望するのみである。

地方門連結成準備 担当委員決まる!!

昭和六十二年度・身延理事会開かる

昭和六十二年六月十日、午前十一時より本年度の日蓮聖人門下連合会身延参詣・理事会が開催された。

午前十一時四十分、常唱殿正面にて記念撮影後雨中行列にて御草庵跡へ、法味言上後祖廟に於いて長瀬貫公理事長導師にて法味言上、各派代表焼香、その後大本堂にて法味言上宝物館参観、祖師堂、御真骨堂巡拝水鳴楼にて岩間法主の御挨拶を受けて、新書院にて昼食。

昼食後、比叡山開創一二〇〇年門下連合会主催慶讃法要記録映画観賞、二時三十分より開議、長瀬理事長座長となり、議題に従って議事を進めそれぞれ報告承認決定を行い、午後四時閉会となった。



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・理事会　昭和62年6月10日

報告・承認・決定事項

1、昭和六十一年度会務報告。
とくに比叡山一二〇〇年慶讃法要につき、藤田京門連理事長より詳細な報告がなされた。

2、昭和六十一年度決算報告。

3、昭和六十二年度予算の件。
右案件、別紙のとおり富川幹事より報告、承認された。

4、地方門連結成準備に関する件
右については、大橋常任理事、藤井理事、吉田常任理事より発言あり京都理事会以来懸案の福井、大阪、北海道など地方門下組織との連携推進をはかるため、
福井―藤井文英、吉田勝秀、牧野琢成
大阪―河野時中、吉永正晴、泉沢日湧、大橋邦正
北海道―事務局
それぞれ担当委員が決定した。

5、門連だより刊行に関する件
右については相沢編集委員より説明があり、暑中見舞広告掲載につき依頼の方向で進めることとなった。
尚、第四号より各宗全寺院宛送付の旨、報告がなされた。

62年度予算

〈収入〉
繰越金　一、五〇九、一三四
分担金　八八〇、〇〇〇
理事会会費　三〇〇、〇〇〇
寄附金　一、〇〇〇、〇〇〇
利息収入　五〇、〇〇〇

〈支出〉
理事会費　六〇〇、〇〇〇
交際費　二〇〇、〇〇〇
補助金　七〇〇、〇〇〇
事務局費　三〇〇、〇〇〇
広報費　一、〇〇〇、〇〇〇
地方門連結成準備費　六〇〇、〇〇〇
予備費　三三九、一三四
総計　三、七三九、一三四

尚、京都拡大理事会開催の件につき詳細未定の旨報告のち懇親会開催。

京都十六本山と横川定光院巡拝
日蓮聖人をめぐる京の旅

● 2名様からお申し込みができます。
● JR列車を往復で201km以上ご利用になると、乗車券が2割引になります。
● 宿泊は法華クラブ京都店を利用します。
● 団体（15名以上）のお申し込みには、JR列車の乗車券・料金など各種割引が適用になります。

お問合せ・お申し込みは下記へ　日本旅行

●北海道
釧路（支）0154-23-4455
帯広（支）0155-23-9294
北見（支）0157-23-2228
旭川（支）0166-26-0401
滝川（支）0125-24-7141
岩見沢（支）0126-22-1458
札幌中央（支）011-281-5241
小樽（支）0134-33-4455
苫小牧（支）0144-32-6467
室蘭（支）0143-44-8871
函館（支）0138-23-4201
●東北
青森駅（旅セ）0177-77-3451
八戸（支）0178-44-2241
弘前駅（旅セ）0172-34-4234
盛岡（支）0196-24-5826
秋田駅（旅セ）0188-33-8444
山形駅（旅セ）0236-23-4766
仙台三和ビル（支）022-261-4511
郡山駅（旅セ）0249-34-7711
会津若松駅（旅セ）0242-24-0200
鶴岡（支）0235-22-2238
●関東
池袋（支）03-986-1321
室町（支）03-242-6671
新橋団体（支）03-575-4441
蒲田駅（旅セ）03-733-8154
川崎（支）044-222-0701
横浜（支）045-641-9604
藤沢（支）0466-22-7411
三鷹（支）0422-49-6511
水戸（支）0292-24-6003
栃木（支）0282-23-3223
高崎（支）0273-22-3158
大宮団体（支）0486-66-1155
柏（支）0471-46-2511
千葉（支）0472-27-2307
甲府駅（旅セ）0552-35-5252
●新潟
村上（支）0254-52-5234
佐渡（旅セ）02592-7-5334
新潟古町（支）0252-28-6065
三条（支）0256-32-5162
長岡駅（旅セ）0258-33-2463
直江津駅（旅セ）0255-43-4581
●北陸
富山（支）0764-33-1181
高岡（支）0766-22-6141
金沢（支）0762-62-0411
七尾（支）0767-53-0238
福井（支）0776-22-2736
敦賀（支）0770-22-4472
●中部
沼津（支）0559-62-4631
御殿場（支）0550-2-0419
富士駅（旅セ）0545-61-5262
富士宮（支）0544-26-8125
静岡（支）0542-54-8376
浜松（支）0534-54-4371
長野（支）0262-33-3141
松本（支）0263-32-4619
上田（支）0268-24-7600
飯田（支）0265-22-3911
伊那（支）0265-72-5158
豊橋団体（支）0532-54-3261
名古屋団体（支）052-582-5021
土岐市（支）0572-54-2131
岐阜（支）0582-65-7501
大垣（支）0584-81-1188
●関西
姫路駅（旅セ）0792-81-1067
和歌山駅（旅セ）0734-24-2411
鳥取（支）0857-23-1841
米子（支）0859-33-1811
松江大橋（支）0852-22-0011
浜田（支）08552-2-1729
岡山（支）0862-25-2046
倉敷（支）0846-24-5131
福山（支）0489-23-3513
●四国
徳島（支）0886-22-5547
高松（支）0878-51-4981
丸亀（支）0877-22-4291
伊予三島（支）0896-24-2909
松山（支）0899-45-0815
宇和島（支）0895-22-2642
高知（支）0888-83-1767
●中国
三原（支）0848-62-6131
呉駅（旅セ）0823-22-8111
広島中央（支）082-227-1081
岩国駅（旅セ）0827-22-3211
徳山（支）0834-22-1771
宇部（支）0836-21-2125
山口（支）0839-23-0861
下関駅（旅セ）0832-23-9111
●九州
北九州（支）093-571-0222
福岡団体（支）092-431-7272
久留米（支）0942-33-1546
佐賀（支）0952-24-2218
佐世保（支）0956-23-5238
長崎（支）0958-24-5416
諫早（支）0957-22-3660
熊本（支）096-354-4488
八代（支）0965-33-5717
大分（支）0975-38-1433
延岡（支）0982-33-3432
宮崎（支）0985-24-5255
西鹿児島駅（旅セ）0992-52-2340
沖縄（支）0988-62-3355

パゴダの国ビルマへの旅

世界最大の規模を誇るビルマの歴史と伝説とを秘めた大仏教の遺跡で、まさに仏教芸術の宝庫という言葉そのもののパガン

■旅行費用　358,000円
■出発日　62年 9月25日(金)・10月9日(金)・10月23日(金)・10月30日(金)
11月13日(金)・11月20日(金)・12月4日(金)・12月25日(金)
63年 1月8日(金)・1月22日(金)・2月5日(金)・2月19日(金)
3月4日金・3月18日(金)
■概略行程　（旅行期間7泊8日）
東京～バンコック（泊）～ラングーン（泊）～パガン（二泊）～ラングーン（二泊）～バンコック（泊）～東京
■募集人員　各班とも20名（最低催行人員15名）
■添乗員　全行程に同行します。

●お問合せ・資料請求
ハガキに住所・氏名・年令・電話番号をご明記のうえ、下記へお送り下さい。

㈱日本旅行 室町支店　☎03-242-6671（担当：小倉）
〒103 東京都中央区日本橋1-8-6 室町パインビル
㈱日本旅行 蒲田駅旅行センター　☎03-733-8154（担当：手島）
〒144 東京都大田区蒲田7-68-1 蒲田駅内
※詳しい内容は、パンフレットをご覧ください。

主催：株式会社日本旅行　運輸大臣登録一般旅行業第2号　日本旅行業協会会員

各派・教団 短信



本門佛立宗

◆現講有・佛立第18世本山宥清寺50世住職西村日地上人は、法寿72歳をもって去る5月4日遷化あそばされた。故日地上人の宗門葬は、8月10日に京都西陣の本山宥清寺においてとり行われる。

◆第119回臨時宗会が、7月10日・11日の両日開かれた。席上、「次期本山住職推戴選挙」が行われ、第51世本山住職・佛立第19世講有位に、京都誕生寺住職梶本日裔師が推戴された。講有晋山式は8月1日。

◆佛立宗恒例の海外弘通巡教が、去る6月18日より23日まで、ハワイ別院にて、7月14日から28日まで、ブラジル各寺院へ、団参が行われた。ハワイ別院には163名、ブラジルには68名が参詣した。特にブラジルに於ては、日本に先がけて「佛立開導日扇聖人百回御遠諱」の総修が、19日にサンパウロの最大級なホール・アンニャンビーを会場として、全ブラジル代表三千名が会場をうめつくして盛大に総修法要を営んだ。

◆開導百遠諱記念事業の出版として旺文社より「現代のこころ・本門佛立宗」と、宗門弘通局より「現代宗教はやわかり」が発刊され、宗内外より好評を博している。(深沢泉奥)

日蓮宗

◆1月10日宗務院御用始。

◆1月13日、身延山久遠寺御頭講会。

◆2月18日、日蓮宗本山会於目黒雅叙園「本山めぐり」の復刊、片山日幹師の仏教伝道功労賞受賞祝賀会発起などを決定。

◆3月10日～13日、定期宗会開催、久遠成院日親上人第五百遠忌法要奉行。17日、宗門法要。伝道車布教を展開。(富川孝恭)

国柱会

◆東京・近県の若い婦人が集い、ブリッジサークルを発足、毎月勉強会開催。

◆「真世界運動」展開中、各地で集い、研究会、講習会等を開催。月刊「真世界」誌普及運動も同時進行中。

◆2月7日～8日、身延祖廟輪番給仕を国柱会有志により奉行した。

◆2月11日、札幌市共済ビルホールで開催された第10回建国記念式典で田中香浦会長は「日本の心」と題して記念講演をおこなった。

◆3月8日、国柱会本部にて、高松宮宣仁親王殿下尊儀奉弔法要が厳修された。式後、田中会長より講話。高松宮殿下御成婚にあたり徳川実枝子刀自(高松宮妃殿下御母堂)の発願により田中智学著『仏教夫婦論』が各皇族方に献上されたエピソードなどが述べられた。

◆3月21～22日、国柱会本部で御修業練習儀典研修会開催。会期中、式士任用試験を実施。

◆4月28～29日、第57回国柱会身延登詣団。28日、身延祖廟前で立正会慶讃式典。久遠寺諸堂参観。29日、思親閣登詣。山頂で天長節奉祝式典、両日にわたり団長より記念講演。

◆5月3～5日、国柱会本部で「教学を学ぶつどい」開催。今期中、講師補任用試験実施。(秋場善弥)

顕本法華宗

◆5月26日・27日の二日間にわたり、僧員講習会が総本山妙満寺を会場に開催された。

今年は、教務部、布教部合同企画による講習会で、教学研究所所長古瀬堅徳師の「日什大正師の精神」と題した講話をはじめ、教学研究所員二名の「寺院活動と祖先崇拝の諸問題」「本迹対論用意抄の考察」といったテーマによる研究発表がなされ参加僧員にとって有意義な講習会であった。(朝倉俊幸)

日蓮本宗

◆日蓮本宗本山要法寺(京都市左京区)で五月八日、日蓮本宗管長本山要法寺貫首(第五十一祖)嘉儀日有(かぎにちゆう)上人の管長就任・貫首晋山式が厳修された。日有上人は島根県出雲市の生まれ、五十八歳。

当日は門下連合会理事長、長瀬貫公上人をはじめ京都門連各山貫主上人など多数の来賓のほか約四百人の宗内僧侶、信徒が参列し、五月晴れの中、式は厳かに成満した。

◆同本山要法寺の本堂屋根修復工事がいよいよ始まった。同本山では昨秋から浄財の勧募を進めていたが、資金調達のメドもつき、六月三日に起工式を奉修、明年秋の完工を目指して早速、槌音が響きわたっている施工は松井建設株式会社大阪支店。(柳下義真)

法華宗(真門流)

◆去る昭和六十一年十月、宗法にもとづいて宗会議員の改選が行われ、次の通り決定された。

宗会議長　札幌市日泰寺安井勝仁師
副議長　東大阪市法照寺寺田完英〃
議員　奈良県寛照寺辻本寛孝〃
同　和歌山県妙宣寺舟積研昭〃
同　福井県蓮成寺中西順英〃
同　福井県円明寺斉藤隆彦〃
同　兵庫県妙寿寺左神信学〃
同　兵庫県妙法寺竹内正道〃
同　兵庫県法琳寺上嶋智岳〃
同　姫路市芳蓮寺水野智啓〃
同　小樽市妙源寺林　勝彦〃

◆宗門全教師を対象に第三回教学講習会が六月十九日午前十一時より、総本山本隆寺において開催された。当日は午前の部午後の部とも、管長林日圓猊下を講師に請し、講題「図形本尊」を解説され、教師の資質向上を期して行われる。なお、当日正午、過年度遷化各上人の回向法要を参加全教師により厳修された。(吉田勝秀)

法華宗(陣門流)

◆三宗統合学院学生講座開催される。6月27・28・29日の3日間にわたり、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。

この統合学院は、毎年前後期2回開講され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場で、本年も三宗から多数の青年、学生僧が参加し、講師として法華宗真門流、宗務参与吉田勝秀上人が出講され、「開目鈔」の素読と解釈を中心に、講義をされた。

◆6月23・24日、昭和62年度、三宗統合協議会(顕本・陣門流・真門流)が当宗当番宗のもと、箱根湯本「天成園」を会場に開催。協議事項は一、統合学院学生講座に関する件。二、聖訓カレンダー発行に関する件。三、日蓮門下連合会に関する件。四、統合協議会海外視察に関する件。等以上である。(江坂隆俊)

本門法華宗

◆今年三月の宗会において、任期満了にともなう次期管長の推戴選出が行われ、佐野日紀猊下が新管長に推戴され三月二十六日就任されました。

退任された永井日揮猊下には三期十二年に亘り管長職をつとめられ、多大な功績を残されたことに対して名誉管長に推戴されました。(持地光学)

日本山妙法寺

◆〃核兵器と戦争のない非暴力の世界を築き21世紀に美しい地球を残そう〃をスローガンに「'87平和大行進東京―広島―長崎」を展開中。

東京5月23日出発―広島8月4日到着。広島7月12日出発―長崎8月8日到着。

法華宗(本門流)

◆昭和56年『観心本尊鈔講義・上巻』が出版されて以来、六年間を費やし、このたびその下巻が上梓された。

日蓮聖人が、その副状に「此事當身の大事なり」と仰せられた『本尊鈔』の講義は、故株橋日涌先生(元法華宗興隆学林長)畢生の大著で、著者が昭和59年、本書下巻を執筆中に遷化され、その後は大平宏龍学林教授・株橋祐史学林講師を中心に編集がすすめられた。付録には、先生の講話・論文が収載され、巻末の索引と併せ先生の生前からの指示によるものであり、その目次も御自身で決定されていたものである。

◆海外布教の拠点のひとつであるアメリカ・サンフランシスコの法華宗仏教会が、現在の地に開堂して20周年を迎え、その記念法要が、10月4日奉修される。日本からは、管長赤田日崇本能寺貫首はじめ各大本山貫首、また松井宗務総長ほか内局部長総出仕のもと、団体参詣旅行が企画され、僧俗約60名が二コースに分かれて訪米する。(矢吹慈英)

日蓮聖人門下連合会

●**目的**
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●**事業**
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●**加盟団体**
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん



＊第四号をお届けする。三号新聞をのりこえて発展するのみ。

＊それにしても叡山は雨にたたられた。叡山側の挨拶で「開闢以来の嵐」などと言われたが、雨の原因を追求してみたくもなる。濁れる密教化か。

＊しかし、報恩法要は素晴らしかった。伝教大師への報恩法要がこうして出来た。次は宗祖への門下合同の報恩法要にこのエネルギーを。

＊法華宗陣門流本山本成寺は、新潟県に所在する。訪れる機会には、本紙を参詣の案内にしていただければ幸いである。

＊門連の進路は、相談役の斎藤龍遵師にご登場願った。師のご提案ごもっとも、理事会でもとりあげていただける内容。

田中智学自伝 全10巻　田中智学著　三二〇〇〇円
日本國體の研究　田中智学著　八〇〇〇円
日蓮聖人の宗教　田中香浦著　九八〇円
これからの世界・人間　田中香浦著　一三〇〇円
田中智学（評伝）　田中香浦著　一四〇〇円
日蓮主義の研究　田中香浦著　二〇〇〇円
日蓮聖人（小説）　西川　満著　一三〇〇円
私たちの法華経　田中富士子著　八八〇円

〈新刊〉
▼宗教・教義・人生・生活・社会について108の質問に解答する
正しい宗教Q&A　田中香浦編　一二〇〇円
▼「宗教時代の到来」「ほんとうの宗教」二編からなる入門書
日蓮主義ABC　田中香浦著　六五〇円
▼木像を以て正式の本尊を造立することは出来ないことを論ず
本尊造立私議　田中智学著　一五〇〇円
（展転社・発行　真世界社・取次）

日蓮主義研究〈第11号〉師子王文庫編　八〇〇円
仏教の現代的理解の問題・田中香浦／日蓮聖人の本尊と安心に就いて・片山日幹／「立正安国論」とピューリタニズム・村野宣忠／興尊の精神と思想・伊藤瑞叡

宗教法人　出版部
国柱会　真世界社
東京都江戸川区一之江6―19―18
〒132　☎(03)656―7111
郵便振替　東京5―19556

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

昭和63年８月15日
第５号

大阪日蓮聖人門下懇話会

着々と体制整い 結成目前に迫る！



第１回世話人会（雲雷寺にて）　昭和62年11月16日

遂に矢は発せられた。昭和五十五年四月に門下懇話会が結成された大阪の地において、長らく諸般の事情で活動を休止していた同会が、今般機縁熟し、新しい構想のもとに再構築再出発することになった。今回の快挙は、日蓮聖人門下連合会が聖祖七百遠忌以後強力に進めてきた地方門連結成促進運動の成果、京都につづく連合体としてその行方が大きく注目されている。今年の身延理事会に報告された同会の現状につき概略報告をさせていただくことにしたい。（編集部）

大阪日蓮聖人門下懇和会結成に向けて通知

昨年十一月、日蓮宗大阪市宗務所長伊丹栄彰師より門下各派宛次の文面が発せられた。

大阪日蓮聖人門下懇話会世話人通知。

「合掌秋冷の候、御尊山愈々御隆昌の段、大慶に存じおります。陳者去る昭和五十五年四月二十二日に門下懇話会が結成され、久しく会が開かれず今日に至りましたが、今般地方門下連合組織の拡充をと要望が高まり、大阪における門下連合の組織化も具体的に進める方向づけも必要かと存じます。そこで先に結成されました門下懇話会の世話人会を開き今後のあり方等をご相談申し上げたく法務何かと御多用の御事と存じますが、何卒御出席賜わります様、御案内申し上げます。」

当日（十六日）会場雲雷寺に参集の世話人は日蓮本宗高橋勇夫、法華宗本門流古田日穏、法華宗真門流長鎌泰信、本門法華宗信隆允忠、本門佛立宗川野日安、顕本法華宗吉永正晴、日蓮宗伊丹栄彰・奥邨正寛・三田村宗鳳・藤田文明・有光友信の各師。本会より門下連合会富川孝恭幹事が出席した。

結成時の趣旨を確認し再発足へ向け動き出す

会議は和気靄々の裡に進められ五十五年結成当時の趣旨を再確認し、再発足に向けて関係者世話人が集い、規約等を検討していく方向で合意に達した。

あくる六十三年一月十七日雲雷寺において第二回世話人会が開催された。前回出席者の他、新たに法華宗本門流富岡諦昭、国柱会麻田正廣、本会より並河顕周幹事が出席、規約案を叩台として逐次検討を行なったが全文決定に至らず次回世話人会に持ちこされることとなった。

なお、大阪日蓮聖人門下懇話会結成後の運営について当分の間独自の活動を展開する方針も話し合われた。

五月十二日、第三回世話人会が雲雷寺において開催された。出席は前回出席者の他、法華宗本門流から菅原隆岳師が出席、前回にひきつづき規約案の審議を行なって決定稿とし、結成趣意書を成文印刷でき次第各派が自派寺院に配布し、入会を呼びかけることを取り決め、また第四回世話人会を九月二十七日とし、この日までに入会希望をとりまとめ発足総会へ進むことを申しあわせた。

ちなみに「大阪日蓮聖人門下懇話会結成趣意書」は次のように記されている。

大阪日蓮聖人門下懇話会結成趣意書

過般宗祖七百遠忌を契機に、日蓮聖人門下各派世話人が、大阪における門下有志の集いを持ちたいと会合を重ねて参りました。

大阪には戦前聖祖門下連合会の歴史もあり、又新しい時代の要請に応えて大聖人の精神を地域に大きく昂揚すべき時と考えられます。物によって栄え物によって滅びる日本の世相に思いをいたす時、ともどもに浄仏国土建設の祖訓実現のため、立正安国の旗じるしを高く掲げたいと念願し、発起人一同「大阪日蓮聖人門下懇話会」を結成いたすべく、門下有志各聖の御協賛を衷心よりお願い申上げる次第であります。

昭和六十三年五月十二日

発　起　人

日蓮本宗　高橋勇夫
法華宗真門流　長鎌泰信
　木下恵温
　小西法明
　辻本寛孝
　寺田完英
法華宗陣門流　谷光瑞
法華宗本門流　高橋顕昭
　古田日穏
　富岡諦昭
　伊藤寛城
　大山成海
　菅原隆岳
本門佛立宗　川野日安
本門法華宗　中村日宣
　吉村信尚
　高辺誠亮
　信隆允忠
国柱会　麻田正廣
　川岸弘二
顕本法華宗　吉永正晴
日蓮宗　伊丹栄彰
　奥邨正寛
　三田村宗鳳
　神谷行宏
　藤田文明

なお、懇話会規約（案）はその目的を「本会は日蓮聖人の遺誡を奉じ、異体同心を旨とし、四海帰妙の実現に努力すると共に会員の親睦を図ることを目的とする」とし、その目的達成のため

○日蓮聖人報恩行事
○布教興学に関する事業
○毎年一回会員親睦総会
○その他目的達成のための行事および事業

を掲げている。

役員構成は、理事・理事長・副理事長制で十三名二年交代制（日蓮宗と法華宗との）となっている。

大阪日蓮聖人門下懇話会発足に向け力強く始動をはじめたが、去る六月十日身延山久遠寺において開催された理事会で、顕本法華宗宗務総長吉永正晴師より以上の報告がなされ一層の支援協力体制が確認された。

二十一世紀を目睫にして立正安国の旗印の下に日蓮聖人門下は今こそ大同団結の姿を示さねばならない。

大阪での門下連合気運の昂揚が全国各地に伝播拡張し、門下連合の実益々高まらんことを祈りたい。

挨拶

発展の礎を築き 連帯の輪を

日蓮聖人門下連合会理事長

澁谷　直城



この度、長瀬貫公前理事長の後を受け理事長に御推挙いただきました渋谷直城で御座居ます。門連だより第五号発刊にあたり、暑中御見舞い申し上げます。

日蓮聖人門下連合会の歩みも四半世紀を過ぎ、様々な活動や事業を展開しております。門下連合会の重要性を鑑みる時、積極的に活動に取り組み、成果を挙げなければならないと存じております。

具体的には、「門連だより」の充実、発行部数の拡大等、更に地方門連の組織化と、現在すでに順調に軌道にのりつつあります。門下連合会が将来に向かって発展する礎を一つでも二つでも確実に築いてゆきたいと願っております。門下連合会各派の御理解と御協力の上に立って着実に歩みを進めて行かねばならないと考えております。

本会の目的であります、日蓮聖人の御理想を実現する為に、御題目による連帯の輪を絶やさず将来に向け門下連合会の発展の為、御指導、御助言を賜ります事を御願い申し上げ就任の御挨拶といたします。

従地涌出

＊昨年、五百遠忌をお迎えした日親上人の、あの壮絶な法難を耐えぬいての弘法のご生涯をお偲びするとき、自らを反省し襟を正さねばと痛切に思う。そして、改めて多くの先師方の〈不惜身命〉の護法活動が憶われる。

……我れ身命をおしまず但無上道を惜む……一心に仏を見たてまつらんと欲して自ら身命を惜まず……、成仏のために身命を惜まない、法華経信仰の安心は、これよりほかにない。

人間が命を惜むことは、ほとんど本能的である。不信の人々はいたずらに死を恐れ、愚痴そのままに臨終にあたり醜い形相を示すことが多い。〈命を惜む〉ことからいろいろな失態が生じる。邪見になれば馬鹿にもなる。横着・臆病・詐欺などの罪悪はこの愚痴から出てくる。生活・金銭・我欲・名利などのためには人々は必死になる。これを打ち破らねばならぬ。

たしかに命は人間の財産中第一に貴重な宝だ。その宝を正法のために惜まずに捧げ使用する〈不惜身命護持正法〉することによって成仏できるのである。

正法を護持するには、末法の大導師日蓮聖人のみ教のままに〈如説修行〉することであり、祖願成就をめざして精進していくことである。

……異体同心にして、南無妙法蓮華経と唱うるところを、生死一大事の血脈とはいうなり。しかも今日蓮が弘通するところの所詮これなり。もし然れば広宣流布の大願も協うべきものなり……

正法護持の要は、必ず異体同心の祖訓を体現しなければならない。そして、同心とは、宗徒相互の同心ではなく、日蓮聖人に同心することであることを銘肝しなければならない。（A）



日蓮宗本山本法寺

京都市上京区小川通寺ノ内上ル　〒602 ☎075(441)7997
◎京都駅より市バス「西賀茂車庫」行堀川寺ノ内下車
◎四条大宮より市バス「上賀茂神社」行堀川寺ノ内下車
◎三条京阪より市バス「衣笠」行堀川寺ノ内下車

シリーズ 門下御本山巡り 4

日蓮宗本山本法寺

弘法歳月の久々・法訴度数の多々、その功勲一閻浮提
無双日親上人開基「永代不朽の寶所」本法寺を訪ねる

求道者日親上人

日像上人の帝都弘通によって日蓮教団の教線は大きく変化したといえる。即ち近畿を中心として畿内から瀬戸内海一帯の地方に急速に発展していったのである。そして京都に於ける妙顕寺の勅願を得たことなどをも含めて、貴族、公家の入信外護は権力者の力をかりての宣布に大きな力となったのである。

このような時代に日蓮聖人の入滅より一二六年を経た、応永十四年(一四〇七)日親は下総国埴谷に生まれた。関東武士の血気な性質をそのままに生長したであろう寅菊丸は兄日国と共に妙宣寺日英の門に入ったのであるが、初発心の師日英は程なく没し中山法華経寺五世の日暹に師事し、日親と改名するも二年後には日暹も没し、日蘊に師事したが同年その日蘊も遷化したのである。このように相ついで師匠を失った日親はその後誰によって学んだのであろうか。

当時正中山に一切経はなかったのであろうという学者の説はともかくとして、日常上人以来格護している日蓮聖人の聖教は求道者日親にとってこの上もない指導書であり、次から次へと師を失った日親にとって、御遺文こそは最大の師であった。しかも祖師に直接まみえる感激をもって拝読されたものと思われるのであり、同時に自分こそ真に祖師に直結するものであるとの思いをかりたてたであろうし一生を通じての大きな支えとなったのである。

日親の初発心の師妙宣寺日英の師は正中山第三世の日祐であり十七歳にして正中山の住職となったが、二十歳にして早くも京に上り宗祖の遺文を書写し、爾後四度上洛し、遂に朝廷に諫暁をも行っており厳しい迫害を受けている。この日祐は修行中の日親に霊験によって大きな影響を与え、加えてその行動性がそのまま日親の生涯を通じての布教活動となっているのである。

艱難にみちた宗教実践

日親は日蓮聖人の一生を追体験し、日祐より学んだ行動性をもって、自らの宗教実践としたのであるが、それは彼の二十一歳の春二月八日であった。

『爰に日親法師の修業は、生年二十一歳、応永三十四年丁未の春二月上旬、講肆之門を開きしより以降、星霜八十一年、文明十九年丁未之秋に至るまで六十一廻の烏兎を送る。柳営より華洛に及び、東西に馳走し南北に往返して寺院を建立すること三十有余、公武を諫争すること合せて八箇度、両寺之堂宇を破られては数々見擯出の鏡を磨き、嗷門禁獄之呵責を蒙っては、我不愛身命の金言を扶く、玄風の遠く扇では且く執権謗実之雲霧を巻き、法雨遙かに灑では良に断善不信之枯稿を潤おす、先賢に洎ばずといえども後哲に希なるべきか。中に於いて弘法歳月の久々と法訴度数の多々と両箇の功勲に於いては、一閻浮提無双の行者なり。』

(漢文本法寺縁起)

日親は自らの六十年におよぶ波瀾と艱難にみちた活動の過去をこのように記している。

足利幕府の義教、義勝、義政、義尚と四代に亘って諫暁し続けた日親であったがその行動した処は、悉く法華経弘通の拠点となり、この点と点を結んだ線は大きな輪となったのである。

娑婆即寂光と即身成仏

念仏信仰の彼岸浄土の世界を否定し、現世を常寂光土たらしめるため現世を肯定し、娑婆即寂光と即身成仏を説いた日親の教説は、その行動の中に実証され、獄より放たれて京の町衆の中に姿をあらわした日親は正しく生き仏そのものであった。そして上人の主張された治国利民の願いは洛中の大半を題目の坩堝と化したのである。

日親の法華経至上主義は日蓮聖人以来の正統的なものとして、謗法行為を一点たりとも許さない、純粋にして完全なる不受不施の論を主張しいわば近世の日奥、日樹上人の不受不施の前提となるもので、王侯除外制をとらず完全な不受不施であったのであるが、その為に一切の妥協を排し、自らの権威を確立し、他宗への批判と謗法者に対する闘争は激烈なものであった。彼の『折伏正義抄』の中にも厳しくこれを戒めている。

法華経文化の先駆者

日親の在世は正しく下剋上の時代であった。人間不信の時代に法華経の絶対救済を説き、壮烈な迫害に堪え抜いた上人に対する信頼は絶大なもので、相次ぐ戦乱の中から立ちあがらんとする京の町衆を初めとする民衆達に熱狂的に迎えられたのである。その代表的人物は本阿弥清信であり、一門の人々であった。

文明十九年(一四八七)　日親は本法寺建立の為の勧進を行ったのが前述の本法寺縁起であるが、その翌年その完成を見ずして八十二年の生涯を三条萬里小路の弘通所で閉じたのである。上人の言葉をかりれば正しく永代不朽之寶所としての本法寺の建立は日ならずして洛中に完成したのであった。

日親の言う所の本法寺は後年に至り、本阿弥光悦、長谷川等伯ら芸術家の拠り所となり、町衆文化との抜き難い結合を生んだのであるが、それは室町期のみに限定されたものでなく、近世に継承されたものであって所謂法華経文化と称せられるものであり、光悦の法華信仰によるもの大いなるものがある。そしてそのことは日親の果した日本歴史への役割として大きく評価されるものである。

現在本法寺に格護されている重要文化財二十数点を初め古文書を含めての約三千点に及ぶ宝物は、永い歴史を秘めて、静かに眠りつつ次代への歴史を刻んでいるのである。



本法寺の山門



JTB

JTBのお店はフットワークが軽快です。
団体旅行やイベントのご計画はぜひお近くのJTBのお店へお気軽にご一報ください。ベテランスタッフがすぐにおうかがいします。プランニングや運営のお手伝いはJTBがとりわけ得意とする分野です。

JTBのお店は電話が軽快です。
きっぷや航空券、宿泊のお申し込み、旅のご相談、お問い合わせ…なんでも電話で承っています。お気軽にお電話をください。
(全国の旅館、ホテルのご予約がお近くのJTBに電話1本で完了。お支払いは現地で、カードでOKという便利なシステム「たびがる」もあります。)

旅をもっと楽しくする品揃えも軽快です。
●旅をラクラク実現する旅行券の分割前払いプラン《たびたび》
●トラベル&レジャーカード《YES JTBカード》
●旅のライブ情報ブック《時刻表》&《ガイドブック》
●いい旅を支える《国内旅行総合保険》&《海外旅行傷害保険》
●サインひとつでキャッシュの働き《トラベラーズチェック》

暮しをもっと快適にする品揃えも軽快です。
JTBのお店の人気ギフトアイテム
●旅を贈る《ギフト旅行券》、《ギフト旅館券》、《ギフトホテル券》
●使える便利は贈る便利。デパート共通商品券《ナイスショップ》
●日本と世界の美味を選りすぐって宅配《産地直送便》
応援します、気分のいい生活
●レジャーから暮しまでカバーするJTBの保険《未来星》
●ヨーロッパからキラキラのブランド品を直輸入《ユーポート》
●国内も海外も確かなお手伝い《JTBの引越し》
※ご紹介したJTB店舗のレパートリーは、一部支店ではお取り扱いしていないものもあります。詳しくは、お近くのJTB(日本交通公社)各支店へお問い合わせください。

JTBのお店は旅づくりが軽快です。
レジャーだろうとビジネスだろうと、ひとり旅でもグループ旅行でもハネムーンでも、国内だって海外だって、乗り物、宿、訪問地など自由自在に組み合わせて、あなたのご希望通りの旅づくりをお手伝いします 創業以来76年のノウハウをベースに、旅のプロフェッショナルが皆さまの旅ごころを力強くバックアップします

JTBのお店は旅の品揃えが軽快です。
きっぷや宿泊などの旅のパーツに始まって、国内旅行「エース」、海外旅行「ルック」、「パレット」、「ナヴィ」、海外からのお客様への旅「サンライズツアー」など、主要ブランドのパック旅行をドカッと取り揃えています 旅ごころが芽ぶいたら、お気軽に立ち寄って、ドッサリ揃ったパンフレットハンティングをどうぞ

JTBのお店はインフォメーションが軽快です。
JTBのお店のパワフルなコンピュータシステムはJR、エアライン各社や、全国の旅館、ホテル3,300軒をオンライン 瞬時のご予約やご案内をしています さらに国内300店、海外30都市を結ぶネットワークで、ホットな旅の情報を提供 一歩中へ入ると、あなたの旅ごころをガゼンときめかせる、ライブ情報ショップです

暑中御見舞

昭和六十三年盛夏



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(七五一)七一八一(代)

管長 岩間 日勇
宗務総長 澁谷 直城
宗務副総長 森 恵遠
綜合企画部長 金坂 信章
庶務部長 橋田 文啓
財務部長 伊藤 速雄
教務部長 佐藤 秀旭
護法伝道部長 田中 学貞
現代宗教研究所長 石川 教張
参与 白部 健順
参与 岡田 法順
日蓮宗新聞社社長 頂岳 龍乗

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(九一八)七九九四

管長 小西 日靜
宗務総長 松井 孝純
教学部長 古田 日穏
庶務部長 渡辺 修翁
教化部長 大橋 周光
財務部長 中村 宏龍

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長 古瀬 日宇
宗務総長 吉永 正晴
宗務次長 山田 信正
財務部長 飯澤 道宣
布教部長 山本 学人
教務部長 平田 浄応
社会部長 田島 敏義
庶務部長 島田 幸晴

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(九一八)七二九〇
FAX 〇三(五七六)〇一二一

管長 野口 日騰
宗務総長 牧野 琢成
総務部長 土屋 善敬
教学部長 都築 哲信
教化部長 金原 戒雄
財務部長 江坂 隆俊

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 梶本 日裔
講尊 小山 日幹
宗務総長 長谷川 日序
宗務副総長 高須 日薫
宗務副総長 大谷 薫
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

管長 嘉儀 日有
宗務総長 住友 顕一
総務部長 丹治 義順
財務部長
法務部長 今村 要道
教学部長

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二

管長 林 日圓
財務部長 小西 法明
宗務総長 吉田 研宏
総務部長 長鎌 泰信
教学部長 上嶋 智岳
教化部長 左神 信学
社会部長 蓑輪 渓玉
参与 吉田 勝秀
参与 上田 浩岳
教学主事 小島 玄城
教化主事 岩崎 峻暉
財務主事 笹木 研秀

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 佐野 日紀
宗務総長 吉村 信尚
宗務部長 高辺 誠亮
財務部長 山下 通雄
総務部長 信隆 允忠
教務部長 飯田 信栄
庶務部長 藤井 宏長
門連常任理事 木村 光紹

宗教法人 国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(六五六)七一一一(代)

会長 田中 香浦
理事長 加倉井 清信
副理事長 中平 千三郎
国柱会本部・妙宗大霊廟
講師 大橋冨士子
講師 大屋 敬吉
講師事務局長 大橋 邦正
講師法務部長 長井 君夫
講師教宣部長 関口 宏
講師教務部長 秋場 善彌
必武館副館長 家田 仙次
会計部長 大屋 統子
組織部長 木村 司
総務部長 長瀧 光雄
庶務部長 江口 和敏
事務局次長 新山 信男

日本山妙法寺

〒542 大阪市南区南船場一―三一―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野 行量

京都日蓮聖人門下連合会

〈事務所〉
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通五辻上ル
是好院
電話 〇七五(四五一)八九九〇

会長 林 日圓
副会長 沖 日亨
理事長 上田 浩岳
副理事長 藤田 尚慈

「門連だより」に期待する！

異体同心実現に

門連撃鼓宣令を全世界に



常任理事　石山　善邦
（日本山妙法寺）

門連発足当時より、山主・藤井日達上人、首座・丸山行遼上人は海外巡錫のため、留守居の私が御言葉により代理出席し、いつのまにか皆様の末席をけがしております。

御存知の様に、私どもは小教団ですが一門挙げて海外に出ており、私も年に何度か出かけ、せっかく企画された会合にも欠席多く、申訳けなく思っておりまして、ここに御詫び申上げる次第でございます。

恩師日達上人は百一歳の御年まで世界各地を廻られましたが、父母の孝養心に足らずと、御母上御遷化の地熱海に帰られては、御給仕される事が唯一の静養ともなり、ついに御自分も熱海にて遷化されました。

日本の仏法南無妙法蓮華経を西天印度に還来帰家せしめる大誓願が果されるや、その功徳は世界をゆり動かして、一閻浮提に広宣流布し、東湧西没の時代となると宣言され、御弟子も海外に送り出されました。

異国の地で乏しい財布の紐を締めパン屑や野菜屑をいただきながら、お題目を高らかに唱えて只お太鼓を撃ち行脚いたします。青い目の異人さんに判るはずはなくても、せめて飢えて倒れる迄と覚悟した二人三人の僧尼の回りは、いつしか暖い理解の人垣で護られて、御飯を御宿をと御供養に預り、その集団は十人百人万人となって歩きます。「先頭の御旗は何ですか」「南無妙法蓮華経です」「御唱えして祀りますから書いて下さい」と乞われます。解説説法なくとも自ら通じて皆信受して頂きます。

先年の正月、池上に参詣された御師匠様は、金子猊下に各宗青年僧の海外行脚を提案され熱い期待を寄せられていました。

今こそ一閻浮提広宣流布の時となりました。

次々と行く日本内外への門連撃鼓宣令とともに、ただ歩くことこそ私の大きな夢であり、その機関紙通信欄を飾ることもまた私の小さな夢であります。

合掌

祖廟参詣を中心に門下の協同、親和を念願して連合体を作って毎年身延、京都と会合を重ねて勉強をさせて頂きました。多くの〝他山の石〟の譬え、見学を重ねて、厚く御礼を申し上げる次第です。

時には門連不用との意見もちょっと感じたのでありますが、この門連だよりの刊行、近日は各方面の地方門連の小廻りの結成もできつつある状態にて昭和六十三年度の祝福すべき姿と有難く感ずる次第です。

身近に結集して協議し、合同し協力してなすべき点、学ぶべき点、改革すべき事を得る事ができれば幸盡です。そのためには小廻り会合、地方門連会合の結成を念願します。門下連合の出版物、学生の留学、交換迄できれば各門下の内助の功にも成り得ると思われる次第です。

最近、門連は風もなく、なぎたる潮に船出して居る様な状態で、有難い次第ですが居〻治不〻忘〻乱、易繫辞に君子安而不〻忘〻危と申します様に合議、連携して前進したいものです。

当宗も開導百諱を昭和六十四年に相当し報恩謝徳のご奉公に精進させて頂いて居ります。先日、愛生園六清会の招きを受け、挨拶の中に御指南を拝して自分も努力して居ります。強く生きる事を念じています。

〝清風は今六十三歳なれども神通力故増益寿命して常住不滅の金剛身を得たり、六根清浄也。これも両祖のおかげにて釈尊行因下種の本法を信心口唱し、御門流繁栄を祈り奉れる故に候御褒美に候也あらうれしやあらうれしや〟

明治十三年十月三十日　御花押

地域門連のアドバイザーたれ



常任理事　上田　浩岳
（京都門連）

暑中お見舞申し上げます。〝門連だより〟が継続発刊されることはまことによろこばしいことと思います。

編集委員の皆様方のご苦労はお察しいたします。各宗派教団は、各自の機関紙をもっておりましょうが、門下全般にわたるのは、本紙だけですから、それだけ期待もかかるし責任も大きいといえましょう。同じ法華経の信者、お題目を唱えるもの同志、日連門下といっても全国的規模となるとニーズを把握するのは至難なことでしょう。

ところで第四号に地区連合会の結成を促す記事がありました。私共の先輩諸聖は三十五、六年前にいち早く京都に門下連合会を発足させました。

現在でも二月十六日の降誕会、四月下旬の立教開宗会、八月下旬の夏期大学、十月初旬の連合御会式は四大行事として継続開催されていますが、発足当時からみれば運営にたずさわる方々の顔ぶれも相当かわっております。結成に奔走された方々からみれば現状は必ずしも満足すべき状態ではないかもしれません。それでも三十有余年継続してきたエネルギーは何だろうか、広宣流布にかけた熱い想い、これが永続きの原動力でしょうが、もう一つ見過すことのできないことがあります。それは十六本山の存在です。簡単に言えば、十六本山と日蓮宗京都宗務所の連合体が京門連だということ、事業を立案、実行していく過程で不協和音が生じそうな事柄がでてくると、不都合な部分を各御本山が呑み込んでしまうことがあります。個人会員間ではなかなかできないことです。この作用が京門連永続きの特効薬ではないでしょうか、地方に結成を促がす門連にこの作用をする機関が見つかるかどうか？私はこんな風に思いますのでこの〝門連だより〟がよきアドバイザーとしてご活躍いただけたらと思います。

地方門連会の結成を念願す



常任理事　泉沢　清仁
（本門佛立宗）

日蓮聖人門下連合会も二十周年の歳月を経過して、長い時の流れの中には先聖方の思い出のお顔が浮び出て参ります。

小生門連の常任理事を宗内の事情から内局の更迭に関わらず御奉公して参りました。それも健康をお与え下さった仏恩に御礼を申上げる次第です。長い間、門連各先輩諸師の御教導を頂き、門連高祖七百回御遠諱に際しては合同して記念事業を行い色々と後世に残る思い出もありました。

祖廟参詣を中心に門下の協同、親和を念願して連合体を作って毎年身延、京都と会合を重ねて勉強をさせて頂きました。多くの〝他山の石〟の譬え、見学を重ねて、厚く御礼を申し上げる次第です。

時には門連不用との意見もちょっと感じたのでありますが、この門連だよりの刊行、近日は各方面の地方門連の小廻りの結成もできつつある状態にて昭和六十三年度の祝福すべき姿と有難く感ずる次第です。

身近に結集して協議し、合同し協力してなすべき点、学ぶべき点、改革すべき事を得る事ができれば幸盡です。そのためには小廻り会合、地方門連会合の結成を念願します。門下連合の出版物、学生の留学、交換迄できれば各門下の内助の功にも成り得ると思われる次第です。

最近、門連は風もなく、なぎたる潮に船出して居る様な状態で、有難い次第ですが居〻治不〻忘〻乱、易繫辞に君子安而不〻忘〻危と申します様に合議、連携して前進したいものです。

当宗も開導百諱を昭和六十四年に相当し報恩謝徳のご奉公に精進させて頂いて居ります。先日、愛生園六清会の招きを受け、挨拶の中に御指南を拝して自分も努力して居ります。強く生きる事を念じています。

〝清風は今六十三歳なれども神通力故増益寿命して常住不滅の金剛身を得たり、六根清浄也。これも両祖のおかげにて釈尊行因下種の本法を信心口唱し、御門流繁栄を祈り奉れる故に候御褒美に候也あらうれしやあらうれしや〟

明治十三年十月三十日　御花押

祖廟輪番奉仕の実現に向って



常任理事　大橋　邦正
（国柱会）

さる昭和四十年に日蓮宗ならびに身延山は、御門下各教団のかねてからの願望をいれて、身延山祖廟輪番に関する宗制を改め、ひろく連合会所属教団の、自由な奉仕に門をひらいた。それは御門下各派が各派の法義によって奉行するという、歴史的な祖廟輪番奉仕の制が布かれたことにほかならない。

私ども国柱会はその年の四月、田中会長以下全国会員の代表による身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団を組織し、門下連合会の先陣を承わり全御門下を代表しての意義のもとに、三晩四日連続して祖廟まじかに常唱題のお給仕を奉行した。爾来毎年恒例として昨秋第二十三回を奉行するに至った。

日蓮聖人門下連合会規約の第三条に目的として掲げられる「…祖廟を中心として…」の文字は、門連活動の基本理念であり、原点であることはいうまでもない。報恩謝徳の至誠を捧げ奉る祖廟輪番奉仕は、給仕第一の祖訓のもと、御門下にとってまたとない絶好の修行の場である。西谷の祖廟間近かに親しく唱題給仕する感激は、御門下ならば理屈抜きに筆舌につくせぬ法悦を感得するであろう。

聖祖を閻浮の一聖と仰ぎ、久遠の父と渇仰帰敬すべき大祖廟に、門連御門下が祖廟中心の本旨にもとづき輪番給仕を奉行するとき、その意義たるや異体同心の祖訓を奉じ、立正安国の祖願達成に如同することにほかならない。

いまや聖祖につらなる唯一の門下連合会に所属する各御門流が、足並を揃えて報本反始、真に異体同心して実践する祖廟輪番給仕の実現が、切実に待たれてならないのである。

急がれる協力体制の充実



常任理事　金坂　信章
（日蓮宗）

暑中お見舞い申し上げます。

昨年八月常任理事に就任致し、現在事務局を預からせていただいております。

門下連合会も発足以来本年で二十八年を迎え、年々様々な活動を展開してきたと存じます。とくに「門連だより」の刊行は、門下各派の全寺院にも配布されており、門下全寺院が一体となり大聖人の理想を実現するための重要な活動事業だと確信しております。

また、本年は地方門連の組織化を積極的に推進していきたいと存じます。そのためにも門下各派の御理解、御協力を得た上で、「門連だより」を有効な推進手段のひとつにしたいと考えております。地方には組織化の素地は十分にあります。あとは協力体制の充実化だと存じます。

門下連合会が益々発展をとげるために、今後共微力を傾ける所存でありますので、御支援御助力をよろしくお願い申し上げます。

小異を捨てずに



常任理事　木村　光紹
（法華宗本門流）

本門法華宗では、戦前、五大本山が東朝西隆の精神で、それぞれ独自の歴史と伝統を尊重し信仰と教学を同じくする限り、法水一如、人法互通の宗門運営がなされていました。

昭和十六年三月、法華宗・本妙法華宗・本門法華宗の三宗合同により法華宗（陣門流）（真門流）（本門流）となり、異体同心に宗運の興隆を図る。戦後、その法華宗から昭和二十一年に、本門仏立講が分派独立、教団の中の教団という宿命として当然の推移でした。昭和二十五年、宗教法人法改正公布に伴い、一宗の政治権力の干渉を嫌う有志が法華宗（本門流）より、旧名本門法華宗に復元、それぞれの根本道場たる本山中心の信仰、法水一如、人法互通の民主的運営を標榜し、当時、不安定であった寺族の保護等をいち早く保証して、妙蓮寺に結集いたしました。

公器としての運営面に経験が浅く実績も乏しいために、新しい秩序を求め、試行錯誤の時期もございました。農地解放、都市寺院の戦災復興等、寺族が路頭に迷い薄氷を踏む現実を、非情な権力から守るための苦心でした。

時移り宗祖七百遠忌を迎えるに当り、祖廟中心の信仰を理念とする門下連合会に、後発教団ながら中村弘通総長（現貫首）、佐野日紀執事長（現管長）、持地信行理事（閑士）らが積極的な意義を理解し、その励ましにより「青年の船」の企画には慎重に対処して、小教団なりに協力し、勝劣各教団と共に、日蓮宗を中心に寺院教会数を按分比例して割当て、動員計画を裏づける知恵を出し合い、大いなる成果を残しました。

門下の信頼は、各派の政策的伝統を尊重して、小異を捨てずに大同につく努力と勇気に尽きるものと考察いたします。財政事情も違い、門下連合の消長も、この点に係わっているので、とかく閉鎖的になりがちな弱小グループに配慮をお願いいたします。

最近、三派（顕本・陣門・真門）連絡協議会より、オブザーバーとしての参加を呼びかけていただきました。その朗報が宗会にも報告され、前向きに好意に応える準備をはじめました。公開に値する資料も不足し、後発教団として経験の浅い本宗とし

（五面につづく）

（四面より）

て子弟の育成など寒心に耐えない不安を抱え、弘宣流布のための宗教情報等、共同歩調が適えられるなら、独立以来、捨て切れなかったある種の弱さ、迷いを転じて、門下の教線拡張にも役立つことができることと確信いたします。

「門連だより」の編集には「青年の船」当時の実行委員諸士が、各派の代表として参加され、友情の絆を深めつつ立正安国の御理想実現に精魂を込め英知を高めておられます。

明日の仏国土の希望を担う諸兄が、更に一歩の日常の精進を心より期待いたしております。

教化宣伝の羅針盤に

常任理事　牧野　琢成

（法華宗陣門流）



門下連合会が結成発足してよりかなりの年月がたつのに、合同の機関紙がなく不思議に思って居りましたが、ここ数年、年二回程ですが「門連だより」が発行され、各宗選出の編集委員により、充実した内容の論説、報道、動向等が提供されて、いろいろ参考にさせて頂いて居りましたが、今回第五号発刊に向けて努力されると聞き喜ばしい事と思って居ります。

門下連合会加盟の各宗はそれぞれの歴史、伝統、教義等を持ち、それを踏まえて、永年にわたって日蓮大聖人の御理想実現のために努力邁進し、特色ある教化宣伝、教育修行を行って来たのであります。

しかし時代が経過し、社会人心が複雑多岐になってくると、その対応も様々になり、一宗派のみの行動では、対処がむつかしくなって参りました。ここに門下連合会結成の意義もあるかと存じますが、年数回の会合ではありますが、傘下各宗がそれぞれの行動、実績、悩み等を論議し、長所を取り短所を補って、各種の問題に対しても、より高度な一歩前進した対応行動がとれるのではないかと思います。「門連だより」によって、各宗派の大は大なりの、小は小なりの特色ある行動、実績を各寺院各僧侶にまで報知して頂けたら、布教宣伝の一つの指針ともなり、その前進活発化に大いに益するものであると思います。

編集委員各位の今後ますますの御活躍を心から願うものであります。

きめ細かな配慮を切望す

常任理事　松井　孝純

（法華宗本門流）



日蓮宗の宗内事情により停滞していた「門連だより」刊行問題が早期に解決したことに敬意を表す。

しかし先日のこと、宗内のある会合で「法華宗（本門流）」は日蓮宗の一派であると書かれた本を提示して、このようなことを書く著者に強く抗議をしてくれと云われた。また身延の祖廟護持ということが門連規約にうたわれているが、法華宗（本門流）がいつ頃から日蓮宗の傘下にはいってしまったのか、その理由を強く問われた。

これらの抗議や詰問に類する多くのわが宗内の声を一身に浴びながらのため門連が必要であり事業の拡大が叫ばれるという者もある。

門連事業の盛大への努力、拡張への精進に御苦労なさっている方々に心から敬謝する一人であるが、門連加盟宗団の理事である私のようなものが困惑しないような配慮を望んでやまない。

またこのような拙文をも躊躇せず門連だよりに掲載する勇気に期待するものである。

結束の輪を拡げるために

常任理事　柳下　義真

（日蓮本宗）



暑中お見舞申し上げます。

顧みますと昭和五十六年聖祖第七百御遠忌における種々の報恩記念事業が大きな成果を得られることができましたのは、門下連合会加盟各派の総力が結集したゆえんでもありました。しかしながら記念事業における各教団への経費負担の過重が、遠忌以後しばらくは門連活動も小休止したいという思いが宗門の中にあったことは否めません。その後、門連結成二十五周年を記念して機関紙「日蓮聖人門連だより」の刊行が決定されましたことは、そういう流れを払拭するということからみて意義深く、今後の門連の活動に大きな期待が寄せられました。

その後順調に四号まで発行されましたが、諸般の事情により休刊のやむなきに至りました。その間編集委員は常に連絡を密にとり合い結束を固めて参りました。

これは先に実施されました「青年の船」によって培われた信頼の賜と云えます。

この度ようやく五号が発行される運びとなりましたが、今後発行を重ねていく中で、さらにこの結束の輪が機関紙を通じて拡がることを期待いたします。

私自身、門連の常任理事に就任致しましたのは、つい最近のことであり、引き続いて「門連だより」の編集委員という職まで担当致しておりますが、これは吾が宗門の事情によるものであり、若輩、浅学、菲才な身でいかほどのお役に立ちますかと危惧致しておりますが、諸先輩各聖のご指導、ご鞭撻を仰ぎ、微力ながら尽力する次第です。

門連だよりの発展を祈る

常任理事　吉田　研宏

（法華宗真門流）



近頃、読んで楽しいな、と思うもの一つに「門連だより」がある。

高祖大聖人七百御遠忌を中心に行った種々の事業、行事等を終えた後これと云う事業目的もなく過ぎて来た門連であるが、「門連だより」なる文書交流の場に接した事は、ほのぼのとした喜びを感じている。

門下各派各流派、いづれも法華経を信奉し、お題目を唱える事には、いささかも変らないが、教義、信条に於いて多少なりとも異なる関係上大合同には至らず、連合組織として交流している。

然し、お互を知ったり、知られたりする事は大変よい事である。相手を知らないが為に、大変な迷惑をかけたり、事によれば大事にまで発展する事がある。お互に相手を知らなければならない。知る事によって和が持てると思う。知る方策の一つとして、本紙を大いに活用させて頂く事がよいのではないかと思っている。

宗門のニュース、又、各寺院の行事、或は、教区、グループ等の会合など、常日頃、余り交流のない各派各地の様子、布教の在り方、その成果等を知る上に於いて、何よりの交流の場であると思う。

積極的に利用して頂きより楽しい「門連だより」に充実して行く事を期待する次第である。

親睦和融し広宣流布に全力を傾注せよ

常任理事　吉永　正晴

（顕本法華宗）



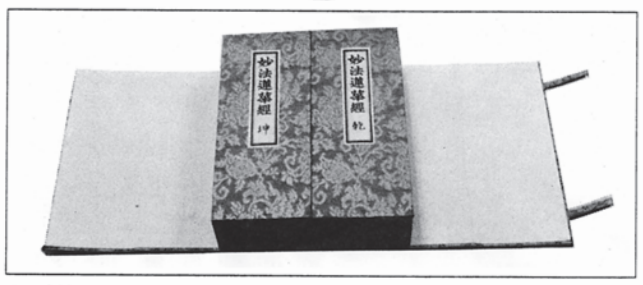
日蓮大聖人第七百遠忌以後これといった行事もなく、その中で身延理事会、祖廟参拝、京都理事会、懇親会と、事業として唯一の本紙の発行がある。暫く途切れて心配された本紙がこうして立派に発行されたことは誠に喜ばしく、関係者編集委員の御尽力に感謝すると共に、永続と発展充実を心から祈ります。

それにつけても気になるのが祖廟参拝の淋しさであります。昭和三十年に先般遷化された金子猊下を理事長として祖廟に参拝、本会結成を奉告して以来、近年の恒例行事となったが、本年の参加理事十三名、異体同心の祖願に申し訳ない思いであります。もちろん往古より一致だ勝劣だと反撥反感をつのらせ、根の残っているきらい無きにしも非ずと言えますが、私達門下の中心は大聖人の外にはありません。宗派教団にはそれぞれ強固な固有の教義心情があり、それを持出せば同心など吹飛んでしまいます。全日仏など謗法の固りであり、この門連だとて同穴となります。かって御遠忌共同事業の聖人劇等の協力を求めるため或る教団に行った時のこと、「我々はお題目を唱えはするが、日蓮聖人とは関係はない」と一蹴された事があります。門連はこれに異なり大聖人を中心として妙法広布に力を合せる所に目的があり存在意義があります。お互いが尊重し合い認め合って、三本の矢の譬ではないが、大聖人を中心に協力して広宣流布に努める、そのためには日常の親睦和融が大きな力となるのではないでしょうか。

法華経を信奉する皆様におすすめします。

妙法蓮華経　付本　をご奉安下さい

乾坤二巻本



寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm×高さ５cm(1巻)　装禎：茶金

好評頒布中！

６寸の八巻本、乾坤(けんこん)二巻本、要品の各種お経本ができました。ご寺院様の経席にご安置頂くことをおすすめします。

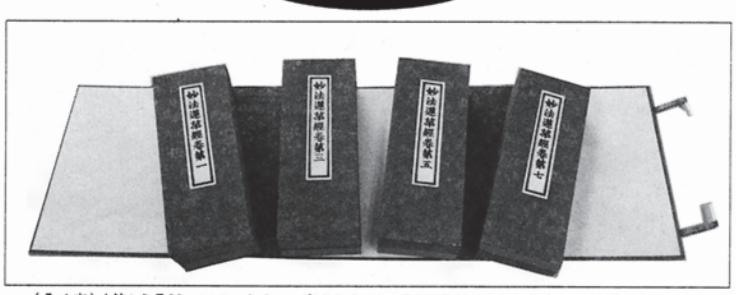
■頒価　●八巻本　３万５千円(8寸本もあります。頒価4万円)　●乾坤二巻本　２万円

●要品　５千円(寸法：タテ17.5cm×ヨコ7.5cm

装禎：金襴、同帙つき)　※各経本とも特漉コウゾ紙・特製金襴を使用しています。

日蓮宗新聞社　〒146 東京都大田区池上3-16-9 電話 03(755)5271

八巻本



(八寸本)寸法：タテ22cm×ヨコ8.5cm×高さ2.5cm(１巻)　装禎：緋金と茶金の２種類あり、同帙つき

(六寸本)寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm×高さ2.5cm(１巻)　装禎：緋金と茶金の２種類あり、同帙つき



暑中御見舞

昭和63年盛夏

（順不同）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(二)一〇一一
法主 岩間日勇
総務 望月一靖
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(七五二)三三三一
貫首 田中日淳

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 古瀬日宇
総務 山田信正
執事 平田浄應
執事 土持栄孝
執事 三坂岳應
執事 津村乗信

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
貫首 野口日騰
執事長 真保行宣
執事 笹原壮一
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 古弘文

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
貫主 林日圓
執事長 上田浩岳
執事 小島玄城
執事 岩崎峻暉
執事補 笹木研秀

本門法華宗
大本山妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二一七
貫首 中村日宣
執事長 松下日肆
役職員一同

日蓮本宗
本山要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
貫首 嘉儀日有
執事長 住友顕一
執事 丹治義順
執事 今村要道

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職 十九世講有 梶本日裔
事務局長 信徒総代 小倉徳治郎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八
貫首 沖日亨
執事長 本山本土寺貫首 山田一光
執事 原光司

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一
貫首 水谷日諦
執事長 玉田学雄

日蓮宗大本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
貫首 片山日幹
執事長 田中慈潮
執事 本間正晃

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 塩田義朗

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首 沖日亨
執事長 本山本土寺貫首 山田一光
執事 原光司

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山寛成

公元一九八五年十月十三日
開山日像菩薩御遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話 〇七五(四六一)六五一一六
貫主 細井日苑

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首 長瀬日還
参与 関観康
同 小倉俊明
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
執事長 渡辺行俊

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首 金子光瑩
参与 土屋学周
同 新井智清
同 山田完修
執事補 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
東京執事 田村宏祐

シリーズ 門連の進路をさぐる 4

統一閣と統合問題をめぐって

日蓮聖人門下連合会相談役
日蓮宗妙経寺住職
山口智光



京都・身延理事会報告

―地方門連・機関紙の充実に向け熱心に討議行わる―

昭和62年度京都
昭和63年度身延

四箇格言問題を契機に門下統合の声

「開顕統一」の旗じるしを高く掲げて統一閣が誕生したのは、明治四十五年四月の事で、小学生だった自分も盛大な落成式を見ることが出来ました。

東京の繁華街、浅草と上野の中間で電車通りに面しているので地の利も良く、毎日曜には日蓮主義講演が開かれ、殊に本多日生上人の出講の時は超満員という有様でした。二階には広い講義室もあり、外観といい、帝都弘通の中心道場として偉彩を放つ建築でした。

四箇格言の問題を契機として、全国的に日蓮主義勃興の機運を盛り上げられた本多日生上人の大獅子吼は先に統一団の結成となり、天晴会の活動を見るに至った。

その会員となった宗門人や有識者の中から沸き起った門下統合の声は、具体化が進んで、大正三年十一月八日の池上大会の宣言となり、翌年三月には規約の制定となった。参加の教団は、日蓮宗、日蓮正宗、本門宗、本門法華宗、本妙法華宗、顕本法華宗の六教団であり、六月二十日には日本橋倶楽部で盛大な統合成立発表会が行なわれた。

ところが翌年になり、日蓮宗と法華宗とが入れ替り、勝劣六教団が結束して学校合同の実現を見ることとなり、中学部は三ツ沢に、大学部は白山の統合宗学林となったのである。

立正安国の実現に向って大師号降諡

第一次世界大戦が終わると、国際状勢は一変し、思想界は混乱した。法国冥合、立正安国の御理想を実現すべき秋なりと、本多日生上人は「日蓮聖人大師号降諡」を企画され、門下各派の管長と東郷伯爵以下軍部政界の巨頭十八名の連署を以て、請願書を宮内大臣に呈出され、十月十日には早くも諡号宣下の通牒があり、同十三日には麻布水交社で宣下奉戴式が行なわれた。更に十一月六日には奉祝大会が、上野自治会館で盛大に行なわれた。

これらの運動の根拠地となったのは統一閣であった。その統一閣が姿を変えて、日蓮宗宗務院となった。昭和四十年の事である。

京都理事会開かる

昭和六十二年度日蓮聖人門下連合会京都理事会は、十一月二十五日午後一時より日蓮宗本山本法寺を会場に行われた。

当日は門連加盟各団体から三五名参加し、種々討議を行い、その後嵐山に席を移し懇親の夕べがもたれた。

正午受付開始、午後一時より本法寺貫首金山寛成猊下導師のもと法味言上。法要後記念撮影。引続き本法寺所蔵宝物拝観。午後二時四十分より開議。報告・承認・決定事項と議事はすすめられた。

報告事項として、㈠上半期事業報告（祖廟参詣・理事会六月十日。比叡山開創千二百年慶讃法要五月二十三日。門連だより第四号八月一日。人事関係。遷化。その他）がなされ承認決定事項として、㈡理事長推選の件（昭和六十二年十月十四日の常任理事会にて日蓮宗の渋谷直城師が新理事長に互選された旨の報告をうけ決定）、および㈢顧問推選の件（渋谷理事長より、前理事長長瀬貫公師を推選する旨の提案があり、全員賛成にて決定）㈣地方門連結成に関する件（大阪、福井両地の代表者が参加して経過報告）が行われた。

尚、当日本法寺宝物拝観ののち、本法寺貫首金山寛成猊下より宝物の紹介をかねて記念講演があった。本法寺所蔵の数多い宝物の中、日蓮聖人ご真筆の大曼荼羅はじめ貴重な宝物類に接し、法悦はとどまるところをしらなかった。

祖廟参詣・身延理事会

昭和六十三年度恒例の祖廟参詣・身延理事会は六月十日挙行された。

午前十一時五十五分常唱殿より唱題行列にて御草庵跡へ参進、法味言上ののち祖廟において渋谷理事長導師にて法味言上、並びに各派代表焼香、その後大本堂にて法味言上、宝物館参観、祖師堂にて法味言上。水鳴楼にて岩間管長のご挨拶をうけ、新書院にて昼食。

昼食後、午後二時十五分より開議、渋谷理事長座長となり議題に従って議事を進め、それぞれ報告承認決定を行い、午後三時四十分閉会。

◎報告、承認、決定事項

1、昭和62年度事業報告
○昭和62年6月10日、祖廟参詣理事会。参加16名、決算・予算承認。
○昭和62年11月25日、京都拡大理事会。
○「日蓮聖人門連だより」第四号発刊報告。

2、昭和62年度決算報告
右は承認。

3、昭和63年度予算の件
右は承認。

4、地方門連結成準備に関する件
右については吉永、泉沢、大橋各常任理事、藤井理事等より報告発言あり、「大阪日蓮聖人門下懇話会」が9月27日に結成大会準備会開催を予定している旨報告がなされた。

尚、問題点として全門連と地方門連の間に上下関係のイメージがあること。福井では宗派により寺院数の差があり、それにより門連結成への動きが遅れていることなど提起された。

5、門連だより刊行に関する件
右については大橋常任理事より第五号遅延につき説明があり、今後新たに富川幹事を日蓮宗の編集委員として活動再開の旨報告がなされた。

以上

＊山口智光師の貴重な回顧談は、読む者に深い感銘を与える。門下連合の動きは、今に始まったわけではなく、明治、大正、昭和とつづいて心ある先師がたの共通の願いであった。過去を知り、その上で未来を語ることこそ必要なことであろう。（編集部）



日蓮聖人門下連合会　京都理事会　S62.11.25　於・本法寺



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・理事会　S63.6.10

田中智学先生第50回忌報恩記念事業

田中智学の世界展

◉明治、大正、昭和の三代にわたって、近代仏教の先覚者として活躍し、各界に大きな影響を与えた田中智学先生の多彩な軌跡をたどります。五十回忌のこの年、その生涯を回顧し、歴史の大きな変動期を迎えた今日、改めて田中智学先生に迫りその意味を探ります。

会期　9月2日(金)～7日(水)
午前10時～午後6時30分

会場　東急百貨店　日本橋店
7Fグランドホール

田中智学の世界展記念講演と狂言の会

日時　9月3日(土)午後4時開演

会場　ヤマハホール（東京・銀座）

講演　「近代日本と田中智学」
講師　評論家　村松　剛　先生

狂言　田中智学先生作「今様宗論（いまようしゅうろん）」
出演　大蔵流　山本東次郎　師ほか一門

――いずれも入場無料――

主催　産経新聞社　田中智学の世界展実行委員会
後援　フジテレビ　ニッポン放送　サンケイスポーツ
夕刊フジ　日蓮聖人門下連合会

ぜひご来場ください。案内箋ご希望の方は
◉国柱会本部　〒132　東京都江戸川区一之江6―19―18
03(656)7111までご一報下さい。

記念出版

◉報恩記念事業として『田中智学先生の思い出』『田中智学先生の碑』『田中智学の少年時代』『天下は愚に亡ぶ（田中智学語録）』等を逐次刊行。『日蓮主義研究』13号（発売中）、同14号、月刊『真世界』9月号は、特集号として発刊します。

発行・発売　真世界社　東京都江戸川区一之江6―19―18
03(656)7111

各派・教団 短信

法華宗本門流

◆3月29日南海の孤島口永良部島に金剛院日増上人開教五百年を記念し遺徳顕彰碑が建立され、慶讃法要を奉修した。当日は、管長小西日静猊下(本興寺貫首)、本能寺赤田日崇貫首、松井宗務総長はじめ多くの僧俗が渡島し、廃仏毀釈以来絶えた島の復興に着手した。

◆沼津市大本山光長寺では、4月5日、開山同時二祖日春・日法両聖人御正当法要にあわせて、第七十三世の法燈を継承された久保木日秀上人の御晋山奉告の祝典が、参集した多くの僧俗と関係者の祝福のうち、盛大に奉修された。

◆4月1日付を以て、内局員の一部異動があった。宗務総長が兼任し空席となっていた庶務部長に渡辺修翁師(東金市沼田教会担任)が教化部長より転進、その後任に大橋周光師(山梨県妙法寺住職)が就任した。

◆任期満了により全国十三教区の宗務所長の改選が行われ、4月1日付就任した新たな顔ぶれで5月25～26の両日、東京ガーデンパレスにおいて昭和63年度宗務所長会が開催された。尚、これに先がけ5月17・18日、第37次定期宗会が同会場において開催された。(矢吹慈英)

本門佛立宗

◆本門佛立宗開導の師、日扇聖人百回御遠諱を明年にひかえて、本年5月の盛岡を皮切りに、別修大法要が全国各地で奉修されている。

別修大法要は、各地域ブロックごとにまとまって、それぞれの都市にあるイベントホールを借り、三千から一万名近い信徒が集って、御講有日裔上人をお迎えして厳そかに営まれるもの。

◆宗門全体が「開導百遠諱報恩御奉公」に燃え、各部局で次々と報恩御奉公の企画が実行されつつある。

特別局では、日扇聖人のご一代記を映画にまとめようと、製作を新藤兼人氏ひきいる「近代映画協会」に依頼し、新藤氏自ら監修。「風の門」(仮題)と題する撮影が現在すすめられている。

企画室と広報局では『ほんものの教えを求める人へ』(展転社)・『現代のこころ・本門佛立宗』(旺文社)を市販し、内部的には、東京乗泉寺教務部から『泉日恒先生著作集(全10巻)』と第五宗務支庁修学塾教員団から『門祖日隆聖人・原文対照読み下し・五帖抄』が刊行される。

◆本年9月をもって現宗務役員の任期が満了するのにともない次期宗務総長に宇都宮・常照寺の井上日慶上人が選ばれた。(深沢泉奥)

日蓮宗

◆昭和62年12月10日、日蓮聖人門下連合会初代理事長・日蓮宗管長金子日威猊下御遷化。世寿82歳。本葬儀は3月4日、日蓮宗宗務院、立正大学、池上本門寺三者合同により池上本門寺に於て厳修。宗内外僧俗、門下連合会各派、仏教界等多数の方々が遺徳を偲び参列された。

◆奈良市油阪町蓮長寺が宗祖御遊学の霊地として5月11日付宗門史跡に指定された。同寺の指定は霊跡由緒寺院審議会の答申にもとずき宗門が行ったもの。

◆6月3日、新潟県柏崎市妙行寺所属番神堂が、宗祖着岸の霊地として宗門史跡に指定された。同地は光日房御書にも記されており、文永11年3月、佐渡配流を赦された日蓮聖人が、寺泊へ向かう途中流されて着岸された霊地。

◆6月16・17両日、福岡市日蓮聖人銅像護持教会場に、全国布教師会連合会代表者会議開催。田中伝道部長が「63年度布教方針」について解説、お題目総弘通運動の取り組み等につき討議を行った。

◆祖廟輪番三十周年宗門法要奉行。去る7月1日久遠寺において六老僧の故事にのっとり岩間法主猊下より渋谷宗務総長に委嘱、宗門要路50名余りが参列した。

◆日蓮宗、日米青少年交流アメリカ研修旅行(7月21日～8月11日・22日間)に青年男女15名が出発した。一行はポートランドルイスアンドクラーク大学で語学およびスポーツ研修を一週間、観光をまじえてサンノゼ妙覚寺別院へ、ヨセミテ、オークランドを経てシアトル北米開教区教団大会に出席の後、ホノルル、ハワイ別院、妙法寺参拝の後帰国した。

◆第41回日蓮教学研究発表大会が来る10月21・22日、熊本県本妙寺を会場に開催される。本年は一妙院日導上人第二百回忌に相当するため、上人ゆかりの本妙寺が会場となった。(富川孝恭)

国柱会

◆田中智学先生第50回忌報恩記念事業推進中。9月2～7日、東急デパート日本橋店で開催の「田中智学の世界展」(産経新聞社主催)実行委員会が度々もたれ、諸準備進行中。

◆毎月第一日曜日の明治神宮参拝は2月より参拝後「代々木の杜の集い」としてあたらしく発足。

◆2月27～28日、第24回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。

◆3月から田中智学先生五十回忌記念特別講習会が各地方連合局で開催。

◆3月20日、妙宗大霊廟創建六十周年記念大会。4月10日同記念申孝園桜まつり。

◆4月28～29の二日間第58回身延登詣団。28日大祖廟前で立正会慶讃式典、久遠寺参観。29日思想閣登詣。山頂で天長節奉祝式典。天皇陛下宝算八十八を寿ぎ記念植樹。

◆6月20日、日韓仏教交流協議会総会にて田中香浦会長「信仰と祈禱」のテーマで公演。(秋場善弥)

顕本法華宗

◆海外布教所完成。顕本法華宗が、数年来準備を進めてきた南米ブラジルの布教所建設は、現地信徒の熱意と信仰により見事完成した。去る7月24日、宗門より古瀬日宇管長猊下を団長として、吉永正晴宗務総長をはじめ宗門要職の諸聖、特に開堂法要に花を添えるべく顕青会雅楽僧の代表者、並びに一般参加の篤信者を含めた一行20余名、および現地信徒多数参列のもとサンパウロ郊外に新築なったブラジル顕本教会開堂落慶法要が盛大に奉修された。

◆本宗では、以前ハワイや韓国等に教会が開設され、熱烈な布教伝道が展開されていた。戦後の混乱により各教会は閉鎖され、その再開が切望されていた。今回開堂なったブラジル顕本教会建設に至る背景には、現地信徒の中心として陣頭指揮にあたったブラジル布教所会長永田義功僧正をはじめ多数信徒の顕本法華宗の正義を護持し新道場建設をというたゆまぬ努力があった。折しも昭和66年、御開山日什大正師第六百遠忌に向け、御報恩事業として多くの課題を克服、挙宗一致で予算化もはかられ、現地信徒の熱烈な努力と相和して完成の喜びの時を迎えた。

◆今後、このブラジル顕本教会が海外布教の拠点となり、大きな成果をあげることであろう。(朝倉俊幸)

日蓮本宗

◆本山要法寺の本堂大屋根修復工事は、62年6月に着工以来順調に進み、63年7月現在、瓦工事も終了して最終段階に入り、予定どおり15ヵ月の全工程を終えて8月に完工する。

◆同本山では、本堂屋根修復に続き開山日尊上人をまつる「開山堂」の屋根修復も実施することとなり、本年9月3日に起工式を奉修する予定。

◆同本山の第四十祖日貫上人の第百遠忌を記念して『明治維新の教傑・日貫上人』が出版された。日貫上人は明治維新の激動期、「神道国教政策」の中で仏教界が大混乱に陥ったとき、教団の新時代への覚醒と新体制づくりに当られ、要法寺のみならず「日蓮宗興門派」初代管長として日蓮聖人門下の近代史に大きな足跡を残された。本書は、同本山元貫首(第四十九祖)原日認上人の執筆である。(柳下義真)

法華宗真門流

◆総本山本隆寺開創五〇〇年慶讃大法令を4月8日から3日間盛大に厳修円成した。全国門末檀信徒、およそ五〇〇〇名があい集い、報恩と新たなる弘法の決意、そして、感激の唱題という一大絵巻であった。ことに、本隆寺と仏縁の深い後柏原天皇・明正天皇・明治天皇「三天皇」の追福法要奉修に際し、宮内庁へ「内申書」を提出し、宮内庁では、徳川侍従長より、天皇陛下に奏上。恭くも天皇陛下より格別の思召を以て、御供「御菓子」を下賜された。これらすべてが、宗門史に燦然と輝いた。開創五百年を節目に、天皇陛下の御恩徳と、高祖大聖人・御開祖の御慈悲に沿い奉るべく、僧俗一体となり、宗門の発展と仏国土顕現に決意を新たにしている。

◆去る4月23日より5日間、福井県鯖江市、本山平等会寺を会場に布教師養成所が開かれた。一期三年間にわたって、言説布教全般を研修するもので、五分間法話、高座説教の指導、法華経譬話と日常の話題との関連などを研鑽した。ことに今年は最終年度のため、およそ50名の聴聞参詣者を前に布教実践を行なった。

◆宗門青年僧による親睦ソフトボール大会が5月20日、姫路城南球場で行なわれた。今年で12回を重ね福井方面から福真会・京都大阪方面から興隆会・地元兵庫方面からは妙雲会の3チーム総勢40名参加。リーグ戦の結果、興隆会が6度目の栄冠を手中におさめた。(吉田勝秀)

法華宗陣門流

◆『総本山本成寺千部大法要』盛況の5日間。5月21～25日総本山本成寺では開山以来、約5年ごとに一回絶えることなく千部大法要を厳修している。日程は21日陣師講、御歴代法要、22日永代祠堂、納骨特別法要、奥書院落成法要、23日戦没者追悼法要、世界平和、交通安全祈願、24日米寿表彰、納経法要、25日寂光殿特別法要、授戒、各日とも全国門末寺院よりの団参が本山に訪れ、盛況の5日間であった。また記念事業として、御仏間、御宝蔵、書院等建設された。

◆三宗統合学院学生講座開催される。6月18～20日の3日間、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後期2回開講され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場である。顕本法華宗、教学研究所長窪田哲城上人が講義をされた。(江坂隆俊)

本門法華宗

◆大本山妙蓮寺で去る62年10月12日、貫首晋山式が厳修され、中村日宣上人が大本山妙蓮寺第九十七世の法燈を継承された。中村日宣新貫首は奈良県大和郡山市本門寺の住職に在り、宗門において宗務総長を三期務められ、現在本門法華宗学院の学院長。当日は好天に恵まれ宗内外の各上人をはじめ、立正大学同期の宮崎英修先生ほか多数の来賓、信徒が参列し盛大に晋山の儀が執り行なわれた。

◆大本山妙蓮寺執事長に11月1日付をもって松下日肆上人(塔頭堅樹院)が任命された。

◆本門法華宗学院では11月25～27日の3日間宗内教師を対象とする研修会が東京浄風寺(宮内日穏住職)において開催された。今回は特別講師として宗外から、身延山短大宮崎英修、立正大学北川前肇両先生を迎え講義を賜り有意義な研修会であった。(持地光学)

日本山妙法寺

◆88原水爆禁止・原子力発電禁止、広島平和合宿(8／3～8／6)

◆88長崎平和祈念行脚(8／8～8／9)各地において平和行進を実施中。

京都門連

◆御降誕会。2月16日当番本山本隆寺にて法要。導師総本山本隆寺貫主林日圓猊下、法話、日蓮宗本山立本寺貫首細井友晋猊下「成・住・壊・空の四劫について」

◆立教開宗会。4月27日比叡山大講堂にて法要。導師総本山本隆寺貫主林日圓猊下、法話、京都門連理事林錬昭上人「日蓮聖人よりいただいた私のお題目をあなたに」

◆7月6日、主伴会開催(京都十六本山貫首、執事長交歓会)。昭和66年の像師御遠忌に像門流本山を中心に記念になる催しの企画につき話し合われた。

◆夏期大学。8月29日本能寺会館において。講師総本山本隆寺貫主林日圓猊下「法華経と日蓮聖人に学ぶ」。立正大学教授勝呂信静先生「法華経の基本的思想」。関西大学教授網干善教先生「祇園精舎の発掘跡の調査—その意義と成果—」。

◆連合御会式。10月5日唱題行進の後、当番本山にて報恩法要奉行予定。(上田浩岳)

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

＊暑中御見舞申し上げます。

＊第一面は大阪地区の門下連合運動の報告。いずれ結成大会の模様も詳報できるであろう。

＊門連常任理事各師より本紙への熱い期待を記していただいた。各師違った切り込み、共通の期待は重く肩にのしかかる。

＊「門連の進路」は山口智光師に登場ねがった。師は現在体調をくずしておられるが、門下統合に寄せる思いは後学の徒の大きな力である。

＊短信は報道量が多く、一部割愛せざるを得なかった。各門流の宗紋宗章もまとめていずれご紹介したい。

＊暑中見舞い広告、一般広告にご協力いただいた関係各位に厚く御礼を申し上げたい。

日蓮聖人門連だより

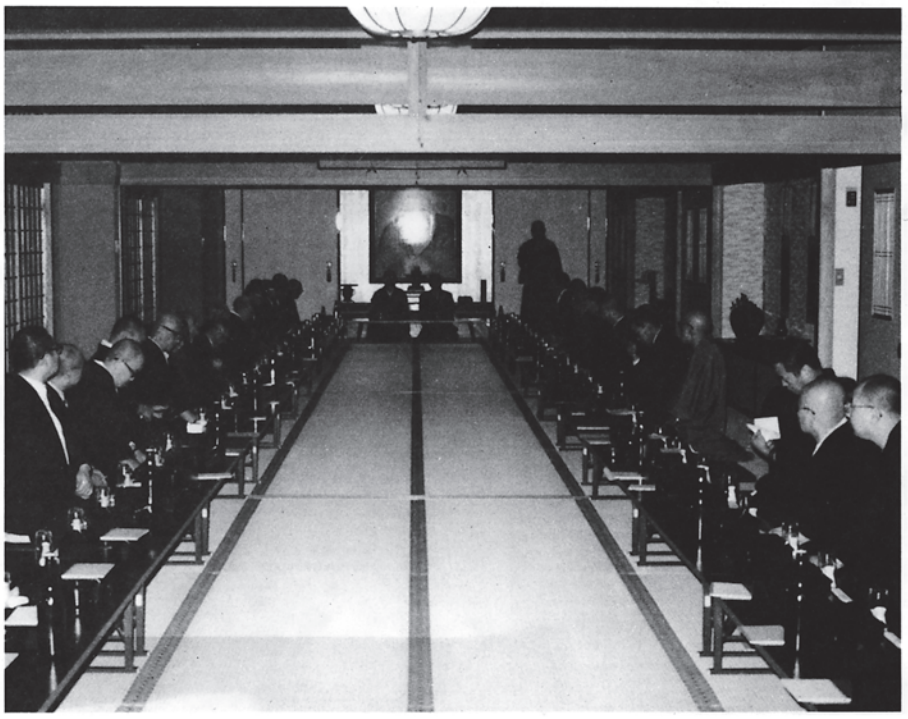
発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成元年１月15日
第６号

大阪日蓮聖人門下懇話会発足!!

十二月十一日、盛大に結成式挙行
今後の活動に全国の注目集まる

前号で予告した「大阪日蓮聖人門下懇話会」の結成式が去る十二月十一日、日蓮宗雲雷寺を会場に挙行された。今回の快挙はかねてより動き出していた同地での門下連合の集大成であり、京都についで実現した地区門連の第二弾である。ここに当日のもようを詳細に紹介し、同行讃美にかえたい。



懇親会（於：日蓮宗雲雷寺客殿）

結成式の受付は十二月十一日午後三時半より開始。会場である日蓮宗雲雷寺の山門前に「大阪日蓮聖人門下懇話会」の立看板が立てられ人目を引いた。

午後四時、定刻となり、法華宗真門流長鎌泰信師の司会で開会。まず法味言上が行われ、会場である雲雷寺の住職伊丹栄彰師が導師をつとめられた。

その後、議事の進行に移るに先だち、座長選出があり、司会より指名の形で全員の賛同を得、日蓮本宗の高橋勇夫師が座長に就任。議事は進行された。

まず経過報告が、世話人代表、顕本法華宗の吉永正晴師より行われ、今日の結成を見るに至った概略報告がなされた。

前号にも紹介があるように、大阪地区での連合の動きは昭和五十五年に始まり、七百年遠忌を機にいろいろな合同事業を経験し、全国門連の方針に沿い、今般ようやく結成にこぎつけることができた旨の報告。この報告には苦労のあとがしのばれ、今後の運動に向けての力強い決意表明も併せて行われた。

ついで、会則審議に入り、世話人会で検討され、作成された「大阪日蓮聖人門下懇話会規約案」が上提され、一同の拍手をもって承認。以下にその規約全文を紹介しておきたい。



伊丹栄彰理事長



吉永正晴副理事長

大阪日蓮聖人門下懇話会規約

第一条　本会は大阪日蓮聖人門下懇話会と称し、事務所を理事長在住の寺院におく。

第二条　本会は日蓮聖人門下有志をもって組織する。

第三条　本会は日蓮聖人の遺誡を奉じ、異体同心を旨とし、四海帰妙の実現に努力すると共に、会員の親睦をはかることを目的とす。

第四条　本会は前条の目的を達成するため、次の行事及び事業を行う。

イ、日蓮聖人報恩行事
ロ、布教興学に関する事業
ハ、毎年一回会員親睦総会
ニ、その他目的達成のための行事及び事業

第五条　本会に次の役員を置き、任期は二ケ年とし、補欠により就任した者の任期は、前任者の残任期間とする。

理事長一名　副理事長一名
理事若干名（十三名）会計一名

第六条　理事長、副理事長は、日蓮宗側法華宗側夫々の理事の互選により二年交代に就任する。理事は、日蓮宗より五名、法華宗各派より八名選出する。会計は、理事長が任命する。

第七条　理事長は、本会を代表し、会務を執行する。副理事長は、理事長を補佐し、事故ある時これに代る。理事は、理事会を構成し、理事長の招集により会務を決する。会計は、会計及び会務を司る。

第八条　本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもって充てる。会費は、年額千円とする。

第九条　会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第十条　この規約の変更は、理事会の三分の二以上の同意を得、総会の承認を得なければならない。

第十一条　この規約は、昭和六十三年十二月十一日より施行する。

以上

採択された規約にもとづき新役員の選出が行われ、

理事長　伊丹栄彰（日蓮宗）
副理事長吉永正晴（顕本法華宗）
理事　奥邨正寛（日蓮宗）
同　神谷行宏（日蓮宗）
同　藤田文明（日蓮宗）
同　三田村宗鳳（日蓮宗）
同　高橋勇夫（日蓮本宗）
同　長鎌泰信（法華宗真門流）
同　門谷光瑞（法華宗陣門流）
同　菅原隆岳（法華宗本門流）
同　川野日安（本門佛立宗）
同　信隆允忠（本門法華宗）
同　麻田正廣（国柱会）
会計　有光友信（日蓮宗）

の諸師が選出され、その重責を果たすべく就任。

新役員の就任にともない、役員を代表して理事長の伊丹栄彰師より挨拶。淡々とした口調の中に、自らのおかれた使命の重大なることにもふれ、今後の決意表明とも言うべき挨拶であった。

新理事長の挨拶を受ける格好で、当日下阪された全国門連理事長澁谷直城師より祝辞が述べられ、午後四時五十分、無事結成式の審議はつくされ終了した。

ついで会場を同寺の客殿に移し、懇親会。

法華宗本門流の古田日穏師の発声で乾盃、和気靄々の中に懇親の夕は続き、途中出席者それぞれ立ち自己紹介、日蓮聖人門下有志打ちそろい今後の連合体発展に向け尽力する旨の決意表明、信解発表がつづけられたのである。

懇親会場正面に奉掲された日蓮聖人画像を中心にして、門下連合、異体同心の真の交りが完成するべくその意義ある一歩を印し、声高らかに門下懇話会発展の万歳を三唱し会は果てたのであった。

年頭挨拶

日蓮聖人門下連合会理事長　**澁谷　直城**

大行天皇の崩御に接し、各聖各位と共に、至心合掌、追悼の誠を捧げ、御尊霊の菩提増進をお祈りいたしたいと存じます。

昨年十二月十一日には大阪日蓮聖人門下懇話会発会式が大阪雲雷寺に於て執り行われ、和気堂に充つる中、めでたく発会に至りました事は門下連合の将来にとって誠に明るい出来ごとと拝し、関係各位の御努力と篤き護法の志に対しまして衷心より合掌申上げる次第であります。

一方北海道札幌を中心として準備世話人会なども開かれているとの報告を受けておりますが、この大いなる結束の気運が各地に伝播拡張し、第二、第三の懇話会、連合会の誕生を願ってやみません。

さて「門連だより」も本号をもって六号を数え、門下各派各聖の貴重な御意見御提言の場、情報の提供等々、その果す任務は重且つ大なるものがあると存じ、一層の紙面充実を期待いたします。

〝門連の進路をさぐる〟シリーズでは門連相談役各聖から意義深き御提言をいたゞきましたが、先師先聖が開拓せられました門下連合の結束をよりゆるぎなきものとし、更に発展への道をさぐることが私共の任務であると存じております。

来年は門連結成三十周年に相当し本年はその準備企画を中心として、門連発展に連動する真に意義ある三十周年に向け力を尽す所存であります。

何卒門下各派各聖の御力添えを御願い申上げ、御挨拶といたします。

従地涌出

歴史的に戊辰の年は、社会大乱激動の年であると言われるが、正しく前年六十三年は、日本社会世相全般にわたりその様相顕著であった。

そして新春早々、昭和天皇裕仁陛下が崩御され、日本国民にとって悲しい年の幕開けとなった。元号も『昭和』から『平成』へと改元され、新たな時代の一歩が記された。

昭和の六十余年は、日本史上稀にみる激動の日々で大事件、戦争、波瀾の数々は枚挙にいとまがない。

その『昭和』も終焉を迎え、見直しが必然的に求められている。

しかし、その時の流れに常に、我々日本人の支柱として、社会国家の安泰と人々の幸福を願い、終始無私公平を心がけ、産業文化の発展と国際親善に務められ、平和の保持を熱望されたのが、天皇陛下である。

天皇制、戦争責任のあり方など、諸々の立場に多少論議の余地はあろうが、その間、長期にわたる在位年数の過程、平和国家の建設と社会復興に尽され、日本の安定に大きく寄与された陛下の存在と、そのお人柄と事績を通じて「昭和」という時代を見つめ直すことは我々にとり大切であろう。

戦後の日本は経済的発展の面においては他の追随を許さず、繁栄の極に達し、我々はその恩恵を満喫している。

反面、家庭の崩壊、教育の荒廃、政治の腐敗、宗教界の混濁、自然破壊等々山積する課題は多い。

これらの諸問題を克服せねば、未来は開かれない。今こそ日蓮聖人の「立正安国」の本願を問い直す時であろう

（A記）

シリーズ門下御本山巡り　5

大本山光長寺（法華宗本門流）

日法・日春両聖人の出会いは岡宮に法華の法灯を点す。

宗祖日蓮大聖人御舎利奉安の霊場光長寺を訪れる。


昭和大本堂〈昭和41年落成〉

法華宗（本門流）大本山光長寺

静岡県沼津市岡宮1055 〒410 ☎0559－21－0484
ＪＲ東海道新幹線「三島駅」より車で15分
ＪＲ東海道本線「沼津駅」より車で15分
東名高速道路「沼津インター」より５分

法華宗（本門流）は、伝統の異なる四つの本山（光長寺・鷲山寺・本能寺・本興寺）が、唯一「法」によって、すなわち宗祖日蓮大聖人の本義たる「本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経」を口唱信行することによって、宗門を形成している。これを宗門では「一味法水」と称している。

＊

さて、来たる平成二年一月五日は、大本山光長寺同時二祖日法聖人第六百五十遠忌にあたる。昭和五十六年の宗祖日蓮大聖人七百遠忌、昭和六十年の門祖日隆聖人生誕六百年に引き続き、法華宗はまた、輝かしい飛躍の聖年を迎えようとしている。

光長寺と日春・日法聖人

日蓮大聖人が甲駿地方を教化されたのは、文永年間といわれ、次第にこの地方にも題目の法声が拡っていった。大聖人の多くのお弟子の中で上足六老僧に次ぐ、中老僧のひとり和泉阿闍梨日法聖人は、身延山にあって終始御師匠様の給仕と行学二道に励んでおられ、さらには布教活動にも大きな功績をあげられた。建治二年（一二七六）日法聖人は、富士愛鷹地方に布教されたとき、岡宮の天台寺院に赴き、天台僧空存はその教説にうたれ、天台宗を捨て法華宗に帰依した。空存は日法聖人の弟子にと願ったが、日法聖人の勧めで大聖人の門に入り、日春と名を賜った。日法聖人は日春聖人と協力して彼の地を教化せよとの師命により、同年精舎を建立し、岡宮の地に法華の法灯が点った。初めて本堂が建立されたのは、延慶四年（一三一一）で、日春聖人が願主となり、日法聖人の俗名徳永光長を寺号として、徳永山光長寺と命名した。以来光長寺は、大聖人を開創初祖に仰ぎ日春・日法両聖人を同時二祖としている。

日春聖人は日法聖人の教化を受けて改宗したが、当時日法聖人は十八歳。日春聖人はかつて天台宗にあって二位法印の位、日法聖人より二十八年も年長の四十六歳の高僧。教化した日法聖人も偉かったが、教えの勝劣を知ると遙か若年の日法聖人に帰依した日春聖人もまた素晴らしい方であった。

日蓮大聖人は、この日春聖人を直弟として直筆の御本尊を授与され、光長寺の興隆を諭されている。日法聖人は教え子である日春聖人を兄として立て協力している。日春聖人が応長元年（一三一一）八十一歳で遷化されてから第三十三回忌追善のため日法聖人は板曼荼羅を刻している。この板曼荼羅は、現在河口湖畔妙本寺の寺宝として格護されているが、これを拝するとき日法聖人の先輩法友を思う真情がしみじみと伝わってくるような御本尊である。

日蓮大聖人の御舎利を感得

弘安五年十月十三日、法華経の中で本仏の嘱を受け、末法における法華経弘通のため大小の法難を忍受し、その使命を果たされた日蓮大聖人は武州池上において世寿六十一歳を以て入滅された。御遺体は池上邸の東藪において荼毘にふされたが、それを宰領したのが日法聖人である。お骨あげが済んで人々が去った後もなお去り難く、日法聖人は唯一人唱題しながらその跡を潔めているとき聖者のみに見られる大聖人の御舎利数顆粒を感得せられた。日法聖人は、早速小さな五輪塔を彫ってその中に御舎利を収め、御生前の御師匠大聖人に給仕するごとく肌身離さず奉持しておられた。五輪塔の箱には「本門日蓮大聖人御舎利　弘安十月十三日武州池上東藪」とあり、これは現在光長寺に伝わる霊宝の一つである。

彫刻の名手　日法聖人

日法聖人といえば、だれでも彫刻の名手だと思い浮べる。国宝の池上本門寺の宗祖像をはじめ、有名な御尊像はみな日法聖人作といわれるほどである。

光長寺の霊宝のひとつに、高さ十数センチの小さな宗祖像があり、恐らく生身の大聖人に給仕するごとく日法聖人が御舎利とともに奉持されていたものと思われる。大聖人開眼供養の後に日法聖人は修正を思い立ち、手を加えたところ、清血が流れたと伝えられるところから、「血流れ祖師像」とも称されている。

二十八紙大曼荼羅と御宝物

光長寺の御宝物は、歴代先師の護法愛山の護念により、幾度かの火厄に遭遇しながらも多くの宝物を護り伝えている。先述の宗祖御尊像・宗祖御舎利のほか特筆すべきものに宗祖御真筆二十八紙大曼荼羅がある。この御本尊は、弘安元年十一月二十一日に御図顕されたもので、世に「楊柳（ヤナギ）の曼荼羅」と称されている。甲州小立村の信者二十八人の請により、二十八枚の紙を継ぎ、柳の枝を筆に仕立て、講頭藤大夫日長等にお授けになったもので、現存する宗祖御真筆の中で最大（二四七〇×一二五四）のものである。他に日法聖人の直授である大聖人の講義記録の『連々御聞書』『御法門御聞書』は、直接、大聖人の教えを知ることができるだけでなく、鎌倉時代の言葉やその使い方を知る貴重文献である。近年、その書簡文の裏書きが発見され、宗祖大聖人研究の新分野を開く貴重な文献であることが分った。その他『下山抄』『山門申状』（共に写本、唯一の刊本）等の日法聖人筆のもの、また日春聖人筆の『宝物集』は原本のない今日、駿河光長寺本として最古の写本であり、国文学上貴重な資料である。他には庶民信仰と芸術と融合した文化史上貴重な作品の『五色繍字法華経』や『紺紙金泥妙法蓮華経』『一字三礼妙法蓮華経』等の宝物が格護されている。


宗祖御尊像（日法聖人作）


宗祖御舎利

東朝西隆

光長寺の幾多の先師の中で、門流法運中興本果院日朝聖人の業績は大きい。光長寺檀林の学頭をしていた日朝聖人は、門流再興唱導師日隆聖人が回達された『法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）』をご覧になって、日頃疑問に思っていた教学上のいろいろな問題が解明されているのに感激し、永享七年（一四三五）京都本能寺に日隆聖人を訪ねて、道友師弟の礼をとられた。両聖人は、東西相応じて、大聖人の正しい教義を宣揚されんことを誓い、一味法水・人法互通の約を取りかわされ、西の日隆聖人は本能寺・本興寺を拠点として、東の日朝聖人は光長寺において、本門八品上行所伝の教旨を弘通されることとなった。これを宗門では「東朝西隆」と称している。

年中行事

年頭国禱会（一月元旦より三日まで）、御開山会（四月五日）、千部会（四月六日から十日間）、二十八紙大曼荼羅開展の虫干会（七月二十五日）、宗祖御会式（十月十三日）及び朝師会（十月二十五日）等のほか、年間を通して盆、彼岸、釈尊聖日、宗祖聖日（御法難会）等の報恩法要並びに毎月例会（五・十三・二十五日）を修している。

日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

軽快な店舗（テンポ）



ご存じですか、知ってトクするJTBのお店。
旅のことならJTB。暮しのあれこれもJTB。
お近くのJTBをぜひお気軽にご利用ください。

For Your Travelife JTB

JTBのお店はフットワークが軽快です。
団体旅行やイベントのご計画はぜひお近くのJTBのお店へお気軽にご一報ください。ベテランスタッフがすぐにおうかがいします。プランニングや運営のお手伝いはJTBがとりわけ得意とする分野です。

JTBのお店は電話が軽快です。
きっぷや航空券、宿泊のお申し込み、旅のご相談、お問い合わせ…なんでも電話で承っています。お気軽にお電話をください。
（全国の旅館、ホテルのご予約がお近くのJTBに電話1本で完了。お支払いは現地で、カードでOKという便利なシステム「たびがる」もあります。）

旅をもっと楽しくする品揃えも軽快です。
●旅をラクラク実現する旅行券の分割前払いプラン〈たびたび〉
●トラベル&レジャーカード〈YES JTBカード〉
●旅のライブ情報ブック〈JTB時刻表〉&〈ガイドブック〉
●いい旅を支える〈国内旅行総合保険〉&〈海外旅行傷害保険〉
●サインひとつでキャッシュの働き〈トラベラーズチェック〉

暮しをもっと快適にする品揃えも軽快です。
JTBのお店の人気ギフトアイテム
●旅を贈る〈ギフト旅行券〉、〈ギフト旅館券〉、〈ギフトホテル券〉
●使える便利は贈る便利。デパート共通商品券〈ナイスショップ〉
●デリシャスなギフト、一流レストランお食事券〈ナイスグルメ〉
●日本と世界の美味を選りすぐって宅配〈産地直送便〉
応援します、気分のいい生活
●レジャーから暮しまでカバーするJTBの保険〈未来星〉
●ヨーロッパからキラキラのブランド品を直輸入〈ユーポート〉
●国内も海外も確かなお手伝い〈JTBの引越し〉
※ご紹介したJTB店舗のレパートリーは、一部支店ではお取り扱いしていないものもあります。詳しくは、お近くのJTB各支店へお問い合わせください。

JTBのお店は旅づくりが軽快です。
レジャーだろうとビジネスだろうと、ひとり旅でもグループ旅行でもハネムーンでも、国内だって海外だって、乗り物、宿、訪問地など自由自在に組み合わせて、あなたのご希望通りの旅づくりをお手伝いします。創業以来76年のノウハウをベースに、旅のプロフェッショナルが皆さまの旅ごころを力強くバックアップします。

JTBのお店は旅の品揃えが軽快です。
きっぷや宿泊などの旅のパーツに始まって、国内旅行「エース」、海外旅行「ルック」、「パレット」、「ナヴィ」、海外からのお客様への旅「サンライズツアー」など、主要ブランドのパック旅行をドカッと取り揃えています。旅ごころが芽ぶいたら、お気軽に立ち寄って、ドッサリ揃ったパンフレットハンティングをどうぞ。

JTBのお店はインフォメーションが軽快です。
JTBのお店のパワフルなコンピュータシステムはJR、エアライン各社や、全国の旅館、ホテル3,300軒をオンライン。瞬時のご予約やご案内をしています。さらに国内300店、海外30都市を結ぶネットワークで、ホットな旅の情報を提供。一歩中へ入ると、あなたの旅ごころをガゼンときめかせる、ライブ情報ショップです。

奉弔

日蓮宗宗務院

管　長　岩間　日勇
宗務総長　澁谷　直城
宗務副総長　森　恵遠
綜合企画部長　金坂　信章
庶務部長　橋田　文啓
財務部長　伊藤　速雄

教務部長　頂岳　龍乗
護法伝道部長　吉田　宏遠
現代宗教研究所長　石川　教張
参与　白部　健順
参与　岡田　法順
日蓮宗新聞社社長　千野　信和

〒146　東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三(七五一)七一八一(代)
FAX　〇三(七五一)七一一八六

法華宗(本門流)宗務院

管　長　藤田　日浄
宗務総長　松井　孝純
教学部長　古田　日穏
庶務部長　渡辺　修翁
教化部長　大橋　周光
財務部長　中村　宏龍

〒170　東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話　〇三(九一〇)四七五五(代)
FAX　〇三(九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管　長　古瀬　日宇
宗務総長　吉永　正晴
宗務次長　山田　信正
財務部長　飯澤　道宣
布教部長　山本　学人
教務部長　平田　浄應
社会部長　田島　敏義
庶務部長　島田　幸晴

〒606　京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五(七九一)七一七一

法華宗(陣門流)宗務院

管　長　野口　日騰
宗務総長　牧野　琢成
総務部長　土屋　善敬
教学部長　都築　哲信
教化部長　金原　戒雄
財務部長　江坂　隆俊

〒170　東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三(九一八)七二九〇
FAX　〇三(五七六)〇一一一

本門佛立宗宗務本庁

講有　梶本　日裔
講尊　小山　日幹
宗務総長　井上　日慶
宗務副総長　齊藤　日敬
宗務副総長　松井　卓次
宗務本庁役員一同

〒602　京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話　〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX　〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　住友　顕一
総務部長　丹治　義順
財務部長
法務部長
教学部長　今村　要道

〒606　京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇

法華宗(真門流)宗務庁

管　長　林　日圓
宗務総長　吉田　研宏
総務部長　長鎌　泰信
教学部長　上嶋　智岳
教化部長　左神　信学
社会部長　蓑輪　渓玉
財務部長　小西　法明

参与　吉田　勝秀
参与　上田　浩岳
教学主事　小島　玄城
教化主事　岩崎　峻暉
財務主事　笹木　研秀
書記　矢放　真文

〒602　京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五(四四一)五七六二

本門法華宗宗務院

管　長　佐野　日紀
宗務総長　吉村　信尚
宗務部長　高辺　誠亮
財務部長　山下　通雄
総務部長　信　隆允
教務部長　飯田　信栄
庶務部長　藤井　宏長
門連常任理事　木村　光紹

〒602　京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話　〇七五(四五一)三五二七

宗教法人

国柱会

会長　田中　香浦
理事長　加倉井　清信
副理事長　中平　千三郎

国柱会本部・妙宗大霊廟

講師　大橋冨士子
講師　大屋　敬吉
講師事務局長　大橋　邦正
講師法務部長　長井　君夫
講師教宣部長　関口　宏
講師教務部長　秋場　善彌

必武館副館長　家田　仙次
会計部長　大屋　統子
組織部長　木村　司
総務部長　長瀧　光雄
庶務部長　江口　和敏
事務局次長　新山　信男

〒132　東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三(六五六)七一一一(代)

日本山妙法寺

首座　上野　行量

〒542　大阪市南区南船場一―三―十一
電話　〇六(二六一)三二二六

京都日蓮聖人門下連合会

会長　林　日圓
副会長　沖　日亨
理事長　上田　浩岳
副理事長　藤田　尚慈

〈事務所〉
京都府京都市上京区智恵光院通五辻上ル
是好院
電話　〇七五(四五一)八九九〇

ぐる」連載を終りて

基盤を固め、質的転換のための意義ある提案をどう生かすか!!

あたらしい年の訪れである。万物生成の基たる妙の一字を思い、一年の意義ある展望を読者各位と共に行いたいと念ずる。その年頭にあたり、今号では試みに本紙編集委員による匿名座談会を企画した。

本企画は、本文中にも出ているがシリーズ〈門連の進路をさぐる〉終了にともなう総括をかねた将来展望である。

日蓮聖人門下連合会がおかれている現状をふまえ、いかに前進し連合の実を目指すべきか、この大きなテーマに取り組むには編集委員のみの語らいでは余りにも非力僭越といわねばならない。

しかし、このテーマは本紙に与えられた最も大切なもの、とうぜん本紙編集に携る者にとっても最大の関心事だ。

その関心事について、自己反省もこめ、あえて日頃の思いを貴重な紙面にぶつけさせていただいた。読者諸聖のご叱声、ご批判を仰ぎたく切に念ずるものである。

（編集部）

建設的な〈進路をさぐる〉

司会　本紙もようやく五号の発行が終り、今号で六号を迎えるわけですが、これからが本紙の方向を決める上で重要な節目になろうかと思われます。創刊以来、ここまで続けてきて、とくに二号から連載されました〈門連の進路をさぐる〉も前号で一応終了したわけです。

このシリーズでご執筆いただいた門連相談役各師のご提言やご忠告なりを、ただ書き放し、言い放しにするのでなく、各ご提言を総括し、今後の門連運動と方向性、とくに本紙編集上の糧にしなければならない、こう思いまして、本日編集委員の皆様にお集まりいただいた次第です。

腹蔵のない、本音を漏らしていただく狙いで、あえて実名は出さず、匿名座談形式を採用したいと思いますので、皆さん自由に意見を出しあっていただければ……。

A　本紙の読者各位にあらためて〈門連の進路をさぐる〉シリーズの執筆者を紹介させていただきます。

創刊号では、これはまだシリーズ化されてはいませんでしたが、国柱会の田中香浦先生の昭和五十九年本会結成二十五周年記念大会での記念講演の「講演録」。

二号では顕本法華宗の古瀬堅徳先生の「争論をさけ、立脚点のレベルアップ」。

三号では法華宗陣門流の水本大岳先生の「門下連合会の質的転換を」。

四号では日蓮宗の斉藤龍遵先生の「広宣流布の第一線に立て」。

そして五号には日蓮宗の山口智光先生の「統一閣と統合問題をめぐって」と五名の先生方からご提言をいただいたわけです。

B　そうですね。各師の提言はそれぞれ体験をふまえ、現実と将来に向け意義ある事が多く出ていました。

D　各先生方に共通した認識は、日蓮聖人門下連合会のより強固な結束と異体同心の実現を目ざした建設的な意見ですね。

各先生方のユニークさがにじみ出ているのですが、門連を意義あるものにしなければならないと、こういう気持がひしひしと私達に伝わってきます。

「宗我をさる」ことの必要性

C　そこで、具体的な問題に入ってゆきたいのですが、古瀬上人が書かれていたことに「宗我をさる」というのがあります。

「宗我」ということは宗派意識にこだわりつづけることだと思いますが、たしかにこれは大切なことだと思います。

しかし、たとえば私が門連の場に出る、編集委員として参画するというような場合、自分の所属する宗派意識を捨て切ることはなかなか出来ない。

いつも自分の宗派の看板が両肩にかかっているものですから、「宗派の代弁者」という立場が離れないのです。

だから、宗我をさるということの難かしさは、門連自体がかかえる根底問題として存在している気がしますね。

G　しかし、その意識を無くさなければ門連の本来の姿はあらわれてこない、と言えませんか。

E　問題は宗我を離れる方法論が門連の中でどのように考えられているのか、ここにあるのではないかと思います。

従来の門連の運営方法を見ていると、上層部の各役員のみが、懇親を目的とした仲良しクラブ的にすすめられてきたことは否めません。いってみれば、懇親機関であったと思うのです。

懇親を図ることはそれはそれで大切なことですが、ここで問題にされている宗我をさる必要性は、門連本来の姿をあらわすためにその懇親会的なことから一歩進んで、運動体としての機能をもたすためにあるのでは……。

F　そうですね。古瀬上人の提案も、まさにそこにあるわけで、目を世界に向けよ、一天四海の大衆を相手にせよ、ということに門連の進路をもとめようとすることにあって、そのための宗我をさる必要性を訴えておられますよね。

大きな目標が設定されれば、それこそ小さなこだわりを克服することは可能だという小異を捨てて大同につく、こうした考えが基底にあるような気がします。

門連三期論の説得力

B　そこで、その基底をふまえて申しますと、門連の第二段への移行というのがありますね。

C　ええ、斉藤上人の提言は、まさにその点にあります。

門連の過去を第一期とし、現在を第二期、そして未来を第三期に区切るべきだと。

斉藤上人が言われるこの三期論は門連のえがく将来図としては実に面白く感じました。

と同時にその方向に進むことが必要である、こうも感じました。

論はたしかに充分たる説得力がありますね。

H　今回のシリーズに共通したことは、門連加盟教団がそれぞれ教団の役員を理事として送り、構成される理事会が即門連であってはならない、これではないでしょうか。

G　役員レベルから全宗的なレベルにわたる組織。

C　檀信徒をもふくめた連合体の構築、これが第二段へふみ出すことだと。

D　踏み出す必要性は理論上はすでに認められている。あとは実行に移すことだけだとする斉藤上人の議論はたしかに充分たる説得力があります。

I　そこで次に出てくるのが、連合の精神支柱の認識ですね。

E　たとえば水本上人が指摘されたことに信仰を中心にする連合体なのだから、宗務行政レベルはもちろん、それに各宗本山、いわゆる信仰の土台ともいうべき寺院レベルが参加した連合体を目ざせ、ということがありました。

B　ああ、水本上人の提言、国連方式ではいけない、真にパワーを発揮するための行政から本山への質的転化ということ……。

C　たしかにこれまでの連合体が行政主導であることは否めませんよね。しかし、ここに至るまでは仕方のないことでもあった、これは事実でしょう。

F　ですから、水本先生の指摘が出てくる要素があるわけで、ここらで、この精神支柱の再認識という作業をすすめることは意義多い、こう言えますね。

私は、その点で、今一度「祖廟中心」ということを考えてみたいと思います。

D　門連として実施しなければならないことに祖廟輪番奉仕があると思います。

祖廟中心の再確認を

輪番奉仕の精神は、聖人滅後六老僧などにより実施されたものを、門下各派が現在に行うものでまさに祖廟中心の精神の体現です。

H　門連のために身延山当局が祖廟を開放されたということも聞いていますが……。

司会　そのとおりです。門下連合会の要請で、身延山が大英断をもってそれに踏み切ったという歴史があります。

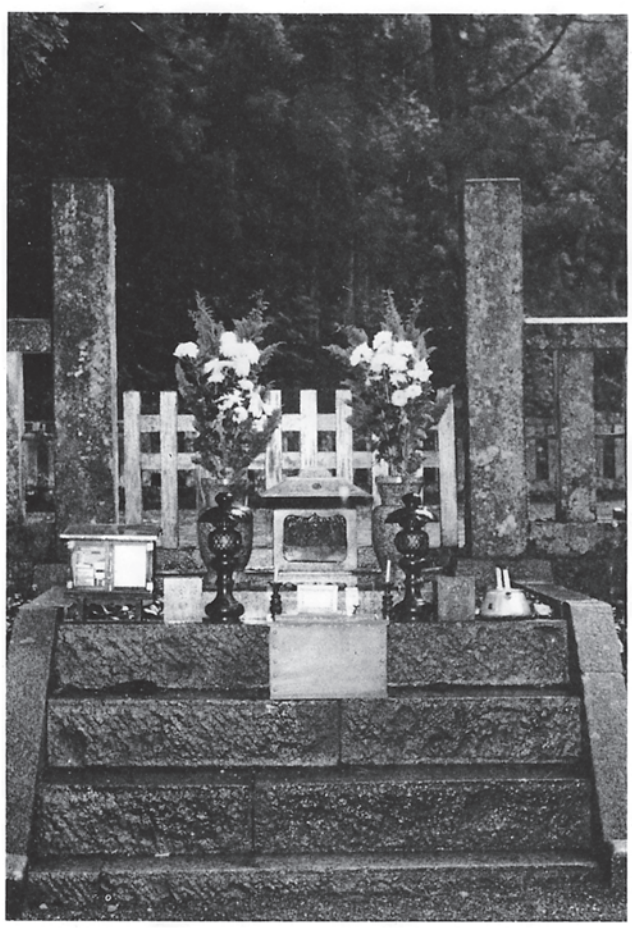
D　しかし、門連としてそれを実施している宗派は少ない。

A　問題はその辺にもありますね。切角身延山が輪番旗を用意してまで協力の姿勢を打ち出しているのに、門連の方が、逡巡して前へ進まないのでは、これはうまく行かない。

F　しかし、この問題には身延謗法論とか、過去のしがらみがつきまとってなかなかそう簡単に行かない現実がある。

身延に参拝することで日蓮宗にくみ込まれる、俗に言う軍門に降る、ということもあります。

D　私は身延山というのは、あくまでも日蓮聖人のお墓、祖廟が中心なのであり、身延山久遠寺云々の問題ではないと、はっきり区別してい



日蓮聖人御草庵跡



門連の精神支柱、祖廟

シリーズ「門連の進路をさ

新春編集委員座談会

ます。

B　もちろん私もその考えには大賛成です。祖廟に参拝するのには、これは誰人といえども日蓮聖人の門下であれば反対する者はいないでしょう。

C　ご真骨の問題も未だ一部にはくすぶっていたりして、上層部の方ではすんなりと行かない点も現実です。

司会　今、ご真骨の問題が出ましたが、これはすでに本紙の第二号に当時の理事長名で公式の見解が出されており、すでに解決していることだと思われますが。

H　われわれのレベルで話し合わなければいけないことは、過去のことではなく、現在、及び将来どうすれば祖廟中心の実が挙げられるか、これでしょう。

そのためにつねづね思っているのですが、日蓮宗におかれては微塵も他派を糾合しようとか、数の力でものごとを解決しようとか、それは無いと思いますが、より気をつけ細心の注意をはらって誤解を与えないようにしていただきたい。

また法華宗側におかれても、何でも疑いの目だけで見ないで、自分らの責任も果たす、そうして両者が相近寄って祖廟輪番を制度化すべく実践しなければならない　こう思っています。

I　個人的には只今の意見には理解を示せるのですが、宗団の一員となると、そうは簡単に行かない点もある。これが宗我かも知れませんが……。

理論小委員会の設置を

司会　何はともあれ、門連の精神支柱が祖廟にあることはみなさん異論の無いことですから、よい方向にもってゆく努力をしようではないですか。

D　祖廟の問題にも関連してくるのでしょうが、各宗派の教義問題をどうするのか、これも依然そのままですね。

C　教義論争というか、その問題を今持ち出す必要があるのでしょうか。

B　たとえば本迹論争など手をつけ出したらそれこそ収拾がつかなくなる。

E　教義の違いを鮮明にすることよりも共通項を探し出す論争が必要なことでは……。

D　いや私の言いたいことも実はそこにあります。

建設的な論争というか、研究というか、むしろ教義論争を行うことで、そうした教義論争の時代的展開・限界性ということが分る世界があると思うのです。

司会　ちょっと述べさせていただきますが、かつて只今のお話しの内容をふまえて、地涌クラブが門下有志でもたれました。

宗派を離れて個人の資格で、教義・思想の問題を論じ合おうという性格だったのですが、残念ながらその会は中断しています。

ここで、それを復活させて、新たに理論小委員会的に運営をすることが必要かもしれません。

H　いつかは思想・信仰の問題に立ち入らなくてはならないのですから、その理論委員会はぜひ実現したいものですね。

門連として正式にそうした機関を認知していただければ大きな力になるのでは……。

E　その会には編集委員だけが参加するというのではなく、各派教団から志ある方々、あるいは各宗選抜ということでも結構ですが、そうしてゆけば面白い会が出来るかもしれませんね。

B　論争は侃侃と、信仰は靄靄と、この精神で行くべきだ。

会費に見合う効果は

A　連合体のもつ強さと脆さ、これは宿命みたいなものがありますね。

強さの方は異質の団体が結ぶことで特異なパワーが出てくることがあります。幕末の薩長連合などその好例ですが逆に脆さもついて回る。

F　脆さ、ということではありませんが、連合体に参加はするが、賛成してのものではなく、おつきあい程度で、ということがあります。

C　記念事業の分担金の問題にしても、寺院数に応じた按分方式を採用して、出しゃばってはいけないというひかえ目な姿勢、今日の座談会でも余りしゃべらない方がよいと消極的になってしまうとか……。

D　その消極さが、不知不識のうちに脆さにつながってきているのでは……。

E　先程の看板ではありませんが、組織というのは往々そうした冷厳な面をもつ、こうも言えますでしょう。

しかし、門連は世間通途の連合体とはちがうわけですから、何か他には見られない強さを出すべきではありませんか。

I　それは必要なことだと思います。それと連合体であるかぎり見返えりといいますか、会費を負担している、それに見合う実利が無ければ、それなりのもので終ってしまう、こうも言えるのではないでしょうか。

E　もちろん、その面は無ければならないでしょう。

F　たとえば門連の会費が年間何百万円になっても、自らの教団にそれ以上のプラスになる効果が期待できるとなれば、会費値上げの不満も一挙に解消できるはずです。

E　多額の会費を負担しても、それに見合うもの、たとえば布教活動上の必要品を門連で共同開発するとか、あるいは海外布教の情報センターをつくってそこで各種の情報を加盟教団に流して行ったり、方法はいろいろと考えられますね。

要するに日蓮聖人の宗教が広まる方向に焦点を絞り込めばよいわけですよね。

A　ただ会費だけ集めて、懇親会だけで終るというのなら、そのうちに会費の負担も何かしらむなしくなってしまう、そうした危惧があるのではないですか。

司会　いや、だからこそ、本紙の存在が重要になってくるのですよ。

門連の事業の中で、只今のお話しをふまえて言えば、この「門連だより」が意義ある見返えりといえるでしょう。毎号掲載される「各派短信」をとってみても、門下各教団の動静が手にとるように一目で分る、この情報提供でも現在、非常に有意義なのです。

今後の充実いかんで、もっともっと気の利いた機関紙に育てあげることが出来るものと固く信じています。

G　そうでしたね。司会者のおっしゃるとうりです。本紙の使命のひとつは、まさしくそこにあります。

司会　本日は長時間、有意義な座談会をありがとうございました。今日、皆さんに述べていただいた諸点を誠意をもって実践して行かねばならないと強く感じた次第です。

来年は、本会結成三十年を迎えますが、それに向け本紙も皆さんのご協力を得て、充分実りあるものにして参りたいと念じております。

（編集部収録）

〈田中智学先生第五十回忌報恩記念出版〉
天下は愚に亡ぶ　田中香浦編　八〇〇円
―田中智学語録―
田中智学先生の思い出　田中香浦編　四八〇〇円
田中智学先生の碑　大橋冨士子作　一二〇〇円
田中智学の少年時代　大屋敬吉作　一三〇〇円
日蓮主義研究〈第13号〉―五十回忌記念特集―　一五〇〇円
田中智学自伝　全10巻　田中智学著　三二〇〇〇円
日本國體の研究　田中智学著　八〇〇〇円
日蓮聖人の宗教　田中香浦著　九八〇円
これからの世界・人間　田中香浦著　一三〇〇円
田中智学（評伝）　田中香浦著　一四〇〇円
日蓮主義の研究　田中香浦著　二〇〇〇円
日蓮聖人（小説）　西川満著　一三〇〇円
私たちの法華経　田中冨士子著　八八〇円

宗教法人
国柱会　真世界社
出版部
東京都江戸川区一ノ江6―19―18
〒132　☎(03)656―7111
郵便振替　東京5―19556

展転社　東京都台東区東上野4-11-5　〒110
tel 03-841-0821　fax 03-845-0662

ひとくちに本をつくるといっても、さまざまな制作工程の組み合わせが考えられます。例えばその印字方法（タイプか、活字か、写真植字か）、印刷方式（活版か、オフセットか、グラビアか）によって、その本の風趣も微妙にちがってくるのです。
弊社では、法話集・寺史・追憶集・歌集・句集・ガイドブックなど、おあずかりした原稿の編集、装幀を専門家が担当するのはもちろん、お客さまのご要望に最も適した本づくりをつねにこころがけております。また、弊社の出版図書コード（ISBN）を付すことによって、全国書店での販売も可能です。
詳しくは弊社までご一報下さい。

＊全国書店にて好評発売中
武田乙若（山川智応）
経一麈―日像聖人の伝―　定価　三〇〇〇円
井上日宏
おのれに惚れろ　定価　一二〇〇円
里見岸雄
里見岸雄論文集Ⅰ　定価　四八〇〇円
深澤泉奥
法花讃語抄　定価　八〇〇円

奉弔

（順不同）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(二)一〇一一
FAX 〇五五六(二)一〇九四
法主 岩間日勇
総務 望月一靖
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一一一一
電話 〇三(七五二)三三三一
貫首 田中日淳

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫主 古瀬日宇
総務 山田信正
執事 平田浄應
執事 三坂岳應
執事 津村乗信
執事 安東靖弘

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一一一一二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
貫首 野口日騰
執事長 真保行宣
執事 笹原壮一
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 佐古弘文

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
貫主 林日圓
執事長 上田浩岳
執事 小島玄城
執事 岩崎峻暉
執事補 笹木研秀
書記 矢放真文

本門法華宗
大本山妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二一七
貫首 中村日宣
執事長 松下日肆
役職員一同

日蓮本宗
本山要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
貫首 嘉儀日有
執事長 住友顕一
執事 丹治義順
執事 今村要道

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ケ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六二)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六二)四六五一
住職十九世講有 梶本日裔
事務局長信徒総代 小倉徳治郎

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 小林栄雄

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八
貫首 沖日亨
執事長 本山本土寺貫首 山田一光
執事 原光司

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一
貫首 水谷日諦
執事長 玉田学雄

日蓮宗大本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
貫首 片山日幹
執事長 田中慈潮
執事 本間正晃

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首 金山寛成

公元一九九〇年十月十三日
開山日像菩薩御遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話 〇七五(四六一)六五一一六
貫主 細井日苑

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首 長瀬日還
参与 関観康
同 小倉俊明
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
執事長 渡辺行俊

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇〇五六二
貫首 金子光瑩
参与 土屋学周
同 新井智清
同 山田完修
執事補 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
東京執事 田村宏祐

門連時報

昭和六十三年度
日蓮聖人門下連合会理事会京都門連との懇談会開催!!

於・京都本隆寺☒十一月二十九日

恒例の日蓮聖人門下連合会理事会と京都日蓮聖人門下連合会との懇談会が去る十一月二十九日（火）正午より、法華宗真門流総本山本隆寺を会場として開催された。

本隆寺本堂にて正午開会式。林日圓管長猊下御導師のもと異口同音に法味を捧げた。この後約三十分間、本隆寺の沿革について林管長猊下の講演が行われた。本隆寺は本年開祖日真大和尚五百遠忌法要を奉行、承応、明歴の大火にも難をまぬがれ、「焼けずの寺」と稱される本堂、祖師堂は、その歴史的背景と共に高い文化的評価を受けている。

記念撮影の後書院にて開議。全員自己紹介の後、渋谷直城理事長座長となり議事を進めた。

柴田和延幹事が別紙資料にもとづき上半期門連事業報告。富川孝恭幹事が「門連だより」第五号、第六号に関し報告を行った。

次に上田浩岳京都門連理事長より京都門下連合会事業報告が行われた。

地方門連結成準備に関しては吉永正晴常任理事の報告に続き十二月十一日発会式を予定している「大阪日蓮聖人門下懇話会」より、伊丹栄彰（日蓮宗）、長鎌泰信（真門流）両師より経過報告、加盟申込みは一九〇名余に達している現況につき報告がなされた。

並河顕周幹事からは北海道門連結成準備につき具体的推進につき明るい展望が報告された。報告事項に続いて「門連結成三十周年記念」についての案件に入り、大橋邦正常任理事より別紙提案書が配布され説明提案が行われた。提案の主な内容は、二年後（平成二年）は門連結成三十周年に相当するので「内に本会存在の認識をふかめ、一層機能を発揮して会史。（30年の門連活動の歴史をまとめ未来展望を含め各派代表の論稿を掲載、後世に伝える。有料頒布制にて刊行費を支弁、各派部数引受けを原則）

5、京都門連の夏期大学にならい東京においても一般檀信徒を対象とした夏期研修会の恒例開催を実現したい。

右五項目の提案をめぐり、積極的推進の意見、慎重論等意見の交換があったが、結論として三十周年をめざし、何等かの事業を行うという方向で充分に意見を参酌し、今後常任理事会に於て煮つめていくことを決定した。

その他京都門連上田理事長より二年後、京都門連主催にて京都府立文化博物館で行われる「法華文化の歴史展」に各派より展示物出品協力の要請がなされた。

午后三時会議を終了し、会場を移し「しょうざん」にて懇親会が行われた。

外に本会存在の意義をひろく世に示していきたい」との趣旨の下、

1、日蓮聖人門下連合会結成三十周年記念集会（記念慶讃法要・物故各聖追善回向・記念講演）

2、結成三十周年日蓮主義宣揚大講演会、各派より講師出講して開催。（参加動員、各派勢力に応じて檀信徒の動員を図る）

3、結成三十周年奉告　祖廟輪番給仕。（門連全役員による）

4、記念出版　日蓮聖人門下連合

懇親会から連合会へ！北海道門連結成予備会が開かれる。

於・札幌ローヤルホテル☒十一月二十五日

去る十一月二十五日、札幌ローヤルホテルを会場に「北海道日蓮聖人門下連合会結成予備会」が開催された。

これは発起人法華宗真門流安井勝仁、上川勝顕、法華宗本門流森禎信、法華宗陣門流小林延明、日蓮宗高橋智量、佐藤光春、松井義昭、白部健順各師の呼び掛けによるもので、かって札幌地区で結集していた「蓮門懇親会」を母体として門下連合会への発展を計ろうとするものである。

午後五時よりかっての蓮門懇親会会員二十五名が出席して開催された結成予備会では、冒頭、白部健順師が「北海道開教以来の歴史を見る時、各派互いの扶助のもと興隆して来た事実は忘れてはならない。かっての蓮門懇親会の先例を基にして、北海道日蓮門下の交流を計りたい」との意趣説明がなされ、規約、役員人事等の原案が提出された。又、「蓮門懇親会」は札幌、小樽地区が中心であるため、今後全道的規模として発展させるべく、設立趣意書案を採択し、懇親会に移った。

参加の各師とも旧交を温め、在北海道寺院に参加を呼びかけることを約し、閉会した。

尚、事務局からは、並河、長谷川両幹事が出席した。



北海道門連設立趣意書案が採択される。

五十回忌を記念し門連が後援
「田中智学の世界展」開かる

於・東急百貨店グランドホール☒九月二～七日

「田中智学の世界展」が九月二日から七日まで東京・日本橋の東急百貨店グランドホールで開かれた。田中智学先生第五十回忌を記念して開催されたもので主催は産経新聞社・田中智学の世界展実行委員会。後援は日蓮聖人門下連合会はじめフジテレビ、ニッポン放送、サンケイスポーツ、夕刊フジ。

田中智学先生と交流のあった文化人とのかかわりを中心に、仏教の近代改革をめざした先生の果たした意義をさぐるもので、会場には「逍遥そして演劇」「寛・晶子、白秋、江戸情調」「賢治、芸術と宗教」「大観、富士への憧憬」「田中智学」のコーナーが設けられた。入口では九面マルチテレビで「世界展」の案内を、出口には大型三面マルチスクリーンが設置され「二十一世紀と仏教―仏教思想の流れと田中智学先生」が放映され来場者に好評を博した。

産経新聞では一面全部を使い「21世紀を予見した宗教家」と題して紹介、フジテレビでも放映されたこともあり一般の来場者も多く会場は連日にぎわった。

九月三日には「世界展」を記念して銀座・ヤマハホールで「講演と狂言の会」が開かれた。講演は村松剛氏が「近代日本と田中智学」と題して、狂言は田中智学先生作の「今様宗論」が大蔵流山本会の山本東次郎氏一門により上演された。



会場のグランドホール入口

新発売

巻子本・経本付
特別割引セット

妙法蓮華経写経セット

方便品第二（十如是まで）　如来寿量品第十六（自我偈）　如来神力品第二十一（神力偈）　観世音菩薩普門品第二十五（観音偈）

● 初心者でもすぐ取り組める
● お経文の字体に近い写経手本
● 内容豊富な手引書付き
● 高級三椏和紙に銀界入り

監修　小池英淳　　発行　日蓮宗新聞社

信行会のテキストに
一人での写経実修に
ご寺院への奉納に

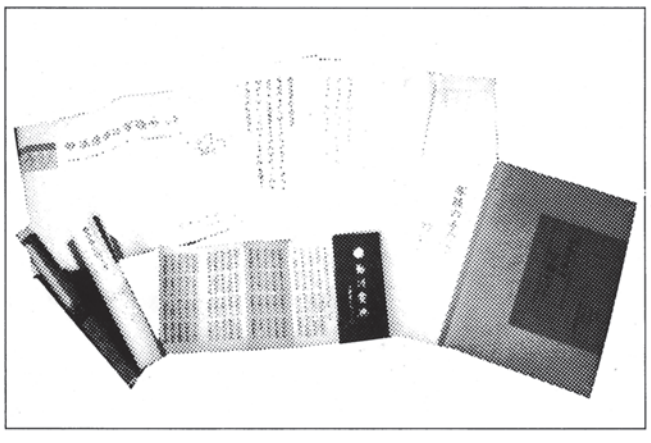
巻子本付特別セット　新発売
定価 5,000円（〒700別）

Aセット（用紙セット・手引書）
定価 3,000円（〒350別）

Bセット（用紙セット）
定価 2,500円（〒350別）

〈セット内容〉
● 写経手本
● 料紙　本三椏紙
　清書用紙　12枚
　薄墨練習用　8枚（各2枚）
● 写経の手引（解説書）
● 勤行要典
● 17字用、5字偈用紙罫
● 巻子本セット

※上記は特別セットの仕様です
※まとめて10部以上割引きあり



お問い合わせ・お申し込みは 日蓮宗新聞社 03(755)5271

各派・教団 短信

京都門連

◆日蓮聖人門下連合会京都理事会開催。11月29日正午より、法華総法本山本隆寺に於て京都理事会が開催された。京都各御本山より10名の貫首猊下のご臨席を賜り盛大且つ有意義に運営された。会議後洛北〝しょうざん〟に席を移し各猊下のご挨拶も含めて意義あるひと時を過した。

◆法華文化の歴史展開催きまる。平成2年3月から6月の間の約1ヶ月間法華文化の歴史展(仮称)を開催することになった、会場は京都文化博物館を予定している、府立大学の藤井学先生の監修によりこれから本格的な準備に入るが、宗教、実行工芸、文化等のコーナーを設け檀信徒に限らず一般の愛好者の参観を希望している。　(上田浩岳)

法華宗本門流

◆昨年11月18日尼崎市中小企業センターにおいて、第2回法華宗教学研究発表大会が催された。初めに宗門史編纂室長でもある宗務総長松井孝純先生より「宗門史の周辺」と題して基調講演が行われた。続いて12名の発表者が、日頃研讃している、宗学・宗門史・布教法要儀式・仏教学および仏教文化等のジャンルについて研究発表があった。

◆発足以来4年目を迎えた法華宗布教師会は、12月6・7・8日の3日間、茂原市大本山鷲山寺において本年度の研修会を開催した。今回は特別講師に落語家三遊亭圓歌師匠を招き「語りは心で」と題し講演を賜った。満堂の聴衆は、笑いとエピソードの中にも話術に関して得るもの多くあったようである。

◆本年1月8日付を以て、鷲山寺貫首藤田日浄猊下が管長(門連顧問)に就任した。推戴式は、内局及び門末僧侶総出仕のもと、厳かに修行され、管長猊下は、宗徒の道義を厳しく諭達された。　(矢吹慈英)

本門佛立宗

◆第125回・臨時宗会が、11月18・19の両日、京都宗務本庁にて開かれた。会期中、特に「89年度弘通方針」と「佛立センター構想」についての懇談会が行われ、熱心な質疑が展開された。

◆臨時宗会第2日目は「佛立センター」に関して、開導百遠諱特別局長・小山日誠師より、センター用地の買収契約完了に至る、経過報告がなされ、「センター構想樹立委員会」の構想原案を、図面や立体模形などを使って紹介していた。

21世紀社会に対応できる研究・研修諸施設や大学計画など、多くの夢の実現化へ積極的に討議していた。

◆佛立開導日扇聖人百回御遠諱大法要厳修を目前にして、百遠諱準備特別局を発展解消し、新たに「大法要奉修局」が発足した。奉修局は、総本部長に東京清雄寺の小山日誠師が選出され、5部20課が組閣、教講両務から役員メンバーが構成された。

◆門祖日隆聖人の「五帖抄」を読み下し文にして脚註を施した「真訓両読・五帖抄」(権大僧正金子日寿上人監修)が、第5支庁教員団から刊行された。　(深澤泉奥)

日蓮宗

◆宗門の教育制度を抜本的に見直し、あるべき教育制度の姿につき渋谷内局は本年教育制度検討委員会(委員長=慈璋師)に諮問し、委員会は鋭意検討を行ってきたが八月三十一日中間答申を渋谷宗務総長宛提出した。

その主たる内容は教師資格を与える時点(信行道場)での教育、教師になって以後生涯に亘る教育など、各分野に対する教育の充実とそれら教育を荷う勧学院の拡充と、現代宗教研究所との統合など。

◆社会教導師講習会が十一月十・十一日池上本門寺朗峰会館で開催された。

◆十月二十一・二十二日、一妙院日導上人二百遠忌記念「日蓮宗教学研究発表大会」が熊本本妙寺に於て開催された。発表申込み四十四名、特別記念講演として立正大学北川前肇教授が「日蓮教学史における一妙院日導上人」を、また身延山短期大学町田是正教授が「綱要導師の宗学意識」をそれぞれ講演した。

◆十一月十六・十七日、近畿教区教学研修会、於妙顕寺、講師は勧学院長茂田井教亨師、同講学職冠賢一師

◆十一月二十四・二十五日、東北教区教学研修会開催、於弘前法華クラブ・講師は勧学院長茂田井教亨師、同講学職中野文海師。

◆十一月三十日布教研修所修了式、於真間山弘法寺、修了者八名。八名の青年僧は六ヶ月間に亘り教学の学習、布教技術の習得、実践、砌磋琢磨の僧堂生活を体験し、宗門布教の第一線に立つ。

◆十二月七日・八日、九州教区教学研修会開催。於福岡法華クラブ。講師は勧学院講学職浅井円道師、同上田本昌師。

◆宗門は本年度中に、戦前刊行された「日蓮宗年表」の増補改訂版(故影山堯雄師の遺稿を整理編集)を、日蓮宗新聞社より出版(A四判九〇〇頁)し、全寺院に配布を予定している。　(富川孝恭)

国柱会

◆8月に国柱会少年少女夏期学校・本部主催を伊豆大島で開校。近畿地方、九州地方でもおこなわれた。

◆8月27~28日、四国・松山で全国若人の集い松山大会が開催。平成元年は伊勢で開催することになった。

◆九州地方ほか各地で田中智学先生五十回忌記念特別講習会を開催。

◆9月23日、妙宗大霊廟秋季大供養会。清興として国際親善芸術団が出演し韓国伝統舞踊がおこなわれた。

◆天皇陛下御不例にあたり国柱会本部では毎日、日課国禱正中法座に御病悩速除御平癒祈念法要を厳修。

◆10月12日、恒例の池上本門寺境内における日蓮主義屋外宣伝を実施。

◆11月11~13日、国柱会本部で全国から会員代表参集し田中智学先生第五十回忌報恩大会。創業の地浅草の正法寺に記念碑が建立され除幕式。全国会員報恩のつどい、報恩大法要報恩大会聖餐会等がおこなわれた。　(秋場善弥)

顕本法華宗

◆布教研修会開催。日什大正師第六百遠忌を平成3年に控え、宗門の現状分析と布教の再生をテーマに、関東、関西の2ケ所に分かれて僧院布教研修会が開催された。

高貫泰賢布教総監より、本宗の教風の伝統を護りつつ、時代相に敏感な視野を開け、あわせて僧道の日常的生活の自省自戒を促す訓示に続き特命布教師3名による布教報告、提言等がされ、参加者の活発な意見交換がされた。また、昨年7月開堂された、南米ブラジル顕本寺の海外布教所の現況と将来的展望が吉永宗務総長より報告され、御遠忌へ向けてより一層の布教体制の充実を図ることが確認された。

◆ブラジル顕本寺へ特派布教師派遣す。海外布教所として、その体制確立が急務であった、ブラジル顕本寺専任布教師として現宗務院布教部長山本学人師(京都本正寺住職)が決定し、1月半ば渡伯した。半年間の日数ではあるが、現地檀信徒との交流や布教活動等、日本国内とは違った状況下、師の豊富な布教経験と情熱に活躍が期待される。　(朝倉俊幸)

日蓮本宗

◆「昭和大修繕」と銘うって62年6月に着工した本山要法寺本堂の大屋根修復工事は、予定どおり15ケ月の工程を終えて、63年8月末日を以って完了。9月3日に施工者=松井建設株式会社大阪支店より引渡しを受けた。工費=二億七千五百万円。

◆本堂工事の完了した同本山では、隣接して建つ「開山堂」屋根の全面修復を引き続いて実施することになり、9月3日に起工式を奉修して着工。前日の第10回実行委員会では工事請負額を一億一千五百万円とし本堂と同じ松井建設と工事契約を締結したが、上層部(同堂は重層屋根)を全面的に解体して施工する必要を生じ、9月21日緊急に第11回実行委員会を開催、監理者=建築研究協会の助言も受け、上層部を解体のうえ施工し、耐久性強化のため構造の一部を改良することにした。工期は平成元年9月末日まで、10月13日に「両堂完工式」を奉修する予定。

◆同実行委員会(原真昭師委員長)では、屋根修復工事に併せ付帯事業を行うことを決め既に着手。荘厳具等の補修は御宮殿、須弥壇、前机など堂内荘厳具の全部と、須弥壇上の絵天井(龍)、両脇の袖絵(花鳥)、扁額など、防災設備は消火栓、火災報知器、照明、放送の3点。

◆同本山の全末寺檀信徒で組織している「要法護持会」(東山豊次氏会長)では、本堂屋根修復を記念して本堂前向拝の雨トイ受けとなる〝蓮型青銅天水鉢〟一対を奉納した。　(柳下義真)

法華宗真門流

◆吉田新宗務総長のもと新内局発足。去る7月23~26日総本山本隆寺において臨時宗会が開催された。今春の開創五百年大法会が円成されたことにより、藤井宗務総長が勇退され、新宗務総長に吉田研宏上人が就任。その陣容は次の通りである。

宗務総長　吉田研宏師
総務部長　姫路市白浜町　常住寺
教学部長　長鎌泰信師
　大阪市此花区　海竜寺
教化部長　上嶋智岳師
　兵庫県香寺町　法琳寺
社会部長　左神信学師
　兵庫県氷上町　妙寿寺
財務部長　養輪溪玉師
　福井県鯖江市　常在院
参　与　小西法明師
　奈良県橿原市　日宝寺
参　与　上田浩岳師
　京都総本山塔頭是好院
参　与　吉田勝秀師
　東京都新宿区真清浄寺

◆第1・2・3種講習会開催さる。去る8月24日より30日までの一週間、第1、2、3種の講習会が総本山に於いて開かれ、受講者50余名が出席した。管長猊下、真枝学林長、堀内教授等の講義。西岡、井上両学監より、声明、法式作法、唱題行、作務等の実習を受けた。また、29日には、京都日蓮聖人門下連合会主催(本年度は当本隆寺が当番)の夏期大学に出席。

◆北海道支学林は北海道旭川市・立正寺(住職吉田勝敏師)を会場に、本山講師・奈良県寛照寺住職・辻本寛孝師のもとに開催された。特に期間中、全北海道青年僧25名(北真会)が結集して、「交通事故撲滅祈願」の唱題行脚が行なわれた。旭川駅より立正寺に至る3・5kmを行進した。過去最高額の浄財は、ただちに市の交通遺児福祉事業基金に寄附し、旭川市長より北真会に感謝状が交付された。　(吉田勝秀)

法華宗陣門流

◆中央行学講習会開催さる。9月5~6日の2日間、『ホテル花巻』を会場に、宗内各教師の中央行学講習会が、約130名の参加者のもと開講された。講師は、宮沢賢治記念館副館長宮沢雄造先生によって、『宮沢賢治の生涯と作品』と題して講義をされ、第二講は、前宗務総長水本大岳上人から、『仏教儀礼と民俗』について講義をされた。

◆『三派統合学院学生講座開催さる』11月19~21日の3日間、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三派統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後期2回開講され、三派の青年僧を対象にした教学育成の場である。講師は法華宗真門流、宗務参与吉田勝秀上人が講義をされた。宗宝霊跡審議委員会報(宗宝第一次指定写真集)第一輯が発刊された。　(江坂隆俊)

本門法華宗

◆宗務院、学院、大本山妙蓮寺の共同主催による教学研修会が10月26日より10月28日までの3日間、北陸地区で開催された。

講習内容は富山大学教授中元昌年先生の「智と信仰」中村日宣貫首猊下の「日像菩薩の行跡」中村重信上人の「現代人の法話探求」等の講演の外に北陸地区の各寺院、能登妙成寺の巡拝があり、有意義な研修旅行であった。

なおこの研修会は昭和61年度の種子島研修に始まり北陸研修で3回目である。各地区の布教及び当地での先師聖人の足跡にふれながらの教学研修旅行であり今回は40数名の参加者があった。　(持地光学)

お詫びと訂正

門連だより第5号「門連だよりに期待する」の記事中、本門法華宗木村光紹上人の肩書きを誤って「法華宗本門流」とし、木村上人を始め関係御宗門に多大な御迷惑をおかけいたしました。ここに謹んで誤植訂正しお詫び申し上げます。

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

＊激動の昭和に別れを告げ、平成を迎えた。
＊大行天皇の御行跡・御人柄は日を追うにつれ日本人に感銘を深めさせる。鳴呼哀哉。
＊第一面で報道した「大阪日蓮聖人門下懇話会」の結成はともすれば沈みがちな本年頭において明るさが感じられる。
＊また編集委員による座談会は本紙の持つ意義に対し、再認識させられる点が多い。パワーも感じられる。
＊各派短信は前号あたりから、報道量が多く、誠に申訳けないことだが、一部要約、割愛の止むなきものがある。お許しねがいたい。
＊御本山巡りは好評を得ている。本紙をガイドに巡拝される方もおられる。活用を期待したい。

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成元年6月13日
第7号

門連結成三十周年

意義ある年をむかえるに当って

日蓮聖人門下連合会常任理事
大橋邦正

本会が昭和三十五年二月に発足してから明平成二年には満三十周年の記念佳辰をむかえる。一口に三十年というが、長い宗門史を経た上で実現した連合組織であり、三十年という区切りはズシンと重たいものを感じる。三十年をふりかえるとともに、その間の動静を知り、明年の満三十年記念大会に向け、ムードの盛り上がりを期待したい。

日蓮聖人門下連合会は、明平成二年度に結成三十周年をむかえる。顧みれば本会は去る昭和三十四年、あたかも日蓮聖人第一国諫たる立正安国論上書より七百年という、聖祖ご門下にとって意義まことに重要な節目に遭遇し、この年こそ、立正安国の大義を宣揚する好機と、ご門下共同して記念の大会を催すべく、国柱会田中香浦会長の提案により、期せずしてご門下十一教団結束のもと同年八月十九日(旧暦七月十六日)、東京神田の共立講堂において、「立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」が盛儀をもって開催され、聖祖立正安国のご精神をひろく世に示しご報恩の万一に擬し奉った。

その気運の趣くところ同夜参加各派首脳者による懇談の場がもたれ、おのずからご門下大同団結をめざす意見の一致をみ、これを機に各派交流連絡の組織を常設することとして、「日蓮聖人門下懇話会」が誕生した。

翌三十五年は、聖祖伊豆法難七〇〇年の記念の年にあたり、再びご門下共同して聖祖ご法難の意義を世に顕彰すべく、二月に開催の日蓮聖人門下懇話会において、ご門下連帯の組織の充実発展を期して、規約をはじめ諸制を整備し名称を「日蓮聖人門下連合会」と改めることを決定し、ついで二月二十五日に正式発足の運びとなった。



昭和34年8月19日・立正安国論献諫七百年記念大会

祖廟中心のもとに奉告式

時の参加教団は、日蓮宗、法華宗本門流、顕本法華宗、法華宗陣門流、本門佛立宗、日蓮本宗、法華宗真門流、本門法華宗、国柱会、日本山妙法寺大僧伽の十教団であった。のちに各地域に支部を設置していく観点から、門下連合についてはすでに統合の実をあげている京都門下連合会とご縁が結ばれ、その参加をみるに至った。

かくて門連としてとりくむ初の共同事業が、日蓮聖人伊豆法難七〇〇年記念の行事であった。同年五月十二日のご聖日を卜し、伊東の仏現寺に各派首脳参集して慶讃大法要を厳修し、また狙岩霊跡蓮着寺では聖史劇「まないた岩」を上演、さらに伊東西小学校講堂において記念講演会と聖史劇の上演を行い、伊東大和館では各派教団首脳による懇談会が開催されるなど、聖祖ご法難を偲び奉る門連共同の意義ある行事を成満した。

帰一するということであった。

かくして門下連合会は、序々に相互に連携を保ちつつ、さらに強固な組織へと歩みをつづけていたが、昭和三十八年、かつて門下統合問題に尽瘁された故本多日生師の三十三回忌法要にさいし、参列の門下各派代表は、門下連合の意義いよいよ熟し来ったとし、連合の気運を進展せしめるために、従来の規約を改正しここに新たな組織化を図る理事制を敷き、各派教団から三名づつの代表を選出して理事とし、うち一名づつを常任理事とするなど、意欲的な前進体制ができあがった。とくに改正規約の第三条に目的として「…日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団の連絡、協力、団結を強化云云」と明示したことは、画期的な前進の姿であろう。

新組織による第一回の理事会において、理事長に金子日蓮宗総長を推薦、今後の事業計画が協議された。ことに身延祖廟は、一日蓮宗、一身延山のみが護持するものに非ず、全日蓮門下のひとしく崇敬護持すべき祖廟であって、門下連合の一大円環の組織の要である。この意義において連合会の新発足にさいし、全理事が参加して身延祖廟に、門連結成誓願奉告参拝を行うこととなった。

全日仏の軽率な刊行を誡む

あたかもこの頃、全日本仏教会が「創価学会の批判的解明」なる書を刊行した。本書は猖獗をきわめる創価学会を批判するものであるが、内容において学会批判のみにとどまらず、日蓮聖人に対する誹謗的表現があるのみならず、歴史的事実および教義上の誤り等許しがたき記述あるを重視し、門連はこれに対する対策協議をかさね、とくに常任理事の国柱会田中香浦師、日蓮宗茂田井教亨師さらに在京常任理事の諸師が専門委員となって、これの徹底解明にあたられた。門連としては、門下統一見解を草し全日仏当局に厳重抗議を申し入れ、該書の廃刊と陳謝を要求した。全仏当局は翌三十九年二月二十五日、日蓮聖人門下連合会に対し正式文書を以て、

全日本仏教会時局対策協議会発行(38、8、31)の「創価学会の批判的解明」は、日蓮聖人に対する礼を欠いた表現を用いたこと。

歴史的事実及び教義上の誤見があったこと。

発刊に至るまでの日蓮聖人門下各団体に事務連絡が適切を欠いたこと。

該書の不適当箇書を全仏通信(全仏の機関紙)に掲載陳謝すること。

該書は絶版とすること。

以上のごとく門連の厳重抗議を全面的に認め陳謝、廃刊等の善処を回答してきたのでこれを受諾、本件はここに円満解決をみたのである。

破邪顕正の大講演会

門連の結束は結成以来年ごとに成長し、連合体として広宣流布の聖業を具体的に表明する、日蓮聖人門下連合大講演会を組織以来初の試みとして昭和四十一年五月二十一日、東京日比谷公会堂において開催した。世は創価学会をはじめとする迷信邪教が横行し、日蓮聖人の真意を誤り伝え、これらの動きがひとえにわれら門下一同の懈怠によるものと深く反省し憂慮するところから、誤れる日蓮聖人観を正すとともに、破邪顕正、正法興隆のため真に異体同心の聖訓を体し、会場には日蓮宗、日蓮本宗、法華宗陣門流、本門流、真門流、本門佛立宗、顕本法華宗、国柱会、日本山妙法寺の各派に属する護法の念にもゆる面々二千数百名が一堂に会する壮挙となった。

講演会は日蓮宗鬼頭潮龍師の開会宣言にはじまり、第一部式典は立正学園女子高校聖歌隊の宗歌「立渡る」のコーラスで開幕、舞台正面には〝波木井の御影〟を奉掲し、門連理事長片山日幹師の導師で聖訓〝異体同心事〟を奉読、つづいて大会宣言を本門流福島泰信師が力強く朗読、聖歌隊が四弘誓願を合唱するなかを式典終了。

つづく第二部講演は、「天下は悪に亡びずして愚に亡ぶ」と題し国柱会田中香浦師、「三大秘法管見」と題し日本山妙法寺藤井日達師、「正しい日蓮聖人の教えよりみたる創価学会」と題して日蓮宗片山日幹師がそれぞれ破邪顕正の正論を縦横無尽に展開、満場を魅了した。講演を終り陣門流村上日宣師より大会決議文の朗読がなされ、最後に佛立宗木村日玄師の発声で日蓮聖人門下連合会萬歳を満場の聴衆とともに高唱して大講演会の幕はとじられた。

かくて荘厳な式典と現代社会を憂う大講演会の感銘は、参会者をして誇りある聖祖門下の使命感をふるい起し、異体同心の強い結束のもとに一層の前進を誓ったのである。

(つづく)

従地涌出

◆いまお隣りの国中国では、民主化と平等へ目覚めた、純な学生と一般市民の改革運動で、大きく揺れ動いている。5月21日付・日経では『老害・批判高まる』という小見出しで『中国の指導者で、はっきりした哲学のある人はいない…老い先短い人に、この国の将来を決められては適わない。』という中国・清華大学学生の声を載せていた。◆老害とはなかなか厳しい批判である。これから社会は、特に日本は高齢化社会に向かおうとしているのに！　しかしこの長寿ということが確かにいろいろの分野で問題を生んでいることも事実だろう。様々な組織の世代交替の面で、特に多く聞くようだ。発展している組織と低迷している組織、この差がどこにあるかはここで論ずるまでもない。◆ところで門連各派内ではどうであろうか？『妙法お題目』の総弘通・世界に向けての一大施策はなされているだろうか。来るべき21世紀という未知の社会に向けての対応を、次代を担う若手を育てて、真剣に改良実践に取り組んでいるだろうか。そこには旧態依然とした『壁』が立ちはだかっていないだろうか。老驥千里を思うとは言っても、駿馬も老いては駄馬に劣るという面もあるわけで、長年積み重ねて来られた徳や功績が、執着という醜さの為に、最後で総てを否定されてしまうことのないように念じたい。◆こんな内側の小さな問題や隣の国の問題にうつつを抜かしているのではなく、生命倫理の問題・環境汚染の問題・四簡格言批判などの宗義問題等々、門下弟子檀那一統が立ち向かわなくてはならない『外側からの問題』は山積みして迫っている事実に目を向けなければならない。そして、この点こそが経験深い老聖方が、責任もって解答し、指標を示すべき役どころであると思う『万事を聞いて謗法を責むべし』『身をば死すとも法をば弘めよ』と仰せの御妙判を身にしみて考えなければならない。

(F記)

シリーズ門下御本山巡り 6

大本山妙蓮寺（本門法華宗）

後醍醐天皇の勅許、本門八品正意の根拠地



大本山妙蓮寺
京都市上京区寺ノ内通大宮東入　〒602 tel.075-451-3527

大本山妙蓮寺は、宗祖日蓮大聖人より帝都弘通宗義天奏の遺命を受けた日像聖人によって、永仁二年に創建された。

日像聖人が遺命を果たすため鎌倉より京都へ上られた時、五条西洞院の柳酒屋は深く聖人に帰依し、未亡人は邸内に一宇を建立して聖人を請し、卯木山妙法蓮寺と称した。これが妙蓮寺の縁起である。（柳の字を二つに分けて卯木山という）

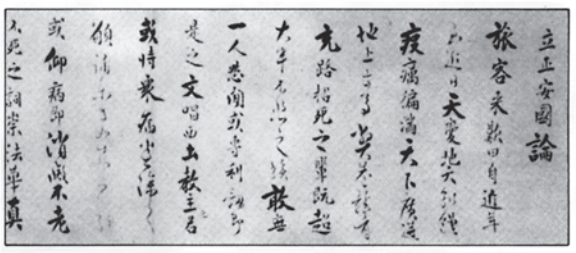
しかし、他宗の僧侶から邪見の人と謗られ、悪口怨嫉数知れず、無智の俗衆は説外道論義と謗って杖木瓦石を加え、弘通を障碍し、ついには精舎を破却した。

帝都追放も数度に及び、妙法蓮華寺は廃寺の運命をたどる。

その後、赦免帰洛の勅許を得た聖人は、ついに後醍醐天皇より一宗弘通の公許を得ることができ、ここに勅願寺妙顕寺が建立された。

その後、応永年間に本迹勝劣、本迹一致の論争が起こり、その論争を契機に妙顕寺を離れた日存・日道・日隆・日慶聖人らによって、柳屋の地に本門八品門流として再興された。

教学は、日隆の本門八品正意をとり、一宗としての独立を宣言した。寺域を堀川四条に移し、皇室ならびに伏見宮家と関係深い日応僧正を迎えるにおよび、皇族はじめ足利将軍義尚等の参詣多く、また、今出川家の公達日忠聖人は三井寺より改宗して当寺に投じて学室道輪寺を創建し、本化教学の道場を開く。


立正安国論【重文】本阿弥光悦写筆

ここにおいて妙蓮寺は隆昌を極め、山門の様式も格式高いものとなった。その間、各日蓮門下の高弟らも続々と上洛し、弘通を展開し、京都市中は、題目の声一色となったという。

天文五年には、日蓮法華宗の隆昌を妬む比叡山天台宗を筆頭に諸宗の僧俗十万人によって襲撃され、妙蓮寺も二万人をもって防戦したが、京都市中にあった日蓮門下二十一本山は、ことごとく灰燼に帰し、堺に立ち退いた。

天文十一年、大宮西北小路に復興され、天正十五年には、豊臣秀吉の聚楽第造営に際して現在地（堀川寺之内西入）に移転した。

当時は、一平方キロの境内に塔頭二十七ヶ院を有する大寺院であったが、天明八年の大火によって、そのほとんどが焼失し、わずかに宝蔵、鐘楼を残すのみとなった。

寛政元年より漸次復興して、現在に至り、塔頭八ヶ院を有す。

かずかずの宝物

宝蔵が焼失よりまぬがれたこともあって、宗祖以来の御真筆御本尊や日像菩薩祈雨の御本尊、伏見天皇御宸翰、本阿弥光悦写筆の立正安国論など多数の宝物、重文を有する。

なかでも、桃山時代の障壁画は、長谷川等伯とその一門の手により画かれたもので、注目に価する。また、伏見城より移したとされる玄牝石（臥牛石）を中心とした十六羅漢の石庭は、桂離宮を造庭した玉淵坊日首の作として、有名である。今年も京都市主催の『京の冬の旅』雅コースに選出され（三回目）、多くの観光客でにぎわった。会期中におとずれた外国人の中には、臥牛石を見て、スペースシャトルの様であると感想を述べた人もおり、ものの見方、感じ方の底にある文化の違いを感ぜずにはおれなかった。

妙蓮寺は、椿『妙蓮寺』という品種の本家でもあり、海北友松の画と徳川家康の賛が残っている。この賛の原文は、室町時代の有名な連歌師である自然斉宗祇のものとも伝える。いずれにせよ、今から四、五百年以前より存在することは確かである。原木は、昭和になって焼失したとあり、現在の椿は二世である。方丈中庭の椿が最も妙蓮寺椿の特徴である梅芯の形をしており、十一月の終から三月末まで咲き続ける。

普段は、拝観を謝絶しているので、葉書などであらかじめ申し込んでおかれると拝観することができる。

人気のある参籠

本坊（方丈）は、参籠が可能で、年間を通じて外国人に人気があり、妙蓮寺に泊まると英会話の実践ができるとあって、わざわざ泊まりに来る常連の日本人もいる。宿泊できる部屋は、十六羅漢石庭に面した部屋や、昭和の襖絵（幸野豊一作）をめぐらした部屋で、いずれも部屋というよりは、表書院、奥書院の一部で、二十四畳に床の間、縁側つきという大広間にたった一人の宿泊客といったぐあいである。これも、寺の法要儀式の日程の都合もあり、予約が必要である。

本山行事は、春秋彼岸会、盆という通仏教行事の他、主なものは、春季大法要（本末歴代年忌法要・檀信徒志霊法要）、宗祖御会式、開山日像菩薩御会式などである。

八品重視の今日的意味

本宗の宗名は、妙蓮寺が再興された当時の教学者である日隆聖人の教義に依り、日隆聖人（門祖）が用いられていた『本門法華宗』を公称している。

本門は、本迹勝劣の義より、本門をとり、八品は、法華経涌出品十五より嘱累品二十二までの八品をとる。八品をとるといっても、他品を読まないわけではなく、教学上、この八品を重視するのである。

本宗の教義は日隆聖人より始まったという立場をとる人もあるが、むしろ、宗祖・日朗・日像・大覚・朗源・日霽と受け継がれた法灯の真実義が日隆のいう八品正意であるとの立場に立つものである。つまりは日蓮大聖人のみ教えを高揚解説したのが日隆聖人の教学であるという立場である。この辺のことは、各宗門宗派によって、それぞれの立場があることでもあり、共に同門として連合連帯してゆくことが宗祖の願いでもあるから、謙虚に研鑽をかさねなければならない問題である。

我が一方だけが正しいと主張しあっている間は、お互いを理解しあうのは難しいであろう。

像師六百五十年遠忌

妙蓮寺は、平成三年には、日像菩薩六百五十年御遠忌を迎えまたその三年後には、妙蓮寺開創七百年を迎えようとしている。

妙蓮寺と同様に日像菩薩を開基・開山と仰ぐ京都の本山、寺院は多数有り、報恩のまことを捧げる機会は多いのであるが、京都以外の日蓮門下寺院や檀信徒が、日像菩薩のことをほとんど知らないという現状は悲しむべきことである。

日像菩薩と直接かかわりのない門流にあっても、日像菩薩が一宗弘通の公許を得られた恩恵に浴していない門流はない。また関西以西の法華弘通は、日像菩薩を中心とし、弟子の大覚大僧正の祈雨祈禱によって、日蓮・日朗・日像に大菩薩号、菩薩号を賜ったのである。

このように日像という人は、日蓮門下にあって、重要な役割をはたされた人で、門下をあげて、報恩のまことを捧げていただきたいと切に願い奉るしだいである。

最後に日蓮聖人門下連合会の益々の御発展と和合を祈ります。

21世紀へ



豊かさを深める——

東急観光は、
皆さまの身近な旅の
コンサルタント。

さまざまなカタチをかえてひろがる旅の需要にあらゆる輸送機関、宿泊施設の予約、手配をはじめ、コースのご相談旅行プランのいろいろなど幅広いサービスをご提供して、数えきれないほどの人びとに確かなご満足をいただいております。

豊かな感動のステージへ——
TOKYU TOURIST 東急観光
運輸大臣登録一般旅行業第38号
本社/東京都渋谷区渋谷1-16-14 〒150
phone.03-407-4044

とうきゅうグループ

門連時報

法華経寺聖教殿修復なる



修復なった聖教殿

中山法華経寺聖教殿は大正十五年十一月起工され、昭和五年六月に完成をみた。伊東忠太博士設計・内田祥三博士の構造設計により、建築委員長・山田三良博士、工事請負人・清水釘吉氏によるものであった。ちなみにその工費は弐拾余万円であったという。

昭和三十四年六月～三十五年四月にかけて工費壱阡百余万円により外部修理工事が行われた。

昭和六十二年九月、長瀬日還貫首入山されるや聖教殿の漏水等につき抜本的な改修を発願、重要文化財祖師堂の改修工事と共に調査開始、六十三年六月、聖教護持財団理事会を開催して改修に関する大綱を決定した。工事を担当した清水建設㈱は六十三年八月工事開始、主な改修は第一扉、第二扉の補修塗装工事、屋根ドームタイル貼り替え工事、外壁石目地補修工事、明かり取り窓補修工事、内壁木部クリーニング工事、外壁クリーニング工事等であった。

ドームタイルは既存タイルを全て撤去し、特注品25ミリメートル角、厚さ6.4ミリメートルの特注品を使用した。又外壁石目地補修については劣化した目地モルタルを撤去し、漏水部に樹脂を注入して防水処理を施し、新規の目地モルタルを詰めた。総費用三千三百万円。

施行期間中御聖教は全て国立民俗博物館に御移しして格護に万全を期した。

二月二十八日、御聖教奉遷、御聖教殿修復完成奉告式が挙行され、長瀬日還貫首導師の下法味言上、宗務院、聖教護持財団、地元宗会議員、所長等が参列した。

祖廟輪番給仕奉行さる

国柱会により四月二十九日・三十日の二日間

国柱会主催による祖廟輪番給仕は去る平成元年四月二十九・三十の両日、身延山の祖廟前にて厳粛に挙行奉仕された。

本給仕は、日蓮聖人門下連合会の規約にうたわれている「祖廟中心」の精神を体現して、その充実を目指し、毎年行われている恒例の行事である。

今年は、第五十九回国柱会身延登詣団に引き続いて行われた。

四月二十九日午後十二時、林蔵坊に集合した奉仕団は、まず田中香浦団長名代らが身延山久遠寺当局に赴き、当局から「輪番旗」をうけ、早速常勤給仕を開始した。

この常勤給仕は二人制と三人制によって行われ、それぞれ一座三十分で交替、翌三十日の午後三時にいたるまで、昼夜不断の唱題給仕を奉行するもの。

今回参加の奉仕員は団長以下総勢四十六名に上り、老若男女とりまぜた参加があったが、全員厳格に定められた輪番行規にもとづき、整然とした給仕がつづけられた。

ちなみに、祖廟輪番は日蓮聖人門下連合会の要請をうけ、身延山当局が、門下全てに解放されて実現したもの、また奉仕の行規については各派教団独自の行規を認め、各派自主的に常勤できるようになっている。

今回行われた国柱会による輪番行規を参考までに記しておくと、㈠着座、㈡三礼、㈢献香、㈣唱題、㈤鈴法、㈥交替、㈦式監の各項にわたり細部にわたる規則が定められ、至心合掌の精神でそれらの規則の根底が貫かれている。

服装についても厳粛なすがたを現出させるため、規定されている。

輪番中の宿舎林蔵坊での起居生活態度は、まず相互に合掌の礼を正しく行うことが要求され、食事はすべて修行食、時間の厳守や居室内の整理整頓などの留意事項が示され、奉仕期間中の外出は禁止され、まさしく心・身ともに、大聖人いますがごとくに給仕申し上げる姿勢が徹底された。

尚、国柱会より日蓮聖人門下連合会事務局宛に以下の報告文が提出された。

合掌　青葉の候、益々御精栄にて為法御精進の御事大慶に存じます。

陳者　このたび日蓮聖人門下連合会を代表して国柱会が奉行した第二十五回の大祖廟輪番給仕は佛祖の御加被のもと、団長田中国柱会会長以下四十六名を以て四月二十九・三十日の二日間にわたり、清浄の霊気みつる大祖廟まじかに昼夜不断の唱題給仕を奉行し、無限の法悦と感激をもって諸縁吉祥裡に成満いたしました。

その節は、格別の御高配をたまわりましたこと、衷心より感謝申し上げ、ここに今回の身延祖廟輪番給仕の円了をご報告いたします。

なお御参考までに別紙参加者名簿および輪番給仕要項を同封いたします。

平成元年五月四日

国柱会本部

日蓮聖人門下連合会事務局御中

追伸　明年の第二十六回は、期日が決定次第お知らせいたします。

布教誌・紙の紹介

日蓮本宗「要法」 ①



◉宗教団体の機関誌・紙はその姿勢に外向けと内向けの二大別があるようだ。対外面に力を注ぐと対内面がおろそかになり、逆に対内面を重視すると対外的なテーマが見失われがちになる。

◉しかし本来はこの両面がバランスよく編集されていれば問題はないのであろう。

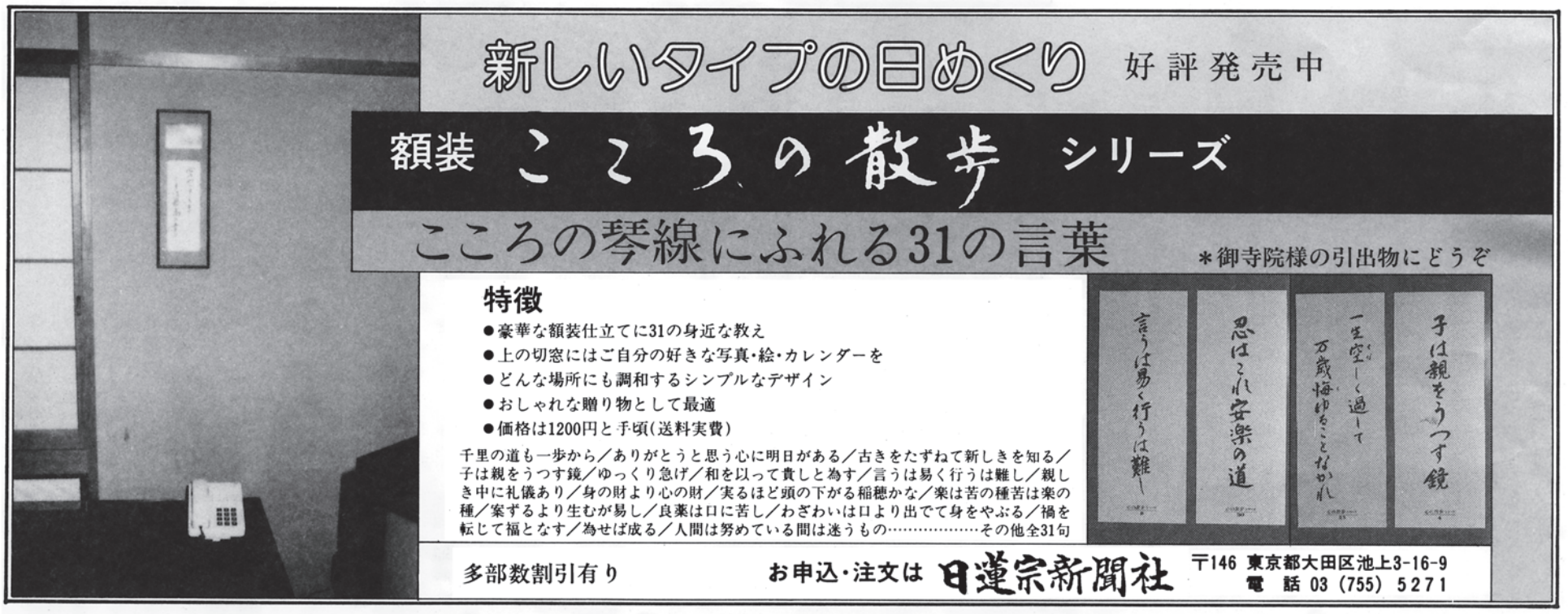
◉編集内容については、掲載記事自体の問題もあるが、文意を読者に確実に伝えることと、読者にあきさせないで読んでもらうことが必要だと思われる。そのためには、読者にとり、最大必要な情報を掲載することが何よりだ。

◉教団機関誌・紙をそのように考えてゆくと、その理想的な相は教団の教義や組織論や行動論が理解しやすく、かつ時宜を得て教団内に徹底させることが、ただちに外に向けての宣伝の材料に役立つ、ということか。

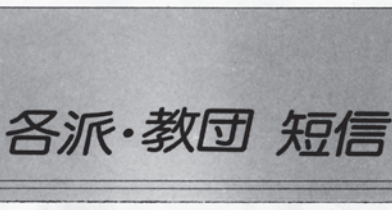
◉今回紹介する日蓮本宗の機関誌である「要法」はその点、同宗の組織に属するメンバーにとっては、貴重な情報源である。しかも全宗的な動きが要領よくまとめられ、こまめなきめ細かい記事は、編集者の心配りがよく伝ってくる。

◉同誌は、年二回の発行（必要に応じて増刊されることもある）で、七〇〇〇部発行されている。毎号28頁建で、一頁には貫首猊下の巻頭文が掲載され、報道につづいて〈信行正軌・御妙判解説〉と題した教学解説欄、〈梨一葉〉欄は宗義に関するテーマをエッセイ風に担当教師が信解を述べ、〈東西南北〉欄に全国各教区の動静を、また〈本山往来〉欄には、各自の本山における動きが細かく報道され、まことに要領よくまとめられている。

◉同宗では、昭和大修繕として本堂および開山堂屋根全面修復を手がけているが、本堂のそれは完了し、開山堂にとりくんでいる。工事関連の写真入報道など興味が深い。（編）



各派・教団 短信



本門法華宗

◆一月二十七日、教学講習会開催、於大本山妙蓮寺。青年僧を対象として「教学の学び方」と題して立正大学北川前肇教授の講演。

◆三月六日、宗務院（大本山妙蓮寺）に於て宗会を開催。大本山妙蓮寺開基日像菩薩六五〇遠忌並びに大本山妙蓮寺開創七〇〇年奉行に向けて本格的に始動した。奉行委員会規程、奉行特別会計予算、吉村信尚宗務総長を委員長とした奉行委員会委員の選定等を可決し、この事業に伴う平成元年度本門法華宗予算、学院予算本山予算を承認可決した。

◆三月二十九～三十一日、教学講習会開催、於大本山妙蓮寺。佐野管長、中村貫首、持地閑士等の講義が四〇数名の講習生参加のもと行われた。

（斉藤秀慈）

京都門連

◆本会が独自に発行している「京都門連通信」第五号が出来上り、関係先に配布された。今号では昭和63年度1カ年に於る〈この一年の歩み〉や〈本山紹介〉〈門連ニュース〉などの記事が掲載され、一面には沖日亨会長の挨拶、前理事長上田浩岳師のお礼の言葉も掲載されている。

法華宗本門流

◆去る2月25日、京都市大本山本能寺では、第百二十六世の法燈継承の晋山式が盛大に奉修された。新貫首和田日攝猊下は、松平金岳公子の名刹・高松市本覚寺の住職で、宗門にあっては四国教区宗務所長・宗会議員等を歴任され、また華道一生流家元でもあられ、行学二道兼備の上人。

◆5月15日より17日までの会期3日間、平成元年度第38次法華宗定期宗会が、東京ガーデンパレスにおいて開催された。任期満了により4月1日にて改選された議員8名による初宗会で、宗会議長には、大平日晋師、副議長には貫名時也師がそれぞれ互選された。また全国宗務所長会も5月25・26の両日、同会場において開催された。

◆サンフランシスコ仏教会開教師佐藤良純師が5月14日4年ぶりに帰国し、宗会その他において海外布教の現況報告を行った。

日蓮宗

◆昭和天皇崩御に依り、岩間日勇管長猊下は奉悼の意を表され、日蓮宗宗教院は全国の寺院教会結社へ奉悼会の厳修を告示した。

2月17日身延山久遠寺に於て管長猊下大導師のもと「宗門奉悼会」を虔修した。

◆3月7日～10日、第62定期宗会開催。於宗務院。お題目総弘通運動推進本部設置案、並びに、平成元年度予算案（13億4642万円）が可決決定をみた。

◆4月1日付立正大学仏教学部長に三友健容教授が就任した。

◆4月11日、日蓮宗綜合財団「日蓮宗布教助成会」はホテルパシフィックに於て第6回綜合財団賞授賞式を行った。今回の授賞者は布教伝道部門・小川原潮栄師（新潟県三条実盛寺住職）と、海外布教部門・アジア仏教親交会会長藤井教雄師で塩田理事より賞状、盾、副賞が手渡された。

◆3月末日任期満了に依り、4月1日付勧学院人事が一新された。勧学職＝宮崎英修、長谷川正徳、浅井円道、渡辺宝陽、石川泰道、上田本昌、中野文海、講学職＝勝呂信静、中尾堯文、小松邦彰、冠賢一、伊藤瑞叡、市川智康、今成元昭、植田観泰、沼義昭、横山邦雄の各師。尚勧学職の互選に依り勧学院長に宮崎英修師が選出された。

◆立正大学日蓮教学研究所（所長浅井円道師）ではこのほど「昭和定本日蓮聖人遺文四巻」の増補改定版を完成した。この増補改定版は昭和43年に同遺文増補版発行以来、日蓮宗宗宝審議会、立正安国会、日蓮教学研究所などで新たに確認された日蓮聖人ご遺文の御真跡断簡が盛りこまれている。改訂版は従来の正誤表をすべて本文中に組み入れ、真跡現存の遺文は照合し直し訂正している。また新発見の遺文を第四巻に増補し、訂正箇所はそのページ内で処理したため従来の遺文とページ数は変っていない。定価3万5千円。

（富川孝恭）

国柱会

◆昭和天皇の崩御にあい奉り、国柱会本部では七日間喪に服し連日奉弔法要を厳修。以後七日ごとの御忌日法要を厳修。2月12日には全国から代表が参列して奉弔大法要を厳修し奉弔聖餐会がおこなわれた。2月24日、桜田門附近に集合し御霊柩を奉送。3月5日、武蔵野御陵を参拝した。なお、報恩行として『昭和天皇の御製』を刊行し普及運動を展開することになった。

◆2月11日～12日、国柱会本部で全国局長会議が開会され支局の活性化について等協議された。

◆3月17日、神田学士会館で、『真世界』六〇〇〇号記念の集いが開催された。

（秋場善弥）

顕本法華宗

◆去る3月6、7、8、の3日間第43定期宗会が総本山妙満寺に於て開催され、前年度事業、決算等の承認に合せて、平成元年度事業計画、予算案等が承認可決された。

殊に、前年昭和63年7月に開堂されたブラジル顕本寺の動向が報告され、今後の布教並びに運営上、一層の強化補助をかさねて行く方針が決議された。合せて顕本寺支援基金を勧募し、将来的に現地より後継者を日本に招き養成する必要も有り、顕本寺の拡充発展の為の裏付けとしていくことが確認された。

（朝倉俊幸）

日蓮本宗

◆昭和63年8月末日をもって本堂屋根修復工事を終えた本山要法寺は、引き続き同年9月3日に起工式を奉修して「開山堂」屋根修復に着工。本年9月末の完工を目指して着々と工事が進んでいる。来る10月13日に「両堂屋根修復完工式」を行う。

◆同本山では両堂屋根修復の成満を記念して「本山常備法衣」を調製する。これは、門末全教師統一の法衣五条袈裟（いづれも本麻製）を調製して本山に常備し、御会式を始めとする本山法要に着用するもの。本人が遷化したときは、これを「臨終衣」として下附する。

◆同本山では、5月8日に御開山日尊上人第六四五年の「御開山会法要」を厳修。併せて第十九祖日成上人第三百五十遠忌と第四十八祖日誨上人第二十三回忌を奉修した。同日午前には、全門末檀信徒で組織している「要法護持会」の第19回全国分会長会議を開催した。

（柳下義真）

法華宗真門流

◆昭和63年4月、総本山本隆寺開創500年慶讃大法要に、仏縁深い後柏原天皇・明正天皇・明治天皇、三天皇の追福法要奉修の節、崩御された昭和天皇より格別の思召をもって、御菓銘「手折桜」御下賜の光栄に浴する。

◆同年4月20日御下賜御礼のため管長猊下・宗務総長・執事長・宗務参与の四名が皇居吹上御所西車寄せより参内「天皇陛下賜物御礼簿」に記帳し、深く感謝の念を表わす。

◆同年9月19日より「天皇陛下玉体安穏」のご祈願を始め、21日には管長猊下と前記宗務庁役員3名が宮内庁坂下門より参内。吹上御所にて、待従を通じて「御宝牘」を奉納の上、「両陛下御機嫌伺簿」に記帳する。

◆昭和64年1月7日、昭和天皇崩御の悲報に接し、ただちに総本山本隆寺のご宝前にて、奉弔法要を修し奉る。

◆平成元年1月9日、管長猊下と前記3名が弔意を表するため、皇居吹上御所西車寄せより参内し、奉弔記帳する。

◆同年1月30日、午後5時、皇居吹上御所北車寄せより参内、林日圓猊下、殯宮に祇候し、昭和天皇の御冥福を祈り奉る。

◆同年2月10日、昭和天皇五七日忌御正当。当日の午後1時を期し、宗門あげての中陰奉悼法要を修し奉る。

◆同年2月24日、大喪の礼当日午前8時、管長猊下、宮内庁坂下門より参内し、宮内庁差し回しの車にて新宿御苑へ出発する。到着後、左幄舎に入り、葬場殿の儀・大喪の儀に参列合掌。宗門の至情を代表し、御霊の永遠のご平安を祈り奉る。

◆同年3月9日、午前10時、宗務総長・執事長・宗務参与の3名が、武蔵野御陵に参拝し、総長導師により読経唱題、昭和天皇御霊の追福を祈り奉る。今もなお昭和天皇のお人柄と御遺徳に宗門は限りない敬慕の念を捧げている。

（吉田勝秀）

法華宗陣門流

◆2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺会」が貫首野口日騰猊下の導師のもとに厳修された。例年通り約1万人の人出の中、雪国越後の行事として、鬼踊り奉賛会による鬼踊りは有名である。今年は鬼の面を新調し、節分会をさらに盛り上げた。

◆3月3日遠州の名刹鷲津・別院本興寺ご山主第四十六世鈴木日艸上人の晋山式が厳修された。

◆5月9日・10日平成元年度三宗統合協議会（顕本・真門流・陣門流）が顕本法華宗の当番宗のもと、北陸山代「山下家」を会場に開催され、協議事項は、1、統合学院学生講座に関する件、2、聖訓カレンダー発行に関する件、3、日蓮門下連合会に関する件、4、協議会の新しい共同活動について等である。

（江坂隆俊）

日本山妙法寺

◆昭和63年1月8日・9日両日熱海道場にて行勝院日達上人第4回忌厳修、2月25日は、行阿院日蘇大法尼第60回忌法要後身延山参詣。同日スリランカ仏足山仏舎利塔10周年法要、28日アンパーラ仏舎利塔落慶式。

◆昨年12月12日印度多宝山を出発した行進団は1月11日ダージリン到着、日蓮宗青年僧御参加。2月10日百里原基地→焼津ビキニデー行進出発。3月12日はフィンランドのワルシャワを出発した行進は東ドイツ西ドイツベルギーを経て5月28日ロンドン仏舎利塔到着。4月2日シカゴ発の行進は4月16日メイン州バンガーを出発の行進其他と合流国連本部に入場。4月18日、唐招提寺を出発した寺沢師一行は鑑真和上、日達上人招来の仏舎利を奉じて各宗本山を巡り世界13ヶ国を歴訪平和を訴え国連軍縮総会入場。4月27・28日清澄立宗会法要後、広島長崎向け平和行進出発、平和式典参列長崎へ出発し式典に参列。6月26日韓国光州の日本山開堂供養宝塔開眼式挙行。7月9日長崎→広島の行進は印度国会議員スニルダッタ氏を中心にして日蓮宗青年僧の企画に日本山も参加。

8月6日より40日間のニカラガ・マグアナ革命広場での立正安国即時停戦を祈る3回目の断食は笹森師単身敢行し米国議会でのコントラ援助否決せしめた。8月7日広島→北海道へのインデアンの一行は約3000キロをマラソンで走破し祈りを捧げた。千鳥ヶ淵終戦記念式典に参列。

8月24日熱海道場で西天開教記念法要、翌25日身延参詣。10月18日→31日の沖縄平和行進は日蓮宗外各宗御参加。

◆天皇陛下御発病以来御大喪迄行進団其他各位宮城御祈念続行。

◆10月10日多摩道場その他にて帝都弘通の先師山村行善上人第50回忌を営む。10月12日池上御会式に参拝。12月1日より7日迄臘八断食。8日釈尊成道会法要各道場にて営む。

（石山善邦）

本門佛立宗

◆京都本山宥清寺に『弘安2年御作の御尊像』として護持されている『日蓮聖人座像』が、鑑定の結果、『数多く作られた日蓮肖像のうち、極めて少ない古例。経巻・笏を持つ説法形式像の先駆的遺例である』（京都新聞）、鎌倉中期の作として、このほど国の重要文化財に指定された。

◆5月2日、東京六本木のサントリーホールにて開催された『芥川也寸志・追悼コンサート』の中で、本宗から兼ねて依頼してあった開導百遠諱記念の日扇聖人奉賛歌『いのち』（オーケストラと混声合唱の為の・なかにし礼氏作詞）が、故人の遺作として世界初演され絶賛を博した。

◆開導百遠諱正当年、各地の別修法要が盛り上がっている。5月6日には九州地区が阿蘇のふもとに、三千人の若人の祭典を夜の高原に繰り広げ、翌7日には一万四千人、21日には大阪地区が大阪城ホールに一万一千人を集め、それぞれ大法要を勤めた。

◆7月17日、本山宥清寺にて『開導百遠諱御正当ご祥月法要』が、全国寺院住職・局長の参列で営まれることになっている。

国柱会本部編

昭和天皇の御製

（御製順別）歌会始…五十六首　国　民…五十六首

国　土…四十六首　文化・産業…三十三首

ご先祖・ご親族…六十一首　旅…四十六首

自然・動植物…四十五首　感　懐…六十三首

（序文）田中　香浦

（あとがき）大窪　梅子

若い世代にも理解できるように、語釈と解説を付した御製集。

普及運動展開中（頒布価格◉一部二五〇円）

【お申し込み先……国柱会本部へ。詳細は国柱会本部までお問い合わせ下さい】

発行◉真世界運動本部

〒132　東京都江戸川区一之江六の十九の十八　電話〇三（六五六）七二一代

ファクス〇三（六五六）九六二〇

新書判上製160頁（非売品）

日蓮聖人門連だより

門連結成三十周年記念事業

平成２年１月15日
第８号

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

三本柱の門連 骨格固まる!!

京都理事会 十一月十六日 妙覚寺にて開催

平成元年度の京都理事会は錦繍の洛北、日蓮宗本山妙覚寺を会場に開催された。門連結成三十周年を明年にむかえるとあって、内容の充実した報告、討議が熱心にくり広げられた。中でも三十周年記念諸事業の決定は異体同心の盛り上がりをもたらし、また北海道門連結成、大阪門連活動状況の報告は、門下連合の輪の着実な拡がりが強く感じられた。

平成元年十一月十六日、京都は例年になく温暖、街中の樹々はまだ紅黄味を帯びた葉をしっかりと保っていた。

当日ソ連の高官が京都を訪れるということで、駅はもちろん、街中いたるところに警備の警官が立ち物々しい警戒ぶり。



白熱した討議のつづく理事会

京都理事会での楽しみのひとつに会場である本山寺院の沿革を聞かせていただくことがある。文書では目にしている本山の沿革だが、その場に臨み、しかも当山の貫首猊下や宗内のしかるべき方々から直々その説明講演を拝聴するとまた違った感銘を持つ。ありがたいことと思う。

妙覚寺の沿革については、関根竜雄貫首より講演をいただいたが、ここでそのすべてを書き留めることが出来ない。残念である。いずれ本紙連載中の〈本山めぐり〉にて、その欠を補うことでお許しをねがっておきたい。

そうした中、本日の会場である妙覚寺には各地から門連役員各聖が参集、昼食ののち、本堂において法要が開始された。

妙覚寺貫首関根竜雄猊下導師のもと、荘厳な式典は滞りなく終り、記念撮影を本堂前で行ったあと、会場を書院に移した。

本日の会場である本山寺院の沿革を聞かせていただくことがある。文書では目にしている本山の沿革だが、その場に臨み、しかも当山の貫首猊下や宗内のしかるべき方々から直々その説明講演を拝聴するとまた違った感銘を持つ。ありがたいことと思う。

妙覚寺の沿革については、関根竜雄貫首より講演をいただいたが、ここでそのすべてを書き留めることが出来ない。残念である。いずれ本紙連載中の〈本山めぐり〉にて、その欠を補うことでお許しをねがっておきたい。

年頭の辞

日蓮聖人門下連合会理事長　澁谷直城

明けましておめでとうございます。門下連合会加盟の各派・各山・各聖におかれましては良い新春を迎えられたことと思います。

さて本年度は、日蓮聖人門下連合会が結成されて三十周年を迎えた訳でございます。振り返りますと、この間昭和四十年の門下による祖廟輪番奉仕の実現、昭和五十六年の宗祖七百遠忌に係る数々のイベント、昭和五十七年の青年の船の実施等、門下各派の宗旨を超越した形での連合体としての機能を大いに発揮してまいりましたことは、四海帰妙の祖願達成を願う日蓮聖人の門下であるという自覚に基き、なされてきたものと存じます。

近年、大阪・北海道地区の門連結成があり、また福井でも結成の動きがあります事はまことに喜ばしい事と存じます。地方門連とは更に連絡を密にし、発展のために互いに協力し合ってゆきたいものと存じます。

さて、三十周年を記念しての事業でございますが、春には日蓮宗身延山久遠寺に於いての奉告式、秋には本門法華宗の大本山であります京都妙蓮寺に於いての法要、および記念講演を計画し、また三十周年の歩みを記録した「記念誌」の発刊がございます。これらの実施に際しましては、格段の御協力をお願いするものであります。

終わりに結成三十周年の年を新たなる躍進の年とし、外に開いた連合体への発展に向けて、どうか皆様方の御力添えを賜りますよう御願い申し上げ、年頭の辞といたします。

諸事業の内容報告さる!

記念講演の余韻まだただようなか、いよいよ理事会が開議された。

座長には恒例により門連理事長・日蓮宗宗務総長の澁谷直城師が互選された。

座長は、本日の会議にあたり大阪と北海道に地方門連が結成された旨の報告と、明年に迎える三十周年の節目に向けての結束とこの二点を強調して座長就任の挨拶。

つづいて参加者全員の自己紹介。順順にてきぱきと進められ、一応全員の紹介が終了。がここで本日のため特別参加された大阪と北海道の両地区の代表者が事務局より紹介された。大阪日蓮聖人門下懇話会理事長伊丹栄彰師、北海道日蓮聖人門下連合会理事長白部健順師、同会常任理事若林宣竜師である。

伊丹、白部、若林各師が紹介されるや、会場からは大きな拍手が鳴り響き、遠来の同志の参加に惜しみない讃美の意が表された。

門連にとって今回こうしてあらたに大阪と北海道、また地元京都と三組織の地方門連が結集したことは一歩前進である。そしてこの一歩の歩幅は大きい。決して小さくはない。

平成元年上半期事業報告は事務局の柴田幹事より淡々と報告された。

○理事会・常任理事会、○「日蓮聖人門連だより」関係、○地方門連結成関係、○人事、○事務局、の各項目。

つぎの報告事項は京都門連事業についてである。

この報告は京門連理事長の藤田尚慈師から、二月降誕会、四月開宗会、八月夏期大学、十月お会式の各項目につき要領のよい説明報告があった。毎年行われているそれぞれの会合も年を追うごとに盛況さを加え、京都での名物行事になっている面もあるなど、耳を傾けさせる内容である。

今後のますますの発展を祈念したい。

最後の報告は、各地区門連の現状である。

まず大阪門下懇理事長の伊丹栄彰師から結成以後の活動、また将来に向けての企画につき、本紙七面に写報されているごとき講演会開催も含めて力強い報告があった。講演会開催の詳細は門連時報を参照ねがいたい。

新結成ほやほやの北海道門連については同会理事長白部健順師が担当。

これもまた七面の写報にゆずるとするが、現時点における参加状況はおしらせしておきたい。すなわち、法華宗真門流十五名、法華宗本門流九名、日本山妙法寺二名、国柱会六名、日蓮宗六十四名、計九十六名の参加を得ている。

北海道という地理上の問題点もあって、今のところまだ全道的な広がりは見せていないが、札樽地区を臍としてまずは位置づけ、ゆくゆくは全道に広げてゆきたいとの意向も合わせて表明報告された。

三十周年記念事業決定!

さて、上半期の事業報告が異議なく了承されたあとは、案件討議である。

事前の二回にわたる常任理事会で詰められたテーマは、明年にひかえた門連結成三十周年記念事業内容についてのもの。

本日のクライマックスというか、真打ち登場か、ともかくいかなる事業内容が用意されているのか、固唾をのんで待ち受けた。

連合体としての活動には、自ら限界があることは百も承知している。一組織体が行う活動とはまた異った知恵を働かせて企画しなければならない。そんな背景をもち、最大効果が期待できる方法論となると、三十年にわたり築きあげてきた門連方式とも称すべきスタイルに落ち着かざるを得ない。その基底にどのような時代展開を付加してゆくのか、あれこれ思いをめぐらせていた。

そうしたなかで、発表された案は三本柱ともいうべきものであった。

①は平成二年度の身延祖廟参拝時理事会をその奉告式典、各派管長猊下の参加を仰ぎ大々的に挙行する。②は平成二年度京都理事会を妙蓮寺において行うにあたり、合同して記念の行事に充て、追悼法要のあと記念講演会、そして大祝賀会を検討する。③三十周年記念誌を発行する。

報告されているごとき講演会開催も含めて力強い報告があった。講演会開催の詳細は門連時報を参照ねがいたい。

新結成ほやほやの北海道門連については同会理事長白部健順師が担当。

これもまた七面の写報にゆずるとするが、現時点における参加状況はおしらせしておきたい。すなわち、法華宗真門流十五名、法華宗本門流九名、日本山妙法寺二名、国柱会六名、日蓮宗六十四名、計九十六名の参加を得ている。

北海道という地理上の問題点もあって、今のところまだ全道的な広がりは見せていないが、札樽地区を臍としてまずは位置づけ、ゆくゆくは全道に広げてゆきたいとの意向も合わせて表明報告された。

従地涌出

◆平成二年の新春を迎えた。本年は午年である。◆馬という動物は、野生のままでは性質が粗暴で行動が荒く、いかにも自分の意欲を満たさんがために、そのすぐれた体力にまかせてあちらこちら所かまわず駆け出し、疾走してやまないものだ。◆しかしこの野生の馬を飼育し、調教するならば、もともと判断力も記憶力もある利口な動物だから、従順になって人によくなつき、人間の言葉や態度も理解するようになるので、人間にとってはたいへん便利な動物である。◆日蓮大聖人の御遺文の中にも馬についての観察があり、とくに大聖人が身延より召された栗鹿毛の馬に対する愛情が綿々と記されているが、馬は、昔から交通機関や軍用の騎馬として、また輸送や農耕に、あるいは競馬などに利用されてきたことはだれもがよく知るところである。◆仏典の中でも、四天下統一の理想的名君である転輪聖王が出現するときに掲げる七種の国宝中に、馬宝といって馬が入れられているほど、馬は人間の生活にとって重要至極な家畜であることはいうまでもない。◆さて、人間も、野生のままの凡人の心は、意馬心猿(いばしんえん)といって、馬や猿の心のように落ち着きがなく、常に貪欲、愛欲等の欲望に乱され、心外の世界を駆けめぐっていろいろなものを追い求めている。◆だからこそ、私たち野馬のごとき凡人としては、心馬の調教に勤め、心の煩悩を調御し、強盛の信心をもって精進しなければいけないのである。(丈)

シリーズ門下御本山巡り ❼

本門佛立宗本山宥清寺

佛立開導日扇聖人修学の地。口唱・聞法の道場として興隆



本門佛立宗本山宥清寺
京都市上京区一条通七本松西入 〒602 Tel 075-461-1166

宥清寺の沿革

当山は、遠く延慶元年（一三〇八年）に高祖直弟十八中老の一人越後阿闍梨日辨聖人によって開かれ、京都二条青柳定家（藤原定家）の末裔を教化し、定家の旧跡を寺院としたもので、もと青柳山本門寺と称し、京都に於ける日蓮門下最古の寺であります。

その後、応仁の戦乱を避けて丹波亀山（現在の亀岡）に移り、再び慶長四年（一五九九年）京都（近衛通）に帰ってからも、小川挽木町（慶長十六年頃）等、転々と移りましたが、元禄七年（一六九四年）京都御前通一条下るにあった宥清寺を求め「青柳山宥清寺」となり、鷲山寺から妙蓮寺の末寺となりました。

開導日扇聖人が、大津追分の第一回御法難（慶応四年七月）の後、明治二年、無住に近い宥清寺に佛立修学所として入寺され、此処を佛立講の根本道場と定め、弘通に当られてから寺門は急速に興隆してきました。

明治十三年には、翌年の高祖六百回御遠諱では、宥清寺を口唱の道場、親会場を聞法の道場として、一万数千人の参詣を受け入れてつとめられました。明治十六年、開導聖人は、後事を第二世講有日閑上人に委ねられて、自らは麩屋町のお館（現、長松寺）へ移られました。

昭和六年八月、高祖六百五十回御遠諱を迎えるに際して、下の森滝ヶ鼻町（現在の本山）に佛立講根本道場の御宝前をお遷しし合祀申し上げました。

昭和十六年三月佛立講に属する寺院教会を門末として、独立本山となりました。それ以後、本門佛立講は本門法華宗と宗門行政のうえでも独立した組織をもつに至り、独自の弘通活動を行うことになりました。

開導聖人御墓所について

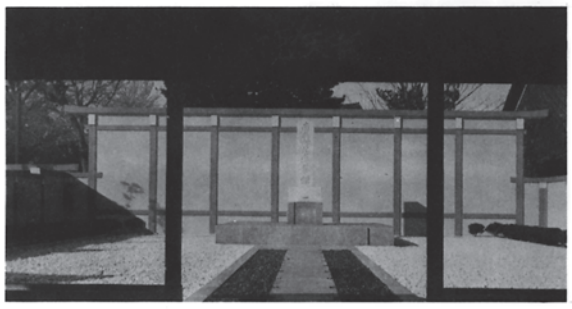
御前通り旧宥清寺跡には開導日扇聖人の御墓所があり、現在は佛立霊地と称しています。

当初は霊地の裏の墓地の一番奥に、開講以来共に御苦労されたご信者方のお墓に囲まれていました。

そこには大尊師御自ら墓碑を建立せられた墓所があり、即ち明治十九年七十歳の時、中央に自筆首題、両脇に本門八品上行所伝、如是本尊但限八品と刻して、裏面には明治十九年四月一日、長松清風生年七十歳建立と刻まれています。大尊師ご遷化後、此処にご遺骨を納められたのであります。

明治・大正・昭和と本門佛立講は弘通拡大し、昭和三十一年に開講百年をお迎えしました。

その数年前から本山中心主義が宗制によって具体化され、本山参詣、



佛立霊地開導聖人御墓

昭和二十二年に宗教法人令にもとづいて本門佛立宗が本門法華宗から独立し、昭和二十七年の宗教法人法の施行によって、宥清寺は本宗の宗制の中で、独立した本門佛立宗の本山としての地位、権威、伝統等が明文の規則をもって規定されるに至りました。

人の面においても、佛立第九世講有日聲上人の代に本山宥清寺の住職が講有位に就かれることとなり、それ以後の御講有は、晋山式を本山で挙げて佛立嗣法となられるのであります。

本山奉仕が盛んになるにつれて、開導聖人のお墓は、もはや京都だけのものではなく、全国門末から続々と参拝するご信者方から見ると、「京都以外にある歴代講有のお墓に比べても、その恩師であり開発教導の師である大尊師のお墓は余りにも簡素で勿体ない」という声が多くなり始めたのであります。

昭和三十八年、第十五世講有に晋位された日晨上人は、昭和四十一年、旧宥清寺跡にありました児童福祉法人積慶園を、さらによい環境の洛西桂、樫原の地に移転させ、昭和四十二年、旧宥清寺を解体した上で、積慶園の跡地を荘厳し、昭和四十三年、裏の墓地から大尊師のお墓だけお出まし頂き、佛立霊地としたのであります。

開導百遠諱ご正当の年をお迎えし、御墓所のご荘厳について種々検討させて頂き、中央のお墓は現在のままで、お墓の台石を広くして宝塔はお厨子形にし、四本の柱を建て、お墓の左右には燈籠、花立て、中央に香炉を荘厳させていただき、玉垣を四方の基盤石の際に沿ってやや低い目にめぐらし、より一層の荘厳をさせて頂くことになりました。

（平成元年六月完成）

高祖手自開眼御霊像

重文国指定に至る概要報告

此度本山宥清寺「高祖手自開眼御霊像」が国の重要文化財の指定を受けました。（平成元年三月二十九日付全国紙朝刊既報）

御霊像は、弘安二年（一二七八年）中老和泉阿闍梨日法上人高祖御尊影をお刻みし、高祖御自ら御開眼せられ、すでに絶対の信仰の対象として宗門に伝承し、永年に亘って連綿と護持遊ばされるところの宗宝であります。殊には開導聖人が、「清風の身体は本堂の生身の尊像の御ひざの下にあり」「清風がたましひのすえ処乃至からだは尊像のみまへに合掌平伏す」とご指南お示しの如く、親しく尊信恭敬お給仕をせられた生身の御霊像であります。この御霊像は調査の結果、鎌倉後期の造像で、信仰対象としての説法像として定型化された我国日蓮祖師像の先駆的存在である、との見解を得るに至ったのであります。

これまで日蓮聖人の祖師像として、重文の国指定になるものは、東京池上本門寺の祖師像（像内銘より聖人ご滅後の御七回忌の砌、正応元年、一二八八年の造像）ただ一躰であります。ところが本門寺の御像は法衣のみでお袈裟を着さず、実物の法衣お袈裟をお着せする所謂着装像といわれる特異な存在なのだそうです。即ちお袈裟にある祖師の伝承が無い訳です。

こうして一方で傍証として集めた資料中の各本山や古い歴史を有する寺院の、各祖師像との比較検討と合せて、最終的に本山宥清寺の御霊像は、「信仰対象としての定型化された祖師像の優れた先駆的作例としての意義を有する我国最古の存在である」との位置づけがなされたのであります。

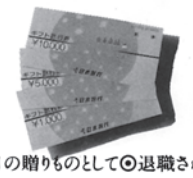
此度の御霊像の重文国指定は、こうした絶体の信仰対象の上に、さらに国の最高権威としての学術的評価が加わったことで、宗門永年の伝承が客観的に実証され、強いては開導聖人が御魂たる御指南が、計らずも如実顕証せられることとなった次第であります。

旅する人のそばに
信頼のカード



「赤い風船カード」にご入会いただきますと自動的にUCハートカードの会員にもなり、キャッシングサービスやデパート、レストランなどで幅広くご活用いただけます。

心に届く。ひと味ちがう贈りもの。
日旅のギフト旅行券



こんな時、贈ったら喜ばれます。
⊙金婚式・銀婚式の贈りものとして⊙敬老の日の贈りものとして⊙退職された方へのご慰労に⊙ご結婚される方にお祝いとして⊙入学・卒業の記念にetc.
［海外ギフト旅行券］ 50,000円　100,000円の2種類
［国内ギフト旅行券］ 1,000円　5,000円　10,000円の3種類

いい旅お世話の 日本旅行

旅ごころ、
かなえられます。
日本旅行の旅行券分割前払いシステム
ドリームプラン DREAM PLAN
⊙お支払いコースは4種類
⊙お支払い期間は6カ月～60カ月（5年）まで
⊙お支払いは便利な自動引き落とし

京都十六本山と
横川定光院巡拝
日蓮聖人をめぐる
京の旅
⊙2名様からお申し込みができます。
⊙JR列車を往復で201km以上ご利用になると、乗車券が割引になります（宿泊プラン利用の場合）。
⊙宿泊は法華クラブ京都店を利用します。
⊙団体（15名以上）のお申し込みには、JR列車の乗車券・料金など各種割引が適用になります。
＊お問合せ・お申し込みは下記へ

◉北海道◉
釧路（支）0154-23-4455
帯広（支）0155-23-9294
北見（支）0157-23-2228
旭川（支）0166-26-0401
岩見沢（支）0126-22-1458
札幌（支）011-241-5204
小樽（支）0134-33-4455
苫小牧（支）0144-32-6467
函館（支）0138-23-4201
◉東北◉
青森（支）0177-77-3451
八戸（支）0178-44-2241
弘前駅（旅セ）0172-34-4234
盛岡（支）0196-24-5826
秋田駅（旅セ）0188-33-8444
山形駅（旅セ）0236-23-4766
仙台三和ビル（支）022-261-4511
郡山駅（旅セ）0249-34-7711
会津若松駅（旅セ）0242-24-0200
鶴岡（支）0235-22-2238
◉関東◉
池袋（支）03-986-1321
室町（支）03-242-6671
新橋団体（支）03-575-4441
蒲田駅（旅セ）03-733-8154
川崎（支）044-222-0701
横浜（支）045-641-9604
藤沢（支）0466-22-7411
新横浜（支）045-473-7520
水戸（支）0292-24-6003
栃木（支）0282-23-3223
高崎（支）0273-22-3158
大宮団体（支）0486-66-1155
柏（支）0471-46-2511
千葉（支）0472-27-2307
甲府駅（旅セ）0552-35-5252
◉新潟◉
村上（支）0254-52-5234
新潟（支）025-222-1414
三条（支）0256-33-3111
長岡駅（旅セ）0258-33-2463
直江津駅（旅セ）0255-43-4581
◉北陸◉
富山（支）0764-33-1181
高岡（支）0766-22-6141
金沢（支）0762-62-0411
七尾（支）0767-53-0238
福井（支）0776-22-2736
敦賀（支）0770-22-4472
◉中部◉
沼津（支）0559-62-4631
御殿場（支）0550-82-0419
新富士（支）0542-54-8371
静岡（支）0542-54-8376
浜松（支）0534-54-4371
長野（支）0262-33-3141
松本（支）0263-32-4619
上田（支）0268-24-7600
飯田（支）0265-22-3911
伊那（支）0265-72-5158
豊橋団体（支）0532-54-3261
名古屋団体（支）052-582-5021
土岐市（支）0572-54-2131
岐阜（支）0582-65-7501
大垣（支）0584-81-1188
◉関西◉
姫路駅（旅セ）0792-81-1067
和歌山駅（旅セ）0734-24-2411
鳥取（支）0857-23-1841
米子（支）0859-33-1811
松江大橋（支）0852-22-0011
浜田（支）08552-2-1729
岡山（支）0862-25-2046
倉敷（支）0846-24-5131
福山（支）0489-23-3513
◉四国◉
徳島（支）0886-22-5547
高松（支）0878-51-4981
丸亀（支）0877-22-4291
伊予三島（支）0896-24-2909
松山（支）0899-45-0815
宇和島（支）0895-22-2642
高知（支）0888-83-1767
◉中国◉
三原（支）0848-62-6131
呉駅（旅セ）0823-22-8111
広島中央（支）082-227-1081
岩国駅（旅セ）0827-22-3211
徳山（支）0834-22-1771
宇部（支）0836-21-2125
山口（支）0839-23-0861
下関駅（旅セ）0832-23-9111
◉九州◉
北九州（支）093-571-0222
福岡団体（支）092-431-7272
久留米（支）0942-33-1546
佐賀（支）0952-24-2218
佐世保（支）0956-23-5238
長崎（支）0958-24-5416
諫早（支）0957-22-3660
熊本（支）096-354-4488
八代（支）0965-33-5717
大分（支）0975-38-1433
延岡（支）0982-33-3432
宮崎（支）0985-24-5255
西鹿児島駅（旅セ）0992-52-2340
沖縄（支）0988-62-3355
日本旅行
運輸大臣登録一般旅行業第2号

祝
門連結成
30周年

（順不同）

日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(七五一)七一八六

管長 岩間日勇
宗務総長 澁谷直城
宗務副総長 金坂信章
綜合企画部長 河野智彰
庶務部長 橋田文啓
財務部長 伊藤速雄
教務部長 頂岳龍乗
護法伝道部長 吉田宏遠
現代宗教研究所長 石川教張
参与 白部健順
参与 岡田法順
日蓮宗新聞社社長 千野信和

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(九一八)七九九四

管長 藤田日浄
宗務総長 川口善教
教学部長 木村日應
庶務部長 大塚正信
教化部長 中村宏龍
財務部長 芹澤泰謙

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長 古瀬日宇
宗務総長 吉永正晴
宗務次長 山田信正
財務部長 飯澤道宣
布教部長 山本学人
教務部長 平田浄應
社会部長 田島敏義
庶務部長 島田幸晴

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(九一八)七二九〇
FAX 〇三(五七六)〇一二一

管長 野口日騰
宗務総長 牧野琢成
総務部長 土屋善敬
教学部長 都築哲信
教化部長 金原戒雄
財務部長 江坂隆俊

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 梶本日裔
講尊 小山日幹
宗務総長 井上日慶
宗務副総長 齊藤日敬
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

管長 嘉儀日有
宗務総長教学部長 住友顕一
総務部長法務部長 今村要道
財務部長 矢田尚義

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二

管長 上田日源
宗務総長 吉田研宏
総務部長 長鎌泰信
教学部長 上嶋智岳
教化部長 左神信学
社会部長 蓑輪渓玉
財務部長 小西法明
参与 吉田勝秀
参与 上田浩岳
教学主事 小島玄城
教化主事 岩崎峻暉
財務主事 笹木研秀
書記 矢放真文

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 佐野日紀
宗務総長 吉村信尚
宗務部長 高辺誠亮
財務部長 山下通雄
総務部長 信隆允忠
庶務部長 飯田信栄
教務部長 藤井宏長
門連常任理事 木村光紹

宗教法人 国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(六五六)九九八〇

会長 田中香浦
理事長 加倉井清信
副理事長 中平千三郎
門連常任理事 大橋邦正

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量

京都日蓮聖人門下連合会

〒602 京都府京都市上京区寺ノ内通大宮東入
堅樹院
電話 〇七五(四三一)〇四九一

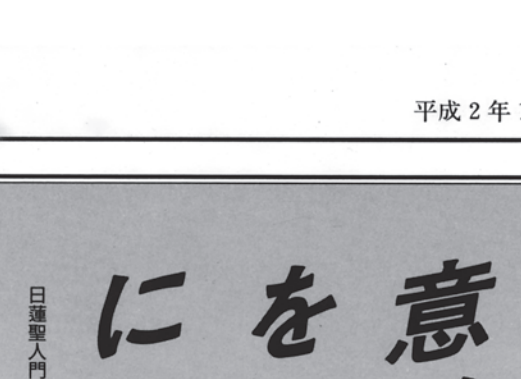
会長 中村日宣
副会長 沖日亨
理事長 松下日肆
副理事長 藤田尚慈

門連結成三十周年

意義ある年をむかえるに当って 2

日蓮聖人門下連合会常任理事　大橋邦正

昭和47年4月22日東京新宿文化センターにおけるオラトリオ「日蓮聖人」の発表演奏会。



心淋しい輪番給仕の現状

昭和三十九年、連合会の規約にうたわれている「祖廟中心」の精神を如実に体現すべく、身延祖廟輪番奉仕の門下各派による、給仕の実現について協議がなされ、その年五月十五日、各派代表は身延に参集、身延山久遠寺における輪番奉仕行軌の視察を行った。日蓮宗、身延山当局においては、ひろくご門下の輪番奉仕実現のため、これまでの祖廟輪番奉仕に関する宗制の一部を改正して、ご門下各派が各派独自の法義によって輪番給仕に専心する門をひらいた。連合会はこの趣旨にそって、連合会を代表する資格のもとに、各派は公式代表をもって祖廟輪番奉仕を奉行しようという申合せを行った。

かくて翌四十年春、その先陣を承って国柱会が田中会長以下五十余名の会代表者を率いて、日蓮聖人門下連合会代表の名のもとに、国柱会独自の法義により輪番奉仕を奉行した。爾来今日に至る間、毎年欠かさず奉仕しているが、国柱会のみが公式代表をもって輪番給仕に参加しているという現実は、甚だ心淋しい限りである。

祖廟に関して「御真骨の祖廟奉遷」問題が期せずして門下各派からほうはいとして起ってきた。これは門下連合の充実強化の姿と平行して、「異体同心」という聖祖の御教訓にそい奉らんとする、全門下の復正の機運ともいえる。その流れのなかから叫ばれる御奉遷の声は、聖祖ご門下として第一義的な動機にもとづく如法な願望といえるのである。

本問題については、昭和四十年以来各派各聖により真剣に論議されてきたが、昭和五十年にそれらの願望を統合して「御真骨奉遷をめぐる提言」と題する提言を、国柱会会長田中香浦師が公式に示されているのでご参照ありたい。

聖祖七百遠忌の四大事業

昭和四十七年以降しばらくは大きな共同事業はなかったが、これまでの事業成果をふまえながら、来るべき聖祖七百遠忌をお迎えするについて準備の論議が専らであった。そのためにも門下連合の実をあげるべく内面の充実に力を注いだ。門連組織の拡大充実をめざしての「題目系教団の門連加入問題」や「東西門下連合会」の組織化などが、真剣に討議されたのもこの頃である。

昭和四十九年、これまで日蓮聖人門下連合会が東京に本部を置き、門下各派および教団の連絡、協力、団結を目標に、共同事業など活動を続けてきたが、一方、京都には十六本山を基盤とする京都日蓮聖人門下連合会がつとに存在していることから、来るべき日蓮聖人七百遠忌を期して東西両門連はおのずから大同団結する気運となった。

この年の十一月二十七日、京都顕本法華宗総本山妙満寺において、日蓮聖人門下連合会（理事長渡部公允師以下理事各聖二十名）、京都日蓮聖人門下連合会（会長原日認師以下理事各聖十三名）が会同し、東西拡大理事会が開催された。

会議は(1)規約改正の件、(2)連合会の拡充強化に関する件、(3)日蓮聖人七百遠忌を迎えて門下の共同事業準備体制確立の件、(4)今後の門下連合会の活動方針、が討議されとくに今後開催の東西拡大理事会は、春は身延山にて祖廟参拝を中心に行い、秋は京都に参集し各派当番の会場にて開催することが決定された。

会議の主題は、昭和五十六年にお迎えする日蓮聖人七百遠忌の報恩事業をいかに展開するか、が真剣に論ぜられ、ご門下異体同心の結束のもと聖なるご報恩の事業計画として次のごとき案を策定した。すなわち(1)日蓮聖人展の開催、(2)日蓮聖人劇の全国公演、(3)オラトリオ日蓮聖人の創作、(4)青年によるシンポジューム（のちに青年の船）の四大事業を各派結束して日蓮聖人門下連合会の聖業として実施するものである。

かくて五十年以後御遠忌をめざして四大事業の実現にむけ具体化にとりくんだ。事業はいずれも画期的なものばかりで、専門の小委員会を設置して万全な進展をはかるなど、懸命の精進であった。

昭和五十六年、日蓮聖人七百遠忌御正当年にあたり、精進を重ねてきた御報恩の聖業は、聖祖御一代の御化導を演劇によってひろく世に顕彰するため、全国に五十四年、五十六年と二度にわたって公演した前進座による日蓮聖人劇。聖祖の御真蹟をはじめ各派格護の重宝類をあつめ、人々を正法に結縁させるべく、東京大阪、小倉で開催した日蓮聖人展。翌五十七年三月には、門下連合会加盟教団の次代をになう青年達の結束をはかり、聖祖の理想〈立正安国〉の実現をめざして、青年の護法運動を高めるために実施された青年の船が、多大の成果を収めて諸縁吉祥のうちに成満して了った。

第四は昭和五十七年四月、報恩事業の掉尾を飾る、オラトリオ日蓮聖人の発表演奏会であった。オラトリオ日蓮聖人の制作は、日本仏教界はもとより、世界の宗教界においても空前絶後の歴史的金字塔である。まさに閻浮一聖たる聖祖を鑽仰し、御報恩の万一に資するにふさわしい記念の聖業であった。

この聖祖第七百遠忌を記念する御報恩四大事業が、すべて諸縁吉祥裡に成満するに至ったことは、ひとえに仏祖の御加護のもと、門下連合会が異体同心の至誠を結集した賜であり、撃節讃歎して協力を寄せられたあまた関係各位の熱誠なる志によるものと銘謝するものである。

回顧して連合会結成以来、共同して実行した事業のうち、当然なことながらの聖祖七百遠忌事業が最大な事業であった。御遠忌事業後の門下連合会は、この聖なる事業遂行を通じて培った共同の信力を、今後さらに強固ならしめるべく、ご門下相携えて一層の精進を続けている。

以上紙面の都合もありごく限られたご紹介に終ってしまった。幸いにも今秋に刊行予定の「日蓮聖人門下連合会三十年の歩み」（仮題）はさらに詳細な記録とともに、門下連合会の限りない前進と発展をめざす意義ある記念誌の制作としたい。

多大な成果をあげた聖伝劇

昭和四十五年は、日蓮聖人竜口法難第七百年の記念すべき年にあたる。聖祖発迹顕本の重要な意義を味識しひろく世に御法難の意義を顕彰すべく、「日蓮聖人竜口法難七百年記念大会」をこの年九月十三日、東京九段会館において開催した。さきの日比谷大講演会に次いでの、門下連合会主催による大会である。

この日、在京各派に属する護法の志にもゆる面々数百が一堂に会した。大会は、国柱会関口宏師の開会宣言にはじまり、第一部「講演の部」は日蓮宗宗務総長片山日幹師の挨拶につづいて、「日蓮と神々」と題して真如会主幹紀野一義氏、仏立宗教学委員長中野日裕師は「法華経を身に読む」、法華宗本門流宗務総長福島泰信師は「竜ノ口御法難七百年を迎えて」と題し、それぞれ竜口法難の意義を弁じ、いかに日蓮聖人を正しく讃仰すべきかを論じた。

第二部「清興」の部は、琵琶界の第一人者柴田旭堂師による「竜の口」が演奏され、つづいて国柱会芸術部出演による聖史劇「土の牢」を上演、いずれも満場を魅了した。終りに法華宗陣門流宗務総長水本大岳師の力強い閉会の辞をもって、意義ふかき記念大会を円了した。

昭和四十六年が日蓮聖人降誕七五〇年に当るところから、連合会はこの佳年を慶讃して、芸術をもってひろく大衆に聖祖を正しく讃仰せしめるべく、世界悉檀攝化の益における演劇をもっての啓蒙を志し、「聖伝劇・日蓮聖人」の明治座公演を企画し、脚本池波正太郎、主演松本幸四郎により同年四月三日より一カ月公演とし東京明治座に興業、在京各派は檀信徒をはじめひろく一般にも宣伝し、多数の観劇動員をはかり各派それぞれ総見を行うなど、多大な成果をあげたのみならず、この事業の成果により余慶として連合会基金もできたのである。

この芸術伝道の試みは、のちに聖祖七百遠忌報恩記念事業の一環として、前進座による聖伝劇全国二カ年公演に結実していったのである。



昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭和天皇より下賜された「立正」額（実物大四分の一に縮尺複刻したものです。）皆様のご家庭へ特別頒布

頒布金額　色紙共　八千五百円（送料共）

（残部僅少）

お申し込みは　日蓮宗新聞社　電話 03-755-5271　FAX 03-753-7028

〒146 東京都大田区池上3—16—9

平成元年度

身延 京都 理事会 報告

祖廟に粛拝、異体同心を表白！

平成元年度、恒例の祖廟参拝・身延理事会は六月十三日（火）挙行された。

午前十一時五十五分、常唱殿前より唱題行列を組み、まず御草庵跡へ参進、法味言上ののち祖廟前に於いて熱誠なる法要が挙行された。

澁谷理事長導師のもとに自我偈・玄題が唱えられ、日蓮聖人門下連合に向け、報恩の誠がつくされた。

その後に行われた各派代表の焼香は、眼前にいます聖人に対し異体同心の姿を表現申しあげたごとくで、聖人も快くその微誠をおくみとり下されたであろう。

祖廟をあとにした一行は、次に久遠寺祖師堂、大本堂に詣で、宝物館を拝観、本日の理事会会場である身延山短期大学図書館会議室に入り、昼食をとった。

食後、水鳴楼にて岩間日勇猊下よりの御挨拶を受け、午後二時二十五分より理事会が開かれた。

◎報告、承認、決定事項

1、昭和六十三年度事業報告
○理事会、常任理事会報告。○「日蓮聖人門連だより」関係報告。○人事関係報告。○地方門連準備関係報告。○事務局人事報告。

2、昭和六十三年度決算の件
右は承認

3、平成元年度予算の件
右は承認

4、地方門連結成準備に関する件
右については、吉永正晴常任理事より「大阪日蓮聖人門下懇話会」の報告があった。その大要は昨年十二月十一日、大阪雲雷寺にて発会式が開催されたこと申し込み者は現在約百六十名。理事長は交代制とし、初代理事長に伊丹栄彰師（日蓮宗）、副理事長に吉永常任理事が就任したこと等である。また柴田幹事から北海道地区の動きにつき報告があった。その大要は昨年二回事務局が訪問し、現地の関係者と折衝の結果、「北海道日蓮聖人門下連合会」が仮発足した旨である。

また、今年度の京都理事会には、大阪門連、並びに、北海道門連の代表者を招待し、門連結成三十周年に向け意見交流をすることとした。福井門連に関しては、情報不充分のため、さらに折衝することとした旨報告が行われた。

5、「門連だより」刊行に関する件
大橋常任理事より第七号発刊について、特に門連結成三十周年記念を中心に編集している旨の報告が行われた。また第八号刊行にあたり、各宗派、本山の協賛広告を含めた各聖の協力を願う要請もあった。

6、門連結成三十周年記念に関する件。
記念事業に対し種々提案がなされてきたため、去る五月十五日に開催された常任理事会において、①記念法要と祝賀会の開催。②記念誌の刊行。の二点に絞ったことが報告された。この報告に対し意見が多数だされ結論に至らず、再度常任理事会で検討し、京都理事会へ提案していくことで合意した。

以　上

種々白熱した議論は止まるところを知らなかったが、予定の時間も迫ったため、午後四時四十分、閉会が宣せられた。



身延理事会（祖廟参詣）

三十周年記念誌刊行に取り組む！



京都理事会（妙覚寺書院にて）

平成元年度の京都理事会は本紙第一面に詳報されているが、門連三十周年を明年にむかえるとあって、例年にも増した活発な討議が展開されみのり多い会合であった。

三十周年の記念事業の一環として決定した「門連三十年の歩み」（仮題）の刊行は、規模内容から考えても相当困難な作業が予想される。

各年の行事の執筆もさることながら、それらの写真の選択もこれまた複雑な作業である。そして当事者の寄稿や物故先師各位の調査も日数を要するであろう。

こうした困難な編集企画作業をどのように進め、万遺漏なきを期すべきかが、気がかりなところではあったが、先の京都理事会では、正式にその任に「門連だより」編集委員会が当たるべく決定された。

この決定を見るに至った経緯は、去る十一月十三日に行われた門連だより編集会議の席上、大橋常任理事から編集委員会に対して打診があり、編集委員会一同その任に当ることに同意をする意志表示をうけてのものであるが、これが正式決定を見るに至ったわけである。

今のところ、具体的な編集企画はまだ出てはいないが、平成二年に入り早速に常任理事会による招集がかけられ、第一回目の会合がもたれる予定である。

門連当局としては、さきに全日仏（全日本仏教会）が昭和六十二年に発行した「全日本仏教会の歩み」を手本として製作にかかる心算であるが、限られた予算の中で、これを凌駕する立派な記録誌を完成させるため、編集委員会に期待するところ多大なものがある。

尚、実務レベルは門連だより編集委員会が担当するが、その委員会の指導的役割を果たすため、常任理事会に三十周年記念誌刊行の企画会議を設置したい旨の報告を併せて大橋常任理事より行われた。

常任理事会の企画会議と一体となって、立派な記録誌が完成するよう頑張っていただきたい。

布教誌・紙の紹介 ②

法華宗真門流「慧光」「輪寶」



◎歴史に何を学ぶのか、古くて新しい課題である。歴史は過去に展開された人間や社会国家の営みを事実にもとづいて記録したものの集大成にすぎないとする説もあるようだ。しかし、歴史は、たんなる記録の集成だけではすまない何物かを持続している。

◎その何物かは時には現代を根底から覆すエネルギーを爆発させる猛々しさをも持ち合せている。

◎今回ご紹介する法華宗真門流機関誌「慧光」は、そうした歴史の何物かを垣間見せてくれる。それが同流の総本山本隆寺が時あたかも開創五百年を迎えたこととはもちろん無関係ではない。五百年のもつ歴史の重みが誌面ににじみでているのだ。

◎たとえば、同誌の最近号（七六号）には、〈明治天皇と本隆寺〉と題した記事が掲載されている。ここには、本隆寺の開基日真大和尚の家系が、明治天皇の御母である一位局に直結してきている旨が要領よく記されている。こうした歴史の連続性の重みが、ときに水面上にあらわれてくることが、本誌の大きな特色といえる。

◎光輝ある歴史を現代的にどのようにからめてカラーを打ち出すべきか、このテーマに対しても、同誌は工夫がこらされている。まず、巻頭には「法華経のお話」が同宗管長の林日圓猊下自ら筆を執って連載されている。経文解説の前に日蓮聖人の御遺文を置き、経文を遺文とタイアップさせ、現代の問題として捉えることで結論としている。

◎その他にも表紙と連動した〈本宗のお寺訪問〉や〈宗内ニュース〉〈教区ニュース〉など報道ももりこまれ、読みやすい編集になっている。（年四回発行）

◎同宗では、本誌の他に教学誌として「輪寶」も刊行されている。

日蓮聖人御修行の霊跡
比叡山横川華芳谷
定光院



横川定光院参拝と京都本山めぐりのお問い合せ・お泊りは
法華クラブ京都店をご利用ください。
京都駅烏丸中央口正面
〒600　〇七五（三六一）一二五一

ホテル法華クラブチェーン

札幌店	☎(011)221-2141	大阪店	☎(06) 313-3171
函館店	☎(0138)52-3121	広島店	☎(082)248-3371
弘前店	☎(0172)34-3811	境港マリーナホテル	☎(0859)45-3111
仙台店	☎(022)224-3121	小倉店	☎(093)531-5531
上野池之端店	☎(03) 822-3111	福岡店	☎(092)271-3171
上野駅前店	☎(03) 834-4131	大分店	☎(0975)32-1121
藤沢店	☎(0466)27-6101	熊本店	☎(096)322-5001
京都店	☎(075)361-1251	鹿児島店	☎(0992)26-0011
●海外店		法華旅行開発	☎(03) 834-2576
インドラージギル店		●本社	☎(075)371-6606

フリーダイヤル 0120-123-489
（北海道全道、東京23区、中国、西国、九州全県より）
総合予約センター
011-272-4893（札幌）
03-823-4893（東京）
082-246-4893（広島）
092-281-4893（福岡）

さわやかな朝
心をつくすホテル
法華クラブ

祝門連結成30周年

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　望月一靖
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(七五二)二三三一

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主　古瀬日宇
総務　山田信正
執事　平田浄應
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　野口日騰
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　佐古弘文
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　上田日源
執事長　上田浩岳
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事補　笹木研秀
書記　矢放真文
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二

本門法華宗
大本山妙蓮寺
貫首　中村日宣
執事長　松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
執事長　住友顕一
執事　今村要道
執事　矢田尚義
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　梶本日裔
十九世講有
事務局長　小倉徳治郎
信徒総代
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　山田一光
本山本土寺貫首
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
貫首　水谷日諦
執事長　玉田学雄
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
筆頭執事　本間正晃
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
参与　関観康
同　小倉俊明
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
執事長　渡辺行俊
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

公元一九九〇年十月十三日
開山日像菩薩御遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
貫主　細井日苑
〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話 〇七五(四六一)六五一一六

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　金子光瑩
参与　土屋学周
同　新井智清
同　山田完修
執事補　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
東京執事　田村宏祐
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

大阪門連、総会・講演会決まる
「市民大学講座」の事例発表、のち懇談会

昭和六十三年十二月十一日の大阪日蓮門下懇話会結成総会以来、約一ヶ年が経過してしまった。

本部役員一同種々検討を加えるため、去る平成元年九月八日午後五時より、雲雷寺事務所に於いて、役員会議を開催した。

出席された理事は、日蓮宗伊丹栄彰理事長、顕本法華宗吉永正晴副理事長、日蓮本宗高橋勇夫理事、法華宗真門流長鎌泰信理事、陣門流門谷光瑞理事、国柱会麻田正廣理事、日蓮宗神谷行宏理事、三田村宗鳳理事、藤田文明理事、有光友信会計、以上十名に依って、今年度行事について話し合った結果、総会を兼ねて講演会を開催する事となった。

講題、講師の選択、会計費用等の問題を相談の末、現在日蓮宗大阪市宗務所主催に依る、市民大学講座が、平成元年四月第三土曜日より、八月は休みで第五回まで盛大に開催された内容等を踏まえて、事例発表を一時間にわたって御願いする事となり、講師には、日蓮宗専任布教師、妙見閣寺住職　竹内祥起師。

平成元年十二月七日、午後四時より総会を開催し、四時半より、市民大学講座「法華経・日蓮聖人に学ぶ」（講師のメッセージ

精神的に荒廃した現代社会・時代の指標を見失った現代社会に法華経・日蓮聖人の宗教〈信仰と思想〉を知らしめたい。この熱意が実現しました。開かれた社会に、ひろく訴える事は勇気が要りますが、宗教者として、厳しい自己批判を辞さない決意をしたいと思います）を講演、午後六時より懇談会、以上の要領で決定を見るに至った。

現在開講の市民大学講座は成功裡に進んでおり十一月で第七回を終了した。毎回本堂は満席で、遅れて出席された方々は客殿に於いて、ビデオを通じて聴講されている。幸いに雲雷寺会場にはビデオ設備が整ってあり、本堂の中二階には、ミニスタジオが設置されて、客殿庫裡の各テレビに放映できる様なシステムになっていて誠に幸いである。以上を以って報告にかえさせて頂きます。

市民大学講座
法華経・日蓮聖人に学ぶ

● 日時　平成元年4月22日(土)より開講

● 会場　大阪市中央区中寺１丁目４－４
雲　雷　寺

● 日程　講座2時～4時（受付1時より）

月	日	講題		月	日	講題	
4	22(土)	宗教とは「人生の指標」	(1)	10	21(土)	宗教とは「信仰と生活」	(2)
5	20(土)	〃	(2)	11	18(土)	〃	(3)
6	17(土)	〃	(3)	12	16(土)	〃	(4)
7	22(土)	〃	(4)	1	20(土)	仏教の組織と体系「釈尊一代の説法」	(1)
8		休講		2	17(土)	〃	(2)
9	16(土)	宗教とは「信仰と生活」	(1)	3	17(土)	〃	(3)
				4	21(土)	〃	(4)

会場案内図



●宗旨・宗派・年令・性別は問いません。どなたでも参加できます。(無料)

主催　日蓮宗大阪市宗務所

会場案内図



北海道門連設立総会挙行さる
大阪門連と共に地区門連の魁に

十一月十五日北海道日蓮聖人門下連合会設立総会が、札幌東急インに於いて盛大に開催された。白部健順発起人代表（日蓮宗札幌顕本寺住職）はじめ各派発起人各師の昭和六十三年十一月の発足予備会（門連だより第六号に既報）以来一年に亘る労苦がここに結実をみたわけである。

札幌、小樽地区を中心に全道より九十六名の参加入会者の内、約四十名が参加して開催された設立総会は、白部発起人代表による設立に至るまでの経過説明に始まり、発起人会で検討された「北海道日蓮聖人門下連合会規約案」が上程され、一同賛意をもって承認された。ついで、理事長白部健順師以下、常任理事、理事、監査、会計の各役員が選出され、役員を代表して白部理事長が「北海道開教以来の各派互助と先師の苦労を思う時、各派一同異体同心を旨として四海帰妙の実現と会員の親睦を目的としたこの会が、今後北海道全土に広まることに努力し、併せて全国門連への早期加盟を実現したい。」と挨拶し、審議を終了した。

つづいて開催された懇親会は日蓮宗土屋啓竜師の発声による乾杯で宴を開き、出席者それぞれの自己紹介、門連発展に向けての決意表明がなされ、国柱会井上佐氏の万歳三唱により和気藹々の中に会を閉じた。

懇親会席上、来道された門下連合会理事長澁谷直城師は「大阪門連、北海道門連と結成され、これを全国各地の地区門連結成の魁けとしたい」と挨拶し、地区門連結成を門連一丸となって推進してゆく意向を明らかにした。



当日参集した役員の面々



澁谷理事長の挨拶

本山要法寺昭和大改修なる

「昭和大修繕」の旗印の下、昭和六十二年六月に着工した本山要法寺本堂、引き続いて六十三年九月に着工した開山堂の大屋根全面修復は平成元年八月に全ての工事が完了し、同年十月十三日両堂完工式を厳修した。



本堂（上）と開山堂



佛立開導日扇聖人百回御遠諱について

昨年、佛立宗にとってはとりわけ大切な年であった。それは勿論、開導日扇聖人の百回御遠諱御正当の年であったからである。

一昨年、昨年と二年にわたって全国布教区で別修法要が奉修され、各地で弘通促進大会や下種結縁運動が繰広げられた。

また、従来のお寺での奉修から、外に向って会館やホールを使用する所が多く別修法要に併せて、佛立文化講演会が開催された。また開導百遠諱を記念して開導聖人のご一代を映画化した、『風の門』の上映も各地で行われた。

昨年七月十六日、第一支庁宥清寺布教区としての別修法要が本山宥清寺において奉修された。

当日は晴天に恵まれ、講有日裔上人導師のもと、代表者千余名の参詣者で本堂は埋まった。法要後、開導聖人御墓所まで題目行列し、参詣させて頂いた。第二部は場所を京都府立体育館に移し、お看経、式典が行われ、第三部ではダークダックスが登場しておなじみの曲十数曲を歌い、参集した五千四百余名のご信者は法要に魅了された。

開導聖人百回御遠諱祥当日に当たる七月十七日、本山宥清寺では御正当大法要が厳修された。

青空の広がったこの日、講有日裔上人導師のもと、全国寺院教会の住職・担任事務局長が参列して、法要は午前十時半より昼すぎまで奉修された。

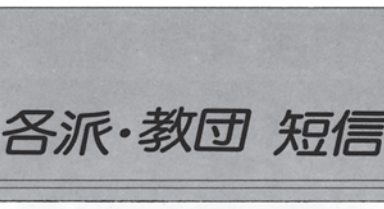
修了後、午後一時半より本山の隣り「京都こども文化会館」において、当宗が作曲を依頼し、先に東京サントリーホールで初演奏された芥川也寸志氏の遺作、日扇聖人奉讃歌、（副題、いのち）の発表演奏会が外山雄三氏指揮による大阪フィルハーモニー公響楽団によって行われ、つめかけた聴集に大きな感銘を与えた。

こういった法要の外、本山の高祖手自開眼の御霊像が国の重要文化財に指定を受け、また佛立センター用地も入手、あとは本年五月の連休九日間を使っての総修大法要をお待ちするばかりとなっている。



宥清寺における法要

各派・教団 短信



本門佛立宗

◆佛立第十九世講有日裔上人は、開導百遠諱ご正当年の平成元年までに全国二十九布教区と海外弘通区三拠点での『別修法要』を勤められ、全ご巡教を無事円成された。

◆本年4月28日より5月6日の9日間に亘って、佛立開導日扇聖人の百回御遠諱『総修大法要』が、京都の本山宥清寺を第一式典会場に、伏見パルスプラザを第二参詣者集合イベント会場として奉修される。

◆全国からの参詣申し込みは、平成元年12月末現在、凡そ五万八千人との事で、特別局では『六万人の参詣者受入』の為に、京都市交通局との折衝等、大詰めの準備に奔走している。

◆特別局の総修本部では、総修の意気高揚の一助として、ビデオ佛立ニュースを。弘通局では下種結縁リーフレット等を製作し、全国寺院に配布、各局とも活発な動きを見せている。

◆恒例の全国一斉「寒参詣」が、1月6日より2月5日までの一カ月間行われている。本年の統一テーマは『如説抄の身読』で、高祖日蓮大士の如説修行抄をテキストに、三十日間の連続法門を、全国の寺院で同時に行い、延べ百万人の壇信徒が聴聞することになる。

（深沢泉奥）

本門法華宗

◆宗務院、学院、本山の合同主催による教学研修会が昨年11月27日より11月29日の3日間、四国、淡路地区で開催された。

◆この研修旅行も4回を重ね、その意図とする研修地に於ける先師聖人の足跡にふれながらの教学研鑽、寺院との交流、檀信徒とのふれあい等十分に満たされ有意義な研修会旅行であった。参加者50名。（持地光学）

京都門連

◆御降誕会、2月16日本年度当番本山本満寺に於て法要。導師本山本満寺貫首三好竜紳猊下。法話総本山本隆寺貫主林日圓猊下「宗祖御降誕と法華経」について。

◆立教開宗会、4月27日比叡山大講堂に於て法要。導師大本山妙顕寺貫首沖鳳亀猊下。法話日蓮本宗教学部長今村要道上人「爪上の土」。引き続き村雲門跡瑞竜寺参詣。バス五台にて盛会。

◆夏期大学、8月26日本能寺会館に於て、主題「平成を生きる」として、講師本山妙覚寺貫首関根竜雄猊下「娑婆即寂光をおもう」と題して、大本山池上本門寺執事市川智康上人「宗祖のぬくもり」身延山短期大学教授高橋尭昭先生「法華経の故郷を求めて」

◆御会式、10月7日大本山本能寺に集合。僧侶のみにより本山頂妙寺迄法鼓唱題行進。頂妙寺に於て貫首金子光瑩猊下導師により報恩法要奉修、引続き本山要法寺貫首嘉儀日有猊下の法話あり。

（藤田尚慈）

法華宗本門流

◆平成元年度宗会の議定をうけて第一回「宗勢調査会」が、去る9月13日・14日開催され、会長には大平日晋師、常任委員には板井恵昇、江頭正山、石田智清の三師が互選された。

◆去る10月17日に発生したサンフランシスコ地震に対し、宗門および海外布教師を励ます会より義捐金がおくられ、一部被害のあった法華宗サンフランシスコ教会の修復と同市の救済に充てられることとなった。

◆第三回法華宗教学研究発表大会がさる11月21日、東京京橋・千代田生命ビルにおいて開催された。初めての東日本開催とあって、京浜葉地区より百名近い出席があり、苅谷玄翁学林教授の基調講演「法華教研究の視点」をはじめ、各先生の発表があった。

◆松井宗務総長の任期満了に伴い、平成2年1月8日付を以て宗務総長に川口善教師（沼津市西之坊住職）が就任した。川口総長は直ちに組局し、教学部長に木村日応師（尼崎市本教院住職）、庶務部長に大塚正信師（東京都獅子吼教会担任）、教化部長に中村宏竜師（京都市蓮承院住職）、財務部長に芹沢泰謙師（静岡県小山教会担任）がそれぞれ就任した。

（矢吹慈英）

日蓮宗

◆副総長森恵遠師は、平成元年12月11日退任。後任に綜合企画部長の金坂信章師が就任。尚、綜合企画部長の後任に河野智彰師（大分県親敬寺住職・前宗会議員）が就任した。

◆永年門連幹事を勤めた富川孝恭師がこのたび退任した。

◆また北原輝信師も幹事を退任し、後任に小山信正師が就任した。

◆12月6日の任期満了による、宗会議員の選挙が11月20日に投票が行われ新議員が選出された。これに伴う特別宗会が、12月19日に行なわれ、新議長・副議長・各委員会の構成が承認された。

◆正法1月1日号（48号）（特集・時間と暦）が発刊された。（望月康史）

国柱会

◆2月から毎月一回妙宗大霊廟供養会後に田中香浦会長より「観心本尊鈔」講義がおこなわれた。

◆4月28日～30日、第59回身延登詣団に続いて第25回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕がおこなわれた。

◆5月8日、ソウルにおける李方子元妃殿下ご葬儀に、田中会長名代として大橋冨士子講師が参列。

◆5月28日、国柱会本部で真世界文化研究院主催にて研究発表会。

◆7月7日～9日、佐渡霊蹟参拝の旅。とくに韓国から12名が参加。

◆7月から、報恩行のため謹刊された『昭和天皇の御製』の普及運動が展開された。各界有識者等への施本をはじめ各地で頒布活動がおこなわれた。9月からは毎週日曜日に靖国神社にて活動（現在7万部普及）。

◆7月28日～30日、賢島で全国若人の集い伊勢大会を開催。

◆8月4日～8日、ソウルで第10回日韓仏教文化交流大会が開催され、田中会長以下が参加した。

◆8月中、第37回少年少女夏期学校を小湊で開校。北海道、近畿、九州の各地方でもおこなわれた。

◆9月15日～16日、本部で日蓮主義の初歩から学ぶ講習会を開催。

◆10月7日～8日、本部で教学を学ぶ集いを開催。

◆10月12日、恒例の池上本門寺境内における屋外宣伝。

◆11月11日～12日、全国協議員会。

◆11月16日～17日、田中智学先生第51回忌報恩大会開催。（秋場善弥）

顕本法華宗

◆第11回日什門流懇和会開催。

恒例の日什門流懇和会が、京都総本山妙満寺を会場に、去る10月17日18日の両日に亘って開催された。

◆今年は、顕本法華宗が当番で歴代先師御報恩法要をお勤めした後、什師会（日蓮宗在籍旧顕寺院）側より教学講習の講師として、新進気鋭の山口裕光師が「本多日生上人と田中智学居士の盟契」と題した、日頃の研究の成果の一端を発表され、近世の法華御門下の傑出した両師の、門流統合という一大理想に共感しながら、相互交流の実績をあげられた、その足跡を回顧されながら、その御精神を継承し、現在に問い直さんという御提言に、参加者一同大いに認識を新たにし、有意義な懇和会であった。

◆僧員布教研修会開催。

顕本法華宗全僧員を対象とした布教研修会が、関東、関西教区に分教して、10月12日、11月21日の両日に分けて開催された。

今年は、御開山日什大正師第六百遠忌を平成三年に控え「我等の今成さねばならぬこと」というテーマにて討論会を企画し、併せて、古瀬日宇管長猊下より、御遠忌へ向けての特別布教に対する心がまえが御教示され、引き続き、昨年夏南米ブラジルに開堂された海外布教所顕本寺の教化現況報告が、担当の山本学人布教部長より報告され、将来的展望も含めた御遠忌体制へ向けての布教強化方法が研修された。

（朝倉俊幸）

日蓮本宗

◆去る10月13日秋晴れの下本山要法寺に於て本堂・開山堂大屋根修復完工式（詳細は七面）が厳修された。尚、落慶法要は、平成6年5月8日御開山日尊上人第六百五十遠忌をトして厳修する予定である。

◆昨年7月10日を以って当局任期満了であったが、屋根修復完工式奉修の為任期を十月末まで延長。

◆10月4日、札幌日泰寺本堂に於いて、総本山本隆寺貫主上田日源猊下大導師のもと、門下衆僧・檀信徒の深い悲しみの中、粛然と御本葬儀が進められ、増円妙道を念じられた。

聖人は、布教師・宗会議員・教区所長・布教師養成所長等を歴任され昭和五十五年、日泰寺の本堂荘厳・庫裡客殿の新築落慶。

ことに同年9月15日総本山本隆寺第九十五世貫主に御着任。昭和五十六年に「高祖大聖人七百遠忌」を完遂された。

この御遺徳に宗門一同、いまなお敬慕の念につつまれている。

（吉田勝秀）

法華宗陣門流

◆平成元年度中央行学講習会が9月5・6日の両日「浜名湖館山寺ロイヤルホテル」を会場に百三十名余の参加のもとに開催された。第一日は東洋大学教授河村孝照先生による「即身成仏の成語とその展開について」旭川光妙寺住職椿沢舜瑩上人の「大曼荼羅の講成とその書法」と題し各々講義された。第二日は東海教区寺院を巡拝し、別院本興寺にて成功裡に閉講式を迎えた。

◆「三宗統合学院学生講座開催される」

11月18日～20日の3日間にわたり、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。統合学院は、毎年前後期二回開催され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場である。講師として、顕本法華宗教学研究所長窪田哲城上人が講義をされた。

（鈴木昭雄）

11月13日付にて新当局が選任された。日蓮本宗宗務総長兼教学部長・本山要法寺執事長住友顕一、日蓮本宗総務部長兼法務部長・本山要法寺執事今村要道、日蓮本宗財務部長・本山要法寺執事矢田尚義各師。

◆本山要法寺嗣法第四十九祖元貫首日認上人本山葬が本年2月28日本山にて厳修される予定。

日認上人は去る昭和63年2月29日世寿七十八歳でご遷化なされたが、本堂大屋根工事の完工をまってとの日認上人のご遺言により延期されていたものである。

（柳下義真）

法華宗真門流

◆総本山本隆寺貫主林日圓猊下退山報告・法燈継承式が厳修さる。

9月11日、総本山法隆寺本堂に於いて、五ケ年の任期を円成された林日圓猊下の退山報告法要が執行された。引続き、新貫主に推戴される姫路妙行寺住職上田日源猊下へ、御開山日真大和尚御着用の御九条、勅許御印が引継がれ法燈継承式を終了。参会者一同は、舞鶴本行寺まで御見送り、舞鶴グランドホテルにて、任期円成祝賀会に参列、盛大裡に幕を閉じられた。任期中、昨春は総本山開創五百年大法会を厳修され、特に三天皇追福法要には、天皇陛下より御菓銘「手折ざくら」御下賜の栄に接せられた。さらに本年、昭和天皇崩御に殯宮祇候・御大喪礼に列席され、任を全うされた。

◆総本山本隆寺第九十七世貫主上田日源猊下晋山奉告式が厳修さる。

9月11日法燈を継承された上田日源猊下晋山奉告法要が9月15日午後1時より本隆寺本堂に於いて、門末参席のもと、古式に則り、厳粛に執行された。宗務総長・来賓・総代の祝辞の後、新貫主日源猊下より決意の表白、そのお言葉に僧俗共に新たな決意が堂内に満ちた。式後、京都ホテルにて参会者一同の祝賀会が開かれ、和気あいあいのうちに散会した。ことに平成三年は日像菩薩六百五十遠忌の御正当を迎えられる。新貫主猊下を先頭に門末一同、異体同心、円成にむけての決意が固まった。

◆総本山第九十五世「勝竜院日浄聖人」遷化される。

去る8月23日午前4時35分、総本山第九十五世勝竜院日浄聖人は、八十三歳の御生涯を閉じられ御遷化された。

10月4日、札幌日泰寺本堂に於いて、総本山本隆寺貫主上田日源猊下大導師のもと、門下衆僧・檀信徒の深い悲しみの中、粛然と御本葬儀が進められ、増円妙道を念じられた。

聖人は、布教師・宗会議員・教区所長・布教師養成所長等を歴任され昭和五十五年、日泰寺の本堂荘厳・庫裡客殿の新築落慶。

ことに同年9月15日総本山本隆寺第九十五世貫主に御着任。昭和五十六年に「高祖大聖人七百遠忌」を完遂された。

この御遺徳に宗門一同、いまなお敬慕の念につつまれている。

（吉田勝秀）

編集委員移動の報告

●**顕本法華宗**　朝倉俊幸師退任、後任に秋葉敬真師が就任。

●**法華宗陣門流**　江坂隆俊師退任、後任に鈴木昭雄師、補佐として土田隆恒師が就任。

●**日蓮宗**　富川孝恭師（委員長）退任、後任に望月康史師が就任。事務局として小山信正師担当。

尚、新編集委員長には望月康史師が互選された。

日蓮聖人門下連合会

●**目的**

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●**事業**

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●**加盟団体**

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん 流通文 るつうぶん

＊身延・京都の両理事会、北海道門連の結成、三十周年の記念事業などビックなニュースが掲載された。

＊昭和天皇の諒闇中、恒例の年頭広告にかえ門連三十周年祝賀として掲載させていただいた。

＊大橋邦正先生には前・今号に健筆をふるっていただいた。三十年の本記録刊行が待ち遠しいとともに編集委員の責任も大。

＊今号の時報は盛り沢山、今後もどしどし貴重なものを写真入りで報道してゆきたい。各派のご協力をおねがいしたい。

＊従地涌出欄は編集委員持ち回り執筆。短文でしかもピリッと辛口、するどい時評を目標に頑張っている。乞うご愛読を。

＊編集委員の移動がありました。ごくろうさまでした。

日蓮聖人門連だより

門連結成三十周年記念事業第一弾

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成２年８月15日
第９号

身延理事会に於いて祖廟奉告式厳修さる

門連結成三十周年記念事業の三本柱のうちの第一弾である身延理事会においての祖廟奉告式が、六月十三日各派管長猊下参列のもとに厳修された。関東地方は既に梅雨に入り当日の天候が心配されたが、前夜来の雨も止み、身延山特有の蒸し暑さも苦にならぬ意義ある一日であった。

今回の身延理事会は日蓮聖人門下連合会が結成されて三十周年ということで、各派管長猊下、各地区門連にも御案内申し上げ、多数の参加をみるに致った。

午前十一時五十分、唱題行列にて常唱殿前を出発し、御草庵跡へ向かった。

御草庵跡にて法味が言上され、続いて今回の柱でもある祖廟での奉告式へと進んだ。

祖廟での奉告式では、法華宗真門流管長上田日源猊下、本門法華宗管長中村日宣猊下御参席のもと、伊藤通明新理事長導師によりそれぞれ色衣五条を着用し、三十周年記念法要が厳修され、伊藤通明理事長により「日蓮聖人門下連合会発足三十周年記念法要奉告文」が厳粛に読み上げられた。


祖廟での記念法要

法要終了後、祖廟前にて記念写真撮影。更に身延山短期大学図書館会議室にて昼食。この席で、この四月に身延山久遠寺総務に就任された藤井教雄師より歓迎の挨拶をいただいた。

昼食後、久遠寺大本堂にて法味言上。更に大本堂地下の宝物館にて、大陸で発見された海外布教の先駆者日持上人の遺品等を拝観した。

更に祖師堂において法味言上後、水鳴楼にて日蓮宗管長・身延山久遠寺法主岩間日勇猊下より御挨拶を受けた。

午後二時五十分、身延山短期大学図書館会議室を会場として理事会を開催。伊藤通明理事長の発声にて玄題を三唱、挨拶をされた。会議に先立ち、望月幹事より伊藤通明新理事長の就任承認に関する議案が提出され、全員賛成をもって理事長就任が承認された。

以後、伊藤理事長が座長となって議事を進行した。

まず、澁谷直城理事長の門連顧問就任の推薦についての討議がなされたが、以前より退任された理事長が全員顧問に就任されているということになっておらず、また、顧問就任に関する規定も明文化されていないということで、今回は見送りということになった。

出席理事各自の自己紹介の後、柴田幹事より平成元年度事業報告、長谷川幹事より平成元年度決算報告及び、平成二年度予算案が説明され、それぞれ承認された。

次に地方門連に関する件として、大阪門下懇話会の伊丹栄彰理事長より、五月に平成二年度の総会を開いたこと、門連への加盟は時間の問題であることなどが報告された。

北海道門連の白部健順理事長からも、門連への加盟は内容が整いしだい（二～三年後）になるであろう旨の報告がなされた。つづいて望月幹事より「門連だより」発行に関して、現在第九号の原稿集めが始められている事が報告された。

門連結成三十周年記念誌発行に関する件については大橋邦正常任理事より報告があった。当初一二八頁・二千部を作成し、この費用には基本金の百万円をあて、各派からの負担をなくすという方針でスタートしたのであるが、見積りを取った段階では約百六十万円が必要ということになり、平成二年度予算中予備費より三十万円を充当したとしても尚三十～四十万円の資金不足が生じる。この不足分について種々意見を交換したが、結局、各派の責任において一派三万円づつ（一口一万円として三口）の協賛金を集め、記念誌には各協賛の名前（社名）を並べて載せるという方向で進めることで意見の一致をみた。この協賛金は九月末日までに集めるものとし、各理事が窓口となることになった。

また、記念誌作成の実作業を担当する「門連だより編集委員会」に対して近々相談すること、原稿のメ切は九月十日とすること、記念誌中の座談会の人選については大橋常任理事に一任するということなどが確認された。

引きつづき京都門下連合会の松下日肆理事長より現状報告および予定の報告がなされた。二月十六日御降誕会、四月二十六日開宗会、八月二十八日の夏期大学の開催と次々に報告され、更に十一月二十八日の門連結成三十周年記念事業の一つである京都の本門法華宗大本山妙蓮寺に於いて開催予定の京都理事会へと話が進んだ。現在の予定では、法要後、記念写真撮影、西陣の錦織りを見学、さらに妙蓮寺近くのホテルにおいて懇親会を開くというものである。また、藤田尚慈副理事長が中心となって、各派より一名づつ委員を選出し京都門連の歴史をまとめる作業に入ることが報告された。


30周年記念法要集合写真

午後四時二十分、時間を延長された理事会は伊藤通明理事長発声の玄題三唱をもって閉会した。

会場を下部温泉・ホテル守田に移し、身延山久遠寺法主岩間日勇猊下をはじめ、身延山久遠寺総務藤井教雄師、身延山役員御参加のもと、午後六時三十分より懇親会が催され、ここに平成二年度身延理事会は無事終了した。

就任にあたって

日蓮聖人門下 連合会理事長 **伊藤　通明**



今般日蓮聖人門下連合会各聖の御推薦に依り、理事長に就任いたしましたが、重責に身のひきしまる思いでございます。

輝かしい三十年間の門連活動をかえりみます時、それぞれの時代に即応した日蓮門下としての理念に基く、積極的な対外活動の展開は目をみはるものがございます。

特に門下連合会が「祖廟中心」の理念によって身延山の祖廟に於て結成され、異体同心の誓いを基盤として固い連合の意識に結ばれた事は、日蓮聖人門下大同団結の為、偉大な一歩であったと存ずるものであります。

門下連合会結成以後主たる活動として、全日本仏教会発行の「創価学会の批判的解明」に対する厳重抗議を全仏当局に行い、陳謝、廃刊に至らしめた事や、昭和四十一年五月、日比谷公会堂において「日蓮聖人門下連合大講演会」を行い、異体同心して正法を顕揚した熱情は今に記憶新たなものがございます。

近年の活動としては日蓮聖人第七百遠忌共同事業であります。

門下連合会が企画実行した「日蓮聖人展」「日蓮聖人劇」「オラトリオ日蓮の作詩、作曲、演奏会」「日蓮聖人門下青年の船」はいずれも日蓮聖人を広く世に知らしめ、大聖人の願業を実践しようとの、門下共通の基盤から打ち出された対外的な運動事業であり、その意義は誠に大なるものがあったと存じます。

門下連合会先輩各聖がかく叡智を結集し、門下連合の理念に立って諸事業を企画実行せられた事は、永く門下の歴史に記憶されなければならないと存じます。

来る二〇〇二年は日蓮聖人立教開宗七百五十年に相当いたしますが、願わくは御遠忌事業に勝るとも劣らない門下連合会としての事業、活動が実現することを、熱願いたします。

「日蓮聖人門下青年の船」を通じてつちかった、次代を荷う若き青年達の智慧と活動力をも結集し、門下連合会が更に大きく飛躍発展することを願ってやみません。

従地涌出

◆遠く奈良朝の昔より護国の経典として篤く尊信された仁王護国経には「国土乱れん時は先ず鬼神乱る、鬼神乱るるが故に萬民乱る」と説く。国土の乱れる時には、先ず以て鬼神が跳梁する。鬼神が跋扈するから人々の行動が乱れ、人々の行動が常規を逸する結果として国土が荒乱する、というのである。

◆今、この「鬼神」の二字に「思想」の二字を置きかえてみるなら、国家が思想的に惑乱することにより国民の行動が狂乱に陥り、人々の行動が狂乱に陥るから国土が荒廃することは否定できない。ならば、国土の不祥事を払う根本は、国家を思想的に更生せしめることの外にない。

◆日蓮聖人が「立正安国論」を時の鎌倉幕府に建白された御主張もここにある。安国を願うならば明教を国家に樹立することが第一であると法華信仰の大事を叫ばれたのである。正に「立正」であり、立正であってこそ始めて「安国」は自ら来ることになる。

◆国家が思想的に更生しないで国土の災害をのがれんとしてもそれは上流を濁していて下流を清めんとするが如きもの、いわゆる百年河清を待つの愚であろう。

◆たとえ台風豪雨地震の如き自然の災害であっても、国民の心の持ち方によってその被害を最小限に防止出来るものである。数多ある社会問題の多くもまた然りである。

◆災起り、難起るの如き痛ましい報道の、日日余りに多きことは、人々の思想の惑乱であり、人の世の災禍の根本である。今こそ聖祖の御主張「立正安国」の実践を忘れてはならない時である。

（和）

シリーズ門下寺本山巡り　8

国柱会本部・妙宗大霊廟

宗風革新・祖道復古の大義を唱えて近代の仏教改革を推し進め日本国体を開顕した田中智学居士の国柱会を訪れる。



国柱会本部
東京都江戸川区一之江6－19－18
〒132　☎〇三（六五六）七一一一
Ⓕ〇三（六五六）九九八〇
▼地下鉄都営新宿線「一之江」駅下車、徒歩八分
▼JR総武線「新小岩」駅下車、都バス①番乗場で葛西行に乗車「一之江五丁目」下車、徒歩三分
▼車は、首都高小松川線「一之江」より三分

申孝園

国柱会は在家仏教の教団で寺院はなく「本山巡り」というには合わないが、全国の組織（71の支局）の中核となる国柱会本部を紹介する。

国柱会本部が所在する庭園は申孝園と称し、東京都江戸川区一之江にあり、昭和三年田中智学先生によって造園された。その名称は、『日本書紀』の神武天皇のお言葉「用て大孝を申べん」から付けられたもので、孝を行ずる庭という意味である。

申孝園の敷地は一六、五〇〇平方メートル（約五千坪）で、国柱会本部、妙宗大霊廟、有文館、申孝園ロータスヴィラ（七階建の有料老人ホームで現在増築中の新館には天体観察室ができる）その他の建造物がある。多くの樹木が茂り、池あり、山あり滝あり、緑の中に四季の花が咲く。桜も多く、桜まつりが開かれ地元の名所になっている。

園に入ってロータスヴィラの前を通って参道の左側に、「申孝の庭に克忠の花開く」という碑がある。参道をすすむと左前方に「立正安国」の大碑（高さ5.3メートル）が巍然として建っている。「日本一の聖語碑を」ということで田中智学先生が揮毫し、昭和十二年に建立された。高山樗牛の為の「吾人はすべからく現代を超越せざるべからず」の碑もある。聖語碑、銘言碑など、園内には四十五基に及ぶ碑が建てられており「土石説法」を続けている。

本部講堂の前庭の築山には、「田中智学先生示寂霊域」の碑が建てられている。先生は、昭和十四年十一月十七日、この地で帰寂された。行年七十九歳。ここで先生の業績・略歴をたどってみよう。

田中智学先生の業績

田中智学先生は、文久元年（一八六一）日本橋に、法華の強信者医師多田玄龍居士の三男として生まれ、本名は巳之助。幼くして両親を失い、日蓮宗の妙覚寺（申孝園に隣接）智境院日進師に随身、得度して智学の名を受ける。飯高檀林を経て二本榎の大教院に学んだが宗義に疑問を抱き、明治十年妙覚寺に帰る。御妙判、内外の経書を独学研鑽して開悟し、同十二年、十九歳の春、発願して還俗。翌年、横浜に同志を糾合して蓮華会を起こされた。

明治十七年、東京に進出して在家仏教の模範教団、立正安国会（国柱会の前身）を創立。宗風革新・祖道復古の大義を唱え、純正日蓮主義を唱導し、日本国体を開顕して、明治・大正・昭和の三代にわたり、言論、文書、芸術などを通じて多彩な活動を展開。近代という新しい時代に応じて、仏教の改革に取り組まれた。

田中智学先生は、護法護国の運動に全身全霊を捧げたが、先生は晩年事業の骨子として、

一、日蓮主義の対世間的唱導
二、日本国体の学的創唱
三、日蓮教学の式目成講
四、本尊式の奠定
五、妙宗大霊廟の創唱

の五つをあげている。

著述の数は二百篇ちかく、組織宗学・本化妙宗式目『日蓮主義教学大観』、祖書註釈『本化聖典大辞林』の刊行はじめ日刊新聞を約二十年間発行するなど、興学に布教に経営におどろくべき精進力を発揮された。

昭和六年、身延祖廟に「立正」の勅額下賜を期に、「祖廟中心・宗門統一」をスローガンに身延登詣団をおこされた。国柱会の主張の一つに「全日蓮御門下各教団が遺制と各派祖をこえて聖祖にかえり統合されることを念願して活動し、その暁には国柱会の存在理由は解消するので祖廟の御前で解散すべきものであり、その日が早からんことを祈る」ということがある。

本部講堂と有文館

現在の国柱会本部講堂は昭和四十三年に落成、屋根は合掌を象徴している。正境宝殿には、佐渡始顕の妙法曼荼羅御本尊（四聖帰命式）が奉安されている。御宝壇は総檜づくりの純日本式で、清浄の気が充ちている。御聖日の法要はじめ、諸儀式が厳修される。

諸儀典のうち満月会頂経式（世間のお宮まいり）は明治十九年に制定された。明治二十年には仏前結婚式「本化正婚式」が制定されたが、これは神社における神前結婚式よりも早く、日本の仏教史上初めてのことである。

日々の法要は、午前七時に朝拝、十一時半開式で「国柱会日課国禱正中法座」が厳修される。報恩・国禱・回向の祈願がなされる。国禱は文字どおり「国を祈る精誠の祈願」で立正安国・通一仏土・世界絶対平和の実現の祈りがこめられる。

正中法座は、一日中でもっとも神聖な法要で、全国の国柱会会員は、「正中合念」といって、正午にはどこに居ても唱題祈念・合念する。

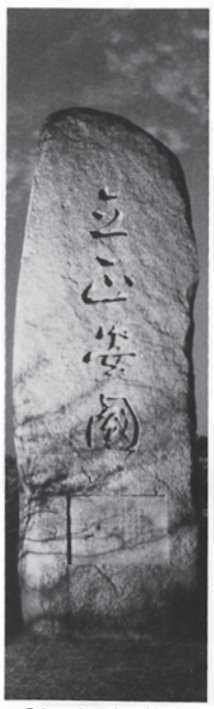
講堂は二階にあり、一階は本部事務所と集会室になっており、日常の業務や集会等がおこなわれている。

講堂の南側には〝有文館〟があり一、二階はサロン、大広間など集会宿泊設備があり、三階は研究室・真世界文化研究院・図書室。四階は、「田中智学先生記念館」となっている。記念館は、先生の業績を顕彰するとともに、国柱会の歴史を明らかにする資料館として一般に公開されている（原則として午前九時～午後五時、休館日なし）。

近年、国柱会信行員であった宮沢賢治の研究がさかんで、研究者や卒論を書く学生などの来館が目立っている。

有文館の前、東側には剣道場〝必武館〟（田中香浦館長）があり、近所の青年や学童等の元気な声が響いている。


法華経の教えを形に表わした妙宗大霊廟


「立正安国」の大碑

妙宗大霊廟

本部講堂の北側には芝生の庭があり、その奥の樹木に囲まれた蒼竜池の中に「妙宗大霊廟」が厳かに立っている。

大霊廟は、田中智学先生の意匠設計により、大正十五年夏に起工、昭和三年三月に竣工した。法華経の教えを形にあらわしたお墓で、先生はじめ同信同行、霊廟の主旨に賛同するすべての人々が、あらゆる差別を超越して怨親平等一体となって安住している。一つの塔にみんなが一緒に入る文字どおり「異体同心」を具体化した「一塔合安」式が大きな特色となっている。

大霊廟は、遺骨が納鎮されるカロート（7.2メートルの正方形で、水面下2.5メートル、水面上3メートル）の上に三段の塔壇があり、塔壇の上に宝塔が建てられており、地上から宝塔の先端までは十メートル。百万人の遺骨が納鎮される設計になっている。

塔身の正面、金色さんぜんたる「南無妙法蓮華経」は仏界を表わし、塔座は九界を表徴しており、全体に散華がなされ「十界成仏」の意匠となっている。塔身の左右の面には、「如説修行異体同心」「不惜身命護持正法」の文字がみえるが、法華経信行者と大霊廟の精神が要約されている。

霊廟の前庭の池畔の両側には〝常勤台〟があり、参拝者による唱題給仕など、常に回向供養がなされている。不幸にして子孫が絶えるようなことがあっても無縁になることはなく、同信同行の至誠の唱題給仕によって、常に永遠に、供養がなされるのである。

この大霊廟は、田中智学先生が、「予が（宗教活動の）卒業論文である」といわれているが、宗教的、倫理的、また社会的にも実に深い意義があり、まさに理想のお墓といえるだろう。現在、墓地問題が深刻化し社会問題となっているが、一塔合安の妙宗大霊廟がすべての解答を出しているように思われる。



暑中御見舞

平成二年盛夏



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―二二一―一五
電　話　〇三(七五一)七一八一(代)
ＦＡＸ　〇三(七五一)七　一　八　六

管　長　岩間　日勇
宗務総長　伊藤　通明
宗務副総長　佐藤　光春
綜合企画部長　岩間　湛正
庶務部長　二宮　將泰
財務部長　田中　恵康
教務部長　石井　隆教
護法伝道部長　石川　浩徳
現代宗教研究所長　石川　教張
参与　白部　健順
参与　岡田　法順
日蓮宗新聞社社長　菊池　泰瑞

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電　話　〇三(九一〇)四七五五(代)
ＦＡＸ　〇三(九一八)七　九　九　四

管　長　久保木　日秀
宗務総長　川口　善教
教学部長　木村　日應
庶務部長　大塚　正信
教化部長　中村　宏龍
財務部長　芹澤　泰謙

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五(七九一)七　一　七　一

管　長　古瀬　日宇
宗務総長　吉永　正晴
宗務次長　山田　信正
財務部長　飯澤　道宣
布教部長　山本　学人
教務部長　平田　浄應
社会部長　田島　敏義
庶務部長　島田　幸晴

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三(九一八)七二九〇
ＦＡＸ　〇三(五七六)〇一二一

管　長　水本　日穏
宗務総長　牧野　琢成
総務部長　土屋　善敬
教学部長　都築　哲信
教化部長　金原　戒雄
財務部長　江坂　隆俊

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電　話　〇七五(四六一)一　一　六　六(代)
ＦＡＸ　〇七五(四六四)五　五　九　九

講有　梶本　日裔
講尊　小山　日幹
宗務総長　井上　日慶
宗務副総長　齊藤　日敬
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電　話　〇七五(七七一)三　三　九　〇

管　長　嘉儀　日有
宗務総長教学部長　住友　顕一
総務部長法務部長　今村　要道
財務部長　矢田　尚義

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電　話　〇七五(四四一)五　七　六　二

管　長　上田　日源
宗務総長　吉田　勝秀
総務部長　長鎌　研宏
教学部長　上嶋　泰信
教化部長　左神　智岳
社会部長　蓑輪　信学
財務部長　小西　渓玉
参与　吉田　法明
参与　上田　勝秀
教学主事　小島　浩岳
教化主事　岩崎　玄城
財務主事　笹木　峻暉
書記　矢放　研秀
真文

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙　蓮　寺
電　話　〇七五(四五一)三　五　二　七

管　長　中村　日宣
宗務総長　吉村　信尚
宗務部長　信　隆允忠
財務部長　山下　通雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　飯田　信栄
教務部長　高辺　誠亮
門連常任理事　木村　光紹

宗教法人　国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三(六五六)七　一　一　一(代)
ＦＡＸ　〇三(六五六)九　九　八　〇

会　長　田中　香浦
理事長　加倉井　清信
副理事長　中平　千三郎
門連常任理事　大橋　邦正

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電　話　〇六(二六一)三二二六

首　座　上野　行量

京都日蓮聖人門下連合会

〒602 京都府京都市上京区寺ノ内通大宮東入
堅　樹　院(京門連事務局)
電話　〇七五(四三一)〇四九一

会　長　中村　日宣
副会長　沖　日亨
理事長　松下　日肆
副理事長　藤田　尚慈

暑中御見舞

平成2年盛夏

(順不同)

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(二)一〇一一
FAX 〇五五六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(七五二)三三三一

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主　古瀬日宇
総務　山田信正
執事　平田浄應
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　水本日穏
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　佐古弘文
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　上田日源
執事長　上田浩岳
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事補　笹木研秀
書記　矢放真文
〒602 京都府京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二

本門法華宗
大本山妙蓮寺
貫首　中村日宣
執事長　松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二一七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
執事長　住友顕一
執事　今村要道
執事　矢田尚義
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　十九世講有　梶本日裔
事務局長　信徒総代　小倉徳治郎
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六二)四六二一〇(代)
FAX 〇七五(四六二)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
貫首　水谷日諦
執事長　玉田学雄
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
参与　関観康
同　小倉俊明
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
執事長　渡辺行俊
〒272 千葉県市川市中山二―十一―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

公元一九九〇年十月十三日
開山日像菩薩御遠忌奉修
日蓮宗本山
立本寺
貫主　細井日苑
〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七
電話 〇七五(四六一)六五一一六

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　金子光瑩
参与　同　土屋学周
同　新井智清
同　山田完修
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
東京執事　田村宏祐
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

大阪懇話会の総会が開催さる

平成二年度大阪日蓮門下懇話会総会並びに今年度行事について理事会を一月二十日、午後六時より大阪グランドホテルに於て開催した。

出席された理事は、日蓮宗伊丹栄彰理事長　顕本法華宗吉永正晴副理事長　国柱会麻田正広理事　日蓮本宗高橋勇夫理事　法華宗陣門流門谷光瑞理事　法華宗真門流長鎌泰信理事　本門法華宗信隆允忠理事　日蓮宗奥邨正寛理事　日蓮宗藤田文明理事　日蓮宗有光友信会計以上十名で種々検討された結果、来る五月十二日日蓮大聖人伊豆御法難の聖日をきして第三回総会を開催する事を決定した。

三月二十九日、午後六時より雲雷寺に於て理事会を開催し総会の案内其の他の準備打合せ等種々懇談をして総会を待つのみとなった。

平成二年五月十二日午後四時より、日蓮門下懇話会総会が雲雷寺にて開催された。伊丹理事長大導師のもと御法難会報恩法味言上。国柱会麻田正広師司会のもとに、伊丹理事長、全国日蓮聖人門下連合会本部岩間湛正師の挨拶を頂き、座長に日蓮本宗高橋勇夫師を選び議事に入り、事業報告、会計報告、今後の方針、其の他の順で議事が進められた。

特に今年度の事業に付いては十二月中旬頃に研修会を開催、講演に医学と宗教を考へる会のリーダーを選定し癌にまつわる人類の苦、病名告知、ターミナルケア、脳死、臓器移植、出産前の胎児の検診、老人医療の問題等を研修する事になり、何れ理事会に於て日時内容等を検討する事を約束して議事を終了した。

午後五時より顕本法華宗蓮成寺御住職吉永正晴師に『日蓮門下のあゆみ』、未来への展望と題して講演を賜り午後六時より懇親会に入り、なごやかな内に意義有る第三回大阪日蓮門下懇話会の総会を無事終了した。

水本日穏猊下御入山

六月二十一日、新貫首水本日穏猊下が法華宗総本山本成寺八十三世として法灯を継承された。

当日はあいにく雨に見舞われたが、早朝から山内塔頭寺院御機嫌奉伺に始まり、門中寺院・檀信徒のお目通りがあり、午前十一時、七十人ほどの門中寺院と二、三百人の檀信徒で構成された行列が赤門を出発。

本堂向拝では牧野宗務総長・真保本山執事長がお迎えに上がり、御案内し「着座の儀」が行なわれた。朗々と流れる読経の中「法灯継承の儀」が行なわれ、「門祖日陣聖人御制戒」を猊下が御奉読された。

引き続き本堂で歓迎式が行なわれた。

宗務総長からの新貫首猊下御紹介、布施宗会議長・兼古本山総代の歓迎の辞、更には内山三条市長、池上本門寺貫首田中日淳猊下、統合協議会代表、顕本法華宗管長古瀬日宇猊下、国柱会会長田中香浦先生から祝辞があった。

最後に日穏猊下は「私は立派でも器量が優れているわけでもなく、小さな信心を持って生き、それを少しでも大きくしたいと思って生きてきただけです。教えに信念不動になれば悟りの水が近付いてくるという言葉がありますが、私は七十年間、こつこつ生きてきて、たどり着くところは信心の水、悟りの水であることにやっと気付きました。人の憂いを自分の憂いとし、人の痛みを自分の痛みとして明るく生きていきたい、それが私の願いです。」と御挨拶された。

この後、対面の間において「屠蘇の儀」更に客殿で祝宴となり、全国各地から訪れた一千人近い人々が新貫首猊下の御入山をお祝いした。



「開祖日陣聖人御制戒」を御奉読される猊下

比叡山で京都門連が開宗会

京都日蓮聖人門下連合会主催の開宗会が、四月二十六日比叡山にて奉行された。

好天に恵まれたこの日、本山頂妙寺に集合、僧俗合わせて250名が、本堂にて法味言上、バス4台にて一路比叡山へ向かう。日本佛教根本道場比叡山延暦寺大講堂にて、御本尊十界曼陀羅（日等聖人筆―頂妙寺什）を掲げ、小湊誕生寺より奉安された日蓮聖人御木像（大講堂常什）を安置、本門法華宗管長大本山妙蓮寺貫首中村日宣猊下を大導師、京都門連理事長松下日肆僧正並びに、副理事長藤田尚慈僧正が脇導師に、本門法華宗青年僧侶が式衆に、又、日蓮宗京都雅楽会出仕のもと、737年前をしのび、立教開宗法要が厳修された。法要に先立ち、日蓮宗京都府第一部布教師会会長本田義遠僧正により、「親の心、子の心」と題して法話があり、参加者一同法悦にひたった。法要後、関西唯一の霊場横川定光院に参詣、日蓮聖人の苦修練学の行地をしっかりと踏む。そして、最後に多くの文化財を有する天台真盛宗総本山西教寺を拝観し、有意義なる立教開宗会の聖日をしのんだ。



「開宗会」（於：比叡山・平成2年4／28）

京都門連降誕会が奉行される

寒さ厳しき2月16日、今を去る768年の昔、御生誕あそばされた、日蓮聖人を慶讃し、御報恩に謝すべく、降誕会が本門法華宗大本山妙蓮寺にて奉行された。

中村日宣貫首大導師のもと、松下日肆理事長、藤田尚慈副理事長が脇導師に、本門法華宗青年僧侶、日蓮宗京都雅楽会出仕にて、僧俗約200人が参詣し御降誕会に御報恩の誠を捧げた。法要後本山本法寺貫首金山寛成猊下による「甘露のなみだ」と題した講話があり、参詣の善男善女は、講題の如く甘露の涙とともに、祖師の心に触れていた。

御供養に暖かいうどんを戴き、無事降誕会が終了した。

布教誌・紙の紹介 3

法華宗陣門流

「宝塔」

「お彼岸のしおり」

◎布教誌「宝塔」は昭和四十四年三月に宗内檀信徒向けとして第一集が発行されて以来、年三、四回のペースで発行、本年お盆号をもって、第七十五集を数えるに至った。

◎誌題の「宝塔」は本宗総本山本成寺院号によるもので、正和二年（一三一三）開山日印聖人が朗師より長久山宝塔院本成寺の寺号を賜わった。その院号「宝塔」にちなんで命名されたものである。



◎当初はA五版の冊子から始まり、第二十五集より現在の広報紙スタイルと改められた。表紙にカラーを使用したのは昭和五十六年の第四十集が始まりであった。

◎「宝塔」の編集方針としては、とかく布教誌はむづかしい教義が主となるところを、その視点を大衆性・ニュース性・ローカル性などを取り入れ、信徒の身近な布教誌とすることをねらいとしている。また各教区に、宝塔通信員十二名を配し、地方の教区活動の取材を積極的に掲載するように心がけている。

◎第七十五集の表紙は、今年四十五回目の原爆の日を迎える広島の風景である。今年度の中央行学講習会がこの地を会場に行なわれ、碑前で参加僧侶による原爆犠牲者追悼の読経が捧げられようとしている。

◎その他〈御本山だより〉〈やさしい教学〉〈信徒のひろば〉〈宗内ニュース〉〈教区ニュース〉など、読みやすい編集になっている。（年四回発行）

◎最後に本誌の他に「お彼岸のしおり」も刊行されている。先号は五つの修行（五種法師）について、イラスト入りで年少者にもわかるように書かれている。



昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭和天皇より下賜された「立正」額（実物大四分の一に縮尺複刻したものです。）皆様のご家庭へ特別頒布

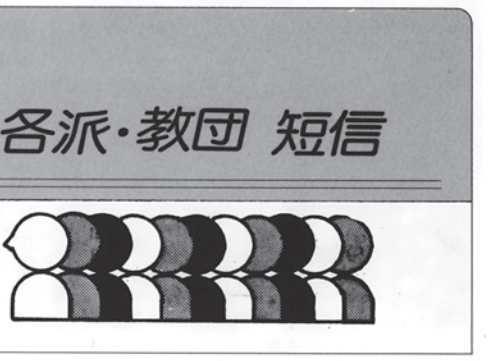
頒布金額　色紙共　八千五百円（送料共）

（残部僅少）

お申し込みは　日蓮宗新聞社　電話 03-755-5271　FAX 03-753-7028

〒146 東京都大田区池上3―16―9

各派・教団 短信



日本山妙法寺

◆平成2年元旦祝祷会、皇居御祈念。8、9両日熱海道場恩師行勝院日達聖人第六回忌法要。印度クシヨクバクラ猊下英国ジエリー氏等参詣。30日ボンベイガンジー翁殉難祈念行進。九段道場にても集会。

◆2月3日～17日ニカラガ平和行進。4日印度バイシヤリ仏舎利塔起工式。11日東京～焼津平和行脚出発。25日熱海道場仏足山等で後河院様大法要。26日身延山参詣。

◆3月25日宮崎青島道場再建開堂供養。31日ネバダ核実験場にて祈念。

◆4月1日佐賀道場再建開堂供養。6日久山8日花岡山仏舎利塔法要。27日日蓮宗清澄寺開宗会参列。日本山では法要後得度式。28日暁天参拝後広島長崎平和行脚発進式。米国グラフトン宝塔開眼式。30日吉原道場開創67周年記念法要。

◆5月3日多摩仏舎利塔7周年法要。5日米国コロラド州ボルダー道場開堂供養。6日三河仏舎利塔地鎮祭。12日伊豆御法難会仏現寺等参拝。20日宝塚仏舎利塔11周年記念法要。

◆6月1日旭川焼津平和行脚出発。10日奥多摩仏舎利塔記念法要。16日ロンドン仏舎利塔五周年法要。17日ミルトンキーンズ仏舎利塔10周年法要。6月20日パリー15周年法要。23日ウィーン道場上棟式。24日仏舎利塔七周年法要。（石山善邦）

本門佛立宗

◆佛立宗の開導の師日扇聖人の百回御遠諱・総修大法要が、四月二十八日から五月六日に至るゴールデンウィークの九日間をかけて、京都西陣にある本山宥清寺と伏見の見本市会館を会場に厳修された。

◆期間中は、海外からの百六十名を含めて、全国から凡そ六万人の参詣者を得、延べ五千人の信徒有志による泊まり込み奉仕者の奉仕と、京都市営地下鉄・市営バスの全面的かつ好意的な協力のお蔭で、一件の事故も無く無事円成した。

◆宗門では、このあと結実大会を来年の夏に予定し、全国の青少年を一堂に集めて催し、結前生後たる一連の日扇聖人百回御遠諱事業を締めくくり、同時に佛立二世紀に向けて船出するとの事。

◆七月から八月にかけて、宗門恒例の僧俗一体・夏期参詣が全国で一斉に繰り広げられている。（深沢泉奥）

本門法華宗

◆管長佐野日紀猊下（京都市円常院住職）の任期が3月25日満了に伴い新管長に中村日宣猊下（大和郡山市本門寺住職）が推戴された。

◆吉村宗務総長の任期満了に伴い、2月25日総長選挙が公示、新総長の選出が行なわれ、吉村信尚師（大阪市大願寺住職）が再選された。内局各部長には、総務部長に藤井宏長師（大阪市本妙寺住職）、教務部長に高辺誠亮師（大阪市久成寺住職）、宗務部長に信隆允忠師（大阪市妙堯寺住職）、財務部長に山下通雄師（大阪市妙覚寺住職）、庶務部長に飯田信栄師（京都市慈詮院住職）がそれぞれ就任した。（持地光学）

京都門連

◆5月21日京都門連理事会が大本山妙蓮寺（京門連当番寺）に於いて開催、夏期大学開催の内容検討、御会式奉行の件に併せて、全門連京都会議等の議案審議がなされた。

◆5月22日春の主伴会が、妙蓮寺当番で京嵐山辨慶で開催された。

副当番の本山本法寺貫首、金山寛成猊下より、十六本山が一堂に会して、各本山の発展を祝い合うことは、京都に生きる日蓮教団として意義深いものがある。全国の日蓮門下が京都を手本とする京都造りを進めて行きましょう、と挨拶。

各本山の半年の情報交換に入り、京都門連の本年度行事報告、全門連三十周年京都法要についての懇談をなし、懇親会に入った。最後に、当番妙蓮寺貫首中村日宣猊下より、夏期大学の開催、お会式の奉修、三十周年京都法要についての協力要請と京都門連史編纂委員会（仮称）の委員選出方依頼の挨拶がありお開きとなった。本法寺金山寛成、妙覚寺関根龍雄、本圀寺水谷諦俊、妙満寺古瀬日宇、要法寺嘉儀日有、本能寺和田日聶、本隆寺上田日源、妙蓮寺中村日宣、日蓮宗京都宗務所藤田尚慈所長の各猊下に各山執事長、執事二十有余名が参加。（松下日肆）

法華宗本門流

◆4月4日、5日の両日、静岡県沼津市の大本山光長寺（久保木日秀貫首）において御開山日法聖人（日蓮大聖人御直弟・中老僧）の第六五〇遠忌大法要が盛大に営まれた。二十八紙大曼荼羅を開展しての両日六座の大法要は、各大本山御貫首猊下が大導師を勤められ、六千人を超える檀信徒が全国より参詣した。

◆平成2年4月8日付を以て、第百十四代管長に、大本山光長寺貫首久保木日秀猊下が推戴された。これに伴い門連顧問に就任した。

◆第三十九次定期宗会が、5月16日・17日の両日に亘り久保木日秀管長猊下御親臨のもと、東京湯島のホテルガーデンパレスにて開催された。尚、本年度の全国宗務所長会も5月24日、25日、同会場にて開催された。

◆布教機関誌『無上道』が、実に四十一年八ヶ月の歳月を費やし、本年八月号をもって五〇〇号の大金字塔を打ち樹てた。その刊行奉告法要・歴代編集長等物故者追弔法要が7月27日、京都大本山本能寺において厳修され、引き続き本能寺文化会館において五〇〇号刊行記念祝賀会が開催された。（矢吹慈英）

日蓮宗

◆澁谷直城師の宗務総長辞任により4月3日に開かれた臨時宗会にて、新宗務総長に静岡県感応寺住職伊藤通明師が選出された。また4月6日には新内局が選任された。新内局の構成は次のとおりである。

宗務副総長　佐藤光春師
綜合企画部長　岩間湛正師
庶務部長　二宮將泰師
財務部長　田中恵康師
教務部長　石井隆教師
護法伝道部長　石川浩徳師
現代宗教研究所長　石川教張師

◆時代に即応する布教を行なうための理論研究及び技術指導を行なう日蓮宗布教研修所が6月1日に開設され、本年度も選考により十名の青年僧が入所した。11月30日までの六ヶ月間、千葉県市川市真間の弘法寺において研修が行なわれる。

◆昭和63年より行なわれていた岩間日勇管長猊下の全国御親教は、6月20日の北海道教区をもって十教区全てを終了した。また、本年9月には、北米日蓮仏教団創立七十五周年を記念して、北米にて御親教が行なわれる予定である。（望月康史）

国柱会

◆平成元年7月から開始された『昭和天皇の御製』の普及運動を続けて展開、靖国神社、武蔵野御陵はじめ各地で頒布活動をおこなった。現在九万五千冊の普及がなされた。

◆1月7日、国柱会本部で、昭和天皇御一周年報恩大法要厳修。報恩の集いもおこなわれた。

◆2月11～12日、国柱会本部で田中香浦会長の特別講義「日蓮教学の近代的な解明」が開講。3月10～11日、大阪の会堂天業館でも開講。

◆毎月1回、妙宗大霊廟供養会の後田中会長より「観心本尊鈔」講義。

◆韓国の扶餘に「仏教伝来謝恩碑」が建立（昭和47年）されているが、友好親善の交流がふかめられている。今度、扶餘郡庁より桜苗木寄贈の要請があり、国柱会がお世話して、3月30日、桜苗木五千二百本が空路発送された。

◆4月28～29日、第60回国柱会身延登詣団。大祖廟にて立正会慶讃式典と思親閣へ登詣。感謝会も開かる。

◆7月8日、国柱会本部で真世界文化研究院主催の第二回研究発表会がおこなわれた。（秋場善弥）

顕本法華宗

◆3月7日～9日、定期宗会。宗会議員改選後、初の開会で議長に大井善修師、副議長に津村俊孝師を選任常置委員五名の選出と共に新構成が承認された。

◆5月20日、ブラジル顕本寺主管、渡辺昭夫師の帰国に伴い、後任主管として木村順静師（木更津市成就寺住職）が派遣された。

◆6月8日、東部僧員布教研修会。

◆6月20日、西部僧員布教研修会。高齢化社会の医療と宗教が主テーマ。

◆7月20日～8月2日、妙塔檀林が総本山妙満寺に於て開講された。本年は、遠くブラジルより参加の受講者と共に、女子受講者も目立った。

◆7月24日～27日、顕本少年錬成会。総本山妙満寺を会場に、全国より80名の青少年が参加。（秋葉敬真）

日蓮本宗

◆来る平成6年5月8日は本山要法寺御開山日尊上人の第六百五十遠忌の正当である。この年はいみじくも平安建都一千二百年に当り、数多くの記念事業が計画されている。

◆開山日尊上人の第六百五十遠忌を一層意義あらしめるため「御遠忌企画委員会」を本年度より発足させることが、先般の定期宗会で決議された。委員の選定は当局一任。

◆富谷日震者「本宗史綱」が、開山日尊上人第六百五十遠忌を記念して、五十年ぶりに発刊することになった。目下立正大学中尾教授のもとで校閲中、すでに一部は印刷に廻され、発刊は平成5年末の予定。

◆本山要法寺貫首の補処である大学頭に丹治義順師（福島仏眼寺住職）が決定し、10月13日の御大会式に先立って「血脈相承式」が古式にのっとって執行されることになった。

◆新年度より門連役員が変更され、常任理事に住友顕一宗務総長、理事に今村要道総務部長、柳下義真東京出張所長各師が就任。（柳下義真）

法華宗真門流

◆東山未生流華展開催さる。平成元年11月4日、5日の両日、総本山が家元の華道、東山未生流の華展が総本山本隆寺に於いて、同総裁上田日源猊下、今枝幹詔華務長のもと開かれた。本堂・客殿・方丈会館と第五席まで設けられ、両日多数の入場者で終日賑わった。

◆宗学研究所の陣容が決定さる。上田日源猊下より、所長に前管長林日圓御閑居猊下が任命された。所員には、新進気鋭、研究熱心な青年僧が選出された。

指導所員　真枝真慧師　久保日参師
　　堀内隆栄師
研究所員　岩崎峻暉師　田中諦史師
　　辻本寛孝師　大島諦瑛師
　　西岡完孝師　上田泰源師

◆第四教区峰尾泉涌師表彰さる。北海道小樽市宣誠寺住職、峰尾泉涌師は、平成元年11月13日法務省に於いて永年の教誨師の功績により感謝状を授与された。上人は社会的活躍はもとより、布教師養成所長として青年僧の育成に精進されている。

◆第二教区護法会ゲートボール大会実施さる。第二教区（橋本日賢所長）では、平成元年10月27日、鯖江市水落町のゲートボール場で、教区内各寺院の檀信徒を中心に十四チーム総勢百余名が参加し大会を開催。神明題目講チームが優勝、来年の再会を約し、親交を深め散会した。

◆第一教区、韓国仏教寺院を巡拝す。東大阪市法照寺と師恩会主催により平成元年11月25日より四泊五日の日程で韓国仏教寺院、梵魚寺・通度寺・仏国寺・華厳寺・松広寺・海印寺等を巡拝し、無事帰国した。

◆第三教区「妙雲会」寒修行を執行。恒例の妙雲会（安立修学会長）が本年も1月16日より十二日間唱題行脚を実施した。（吉田勝秀）

法華宗陣門流

◆2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺会」が貫首野口日騰猊下の導師のもとに厳修された。この日は例年になく穏やかな日となり、節分の名の如く立春を迎えるにふさわしく、雪国では珍しい青空が広がり、新潟県内外から多くの参詣者（一万一千人）が訪れた。

◆5月10日・11日統合協議会（顕本・真門流・陣門流）が法華宗陣門流の当番宗のもと、陣門流総本山本成寺を会場に開催。協議事項は「統合学院（学生講座）に関する事項」「聖訓カレンダーの刊行に関する事項」「門下連合会に関する事項」「統合協議会海外視察に関する事項」等。

◆5月27日総本山本成寺八十二世野口日騰猊下の御退山式が祠堂法要最終日に厳修された。

◆統合学院学生講座開催される。6月16・17・18日の三日間、宗務院内陣門講堂にて、開催された。講師は法華宗真門流、吉田勝秀上人、「開目鈔」の素読を中心に講義された。

◆6月21日総本山本成寺八十三世水本日穏猊下の御入山式が厳修された。（鈴木昭雄）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

文通流

るつうぶん

＊門連結成三十周年記念の法要が、身延山祖廟にて行われた。

＊理事会終了後場所をホテル守田に移し、懇親会。いつになく盛り上がり、各派の総長さん方が、和気あいあいの中に、互いに肩を組み、そして歌が出るなど懇親をさらに深め、三十周年の記念事業の円成を誓いあった。＊この門連だよりが各派間の友好のきずなとなり、異体同志の誓いのもとさらに飛躍発展するため、微力を尽くしたいと念願している。＊酷暑の中、門連だより第九号が、編集委員の諸師によって校正されている。まことにご苦労さまである。ベテランの前T編集長の後をうけての事で、どこまでできるか。とにかく、ご協力、ご指導を得て発行に努力をつくしたい。よろしく。（康）

日蓮聖人門連だより

門連結成三十周年記念事業第二弾

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成３年２月16日
第10号

京都理事会に於いて記念講演会開催さる

平成のご大典を国民が奉祝したこの佳き年に、日蓮聖人門下連合会は結成三十周年の節目を迎えた。三十周年を記念し、恒例の京都理事会は、十一月二十八日（水）、本門法華宗大本山妙蓮寺にて開催された。

当日は、午前十一時より受付が開始され、各地より関係者が集った。

十一月二十八日がその日であるが、毎年だとコートなどを纏わないと寒さが身にしみる候である。しかし、なぜか今年は暖かい。会場の妙蓮寺境内にある桜が、開花している。一瞬わが目を疑った。

如来寿量品「雨曼荼羅華散佛及大衆」相の顕現か。この華は、門連諸聖の参集に対してのものか、あるいは、今上ご即位に対してのものか、などあれこれ考えを巡らしながら会場に入った。

書院の一室が控え室にあてられ、そこでは妙蓮寺寺庭婦人有志による茶菓の接待が行われていた。艶やかなご婦人の接待は、ともすれば緊張しがちな雰囲気を、和やかにして余りあるものである。

それと今回特に目についたことは、その控え室に掲げられた各派管長、及び各本山貫首猊下の揮毫になる色紙である。それぞれ達筆な妙文が記されてあり、注目を集めた。ころ憎い企てである。

昼食を頂戴したのち、宝物館を拝観、そして十二時三十分記念法要の開式。当日の大導師は本門法華宗管長・大本山妙蓮寺貫首中村日宣猊下である。

本堂内には門連加盟各派教団の重鎮各聖及び、京門連の諸聖がところ狭しと正座される中、式衆を引具した大導師は、粛々と本尊に対座せられた。

差定に従い、中村猊下より、門連三十周年記念奉告文が奏白された。門連三十年の小史が簡潔に述べられ、今後の一層の結束を表明。

ついで、門連理事長伊藤通明師より、三十年祭詞の言上があり、三十年の間に物故せられた先師四十六霊位に対し甚深の哀悼の意がつくされた。

焼香は衆を代表して、本門法華宗宗務総長吉村信尚師、門連理事長伊藤通明師、京門連理事長松下日肆師、京門連副理事長藤田尚慈師のち回し焼香により参集者全員が一番を手向けた。

回向、帰依と式はすすみ、荘厳な記念法要も終りを告げ、式衆退場。ただちに本堂前において記念撮影が行われた。


記念法要　大導師は本門法華宗管長
大本山妙蓮寺貫首中村日宣猊下


掲げられた各派管長およ
び各本山貫首猊下の揮毫


「門連30周年におもう」記念講演
本法寺貫首金山日龍猊下



記念祝賀会 於：京都ブライトンホテル

結成30周年！記念講演会

本紙にも既報のように、門連三十周年を記念する行事の柱の一つに記念講演会があった。

三十周年を記念する大きな柱に位置づけられていた企画であった関係上、どのような規模と内容で実施されるのか、大きな期待が寄せられていた。

その期待に応えるためにも当日行われた記念講演の様子を報告しておかねばならない。

まず、聴衆は当日参集の関係者約百名である。部外者の入場は無かったから、完全な内部講演であり、対外的な配慮はなかった様である。

それと、講師は、最初に妙蓮寺貫首中村日宣猊下が「妙蓮寺の沿革」について話され、次に本法寺貫首金山日龍猊下が「門連三十周年におもう」と題して所感を述べられた。

金山講師による講演は、日蓮聖人門下結集の歴史について語られたもの、宗門史に於ける門下全般に関連する視点での解説と言える。日像上人の帝都開教や日持上人の海外布教から説き起こし、寛正の盟約、天文法難、永禄の規約など、当時の時代状況を視野に入れながら、門下が歩んだ栄光と苦難の宗門史を俯瞰し現代の諸課題を聴衆者一人一人が考えるべく促された点で意義ある内容であった。しかし、過去の宗門史が、栄光と苦難の両面を現出してきた根源的なもの、あるいは信仰そのものの解明も併せて現代的に話し合わなければならないとする門連本来の使命については他日に譲られたようである。その点少し不満が残らないでもない。

以上のような一聴者の気ままにして無責任な感想をいだいたが、定刻となり記念講演会は終了した。

理事会から懇親の宴へ

少時休憩ののち、理事会に移行した。

座長には慣例により理事長が選出され就任。

座長挨拶が型のごとく行われ、事務局で用意された京都理事会次第が全員に配布された。次第の柱は、報告事項と案件である。

「上半期事業」「京都門連事業」「地方門連活動」と報告があったが、とくに大きな活発な事業が展開されていないこともあり、短時間のうちにそれらの報告は終了した。

最後の「その他」では、門連三十周年を記念して刊行された『結成30周年記念日蓮聖人門下連合会30年の歩み』が配布され、担当理事である大橋邦正師より報告があった。

記念誌を手にして熱心に目を通されるために討議に力が入らないのかどうか、次の案件に移ったが、発言がなく、やむを得ず案件討議は終了を告げられたのである。

案件とすべき諸項は、この記念誌の中に盛られている、門連活動の前向きな提案も各処に散見される、このように全員が理解され後日の討議に回されたかのごとくである。

＊

あっけなく終わった理事会ではあるが、京都ブライトンホテルに会場を移した祝賀会は大いに盛り上がった。

美味なるフランス料理と濃艶な舞妓さんの接待をうけたバラエティーに富んだ懇親の宴は、いやが上にも門連結束の思いを強固にした。

宴果て、晩秋の京都に未練は残ったが、やっとのことで新幹線に飛び乗った。

今回お世話いただいた京門連の各聖、中でも妙蓮寺の皆様には厚く御礼を申し上げたい。（相澤宏明記）


門連結成30周年京都会議　平成２年11月28日於：本門法華宗 大本山妙蓮寺

従地涌出

☆「日蓮がたましいは南無妙法蓮華経にすぎたるはなし」（経王殿御返事）経文に「我レ身命ヲ愛セズ但ダ無上道ヲ惜シム」と示されているように大聖人は「無上道たる法華経を我が身体に顕されていかれた」と主張された。

☆「汝早く信仰の寸心を改めて速に実乗の一善に帰せよ」（立正安国論）大聖人の御在世の七百年前の鎌倉に於いて、色々の宗教があったが、世の中は良くならない。大聖人は「正しい法華経の教えに照らされて、信仰の心を正しく改めて、真実の法華経（一善）に帰依せよ。そうすれば三界＝この世の中は仏国となりみな幸福になる。」

☆「信の弱きは濁るがごとし信心のいさぎよきは澄めるがごとし」（日厳尼御前御返事）心がいらいらしている時は、丁度水に小波の立っているようで、月は映りにくく釈尊の心に触れることはできない。しかし信仰心が深い時は、丁度水が澄んでいて月が映る。本仏釈尊の心が我々の心に映り、色々の苦悩が除かれる。

☆最近の世界情勢はめまぐるしく急変している。新しい宗教も色々起こり、世の中を乱しているものもある。本化の大法を信ずる我々は、法華経の鏡に照らされて寸心を改め大聖人の御誓願を受け継ぎたい。

☆「如日月光明、能除諸幽冥、斯人行世間、能滅衆生闇」例へ小事であれ南無妙法蓮華経の心を以って一人一人が実践することによって、祖願は実現されていく。（鈴）



シリーズ門下御本山巡り❾

日蓮本宗本山要法寺

「師厳道尊・給仕第一」。今に伝わる本山要法寺の命脈



“昭和の大修繕”で大屋根全面修復になった本堂・開山堂

梨一葉

はじめに

要法寺は二位の法印日尊上人（高祖日蓮大聖人の法孫・日興上人の付弟）開山の興門派尊門流の本山であり、永年にわたって王城の地であった京都の地に在る。現在は日蓮本宗に属している。

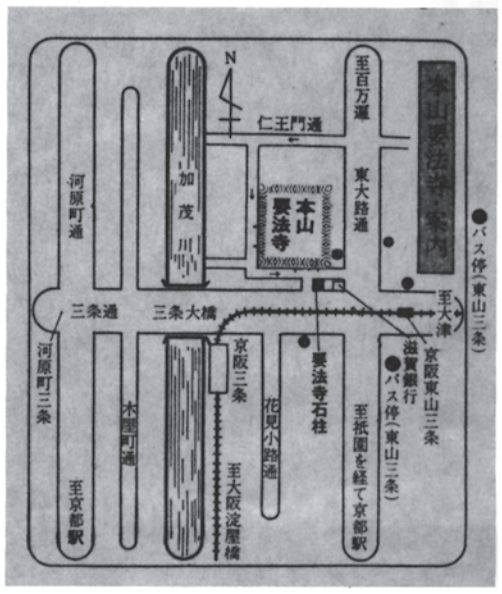
全国弘通十二カ年

この日より日尊上人の懺悔滅罪全国弘通行脚が始まった。西は石見の国（島根県）・安芸の国（広島県）から東は外ガ浜（青森県）まで足跡を残され、堅忍不抜、死身弘法の十二カ年を過ごされた。この間に王城の地（京都）に法華堂を建立、これを以て本山要法寺の濫觴とするのである。十二カ年間毎年十月十二日高祖日蓮大聖人御正当御逮夜には重須本門寺本堂庭前に日尊上人の姿がいずくからともなく現れ、庭前石（現存＝日尊上人御腰の石＝）に終夜坐して報恩の読経唱題をされ、十三日の明け方にはいずくへともなく去っていかれた。ここに尊門の「給仕第一」の姿がある。

三十六カ寺の新寺（帰依改宗を含む）建立の偉業の功により、日興上人は勘当を許され三十六幅の本尊を日尊上人に授与されたと伝えられている。

天奏の宿願成就

天奏は高祖日蓮大聖人の遺命であり、門下僧の悲願であった。元弘三年・北朝正慶二年（一三三三）日興上人は重須本門寺で世寿八十八歳で御入滅、日興上人は日目上人に「法華経本門の教義」天奏を命じられていたので、日目上人は日尊、日郷両上人を伴って、この年の十一月京都に向かわれたが、十五日美濃の垂井（岐阜県不破郡垂井町）で急な病のため志を果たすことなく入滅された。



日蓮本宗本山要法寺への経路

日尊・日郷両上人は日目上人をこの地（現日目庵＝聖跡御茶毘所跡＝）で荼毘に付し、舎利を抱いて上洛、ひとまず鳥辺野に墓所を求めて納骨を済ませた。

日尊上人は天奏を遂げるため王城の地にとどまり、日郷上人は日目上人入滅の悲報を伝えるために重須本門寺への道をとられた。翌建武元年（一三三四）春四月、日尊上人は後醍醐天皇・光明天皇に拝謁を許され、宿願の天奏を遂げた。

天皇は御感、六角油小路に止住の地と紫の小袖とを賜るとともに、二位の法印に叙せられた。この六角油小路に建立の法華堂が上行院で、日尊上人はここに住して、教化布教と弟子の育成に努められた。

康永四年・北朝興国二年（一三四三）、鳥辺山に坊舎（現実報寺）を建て、自ら一遍首題をしたためた逆修塔を建立するとともに、七箇之誡條（遺誡）を示した。弟子日尹・日大両上人に後事を託して、翌貞和元年（一三四五）五月八日、世寿八十一歳で鶴林に入られた。



重要文化財　渡金蓮唐草透　刻経　筥

上行院・住本寺併立

日尊上人の遺命で日尹上人は上行院に住し、日大上人は上行院の北に法華堂（後に住本寺と称する）を建てて、両寺併立で布教は目ざましかった。天文元年（一五三二）頃には京の町の三分の二は法華信者になったと言われている。天文五年（一五三六）の天文法華の乱によって、京都二十一カ本山はことごとく焼失、難を泉州堺（大阪府堺市）に避け、上行院も住本寺も当分堺に仮住居を続けることにてった。

寺名を「要法寺」と新称

天文法華の乱後、法華宗の京都還住は容易に許されなかったが、天文十七年（一五四八）上行院・住本寺もようやく京都へ帰ることが可能になった。この時両寺は合併して新たに「要法寺」と名乗り、堀川綾小路に再興ということになった。十三祖中興広蔵院日辰上人の代である。この地にあること僅か四十余年、天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の町割り（都市計画）によって、寺町二条へ強制移転させられた。十四祖日鵬上人の代のことである。約百二十年後の宝永五年（一七〇八）三月の大火で要法寺も類焼し、八月、現在の東山三条の地に移転した。堂宇の建築は享保元年（一七一六）から安永九年（一七八〇）までの六十四年間かかって進められた。山容が一応容ったのは安永三年（一七七四）三十祖日良上人の代である。明治元年（一八六八）からの維新に伴う廃仏棄釈、神仏分離の大混乱を乗り越えて、明治三十二年（一八九九）には「本門宗」を公称、昭和十六年（一九四一）政府の思想統制で日蓮宗等との合同を余儀なくされたが、昭和二十五年（一九五〇）、興門派尊門流の法義清純を保つため独立し、現在の日蓮本宗を興し、その本山として今に至っている。平成二年十月に本堂、開山堂の大屋根全面修復がなった。現董五十一祖日有上人のことである。

雑乱勧請は厳戒

高祖日蓮大聖人立教開宗の本義に基づいて、法華本経及び開結の二経の計十巻を所依の経典とし、とくに方便・寿量の両品を読誦助行の正とし教義を広めている。

本尊の奉安式は、二祖日興上人、開山日尊上人の御遺訓に従い、高祖日蓮大聖人尊定の文字所顕「大曼荼羅御本尊」を定式とし、その前に高祖日蓮大聖人読経の御尊像を安置することが出来ると定めて、他諸尊の安置は雑乱勧請として堅く戒めている。御本尊の拝写と開眼、高祖日蓮大聖人御尊像の開眼、それらの授与と僧侶にたいしての日号補任の大事は唯受一人血脈相承の職に有る貫首のみに限り、血脈相承の補処である大学頭にも許されていない。

おわりに

歴代の貫首には学僧、傑僧も多いが、広蔵日辰、円智日性、三妙日生の各上人は特に著名である。

「師厳道尊・給仕第一」は本山要法寺の命脈として永く伝えられよう。

21世紀へ 豊かさを深める——とうきゅうグループ

豊かな感動のステージへ——

小さなときめきから、
大きな感動へ。
旅はいま、
地球サイズの新しい顔を持ち始めました。
'90年代は、
文化の香りを広く訪れる
個性豊かな大旅行時代。

国際的なイベントに参加する…
憧れのリゾート地で優雅な時を過ごす…
未知なる地をじっくりと探訪する…
そんな旅のトレンドとお客様のニーズを、
魅力あふれる商品開発とサービスに活かして
東急観光は、
豊かな感動のステージをご提供します。



▲スペイン・トレドにある美術館
スペインでは、1992年4月20～10月12日セビリア万国博覧会、
1992年7月25日～8月9日バルセロナにおいて夏期オリンピックが開催されます。
またコロンブス新大陸発見500年祭（1992年）の準備も着々と進んでいます。

豊かな感動のステージへ——
東急観光
〒153 東京都目黒区東山3-8-1 東急観光大橋ビル5階 ☎03(5704)3760
運輸大臣登録一般旅行業第38号

躍進!! 門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 岩間日勇
宗務総長 伊藤通明
宗務副総長 佐藤光春
綜合企画部長 岩間湛正
庶務部長 二宮将泰
財務部長 田中恵康
教務部長 石井隆教
護法伝道部長 石川浩徳
現代宗教研究所長 石川教張
参与 白部健順
参与 岡田法順
日蓮宗新聞社社長 菊池泰瑞

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 久保木日秀
宗務総長 川口善教
教学部長 木村日應
庶務部長 大塚正信
教化部長 中村宏龍
財務部長 芹澤泰謙

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長 古瀬日宇
宗務総長 吉永正晴
宗務次長 山田信正
財務部長 飯澤道宣
布教部長 山本学人
教務部長 平田浄應
社会部長 田島敏義
庶務部長 島田幸晴

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX〇三(三五七六)〇一二一

管長 野口日桂
宗務総長 牧野琢成
総務部長 土屋善敬
教学部長 都築哲信
教化部長 金原戒雄
財務部長 江坂隆俊

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 梶本日裔
講尊 小山日幹
宗務総長 井上日慶
宗務副総長 齊藤日敬
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

管長 嘉儀日有
宗務総長教学部長 住友顕一
総務部長法務部長 今村要道
財務部長 矢田尚義

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二

管長 上田日源
参与 吉田勝秀
宗務総長 吉田研宏
参与 小島玄城
総務部長 長鎌泰信
総務主事 上田浩岳
教学部長 上嶋智岳
教化主事 岩崎峻暉
教化部長 左神信学
財務主事 笹木研秀
社会部長 蓑輪渓玉
教学主事 矢放真文
財務部長 小西法明

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 中村日宣
宗務総長 吉村信尚
宗務部長 信隆允忠
財務部長 山下通雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 飯田信栄
教務部長 高辺誠亮
門連常任理事 木村光紹

宗教法人 国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中香浦
理事長 加倉井清信
副理事長 中平千三郎
門連常任理事 大橋邦正

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上
本法寺内京都府第一部宗務所内
電話 〇七五(四五一)九三九〇

会長 沖日亨
副会長 古瀬日宇
理事長 藤田尚慈
副理事長 山田信正

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三三二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦
日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人 今井行順
東京都千代田区九段北三―二―二三
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
東京都渋谷区神泉八―七

躍進!!門下連合会

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主　古瀬日宇
総務　山田信正
執事　平田浄應
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　野口日桂
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　佐古弘文
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　上田日源
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事補　笹木研秀
矢放真文
〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三二〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　中村日宣
執事長　松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二七

日蓮本宗本山
要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　住友顕一
執事　今村要道
執事　矢田尚義
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　十九世講有　梶本日裔
事務局長　信徒総代　小倉徳治郎
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
貫首　水谷日諦
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

やくよけ祖師
日蓮宗本山　堀之内
妙法寺
山主　駒野教格
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成三年度随身生募集中

日蓮宗本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗大本山
頂妙寺
貫首　金子光瑩
参与　同　土屋学周
同　新井智清
同　山田完修
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
参与　関観康
同　小倉俊明
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
執事長　渡辺行俊
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

門連時報

更なる飛躍を。北海道門連

平成元年十一月十五日、地方門連組織として第三番目に発足した北海道日蓮聖人門下連合会は、白部健順理事長のもと、札幌、小樽地区を中心として、活発なる交流活動を展開している。

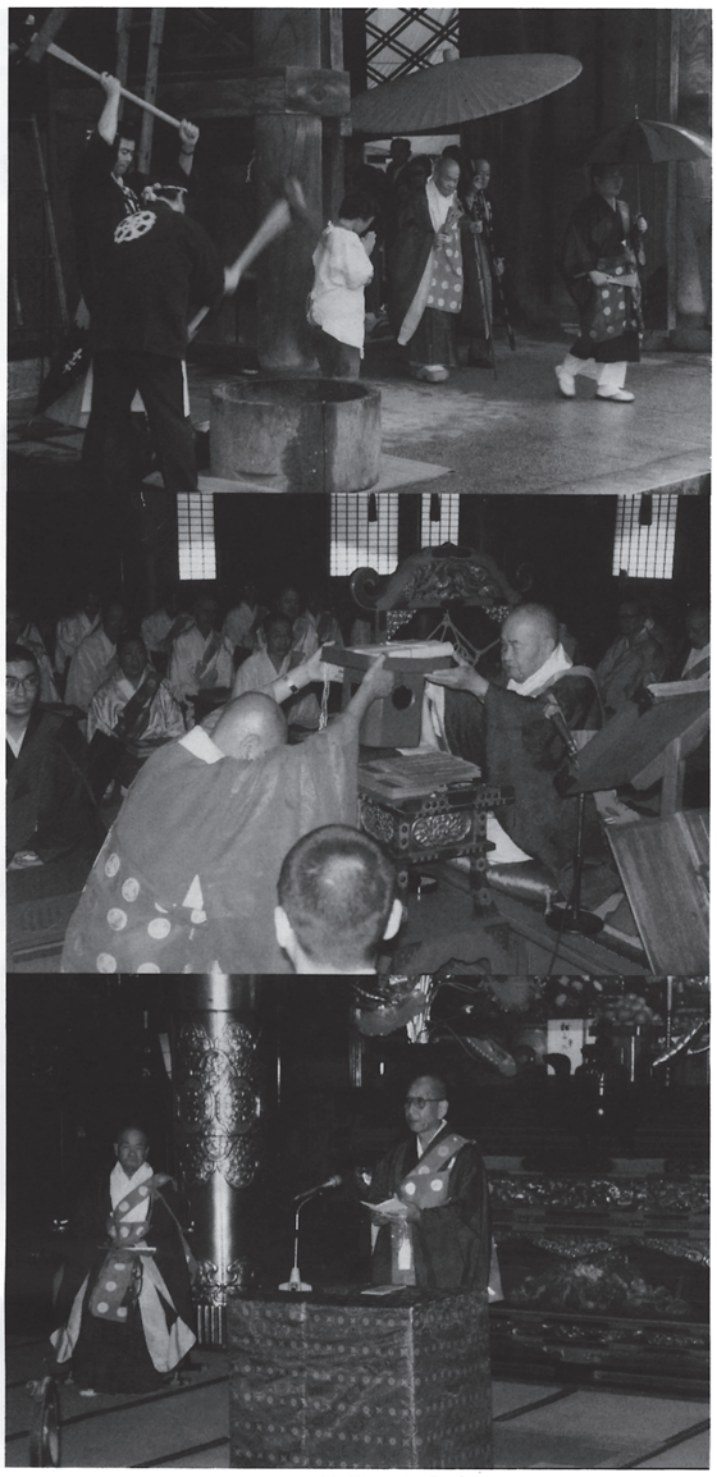
特に、日蓮聖人門下連合会との協力、団結及び連絡をより一層強化する目的のもと、身延及び京都の理事会には、白部理事長並び役員が必ず参加し、交流を密にしている。又、平成二年十一月二十日、発足後、初の総会を開催し、日蓮宗より、岩間湛正常任理事、事務局より柴田幹事も出席し、常任理事会、総会と、今後の活動方針、予算等重要問題を検討し、承認を得た。今後は、京都、大阪の各門連の動向を見極め、一地方門連の特色を生かすべく、より積極的な活動を行って参る所存で有る。

野口日桂猊下御入山

平成二年十月八日、新潟県三条市法華宗陣門流総本山本成寺に於いて、野口日桂猊下が本成寺第八十四世の法燈を継承し、併せて法華宗陣門流管長に御就任、御入山式が厳修された。

当日本成寺には多くの檀信徒が集まり、来賓各聖並びに山内の寺院各聖と共に声高らかにお題目を唱え、野口日桂猊下の御入山を祝した。

日蓮聖人門下連合会より、伊藤通明理事長、顕本法華宗からは古瀬日宇管長、吉永正晴宗務総長、法華宗真門流からは上田日源管長らが参席し、伊藤理事長より野口日桂猊下に対し祝辞が述べられた。



野口日桂猊下御入山

日本山藤井日達上人七回忌

平成三年一月九日、日本山妙法寺に於いて開山尊師藤井日達（行勝院日達）聖人第七回忌法要が熱海市にある日本山妙法寺熱海道場で厳修され、日蓮聖人門下連合会からは伊藤通明門下連合会理事長が参列焼香された。

式は晴天にも恵まれ、広い道場には五百名を越す信徒にまじり、インド・スリランカをはじめとする各国大使館来賓の姿も見られ、日達聖人生前の活躍の広さがうかがえた。

当日の寒さも何するものぞと道場内には「南無妙法蓮華経」の大音声が響き渡り、午前十一時に始まった法要も終了を見たのは三時を過ぎ、終りに身延山久遠寺総務藤井教雄僧正をはじめとする挨拶、諸外国よりのメッセージの紹介等があり、国際色の強い日本山ならではの法要も厳粛の内に終了した。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

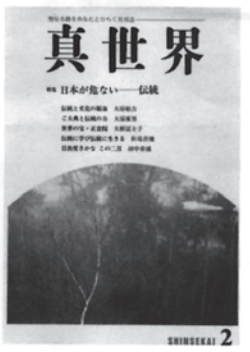
「日蓮聖人門下連合会30年の歩み」の記事一部訂正　95ページ下段11行目誤……昭和三十八年の規約改正では、理事長は日蓮宗からとなりました。正……昭和三十八年の規約改正では、理事長は理事の互選が原則ですが、当面して日蓮宗からとなりました。右の傍点分が脱落していましたのでお詫びして訂正します。

日蓮聖人門下連合会
門連30年の歩み編集委員会

布教誌・紙の紹介 ④

国柱会「真世界」

◎「真世界」は月刊で発行されており機関紙としての歴史は古い。本年一月号で通巻六、〇二一号となる。田中智学先生が純正日蓮主義在家教団の創業時明治二十四年刊行の「師子王」以来、「妙宗」「日蓮主義」等タイトルは変更されたが、大正九年から約二十年間「天業民報」という日刊新聞の時代があるので六千号という数字になった。戦後は「真興」から昭和二十五年「真世界」となった。



◎日蓮主義、日本国体の思想を宣伝し広布する主張誌・紙が一宗教団によって発足当初から百年以上にわたって継続発行されてきたことは特筆すべきことだろう。

◎昭和五十五年から真世界運動の機関紙として一般書店にも配本された。表紙には、次の真世界運動「主張」が掲げられている。

地上に人類が発生して以来、戦争とともに歩んできた〈前史〉は終りを告げ、今やすべての人間が、地球というひとつの宇宙船のなかで、平和に暮してゆく〈人類の本史〉が訪れようとしている。

この新しい時代に必要なものは人間の意識と思想の変革である〈円融統一〉の真理にもとづき自と他、物と心、人間と自然、宗教と科学が一如する〈真世界〉の創造をめざして前進しよう。

◎一月号には田中智学先生の「世界人類のゆくえ」を掲載、特集は「日本が危い」。聖なる路をひらくべく常に社会啓蒙をめざしている。連載は、立正安国論拝読、日蓮主義実践講座、未来を拓く向上心、仏教の話あれこれ等で若い世代にも読みやすいように編集されている。

◎教学研究誌としては昭和四十三年より「日蓮主義研究」が発行されており現在十四号を数える。



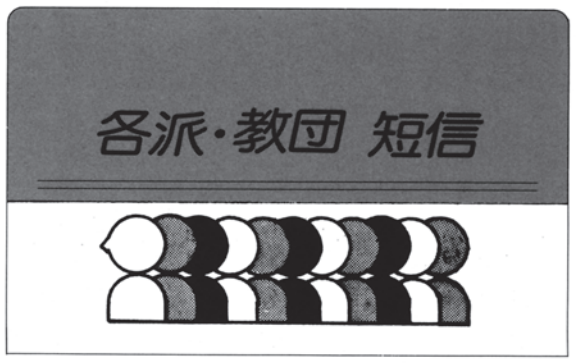
昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭和天皇より下賜された「立正」額（実物大四分の一に縮尺複刻したものです。）皆様のご家庭へ特別頒布

頒布金額　色紙共
八千五百円（送料共）
（残部僅少）

お申し込みは　日蓮宗新聞社
電話 03-3755-5271（代）
FAX 03-3753-7028
〒146 東京都大田区池上６—19—１

各派・教団 短信



日本山妙法寺

◆8月6・9日東京―長崎平和行進終了。広島長崎で慰霊法要。24日西天開教記念法要。全山会議を熱海道場で行う。25日身延山参詣。印度ボンベイで平和行進。

◆9月1日ベルリンで8月6日よりの断食を大衆と無事終了。

◆10月2日ガンジイ生誕日法要。（九段道場にて）12日池上本門寺参拝。21日ダージリン仏舎利塔御経石奉安。25日印度竹林精舎法要。多宝山宝塔21周年記念法要。26日バイシリア大法塔に仏舎利奉安式を行う。28日オリッサ仏舎利塔18周年記念法要。

◆11月3日マナリ仏舎利塔地鎮祭。奥多摩仏舎利塔の前に玄題宝塔開眼式。6日米国平和行進は七ケ月間歩き続け無事終了。

◆12月1日より8日迄臘八接心断食各道場にて決行。

◆1月1日新年祝禱会。8・9両日、山主藤井日達聖人七回忌を熱海道場にて執行。身延山よりは岩間日勇猊下代理藤井教雄猊下、宗務総長伊藤通明猊下の御来臨を賜る。県内外各宗寺院よりも御参席を賜り、メッセージや献花献香を御宝前に頂く。海外から、印度クレヨクバクラ猊下（インド国モンゴル大使）。ミゲルデスコート神父（元ニカラグア外相）。元ビハール首相・ナラインシンハ氏。元ロンドン市議会議長イルテッドハリントン氏も御来山下さり、メッセージを頂く。又公私御多忙の駐日大公使の方々も御来臨下さり、一同感激致しております。この欄を御借りし厚く御礼申し上げると共に、門弟一同への御指導をこの上とも御願い申し上げます。10日より渋谷駅頭平和断食。（石山善邦）

本門佛立宗

◆昨年は、5月の連休に、六万人の参詣を得て奉修された『佛立開導日扇聖人百回御遠諱』の大法要を中心に、全国門末各寺院が活発に弘通活動を展開した。百回御遠諱記念報恩教化も、平成元年1月から2年の9月末日までに、一万六千戸をお供えさせていただいた。百回御遠諱『結実の年』の本年は、全国29の布教区から合計一万百二十一戸の教化誓願が京都本山宥清寺の御宝前に奉呈された。

◆本年のメイン御奉公は、来る9月15・16日に開催される『開導百遠諱・結実・青少年大会』であろう。これは、百遠諱記念に入手した滋賀県近江今津市の『佛立センター用地』に、時代を担う佛立青少年を、全国から五千名を結実させて集うイベントである。この他に本年は宗務本庁の役員交替の年にあたり、宗門行政の重役選挙が行われることになっている。また、佛立辞典の編纂や佛立研究所の設立発足の年でもあり、百遠諱以後の新しいご奉公が動き始めている。

◆恒例の教講（僧俗）一体の寒修行寒参詣が1月6日より2月4日まで行われ延べ百万人の参加を得、統一御法門は高祖日蓮大士の『四信五品抄』の開設がなされた。（深沢泉奥）

本門法華宗

◆本年4月13日、14日の両日にわたり日像菩薩六百五十遠忌大法要を迎えるにあたり、その記念事業として進められていた方丈と表書院の大屋根葺き替え、畳替え等の工事が完成し、本堂内外の改修、境内の整備も完了、御遠忌法要を待つのみとなった。またこのたびの御遠忌記念出版として永井日揮猊下の「四教儀講説」が出版される。

◆去る12月14日、15日の両日大本山妙蓮寺に於て、第58回教学講習会が開催された。特別講師として立正大学北川前肇教授を招き「祖書に聞く」の講義がなされた。

去る12月19日、本門法華宗学院長尾崎日愍上人（京都本妙院）九十一歳にて遷化される。（持地光学）

法華宗本門流

◆第四回法華宗教学研究発表大会が、昨年11月21日、尼崎「サンシビックホール」において開催された。興隆学林学監三浦成雄教授の基調講演「宗門史私見」に始まり、十名の発表者が日頃の研究を発表した。

◆大本山鷲山寺では、昨年11月12・13日の宗祖御会式に併せ宗祖御厨子改修法要が修行された。鷲山寺の宗祖御尊像は、大聖人自らが開眼された等身大の御木像であり、相山光長寺同時二祖日法聖人作の一木三体の御尊像と称されている。

◆本年は「法華宗昭和法難五十周年」の記念の年にあたり、これを顕彰すると共に将来に活かすために顕彰会が設立された。よって平成3年一年間を通じ、法難の意義の周知徹底をはかり、法難を思い起こすと共に「お題目総下種運動」へと発展させるに相応しい事業を行うことが告示された。これに伴い来たる4月12日に記念法要（午前11時、世田谷区烏山・妙寿寺）および講演会（午後5時、新宿・朝日生命ホール）が行なわれる。講演会の出演者は、大平宏龍（法華宗興隆学林教授）、立松和平（作家）、福島泰樹（歌人・法昌寺住職）の三名で、それぞれの立場から法難の意義について訴えかける。（矢吹慈英）

日蓮宗

◆北米開教75周年を記念して9月28日より10月9日までの12日間「お題目総弘通運動、北米日蓮仏教団創立75周年、岩間日勇管長御親教」が、日本より百名の団員が参加して行なわれた。記念法要は9月30日、シアトル日蓮仏教会（及川玄一主任）で、岩間管長大導師のもとに、三百人の信者が参列し盛大かつ荘厳のうちに厳修された。10月2日は、会場を日蓮宗妙覚寺サンノゼ別院（松田龍紹主任、北米開教区長）に移し、岩間管長大導師のもとに、盛大に奉行された。本宗の開教布教は、ひとつの節目を迎え、新たな活動を目ざし、松田開教区長が中心となり活躍が期待される。

◆11月19日（日）、宗門先師法要が、池上本門寺にて、岩間管長導師で行なわれた。本年の先師は百二十九名、遺弟、遺族はじめ関係者二百五十名が参列した。この後、朗峯会館で法宴があり、先師のありし日を偲んだ。

◆1月10日宗門恒例の御用始が三百名の宗門要路の方々が参加し、朗峯会館にて行なわれた。（望月康史）

国柱会

◆『昭和天皇の御製』普及運動を引続き展開。10万部を達成。

◆6月16日、東京の日本青年館で田中智学門下青年協議会主催で「大誓祭とは何か」をテーマに講演会。

◆8月、天皇陛下御即位御大典奉祝事業として真世界特別号「日本の天皇」を発行、普及運動展開。11～13日、河口湖にて全国若人の集い富士大会。

◆9月14～16日、国柱会本部で日蓮主義の基本を学ぶ講習会

◆10月、「教育勅語」発布百年記念出版『道徳教育のよりどころ・教育勅語を考える』発行普及運動展開。6～7日、国柱会本部で教学を学ぶ集い・講師補任用試験。12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。27日、浅草の台東区民会館で国柱会中央連合協議会主催で「真世界のつどい」講演会。

◆11月10日、名古屋駅前中小企業センターで天皇陛下御大典奉祝の集い「日本とはいかなる国」講演会。12日、国柱会本部で天皇陛下御即位礼慶讃法要。青山にて祝賀御列の儀奉迎。16～18日、田中智学先生第52回報恩大会。全国協議員会。22日、国柱会本部にて大誓祭慶讃法要と奉祝の集い。23～24日、第26回身延祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。

◆平成3年1月5～6日、国柱会本部にて田中香浦会長新春特別講義。（秋場善弥）

顕本法華宗

◆10月24日～25日、第12回日什門流懇和会開催。静岡県伊東市の妙隆寺を会場に、先師御報恩法要並びに、早大講師の窪田哲正師を講師とした教学講習会が開催された。

◆本年は開祖日什大正師の六百遠忌御正当を迎え、御報恩記念事業が宗内一丸となり、全力をあげて推進されている。就中、什祖伝映画の作製、御開山絵伝、顕本法華宗年表等の記念出版も間近い。また2月28日の御正当には、総本山妙満寺に於て宗内全僧員による御報恩法要に併せ、全国檀信徒護法大会が開催される。尚来る4月13日～15日には御遠忌大法要の予定。（秋葉敬真）

日蓮本宗

◆本山要法寺貫首の補処である大学頭に丹治日遠師（第三教区福島仏眼寺住職）が決定し、去る10月13日高祖日蓮大聖人御大会式当日、御法恩法要に先立って、現董嗣法五十一祖嘉儀日有猊下から唯受一人「血脈相承」が丹治日遠師になされ、大学頭就任の報告法要が法中寺院住職、教師はもとより全国から檀信徒多数が参列して厳修された。新進気鋭の大学頭就任は宗山発展の一石である。

◆今年も住職の永年にわたる教化が実を結び、一ケ寺の本堂が新築建立なり、去る11月25日（日）落慶法要が盛大に営まれた。この寺は三重県志摩郡阿児町立神の法華寺で、古くから教会所があったところ。昭和13年2月8日に加藤玄承師が志摩地方常任布教師として、団扇太鼓を手に赴任。町家の縁側で家人と茶を飲み交わし世間話から法門の話へと常説法教化を続け、昭和15年には「志摩教会」（志摩大法講結社）を設立し、担任教師となった。昭和27年6月28日「法華寺」の新寺を建立、十年ほど前より檀信徒と協議の上、新たに境内地を購入、その後同寺の所属する第二教区（大阪府・奈良県・三重県）寺院一同の発起支援が起爆的役割を果たし、四百戸の地区住民の浄財勧募もあって、今回の宿願成満をみた。落慶法要は本山要法寺貫首嘉儀日有猊下のご親修で執事長住友顕一師、執事今村要道師、第二教区宗務所長高橋勇夫師（大阪市正福寺住職）以下教区寺院住職・教師多数参列して同寺檀信徒・有縁の各氏と喜びを共にした。（柳下義真）

法華宗真門流

◆全宗門の僧俗一体となって、お迎えする「日像菩薩六百五十遠忌」の法要日程を次の通り決定した。

4月13日、琵琶演奏「帝都弘通御遺言の場」。曲師、柴田旭堂師。門末檀信徒総結集唱題行。日像菩薩六百五十遠忌逮夜法要。門末檀信徒の夕べ。

4月14日、特別回向法要。稚児練り行列、歌題目奉納。日像菩薩六百五十遠忌大法要。御忌記念御親教・廟所報告参拝。

4月15日、千部会法要・御開山御命日法要。総本山本隆寺歴代年忌法要。

◆初転法輪（新説式）挙行さる。10月13日、高祖日蓮大聖人御正当御会式法要に引続き、平成2年度の新説式を執行。今年度は、西田叡誠師（奈良日宝寺内）越智諦典師・山路諦淳師（能登慈照寺内）の三師が古来の作法に則り、高座説教を多数の参詣を前に、能化者として初めて実践。

◆東山未生流華展が開催される。11月3、4日の両日、総本山本隆寺に於いて、総本山家元の華道、東山未生流の華展が開催された。本堂、客殿、方丈会館と第5席まで設けられ両日多数の入場者で終日賑わった。また新師範十五名の伝授式が行われ今後の発展が期待されている。（吉田勝秀）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

文通流

るつうぶん

＊平成三年一月に発行予定の「門連だより」が、大巾に遅れてしまいましたことを、おわびしたい。

＊宗務が重なり、気になっていながらできなかったので、申し開きもできまい。＊昨年十一月、京都妙蓮寺での三十周年記念法要は大成功であった。立派な記念誌と、編集委員会への感謝状は、思いがけずのことで、うれしいことと同時に、恐縮している。それにしても、編集委員各聖の努力はもちろんだが、それにまして、大橋常任理事、相沢委員には、お世話になった。責任者とはいえ本当に御苦労様でした。＊しかし、三十一年目からの門連はどうするのか、これから目標を定めていくべきだろう、そのための一助になればと思っている。（康）

聖日蓮人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成4年8月15日
第11号

立教開宗750年を迎えるにあたって

日蓮聖人門下連合会理事長
伊藤通明

平成十四年は、日蓮聖人が清澄山上旭ケ森において、南無妙法蓮華経を創唱されてから七五〇年の佳節に当る。この機に向け、日蓮聖人門下連合会は一致結束して今から準備を始めなければならない。

来る平成十四年、二十一世紀の初頭という「時」にえらばれて、立教開宗七五〇年を迎える。

清澄寺における道善御房の持仏堂で、日蓮聖人がはじめて法華経こそ一切経の経王であり、南無妙法蓮華経と法華経の題目を始唱された事跡は、私たち日蓮門下にとって、信仰と弘教の原点であり、この立教開宗の精神をうけつぎ今日に活かす事はもっとも大切な使命といわねばならない。

法華経の行者へ――日蓮聖人は「必ず日蓮が命を成るべし」との覚悟を抱かれ、いくたの困難にも挫けぬ不屈の決意をこめて、諸宗のあやまちを正し、人心を正法に導き、恩ある人びとを救助しようとされて、法華経の真実を語られた。

それは、語り出すべきか、言うべきではないかという葛藤を経て、ついに「二辺の中にはいうべし」と決断し、「今度強盛の菩提心をおこして退転せじと願しぬ」と誓願した信仰精神を実践にうつされたものであった。

つまり、立教開宗は、「日蓮」との名のりをあげられた日蓮聖人による題目創唱、正法弘通の先がけであり、報恩と誓願を身をもってくりひろげてゆく菩薩行のスタートであった。

門下連合会が目ざすべき四点について



日蓮聖人像（旭ケ森山頂）

同時に、日蓮聖人が自主独立の弘通に立ちあがり、浄円房ほかわずかの人々に向って正法を説いた点も忘れてはならない。

真理は少数よりはじまるという。苦難をいとわない決意と衆生救済、報恩成就の誓願を抱いて、法華経の真理をひろめようとされた日蓮聖人の大いなる慈悲にふれ、その菩薩行の一分を現代に展開することこそ私たち日蓮門下の共通の目標であろう。

げんざい、多くの人々は悩みの解決や救いを求めている。高齢化社会における老後の不安、家庭なき家族関係の危機、さまざまな生活上の悩み、環境破壊など種々な問題が山積している。世の平安を求め心の渇きに潤いを与える仏の教えをいかに説き示し、立正安国の祖願達成に励むべきかは立教開宗七五〇年を迎える日蓮門下のとりくむべき課題となっている。

日蓮聖人の宗教は、個人の救いと共に社会の平安を実現することにある。二十世紀末から二十一世紀にかけての社会と人間のあり方や指針をさし示し、法華経の題目によって仏になる道を皆ともに歩んでゆく展望をきり開いてゆくならば、それは「第二の立教開宗」ともなり得るのではないだろうか。少くとも単に時間的に立教開宗七五〇年を迎えるからといった安易な考えではなく、「強盛の菩提心」をおこし、誓願を心に刻みつけて、お題目を弘通し、日蓮聖人の体得せられた法華経の教えを語りひろめる努力を積み重ねてゆくべきである。



伊藤通明理事長

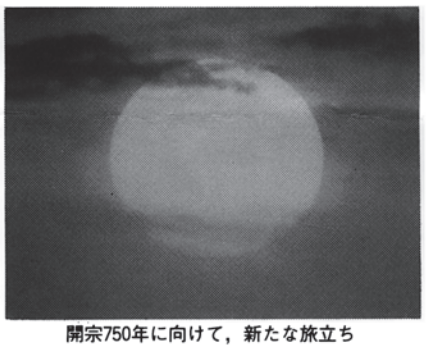
二十一世紀に求められる「立正安国」

日蓮聖人門下連合会は、結成以来、三十年余の歩みを刻んできた。この間、多くの先師各聖によって数数の事業・行事がいとなまれ、さまざまな成果をうみ出してきた。日蓮聖人第七百遠忌における報恩事業は、その代表的成果であった。

日蓮聖人門下連合会として結束し、異体同心をより一層強固にし、協力しあって立教開宗七五〇年を慶讃しつゝ、正法弘通を展開するならば、必ずや、実ある多くの成果を挙げられるにちがいないと確信している。

そのためには、第一に、先にふれたように日蓮聖人立教開宗の精神、その決意と誓願を私たち日蓮門下が共有しあうことが不可欠である。

第二は、日蓮聖人が清澄山で初めて法華経の弘通を宣言された意義を改めてたしかめあい、報恩実現、立正安国達成の布教活動にとりくむことである。これを具体化するためにも、門連としての立教開宗布教態勢の確立と相互協力が求められよう。



開宗750年に向けて，新たな旅立ち

第三は、日蓮聖人門下連合会結束の原点といわれている祖廟における異体同心の誓いをあらたにし、輪番奉仕など祖廟護持のための信仰的・組織的強化を一層充実してゆくことが重要であろう。

第四に、この祖廟護持と布教、とりわけ当面には立教開宗七五〇年慶讃をめざして、各地の日蓮門下寺院どうしの協力態勢づくりを促進し、清澄山に結集して立教開宗布教の集いを開催できるような方向性を具体化することが必要であろう。

開宗七五〇年は布教システム確立のチャンス

立教開宗七五〇年を迎え、一致結束した二十一世紀初頭の正法弘通の展開がなされるならば、「日蓮一門」の緊密な異体同心はますます強化されるであろう。

同時に、「日蓮一門」がおたがいに活用できるような、日蓮門下の布教機関における組織、施設なども、二十一世紀の布教態勢づくりの上で必要であると思われる。

来る立教開宗七五〇年は、日蓮聖人の体得せられた法華経と題目広布の好機であり、これをめざして異体同心の布教や事業にとりくむことは日蓮門下の任務である。

是非共、「日蓮が弟子」である各師が決意と誓願をあらたにされ、門連の拡充と共に〝立教開宗の志をうけつぎ、現代に正法を弘通するために、清澄山に結集しよう〟を合言葉に、布教活動を展開し、立教開宗七五〇年における布教・事業の態勢づくりに参画されるよう心から切望する次第である。

従地涌出

☆平成六年四月、海外開教の先駆者、日持上人の第七百遠忌法要が日蓮宗総本山身延山久遠寺で奉行される。日持上人は、建長二年（一二五〇）、駿河国（静岡県）庵原郡松野の地に生まれ、幼名を松千代と称されたと伝えられている。上人は「月は西より東に向へり。月氏（印度）の仏法ノ東へ流ルベき相也。日ハ東ヨリ出ツ。日本ノ仏法ノ月氏ヘカヘルベキ瑞相なり」（諫暁八幡抄）という日蓮聖人の宿願であった本化の妙法を漢土、月氏へ帰すという海外への伝道に命をかけたのであった。

☆本化別頭仏祖統紀には次のようにかかれている。「国内の布教は日昭、日朗両師以下、法将雲の如くであるから、それ等の人に依って充分である。われは異域に法を弘めて宗祖の素願にこたえ奉らん。たとえ海路に台風大魚の難にあうとも、むしろわが願う所」。この言葉を残し単身で北をめざしたという。（松村寿厳「日持上人」玉成十四号）

☆日蓮宗では本年平成四年八月三十日、ハワイ開教九十周年記念法要が、岩間日勇管長猊下大導師に、日本からも多くの信者が参加し、盛大に厳修される。日持上人を始めとする、多くの海外布教の先駆者が心血を注ぎ弘めてきた、その法燈をたたえる宗門を挙げての慶事だ。法華経日蓮聖人の精神が、世界に弘まることを目指して布教を行なってきた日蓮聖人門下にとって、ひとつの区切りとなり、また新たな一ページとなる。

☆日持上人第七百遠忌を平成六年に迎えるとき、門連各派がどのように開教布教に取組んでいるのか、「門連だより」でとり上げたらどうかと思うが、いかが。（月）


インド・多宝山仏舎利塔

シリーズ門下御本山巡り ⑩

日本山妙法寺

日本からインドへ，そしてヨーロッパ，アメリカに建立される仏舎利塔

南無妙法蓮華経

日本山妙法寺には、本山制度はありませんが、御祖師様が「身延の山を基として詣るべし」と仰せられてありますので、全山あげて二月八月の二回必ず御詣りをし、海外のお客様もその都度案内して参詣してをります。

日本山は昔から御草庵ばかりでしたが、少し大きい御寺も建ち始めてをります。然し本山でもなく又末寺でもありません。先輩後輩こそありますが、位もありません。

それで身に頂く御袈裟も同じ物を着て位階はなく、頂く時によって色は様々です。

この日本山を創立されたのは藤井日達上人で、日蓮宗の九州臼杵の法音寺の御弟子さんであります。大正天皇御病悩の時、日本の将来を考え、陛下の御祈念をし、葉山御用邸で撃鼓宣令をされました。警察はこれを禁止したが止めません。ついに法音寺身延山にも苦情が行き、管長職の罷免を申し来りました。そこで日蓮宗でなく日本山独自の宗風、国家諫暁を続けられ、今日に至っております。

昭和五年二月二十五日、悲母行阿院日蘇大法尼遷化し給うや、熱海錦浦御草庵で人界一期の御別れをされ給いて、直ちに「本来の使命」西天開教に身延の御山を起点として出発されました。実に八月廿五日のことでした。

炎熱身を焼く印度の御修行三年にして、随身一名を供とし、ガンヂー翁に会見し、わずか二十分の会見ながら互に肝胆相照して、日本の仏法はこの方によって受け入れられたのでありました。

恩師御みづからの『ワラダ日記抄』に「西天開教の本誓願は時惟れ昭和八年十月七日、印度の中央高原の眞中に位するワラダの眞理把持の道場に於て、印度独立の総師、末代比類なき聖賢マハトマ・ガンヂー翁の為に説かれたのであります。（中略）先づ階上の御居間に案内せられた。待つ間もなく半裸体の翁は無雑作に席につき乍ら合掌答礼された。既に満面唯笑って居られるのであった。羅漢聖者が人に会ふ時は毎に必ず先づ笑うて対う。と御経文に拝んだ事がある。（中略）翌八日、翁は「……毎日午後四時になるとあなた方の勇ましいお太鼓の音を聞くのが大層楽しみになった。お太鼓の音は私も好きだ」と仰しゃられた。そこで古い團扇太鼓をさし上げると喜んで南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経と御手紙で見た南無妙法蓮華経の記憶を辿り乍ら覚束なげに撃ちそめられました。

日本山の撃鼓宣令の反響は印度独立運動の総師、現代唯一の聖賢釈迦牟尼仏の血統を伝えし民族の代表者に由って知音を発し、共鳴を表し、随喜を表せられました。鳴呼、我が西天開教の本誓願果して時に中り機に応じたのであります。三億万の人の我が法音に対する随喜の声は、今こそワルダの蘖の中に於て溶くるが如き歓喜の声となって、ガンヂー翁の唇より洩れました。（中略）

此の人を外にして誰に印度の立正安國の法門が語られてよいものでしょうか。立正安國の祈願、撃鼓宣令の法音は今正しく西天に伝わりました。ガンヂー翁が南無妙法蓮華経の法鼓を撃ち日本の仏弟子がその一門に暮す時に、印度の独立は近き日に決定されたわけであります。鳴呼、我が高祖日蓮大聖人に負わされた日本國の重い使命を末法の今日西天に果すことが出来ました。いかに私を戝しむ者があっても誹る者があっても、荀も法華経第六の巻如来壽量品の遣使還告の使命を西天にはたしたことに於て誰が否み得るでしょう。永い間私の守り来った苦節も今日のガンヂー翁の一言に私には酬われてあまりがあります。私の撃鼓宣令の法門は茫々たる三千大千世界の中に唯此の人を求めて鼓を撃ったのでした。此の人は果して我が此の人でした。ガンヂー翁は果して我が此の人でした。ガンヂー翁は果して我がガンヂー翁でした。（略）其の翁が今日忽ち日本神代の古楽、立正安國の祈願たる南無妙法蓮華経の法鼓の音のみは何の疑念も挿まずに、直ちにその信仰生活の無二の知音として信受せられました。日本仏法の名を以って打ち鳴らされた法鼓の響は即ち西天藁田の翁の理想信念を資くる天鼓の妙音ともなりました。印度の独立運動の陣太鼓はガンヂー翁が笑いくずれて撃つ一張の団扇太鼓の妙音でありました。ガンヂー翁が我が日本山の西天開教の本意に随喜して日本仏法の撃鼓宣令の妙行を歓喜信楽し、かくして印度が独立する時に、我が日本仏法の為に如何なる役割を果したかと言ふ事を浮薄なる世間の人達はやっと論議することが出来るでありませう」とあります。

以来御太鼓と御題目は御祈りの時は勿論全印遊説の時もガンヂーは撃ちつゞけられました。その記念すべき太鼓がワルダ博物館に保存されておりこゝに掲載いたしました。

ガンヂー翁の許には、各国から独立のための武器弾薬資金の申出がありましたが、皆断って、只お太鼓とお題目にすがって「自治は天から授る」と言って、近き印度独立を信じ切っておられました。

かくてひたすら平和裡の独立を祈り、一兵も殺さず一人も殺されぬ無血革命が成就されたのであります。


ワルダ博物館蔵

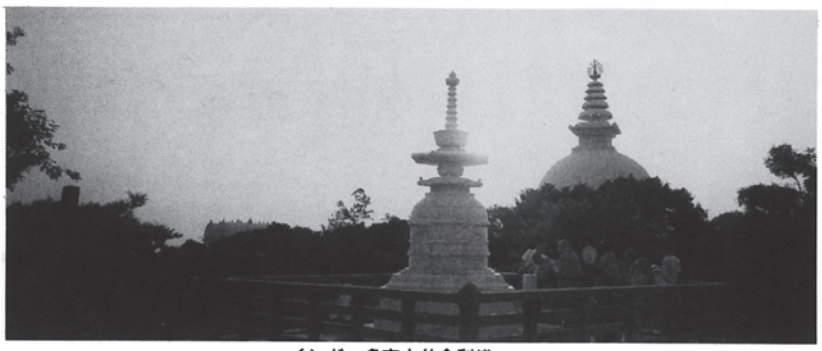
ガンヂー翁は、独立祝賀会の演説で「我々は今日此処で目出度い独立のお祝いの日を迎えた。此れは國民と共に喜ぶ。たゞし此の中に我々と一緒に住んで独立を祈念した日本のお坊様が居った。それを皆英國の官憲が日本に送還して終った。その日本のお坊様達が此処に居って此の喜びを一緒にすることが出来ない。お坊様が居なくても、お坊様が我々に残した南無妙法蓮華経と言ふ祈りの言葉がある。我々は将来永く此の祈りの言葉を守って行かねばならない」と申されております。

翁の意志はその儘受け継がれて、仏教復興となり、霊鷲山仏舎利塔となり竹林精舎の復興その他各地の仏事となって、ワルダ仏舎利塔僧坊となりました。

此の西天開教の功徳は今や仏法西漸一天四海皆帰妙法となって全ヨーロッパ、アメリカ大陸に及んで居ります。英国二ヶ所米国各地に仏舎利塔は建ち、ガンヂーの無抵抗の運動は世界平和運動に御題目太鼓とゝもに全世界を動かしております。旧ソ連の崩壊、ベルリンの壁撤去、アメリカの震動、いずれも如来秘密神通の大いなる働きでなくて何でしょう。

一閻浮提広宣流布の時なる哉と思う許りであります。

合掌


インド・多宝山仏舎利塔

▪釈尊の足跡と仏教美術を巡る旅▪

インド

'92.11～'93.2
全10コース
各コース最小催行人員10名

8大聖地巡り(11日間)	4大聖地巡り(9日間)
495,000円	428,000円
期間 ① 11/29(日)～12/ 9(水) ② 12/ 6(日)～12/16(水) ③ 12/13(日)～12/23(水) ④ 1/17(日)～ 1/27(水) ⑤ 2/ 7(日)～ 2/17(水)	期間 ① 11/25(水)～12/ 3(木) ② 12/ 2(水)～12/10(木) ③ 12/ 9(水)～12/17(木) ④ 1/20(水)～ 1/28(木) ⑤ 2/10(水)～ 2/18(木)
旅行日程 東京＝デーリー(泊)＝バルランプール(泊)＝クシナガラ(泊)＝カトマンズ(泊)＝車中(泊)＝ラジギール(泊)＝ブダガヤ(泊)＝ベナレス(泊)＝アグラ(泊)＝機中(泊)＝東京	旅行日程 東京＝デーリー(泊)＝ラジギール(泊)＝ブダガヤ(泊)＝ベナレス(泊)＝ゴラクプール(泊)＝バルランプール(泊)＝デーリー(泊)＝機中(泊)＝東京

日蓮宗ご指定
主催 日本旅行　運輸大臣登録一般旅行業第2号
後援 インド政府観光局　AIR-INDIA

※お申し込み・お問い合わせ及び詳しいパンフレット請求は下記へお願いします。
㈱日本旅行 新横浜支店 TEL045-473-7520（担当 秋山）
〒222 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-19 天幸第8ビル
㈱日本旅行 蒲田駅旅行センター TEL 03-3733-8154（担当 石田）
〒144 東京都大田区西蒲田7-68-1 蒲田駅内

残暑お見舞い
門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一代
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長	岩間日勇	教務部長	石井隆教
宗務総長	伊藤通明	護法伝道部長	石川浩徳
宗務副総長	佐藤光春	現代宗教研究所長	石川教張
綜合企画部長	岩間湛正	参与	白部健順
庶務部長	二宮將泰	参与	岡田法順
財務部長	田中恵康	日蓮宗新聞社社長	菊池泰瑞

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五代
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長	和田日攝	庶務部長	大塚正信
宗務総長	川口善教	教化部長	岡澤海宣
庶務部長	大塚正信	教学部長	三浦成雄
教化部長	岡澤海宣	財務部長	芹澤泰謙
教学部長	三浦成雄		
財務部長	芹澤泰謙		

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長	古瀬日宇	布教部長	梶井厳誠
宗務総長	石井義堅	教務部長	山本学人
宗務次長	中村通義	社会部長	小泉隆昭
財務部長	白井謙光	庶務部長	大塚正純

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長	野口日桂	教学部長	都築哲信
宗務総長	牧野琢成	教化部長	金原戒雄
総務部長	土屋善敬	財務部長	江坂隆俊
		宗務参事	竹内敬覚

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有	梶本日裔	宗務副総長	齊藤日敬
講尊	小山日幹		宗務本庁役員一同
宗務総長	井上日慶		

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

管長	嘉儀日有	総務部長 教学部長	原眞昭
宗務総長 財務部長	佐藤智明	法務部長	依田謙成

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二

管長	上田日源	教学主事	矢放真文
宗務総長	吉田勝秀	参与	吉田研宏
総務部長	長嶋玄城	参与	小島泰信
教学部長	上嶋智岳	総務主事	上田浩岳
教化部長	左神信学	教化主事	岩崎峻暉
社会部長	養輪渓玉	財務主事	笹木研秀
財務部長	小西法明		

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長	中村日宣	庶務部長	飯田信栄
宗務総長	吉村信尚	教務部長	高辺誠亮
宗務部長	信隆允忠	門連常任理事	木村光紹
財務部長	山下通雄		
総務部長	藤井宏長		

宗教法人 国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一代
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長	田中香浦	副理事長	中平千三郎
理事長	加倉井清信	門連常任理事	大橋邦正
		本部事務局長	三田道弘

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒604 京都市中京区寺町通御池下ル
大本山 本能寺内
電話〇七五(二三一)五二三五

会長	和田日攝	理事長	岡澤海宣
副会長	沖日亨	副理事長	本田義遠

日本山妙法寺

首座	上野行量	長老	今井行順
〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一		日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人	
電話 〇六(二六一)三三二六		東京都千代田区九段北三―二―三	
長老	塙行幸	天鼓出版発行編集人	
長老	石山善邦	日本山妙法寺事務局	松谷被鎧
		東京都渋谷区神泉八―七	

残暑お見舞い　門下連合会

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主　古瀬日宇
総務　山田信正
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　野口日桂
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　鈴木顕正
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　上田日源
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事　笹木研秀
執事補　矢放真文
〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗
大本山妙蓮寺
貫首　中村日宣
執事長　松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　佐藤智明
執事　原眞昭
執事　依田謙成
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇

本門佛立宗本山
宥清寺
住職二十世講有　水谷日尚
事務局長　伊藤英夫
信徒総代
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二一〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長
本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
貫主　水谷日諦
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野教格
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成四年度随身生募集中

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関口観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏
〒272 千葉県市川市中山二―十一―一
電話 〇四七三(二四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　土屋学周
参与　山田完修
同　新井智清
同　加藤通雄
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

恒例の京都理事会、開かる

平成三年十一月二十六日、日蓮宗本山立本寺に於て開催された。

理事会開催に先立ち、立本寺貫主藤田佳正猊下導師のもと、伊藤通明理事長をはじめ参加者四十三名が法味言上をした。

記念撮影後、藤田猊下に、「立本寺の沿革」を講演していただく。

引き続き、理事会を開催し、次第に従って会議を進め、上半期事業報告、京都門連事業、地方門連活動に関する件、門連の今後の活動に関する件、その他として討議報告、承認を行った。

その中の、門連の今後の活動に関する件で、大橋邦正常任理事（国柱会）より、身延山御真骨堂奉遷の問題に関し、かつて門連より出された懇請書の取り扱われ方、門連規約にも祖廟中心とうたっていることなどから、この御真骨奉遷の問題の認識と解決、さらには、祖廟輪番奉仕について、現在は国柱会しか行っていないので、これについてもっと前向に対応してもらいたいとの提案が出された。

また、三十周年を終えて、今後の方針については、七五〇立教開宗に向けて一丸となって取り組むことが確認された。

身延理事会、有意義に終る

平成四年の身延理事会は、六月二十二日（月）十一時より、伊藤理事長導師による祖廟御草庵跡、そして大本堂での法味言上より始まった。

会議は、身延山短大会議室にて開催。議題は①及川真学師遷化に伴う監査推薦の件、②平成三年度事業報告の件、③平成三年度決算の件、④平成四年度予算の件、⑤地方門連に関する件、⑥門連だより刊行に関する件、⑦門連の今後の活動に関する件、⑧その他、であり、①公認の監査二名のうち一名は、日蓮宗より推薦の東京都一乗寺住職肉倉貫義師が就任。もう一名は、門連理事経験者で東京近辺の方ということで、法華宗本門流の渡辺修翁師と顕本法華宗の山田信正師、二師が該当するので、事務局で依頼することで了承。その結果、山田信正師が就任することになった。事業報告並決算は報告通り承認された。平成四年度予算は原案通り承認されたが、分担金値上げを検討する場合は必ず常任理事会に諮ることが加えられた。地方門連に関する件については、大阪日蓮門下懇話会副理事長三田村宗鳳師より、北海道日蓮聖人門下連合会理事長白部健順師よりそれぞれ活動報告がなされた。門連だよりについては、第十一号発行の準備中であると報告があった。門連の今後の活動に関しては、日持上人顕彰や立教開宗会については、門下連合として、どう対応するのか検討すべきであり、小委員会等の設置を検討すべきであるとの提案がなされた。

この後、会場を移して懇親会が行なわれ和気あいあいのうちに終了。翌二十三日朝解散した。



門下連合会　身延理事会　祖廟参詣（平成4年6月22日）

紙の紹介・布教誌 ⑤

顕本法華宗「心の宝」

◎布教誌「心の宝」は昭和四十一年に発行されてより、月刊紙として二十数年の間に二四九号を数えたが、平成二年三月の第二五〇号を機に、年四回発行の季刊誌としてその内容外観共に一大転換をして歩み始めたところである。

◎この布教紙の歴史をふり返ると、「妙満寺教報」・「顕本教報」・「顕本心の宝」・「統一新報」と次第に発展しながら現在の「心の宝」に至っている。



◎従来B五版であったものが、手軽で配布しやすい二十五頁建ての小冊子となり、表紙には日本の四季折々を、色彩豊かにとらえた写真が用いられ、旧来のかたいイメージから、極めて明るくソフトに飾られている。

◎その内容においても、教義の平易なる解説に止らず、年間を通じて、暮らしに密接した問題を取り上げた特集が組まれている。

例えば「家庭教育を考える・しつけ」が特集され、教育現場の先生の眼から見た問題点、母親座談会を通して父兄の立場から見た「しつけ」、僧侶の立場からの意見と展開し、極々日常的な問題について、専門家や一般の人々の寄稿も多く掲載されていることから、読者には解りやすく、興味深い編集となっている。

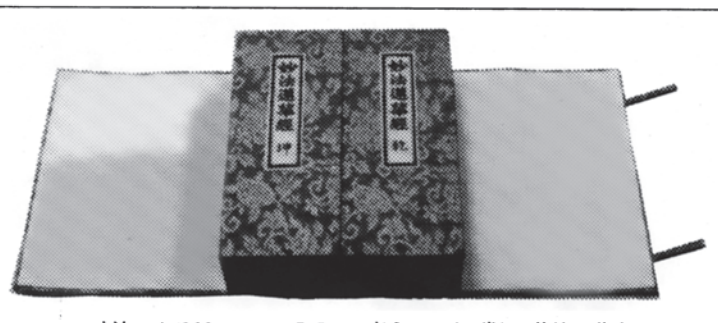
◎今年度は「生老病死」を特集し、人間の生涯に係る根本問題に焦点を絞っている。暮らしの中にある、そうした問題を提議し、読者と共に考え、さらに信仰的立場から、安らぎと希望と勇気を読みとれる心の読み物とすべく編集努力されている。新生「心の宝」の今後が期待される。

大好評頒布中

妙法蓮華経（一部経）

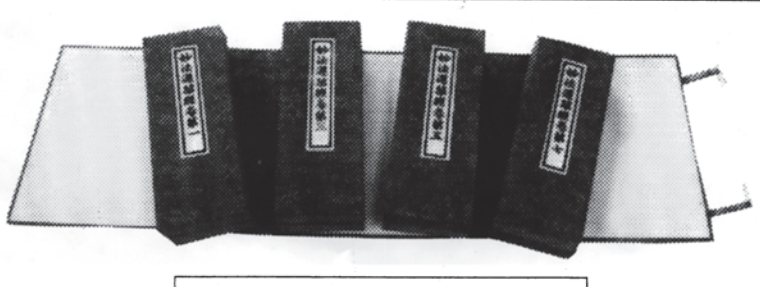
一部八巻本（六寸本）　三万三千円
一部八巻本（乾坤本）　二万円
要品（声明譜・回向文付）　五千円
（用紙は耐久性に優れた特漉本コウゾ紙を使用しています）

乾坤二巻本



寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm×高さ5cm（1巻）　装禎：茶金

八巻本



（六寸本）寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm



要品

寸法：タテ17.5cm×ヨコ7.5cm
体裁　装禎：茶金、同帙つき、本コウゾ紙使用

お申し込み
お問合わせ　〒一四六　東京都大田区池上六-十九-一
電話　〇三-三七五五-五二七一
日蓮宗新聞社

各派・教団 短信

法華宗真門流

◆昨平成三年は「日像菩薩六百五十遠忌」であり、四月十三日より十五日に至る間、大法会を総本山本隆寺において厳修され無事円成。引き続いて各教区寺院において、ご遠忌法要が奉修された。その主な寺院は次の通りである。

川西市　久成寺（田中諦常住職）四月二十八日、総本山本隆寺貫主上田日源猊下大導師によりご遠忌法要が執行され、同時に中興開山三百七十回忌・篤信者通称「久代伝兵衛さん」二百五回忌がつとめられた。

姫路市　妙行寺（上田泰源住職）四月二十九日、当山前住職、現総本山本隆寺貫主上田猊下大導師のもと午前の千部会に続き、ご遠忌が奉修された。記念事業として墓地整理舗装・会館改装が完成、寺観が一新した。

大東市　清涼寺（井内啓善住職）十一月三日、上田日源猊下大導師のもと、御会式・ご遠忌法要ならびに庫裡新築落慶法要が執行された。

兵庫県　法琳寺（上嶋智岳住職）十一月二十四日、貫主日源猊下大導師によりご遠忌法要、併せて歴代法要、山門改修竣工奉告式、寺号碑除幕式が行なわれた。

◆平成四年度布教計画が立案され、実施される。

二月七日午前、総本山本坊で各教区所長と布教師の合同会議が開かれ布教計画を立案し、午後、布教師会でご親教寺院・特派布教寺院と出仕教師を決定し実施のはこびとなった。

◆第六期布教師養成所が開設される。平成四年より所長に福井県鯖江市、本山平等会寺山主、久保日浄師が選任され、五月二十五日より五日間、平等会寺において布教師養成講座が開かれた。参加者は北海道旭川市立正寺住職吉田勝弘師・奈良県橿原市日宝寺内中筋祐誠師の両名が入所、これより後、三ヶ年間、説法所作や三分法話・高座説教等の研修にはげむ。（吉田勝秀）

法華宗陣門流

◆『総本山本成寺祠堂法要』五月二十九日、戦歿者追悼法要・世界平和。交通安全祈願

五月三十日、御歴代法要

五月三十一日、永代祠堂霊位・納骨霊位・追善法要・寂光殿法要・米寿表彰が行なわれた。

◆関東教区講習会・檀信徒講習会開催

巣鴨本妙寺に於いて六月十日教区講習会、十一日檀信徒講習会が開催された。十日講師は伊東蓮着寺住職椿沢舜瑩聖人による「現在の布教のあり方」について、前橋養行寺住職土屋善敬総務部長による「総本山本成寺開創七百年奉讃会事業」についてのお願い、説明等。十一日檀信徒講習会は、講師は日暮里法光寺住職竹嶋三正聖人による「仏塔」について、講義終了後、五回以上受講された檀信徒の方には褒賞状・記念品が授与され閉会された。（鈴木昭雄）

日本山妙法寺

◆平成3年元旦祝祷会皇居御祈念。8・9両日恩師行勝院日達上人七回忌熱海道場厳修身延其他内外来賓参加。

◆2月10日より渋谷駅頭長期断食。12日ビキニ平和行脚発進。19日ランカ　アンパーラ開堂供養外四ヶ所仏舎利塔記念法要。25日熱海道場其他行阿院様法要。26日身延参詣。

◆ランカ國モロツワ市の寺院内にて岡本信士仏舎利塔落慶。3月中はウィーン始め欧州各地で断食平和祈念を行う。4月北海道東北を平和祈念行脚。4月28日清澄夢島広島長崎平和祈念行脚出発清澄寺法要参加エルサレムにて平和巡礼。6月9日奥多摩仏舎利塔記念法要。7月4日ウィーン。6月ロンドン宝塔式典。7月7日ミルトンキーンズ宝塔式典。8月5日広島宝塔25周年法要。8月24日熱海道場で西天開教記念法要後恩師御墓納骨式。同日インドラダツク仏舎利塔10周年法要。9月8日佐渡仏舎利塔落慶式。

◆10月5日ニューヨーク道場開堂式。13日葉山道場再建開堂式。24日沖縄平和行脚。11月6日阿蘇誕生寺七回忌追孝法要。12月1日より8日断食接心会。（石山善邦）

本門佛立宗

◆佛立青年教務会（40歳未満の若手僧侶の全国組織）では第五回佛立青年の翼を企画。本年9月11日から16日の4泊6日で、ハワイ別院参詣をメインに、全国の佛立青年90名余りが参加した。

◆去る3月5日、京都宗務本庁四階の宗会議場にて、第一回佛立研究所研究発表大会が開催された。全国から凡そ百六十師の教師が出席する中、弘通学部門より石川・小西・宗学部門より川手・吉田の、二師づつの若手研究員による研究発表がなされた。なお、この日特別ゲストとして京都大学文学部教授の御牧克巳氏が「チベット仏教とそのボン教への影響」について、特別のスライドを使用して、熱っぽく解説下さった。その専門的発表内容に、研究所関係者をはじめ参加者一同、学問的研究のあり方姿勢を強く意識させられたようであった。

◆第百三十六回臨時宗会が、去る8月4日に宗務本庁にて開かれ、21期宗会議員他、本庁支庁各役職が選出された。（文責・広報局）

本門法華宗

◆宗門では昨年、御遠忌関連の諸事業も完了し、日像菩薩六百五十遠忌大法要も全門末の寺院、檀信徒が一体となり盛大のうち無事奉行されたのを期に、来る平成6年には大本山妙蓮寺開創七〇〇年を向へるに当りより一層躍進への準備に入った。

◆学院主催による第63回教学講習会が3月30日、31日の両日大本山妙蓮寺、卯木講堂に於て開催された。

特別講師として前回に続き立正大学教授北川前肇先生を招き「報恩抄に聞く」と題して講義がなされた。（持地光学）

法華宗本門流

◆任期満了に伴う宗務所長選挙の結果、左の者が当選し、四月一日付をもって宗務所長に就任した。

北海道―若林宣龍（帯広・蓮承寺）
東北―熊谷日恵（盛岡・本正寺）
千葉―十枝信翁（千葉・寶藏寺）
東京―福島典雄（東京・感応寺）
東海―久保木学洋（沼津・山本坊）
北陸―二瓶海照（富山・信行寺）
京都―吉本諦良（京都・護国寺）
大阪―川口日空（寝屋川・正立寺）
兵庫―有原仁龍（伊丹・妙宣寺）
淡路―金森義明（兵庫・勝願寺）
中国―菊地恵祐（岡山・新福寺）
四国―松本幸瑞（丸亀・本照寺）
九州―川内田日就（宮崎・勝蓮寺）

◆宗務役員の一部異動があり、教化部長に京都市本行院住職岡澤海宣師、教学部長に尼崎市養壽院住職三浦成雄師が就任。また、興隆学林専門学校の学林長（校長）には北茨城市成顕寺住職鈴木隨順師が、学監（教頭）には神戸市法華寺住職小西徹龍師がそれぞれ就任した。

◆本年春の叙勲で、大本山光長寺貫首久保木日秀猊下が、永年にわたる民生委員等の社会福祉に尽せる功績により、藍綬褒賞を受けられた。

◆海外布教の拠点のひとつであるサンフランシスコ法華宗仏教会では、開教師が佐藤良純師より末澤禎隆師（苫小牧市妙見寺内）に交代した。これに伴い三月末から四月にかけて和田日攝管長、太平日晋本興寺貫首、川口善教宗務総長等六十余名が渡米し、開堂二十五周年法要を奉修した。（矢吹慈英）

日蓮宗

◆二月十八日、新高輪プリンスホテル「飛天の間」において、身延山法主岩間日勇猊下の第四十七代日蓮宗管長御就任の祝賀会が、約八百名の参加を得て盛大に行なわれた。

当日は、門下連合会より顕本法華宗・日本山・国柱会の代表、又全日本仏教会、桜内義雄日蓮宗全国檀信徒協議会々長（衆議院議長）立正大学理事長吉田文尭師をはじめとする各界よりの出席があり、就任をお祝いした。

◆四月十三日、中国西安市郊外草堂寺境内に鳩摩羅什三蔵法師記念堂が完成し、落慶宗門法要が日本より四百人余が参加し、中国側より一万人の参拝者が見守る中で行なわれた。

今回のこの事業は、中国仏教協会陝西省仏教教会などのご協力を得た法要後に、周紹良中国仏教協会副会長の挨拶、松井大周師教授そして記念堂建設に尽力あった方々の表彰があり、夜、西安市内人民大厦において五百名の出席を得て祝宴が行なわれた。（望月康史）

国柱会

◆『昭和天皇の御製』12万部を達成。普及運動を引続き展開中。

◆平成3年中は全国各地の連合局主催で「日蓮主義の基本を学ぶ」講習会を開催。本年は同じく各地で「御修行を学ぶ」儀典研修会を開講。

◆平成3年11月23～24日、第27回身延祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。御門下を代表し至心唱題ご給仕を成満。

◆12月7日、新橋の航空会館ホールで「大東亜戦争を考える―大東亜戦争50周年記念講演会」を開催。田中香浦会長より講演。同日、宮沢賢治研究会で大橋冨士子講師研究発表。

◆『日蓮主義研究』15号発刊。

◆田中会長による「日蓮主義教学講座」、大橋冨士子講師による「法華経を学ぶ集い」毎月開催。

◆平成4年より国柱会本部は三田道弘事務局長以下、新体制で発足。

◆4月28～29日、第62回国柱会身延登詣団。大祖廟前にて立正会慶讃式典厳修。29日、思親閣登詣。報恩集会。帰路、清水市龍華寺へ。

◆真世界文化研究院、毎月研究会。7月26日、国柱会本部にて研究発表会。田中会長より「新しい国体学試論」特別講義。

◆田中智学門下青年協議会では御遺文研鑽の「土曜日」毎月開会。機関紙『宣正』発刊。昨年は結成15周年を迎え記念講演会を開催。5月9日日本国体学会で春季講習会。（秋場善弥）

顕本法華宗

◆3月3日～4日、第46定期宗会が総本山妙満寺宗務院にて開催され、平成三年度事業、決算等の承認とともに、平成四年度事業計画、予算等の全議案が可決承認された。また、内局の改選により、新宗務総長に石井義堅師（千葉県山武郡大網白里町芳墳寺住職）、宗務次長兼教務部長に中村通義師（千葉県円寿寺住職）、布教部長に今泉十一師（愛知県本常寺住職）、庶務部長に大塚正純師（東京都本授寺住職）、社会部長に小泉隆昭師（八街市本源寺住職）、財務部長に白井謙光師（金沢市本覚寺住職）がそれぞれ就任した。

◆4月11日～12日、総本山妙満寺では、恒例の春季報恩大法要が奉行された。古瀬日宇猊下大導師のもと、全国の僧俗が一堂に会し、先師御報恩並びに霊宝「安珍清姫の鐘」鐘供養等が盛大に厳修された。（秋葉敬真）

日蓮本宗

◆平成3年から平成4年にかけて、第三教区妙国寺（山形県・住職原田智光師）、不動院（福島県・住職半沢智弘師）、第五教区浄福寺（島根県・住職田中良英師）では、文字通り寺檀異体同心となって宿願の本堂が落慶をみた。妙国寺は平成2年1月18日庫裡から出火、本堂も全焼した。爾来本堂新建立を発願、建設委員会を結成し、三十数回の会合を開き、精力的に募財活動を進めた。平成3年11月22日落慶大法要を奉修した。不動院は、当初第三教区の妙蔵寺（福島県・住職佐藤智明師）別院であったが、昭和62年独立し寺格を得た。建造物の老朽腐食著しく、信徒の増勢と勧財が進み、平成3年9月17日落慶大法要を奉修した。両寺とも管長・本山要法寺貫首日有猊下が落慶大法要の大導師を勤められた。浄福寺は斐伊川と神戸川合流の活水対策事業にともなって移転工事が進められていたが、平成4年5月7日本堂落慶大法要を厳修した。

◆平成3年度の教師研修会は、平成4年2月6日日興上人御正当御逮夜法要に開講式、翌7日御正当に本山要法寺において開かれた。とくに国民的課題である「同和・人権問題」を研修題として、講師に京都学園大学和田富義先生を招き研修を深めた。なお宗務当局任期満了により、7月10日住友顕一内局は退任し、佐藤智明内局が就任、平成6年5月8日の本山要法寺御開山日尊上人第六百五十遠忌に向けて本格的な準備を進めることになった。（柳下正則）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

流通文

るつうぶん

＊第十号に続いて、またおわびを書かねばならない。第十一号が一年もかかってしまった。正直、予算等の関係から遅延せざるをえない情況であった。しかし、責任は感じている。今年の五月の常任理事会でも、苦言を呈された。反省しなければならない。今後の事であるが、編集方針をきめ、予算の裏づけのもとに行なわなければ駄目だろう。

＊今後は門連として、宗祖開宗七百五十年をどう迎えるのか、門連の中で共同でできることについて、この「門連だより」で特集してはどうだろう。もしくは各門下連合各派の取組や提言などもよいかもしれない。いずれにしても、定期刊行できるように努力したいと思う。各聖のご協力をお願いしたい。（康）

聖日蓮人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成5年2月16日
第12号

平成十四年にお迎えする日蓮聖人開宗第七五〇年記念の佳節に向け、日蓮聖人門下各教団は総力を結集すべきである。二度と無い、この記念すべきときに、各教団の持てるエネルギーを出さずして何時の日にか、それが可能になるか、心すべきである。
（編集部）

リレー提言(2)

立教開宗750年を迎えるにあたって

日蓮聖人門下連合会常務理事
川口　善教

宗祖を大聖人と申し上げるのは、それほど古い時代からと思っておりませんでした。私共の先師はよく日蓮大菩薩と申し上げておりましたように思うからです。

ところがわたしが住職しております西之坊は大本山光長寺の塔頭でありますが、その光長寺に伝わる宗祖の御舎利を収めた小さな塔を納める箱の蓋裏に、日蓮聖人の直弟日法上人直筆として「日蓮大聖人御舎利」と鮮明に書かれてありました。

このことから御直弟の当時既に、大聖人と申し上げていたことを知るのであります。

この大聖人が始めてお題目を唱えられたということで、私共は立教開宗と申し上げておりますが、立教ということとなりますと或いは少々問題がある言葉なのかなという気が致します。

立教は、この題目始唱の時なのか、立正安国論の御撰述の時を指すのか、宗祖の真実を述べられた観心本尊抄の御撰述の時を云うのか問題があるところと考えられるからであります。

されど、大聖人の朝日が森での題目始唱ということは、やはり開宗の宣言をなされた時ということに、異論のないところであり、この時点をとらえて日蓮大聖人開宗の時とするものであります。



◀本門日蓮大聖人御舎利
（光長寺蔵）



▶御舎利奉安宝塔
（光長寺蔵）

本門の題目の自覚をもって口唱信行を

法華宗（本門流）では、平成三年五月の宗議会において、奉讃会の設立を決議いたしました。その六月一日より「宗祖日蓮大聖人開宗七百五十年奉讃会」が発足し、その組織としての人事も決定をみることとなりました。

この奉讃会は、宗祖日蓮大聖人の開宗の本義であるところの本門八品上行所伝本因下種の要法であります南無妙法蓮華経を口唱信行することによって、娑婆即寂光の実現を期する為に「お題目総下種運動」を展開しようとして結成されたものであります。

従って奉讃会を設ける由縁は、総ての人々にお題目を下種することを推進する為に種々の事業を行うのが目的であります。

本門八品に説かれ、上行菩薩によって伝えられたお題目を伝え伝えること、種子を下すということは、宗祖大聖人の御指南によるところのものであり、観心本尊抄に次のように述べられている

「この本門の肝心南無妙法蓮華経の五字においては、仏猶文殊薬王等にも之を付属したまわず、何に況や其の已下をや、ただ地涌千界を召して八品を説いて之を付属したもう。（中略）在世五十余年にこれ無し、八年の間ただ八品に限る（乃至）五字の内にこの珠をつつみ末代幼稚の頸に懸けさしめたもう」

とは、南無妙法蓮華経が、本門八品に説き顕わされた経法であり種子であることを示されております。

お題目を唱えるので当宗を「題目宗」ともいうのでありますが、世間ではこの「題目」という言葉に余り良い評価をあたえておりません。むしろ芳しくないものが多いかともいえるのであります。

例えば、選挙の時に候補者が美辞麗句を並べ、立派な公約を掲げ演説をいたします。

ところがそれらは到底実現出来ないものであったり、はじめから実行するつもりもないものでさえ並べ立てて公約するとき、候補者が「お題目」ばかり唱えてと嘲笑されるが如きであります。

このような題目は文字通り言葉だけの標題であって中味の伴なわない「仮名」であり、大聖人の教旨をこころ得ない形だけ真似たものであるからでありましょう。



日蓮大聖人御尊像
（日法作）

お題目総下種運動を提唱する

法華宗の題目は妙体倶実の「実名」であります。実名とは信心であります。信とは言葉と実行が伴うことですから、当宗の題目は信の上にたってはじめて実名であります。

名前と実体は別であるとの思考法が科学的であると一般化している今日、名体倶実の実名である「総名」の真意を弘布することは、決して容易な事ではありません。

しかし、我々にとってのお題目は、大聖人によって確立された信心口唱の下種でなければならないと思うのであります。下種とは聞・信・唱の口唱であります。唱える者にとっては、これを聞く者、そして信ずる者という仲間作りが必要です。

それ故に我々が殊更に選んだメインテーマは、「お題目総下種運動」ということであります。

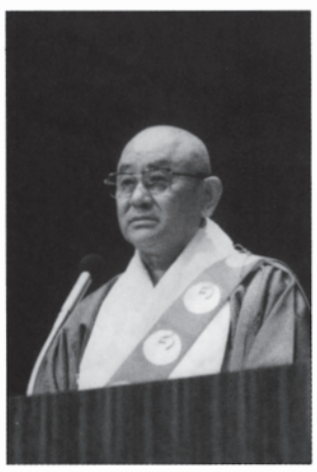
その為、吾が宗が幕末期に盛んに活動し、専ら題目口唱を行とした「八品講」なる講中運動（信行者の組織）への展開が、七百五十年の大事な柱と考えます。

奉讃会の本部は、宗務院へ設置し、宗務総長が会長に就任する事によって挙宗体制を整え、統一された全宗門の運動として推進するという位置づけを致しました。

宗門の諸機関が有機的に行動出来るようにする為、各種委員会を設置し、夫々に特色ある役目分担を果たすことによって統理された型をねらいと致したのであります。

即ち宗議会を第一委員会とし、宗務所長会を第二委員会としてそれぞれの特色を生かす機関を置き、第三委員会には興隆学林、教学研究所、宗門機関誌『無上道』、青年伝道隊、教化センター、法華宗信報の宗門の重要な現場機関の代表を集めての委員会を構成する事によって、教学研究の機関、出版関係、布教に関する機関等全て動員参加なさしめるという方式を採用しての体制を整えました。

地方にあっては各宗務所単位に奉讃会を設置せしめ、各寺院教会にも各々奉讃会設置を奨励し、その運動が檀信徒の末端にまで徹底して動けるように致しております。



川口善教常任理事

お願い
「門連だより」の継続・発展のため
各聖のご協力を切にお願いします。
本紙に対する感想・要望など、
ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会委員一同

従地涌出

平成十四年、「立教開宗七百五十年」誠に有難い。有難い大事にあえることに今から心のうずきを感じる。「門連だより」第十号までは七百遠忌のまとめという色あいが濃かったが、「第十一号」。いよいよ立教開宗七百五十年にむかって出発進行。喜びが湧き上がってくる。伊藤理事長より、立教開宗七百五十年を迎えるにあたってのご提言を頂いた。これから各門流よりご提言が頂ける。第十二号が待ち遠しい。

立教開宗を迎えるにあたって、まず、「原点」をとだれも思うし、自分に問いかける。この「原点」という文字を目にし耳にする時、いつも心に浮ぶことは「住職の原点」は何んであろうかということである。毎日、法務におわれている。一般社会通念の家庭生活をと思う時もある。いつも自問し、自戒する一点は「法華経の行者」として、どれだけの「行」をなしているかという事につきる。生涯教育というが、私ども僧侶は生涯修行と心にきめての毎日と思い続けたいと念じてやまない。

ところで「和して同せず」のことばがある。手前味噌的な考え方をすれば、物理的な関係では「和」がない。各々の長所や生い立ちを尊重するところから「和」が生まれ、善き関係になると思っている。

門下連合という協同体もこの事が大切と思われてならない。数でない。物理的関係でもない。各門流の伝統と格式等を尊敬し合ってこそ異体同心になれるし、これなくして大成はないと言い切る。ご聖訓を信じてやまない。

（K・Y）

シリーズ門下御本山巡り ⑪

日蓮宗本山蓮永寺

弘安三年に創建され，同六年妙法山の山号を持つ精舎として発足



日蓮宗本山蓮永寺

日持上人建立になる
弘通の精舎

開山六老僧蓮華阿闍梨日持上人、永仁三年（一二九五）正月元日、単身、海外伝道の旅に出られてからこの方、七百年の時が経過した。

遡れば当山は、弘安三年（一二八〇）日持上人の郷里駿河国（静岡県）庵原郡松野に兄松野六郎左衛門の協力のもとに、その邸内に一宇を創建、同六年にはこの堂を妙法山蓮永寺とし、弘通の精舎として発足したのが当山の淵源である。

日持上人が海外に向けて出立されてから、月日の経過とともに松野の寺は無住同然となり、また戦国の世、武田氏の戦火にもまき込まれ荒廃するにおよんだ。

この霊跡の荒廃を歎かれた徳川家康の側室養珠院お万の方は、元和元年（一六一五）駿府城鎮護の道場として、城の艮（東北）の方向にあたる現在地（静岡市沓谷）へ同寺を移し、身延の寂照院日乾上人・心性院日遠上人の両上人を迎えて寺観を整えた。

なお移転後は山号を貞松山と改称し、通称みまつの蓮永寺と親しまれている。

この移転については、日乾・日遠両上人の勧めがあったからともいわれる。当山はこの縁故等をもって、両上人を当山中興と仰ぎ、また、松野氏は当山開創の大檀越、養珠夫人は中興の大檀那と仰いでいる。

なおここで、養珠夫人に下賜された後陽成天皇の「御宸筆首題」のことを紹介する。

慶長十三年（一六〇八）の常楽院日経上人の「慶長法難」のとき、日遠上人は幕府裁断を非法として、同じく強硬の態度をとり、家康の注文通り「法華経には念仏無間の証文なし」という一札を書かないばかりか、進んで浄土宗との問答を要求した。このことは天下の覇者家康の怒りをかい、ついに安倍川原で磔刑にされようとしたとき、養珠夫人が殉死の覚悟を示し、身をもって日遠上人を救われた。

この件が天聴にも達し、時の後陽成天皇は養珠夫人の不惜身命の信仰を讃えられ、首題の七字を御染筆されて養珠夫人に与えられた。

今日、当山に格護される「後陽成天皇御宸筆首題」がこれである。養珠夫人の篤信外護については、この他にも語るべきことは多々あるがこれにとどめる。

海外弘経の先駆
日持上人の誓願

さて開山日持上人、正応元年（一二八八）は、宗祖日蓮聖人第七回忌にあたり、侍従公日浄とともに願主となって、等身大の聖人御影の坐像を造立し、胎内には青銅製の経筒に聖人の御遺骨を納め、池上本門寺に安置された。現在、重要文化財に指定されている池上の御影像がこれである。

さらに永仁二年（一二九四）は、聖人第十三回忌の御正当、ここに来たって常に日持上人の念頭を去らなかったことは、宗祖の宿願であった本化の妙法を漠土、さらに印度へ帰すという、海外への伝道ということであった。

かくて翌三年正月朔日、僧俗門下を前に一座の法話ののち、改めて次のように申されたと『本化別頭仏祖統紀』は伝えている。

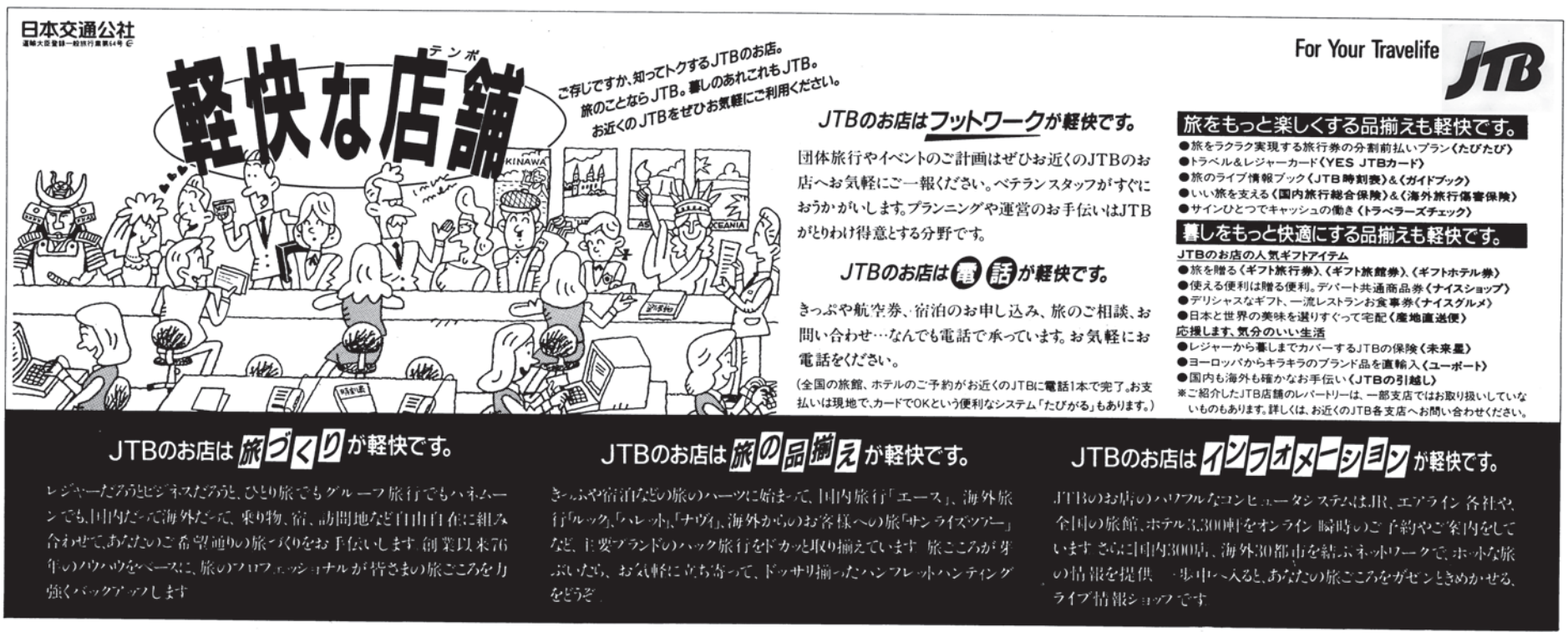
「法華経の信仰は、日本国以外には何処の国にも弘まっていない。もちろん宗祖出現以来、日もまだ浅いことであるから、日本国内とて悉くは法華経に帰したわけでないが、国内の布教は日昭・日朗両師以下、法将雲の如くであるから、それらの人々にゆだねたい。われは異域に法を弘めて宗祖の祖願にこたえ奉らん」との発言は、さぞかし満座の人々を仰天せしめたことであったろう。

門下の供を、とすがるをさとされ、後事を高弟日教にゆだね、一閻浮提広宣流布の決意をもって、単身、弘教の旅へと向かわれた。時に日持上人四十六歳、永仁三年の春、めでたき正月元日のことであった。

その後の日持上人の軌跡は不詳の点もあり、宗門ではこの出発の日をもって日持上人の命日としている。爾来七百年、日持上人第七百遠忌も指呼の間となった。当山では平成六年十一月、遠忌法要を厳修しその報恩に謝したいと期している。



養珠夫人肖像



祈
立教開宗七五〇年
奉讃円成

日蓮聖人門下連合会

日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 岩間日勇
宗務総長 伊藤通明
宗務副総長 佐藤光春
綜合企画部長 岩間湛正
庶務部長 二宮将泰
財務部長 加賀美泰全
教務部長 石井隆教
護法伝道部長 石川浩徳
現代宗教研究所長 石川教張
参与 岡田法順
参与 白部健順
日蓮宗新聞社社長 菊池泰瑞

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 大平日晋
宗務総長 川口善教
庶務部長 大塚正信
教学部長 三浦成雄
教化部長 桃井晋城
財務部長 芹澤泰謙

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一

管長 古瀬日宇
宗務総長 石井義堅
宗務次長 中村通義
財務部長 白井謙光
布教部長 梶井厳誠
教務部長 山本学人
社会部長 小泉隆昭
庶務部長 大塚正純
主事 山本晃道
主事 飯沢道安
主事 花沢純行

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX〇三(三五七六)〇一二一

管長 野口日桂
宗務総長 牧野琢成
総務部長 土屋善敬
教学部長 都築哲信
教化部長 金原戒雄
財務部長 江坂隆俊
宗務参事 竹内敬覚

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 御牧日勤
講尊 小山日幹
講尊 梶本日裔
宗務総長 植田日朝
宗務副総長 中西日納
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六二

管長 上田日源
宗務総長 長鎌泰信
総務部長 吉田勝秀
教学部長 上嶋智岳
教化部長 小西法明
社会部長 蓑輪渓玉
財務部長 寺田完英
宗務参与 小島玄城
宗務主事 上田浩岳
宗務主事 岩崎峻暉
宗務主事 笹木研秀
宗務主事 矢放真文

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 中村日宣
宗務総長 吉村信尚
宗務部長 信隆允忠
財務部長 山下通雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 飯田信栄
教務部長 高辺誠亮
門連常任理事 木村光紹

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長財務部長 佐藤智明
総務部長教学部長 原眞昭
法務部長 依田謙成

宗教法人 国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中香浦
理事長 三田道弘
副理事長 入江克郎
門連常任理事 大橋邦正
本部事務局長 田中隆一

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上る
本法寺前町六一七 本山 本法寺内
日蓮宗 京都府第一部 宗務所
電話〇七五(四五一)九三九〇

会長 沖日亨
副会長 福井日進
理事長 本田義遠
副理事長 赤塚高明

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三三二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦
長老 今井行順

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人
東京都千代田区九段北三―二―三

天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
東京都渋谷区神泉八―七

祈・立教開宗750年　奉讃円成

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主　古瀬日宇
総務　山本学人
執事　三坂岳應
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　野口日桂
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　鈴木顕正
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―一〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　上田日源
執事　小島玄城
執事　岩崎峻暉
執事　笹木研秀
執事補　矢放真文
〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗
大本山妙蓮寺
貫首　中村日宣
執事長　松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七
電話 〇七五(四五一)三五二一七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　佐藤智明
執事　原眞昭
執事　依田謙成
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十世講有　水谷日尚
事務局長　伊藤英夫
信徒総代
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当　小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　沖日亨
執事長　本山本土寺貫首　山田一光
執事　原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関口観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首　金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野教格
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成五年度随身生募集中

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　土屋学周
参与　同　山田完修
同　新井智清
同　加藤通雄
執事　同　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

京都理事会開催さる



平成四年十一月四日、法華宗本門流大本山本能寺に於て開催された。理事会開催に先立ち、宝物等を拝観させていただき、本能寺貫首和田日攝猊下導師のもと、伊藤通明理事長をはじめ参加者五十五名が法味言上をした。

記念撮影後、和田猊下から「本能寺の沿革」につき講演が行われた。

引き続き、理事会を開催し、次第に従って会議を進め、上半期事業報告、京都門連事業、地方門連活動に関する件、その他として討議報告承認を行った。又、欠員中であった、監査について、顕本法華宗・山田信正師（千葉県行伝寺住職）が推薦され、了承された。

今回の理事会では、来る立教開宗七百五十年に向けて、各門下でどのような取り組みを行っていくか、意見を交した。今後門下連合会としても取り組んでいくべき問題もあるので、門下連合会の活動についても検討していくつもりである。

常任理事会開催さる



平成五年一月十八日、日蓮宗宗務院に於て、常任理事会を開催した。特に議題は設けずに、自由に意見を出してもらいたいと、伊藤理事長より提案され、参加者十四名が意見を出し合った。

まず、門連の会議に集まる人数が年々減少してきており、身延理事会も京都理事会に比べ数が少なく、身延理事会の形態について検討してみてはどうかという意見が出され、又結成以来の会則も含め、見直しの時期に来ており、今一度門下連合会のあり方について考え、立教開宗七百五十年に向けて、活動していく事が話された。

門下連合会結成以来、今日に至るまでに、宗祖七百遠忌や結成三十周年記念事業を円成した今、やはり何か目標を見つけなければならないのではないか。

又、全門、京門という名称についても、なにか立場を決めてしまい、全門の傘下として地方門連があるという認識が存しているようで、なかなか地域に於ての結成が足ぶみ状態のようだ、そして、門連に対する理解が、時が経つにつれ変化してきており、後継者も考えていくべきである、という意見もあった。

紙の紹介・布教誌 ⑥

法華宗本門流「無上道」



◎『無上道』は平成二年八月号をもって創刊以来第五〇〇号の大金字塔を樹立し、本年正月号で第五二九号を数えるロングセラーである。本誌が創刊されたのは戦後間もない昭和二十四年一月で、《國神不敬事件の真相》を掲載し、以後〈昭和法難〉の生の声が連載された。創刊号編集後記には「戦時中、軍閥政府から弾圧された唯一の仏教宗団、赤十字運動を展開した宗門、そして御本尊と御遺文を護り抜いた宗門」と記してある。

◎四十有五年の歳月を数えた今日でもその姿勢はひとつも変ることなく、日蓮大聖人の本義を正しく伝え、しかも解り易くが編集の方針である。

◎内容については、貫首猊下はじめ宗内僧侶の歳時法話、学林教員による教義の分り易い手引きはもちろんのこと、宗門外からの玉稿も掲載し、例えば京都府立大学教授・藤井学先生の「本能寺と信長」は長期連載となっている。ほかに宗宝の紹介、読者からの俳句・川柳・短歌等も掲載されている。またテーマにそった挿絵・まんが、さらには全国に配置された通信員より送稿されてくる各地のニュースを速やかに伝えるなど六十四ページ建の誌面は盛りだくさん。

◎開宗七百五十年の宗門テーマである「お題目総下種運動」を展開するため、檀信徒に対する文書布教部門としての大きな役割を果たしている。その一環として本年四月号よりは、「下種（げしゅ）」をテーマに長期連載を企画し、日蓮大聖人法華宗開宗の正義を追求。乞う御期待。発行二万部、年間購読料二千円。

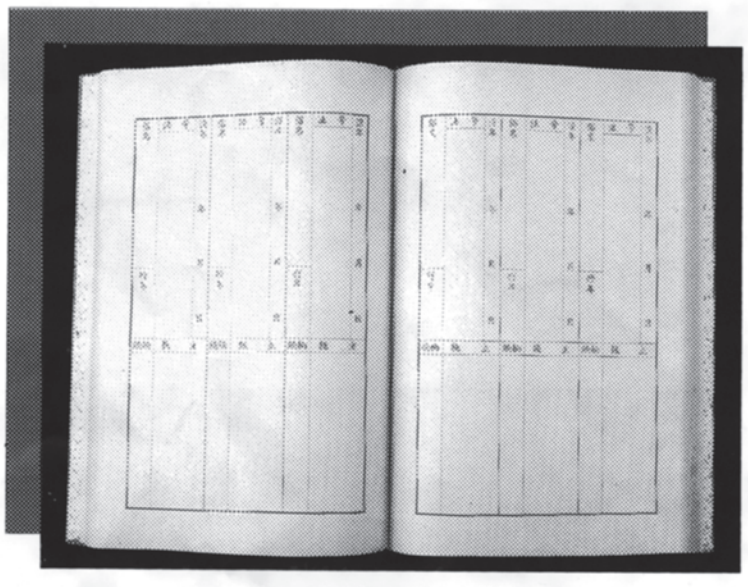
◎ほかに、『法華宗信報』（B5版四ページ、季刊紙、発行六万部、無料）、『心花ひらく』（教化リーフレット、年三回、発行三万部、一部三十円）など、宗門の文書布教は充実している。

好評発売中

ご寺院用過去帖

○表紙は和綴じで、豪華な緞子（どんす）使用。
○中の用紙は楮（こうぞ）和紙でペン、筆どちらも書き易くなっています。
○百枚、二百頁で一頁に三霊かけます。

定価　一冊　六五〇〇円
A—四版　二〇〇頁



※ご寺院の慶弔の記念用品として最適です。是非ご利用下さい。

お申し込みは　日蓮宗新聞社　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028
〒146 東京都大田区池上6－19－1

各派・教団 短信

日蓮本宗

◆平成6年（一九九四）5月8日は本山要法寺御開山日尊上人の第六百五十遠忌御正当の日にあたるので、その御正当の日に御遠忌法要を厳修することになっている。

また御遠忌事業として境内・境域整備を推進しており、第一期事業として、本堂・開山堂の大屋根の葺替え等を含む全面大修復を、全門末の檀信徒並びに有縁の方々のお力をいただいて、約五億円の巨費を投じて平成元年秋完工した。

境内・境域整備の第二期事業として、客殿・大書院・対面所・庫裏・方丈等を全面的に改築することとなり、山内既存の建物との調和が、全般的に均整のとれたもので、かつ機能的にも充たされたものであることが望まれる建物を完工させ、此等の建物を後世に残すことで報恩の誠を捧げるべく事業を鋭意推進中。

◆第二教区古城山・本成寺（大阪府箕面市・住職原光正師）では、本堂屋根の葺替えと庫裏の全面改築が完工し、平成4年12月6日（日）の吉日に、管長・本山要法寺貫首日有猊下御親修のもとに、教区内門中各寺院住職、法類寺院住職の参列と、多くの檀信徒並びに有縁の各位の参拝を得て落慶法要が奉修された。

◆同教区広布山・正福寺（大阪市淀川区三国本町・住職松本源成師）では、本堂・庫裏の老朽化に伴い、かねてからの新営工事がこのほど完工した。内陣全般の荘厳は、旧に比して明るくなり、また外陣も椅子席が設けられるなど、見違えるまでに立派なものになった。

去年11月22日（日）御大会式法要に兼ねて完工式が奉修され、落慶法要は山門及び塀の工事完了後の、本年4月11日（日）に管長・本山要法寺貫首日有猊下御親修のもとに厳修された。

◆日蓮本宗・本山要法寺を紹介する小冊子（私たちの『要法寺』―教えとあゆみ―）が、昭和46年発行の旧版を一新して、このたび写真をすべてカラー版にして、去年10月印刷発行された。

内容は日蓮本宗の教え、御開山日尊上人、要法寺の歴史、現代生活と信仰、付・山内の建造物等となっており、旧に比して読みやすいものとなった。

法華宗真門流

◆去る七月二十二、二十三日の両日臨時宗会が、総本山本隆寺に於いて開催、宗務総長に長鎌泰信師が選出され就任された。直ちに内局人事が発表され満場一致で決定した。

宗務総長　長鎌泰信師
総務部長　吉田勝秀師
教学部長　上嶋智岳師
教化部長　小西法明師
社会部長　養輪渓玉師
財務部長　寺田完英師
宗務参与　小島玄城師

なお、内局人事に伴い次の通り、選出された。

特選宗会議員　木村完祥師
（着任平成四年十月二十日）
宗会副議長　辻本寛孝師
（着任平成四年十二月四日）

◆東山未生流華展開催　平成四年十一月七、八日の両日、総本山本隆寺にて、家元総本山の華道東山未生流（総裁・上田日源猊下、華務長・今枝幹詔氏）の華展を開催。

◆新年祝賀のため皇居へ参内　平成五年一月十一日、午後、管長上田日源猊下・宗務総長長鎌師・総務部長吉田師が新年祝賀のため、宮殿北車寄より参内記帳、天皇御一家のご安泰を祈り申し上げた。（吉田勝秀）

法華宗陣門流

年中行事

一月一日～三月年頭祈願会　一月十一日聖教開き　一月二十一日朗師会　二月三日節分会　三月十五日御涅槃会　春分の日前後七日春彼岸会　四月二十八日立教開宗会　五月八日釈尊降誕会　五月十二日伊豆法難会　五月十八日鬼子母神大祭　五月下旬祠堂大法要　六月二十一日陣師講　七月一日弁天講　八月一日盆参施餓鬼法要　八月十三日～十六日盂蘭盆会　八月二十七日山門祈禱会　九月一日宝物風入　九月十二日龍口法難会　秋分の日前後七日秋彼岸会　十月十日佐渡法難会　十月十二日御逮夜　十月十三日御会式　十一月十一日小松原法難会　十二月十五日番神祭　十二月二十日印師会　十二月二十四日大師講　十二月三十一日年末祈願会・除夜の鐘

◆総本山本成寺記念事業始まる。

山門（朱塗りのため赤門とも称す。当山の正面より見て右持国天王、左毘沙門天王、夫々東北を守る神、楼上に一切経を祀り中央釈尊安置す。その前に傅大士の像あり。三十一代日隨師の時、二十八代日修師の願を受けて完成）

水門（竜の彫刻。火の時、水を吹くとのこと）

黒門・大鼓門（裏門と称す。上杉謙信三代の祖景虎の大番頭三条領主山吉定明の屋敷門にて馬乗りのまま通れる高さあり。大炊助定明より寄進される。六百年前の作）

平成九年、開創七百年に向けて諸堂の改修等が着々と進行されている。

日本山妙法寺

◆平成4年元旦祝禱会。皇居御祈念。8・9両日恩師行勝院日達上人第八回忌法要厳修（熱海道場）。9日　印度ワルダ宝塔仏舎利奉安式。15日　印度ボンベイ宗教合同平和祈念行進。

◆2月12日東京→焼津平和行進出発。15日ネパールポカラ仏舎利塔起工式。同日　パナマ→ワシントン諸宗教平和巡礼発進。2月25日熱海道場及び各地にて行阿院日蘇大法尼追孝法要厳修。同日ランカ国仏足山→国内平和行進出発。

◆4月5日成田仏舎利塔起工式。4月19日静岡掛川道場開堂式。4月28日清澄立宗会参加。広島長崎平和行脚発進。

◆5月3日渋谷駅前にてPKO法案反対の御祈念。

◆6月28日欧州ウイーン道場開堂供養。

◆7月1日ドイツ国ユーリッヒ玄題宝塔開眼式。7月12日イタリヤシシリー島コミソ仏舎利塔起工式。

◆8月6日広島及び9日長崎向け平和行脚終了。

◆9月27日名古屋道場開堂式

◆10月10日パナマ→ワシントン平和合同巡礼到着終了。10月14日沖縄平和祈念行脚出発。

◆11月1日印度ダージリン仏舎利塔落慶大法要。

◆12月1日→8日全国一斉断食御祈念　（石山善邦）

本門佛立宗

◆平成4年12月15日、大阪円妙寺住職・御牧日勤上人が、佛立第21世講有・本山宥清寺第53世住職として全宗門より推戴され、晋位晋山式が厳粛に営まれた。

◆本宗教学の権威・大阪本成寺の権大僧正・泉日恒上人は、去る平成4年11月28日、遷化された。佛立入門・本門佛立宗概論・泉日恒著作集全11巻等数多くの著作を遺された碩学の師。

◆12月14日、第139回臨時宗会が開かれた。　（深澤泉奥）

本門法華宗

◆昨年9月28・29日の二日間第65回教学講習会が大本山妙蓮寺に於いて行なわれ、学院各教授及び立正大学北川前肇教授による講義がなされた。

なお、毎回に及ぶ北川教授の講義をまとめた「講述録」が学院より出版されている。

◆昨年11月18日より20日の三日間宗務院、学院、大本山妙蓮寺、合同主催による平成4年度の地方研修会が静岡県地区にて開催された。

全国から集まった講習生は、地元各寺院を参拝後、講習会場にて教学研修に励み三日目には箱根にて懇親を深め異体同心を誓い合い有意義な研修旅行であった。

◆2月24日、奉行委員会が開催された。来年11月に大本山妙蓮寺開創七百年を迎えるにあたり、充実した意義ある記念法要が厳修できるよう各種の企画が立案、討議された。　（持地光学）

法華宗本門流

◆去る十一月二十七日、大本山本興寺において第六回法華宗教学研究発表大会を開催。今回は法華宗教学研究所創立三十周年記念大会と併催され、宗内からは大平宏龍学林教授による「法華教学管見―まことの一念三千―」、宗外からは北川前肇立正大学教授の「日蓮聖人教学の主体化の問題」と題する記念講演がなされ、満堂の聴衆を魅了した。

◆任期満了に伴う宗会議員選挙の結果、左の十八名が当選し四月一日付をもって就任する。

渡辺俊岳（北海道・本因寺）、山火泰崇（秋田・寂光院）、福田義弘（千葉・本妙寺）、後藤孝継（千葉・多門寺）、福島泰樹（東京・法昌寺）、冨田学玄（横浜・保土ケ谷教会）、石田智清（沼津・東之坊）、片山郁朗（伊東・安立寺）、江頭正山（武生・久成寺）、三木智行（三重・本門寺）、赤田泰宏（京都・源妙院）、古田日穏（大阪・岡松寺）、菅原隆岳（吹田・法華寺）、藤村隆秀（神戸・本光院）、松井本正（淡路・最明寺）、菊地日成（岡山・松壽寺）、岡村祥光（高松・本寺）、三浦隆雄（北九州・本光寺）。　（矢吹慈英）

日蓮宗

◆平成4年8月30日、ハワイ日蓮宗別院に於て、岩間日勇管長導師のもと「ハワイ開教九十周年記念管長猊下御親教法要」を厳修した。日本より約二百人の参拝者を募り、ハワイの信徒約百人を合せ、ハワイ開教の先師の偉業を讃え、移民の方の労苦を忍び、戦死者の霊を供養した。

◆平成4年10月24・25・26日の三日間、比叡山延暦寺に於て、「日蓮聖人比叡山御遊学七五〇記念法要」を延暦寺大講堂及び横川定光院に於て厳修した。当日は、天台座主山田恵諦猊下をはじめ、延暦寺要職各聖の参列のもと、全国の日蓮宗寺院・檀信徒も参加し、盛大且つ厳粛に挙行した。

国柱会

◆各地方連合局で御修行を学ぶ講習会。◆毎月、国柱会本部で「法華経を学ぶ集い」。◆刷新実行委員会で全国支局巡回中。◆平成4年8月、身延ほか各地で少年少女夏期学校。◆8月13～15日、全国若人の集い広島大会。8月14～15日、靖国神社で『昭和天皇の御製』の頒布活動（12万部達成）。◆9月13日、お茶の水スクエアで「宮沢賢治60回忌記念のつどい」大橋冨士子講師、大谷大学西田良子教授が講演。◆9月、『日蓮主義研究』16号発刊、「日蓮聖人の折伏主義の意義」田中香浦、「国柱会信行員・宮沢賢治」大橋冨士子ほか（定価一〇〇〇円）。◆10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。◆10月24日、台東区民会館で「真世界の集い」講演会。◆11月3日、近畿地方連合局にて二百余名参集し桃山御陵特別参拝。◆11月14～15日、本部で定例協議員会、任期満了に伴う会長推戴の件は田中香浦会長が再任、三田道弘理事長以下新役員、田中隆一本部事務局長以下、新体制で発足。◆11月16～17日、恩師田中智学先生第54回忌報恩大会。◆11月22～23日、第28回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団、御門下を代表し田中香浦団長以下、唱題ご給仕。　（秋場善彌）

顕本法華宗

◆僧員研修会開催、11月26日は関西地区、27日は関東地区を中心に開催された。いずれも講師は布教総監秋山事成師、教学研究所長窪田哲城師の両師により「医療・尊厳死について……今を生きる」をテーマに講義が行われた。

◆海外布教道場顕本寺移転落慶去る12月6日、ブラジル・サンパウロに顕本寺が完成し、管長古瀬日宇猊下、宗務総長石井義堅師他多数が渡伯し、盛大な落慶法要を厳修した。参詣檀信徒は堂の内外に満ちあふれ法要に引き続き、主管の交替式が行われ、前任山本学人師より後任鍋田浄月師に法灯が継承された。

顕本寺は約15年前、開基である永田日功師の正法探求に端を発し、現管長古瀬日宇猊下の指導と、宗門本山の絶大なる協力により着々と信徒を増やし、88年に道場建設に着手しその布教拠点としたが、その後さらに交通至便の現在地（サンパウロ市の中心に近いサウデ地区）に進出移転し今般開堂落慶となった。

新主管鍋田師は、二か国語に堪能な二世教師として、師父故永田師の強い信仰を受け継ぎ、現地信徒からも深く慕われ、新顕本寺の興隆発展が大きく期待されている。　（秋葉敬真）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

流通文 るつうぶん

＊第十二号発行にあたり、御協力をいただいた各聖には、御礼申し上げます。又、前号より一面に各門下の総長、会長に立教開宗七五〇年に対するコメントを掲載させていただいております。こちらの勝手な編集企画で御迷惑でしょうが、御力添をいただき、門下連合会として、来る西暦二千二年の立教開宗七五〇年に何か形を残したいものです。

＊今回第十二号発刊が大変遅くなり各門下の方々に御迷惑、御心配をおかけ致しました事紙面を借りましてお詫び申し上げます。

＊次回第十三号よりは、新鮮な記事を早くお手元に届くよう努力致します。

「門連だより」の火を消す事なく新たな企画を出し、刊行して行きます。ご期待下さい。　（新）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成8年2月16日
第13号

立教開宗750年を迎えるに当たり

山田 信正
顕本法華宗宗務総長

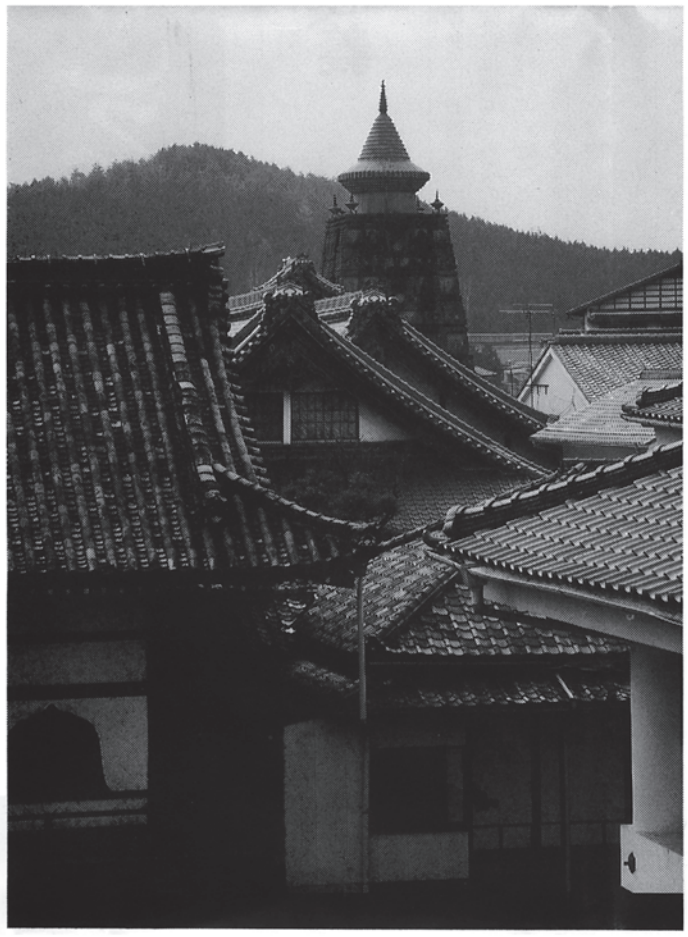
平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

編集委員会より「貴派における立教開宗七五〇年をお迎えする具体的な体制」と云う標題で執筆する様にとの御依頼があったが、私共の宗派では未だ、そこまで至らず、これからの歩みと現状、及び抱負だけを述べてみることにする。

去る昭和二十七年に立教開宗七〇〇年をお迎えし、門下各派は、それぞれの立場に応じて記念事業を成し遂げられた。しかし当時は終戦後僅か七年、それも、企画及び準備等を加えれば、おそらく昭和二十三、四年頃から始められたのではないだろうか。

当時は、全ての機関が未だ完全に元の通り復興はしておらず、日蓮宗宗務院も浅草清島町の元統一閣内に借住居の状態で、国民の戦争の傷痕は未だ生々しかった。その様な状況下においてその準備たるや大変なものであったと思う。

だが私達の先師、先輩の諸上人は多くの苦難を乗り越えて立派に多くの記念事業を遂行された。それは偏えに仏祖三宝の御加被によるとはいえ、信仰による集団の力ではないだろうか。また建長五年に立教開宗された日蓮大聖人の御魂が七〇〇年後の昭和に大きな光を与えて下さったのである。奇しくも、その日は米国が対日講和条約発効の日でもあった。そして七五〇年をお迎えする平成十四年もあと数年で訪づれてくる。あの当時の先輩諸上人の御活動を目のあたり見て来た私達は、七〇〇年に負けまい、いやそれ以上の事業を以て祖恩に報いねばならないという気持が勃々と沸いてくるのを覚える。そして、あと五十年経た八〇〇年の時、私達の成し遂げた諸事業の跡を見聞し、または企画実行される後継者達に「五〇年前の先輩はよくやった」と云われたいものである。また私達も「後に続く者を信ず」と大見得をきりたいものである。



総本山妙満寺
釈尊より日蓮聖人に伝持された正しい佛教の法統を直受して、日什大正師が根本道場と定めた本堂。750年記念瓦募金のポスターの原画として使用する。



山田信正宗務総長

震災地援護のため募金活動

顕本法華宗も昨年三月、宗議会において「奉讃事務局」を設立するという議決をし、また今年三月までにそれぞれの分野において事業等を研究され、近く大綱が示されることになっている。

しかしその前にどうしてもやらねばならぬ大きな事業があった。それは総本山妙満寺の本堂及び付属建物一切の屋根瓦の葺き替えである。御承知の通り、総本山妙満寺は二条寺町より現在地岩倉に遷堂して三十余年を経過した。前地と現在地とでは気候変動等により瓦の損傷甚しく、（今の瓦は前地よりそのまま移動して葺いたものである）このまま放置しておくと一大事になるので、七五〇年記念事業の一つとして行なうことに決定し、奉讃会事務局の出来る前にこの大事業に執りかかった。全国宗務所長を通じて、末寺及び檀信徒にお願いをして一日も早く完成をさせようと関係者の意気込は凄かった。

その募金の最中、突如起きたのが阪神大震災であった。他の御門下もそうであるように、震災地の援護を第一として、直ちに対策本部が設立され、全国寺院檀信徒に呼びかけ、急遽震災援護金の募金運動に移った。幸いにして、各位の御努力と御理解により、昨年六月、寄せられた浄財を被災寺院及び被災地社会福祉協議会にお渡しすることが出来、援助活動は一応終りとした。

さあこれからが七五〇年記念事業の一つである瓦募金に全力を集中することが出来る。

その他、これからやらねばならない幾多の事業が出てくる。しかし私達はこれ等を検討し、出来得る範囲において行なってゆかねばならない。そして前述した様に、後年の人達に「あー、私達の先輩は、この様な事業を成し遂げてくれたのだ」と云う気持を懐かしめなければならない。

開宗七五〇年奉讃への道

記念事業と云うものは数多くの題目をならべただけではなんの役にも立たない。あくまでも実行である。実践は信仰より始まる。我が開祖日什大正師は六十八歳にして天台宗より改宗され、全国に布教されたのも信仰の顕れである。そこには御開祖の純一無雑の信仰がある。立教開宗奉讃の意義もそこにある。私達は、宗祖・開祖の芳躅をお慕い申上げつつ七五〇年の奉讃の道を進んでゆかねばならない。

かつて昭和の始め「佐藤紅緑」（サトウハチロウの父）が少年向けの雑誌に「地に爪跡を残す者」と云う題で小説を連載し、多くの少年達を沸きたたせたことがある。私達人間は地球の上に足跡を残すことは大変なことで、中々出来得るものではない、と云って何もしなければ、何も残らない。せめて爪の跡でも残したいと云うのがこの小説の大意であったと思う。

私達門下の人達は、七五〇年に向い祖恩報謝のために、爪の跡でも残してゆきたいものである。



日什大正師御霊廟

お願い

「門連だより」の継続発展のため各地のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆昨年一月十七日未明の阪神大震災に続いて、三月二十五日には東京で戦後最悪のテロ事件、オウム真理教による地下鉄サリン事件が発生した。この二つの大きな出来事は、数々の教訓を残すことになる。◆就中オウム教団によるサリン事件は、宗教界にとって衝撃的であった。新興宗教とはいえ、一宗教団体が警察・国家に対して、テロ行為を犯していたからだ。◆それにしても将来有望な若者をそこまで暴走させてしまった原因は何であろう。一口に学歴偏重による「ひずみ」と、簡単に結論づけて良いであろうか。教育機関にのみ責任転嫁させる訳にはいかない。今こそ既成宗教がこの機に立ち上がるべきではないか。◆残念な事は、オウム教団のこの一連の事件に対して、門連としての統一見解が未だに発表されていないことだ。一教祖のカリスマ性があれだけ多くの若者を魅きつけたということは、潜在的に誰でもオウム的信者に成り得るのである。◆宗教の本質とは愛と慈悲の実践である。生きとし生ける者への哀れみを注ぐことにある。宗教本来の目的を忘れてしまえば、今後既成宗教に対して風当たりが強くなるだろう。◆元検事の堀田力氏は、人間の心には元来「助け合う遺伝子が組みこまれている」と、平素から話されていた。阪神大震災では、全国から延べ二十万人もの人がボランティアに駆けつけた事でそれが証明された。心の底に眠っていた慈悲の心が、今回の大震災で甦ったのである。◆平成十四年には立教開宗七百五十年を迎える。この大事業を名実共に成就するには、日蓮大聖人の御意志に恥じぬ決意が門下全体の急務であり、僧俗が異体同心する機会でもある。（柳）

いまこそ寺宝護持を

中尾堯文
立正大学教授



一、寺宝の意義

日本の各地を旅しますと、そのあらゆる町や村に、寺院の姿を見ることができます。その多さは、到底他国の比ではないでしょう。しかも、お堂の中に安置されている仏・菩薩の木像といい、美しい仏具といい、目を見張るものがあります。

少々大げさかもしれませんが、日本の寺院は聖なる宝物で満たされている、といってよいでしょう。これを文化財の方面からいいますと、寺院は実に文化財の宝庫なのです。お堂の戸を開くと、すぐそこに由緒のある宝物がいくつもあって、容易に触れることができるというのは、世界的に見ても類例がないことといえましょう。

このことが却って寺院の閉鎖的な性格をもたらせているという、大変厳しい批判も生まれるのですが、やはり伝統の重みをズッシリと感じるのが日本の寺院といえましょう。

日蓮聖人が新しい宗派を開かれてから、もう七百五十年にもなろうとしています。この長い歴史を物語る聖物が、日蓮宗ないしは法華宗の寺院には満ちているのです。

寺院の「宝物」といえば、何百年も前の古い時代に作られた、由緒のある特別な聖物と考えられることが多いのですが、決してそうではありません。もう百年も経てば立派な宝物ですから、僧侶であり教師である私たちも、それぞれ宝物を作り出す立場にあるのです。

ですから、私たちは「寺院の歴史を語り、未来を意味づけるのが寺宝である」と、自信をもって定義することができます。「寺宝」とは特殊な聖物ではなくて、常に私たちとともにあるものといえましょう。

二、傷んだ寺宝

「日蓮宗・法華宗は新しい宗派」という誤解から、長い間その寺宝は文化財として高い評価が与えられませんでした。指定文化財があちこちによく見られるようになったのも、そんなに古いことではありません。

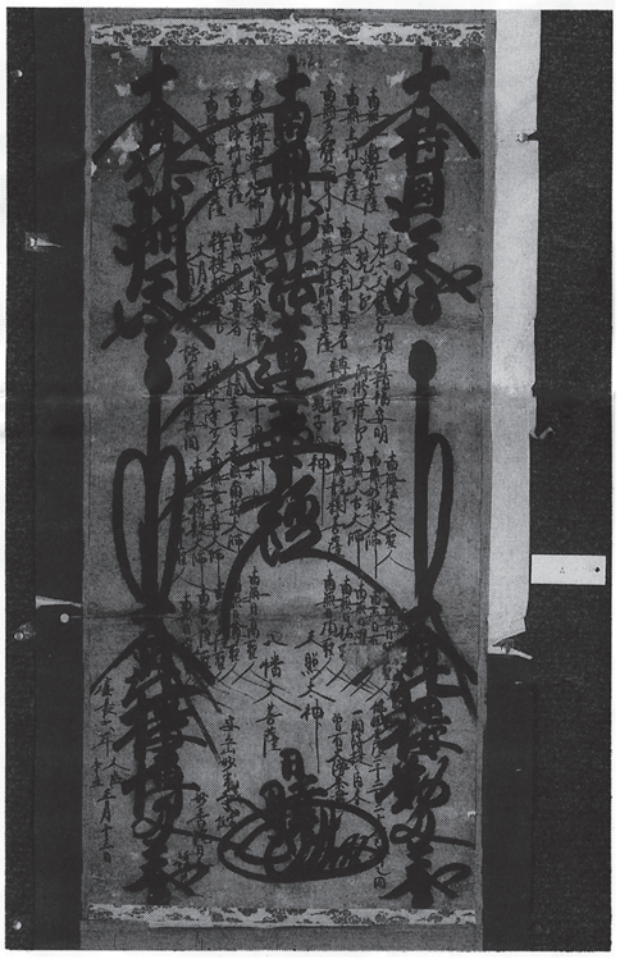
このような観念は宗門自体にもあって、宝蔵に仕舞ってあるものの他は、寺宝としてあまり顧みないという傾向が窺われます。いわば、「文化財に慣れていない」とでもいうべきでしょう。

もうひとつ注意すべき点は、特定の寺宝をあまりにも大切に考えて、「秘すべし秘すべし」と蔵の奥深く仕舞っていて、気がついた時には重大な事態になっていたというケースがあります。その反対に、団体の参詣者にたやすく拝観させるため、紙でできた宝物を、陳列棚に何か月も掛けっぱなしにしているという、困った事実があるのです。

こんなわけで、寺宝の多くは長い年代を経た、いわば老人の体のように弱くなっているのです。その上、間違った扱いをされたのでは、それこそたまったものではありません。「寺宝は傷ついている」という、厳しい現実をよく見据えなくてはならないのです。

しかも、七百年の歴史を誇る伝統教団としての宗門は、これら一寺一寺の寺宝を、法財としてしっかりと護り、後世に相続していかなくてはならないのです。伽藍の景観を整えることも必要ですが、これらの傷つける法財を永遠に護持するために、たえず整理し修理を加えることを忘れてはなりません。

日蓮聖人門下の諸教団では、全体的にみてこのような配慮が、とかくすると忘れがちになっている傾向があり、残念なことです。



日晩上人のお曼荼羅――表装は壊れてしまっている――

三、不慮の災害

平成七年は、日本にとって大変不幸な事件が、いくつも起きた年でした。寺院も相当な被害を受けました。とくに阪神大震災では、寺院の建物とともに、数多くの寺宝が失われてしまったのです。

その上、日蓮聖人ご真蹟のお曼荼羅をねらった犯罪者が、数か寺の本山を襲って宝蔵に侵入し、とうとういくつかの実害が出ました。この事件を詳しく調べてみますと、寺宝の管理に甘さがあったことがよくわかります。寺宝の護持に関するかぎりは、日蓮聖人門下の諸寺院が、他の宗派に比べて無関心な一面があるように思えます。

もうひとつ考えなくてはならないことがあります。その寺院にどのような寺宝があるかという、いわば寺宝の記録が整っていないことです。かつては、寺院の代替わりに当たって、必ず財産目録が確認されることになっていましたが、今日ではほとんど行われていません。

江戸時代には、幕府や藩の命令でしばしば寺宝の目録を提出しましたが、時代が変わってこのようなことはなくなりました。毎年夏ころに虫干しを行って、あわせて寺宝の確認をするという行事も、わずかな本山でしか例を見なくなりました。現代社会の仕組みや、宗教に対する観念の変化が、寺宝の護持にも深い影を落としているのです。

このように、寺宝の目録が整えられないままで、しかもその確認がなされていないと、深刻な事態を生じかねません。例えば、もし地震や火災などの大災害が生じた場合、いったい何が失われたのか見当がつかない恐れがあるのです。

四、寺宝

七百五十年も前に日蓮聖人が予言されたように、世相はますます末法の様相を強くしていきます。このような時に、法華経信仰の拠り所をしっかりと確認し、その長い伝統と未来への相続に想いを馳せることができるのは、豊かな寺宝あればこそではないでしょうか。

今こそ、寺宝をしっかりと護持するとともに、法財としていかに新しい生命を吹き込むかについて、真剣に考えなくてはならないのです。来たるべき開宗七百五十年は、まさにこのような願いを結実させるべき、まことに有意義な年にほかなりません。

あなたが見たこともない
風景がある。
体験したこともない
感動がある。
味わったこともない
味覚がある。
想像したこともない
出会いがある。
「ない」が「ある」旅へ
東急観光がご案内いたします。

ないが、ある旅。



豊かな感動のステージへ
東急観光
運輸大臣登録一般旅行業第38号　日本旅行業協会会員
〒153 東京都目黒区東山3-8-1東急観光大橋ビル5階 ☎03(5704)3761

21世紀へ豊かさを深める――とうきゅうグループ

■団参旅行には東急観光をご用命下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所がお待ちしております。

本社・団体誘客部
〒153 東京都目黒区東山3－8－1
電話 03－5704－3761
北海道営業本部・販売課
〒060 北海道札幌市中央区北二条西2－15
電話 011－241－0303
東北営業本部・販売課
〒980 宮城県仙台市青葉区中央1－6－18
電話 022－263－1711
(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)
関東営業本部・販売課
〒153 東京都目黒区大橋1－5－3
電話 03－5489－6777
(茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県鎌沢市・新潟県・山梨県・静岡県熱海市)
東京営業本部・販売課
〒153 東京都目黒区大橋1－5－3
電話 03－5489－6760
(東京都・神奈川県横浜市、川崎市)
中部営業本部・販売課
〒460 愛知県名古屋市中区丸の内2－17－18
電話 052－232－1721
(愛知県・富山県・石川県・福井県・長野県・静岡県静岡市、浜松市・三重県)
関西営業本部・販売課
〒541 大阪府大阪市中央区瓦町4－2－14
電話 06－226－1090
(大阪府・滋賀県・京都府・京都府福知山市・兵庫県・奈良県・和歌山県)
中四国営業本部・販売課
〒730 広島県広島市中区立町2－27
電話 082－249－0109
(広島県・鳥取県・島根県・岡山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県)
九州営業本部・販売課
〒810 福岡県福岡市中央区天神1－15－3
電話 092－712－2561
(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県)

祈

立教開宗七五〇年
奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管長　田中　日淳
宗務総長　奥邨　正寛
宗務副総長　田中　学貞
綜合企画部長　渡辺　清明
庶務部長　小倉　光雄
財務部長　星　光喩
教務部長　齋藤　邦昭

護法伝道部長　栗原　正震
立教開宗七五〇年慶讃会事務局長　新井　貫厚
現代宗教研究所長　石川　浩徳
参与　堀江　宏正
参与　白部　健順
日蓮宗新聞社社長　原　智栄

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一代
FAX 〇三(三七五一)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長　久保木日秀
宗務総長　川口　日唱
教学部長　三浦　成雄
財務部長　原井　慈鳳
庶務部長　桃井　普城
教化部長　坂巻　顕導

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五代
FAX 〇三(三九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長　吉永　日晴
宗務総長　山田　信正
宗務次長　藤崎　光学
財務部長　田島　敏義
布教部長　早川　義正
教務部長　小島　顕明
社会部長　川崎　英宗
庶務部長　島田　幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長　竹嶋　日香
宗務総長　牧野　琢成
総務部長　土屋　善敬
教学部長　都築　哲信
教化部長　金原　戒雄
財務部長　江坂　隆俊
宗務参事　竹内　敬覚

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　御牧　日勤
講尊　梶本　日裔
宗務総長　小山　日誠
宗務副総長　笹田　日昌
宗務副総長　佐藤　政司
宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六代
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀　日有
宗務総長　佐藤　智明
総務部長　眞昭
教学部長　原
財務部長　柳下　義眞
法務部長　高橋　寛承

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長　真枝　日世
宗務総長　上田　浩岳
総務部長　堀内　邦雅
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　蓑輪　渓谷
財務部長　田中　諦常

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管長　吉村　日義
宗務総長　高辺　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　山下　通雄
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話 〇七五(四五一)三五二七

宗教法人

国柱会

会長　田中　香浦
理事長　三田　道弘
副理事長　入江　克郎
門連常任理事　大橋　邦正
本部事務局長　田中　隆一

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一代
FAX 〇三(三六五五)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会長　嘉儀　日有
副会長　金山　日龍
理事長　佐藤　智明
副理事長　杉若　恵隆

京門連事務局
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八要法寺内
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

日本山妙法寺

首座　上野　行量
〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六
長老　塙　行幸
長老　石山　善邦
長老　今井　行順
東京都千代田区九段北三―二―二三

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人　今井　行順
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局　松谷　被鎧
東京都渋谷区神泉八―七

祈・立教開宗750年　奉讃円成

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

法主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

貫首　田中日淳

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

貫首　真枝日世
執事長　岩崎峻暉
執事　笹木研秀

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

貫首　吉永日晴
総務　中村通義
執事　津村乗信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
執事　小松正学

日蓮本宗本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二一七

貫首　吉村日義
執事長　飯田信栄
役職員一同

本門法華宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四五一)九三九〇

貫首　山田一光
執事長　原光司

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

貫首　竹嶋日香
執事長　真保行宣
執事　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　平井良光
執事　鈴木顕正

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

住職　二十一世講有　御牧日勤
事務局長　小倉徳治郎
信徒総代

日蓮本宗本山
要法寺
〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四五一)九三九〇

貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　佐藤智明
執事　原眞昭
執事　柳下義貞
執事　高橋寛承

日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

別当　杉山日慎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四四一)七九九七

貫首　金山日龍

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

別当　杉山日慎

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

貫首　金山日龍

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
〒607 京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

貫首　久村諦道

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成五年度随身生募集中

山主　駒野教格

日蓮宗本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

貫首　土屋学周
参与　山田完修
同　新井智清
同　加藤通雄
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝

門連時報

門連京都理事会、開かる

日蓮聖人門下連合会京都理事会、京都門下連合会との懇談会が去る十一月二十七日、京都本山本法寺を会場として開催された。午後一時金山日龍貫首御導師、杉若恵隆京都門下連合会理事長、同岩崎俊暉副理事長副導師にて法味言上の後、記念撮影、引続き宝物館にて長谷川等伯の大涅槃図を始め光悦の墨跡、日通上人の模写本、日親上人筆三大秘法抄等貴重な御宝物を拝観、金山貫首、立正大学仏教学部専任講師寺尾英智師の解説を拝聴した。

午後二時三十分より開議、奥邨正寛理事長発声にて玄題三唱挨拶の後、十月十八日御遷化された法華宗真門流宗務総長長鎌泰信師の御冥福を祈り玄題三唱。

出席者全員自己紹介の後、奥邨理事長座長となり議事進行。

議題

一、門連上半期事業報告が事務局よりなされ諒承。（幹事人事の変更、門連だより編集委員更新）

二、京門連事業報告が児玉宜海師よりなされ降誕会、開宗会、夏期大学、お会式など活発な活動が報告された。

三、地方門連活動報告については大阪門連三田村宗鳳師より報告、合同お会式、研修会などの活動報告がなされた。

北海道門連については白部健順師より未だ軌道にのった活動はなし得ないが、将来に向けての意欲が披瀝された。

次に立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件に入り、提案者大橋邦正常任理事より、法華経信仰者にスポットをあてた仮称「法華文化展」構想について説明がなされた。右展覧会構想について専門家としての立場から立正大学中尾堯文教授の提案が寺尾師より発表された。展覧会実施構想については、今後更に専門家を交えた企画の具体化をはかり、常任理事会に於て継続審議していく事となった。

午後四時半議事を滞りなく終え会場を北区「しょうざん」に移し、懇親会を行い散会した。



日蓮聖人門下連合会　京都理事会
（平成7年11月27日、於本山本法寺）

第48代日蓮宗管長に　池上本門寺　田中日淳貫首就任

平成七年十一月三十日日蓮宗宗務院で管長推戴委員会が開催され、任期満了に伴う次期管長職の推戴につき協議、その結果池上本門寺の田中日淳貫首を推戴。本門寺では参与法類会合同会議を経、十二月五日正式に推戴を受け、第四十八代日蓮宗管長に就任することとなった。

十二月二十一日、宗務院で推戴奉告式が行われ、二十五日内局を帯同し、祖廟奉告式を行った。

田中猊下は東京都大田区照栄院を経て昭和六十三年三月本門寺貫首に就任。宗門では制度研究委員、開教布教対策委員、日蓮宗綜合財団理事、宗務顧問などを歴任、本門寺執事在職中、同寺宗祖第七百遠忌報恩事業会事務局長を勤め、遠忌事業の推進に尽力された。



田中日淳貫主

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平七・四・八	藤田日浄師	法華宗本門流管長	顧問		退任
	久保木日秀師	法華宗本門流管長	顧問	就任	
五・二	本田義遠師	京門連理事長	常任理事		退任
	杉若恵隆師	京門連理事長	常任理事	就任	
六・二一	野口日桂師	法華宗陣門流管長	顧問		退任
	竹嶋日香師	法華宗陣門流管長	顧問	就任	
六・二三	田島敏義師	顕本法華宗	監査		退任
	芹澤泰謙師	法華宗本門流	監査	就任	
七・一八	永井祥文師	日蓮宗	常任理事		退任
	渡辺清明師	日蓮宗	常任理事	就任	
九・二七	金山日龍師	京門連会長		就任	
一一・一〇	信隆允忠師	本門法華宗	理事		退任
	山下通雄師	本門法華宗	理事	就任	

▼祖廟輪番奉仕

七・一〇・九～一〇　国柱会

▼御遷化

七・四・二〇　沖　鳳亀師（日蓮宗・京都門連会長）

七・二三　遠藤日護師（日蓮宗・門連顧問）

一〇・一八　長鎌泰信師（法華宗真門流宗務総長・門連理事）

▼慶弔関係法要

七・六・二三　法華宗陣門流竹嶋日香管長御入山式出席

▼事務局関係

七・八・一　柴田和延・生駒雅幸幹事退任

八・一　富川孝恭幹事就任

一〇・二七　小林正雄幹事就任

「門連だより」編集委員

日蓮宗　富川　孝恭（編集長）
山口　裕光
法華宗本門流　矢吹　慈英
顕本法華宗　大森　俊栄
法華宗陣門流　多門　顕正
鈴木　昭雄
今井　満良
本門佛立宗　深澤　泉奥
日蓮本宗　柳下　正則
法華宗真門流　吉田　勝秀
本門法華宗　斎藤　秀慈
木村　光正
国柱会　秋場　善弥
京都門連　藤井　照源
展転社　相澤　宏明

舞楽法会

橘雅友会公演
（門連より有志出演）

とき・平成8年3月6日㈬
午後6時開場
ところ・国立劇場（小劇場）
入場料・四〇〇〇円

豪華本

日蓮聖人傳繪巻

日蓮宗総本山身延山久遠寺蔵

全カラー頁　定価20,000円

立教開宗750に向け完成
植中直齋入魂の聖人絵巻

絵：植中　直齋
書：藤井　教雄・小池　英淳

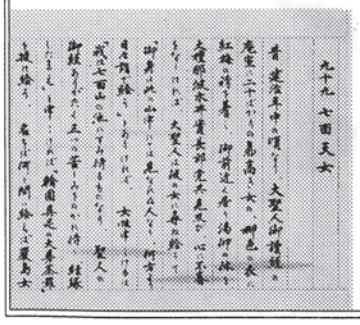


久遠寺総務
藤井教雄師

かつて、日蓮宗の教学に心を潜めた植中直斎画伯との邂逅は、誠に幸いであった。風物描写から歴史画へ、さらに修学による日蓮聖人の生涯を脳裡に収めての丹精をつくした一一八画面の絵巻。

みずからが起草した詞書には、同学小池英淳師の染毫を加え、ここに古筆学の第一人者小松茂美博士並びに神崎充晴氏の助力のもと、「日蓮聖人伝絵巻」全36巻の新装完成。先考日静上人と二代にわたる精誠善根を、ここに結実する。

このたび絵巻完成を記念して、図録の一本を編み、宗祖の遺徳を偲び奉るよすがとして、世に送る次第。広く江湖の清鑑を望むところである。



編者：文学博士　小松茂美
監修：身延山久遠寺
発行：(株)日蓮宗新聞社
編集協力：古筆学研究所

体裁・内容
B4判変型／布装上製本／貼箱入り／保護函入り豪華本／オールカラー総214ページ（図版・詞書・縁起・解説・訳文付）内容見本送呈

ご注文は
(株)日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
TEL03-3755-5271・FAX03-3753-7028

(株)せいしん
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延4252
TEL05566-2-3033・FAX05566-2-1033



各派・教団 短信

顕本法華宗

◆3月5日～6日、定期宗会。平成7年度予算、総本山妙満寺瓦募金、立教開宗七五〇年記念事業、阪神・淡路大震災義援金等について承認された。

◆5月13日～14日、総本山妙満寺では、恒例の春季大法要が奉行された。本年はとくに、13日午前10時から、阪神・淡路大震災殉難の方々の追悼法要が行われ、14日午後1時より、終戦五十周年戦没者追悼法要が吉永日晴猊下大導師のもと厳修された。

◆7月21日～8月3日、妙塔檀林が総本山妙満寺に於いて開講された。

◆7月24日～27日、顕本少年錬成会橘会錬成会を総本山妙満寺を会場に全国より80名余の青少年が参加。

◆10月19日、東部僧員布教研修会。

◆11月16日、西部僧員布教研修会。「新々宗教について」講師に国学院大学日本文化研究所教授井上順孝先生を招いて開催。（大森俊栄）

日蓮本宗

◆平成6年5月8日、本山要法寺御開山日尊上人第六百五十遠忌大法要が厳修された。その折全国末寺檀信徒から申し込まれた六千余霊の法号を記載した大霊簿（祥月命日ごとに各霊が記載されたもの）と併せて、宗門の永年の念願でもあった富谷日震上人著の『本宗史綱』の復刻版が御宝前に奉納された。

◆平成7年7月10日を以て任期満了となる佐藤宗務総長は、かねてより退任の意志表示を示していたが、本年2月21日開催の第六十回定期宗会門末会に於いて再任を要請する声が強く、議会の総意を以て再任された。

以下新当局は次の通り、

日蓮本宗宗務総長　佐藤智明師
本山要法寺執事長　原　真昭師
日蓮本宗総務兼教学部長
本山要法寺執事　日蓮本宗財務部長　柳下義真師
本山要法寺執事　日蓮本宗法務部長　高橋寛承師
本山要法寺執事

なお門末会議員・本山総代・各教区宗務所長等の任期も8月末を以て満了となり、それぞれ新人事が決定した。

◆御開山日尊上人第六百五十遠忌記念事業として推進されてきた本堂・開山堂大屋根全面修復工事（平成四年完工）に引き続き、本年当初から客殿・大書院・庫裏等の全面改築工事が着工され、平成7年11月30日に上棟式を終えて、愈々翌平成8年7月には完工、来る同年10月13日御大会法要と併修した落慶法要を迎えるまでに至る。

◆今次大戦の最大の被災地である広島・長崎において、平成7年戦後五十周年を祈念する世界恒久平和・万国殉難者慰霊法要が、6月19～21日の日程で僧俗合わせて百余名の参加者を得て奉修された。（柳下正則）

法華宗真門流

◆2月、布教師会、教区所長会開催。4月、学林開講。6月、教学講習会開催。8月、北海道学林、本山講習会開講。9月、各教区講演会開催（檀信徒のつどい）10月、初轉法輪挙式（会式の砌）。

◆10月18日、長鎌泰信宗務総長遷化。12月、定期宗会、後任総長推薦。

◆平成8年1月、内局発足。

法華宗陣門流

◆総本山本成寺祠堂大法要（5月27～29日）が厳修された。1日目、御歴代法要に引き続き陣師講。2日目、永代祠堂霊位・納骨霊位追善法要、寂光殿法要、終了後に米寿表彰。3日目、戦没者追悼法要、世界平和・交通安全祈願の法要、終了後に野口日桂猊下御退山式が厳修された。

◆御退山式では、法灯相続の証を御返還なされ、今年は天災・人災が続く最近の世情にふれ「『一天四海皆帰妙法』の国家を作って頂きたく、我々宗門も努力しなければならない」と力強く話された。

◆6月21日本成寺第八十五世、竹嶋日香猊下の御昇山式が厳修された。法灯相続の儀終了後、本堂に於いて歓迎式が行なわれ、真枝管長猊下・山田総長・奥邨総長を始め本宗宗会議長・教区所長・本山総代等が御祝いの辞を述べた。最後に対面の間に於いて、屠蘇の儀が行なわれ、新貫首猊下誕生となった。

◆宗務院に於いて11月28日布教研究所所員会、12月29日・30日新住職・学生・沙弥合同研修会、12月1日昇級検定試験、今年最後の行事が無事終了した。（鈴木昭雄）

本門佛立宗

◆年頭に佛立第二十一世講有・御牧日勤上人より「年頭のことば」が全国の同信教講に発せられ、同時に小山日誠宗務総長から「平成8年度の宗務方針」が発表された。

◆平成8年は、佛立宗として『高祖日蓮大士立教開宗七百五十年・報恩御奉公スタートの年』と位置づけ、宗門活性化と弘通意欲の向上を計るため宗門改革に取り組み、来る平成14年までに、七万五千人の報恩教化を成就させて頂く旨の誓願を立てた。

◆昨年12月7日、滋賀県今津町にて「佛立センター開発造成の起工式」が、今津町等関係者参列のもと、執行された。

◆佛立研究所では昨年、門祖日隆大聖人の「本門戒体見聞（略称・三帖抄）」「佛立研究学報・第4号」をそれぞれ刊行した。

◆来る3月4日には「第五回佛立研究所・研究発表大会」が、3月5日～6日には「中央教師研修会」が、京都本山並びに宗務本庁にて開催される。

◆5月には、本門佛立宗ハワイ別院が開設二十周年にあたり、御講有・御牧日勤上人、ハワイ別院開設功労者・権大僧正長谷川日序上人など、有縁の教講参列のもと、現地にて記念式典が営まれる予定。

◆佛立教学院が本年4月より2年制になり、教師教育に本格的に力を入れるとの事。（深澤泉奥）

本門法華宗

◆阪神淡路大震災では、翌日、震災対策本部を設置、各方面との連絡や情報につとめた。全国門末寺院に対し災害義援金を募り、集まった義援金を当宗の被災された地区の寺院に送り、今後の復興を祈念した。大本山妙蓮寺に於いて行われる各法要には、震災で亡くなられた方の追善回向がなされた。平成7年4月12日、春の大法要には、一座阪神淡路地区大震災物故者法要が奉修された。全国の門末寺院に於いても、諸団体を通じ義援金を送付、また近畿地区の若手僧侶により、炊き出し活動、被災地域への唱題行など現地のボランティアとして活動した。

◆大本山妙蓮寺にて、10月12、13の両日御会式奉修。12日お逮夜には奉納コンサート。又、天明大火（一七八八年）以来という万燈会が復活。有名無名の画家に奉納を願い、二百を超える万燈が本堂回廊に点灯された。境内での「手作り市」「野菜即売会」など約50店のフリーマーケットには、近隣の人々の多くが集い賑わった。これ以後毎月12日にフリーマーケット「西陣楽市楽座桃山文化村」を実施。

◆平成5年の夏に発見された約四千巻の一切経については、立正大学中尾堯文教授を中心にした調査団が度々妙蓮寺に来山。目録調査が完了し、後にマイクロフィルムに収録巻を整える予定で作業が進められている。文化庁の調査を受け、修復作業が完了するまでには、相当な年月が予想されるが、平安時代の貴重な調査資料であるために、作業は慎重に進められている。

◆昨年5月に宗祖日蓮聖人真筆曼荼羅等の盗難事件があった、妙蓮寺の宝物館で補強改修工事着工式が10月16日とり行なわれた。文化庁の指導による防犯強化工事。（木村光正）

法華宗本門流

◆昨年1月17日早暁に起こった阪神・淡路大震災では、甚大な被害を蒙った。本門流は京阪神淡地区に宗内寺院の約1／3が集中しているため、犠牲となった檀信徒七十九名、全壊半壊を含む被災寺院教会は七十ヶ所以上となった。これに対し、宗門は災害対策本部を設置して、復旧支援と義援金勧募活動を展開し、その結果、壱億円を超す義援金が寄せられ、日赤等の公共機関及び宗内の被災寺院宛に義援金をおくった。本年1月16日には、尼崎・大本山本興寺において一周忌追悼法要が奉修された。

◆戦時下の昭和16年「曼荼羅国神不敬事件」として、当時宗門の要路にあった五人の先師が検束された。このうち苅谷日任・株橋諦秀の両学林教授は起訴されるに至り、四年半に及ぶ法廷闘争の末、大阪控訴院において免訴の判決が下り、青天白日の身となったのが昭和20年10月24日であった。これより50年。この日は法華宗真俗にとって〈御法門を護り貫いた日〉として顕彰され、昨秋10月24日、京都・大本山本能寺において「法華宗昭和法難免訴五十周年」を記念して、先師の御法労を偲ぶ報恩法要、併せて開宗七五〇奉讃事業圓成祈願法要を宗門主催により虔修し、記念講演の後に会場を、値難の上人が籠山結界の修行をなされた比叡山無動寺谷・玉照院に移して唱題行を行った。

◆古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）の平成8年度新入生募集中。（矢吹慈英）

日蓮宗

◆平成7年4月12日、終戦五十周年沖縄宗門法要が奥邨宗務総長御導師のもと、僧俗五千人により厳修された。

◆平成7年10月17日、横川定光院に於いて宗門史跡指定日目蓮聖人銅像建立七十周年宗門法要が奉行され、約五百人の僧俗が参詣した。

◆平成7年12月21日、第四十七代日蓮宗岩間日勇管長猊下任期満了による御勇退により、第四十八代日蓮宗管長に池上本門寺貫主田中日淳猊下が就任され、日蓮宗宗務院において管長推戴式が行われ、12月26日、身延山に於いて、祖廟奉告式を行った。

◆平成7年4月25日、阪神大震災物故者百箇日追善法要を厳修し、平成8年1月17日、一周忌慰霊法要を二千五百人の僧侶遺族・関係者により厳修された。（富川孝恭）

国柱会

◆国柱会創業百十年（平成6年11月記念大会）記念事業として『日蓮主義教学大観』復刊（全五巻、頒価四八〇〇〇円）。◆平成7年4月28～29日、第六十五回身延登詣団。◆5月23～26日、仏教伝来謝恩碑参拝国柱会訪韓団。◆毎月、例月供養会式後、御聖日回向文講義。◆6月25日、札幌で真世界文化講演会。田中会長講演。◆機関誌『真世界』8月号特集「大東亜戦争と終戦五十年」の施本運動。◆9月26日、国立能楽堂で田中智学作の能「後の羽衣」と狂言上演。◆10月9～10日、第31回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。御門下を代表し田中香浦団長以下、昼夜不断の唱題ご給仕。◆10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。◆11月3日、近畿地方連合号で桃山御陵参拝団。◆11月16～17日、恩師田中智学先生第五十七回忌報恩大会。◆11月18～19日、国柱会定例協議員会。◆11月、『日蓮主義研究』第18号発行。◆平成5年開始の「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となっている国民ネットワーク準備会が企画協力して、5月19日、「戦後五十年記念シンポジウム」を開催。◆田中智学門下青年協議会では鎌倉と土浦で研修会。（秋場善彌）

京都門連

◆平成七年度会務行事。◆1月27日理事会。於大本山妙顕寺。◆2月16日総会。於大本山妙顕寺。降誕会。於大本山妙顕寺。導師・本山本法寺貫首金山寛成猊下、講師・総本山本隆寺貫主真枝日世猊下。◆3月9日理事会。本山本法寺。◆4月28日開宗会。於比叡山大講堂。導師・本山立本寺貫主藤田佳正猊下、講師・本山要法寺執事長佐藤智明僧正。◆5月31日理事会。於本能寺会館。◆8月30日夏季大学。於本能寺会館。金山寛成（本山）、小野文洸（大学）、嵐圭史（一般）の各氏が講師を奉行。◆8月30日理事会。於本能寺会館。◆10月5日奉行委員会。於本山妙傳寺。◆10月7日御会式。於本山妙傳寺。導師・本山妙傳寺貫主三谷恵遠猊下、講師・総本山本隆寺貫主真枝日世猊下。◆11月9日理事会。於NTT鴨川荘。◆11月27日全門京都理事会。於本山本法寺。◆12月14日理事会。於本能寺会館。

（藤井照源）

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん

流通文

るつうぶん

＊第十二号は平成五年二月十六日に発刊されましたが、その後十三号の発刊が遅れに遅れ誠に申訳なくお詫び致します。次号からは遅れないよう富川新編集長を中心に編集委員一丸となって努力致し度決意を固めています故、ご協力ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。＊かけがえのない宗宝の格護は重要な問題であり、昨今の盗難のニュースは心が痛みます。ご門下共通の問題として、立正大学の中尾堯文先生にご執筆頂きました。＊今年は、宮沢賢治生誕百年にあたり、各地でイベントが企画されています。賢治の活動は、法華経の教理、本仏の慈悲、日蓮聖人のみ教えのお取次ぎにあったことは『法華経』贈呈の遺言や辞世の歌にも明らかです。彼の志を活かすためにも信仰の原点を探求し明らかにしなければと思います。（秋）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成8年7月1日
第14号

開宗七五〇年を迎えて

リレー提言④

法華宗陣門流宗務総長
牧野　琢成

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

様々な相違を乗り越えて

来る平成十四年は日蓮大聖人開宗七五〇年に相当することは、数年前より熟知し、それに対して、大聖人に御報恩の誠を捧げねばならぬと思考して居りましたし、この思いは門下連合会加盟の各宗御当局の方々も同じであると考えます。

しかし各宗夫々に、その創立・歴史・教義・規模等々に相違があり、その対応も又いろいろであると考えます。吾が陣門流におきましても、御報恩の意志はあってもその前に行うべきことが山積して居り、それをクリアーしてから、と云う意味から一つずつ解決して行くべく、宗門自体を団結して行動させる様努力して居ります。

現在当面して居る問題は、明年に迫った、総本山本成寺開創七〇〇年を如何にしてその大法要記念事業等を実施円成させるかに腐心して居ります。

数年前より開創七〇〇年奉讃会を組織し、門末寺院一体となって、その基本となり推進の母体となる募金に、調査に、研究に、啓蒙にと活動して居ります。総本山開創の先師日印上人（吾が宗で日朗・日陣上人と共に三師と称する先師のお一人）に対する御報恩は、大聖人に対する御報恩にも通ずると考え、根本道場とする総本山の整備充実に力を注いで居ります。



法華宗陣門流総本山本成寺山門（修復後）

しかし開創七〇〇年関連事業を実施中に昨年の阪神大震災が起こり、幸いにも吾が宗は関西地区に寺院が少ない為、その被害は他宗に較べ僅少ではありましたが、募金の勧募、被災寺院の援護等々、相当の影響を蒙りました。


東京別院本妙寺


俎板岩海中調査（伊東靈跡別院蓮着寺）

時あたかも総本山の山門が県の文化財に指定され、今回の目玉であったその修復工事にいろいろと面倒な指示がありましたが、現在それ等も克服し、着々と完成に向って進んで居ります。

大勇猛心を以て尽力精進して行くこと


牧野琢成宗務総長

自分の事のみを申し述べた如き感が致しますが、本宗の僧侶、檀信徒一同、大聖人に対する信仰心・御報恩の心は強固でありますし、各寺院を単位とした布教・教化も人後におちるものではないと確信して居ります。

事業は日蓮聖人劇、日蓮聖人展、オラトリオ日蓮聖人、日蓮聖人門下青年の船と、いずれも対外的な接点をもった意義深い事業であったと拝察致します。

このようなエネルギーが門下連合の下に奔出し、大きな成果を結実させた事実は、今日門下連合会を背負う私共にとりましても、大きな励みであり、誇りであります。

立教開宗七五〇年を目睫（もくしょう）にし、改めて先師の御努力に思いをいたし、新たな門下連合の展開に向け、共に手をたずさえて進んでまいりたいと願います。

お願い

「門連だより」の継続発展のため各地のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

理事長就任御挨拶

日蓮聖人門下
連合会理事長　永井祥文



不肖、今般門下連合会理事長の御推薦を得、理事長の重責を負うこととなりました。今後門下連合会の運営発展に微力を傾注いたす所存であります。

門下連合会は大聖人の御理想実現の為、祖廟を中心として門下各派及び教団、並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的として組織されております。

過去の輝かしい歴史は先年本会より刊行されました『日蓮聖人門下連合会30年の歩み』によって窺知（きち）することができますが、先師の熱血溢れる御活動の軌跡は永く門下に記憶される事と存じます。

特に日蓮聖人七〇〇遠忌報恩記念事業は日蓮聖人劇、日蓮聖人展、オラトリオ日蓮聖人、日蓮聖人門下青年の船と、いずれも対外的な接点をもった意義深い事業であったと拝察致します。

このようなエネルギーが門下連合の下に奔出し、大きな成果を結実させた事実は、今日門下連合会を背負う私共にとりましても、大きな励みであり、誇りであります。

立教開宗七五〇年を目睫（もくしょう）にし、改めて先師の御努力に思いをいたし、新たな門下連合の展開に向け、共に手をたずさえて進んでまいりたいと願います。

従地涌出

◆昔から「嘘（ウソ）つきは泥棒の始まり」などといわれてきた。しかし人間はウソつきの動物である。生き物の中で一番ウソつきのようである。かくいう小生も今までに多くのウソをついてきた。またたくさんのウソもつかれてきた。殊のほか日本人はその癖を持っているらしい。◆現在放映中のNHK朝の連続テレビ小説「ひまわり」の舞台である南田家もウソをつかないことを庭訓としているが、今さらと思うこともある。しかし、今こそウソをつかない人間作りをアッピールすることが急務なのかも知れない。◆麻原彰晃をはじめとする一部のオウム教の被告たち、高速増殖炉もんじゅ事件、HIV薬害エイズ訴訟、TBS「坂本ビデオ」問題、住専国会参考人答弁、どれをとっても最近の話題はウソで固めた話ばかりであり、ウソの上塗りは心痛むことばかりである。◆我が胸に手をあてて考えてみるに、稀薄な信心を強盛なものに、未信者を篤信者に、同信の信徒誘引にと、布教教化活動に従事する私どもは、決してその轍を踏んではいけない。◆俗には「嘘も方便」という言葉もある。〈方便〉とは、衆生を教え導く巧みな手段（手だて）であり、真実の教法に誘い入れるために仮に設けた教えであって、一般には目的のために利用する便宜の手段をいう。しかし決して望ましいことではないだろう。なぜならば、我らが高祖日蓮大聖人は「正直に方便を捨てて、但法華経を信じ、南無妙法蓮華経と唱うる人は、煩悩・業・苦の三道は法身・般若・解脱の三徳と転じ、三観三諦即一心に顕れ、其の人所住の処は常寂光土なり…」とご指南されているではないか。今一度乞御拝読。　（丈）

日蓮聖人ご真蹟の護持を願う

立正大学教授　中尾　堯　文

一、ご真蹟を護持する意義

日本の仏教史をひもとくと、伝道のために身を挺した数多くの名僧が、光り輝きながら姿を現す。その中で、ひときわ高く日蓮聖人のお姿がある。

日蓮聖人について語る時、最も注目されるべきことの一つに、聖人みずから筆をとって認められた実に多様な書が、驚くほど大量に伝えられている点がある。万巻の書をひもといて、大部の書を著した僧侶は数多くいる。数多の経典を読んで訓点をつけ、注釈を施して後世に伝えた僧もまた多い。けれども、日蓮聖人のように、法華経を広めるための激しい伝道を続けながら、その折々に数多の書を著し、しかもその多くが今日に伝わっていることは、誠に瞳目すべき事実である。

日蓮聖人の法灯を継ぐ私たちが、常々「ご真蹟」と呼んで神聖視しているのは、これら聖人の直筆全体のことである。考えてみれば、私たちがいつも拝読している聖人のご文章は、本来はすべてご真蹟であったはずである。けれども七百年という長い年月のうちに、その一巻全部が災害で失われてしまったり、一部分が紛失してしまったりして、ずいぶん姿を消してしまった。このため、日蓮聖人の直筆の部分が確実に現存するものを、とくに「ご真蹟」と呼ぶことにしている。「ご真蹟」は、この他にもいろいろと呼び名があるが、日蓮聖人の場合はとくにこの名称を用いることにする。

幸いなことに、ご真蹟を現物や写真で拝読し続けるのが、私の日常の研究生活である。久遠の釈迦牟尼仏と現世の衆生を結びつけるのが「法華経」であるように、日蓮聖人と私たちを確実につなぐのはご真蹟であるから、「幸いなことに」とわざわざ枕詞を使う程の喜びがある。しかも、ご真蹟そのものに接した時は格別で、日蓮聖人の息づかいまではっきりと聞こえてくるようである。ご真蹟が、長い歴史を通じて現代に相続されてきたのは、このような感激があればこそである。

ところが、親しくご真蹟に接する度に、深く心を痛めることがしばしばである。巻子本や軸装の形で伝来するご真蹟は、長い間の不適切な取扱いと保存によって、憂慮すべき状態にあることが誠に多いからである。ご真蹟の大半には、歳月の経過と共に弱くなってしまった紙本を、大事に表装して後世に伝えようと努力した跡が見られるが、もう何百年も手を加えずにおいたために、限界が来てしまってどうにもならない状態になっている。最近修理された数例を除いては、ほとんどがこのような状態で、修理も二の次三の次にされているのが現状であろう。ご真蹟を確実に後世に伝えることが、現在の私たちに課せられた最も大きい使命といっても過言ではなかろう。

二、「虫干し」のすすめ

七百年以上の歳月を超えて伝わったご真蹟を、確実に後世に伝えるためには、解決すべき問題があまりにも多い。日本の風土は高温多湿であるから、紙に書かれた文書や典籍などの文化財は、虫害や水損によって想像以上の実害を引き起こす恐れがある。しかもこれらの害は急激なものではなく、どことなく忍び寄ってくるので、気がついた時には抜き差しならない状況に追い込まれているという有様である。

ご真蹟を確実に護持するために、広く寺院で行われてきた伝統的な方法は、毎年一度、湿度が低く乾燥した日を選んで、「虫干し」を実施することである。本堂や書院・庫裏など所定の場所に、ご真蹟をはじめとする寺宝を広げて清らかな風を通すと共に、寺宝に痛みや紛失したものが無いかどうかを確認する。寺宝を入れた箱や長持も、きれいに掃除した上で陰干しして虫や水分を追い払ってしまう。つい先年まで各本山で行われていたことであるが、今日では数カ寺の例外を除いては、なぜかほとんど行われなくなってしまった。布教のためにも、ぜひとも復活すべき行事である。

虫干しを行う時にも、ご宝物の取扱いには十分な注意を払うことが必要で、けっしてこれを不用意に扱ってはならない。とくに軸装本については、広げる時も納める時も、矢筈を用いて静かに作業を行うことが要求される。巻子本の取扱いも意外にむづかしく、これらを厳密に身につけようとするには、実際に手を取って習うことが必要で、とても文章で述べつくせるものではない。博物館などで講習会がある時にはぜひとも参加して習熟すべきであるし、寺宝の修理を完了した場合には、その取扱い方や護持の仕方などを経師の方から詳しく教えてもらうべきである。日蓮宗でも、取扱い方についての講習会を、しばしば実施する方針が立てられているようである。

寺宝を虫干しする場合、強い風があると損傷の危険が生まれるので、襖や屏風などによってほんの微風程度に調整し、太陽光線が直接に当たって紫外線の影響を受けないように注意する。また紐が切れたり表装が壊れたものは、傷がこれ以上進行しないように掲げることを中止すべきであろう。寺宝の現在にみる状態については、専門家の判断を十分に聞くべきで、自家の都合で悪条件を無視して公開を強行することは、厳に戒めなくてはならない。寺宝は一カ寺一個人のものではなく、日蓮聖人門下全ての法財であるからである。

この行事の中で十分に注意を払わなくてはならないことは、盗難や破損というような人為的な不祥事である。とくに見張りを立てるというのは、その雰囲気から見て判断する必要があろうが、参詣の人々にご宝物の説明をしながら、会場全体の様子をしっかりと把握して、絶対に事故が起こらないようにしなくてはならない。もし不祥事が起こったら、取り返しのつかない状況になることは言うまでもない。

虫干しが終わると元の箱に仕舞うのであるが、この箱が不完全であれば保存に適切とはいえない。箱についてみれば、時代劇によく現れる「印籠」と同じ形の蓋をもつ、いわゆる「印籠箱」が最適で、材質は桐材が最良とされている。しかし、箱の造りが大切で、外気の影響を受けにくい頑丈な構造のものが要求され、これを軽視することは許されない。その箱を納める「長持」は、中のものを出し入れする時に余裕があるように、内容物がゆったりと入るような大型のものが望まれる。

箱や長持の中には、ホコリや虫の糞などがないように、きれいに掃除しておかなくてはならない。とくに虫については、ちょっと見ただけでは発見できないような、微小なものがホコリの中にひそんでいる恐れがある。殺虫剤が箱の角にコビリついていると、入れ替えの時に品種の異なる薬品が化学反応を起こして、その結晶が寺宝を汚して台なしにしてしまう恐れがあるので、きれいに取り除いておく必要がある。

高温多湿の日本の気候条件は、ご真蹟をはじめとする紙に書かれた寺宝の護持に、決してよい影響を与えるものではない。にもかかわらず、これらの文化財が長い歴史を超えて命脈を保ち、今日まで立派に伝えられてきたのは、先人の並々ならぬ努力があってのことである。今こそ、ご真蹟を護持するための方策を、伝統を踏まえながらしっかりと打ち立てなくてはならないのである。

三、ご真蹟の修理を考える

日蓮聖人門下の諸教団が、大きな使命感と豊かな財力をもって、ご真蹟をはじめとする寺宝を修理したのは、三百年も昔の江戸時代初期のことである。ご宝物の奥書や紙背に記された修理についての記事（修理銘）には、十六世紀から十七世紀にかけての年号をよく見いだすことができる。このように驚くほど長期間にわたって修理を加えないまま伝来したので、ご真蹟そのものも施された表装もずいぶん弱くなっていて、保存の限度に来ているのが大半である。

日蓮聖人門下の諸寺院で、かつて広く行われていた寺宝の虫干し行事が、近年になってあまり見られなくなったことを先に指摘した。その理由のひとつには、寺院での人手や経費の不足があるようであるが、ご真蹟をはじめとする多くの寺宝が見る目も痛ましいほど傷ついてしまったことも原因であろう。軸装のひもが切れてしまってかけられなくなったり、ひどいのは表装がはがれ本紙に亀裂が走っていたりする。残念なことであるが、こうなったら一日も早くこれを修理しなくてはならない。

軸装にしても巻子本にしても、これを本格的に修理するには、高額の出費を覚悟する必要がある。しかし日蓮聖人の門下にとって、ご真蹟は他にかけがえのない聖物であるから、いわば国宝や重要文化財級の修理を立派に施さなくてはならない。にもかかわらずこれを安直に修理してしまうと、出来上がった時点ではどんなに立派に見えても、時間がたつにしたがって経費節約の結果が歴然として現れる。日蓮宗宗務院では、ご真蹟の修理について「日本装潢（そうこう）師連盟」に所属する経師屋を紹介しているし、各地の公立博物館や自治体の文化財保護担当部署では、責任をもって修理についての指導を行っているので、必ず相談した上で実施することが要請される。

せっかく修理したご宝物も、その後の扱いが間違っていると、かえって害をもたらすことになる。莫大な費用をかけて修理した寺宝は、理にかなった護持の仕方で、大事に後世に伝えなくてはならないし、それは門下の僧侶としての大事な責務に外ならない。

日蓮聖人門下の諸教団は、あと数年で立教開宗七百五十年を迎える。この意義深い年を記念して「ご真蹟の護持」を強く打ち出されることは、誠に時宜を得た快挙に外ならない。聖人門下の諸教団の枠を越え、協力して「ご真蹟の護持」の方策を立てるべきことを念願してやまない。

「立教開宗750年」
旅、こころ
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、
旅のことならなんでもそろっています。
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
旅する人の気持ちで……JTB
JTB
For Your TraveLife
素敵な「旅」をご提案します。
日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

祈
立教開宗七五〇年
奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管長　田中　日淳
宗務総長　永井　祥文
宗務副総長　岩間　湛正
綜合企画部長　渡辺　清明
庶務部長　栗原　正震
財務部長　星　光喩
教務部長　齋藤　邦昭

護法伝道部長　小倉　光雄
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　新井　貫厚
現代宗教研究所長　石川　浩徳
国際開教室長　上田　尚正
人権対策室長　大乗　文延
参与　堀江　宏正
参与　浅井　玄裕
日蓮宗新聞社社長　三坂　恵人

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長　和田　日攝
宗務総長　川口　日唱
教学部長　三浦　成雄
財務部長　原井　慈鳳
庶務部長　桃井　晋城
教化部長　坂巻　顕導

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長　吉永　日晴
宗務総長　山田　信正
宗務次長　藤崎　広学
財務部長　田島　敏義
布教部長　早川　義正
教務部長　小島　顕明
社会部長　川崎　英宗
庶務部長　島田　幸晴

社会部長　川崎　英宗
庶務部長　島田　幸晴
主事　湯原　純勇
　　阿曽　久成
　　津村　乗信
　　小松　正学

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長　竹嶋　日香
宗務総長　牧野　琢成
総務部長　土屋　善敬
教学部長　都築　哲信
教化部長　金原　戒雄
財務部長　江坂　隆俊
宗務参事　竹内　敬覚

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　井上　日慶
講尊　梶本　日裔
宗務総長　小山　日誠
宗務副総長　笹田　日昌
宗務副総長　佐藤　政司
　　宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀　日有
宗務総長　佐藤　智明
総務部長　原　眞昭
教学部長
財務部長　柳下　義眞
法務部長　高橋　寛承

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長　真枝　日世
宗務総長　上田　浩岳
総務部長　堀内　邦雅
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　養輪　渓谷
財務部長　田中　諦常

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管長　吉村　日義
宗務総長　高辺　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　山下　通雄
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一一)三五二七

京都日蓮聖人門下連合会

会長　嘉儀　日有
副会長　金山　日龍
理事長　佐藤　智明
副理事長　杉若　恵隆

京門連事務局
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八要法寺内
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

宗教法人
国柱会

会長　田中　香浦
理事長　三田　道弘
副理事長　入江　克郎
門連常任理事　大橋　邦正
本部事務局長　田中　隆一

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

日本山妙法寺

首座　上野　行量
長老　塙　行幸
長老　石山　善邦
　　今井　行順

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六
東京都千代田区九段北三―二―二三
日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局
　　松谷　被鎧
東京都渋谷区神泉八―七



祈・立教開宗七五〇年　奉讃円成

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

主　岩間日勇
務　藤井教雄
役職員一同

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

貫首　真枝日世
執事長　岩崎峻暉
執事　笹木研秀

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三一一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

貫首　田中日淳

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七

貫首　吉村日義
執事長　飯田信栄
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

首　吉永日晴
務　中村通義
事　津村乗信
事　安東靖弘
事　山本晃道
事　小松正学

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

首　竹嶋日香
執事長　真保行宣
事　西山英仁
事　平井良光
事　鈴木顕正
事　栗田孝之

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

別当　杉山日慎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 〇七五(四五一)三五二一

貫首　山田一光
執事長　原光司

日蓮本宗本山
要法寺
〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四五一)九三九〇

貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　佐藤智明
執事　原眞昭
執事　柳下義貞
執事　高橋寛承

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

住職二十一世隠宥　井上日慶
事務局長　小倉徳治郎
信徒総代

日蓮宗大本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

貫首　片山日幹
執事長　田中慈潮

日蓮宗大本山
本圀寺
〒607 京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一

貫首　久村諦道

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡

山主　駒野教格

〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成八年度随身生募集中

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三

貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七

貫首　金山日龍

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成八年度随身生募集中

山主　駒野教格

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

貫首　土屋学周
参与　山田完修
同　新井智清
同　加藤通雄
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝

門連時報

身延祖廟参詣・理事会開催さる

平成八年六月十七日(月)、恒例の日蓮聖人門下連合会各派代表による身延祖廟参詣、身延理事会が行われた。

午後二時祖廟輪番奉仕所に参集した各派理事、常任理事の二十名は日蓮宗永井祥文宗務総長を先頭に行列を組み唱題の内にまず御草庵跡に法時言上往時の大聖人を偲び奉った。

祖廟に進んだ一行は永井祥文理事導師の下御自我偈、唱題を棒げ、異体同心の誓いを新たにした。

下部ホテルに移動、午後三時より理事会を開催。出席者全員自己紹介の後、開議、渡辺清明常任理事座長となってまず理事長推薦の件を諮り全員一致、日蓮宗理事、永井祥文師を理事長に推薦決定した。

永井理事長就任挨拶の後座長となって議事進行。事業報告、平成七年度決算の件をそれぞれ承認、平成八年度予算の件は昭和六十二年度から据置きとなっていた各派分担金八万円を二万円値上げ、十万円とする事を決定、機関誌「門連だより」の定期刊行、また七五〇事業の企画調査費二十万円など総額二、六四四、九六六円の予算が承認された。

地方門連活動に関しては大阪日蓮聖人門下懇話会の活動報告が三田村宗鳳師より、京都日蓮聖人門下連合会報告が杉若恵隆理事より報告された。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関しては、京都理事会以来専門委員の日蓮聖人展に関する東京博物館側との交渉経緯を始め、企画内容に関し、大橋理事、中尾堯文師より発表があったが、予算を伴う企画でもあり、尚常任理事会に諮りながら慎重に企画を推進することが申しあわされた。

滞りなく会議を終え、午後六時よりなごやかに懇親会が行われ一泊、翌朝食後散会となった。



門下連合会　祖廟参詣　身延理事会（平成8年6月17日）

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平七・三・二一	岩間日勇師	日蓮宗管長	顧問		退任
	田中日淳師	日蓮宗管長	顧問	就任	
平八・一・一	金山日龍師	京門連会長	常任理事		退任
	杉若恵隆師	京門連理事長	理事		退任
	岩崎峻暉師	京門連副理事長			退任
	嘉儀日有師	京門連会長	常任理事	就任	
	佐藤智明師	京門連理事長	理事	就任	
	杉若恵隆師	京門連副理事長	常任理事	就任	
	藤崎広学師	顕本法華宗	理事	就任	
	田島敏義師	顕本法華宗	理事		
一・二七	吉田勝秀師	法華宗真門流	常任理事		
	岩崎峻暉師	法華宗真門流	理事		
	上田浩岳師	法華宗真門流総長	常任理事		
	堀内邦雅師	法華宗真門流	理事		
	田中諦常師	法華宗真門流	理事		

宮沢賢治生誕百年におもう

今年は、宮沢賢治生誕百年で、故郷の花巻市はじめ全国各地で多彩な催しがくりひろげられ話題をよんでいる。雑誌の特集も多く、出版も相次ぎ書店には賢治をめぐる多数の本が並べられている。マスコミも盛んにとり上げテレビの特番やドラマ等も度々放映され、松竹では映画制作もすすめられている。

賢治ブームが巻き起り、様々な論説が飛びかっている。長年、宮沢賢治精神の顕彰に尽力してきた人は「賢治先生は戸惑い悲しんでいる」と歎き、またある人は「ブームなんていう生易しいものじゃないね。もう立派に賢治産業がなりたって、賢治景気にあやかっている方々がいっぱいいますから……」と言っている。

賢治の作品は、二十数カ国語に翻訳出版されている。まさに世界的な童話作家・詩人となった。その創作活動は、純粋な法華経信仰が基盤になっていることも知られてきた。彼の三十七年の生涯は、「法華経に示された広大な仏意を伝えたい」との一念であった。それは遺詠の「病のゆえにもくちんいのちなりみのりに棄てばうれしからまし」と、国訳法華経一千部を印刷して知人に贈るよう遺言したことでも明らかであろう。

法華文学創作の契機となったエピソードもよく知られている。田中智学師が唱導する純正日蓮主義・在家仏教教団「国柱会」に入会した賢治が、父と信仰上で対立して家出上京し、国柱会館を訪れるが、その折応対した高知尾智耀師から勧められたからで、賢治は猛烈な勢いで童話創作にとりくんだのであった。

「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という賢治の有名な言葉があるが、彼の願ったことは一切衆生のほんとうの幸福、皆成仏道であった。それは単なる文上の法華経ではない、日蓮聖人が色読実践された生きた法華経によってのみ実現されるのである。

田中智学師が日蓮教学を組織大系化した「本化妙宗式目」（五大門、十六段、八十科一千余条）がある。その講義録が『日蓮主義教学大観』として発刊されているが、賢治は五度も読んだという。本化別頭の教義の深い領解が賢治にあったことは間違いないと思う。

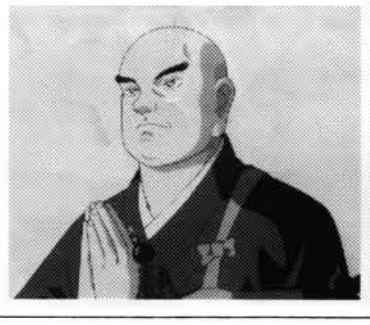
賢治の活動は、深い領解と信仰修行から発したものであり、本仏の大慈大悲、本化上行日蓮聖人のみ教えのお取次ぎであったのである。賢治を知ろうとしても、賢治が不惜身命信仰した正しい宗教がわからなければ、所詮ははかない夢である。

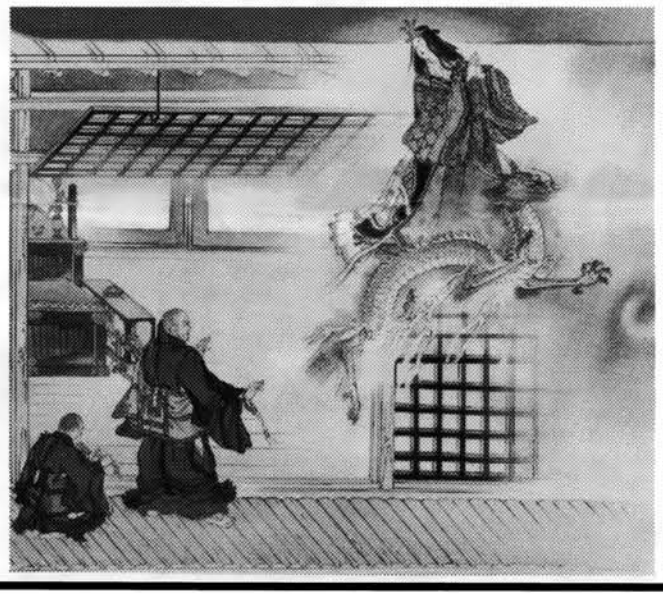
日蓮聖人の願業成就をめざして邁進することが、賢治が本当によろこぶ道であろう。「求道すでに道なり」という賢治の言葉を銘肝して「破邪顕正」勇猛精進していきたい。

宮沢賢治生誕百年記念の集い
主催　記念の集い実行委員会
日時　8月18日午後1時半
会場　国柱会本部
（問合せ　〇三・三六五六・七一一一）

▼第13号三面、顕本法華宗宗務院宗務次長「藤崎光学」は「広学」の誤りでした。お詫びして訂正致します。

スーパーアニメーションビデオ
日蓮大聖人　全3巻
●第1巻〈好評発売中!〉
真理の研鑽——立正安国を叫ぶ

《立教開宗750年慶讃／日蓮宗推奨作品》

原作／石川教張著「日蓮聖人の生涯」
VHS 60分 頒価 15,000円
ご注文は
日蓮宗新聞社　〒146 東京都大田区池上7-23-3
TEL 03-3755-5271(代) FAX 03-3753-7028

豪華本 全カラー
立教開宗750に向け完成
植中直斎入魂の聖人絵巻
日蓮聖人傳繪巻
日蓮宗総本山身延山久遠寺 蔵
絵—植中 直斎
書—藤井 教雄・小池 英淳

■体裁・内容
B4判変型/布装上製本/貼箱入り/保護函入り豪華本
オールカラー総214ページ
(図版・詞書・縁起・解説・訳文付)
定価20,000円

各派・教団 短信

京都門下連合会

平成8年度会長―本山要法寺貫首嘉儀日有猊下、副会長―本山本法寺金山日龍貫首、理事長―本山要法寺執事長佐藤智明師、副理事長―日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師に決定する。

◘1月25日理事会。於ルピノ京都堀川。平成8年度役員確認・平成7年度決算報告・平成8年度会務事業計画・平成8年度予算案・平成8年度総会の件・平成8年度降誕会の件。

◘2月16日総会・降誕会。於大本山本能寺。平成8年度役員紹介・平成7年度会務報告承認の件・平成7年度決算承認の件・平成8年度会務事業計画の件・平成8年度予算案承認の件。降誕会―大導師は大本山本能寺貫首和田日攝猊下、法話は大本山妙顕寺貫首山田一光猊下、おうどんの供養あり。

◘3月8日理事会。於大本山本能寺。開宗会の件・夏期大学の件。

◘4月26日開宗会。法要―比叡山大講堂に於いて奉行、大導師は本山要法寺貫首嘉儀日有猊下、法話は日蓮宗京都府第一部協議員会議長田中宏明師。法要後、横川定光院を参詣、天台宗滋賀院を拝観する。

◘尚、今後の予定として、8月26日本能寺会館に於いて夏期大学、11月27日本山要法寺に於いて御会式がある。（藤井照源）

顕本法華宗

◘2月28日、総本山妙満寺にて開祖日什大正師御開山会を奉修。

◘3月7～8日第五〇回定期宗会が総本山妙満寺宗務院にて開催され、平成7年度事業、決算等の承認とともに平成8年度事業計画、予算等が可決承認された。また立教開宗七五〇年記念事業、瓦募金についての報告。学林規程等の修業制度についての整備改正がなされた。

◘4月1日より一年間妙塔大学林を総本山妙満寺にて開講。

◘5月11～12日総本山妙満寺では恒例の春季報恩大法要が、吉永日晴猊下大導師のもと、全国の僧俗が一堂に会し、先師報恩並びに霊宝の「安珍清姫の鐘」鐘供養等が盛大に厳修され、また本年は阪神淡路大震災第一周忌追悼法要が厳修された。

◘7月22～25日顕本少年錬成会が総本山妙満寺を会場に開催。

◘8月25日～9月8日の一五日間総本山妙満寺にて妙塔檀林を開講。（大森俊栄）

日蓮本宗

◘御開山日尊上人第六五〇遠忌記念事業の一環として、さきに本堂並びに開山堂大屋根葺き替え等全面修復に続いて、客殿・大書院・対面所・庫裏等を解体し、その同所の新築工事も順調に進捗して、現在では内装工事の段階となり7月末の完工を待つばかりとなっている。

◘来る10月13日の日蓮大聖人御大会式御正当の日に、本堂並びに開山堂大屋根修復と、今回新営中の客殿・大書院・対面所・庫裏・方丈棟等の落成慶讃大法要を奉修することとなっており、法要委員会を組織して準備を進めているところである。

◘平成8年5月8日の御開山日尊上人第六五二年御正当御報恩法要は、末寺教師の大半が出仕して奉修された。当日は本山要法寺護持会分会長を主体として、多数の全国末寺檀信徒が参拝した。また第二座において初転法輪の儀も執り行われ、新たなる教師が誕生した。（柳下正則）

法華宗真門流

◘3月25日より三日間、寺院子弟の講習会（僧風林）を実施した。

◘4月8日より4月27日まで真門学林講堂において春季学林開講、本科専門科それぞれの講座が開かれ、学林生一同熱心に受講し春季学林を閉講した。

◘4月11日より三日間総本山本隆寺において例年の通り、千部会、開山忌等が厳修された。当山の千部会は皇室と縁由深く、本年は明正天皇の三〇〇遠忌に当り、4月12日午後3時より、特別追福法要を厳修した。

◘5月10日第一教区（京都・大阪・奈良地区／所長田仲良啓師）では、身延山参拝団を実施。身延山諸堂をはじめ近辺の由緒寺院を参拝して、信仰増進に寄与した。

◘5月21日第二教区護法会（福井・石川地区／所長遠藤昭栄師）では、昨年の阪神淡路大震災犠牲者六千三百有餘の霊を慰める為、現地神戸市中央区妙覚寺（住職井上隆宏師）において約壱千本の水塔婆を供養して、慰霊法要を厳修した。

◘6月21日総本山本隆寺において、第十二回真門教学講習会開催。伝灯録編纂委員長藤井文英上人「宗門明治の風景管見」、宗学研究所長林日圓貌下「真門教学の特色について」と題して講義された。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺式」が貫首竹嶋日香猊下の導師のもとに厳修された。新潟県は今年、例年にない大雪に見舞われ、節分法要当日の出足が心配されたが、前日まで降り続いた大雪もやみ、例年通り多くの参詣者でにぎわった。

◘4月23日総本山本成寺寂光殿に於いて「総本山本成寺開創七〇〇年奉讃会合同会議」が、総裁・顧問・常任委員・信徒代表・事務局員など七〇名が集まり開催された。

◘5月20日～21日、平成8年度三宗統合協議会（顕本・真門流・陣門流）が法華宗陣門流当番宗のもとに、伊東・霊跡別院蓮着寺を会場として開催された。協議事項は、1。統合学院（学生）講座について。2。聖訓カレンダーの発行について。3。門下連合会について。4。開宗七五〇年の合同事業について。5。その他等である。

日本山妙法寺

◘1月1日、新年宮城御祈念。同9日、藤井日達猊下第一一回忌報恩会熱海道場。同30日、ガンディー殉難会（インド大使館）。

◘2月15日、ワルダ宝塔三周年法要。同22日、アンパーラ宝塔七周年法要。同23日、パンダラウエラ宝塔一三周年法要。同25日、行阿院様六七回忌法要（熱海道場）。ランカ仏足山宝塔一七周年法要。

◘3月1日、ビキニデー平和祈念行脚。焼津着。同4日、ネパールポカラ道場、御祖師様御師匠様御尊像入仏式。ポカラ道場開堂供養。同23日、インド平和行脚はデリー到着す。

◘4月28日は、ミャンマー平和巡礼発進三週間各地巡礼。清澄山立教開宗会参列後、原水爆禁止平和島焼津長崎向け平和行脚発進。

◘アウシュビッツ→広島長崎向け平和行脚は各宗合同で各国各地を分散発進、昨年10月又は12月8日等それぞれの危険を乗り越えヨーロッパより東洋各地を巡錫、広島へ向う。インド各地巡錫、ベトナム巡礼あり、フィリピン行進、台湾行進あり、アメリカ大陸行進団、アメリカインディアンのマラソン走行団ありで、その勇猛精進ぶりは感嘆すべきもの有って、割当て三枚では到底書き切れず擱筆致します。（石山善邦）

本門法華宗

◘平成8年3月25日開催の宗会で、昭和63年より開始された、大本山妙蓮寺開創七〇〇年、日像菩薩六五〇遠忌の記念事業特別会計の会計決算が承認された。同時に、平成14年の聖年に向け、立教開宗七五〇年奉讃会の規程が上程され、承認された。また現管長吉村日義猊下の平成8年6月25日より大本山妙蓮寺貫首、平成8年9月15日よりの本門法華宗管長の留任がそれぞれ承認された。

◘大本山妙蓮寺において、平成5年に発見された約四千巻の一切経について、文化庁による本格的調査が開始されることになった。重要文化財指定を想定のもと行なわれる。

◘大本山妙蓮寺では、飯田信栄執事長お手製の万葉粥を賞味する「朝粥会」が開かれている。（木村光正）

法華宗本門流

◘任期満了により全国教区宗務所長が改選され、4月1日付をもって次の者が就任。

北海道・上西康公（斜里町本行寺）
東北・佐々木正隆（秋田県壽慶寺）
千葉・平田義範（長生村本興寺）
東京・福島典雄（台東区感応寺）
東海・久保木学洋（沼津市山本坊）
北陸・二瓶海照（富山市信行寺）
京都・吉本諦良（山科区護国寺）
大阪・伊藤寛城（中央区妙法寺）
兵庫・有原仁龍（伊丹市妙宣寺）
淡路・松井正道（一宮町万福寺）
中国・山上観龍（福山市本安寺）
四国・釋　現瑞（高松市大本寺）
九州・小崎博詮（竹田市円福寺）

◘審査局の異動により、局長に赤田日崇師、局員に芹澤日耀・岡村日祥両師が就任（4月1日）。

◘3月31日付をもって「阪神・淡路大震災災害対策本部」を解散。義援金総額は金一一〇、七二八、〇九三円。日赤・兵庫県及び宗内被災寺院に分配。今後は教化部所管として、引き続き完全復興に向け協力奉仕態勢継続中。

◘各大本山の千部会大法要厳修。光長寺―4月4～6日、鷲山寺―4月7～9日、本能寺―5月5～7日、本興寺―5月6～8日。

◘第四五次定期宗会は5月23～25日、平成8年度宗務所長会は5月28～29日開催。会場はいづれも東京お茶の水・H東京ガーデンパレス。（矢吹慈英）

日蓮宗

◘平成8年3月5日～8日第七四定期宗会開催。4月3日、奥邨正寛宗務総長辞任に伴い第七五臨時宗会を開催、新宗務総長に永井祥文宗会議員が満票にて選出される。

◘4月22日～24日、平成8年度全国宗務所長会議を開催。同28日、千葉県清澄寺に於て、田中日淳管長猊下導師のもと第七四四回立教開宗会が厳修された。

◘日蓮宗では国際協力募金によるラオス教育援助を進めてきたが、さらに小学校の校舎建設の推進を決定。BAC（仏教救済センター＝伊藤佳通理事長）との連携で実施、当面十校をめざすことになった。4月18日伊藤理事長に一校分の資金が手渡された。

◘埼玉県熊谷市立正大学熊谷校舎内の日蓮宗宗立熊谷学寮で4月21日「鐘楼落慶並梵鐘撞初式」が行われ学寮OBなど四〇人が出席した。

◘天台大師一四〇〇年大遠忌の年にあたる本年、10月15日比叡山延暦寺根本中堂で日蓮宗は宗門法要として厳修するが、6月14日本山本法寺において奉行委員会結成がなされ、法要奉行に関する会議が行われた。

◘「宗教カルトの元メンバーに対するケア活動のために」（脱会カウンセリングの理念と資料・97頁）がこのたび護法伝道部より発行された。（富川孝恭）

国柱会

◘妙宗大霊廟讃仰会が発足。◘『正しい宗教Q&A』勉強会開会（毎月、例月供養会後、国柱会本部）。◘青年活動推進委員会（井上宝護委員長）を新設。◘3月7日、国柱会中央連合協議会で武蔵野御陵清掃奉仕。◘機関誌『真世界』4月号（通刊六〇八四号）は「正しい宗教にめざめよう」特集で施本運動を展開。

◘4月3日、国性文芸会有志により靖国神社に芸術奉納。◘4月7日、恒例の申孝園桜まつりをにぎやかに開催。◘4月28～29日、第66回身延登詣団。1日目、大祖廟参拝、立正会慶讃法要厳修。2日目、思親閣登詣、山頂で報恩集会。◘4月3～4日、本部で日蓮主義教学の発展のための課題を学ぶ会。田中香浦会長講義。◘「みどりの日」を「昭和の日」に改める署名運動を継続展開中。運動の主体となっている「昭和の日ネットワーク準備会」で産経新聞等に意見広告を掲載。（秋場善彌）

本門佛立宗

◘7月14日に、京都本山宥清寺において、本門佛立宗開導の師・日扇聖人の祥月ご命日法要開導会が奉修される。この日併せて全信徒が弔主となって有縁の諸精霊のご回向を、本山の御宝前で言上させて頂く「宗門総回向」も営まれる。

◘宗内の弘通意欲活性化と体質改善を目指して「宗門改革特別委員会推進本部」が宗会で承認設置され、その基本方針が「宗門改革実行計画提示書」として作成報告公開された。その中、五つの基本改革項目をあげると、①新弘通対策、②新弘通教育、③組織制度の改革、④財務の改革、⑤今津佛立センターへの対応改善、である。今後二〇〇二年の立教開宗七〇〇年に向かって、大いに自己改革を計り、体質改善強化した佛立宗として、21世紀の弘通に備えるとのこと。（深澤泉奥）

日蓮聖人門下連合会

●目　的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん
流通文 るつうぶん

＊第十四号をお届けします。各地のニュースをお送り頂くなど、各聖のご協力を心からお願い致します。

＊二十一世紀初頭に開宗七五〇を迎えますが、百年前の開宗六五〇は明治三十五年。この前年には初めて門下各派合同の講習会が催され、門下統合の機運が生まれると共に、「開宗記念大会ではそれが大いに叫ばれた」との記録があります。合同の講習会なりを企画し異体同心の思いを持ちたいものです。

＊過日、筆者の自坊で生誕百年にあたる、宮沢賢治の講演と演奏会が開かれ、三十人が集いました。講演は「雨ニモマケズ手帳における法華経思想について」、そして賢治の作詩作曲「星めぐり」など六曲をシンセサイザーとサックスで演奏。たいへん楽しい会になりました。音楽効果、というものでしょうか。（山）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成9年1月1日
第15号

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

リレー提言⑤



本門佛立宗宗務総長
小山　日誠

立教開宗750年を迎えるにあたって

新年おめでとうございます。

日蓮聖人門下連合会各位におかれましては、つつがなく平成九年の新春をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げますとともに、「高祖立教開宗七百五十年」に向かい各宗各派それぞれに報恩記念事業を着々と進めておられることを御同慶に存じます。

さてこのたび「門連だより」編集長様より、本門佛立宗の報恩ご奉公体制について述べよ、と仰せつかりましたが、一昨年の阪神淡路大震災、昨年の第二十一世講有御牧日勤上人の御遷化、それにつづく第二十二世講有井上日慶上人の晋位晋山式とあわただしく経過し、正直に申し上げていまだご報告に値する確たる報恩体制は立っておりませんので、現状をお伝えしてその責を果たしたいと存じております。

当宗では毎年元旦に講有上人から「年頭のことば」が発せられ、それによって宗門の御奉公方針が固まります。

昨平成八年の年頭のことばでは、第二十一世講有日勤上人から平成十四年にお迎えする立教開宗七百五十年報恩のため七万五千人の教化を発令いただきました。

これを私たちは第二十一世講有のご遺言、さらには高祖日蓮大士の至上命令と受けとめ、第二十二世講有日慶上人を中心にその御奉公に取り組み、今年四月には全国寺院の住職・事務局長を招集して決起大会を催す運びとなりました。

さて、昨今の宗内寺院の状況を見ますと、御多分に洩れず高齢化が進んでいることが痛感されます。

そこで、従来当宗では「助行」といって信徒宅を相互に訪問しては信行を増進しあうご奉公が日常的に行なわれてきましたが、これをさらに拡大して、特に高齢者に向けての「佛立ボランティア運動」が平成六年度からはじまりました。今後は信徒だけでなく近隣の高齢者にもその輪を拡げようと、この運動に関するパンフやビデオを作成配布し、各地で研修会等を開催しております。

この高齢化が顕著になった原因の一つに、若年層の人口減少があげられます。

厚生省によると、わが国の特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む子供の数）は減少の一途をたどり現在は一、四六人といわれています。

女性の社会的地位が向上し、どんどん職場などに進出するにつれ、さらに少子化は進むと見られ、その少ない青少年に、いかにご信心を相続させるか、これは信徒の高齢化とともに大きな課題となるでしょう。

従来当宗では信徒を世帯数で数え、〇〇戸という風に云ってまいりました。しかしこれからは、信仰は「個人」の時代になると考えます。

宗門は、二十一世講有が「七万五千戸」ではなく「七万五千人」と発願されたお意をいただき、「一人一個（いちにんひとり）教化運動」を提唱しました。

その一環として、家の中に奉安するか、あるいは個人が懐中に携帯する従来の御本尊に加えて、寮生活の若者や、施設暮らしの高齢者にもご安置できるような個人教化向けの「新御本尊」がこのほど制定されました。

当宗ではこの新御本尊に示されるように「戸から個へ」の時代に対応すべく、さらなる努力を重ねなければならないと考えております。

立教開宗七百五十年を目指してのもう一つの柱に「宗門改革」があります。

これは二十一世紀の宗門発展のために、宗内の現状を直視し刷新するための改良運動で、平成四年に「宗門改革特別委員会」が設置されました。

以来、各部門ごとにプロジェクトチームが編成され検討を重ねて、いよいよ実行に移す段階となりました。

相当の大手術が必要となると思われますが、「改良」を旗印とされた我が開導日扇聖人のみ教えのもと断乎実行させていただきます。

宗門として現在進行中の事業としては、平成七年暮に起工式が行なわれた滋賀県今津町の「佛立センター」（仮称）工事があります。

昨年末には第一期の開発造成工事が完成し、いまは建造物の構想を固めるべく衆知を集めております。

この事業は高祖日蓮大士七百回御遠諱にはじまり、紆余曲折を経ながらようやく着工にまで漕ぎつけたもので、今後佛立宗の夢を次世代に実現するというような長期の構想で、地元との協調をたもちつつ進めて行きたいと思っております。

一昨年の大震災では当宗も阪神間の寺院・信徒に大きな被害が出ましたが、宗内からの多大の義援金や宗門からの再建資金貸付などもあり、各寺院ともご住職と信徒とが一丸となって復興に努めておられます。

震災直後、宗内では災害救援マニュアルの作成とか、緊急復興対策基金の必要性が叫ばれていましたが、現在は喉元過ぎれば何とやらの感なきにしもあらずというところです。

これも早急に着手しなければなりません。

以上、宿題ばかりが多いのですが、それだけ容易ならざる現状と認識しております。

今後は門連各宗派の報恩体制を参考にさせていただきながら、五十年後の立教開宗八百年に、後輩たちが範とすべき足跡が残せるよう、さらに努力してまいる所存です。

門連各位のご清祥を祈念申し上げます。

合掌



本山宥清寺御会式風景

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

田中香浦先生を偲ぶ

顧問　古瀬日宇

門下各派指導者の努力により門下連合会が結成されるや香浦先生は率先連合第一陣として三日間の祖廟輪番奉仕を奉行した。師の門連にかける期待は非常に大きかった。かつて田中智学先師は祖廟中心の門下融合を主張し、門下が分立し身延を謗法の山と貶すると同時に聖廟聖舎利まで否定するのはあまりに偏狭一途であると「祖廟を全門下に開放し異体同心を廟下に誓う事が第一の大事なり」とし、「七百年この機をはずして好機はない」と叫ばれた。思えばあの門下一結しての七百遠忌奉行の頃は香浦先生は企画、実行、推進の陣頭に立って邁進し一天四海皆帰妙法の大理想も大きくわれら門連の射程距離に入ってきたかのような明るい希望も湧いてきた。しかし今にしてその現実を直視する時、当時の先師の多くは既に遷化せられ、今又香浦先生の帰寂を思いあわせ、あまりに散華の遠くなった理想に対し、自分らの微力ではどうにもならぬ又いつか偉大な人物があらわれ理想達成に導いてくれるであろうと、あなたまかせの怯懦におち入ろうとしている。香浦先生が命題に対していつも正面からまっすぐに立ち向い直ちに実行に移すいかにも法華経者らしい明るい姿を偲び残念でならない。

さりながら、日蓮聖人が法華弘通の門出にあたり、「日本国に只一人日蓮、南無妙法蓮華経と唱えたり、これ須弥山の始めの一塵、大海の始めの一露なり……今は謗ぜん人も、上一人より下万民に至る迄一同に……唱えたまふ事もやあらんずらん」と教えられたのを信じて進みたい。

従地涌出

十五に十六、十七、…妙法蓮華経従地涌出品第十五、『御義口伝に云く此の品は迹門流通の後、本門開顕の序分なり』云々。▼本紙も第十五号を数えて、迹を発い本を顕わす時期が到来した。世間に於ては隠蔽し続けて来た事は全て露見して真相究明の活動が各方面に展開され、立替え、立て直しが急務とされている。▼日蓮聖人門下の組織活動「祖廟を中心」とともに「妙法を第一」に立替え、立て直しする事も大事。在家の本家初代の墓所を各分家の要として墓を第一とする事から先祖崇拝は親子兄弟姉妹等の「縦の順位と横の区別」をマモリ真釣りあうことが親族の絆を保ち異体同心の調和のココロ『本心』に還元する道である。▼涅槃経に法の四依『依法不依人／依義不依語／依智不依識／依了義経不依不了義経』云々。佛道は師弟法類の「縦の順位と横の区別」が大事である。「妙法を第一」とする佛道本来の弟子の道に還る事が日蓮聖人門下ホウオンの直道である。▼日蓮聖人滅後門下は地涌菩薩として広宣流布の為、種々の本尊・化儀を展開した教義を開（廃）会して一同に座する時は娑婆世界は差別世界であるとの理を受持し「順位と区別」をマモリ「妙法を第一」とした座配で真釣りあうことが本門開顕の如説修行である。自由と平等は本来無いと覚悟し『善悪不二・邪正一如』の妙法を世間に顕現する事が法華経の意とすれば本会の目的と事業達成には僧俗（相続）の人材交流と派遣が無住の道場を開（廃）く事……道理。▼「法華経を讃すと雖も還って法華の心を死す」順逆次第して意得可きなり。

（意）

日蓮聖人門下連合会の輝やく業績を回顧して



大橋邦正
常任理事

日蓮聖人門下連合会は結成以来本年三十八年目を迎える。これまで門下連合につらなるご門下各派が、異体同心の聖訓を体し、聖祖讃仰の道念のもと、広宣流布のため聖なる共同事業にとりくみ、内には祖廟中心、外に立正安国の願業を、いかにして具現化するか、研鑽と信行策励に精進した業績は、かえりみてその意義じつにふかく重い。

平成九年の年初にあたり、門下連合会が培かってきた信力とその実績を思い起し、誠虔をもって尽力された先輩各聖のご法労を偲ぶとともに、今や日蓮聖人立教開宗七五〇年の記念すべき年をめざして、さらなる連帯意識のもと、捲土重来の活動展開を切に念願してやまない。

日蓮聖人門下連合会の誕生

昭和三十四年は、日蓮聖人第一国諫たる「立正安国論」上書より算えて七百年という、聖祖ご門下にとって意義まことに重要な記念すべき年であった。この年こそ「立正安国」の大義を宣揚する千載一遇の好機であった。この時を重視して、聖祖ご門下教団がここに大同団結し、「立正安国論献諫」の意義を、ひろく世に顕彰する大会を開催し、以て御報恩に資すべきであると、ご門下各派に呼びかけたのは国柱会田中香浦先生であった。

各派こぞっての誠虔なる賛同のもとに、ご門下十一教団が結束して同三十四年八月十九日、東京神田の共立講堂において「立正安国論献諫七百年記念中央大会」を開催。日蓮聖人門下各派共催という画期的な共同連帯の姿をもって、満堂にあふれるご門下の聖祖讃仰の志を結集、立正安国のご精神をひろく世に示した。

この大会を期に、各派交流連絡の組織を常設することとなり「日蓮聖人門下懇話会」が誕生した。

翌三十五年は、日蓮聖人伊豆法難七百年の記念の年にあたるところから、再びご門下共同して聖祖御法難の意義を世に顕彰すべく、対外行事を展開することとなった。

そのためにはご門下連帯の組織の充実と拡大は、最要急務であった。規約をはじめ諸制を定めて懇話会を「日蓮聖人門下連合会」と改めることとなった。

その年の二月二十五日、この趣旨に賛同する日蓮宗、法華宗本門流、顕本法華宗、法華宗陣門流、本門佛立宗、日蓮本宗、法華宗真門流、本門法華宗、国柱会、日本山妙法寺大僧伽の十教団が結成に参加、ここに「日蓮聖人門下連合会」が正式に発足したのである。

展開した弘法活動

かくして門下連合会としてとりくむ初の共同事業が、日蓮聖人伊豆法難七百年記念の報恩事業であった。同年五月十二日の御聖日をトし、伊東仏現寺、伊豆蓮着寺、伊東市西小学校講堂において、記念慶讃大法要をはじめ、記念講演会、芸術伝道聖史劇上演など多彩にくりひろげ、御報恩の万一に擬し奉った。

爾来年ごとに充実成長し、各派相互に連携を密にしつつ、さらに強固な組織へと進展した。昭和三十八年時運のおもむくところ、門下連合会は規約を大幅に改正し新たな組織体制を固めるに至った。改正の主なるものは、各派教団から宗務総長を含む三名の代表を選出して各宗務総長を常任理事とし他を理事とする実に意欲的な理事制を敷いたことである。

新組織による初の行事は祖廟中心の精神的実践であった。ことに身延祖廟は、規約にも明示のとおり全日蓮門下のひとしく崇敬護持すべき祖廟であって、門下連合の一大円環の組織の要である。この意義において、この年十一月二十八日、門下連合各派管長、宗務総長(常任理事)、理事の各聖が祖廟に参集して、「日蓮聖人門下連合会結成誓願奉告式」を厳修、誓いを新たにしたのである。

伊豆法難顕彰の一大法会について、昭和四十一年、創価学会をはじめとする迷信邪教の横行にたいし、破邪顕正、正法興隆を志して、この年五月二十一日、東京日比谷公会堂において「日蓮聖人門下連合大講演会」を開催。講演は各派から三師が出講し、堂々の論陣を張って憂宗護法の念に燃ゆる連合同志二千数百が結集する壮挙であった。

昭和四十五年は、日蓮聖人龍口法難七百年の記念すべき年にあたる。聖祖御一代の御化導のなかのこの発迹顕本の重要な意義をふかく憶い、世にひろく御法難の意義を顕彰すべく「日蓮聖人龍口法難七百年記念大会」を、九月十三日、東京九段会館において開催。講演は日蓮宗片山日幹師、本門流福島泰信師、佛立宗中野日裕師が龍口法難の意義を弁じ、国柱会は国柱会芸術部出演による聖史劇「土の牢」を上演、いずれも満場を魅了した。

昭和四十六年が日蓮聖人降誕七百五十年に当る。この佳年を慶讃して芸術伝道をもってひろく大衆に、日蓮聖人を正しく讃仰せしめる「聖伝劇・日蓮聖人」の明治座公演を企画し、昭和四十四年から二カ年かけて脚本、俳優、宣伝、動員計画など協議を重ね、脚本・小幡欣治、主演・松本幸四郎、高麗屋一門により、聖祖御生誕記念の年の四月、一カ月公演として興業。門下連合在京同志は三万余の観劇動員をはかり、大衆をして世界悉檀摂化の利益を与える弘通の成果を挙げた。

祖廟輪番奉仕と御真骨奉遷問題

規約を改正して新発足したころ、「祖廟中心」の精神を如実に体現すべく、門連各派による祖廟輪番給仕の実現について協議がなされ、昭和三十九年五月十五日、各派代表は身延に参集、身延山久遠寺における輪番奉仕行軌の視察を行った。

日蓮宗、身延山当局においては、門下連合会の輪番給仕奉行の要望に応えて、宗制の一部を改正して、ご門下各派が各派独自の法儀によって、輪番給仕に専心する門をひらいた。連合会はその趣旨にそって、連合会を代表する資格のもとに、各派は公式代表をもって祖廟輪番奉仕を奉行しようと申合せを行った。この趣旨にもとづいて翌四十年春、国柱会はその先陣を承って門下連合会代表の名のもとに、国柱会独自の法儀により誠虔なる輪番給仕を奉行し、爾来毎年欠かさず実行して今日に至っている。

折から祖廟に関して「御真骨の祖廟奉遷」問題が、門下各派からほうはいとして起こってきた。これは門下連合の充実強化の姿と平行して、祖廟中心を結束の要とする、異体同心のご教訓にそい奉らんとする全門下の如法な願望といえるのである。

昭和五十三年に、「御真骨の奉遷ならびに祖廟護持に関する決議」をし、御真骨奉遷のすみやかなる実現を要望したのである。本問題については、各派各聖により真剣に論議されて今日におよんでいる。

聖祖七百遠忌報恩四大共同事業

昭和四十九年、これまで日蓮聖人門下連合会が東京に本部を置き、門下各派および教団の連絡、協力、団結を目標に、共同事業など活動を展開してきたが、一方京都には、つとに十六本山を基盤とする京都日蓮聖人門下連合会が存在していた。そこで来るべき聖祖七百遠忌を期して、東西両門連はおのずから大同団結する気運を迎えたのである。

この年の十一月京都顕本法華宗大本山妙満寺において、東西両門連合同の会議がもたれた。主題は昭和五十六年にお迎えする日蓮聖人七百遠忌の報恩事業をいかに展開するか、が真剣に論ぜられ、ご門下異体同心の結束のもと、聖なるご報恩の事業計画として次の共同事業を策定し、実行した。

昭和五十六年、日蓮聖人七百遠忌御正当年にあたり、実行された御報恩の聖業は、第一に、聖祖御一代の御化導を演劇によってひろく世に顕彰するため、全国に五十四年、五十六年と二度にわたって公演した前進座による『日蓮聖人劇』。

第二に、聖祖の御真蹟をはじめ各派格護の重宝類をあつめ、人々を正法に結縁させるべく、東京、大阪、小倉で開催した『日蓮聖人展』。

第三は、翌五十七年三月に、門下連合会加盟教団の次代をになう青年達の結束をめざす『青年の船』の船出であった。

聖祖第七百遠忌の翌七百一年に門下の若人たちは、太平洋に向けて新しい旅立ちに出発した。それを「七〇一年の旅立ち」とし、「めざせ立正安国」を掲げ、「青春さまざま信仰(こころ)は一つ」と誓い合った。かくて「青年の船」は多大の成果を収めて諸縁吉祥のうちに成満をみた。

第四は、昭和五十七年四月、報恩事業の掉尾を飾る、『オラトリオ日蓮聖人の発表演奏会』であった。オラトリオ日蓮聖人の創作は、日本仏教界において初の偉業である。作詞西川満氏、作曲黛敏郎氏という当代最高峯の人をえて、五年の歳月をかけ制作された。東京新宿文化センターにおいて開催された発表演奏会は、満場の聴衆を感動の坩堝につつみこんだ。まさに閻浮一聖たる聖祖を讃仰し、御報恩の万一に資するにふさわしい記念の聖業であった。

この七百遠忌報恩記念事業は、じつに十年の歳月をかけて企画を練り、準備と計画に万全を期し、ご門下各派が、異体同心の聖訓を体し熱誠もって聖業を完遂したが、ご門下連帯のゆえにこそ成しえた偉業であった。

「立教開宗750年」

護法団参のご用命は
日本旅行へお申しつけ下さい

日本旅行 運輸大臣登録旅行業第2号
お問い合わせは
法人営業本部組織二部
☎03(3592)3951

恭賀新春

平成九年丁丑

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一代
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 田中日淳
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 岩間湛正
総合企画部長 渡辺清明
庶務部長 栗原正震
財務部長 星光喩
教務部長 齋藤邦昭

護法伝道部長 小倉光雄
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 新井貫厚
現代宗教研究所長 石川浩徳
国際開教室長 上田尚正
人権対策室長 大乗文延
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 三坂恵人

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都北区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五代
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 和田日攝
宗務総長 川口日唱
教学部長 三浦成雄
財務部長 原井慈鳳
庶務部長 桃井晋城
教化部長 坂巻顕導

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 山田信正
宗務次長 藤崎広学
財務部長 田島敏義
布教部長 早川義正
教務部長 小島顕明

社会部長 川崎英宗
庶務部長 島田幸晴
主事 湯原純勇
阿曽久成
津村乗信
小松正学

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 牧野琢成
総務部長 土屋善敬
教学部長 都築哲信
教化部長 金原戒雄
財務部長 江坂隆俊
宗務参事 竹内敬覚

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六代
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講幕 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 佐藤智明
総務部長 教学部長 原眞昭
財務部長 柳下義眞
法務部長 高橋寛承
本部事務局長 石見良教

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 真枝日世
宗務総長 上田浩岳
総務部長 堀内邦雅
教学部長 辻本寛孝
教化部長 養輪渓谷
財務部長 田中諦常

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 吉村日義
宗務総長 高辺信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 山下通雄
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八要法寺内
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

会長 嘉儀日有
副会長 金山日龍
理事長 佐藤智明
副理事長 杉若恵隆

宗教法人

国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一代
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 三田道弘
副理事長 入江克郎
門連常任理事 大橋邦正
本部事務局長 石見良教

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人 今井行順
東京都千代田区九段北三―二―三

天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
〒150 東京都渋谷区神泉八―七

恭賀新春

平成九年丁丑

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四
主務 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 田中日淳

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 吉永日晴
総務 中村通義
執事 津村乗信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 小松正学

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三一)〇〇〇八
貫首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫首 真枝日世
執事長 岩崎峻暉
執事 笹木研秀

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二一七
貫首 吉村日義
執事長 飯田信栄
役職員一同

日蓮本宗本山
要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 佐藤智明
執事 原眞昭
執事 柳下義眞
執事 高橋寛承

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二一〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職二十二世隅有 井上日慶
事務局長 信徒総代 小倉徳治郎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
貫首 山田一光
執事長 原光司

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 杉山日慎

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
〒607 京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
貫首 久村諦道

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首 金山日龍

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成九年度随身生募集中
山主 駒野教格

日蓮宗本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
貫首 片山日幹
執事長 田中慈潮

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首 土屋学周
参与 山田完修
同 新井智清
同 加藤通雄
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝

門連時報

北海道日蓮聖人門下連合会 総会開催さる

平成八年九月十二日（木）午後四時三十分より、札幌市・サッポロネッサンスホテルに於て総会が開催された。総会に先きだち役員会議を行った。

総会は白部理事長発声にて玄題三唱挨拶の後、法華宗本門流渡辺俊岳師座長となって議事進行、平成六、七年度活動、決算報告承認の後役員改選が行われた。門連発足以来八年に亘って理事長の職にあった白部師が退任され、新たに日蓮宗札幌日登寺佐藤光春師が理事長に就任した。

又事務局長の松井義昭師が退任、新たに田中文教師が就任した。

白部師は理事長退任と共に顧問に就任、佐藤理事長は前理事長の法労を讃えると共に今後北海道門下連合会発展に尽力したい旨抱負を述べた。

平成八年度活動案・予算が可決され総会を終了、引続いて小樽市法華宗真門流宣誠寺、峰尾泉涌師が「刑務教誨に携わって」と題し講演を行った。

六時より懇親会が行われ、和気藹々（あいあい）のうちに懇親を深め八時散会となった。

当日参集約三十名、中央門連より富川、長谷川両幹事が出席した。

京都理事会・懇談会 開催さる

平成八年十二月五日（木）本山要法寺（嘉儀日有貫主）に於て恒例の門連京都理事会・京門連との懇談会が開催された。午後一時嘉儀貫首猊下御導師の下法味言上開会式、記念撮影の後、新築なった客殿にて貫首猊下より、本山要法寺の縁起について御講演。

午後二時三十分より開式、全員自己紹介の後、永井祥文理事長座長となって議事進行、上半期事業報告が計画などにつき報告がなされた。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関してはここ数年懸案となっている日蓮聖人門下の文化芸術に光をあてた展覧会に関し、大橋常任理事より東京博物館、鷲塚学芸部長との交渉経緯を報告、その主旨は、

①100～150の総出品とした場合、門連として最低五〇点を出品すること。

②全ての出品交渉依頼、取扱いについては博物館が責任をもつ。

③入場券の割当てを初め、動員割当てなど一切ない。

④新聞社との提携、図版の作成など博物館側に於て行う。

⑤協讃又は協力、後援といった形で門下連合会は名をつらねる。

などである。

門連の現状に鑑み、多額の予算を要しない現企画案を各派教団に持ちかえって意見を聞き、門連としての最終方針を決定することとなった。

四時会議を終了、第二会場竹茂楼に移り懇親を深め八時散会となった。

渡辺幹事より、門連だよりに関して富川幹事が報告を行った。京都門連事業報告に関しては佐藤智明理事長より降誕会、同窓会、夏期大学、お会式など活発な活動に関し報告があった。北海道門連に関して新理事長札幌日登寺佐藤光春師より前白部理事長御退任の報告があった。大阪門下懇話会に関しては山下通雄師より合同お会式、秋の研修会、十六本山バスツアー同参（平成九年四月九日）



● 北海道門連佐藤完春新理事長の挨拶
2● 門下連合会・京都本山要法寺本堂にて開会式
4● 京都門連御会式

本門佛立宗講有晋位 宥清寺晋山式行わる

平成八年九月二十日（金）午前十一時より井上日慶上人の第二十二世講有晋位、宥清寺晋山式が佛立宗本山宥清寺に於て挙行された。日慶上人は本年八十七歳の高齢であるが、力強く佛立宗正常化へ向けての抱負を披瀝された。

参集の僧俗で立錐の余地なき宥清寺本堂で式典は滞りなく終了し、会場を日航ホテルに移し、祝宴が行われた。

日慶上人は佛立宗宗会議員、宗会議長、宗務総長、東京乗泉寺住職などを歴任、講有に晋位された。

京都門連御会式

京都日蓮聖人門下連合会（佐藤智明理事長―日蓮本宗）は、十一月二十七日本山要法寺に於て、第七百五十回御会式を奉行し、僧俗約二百名が参加した。あいにくの雨模様で、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚は中止となり、変更して本堂前にて撃鼓唱題した。

御会式法要は本山要法寺嘉儀日有貫首を導師に、佐藤理事長と杉若恵隆副理事長（日蓮宗）が副導師にて厳修され、参列者一同報恩の誠を捧げた。

法要後、大本山妙顕寺山田一光貫首による「御入滅について」の法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を尊く得た。そして、各本山貫首御染筆色紙の福引とおうどんの供養があり、御会式日程を終了した。（藤井照源）

門下共通の本紹介 1



寺宝護持の心得

このたび日蓮宗宗務院より「寺宝護持の心得」が刊行された。本書は勧学院監修の下、門連だより13号、14号に執筆された立正大学中尾堯文教授が総論を、取り扱いについては寺尾英智氏（立正大学仏教学部講師）が、保存については望月真澄氏（立正大学非常勤講師・身延山宝物館学芸員）が担当執筆している。

内容は、

一、寺宝を護持する私たちの使命
二、寺宝の現状
三、紙に書かれた寺宝
四、紙に書かれた寺宝の種類
五、紙に書かれた寺宝の姿の形
六、寺宝の保存と管理
七、寺宝の整理と目録の作成
八、寺宝の修理と保存の担当者
九、寺宝を崇める行事
十、寺宝に触れる心得

※寺宝護持の心得「べからず集」となっている。豊富な写真・図版・イラストをまじえ、平易に解説されている。御門下各派に収蔵されている大聖人御真筆をはじめ、先師の貴重な文書、御聖教を次代に伝えていく重要な責務に鑑み、本書が広く読まれ利用されることを願ってやまない。本書は日蓮宗新聞社で取り扱っている。定価一五〇〇円。

なお門連加盟各派宗務院、並びに各派本山へは日蓮宗より贈呈された。

心の渇きをいやす さだるま新書シリーズ 全12冊

NO.1 日蓮聖人のお弟子たち ―六老僧略伝― 宮崎英修著 八八〇円
NO.2 日蓮聖人のお言葉 ―一日一訓― 渡辺宝陽著 八〇〇円
NO.3 今を生きる ―テレホン説教― 護法伝道部選定 八〇三円
NO.4 『妙法蓮華経』の生いたち ―鳩摩羅什三蔵について― 野村耀昌著 七〇〇円
NO.5 愛のハーリティ ―鬼子母神の物語― 大鳴忠雄著 七〇〇円
NO.7 仏教語散歩 ―くらしの中の118語― 佐々木孝憲監修 八二四円
NO.8 お寺への質問 ―日蓮宗の知識123― 小松邦彰・中尾堯・仲澤浩祐・渡辺清明／共著 八五〇円
NO.9 日蓮聖人 ―その生涯と教え― 日蓮宗新聞社編 八五〇円
NO.10 いのちを問う ―生・老・病・死― 長谷川正徳監修 八五〇円
NO.11 日蓮聖人 女性への手紙 永田美穂著 八五〇円
NO.12/13 法華経講義 上・下 ―法華三部経略講― 勝呂信静著 各八五〇円



日蓮宗新聞社の本
日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
お申し込みTEL.03-3755-5271

各派・教団 短信

本門佛立宗

◘平成9年度の宗務方針が、小山宗務総長より発表された。それによると平成9年度は「高祖日蓮大士・立教開宗七百五十年・報恩御奉公実働の年」と定められ、今内局の奉迎準備六年間の大綱三つの基本項目が次の様に示された。

①法要行事は、平成15年4月28日を中心とする一週間を総修大法要とし教化親子の本山参詣を奨める。

②報恩教化は七万五千人教化成満をめざす。

③記念事業は、滋賀県今津町の佛立センター用地に、第一期工事を計画施工する。

◘佛立研究所（所長・山内日開師）では、立教開宗七五〇年の慶讃記念御奉公の一環として「佛立版・高祖日蓮大士御書全集（仮称）」を刊行することになり、このほど計画も整い福岡日雙副所長をチーフとする編集スタッフ22名を決め、刊行準備にとりかかった。法華経本門八品・上行要付の立場、佛立開導日扇聖人のご視点から、日蓮大士のご真意をより鮮明に拝見させて頂こうとの特色をもつ全集を目指しているという。

◘去る平成8年10月13日の本山高祖会は全国から凡そ九千名の参詣者でにぎわった。（深澤泉奥）

国柱会

◘機関誌『真世界』8月号「宮沢賢治生誕百年記念」特集で施本運動展開。◘8月、宮沢賢治生誕百年記念出版『宮沢賢治まことの愛』大橋富士子著刊行。◘8月7～10日、花巻で第44回国柱会少年少女夏期学校。中国、四国、九州でも開校。◘8月17日、宮沢賢治生誕百年記念青年セミナー、翌日、同記念の集いを盛大に開催。◘8月26日、国柱会会長、同霊廟賽主田中香浦大居士帰寂。同29日、茶毘式。11月15日、正葬儀を国柱会葬として厳修。『田中香浦先生を偲ぶ』刊行。田中隆一事務局長が霊廟賽主を継承。◘10月5～6日、第32回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団。御門下を代表し田中隆一団長以下、昼夜不断の唱題給仕。◘10月12日、池上本門寺境内で屋外宣伝。◘10月13日、福岡東公園日蓮聖人銅像前で街頭宣伝。◘11月3日、近畿連合局で桃山御陵参拝。◘11月16日、平成八年度定例協議員会。新会長に田中隆一賽主を推戴。（秋場善彌）

京都門下連合会

◘8月26日夏期大学。於本能寺会館、テーマ「現代世相と法華経の精神」、講師は、本山要法寺嘉儀日有貫首「ひと口に」、宗教評論家丸山照雄先生「私たちにとって現代とはいかなる時代か―日蓮的認識と実践」、東京実践女子大学長分銅惇作先生「宮沢賢治の文学と法華経信仰」◘8月26日理事会。於本能寺会館、御会式の件◘11月12日理事会。於本山要法寺、御会式の件・全門連京都理事会懇談会の件◘11月25日奉行委員会。於本山要法寺、御会式の準備と最終打ち合わせ◘11月27日御会式。法要―要法寺本堂に於て奉行、大導師は本山要法寺貫首嘉儀日有猊下、法話は、大本山妙顕寺貫首山田一光猊下、各本山貫首猊下御染筆色紙の福引、おうどんの供養あり◘12月5日全門連京都理事会。理事会は要法寺、懇親会は竹茂楼12月11日会計監査、於要法寺。◘12月17日理事会。於本山要法寺、平成8年度会務報告・平成8年度決算報告（藤井照源）

顕本法華宗

◘10月12日、総本山妙満寺にて行法講習会開催。◘10月12日・13日、総本山妙満寺にて御会式法要厳修。◘10月23日、東部僧員講習会。◘11月6日、西部僧員講習会。

「宗教法人実務について」◘11月16日～17日、品川天妙国寺にて三派（顕本・陣門・真門）統合学院開催。

日蓮本宗

◘平成9年2月28日、総本山妙満寺に開祖日什大正師御開山会奉修。◘3月、第51回定期宗会を総本山妙満寺宗務院にて開催。（大森俊栄）◘本山要法寺御開山日尊上人第六百五十遠忌記念事業の一環として推進してきた客殿・大書院・庫裡等の全面新築工事は昨年七月末日を以て完了し、去る十月十三日（日）に落慶大法要が厳修された。

御逮夜に当たる十二日は大雨の悪天候に見舞われたが、当日は雲一つない秋晴れに恵まれ、予定通り午前十時より高祖日蓮大聖人第七百十五回御大会式の奉修後、十一時より約四十名のお稚児さんを先頭に、大導師・式衆・役員による庭儀式の行道が厳かに行われ、本堂前では福島蓮昌寺檀徒による霊山太鼓と踊りが奉納された後、午後一時より京都日蓮聖人門下連合会各山貫首猊下・執事長各師の列席の中、本山要法寺貫首猊下嘉儀日有上人大導師の下、落慶大法要が無事成満された。

大法要を終え本堂前で記念撮影の後、午後二時半より大テントの中で、京都造形美術大学の「憙（しん）」による和太鼓が演奏され、続いて貫首猊下直筆の色紙の抽選等もあり、テント内での模擬店は終始賑わいを見せた。

四時過ぎより寺院・来賓・役員等、約二百名が京都ホテルに会場を移して、祝賀会が催された。日有猊下ご挨拶の後、京門連の各山を代表して日蓮宗本山本法寺金山日龍猊下より御祝辞を頂戴し、鏡割りの後、日蓮本宗宗会議長田中良英師の乾杯音頭で祝宴に入り、午後六時過ぎに散会した。昭和六十一年六月、大屋根修復を決議してから十年の歳月をかけて今日に至った喜びをかみしめた一日であった。（柳下正則）

法華宗真門流

◘第一・二・三種講習会開催

八月二十三日より二十九日まで、総本山本隆寺に於て第一・二種講習会が、また同二十七日～九日の三日間第三種講習会が開かれ、講義・法要式の実習が続けられた。

◘北海道支学林開講

八月二十四日より三十日まで、函館市妙見寺を会場に開講された。

◘第一教区仏教文化講話

第一教区では、九月七日大阪福泉寺を会場として仏教文化講話の集いが開催された。約百二十名の参加を得て、講師に近つ飛鳥博物館長大庭済先生を迎え「享保十四年に象が大阪の本町を歩いた話」と題して講演が行われた。

◘東山未生流華展開催

十一月九・十日、総本山本隆寺にて東山未生流（総裁真枝日世猊下・今枝幹詔華務長）華展が開催された。本年も百点余の出展を数え華やかな流展となり、初月九日には、新師範の許状伝授式が本堂にて行われた。

◘第二教区檀信徒研修会開催

十月二十七日、約八十名の参加を得て檀信徒研修会が開催された。十五回目を迎える今回は、布教師坂本法保上人の「こころの宝」と題する法話と、福井県立博物館学芸員笠松雅弘先生による「夢楽洞万司（むらくどうまんし）の世界」と題して、江戸中期から明治期にかけての民衆社会の歴史を、資料とスライドを用いて講演された。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘五月二十四日より二十六日までの三日間にわたり、新潟県三条市総本山本成寺に於いて、祠堂大法要が執り行われた。二十四日は戦没者追悼法要、諸堂祭。二十五日は御歴代法要。二十六日は永代祠堂加入霊位・納骨霊位追善法要、米寿表彰という日程で執り行われた。

◘七月三十日宗法審議委員会が行われた。議題は「宗法一部改正に関する問題点」などであった。

◘九月二日・三日山形県赤湯に於いて、中央行学講習会が行われた。当日は参加教師百二十名を数え、宗学研究所所長鈴木正厳先生による「陣門教学」、西江孝之先生による「釈尊の風光」などの講義が行われた。

◘十一月十四日宗学研究所所員会・十五日学林教授会が行われた。

◘十一月十六日・十七日東京都品川区の天妙国寺に於いて、法華宗陣門流当番のもと、三宗統合協議会・統合学院（後期）が開催された。講義は、一日目法華宗（陣門流）法華宗学林教授西山英仁先生による「宗祖の霊山思想は善巧方便の対機説法か」、二日目は法華宗（陣門流）法華宗学林長松吉範員先生による「法華経について」であった。

◘十一月二十一日宗務所長会、二十七日布教研究所所員会、十二月二日・三日新住職・学生・沙弥合同研修会四日昇級・検定試験が行われた。（今井満良）

本門法華宗

◘平成14年の立教開宗七五〇年を迎えるにあたり、「ひろめよう伝えようお題目を」を標語に、ポスターを作成、各末寺に配布。檀信徒向け教化用。

◘本門法華宗学院は、教学講習会においての立正大学北川前肇教授の講義録を三冊にまとめた。「開目抄に聞く1」他。これで同教授の講義録は計六冊の発刊となる。

◘本門法華宗学院は大本山妙蓮寺において昨年11月26、27日、第80回教学講習会を開催。講師は増田日紘猊下他。

◘大本山妙蓮寺では、立正大学一切経調査班により、平成4年8月より調査中の一切経は、経典全ての目録を完成した。昨年7月からは文化庁において最終調査が開始され、5月には重要文化財として認定されるか否かの結果が発表される。

◘大本山妙蓮寺にては、昨年10月12、13日の両日お会式法要が厳修された。一昨年復活された万燈会は、多くの作品が奉納・展示され御会式に花を添えた。境内参道には、恒例の屋台やフリーマーケットが立ち並び多くの参詣者で賑った。

◘平成8年11月12日大本山妙蓮寺で、御開山日像菩薩遠忌法要、三師会並歴代上人年忌法要が厳修された。（木村光正）

法華宗本門流

◘阪神・淡路大震災以後、宗門や関係機関からの協力によって急速に復興が進んでいる。本年も昨年に引き続き、阪神・淡路大震災犠牲者第三回忌追悼法要を、1月17日、尼崎・大本山本興寺において厳修予定。

◘平成8年7月8日付を以て、法華宗管長に和田日攝猊下（京都・大本山本能寺貫首）が就任した。これに伴い、門下連合会顧問に就任。

◘布教の第一線の教師を補佐し、将来を期して精進しておりながら、止むをえぬ事情で学林に入学できないでいる等、埋もれた布教者を有能な教師に養成する特別講習会（戦後第12回）が大本山を順次会場として開催される。第一期（平成8年11月18～23日、沼津・光長寺にて開催済）、第二期（平成9年2月24日～3月1日、京都・本能寺にて開催予定）、第三期（平成9年4月14～19日、茂原・鷲山寺にて開催予定）を修了すると、教師資格を取得することができる。今回の受講者は二十五名。

◘古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）の平成9年度新入生募集中。（矢吹慈英）

日蓮宗

◘全国日蓮宗青年会（風間随修委員長）北海道結集が五月二十日～二十二日迄札幌市日登寺及びサッポロルネッサンスホテルを会場に開催、全国より二百名余が参加、市中行脚を始め、21世紀に向け何をなすべきかディスカッション。

◘平成八年度お題目総弘通運動、中央講習会が六月四日、立正大学講堂に於て開催された。全国より百五十名が参加。

◘七月五日、北海道南西沖地震奥尻慰霊法要が奥尻町日潮寺で営まれ、永井宗務総長ほか僧侶檀信徒犠牲者の遺族ら百人余が参列した。焼失した日潮寺は三年ぶりに再建された。

◘第十回日米青少年交流ハワイ研修が七月二十二日から二十八日までハワイマウイ島、オアフ島で開催され六十名の参加者が現地開教師指導の下に各種研修を行った。

◘日蓮宗北米教団主催「立教開宗七百五十年慶讃発願大法要」が八月二十五日、ロサンゼルスの日蓮宗身延山別院で営まれ、檀信徒約二百人が参列、岩間副総長が導師を勤めた。

◘日蓮聖人が三国四師の御一人として尊崇された天台大師の一四〇〇年大遠忌日蓮宗宗門法要が、十月十五日延暦寺根本中堂に於て厳修、大曼荼羅御本尊が掲げられ中央に天台大師像、右に日蓮聖人像、左に伝教大師像を安置、田中日淳管長導師宗務内局宗門要路参席、比叡山梅山座主臨席の下に厳修された。式後横川定光院にて秋季法要が営まれた。参列檀信徒八百人余。（富川孝恭）

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん
流通文 るつうぶん

＊門下各派各聖の玉稿を賜り、第十五号発刊となりました。改めてこの欄をお借りして、御礼申し上げます。

＊来る平成十四年の立教開宗の聖年に向けて、門下各派におかれては、様々な記念奉讃報恩事業が計画されていることと思います。さて門下連合会においてはいかなる対応がなされるか…日蓮聖人の理想を実現するために、門下各派先聖先師が、歴史伝統教義等の相違を超越、各々が尊重し、認めあいながら努力なされてきた、この良き日蓮聖人門下連合会の発展を祈念いたします。そのためにこの門連だよりが各派の交流の場、潤滑油としての役割を担わんと、富川編集長以下編集委員一同熱い想いで今後とも報道してゆきたいと決意しております。今後ともよろしくお願い致します。

（光）

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成9年8月1日
第16号

お題目をいただいて750年

リレー提言⑥　ひろめよう・伝えよう・お題目を

本門法華宗総長
高辺信幸

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

今世紀末を迎え、ますます社会的混迷はその色を濃くしています。こうした状況の中で来る平成十四年の日蓮大聖人立教開宗七百五十年は刻一刻と迫ってまいりました。日蓮聖人門下連合加盟の各宗各派の宗団は、それぞれ宗祖の願いに沿う事業に着手されておられますこと、当宗におきましても誠に慶ばしいことであります。

私ども「本門法華宗」も、この聖辰を迎えるにあたって時代の変革を見極め、真に宗祖の御心に叶うべく、慎重を期しながら平成八年春に本門法華宗宗務院に奉讃会本部を設置し、門末各寺院を支部とする立教開宗七百五十年奉讃会が発足いたしました。その本部に執行委員会が組織され、本門八品上行所伝本因下種のお題目の広宣流布のため「ひろめよう 伝えよう お題目を」(お題目を)をスローガンとして、鋭意その具体化をすすめております。

既に、元本門法華宗管長増田日紘猊下に、未来を担う法器養成のため、現代における八品教学の著作として『法華経の虚空会説法』『起顕竟法門について』(仮題)をご執筆頂いております。檀信徒向けの記念出版も準備すべく検討中です。現在の当宗の機関紙「信行」、布教誌「生きる」等についても立教開宗七百五十年の意義ある年を迎えるために啓蒙活動に邁進しております。



大本山妙蓮寺山門



高辺信幸総長

宗祖の御心に応える道

「毎に自ら是の念を作す、何を以てか衆生をして無上道に入り速やかに仏身を成就せしめん」。菩薩の誓願を受けられた聖人は、私どもにお題目の要法をもって平安な生活と、仏国土の実現を期されました。

また、「日蓮が慈悲曠大ならば、南無妙法蓮華経は万年の外未来までもながるべし」との悲願は、時代を超え脈々として今日私どもに託されているといえましょう。

この立教開宗の精神は、私ども一人一人の意識の深化を促すことは申すまでもなく、法華経精神に連なる信徒をはじめ、広く一般社会の人々にも呼びかけるところに意義がありましょう。

現代社会は混迷の色彩を深め物質文明の前進が不安視されつつあります。先人が営々として努力し、紛骨砕身してこられました。そうした努力にもかかわらず、戦後経済の高度成長による社会の歪み、精神文化の低迷を来しております。

その時代を見つめ直し、事実を事実として素直に省み、宗祖の願いに応える方向をめざし、原点に帰って再出発をいたす時であります。それは、私どもが少なくとも迷える大衆の願い、心に対しあまりにも無関心であったことは否めないでしょう。

今日的現実をそのまま聖人時代に置き換えてみれば開宗宣言に踏み切られた聖人が衆生救済を現実社会の実相に怒りと悲しみを抱かれ、法華経の教えに身を投じて、仏の大慈悲に生きようとされ、立教開宗の宣言をされました。

いま「お題目をひろめ伝えよう」と願うならば、私ども一人一人が宗祖の御心を我が心として法華経の弘通に新たな誓いを求められています。

私たちの宗門は、「ひろめよう 伝えよう お題目を」をかかげて、この願いを一歩一歩実践するために、諸政策を具体化し、すすめてまいりたいと念願しています。



大本山妙蓮寺本堂



立教開宗750年ポスター

復元立宗五十年を期に新たなる出発

当宗にとりましては、昭和二十七年の復元立宗より平成十四年で五十年の節目を迎えることになります。

この節目にあたって、今一度私たちのおかれている現状を再確認すべく復元立宗当時の状況をよくご存じの方々に『本門法華宗五十年の歩み』(仮題)をご執筆頂いております。当宗のこれからの五十年は、新たなる出発として把握しておく必要があります。この五十年の歴史をしっかりと踏みしめ、その上に、弘法の先達となる法器の養成を重要施策として、内外の英知を結集してその充実強化を図りたく準備を進めております。

なお、大本山妙蓮寺におきましては、平成五年夏に宝蔵の中より「松尾社一切経」三千六百余巻が発見されました。平安時代後期の写経で、京都、松尾社に奉納されていたものが幕末に行方不明となり、立正大学教授・中尾堯先生の古文書実習の折りに発見されました。

その三年間の調査研究によって平成九年五月、『京都妙蓮寺蔵「松尾社一切経」調査報告書』が刊行され、同月、当宗末寺並びに京都門下連合会傘下の各御本山に贈呈させて頂きましたことをご報告させて頂きます。

私たちの依って立つ足元を今一度しっかりと見つめ直し、その上で未来を担う人々と共に歩んでゆく。それが私たちの宗団の願い、また、宗祖日蓮聖人への御報恩感謝であることを私たちは確信しております。

合掌

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆合掌する姿は仏教徒の基本的な信仰の姿。拝む人は拝まれる人。その心は「拝む姿はきれいに咲いた心の花である。」人間のこのいのちは地球より重いとよくいわれる。

◆いたましい殺人や自殺幼児虐待等が新聞に書き立てられる。また青少年犯罪事件が低年齢化し社会問題となっている。

生命軽視の風潮は楽しいはずの人生に黒い影をなげかける。便利な時代になり、しあわせが増す筈なのに、どこか心の片隅に不安が潜む。明るく住みよい、潤いのある世の中にするためにいろいろと思索する。

拝む心で生活したならばそこに解決の一端が見いだせるのではないだろうか。合掌はお互いの人格を尊敬し合い、愛し合い、助け合うという仏様の教えを表した姿でもある。

◆先頃放送されたTVドラマ「いいひと」の主人公が自分の信念を主張する台詞の中で「まわりの人の幸せが自分の幸せです」と生き生きとして言い切る様に、宮沢賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という法華経を命とし不軽菩薩のように生きた精神を彷彿とさせるようなドラマであった。

◆この常不軽菩薩は「我深く汝等を敬い決して軽くみたり、あなどったりはしない。あなた方は皆菩薩の道を行じて仏様になられる方であるから」と誉め称え丁寧に礼拝した。

この行為にたいし心不浄な人々は怒りを生じ、悪口をいったり、杖や棒、瓦石を以て打ちすえるとも菩薩は合掌礼拝を続ける。

◆日蓮大聖人も「一代の肝心は法華経、法華経の肝心は不軽品にて候なり。不軽菩薩の人を敬いしはいかなる事ぞ。教主釈尊の出世の本懐は人の振る舞いにて候けるぞ。(崇峻天皇御書)」とお示し下さっている。

◆この不軽菩薩は、人はみな仏の種を宿しているから、その尊い仏性を磨いてゆくようにと人々に仏性に対する自覚と開発を促されてやまないのである。

(俊)

立教開宗七百五十年慶讃
日蓮宗中央大会――発願の集い――

立教開宗七百五十年慶讃　日蓮宗中央大会―発願の集い―が去る五月二十八日（水）午後一時より、横浜アリーナを会場として開催された。

平成十四年に御迎えする立教開宗七百五十年御正当をめざし、「誓願」をテーマとして布教伝道に取り組む宗門挙げての発願の集い。

爽やかな五月晴れに恵まれ、全国各地より僧侶・檀信徒およそ一万三千名が続々と受付を通り、全国各教区の席割りに従って入場。

会場中央舞台の中心にお題目の宝塔（四面お題目）が安置され淡い照明に荘厳な雰囲気をかもし出している。

一時開会、宗歌「立ち渡る」斉唱に続き、岩間湛正宗務副総長が力強く開会を宣言。

会場に大聖人の御生涯から立教開宗までの御生涯を語るナレーションが流れ、大型画面に旭が森からのぞむ旭日、大聖人銅像が写し出された。

向う正面には和讃を拝唱する檀信徒二、三〇〇名が行衣、団扇太鼓を手に一糸乱れず「日蓮聖人奉讃歌題目」を拝唱、感動の輪が広がる。

一つには日の本の　安房の長狭の　小湊に誕生なされし　高祖日蓮

南無妙法蓮華経、

南無妙法蓮華経、

法華和讃は独特の調子、節回し、詞を現代に伝え、尚、活々と人々の心をうつ。

レーザー光線の赤・青・緑などの光線が宝塔を中心に照射され、幻想的な世界が涌現する。やがて闇を切りさく笛の音と共に法難を表す激しい太鼓。急調子の笛と太鼓の演奏は大聖人の法難を象徴するかのようだ。

四大法難、佐渡、身延御草庵、久遠寺、身延下山、御入滅を経、再び清澄寺旭が森、誓願の燈が映像で写し出され、

「この誓願こそ立教開宗七百五十年を迎える私たちひとりひとりの心に灯すべき大聖人の誓願そのものなのです。この決意のこもる誓願の燈をただ今この会場に運んで参りました」

とのナレーションが流れ大法要が始まった。

宝塔上空に円錐レーザー、平行レーザー、ムービングスポットを使った幻想的な雰囲気の中、誓願の燈を先頭に田中日淳管長猊下、式衆百二十名が初伽陀と共に入場、三宝礼、散華、対揚に続き管長猊下慶讃文。

田中管長猊下は慶讃文の中で、

「我等一同、強盛の菩提心をおこして等しく法華経の御題目を一心に唱えひろめん。我等一同、信行修行に励み、法華経を広く説き示さん。我等一同、立正安国の精神を世界に伝え、社会の平和と人類の幸福に尽さん」

と発願の意を示された。ここに集う全ての宗徒が発願の燈を信心の奥底にともした事であろう。

読経の後修法師三百名が中央舞台を囲み、修法導師林海雄師が宝塔に進み、木剣修法を行った。

力強い木剣、修法師の唱える肝文の梵音が会場にこだました。

管長猊下による頂戴経の後唱題、異体同心に唱えられるお題目が会場を包み、感動が伝わる。

再び和讃に移り聖詠を奉唱、四弘誓願をもって法要を終了、引続いて、永井宗務総長が挨拶に立ち、

「濁世末法といわれる現代社会に生きる私たちは、宗祖が立教開宗されたお心持ちを体して未来万年にお題目を弘める誓願をさらにおこしていこうではありませんか」

と呼びかけた。

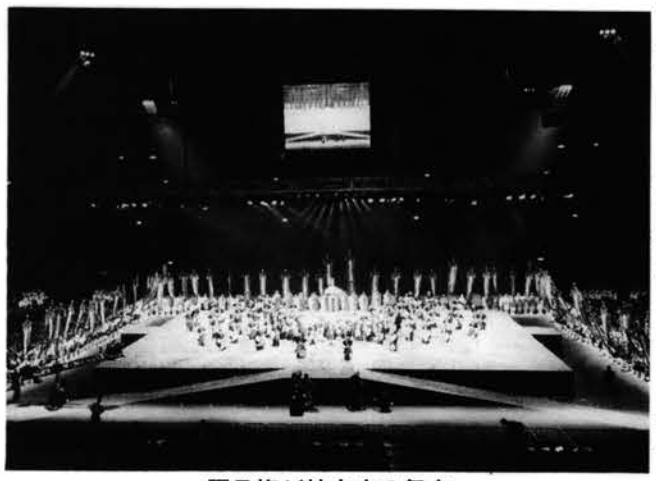
誓願の燈分燈式、玄題旗授与に移り、十教区、七十四管区、海外開教区に分燈、同じく玄題旗が授与された。照明が徐々に落された会場舞台の闇の中に美しくかがやく誓願の燈が印象的であった。

舞台は一転力強い笛、太鼓と共に五組の万燈が入場、軽快で華やかな気分が会場に満ちた。

うちふる纏（まとい）、太鼓とカネ、笛のリズムにのりながらそれぞれ舞台にのぼり宝塔を拝む。

厳粛と快適の対比、これも日蓮主義の特色であろうか。

楽しく快適な気分が高揚する中で発願大会の閉会が宣せられた。


題目旗が林立する舞台


中央に安置された宝塔

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派（役職含）	門連役職	就任	退任
平八・六・一七	奥邨正寛師	日蓮宗宗務総長	理事長	就任	退任
	永井祥文師	日蓮宗宗務総長	理事長		
七・八	久保木日秀師	法華宗本門流管長	顧問	就任	退任
	和田日攝師	法華宗本門流管長	顧問		
六・一七	御牧日勤師	本門佛立宗講有	顧問		退任
九・二〇	井上日慶師	本門佛立宗講有	顧問	就任	
八・二六	田中香浦氏	国柱会会長	顧問		退任
一一・一五	田中隆一氏	国柱会会長	顧問	就任	
平九・一・一	嘉儀日有師	京都門下連合会長	常任理事	就任	退任
	金山日龍師	京都門下連合会長			
	佐藤智明師	京都門下連合会理事長			
	杉若恵隆師	京都門下連合会副理事長			
	飯田信栄師	京都門下連合会理事長			
	杉若恵隆師	京都門下連合会理事長			
一・二三	牧野琢成師	法華宗陣門流宗務総長	常任理事	就任	退任
	土屋善敬師	法華宗陣門流宗務総長			
	布施慧光師	法華宗陣門流宗務総長			
	佐古弘文師	法華宗陣門流	理事		
	山田信正師	顕本法華宗宗務総長	常任理事	就任	退任
	中山昭夫師	顕本法華宗宗務総長			
	田島敏義師	顕本法華宗	理事		
	山本学人師	顕本法華宗			
三・五	上田浩岳師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任	退任
	吉田研宏師	法華宗真門流宗務総長			
	堀内邦雅師	法華宗真門流	理事		
	上田浩岳師	法華宗真門流			
	田中諦常師	法華宗真門流	理事		
	水野智啓師	法華宗真門流			
三・二七	関口　宏氏	国柱会	理事	就任	退任
	淀野寿夫氏	国柱会	理事		
三・三一					

ないが、ある旅。

あなたが見たこともない風景がある。
体験したこともない感動がある。
味わったこともない味覚がある。
想像したこともない出会いがある。
「ない」が「ある」旅へ
東急観光がご案内いたします。

21世紀へ豊かさを深める　とうきゅうグループ



豊かな感動のステージへ
東急観光
運輸大臣登録一般旅行業第38号 日本旅行業協会会員
〒153 東京都目黒区東山3-8-1東急観光大橋ビル5階 ☎03(5704)3757

■団参旅行には東急観光をご用命下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所がお待ちしております。

本社・団体顧客部
〒153　東京都目黒区東山3－8－1
電話　03－5704－3761

北海道営業本部・販売課
〒060　北海道札幌市中央区北二条西2－15
電話　011－241－0303

東北営業本部・販売課
〒980　宮城県仙台市青葉区中央1－6－18
電話　022－263－1711
（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）

関東営業本部・販売課
〒153　東京都目黒区大橋1－5－3
電話　03－5489－6777
（茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県藤沢市・新潟県・山梨県・静岡県熱海市）

東京営業本部・販売課
〒153　東京都目黒区大橋1－5－3
電話　03－5489－6760
（東京都・神奈川県横浜市、川崎市）

中部営業本部・販売課
〒460　愛知県名古屋市中区丸の内2－17－18
電話　052－232－1721
（愛知県・富山県・石川県・福井県・長野県・静岡県静岡市、浜松市・三重県）

関西営業本部・販売課
〒541　大阪府大阪市中央区瓦町4－2－14
電話　06－226－1090
（大阪府・滋賀県・京都府・京都府福知山市・兵庫県・奈良県・和歌山県）

中四国営業本部・販売課
〒730　広島県広島市中区立町2－27
電話　082－249－0109
（広島県・鳥取県・島根県・岡山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県）

九州営業本部・販売課
〒810　福岡県福岡市中央区天神1－15－3
電話　092－712－2561
（福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県）

祈

立教開宗七五〇年
奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 田中日淳
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 岩間湛正
綜合企画部長 渡辺清明
庶務部長 栗原正震
財務部長 星光喩
教務部長 齋藤邦昭
護法伝道部長 小倉光雄
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 新井貫厚
現代宗教研究所長 石川浩徳
国際開教室長 上田尚正
人権対策室長 大乗文延
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 三坂恵人

法華宗(本門流)宗務院

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 和田日攝
宗務総長 川口日唱
教学部長 圓成淳龍
財務部長 原井慈鳳
庶務部長 桃井晋城
教化部長 坂巻顕導

顕本法華宗宗務院

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 中山昭夫
宗務次長 山本学人
財務部長 白井謙光
布教部長 大川定信
教務部長 奥村智学
社会部長 鈴木無着
庶務部長 三坂岳応
主事 山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

法華宗(陣門流)宗務院

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 土屋善敬
総務部長 都築哲信
教学部長 佐古弘文
教化部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602 京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講尊 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 佐藤智明
総務部長 教学部長 原眞昭
財務部長 柳下義眞
法務部長 高橋寛承

法華宗(真門流)宗務庁

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 真枝日世
宗務総長 吉田研宏
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
教化部長 寺田完英
社会部長 中西順英
財務部長 水野智啓

本門法華宗宗務院

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 松本日望
宗務総長 高辺信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

宗教法人

国柱会

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 三田道弘
副理事長 入江克郎
門連常任理事 大橋邦正
門連理事 淀野寿夫
本部事務局長 石見良教

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長 金山日龍
副会長 松本日望
理事長 杉若恵隆
副理事長 飯田信栄

日本山妙法寺

〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人 今井行順
東京都千代田区九段北三―二―三

天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
〒150 東京都渋谷区神泉八―七

共通の課題を探る

共にお題目を唱えよう

A　午前中の会議の皆様のご意見を集約いたしまして、第十六号の『門連だより』を八面建てといたしまして、試みに編集委員の皆さんに「日蓮門下共通の課題を探る」と題して、立教開宗七百五十年に向かって、何か我々は取り組むべき共通の課題があるんじゃないかということを中心に、匿名の座談会ということで、腹蔵なく、ご自由に皆さんの描いている夢というか、何でも結構ですから、これから小一時間、ご意見を述べていただきたいと思います。

七百遠忌の時は日蓮聖人展、日蓮聖人劇、オラトリオ日蓮聖人の演奏発表、日蓮聖人門下青年の船といったふうに、対外的な接点を持った活動が門下連合会として行われたということ。

もう少しさかのぼりますと、創価学会等の動きに対して、門下連合として創価学会批判の講演会を日比谷公会堂で行ったり、そうした門下としての事業が行われたわけでございます。

七百遠忌が終わりまして、既に十七年を経たわけでございますけれども、いまだ門下連合会として共通の課題、そして取り組むべき事業については模索しているところというのが現状ではないかと思います。

一口に門下連合共通の課題といいましても非常に幅が広いと思いますが、切り口はどういうことでも結構でございます。ご提言でも、要望でも結構でございます。それはこう思うということでも結構でございます。ぜひご発言をいただきたいと思います。

B　私は立正大学を卒業して、日蓮宗に身内が多いものですから、生まれは顕本のお寺でしたけれども、戦後のどさくさの中で一巡したわけです。日蓮宗、法華宗ということで、ずっと、そういう内容を知らずに、自分なりにいろんな悩みとかいろいろあったもので……。

たまたま、今回、日蓮宗新聞を拝見しまして、七五〇に向かっての日蓮聖人の大恩に報いる姿勢というものが伝わってきまして、清澄への唱題行脚に参加させていただいたんですが、学生時代とか、日青で唱題行脚をしましたけれども、やはり日蓮聖人立教開宗七五〇に向かって、今でなければできないというふうな気持ちになりまして、日蓮門下僧侶として、今できることといえば、まずお題目を唱えて一般の僧侶に伝えていく、体で示していく、法要とか、あるいはイベントというのは非常に大事でしょうけれども、やはりまず僧侶としての自覚というんですかね、二十一世紀に向かって、私のところは何々宗だからというのでなく日蓮聖人の原点に帰るという意味で、まずできることといえば、門下で言えばお題目を通じてお互いが一緒に行をする。それを皮切りに何か新しいものを生み出していく。そういう気持ちになれたらなと思うんですね。

私、たまたま音楽のほうをやっていますけれども、日蓮門下という形でお世話になっていますが、たまたまうちの本山においても、人が足りないときにお願いしたりしているんです。できれば門下で、どなたかやっていらっしゃる方がいたら、お互いに足らない分を助け合っていくとか、そういうことができたらいいのではないかと思っております。

A　ありがとうございました。たまたま日蓮宗北海道の松前法華寺の中里観正という方が、七五〇に向かって報恩行というか、誓願行脚と申しますか、毎月一回、小湊から清澄へ一人で唱題行脚の誓願を立てられたんですが、その趣意に賛同されて共にお題目を唱えようということで、顕本法華宗のお上人が共感をされて、体を使って、そういうことをやってみようということで参加された、その感想が述べられたわけです。

確かに門下でお題目というものが、本当に共通の基盤であるわけで、そうした極めて具体的な行についてのお話であったわけです。

なぜ人が集まらないのか

C　私の立場は皆さんとちょっと違うて、京都の門下連合会全体の中での編集委員で来ていますから、各所属団体としてではなくて、京都門連の話でいいですか。

A　結構です。

C　京都の門連というのは、五十年以上の歴史があるわけですけれども、近年、企画はかなり充実したものがありますけれども、京都門連の現在の悩みは、人がなかなか集まらないというのが非常に大きな問題があります。

京都門連は四大事業として、まず二月の降誕会、四月には比叡山横川で開宗会、夏八月には本能寺会館を借り切っての夏季大学、秋・十月のお会式を、何十年と続けてきているわけですけれども、どうも人がなかなか集まってこない。

これはやっぱり教師の門連に対する自覚がどれだけあるか。先ほど共通のお題目を通して布教展開という話がBさんからありましたけれども、京都門連の場合、教師の門連に対する自覚というもの、意識が非常に難しくなってきています。例えば、どこの宗派にも関係なく、一つの大同団結だということは、これは理想でありますけれども、先般、京都の門下の青年会が集まって、顕本法華宗の山本学人さんに講師をお願いして、大同団結、大同団結という話をするんですけれども、最後はやっぱりこだわってしまう。一つの組織にまとまるかというと、なかなかそういうことは難しくなる。

でも、京都のええところは、そういった青年会組織があるということと、その青年会組織が門連の行事に参画してお手伝いをする。そして門連の意識を高めていく。ここまではすばらしいんですけれども、あとやっぱり檀信徒への布教というか、それがまだまだ意識が足らないんじゃないかなということです。

だから、今おっしゃったいろんなことに参加しながら、門連の意識を高めていかないといけない。自分の宗派だけでやればいいというふうなのが、京都の場合やっぱり充満しつつありますので、こういう七五〇のいい時期に教師の自覚と、門連に対する意識を高めていただきたいなと思っています。

地道な行動で示す

D　私もBさんと同じ法華宗でございますけれども、実は今みたいな話を、木更津からここに来る間にいろいろ話をしていたんです。この日蓮門下連合会は日蓮宗さんが一番大きいわけですけれども、大小さまざまな教団の代表の方々がこうやってお集まりのわけでございます。私が門連意識を強く持ちましたのは、先ほどCさんのほうから京都門連のお話がありましたが、私も七百遠忌のときには京都で修行しておりまして、京都門連の唱題行に参加させていただいたということがありました。それで、ほかの門流の方とも交流があって、非常に親しみがわいた。日蓮門下は顕本だけじゃなくて、日蓮宗さん初め本門さん、陣門さん、日蓮本宗さん、そのほか大勢いらっしゃるんだなということで、そのときに初めて私も門連の一員という自覚を持ったわけでございます。

現状を見ますと、顕本はほとんどお寺の三の二ぐらいは千葉県に集中しているんですけれども、その中でもなかなか、ひとつの宗派としてまとまって何かやろうと思ったときに、どうしても自坊の法務優先ですとか、地域で動こうとした場合でも難しいという状況の中で、門下が一致してやっていくということの難しさというんですかね、ですから、Bさんもそのジレンマというものを大変感じていらっしゃって、本当は自分の周りの仲間が一緒にやってほしいと、そういうようなことはあるんでしょうけれども、それが、現状では自分の足元さえもまとめることが難しいような実情があるんですよということなんです。

京都門連さんのお話を聞いていてうらやましいなと思うのは、少なくとも京都というエリアに関しては、そういう組織ができているというだけでも、私はすばらしいことだなと思うんです。

ですから、私も含めて、ここにお集まりの皆様方一人一人の自覚の中で、どのようにそういう話を自分の門流に持ち帰って広げることができるかということも出てくると思うんです。そしてまた、我々の上にいらっしゃる門連の役員さんの会議なりですね、そういうこともいろいろあると思うんです。

具体的な話にならないんですけれども、先ほどからBさんがおっしゃっているように、まず我々の力で何ができるかということから始めることが一番大事じゃないかなと思います。

極端な話、ここにお集まりのメンバーの中で賛同してくださる方が、何人かを引き連れてできることがあれば、それが第一歩ではないかなと思います。七五〇まで時間がありますので、そういう地道な行動の中で、理屈よりは行動だということで、体で示す、そういうことから始めていったらいいのかなと思います。

どう個人交流を深めるか

E　先ほども編集会議で言いましたけれども、こういう会議ができるというか、話し合い、接する場はできているわけですから、これをもっと拡大したり、もっと深めたりするということが、元と思うんです。

それについては、やはり年に二回ぐらいしか接する機会がない、門連の編集会議のときも、みんなそれはいいことだとなるけれども、いろんな周辺の事情で、結果的には従来の方向になってしまうという現状だから、個人的に交流することが、やっぱり長く続くことだと思う。趣味が合うとかね、仏教と離れたところで、例えば音楽でジャズが好きだとか、車が好きだとか、絵が好きだとか、人それぞれそういうのがあって、自分の立場を離れて、一個人としていろんな感性をぶつけ合ったりできると思うんです。

そういう意味で、やはりそこがベースになって、その先の話だと結構わかるんだけど、あくまでも表面づらで接していますから、なかなか踏み込めない。だから、個人交流をどういう形で……。それは個人個人がやればいいわけですけれど、仲人さんがいたり、結婚相談所があるみたいに、つなぎ役が必要なわけです。

この場がつなぎ役だから、おのおのが宗派を超えて個人的に行ったり来たりね、寺と寺とか僧侶と僧侶という意識じゃなくて、一人の人間と人間が個人交流することが、結果的に自然と交流になって、それが今度は檀信徒も連れていってね、普通だったらほかのところには行かないんだけれども、そういうことで檀家さんまで引き連れて、お互い行ったり来たりする、そういうことが紹介されていって、こういう交流もしているんだなと。それが草の根的に実際の門連の活動の深みを増すというか、着実にしていくんじゃないか。

編集会議だから、きょうは編集のことだけで、それ以外のことはというふうに、どうしても常識でいくと、そうなっちゃいますけれども、今回みたいに、こういう座談会みたいに

日蓮門下

編集委員座談会



議論白熱した編集会議。今後もどしどし行いたい。

いけばいいわけです。

約束をすれば、すぐは実現しなくても、行きますよと言っていれば、それは三年後に行くかわからない。そうやってお互いが行き来し合おうという口約束だけでもしていれば、「近くに来たから」とか、何かのときに行けると思うんです。

そういうふうに、個人的な立場から入っていく。せっかくこういう場があるわけですから。そうすると、もう少し突っ込んだこと、あそこがこうやっていらっしゃる、じゃ、今度うちの法要のときお願いしようかとかってね。その人がどういうことをして、どういう考え方かというのは、やっぱりその人を理解しないと、お願いするわけにもいかない。お互いが理解し合うためには、個人サイドの交流の機会を一回でも多くつくってね、また相手の陣地を訪れないとわかんないですから。だから、会議でも、今度は千葉でやろうとかね、北陸のほうでやろうとか、東北のほうでやろうとか、そういう形にしていくことが、まず最初じゃないかと思います。

画一的にやっていっても、行き詰まっている時代ですから。組織はある、ちゃんと役職もある、企画もある、すべてのルールはできているんだけど、動かないというのは、本当に個人と個人がぶりかり合えない、お互いの領域を破らないという、ちょうど都会の電車の中みたいなもので、同じ乗り物に乗っているんだけど、お互いに干渉しない。相手を受け入れたくないから眠ったふりをするとか、本を読むとか、そばにいるんだけど相手を受け入れようとしないわけです。

そういうことで、いかにしてお互い受け入れ合うかということが出発だと思います。その先に、歴史がいろいろあって、どうして共にできないかということがある。先輩はそうだったけど、我々はそれでいいのかどうかということですね。

A　法務を通じては、かなり交流というか、それはあると思うんですよね。ただ、Bさんがおっしゃったように、何か一つそういうものを通じて門下が一緒にやるというようなことは、あまり聞かないんですよね。

E　法要とかね、法務で交流はダメなんです。バイクが好きだとか、車が好きだとか、ジャズ音楽が好きだとか、そういうところまでつながっていかないと。法務だと個人の都合だけではいかない。やっぱりいろんなことがかかわりますとね。

C　そう。「近所まで来たから寄ったよ」みたいなね、気軽にそういうような交流ね。

F　京都さんの門下青年会の交流の輪は深いですね。青年僧の交流というのは大事だと思います。それも他門流との。京都はそれがすばらしいですね。ときに、そうやって交流しているから、その作業もスムーズにいくわけでしょう。

C　コンピューターの最近のインターネットね、ホームページに日蓮門下の学習会があるとか研修会があるということを入れておきますと、一般の人も今やっていますから、今度は何かなと思って見る。

B　門連のホームページをつくりましょう。私もコンピューターの仕事をしている。坊さんだけでなくて、外部の人の悩みごととかね、そういうのを、こちらも整理しなければ大変ですけどね。

E　個人のホームページだと、アクセスするまでに疲れてしまうから、ある程度大きいものだとね、窓口になるからね。今はインターネットは個人レベルなんていったら、そこにたどりつくので大変だからね。日経新聞だって、その中で自分の好きなところにたどりつくのに、始めて一ヵ月ぐらいの人だと嫌になってしまう。自分の見たいところまでに行くまでにはね。

拠点としての地区門連

A　Fさん、どうです。

F　人と人の交流というのが一番中心になるというわけですが、やっぱり何か企画がないとなかなかうまくいかないのではないか。私は浅草ですけれども、浅草の有名な鬼子母神さんとか何軒かありますけれども、仏教会関係でちょっと会ったことがありますけれども、ほとんど今は没交渉です。

それで、ひとつの企画ということですけれども、私どものやっているのは、各地区に何かできないのかなという頭があるんですけれども、これは失敗しているわけです。Aさんの話にもあったように、七百遠忌というか外的な一本の柱も大事なんですけれども。その前に内的なものもあったんです。

わたしも門連だより十四号に書かしていただいたんですが、六百五十遠忌のときは、各派の合同講習会を開いて、門下統合の機運がかなり出回ったんですね。

地区で講習会なり、あとはさっきお話のあったような、ああいう講習会ということは差しさわりがあるんで、私なんかも管区でやっていまして、年五回、管区合同ですけれども、いろんな方を引っ張ってきて、今のところは僧侶だけでやっている。パンフ、教箋をつくりまして、ことしの後半ぐらいからは檀信徒も巻き込んで、檀信徒がずいぶん入っているんですがね、檀信徒も参加して一緒にやる、そんな感じで、最終的には清澄まで上げるかという話があります。距離が短いから、できたら鎌倉から清澄のほうがいいかもしれないですね。

今度の開宗七百五十年では、何かできないかなと。できれば共同の講習会でも……。何しろまず顔がわからないと話になりません。

A　今お話の地方門連というか、各地区の結成推進というのは、中央の門連が新しい予算的な面でも、企画の面でもなかなか動きがとれない現状の中で、北海道門連と大阪門下懇話会というのが結成しました。やはり地区門連というか、そういうものができれば、それぞれやはり年間の予算をつけ、行事を考え、合同講習会をやったり、ずいぶんやっているんですよね。北海道門連、大阪門下懇話会は、まだ門下連合会に正式加入には至っていませんけれども、それなりにやはりきちんと年間の活動を行っているわけです。

ですから、必ずしも中央が活動しなくても、今、Fさんが言うように、拠点、拠点に門下連合の地区門連をつくっていくというのも一つの方法として、お金のかかる問題でなくて、その地区が活性化すればいいわけなんで、それは一つのご意見かなと思うんです。

F　目的にも書いていますよね、地方門下連合会の……。

対社会に向けた運動を

G　ここに集まっている方々は、皆さんお題目で統一されて集まってきていると思うんです。言いたいのは、それで集まってきた人たちが、なぜ一般の方たちにご教区で折伏をなさらないのか。ここにいる方たちは、私を含めてそうですけれども、既成仏教化されているんじゃないか。七百五十年に向けて、私もそうですけれども、一人を教化しよう、二人を教化しよう、そういう目的を持って七百五十年を迎えたい。私はそう思っている。

H　今、皆さんがお話しになったような意味で、一つ一つの交流ということですけれども、将来を考えるとき、京都の門連の青年部の皆さんのように、若い人たちに、ひとつ焦点を当てていくべきではないか。

かつて「青年の船」をやったわけですけれども、その後何もやらなくて立ち消えになってしまったんですけど、あれは相当きめ細やかに継続的にやっていれば、大きな核になったと思うんです。今からでも遅くないから、乗船した人たちに呼びかけてはどうか。住所も変わっていると思いますけれども、七百五十年に向けて、やはり若い人の結集というようなものも、希望のある明るい事業になってくると思うんです。いろいろ若い人の結集、どういう企画をするか、具体的に考えていきたいですね。

私共、国柱会なんですけれども、在家仏教で歴史が百十年たっていますと、三代目、四代目になってきていますから、若い人を育てるというのは非常に重大な課題になっております。

何としても若い人を育成しなきゃいけないという大きな課題ではあるんですけれども、難しいことです。

一方、国柱会には宗門統一という大きな主張があるわけです。祖廟中心宗門統一というのは国柱会の一つのモットーでありまして、本当に日蓮聖人御門下が日蓮聖人のご教示のもとに一つになれれば、国柱会は使命をはたし会の組織は要らないわけですから、解散するということになっているのです。一日も早く解散するために頑張っているようなものですけれども、なかなか現実はそういきません。

田中智学門下にも諸団体がありまして、ご存じの方もあるかと思いますけれども、青年が集まり田中智学門下青年協議会というのですが、二十年前につくったんです。青年だけでも一緒になっていろいろやろうじゃないかということで、二十年前に結成されて、私も委員長を務めたことがあります。

しかしながら、大きな組織にはなり得ないで、人数的には小さいんですけれども、何か対外的な、対社会的な運動もしなければいけないという長年の懸案がありました。私が委員長をやっているときに、何か実現しようじゃないかということで、いろいろ相談の結果、今、四月二十九日が「みどりの日」になっています。ご存じのように、戦前は天長節、戦後は天皇誕生日だったわけですけれども、それがわけのわからない「みどりの日」となっていますんで、それを何とか「昭和の日」に変えようということで、田中智学門下青年協議会が「みどりの日」を「昭和の日」に改名する運動というのを、平成五年に起こしたのです。

今も一生懸命にやっているんですけれども、なかなか小さな団体がやっていたんじゃ大きく発展しませんので、国民的なネットワークをつくろうということで、昨年十二月から「みどりの日を昭和の日に改める国民ネットワーク」という組織ができ上がりまして、外部の人たちにも入っていただいて、田中智学門下青年協議会から手が離れたような形ですけれども、しかし、中核は我々が中心になって、今、大きく発展しかけているという、非常にうれしい状況になっています。

今年の四月二十八日に東条会館で前夜祭・国民集会のイベントをやりました。満員になって非常に盛会だったんですけれども、産経新聞が非常に好意的に取り上げてくれて、だんだん社会的な認知の広がりができてきたという状況です。大きく国会議員にも働きかけて、何とかこれを実現しようと運動を展開中で、田中智学門下青年協議会がそうした運動で結束しているわけです。

それと同じように、日蓮聖人門下連合会を集め協力して、マスコミに取り上げられるような社会的な運動をやりたい。それを堀り起こしてやるならば、それが一つの大きな活性化となって、門連自体も動かせるようなパワーみたいなものが出てくるような気もするんですね。（つづく）

祈・立教開宗七五〇年 奉讃円成

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四
主務 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三一一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 田中日淳

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫首 真枝日世
執事長 岩崎峻暉
執事 笹木研秀

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 吉永日晴
総務 中村通義
執事 津村乗信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 小松正学

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―一〇
電話 〇二五六(三一)〇〇〇八
首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之

日蓮本宗
本山要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 佐藤智明
執事 原眞昭
執事 柳下義眞
執事 高橋寛承

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二一〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職二十二世隅宥 井上日慶
事務局長 信徒総代 小倉徳治郎

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 杉山日慎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
貫首 山田一光
執事長 原光司

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
〒607 京都市山科区御陵大岩町六
電話 〇七五(五九三)九一九一
貫首 久村諦道

日蓮宗本山
北山本門寺
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 〇五四四(五八)一〇〇四

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成九年度随身生募集中
山主 駒野教格

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首 土屋学周
参与 山田完修
同 新井智清
同 末吉啓宣
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝

門連時報

身延祖廟参拝・理事会開催される

日蓮聖人門下連合会加盟各派代表者による身延山の祖廟参詣・理事会が、六月十二日行われた。

当日午後一時、祖廟常唱殿に参集、永井祥文理事長を先頭に行列を組み、撃鼓唱題しつつ祖廟に進んだ一行は、永井理事長を導師として至心に報恩謝徳、異体同心の法味を捧げた。続いて御草庵趾を参拝した。

下部ホテルに移動、午後二時四十五分より理事会開催。全員自己紹介の後開会。

平成八年度事業報告、平成八年度決算、平成九年度予算をそれぞれ承認、地方門連活動については京都日蓮聖人門下連合会報告を杉若恵隆師が、北海道日蓮聖人門下連合会報告を田中文教師が、大阪門下懇話会報告を木下恵温師がそれぞれ行った。

京都門連における降誕会法要、開宗会、お会式法要の奉行、夏期大学の開催など、門下各派協力一致のもとで行われている実情が報告された。

北海道門連は昨年役員改選が行われ、未だ実動に至っていない現状と共に、将来に向かっての抱負が語られた。大阪門下懇話会も去る五月二十二日役員改選（三田村理事長御退任、木下理事長御就任）が行われた事、また研修会、報恩行事、親睦総会など年間行事が定着している実情、とくに昨年六月京都本山バスツアーの実施（一五〇名、バス四台）をふまえ、祖廟参拝を目標としたいこと、同じく八月十一日国柱会大橋冨士子講師を招いて「宮澤賢治と法華経の世界」と題し講演をいただいた事、十月二十六日には第四回報恩お会式を実施した事、加盟団体九・会員一七二名の現況が報告された。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関しては、懸案の国立東京博物館を会場とする日蓮聖人門下文化展（仮称）企画について、更に継続して問題点を煮詰めていく事が確認された。

出席者（敬称略）永井祥文、渡辺清明、川口日唱、中山昭夫、山本学人、土屋善敬、都築哲信、佐古弘文、山下通雄、淀野寿夫、石山善邦、杉若恵隆、飯田信栄、田中文教、山下恵温、富川孝恭、長谷川義彰、須加晃正、金森錬成、太田順祥、以上。



日蓮聖人門下連合会祖廟参拝　平成9年6月12日



靈山橋を渡り祖廟へ向かう。

京都日蓮聖人門下青年会 平成九年度総会開催

京都日蓮聖人門下青年会（赤田泰宏会長―法華宗本門流）の平成九年度総会が、一月二十九日太公で開催され、各宗各派会員十五名が参加した。

平成九年度会務計画が報告され、門下連合会の各行事参加を中心に、唱題行脚、勉強会、バレーボール大会、OBとの懇親会、研修旅行等が了承され、今後の門下青年会の大同団結を誓い合い懇親を深めた。

平成九年度役員は、幹事長―赤田泰宏（法華宗本門流）、副幹事長―梅本光祥（日蓮宗）、副幹事長―赤塚高明（法華宗陣門流）、会計―安東靖弘（顕本法華宗）、庶務―嘉儀吉裕（日蓮本宗）、庶務―藤井照源（日蓮宗）、幹事―阿南光節（本門法華宗）、幹事―一之部知孝（日蓮宗）、幹事―川合陽雄（日蓮宗）、幹事―藤田尚哉（日蓮宗）、幹事―清田学英（日蓮宗）

（藤井照源）



京都門連青年会総会

京都門連開宗会 比叡山大講堂で奉行

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）は、四月二十六日比叡山延暦寺大講堂に於いて、宗祖日蓮大聖人立教開宗会を奉行し、僧侶檀信徒約百五十名が参加した。

参加者は、本山頂妙寺に集合バス三台で出発、延暦寺に到着後、法華宗真門流学林長上嶋智岳師による「一日即一生」の講演を聞いた。

上嶋師は、「人生は色んな生き方があるが、すべて一日一日の積み重ねである。一日の大切さを常に感じ、お題目の信仰を積み重ねてほしい」と力説した。

法要は本山本法寺金山日龍貫首を導師に、杉若理事長と飯田信栄副理事長（本門法華宗）が副導師、京都日蓮宗雅楽会出座のもと厳修され、参列者一同御報恩の誠を讃えた。又、延暦寺より、中山玄晋副執行、山形法湛副執行が来賓として出席された。

法要後、横川定光院を参拝し日蓮大聖人のご修行時代を尊び、その後、天台寺門宗総本山三井園城寺を拝観、立教開宗会の日程を終了した。

（藤井照源）



京都門連開宗会

お題目の「商標登録」について

昭和六十一年四月四日、特許庁へ某酒造会社より、商標登録願が提出された。指定商品は酒類で、商品名は「南無妙法蓮華経」である。しかし、同年十月二十六日には特許庁審査官より拒絶すべきものと認められ、却下される。理由としては、「日蓮宗の三大秘法の一つである南無妙法蓮華経を営利を目的とする商標として登録することは、社会の一般的道徳観念に反するものであって、同宗派に対する尊崇の念を失わせるものであるから、これを登録することは適当でないものと認める」と述べられている。誠に公正賢明な判断というべきであるが、これを不服とした出願人は、再三に亘り意見書を提出し、平成九年三月十九日付商標としての認可が下りてしまった。理由は、①本願商標をその指定商品について使用することが宗教に対する冒瀆であるとまではいえない。②公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあるとすることはできない。といったことで、日蓮宗の登録異議の申立ては、理由がないものとされた。今後の対応として、お題目を守る為に門連が一致協力し、連名にて許可無効の申請を継続していくこととなった。

（六月十二日身延理事会にて決定）

好評発売中!!　団体参拝・記念行事等にぜひご利用下さい

750年慶讃記念行衣

弊社では、平成14年(2002)の立教開宗750を迎えるに当たり、田中日淳管長猊下のご協力を仰ぎ「記念行衣」をご用意いたしました。

1着；5,000円

この他、

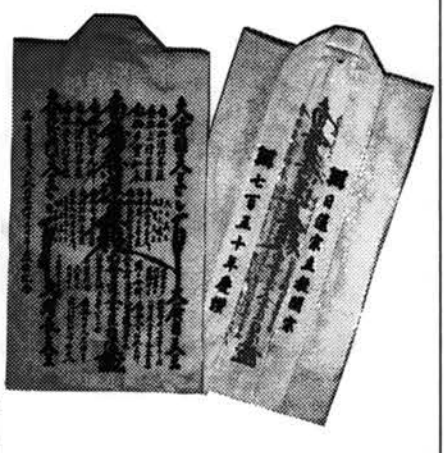
行　衣　1着；5,000円
岩間日勇法主猊下ご染筆

白無地行衣　1着；3,000円

もございます。

サイズはすべて下記の通りです。

（L）裄75cm・丈85cm
（M）裄65cm・丈70cm



檀信徒肩章

2,700円
（お題目入り）
3,000円

新規程幅　7cm
日蓮宗宗制改定にともない、幅4cmを7cmに変更いたしました。
色／こげ茶
紋／井桁に橘
素材／正絹
（山号・寺院名染め抜きは料金別途）



御首題帳

1,500円

日蓮宗全国五十六本山の貫首さま直筆のご首題をあますところなく掲載しました。また、予備紙付きですので、一般寺院参拝の折にもご朱印をいただけます。



B6判変形（天地18×左右12.2×厚さ2.3cm）

※送料は別途請求となっております

お問い合わせは　日蓮宗新聞社
〒146　東京都大田区池上7－23－3
TEL 03-3755-5271(代表)，FAX 03-3753-7028

各派・教団 短信

日蓮宗

◘平成9年9月2日・3日と、新宿の常円寺に於いて、第2回海外布教セミナーが開催される。参加する約30名の日蓮宗僧侶に、世界に広まりつつある日蓮宗の海外開教、特に実際に米国ボストンで開教にあたる外国人僧侶による、新地開教についての講義が行われる。

◘76定期宗会にて、日蓮宗所定の加行所は、正中山法華経寺内にこれを置き、加行の場は法華経寺行堂並びに遠寿院行堂にこれを設けることが議決された。

◘日蓮宗宗務院内の機構改革を行う為、外部より専門会社のビジネス・コンサルティングを頼み、院内のよりよい職場の環境づくり及び、職員の志気向上を目指す。

◘立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として、清澄寺に記念研修会館が建立される。着工予定は今年10月頃の予定。

（富川孝恭）

国柱会

◘妙宗大霊廟創建七十年（明後年春）をめざして結縁拡充運動を展開中。◘「正しい宗教Q&A」勉強会毎月供養会後に開会。◘3月7日、国柱会中央連合協議会で武蔵野御陵清掃奉仕。◘4月3日、国性文芸会により靖国神社に芸術奉納。◘4月6日、恒例の「申孝園桜まつり」開催。◘4月28日～29日、第67回「身延登詣団」実施。長年、登詣団を統率した田中香浦団長の帰寂にともない新団長に田中暉丘会長が就任。一日目、身延大祖廟前で立正会慶讃法要厳修。二日目、思親閣登詣、山頂で報恩集会。両日とも団長より記念講演。◘5月10～11日、中連婦人部蓮華サークル主催で花巻へ「宮沢賢治に逢う旅」。同サークルは例会で賢治の童話を学んでいる。◘6月7～8日、講師補養成研修会並びに任用試験。◘全国各地方連合会局主催で日蓮主義講習会並びに儀典研修会を開催。

（秋場善彌）

京都門下連合会

◘平成9年度会長―本山本法寺貫首金山寛成猊下、副会長―大本山妙蓮寺貫首吉村日義猊下、理事長―日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師、副理事長―大本山妙蓮寺執事長飯田信栄師に決定する。

◘1月22日理事会。於本能寺会館、平成9年度役員確認・平成8年度決算報告・平成9年度会務事業計画・平成9年度予算案・平成9年度総会の件・平成9年度降誕会の件。

◘2月16日総会・降誕会。於本山頂妙寺。平成9年度役員紹介・平成8年度決算承認の件・平成9年度会務事業計画の件・平成9年度予算案承認の件。隆誕会―大導師は本山頂妙寺貫首土屋学周猊下、法話は本山本禅寺貫首福井日進猊下、おうどんの供養あり。

◘3月14日理事会。於本山頂妙寺、開宗会の件・夏季大学の件。

◘4月26日開宗会。法要―比叡山大講堂に於いて奉行、大導師は本山本法寺貫首金山寛成猊下、法話は法華宗真門流学林長上嶋智岳師。法要後、横川定光院を参詣、天台寺門宗総本山三井園城寺を拝観する。

◘尚、今後の予定として、8月25日本能寺会館に於いて夏季大学、10月4日（場所未定）御会式がある。

（藤井照源）

顕本法華宗

◘4月30日、「第52臨時宗会」新内局発足に伴う人事案件など審議。

◘5月10～11日、「総本山妙満寺春季大法要」「阪神淡路大震災第3回忌追悼法要、宗祖開祖報恩法要など2日間六座の法要を厳修し、全国各地より参集の僧侶・善男善女の唱題の声が鳴り響いた。

◘6月16日、「東部連合会僧員講習会」品川天妙國寺において法味言上の後、松原泰道師を講師にお招きし、法華経人生論のご講義を頂いた。

◘6月21～22日、「三派統合学林」顕本・陣門・真門の三派による統合学林が、品川天妙國寺において開催。

◘6月25～26日、「西部講習会」。

◘7月25～28日、「顕本青少年錬成会」総本山妙満寺を会場に、全国の小学校高学年・中高生を対象に『助け合う心を大切に』を主眼において、約百名の子供たちが小さな修行を体験した。朝の勤行・清掃から始まり、信行、唱題行から市内見学、キャンプファイヤーに至るまでバラエティーに富んだ内容となっている。

（多門顕正）

日蓮本宗

◘例年、第二祖日興上人御命日の2月7日に行われている『教師研修会』が、新築成った庫裏「大書院」に於いて実施された。

6日の御逮夜法要に続いて、7日朝勤時に法味を言上し御報恩の誠を捧げ、続いて午前9時より丹治日遠台下による「御義口伝」についての御講話を拝受し、昼食後散会した。

◘2月27日、第六十四回宗会・門末会が、本山要法寺「大書院」に於いて開催された。

平成7年度決算承認、平成9年度事業計画案、同予算案等が審議され、それぞれ承認された後、現当局辞任と、次期当局選任の議題に移り、現当局を代表して宗務総長より、任期を一年余り残してはいるが、大事業の完了を期に辞任したい旨の発言がなされ、これを受けて宗会議員の中から五名の選考委員が選出され、選考の体勢に入った。

◘5月8日午後一時より、本山要法寺御開山日尊上人第六百五十三年御報恩法要が厳修された。これに先だって午前10時より第26回要法護持会全国分会長会議が開催された。

（柳下正則）

法華宗真門流

◘2月27日教区布教師会、布教師会を開催。本年度の布教計画を作成。3月27日新内局発足、宗務総長に吉田研宏師就任される。3月26日より三日間、12名の寺院子弟が参加し、僧風林が開催された。4月6日総本山本隆寺第百世入歴法燈継承式が挙行され、大島日護聖人（金沢円融寺住職）が入歴された。4月8日より27日まで、春季学林を開講、本科・専門科それぞれ講座が開かれた。4月11日より三日間、総本山本隆寺において、千部会が厳修された。

◘5月26日・27日、第一教区では『檀信徒の集い』を開催。伊勢内宮・熱田神宮に参拝後、比島観音前にて戦争犠牲者英霊等追悼回向、隣接の「殉国七士の墓」に参拝、50回忌正当回向法要奉修す。5月29日第三教区では、教師講習会が開催され藤井文英師より（福井・本蔵寺住職）、『新宗法について』と題した講義を受けた。

6月15日第二教区では、檀信徒研修会が開催され、布教師井上隆宏師の『日蓮聖人と御法難』と題する法話、北陸カルチャークラブ代表、栗田隆司師の『ことば、心の花』と題する講演が行なわれた。6月20日第十三回真門教学講習会が総本山本隆寺客殿にて開催され、『宗門三教区に於ける教線拡張時代』と題して、宗務総長、吉田研宏師の講義及び『三秘と本果実証』と題して宗学研究所々長、林日圓猊下の講義が行なわれた。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘5月22日より26日までの五日間にわたり、新潟県三条市総本山本成寺に於いて、日印聖人開創七百年大法要が執り行われた。22日には記念事業として行った山門改修工事の竣工式、記念事業功労者表彰、23日には陣師講御歴代法要、24日には諸堂祭、25日には永代祠堂納骨諸霊特別回向、他宗来賓者臨席、26日には戦没者追悼法要、交通安全、世界平和祈願。以上の日程で執り行われた。御開山日印聖人の霊跡、聖白牛が座り込み清水が湧き出て青蓮華が咲いたといわれる、牛池「青蓮華院」を中心とし、宝物館に於いて「日印聖人足跡展」と称し、日印聖人ゆかりの御寺院に御協力を得て、ビデオの上映並びに展示を行った。25日の他宗来賓には、顕本法華宗管長吉永日晴上人、国柱会会長田中暉丘御夫妻、法華宗真門流総長吉田研宏上人、日蓮門下連合会理事長代理岩間湛正上人、池上本門寺執事長市川智康上人、日蓮宗新潟本覚寺様、天台宗青龍寺様、以上の方々の臨席を賜り、五日間の法要は盛大裡に執り行われた。

◘6月14日(土)・15日(日)三宗統合協議会（宮城御祈念）。8、9日藤井日達聖人十三回忌。2月10日平和行脚百里基地出発。15日行阿院様六十七回忌法要（熱海）。3月1日ビキニデー平和祈念行脚。4日韓国真寛上人釈放祈念座込。10日東京空襲慰霊行脚。18日原発なくせ祈念行脚（東京）。3月8日～4月8日米国平和巡礼国連本部まで。3月18日核のゴミ搬入反対祈念。20日春季彼岸会法要多摩道場。同日カンボジア「法の行進」（戦火燻る中の行進）。

◘4月6日福岡久山宝塔十周年法要。8日各地釈尊降誕会大法要厳修。13日吉野山宝塔記念法要。27日立宗会清澄山参詣。28日平和祈念行脚結団出発式。5月3日多摩道場法要。5日肥前宝塔記念法要。11日阿蘇仙酔峡宝塔祈念法要。12日伊豆法難会参詣。18日別府宝塔祈念法要。25日広島美土里宝塔地鎮祭。28日藤井行静尊尼遷化密葬。25日西天開教祈念法要（熱海）。

（石山善邦）

本門佛立宗

◘仏立第22世講有日慶上人は、6月20日より7月5日の16日間、海外弘通拠点激励の御奉公としてブラジル11ヶ寺、アメリカロサンゼルス親会場へ海外巡教に出かけられた。随行参詣は30名。今回のご巡教では、ブラジル仏立宗開教導師・茨木日水上人の御27回忌（リンス大宣寺にて）ご法要が主目的。併せて来たる二〇〇二年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七百五十年報恩の意義を伝弘浸透のため。

◘去る4月20日、京都本山宥清寺の門祖日隆大聖人の御会式当日、特別の一座を設けて「立教開宗七百五十年報恩教化七万五千戸達成の為の全国寺院住職・事務局長（信徒代表）大会」が盛大かつ厳粛に催された。御講有日慶上人は「地涌の菩薩の出現に非んば唱へがたき題目也。日蓮一人はじめは南無妙法蓮花経と唱へしが、二人三人百人と次第に唱へつたふるなり。未来も又しかるべし」との日蓮大士の御妙判を引かれて、全国に諭告を発せられ奮起を促した。

（深沢泉奥）

本門法華宗

◘本門法華宗管長吉村日義猊下が平成9年6月25日を以て退任、次期管長に京都市成願寺松本日望猊下が同26日を以て推戴された。11月12日の開山会に併せ大本山妙蓮寺晋山式執行を予定している。

◘本門法華宗では3月14日の宗会に於いて山下通雄宗会議長以下本門法華宗宗会役員並びに本門法華宗各種委員が選任された。

◘大本山妙蓮寺で6月4日静岡県沼津市正見寺住職杉本日慈上人の第百六世加歴晋山式が厳修された。法類各寺院他門末僧侶はじめ、自坊正見寺より百名を越える檀信徒も参列。また全日空ホテルに移動しての祝宴も盛大に行われた。

◘妙蓮寺で平成9年発見された松尾社一切経が立正大学中尾堯教授監修で『妙蓮寺蔵松尾社一切経調査報告書』として刊行された。また国の重要文化財にも指定されることになり、立教開宗七五〇年奉賛会の記念事業の一環として宗内各寺院に配布された。尚、大塚巧藝社を通じ一般でも入手可能となっている。

◘本門法華宗学院では平成9年3月27・28日に第81回教学講習会、同6月16・17日に第82回教学講習会を大本山妙蓮寺で開催。増田日紘猊下による「本宗教学の基礎概説」、立正大学北川前肇教授の「法華天台両宗勝劣抄に聞く」、飯田執事長指導の「法式作法」他。宗内僧侶・子弟が参加、熱心に聴講、行学に励んだ。

（木村光正）

法華宗本門流

◘任期満了に因り宗会議員が改選され、次の18名が4月1日就任。渡辺俊岳（北海道・本因寺）、杉村真宏（青森・本門寺）、安川要順（千葉・要行寺）、福島泰樹（東京・法昌寺）、冨田学玄（横浜・保土ヶ谷教会）、石田智清（沼津・東之坊）、中村徹隆（静岡・常唱院）、江頭正山（武生・久成寺）、三木智行（上野・本門寺）、赤田泰宏（京都・源妙院）、郡現尊（京都・常住院）、古田日穏（大阪・岡松寺）、菅原隆岳（吹田・法華寺）、三島昭栄（神戸・妙興寺）、日種光顕（兵庫・隆泉寺）、貫名日諦（岡山・本蓮寺）、藤井禎憲（香川・本妙寺）、三浦隆雄（北九州・本光寺）。

◘三浦教学部長の興隆学林長（興隆学林専門学校長）転進に伴い、後任には圓成淳龍師（尼崎・恵運院）が就任（4月1日）。

◘各大本山の千部会法要虔修。沼津・光長寺―4月1～6日、茂原・鷲山寺―4月7～9日、京都・本能寺―5月5～7日、尼崎・本興寺―5月6～8日。大本山本能寺では千部会法要に併せ、開宗七五〇年奉讃事業『大寶殿』地鎮起工法要厳修。

◘第四六次定期宗会は5月21～23日、平成9年度全国宗務所長会は5月28～29日開催。

◘本年度の教学講習会は次の五会場。北海道―8月22～24日、栗山町・本門寺、千葉―10月6～8日、一宮町・松涛軒、大阪―10月6～8日、大阪ガーデンパレス、四国―6月19～20日、徳島・グリーンヒルあなぶき、九州―10月28～30日、種子島・日典寺。

（矢吹慈英）

日本山妙法寺

◘1月1日祝禱会（宮城御祈念）。2月10日平和行脚百里基地出発。15日行阿院様六十七回忌法要（熱海）。3月1日ビキニデー平和祈念行脚。4日韓国真寛上人釈放祈念座込。10日東京空襲慰霊行脚。18日原発なくせ祈念行脚（東京）。3月8日～4月8日米国平和巡礼国連本部まで。3月18日核のゴミ搬入反対祈念。20日春季彼岸会法要多摩道場。同日カンボジア「法の行進」（戦火燻る中の行進）。

◘4月6日福岡久山宝塔十周年法要。8日各地釈尊降誕会大法要厳修。13日吉野山宝塔記念法要。27日立宗会清澄山参詣。28日平和祈念行脚結団出発式。5月3日多摩道場法要。5日肥前宝塔記念法要。11日阿蘇仙酔峡宝塔祈念法要。12日伊豆法難会参詣。18日別府宝塔祈念法要。25日広島美土里宝塔地鎮祭。28日藤井行静尊尼遷化密葬。25日西天開教祈念法要（熱海）。

（石山善邦）

学生講座（陣門・顕本・真門の三宗による統合学院）が顕本法華宗・品川天妙国寺に於いて開催された。講師は顕本法華宗教学研究所員・山形顕応上人で、講題は「これからの僧侶の課題」である。

（今井満良）

◘仏立第22世講有日慶上人は、6月20日より7月5日の16日間、海外弘通拠点激励の御奉公としてブラジル11ヶ寺、アメリカロサンゼルス親会場へ海外巡教に出かけられた。随行参詣は30名。今回のご巡教では、ブラジル仏立宗開教導師・茨木日水上人の御27回忌（リンス大宣寺にて）ご法要が主目的。併せて来たる二〇〇二年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七百五十年報恩の意義を伝弘浸透のため。

◘去る4月20日、京都本山宥清寺の門祖日隆大聖人の御会式当日、特別の一座を設けて「立教開宗七百五十年報恩教化七万五千戸達成の為の全国寺院住職・事務局長（信徒代表）大会」が盛大かつ厳粛に催された。御講有日慶上人は「地涌の菩薩の出現に非んば唱へがたき題目也。日蓮一人はじめは南無妙法蓮花経と唱へしが、二人三人百人と次第に唱へつたふるなり。未来も又しかるべし」との日蓮大士の御妙判を引かれて、全国に諭告を発せられ奮起を促した。

（深沢泉奥）

本門法華宗

◘本門法華宗管長吉村日義猊下が平成9年6月25日を以て退任、次期管長に京都市成願寺松本日望猊下が同26日を以て推戴された。11月12日の開山会に併せ大本山妙蓮寺晋山式執行を予定している。

◘本門法華宗では3月14日の宗会に於いて山下通雄宗会議長以下本門法華宗宗会役員並びに本門法華宗各種委員が選任された。

◘大本山妙蓮寺で6月4日静岡県沼津市正見寺住職杉本日慈上人の第百六世加歴晋山式が厳修された。法類各寺院他門末僧侶はじめ、自坊正見寺より百名を越える檀信徒も参列。また全日空ホテルに移動しての祝宴も盛大に行われた。

◘妙蓮寺で平成9年発見された松尾社一切経が立正大学中尾堯教授監修で『妙蓮寺蔵松尾社一切経調査報告書』として刊行された。また国の重要文化財にも指定されることになり、立教開宗七五〇年奉賛会の記念事業の一環として宗内各寺院に配布された。尚、大塚巧藝社を通じ一般でも入手可能となっている。

◘本門法華宗学院では平成9年3月27・28日に第81回教学講習会、同6月16・17日に第82回教学講習会を大本山妙蓮寺で開催。増田日紘猊下による「本宗教学の基礎概説」、立正大学北川前肇教授の「法華天台両宗勝劣抄に聞く」、飯田執事長指導の「法式作法」他。宗内僧侶・子弟が参加、熱心に聴講、行学に励んだ。

（木村光正）

法華宗本門流

◘任期満了に因り宗会議員が改選され、次の18名が4月1日就任。渡辺俊岳（北海道・本因寺）、杉村真宏（青森・本門寺）、安川要順（千葉・要行寺）、福島泰樹（東京・法昌寺）、冨田学玄（横浜・保土ヶ谷教会）、石田智清（沼津・東之坊）、中村徹隆（静岡・常唱院）、江頭正山（武生・久成寺）、三木智行（上野・本門寺）、赤田泰宏（京都・源妙院）、郡現尊（京都・常住院）、古田日穏（大阪・岡松寺）、菅原隆岳（吹田・法華寺）、三島昭栄（神戸・妙興寺）、日種光顕（兵庫・隆泉寺）、貫名日諦（岡山・本蓮寺）、藤井禎憲（香川・本妙寺）、三浦隆雄（北九州・本光寺）。

◘三浦教学部長の興隆学林長（興隆学林専門学校長）転進に伴い、後任には圓成淳龍師（尼崎・恵運院）が就任（4月1日）。

◘各大本山の千部会法要虔修。沼津・光長寺―4月1～6日、茂原・鷲山寺―4月7～9日、京都・本能寺―5月5～7日、尼崎・本興寺―5月6～8日。大本山本能寺では千部会法要に併せ、開宗七五〇年奉讃事業『大寶殿』地鎮起工法要厳修。

◘第四六次定期宗会は5月21～23日、平成9年度全国宗務所長会は5月28～29日開催。

◘本年度の教学講習会は次の五会場。北海道―8月22～24日、栗山町・本門寺、千葉―10月6～8日、一宮町・松涛軒、大阪―10月6～8日、大阪ガーデンパレス、四国―6月19～20日、徳島・グリーンヒルあなぶき、九州―10月28～30日、種子島・日典寺。

（矢吹慈英）

日本山妙法寺

◘1月1日祝禱会（宮城御祈念）。8、9日藤井日達聖人十三回忌。2月10日平和行脚百里基地出発。15日行阿院様六十七回忌法要（熱海）。3月1日ビキニデー平和祈念行脚。4日韓国真寛上人釈放祈念座込。10日東京空襲慰霊行脚。18日原発なくせ祈念行脚（東京）。3月8日～4月8日米国平和巡礼国連本部まで。3月18日核のゴミ搬入反対祈念。20日春季彼岸会法要多摩道場。同日カンボジア「法の行進」（戦火燻る中の行進）。

◘4月6日福岡久山宝塔十周年法要。8日各地釈尊降誕会大法要厳修。13日吉野山宝塔記念法要。27日立宗会清澄山参詣。28日平和祈念行脚結団出発式。5月3日多摩道場法要。5日肥前宝塔記念法要。11日阿蘇仙酔峡宝塔祈念法要。12日伊豆法難会参詣。18日別府宝塔祈念法要。25日広島美土里宝塔地鎮祭。28日藤井行静尊尼遷化密葬。25日西天開教祈念法要（熱海）。

（石山善邦）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

＊「光陰矢のごとし」七百遠忌から十七年、日蓮聖人展、オラトリオ日蓮聖人、青年の船、各山法要等々、日蓮門下が大同団結、数々の記念事業が成就した。

「異体同心」そのものだった。

＊ポスト御遠忌、立教開宗七百五十年、表面は燃え動いているように感じるが、中身はそれほどまでに感じないのは私一人だろうか。

＊物質文明時代に入り、すべての価値観が変わって来たのであろう。＊三年後には二十一世紀に突入、五年後には、立教開宗七百五十年、打ち上げ花火式の企画は、どんなものか。＊現状に即応したビジョン展開は、どんな組織においても基本原則であろう。＊今、日蓮門下において、まさしく必要な事は、法器養成、お題目の輪を増やす積み重ねであろう。

（源）

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
〒146-0082
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成10年1月1日
第17号

リレー提言⑦

有為の人材養成こそ急務

日蓮本宗宗務総長
田中良英

高祖のみこころを生かして

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

「末法」の世相を一掃すべき「時刻」の到来

新しい歳平成十年を迎えて、まず高祖日蓮大聖人のご宝前に新年の賀を言上し、併せて門下各ご寺院のご隆昌と各聖ご法躰のご健全を祈念申し上げます。

近年地球環境は破壊と汚染の一途をたどり、生息する動植物に多大の悪影響をもたらしております。われわれ人類とて例外ではありません。昨年十二月一日から十日まで京都市において、世界百六十七ヵ国・一地域＝EUから政府代表約千五百人、非政府組織（NGO）などのオブザーバー約三千五百人、報道関係者約三千五百人の総計八千五百人が参加し「地球温暖化防止京都会議（気候変動枠組み条約第三回締約国会議）」が開催されました。連日真剣に白熱した討議が交わされ、これらの模様については、新聞・ラジオ・テレビなどのマスメディアが一斉に報道しましたので、各聖もよくご承知のことと存じます。

非政府組織（NGO）などのオブザーバーに宗教者の姿もみられ、七日には「宗教者平和の祈りと地球温暖化防止の行進」があり、本宗でもこれに協賛して、本山要法寺の梵鐘を午後四時から十分間つかせていただきました。

思い返しますと平成九年は国の内外を問わず「末法」の世相が、ますます強まる様相を呈してまいりました。わが国の政界は混沌として、行財政改革も当初の計画よりすると、『竜頭蛇尾』の観があります。経済界は大混乱を来し、金融界は『百鬼夜行』の状態であります。社会情勢は悪化して人心は「疑心暗鬼」の傾向が強まり、凶悪な犯罪が後を断ちません。それに乗じて宗教に名を借りた「醜狂」が横行し、正に「白法隠没」時代の現象そのものであります。


本山要法寺正門
（伝伏見桃山城より移築）

建長五年（一二五三）四月二十八日、高祖日蓮大聖人が旭ヶ森にお立ちになり、洋上はるかに昇りくる大日輪に向かい「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経」と声高らかに立教開宗の第一声を挙げられました。それより七百四十六星霜、平成十四年には七百五十年の記念すべき年を迎えます。

鎌倉時代の世相を高祖日蓮大聖人がご覧になって「末法」時代を痛感され、立正安国論を時の幕府に献じて諫暁されたのでありますが、時代が移った今日はなお一段と世相は悪化し「末法」時代の邪悪が横行しております。

今こそ日蓮大聖人門下の僧俗「異躰同心」一丸となり、身を持って法華経の精神を根底にお題目修業をより強力に進めなければならない「時刻」が到来していると存じます。

日蓮大聖人は「時刻」を重要視され、御妙判の随所にこのことをおのべになっていらっしゃいます。

不自惜身命で自行化他に励む宗門人の育成を


田中良英宗務総長

私どもの『日蓮本宗』は、興門流尊門派で高祖日蓮大聖人の法孫（日興上人の付弟）二位法印日尊上人を開山とする本山要法寺とその末寺を包括する宗門であり「法儀清純・師厳道尊・給仕第一」の理念をかかげ、一天四海皆帰妙法、広宣流布を目指して精進いたしております。

寛永五年（一七〇八）に発生した京都大火によって、寺町二条の地に偉容を誇っていた本山要法寺の諸堂伽藍、山内の各坊もことごとく消失したため、現在地に移転しました。その後、嗣法歴代々の先上師や先師のなみなみならない尽力によって、相次いで本堂・開山堂を始め諸堂伽藍が建立されたのです。以来三百年近くを数え、大修復の要が生じ、宗門の僧俗の力を結集して、ついに昭和六十一年（一九八一）現董嗣法第五十一祖日有上人の代に本堂・開山堂大屋根修復工事がなり、続いて老朽していた客殿・大書院・庫裏などの全面改築に取り掛かって、平成八年（一九九六）にいたり完工をみました。これらの大事業は開山日尊上人の第百五十遠忌（御正当平成六年（一九九四）五月八日）の記念行事として行なわれたものです。

管長・本山現董日有上人は「堂塔伽藍がいくら立派になっても、法華弘通の念に燃え、お題目修業を身を以て行じ、不自惜身命で自行化他に励む宗門人を一人でも多く育成しなくてはならない。それが目下の焦眉の急務であり、高祖日蓮大聖人を始め御開山日尊上人のご鴻恩にお報いする一端である」と常々仰せられております。

当宗では宗務院教学部が主体となり、夏期には未教師を対象の研修会を、冬期には教師を対象とした研修会を開催しており、各教区でも独自に教師対象の研修会を開催して資質向上に努めておりますが、なかなか管長・本山現董日有人のご方針・ご指示のように進まず「日暮れて道なお遠し」の観があり、心痛いたしております。

本年七月三十一日に「客殿・大書院・庫裏などの全面改築大事業を成満したので」と、任期を残して退任した佐藤智明宗務総長・本山執事長の後を受けて、八月一日より宗務総長・本山執事長に就任させていただきました。

平成十四年に迎える立教開宗の記念すべき年に向かって、有為の宗門人材の育成を始め記念の諸事業の計画を練っているところであります。

門下各ご寺院・各聖「異躰同心」で法華弘通とお題目修業を不自惜身命で行じ、自行化他に努め高祖日蓮大聖人ご鴻恩の万分の一にでもお報いいたしましょう。正に「時刻」は今なのです。


全面改築新装になった大玄関


木の香もにおう新客殿

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆創刊以来、十年以上たった現在でも、「門連だより」は続いている。川の水は止まる事なく流れている。物事は続けていく事に意義があるのでは、信心も又同じ事ではないのだろうか。（或は火のごとく信ずる人もあり、或は水の如く信ずる人もあり、……水のごとくと申すはいつも退せず信ずるなり）**蹲鴟御書（上野殿御返事）**

◆編集委員の方々の、たえまざる努力により、今まで続いてきたのではないのでしょうか。

◆開宗七百五十年に向かって、我々、日蓮聖人の弟子として何が出来るのであろう。また何をしなければいけないのか。

◆（異躰同心なれば万事を成じ、同躰異心なれば諸事叶うことなし）異躰同心事　各宗派一丸となり「一天四海皆帰妙法」となる様に、日蓮聖人が初めて、御題目を口唱され我々凡夫に授けて下さった様に、我々も努力していかなくてはならないのでは。日蓮聖人が唱えられた御題目をそのまま信じて、そのままに他の人を教化しなくては、開宗七百五十年は何時までも来ないのではないでしょうか。

◆末法は、摂受の修行ではなく折伏の修行の時代だと言う事は私が言うよりも、皆様方の方が御存知の事であろうと思います。

◆（万民一同に南無妙法蓮華経と唱えたてまつらば吹くかぜ枝をならさず、あめつちくれを砕かず代は……）如説修行抄　この様な時代になすべく、私は精進いたしたく思っております。

◆開宗七百五十年に向かっての、私の思いです。　（秀慈）

法華信仰者の芸術文化展について

日蓮聖人門下連合会が日蓮聖人第七百遠忌報恩、共同事業として、

1。日蓮聖人劇の合同公演
2。日蓮聖人展の開催
3。オラトリオ日蓮聖人の創作
4。門下青年の船

の四大事業を企画実行したことは記憶に新しい。その詳細は「結成30周年記念日蓮聖人門下連合会30年の歩み」を参照いただきたいが、それぞれに大きな企画であり、実行にあたっては様々な困難があったが、異体同心、所期を達成した。

聖人劇は前進座による全国公演が昭和五十四年度、五十六年度二カ年に亙って行われ、のべ二三五ステージを数える成果をおさめた。

聖人展は昭和五十六年、大阪・東京・小倉の三大都市に於て日蓮聖人の「教えと心」をテーマに十万名の観客を集めた。

「オラトリオ日蓮聖人」は西川満作詩、黛敏郎作曲に依り、大聖人の御一代に法華経をおりなした雄大な作品となり、東京新宿で発表会、当日の録音はレコードとなり、広く頒布された。

青年の船は、昭和五十七年三月二十六日より十一日間の行程で門下青年五〇〇名をのせたコーラルプリンセス号がサイパン・グァムに出航した。「七〇一年の旅立ち」「めざせ立正安国」をテーマに法華経、日蓮聖人の教えを学び、また戦跡慰霊、相互研修などを通じ、友情の絆をたしかめあった。

これらの事業の推進は、常時渉にあたった門連理事、常任理事各位の熱き為法の志、所属各宗派、教団の協力体制があってなしとげられたものであり、一宗派の事業でなく、門下連合会の共同事業として行われたことに大きな意義があった。

さて立教開宗七百五十年（平成十四年）に向け、門連加盟各宗派（教団）にあっては色々と慶讃事業に取り組み、勧募等既に始動し、事業を推進しつつある現状であるが、門下連合会の共同事業としては、

「法華信仰者の芸術文化展」が、現在検討されている唯一の企画だ。

この企画は過去三年間にわたり常任理事会、理事会で慎重審議が繰り返されて今日に至ったが、その企画内容の概要は左の通りである。

開催　平成十四年（二〇〇二年）
会場　1。東京国立博物館
　　2。京都国立博物館
主催　東京国立博物館
　　京都国立博物館
　　（各会場二週間～三週間）
後援（協力）
　　日蓮聖人門下連合会
　　新聞社
予算・費用　全て主催者負担
　　（展示物の蒐集、展示、返却、保険など）
展示　1。室町期より江戸期に至る日蓮聖人門下僧侶、信者で著名な芸術、美術に秀でた人々の作品（絵画・彫刻・工芸・墨跡など）を展示。
　　日蓮聖人門下の文化、芸術活動の流れにスポットをあてる。（例　狩野永徳・尾形光琳・俵屋宗達・狩野探幽・歌川国芳・本阿弥光悦・長谷川等伯・北斎・蜀山人・十返舎一九など）
　　2。展示総数
　　およそ百五十点。内約五十点を門下各派より出展、あとは博物館サイドで蒐集にあたるとの博物館側の意向である。

右は門下連合会と東京国立博物館側との交渉の結果だが、本企画に博物館側も大変積極的な意向を示しているという。

予算費用を博物館側が全て負担するということは企画推進の上で大きな魅力であるが、問題は博物館側から要請されている「五十点」の出展が可能であるかどうかである。

十二月一日の京都理事会に先立ち日蓮宗宗務院で開催された門連常任理事会では企画検討の上で、門連加盟各派（教団）並びに傘下寺院（支部局）、檀信徒（会員）が所蔵する現況について調査を行う事を決定し、調査依頼文書及び調査票を各派に送達した。

その結果は十二月一日、京都理事会開催の段階では回答一宗派のみで未だ回収されていない状況だ。

十二月一日、京都頂妙寺で開催された門下連合会理事会・京都門連との懇談会では本案件が主要議題となり、熱心な論議が交わされた。

一日の理事会に先立ち、京都門連でもこの件につき意見を交換し、各宗派、本山より資料を提供するよりも、東京国立博物館に全ての資料がある筈であり、博物館側より資料提示があってしかるべきだ、との議論がなされたと聞く。

頂妙寺でもこの点をめぐって担当大橋常任理事、飯田京都門連副理事長、金山京都門連会長などが意見を述べあった。いずれにしても今回門連で行った調査依頼は、本展実行に関する基礎資料であり、企画の主体はあくまで門下連合会にあり、また各宗派本山の自主的な調査資料には、日蓮聖人門下の隠れた芸術作品が現存する可能性も秘めている。

理事会の結論として今回調査の推進を確認したが、権威ある国立博物館を会場とする本展企画が実現すれば、対外的アピールはもとより、日蓮聖人門下活動の歴史に新たな一頁を加えるものとなろう。



文化展について活発な論議がなされた
門下連合会理事会・京都門連との懇談会

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

▼人事（日付は事務局への連絡日）

年月日	氏名	宗派（役職）	門連役職	就任	退任
九・六・二六	吉村日義師	本門法華宗管長	顧問		退任
	松本日望師	本門法華宗管長	顧問	就任	
九・一	中村通義師	顕本法華宗	理事		退任
	大川定信師	顕本法華宗	理事	就任	
	佐藤智明師	日蓮本宗宗務総長	常任理事		退任
	田中良英師	日蓮本宗宗務総長	常任理事	就任	
	原　真昭師	日蓮本宗	理事		退任
	今村要道師	日蓮本宗	理事	就任	
二・一三	和田日攝師	法華宗本門流管長	顧問		退任
	鈴木日有師	法華宗本門流管長	顧問	就任	
	原井慈鳳師	法華宗本門流宗務総長	常任理事		退任
三・一〇	川口日唱師	法華宗本門流宗務総長	常任理事	就任	
	三浦成雄師	法華宗本門流	理事		退任
	桃井晋城師	法華宗本門流	理事	就任	

「立教開宗750年」
旅、こころ
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、
旅のことならなんでもそろっています。
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
旅する人の気持ちで……JTB
JTB
For Your TraveLife
素敵な「旅」をご提案します。
日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

恭賀新春

平成十年戊寅

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管長　田中日淳
宗務総長　永井祥文
宗務副総長　岩間湛正
綜合企画部長　渡辺清明
庶務部長　栗原正震
財務部長　星光喩
教務部長　齋藤邦昭

護法伝道部長　小倉光雄
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　新井貫厚
現代宗教研究所長　石川浩徳
国際開教室長　上田尚正
人権対策室長　大乗文延
参与　堀江宏正
参与　浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長　三坂恵人

〒146 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五二)七一八一㈹
FAX 〇三(三七五一)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長　鈴木日有
宗務総長　原井慈鳳
教化部長　圓成淳龍
教学部長　桃井晋城
財務部長　坂巻顕導
庶務部長　矢吹慈英

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五㈹
FAX 〇三(三九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長　吉永日晴
宗務総長　中山昭夫
宗務次長　山本学人
財務部長　白井謙光
布教部長　大川定信
教務部長　奥村智学

社会部長　鈴木無着
庶務部長　三坂岳応
主事　山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長　竹嶋日香
宗務総長　土屋善敬
総務部長　都築哲信
教学部長　佐古弘文
教化部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳

〒170 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　井上日慶
講尊　梶本日裔
宗務総長　小山日誠
宗務副総長　笹田日昌
宗務副総長　佐藤政司
宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六㈹
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　田中良英
総務部長　今村要道
教学部長
財務部長　岩崎隆義
法務部長　佐藤哲夫
本部事務局長　石見良教

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長　真枝日世
宗務総長　吉田研宏
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
教化部長　寺田完英
社会部長　中西順英
財務部長　水野智啓

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管長　松本日望
宗務総長　高邊信幸
宗務部長　信隆允忠
財務部長　増田隆雄
総務部長　藤井宏長
庶務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
門連常任理事　持地光学

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

宗教法人　国柱会

会長　田中暉丘
理事長　三田道弘
副理事長　入江克郎
門連常任理事　大橋邦正
門連理事　淀野寿夫
本部事務局長　石見良教

〒132 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一㈹
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会長　金山日龍
副会長　松本日望
理事長　杉若恵隆
副理事長　飯田信栄

京門連事務局
〒606 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺

首座　上野行量
〒542 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六
長老　塙行幸
長老　石山善邦
日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人　今井行順
東京都千代田区九段北三―二―三
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局　松谷被鎧
〒150 東京都渋谷区神泉八―七

共通の課題を探る

門下連合とは何か

H　(承前)具体的なことは何も考えつきませんけれども、そういうのができたらいいなという思いはあります。

何年後かに国会も動かして、「みどりの日」の「昭和の日」への改名が達成されることを目指しているんですけれども、そういうような、何か門連の青年の力を結集してできるものがあればいいなと思います。

A　青年会をつくったとしても、共通の理念のもとに、そういった社会的な運動に結びつくには、なかなかいかないですね。

H　難しいでしょうね。しかし、力を結集できる、前向きに取り組むものが欲しいですね。

I　今もおっしゃったんですけれども、最初、趣味的な交流というか、あるいはさっきも言われた青年の船の流れの組織というものも多少なりとも残って、それなりにそういうこともでき得るんじゃないかとは思ったんですけれども、それよりもまず、こう言うと怒られるかもしれませんけれども、門下連合って何かということが、まず主体だと思うんです。

全く知らない人ですと、極端な話、各宗の幹部連中のお茶飲み会でしょうというような感覚があるわけですね。まず門下連合というものはこういう組織なんですよというものを、末端教師まで理解してもらえるようなことをまずひとつテーマとして取り組んでいかなければならないんじゃないかなという気がするんです。

上の人だけが動いても、下が動かなければ、本当に大きな波というものは立ちませんから、やはり一番下まで本当に門下連合の必要性、大事さというか、そういうことをわかり得るような活動というものを、七五〇に向かって企画していくべきではなかろうかという気はするんですけどね。

現状で門下連合そのものを理解されている教師の方々というのは、そう多くないと思うんです。そこら辺をやっぱり上まで上げていただければなと思うんですけれども。

A　今のご発言に付言して申しますと、門下連合会とは一体何なんだと。これについては理解が徹底してないじゃないかということで、『門連だより』には門下連合会の目的とか事業とか、そういうものは、一応、毎号載っているわけなんです。

「本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。」というふうに目的が掲げられていまして、

「前条の目的を達成するため左の事業を行う。」として、

一、祖廟護持の組織強化
二、教育事業の提携
三、布教の連合強化
四、懇談会、研究会、講演会等の開催
五、各種出版物の刊行
六、海外布教の提携及び交流
七、対外的な各種の運動
八、その他

というわけです。

これに沿って、門下連合が今どういうことをやっているかといいますと、第一に年一回の祖廟参詣、それから門連代表として国柱会による祖廟輪番奉仕、『門連だより』の刊行などが門下連合会のともしびを保っていると言ってもいいんじゃないかと思うわけです。

本音をぶつけ合う

J　今までの皆さんのご意見をお聞きしていて、青年僧なんかが会合できる場をそれぞれの歴史と教義とを尊重しつつやっていく。建前はそうなっているんですけれども、なかなか本音のおつき合いになると、何ができるかわからないですけれども、具体的には七つ、八つの事業が挙がっているんですけれども、これが何ができるかということで、この一つでも達成できるようならば……いいと思うのですが。特に青年の船に乗せていただいたんですけれども、自分の宗派、自分のお寺だけを思っている場合があって、なかなか他まで手がいかないというところがあります。青年僧が勉強する場を設けて、その中で講習会なり勉強会、それぞれ教義等は違うんですけれども、お題目を唱え弘めるということに関しては、皆、共通なわけです。その中に何か出てくるんじゃないか。漠然としているんですけれども、青年僧として布教の最前線に立つ者としての宗派を超えてのいろいろ会合し協議等ができる場をつくっていく。それだけでもできれば良いと思います。

七五〇に何かやるとか、花火を打ち上げるというような一過性のイベントよりも、長く続いていく何か、まだ具体的なことはわかりませんが、そういうふうに考えていったほうがいいのではないか。法の華とか、いろいろ新々宗教みたいなのが出てきて、問題が出てきているんですけれども、時代がどんどん動いているのに、それに対応できていない、既成仏教化しているという指弾はよく受けるんですけれども、指弾を受けるだけでなく、その中で答えを出していくために協議の場を設けていただければ結構だと思います。

どういう形でできるかわからないですけれども、ともかく個人個人の本音で結ばれ合う場を設ける。皆さんのお立場をよく考えて、門下青年連合会を設けるかどうかわかりませんが、そういうものを設けまして、具体的にはっきり目標を持って、進んでいく事が大事じゃないかと思います。

K　私がこの門連会議に出席させていただいてから、足かけ四年ぐらいになるんですけれども、うちの兄が本山の役目を仰せつかった時点で、私に任せるということになったんです。

当座は門連のおつき合いは可もなく不可もなく、さしさわりのないところでおつき合いをしておれと言われたんです。ですから、要するに本音と建前というのを使い分けて、皆さん宗派を背負って来ているわけですから、建前でおつき合いすればいいかなという観念でやってきたわけです。

ところが、今、一般社会では、本音と建前というルールが崩れかけているんですね。もともと、宗教界というのは、本音と建前がない世界だと思ったんですけれども、これほど縦社会がはっきりしている世界はないんですね。一日違いの修行で全然違いますから。

本音を闘わせればいいんでしょうけれども、宗派の肩書きを背負ってきているわけですから、なかなか本音の部分は出てこないんですね。ですから、我々個人個人が宗派を超えて、趣味などでおつき合いをしながら、下からの改革といいますか、声を上に持っていったら、少しは変わるかと思うんです。

具体的な活動というのは、これから着手するんですけれども、我々門連の編集委員が、お互い本音をぶつけ合って、少しでも改革できるような形をとっていったらいいんではないかと思います。

規約改正・青年会・地方門連

I　最後になりましたが、私も一言発言させていただきます。

今、本音と建前というご意見がありましたが、これは私ども宗教者ばかりでなく、あらゆる組織に所属する者にとって永遠の大きな課題といえましょう。私自身、宗命により今席に派遣されているわけですから、個人としての発言はOKですが、これが宗門の意見だというとそれは違います。ただ、「いま平成の大聖人さまがおわしましたならば」ということを常に念頭において行動と発言をしたならば、おのずと答えは一つですし、宗派門流を超えた光明が見えて来るのではないでしょうか。そしてそれが、開宗七五〇年の奉讃事業へと繋がっていくものだと思います。

私どもの宗団は七〇〇遠忌のとき、積極的な協力ではなかったために、宗門人の門下連合会の事業参加は勿論のこと、個人的には私も船に乗り損ないましたことが残念でなりません。私自身、我が門流の教義と宗旨には自信と誇りを持っていますから、団結とかいう言葉は決して好みません。しかしここは教義云々はさておき、開宗七五〇年には大聖人の意を体して、一宗一派では円成できない門下挙げての是非大きな事業を企画していただきたいです。

それからもう一つ、いつの時期に制定されたか存じあげませんが、先程の門下連合会の規約についても、改正の時機が来ているような気がします。もっと現実に見合った、それこそ建前ではなく本音の内容に改めるべきではないでしょうか。差し障りのないおつき合いや、個人の交流だけなら解散してもよろしいでしょう。門下連合会のお偉い先生方はお考えいただきたいものですね。

若輩ながら勝手なことを申しあげ失礼しました。

A　一応、皆さんが言われたんですが、皆様のご発言の中で共通する部分は、本当に我々が上からどうこうと言われて動くんじゃなくて、初めにご発言もあった個人個人の結びつきというか、そういうものを深める中で本音で語り合えるそういう関係をつくった上で、一歩一歩そこから着手する。具体的にこういうことをやろうというご提案はないんですけれども、その辺を基本に置いて、これから進んでいったらどうかということは、大体、共通したご意見としてあるだろうと思います。

さらに、門下連合会という組織に即して言うならば、かつて青年の船というものもあったわけなんで、こうした一つのことを想起し、門下連合会の中に青年会的なものが組織できれば、そういうことも将来に対してもいろんな面で意味がある。

それからまた、門下連合会の事業の中に地方門連の結成ということもうたわれておりますけれども、現実には京都、北海道、大阪ということで、もちろん京都門連については本家連合会と一緒になって、それなりに充実した運動等を行われておりますが、北海道門連、大阪門下懇話会、さらに地方にもできるんではないかというご提案もあったわけでございます。

また、我々、門下連合の教師として、大聖人の布教伝道、教化を忘れてはならないというご意見等がございました。

また、個人の交流という範囲をもっとふかめて、いろんな研修会といったものを通じて、交わりを深め共感するということも言われました。

さらにはまた、具体的な活動として小湊から清澄への唱題行脚を門下として共に太鼓をたたいてお題目を唱えるという実践のご活動も挙げられました。

きょうは大変唐突の中で、皆さん日ごろ思っていらっしゃることをお述べいただき、幾つか将来に向けての示唆もいただきました。

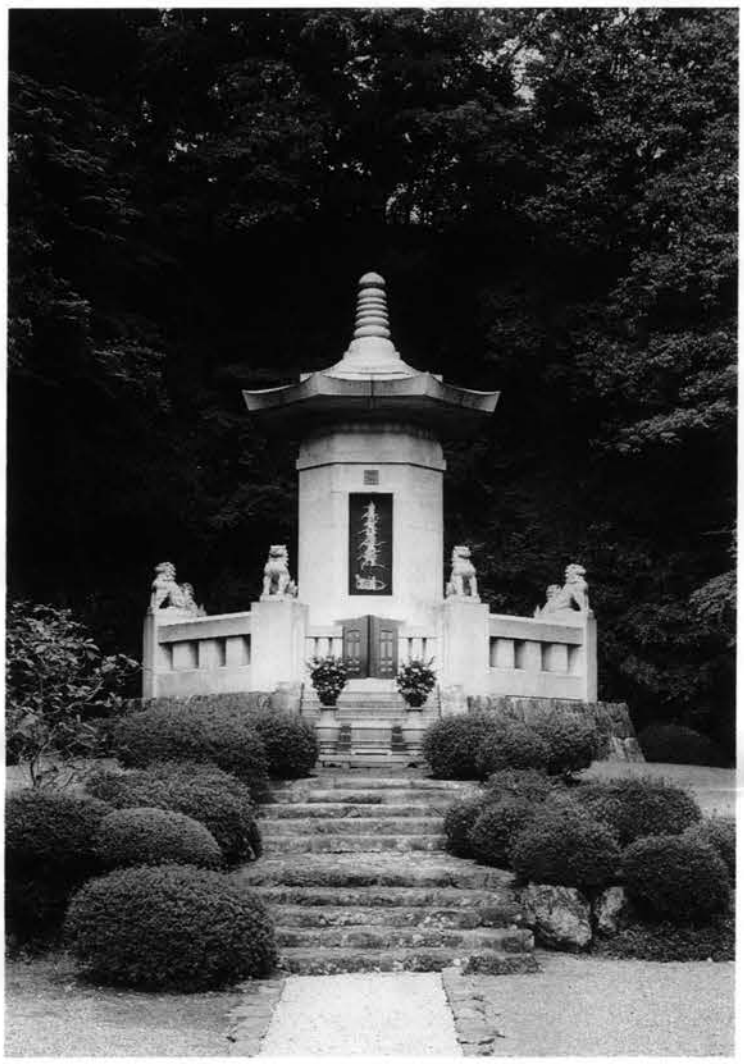
そろそろ五十分になろうとしておりますが、この機会にもう一言ぜひ言いたいということがありましたら、あと十分ご発言をいただきたいと思います。

世襲制の限界と後継者問題

E　今、叡山でも一般公募とかということで、それぞれ人材育成をしていますけれども、門下連合ばかりでなくて、各末寺にすれば後継者が非常に不安定だということが共通の問題で、また無住のお寺があ

日蓮門下

編集委員座談会(下)



門連の精神支柱、祖廟

一つの宗派を目指す

B　基本的には各自の自覚だと思うんですけれども、今おっしゃった問題は、昔から育った世界がやっぱり強いものですから、行、学ていたとしても、現実が厳しくなれば、結果的に自分が何十年育ててきた、管理してきた寺でも、後継者がいなければ出なくちゃいけないわけです。そういうのはこれからもますます盛んになるというか、自分の個々の問題として持ち上がってくると思いますから、やはり個人交流をベースにして、人材交流にまでいくためにも、お互いを知らないと人材交流なんかできないですからね。

そういう方向に門連の活動がいけば、門連が本当に必要なんです、お互いにね。自分らの宗門の中だけでは、もう採算とれないというか、立ちいかなくなってくるから、当然ほかの人たちに助けてもらって、立ちいくように考えていかなくちゃいけない。世襲制は歴史の中で五十年ぐらいは、何とかやってきたけれども、これから二代、三代、百年は続かなかったなということになると思うんです。

その辺の視点から門連の必要性を訴えていくのも一つの方向と思います。

が違うとむつかしい。

しかし例えば声明の講師に日蓮宗のH師を御招きすれば来ていただけるのかどうか。

その辺が門下という形で、これができたら実はありがたいなと思うんです。将来に向かって、そうしていけば、必然的に所作とか声明なども、どこへ行っても使えるような形になってくると思います。

D　実際、我々がこうやってふだん接しているとき、各派の教学的な議論というのは全く出ないですね。

やっぱり一宗としてあるためにも、宗旨が一番大事なものだと思うんです。過去の歴史を見ますと、手前味噌で申しわけないんですけれども、本宗の開祖は、当時の日蓮門下が権力争いでバラバラになった。そうでなくて、日蓮聖人に返るべきだと主張なされた。別に開祖は、独立した宗派をつくったわけじゃないんですね。これは過去の歴史の中で申せば、日蓮法華があまりにも強大になって、権力のほうでちょっとヤバイぞということで、それでこういうふうに分派化されていったということを思えば、やっぱり日蓮聖人に帰るべきだということで、先ほどどなたかのお話のように、たとえば日蓮聖人の御遺文を平易に現代語に訳して、お互いに勉強していくとか、そういうことも必要でしょうし、また、行法についても、どうしてそんなにいろんな行法ができてきたのかとか、そういうところから始めて、もちろん各派の教義・伝統というものは尊重すべきものですが、自分のところの教義が一番いいという気持ちはどなたもお持ちでしょうが、じゃ、どうしてそういうふうに教義の違いができてしまったのかなということも、皆さんで、こういう場で話していくうちに自然と理解されていく部分はあると思うんです。

そういうことで、「連絡、協力、団結」と規約にありますように、私は理想で言うと、先ほどHさんがおっしゃったように、最終的には一つの宗派になれれば一番いいことじゃないかと思うんです。

A　今日のところは、この辺で座談会は終了したいと思います。



実り多かった座談会

座談会を終えて

編集長　富川　孝恭

今回の座談会は、予定されていなかった突発的企てにもかかわらず、いろいろな問題点が出た。

それだけ、門下連合会に向ける目が、各自平生からその目的が絞られている証左である。

そもそも今回の企画は、日蓮聖人開宗七百五十年をお迎えするにあたり、本紙上にて編集委員という立場から、一人ひとり何が出来、何が出来ないのかを、自由に述べ合う機会とすることにあった。

しかし、七百五十年の好機に向け、具体的な活動の共通テーマを探り当てることは出来なかった。すなわち、この点では、この編集会議の性格上、具体的活動方針の策定は無理であることが理解出来た。

具体的なテーマを探り当てるのが無理なことは、実は我々編集委員会の委員にはある程度わかっていたことではある。それ故に、話し合いのテーマが当初は門下連合の精神的在り方に集中した。

京都方式と呼ばれてもよい京門連の活動に目が行ったのも、こうした面で妥当性があった。

京門連の歴史が、単に過去の出来ごとを誇示するのではなく、現在も依然として継続されていることに、連合会のひとつの在り方が示されている。これには誰も異存は無かった。

では、この京都方式を全門連としてなぜ踏襲出来ないのか、そこに一部の委員から述べられた、組織再点検論も説得力を持つ結果になった。

この説得は、発言者本人が現実の行動として門連再点検、イコール解体論を主張しているのでは決してない。否、むしろ逆説的に解体を目指すぐらいの決意での再構築を叫んでいることは、出席者のすべてが理解しているところである。

要は、門連の全組織を挙げて取り組む企画が実現すれば、その実現の達成に向け、門連解体尚辞さずという覚悟でぶつかるべき、という意見の表明である。

それにしてもである。かつて取り組んだ、〈日蓮聖人七百遠忌青年の船〉は、今もそのインパクトを持ち続けている。

編集委員のメンバーの中でも〈青年の船〉の企画に取り組み、乗船した委員が残っている。十六年前の行事が、未だ過去に流れ去っていないことに一驚する。

何故こうなるのか。

原因はいろいろあろうかと思うが、そのひとつに船という環境がある。

船の持つ環境は、まさしく運命共同体である。船が沈没すれば、一瞬にして乗り組む人間のいとなみもすべて没し去る。

そこに、死なば諸共という諦観が生まれ、共同体に生きる一員としての意志統一が可能になる。

たとえば、一人ひとりが勝手気ままな行動をとっていれば、共同体に参加出来なくなる、参加出来なくなれば人間存在が無になる、こうして統一された行動が可能になるのである。

お題目を唱え、ご遺文を拝しても、各宗派の独自性は二の次で、まずは一致した行動理念の確立が要求される。観念論ではいけないのである。

今、門下連合会に必要とされるのは、こうした環境が、依然として観念的な、すなわち肉感としての連合が掴めないために、入り口論で行きつ戻りつしていることへの反省である。

このジレンマを解消するために、〈青年の船〉効果を感得している委員から、あらためて指摘されたのではあるまいか。

開宗七百五十年を迎えるにあたり、今回の企てで明らかにされた諸点を、門下連合会の上層部は他人事として済ませてはならないと思う。

門連が、加盟各派教団の役員のサロンと化している、この指摘に対しては、別に不名誉なことと思う必要は認められない。むしろ、これを積極的に活用し、サロンから実物を生めば、サロンもまた無くてはならない必要な存在である。

門下連合会の理事会が指令塔になり、実行部隊を別に設置しさえすれば、必ずや良き結果を生み出すに違いない。理事会の中にこうしたムードが生まれさえすれば、開宗七百五十年もしめたものではなかろうか。

幸いに、この「門連だより」は、門下共通の意見発表の場として唯一認められている。要はこれを活かすか殺すか、生殺与奪の権を思い切って本紙に与え、編集委員会からの大胆なる提言を期待していただければと思う。もうその段階に来ているのである。

そうすることで、必ず面白い企てが実現出来る気がする。編集委員会の空気を知るひとりとして、こんな思い切った提言をも、ここに記して、今回の座談会を終えるにあたり、一言記して、まとめとしたい。



恭賀新春

平成十年戊寅

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四
主 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三一一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 田中日淳
執事長 市川智康

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 吉永日晴
総務 大川定信
執事 津村乗信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 小松正学

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
貫首 竹嶋日香
執事長 笹原壮玄
執事 西山英仁
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫主 真枝日世
執事長 岩崎峻暉
執事 笹木研秀
執事 矢放真文

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職二十二世 井上日慶
事務局長 伊藤隆之

日蓮本宗
本山要法寺
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 田中良英
執事 今村要道
執事 岩崎隆義
執事 佐藤哲夫

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入
貫首 山田一光
執事長 原光司

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当 杉山日慎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602 京都市上京区寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七
貫首 本間日諄
執事長 本間正晃

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一
貫首 石川日侖

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
※平成九年度随身生募集中
山主 駒野教格

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首 土屋学周
参与 山田完修
同 新井智清
同 末吉啓宣
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝

門連時報

京都理事会・懇談会開催さる

平成九年十二月二日（月）本山頂妙寺（土屋学周貫首）に於て恒例の門連京都理事会・京門連との懇談会が開催された。午後一時土屋貫首猊下導師のもと法味言上、遷化先師回向がなされた。記念撮影の後客殿に於て土屋貫首より頂妙寺の縁起について御講演。

午後二時三十分開議。出席者全員自己紹介の後、永井祥文理事長座長となって議事進行、上半期事業報告、門連だよりに関して富川幹事が報告を行った。京都門連事業報告に関して杉若理事長より開宗会、夏期大学、御会式など、活潑な事業推進に関する報告があった。大阪門下懇談会に関しては木下恵温師より総会、合同お会式、研修会、京都本山めぐりの実施など、着実な継続運営について報告がなされた。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関しては三年来懸案になっている日蓮聖人門下の文化芸術にスポットをあてた展覧会に関し、大橋担当常任理事より報告。東京国立博物館との間に行われた交渉結果（第二面参照）に基づき、本年十月門連理事長名にて門下加盟各派（教団）に対し所蔵品目に関する調査依頼を行った事について、積極的な協力が要請された。この件に関し、博物館側に資料がある筈であり、博物館側からの要請に応えて出品を検討する方がいいのではないか、とする京門連の意見が提示されたが、本展企画の主体は門連にあり、門連の主体性に於て第一段階としての調査を行いたいとの趣意が説明され、隠れた名品発掘の可能性も考えられる事から、今回調査への協力が確認された。

次に門連監査役肉倉貫義師が去る十月二十八日御遷化になられたので後任につき、永井理事長より東京、駒形本久寺住職・持田貫宣師の推薦あり、全員賛成にて就任が決定した。



門連京都理事会・京門連との懇談会
（平成９年12月１日　於：本山頂妙寺）



頂妙寺本堂



御本尊

京都門連第七一六回御会式奉行

万灯行列復活・チャリティーバザー・模擬店盛大に

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）は、十月四日本山頂妙寺に於いて、第七百十六回御会式を奉行し、僧俗約二百名が参加した。

あいにくの雨模様で、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚並びに、三田市妙三寺（吉田宏遠住職）万灯隊の協力を得て復活した万灯行列は中止となり、変更して本堂前にて撃鼓唱題、万灯奉納を厳修した。



京都門連　お会式万灯（本堂前）

御会式法要は、本山頂妙寺土屋学周貫首を導師に、杉若理事長と飯田信栄副理事長（本門法華宗）が副導師にて厳修され、参列者一同御報恩の誠を捧げた。法要後、大本山本能寺和田日攝貫首による「宗祖の御慈悲」の講題で法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を尊く得た。

今年より、新しく企画されたチャリティーバザーは、会員寺院より品物を提供して戴き、約五百品が集まり、十七万六千百円の売上があった。又、模擬店では、たこやき、おうどん、子供遊戯があり、御会式の一日を満喫した。尚、バザー売上金は、関係先へ寄付される。

（藤井照源）



京都門連　夏季大学

滞りなく諸事を終了、第二会場菊水に移り懇親を深め、八時散会となった。

（富川孝恭）

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）では、八月二十五日本能寺文化会館で、第三十四回夏季大学を開き、僧侶檀信徒二百人が参加した。

二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―をテーマに、生きててよかったね、生（久遠の命）きててよかったね、蘇（いき）きててよかったねと、過去・現在・未来にわたる三世の命の尊さを認識し、お題目を唱える私たちにとって、日蓮聖人を、どうとらえ、学び、広げて行くかを学んだ。

講演に先立ち、開講式が行われ、会長の本山本法寺金山寛成貫首を導師に、法味言上、杉若理事長が挨拶し講演に入った。

大本山本圀寺久村日鑒貫首は「仏法と世法」、日蓮宗の僧侶で医学博士の柴田寛彦先生（秋田県本澄寺住職）は「法華経に学ぶ生命倫理―動物実験と不殺生―」、ジャーナリストの乙骨正生先生は「世紀末から新世紀へ。日蓮教団に課せられているもの―特に創価学会問題を中心に―」の講題で講演した。

物質文明の今、何が大切か、なぜ新新宗教が蔓延るのか、日蓮聖人の御心を通じ、参加者一同学ぶべき事が多かった。

（藤井照源）

お題目の「商標登録」について

門連だより第16号でお知らせしたように、徳島県阿南市の清酒製造業の西岡敬芳なる人物が「南無妙法蓮華経」の文字を指定商品「酒類」として特許庁へ商標登録出願し、日蓮宗の異議申立によって特許庁は再度に亘って申請を拒絶したにもかかわらず、平成八年二月九日付公告が行われた。日蓮宗はただちに異議申立を行ったが、出願人も反論し、応酬があったが平成九年三月十九日付日蓮宗の異議申立は「理由がないもの」という審判決定を行い、同年五月二十三日付「南無妙法蓮華経」は指定商品「酒類（薬用酒）」として商標登録された。

日蓮宗の提起を受け、門下連合会は右の決定に対して門連傘下全宗派（教団）連名にて無効審判手続を行う方針を決定、直ちに実行した。ちなみに審判は文書のみで行われ、決定が下される迄には二～三年がかかるらしい。

又無効審判の決定を不服とする場合には特許庁でなく裁判所に対して上告をすることができ、この場合は高等裁判所から始まる。

日蓮宗宗務院護法伝道部編
B５判・並製本
日蓮宗御遺文習学シリーズ
お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146 東京都大田区池上7-23-3
〈全品〒実費〉TEL.03(3755)5271

①『富木尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
矢の走ることは弓の力
富木常忍の夫人から届いた供養に対する感謝と、病弱な夫人の身を案じた聖人の励ましのお手紙

②『清澄寺大衆中』に聞く　三〇〇円
日本第一の智者となしたまえ
文永の役から一年、再び来襲の危機が…。緊迫した状況の中で故郷・清澄の人々にあてたお手紙。

③『盂蘭盆御書』に聞く　三〇〇円
自身仏に成らずしては父母をだにも救いがたし
盂蘭盆の起源から語り始め、目連尊者の物語を通して法華経の功徳をわかりやすく説く聖人。

④『安国論御勘由来』に聞く　三〇〇円
前代に超えたる大地震
『立正安国論』での内乱と侵略の予言が的中。苦難にあえぐ人々を救うため再三示された対策。

⑤『妙心尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
病により道心は起こり候か
重病の夫を介護する尼に「題目こそ薬」と法華経を説き、病の心構えと臨終の安心を与える。

⑥『新尼御前御返事』に聞く　三五〇円
この五字の大曼荼羅
「恩ある人でも信仰が定まらない者にご本尊を授与できない」という聖人の厳格な信仰の姿。
―新発売―

各派・教団 短信

日本山妙法寺

◘6月5日山形仏舎利塔入仏式。6月15日九段道場にて35回サルボダヤ交友会総会。21日ロンドン宝塔12周年記念法要。22日ミルトンキーンズ宝塔17周年記念法要。25日パリー道場22周年記念法要。29日ウィーン宝塔14周年法要。◘7月3日ネパール・ルンビニ園道場主任生天目上人暴徒夜間侵入発砲遷化。18日渋谷道場にて本葬。◘8月6日広島原爆慰霊祭参列。15日千鳥ヶ淵戦没者慰霊祭参加。24日西天開教記念法要(熱海道場)。25日身延山参詣祈念。31日行静院日処尊尼本葬(阿蘇道場)。◘9月1日関東大震災御祈念。12日龍の口法難会参詣。◘10月2日第128回ガンジー生誕日記念集会(サルボダヤ九段道場)。12月池上お会式参詣。21日ダージリン宝塔5周年法要。25日多宝山宝塔28周年法要。

(石山善邦)

日蓮宗

◘十月二十五・二十六日の両日、池上本門寺の国・重要文化財五重塔の初重(一階部分)内部が公開され、日中は汗ばむ晴天のもと延べ約三万人が訪れた。この五重塔はたびたび修理が行われているが、全面解体は今回が初めて。◘立教開宗七百五十年慶讃事業の最も大きな柱である清澄寺研修会館の建設が始まった。施工事者の決定に伴い十月十七日、清澄寺境内の建設予定地で地鎮式が行われた。地元千葉県南部修法師会員が出仕し、「四十九穴鎮浄法」という本格的な地鎮の修法が行われた。◘十一月三日(月)午前十一時より午後一時半迄、正中山法華経寺聖教殿お風入れが奉行された。今年は天気に恵まれ、一年ぶりに大聖人の御真跡が公開された。法華経寺祖師堂が完成されたこともあって、当日は沢山の拝観者が訪れ、大聖人の御真跡を拝し、大聖人の御心に触れた。奉展数は十九点で、中でも観心本尊抄・立正安国論・鷲目御消息・病即御曼荼羅などが注目を集めた。

(太田順祥)

国柱会

◘各地方連合局の主催で日蓮主義講習会・儀典研修会並びに婦人部講習会を開催。◘奥羽地方連合局では平成十年に国柱会奥羽開教百年を迎えるにあたり記念大会開催にむけて実行委員会を発足。◘7月26~28日、第45回国柱会少年少女夏期学校。8月に入って近畿地方、山陽・四国地方で開校。◘8月23~24日、前会長田中香浦先生報恩の集い・申孝園青年セミナー開催。◘8月24日、前会長田中香浦先生一周忌追善法要厳修。ついで追憶のつどい。◘9月14日~15日、式士任用試験。◘10月4~5日、毎年奉行している身延大祖廟輪番給仕第33回国柱会奉仕団。御門下を代表し会長田中暉丘先生を団長に昼夜不断の唱題給仕(54名参加)。◘10月12日、池上本門寺境内で恒例の純正日蓮主義屋外宣伝。福岡市東公園の日蓮聖人銅像前でも実施。◘11月3日、明治神宮参拝。近畿地方連合局で桃山御陵参拝(二百余名参加)。◘11月16日、平成9年度定例協議員会。平成10年度事業計画を審議。妙宗大霊廟創建70周年記念大会の開催、恩師田中智学先生第60回忌を迎え著書『本化攝折論』、『日蓮聖人の三大誓願』の復刊、その他を決議。◘11月16~17日、恩師田中智学先生第59回忌報恩大会。16日、御逮夜法要厳修後、追憶の集い。17日、報恩大法要厳修後、報恩の集い。

(秋場善彌)

京都門下連合会

◘8月25日夏期大学。於本能寺会館。テーマ「二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―」、講師は、大本山本圀寺久村日鑒貫首「仏法と世法」、日蓮宗本澄寺住職・医学博士柴田寛彦先生「法華経に学ぶ生命倫理―動物実験と不殺生―」、ジャーナリスト乙骨正生先生「世紀末から新世紀へ。日蓮教団に課せられているもの―特に創価学会を中心に―」◘8月25日理事会。於本能寺会館。御会式の件◘9月10日御会式企画委員会。於日蓮宗京都一部宗務所、御会式の件◘10月2日奉行委員会。於日蓮宗京都一部宗務所、御会式の準備と最終打ち合わせ◘10月4日御会式。法要―本山頂妙寺本堂に於いて奉行、大導師は本山頂妙寺貫首土屋学周猊下、法話は、大本山本能寺貫首和田日攝猊下「宗祖の御慈悲」、チャリティーバザー・模擬店(たこやき・うどん・子供遊戯)等◘11月14日理事会。於日蓮宗京都一部宗務所、全門連京都理事会懇談会の件◘12月1日全門連京都理事会。理事会は頂妙寺、懇親会は菊水◘12月8日会計監査、於日蓮宗京都一部宗務所◘12月17日理事会。於本能寺会館。平成9年度会務報告・平成9年度決算報告

(藤井照源)

顕本法華宗

◘8月19日、本山総務更迭。総本山妙満寺施餓鬼法要をもって本山総務交替が報告され、中村通義師に替わり、新任大川定信師(京都寂光寺住職)が就任した。◘8月25日~9月8日、平成九年度妙塔学林開校。総本山妙満寺に於いて、将来教師をめざす修業僧が早朝より夜遅く迄行学に励み、全員無事卒業を果たした。◘10月6~7日、東部連合会研修旅行。沼津光長寺(法華宗本門流)を参拝し、日蓮聖人御真筆大曼陀羅、舎利を拝観し、手厚い接待を頂いた。◘10月12日、奉誓式。総本山妙満寺に於いて本年度新任住職の奉誓式が執り行われた。◘10月12~13日、総本山妙満寺御会式。近末寺院総僧出仕のもと、地方からの団参と共に日蓮大聖人の遺徳を偲んだ。◘10月27日、常楽院日経上人墓所参拝。富山県婦中町の音川教会に於いて、吉永日晴猊下を始めとする僧俗により、殉教の先師日経上人の墓所参拝が執り行われた。本宗では不受不施の先師日経上人を偲んで、毎年秋に墓所参拝を奉行している。◘11月4日(東部・東京天妙國寺)、11月28日(西部・京都妙満寺)、僧員講習会。仏教大学講師・弁護士の矢吹輝夫氏を招き、先頃改正された「宗教法人法」について講義を受けた。

(多門顕正)

日蓮本宗

◘佐藤智明宗務当局が「客殿・大書院・庫裏」などの改築大事業を成満したので、任期途中ながら辞任する意思固く、七月三十一日を以て退任した。七月二十二日に臨時宗会が開催され、激動の時代にふさわしい宗・山の行財政機構を確立するために、新しい当局が選任された。

八月一日から田中良英議長(島根県妙伝寺住職)が宗務総長、今村要道議員(京都市實成院住職)が総務部長・教学部長、岩崎隆義議員(福島県妙泉寺住職)が財務部長、佐藤哲夫議員(大阪市円頓寺住職)が法務部長が就任した。◘本山要法寺第五十祖日運上人の第十三回忌(御正当は十一月七日)報恩法要を十月十三日の御大会式に併修し、ご遺徳を偲んだ。◘要法護持会の本部研修会は、本山要法寺大書院を会場に十月十三日午前十時から開催し、今村要道師(實成院住職)を講師に招いて「要法寺と名乗ってから」と題した講義をされた。◘十一月十五日は第三祖日目上人の御正当に当たるため、御茶毘所跡の日目庵で、午前十時から本山要法寺貫首日有猊下御親修、当局、第一教区(京都市)、第七区教区(岐阜県)の寺院住職・教師が出仕し、檀信徒も参拝して『目師会』を営んだ。

(柳下正則)

法華宗真門流

◘各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が8月23~29日まで総本山本隆寺にて開催された。◘8月26日総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展観法要が開催された。◘8月24~30日まで、小樽市妙法華寺において、北海道学林が開催され、期間中に豊浜トンネル落石事故現場に出向き、慰霊法要を厳修し小樽市街に於いて交通安全世界平和を祈願して唱題行進を実施した。◘9月6日第一教区主催の教区講演会が開催された。◘9月7日第三教区主催の教区講演会が開催された。◘9月14日第二教区教学講習会が開催された。◘9月1日福井県小浜市本山本境寺山主、谷川日友上人遷化される。◘10月12・13日総本山御会式奉修。◘10月13日総本山本隆寺において、初転法輪挙行、本年は7名が初転法輪に臨んだ。

石川県市橋諦秀　福井県森崎善敬
奈良県辻本純照　北海道上川泰憲
兵庫県南山円洸　福井県宝田英晃
福井県笠谷信公

(堀内浩善)

法華宗陣門流

◘9月2~3日、東京巣鴨「別院本妙寺」に於いて、中央行学講習会が行われた。一日目第一講義に池上本門寺執事長、市川智康上人を迎え、演題は「大聖人消息、身延より池上」であった。第二講義は本宗学林教授感応院住職、田中見成師を迎え、演題は「御遺文に学ぶ」であった。二日目は、一之江「国柱会」並びに池上「本門寺」を参拝し閉校式を迎えた。◘11月15~16日、三宗統合協議学生講座(陣門・顕本・真門の三宗による統合学院)が法華宗陣門流当番の元、宗務院に於いて開催された。講師は本宗学林教授・本照院住職鈴木顕正師で、演題は「宗学概論」であった。◘11月21日、宗学研究所所員会・22日学林教授会が宗務院に於いて開催された。◘12月2~3日、新住職・学生・沙弥合同研修会が行われた。一日目第一講、教化部長・楡原上行寺住職門谷東生師による「日蓮聖人門下について」、第二講、会計事務所所長・神津政志氏による「新宗教法人の解説」、第三講、学林教授・願成寺住職鈴木宏正師による「門祖教学入門」二日目第四講、翼工房社長・谷口順氏による「寺院建築の様式について」である。

(今井満良)

本門法華宗

◘去る平成9年11月12日、大本山妙蓮寺に於いて、本門法華宗管長松本日望猊下の妙蓮寺貫首第百七世の晋山式法要が門末各寺院・京都日蓮聖人門下連合会本山本法寺金山日龍猊下他各大本山御貫首猊下御臨席のもと、自坊京都成願寺檀信徒参集を得て奉修された。祝宴は会場を京都国際ホテルに移動し、二百五十名を越える盛大なものとなった。◘本門法華宗総長の任期が、平成9年8月30日付で満了により、総長選出の結果、大阪久成寺高遶信幸現総長が次期総長に選定された。同8月31日就任の高遶総長は以下のとおり責任役員及び内局員を選任した。本門法華宗責任役員総務部長藤井宏長(大阪市本妙寺)、同宗務部長信隆允忠(大阪市妙堯寺)、同財務部長増田隆雄(大阪市久本寺)、同教務部長音羽隆全(京都市恵光院)、同庶務部長土畑信教(茨木市本龍寺)内局主事吉村頼彦。委嘱大阪宗務所長山下通雄(大阪妙覚寺)。◘本門法華宗学院並びに教学部では平成9年12月1・2日第84回教学講を大本山妙蓮寺で開催した。講師は増田日紘猊下・飯田信栄本山執事長・白山智宏学院教授、北川前肇立正大学教授。

(木村光正)

法華宗本門流

◘茂原・大本山鷲山寺の藤田日浄猊下が四期二十年に亘る貫首職を御退蔵なされ、新貫首には鈴木日有猊下(北茨城・成顕寺)が就任し、昨年11月13日、晋山式を虔修した。併せて同日、管長に推戴され、門下連合会顧問に就いた。◘尼崎・大本山本興寺の大平日晋猊下、沼津・大本山光長寺の久保木日秀猊下が相次いで御退蔵。選挙により後任貫首には、本興寺―松井日俊上人(豊中・藤井寺)、光長寺―片山郁朗上人(伊東・安立寺)が当選した。晋山式は、本興寺が本年2月、光長寺が本年4月に奉修の予定。◘任期満了に因り宗務総長選挙が施行され、原井慈鳳師(沼津・妙泉寺)が当選し昨年12月10日就任。これに伴い教化部長に圓成淳龍師(尼崎・恵運院)、教学部長に桃井晋城師(京都・龍雲寺)、財務部長に坂巻顕導師(東金・上行寺)、庶務部長に矢吹慈英師(福島・妙法院)を配して組局を完了し、開宗七五〇年奉讃に向け宗政を担当する。◘古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」(尼崎・大本山本興寺内)の平成10年度新入生募集中。

(矢吹慈英)

本門佛立宗

◘第二次・小山内局発足、第二十三期宗会議員選出される。去る平成九年十月十二日をもって任期満了した宗務内局、並びに第二十二期宗会議員の改選選出が滞りなく行われ、平成九年十月十三日付けにて、第二次・小山内局が発足し、併せて第二十三期宗会議員が選出された。

宗門の主な新役員は次の通り。

☆本宗参議・小山日誠・的場滋朗、伊藤隆之、
☆宗務総長・小山日誠、宗務副総長・笹王日昌、佐藤政司、教務局長・高須日良、弘通局長・高野日豊、総務局長・河内日宏、出版局長・丸山日印、財務局長・佐藤政司の各氏。

この他に、十一名の支庁長・二十九の布教区から教(僧)講(信徒)代表各一名、計五十八名の宗会議員が改選誕生した。◘立教開宗七五〇年特別局が設置承認される。

去る十一月二十七日に開催された第百五十六回臨時宗会にて、『開宗七五〇年特別局』の設置が、満場一致で承認され、前宗会議長の石田日奥師が特別局長に選出され、本格的に報恩御奉公の実働体勢に入った。

(深澤泉奥)

るつうぶん 流通文 るつうぶん

＊前号の流通文には、法器養成の必要性が強調されていた。まさにその通りである。日蓮聖人門下連合会の存在理由は、加盟各団体が独自でなしとげられない世界を互いに補い合う世界がなければならない。

＊そうなら、法器養成においても共通の機関が設けられるぐらいの発想があってしかるべきだ。いや発想は既にあるのだから、あとは実行が伴えばよい。今号で完結した編集委員による座談会は、その辺りを手探りながら求めているようだ。

＊開宗七五〇に向け、東京、京都の国立博物館で展示会が予定されている。何としても成功させたい企画だ。それと我らが撃って出る企ても一方にあらねばならないと思う。そういう面で今年は重要な年になりそうである。(宏)

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-0082
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成10年8月1日
第18号

七五〇年御報恩のテーマとは

七文字のお題目を一万遍唱える

リレー提言⑧

法華宗陣門流宗務総長　**土屋　善敬**



平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代(とき)に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

参道を往く唱題太鼓の行列と、お題目奉納旗のはためきと、大法要は盛りあがりをみせました。

いま末法の現実の中で私どもは、立教開宗七五〇年をお迎えしようとしています。

犯罪の低年齢化が叫ばれる社会の片隅に、幸せを求める小家庭内に起きる様々なことがらに、お題目の心で信頼関係を回復すること。そんな唱題行を目指したいと思います。

インドネシアのスハルト大統領が三十二年の政権を捨てたニュースが入ってきました。同族の利権をあさり、片隅の人々に目をむけなかったことの報いとも伝えていますが、私どもの唱題布教活動に於ても、他山の石とすべきことと考えます。

私ども日蓮聖人門下が、それぞれの立場を堅持しながらも、水魚の思い、異体同心の祖訓を体し、一層強固な連携で報恩謝徳の誠を捧げるものでありたいと念ずるものです。

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望などぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

立教開宗七五〇年御報恩唱題行とその実践

私ども陣門流は、昨年（平成九年）摩訶一院日印聖人御報恩のため、小にお迎えした総本山本成寺の開創七百年の奉讃記念浄業のため、御開山宗門の総力をあげて邁進いたしました。



▲ 総本山本成寺大本堂



◀ 富山県別院本法寺

その五年ほど以前より奉讃会を結成し、わずか一七〇カ寺ほどの実勢である私どもには、精一杯の大浄業であったと自負しております。

この記念浄業はすべて、永い年月に古りた総本山本成寺諸堂の、修繕事業でありましたが、その円満成就の最大要因は、宗内僧俗あげて一致した護法愛宗の念によるものと実感した次第であります。

私ども陣門流には、ご本山のためならば……と云う習わしが、まだしっかりと残っていることを確信いたしました。

どのように侃々諤々の議論百出になろうとも、ご本山のための一点で小異を捨てる美風に扶けられた思いがありました。

総じて日蓮が弟子檀那等、自他彼此の心なく、水魚の思いを成して、異体同心にして南無妙法蓮華経と唱へ奉る処を生死一大事の血脈とは云ふ也。

（生死一大事血脈抄）

のご妙判は、其の上高祖日蓮大聖人が、立教開宗にあたっての御心ではなかったかと思います。

平成十四年の立教開宗七五〇年まであと四年、私ども陣門流はいま、後れ馳せながらご門下各ご宗門に追いつくべく、慶讃態勢に入ろうとしています。

しかし小宗門がその全精力を振り絞るようにして終えた、本成寺開創七百年のあとだけに、浄業の名のもとに記念事業を計画したり、浄財を勧募することへのアレルギーの強さを感じます。

それならばと、「水魚の思い」「異体同心」と云う宗祖大聖人のお訓えに従って、立教開宗七五〇年御報恩のテーマを思うと、そこにはやはり、唱題行とその実践がいつものように浮かんできます。

水魚の思い、異体同心の祖訓を体し強固な連携を

七百年御遠忌にも、開創七百年にも、毎年のご本山祠堂法要に唱題行は不可欠のテーマでありました。

六万九千三百八十四文字（約七万文字）を一部とする法華経になぞらえて、七文字のお題目を一万遍お唱えして（七万文字）一部とし、お唱えした部数を記したお題目旗の奉納運動を、私どもは継続して実施いたしました。

奉納されたお題目旗は、総本山大本堂に通ずる参道両側のすべてに林立いたしました。

このお題目は、数人で、講中で、本堂で、又は一人で粛々と唱え続けたお題目でした。

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派（役職含）	門連役職	就任	退任
平九・六・二六	吉村日義師	本門法華宗管長	顧問	就任	退任
	松本日望師	本門法華宗管長	顧問		
九・一	中村通義師	顕本法華宗	理事	就任	退任
	大川定信師	顕本法華宗	理事		
九・一	佐藤智明師	日蓮本宗宗務総長	常任理事	就任	退任
	田中良英師	日蓮本宗宗務総長	常任理事		
九・一	原　真昭師	日蓮本宗	理事	就任	退任
	今村要道師	日蓮本宗	理事		
一一・一三	和田日攝師	法華宗本門流管長	顧問	就任	退任
	鈴木日有師	法華宗本門流管長	顧問		
一二・一	持田貫宣	日蓮宗	監査	就任	
一二・一〇	川口日唱師	法華宗本門流宗務総長	常任理事		退任
	原井慈鳳師	法華宗本門流宗務総長	常任理事	就任	
	三浦成雄師	法華宗本門流	理事		退任
	桃井普城師	法華宗本門流	理事	就任	
平十・一・一	金山日龍師	京都門下連合会会長			退任
	真枝日世師	京都門下連合会会長		就任	
	杉若恵隆師	京都門下連合会理事長	常任理事		退任
	岩崎峻暉師	京都門下連合会理事長	常任理事	就任	
	飯田信栄師	京都門下連合会理事長	理事		退任
	杉若恵隆師	京都門下連合会副理事長	理事	就任	
三・三一	渡辺清明師	日蓮宗	理事		退任
	加賀美泰全師	日蓮宗	理事	就任	

御遷化　平九・一〇・二〇　塩田義朗師（日蓮宗・門連顧問）
一〇・二六　肉倉貫義師（日蓮宗・門連監査）

従地涌出

◆世界は未曾有の危機に瀕している。21世紀を目前に地球規模での温暖化、環境汚染が警告されてから久しい。一方、冷戦終了後も湾岸戦争やボスニアに見られる様に民族紛争の種は尽きぬ。日本一国を顧みても政治不信、大蔵日銀官僚役人による汚職。バブル経済崩壊による付けが、平成大不況となり、経済状況には暗雲が垂れ込めたままである。人心の荒廃は役人のみならず、家庭崩壊、犯罪の低年齢化、援助交際等不正腐敗、倫理道徳の欠如、戦後の教育問題を含め、日本の土台そのものが揺らいでいる。権利自由を錯誤して解釈し我が儘、好き勝手が罷り通る。剰え「君が代」「日の丸」を認めない奇妙な日本人すら未だ大手を振っている。科学文明の限界、心の時代と叫ばれてもオウムの如く邪教が蔓延する。世は正に末世。「如何なる世の乱れにも、各々をば法華経、十羅刹助け給えと、湿れる木より火を出し、乾けるくさより水を儲けんが如く、強盛に申すなり。」（呵責謗法滅罪抄）鎌倉時代日蓮聖人が末法の時機を認識され、但惜無上道のご決意の下、お題目を唱え始められて、七百五十年の聖年を平成十四年に迎えるに当り、この時を意識しての門下各聖の更なる精進を期待するもの大である。

◆昨年の神戸児童殺害事件、今年に入っても黒磯中教師刺殺事件等いささか旧聞に属するが、生命を余りにも軽視しているとしか理解できない残虐な事件が多発している。キレてかけがえのない生命を奪うなど何人にも許されないことである。生命の尊厳とは何か、心の教育以前の人間として最低の心得である。またこれらを報道するマスコミも興味本意ばかりで、生死について深くコメントする批評家も少ない。日々、多くの人々の死が報ぜられているが、感傷も無く芸能ネタと同等に事務的に報じている。人間の死をこんなに軽い扱いでいいのだろうか。日蓮聖人は「命と申す物は一身第一の珍宝」（可延定業御書）と示されている。人の生命、七百年前の日蓮聖人と何ら変わらぬものである。葬儀を通じ生死に接する機会の多い、僧侶として否、一個の人間として自戒を込めて、雑感を記した。（光）

比叡山横川定光院護持顕彰に向けて

定光院は立教開宗の原点

門連だより編集委員
横川定光院運営委員会委員　藤井照源

先師先哲の愛山護法

比叡山横川定光院は、日蓮聖人が二十一歳の時から三十二歳迄の十二年間研鑽された道場で、無動寺俊範上人について法華一乗を学び、南都六宗・高野山・四天王寺などを訪ねて、仏教の奥義を究められ、法華経こそが釈尊の説き示す真実の教えであることを悟られた。比叡山延暦寺は、東塔・西塔・横川の三塔に分かれており、当時は三千の僧が修行に励んでいた。横川は三塔の中でも最も厳しい環境であるが、その環境の中での修学が立教への開示、すなわち「南無妙法蓮華経」の真髄を生んだのである。

定光院の護持運営の歴史を振り返る時、十六本山会各貫首猊下、田中庄次郎氏を中心とした保存会、法華倶楽部等、又、愛山護法の信徒の連綿とした足跡が、現在の礎石となっている。以後、保存会と法華倶楽部が日蓮宗の働きかけにより一致団結し、奉讃会が結成され春秋法要を中心に、護持運営に当たって来た。縁あって、昭和六十三年五月、比叡山開創千二百年法要には、根本中堂にて、日蓮宗管長金子日威猊下大導師のもと、全国門下連合会各聖の御尽力と、全国より参集した檀信徒のご厚情により、日蓮門下の役割を果たすことができた。以来、横川定光院の存在感が日々増して来たのも事実である。

日蓮宗と比叡山延暦寺の協定
日蓮宗宗門史跡に指定

平成四年宗祖比叡山遊学七百五十年を迎えるにあたっては、日蓮宗宗門法要を中心に三日間全国より僧侶檀信徒が集結した。宗門法要は、日蓮宗管長岩間日勇猊下を大導師に、天台座主山田恵諦猊下御親修のもと比叡山大講堂で奉行、前会後会は横川定光院でそれぞれ厳修した。平成二年より、横川定光院の護持運営にあたり、日蓮宗と比叡山延暦寺がかなりの回数を重ねて協議、交渉を行い、平成五年四月一日、日蓮宗と比叡山延暦寺が定光院の管理運営の協定書を結ぶに至った。協定書は、当時の日蓮宗宗務総長伊藤通明師、比叡山延暦寺執行・定光院代表役員小林隆彰師の契約となっている。

この協定を機に、日蓮宗では、横川定光院護持管理規程を制定し、初代主監に日蓮宗近畿教区長大塚泰詮師、主任には京都市本福寺住職花島晴昭師が就任、又、本山本法寺貫首金山寛成猊下を運営委員長とした運営委員会が組織された。そして、僧侶檀信徒が一体となって定光院を顕彰する、日蓮聖人横川定光院護持顕彰会が発足、定光院の護持運営が、より具体的に、より深く進む事となった。特に、表参道、裏参道の整備を始め寺観一新に向けた事業が着々と進んでいる。春秋の法要に関しては、春季法要は日蓮宗近畿教区十二宗務所が輪番で、秋季法要は顕彰会が当番にて奉行、毎回多くの参拝者が登詣、宗祖へ報恩の誠を捧げている。



聖祖のご霊覚はいかなるものか、旭森開宗につながる本化上行垂迹のご自覚をもたれたこの霊跡をおろそかにしてはならない。

立教開宗七五〇にむけて
五万人講発足

横川定光院護持運営のレールが敷かれて以来、日々参詣者の数が増えて来ている今、日蓮聖人立教開宗七百五十年に向けて、横川定光院は本堂庫裡改築の事業を発願。五万人講を組織し、全国有縁の人々に協力を呼びかけている。

※五万人講
一、事業内容　本堂・庫裡・客殿（参籠殿）改築
一、予　算　五億円
一、勧募額　五億円
一、勧募方法　一口壱万円とし五万口を目標とする
一、郵便振替　口座番号
〇〇九五〇―七―四二五九二
事務所　〒六〇六-八三七六
京都市左京区二条通川端東入大菊町九十六　頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所

なお、日蓮門下各派ともゆかり深い定光院に対し、日蓮聖人門下各派、教団にあっては是非積極的に団参、参詣等計画に組み入れていただきたく存じます。各派御自由な御法儀によって参詣、参籠等も受け入れる体制になっております。

定光院
大津市坂本横川
（〇七七五―七九―三〇二七）

さらに、日蓮聖人十二年間の遊学修行の聖地として、平成七年二月一日、日蓮宗より宗門史跡に指定された。時恰も、同年、定光院日蓮聖人銅像建立七十周年を迎えた。この銅像は、大正期、日蓮聖人御生誕七百年記念事業として日蓮聖人門下各宗、京都諸山僧侶檀信徒一致協力の下東京にて鋳造され、大正十二年九月二日、奇しくも関東大震災の翌日、京都二条駅に到着、妙顕寺、本圀寺に仮安置され、同十四年四月十九日横川の地に建立された。日蓮宗はこの機縁に、平成七年十月十七日、横川定光院宗門史跡・日蓮聖人銅像建立七十周年記念宗門法要を奉行した。続く平成八年、比叡山より、天台大師千四百年大遠忌慶讃法要の要請があり、十月十五日根本中堂にて宗門法要を奉行した。



定光院境内に立つ
日蓮聖人銅像

日蓮聖人門下連合会

●目　的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

第17号の訂正
▼人事・原井慈鳳師
×退任→〇就任

「立教開宗750年」

信頼の輪をつなぎます。

日本旅行は、一人一人の夢をカタチにするために、夢を実現するための新しい旅をお届けします。旅づくりの経験によって培われた企画・発想力を生かし、21世紀に向けて積極的に取り組んでまいります。

日本旅行

暑中御見舞

平成十年戊寅

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146-0082 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一代
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 田中日淳
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 渡辺一之
綜合企画部長 加賀美泰全
庶務部長 小松浄慎
財務部長 篠原智高
教務部長 二宮将泰

護法伝道部長 上田尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 松井義昭
現代宗教研究所長 石川浩徳
国際開教室長 中條令紹
人権対策室長 前田幸廣
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 垣本孝精

法華宗(本門流)宗務院

〒170-0004 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五代
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 鈴木日有
宗務総長 原井慈鳳
教化部長 圓成淳龍
教学部長 桃井晋城
財務部長 坂巻顕導
庶務部長 矢吹慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 中山昭夫
宗務次長 山本学人
財務部長 白井謙光
教務部長 奥村智学
社会部長 鈴木無着

布教部長 阿曽久成
庶務部長 三坂岳応
主事 山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

法華宗(陣門流)宗務院

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 土屋善敬
総務部長 都築哲信
教学部長 佐古弘文
教化部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六代
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講尊 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 田中良英
総務部長 教学部長 今村要道
財務部長 岩崎隆義
法務部長 佐藤哲夫
本部事務局長 石見良教

法華宗(真門流)宗務庁

〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 真枝日世
宗務総長 吉田研宏
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
教化部長 寺田完英
財務部長 水野智啓

日蓮本宗宗務院

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 田中良英
総務部長 教学部長 今村要道
財務部長 岩崎隆義
法務部長 佐藤哲夫
本部事務局長 石見良教

本門法華宗宗務院

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 松本日望
宗務総長 高邊信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

宗教法人 国柱会

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一代
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 三田道弘
副理事長 入江克郎
門連常任理事 大橋邦正
門連理事 淀野寿夫
本部事務局長 石見良教

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8447 京都市上京区智恵光院通五辻上る紋屋町三三〇
法華宗(真門流)総本山本隆寺内
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

会長 真枝日世
副会長 金山日龍
理事長 岩崎峻暉
副理事長 杉山恵隆

日本山妙法寺

〒542-0081 大阪市中央区南船場一―三―十一
電話 〇六(二六一)三二二六

首座 上野行量
長老 塙行幸
長老 石山善邦
長老 今井行順

日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人
東京都千代田区九段北三―二―三
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局 松谷被鎧
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八―七

門連だより第16号・第17号では本紙編集委員による匿名座談会を通じ「門連共通の課題」をさぐり、立教開宗七百五十年に向け、門下連合会はもとより、門下各派の僧侶檀信徒が手をたずさえて、共通のビジョン達成に歩みを共にする道筋が、かすかながら描かれたやに思われる。

本号を皮切りに、七百遠忌門連共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくこととなった。

本門法華宗持地光学師、顕本法華宗朝倉俊幸師、本門佛立宗深澤泉奥師にまず御登場ねがい、順次、御意見を開陳していただく方針だ。

に向けての提言(1)

から20年

門連に青年の息吹を

本門法華宗　**持地光学**

十六年前（昭和五十六年）に日蓮聖人ご入滅七百遠忌をお迎えして日蓮聖人門下連合会では、ご承知のように日蓮聖人のご真蹟をはじめとして各宗派所蔵の重宝をあつめて開催された「日蓮聖人展」・作詞西川満氏、作曲黛敏郎氏による「オラトリオ日蓮聖人」・前進座による日蓮聖人ご一代の演劇「日蓮聖人劇」・門下各宗派の次代を担う青年たちが集い「七〇一年の旅立ち」をスローガンに太平洋上に船出した「青年の船」等各宗派異体同心の結束のもとに四大事業が成し遂げられた。

門下連合会が昭和三十五年に結成されて以後、かずかずの共同事業が行なわれ、多大の業績が残されてきたが、七百遠忌のご報恩四大事業は門下連合会の歴史にのこる誠に意義深いものであった。

とりわけ注目すべき点は各宗派より数名の青年たちが実行委員となり計画、立案し、実行にあたってはその運営までも任せられ多大の成果を収めた「青年の船」である。今も記憶に新しくのこっている。勿論、門下連合会理事会、各宗派教団の「青年の船」企画実行への英断と、それに対するご理解と多大なるご尽力、加えて青年たちへの信頼をいただけたお陰は言うまでもない。

日蓮聖人の教えを外に向かってアピールする目標として「めざせ立正安国」を掲げ、内には「青春さまざま信仰は一つ」を表し、青年男女五百名が結集し十一日間の船中にて運命をともにし、そこには各宗派の独自性をのりこえ、日蓮聖人のもとお題目を唱える仲間として、心を開き語り合い異体同心にして皆帰妙法広宣流布と、まさに七〇一年への旅立ちにふさわしい成果を収めた。

この成果により昭和六十年、門下連合会結成二十五周年においては門下青年の結束を将来に向けて強めていく旨の発表があり、翌六十一年には門下連合会機関誌「門連だより」の創刊号が発刊となった。

ちなみに「門連だより」の編集委員各聖は「青年の船」実行委員が大多数であった。船の仲間として各宗派の事情を越えての取材・編集・校正と門下連合の連帯をたかめる一役を担っており平成十年一月には十七号の継続をみる。

本年七百遠忌より十六年、この度は我々の原点である立教開宗七百五十年を四年後に迎えるにあたり、今門下連合会においてはどのようなご報恩がベストなのか慎重に審議がなされているが、私見としては七百遠忌の「青年の船」の若者のエネルギッシュな行動力、機関誌「門連だより」の情熱ある継続等にキーポイントがみうけられると思う。

今日の日本国内においては経済の低迷、心の崩壊、高齢・少子化社会、政治不信等、混迷の渦中にあって、鑑みるに二十一世紀が、あるいは次の百年が人類滅亡の時代になるか、これは一人ひとりの若者が真の人の心、人類愛と自然に対する愛、即ち法華一乗妙法の慈悲心を持っているかどうかにかかっているのではないか。

いじめも殺人も自然破壊もないような、人類の楽園がくるかどうかは、ひとえに自分たちの法華経精神による自己改革と、そしてまた家庭、学校、社会における若者の信心教育にかかっていると思う。

それ故に「青年の船」の成果をふまえ、二十一世紀を担う柔軟な各宗派の青年に、立教開宗七百五十年事業に向かって何ができるか、何をすべきかを真剣に考え、是非とも宗祖の御心に応えるべきご報恩の一端を担っていただきたい。

それには門下連合会結成二十五周年の発表にもあるように、青年の結束を重点として、今ここに「門下連合会青年会」の結成を提案し早期実現を望むものである。

「門連だより」編集委員各聖による座談会「日蓮門下共通の課題を探る」にもそれぞれに疑問をかかえて試行錯誤している様子がみうけられると同時に、現実を直視した手厳しいご意見も伺われる。

このような青年各聖のご指摘は理事会ではみうけられない。いつも言われる所の宗派の事情を尊重しながらもお題目のもと祖廟を中心とした理念をふまえて本音で語り、門下連合会への奮起を促し、ことにあたりては、青年会が原動力となり理事会が舵をとり、恰も両輪のごとく進めば、門下連合会の飛躍発展に大いに寄するところがあろう。

各宗門に限らず、社会全体が後継者の養成には何かと配慮がなされているが、仏教界ではいまひとつ殻を抜け切らない面があるようにも思われる。

そこには良い意味での歴史と伝統があるからだとみうけられるが、経済社会を生き抜く企業にとっては社会の流れを的確に判断、把握し、それに応えるべく人材養成がなされている。自動車メーカーのH社などは若手の柔軟な発想や、意見を上層部が的確に取り入れ、より良いコミュニケーションがあったことが、成功の一因であったと言われる。

いずれの社会にあっても、青年のもてる可能性を理解し存分に伸ばしてやることが最も重要である。

宗祖の立教開宗の大宣言をなされたときは、御年三十二歳であり、撰時抄の御文には「夫れ仏法を学せん法は必ず先ず時をならうべし」と仰せられている。

開宗七百五十年を目前に控えて「今正しく是時なり」である。宗祖の御一生は三世の中で現在（今）を基軸に時を考えられ、時に応じる活動をなされたのである。

平成十四年はあらたなる出発点である。今こそ熱い情熱と燃える信念をもつ青年たちが宗祖の二陣、三陣となって立ち上がり異体同心にして、青年の実行力を発揮して、もって各宗派全寺院が日蓮聖人門下連合会の存在と理解を深めることへの運動を起こし、各宗派の教義を尊重しつつ、お題目のもと各宗派連携して一丸となり「めざせ立正安国」へと邁進することを切に熱望するものである。

「連絡」「協力」「団結」

顕本法華宗　**朝倉俊幸**

此の度、日蓮聖人門連だよりの編集委員会より、平成十四年にお迎えする「立教開宗七五〇年」に向けて、日蓮聖人門下にとって大切な歴史的節目に、門下連合会として何を成すべきかという重要テーマにて提言をという依頼を受けた。

思い返せば、昭和五十四年当時、一青年僧として、門下連合会宗祖七百年遠忌の報恩記念事業「青年の船」実施に向けて、その準備企画当初より参画させていただき、試考錯誤の日々を重ね、各門流より参加された運営委員の皆様と意見交換をしながら、目的達成の為に微力を重ねあったことは、わが僧道生活の上でも忘れがたい貴重な体験であった。

そんな熱き青春の思いも、時が経ちややもすると繁忙な日常生活に埋没しまいがちな現状に、編集局よりのご連絡は、怠惰な自身への覚醒を促されている思いであった。

門連だよりも、各門流より選任された委員諸聖の御尽力により継続発行され、既に十七号を数えていることに、衷心より感謝申し上げたい。

毎号紙上に掲載される御提言や門下各宗派の活動情勢等々を拝見することは、一末寺をおあずかりする者として、大きな刺激を受けると同時に、様々な課題を見つめる好機ともなっている。

平成十四年に迎えんとする「立教開宗七五〇年」に、門下として何を基本テーマとして取り組むべきかと考えるとき、門下連合会発足の根本理念に提唱されている、日蓮大聖人の理想を実現するために、祖廟を中心として、参加教団がそれぞれの歴史や独自性を超えて、「連絡」「協力」「団結」を共通理念として、八つの基本事業を掲げながらその実現推進をするという原点を見つめ直すことが大切であろう。

門流の歴史的節目にその時代背景を見つめながら、各種の共同事業を展開されてきた成果は決して無意味なものではなく、それぞれ後世に継続的な課題を含めて成果をもたらしてきたことも事実であろう。

しかし、歴史的節目の当年前後は各種イベントや布教伝道等の面でも、一時的に活性化するが、時が終わると尻すぼみになってしまう傾向は、何時も若干の寂しさを禁じえないものがある。

スローガンに提唱してある「教育事業の提携」「布教の連合強化」「研究会・講習会開催」といった、課題が継続実現の障害となっているのか、取組みの基本姿勢から参加教団が、今一度考え直す必要があろう。

現状の門下連合会の実態は、親睦交流の域を脱しえないものがあろうし、参加教団の末寺僧俗のレベルで、どれだけその存在や活動状況を認識されているかと問い直したとき、希薄なものがあろうし、組織論として考えるならば、更なる啓蒙が急務であろう。

二十一世紀を目前にした、現代社会は混迷の度を深めている。高度成長期の加速的な社会エネルギーは、近年のバブル崩壊と共に霧散してしまい、その反動として残った虚脱感と、不確実な時代予測に大衆は困惑している。

同時に金権腐敗に象徴される政治不信、子供社会に蔓延するイジメ問



サイパンに上陸、ただちに戦歿者慰霊法要
（バンザイクリフにて）

立教開宗750年

日蓮聖人門下「青年の船」



大きな夢を乗せ、立正安国の実現をめざした船出(昭和57年3月26日横浜港を出港)

題、自然破壊・生活環境問題等々数々の社会問題が噴出し、現代社会の病巣は根が深い。

このような社会不信、人間不信の時代下、我々日蓮大聖人門下として宗祖が御生涯提唱された「立正安国(論)」に示唆されている教えを真摯に見つめ直し、「法華経」の教える人間尊重や自由(解脱)や平等の教えを普遍し、混迷する現代社会に光明をなげかけられるよう、門下教団に身を置かせて戴いている一人ひとりが「安国論」の後史を引き継がんとする決意がなくてはならないのである。

宗教がその時代背景、世相から派生する諸問題に敏感に反応できなくなった時、その生命・理想は色あせたものになってしまうであろう。

末法思想の視点で現代社会をとらえ直すとき、正しく日蓮大聖人が激動の鎌倉時代の世相を鋭い凝視と深い洞察をもってとらえられ、それらの時代下に苦悩する民衆の真っ只中に飛び込まれ、様々な事態を通じて増幅されてゆく多くの課題や試練を、真正面から受けとめられ、末法救済の根本に、己の救済に増して社会(世相)浄化に力点を注がれたお志を見失ってはならないであろう。

混迷する世相の下、『こころの時代の大切さ』が叫ばれ、人間尊重・心の豊かさ、実り多き老後を求める人々の切なる願いにこたえるためには、我々も現代社会が生み出す様々な問題、課題に厳然と対峙しながら、日蓮大聖人が取り組まれた視点を再認識することが肝要であろう。

鎌倉の辻に立ち、往来する人々に訴え、啓蒙し続けられたお姿を忘れてはならない。

門下教団が、それぞれの歴史と特異性に固執することなく、日蓮大聖人の原点に立ち返って、「連絡」「協力」「団結」の共通理念のもと、先学の師が提唱されたように「仏陀を背負いて街頭へ」の決意をもって、法華経の教えと日蓮大聖人の御精神の一言なりとも伝えんとする実践行あるのみだと思われる。

近年でも、日本山妙法寺僧伽の藤井猊下をはじめとする僧俗の方々が「平和運動」への撃鼓唱題行脚を実践せられ、世界的に大きな反響と共感をもたらされた実績が示されているように、その為にも門下教団の青年僧組織、たとえば日蓮宗の「全日青」、わが顕本でいえば「顕青会」など各門流青年会組織が、連携を図って共通テーマを掲げ全国規模で一大キャンペーンを展開して欲しいと切望するものである。

また平成十四年の当年に向けて、全国各地(門流各本山をメイン会場として)で法華経と日蓮大聖人の教えを宣伝する一般大衆向けのセミナー・シンポジウムの継続的開催を実現していただきたいと念願してやまない。

同時に過去の聖年の節目にも実施された、門流格護の貴重な歴史的遺産の一般公開「日蓮聖人にまつわる什宝展」をはじめとする公開キャンペーン実施など、現代社会、大衆に向けてアピールしていくことが必要ではないかと思う。

門下連合会の更なる発展拡充と充実を念願いたします。

「妙法を弘める」

本門佛立宗　**深澤泉奥**

『門連だより』より、『七五〇に向けて』何か意見・発想・提案などを執筆せよ、との依頼がきましたので全く個人的立場での発言という点を初めにお断り申し上げ、思いつくまま感じたままを、創立当時の先師上人方の門下連合を生み出したこころを思い探りつつ、事業の各項目について提案を試みてみます。

① 祖廟護持の組織強化。

国柱会が現在も定期的に参詣給仕されているそうですが、宗義的な意味でなく、門下共通の歴史的聖跡として、当初各派の代表が申し合わせた事実を、もう一度かつての輪番制にならって、各派が一年交替で祖廟護持のお給仕をさせていただくなど、立教開宗七五〇年を機に行うのはどうでしょうか。

② 教育事業の提携。

現在、陣門流、顕本法華宗、真門流による『三宗統合協議学生講座』という交流が定期的に実施されていると伺っています。この他、各派の学林主催による研究発表などに招待交流も二三伺っていますが、教育事業として門下連合が主体(主催)となって立教開宗七五〇年を機に、門連大学などと称して夏季一定期間を、祖師学・布教学・社会福祉学などの講座を設けて研讃してみては。

③ 布教の連合強化。

前項の門連大学などの講座で学んだことを共通の土台として、御題目を知らない・唱えない一般社会へ、妙法の大切さを認知させるべく、七五〇年を機に各派連名の名前入りで新聞やテレビに時折り意見広告を発表してみてはどうでしょうか。

④懇談会・研究会・講演会等の開催。

②項で述べたように、それぞれでは個々に実施しているようです。七五〇年を機に、各分野の学術的に実践的に世界的権威の講師を、門連主催で招いて研究会や講演会を開いたり、専門家を交えた懇談会を催すなど、現在の理事会から組織的拡充を計って、『門連事業の実行委員会』(仮名)を作って実行して行くべきと提案します。

⑤ 各種出版物の刊行。

とりあえず、現在各派の研究誌に発表されている論文の中から選出していただいて宗外に公開していただく、そこから派生して反論や更に深く掘り下げた研究が発表されるなどの効果も生まれるでしょう。

それから、各寺院でコツコツと布教のための副読本として製作された小冊子や信仰心啓発のテキストなども、門連として発刊してみては。

⑥ 海外布教の提携及び交流。

仮称『実行委員会』によって、まず各派の現状・現在ある海外拠点の所在地・連絡方法担当名、活動概況を公開提供いただき、それを収集整理して、各派にフィードバックしてもらう。もちろん海外の各派の拠点にも資料提供するとよい。

そのうえで、各派の海外拠点の活動現況と問題点・並びに希望事項をあげてもらい、出来る限りそれらに対処して行くよう門連で処理する。

⑦ 対外的な各種の運動。

青年の船の参加メンバーたちは、十七年経た現在も交流し、信心増進の糧となっているようです。

あまり大上段に振り構えるのではなく、七百遠忌では四大事業をもって世間宗外にアピールしたように、今回もそれ以上のイベントをもって門連あげての力強さを見せる事が、そのまま対外的な運動の柱となると考えます。

本項の解釈としては、多分、現代社会がかかえている問題に対する具体的な運動を意味しているのではないかと思いますが、例えば、ボランティアとか環境汚染問題、核兵器実験反対など。それ自体は確かに尤もであり、必要性もありますが、門下生としては、本末を混同してはならないと考えます。

いま私たちが為すべきことは、このような時代世相だからこそ、世間の動きに迎合する事なく角度をかえて一段高い法華経の、即ち日蓮聖人のみ教え・生き方・在り方・物事に対する処し方を、正々堂々と世間に知らしめ訴えて行くことこそ、対外的運動であり、各種という言葉に惑わされてはなりません。

その意味で、今回まず打ち出されたイベント『法華信仰者の芸術文化展』は素晴らしい企画であります。願わくはこの展示会においても必ず展示品に対する作者の信仰的背景を解説して頂きたい次第です。

以上のように、門連の規約申し合わせに照らし見ただけでも、その中には立教開宗七五〇年に向けて為すべき事業はその気になれば山ほどあるということが判ります。

更に七百遠忌でのイベントを門連の次世代への法灯相続・妙法伝承の為と、位置づけますと、成功したことをもう一度行うことも悪くありません。

歴史を垣間見れば、古代より神仏への畏敬を祀り事(政)として四季折々の節にイベントを行ってきたのであり、常に人類の歴史はイベントの繰り返しであったはずです。形や規模こそ変われ、本質的な処は古今を通じて全く変わっておりません。

いま前例にならって、実行すべきイベントの案を具体的に呈すれば、

① 既に決定された『法華信仰者の芸術文化展』は、発想も素晴らしく規模もとても良いと思います。これを東西の二カ所だけで終わらせるのは見学者が少なく限られてしまいます。より広く、例えば北は札幌、東北は仙台か盛岡あたりで、中部地区の名古屋、中国地区の岡山、九州博多か熊本など、主要都市での開催を希望します。

② 劇や映画は、今回も行いたいものです。良いものは真似して取り入れる前向きな姿勢でいけば、立教開宗をテーマにしたアニメーション版日蓮聖人伝記や、バレー、ジャズやラテンロックなどでの表現を、今から公募したら面白い何かが生まれそうです。故・黛敏郎氏の『オラトリオ日蓮』、立正佼成会で出された松下真一氏の『仏陀』も大作で、法華経の表現方法もこんな凄い形でできるのだと感銘しました。

『妙法』『立教開宗』などをテーマにしたオーケストラや文学があったら素敵です。

各派のお祖師様関係の小説・伝記評論・エッセイなどを一同に集めたブックフェアを、前述の各主要都市にて順次開催したら、法華日蓮思想の大いなる啓発となるでしょう。

③ 青年の船はどうでしょう。前回大成功した参加者、殊には当時の実行委員の多くは各派の要職に携わっているようですので、前回以上の内容の充実したものができそうです。船もはるか大きく新しい国産の『飛鳥』や『富士』などが就航しています。目的地も清澄から天台山などもいいでしょう。

もっと世界的に視野を入れようと言うなら、『青年の翼』を清澄のある千葉成田から、全世界七つの大陸に、南無妙法蓮華経の七文字にならって特別チャーター機を七機飛ばすのも良いでしょう。前回は五〇〇名の参加青年がいました。

当時から十七年経った現代は、いとも簡単に若者達は海外に出掛けて行きます。各派のもっている海外拠点を中心に海外の青年信徒たちと交流するのも『一天四海皆帰妙法』の一翼を担うことになるでしょう。シルクロード仏教の源流を尋ねてという企画もあります。いずれも、やろうと思えば即実行できるものばかりです。

以上が、七百遠忌イベントを改良拡大して提案してみたものです。

この他、十六号・十七号の座談会で提案されていた、『唱題行脚』も良いと思います。加えて言えば、オリンピックの聖火リレーのように清澄から全国の各派寺院へ、『唱題行脚』したり、逆に清澄へ集結したりという方法も浮かびます。

また、今はやりのテーマパーク方式を取り入れて、千葉のどこかに門連で土地をある期間借りて、そこに『お祖師様のすべてを知ろう』をテーマにした、一代記コーナー、ブックフェアコーナー、ご遺品コーナー、体験コーナー等々、夢は万博のように拡がります。

最後に、もう一つ門連以外の法華経系の新興宗教団体にも呼びかけて、懇談会や共同イベントなどを行うことも考えてみたい。

大切なことは、『妙法を弘める』ことなのであり、そのためのあらゆる努力は、可能な限り実行すべきと考え、筆をおきます。



暑中御見舞

平成十年戊寅

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二二)一〇九四
主　岩間日勇
総務　藤井教雄
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首　田中日淳
執事長　市川智康

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫主　真枝日世
執事長　岩崎峻暉
執事　笹木研秀
執事　矢放真文

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
首　吉永日晴
総務　大川定信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
執事　津村乗信
執事　小松正学

日蓮宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首　松本日望
執事長　飯田信栄
役職員一同

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
首　竹嶋日香
執事長　笹原壮玄
執事　西山英仁
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一

日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　田中良英
執事　今村要道
執事　岩崎隆義
執事　佐藤哲夫

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首　松本日望
執事長　飯田信栄
役職員一同

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職(二十二世隠有)　井上日慶
事務局長　伊藤隆之

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五
別当　杉山日慎

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七
貫首　本間日諄
執事長　本間正晃

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一
貫首　石川日命

日蓮宗大本山
清水寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
貫首　山田一光
執事長　原光司

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七三(三四)三四三三
貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
山主　駒野教格

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首　金山日龍

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　新井智清
同　末吉啓宣
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝

門連時報

身延山祖廟参詣 理事会開催される

日蓮聖人門下連合会加盟各派代表者による身延山の祖廟参詣・理事会が六月十一日行なわれた。

当日午前十一時三十分、祖廟常唱殿に参集。常唱殿大広間正面右に、門下連合会結成当時つくられた、門下連合会の「祖廟輪番奉仕団団旗」が今回より飾られている。門下連合会の祖廟中心の理念がこの旗に象徴されているが、現在この団旗を先頭に輪番奉仕を行なっているのは国柱会のみである。

門連結成当時をかえりみる意味をこめ、今回はこの団旗を先頭に行列を組み、撃鼓唱題祖廟に進んだ。祖廟では永井祥文理事長を導師として至心に異体同心の法味を捧げ、七五〇立教開宗に向けて邁進を誓った。

続いて御草庵跡を参拝した。

これより一行は身延山久遠寺本殿、棲神閣祖師堂を巡拝、宝物館を見学した。

新書院で藤井教雄総務の出迎えを受け、昼食。午後二時身延山大学会代室に会場を移し理事会を開催。

恒例に依り永井理事長座長となり議事進行。平成九年度事業報告、決算報告、平成十年度事業計画、予算案が承認された。

次に任期に依る監査退任の法華宗本門流芹沢泰謙師が辞任挨拶。昨年日蓮宗より就任した持田貫宣師が就任の挨拶を行なった。芹沢師の後任については法華宗陣門流、土屋宗務総長より同宗前宗務総長の牧野琢成師の推薦あり、全員異議無く承認され、牧野師が就任の挨拶を行なった。

次に地方門連活動に関し、京都門連を代表して岩崎峻暉理事長が報告、御降誕会、立教開宗会、夏期大学お会式など、平成九年度事業に関する詳細を報告、平成十年度事業計画の発表を行なった。

大阪門下懇話会木下恵温理事長は会の構成（一七四名）、組織（理事一九名）、総会、報恩行事として合同お会式、京都本山めぐりの実施など、活動報告、飛躍的発展を期したいと抱負を語った。

北海道門連佐藤光春理事長は、北海道門連として特に顕著な事業活動に至っていないが、より充実した活動を目指すと語った。

理事会最後の案件は立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件で、懸案の「法華信仰者の芸術文化展」に関し、大橋常任理事が報告を行なった。

「各宗派所蔵について調査票回収が思うように捗どらない現状に鑑み、立正大学教授、坂輪宣敬師に正式依頼、リスト作成をお願いした。その結果は別紙資料の通り二六七点に及ぶリストを提出していただいた。もとよりこのリストは第一次案であり、存・没追加はこれからの作業であるとの坂輪教授のコメントも頂いている。」

右報告をふまえ、今後推進の方向で内容検討、博物館側とも接渉を行ない、門連常任理事会に報告しながら企画推進をはかることが諒承された。午後四時会議を終え、下部ホテルにて身延山当局を交えなごやかに懇親会が行なわれ、翌十二日散会となった。



参加者全員で記念撮影



祖廟輪番奉仕団、団旗



団旗を先頭に祖廟前へ

京都日蓮聖人門下青年会 平成十年度総会開催

京都日蓮聖人門下青年会（梅本光祥幹事長―日蓮宗）の平成十年度総会が、太公で開催され、各宗各派会員十五名が参加した。平成十年度会務計画が報告され、門下連合会の各行事参加を中心に、唱題行脚、勉強会、バレーボール大会、OBとの懇親会、研修会等が了承された。又、平成十年度会計予算も了承され、今後の門下青年会の大同団結を誓い合い懇親を深めた。梅本幹事長は「設立の原点に立ち返り、行学二道・親睦を中心に活動の展開を図って行きたい」と方針を語っている。平成十年度役員は、幹事長―梅本光祥（日蓮宗）、副幹事長―阿南光節（本門法華宗）、副幹事長―二之部知孝（日蓮宗）、庶務―藤井照源（日蓮宗）、庶務―小松正学（顕本法華宗）、幹事―清田学英（日蓮宗）、幹事―奥山文章（日蓮宗）、幹事―赤田泰宏（法華宗本門流）、幹事―矢放真文（法華宗真門流）、幹事―赤塚高明（法華宗陣門流）、幹事―嘉儀吉裕（日蓮本宗）

（藤井照源）



京門連青年会

京都日蓮聖人門下連合会降誕会奉行 平成十年度総会開催

京都日蓮聖人門下連合会（岩崎峻暉理事長―法華宗真門流）は、二月十六日、法華宗真門流総本山本隆寺に於いて、宗祖日蓮大聖人御降誕会慶讃法要を奉行し、僧侶檀信徒約百名が参加した。

法要に先立ち、平成十年度総会が開催され、眞枝日世会長（法華宗真門流総本山本隆寺貫主）、金山寛成副会長（日蓮宗本山本法寺貫首）、岩崎峻暉理事長の挨拶があり、議長に杉若恵隆副理事長（日蓮宗）を選出し、平成九年度会務報告、同決算、平成十年度役員紹介、同会務事業計画、同予算案を承認した。

法要は眞枝貫主を導師に、岩崎理事長と杉若副理事長が副導師にて厳修され、参列者一同宗祖の御降誕を讃えた。

法要後、本山立本寺加藤貫雄貫首による『降誕会について』の法話があり、「日蓮聖人の生き方そのものが、三業受持のお題目であり、我々はそれを見習って行かなければならない」ことを強調され、参詣者は信仰の心の糧を尊く得た。そして、おうどんの供養があり、御降誕会の日程を終了した。

尚、今後の予定として、夏季大学（八月二十六日―本能寺文化会館）、御会式（十月三日）が奉行される。

（藤井照源）

日蓮宗新聞社出版案内

お申し込みは **日蓮宗新聞社**
東京都大田区池上7-23-3
〈全品〒実費〉TEL.03(3755)5271

ひと口説法

―新発売―

「日蓮宗新聞」題字下の人気コラムが本に。

今や末法の世、金融崩壊・汚職・青少年の暴力事件、そんな悩める現代の人々の心に効く良薬。法華経や日蓮聖人のお言葉を一席のお説法に乗せた、心と時代の処方箋。全国七十四管区の布教師会長による三百編のお説法。

監修／日蓮宗護法伝道部
推薦／日蓮宗全国布教師会連合会
A5判ハードカバー三二四ページ
▼定価一、七〇〇円（本体一、六二〇円）

日蓮宗御遺文習学シリーズ

日蓮宗宗務院護法伝道部編
B5判・並製本

①『富木尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
矢の走ることは弓の力

②『清澄寺大衆中』に聞く　三〇〇円
日本第一の智者となしたまえ

③『盂蘭盆御書』に聞く　三〇〇円
自身仏に成らずしては父母をだにも救いがたし

④『安国論御勘由来』に聞く　三〇〇円
前代に超えたる大地震

⑤『妙心尼御前御返事』に聞く　三〇〇円
病によりて道心は起こり候か

⑥『新尼御前御返事』に聞く　三五〇円
この五字の大曼荼羅

各派・教団 短信

本門佛立宗

◘佛立教育専門学校、卒業・入学式と校長交替。さる3月18日、平成9年度の本科二年生八名の卒業式が行われ、正式な佛立教師として補任された各師は、それぞれ希望と情熱を秘めて自坊に帰山した。4月10日には、平成10年度の入学式が行われ、全国から十二名の新発意が入学。新二年生十四名と共に二年間の本山寄宿・行学生活に入った。なお、平成10年4月1日付けで、川手日廣師（東京三郷尚立寺）・が定年による任期満了を迎えた先任の植松日展校長（浜松要行寺）の後を受けて新校長として就任した。◘4月19日、京都本山宥清寺にて門祖（日隆聖人）会が奉修され、晴天の陽射しの中、五九〇〇名余の参詣で賑わった。◘宗内四つめの社会福祉施設が完成。大阪経王寺住職・加藤淳真師が理事長を勤める『社会福祉法人・波除福祉会』では、この度経王寺に隣接する『波除総合福祉館』が新築完成。4月13日に竣工式並びに祝賀会を催した。建物は九階建で保育所『波除学園』と『なみよけチャイルドセンター』老人福祉施設『ケアハウスなみよけ』『在宅介護支援センターさくら』『デイサービスセンターさくら』の五施設が併設されている。このような福祉施設は、博多光薫寺・大阪清風寺・佐原妙益寺に続いて四つめであるが、最も大きな規模である。（深澤泉奥）

日蓮宗

◘情報化社会への対応を図るための一環として、このほど日蓮宗のインターネット・ホームページが開設された。内容は日蓮宗の簡単な紹介に限られているが、いずれは、伝道布教、全国寺院や檀信徒との事務伝達・交流窓口としての活用も考えている。文字・画像・音声で世界へ家庭へ身近な情報を伝える事が出来る。アドレス（http://www.nichiren.or.jp/）◘4月1日より宗務院永井第二次新内局がスタートした。◘日蓮聖人滅後、初期教団を隆盛へ導いた六老僧・日朗上人ゆかりの寺、鎌倉市の本山妙本寺（加藤海晃貫首）で、十五代将軍徳川慶喜が自ら安政六年（一八五九）に法華経の大事な部分を抜粋した独自の「撰法華経」が見つかり、4月21日慶喜の法華経供養を偲ぶ法要が行われた。◘日蓮聖人遊学の聖地、滋賀県大津市の横川定光院で4月23日、春季法要が行われ、僧侶檀信徒二百人が参加した。法要に先立ち、「宗祖と比叡山」と題して講演があり、法要の後は延暦寺大講堂に安置されている日蓮聖人像に参拝した。（太田順祥）

国柱会

◘妙宗大霊廟創建七十周年記念の年にあたり慶讃記念事業・結縁運動を展開。◘御遺文勉強会を毎月、供養会後に本部講堂で開講。◘3月6日、国柱会中央連合協議会で武蔵野御陵清掃奉仕。◘4月5日、恒例の「申孝園桜まつり」にぎやかに開催。◘4月23日、東京・九段会館で開催の「昭和の日」実現国民大集会に中央の会員参加。◘4月28日～29日、第68回身延登詣団実施。1日目大祖廟参拝、立正会慶讃式典。2日目、思親閣登詣。山頂で報恩集会。両日とも田中暉丘団長より記念講演がなされた。帰路、北山本門寺を参拝。◘5月、田中智学先生述『日蓮聖人の三大誓願』復刊（定価一、八〇〇円）。創建七十周年記念出版『妙宗大霊廟』発刊（頒価二、〇〇〇円）。機関誌『真世界』5月号（通刊六一〇九号）は妙宗大霊廟創建七十周年記念特集号で発行。◘5月17日、国柱会本部・申孝園で妙宗大霊廟創建七十周年記念大会開催。全国の会員参列して、記念慶讃法要・恩師月忌報恩法要・大霊廟第八百四十回例月供養会を田中暉丘会長式長にて厳修。続いて霊廟前で庭儀。式長より記念式講、国柱会雅頌部による献舞楽「立渡る」、林流一門による献舞踊「霊廟讃歌」がなされた。園遊会では音楽「霊廟心象」発表、即興屏風画揮毫などが行なわれた。（秋場善彌）

京都門下連合会

平成10年度会長—総本山本隆寺貫主眞枝日世猊下、副会長—本山本法寺貫首金山寛成猊下、理事長—総本山本隆寺執事長岩崎峻暉師、副理事長—日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師に決定する。◘1月21日理事会。於本能寺会館、平成10年度役員確認・平成9年度決算報告・平成10年度会務事業計画・平成10年度予算案・平成10年度総会の件・平成9年度降誕会の件。◘2月16日総会・降誕会・於総本山本隆寺。平成10年度役員紹介・平成9年度会務報告承認の件・平成9年度決算承認の件・平成10年度会務事業計画の件・平成10年度予算案承認の件。降誕会—大導師は総本山本隆寺貫主眞枝日世猊下、法話は本山立本寺貫首加藤貫雄猊下、おうどんの供養あり。◘3月11日理事会。於総本山本隆寺、開宗会の件・夏季大学の件。◘4月25日開宗会。法要—比叡山大講堂に於いて奉行、大導師は総本山本隆寺貫主眞枝日世猊下、法話は日蓮宗専任布教師風間随成師。法要後、横川定光院を参詣、琵琶湖博物館を見学。◘尚、今後の予定として、8月26日本能寺会館に於いて夏季大学、10月3日総本山本隆寺に於いて御会式がある。（藤井照源）

顕本法華宗

◘3月10日～11日、総本山妙満寺において、第53定期宗会開催。平成9年度決算、10年度予算、教区再編などが主な議案。◘4月末、立教開宗七五〇年慶讃事業のひとつ総本山妙満寺の全伽藍屋根瓦ふき替え工事並に大書院改築・客殿畳入れ替えが完了した。◘4月27日、東京品川天妙國寺において平成十年度全国所長会議開催。◘5月9日～10日、総本山妙満寺において春季大法要。宗祖・開祖並に先師報恩法要ほか六座の法要を、吉永日晴管長猊下、中山宗務総長など大導師のもと厳修した。中国箏奏者、伍芳女史の阪神大震災チャリティーコンサートも開催された。◘5月29日、千葉市浜野本行寺において平成十年度東部連合会総会。任期満了による役員改選等が議案。◘6月9日～10日、加賀市山代温泉にて三宗統合協議会（顕本・真門・陣門）を本宗当番の元開催。◘6月15日～16日、東広島市の妙福寺において西部連合会総会・研修会開催。◘7月2日～3日、三宅島殉難先師顕彰法要。松鵜宗綱参議導師の元、正統院日尚上人他、殉教の先師の墓前に香華を手向けた。（多門顕正）

日蓮本宗

◘文字通り五月晴れに恵まれた5月8日、本山要法寺御開山日尊上人第六百五十四年ご報恩「御開山会」が、午後1時から本堂に於いて貫首猊下大導師のもと、全国末寺より寺院住職・教師が上山出仕し、檀信徒が参拝し奉修された。法要後、貫首日有猊下は「来る平成十四年には、開宗七百五十年の記念すべき歳を迎え、この千載一遇の機会を得られた幸せを胸に、お題目の輪を広げるように、異体同心精進していこう」と呼びかけられて、自ら先頭に立つ決意を力強く表明された。◘第三祖日目上人が七十四歳の老軀に鞭打ち、日尊上人・日郷上人を共に従えて、富士の地より天奏のため上洛の途次、美濃の国垂井（岐阜県不破郡垂井町）の宿でご遷化になり、お茶毘に付した御霊跡「日目庵」に建立されている「日目上人御茶毘所跡」の石塔・境域の大改修が、貫首日有猊下のご発願によって実施されることになった。目下門末寺院住職・教師を始め、有縁の檀信徒に浄財の歓募を呼びかけている。5月15日午前11時より起工法要を貫首日有猊下ご親修により、本山より田中良英執事長・今村要道執事、地元から日目庵住職小畑友宏師、大雲寺住職水澤孝順師、光徳寺住職渡辺光顕師、施工業者新谷石材店の関係者多数が参列して厳かに執り行われ、無事成満するように祈念した。◘北山にある重須本門寺に隣接する富士宮市立北山中学校生徒百十八人は、5月21日、修学旅行で入洛した機会に「梨一葉」の故事で知られた日尊上人と要法寺に来山。午後五時から四十分間にわたって、今村要道執事の「日尊上人と要法寺」の話に耳を傾けた。同校では今年以後、修学旅行のコースに本山要法寺への来山を組み入れたいとしている。（柳下正則）

法華宗真門流

◘2月　日教区所長会議、布教師会を開催、本年度の各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。◘3月　日より三日間、総本山本隆寺にて、寺院子弟の講習会（僧国林）が開催された。◘4月8日より27日まで真門学林講堂において春季学林を開講、本科専門科それぞれの講座が開かれた。◘4月11日より三日間、総本山本隆寺において千部会、開山忌等が厳修された。◘5月24・25日、第一教区（所長田仲良啓師）では、第18回『檀信徒の集い』報恩の旅を実施。今回は、岡山・津山・豊岡方面の由緒寺院を参拝・豊岡・妙経寺において、報恩法要を厳修した。◘5月27日より四日間、第8期布教師養成所（所長堀内邦雅師）が開催された。◘6月4日・5日第二教区護法会（福井石川地区・所長遠藤昭栄師）では清澄山参拝団を実施　清澄寺講堂をはじめ、誕生寺等の近辺の由緒寺院を参拝して、信仰増進に寄与した。◘6月21日第二教区では、檀信徒研修会が開催され、藤井文英師より（福井本蔵寺住職）『総本山本隆寺の今と昔』と題する講演が行なわれた。◘6月23日第十四回真門教学講習会が総本山客殿にて開催され『宗門第四教区　開教の先師達』と題して、第四教区所長、上川勝顕師の講義及び『下種即脱の本果妙』（本宗と他宗の相違点）と題して、宗学研究所所長　林月圓猊下の講義が行なわれた。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺式」が管首竹嶋日香猊下御導師のもと厳修された。昨年春に本成寺は二十余年勤められた真保執事長から、笹原執事長に体制がバトンタッチされ、新体制で迎える初めての節分法要であった。駐車場などを新しく借りるなどの新しい試みをし、多くの参詣者で賑わった。◘5月12日、伊豆・霊跡別院蓮着寺に於いて、「祖岩法難会」が執り行われた。当日は朝より雨模様であったが、法要前には止み、例年通り多くの御寺院、参詣者で賑わった。◘5月13日より、総本山本成寺に於いて、「法華宗学林」が開講された。今年も全国より、寺院徒弟が集まり四十日間の行に入る。◘5月22日より24日までの三日間にわたり、総本山本成寺に於いて「祠堂法要」が執り行われた。22日には戦没者追悼法要、23日には御歴代法要、24日には永代祠堂・納骨霊位追善法要。以上の日程で執り行われた。◘6月13・14日、平成十年度三宗統合協議会（顕本・真門流・陣門流）統合学院（前期）が、真門流当番宗のもとに、法華宗（陣門流）宗務院二階を会場として開催された。講師は両日共法華宗（真門流）宗学研究所所員・学林教授、西岡完孝先生であった。（今井満良）

本門法華宗

◘第八十三回定期宗会は3月31日、大本山妙蓮寺を会場に開催され、平成10年度予算の件、立教開宗七百五十年奉賛会同10年度予算の件、他全議案が可決承認された。小崎学円宗会議員他より発議された、宗務院の諮問機関として過疎地寺院対策設置委員会、懇談会を設置を求める件が可決されたことが特筆される。◘立教開宗七百五十年奉賛会の事業の一環として、元本門法華宗管長増田日紘猊下著『法華経の虚空会説法』の発刊を計画して、昨年度より事業が進行している。◘本門法華宗学院教学部では3月26日・27日に第85回教学講習会、同6月15・16日に第86回教学講習会を大本山妙蓮寺卯木講堂で開催。講師は増田日紘猊下、杉本日慈猊下、飯田信栄本山執事長、白山智宏学院教授、北川前肇立正大学教授、香川智弘教授。◘4月12日大本山妙蓮寺三大会の一つ、春の志霊法要、檀信徒志霊法要、永代供養法要を松本日望猊下御導師にて厳修さる。門末寺院教会住職僧侶多数出仕。（木村光正）

法華宗本門流

◘任期満了に因り御退蔵された久保木日秀猊下の後任に片山日楽上人（伊東市安立寺）が就任され、去る四月五日大本山光長寺第七十四世貫首に御晋山。上人は、宗内役職はもとより伊東市教育委員長を勤められるなど宗門外でも幅広くご活躍の猊下。◘本年度各大本山の千部会法要も恙なく虔修。沼津・光長寺—4月5～15日、茂原・鷲山寺—4月7～9日、尼崎・本興寺—5月6～8日。大本山本能寺では千部会法要に併せ、開宗七五〇年奉讃事業「大寶殿」竣工式法要厳修。本年10月12日に開館予定。◘第48次定期宗会は5月18・19日、ホテル東京ガーデンパレスにおいて開催。法華宗（新制）共済制度の設定、開宗七五〇年奉讃事業として宗務院新庁舎の建設・「法華宗全書」の刊行等を議定して無事閉会。尚、平成10年度全国宗務所長会は5月28～29日開催（同会場）。◘「法華宗全書」第一回配本は、日隆聖人『法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）。』主任大平宏龍学林教授はじめ興隆学林教師陣の編著により年内発刊予定。◘本年度の教学講習会は次の六会場。北海道—8月25～27日（釧路・本祥寺）、東北—9月4～6日（青森・常信寺）、東京—10月7～9日（浅草・台東区民館）、兵庫—10月21～23日（ペアーレ神戸）、中国—11月5～7日（広島・正瑞寺）、九州—10月7～9日（北九州・本光寺）（矢吹慈英）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

＊平成と年号を改めてから早いものですでに十年の半ばが過ぎ、平成十四年の開宗七五〇まで、いよいよカウントダウンの体制に入りました。御門下各派はその記念事業として、本末こぞって伽藍、堂塔の整備に着手する機運にありますが、新世紀まで後二年余りとなった現在、金融破綻、企業の倒産等々、一九二〇年代の大不況に酷似していると言われているにも係わらず、これらの事業を推進することは、檀信徒の方々にとって物心共に大変なご負担であると思われます。

＊前号の流通文でも法器養成の事に触れられていました。今こそ各宗門の枠を越えて、積極的に人材交流を図ることこそ優先すべきではないでしょうか。いくら外観を立派に整えても、柱のない建物は空しく砂上の楼閣となり得るのでありますから。（柳）

聖日蓮人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成11年1月1日
第19号

リレー提言⑨

750年に向かって邁進する覚悟



法華宗真門流宗務総長
吉田 研宏

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を挙げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

総本山本隆寺開創五百年慶讃大法要を終えて

平成十四年の立教開宗七百五十年を迎えますが、ときあたかも不況の荒波にもまれ、世界各国に政情不安がおこり、人心錯乱し、混迷の世相を呈する昨今、大聖人御在世当時の鎌倉時代の再現かと思われる様な気がいたします。

新聞、週刊誌等の紙面を賑わす犯罪の悪質多彩な現状を見るとき、人心の如何に貧しいかという事を感じずにはいられません。

いま日本の国内がかかえる諸問題を考えるとき、混迷、不安、不況等を一掃する様努力が必要であります。

「所詮天下泰平、国土安穏は、一人より万民に至るまで好む所、願う所也」（立正安国論）

と仰せの如く、平和を切望して居られ、末法の私たちに「南無妙法蓮華経」の唱導をお授け下さいました御本意は、「一天四海、皆帰妙法、後五百歳中、広宣流布」であり、「天下泰平、国土安穏、万民快楽」であります。

私たち法華宗真門流では、昭和五十一年より、「合掌し合う友をつくろう」というスローガンのもと、「高祖開祖のみ心にかえろう」「お互の仏性をおがみ合いましょう」と合掌運動を展開して参りました。

昭和五十二年三月に開祖日真大和尚四百五十遠忌、昭和五十六年四月に高祖日蓮大聖人七百遠忌、平成三年四月には日像菩薩六百五十遠忌と十五年間で宗門の三大御遠忌を厳修して参りました。その間、昭和六十三年四月には、総本山本隆寺開創五百年慶讃大法要を厳修、本隆寺と特に仏縁深い後柏原天皇、明正天皇、明治天皇、三天皇の追福法要を奉修いたし、天皇陛下より「手折桜」と銘された御菓子のお供えに浴し、恐懼感激、三天皇追福のお題目を声高らかに唱えた次第です。

また五百年の記念事業として霊宝館を建立して、本隆寺の寺宝宗宝を展示し参詣者に見て頂く様にいたしております。

五百年記念慶讃大法要を終えて歴史の重みと総本山としての威光を感じずには居られません。

歴代の貫主様の御威光と多くの先師の御努力が本隆寺を支えて来た事を誉りに思います。

昭和六十一年には本堂及び祖師堂が京都府指定の有形文化財に指定を受け現在に至る。

関西大学の永井規男教授の説によると、京都の日蓮門下寺院の大半が市中にあるために、大火によって全焼する事が多く、そのために門下寺院の古い遺構が少なく、他宗派の寺院も含めて中心伽藍が本隆寺に匹敵するものは十指に満たないであろう、とのこと。

そして、本堂は、承応三年の火災後第十世真性院日遵上人の尽力で明暦二年（一六五六）の春着工、翌年秋に竣工、正面（柱間）七間、側面七面の本格的な規模、構造を持つ堂であって、近世前期の本山本堂の典型となり得る資格十分である。

祖師堂の歴史は、本堂ほど明確でなく、本堂より古いという以前からの説があった。新旧の混った建物で堂の後半部、小屋組には古い材が用いられている。おそらく古い堂を改造したか、古材を再利用して建てられたのかも知れない。屋根瓦には永禄五年の銘をもつものがあり、古材はここまで遡る可能性もあり得よう。

京都の日蓮門下寺院の中では、最古の祖師堂遺構であることは間違いない。



総本山本隆寺南大門

本隆寺伽藍の価値はまた、本堂と祖師堂が近世前期のものとしてセットで残っているところにある。

こうして本隆寺伽藍において、門下寺院伽藍配置の一方の典型を見、また、本堂、祖師堂において近世前期の内容、質ともに充実した両堂の典型を見ることが出来るのである。



印篭



印影



印形



本隆寺印譜

後柏原天皇下賜の寺印

青年僧による清澄から京都本隆寺までの太鼓行脚

以上は永井教授講義の抜粋でありますが、本堂再建以来やがて三百五十年になります。

日真大和尚本隆寺開創以来五百年、歴祖の代数も、加歴も含めて百世になります。

平成二年三月、歴祖の事績等を一冊の書物にまとめるべく、伝燈録編纂委員会が発足、八ヶ年の歳月を経て平成十年三月に発行、永年の願いが完成いたし、開祖日真大和尚の祥月命日の三月二十九日総本山本隆寺本堂の御宝前にお供えして刊行報告法要を厳修いたしました。

これも高祖大聖人のお授け下さったお題目のおかげと感謝いたし、立教開宗七百五十年の御報恩の一助かと思い、日蓮大聖人、日像菩薩、開祖日真大和尚の御威徳と深く合掌唱題をした次第です。

なお真門流といたしましては、本年秋に宗会議員改選により新議員等を加えた慶讃会を発足させ、遅ればせながら立教開宗七百五十年に向かって邁進する覚悟であります。

事業予定としまして、歴祖をお祀りしてある龕前堂を再建、東通用門の脇に、宗務庁の庁舎をと考えております。また青年僧たちによる清澄から京都本隆寺まで太鼓行脚等も考えている最中です。

合掌運動は続けて行きます。

日蓮大聖人　報恩鈔に曰く

「日本乃至漢土、月氏一閻浮提に人ごとに、有智無智をきらはず、一同に他事をすてて南無妙法蓮華経と唱ふべし。」

南無妙法蓮華経　合掌

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望などぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆日蓮聖人は、多年の修学成り、諸宗は無得道、法華経のみ成仏の大法であることを悟られた。末法万年の闇を破るべく、衆生救済、下剋上さかまき天変地異続発、支離滅裂の日本の根本解決のため、聖人は不惜身命、法難迫害を覚悟の上で、法華経弘通の大業開始を決意された。

◆建長五年三月、叡山を後にした日蓮聖人は、故郷房州清澄における立教開宗に先だち、伊勢神宮に参拝すべく、間の山浄明寺に参篭、太廟に大法開宣を奏上された。間の山に誓の井戸が伝えられているが、

われ日本の柱とならむ
われ日本の眼目とならむ
われ日本の大船とならむ

の三大誓願を奏されたという。

◆日蓮聖人の事業は、活きた法華経の実践、〈一天四海皆帰妙法〉、社会・国家・世界の法華経化である。なぜ「世界の柱」ではなく日本なのか。「一閻浮提第一の本尊この国に建つべし」。日本は法華経本縁の国であり、日本が一国同帰中心確立し、模範国となって法華経の真理を発信していくのである。日本の語の中に当然「世界」が含んでいるとみるべきで、日本の柱はただちに世界の柱なのだ。

◆二十一世紀を眼前に、世界人類は平和を希求しながら、争いは増加し難問題が山積し混迷は深まるばかりである。日蓮聖人は「閻浮第一の聖人」であられる。真の平和は、三大秘法を成就して人類一同に本門の妙戒を持つ暁でなければ実現しない。

◆三大誓願は、われらに〈広宣流布〉護法願業の相続と処生の根本安心を教示されたものであろう、「異体同心なれば万事を成ず」、同心とは日蓮聖人に同心することだから、なかなか容易なことではない。まさに不惜身命、聖人に絶対如法の信順を捧げ、唱導に浴して、大願業の中に生きるのみである。（秋）

日蓮宗慶讃事業の紹介

―― 750年に向けた各派の具体的な動き❶ ――

日蓮宗におきましては平成十四年の立教開宗七百五十年をお迎えするにあたり、平成五年度より立教開宗七百五十年慶讃会規程を施行し、その中で十一の事業について示し、総額八十六億八千四百万円の勧募を行うことを目標に実動を開始いたしました。以下その事業についての概要を申しあげます。

一、慶讃法要の奉行

宗祖が立教開宗された清澄寺にて、平成十四年の御正当に慶讃法要を奉行する事が基本であるとの見地から宗門法要として厳修し、四月二十八日を中心に清澄寺にて奉行することとした。さらに慶讃事業の円成を奉告するため、総本山である身延山久遠寺において、平成十五年に結願法要を営むこととしている。

二、記念式典並びに記念大会の開催

立教開宗の意義を明らかにし、記念すべき日蓮宗の開創を祝し、将来の宗門・寺院・教会・結社の発展を期して宗門主催の記念式典を行うとともに、全国的に記念大会を開催していくこととした。とくに平成九年五月二十八日には神奈川県の横浜アリーナにおいて宗門主催の中央大会を開催し、一万五千人の僧俗が集い、七百五十年慶讃に向けての誓願と決意を表明した。



中央大会（平成9年5月28日）

三、特別布教の展開

基本テーマを「誓願」とし、「特別布教教案」に基づき特別布教、唱題行脚、壱千万お題目写経及び全国よりの清澄寺団参参拝に取り組むこととした。特に壱千万お題目写経は法華経の肝心であり「経には題目たり」といわれるお題目を書写し、各寺院・教会・結社を通して清澄寺に納経する運動を重点的に実地している。これは「お題目から、はじまる」という七五〇慶讃の趣旨を実践するものであり、昭和五十六年の宗祖七百遠忌以後宗門運動として展開してきた「お題目総弘通運動」を推進していく一環となっているものでもある。

四、日蓮宗総合庁舎の建設

激しく変化する時代に即応し、総合的で多目的な機能を有し、伝道教化に役立ち得る機能を備えた、宗門中枢機関の整備充実は不可欠であるとの観点から「日蓮宗総合庁舎」を建設する事とした。場所は現在地の東京都大田区池上として、総予算は二十三億九百万円。

五、日蓮宗清澄寺研修会館の建設並びに清澄寺旭カ森の整備

お題目を弘め、日蓮宗並びに寺院・教会・結社の担い手となる法器の育成、僧風教育と生涯学習などによる人材の養成を目指し、不断の修学と適宜に使用できる教育研修の場として有効利用する。機能としては事務所、食堂、講堂、研修室、宿泊室などを設けており本年四月には竣工し落慶法要を奉行する予定。

六、海外開教布教センターの建設

海外布教の振興は、これまで現地の開教布教師の努力に依存してきたが、宗門として海外布教の前線基地である教会で布教に当たっている開教師を支援し、一層の開教布教の促進をはかるため「海外開教布教センター」を建設することとなった。礼拝施設、集会場、会議室、資料室等の諸施設を備えたセンターを北米サンフランシスコ周辺に建設する。この「海外開教布教センター」を中心に、外国語の布教資料の出版、聖典の翻訳、外国人教師の養成、未開教地への布教など多面的な海外布教の展開を図ることとなった。

七、祖山・霊跡・由緒寺院の記念行事及び事業の助成

宗門史跡（日蓮聖人及び宗門に由緒のある重要な事跡）への顕彰は、日蓮聖人の遊学された比叡山横川の地に助成を行う。

八、全国各管区記念事業の助成

全国各管区（七十四管区）に対して管区特別助成金として、勧募実納金額の三分を交付する。又、全国各管区に対して特別記念事業助成金を交付する。基本助成金として一管区三百万円、及び管区内寺院・教会・結社数に十万円を乗じた金額を助成する。

九、法器養成及び育英事業の助成

法器の養成、社会福祉活動に取り組む人材の育成は、将来の宗門活動とその担い手づくりの上で重要な事業と考える。具体的には宗門の法器養成と育英、幼児教育面を担っている関係三法人、日蓮宗総合財団、立正育英会、立正福祉会に助成する。

十、各種出版事業並びに慶讃経要の刊行

法華経と日蓮聖人御遺文は根本聖典としての拠り所である。法華経と日蓮聖人御遺文を教学面から明らかにし、また平易に解説して習学及び布教の資とすることを目的とし、日蓮宗版「法華経」の作成、「宗定法要式改訂版」の作成、法華経・御遺文・日蓮宗事典等のデジタル化及びそれぞれの検索、連動などを考慮したデータベースの作成などを計画し現在作業を進めている。

十一、その他目的を達成するため必要な事業

これについては勧募金の収納状況により考慮することとしており、勧募金が予想を越えて収納された場合に検討する事となる。

以上の十一項目に亘る事業の円成をめざして活動しております。

立教開宗は末法日本における法華経、お題目の弘通と、これを担い継承する日蓮宗の開創を宣言したものであります。それ故に立教開宗の基本テーマは「誓願」であり、めざすものはお題目総弘通と立正安国であります。「お題目からはじまる」を合言葉に「誓願」を表明し、「お題目総弘通運動」を展開しつつ、人的、物的な基礎とその担い手を教化育成し活かしていくことをめざして慶讃奉行に取り組んでいくことが立教開宗の精神を継承し今日に具体化する道であります。

編集長就任にあたって　生駒　雅幸

門下連合会京都理事会が終了し、門連だより第十九号の発行に向けて編集委員の各聖にはその校正作業を進めて頂いている。平成十四年を我々門下は如何に迎えるかこの共通課題を念頭に置き乍ら編集の話題以外でも熱の入った議論を行っている。

スタッフの中には七〇〇遠忌当時を知る方や、青年の船に乗られた方々もいる。立教開宗七五〇年の事を語る時、遠忌当時の心をそのままに熱い気持ちが伝わってくるのを感じる。そして開宗七五〇年御正当の前年、平成十三年は門下連合会発足四十周年でもある。その中で門連だよりの狙う役割には大きなものがあると思う。今般富川編集長の後任として編集に携わる事となったが、編集委員各聖の御協力を頂き、門下の連繋と発展のために努めていきたい。

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

■団体参拝旅行には東急観光をご用命下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所がお待ちしております。

本社・公務法人部
〒153-8550　東京都目黒区東山3-8-1
電話　03-5704-3761
北海道営業本部・販売管理課
〒060-0002　北海道札幌市中央区北二条西2-15
電話　011-241-0303
東北営業本部・販売管理課
〒980-0021　宮城県仙台市青葉区中央1-6-18
電話　022-263-1711
関東営業本部・販売管理課
〒153-0044　東京都目黒区大橋1-5-3
電話　03-5489-6777
東京営業本部・販売課
〒153-8519　東京都目黒区大橋1-5-3
電話　03-5489-6701
中部営業本部・販売管理課
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内2-17-18
電話　052-232-1721
関西営業本部・販売課
〒541-0048　大阪府大阪市中央区瓦町4-2-14
電話　06-6226-1090
中四国営業本部・販売管理課
〒730-0032　広島県広島市中区立町2-27
電話　082-249-0109
九州営業本部・販売管理課
〒810-0001　福岡県福岡市中央区天神1-15-3
電話　092-712-2561

あけまして、おめでとうございます。

美しい時代へ―― 東急グループ



こころが動くとき。
いつも、あなたのそばに。

初めて目にするもの、聞こえてくるもの、自然の彩り、季節の恵み、そして、人と人との触れあい。
旅を通して、すべてのお客様に、いつも新鮮な感動と、心やすらぐひとときをお届けしたい。
この願いのもと、私たち東急観光は、オリジナリティ豊かなプランと、
一人ひとりの気持ちにお応えできる、充実した旅のご提供をめざしています。

豊かな感動のステージへ
東急観光
運輸大臣登録旅行業第38号　日本旅行業協会正会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号

恭賀新春

平成十一年己卯



日蓮聖人門下連合会

日蓮宗宗務院

管長　田中日淳
宗務総長　永井祥文
宗務副総長　渡辺一之
綜合企画部長　加賀美泰全
庶務部長　小松浄慎
財務部長　篠原智高
教務部長　二宮将泰
護法伝道部長　上田尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　松井義昭
現代宗教研究所長　石川浩徳
国際開教室長　中條令紹
人権対策室長　前田幸廣
参与　堀江宏正
参与　浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長　垣本孝精

〒146-8544 東京都大田区池上一―三一―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一㈹
FAX 〇三(三七五一)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長　鈴木日有
宗務総長　原井慈鳳
教化部長　圓成淳龍
教学部長　桃井晋城
財務部長　坂巻顕導
庶務部長　矢吹慈英

〒170-0004 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五㈹
FAX 〇三(三九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長　吉永日晴
宗務総長　中山昭夫
宗務次長　山本学人
財務部長　白井謙光
教務部長　奥村智学
社会部長　鈴木無着
布教部長　阿曽久成
庶務部長　三坂岳応
主事　山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長　竹嶋日香
宗務総長　土屋善敬
総務部長　都築哲信
教学部長　佐古弘文
教化部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　井上日慶
講尊　梶本日裔
宗務総長　小山日誠
宗務副総長　笹田日昌
宗務本庁役員一同
佐藤政司

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六㈹
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　永田智秋
総務部長　佐藤哲夫
財務部長　岩崎隆義
法務部長　岩崎廣義
教学部長
門連理事　秋場善彌
門連理事　淀野寿夫

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長　真枝日世
宗務総長　吉田研宏
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
教化部長　寺田完英
社会部長　水野日悲
財務部長　水野智啓

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管長　松本日望
宗務総長　高邊信幸
宗務部長　信隆允忠
財務部長　増田隆雄
総務部長　藤井宏長
庶務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
門連常任理事　持地光学

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

日本山妙法寺大僧伽

首座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　西堀行施
長老　二宮和嘉
事務局長　今井行順

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二―三七八―三三九五
ファクス 〇四二―三七九―〇七四四

京都日蓮聖人門下連合会

会長　真枝日世
副会長　和田日攝
理事長　岩崎峻暉
副理事長　桃井晋城

京門連事務局
〒606-8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

宗教法人 国柱会

会長　田中暉丘
理事長　大橋邦正
副理事長　入江克郎
門連理事　秋場善彌
門連理事　淀野寿夫

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一㈹
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

ての提言(2)

年の船」から20年

日蓮聖人第七百遠忌に際し、日蓮聖人門下連合会は
1、演劇部門　日蓮聖人劇の上演(54年度・56年度)
2、展覧会部門　日蓮聖人展の開催
3、音楽部門　オラトリオ日蓮聖人の制作公演
4、青年部門　日蓮聖人門下「青年の船」
の四部門の報恩事業を定め、昭和五十年より正当五十六年をはさみ五十七年迄、八ヶ年にわたって展開実施した。

日蓮聖人劇は前進座に依頼し、五十四年、五十六年の二ヶ年、全国公演のべ二三五ステージを展開し、大きな成果を収めた。

日蓮聖人展は「願いと心」をテーマに御正当昭和五十六年に東京、大阪、九州で開催、出品数97、パネル26を展示、門下各派入場券の割当てを行い、観客一〇〇、二〇四名に達した。

オラトリオ日蓮聖人の制作公演は詩人・西川満氏に作詩を依頼、黛敏郎氏が作曲を担当、昭和五十七年四月二十七日、新宿文化センターでの発表会は大きな感動を聴衆に与えた。この折作成されたライブレコードは四、一〇〇部、各派に配布された。

日蓮聖人門下青年の船は「めざせ立正安国、七〇一年の旅立ち」をテーマに、門下各派青年が実行委員会を組織、船内、船外学習、イベント等全てを企画、五十七年三月二十六日、サイパン・グアムに向け出航、四月五日無事横浜港に帰着した。

参加約五〇〇名の男女、慰霊法要、朝勤、専門セミナー、一般教養、クラブ活動、現地での交流等を通じての切磋琢磨、心のふれあいは参加者に大きな感銘を刻んだ。

これらの共同事業は頭初述べた如く日蓮聖人門下連合会が七〇〇遠忌報恩事業として行ったものであるが、これらの事業は全て一般社会、外部との接点をもつ事業であった事を想起したい。

さて門下連合会として、来たる立教開宗七百五十年に向け、実現可能な三つの柱について提言したい。その三つの柱とは、
1、「日蓮聖人門連だより」拡充強化
2、仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進
3、比叡山横川定光院の参拝顕彰
である。

1、「日蓮聖人門連だより」の拡充強化（以下門連だよりという）

「門連だより」は青年の船実行委員有志の発願により、御遠忌以降、門下青年交流の場として、又、門下連合会機関紙としての役割を荷い昭和六十一年四月二八日第一号が創刊された。編集委員は各派より派遣され、日蓮宗宗務院、あるいは各派を持回り編集会議を開催、年二回の刊行を行い、今号で第十九号を数える。

御遠忌共同事業をふまえて創刊された「門連だより」が門連各派の結束、紐帯として果してきた役割りは誠に大きいと思う。特に各派の青年達が腹蔵なく教学を論じ、門下の未来を語りあう編集委員会の熱気溢れる雰囲気を、特筆しておきたい。

「門連だより」編集委員各位の柔軟な頭脳からさまざまな未来が描かれ行動が生れつつある現状をみる時、門下連合会の未来に明るいものを感ずる。門連事業の大きな柱である「門連だより」の拡充強化に門連の皆様の物心両面の御支援を期待したい。

2、仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進

右については本紙でも度々報道されているが、現在立教開宗七百五十年に向けて門下連合会の俎上に乗った唯一の企画である。

門下連合会と国立東京博物館との交渉では展示内容は室町期より江戸期に至る日蓮聖人門下僧侶、信者で著名な芸術、美術に秀れた人々の作品（絵画、彫刻、工芸、墨蹟など）で展示総数およそ百五十点、内五十点を門下各派より出展、あとは博物館サイドで蒐集にあたる、との事である。

御遠忌共同事業の日蓮聖人展は会場が百貨店であったが、今回企画は、国立博物館、国立京都博物館という事で、その権威と社会に対するアッピールの度合において格段の差があると思う。

先頃、真宗連如上人御遠忌に縁して様々なイベントが繰りひろげられたが、この好機を積極的にとらえるべきと思う。全門下で「五十点」の展示数は努力すれば十分可能な数字であると思う。およそ一億～一億五千万円の本展費用は全て博物館負担、切符の割当と動員分担は一切なしということが何より心強い。本企画の実行について門下連合会の積極的取り組み、加盟各派の協力態勢を期待したい。

3、比叡山横川定光院の参拝顕彰

横川定光院は日蓮大聖人叡山御遊学の御霊蹟で、古来幾多先師、各聖各位の熱き護持顕彰の志により今日の姿がある。

特に大書すべきは、大聖人の銅像建立である。大正十二年、村雲瑞龍寺門跡村雲日浄尼公、大本山本圀寺濱井日成、大本山妙顕寺貫首河合日辰、定光院掛錫長橋啓慎の各上人と比叡山横川定光院保存会幹事天野治兵衛、高橋友七、向井才介の各氏が「比叡山横川定光院日蓮聖人銅像建設発願人」となり、賛成人には京都日蓮聖人門下の十六各本山貫首猊下名をつらねて浄財勧募、大正十三年四月十九日開眼法要が営まれた。

大正十二年（一九二三年）九月一日、完成した日蓮聖人の銅像は東京品川駅をご出発、この直後に関東大震災が発生、四十万戸の家屋倒壊炎上、死者十余万人という災厄が著起したが、仏天の加護によりご銅像は翌二日京都二条駅にご安着になった。

翌年四月船と牛車にて定光院に無事ご到着、開眼法要は千数百人の僧俗参列のなか盛大に行われたという。それらの記録は全て銅像内に納められているという。

門下各派こぞって協力一致、横川の霊地に大聖人銅像建立をなしとげた歴史がここにある。

平成五年四月一日、比叡山御当局は叡山の一山寺院である定光院（代表役員は執行）をその歴史伝統に鑑み、日蓮宗に対しその護持、運営を一任された。（協定書とりかわし）日蓮宗は主監、主任、副主任を置いて定光院を守り、護持、顕彰整備にあたる一方、広く一般僧侶、檀信徒にも加入していただける護持顕彰会を組織、護持顕彰にあたっている。

現在、京都門下連合会による立教開宗会の折の参詣、日蓮宗近畿教区内輪番による春季法要、護持顕彰会による秋季法要が営まれている。

銅像建立の縁由に照らし、今後門下連合各派による輪番参拝団の組織などどうであろうか。全日蓮門下の共通の御霊跡横川の霊地に、こぞって参拝していただきたいと思う。

各派教団、自由な御法儀によって参詣参籠を受け入れる体制となっていることも申しそえたい。

以上不肖が直接たずさわった仕事に即しての感想、提言である。

七五〇に向けて

日蓮宗　富川孝恭

門連だより第16号・第17号では本紙編集委員による匿名座談会を通じ「門連共通の課題」をさぐり、立教開宗七百五十年に向け、門下連合会はもとより、門下各派の僧侶檀信徒が手をたずさえて、共通のビジョン達成に歩みを共にする道筋が、かすかながら描かれたやに思われる。

18号より、七百遠忌門連共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々と参加者にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくこととなった。

今号ではその第二弾として日蓮宗富川孝恭師や一般参加者として乗船した須加伸枝さん、法華宗真門流堀内浩善師、日蓮本宗今村仁要師の四方に当時の模様、ご意見、感想をいただいた。

「青年の船」参加者として

日蓮宗　須加伸枝

私が、「青年の船」に参加したのは、もう十七年前になりますが、十代の多感な時期に、あのような素晴らしい経験が出来た事は、とても良かったと思います。

初めての船旅、船酔いは少し大変でしたが、今となっては、とても懐かしい思い出です。ダンス活動や英会話等、様々な教室の活動、ダンスパーティやカクテルパーティ、フルコースの食事等、戸惑いながらも楽しい初めての経験で、長い船旅も退屈することなく過ごせました。

グアムやサイパンの海も、とても美しく、この海や島で五十年前に戦争が行われ、大勢の人達が亡くなったなんて、とても信じられませんでしたが、慰霊法要に参加することによって、今まで教科書等を通じてだけしか知識のなかった戦争が、初めて身近に感じる事が出来ました。

そのような、どれひとつをとっても貴重な経験の中で、一番素晴らしかったと言える事は、普通ならば、あまりお付き合いする機会のない、日蓮聖人門下連合会の様々な宗派の僧侶の方々、信仰されている方々と同じお題目を通して触れ合える御縁を頂けたことによって、それまでの自分の信仰をより一層深め、再確認することが出来たことです。

先日、ある新聞の投書欄で、闘病生活をされている二十代の女性の方が、「宗教団体からの勧誘があった時に、いくら苦しくても、何かにすがって生きて行くなんてことは絶対にしたくない…」というような意見を述べられていました。

私にとって信仰とは、日常生活の中で、常にお陰様という感謝の気持ちを、お題目に込めるという、ただそれだけだと思ってたので、なぜ、この女性は、このように考えてしまうのだろうと、疑問に思いましたが、やがてハッと気がつきました。私は幼い頃から信仰熱心な母親と共に、毎日ごく自然に仏壇の前で手を合わせたり、お寺にお参りしたりしていましたが、現代の日本では、宗教や信仰は、日常生活とは掛け離れたところにあるからではないかと。

私が幼い頃は、「だれも見ていなくても、仏様が見ているのだから、悪いことはできないんだよ。嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれてしまうよ」等と大人の人に言われたり、生活の中に、自然に宗教的なことが生きていたように思えます。

現代は、宗教というと、先程の女性のように受け止めたり、怪しげな団体と思われがちですが、やはり、幼い頃から自然に手を合わせたりといった習慣や、環境が必要ではないでしょうか。生活の中に生かされていないから、何か苦しいことがあった時の逃げ道と考えてしまったり、御利益ばかりを求めたりするようになってしまうのだと思います。

私は、「青年の船」に参加した時の、様々な若者が、一心にお題目を唱える姿を思い出すたびに、現代のような社会には、正しい信仰は本当に必要だと思いますし、子供のうちから、自然に手を合わせることができるような環境を作ってあげることが、日蓮聖人が命がけで弘められたお題目を信仰する私たちの重要な役割ではないかと思います。

「青年の船」の参加者の一人として、色々とりとめのないことを書かせて頂きましたが、日蓮聖人立教開宗七五〇年まで、残りわずか三年程となりました。

これから、門下連合会の皆様も、色々な事業を行われると思いますが、ぜひ、あの「青年の船」のような、青少年に対する研修・信仰を深めることのできる場、例えば修養道場等を沢山企画して頂きたいと思います。

若い時の経験や、信仰体験は、一生の宝物になるのです。

立教開宗750年に向け

日蓮聖人門下「青

真の正法興隆をめざし

法華宗真門流　堀内浩善

日蓮門下連合会七百遠忌御報恩四大事業の一つ「青年の船」は、七百遠忌の翌七百一年、昭和五十六年三月『七〇一年の旅立ち』　めざせ立正安国　青春さまざま信仰はひとつのスローガンの下、門下各派の青年層五百名が結集し、共に御題目を唱える仲間としての連帯友情は深められ参加者一体となった。船内外での活動は、異体同心の体現そのものであり、予想以上の成果を収めた。

この事業に対し、門下連合会の実施の決断と、各派教団の御理解、御尽力もさることながら、各派の青年層の代表（数名）からなる実行委員会が、小異をすて大同について、柔軟な発想、機敏な行動力で企画準備、運営にまで携わり、本事業が成し遂げられた事は、誠に意義深いものであり、今後門下連合が事業を推進する上で、一つの布石と成り得たのではないか。

「立教開宗七五〇年に向けて、門連共に何をすべきか」　私見を述べるに、門下連合会が結成から今日まで、各派がその立場の違いを越えて運営してこられた、先覚諸師の御苦労は大変であったと思う。

しかし今、各派末寺教師に門下連合会の一員であるという意識があるかといえばほとんどなく、門下連合会という組織に対し、又目的、事業に対しても何の関心もなく、各派行政関係役員諸師の意見交換の場程度の認識しかないのが現実ではなかろうか。まず各派末寺教師が、門下連合会の一員であるとの意識を高めていく必要がある。その方策の一つとして、門下共通の論壇の場として、門下連合の連帯の意識を高めていく目的をもっている、門下連合会唯一の機関誌である『門連だより』を通してのより一層の啓蒙を強めていく必要があり、又各派機関誌等においても、門下連合会に関係する記事を掲載して啓蒙に勉めるべきである。

次に、今日の社会、少子高齢化、経済不況、自然環境問題、犯罪の低年齢化等、混迷の度を深め、宗教界全体でも、その質が問われている。国家、社会、大衆に眼を向けておられた、日蓮聖人の精神、願いに応えるべく原点を再確認し、その精神、願いを如何に伝えていくか、この社会に適応した、門下連合会の組織強化、基礎八事業の推進でなければならない。そして、立教開宗七五〇年に向け、社会やマスコミに対し、門下連合会として日蓮聖人の立教開宗の精神をどの様にアピールし広宣するのか、誰からも受け入れられる発想と事業が求められる。

それ故に、まず門下各派が従来の観念を押え、門下連合会基本八事業への基本姿勢の確立が急がれる。次いで、門下連合会組織内に、各派代表の青年層による、日蓮聖人の御恩に応える事業を、柔軟な発想で討究し、常任理事会に事業企画案を提議していく機関、仮称「基本事業企画推進委員会」の設置を求めたい。

将来、この委員会が核となり、先の青年の船の後に検討された「門下連合青年会」の結成実現につながっていく様望みたい。

次の世代を担う　各派青年層の枠組を越えた交流こそが、門下連合会の「目的・連絡・協力・団結」の共通理念を高め、連合会の結束発展に寄与し、門下各派の活性化を促すのではなかろうか。

平成十四年、立教開宗七五〇年を新たなるスタートと考え、各派青年層が異体同心に結束し実をあげ、日蓮聖人の御教恩に応えるべき真の正法興隆をめざし邁進出来る事を望み、門下連合会のより一層の組織の充実、発展を念願します。

こころの教育

日蓮本宗　今村仁要

「七〇一年の旅立ち」をスローガンにかかげ、昭和五十六年に実施された太平洋の大海原を航海して、サイパン・グアムでの慰霊法要を兼ねた「日蓮聖人門下青年の船」に参加してから十七年が経過した。

この年に日蓮本宗より教師の資格をいただき、青年僧として歩みをはじめたばかりの私は、島根大学農学部で環境保全学を専攻する二回生であった。

普段は気ままな下宿生活を送り、自坊に帰省したとき以外はほとんど、法務にたずさわることはなかった。当時の日本の社会情勢は好景気に沸き、倒産・リストラ・失業という言葉などはほとんど耳にしなかった。また、高度成長期以降に生じた種々の公害等の環境問題も一応鎮静化し、マスコミ等に取り上げられることも少なかった。

しかし、環境問題を研究していた私たちが常に研究室で話題にしていたのは、現在大きな社会問題になっている「ダイオキシンを始めとする科学物質が生体・生物濃縮を通じて自分たちに降りかかってくる、乱開発によって失われつつある森林の機能の低下する、フロンガスの使用とオゾン層の破壊など」であった。

豊かで快適な生活を続けるためには、膨大な物資とエネルギーが必要であり、さまざまな問題を今後も生じさせるであろう。だからといって、資源を使わない大昔の生活に戻ることなど不可能である。矛盾しており、大きすぎて解決の見いだせない問題であるが、個人のレベルで対処できることはいくらでもある。

不用な電灯をこまめに消すなど節電に心掛ける、ゴミの分別回収に協力するなど、まさに「貧者の一灯」、小さなことに気を配ることが大切である。そうすれば、自ずから生活に対する考え方が変わり、行動が変わってくるのである。「小さな気配り」こそが「皆共に救われましょう」という法華経の教えを実践することであり、問題解決への第一歩であると私は思う。

大学・大学院で研究を続けた後、京都精華女子高校に就職し、現在に至っている。自坊の副住職との二足の草鞋を履いているが、法務は専ら住職に頼っているのが現状である。

近年、少年の問題行動や犯罪の低年齢化などが大きな社会問題となり、教育のあり方が問い直されている。教育に携わる一人として関心を持たなければならないことである。

まず、親と子、先生と生徒、生徒相互の人間関係を良好に保つことが重要である。学校においては、先生と生徒との信頼関係が薄れたために起る問題も多い。信頼のない先生の言うことを生徒は聞かない。また、先生が生徒のためを思って突き放して自分で考えさせようとした場合、真意が理解できずに、我慢しきれないで失敗におわることもよくある。

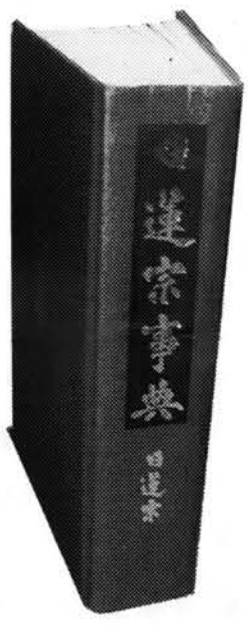
そこで、よく知られていることであるが、ある師弟の関係について考えてみよう。

本山要法寺開山日尊上人は、北山本門寺で、師日興上人の「御義口伝」の御講義中に、風で飛んできた一枚の梨の枯れ葉に目が移ったことを咎められ、勘当という厳しい処分を受けられた。日尊上人は、深く反省され、御勘気を解くには法恩に報いるしかないとお考えになり、法華弘通の十二年間に三十六ヶ寺を建立された。

この法功により、日興上人からお許しを得ることができた。日興上人と日尊上人との間には大変深い慈悲の心と信頼関係をうかがうことができる。「師厳道尊」即ち、道尊きがゆえに師厳たりが、本山要法寺に脈々と伝わっている教えである。

現在は、膨大な情報が次から次へと提供され、流行に遅れまいと新しいものを追いかけるために、一つとは限らない答えを安直に要求し、物事をじっくりと思案することが出来にくくなっている。このような世の中で信頼を保ち深めるには、礼儀と相手への気配りが要求される。

特に、次の世代を担う子供たちが、親を親と思わない言動を慎み、我慢しなくてはならないときには、辛抱強く我慢できるように、「こころの教育」をこぞって実践することが大切であると思う。



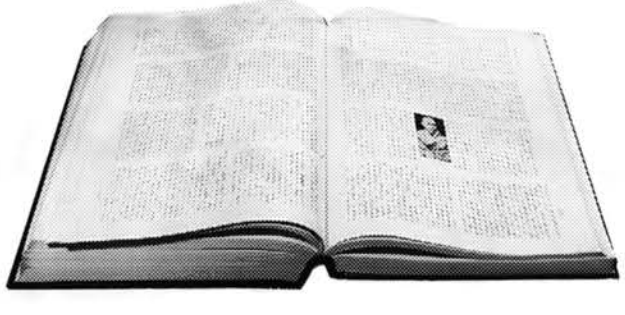
『日蓮宗事典』《復刻版》

限定400部
予約受付中

定価　28,000円（〒別）

※限定予約価格　23,000円（税・〒別）

※限定400部のうち、５月末日までの販売に限り実施



日蓮宗が全仏教界に誇る
全項目網羅の基本事典

■総収録語彙　6,000余項目

教学／歴史／組織・機構／布教・社教・修法／
法式／文学／絵画・建築／資料他
・全項目索引付き　全1378頁（巻頭カラーグラフ別）

●お申し込み 03-3755-5271 日蓮宗新聞社



恭賀新春

平成十一年己卯

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**
法主 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同
〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山 **池上本門寺**
貫首 田中日淳
執事長 市川智康
〒146-8576 東京都大田区池上一—一—一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山 **妙満寺**
貫首 吉永日晴
総務 大川定信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 小松正学
執事 林孝瑞
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**
貫首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一—一—二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**
貫主 真枝日世
執事長 岩崎峻暉
執事 笹木研秀
執事 矢放真文
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

日蓮本宗 **本山要法寺**
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 永田智秋
執事 岩崎廣義
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山 **宥清寺**
住職 二十二世購有 井上日慶
事務局長 伊藤隆之
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五—一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗 出家得度之霊地
日蓮宗大本山 **清澄寺**
別当 杉山日慎
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山 **妙顕寺**
貫首 山田一光
執事長 原光司
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山 **誕生寺**
貫首 石川日命
〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一

日興上人御廟所
日蓮宗大本山 **富士山本門寺**
貫首 本間日諄
執事長 井出教道
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七

日蓮宗大本山 **法華経寺**
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏
〒272-0813 千葉県市川市中山二—十—一
電話 〇四七(三三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山 **本法寺**
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首 金山日龍
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山 **堀之内妙法寺**
山主 駒野教格
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三—四八—八
電話 〇三(三三一三)六二四一

日蓮宗本山 **頂妙寺**
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

京都理事会・懇談会法華宗真門流総本山本隆寺で開催

平成十年十二月二日（火）京都市法華宗真門流総本山本隆寺（真枝日世貫首）に於いて、恒例の京都理事会・京都門連との懇談会が開催され本山貫首、門連理事、京都門連理事五十名が参加した。午後一時真枝貫首導師のもと、法味言上、遷化先師回向が厳修された。法要後、本堂前にて記念撮影、客殿に移り真枝貫首より、「本隆寺の縁起」について講演があった。

午後三時理事会を開議。生駒幹事司会のもと始まり、出席者全員自己紹介の後、永井祥文理事長座長となって議事進行、長谷川幹事より、上半期事業報告（常任理事会、身延理事会等）、門連だよりに関して、人事について、祖廟輪番奉仕について（国柱会五十一名参加）それぞれ報告を行った。京都門連事業報告に関して岩崎理事長より降誕会、開宗会、夏季大学、御会式等歴史と伝統ある活動が報告された。大阪門下懇話会に関しては、木下恵遠師より総会、御会式、研修会、京都本山めぐり等、一歩一歩成果を上げて来ている旨報告があった。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業の、日蓮聖人門下の文化芸術（特に室町以降）にスポットをあてた展覧会について、生駒幹事より今日迄の経過と、東京国立博物館との交渉結果（主催者、日時、作品、運搬、費用、保障等）が報告され、参加者より活発な意見が飛び交った。しかしまだこの事業を開催するかしないかの調査段階であり、今迄の経過を踏まえ早急に「準備委員会」を結成し、この問題を考えて行くことが決定し、メンバーの選出は常任委員会に付託することが了承された。

理事会終了後、第二会場を萬重に移し、門連会員の親睦を深めた。

（藤井照源）



京都理事会本堂前記念撮影
平成10年12月2日

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（岩崎峻暉理事長―法華宗真門流）は、八月二十日、本能寺文化会館で、第三十五回夏季大学を開き、僧侶檀信徒二百人が参加した。

二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―をテーマに、生きててよかったね、生（久遠の命）きててよかったね、蘇生（い）きててよかったねと、過去・現在・未来にわたる三世の命の尊さを認識し、お題目を唱える私たちにとって、日蓮聖人の心を、どうとらえ、学び、広げて行くかを学んだ。

講演に先立ち、開講式が行われ、会長の総本山本隆寺真枝日世貫首を導師に、法味言上、岩崎理事長が挨拶し講演に入った。

総本山本隆寺真枝日世貫首は「一心欲見仏」と題し、「お釈迦さまは、一大事因縁をもって世に出現した。仏性をひき出し、成仏させんが為の出現で、その教えをしっかりと認識しなければならない」と開示悟入の意味を力説された。

続いて、東京農業大学教授進士五十八先生が「緑と生命と環境と」と題し講演した。進士先生は「環境は人間の手で作られている。現在は気配りを忘れてしまい余裕のない環境になっている」と説明し、生命シンボルとしての「グリーン」の大切さ、都市環境と「緑地」の役割の必要性、そして、エコロジーからアメニティへ向けた環境時代のまちづくりを目指さなければならないと訴えた。進士先生は京都市出身で、現在、日本都市計画学会理事、国土庁国土審議会専門委員、日本造園学会副会長等数々の要職にあり、主要著書に『アメニティ・デザイン―ほんとうの環境づくり』『緑のまちづくり学』『都市になぜ農地が必要か』等がある。

続いて、フジテレビプロデューサーの栗原美和子先生が「わたしの描きたいこと―テレビ番組プラザーズをプロデュースして」と題し講演した。テレビ番組で大反響の「プラザーズ」をプロデュースした事で、参加者の期待度も大であった。

講演は、プロデューサーとはどんな仕事かの説明から始まり、今まで製作した六つの作品の体験談を通し、プラザーズをプロデュースするに至った過程に話は進んだ。栗原先生のドラマ製作の根底には、「ラブ」「ヒューマン」「ハートフル」の三つが揃ってこそ成り立つものであり、今回の作品は、お寺を舞台にした家族愛、兄弟愛の絆を描きながら、人間同志の心のふれあいを伝えたいと考えた。自分が寺で生まれ、寺で育ち、寺で生きて来たそのものを伝えたいと思い、お寺を舞台にしたドラマを作るのが夢であった。

又、栗原先生は「お寺を舞台にしたドラマは、聖職の問題や危険性を秘めているので悩み事もたくさんあったが、これだというものを訴える時は、挑戦的でなければならないし、その苦悩を乗り越えてこそいい作品ができる」と、悩みのひとこまも披露した。

そして、「公共の電波を通じてドラマを見て戴くことは、プロデューサーの醍醐味で、感動してほしい、共感してほしいと常に思っている」と語り、最後に「これからも、見てくれる人々に、最終的に夢や希望を抱いてくれるドラマ作りを目指したい」と結んだ。

閉会式では、副理事長杉若恵隆師（日蓮宗）が「今日の講義をしっかりと認識し、お題目信仰を中心に更に精進していただきたい」とあいさつがあり終了した。

（藤井照源）



夏季大学（平成10年8月26日）



本隆寺本堂



本隆寺「夜泣き止め」の松

第七百十七回京都門連御会式奉行万灯行列復活

京都日蓮聖人門下連合会（岩崎峻暉理事長―法華宗真門流）は、十月三日総本山本隆寺に於いて、第七百十七回御会式を奉行し、僧侶檀信徒約二百名が参加した。

秋晴れの晴天に恵まれ、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚並びに、三田市妙三寺（吉田宏遠住職）万灯隊の協力を得て復活した万灯行列は、本隆寺を出発し約一時間市中を行進した。

御会式法要は、総本山本隆寺真枝日世貫首を導師に、岩崎理事長と杉若恵隆副理事長（日蓮宗）が副導師にて厳修され、参列者一同御報恩の誠を捧げた。

法要後、本山立本寺加藤日祥貫首による「知恩報恩」の講義題で法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を尊く得た。

加藤貫首は「日蓮聖人のご一生は知恩報恩にある。四恩を報ずる為に不惜身命の一生を貫いた日蓮聖人の御心を我が意とし二陣三陣と続きましょう」と結ばれた。

境内では福祉バザーが催され、伏見・大山崎共同作業所の協力を得て数多くの作品が展示され人気を呼んだ。

又模擬店では、おそば、おうどん、焼きそば、子供遊戯があり、御会式の一日を満喫した。

（藤井照源）



市中万灯行列（平成10年10月3日）

活発な大阪門連の動き

大阪日蓮聖人門下懇話会は、大阪地方を中心として門下九宗派の有志からなりその会員は京阪神から奈良和歌山まで及びます。

会員数は約百八十名、日蓮宗より理事五名、日蓮本宗、顕本法華宗、法華宗本門流、法華宗陣門流、法華宗真門流、本門法華宗、本門佛立宗、国柱会より各一名の理事を選出し、理事長副理事長をおき、功労会員である顧問と事務局一名も参画し、理事会を中心として運営しています。

平成十年は六月九日（火）総会　会場法華宗真門流福泉寺　講演は元国税局特別査察官税務署長中田安憲氏による「寺院の税務等に関して」。後懇親会参加三十四名。

十月十八日（日）日蓮聖人報恩合同御会式　会場日蓮宗薬王寺　歌題目日蓮宗視聴覚部の皆様　法要　法話、法華宗本門流岡松寺住職古田日穏上人「ほとけさまとわたくしたち」清興上方落語桂枝女太　参詣百十名。

十一月二十日（金）研修会　会場日蓮宗雲雷寺　講師日蓮宗現代宗教研究所々長石川浩徳師　安心立命とビハーラ活動（臓器移植問題を含む）参加四十五名

今後の予定として明年四月九日（金）京都本山めぐり要法寺、寂光寺、妙傳寺、頂妙寺の参拝を計画しております。

教学研究書の紹介

『本化攝折論』待望の復刊

平成十年は田中智学居士六十回忌に相当し、記念出版として同居士講述の『日蓮聖人の三大誓願』（定価一八〇〇円）、『本化攝折論』（定価二一〇〇円）が国柱会出版部・真世界社から復刊された。

『本化攝折論』は、明治三十四年七月、鎌倉片瀬の龍口寺で開かれた日蓮門下各教団連合夏期講習会（主催・橘香会）において講じたもので、その口述筆記を補訂、翌年二月に第一版が刊行された。

内容は、巻頭に「攝折の法門は、宗学の基本にして、宗門一切の法義に対する関門である」と述べられているが、攝受と折伏を根本問題ととらえ教学上から詳論し、本化上行日蓮聖人の折伏化導の意義を組織的に解明している。日蓮主義教学研究に必読の書といえよう。高山樗牛がこの書を読み感動。宮沢賢治にはこの書を研鑽して編んだ「攝折御文」があり賢治研究者からも復刊が待望されていた。

申込は真世界社（☎03―3656―7111）Ⓕ03―3656―9980）まで。

慶林日隆『四帖抄』発刊

室町時代の学僧・慶林坊日隆聖人著『法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）』を正確に原文表記し、書き下し文及び頭註を加えて「法華宗全書」（第一巻配本）として間もなく発刊。A5版、上製貼函、布クロス装。頒価は1万5千円。申込は法華宗本門流宗務院（☎03-3910-4755）まで。

各派・教団 短信

法華宗本門流

◇布教及び教学の諸機関において次のごとく異動があった。教学研究所長に苅谷玄翁師（寝屋川・本信寺）、青年伝道隊運営委員長に中野良純師（高槻・慶住院）、教化センター所長に矢吹慈英師（福島・立正院）、機関誌『無上道』編集長に、圓成淳龍師（尼崎・恵運院）、『法華宗信報』編集長に杉村眞宏師（青森・本門寺）がそれぞれ就任し、開宗七五〇年に向けて盤石の体制を固めた。

◇海外布教の拠点、北米二教会（サンフランシスコ法華宗仏教会・本能寺サンフランシスコ別院）が開堂三〇周年を記念して去る11月22日慶讃法要を厳修。和田本能寺貫首、原井宗務総長ら20余名が渡米。

◇昨年10月に青年伝道隊発足30周年、また12月には『無上道』が創刊以来実に半世紀50周年・通巻600号の記念誌を発行。本年1月19日、京都・本能寺において奉告法要並びに合同祝賀会が開催される。

◇古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成11年度新入生募集中。（矢吹慈英）

本門佛立宗

◇かねて四大ご不快で静養されている、佛立第二十二世講有井上日慶上人は去る11月9日付をもって休務される旨を表明された。これに伴い、宗法第八条の規定に基づいて、第十一支庁神戸布教区大法寺住職・権大僧正・谷川日恩上人が11月10日付をもって『講有代務者』に就任された。◇谷川日恩・講有代務者上人は平成11年度の『年頭のおことば』で、『信心改良の第一歩は、初心の信心に還帰すること』と強調され、善聴参詣を勧奨せられた。◇滋賀県今津町の『佛立研修センター』の第一研修館が竣工した。竣工式が3月5日、定例宗会の最終日に挙行される。◇昨年12月、佛立研究所から外国人のための和英対訳・佛立入門書『THE TEACHINGS OF HONMON BUTSURYUSHU』を発刊した。ニューヨーク・ローマ等に広がる、西欧人信徒の佛立入門書として活用されることを期待している。（深澤泉奥）

日本山妙法寺

◇1月8・9両日山主行勝院日達大上人第13回忌法要、熱海多摩両道場にて厳修。◇15日、東京夢の島を出発して焼津ビキニデー平和行進。◇28日、米国アトランタ道場より、キング牧師暗殺30周年記念平和行進。◇30日、ガンジー翁50周年行事、東京市ヶ谷私学会館で追悼行事。印度では各地で行事、ボンベイは五百人以上市中行進参加、集会法要。◇11日、首座上野行量上人遷化。19日、カンボジア行集に参加。◇4月5日、成田仏舎利塔前記念碑除幕式。22日、東京都日の出町ダイオキシンなどゴミ搬入阻止御祈念。28日、清澄山立宗会法要参列、広島長崎向平和行脚団結団出発。◇5月24日、イタリア・コミソ仏舎利塔落慶大法要。◇30日、英国ニューイングランド仏舎利塔13周年祈念法要。同日発道した諸宗教合同『中間航路』巡拝は、アトランタ道場出発、丸一年後アフリカ・ケープタウン迄歩きつづけて、ヨーロッパ行進団と合流する。◇6月20日、英国ロンドン仏舎利塔13周年祈念法要。24日、日韓両国仏教徒は7月3日まで平和行進。◇7月17日より24日までカンボジア平和行進は、毎日三千人の僧俗合同で大行進。25日、富士仏舎利塔は35周年祈念大法要を日蓮宗御参加を得て盛大挙行。◇8月5日、広島仏舎利塔32周年祈念大法要。6日ヒロシマデー、9日ナガサキデーのインドボンベイの反核平和行進は三千人参加し盛大。カルカッタでは十万人の反核行進で政府を叱る。15日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑法要参加後、市中行進して池上本門寺迄歩く。24日、熱海道場で西天教祈念法要。25日、身延山本堂参詣、奥の院思親閣参詣、行阿院様御墓前で参拝。◇10月10日、松戸市の八百屋さん御一家は成田仏舎利塔まで50キロを、二日がかりで撃鼓唱題して参詣。15日、沖縄平和祈念行脚は10月30日まで全島行脚。11月12日まで座込み御祈念。◇新ガイドライン戦争法に反対する国会御祈念を続行中。◇12月1日より8日まで、全日本山では、臘八接心断食で釈尊成道会を迎える。（石山善邦）

日蓮宗

◇中山法華経寺（長瀬日遵貫首）では、来年に迎える開基・常修院日常上人第七百遠忌に向け、その報恩事業として昭和62年から12年かけて全山復興に取り組んできたが、この度本院の新築をもって、主要な事業がほぼ完遂した。◇第二十八回宗門先師追悼法要が12月17日、東京大田区の池上本門寺（貫首・田中日淳管長猊下）本殿で行われ、遺族遺弟をはじめ宗会議員、宗務所長ら来賓合わせて百六十人が参列した。この法要は毎年日蓮宗管長導師で営まれており、今年は平成9年10月1日から本年9月30日までに日蓮宗宗務院に遷化届けがあった百二十六人の先師に回向を捧げた。◇全国日蓮宗青年会は10月27、28日の二日間にわたり、新潟県佐渡ヶ島で唱題行脚と街頭布教を行った。◇創価学会が「日蓮聖人の霊跡の地、佐渡で土地を取得し、研修会館を建設する」という情報に対して、「行動からはじまる」をスローガンとする全日青は全国の青年僧に霊跡護持を呼びかけ「佐渡伝道」として実施した。佐野委員長をはじめ百五十人が参加、日蓮宗の存在をアピールした。（太田順祥）

国柱会

◇全国各地方連合局で講習会、儀典研修会、婦人の集い等を開催。◇6月6日、講師補任用試験。6月27日、国柱会湘南局が設立し祝賀会。◇7月5～6日、弘前で奥羽地方開教百年記念大会、渡部昇一氏記念講演。7月7～8日、佐渡霊蹟参拝の旅。◇8月、第46回国柱会少年少女夏期学校。近畿地方、山陽・四国地方でも開校。22～23日、大阪で「近畿青年の集い」。26日、田中香浦前会長三回忌法会。◇9月15日、京都の妙顕寺を会場に京都局開教百周年記念大会。19～20日、式士任用試験。◇10月3日～4日、身延大祖廟輪番給仕第34回国柱会奉仕団。御門下を代表し田中暉丘会長を団長に昼夜不断の唱題給仕。11日、福岡東公園の日蓮聖人銅像前で屋外宣伝。12日、池上本門寺で恒例の屋外宣伝。◇11月3日、明治神宮参拝。近畿連合局は桃山御陵参拝。15日、定例協議員会。役員改選。大橋邦正講師が理事長に就任した。新年度の事業計画等を審議。16日～17日、恩師田中智学先生第60回忌報恩大会。同60回忌報恩記念出版『日蓮聖人の三大誓願』に続いて『本化攝折論』復刊。（秋場善彌）

京都門下連合会

◇7月22日御会式企画委員会。於総本山本隆寺、御会式の件◇8月26日夏季大学。於本能寺会館テーマは「二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―」、26日理事会。於本能寺会館、御会式の件。◇9月29日御会式奉行委員会。於総本山本隆寺御会式の準備と最終打ち合わせ。◇10月3日御会式。◇11月9日理事会。於総本山本隆寺、全門連京都理事会懇談会の件。◇12月2日全門連京都理事会。理事会は総本山本隆寺、懇親会は万重。◇12月15日会計監査、於総本山本隆寺。◇12月17日理事会。於本能寺会館、平成10年度会務報告・平成10年度決算報告（藤井照源）

顕本法華宗

◇8月25日～9月8日、妙塔学林本科・研修科を総本山妙満寺に於いて開講した。◇10月13日、総本山妙満寺御会式奉行。また、前日12日には御会式御逮夜法要並に、本年度新任住職奉誓式を奉行した。◇11月6日、東部教区僧員講習会。千葉市浜野本行寺を会場に、講師本宗特命布教師朝倉俊幸師を講師にお招きして「宗祖に学ぶターミナルケア」をテーマに、末期医療と仏教の関わり方を、日蓮聖人の御遺文を通して研修した。◇11月14、15日、三宗統合学院（後期）開講。会場東京品川天妙國寺を会場に、顕本、陣門、真門三宗による後期三宗統合学院を、本宗当番により、講師窪田哲城師に「日蓮教学の伝統」と題して御講義頂いた。◇11月18日、西部教区僧員講習会会場、京都総本山妙満寺において、講師特命布教師朝倉俊幸師による「仏典に学ぶターミナルケア」の講習会を開催した。◇11月24日、妙塔学林研究科開講。京都総本山妙満寺において、前管長、古瀬日宇猊下を講師に「十如是について」の御講義を頂いた。（多門顕正）

日蓮本宗

◇7月25日より27日までの三日間、本山に於いて未教師対象の夏期研修会が開催された。十一名の参加者は暑い中、実習を含む七講座をこなした。最終日は早朝より本山から京都市内を唱題行し、鳥辺野の御廟をお参りして全ての日程を終了した。◇8月30日、福島県霊山町の蓮昌寺に於いて、第三教区の檀信徒研修会が実施された。外部講師は島根県の妙伝寺住職の田中良英師。◇9月初旬、本宗選挙制度改革に尽力された田中良英宗務総長（出雲市妙伝寺住職）が退任され、新たに永田智秋師（出雲市松久寺住職）が内局を指揮することになった。◇9月22日、大阪市西成区の正福寺住職・高橋勇夫師が遷化された。師は大谷女子短期大学で教鞭を執られる一方、『法華百話』『遺文百話』等の百話シリーズの著者としても知られていた。◇10月13日、本山にて御大会式奉修。翌14日早朝、京都東山区鳥辺野の実報寺に御廟参。◇11月12日、岐阜県垂井の日目上人茶毘所である日目庵にて、本山要法寺貫首日有猊下大導師の下、全国末寺教師並びに多数の檀信徒が参加して、要法寺第三祖・日目上人第六百六十六年御報恩併霊跡茶毘所修復完工法要を厳修した。当日は晩秋にもかかわらず、温かい天候に恵まれ、参加の檀信徒の皆様と共に喜びを分かち合った。（柳下正則）

法華宗真門流

◇各種講習会開催。8月23日～29日まで総本山本隆寺に於て、青年僧学生僧を対象とした講習会が開催され、講義　法式等の研鑽を深めた。◇総本山宝蔵開扉。8月25日総本山本隆寺本坊客殿に於て、寺宝、什物の虫払い会展観法要が開催された。◇第一教区『秋の文化講演会』開催。大阪福泉寺（木下恵温住職）に於て、僧俗百名の参加を得て、文化講演会が開催された。◇第二教区総会開催。9月6日教区内教師40名が参加し、教区総会が開催され、教区所長の任期が、本年度で満了に伴ない、次期所長選出の結果、武生勇猛院遠藤昭栄現所長が再任された。◇10月12～13日、総本山御会式奉修。10月13日、総本山本隆寺において、初転法輪挙行、本年は三名（福井県堀喜晴師、北海道安井泰信師、兵庫県安田真明師）が初転法輪に臨んだ。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◇7月31日、宗務院会議室に於いて宗法審議委員会が開催された。議題は、①財務規則の問題点、②総本山研修所規則について、③布教研究所規則、④その他であった。◇9月1日「法華宗おつとめ要典・CD版」が完成し、本宗檀信徒並びに一般の方々へ広く発売になった。これは本宗の一般檀信徒向けに発売しているお経本、「おつとめ要典」のお手本となるものが欲しいと、かねてからの要望に答え実現したものである。お経以外にも、法要で使われる代表的な雅楽の演奏が納められている。◇9月3・4日、法華宗中央行学講習会が京都にて開催された。第一日目第一講義は、京都別院本禅寺山主、福井日進師で、演題は「京都本禅寺沿革」であった。第二講義は、東洋大学名誉教授、金岡秀友先生で、演題は「鬼子母神信仰」であった。二日目は、本門法華宗・大本山妙蓮寺、日蓮宗・本山本法寺、各寺を参詣し、本宗別院本禅寺にて閉校式となった。◇11月14・15日、三宗統合協議会・後期「統合学院学生講座」が顕本法華宗当番宗の下、天妙国寺会議室にて開催された。講師は顕本法華宗元教学研究所所長、窪田哲城先生で、講題は「日蓮教学の伝統」であった。（松吉慶憲）

本門法華宗

◇10月12日・13日大本山妙蓮寺（松本日望猊下）では三大会の一つである、宗祖日蓮大菩薩御会式報恩法要が厳修された。12日お逮夜法要に併せて境内を飾る万燈が一斉点灯されたほか、恒例のフリーマーケット・音楽奉納など行われた。◇11月12日大本山妙蓮寺では、ご開山日像菩薩御報恩法要が厳修された。併せて、三師会（日慶・日忠・日応上人）、歴代上人年忌法要が門末寺院教会住職僧侶総出仕、檀信徒有縁各位多数が登山参詣のもと行われた。◇本門法華宗学院では9月16・17日に第87回教学講習会、12月4・5日に第88回教学講習会を大本山妙蓮寺卯木講堂で開講した。講師陣は増田日紘猊下・杉本日慈猊下・飯田信栄本山執事長・白山智宏教授・北川前肇立正大学教授。（木村光正）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

＊平成と年号を改めてから早いものですでに十一年、平成十四年の開宗七五〇年まで、いよいよカウントダウンの体制に入りました。御門下各派はその記念事業として、本末こぞって伽藍、堂塔の整備に着手する機運にありますが、新世紀まで後二年余りとなった現在、金融破綻、企業の倒産等々、一九二〇年代の大不況に酷似していると言われているにもかかわらず、これらの事業を推進することは、檀信徒の方々にとって物心共に大変なご負担であると思われます。

＊前号の流通文でも法器養成の事に触れられていました。今こそ各宗門の枠を越えて、積極的に人材交流を図ることこそ優先すべきではないでしょうか。いくら外観を立派に整えても、柱のない建物は空しく砂上の楼閣となり得るのでありますから。（柳）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成11年8月1日
第20号

リレー提言⑩



門連常任理事
大橋邦正

門連結成40周年が巡りくる

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を挙げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

報恩の共同事業を策定し積極的な推進を

昭和三十五年二月に日蓮聖人門下連合会が結成されて、明・平成十二年二月で満四十年を迎える。この四十年を顧みて主な業績として記録に残るのは、なんといっても日蓮聖人七百遠忌報恩記念共同事業として展開した左の四大事業であった。

昭和五十六年、日蓮聖人七百遠忌御正当年にあたり、第一に、聖祖御一代の御化導を演劇によってひろく世に顕彰するため、全国に五十四年、五十六年と二度にわたって公演した前進座による「日蓮聖人劇」。第二に、聖祖の御真蹟をはじめ各派格護の重宝類をあつめ、人々を正法に結縁させるべく、東京、大阪、小倉で開催した「日蓮聖人展」。第三は、翌五十七年三月に、門下連合会加盟教団の次代をになう青年達の結束をめざす「青年の船」の船出であった。第四は、昭和五十七年四月、報恩事業の掉尾を飾る「オラトリオ日蓮聖人」の製作完成と発表演奏会。という御報恩四大事業が門連各派共同の御報恩事業として、見事に成満をみたのである。

昭和六十年には門連結成二十五年とて、京都妙顕寺に於て記念大会を開催、記念法要と講演会が行われたが、この大会で現機関紙『門連だより』を今後の事業の一環として刊行していくことが決められ、翌六十一年四月の開宗会を下して創刊された。

平成二年に門連結成三十年を迎えて、京都妙蓮寺に於て慶祝の大会を催し、記念誌『日蓮聖人門下連合会三十年の歩み』も刊行された。

しかし聖祖七百遠忌報恩事業を成満したのちは、共同事業らしき企画もないまま、門連は四十周年という大事な節目を迎えようとしている。さらには聖祖立教開宗七百五十年記念の年も目前に迫っているが、残念なことに七百遠忌事業のごとき積極的な報恩記念の共同事業は策定に至っていない。聖祖に対し奉る御報恩のためにも、一日もはやく事業策定を願うものである。

勇断もって改革すべき身近な問題

近年、世間で行われる葬儀の実態が、時代の変化とともに多様化し時流にのって大衆の自我心と虚栄をあおるという、信仰と無縁の様相をみるにつけ、信仰の風化だと葬送の主導者であるべき宗教人の、指導力の欠如を指摘する声があがっている。

人の死に対する葬儀は、習俗文化として歴史を反映して発達してきた。

日本の仏式による葬儀一般の儀礼の構造は、正しくは、信仰の帰依対象たる本尊を奉安して三宝を敬い、その仏前において死者に戒名を与えて仏弟子とし、経文を読み聞かせて信仰の教義を伝える。そして最も大事な導師の引導作法により、仏弟子として寂光の本土におくるという、豊かな習俗文化を生んだ。

ところが近年、世間で行われる葬儀の実態をみるとき、葬儀は死者のために営むのが本筋であるのに、葬儀社のためにするのか、遺族の義理や見栄、残った者たちの自己満足と世間態のためなのか、葬儀の真実が見えてこない。

現代社会・文化の変化はじつに激しいものがある。伝統の流れの中で定着していた村落共同体は、近代の物質文明のまえに崩壊をたどり、都市では連帯共同の意識が稀薄になった。葬儀はかつての共同体で営む行事から、私事に変化したのである。その間隙を縫って登場したのが大型化する葬儀社であった。乱立する葬儀社とて生き残るためにはしのぎをけずる。華麗な演出など、儀礼化し、形式化し、かつ習俗化するさまざまな展開をみるにつけ、業者主導を廃して寺社主導の本来の葬儀の姿に戻すべきという声もあるが、寺社側の時代の変化に対応する事もなく、ことに本来あるべき葬送意義の指導力を欠いた現状では、思い切った改革の勇断実行がないかぎり、世間主導の習俗の叛乱は続くであろう。

本来、葬儀は、信仰を紐帯として教義にもとづく厳粛な儀礼とともに、成仏への引導をわたし、迫善の回向功徳を施して死者の永遠の冥福を祈るべきものなのに、多層な重なりをみせる日本人の宗教観がまるで変わってしまったのか。

もともと信仰とは距離を置いた日常のなかで、恐れる死の現実に直面して虚をつかれ、呆然自失してなすすべを知らないというのか、葬祭業者のいうがままに、現実的対応に逃げ込むというように、死をめぐる日本人の対応の意識がまるで変わってしまった。

最近の葬祭業者が演出する葬儀は、明るさがキーワードだという。BGMを流し花に埋められた祭壇に、祈りの対象となる御本尊はなく、ただ大きな遺影が飾られライトの光りで浮き上がらせている。僧侶は本尊なき祭壇に読経する。

仏教には死者を拝むという思想はない。葬儀は、死者に法名を授けて仏の弟子にして、その引導をわたす儀礼であり、そこに唱えられる経文は亡き仏弟子に対して、仏のみ教えを聞かせ功徳を得せしめ、精霊の菩提増進を祈るものである。

伝統仏教寺院は、寺檀関係をもって経営の基礎を形成していることはいうまでもない。寺檀関係にある寺院と檀信徒とのつながりは、先祖代々信仰を継承し、ふかく伝統に結びついた関係であり、家を単位とした関係である。この「家」制度が確立されている限り、寺院の宗教活動は揺るぎないものであった。しかし、このような寺檀関係は、安定すればするほど仏教そのものの本来の教化態勢を安易なものに陥れる危険性をもつのである。なぜなら「家」そのものが寺院を護持してくれるだろうし、それに対して寺院は新しい時代の流れを研究したり、本来の目的たる衆生済度の積極的布教への情熱が失われてしまうからである。

社会の近代化が進むにつれて、家と家族の構成や機能はおのずから変化して行く。核家族化がもはや数量的に優位になっている今日、「家」を単位とした従来のままの寺檀関係は、その護持経営の方法や布教の姿勢を根本的に変えることを余儀なくされた。

社会が「家」単位の生活から「個人」単位の生活へと変化していくなかで、憂うべきことは各寺院が固定した檀信徒の葬儀・法要を営むことによってのみ、ふかく市民と結びつくという現状である。また、布教伝道の場としての機能をもつ寺院が、形式的、儀式的な葬儀法要の執行機関にしか存在理由を見出し得ないなら、伝統寺院仏教は社会に取り残される存在になりかねない。

現実は信仰の頽廃とともに、仏教界そのものが闇に沈もうとしている。もはやこの現実をみるかぎり、われわれの心の最後のよりどころを何処に求めたらいいのか、そのためには人間いかに生き、そしていかに死ぬかという原点に立ち返ることのほかにない。その死生観にもとづいて人生の意味を考え直し、勇断をもって改革すべき時と痛感する。もはや改革なくして人間存在の内面性を象徴する「心」の宗教への回帰する機縁は生れてこない。



法華経の教えを形に表した妙宗大霊廟
万人が仏子として平等にまつられる一塔合安式で、日々妙法の供養がなされている国柱会本部が所在する東京都江戸川区一之江の申孝園内に建立されている。
（昭和３年に田中智学師により創建）

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地湧出

◆今、私たちが生きて行く上において、自分の考え、気持ちを相手に伝えるものは、言葉しかない。しかし、言葉というものは非常に難しい存在である。自分の気持ちを、言葉を通して相手に百%伝える事は中々大変な事である。相手側の聞き方にも左右される。

◆古い昔の伝説に「指月の譬え」というお話しがある。満月の夜、お寺の縁側で、師匠と弟子が語り合っていた。師匠は、満月に指を指し、弟子に「あれを見ろ」と言えば、弟子は、月を見ずに指を見たそうである。このお話しは、言葉と言うものは大変難しい、指から月の計り知れない長さほど難しさがある。

◆私は、以前から疑問を抱いていた言葉の中に「卒業」という言葉がある。言葉には必ずアンチテーゼがあり、相対論理の世界がある。卒業の相対語は、入学である。入の相対語は出である。それならば、入学に対して出学でなければならないのに、何故卒業なのか。素朴な疑問であった。

◆先日、漢和辞典で「卒」という字を調べてみた。「卒」とは集大成である。疑問が解けた。入るに対しては出るであるが、学校（学ぶところ）を総合的にとらえた時、ただ、入って出ていくのではなく、その間、学んで来たひとつひとつの蓄積が集約された事を「卒」と言うのである。だから、出学ではなく「卒業」と言うのである。言葉は、確かに、重く、深く、含蓄のあるものである。

◆『大智度論』第九には、法の四依として、「依法不依人」「依義不依語」「依智不依識」「依了義経不依不了義経」と書かれている。日蓮大聖人がお示しになった妙法蓮華経は、まさしくこの心である。立教開宗七百五十年に向けて、何にも動じない法華経の真実の心をひとりでも多くの人々に伝えて行かなければならない。（源）

立教開宗750年に向けての提言(3)

日蓮聖人門下「青年の船」から20年

本紙18号より、七百遠忌門連共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々と参加者にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくこととなった。今回はその第三弾である。

更なる躍進を！

法華宗本門流　**久野泰瑞**

このたび『門連だより』編集委員より、平成十四年に迎え奉る宗祖日蓮大聖人開宗七五〇年に向けての提言を記すようにとの依頼がありました。私は、宗祖七〇〇遠忌の折に門下連合会として報恩事業のひとつとして企画された「青年の船」に乗船した一人としてその当時を思い起こしながら私見を申し述べさせていただきます。

当時、船上では「太鼓クラブ」を担当し、その記録集には「日本古来の伝統邦楽の象徴的楽器の太鼓の講習ということで、勇壮な太鼓のサウンドに共鳴した祭り好きな参加者の熱気溢れるバチさばきが洋上に乱舞された」と記してあります。乗船によって多くの友人とめぐり合うことができ、宗祖滅後七〇一年の旅立ちに相応しい「青年の船」に参加させていただいたことに今なお感謝しています。

いま、宗祖開宗七五〇年を迎えようとしていますが、門下各派においても遠忌当時のような盛り上がりには欠けているような気がしてなりません。同じく門下の青年僧各師においてもまた当てはまることでありましょう。

ここ数年は、門下連合会の一大スローガンである〈祖廟中心〉の意識も軽薄となり、七五〇の合同記念事業も一向に進まないと聞き及んでいます。

さらに、結成後三十余年を経た今日において、門下連合会の在り方、目的・事業等を見直す時期に来ているのではないでしょうか。現状認識した上での門下連合会であって欲しいと考えます。そのためにも門連関係各位の深い理解と包容、そして青年僧の熱い躍進と奮起を期待して、門下連合会ますますの御発展を祈念いたします。

『青年の船』を研修して

法華宗陣門流　**江坂隆俊**

日蓮大聖人七百遠忌記念事業の一環として『七〇一年の旅立ち青年の船』が実施され、すでに十七年を過ぎている、それぞれの参加された方々は、世の中の中堅として活躍されていると思う。

戦争をしらない私達は、硫黄島、サイパン、グァムと太平洋戦域での戦没者慰霊法要は、戦跡を目のあたりにした戦争未体験者の世代にとって、強烈な感慨を抱くとともに感涙したことを忘れることができません。

いま平和社会の実現の責務の重さを痛切に感じとることができます。

帰寺後、当寺にも多くの戦没者英霊に、ひたすら御報恩の誠を捧げるのみであります。

日蓮聖人門下連合会が結集して、異体同心の実践の研修を、十一日間体験させていただいたことは、言葉に言い表すことのできない感謝の気持ちで一ぱいになる思いがいたします。

帰路に向かう全体の中で、反省として各ブロック別に特技イベント等を大ホールを利用して二日間位に分けて実行すれば、もう少し交流がはかれたかと残念でなりません。

この『青年の船』が終わり、門下連合の継続的な青年有志の会のつながりを持ち続け、今後私たちが門下として『立正安国』をめざし、青年の船で培ったきずなを大切に、地道に重ねていきたいことと願っております。

門下各宗各派の立場を尊重して、一般の方々が現在何を求めているかを研究課題とし、青年僧を中心に人的交流を深めたらと考えます。

平成十四年は、日蓮大聖人の立教開宗七五〇年の節目であり再度門下連合の結集を願ってやみません。

「青年の船」の意義と世界的活動

国柱会　**田中良則**

七百遠忌の翌年に船出した、日蓮聖人門下「青年の船」の時から十七年の歳月が流れた。

当時、私は高校の教諭をしていた。日蓮聖人「青年の船」の企画運営には全く携わっていなかったが、日蓮聖人を信じる青年達が、七百遠忌を機に集まって「めざせ立正安国」のスローガンで船を出すというのだから、これは是非参加しようということで、乗船した。参加することに意義があると思ったので、それ以外に目的も別の心構えもなかった。

航行地にグアム・サイパンを選んだ意義については、聞かなかったが、大東亜戦争での玉砕の島であるということは、美しい風景を見ても、遊んでいても、意識のどこかにあった。出発に際して、よく知っている方から、息子さんがサイパンで戦死したということで、餞別をいただいたが、その時はそう深くは考えなかった。

青年の船の「旅のしおり」にも「慰霊とは何だろう」「戦争とは何だろう」というテーマがあった。硫黄島の近くを通過した時の洋上法要は今も印象にのこっている。灰色の島をみて、あれが硫黄島かと思った。今なお凄絶な感じがした。海への散華の後に流した「海行かば」のメロディーにはジーンときた。

サイパン島に着いた時は、数日船に乗っていたので、陸にあがるとゆれているような感じがした。そういう感覚の残っている状態で、戦跡を見学し慰霊法要をおこなった。弾丸のあとの残る山の岩壁はすさまじい感じがした。ある場所では、鬼哭啾々ということばが思いうかんできた。

場所はどこだったか忘れたが、キリスト教で慰霊している牧師さんだかに会ったが、キリスト教では慰霊というのはどういう意味をもつのだろう。仏教では追福、追善の意味でとむらうのであるが、同じような意味だろうか。自分の信じるところでは、念仏キリスト教等で追福を行っても、真の追福にはならないが、死者をとむらうという心情については共通である。慰霊という事柄に対しては敬意を表わすべきであろう。日蓮聖人の宗教は崇一排多（排他ではない）主義で、このことは、なかなか理解されない。他宗教とかかわっていく原則をかんがえなければならない。そんなことを思った。

南洋の風土を珍しく思ったり、船で会ったいろいろな人のことなど、意識の底に沈んでいたことが、ふりかえると思い出されてくる。

今「青年の船」という事業を考えると、企画運営された方々の、根本の思想は必ずしも統一されないままで、実務上のレベルで協力しあったという面があったと思うが、その日蓮聖人観のちがいはあっても、聖人の信仰という一点に共通点を見いだし、聖人門下の青年の結集をはかったことは、意義を有することと思う。

日蓮聖人は「月は西より東へ向へり、月氏の佛法の東へ移るべき相也。日は東より西へ入る、日本の佛法の月氏へ還るべき瑞相也」。（諫暁八幡鈔）と言われている。本化の大教が東から西にひろまっていくことは、天体の運行よりも、たしかなことである。立宗開教七百五十年。日蓮聖人門下が世界的に動くべき時は来ている。異体同心への道を何としても歩まなければならない。

「立教開宗750年」
旅、こころ
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、
旅のことならなんでもそろっています。
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
旅する人の気持ちで……JTB
JTB
For Your TraveLife
素敵な「旅」をご提案します。
日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

暑中御見舞

平成十一年己卯

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三一―一五
電　話　〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX　〇三(三七五一)七一八六

管　長　田中　日淳
宗務総長　永井　祥文
宗務副総長　渡辺　一之
綜合企画部長　加賀美泰全
庶務部長　小松　浄慎
財務部長　篠原　智高
教務部長　二宮　將泰

護法伝道部長　上田　尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　松井　義昭
現代宗教研究所長　石川　浩徳
国際開教室長　中條　令紹
人権対策室長　前田　幸廣
参与　堀江　宏正
参与　浅井　玄裕
日蓮宗新聞社社長　垣本　孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒170-0004
東京都豊島区北大塚一―二六―四
電　話　〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX　〇三(三九一八)七九九四

管　長　松井　日俊
宗務総長　原井　慈鳳
教化部長　圓成　淳龍
教学部長　桃井　晋城
財務部長　坂巻　顕導
庶務部長　矢吹　慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五(七九一)七一七一
FAX　〇七五(七九一)七二六七

管　長　吉永　日晴
宗務総長　中山　昭夫
宗務次長　山本　学人
財務部長　白井　謙光
教務部長　奥村　智学
社会部長　鈴木　無着

布教部長　阿曽　久成
庶務部長　三坂　岳応
主事　山本　晃道
多門　顕正
津村　乗信
小松　正学

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三(三九一八)七二九〇
FAX　〇三(三五七六)〇一二一

管　長　竹嶋　日香
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　都築　哲信
教学部長　佐古　弘文
教化部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電　話　〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX　〇七五(四六四)五五九九

講有　井上　日慶
講尊　梶本　日裔
宗務総長　小山　日誠
宗務副総長　笹田　日昌
宗務副総長　佐藤　政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五(七七一)三三九〇
FAX　〇七五(七七一)五九一四

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　高見　正弘
総務部長　佐藤　哲夫
財務部長　岩崎　隆義
法務部長　岩崎　廣義
教学部長

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五(四四一)五七六二
FAX　〇七五(四四一)五六六六

管　長　真枝　日世
宗務総長　吉田　研宏
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　寺田　完英
社会部長　水野　日悲
財務部長　水野　智啓

本門法華宗宗務院

〒602-8148
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電　話　〇七五(四五一)三五二七
FAX　〇七五(四五一)三五九七

管　長　松本　日望
宗務総長　高遶　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX　〇三(三六五六)九九八〇

会　長　田中　暉丘
理事長　大橋　邦正
副理事長　入江　克郎
門連理事　秋場　善彌
門連理事　淀野　寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376
京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電　話　〇七五(七六二)二四一一
FAX　〇七五(七五二)九三三八

会　長　金山　日龍
副会長　赤田　日崇
理事長　杉若　恵隆
副理事長　桃井　晋城

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電　話　〇四二(三七八)三三九五
FAX　〇四二(三七九)〇七四四

首座　塙　行幸
長老　石山　定光
長老　吉田　行典
長老　酒迎　天信
長老　今井　行康
長老　西堀　行施
長老　二宮　和嘉
事務局長　今井　行順

慶讃事業の紹介



特別局長
石田清尚

本門佛立宗におきましては、平成14年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七五〇年に向かって、平成四年より宗門の活性化と弘通意欲向上のため、宗門改革に取り組んでまいりました。そして、実質には平成八年小山内局を中心に報恩ご奉公のスタートを切りました。さらに、報恩ご奉公の推進と円成のため、平成九年宗務総局に特別局（高祖日蓮大士立教開宗七五〇年特別局）が設置され、報恩ご奉公、慶讃事業の実働段階に入りました。以下、宗務本庁特別局よりその概要を申し上げます。

七万五千人教化運動の展開

当宗の報恩ご奉公の柱は「**一人ひとり七万五千人教化**」であります。当宗では、平成八年より平成十四年までの七年間にわたって、教化運動を展開しています。

①この教化運動は全宗門人が教化親になる佛立信心の原点であります。この七万五千人教化必成のため、本年三月から六月にかけて、本門佛立宗開講記念日の十二日と立教開宗記念日の二十八日に「**講有上人よりご慈折をいただく教化必成本山口唱会**」を開催しました。

この口唱会には全国十一支庁交代制により、毎回千数百余の教講が本山御宝前に集い、熱祷を捧げ、七万五千人教化の早期達成をご祈願させていただきました。

現在全国の寺院では、これに呼応して教化総運動が展開されています。

②七万五千人新入信徒教化育成に対応するため「**教務増加促進運動**」と「**佛立教務見習養成所**」を開催しております。

三　七万五千遍を達成した人は、二回、三回と続けて下さい。

☆表　彰

一　口唱カードは、本山御宝前にお供えします。

二　優秀者は表彰し、記念品を贈呈します。

三．平成十三年慶讃別修法要

全国各支庁、布教区、寺院で高祖日蓮大士立教開宗七百五十年記念慶讃法要を奉修。

四．平成十四年慶讃総修大法要

高祖日蓮大士立教開宗七百五十年慶讃総修大法要を本山宥清寺に於いて奉修。

・平成十四年四月二十日㈯・二十一日㈰【一・三・九・十支庁】

・平成十四年七月十三日㈯・十四日㈰【一・四・六・十一支庁】

・平成十四年十月十二日㈯・十三日㈰【一・二・五・七・八・海外支庁】

・平成十四年四月二十八日㈰　慶讃御正当法要

・平成十四年八月四日㈰　佛立青少年慶讃総修法要



75,000人教化必成本山口唱会風景

慶讃法要奉修

①平成十一年度全国十一支庁に於ける佛立青少年プレ大会の開催

②佛立青少年大会開催

一．概　要

(1)　日　時　平成十二年八月二十六日㈯～二十七日㈰

一泊二日　テント及び民宿

(2)　場　所　『佛立研修センター』（滋賀県高島郡今津町）及び今津町周辺

(3)　大会スローガン　『かがやけ佛立二十一世紀』

(4)　大会目的　青少年の人材育成を主眼とします。

(5)　大会運営組織　全国佛立青少年大会実行委員会規程による。

全国の薫化会、スカウト団、青年会よりご奉公者を選抜して実施します。

(6)　大会参加者　『全国佛立青少年』満七歳～三十五歳まで千五百名

(7)　交流の促進　各寺院・各布教区・各支庁間の連携強化を目指します。

なお、この青少年大会に向かって七万五千遍口唱運動を実施。

二．七万五千遍口唱運動の展開

法灯相続運動の一環として、お題目口唱の大切さを感得してもらうこと、佛立青少年大会の成功を祈願し、全国青少年を対象に、七万五千遍口唱運動を展開させて頂きます。

☆対象者　全国佛立青少年　満七歳～三十五歳迄

☆期　間　平成十一年七月一日～平成十二年六月三十日の一年間

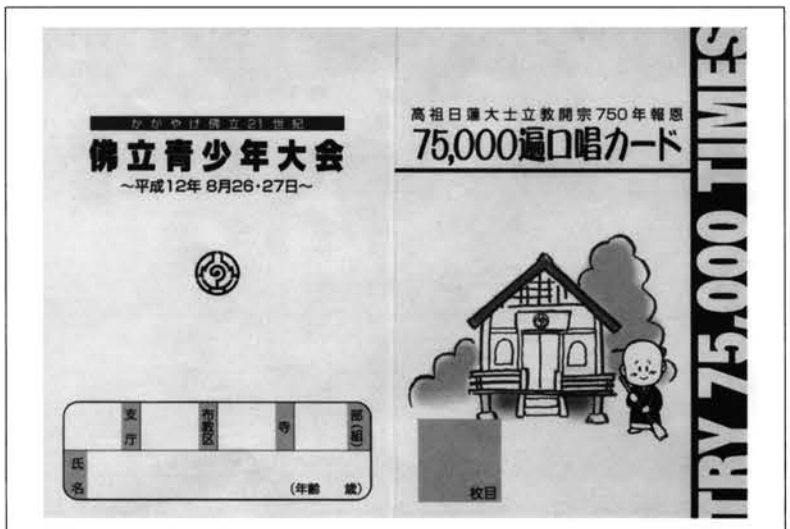
☆記　録（利用法）

一　五分を一マス（二百遍）と計算し、○印をつけて下さい。

二　お寺・お講・自宅等でお唱えした、すべてのお看経の時間を入れて下さい。



立教開宗750年シンボルマーク



75,000遍口唱カード

宗門改革

宗門改革につきましては、平成四　年十二月十四日第百三十九回臨時宗

本門佛立宗

750年に向けた 各派の具体的な動き❷

記念事業

①今津佛立研修センター「第一研修館」竣工

宗門では、去る平成元年にお迎えした本門佛立宗の開発教導日扇聖人の百回御遠諱記念事業の一環として、滋賀県今津町にある妙見山（JR湖西線近江今津駅北西四キロ、スキーのメッカ箱館山から二キロ、琵琶湖岸から四キロの風光明媚な場所）の一部（十四万平方米四万六千坪）を「佛立研修センター用地」として入手しました。このセンターにこのたび宗門記念事業として、佛立センター用地の造成、工事も終わり、引き続いて第一期工事の「第一研修館」（地下一階・地上二階、延床面積七百十七㎡）が完成し、三月の定例宗会に引き続き五日には、竣工式を挙行いたしました。

宗内の各種行事や教養各会の研修、さらには地域社会との協調などに利用できる拠点が立派にできあがったことにより、今後法灯相続に大きなはずみがつくことと思います。



今津佛立研修センター、第一研修館全景

②アニメーションビデオ制作

高祖日蓮大士御一代記（仮称）アニメーションビデオの製作

この企画の趣旨は、あらゆる年齢層の宗門人に対して、又世の中の万人にも広く高祖日蓮大士を知っていただくため、つまり啓発用として高祖日蓮大士の御一代記を立教開宗、ご法難を中心にして誰にでもわかるように、アニメビデオ化させていただくものです。

現在〈アニメ〉は新しい情報メディアとして公官庁にも採用されるなど、市民権を得ております。その点からも、佛立青少年層から全宗門人、世間的にも、高祖日蓮大士のご遺徳が顕彰できる作品をめざして、作製いたします。

③各種記念出版事業

（イ）平成七年佛立日扇聖人御本尊集発刊（B4判・上製函入・約四百五十頁）

（ロ）平成十一年佛立開導日扇聖人御遺墨集発刊（A4判変形・上製函入・約四百頁）

（ハ）佛立宗版高祖御妙判集の刊行

立教開宗七百五十年を記念して佛立宗版高祖御妙判集の刊行を予定しておりますが、現在十七通の主要御書については書き下しが終わり、その他の御書についても平成十二年中にその作業を終えるべく鋭意編集作業を進めています。

さらに、佛立宗の教えを英語圏の人々に紹介するため、英訳研究班を設け、英訳作業を行っていますが、今年は開導聖人の御指南をできる限り翻訳していく予定です。（佛立研究所）

（ニ）その他記念出版については検討進行中であります。



第一研修館竣工式（H11・3・5）

結び―報恩の誠あらわす時は今

以上の項目に亘って、報恩御奉公円成のため教講異体同心となって活動しております。

本門佛立宗は高祖日蓮大士立教開宗七百五十年を迎えるに当たり、宗門挙げて高祖日蓮大士のご遺徳を偲び、大恩報謝の一念に徹し、全ての慶讃ご奉公は「高祖日蓮大士にお悦びいただくこと」でなければならないと決定し、努力精進いたします。

（文責　特別局局長　石田清尚）



記念誌（上）佛立開導日扇聖人御本尊集
（下）佛立開導日扇聖人御遺墨集

門下立教開宗七百五十年慶讃記念事業について

昭和五十六年の宗祖第七百遠忌より十七年を経、立教開宗七百五十年まであと三年弱となった今、日蓮聖人門下連合会としては一体どの様な慶讃事業が出来るのだろうか。本紙第十八号、第十九号に於いて特集した、青年の船参加者の「七五〇に向けて」の中から各意見を抜粋してみた。

日蓮聖人門連だよりの拡充強化

門連の未来を担う各派の青年達が率直な議論を交わしながら編集発行している機関紙であるが、各派の結束紐帯に果たす役割は大きい。よって各派檀信徒にも配布するといった拡充強化を目指す。

仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進

現在推進中であるが、東京国立博物館、京都博物館にて展覧会を開催すべく準備検討している。

比叡山横川定光院の参拝顕彰

宗祖が立教開宗前十二年余に亘り、研鑽された御霊蹟である横川の聖地に、全日蓮門下がこぞって参拝顕彰しようとするもの。

祖廟護持の組織強化

「祖廟中心」との門連の目的に則り、門連の輪番奉仕を以前の様に各派が一年交代で給仕させていただく様にする。

教育事業の提携

門連各派の学林や研究機関が一堂に会し、門連大学と称して、祖師学、布教学、社会福祉学などの講座を開き研鑽を行う。

布教の連合強化

門連各派が共同して、各派の連名により新聞やテレビ等に意見広告を発表していく。

門連主催、研究会・講習会の開催

時に応じたテーマを設け、それに沿った各分野の著名な講師による講演会、研究会を開催していく。

各種出版物の刊行

各派の研究誌に発表されている論文等をまとめて一冊にして刊行し、各派の学術交流の一助とする。

海外布教の提携及び交流

各派の海外布教拠点の情報を共有し、門下として対応していく。

対外的な各種の運動

一天四海皆帰妙法の祖願達成に向けた様々なイベント「青年の翼」や「唱題行脚聖火リレー」等を行っていく。

門下連合青年会の結成

各派連携の原動力とも言える各派青年達の実行力を結集していく。

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会



暑中御見舞

平成十一年己卯

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四
主　藤井日光
務　伊藤通明
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首　田中日淳
執事長　市川智康

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
首　吉永日晴
総務　大川定信
執事　安東靖弘
執事　山本晃道
執事　津村乗信
執事　小松正学
執事　林孝瑞

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八
首　竹嶋日香
執事長　真保行宣
執事　西山英仁
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫首　真枝日世
執事長　笹木研秀
執事　矢放真文
執事　本多信正

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首　松本日望
執事長　飯田信栄
役職員一同

日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　高見正弘
執事　佐藤哲夫
執事　岩崎廣義

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職二十二世隠有　井上日慶
事務局長　伊藤隆之

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
立教開宗七五〇年慶讃団参奉行
〒299-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇(九四)〇五二五
別当　杉山日慎

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七(三三四)三四三三
貫首　長瀬日還
執事長　冨田義董
参与　関観康
同　新井智清
同　植田観泰
同　広野観順
同　土田勝宏

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七
貫首　本間日諄
執事長　井出教道

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-5501
千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一
貫首　石川日命

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
山主　駒野教格

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376
京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　新井智清
同　安藤信行
執事　藤井照源
同　川合陽雄
同　二之部知孝

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
〒602-0061
京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七
貫首　金山日龍

門連時報

身延山祖廟参詣　理事会開催

本年度の身延山祖廟参詣および理事会が各派の代表者参加のもと五月三十一日に行われた。

当日午前十一時三十分、身延山西谷の常唱殿に集合した各派の代表は、撃鼓唱題にて祖廟ついで宗祖御草庵跡に参詣、法味言上を行った。

その後、一行は久遠寺新本堂において理事長導師のもと法味言上。次いで新書院にて伊藤通明総務より歓迎の御挨拶をいただく。久遠寺では、三月二十五日に前総務の藤井教雄師が法主となられ、伊藤総務を中心とした新内局が組局されたばかり。

昼食の後、参加者は宝物館等を自由拝観。午後二時より身延山大学会議室に会場を移して理事会を開催。

慣例により永井理事長が座長となり議事進行。平成十年度事業報告、同決算、平成十一年度予算案、同事業計画案が承認された。

次に地方門連活動に関する件については、まず京都門下連合会杉若恵隆理事長より、続いて、大阪門下懇話会木下恵温理事長より種々報告があった。それを受けて、地方門連の現状について種々意見が提起された。その中で地方門連の位置付け等について議論がなされ、予算の中には「地方門連結成準備費」との費目がありながら、未だ新たな地方門連結成に至らない現状や、各地の懇話会及び同様の組織にしても、そこに加盟の各派事情により全門連への正式参加に至らない等の指摘があった。今後は門連規約の改正も視野に入れながら、予算の編成も含めて地方門連の位置付けについて検討が必要であるとの方向が確認された。

次に立教開宗七五〇年慶讃記念事業に関する件については、各派代表よりそれぞれの立場から種々意見が述べられた。

現在までに「法華信仰者の芸術文化展」の開催が計画され、その実現に向けて国立博物館と門連の間に接渉が行われているが、各派の意識に温度差があり、「正式な出展の依頼状がなければ宗派として動くことはできない」とする意見や、「そういったことはまだ先の話で、まずどういった展示品を出展できるかとのリストを国博に提出する必要がある」といった意見が述べられた。

結論としては、先に立正大学坂輪宣敬教授に依頼して出展リストの作成をお願いした経緯があるが、その第二次リストの作成を待って国博との接渉に当たり、法華文化展の開催に向けて準備を進めていくことが確認された。

午後四時会議を終了し、宿所である下部ホテルに移動、身延山当局より斉藤邦昭庶務部長を交えてなごやかに懇親会が行われ、翌、六月一日散会となった。



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣（H 11.5.31）

佛立青年教務会、応援　助行を全支部で展開

佛立青年教務会第18期の基本方針

本年度より高祖立教開宗七五〇年に向けて、「青年教務会員の力は誠に微力であり、経験も不足がちではあるが、一同何か宗門のお役に立たせて頂こう」との認識を前提に「とにかく一歩を踏み出そう」ということになり、その結果次のような方針を打ち出すことになりました。

①全国各支部ごとに管内寺院よりのお助行の依頼を受けた場合は積極的にさせて頂く。

②同じく支庁・布教区等からの依頼についても、お助行に限らず、その他各種の大会・行事でもご奉公させて頂く。

③高祖立教開宗七五〇年記念特別企画として、平成十二年七月上旬もしくは八月上旬に『青年教務会洋上錬成道場』を開催します。

日程は二泊三日の予定で、第一日目の夜は前夜祭を行い、二日目と三日目が船上での錬成道場となります。青年教務会員を主体とする百名を目標に参加者を募集します。

『二十一世紀を目指し、佛立青年教務が進む道』をテーマに掲げての、『青年教務会洋上錬成道場』に使用する船は、熊本・長薫寺所属信徒で東海大学名誉教授である森田昭雄先生のご厚意により、同大学の海洋研修船である「望星丸」をお借りすることになっています。コースは、静岡県の清水港を起点に、高祖ご生誕の地である千葉県小湊港に向かい、再び清水港に戻ります。

洋上錬成道場の目的

この錬成道場の目的は、青年教務会員の異体同心を図るとともに、船上での講演会や参加者のグループ・ディスカッションで会員の資質向上に努め、そして何よりも高祖のご恩徳を偲ばさせて頂く、小湊港沖での立ちのぼる朝日に向かっての「七五〇報恩ご奉公円成祈念船上暁天口唱会」をさせて頂こうというものであります。

七百回御遠諱のおりの日蓮門下合同のサイパン島への洋上大学以来の、この度の佛立宗だけの企画であります。以上、高祖立教開宗七五〇記念報恩ご奉公に少しでもお役に立つご奉公をと考えました青年教務会の方針をご披露させて頂きました。

京都門連開宗会　比叡山大講堂で奉行

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）は、四月二十四日比叡山延暦寺大講堂に於いて、宗祖日蓮大聖人立教開宗会を奉行し、僧侶檀信徒約百五十名が参加した。

参加者は、本山頂妙寺に集合、バス三台で出発、延暦寺に到着後、法華宗陣門流本山本禅寺貫首福井日進猊下による「開宗会の意義」の講演を聞いた。福井貫首は「比叡山でのご修行がお題目を生んだ。七五〇に向け、祖師の心を伝えなければならない」と力説した。

法要は本山本法寺金山日龍貫首を導師に、杉若理事長と飯田信栄常任理事（本門法華宗）が副導師、京都日蓮宗雅楽会出座のもと厳修され、参加者一同御報恩の誠を讃えた。又、延暦寺より、副執事が来賓として出席された。

法要後、横川定光院を参拝し日蓮大聖人のご修行時代を偲び、その後、三十番神の大比叡大明神・小比叡大明神が祭祀されている、日吉大社を参拝、立教開宗会の日程を終了した。

（藤井照源）

京都日蓮聖人門下青年会に　バレーボール部誕生

京都日蓮聖人門下青年会（嘉儀吉裕会長―日蓮本宗）にこの度バレーボール部が誕生し、五月二十三日設立試合が行われた。

六年前からスポーツを通じて門下青年の親睦を深める為に、藤井照源幹事（日蓮宗）が中心となって進められて来たが、この度、学生時代にバレーボールを含めたスポーツクラブの出身僧侶が集まり今回の設立となった。

藤井幹事が小学校ＰＴＡ会長時代に活躍した、地元小学校のママさんバレー・パパさんバレー、体育振興会バレーチームの協力を得て、今後体育館の会場や、対戦相手として運営していく事となった。

設立試合の当日、門下青年僧十名、ママさんバレーより十四名が結集し、四チームに分かれて試合した。ママさんチームの強さもさることながら、門下青年会もよく戦い好ゲームを展開した。

七五〇を迎えるにあたり、門下の青年僧が、スポーツを通じて親睦を深め、縁あるすべての人々に宗祖の心を広宣流布していければと願っている。

なお、メンバーは、赤塚高明（法華宗陣門流）嘉儀吉裕（日蓮本宗）藤井照源（日蓮宗）津村乗信（顕本法華宗）梅本光祥（日蓮宗）山本晃道（顕本法華宗）鈴木英文（日蓮宗）三木天道（日蓮宗）。今後、広く勧誘を進めて行く事となった。

（藤井照源）



バレーボール部設立試合

立教開宗七百五十年慶讃
日蓮宗新聞社記念事業

宗祖御説法絵像

重要文化財 本山妙法華寺蔵
復刻掛軸限定頒布

日蓮聖人画像で重文指定を受けているのは、本説法図と、千葉県中山淨光院の『水鏡の御影』の二点のみで、身延山の『波木井の御影』とともに古来より名高い画像です。この貴重な掛軸を、玉澤妙法華寺さまのご配慮により限定頒布いたします。

ご予約からお届けまで約一ヵ月かかります

復刻版所蔵録
立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として、各巻の復刻番号は、この復刻版所蔵録に登録し、丁重に保管いたします。

軸装裂地 外廻し 竹屋町唐草古代紬
中廻し 龍に日蓮宗橘
一文字 小花唐草
軸　先 水晶代用　透金軸
装丈／176cm×巾／72.8cm
軸寸／78cm
太巻二重箱 塗箱（カシュー塗）
12cm×12cm×85cm



ご予約・お問い合わせは
日蓮宗新聞社　〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL 03-3755-5271 ／ FAX 03-3753-7028

特別限定頒価 20万円
（送料550円・消費税別）

限定復刻350幅
エディション番号入

各派・教団 短信

本門法華宗

◘4月12日大本山妙蓮寺では、本山三大会の一つ、春の志霊法要、檀信徒志霊法要、永代供養法要を松本日望猊下御導師にて厳修された。◘本門法華宗学院では、6月24・25日、第九〇回教学講習会が開催された。於大本山妙蓮寺卯木講堂。◘本門法華宗学院では、宗門内局・本山・宗会の深い理解と賛同を得、「教学研究会（仮称）」の創設を決定した。同研究会は、宗門内の法器養成を目的として、行学二道にわたる修学、研究を通じて、自己の開発と、研鑽を目指すものである。宗内若手教師に広く、研究員を応募。◘本門法華宗学院、教学部は立正大学北川前肇教授による、『法華天台両宗勝劣抄』（四帖抄）の講議録第一巻を発刊した。◘本門法華宗では、平成14年に宗祖日蓮聖人立教開宗七五〇年の聖年と本門法華宗復元立宗五十年を迎えるのにあたり、『本門法華宗復元立宗五十年の歩み』（宗内版）を発刊し、今後の宗門のあり方を考える上での参考にするために、宗内に資料等の収集を要請した。◘立教開宗七五〇年奉讃会では、第二回目のポスターを各寺院・教会に配布した。

（木村光正）

法華宗本門流

◘本年度各大本山の千部会法要も恙なく虔修。沼津・光長寺―4月5～15日、茂原・鷲山寺―4月7～9日、京都・本能寺―5月5～7日、尼崎・本興寺―5月6～8日。◘第51回定期宗会は5月19・20日、ホテルベルクラシック東京において開催。予決算の承認可決、開宗七五〇奉讃事業として宗務院新庁舎の建設・「法華宗全書」の刊行等を議定して無事閉会。尚、平成11年度全国宗務所長会は5月26～27日開催（同会場）。◘「法華宗全書」第一巻は、日隆聖人著『法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）』。主任大平宏龍学林教授はじめ興隆学林教師陣等の編著により本年4月29日の開宗会を期して発行。定価1500円。申込は法華宗宗務院（☎03・3910・4755）まで。◘「法華宗全書」の刊行奉告法要および祝賀会が、5月7日尼崎・大本山本興寺において開催。◘本年度の教学講習会は次の五会場。北海道―8月27～29日（釧路・妙本寺）、東海―10月13～15日（沼津・光長寺）、北陸―9月28～30日（ガーデンホテル金沢）、淡路―10月21～23日（津名ハイツ）、九州―10月20～22日（北九州・本光寺）。◘第13回法華宗教学研究発表大会は、10月26日、京都・大本山本能寺において開催予定。

（中道善信）

本門佛立宗

◘平成14年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七五〇年報恩ご奉公の柱である（一人ひとり七万五千人教化の必成）を目指して「御講有のご慈折をいただく・本山口唱会」の第一回目が、去る3月12日に行われた。予想以上の盛り上がりを見せ、熱烈な口唱が捧げられた。◘佛立研究所と佛立教育専門学校共催による第八回研究発表会が、去る3月8日、宗務本庁で開催された。計九師・氏の研究発表は研究所・専門学校が年一回刊行する「紀要」と「学報」に掲載されることになる。◘宗立・佛立教育専門学校の平成11年度の入学式が、去る4月9日当校三階御宝前で厳かに挙行された。この日十五名の新発意が入学をした。◘本山・宥清寺の門祖会が去る4月18日に計四座奉修された。総計六三〇〇名を超える参詣者で賑わった。第四座は講尊梶本日裔上人尊師のもと東京乗泉寺が昨年11月25日に渋谷本院への復帰を果たしたことから御礼参拝の一座が奉修された。一座終了後、御講有・井上日慶上人より「本日、本山の御宝前にお参詣して、御懺悔が叶ったと言える」と、その心中を抜瀝され、涙ながらに喜びを語られた。

（前島照力）

日蓮宗

◘新たな年の幕開けを祝う「御用始めの儀」が1月11日、東京・池上の日蓮宗宗務院で行われ、全国から本山貫首、宗会議員、宗務所長をはじめ、約二百人が集まり、新春の訪れを祝うとともに、法華経・お題目の一層の広がりと日蓮宗の興隆を誓った。◘日蓮宗国際協力募金で進められているラオスの小学校建設は十校目がビエンチャン県ビエンカム市ティンニュン村に完成、これを記念し日蓮宗はラオス訪問使節団を結成し五十四人がラオスに渡った。1月20日、小学校の落成式に出席、現地の子供たちや地元の人々とともに完成を祝い、交流を深めた。◘日蓮宗総本山・身延山久遠寺の岩間日勇法主猊下（91）が法主を引退され、現総務の藤井日光師（90）が第九十一世法主に選任された。久遠寺の規則では、住職である法主は終身給仕と定められており引退は異例だが、在山給仕が果たせないとの岩間日勇法主猊下の強い決意をうけての結果、引退が決まった。◘平成14年の「立教開宗七百五十年」まで三年となり、慶讃事業の最も大きな柱となる「清澄寺研修会館（千葉県安房郡）」の建設工事が完遂し、5月27日に落慶式が行われた。研修会館は宗門行事の研修会や講習会、研究会などに使われるが、さらに5月から平成14年まで実施される「立教開宗七百五十年慶讃清澄寺団体参拝」のための研修や宿泊の施設として活用される。◘平成11年度日蓮宗全国檀信徒協議会（桜内義雄会長）の第46回総会が5月13日、京都市・大本山妙顕寺（山田一光貫首）で行われ、代表者ら63人が出席。議題では、「総弘通運動への取り組みと支援」「七百五十慶讃事業支援」等の活発な質問や意見が出された。

（金子和正）

国柱会

◘全国各地方連合局で研修会・講習会を開催。5月23日、中央連合協議会主催、日蓮主義講習会で田中暉丘会長より「これからの国柱会」と題し講演。◘3月21日、妙宗大霊廟春季彼岸開顕大供養会の後、講演会、大橋冨士子講師より「みんなと一緒にしあわせになるお題目」と題し講演。◘4月4日、桜花爛漫の申孝園、大霊廟前庭で桜まつり開催。◘4月22日、九段会館で開催の「昭和の日」を実現しよう国民集会に中央の会員参加。◘4月28～29日、第六十九回身延登詣団、田中暉丘団長にて実施。大祖廟参拝、立正会慶讃式典、思親閣登詣。登詣団は昭和6年より「祖廟中心・宗門統一」をスローガンに毎年実施されている。◘6月11日～14日、仏教伝来謝恩碑参拝国柱会訪韓団、田中暉丘団長にて実施。今年は特に、韓日融和に尽された李方子妃殿下陵墓参拝、妃殿下設立の福祉施設「慈恵学校」訪問など親善交流がおこなわれた。明治36年、田中智学先生は、日本の仏教が今日あるは、昔、百済国聖明王が仏教を伝来せしめられたお陰である「百済の恩義千載に忘るべからず」と知恩報恩の実践を唱導。その唱導を体して国柱会が中心となって日本仏教徒の総意を集め、昭和47年、百済の旧都扶余に「仏教伝来謝恩碑」が建立された。訪韓団は以後、二年ごとに実施されている。

（秋場善彌）

京都門下連合会

◘平成11年度会長―本山本法寺貫首金山日龍猊下、副会長―大本山本能寺貫首赤田日崇猊下、理事長―日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師、副理事長―大本山本能寺執事長桃井晋城師に決定する。◘1月26日理事会。於本能寺会館、平成11年度役員確認・平成10年度決算報告・平成11年度予算案・平成11年度総会の件・平成11年度降誕会の件。◘2月16日総会・降誕会。於本山立本寺。平成11年度役員紹介・平成10年度会務報告承認の件・平成10年度決算承認の件・平成11年度会務事業計画の件・平成11年度予算案承認の件。降誕会―大導師は本山本法寺貫首金山日龍猊下、法話は本山本禅寺貫首福井日進猊下、おうどんの供養あり。◘3月9日理事会。於日蓮宗京都第一部宗務所、開宗会の件・夏季大学の件。◘4月24日開宗会。法要―比叡山大講堂に於いて奉行、大導師は本山本法寺貫首金山日龍猊下、法話は本山本禅寺貫首福井日進猊下。法要後、横川定光院を参詣、日吉大社を参拝する。◘6月14日理事会。於日蓮宗京都第一部宗務所、夏季大学の件・お会式の件。◘尚、今後の予定として8月24日本能寺会館において夏季大学、10月3日本山妙覚寺に於いて御会式がある。

（藤井照源）

顕本法華宗

◘4月21日、総本山妙満寺に於いて「日蓮大聖人立教開宗七百五十奉行委員会」が開催された。新たに組織された総務・法要・布教・参拝の各小委員会に分かれての初会合。◘4月27日、東京品川、天妙國寺を会場に全国所長会議開催。来年度の教区再編成に伴う諸事項等が話し合われた。◘5月8日～9日、総本山妙満寺において春季大法要厳修。宗祖開祖報恩法要・全国檀信徒大施餓鬼法要他六座厳修。二代目高橋竹山女史のコンサート等、晴天の下荘厳且つ盛況な大法要であった。◘6月29日、総本山妙満寺に於いて「立教開宗七百五十奉行委員会」開催。◘7月27日～30日、青少年錬成会。主に小学校高学年から中・高校生を対象に総本山妙満寺を会場に開催。お勤め、唱題行から映画村見学、キャンプファイヤーまでバラエティーに富んだ内容。宗門内外から幅広く募集。

（多門顕正）

日蓮本宗

◘2月6日・7日の両日、第二祖日興上人御正当御報恩法要に際して、本宗主催による一般教師を対象とした教師研修会が本山で開催された。研修会には二十一名の参加が得られ、御正当法要が奉修された後、本宗教義に関する講義などを受講し、厳寒の最中二日間に亘る日程を終了した。◘2月25日、第七十回定期宗会が開催され、機構改革特別委員会を設置することなどが決議された。◘4月1日、本宗選挙改革制度によって初めて宗務総長に就任された永田智秋師（出雲市松久寺住職）は、健康上の理由により3月末日をもって退任、その後任として高見正弘師（出雲市慈眼寺住職）が就任され、宗門のより発展のため意欲的に機構改革を推進していくことになった。◘4月9日、大阪日蓮門下懇話会百八十七名が本山を参詣し、本堂において法味言上のあと岩崎廣義教学部長（丹後長福寺住職）より本山の開創由来や略史についての説明があり、その後境内を約三十分ほど見学して本山を後にした。◘5月8日、御開山日尊上人の第六百五十五年の御報恩法要が奉修された。この法要には全国から五十四名の僧侶が給仕のため上山し、また一般檀信徒八十九名の参拝を得て盛大裡のうちに成満した。

（柳下正則）

法華宗真門流

◘2月17日教区所長会議・布教師会を開催。本年度各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。◘3月25日より三日間、寺院子弟の講習会が開催された。◘4月8日より27日まで、真門学林（春季）が開講。◘4月11日より三日間、総本山本隆寺千部会厳修される。◘5月23日～26日第一教区第19回『檀信徒の集い』佐渡報恩の旅を実施。◘第二教区四国方面合掌の旅を5月25日・26日に実施。6月15日～18日第8期布教師養成所が開催された。◘5月28日総本山本隆寺貫首推戴会が開催され、次期貫首に兵庫県姫路市常住寺住職吉田研宏上人が推戴された。◘6月13日福井県小浜市本山本境寺第三十四世に谷川日康上人が入山する。◘6月29日第15回真門教学講習会が開催され『第一教区寺院について』と題して真枝日世貫首の講義、『立教開宗750年を迎えて』と題して、宗学研究所長、林日圓猊下の講義が行われた。◘6月27日第二教区檀信徒研究会が開催された。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘2月3日、総本山本成寺に於いて「節分鬼踊り追儺式」が貫首竹嶋日香猊下御導師のもと厳修された。◘3月12・13日、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室に於いて、第九十五次宗会が開催された。◘4月18・19日、平成十一年度三宗統合協議会が、法華宗（陣門流）当番宗のもと、総本山本成寺に於いて開催された。◘5月12日、伊豆・霊跡別院蓮着寺に於いて、「祖岩法難会」が厳修された。当日は晴天に恵まれ、全国寺院よりの檀信徒が参拝した。◘5月13日より6月21日までの四十日間、総本山本成寺に於いて、「法華宗学林」開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。◘5月28日より30日までの三日間、総本山本成寺に於いて、「祠堂法要」が厳修された。全国寺院よりの団参で賑わった。◘6月18・19日、三宗統合協議会統合学院学生講座が、法華宗（陣門流）当番のもと、講師に法華宗（陣門流）教化部長・門谷東生先生をお迎えして、東京巣鴨の法華宗宗務院会議室において開催された。

（松吉慶憲）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

＊当たり前のことではあるが、一九九九年7の月も難なく過ぎた。そして世紀末へのカウントダウンを告げる電光表示も各地で見られる。本来、仏教には法滅思想はあっても、キリスト教にいうような終末思想は存在しない。私どもは日蓮聖人の「時」に対する御教えに従い、立正安国を目指し奮起すべき〝とき〟なのではなかろうか。＊二〇〇二年、サッカーW杯の開催日程が発表され浮かれてはいませんか？この年こそ宗祖大士開宗七五〇年の御聖年なるぞ。奉迎・慶讃の気持ちを更に引き締めて。＊教義・信条の異なるものが、宗祖の〈異体同心〉の御心のみを掲げて、協力・団結しようとしても成就しないのは当然である。先師の御教えを曲げてまで、強いものに頭を下げることはない、長いものに巻かれることもない。仲良しクラブだけならやめてしまえという先師の声が聞こえてくる。法華経の弘法者よ、日蓮聖人の信奉者たちよ、今一度足もとを見つめ直さねばならないのではなかろうか。（丈）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成12年2月16日
第21号

立教開宗七百五十年を前にして
門下連合会の結束と発展

リレー提言⑪

京都日蓮聖人門下連合会理事長　杉若恵隆（平成十一年度）



日蓮聖人門下連合会結成四十周年の歴史は、今時その門下の一役を背負うのに責任の重みを感ずる一人である。それだけに、結成にいたるまでの門下連合会各宗各派の先師先聖の御苦労と輝かしき四十年の歩みをここに実現したものは、偉大な力の結集として頭下がる思いである。今や宗祖日蓮聖人立教開宗七百五十年という嘉辰を前に一層の門下連合会の存在は、その門連たるゆえんから格別重要であり各宗各派のその意義を生かすべく御推進されていることであり、各宗各派の歩みには夫々大同小異があろうと、わが門下連合会を軸に、宗祖、門祖、縁祖の流れを汲むものとして意義教義の深淵を知り、その淵源を極めて先師先聖の行履と息づかいを体解して、この上もない感動に触れ合うことに震感するものである。一人一人門下のこのような体得は、大きな力となり、更なる各宗各派の力となり、発展につながるのではなかろうかと思う。

各宗各派の集まりである門下連合会の力ともなり、日蓮聖人の理想を実現することになろうと思う。各宗各派の理想の実現は、門下連合会の理想の実現とも云えることであるだけに、門下連合会においては大いに理想実現のためにも、百論百出の多角多面の御高見を拝聴する場として期待しているものである。十分熱論し門連の通念は、申し上げるまでもなく異口同音、南無妙法蓮華経の確固たるお題目の広宣流布の大願にあるのである。お題目は氷海凍土を進む氷解船の如く、また、あいまいな日本人に独得な宗教人口の偏りに突きすすむが如く、また闇の中にさまようものの依りどころとする灯火の如く、濕木より火出ずる如き強いものを現代は求めているのである。理想実現は行学ともに昼夜精進することにある。日蓮聖人の境涯を十分咀嚼し、不惜身命にしてその境涯に少しでも到ろうとする心がけをしなければならない。南無妙法蓮華経の玄題旗の下に、門下連合会各宗各派「一に帰す」という根幹は、共通の課題であり共通の悦びでなくてはならないと思う。小衲は日蓮宗僧侶として、各宗各派の門下連合会席上において、各理事、各聖の御高見、高邁な識見、理念の交換にいつも感動し、各宗各派の夫々の立場、事情を超えての交わりは一つ一つ門下連合会の成果として歓迎するものであり感謝しているものである。門下連合会各宗各派は相互の縁情と各宗興隆の双方の折り合いと法華経を所依とする最大の機関であり、また相互に提携しなければならぬことは、現代では必須欠くべからざるものと痛感するものである。今日までの日蓮聖人門下連合会の結成は、それは組織・運営・事業において並々ならぬことであったことを忘れてはならない。既に門下連合会各宗各派の教義、伝統と宗風は、相互理解のもとに努力協調して、祖意祖願の実現に苦慮の上、今日の門下連合会の存在があるのである。

斯くして全国門下連合結成四十年、京都門下連合会五十年の基盤は、今日まで夫々の歴史的年次をひもといて歴然たるものである。

例年かわることなく門下連合会の運営に就いては、定例理事会・総会・京都理事会との懇談会等々、確実に開催され門連の行事をすすめられ、提案議事に就いては真剣にとり組まれ、慎重審議にして、厳粛に論議されていることも、まことに堅実である。門下連合会があるならばこそ、大きく慈悲光導の祖意祖風に浴する感がいたすものである。流石、日蓮大聖人の在世上行再証の覚醒は吾らその教風にたすけられ各宗各派に法脈相承されていると思うこと屢々である。一同にその思いは将に水魚のおもいにして親懇の情深まりて今や、和気あいあいとして門連の歩みも「天地晴明」の聖訓を体解するところである。門下連合会十一教団の相互研鑽は、益々和みの中に厳しい現実を踏まえて、自尊毀他、或は論議の消長曲折、または各宗派的な独自性の強調もなく異体同心の御聖文の厳戒を身にして、勇猛心をもって推進をはからねばなりません。この門下連合会こそ日蓮大聖人の膝下として「異体異心の者これあらば例せば……」の聖訓は身も心も片時も忘れてはならぬことである。門下連合会は、大いに各門連の各聖の注目するところであり、各宗各派の身内的事情もさることながら、大きな門連下の指導理念を相互に研鑽に研鑽を重ね、法華経を唯一の依所とする日蓮教団の世に結束して積極的に布教伝道に努めなければならぬ時であります。一般世間は、政治・経済・教育に失望し、混迷にあるとき、この法華経を信行するもの唯一の答えを、世のニーズに応えていかねばならないことは、熟知のことである。各宗、各派の事業を他山の賑わいとみなさず、門下連合会のすぐれた指導内容を希求し期待するところ大であると思う。

門下連合会の事業も過去四十年の歩みの中に積極的に遺憾なく克服され、数々の成果を挙げられてきました。例えば、「国柱会提案、立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」前身「日蓮聖人門下懇談会から日蓮聖人門下連合会に改組」「日蓮聖人伊豆法難七百年記念事業」「創価学会対策」「全日仏への抗議に対する回答解決」従って「日蓮大聖人門下連合会大講演会於日比谷公会堂に成功裡に開催」。「日蓮聖人遠忌事業」「日蓮聖人展、聖伝劇、オラトリオ日蓮聖人の制作、青年の船、サイパン、グアム島慰霊巡拝」。「日蓮聖人門下連合会結成二十五周年記念大会先師追悼法要」「『門連だより』発刊」「日蓮聖人門下連合会主宰叡山開創一二〇〇年記念法要執行」「大阪日蓮聖人門下懇話会・北海道門下連合会」「門下連合会結成二十五周年記念大会」「三十年のあゆみ」の刊行。

上述した如く、過去門下連合会結成以来、実に着々と運営・事業・行事等この礎ともなる精神的、門連的財産ともいえる史実に敬服せざるを得ず、頭の下る思いである。

と同時に今、年々継続議題である門下連合会、立教開宗七百五十年記念事業も斯く上の実績からして継続課題の「大衆法華文化展」の開催の実現は不可能ではないと信ずるものである。

平成十四年には立教開宗記念事業の門連の目ざすものは、各聖の意見も十分発表されているところでありますが、何かぎくしゃくしているものは尚早に解消し、積極的に同調できるものは同調して、仏教教団の中の日蓮聖人門下連合会の宗風宣揚に御協力願いたいものである。

蓮から連に！
「蓮華の水に在るが如し」

さて、わが京都日蓮聖人門下連合会の実態と京都門下連合会各宗各派の結束、また各派貫首猊下各山各聖の門連の活動、行事、運営に就いて御理解深く積極的御指導、御協力を賜わっていることは大きな要因である。京門連が円満に協調しあえるも十六本山各末寺、旧縁末挙げて京都門下連合会の各事業「宗祖日蓮聖人降誕会」「立教開宗会」「夏期大学」「宗祖入滅報恩会式」の四大行事の執行奉修につとめる門下各聖の出仕奉仕に積極的な活動も大いによろこばしきことである。しかしながら、各山各寺において必ずしも容易な場合だけでなく、種々の事情を克服し、一山の一ケ寺の蓮門の名誉と京洛にそびゆる法華の大堂の歴史を背負う現今の状勢に毅然として存続し、寺運にかけ、わが門下連合の絆と契りは強く、「苦を労わり、辛さを抱き」ながらも法燈消ゆることなく、仏日増々輝き、都塵を払い、都心に響く大太鼓は、デジタルな時計以上に日々心に刻まれつづけられてゆくのである。市民の心にお題目の鼓動すべてをはたらかしめているのである。各会員諸師の為宗為法の賜である。

より聖祖のもとに、
より連なる合掌へ

わが京都門下連合会参加寺院十六本山はじめ、百八十ケ寺の多数をいただき、会長・理事長・理事・参与・事務局を擁し、日蓮宗・法華宗の各教師各聖挙げて、隔年輪番で運営をはかり、推進しているのであり、まさに相互事情を理解し、協力し合いうるわしき団体であり、不軽の精神と敬い合い健全なさわやかさが京都門下連合会の印象であろう。

外には、トルコ及び台湾の相続く大地震大惨事と被災者への救済に本会の活動として、救援の提唱に早速その旨を関係機関を通じて御見舞をしたのである。また市内、身体不自由者授産工場の働らく上に十分でなき人達へのはげましも続けている。

幸にして各御本山の貫首猊下の御染筆の色紙も、門連行事、参詣者への抽せんで手にされる信者の歓喜法悦の様、光景も京都門下連合会の彩るところである。各宗各派の信者檀徒のあつまりは、まさに「一華五葉に開く」感である。益々の檀信徒の京門連の行事に参加する数の多きをみるのである。仏祖宗派、仏意祖意はわが出家そのもの自身の命々脈々たるものを檀信徒教化していく宗門連的使命を自覚し、未来際にいたる光りつづけていかねばならない。

夢・三万六千五百日

ときに、「二〇〇〇年」と謂う。あくまでも西暦であるが、仏滅二九五〇年。皇紀二六六〇年、祖滅七一九年、立教開宗七四八年、わが齢七〇年。われらの五官六感を通じて、やたらに数字を刻み入れられる。「慶祝二〇〇〇年」も、何とも止めることなくつづく。この年この積年、宿願は何であったか、静観するときを与えられた。前記いたした、「夢・三万六千五百日」は、たった百年間のことである。おもえば明治三十四年より平成十二年の間である。この過ぎ去りし百年間に何が起り、何が生じ、何が変わり、何を与えられたか、考えたり想うと恐ろしきことのみ残るこの近代の反省とざんげに表白する。常に娑婆即寂光土、浄仏国顕現のわが法華経門徒の立正安国の誓いも、空しさを覚ゆるものは小衲のみだろ

（2面へつづく）

従地湧出

◆一九九九年七の月、恐怖の大王が舞い降りることもなく、めでたく西暦二〇〇〇年が明けた。平成十一年十一月十一日には、語呂合わせの乗車券や、郵便消印目当てに駅や郵便局にマニアが押し寄せた。そして西暦二〇〇〇年を「ミレニアム」と称して、マスコミを通じて商業活動も盛んである。◆古より人類は数字を霊的なものと考え、宗教の中にも取り込んできた。東洋では「四」を「死」と読み、西洋ではイエスの命日である「十三」を忌み嫌う。「八」は末広がりで縁起がいい。その反面「四苦八苦」と言う。「七」はラッキーセブンだが、「七転八倒」「七転び八起き」とも言う。「三」は仏教でも「三宝」「三界」「一念三千」など、大変重要な語句を意味する数だ。◆来る平成十四年の宗祖日蓮大聖人立教開宗七五〇年を西暦二〇〇〇年同様のお祭り騒ぎで終わらせてしまってはいけない。昭和五十六年の宗祖七〇〇遠忌の「青年の船」「日蓮聖人劇」「オラトリオ」等の成功は、宗派を超えた青年層を中心にした情熱の結集がなければ語ることはできない。「燃え立つ計り思えども遠ざかりぬれば捨る心あり水の如くと申はいつも退せず信ずるなり」（上野殿御返事）立教開宗七五〇年は、門下連合会を結成した意義を、もう一度再確認する機会にしなければならない。◆「一致・勝劣」「摂受・折伏」「祖師信仰の是非」…。一口に日蓮聖人門下と言っても、各宗の教義は様々。それぞれの歴史の中で培ってきたものがある。我々の共通項はただ一つ。「日蓮が慈悲広大ならば南無妙法蓮華経は万年の外未来迄も流布るべし」（報恩抄）日蓮聖人の慈悲のお心にすがり、お題目を信じ持ち広めること。「異體同心なれば萬事を成ず」（異體同心事）もう一度七〇〇遠忌の原点に返り、青年層の結束と行動を。

（顕）

（1面よりつづく）

うか。

明治三十四年より今日の百年。否、明治のはじめ大政奉還より国体、近代化への急発進は、世界に雄飛し、発展もあり、科学・文明・教育・経済も事態が変遷したことは、この百年の間は老若男女、現存の少なくとも人口五〇パーセント以上の人々は記憶にあり、忘れられないおもいの人が多いことだろう。

門下連合会の歴史は、三十年四十年五十年と経てまいる中で、わが門連の流れは、不動に不退転の歩みに悔いを残してはならない。

過去百年間三万六千五百日の間、地球上、洋の東西にかかわらず、戦災・人災・地球の温暖化にいたる生きとし生けるもの、恐怖・不安は絶ゆることがない。思想信条の或は世の世相の生ずる進歩も発展もあるかもわからない。過去をひろい出すと際限ないが、百年の実体験の貧困と悲惨は、戦争によるものであるとすれば、わが門下連合は宗祖日蓮聖人の祖願を未来今日からの百年を如何に不安と恐怖をとりはらい、利益、安泰をはからう大慈悲を世間衆生にはたらきかけねばならぬことと勇猛心をもって化導しなければならない事態にいたっていることを、まず殉教的な心がまえをもたねばならない。今、法華経の門流の信者のみならず、末信徒の渇望するところである。世の動き息づかい、むせぶ、もがき苦しみ、あせりを察知する深い智恵の光りを与えなければならない。過去百年の暗い歴史の貴重な資料を糧に、立教開宗七百五十年の嘉辰を前に未来百年は、立正安国論をひるがえし、真に生かしていかねばならないのが、立教開宗の意義と申すべく強い誓願を樹ち立てねばならない。またお題目は日蓮聖人十二年の「横川定光院から清澄へ」の歴史的事実を凝視し、未来百年の大計を真剣に考えていかねばならぬと思うのである。

清澄寺改宗五十周年記念法要

日蓮宗では、去年十月二十八日に千葉県安房郡天津小湊町の大本山清澄寺に於きまして、真言宗より、日蓮宗への改宗五十周年を祝す記念宗門法要を奉行致しました。

清澄寺は今を去る七百六十二年前に日蓮大聖人が出家得度され、更に御年三十二歳の建長五年四月二十八日に力強く立教開宗された霊跡です。大聖人が道善坊に師事され勉学に励まれた当時は、天台宗の寺院でありましたが、安房館山の出身であり京都智積院の学僧であります仲恩房頼勢上人が徳川家康より朱印五百石、格式十万石を与えられて清澄寺に晋山して以来法脈を真言宗と定め、以降お題目の法鼓は清澄寺の境内に一歩たりとも入ることを許されぬまま近年に至りました。



大本山清澄寺

その後明治維新、廃仏毀釈の嵐の中、清澄寺の権威は次第に薄れ、経済的にも厳しくなる中で、大正九年一月、第三十世玉瀧義秀僧正が法燈を継承されるや「日蓮聖人は宗教界の大偉人、宗派の如何を問はず尊崇すべき尊者」として寺門を開放し、特に四月二十七日、二十八日と十月二十七日、二十八日は日蓮宗に全山が開放され、四月は立教開宗会、十月は宗祖御会式として日蓮宗管長御親修の大法要が旭ヶ森を中心として奉行されることになりました。

この日蓮宗に対する全山開放に時の河合日辰管長は多いに感激されて旭ヶ森に日蓮大聖人の銅像建立を発願され、これに各大本山の貫首をはじめとして、東郷元帥、徳川家達といった名士が賛同協力され、大正十二年八月に建立円成致しました。

爾後全国より本宗檀信徒がこの霊跡に参詣され清澄寺は活況を呈することとなったわけであります。然し乍ら、時代が先の大戦へと向かう中で清澄寺の参詣者も減少し、所有山林の徴用や田畑の開放等により、一山の経営が危機に瀕して行きました。その中で玉瀧義秀僧正も御遷化され、昭和二十三年一月に岩村義運僧正が第三十一世の法燈を継承されたのであります。岩村住職のもと、檀徒中より清澄寺の経営危機を憂い、その寺門の興隆について真剣に協議する者がありました。その結果、郷土の偉人である日蓮大聖人を晴れて清澄寺にお迎えすること、即ち日蓮宗に「改宗」すること以外に途はないと心に決した当時の総代田中一郎氏をはじめとした檀徒の方々は、岩村住職にその胸中を披瀝し、それを受けた岩村住職は先師玉瀧義秀僧正の遺志をも思い合せて、改宗の英断を下され、昭和二十四年二月十六日、ついに改宗の大事が成就されたのです。

然しその陰には自らその機縁を作り、身を挺して艱難に耐えた幾多の人々がいたことも忘れてはならない史実であります。平成十四年には、日蓮大聖人が旭ヶ森で初めてお題目を唱え、高らかに立教開宗を宣言されてから七百五十年の佳節をお迎え致します。私達は「お題目から、はじまる」を合言葉に、日蓮大聖人のお心を自らの心として、一天四海、皆帰妙法の祖願達成に精進する誓いを新たにすることが肝要です。平成十四年の佳節に向けて門連加盟各団体のご参詣をお待ち申し上げます。

法華宗・真門流管長に就任して

総本山本隆寺貫首　吉田　日襄



去る九月十五日総本山本隆寺第百二世として、法燈を継承させて頂きました。

晋山式当日には、京都十六本山の御貫首方陣門土屋総長、及び随行の各聖に御来駕を忝けなくし、諸事万端滞りなく晋山を終えました事、誠に有難く深く感謝いたします。

今迄歩んで参りました宗門行政の道だけでなく、信仰の象徴としての立場で、教化善導して行くことに就きまして、つくづくと浅学不徳を感じております。

然し、私達には、法華経と言う最上の教えがあり、お題目という最上の良薬が授けられているのだ、と言う信念のもとに精進努力を重ねて参ります。

高祖日蓮大聖人がお題目によって宗門を開かれてより、やがて七百五十年、立教開宗七五〇と銘打って、門下連合会加盟の各宗派が、それぞれ計画立案され、盛大にお慶びの準備を進めておられます事は、本当に欣ばしく思います。

私達の宗門も幾つかの計画を立て、それぞれの部門で鋭意検討を重ねて準備を推進しております。

宗門としては小さなものですが、小さければ小さい乍らに、まとまった形のものを仕上げて行きたいと思っています。慶讃法要の日取も平成十四年四月五日、六日、七日の三日間と決定しております。

慶讃会役員、委員の皆様方に御尽力をお願いしている次第です。

最後に成りましたが、門下連合会の緊密な連携によって、益々の発展を祈って筆を置きます。

日蓮宗第四十九代管長に

藤井日光猊下



（略歴　教化部長、教学部長、総務部長、宗務総長二期、布教師養成所所長等を歴任）

第四十八代日蓮宗管長　田中日淳猊下（八三）の管長職任期満了（十二月二十日）に伴い開催された管長推戴委員会は、次期管長に藤井日光身延山久遠寺法主猊下を全員一致で推戴した。

推戴の報告を受けた身延山久遠寺は、参与会を開き承諾、管長就任報告式が十二月二十一日、東京池上の宗務院で盛大に開かれた。

藤井法主猊下は、昨年二月身延山久遠寺第九十一世法主に選任され、五月にご入山式が盛大に行われた。管長就任期は四年。来る平成十四年に迎える立教開宗七五〇年に向けての活躍に期待が寄せられている。

「立教開宗750年」

信頼の輪をつなぎます。

日本旅行は、一人一人の夢をカタチにするために、夢を実現するための新しい旅をお届けします。旅づくりの経験によって培われた企画・発想力を生かし、21世紀に向けて積極的に取り組んでまいります。

日本旅行

祈
立教開宗七五〇年
奉讃円成
日蓮聖人門下連合会

（平成十一年十二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 藤井 日光
宗務総長 永井 祥文
宗務副総長 渡辺 一之
総合企画部長 加賀美泰全
庶務部長 小松 浄慎
財務部長 篠原 智高
教務部長 二宮 將泰

護法伝道部長 上田 尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 田澤 元泰
現代宗教研究所長 石川 浩徳
国際開教室長 中條 令紹
人権対策室長 前田 幸廣
参与 堀江 宏正
参与 浅井 玄裕
日蓮宗新聞社社長 垣本 孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒170-0004
東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 片山 日楽
宗務総長 原井 慈鳳
教化部長 圓成 淳龍
教学部長 桃井 晋城
財務部長 坂巻 顕導
庶務部長 矢吹 慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永 日晴
宗務総長 中山 昭夫
宗務次長 山本 学人
財務部長 白井 謙光
教務部長 奥村 智学
社会部長 鈴木 無着

布教部長 阿曽 久成
庶務部長 三坂 岳応
主事 山本 晃道
多門 顕正
津村 乗信
小松 正学

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋 日香
宗務総長 土屋 善敬
総務部長 都築 哲信
教学部長 佐古 弘文
教化部長 門谷 東生
財務部長 八木 恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上 日慶
講尊 梶本 日裔
宗務総長 小山 日誠
宗務副総長 笹田 日昌
宗務副総長 佐藤 政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀 日有
宗務総長 高見 正弘
総務部長 佐藤 哲夫
財務部長 岩崎 隆義
法務部長 教学部長 岩崎 廣義

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 吉田 日襄
宗務総長 斎藤 隆彦
総務部長 上田 浩岳
教学部長 辻本 寛孝
教化部長 水野 智啓
社会部長 木村 完祥
財務部長 堀 智泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

管長 松本 日望
宗務総長 高遶 信幸
宗務部長 信隆 允忠
財務部長 増田 隆雄
総務部長 藤井 宏長
庶務部長 土畑 信教
教務部長 音羽 隆全
門連常任理事 持地 光学

宗教法人 国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中 暉丘
理事長 大橋 邦正
門連理事 秋場 善彌
門連理事 淀野 寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376
京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長 松本 日望
副会長 金山 日龍
理事長 飯田 信栄
副理事長 杉若 恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

首座 塙 行幸
老師 石山 定光
老師 吉田 行典
老師 酒迎 天信
老師 今井 行康
老師 西堀 行施
老師 二宮 和嘉
事務局長 今井 行順



祈・立教開宗七五〇年　奉讃円成

（平成11年12月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四
法主 藤井日光
総務 伊藤通明
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三一一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 田中日淳
執事長 市川智康
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 吉永日晴
総務 大川定信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 津村乗信
執事 小松正学
執事 林孝瑞

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三一)〇〇〇八
貫首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫首 吉田日襄
執事長 笹木研秀
執事 矢放真文
執事 本多信正

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同

日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 高見正弘
執事 岩崎廣義

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六一〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職二十二世購有 井上日慶
事務局長 伊藤隆之

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七
貫首 本間日諄
執事長 井出教道

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
FAX 〇七五(七五一)一〇〇四
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
同 安藤信行
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇(九四)〇五二五
別当 杉山日慎

立教開宗七五〇年慶讃団参奉行

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七(三三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏

日蓮宗本山
誕生寺
〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一
貫首 石川日命

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
山主 駒野日法

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七
FAX 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定

門連時報

全門連京都理事会・懇談会
日蓮宗本山本満寺で開催

平成十一年十一月二十四日（水）、日蓮宗本山本満寺（伊丹日章貫首）で「全門連京都理事会・懇談会」が開催され、各本山貫首、門連理事、五十名が参加した。

午前十一時、「全門連常任理事会」が開催され、毎年春の身延祖廟参詣・理事会の参加費を二万五千円から三万円に増額することなどが決議された。

午後一時、「法味言上・先師法要」、引き続き本堂前にて記念写真。二時から伊丹日章猊下の講演「本満寺の沿革について」を拝聴した。開山上人以来の近衛家との関係を中心に、山中鹿之助や鴻池家の信仰、さらに中世日蓮宗の動向がよく分かるものであった。

引き続き、二時半から「理事会・懇談会」。生駒幹事司会のもとに全員の自己紹介、永井祥文理事長を座長に議事を進行した。まず生駒師より全門連上半期事業の経過報告。杉若恵隆（日蓮宗）京門連理事長による「京都門下連合会」の活動報告。山下通雄師（本門法華宗）による「大阪日蓮聖人門下懇話会」の行事報告。

続いて懸案である立教開宗七百五十年慶讃事業としての「日蓮聖人門下　法華文化展（仮称）」について討議されたが、依然進歩が見られない。その上、国立博物館の「財団法人化」の問題が提起された。それによると、文化事業なら赤字でも開催可能とした事前の予想に反し、財団法人になれば国庫の補助が減るため、ますます「客の呼べる」「営利的」な展示物が要求されることとなろう。全門連側が信仰者の立場で紹介したい文物とは相容れないものとなる可能性が高くなった。そのため「準備委員会」と国立博物館側の担当者との「面談」がぜひとも必要であるとの見解に達した。開催するにも、中止するにもぎりぎりのタイミングであるだけにその動向が注目される。

理事会終了後、第二会場の「竹茂楼」に移動し、伝統芸能の京舞を鑑賞した後、会員相互の親睦を深めた。



日蓮聖人門下連合会京都理事会（平成11年11月24日、於：本満寺）


理事会・懇談会

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長）は、八月二十四日（火）、本能寺文化会館で、『第三十六回夏季大学』を開催した（京都門下本山会協賛）。参加者は百二十余名。テーマは「二十一世紀に向けての法華信仰の展開　日蓮聖人と共に語る」。十時開講式、十時半から第一講。講師は本山頂妙寺貫首・永田恵遠猊下。講題は「日蓮聖人の心」。この日の基調講演として、「三大誓願・立正安国」という、「世界全体に対して責任感を持つ生き方の典型」としての日蓮聖人像を提示された。

昼食をはさんで、十二時半から第二講。講師は立正大学経済学部教授の福岡克也先生。講題は「地球環境の再生と仏教の役割」。「仏教の教えとそれに基づいた生活＝『正命』は、もともと非常に『エコロジカル』であること。現在の、資源の浪費を前提とした物質文明の対局にある思想であること。さらには劣化した地球環境の『再生』に貢献する思想でもあること。それが『国土成仏』につながる」と説明された。

第三講、講師はニュースキャスター・仏教大学講師の山口進先生。講題は「信仰・説得・話し方あれこれ」、講師は長年、巧みな話術を以て報道に携わって来られた。それを信仰者の場合は説教に応用してもらえればうれしいとのことであった。「同じことを説明するのでも、書き言葉ではなく話し言葉の表現では『絵になる言葉・視覚的な言葉・より具体的なイメージを与える言葉』を選ぶ努力、使う努力が大事。決して抽象的な言葉で『逃げ』てはいけない」と教えられた。

第七一八回京都門下連合
合同御会式開催

京都門下連合会と後援の京都門下本山会は、平成十一年十月二日（土）、京都山科の日蓮宗大本山本圀寺に於いて「第七百十八回京門連合同日蓮大聖人御報恩御会式」を開催した。

午後十二時五十分、門下青年会と門下有志による「行脚隊」と三田市妙三寺（吉田宏遠住職・本圀寺総務）の「万灯隊」が山科護国寺に集合、本堂前での法味言上の後、まず「行脚隊」が先触れとして出発。少し間をおいて午後一時十五分、「万灯隊」が出発。三条通りの約一km余りを練り歩いた。関西では珍しい光景に、道行く人々も興味深げに見つめていた。二時、本圀寺の本堂前に到着して万灯の『お練り』を供養した。

二時半から、本圀寺貫首、久村日鑒猊下を大導師、京門連理事長杉若恵隆（日蓮宗京一宗務所長）師、同副理事長桃井晋城（法華宗本門流）師の両氏を脇導師、京都各本山貫首猊下御臨席のもと、「報恩法要」が厳修された。

三時十五分から、大本山本能寺貫首、赤田日崇（法華宗本門流）猊下の法話。講題は「主師親の三徳に報ず」。我が子に保険を掛けて殺すような事件の出現に、「一切衆生の尊敬すべきもの」であるべき主・師・親が、現代では自らもその責任を認識せず役割を放棄していること。そのせいで下の者からもいかに軽く扱われているかを憂え、正法を以て濁世を正すことの必要性を説かれた。

『法華経の虚空会説法
―起顕竟法門―』
増田日紘猊下著

本門法華宗では立教開宗七百五十年奉讃記念として、増田日紘大本山妙蓮寺元貫首執筆の『法華経の虚空会説法』が出版された。日蓮聖人独自の法華経観であり、「法華経の中にも迹門はせすぎて、宝塔品より事おこりて寿量品に説き顕し、神力品嘱累に事極りて候し」『新尼御前御返事』に基づく、「起顕竟」法門に着目し、この付嘱の要法の依処である法華経説法の「二処三会」の中、宗旨に関連する法華経の説処と説会を通し、本門説法の会処である虚空会に焦点をあて、八品下種の要諦を解明した内容である。迹門最後の法師品に説かれる滅後における法華経弘通の基本的、実践的な態度を前提とし、日蓮聖人が「起顕竟」の法門を立てられて、法華経の末法為正を鮮明にされ、法華経信仰に生きられた死身弘法の意に、開祖日隆聖人の判釈を重ね合わせている。立教開宗七五〇年の意義を改めて、門下に問い、覚醒を促す貴重な書である。定価二万円。申込は、本門法華宗宗務院内立教開宗七五〇年奉讃会（電話075・451・3527）まで。

門下連合会役員人事の異動について

就任　顧問　片山日楽
退任　顧問　松井日俊

日蓮宗新聞社の本

表示の価格は本体価格てす／送料実費

仏跡ガイドブック
法華経を手にブッダの故郷へ
三友量順著／B6判　本体一五〇〇円
お釈迦さまの生涯にそってインドの八大仏跡をたずねる旅案内。図版一八〇点、仏跡地図付。

さだるま新書 No14
ブッダの国の法華経
三友量順著／新書判　本体八二〇円
法華経二十八品それぞれを、お釈迦さまの生きた時代の視点で故事を交えながら読む好著。

さだるま新書 No12 13
法華経講義 上・下巻
勝呂信静著／新書判　各八二六円（本体）

妙法蓮華経写経セット
方便品／寿量品（偈）／神力品（偈）／普門品（観音偈）
▼手引書・用紙セット・紙野付　三八〇〇円（本体）

一部経〈法華経八巻二十八品〉
八寸本　三八〇〇〇円／六寸本　三三〇〇〇円
乾坤二巻本　二〇〇〇〇円／巻子本　五〇〇〇〇円

要品〈法華経の主要な経文〉五〇〇〇円

●お申込みは電話か葉書で当社まで
※代金は商品と一緒に振込用紙を同封しますのでお近くの郵便局か銀行口座へお振込ください。

〒一四六―〇〇八二 東京都大田区池上七―二十三―三
電話　〇三―三七五五―五二七一
FAX　〇三―三七五三―七〇二八

各派・教団 短信

法華宗陣門流

◘9月9日・10日、法華宗中央行学講習会が、千葉勝浦にて開催された。第一日目第一講義は立正大学伊藤瑞叡先生で、演題は「立正安国の学としての宗教地政学より見たる四大格言の現代的意義」であった。第二講義は、鷲津別院本興寺山主、鈴木日艸師で、演題は「檀林史攷」であった。二日目は、法華宗本門流・大本山鷲山寺、日蓮宗・本山正法寺、各寺を参詣し、日蓮宗・本山本土寺にて閉校式となった。

◘11月13・14日、三宗統合協議会・後期「統合学院学生講座」が、法華真門流当番宗の元、法華宗陣門流宗務院にて開催された。講師は両日共に、法華宗真門流宗学研究所所員、吉田公明先生であった。

◘12月6日、総本山本成寺に於いて、本堂屋根堂板葺替え工事の「上棟鬼上げ式」が厳修された。同工事は、昨年来計画され、法華宗各寺院並びに檀信徒、広く一般の方々に勧募を募り行われているものである。その工事の上棟式と鬼瓦が上がる鬼上げ式が執り行われた。当日は、朝からの雨模様にも係わらず、多くの参詣者が境内にあふれ、午後三時の法要が始まると降り続いた雨もやみ、竹嶋日香猊下御導師の元、法要が厳修された。法要終了後には餅撒きが行われ、屋根の上から撒かれた餅を参詣者はうれしそうに持ち帰られた。

（今井満良・松吉慶憲）

本門法華宗

◘10月12・13日大本山妙蓮寺では、宗祖日蓮大菩薩御会式報恩法要が奉修された。12日逮夜法要には、万灯一斉点灯・奉納音楽が行なわれた。◘11月12日、大本山妙蓮寺では、本山三大会の一つ、御開山日像菩薩御報恩法要並に日慶・日忠・日応二人三師会並に歴代上人年忌法要が奉修された。

◘立教開宗七百五十年奉讃会記念事業の一環として、増田日紘猊下（大阪市久本寺閑居・元本門法華宗管長、大本山妙蓮寺第百世貫首）が執筆された『法華経の虚空会説法』が丸三ケ年の時を費やし出版された。同書の出版記念祝賀会が9月27日大阪ホテル阪急インターナショナルで開催され、出版記念祝賀会発起人である奉讃会総裁松本日望猊下以下宗門関係者多数が参列した。

◘本門法華宗学院では、9月8・9日及び11月25・26日、第91・92回教学講習会が開催された。於大本山妙蓮寺卯木講堂。

◘本門法華宗学院内（仮称）教学研究会では9月7日第1回「研究生との対話の会」が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、今後の同研究会について意見交換が行なわれた。尚教学研究会ホームページがインターネット上で試験運営が行われている。

（木村光正）

法華宗本門流

◘管長・松井日俊猊下の辞任により平成11年11月14日付をもって新しく片山日楽猊下（大本山光長寺貫首）が管長に推戴された。これに伴い門下連合会顧問に就任した。

◘大本山本興寺貫首・松井日俊猊下が健康上の理由により辞任。選挙の結果、貫名日諦師（岡山県本蓮寺住職）が当選し、平成11年12月28日付をもって就任した。晋山式は2月13日奉修の予定。

◘法華宗教学研究所編集による『桂林学叢』第17号（研究所創立30周年記念号＝論文八篇掲載）が出版された。頒価三〇〇〇円、注文申込みは宗務院まで。

◘宗祖・門祖の御曼荼羅御本尊を含む宝物四〇点、および宗祖・門祖の霊跡等六点につき、それぞれ宗宝または宗門史跡の指定（平成11・12・8）を行った。

◘古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成12年度新入生募集中。

（中道善信）

本門佛立宗

◘お祖師様の祥月御命日の三日前に当たる去る10月10日、本山・有清寺では高祖日蓮大菩薩御正当御会式が四座にわたり奉修された。第三座では宗門式典があったほか、高祖会前日の9日には、本山開導聖人御尊前で平成11年度の叙任式が執り行われ権大僧正一師・権僧正八師・上座講師八師に対し、御講有上人よりの叙任の辞令下附式と御礼言上式が厳修された。

◘宗務本庁・七五〇特別局では、立教開宗七五〇年の報恩行事の先陣となる、『佛立青少年大会』（今津町佛立研修センター第一研修館を会場。平成12年8月26、27日開催予定。）の第一回実行委員会全体会議を去る10月27日に開催した。大会の基本プログラム案・会場のレイアウト等の報告が行われた。

◘平成12年の「七五〇全国青少年大会」に向けて、本年は各支庁ごとにプレ大会が開催されている。第二支庁（北大阪布教区）では9月15日に本成寺を会場として、第三支庁では8月21、22日に岐阜県金山町の「飛騨金山の森」を会場に、第四支庁（神奈川布教区）では9月26日に小田原市「いこいの森」を会場に、第十一支庁では8月22日に神戸市フルーツフラワーパークを会場として等々、全国から報告がなされており、どの大会も定数を超える多くの青少年が参加し、来年今津での「青少年大会」の大きな弾みとなっている。

（前島照力）

日蓮宗

◘身延山興隆発展の基礎を築き、宗門の発展に尽くした第十一世法主・行学院日朝上人の第五百遠忌法要が6月23日と25日に身延山久遠寺で、24日には東谷にある日朝上人開山、ご遷化の霊跡・覚林坊朝師堂でそれぞれ藤井日光法主猊下を導師に営まれた。

◘54回目の終戦記念日にあたる8月15日に千鳥ケ淵戦没者墓苑において、日蓮宗による「第55回忌戦没者追善並びに世界立正平和祈願法要」が行われ、僧侶・檀信徒約二百人が参列し、犠牲者に香を捧げ、世界平和を新たに誓い合った。昭和34年、戦没者墓苑が建てられてから法要は続けられ、今年で四十一回目になる。

◘自・自・公の連立政権発足への批判が高まる中、9月7日、日蓮宗は自由民主党に対して、創価学会を母体とする公明党との連立をやめるよう、小渕恵三自民党総裁に要望書を提出した。要望の後、小松浄慎庶務部長は「宗教団体がバックにつく政党が国政に関与していく事態は許されるべきではない。また、自民党支持団体の中には反創価学会の立場を表明する宗教団体もあり、連立はそのような支持者への背信」と述べ、今後も反対の姿勢を崩さない方針を明らかにした。

◘日蓮聖人が出家得度し、立教開宗した霊跡・清澄寺で10月28日、清澄寺改宗50周年記念法要が行われ、永井祥文宗務総長をはじめ約六百人が参列した。

（金子和正）

国柱会

◘全国各地方連合局で研修会、儀典講習会、婦人の集い等を開催。6月26日～27日、講師補任用試験。

◘7月23日～25日、第47回国柱会少年少女夏期学校。24日～25日、国柱会講師補任用講習会。

◘8月、近畿地方、山陽・四国・九州地方でも、国柱会少年少女夏期学校開校。21日～22日、大阪で「近畿青年の集い」

◘9月5日、「申孝園の集い」（婦人部の集い）。12日、国柱会講師による、日蓮主義研究発表会。25日～26日、式士任用試験。

◘10月2日～3日、身延大祖廟輪番給仕第35回国柱会奉仕団。御門下を代表し田中暉丘会長を団長に昼夜不断の唱題給仕。12日、池上本門寺で恒例の屋外宣伝。22日～24日、国柱会全国会員宮崎大会。国体開顕の意義を学ぶ。

◘11月3日、明治神宮参拝。近畿連合局は桃山御陵参拝。14日定例協議員会。新年度の事業計画等を審議。16日～17日、恩師田中智学先生第61回忌報恩大会。

◘12月4日、国柱会講師による日蓮主義研究発表会。5日、田中芳谷先生第27回忌追善法会。田中智学先生創作の思想劇「函谷関」の脚本を記念出版。（定価二、〇〇〇円）

（田中良則）

顕本法華宗

◘8月25日～9月8日、15日に亘り妙塔大学林の本科、研修科の二学年を京都総本山妙満寺で開講。全国より学僧が集まり、行学二道の研鑽に励んだ。

◘10月12日、総本山妙満寺に於いて本年度新任住職の奉誓式挙行。翌13日総本山御会式厳修。

◘10月15日、東京品川の別格山天妙國寺において顕青会（東部青年会）と什青会（西部青年会）の交流会を開催。御会式逮夜法要の後、多数の檀信徒と共に、池上方面まで唱題行脚。

◘10月19日～20日、東部連合会主催の研修親睦旅行開催。身延山久遠寺本堂・御廟所参拝、焼津にて一泊。有意義な旅行で親睦を図った。

◘11月17日～18日、京都什門懇話会開催。妙満寺で法味言上の後、法華宗大本山本能寺宝物館他拝観、市内宿舎に会場を移し親睦を図った。

◘11月24日、東部連合会主催僧員講習会開催。山口祐光師を講師にお招きし、「ターミナルケア」について御講義頂いた。

◘11月30日、東京天妙國寺に於いて、宗門主催東部地区僧員講習会・12月6日京都妙満寺に於いて西部地区僧員講習会開催。いずれも立正大学日蓮教学研究員、西片元証師より「葬儀について」御講義頂いた。寺院と檀家の葬儀の係わり合い等、21世紀に向けての問題提起があり、大変勉強になった。

（多門顕正）

法華宗真門流

◘第一、二、三種講習会開催。8月23日より29日まで、総本山本隆寺に於て30余名が受講し、講義、法要式の実習が続けられた。

◘北海道支学林が8月24日より30日まで開講された。

◘8月26日総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展覧法要を開催。

◘9月4日第一教区では、武田薬品技術研究室主任竹崎昌子先生を講師に迎え「秋の文化講演会」を開催。

◘9月5日第二教区では、林日圓猊下を講師に、「教学講習会」を開催。

◘9月5日新内局発足。宗務総長に齋藤隆彦師（武生市圓明寺住職）が選定され、斉藤総長は以下のとおり内局員を選任した。総務部長上田浩岳師（京都市是好院住職）教学部長辻本寛孝師（奈良市寛照寺住職）教化部長水野智啓師（姫路市法連寺住職）社会部長木村完祥師（東大阪市法圓寺住職）財務部長長堀智泰師（鯖江市盛隆寺住職）

◘9月15日、吉田日養猊下、総本山本隆寺第百二世として晋山。並びに法華宗真門流管長就任。

◘10月12・13日総本山本隆寺御会式奉修。

◘10月13日初転法挙行。本年は二名が初転法輪に臨む。（新城市妙躰寺弟子）辻本堅固師、（福井県越廼村本性寺住職）吉田妙光師。

◘11月1・12日・12月7日立教開宗七五〇慶讃委員会開催。

◘平成11年度定期宗会開催。

（堀内浩善）

るつうぶん 流通文 るつうぶん

＊「文殊師利、是の法華経は無量の国の中に於て、乃至名字をも聞くことを得べからず」と経文に説かれている。法華経はそれだけ尊いものだ。毎日お題目を唱えていると、ともすれば惰性で唱えていることがなきにしもあらずである。＊「法の華三法行」と称する教団の悪質な行為が新聞で報道されたが、実体はどうだろうか。そんな宗教法人がこともあろうに「法の華」を冠する名をつけた。「法の華」が、相手を信用させてだますにいい名だと思ったのかもしれないが、使われたほうはいい迷惑だ。それどころでない。無上最尊の名を平気で使っているのは、法華信仰者の怠慢でなかろうかと恐れる。法華魂が世に知られていないのだ。法華信者が、自ら内にどれだけ法華魂を形成しているかだ。「一寸の虫にも五分の魂あり」という。法華信者に法華魂がなくてどうするのか。＊祖師を信じたら、どこか一部分は祖師に似なければならぬ。それは「不惜身命」の実行だ。（田）

お願い

「門連だより」継続発展のため、
各派のご協力を切にお願いします。
本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せください。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流　顕本法華宗　法華宗陣門流　本門佛立宗　日蓮本宗　法華宗真門流　本門法華宗　国柱会　日本山妙法寺　京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成12年8月1日
第22号

祝 門連結成四十周年

全門連身延理事会開催さる

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流教団で様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を挙げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。



祖廟参詣・全門連身延理事会（平成12年5月30日）

平成十二年五月三十日（火）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で、「祖廟参詣・全門連身延理事会」が開催され、全門連顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長ら、計十九名が参加した。

午前十一時四十分、小雨の中常唱殿前より唱題行列にて御草庵跡へ進み、玄題三唱。次いで祖廟に於いて渡邉理事長導師にて法味言上。特に本年は門下連合会結成四十周年の嘉辰を迎えることから、本会結成より本日に至る間に御遷化された先師先哲の増円妙道、報恩謝徳、並びに会運隆昌、宗祖立教開宗七百五十年慶讃円成を祈念した。その後、記念写真を常唱殿前で撮影。続いて久遠寺に登り大本堂・祖師堂にて法味言上。新書院にて昼食を摂り休憩後、随時宝物館を参観。

午後二時より身延山大学会議室に於いて理事会を開催。会議に先立ち、去る五月八日に開催された常任理事会にて、渡邉清明日蓮宗宗務総長が門連理事長に推挙された旨報告がなされ、規約に則り当理事会にて推薦、承認された。渡邉新理事長より挨拶、出席者各自自己紹介後、渡邉理事長座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より、平成十一年度事業報告がなされ、「理事会・常任理事会・門連だより」それぞれの開催日、人事の件（五面・門連時報参照）、祖廟輪番奉仕（国柱会が三十五回目の奉仕）等について報告、了承された。

次に、平成十一年度決算について事務局より詳細報告の後、持田監査より、去る五月八日に行われた監査報告があり、承認された。又、平成十二年度予算案については、平成十二年度事業計画案と併せて検討を行った結果、事務局原案どおり承認された。

続いて地方門連活動に関する報告として、大阪門下懇話会を代表して藤村恵容師が、平成十二年度事業計画案について、

①合同御会式
②研修会
③京都十六本山巡拝日帰りツアー（今年で第五回を迎え、本法寺・妙蓮寺の予定）

以上三つの事業を計画している旨報告。

次に京都門下連合会を代表して、飯田信栄理事長が報告。御降誕会、立教開宗会、夏期大学、御会式等の事業計画が発表された。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件については、長年検討を続けてきた「法華文化展（仮称）」を開催するにあたり、問題点として、

①宗派として開催に向け推進するとしても、展示宝物はあくまでも寺院・個人単位で格護している場合が主であり、展示品について宗派として責任をとることは難しい。

②開催を予定する平成十四年まであと二年をきっており、出展リストが全て整っていない現状では準備期間が足りない。

③国立博物館は既に平成十四年まで予定が入ってしまっているとの情報もあり、開催期日が確定できない。

以上の様な理由により「現状では開催は無理ではないか」との意見があり、当身延理事会に於いて計画を一旦白紙に戻し、新たに他の事業計画を立てることとなった。よって次回の常任理事会で検討を行う為、各宗派教団宛に依頼状を出し、八月末日迄に門連としての立教開宗七百五十年慶讃事業計画案を事務局に提出して頂くこととなった。

その他の件については、今年で門連結成四十周年を迎えるので、秋に開催予定である門連京都理事会で先師先哲の追善法要を行うことを決定した。基本的には三十周年記念の時と同様に考えている。

その際、各門下の御協力により、事務局まで遷化名簿を提出してもらうこととした。

午後三時四十五分に閉会。会場を下部ホテルに移し、午後六時より身延山御当局より伊藤通明総務をお迎えして懇親会を開催。

門連結成四十周年にあたり、さらなる結束を深める一日となった。

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せください。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

就任にあたって

日蓮聖人門下
連合会理事長 **渡邉清明**



今般、日蓮聖人門下連合会各派教団より、御推挙を賜りまして理事長の重責を担うこととなりました。

今更申し上げる迄もなく門下連合会は、昭和三十五年に日蓮聖人門下懇話会として発足以来、本年四十周年を迎えることとなりました。この間の足跡をたずねる時、その責務の重さをあらためて感ずる次第であります。

特にその発足の淵源を辿れば、日蓮聖人が立正安国論を上書されてから七百年に当たる昭和三十四年に、日蓮聖人門下が東京神田の共立講堂に集い「立正安国論献諫七百年記念中央大会」を開催したことに始まります。そこに発した各派教団の熱き想いが時を置くことなく連合会結成へと至ったのでありますが、日蓮聖人が教示されました一天四海・皆帰妙法の祖願達成に向けて門下の大同団結がなされました事は、我々日蓮門下にとりましてまさに歴史的な一歩と申せましょう。

爾来四十年「日蓮聖人御降誕七五〇年慶讃」そして「日蓮聖人第七〇〇遠忌」を中心として共同事業を展開してまいりました。特に七〇〇遠忌の記念事業として行われました日蓮聖人展・日蓮聖人劇・オラトリオ日蓮聖人・青年の船の四大事業の実施は私共の記憶にも新しいところであります。

その後「門連だより」の刊行、門下連合会結成三十周年記念誌の発行等の事業を経た今日、二年後の平成十四年には、立教開宗七五〇年の聖年を迎えようとしております。

ここ数年門連としての共同事業はなされておりませんが、今一度結成当初の熱き気運に思いを至し、祖願達成に向けて、新世紀の扉を開け邁進してまいりましょう。

従地湧出

◆先日、小学校三年生になる子供の同級生の父親が急逝した。三十七歳、三人の子供を残しての突然死であった。「諸行無常・老少不定」という言葉は、頭の中では理解しているつもりでも、いざ突然の悲報に接しては、ただ戸惑うばかりであった。

◆誕生が人生の幕開け、死が閉幕とするならば、閉幕の時には、周りの人から惜しまれながらの幕引きでありたい。それには舞台の上で、いかに人間らしく演じられるかが問題ではないであろうか。

◆左記の遺書は、日航ジャンボ機が御巣鷹山に墜落した事故現場から発見されたものである。

マリコ、津慶、知代子　どうか仲良く　がんばって　ママを助けてください　パパは本当に残念だ　きっと助かるまい　原因は分からない　どうか神様　たすけて下さい　きのうみんなと食事したのは最後とは　何か機内で　爆発したような形で　煙が出て降下しだした　どこでどうなるのか　津慶　しっかりたのんだ　ママこんな事になるとは残念だ　さようなら　子供達のことをよろしくたのむ　今六時半だ　飛行機はまわりながら急速に降下中だ　本当に今までは　幸せな人生だった　と感謝している

◆迫り来る死の恐怖と闘いながら、家族に感謝の言葉を遺して散って逝ったこの男性は、素晴らしい人生を送り、不幸な事ながら素晴らしい幕引きであったのではないだろうか。

◆花は咲き、必ず散る。だからこそ、人は花を美しいと思う。同様に人間は必ず死ぬ。しかし死があるからこそ、限りある生もまた輝くものである。素晴らしい幕引きのために、輝く人生を送りたいものである。

（和）

ポスト750　宗門布教の方向性

護法から伝道へ



日蓮宗護法伝道部長
田端義宏

平成九年五月二十八日、横浜アリーナに全国一万二千の僧俗を集めて開催された『日蓮聖人立教開宗七百五十年慶讃中央大会・発願のつどい』。以来日蓮宗は、ご正当年を二年後に数々の慶讃事業円成に向け、挙宗態勢で取り組んでいる。

ところで「門連各派教団における布教の現在そして未来について」の原稿をとのことだが、宗教布教の全体を論ずるには余りにも広範囲で、論点が散漫になり、しかも紙面の都合もあるので、現在進行中の立教開宗七五〇年慶讃事業を一つの切り口として、そこから宗門布教の現状とその課題、そして未来の布教のあるべき姿を探ってみたいと思う。

慶讃会の組織

宗門挙げての慶讃事業を推進するに当たり、宗務院に「慶讃会本部」を設置。総裁に日蓮宗管長、会長に宗務総長が就任。宗務顧問、参与を相談役とし、事務局長の下に、事業課長・勧財経理課長・嘱託、そして事務局員数人を配し、事業推進の実務を担当する事務局を配置。また全国七十四宗務所を「慶讃会支部」とし、支部長には宗務所長が、副支部長に宗務・護法の両事務長がその任に付き、その下に全国の教師、そして檀信徒が所属。組織上は、管長から檀信徒までを網羅した、まさに挙宗一致態勢で臨んだ。

加えて、慶讃事業の企画推進に関しての検討・協議を行なう機関として、慶讃会会長である宗務総長を委員長に、宗務役員・宗会議員・宗務所長・学識経験者・檀信徒の各層から、会長が任命・委嘱した五十名の委員による実行委員会を組織。

委員会は、常任委員のもとに、教宣部会・事業部会・勧財部会・特別部会の四つの部会を組織し、それぞれの分野で討議を行ない、事業の企画推進に当たった。

事業計画と予算

慶讃事業は、左記十一項目である。

一、慶讃法要の奉行
①正当年四月、清澄寺での慶讃大法要
②正当翌年、身延での結願大法要
二、記念式典並びに記念大会の開催
①正当年、清澄寺研修会館での式典
②中央・教区・管区での大会
三、特別布教の展開
①慶讃特派布教師、慶讃布教師による特別布教の推進
②管区単位による清澄寺団参の実施
③全国唱題行脚の実施
④壱千万お題目写経の実施
四、日蓮宗総合庁舎の建設
五、清澄寺研修会館の建設並びに旭ケ森の整備
六、海外開教センターの建設
七、祖山、霊跡、由緒寺院の記念行事及び事業の助成並びに宗門史跡の顕彰
八、全国各管区記念事業の助成
九、法器養成及び育英事業の助成
十、各種出版事業並びに慶讃紀要の刊行
十一、その他目的を達成するために必要な事業

以上の事業を進めるための総予算は、事務局人件費も含めて七十四億三百万円。寺院・教会・結社への臨時特別賦課金（八億九千五百万円）、教師の僧階に賦課される臨時特別義納金（二十五億二千五百万円）、そして檀信徒志納金（三十八億三千六百万円）、並びにその他収入をもってこれに充てる。

慶讃事業の現状

さて前述の組織と態勢のもとに出発した慶讃会であるが、ここでその事業活動の状況を点検してみたい。

勧財面では、当初おおいに議論を呼んだ賦課金ではあるが、勧募が実施されるやその納入は予想以上に順調で、現在事業が前倒しで行なわれている状況だ。

事業面では、一項目はこれからの事業で、二項は順調に進行中、四項も間もなく着工、五項から十項までの事業はすでに終了、または現在進行中である。十項目の事業の中で苦慮しているのが、三項の特別布教の展開という事業である。②の慶讃団参は順調に進行中で、③の唱題行脚も全国日蓮宗青年会を中心に検討が進められている。問題は、①の特別布教と、④の壱千万お題目写経である。当初実行委員会や教宣部会で考えたような成果が挙がらず、関係者をやきもきさせている。

事業活動の点検

未だ事業半ばの段階で、その活動を反省するのは早すぎるという謗りを承知の上で、あえて慶讃事業に取り組む宗門の状況を点検し、そこから宗門の布教の問題点と今後の方向を探ってみたいと思う。

先ず、事業に取り組む態勢としては、宗門の行政組織を充分活用。組織的には万全の態勢だったと思う。ただ宗門内にその組織を持ち、現に活動を行なっている布教師会・修法師会・声明師会・社会教導師会の四会、そして全国日蓮宗青年会といった諸団体に、事業の企画や検討の段階で参加してもらい、もっと意見や考えを述べる機会を作るべきだったのでは。そのためか諸団体に横の連携がないように思う。

一方、勧財面が順調ということは、実に幸いなことである。すべての事業についての裏付けとなる予算が整わないことには、それぞれの完遂に至らないわけであるが、全国五二〇〇ヶ寺僧俗の全面的な御協力を頂いていることは、誠に有り難いと感ずる。しかし乍らそれぞれの事業の進行にあたっては、その円成に至る迄、常に検討を加え闔宗（かっしゅう）の御理解と御協力を頂いて参りたいと思う。

事業面では、建設関係や大会開催、諸助成・補助事業、出版事業等が順調で、現在事業が前倒しで行なわれている状況だ。

事業面では、一項目はこれからの事業で、二項は順調に進行中、四項も間もなく着工、五項から十項までの事業はすでに終了、または現在進行中である。十項目の事業の中で苦慮しているのが、三項の特別布教の展開という事業である。②の慶讃団参は順調に進行中で、③の唱題行脚も全国日蓮宗青年会を中心に検討が進められている。問題は、①の特別布教と、④の壱千万お題目写経である。当初実行委員会や教宣部会で考えたような成果が挙がらず、関係者をやきもきさせている。

今後の方向性

以上、現在行なわれている慶讃事業から、日蓮宗の布教の現状と問題点を述べた。

その反省に立って今後の宗門布教の方向性を推測すると、「護法教団から伝道教団へ」「寺内活動から社会活動へ」「宗内活動から宗外活動へ」「檀信徒教化から未信徒教化へ」といった活動の必要性を痛感する。

社会に必要とされる宗門となるための「お題目の社会化」、そして現代の寺子屋運動、駆け込み寺運動といった寺院・教師の社会教化活動こそが、今後の宗門の伝道布教活動の方向だと思う。そしてそうした伝道教団としての「機構の改革」と、その活動を行なう「法器の養成」が、今後の宗門の最大急務といえよう。

日蓮宗新聞社の本

表示の価格は本体価格です／送料実費

仏跡ガイドブック
法華経を手にブッダの故郷へ
三友量順著／B6判　本体一五〇〇円
お釈迦さまの生涯にそってインドの八大仏跡をたずねる旅案内。図版一八〇点、仏跡地図付。

さだるま新書 No14
ブッダの国の法華経
三友量順著／新書判　本体八二〇円
法華経二十八品それぞれを、お釈迦さまの生きた時代の視点で故事を交えながら読む好著。

さだるま新書 No12 13
法華経講義 上・下巻
勝呂信静著／新書判　各八二六円（本体）

妙法蓮華経写経セット
方便品／寿量品（偈）／神力品（偈）／普門品（観音偈）
▼手引書・用紙セット・紙箪付　三八〇〇円（本体）

一部経〈法華経八巻二十八品〉
八寸本　三八〇〇〇円／六寸本　三三〇〇〇円
乾坤二巻本　二〇〇〇〇円／巻子本　五〇〇〇〇円

要品〈法華経の主要な経文〉五〇〇〇円

●お申込みは電話か葉書で当社まで
※代金は商品と一緒に振込用紙を同封しますのでお近くの郵便局か銀行口座へお振込ください。

〒一四六―〇〇八二 東京都大田区池上七―二十三―三
電話　〇三―三七五五―五二七一
FAX　〇三―三七五三―七〇二八

残暑御見舞

平成十二年庚辰

日蓮聖人門下連合会

（平成十二年七月現在）



日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―二―一
池上本門寺朗峰会館内日蓮宗宗務院仮庁舎
電話　〇三(三七五一)七一八一(代)
ＦＡＸ　〇三(三七五一)七一八六

管長　藤井　日光
宗務総長　渡邉　清明
宗務副総長　加賀美泰全
綜合企画部長　篠原　智高
庶務部長　垣本　孝精
財務部長　野坂　法雄
教務部長　中里　観正

護法伝道部長　田端　義宏
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　田澤　元泰
現代宗教研究所所長　石川　浩徳
国際開教室長　川名　義顯
人権対策室長　藤崎　一明
参与　堀江　宏正
参与　浅井　玄裕
日蓮宗新聞社社長　菊池　泰瑞

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五(七九一)七一七一
ＦＡＸ　〇七五(七九一)七二六七

管長　吉永　日晴
宗務総長　中村　通義
宗務次長　渡辺　昭夫
財務部長　藤崎　行学
教務部長　大森　俊栄
社会部長　大塚　正純

布教部長　早川　義正
庶務部長　島田　幸晴
主事　多門　顕正
主事　津村　乗信
主事　飯沢　道安
主事　小松　正学

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三(三九一八)七二九〇
ＦＡＸ　〇三(三五七六)〇一二一

管長　鈴木　日艸
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳
教化部長　佐古　大弦

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五(四六一)一一六六(代)
ＦＡＸ　〇七五(四六四)五五九九

宗務本庁役員一同

講有　野崎　日丞
講頭　梶本　日裔
講尊　井上　日慶
宗務総長　小山　日誠
宗務副総長　笹田　日昌
宗務副総長　佐藤　政司

法華宗（本門流）宗務院

〒170-0004
東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話　〇三(三九一〇)四七五五(代)
ＦＡＸ　〇三(三九一八)七九九四

管長　片山　日楽
宗務総長　原井　慈鳳
教化部長　圓成　淳龍
教学部長　桃井　晋城
財務部長　坂巻　顕導
庶務部長　矢吹　慈英

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇
ＦＡＸ　〇七五(七七一)五九一四

管長　嘉儀　日有
宗務総長　高見　正弘
総務部長　佐藤　哲夫
財務部長　岩崎　隆義
法務部長
教学部長　岩崎　広義

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五(四四一)五七六二
ＦＡＸ　〇七五(四四一)五六六六

管長　吉田　日襄
宗務総長　斎藤　隆彦
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　水野　智啓
財務部長　堀　智泰
社会部長　木村　完祥
主事　本多　信正
主事　足立　真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五(四五一)三五二七
ＦＡＸ　〇七五(四五一)三五九七

管長　杉本　日慈
宗務総長　高遶　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五(四六一)一一六六(代)
ＦＡＸ　〇七五(四六四)五五九九

宗務本庁役員一同

講有　野崎　日丞
講頭　梶本　日裔
講尊　井上　日慶
宗務総長　小山　日誠
宗務副総長　笹田　日昌
宗務副総長　佐藤　政司

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇
ＦＡＸ　〇七五(七七一)五九一四

管長　嘉儀　日有
宗務総長　高見　正弘
総務部長　佐藤　哲夫
財務部長　岩崎　隆義
法務部長
教学部長　岩崎　広義

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五(四四一)五七六二
ＦＡＸ　〇七五(四四一)五六六六

管長　吉田　日襄
宗務総長　斎藤　隆彦
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　水野　智啓
財務部長　堀　智泰
社会部長　木村　完祥
主事　本多　信正
主事　足立　真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五(四五一)三五二七
ＦＡＸ　〇七五(四五一)三五九七

管長　杉本　日慈
宗務総長　高遶　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三(三六五六)七一一一(代)
ＦＡＸ　〇三(三六五六)九九八〇

会長　田中　暉丘
理事長　大橋　邦正
門連理事　秋場　善彌
門連理事　淀野　寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8418
京都市上京区妙蓮寺前町八七五
大本山妙蓮寺内
電話　〇七五(四五一)三五二七

会長　杉本　日慈
副会長　金山　日龍
理事長　飯田　信栄
副理事長　杉若　恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二(三七八)三三九五
ＦＡＸ　〇四二(三七九)〇七四四

首座　塙　行幸
老師　石山　定光
老師　吉田　行典
老師　酒迎　天信
老師　今井　行康
老師　西堀　行施
老師　二宮　和嘉
事務局長　今井　行順



残暑御見舞　平成十二年庚辰

（平成12年7月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　藤井日光
総務　伊藤通明
役職員一同
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六(二)一〇一一
FAX　〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三(三七五二)二三三一
FAX　〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　吉永日晴
総務　大川定信
執事　山本晃道
執事　津村乗信
執事　小松正学
執事　林孝瑞
執事補　前田成朋
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五(七九一)七一七一
FAX　〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　鈴木日艸
執事長　真保行宣
執事　西山英仁
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　吉田日襄
執事長　笹木研秀
執事　矢放眞文
執事　本多信正
書記　足立真正
参事　小島玄城
参事　岩崎峻暉
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五(四四一)五七六二
FAX　〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　杉本日慈
執事長　飯田信栄
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五(四五一)三五二七
FAX　〇七五(四五一)三五九七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　高見正弘
執事　岩崎広義
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇
FAX　〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十三世購有　野崎日丞
執事長　佐々木日調
事務局長　伊藤隆之
〒606-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX　〇七五(四六三)四六五一

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
立教開宗七五〇年慶讃団参奉行
別当　奥邨日鳳
〒299-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話　〇四七〇(九四)〇五二五
FAX　〇四七〇(九四)〇五二七

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　山田一光
執事長　原光司
〒606-0005
京都市上京区寺ノ内通堀川東入

平成十四年
初転法輪　鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七(二二)〇七七七
FAX　〇四六七(二五)六九六七

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四(五八)一〇〇四
FAX　〇五四四(五八)二五一七

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
執事長　渡辺貞観
参与　関観康
同　新井智清
同　広野観順
同　土田勝宏
〒272-0813
千葉県市川市中山二―十―一
電話　〇四七(三三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
貫首　金山日龍
〒602-0061
京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話　〇七五(四四一)七九九七
FAX　〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野日法
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三(三三一三)六二四一
FAX　〇三(三三一三)五〇〇七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　新井智清
同　安藤信行
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五(七七一)〇五六二
FAX　〇七五(七五一)一〇〇四

門連時報

京都門連総会・宗祖降誕会

二月十六日十三時から大本山妙蓮寺（松本日望貫首）で総会が開催された。

十四時半から松本貫首猊下導師のもと、門下八本山の貫首猊下を始め、門連会員と参列者合わせて約百二十余名が、宗祖降誕会を厳修した。

十五時より、日蓮宗妙覚寺貫首、頂岳龍乗猊下の御法話。

「寿量品に『我本行菩薩道　所成寿命　今猶未尽　復倍上数』とあるように、教主釈尊の久遠からの教化の功徳は『菩薩道』にあり、その『菩薩道』とは、釈尊から日蓮聖人、そして私たちに伝えられた『唱題修行』そのものである」

と話された。

小雪の舞うあいにくの天気にもかかわらず、暖を取るためのうどんが品切れになるほどの盛況であった。

京都門連・開宗会



京都門連・開宗会

四月二十八日頂妙寺にて開宗会が厳粛に執り行われた。

十時半、大講堂で三木随法上人の法話「法四依について」。「最近のエセ宗教の被害は、正しい法に依らず、いいかげんな教祖の言うことを鵜呑みにする信者たちの態度が原因である。我々は正法を奉じ、正行を行じていきましょう」と教えられた。

続いて大導師松本日望猊下、妙蓮寺派の式衆と日蓮宗雅楽会の伶倫出仕のもと、開宗会が厳修された。

客殿と延暦寺会館で昼食後、定光院に参拝。本堂前で報恩の経を誦し、香を薫じた。

その後大津市の「佐川美術館」と「鮎屋の郷」を観光した。

京都門下青年会 平成十二年度新役員決定

京都日蓮聖人門下青年会は平成十二年度総会を、太公で開催し、新幹事長に藤井照源師（日蓮宗）を選出した。総会には、各宗各派会員十五名が参加、平成十二年度活動計画が説明され、門下連合会の各行事参加を中心に、唱題行脚、勉強会、バレーボール大会、OBとの懇親会、研修会等が了承された。又、平成十二年度会計予算も了承され、今後の門下青年会の大同団結を誓い合い懇親を深めた。藤井幹事長は「先輩が築き上げられた門青の歴史と伝統をしっかりと受け止め、現状に即応したビジョンを展開して行きたい。特に門青のカラーを出した七五〇の事業を企画して行きたい」と方針を語っている。平成十二年度役員は、幹事長―藤井照源（日蓮宗）、副幹事長―山本晃道（顕本法華宗）、副幹事長―梅本光祥（日蓮宗）、会計―奥山文章（日蓮宗）、庶務―川合陽雄（日蓮宗）、庶務―有田秀達（法華宗本門流）、幹事―二之部知孝（日蓮宗）幹事―真枝真光（法華宗真門流）幹事―阿南光節（本門法華宗）、幹事―嘉儀吉裕（日蓮本宗）

法華宗陣門流管長に就任して

総本山本成寺八十六世貫首　鈴木　日艸



このたび、竹嶋日香猊下任期満了によるご退山のあとを承け、図らずも不肖私が後任の大役をお受けすることになり、去る六月二十一日総本山本成寺の法燈を継承させて頂きました。

自らの浅学不徳を省みて躊躇いたしましたが、永年ご指導を賜りました多くの先輩諸聖師、ならびにお世話になりましたご本山の檀信徒の皆さまの恩顧に報いるために、宗門に対しての最後のご奉公と心得、あえてこの重責を荷う覚悟をいたしました。

現今の社会の様相は、政治も経済も進路を見失っているような気がします。第二次大戦後、我国の科学技術の急速な発展は社会に物質的な豊かさをもたらせましたが、これは同時に唯物功利の思想を蔓延させ、最近では道義の頽廃を招き、目を覆う凶悪事件が続発し人の心を不安に陥し入れております。

この混迷の社会情勢の中に明後年は、宗祖大聖人立教開宗七百五十年の記念すべき年を迎えようとしています。これを契機として、私達は特に布教面に活動を展開することが必要だと思います。

もし今、私達がただ手を拱いているならば、この遭い難き開宗の記念の年は、何もいわずにやって来ますが、また何もいわずに去ってしまうでしょう。

宗祖のご鴻恩に報いる為に、何をすれば有意義にこの年を迎えこの年を送ることができるか、それを決める時が今ではないでしょうか。

四、誓願法要として、身延御廟所参拝を平成十三年度中に行う

五、門青のシンボルマークを考える

六、門青の題目旗を作成する

七、その他として、年間行事の積み重ね及び、団参・写経・インターネット・門連だよりの活用が報告され了承された。この企画は平成十二年度から平成十四年度の三ケ年計画で進め、事業予算は四百万円。

立教開宗七百五十年 事業骨子まとまる

京都門青として七五〇事業について、プロジェクトチームが結成され検討の結果、六月三十日の臨時総会にて骨子が了承された。とらえ方として、一、門青として七五〇をどうとらえていくか　一、門青が誕生するまでの状況、門青の出発点、門青の歴史をしっかりと踏まえる　一、近年の門青の状況を把握し、今後の課題は何かを考えて行く　の三点を趣旨とし、企画案として、一、七五〇の御正当平成十四年が門青結成三十周年にあたり、三十年の歩み（記念誌紀要）を発行する　二、七五〇報恩行脚として、市中リレー行脚（十六本山踏破）を三年にわたり行う　三、七五〇報恩と門青三十周年の集いを平成十四年十二月十七日に奉行する

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派（役職含）	門連役職	就任	退任
平一一・五・二八	真枝日世師	法華宗真門流管長	顧問		退任
	吉田日襄師	法華宗真門流管長	顧問	就任	
九・九	吉田研宏師	法華宗真門流宗務総長	常任理事		退任
	齋藤隆彦師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任	
平一二・一・一	金山日龍師	京都門下連合会会長			退任
	松本日望師	京都門下連合会会長		就任	
	杉若恵隆師	京都門下連合会理事長	常任理事		退任
	飯田信栄師	京都門下連合会理事長	常任理事	就任	
	桃井晋城師	京都門下連合会副理事長	理事		退任
	杉若恵隆師	京都門下連合会副理事長	理事	就任	
二・八	都筑哲信師	法華宗陣門流	理事		退任
	門谷東生師	法華宗陣門流	理事	就任	
五・一〇	木下恵温師	大阪日蓮聖人門下懇話会			退任
	藤村恵容師	大阪日蓮聖人門下懇話会		就任	

新刊紹介

『四条金吾の妻』　大橋冨士子著

（九月発行）

著者は『私たちの法華経』『宮沢賢治まことの愛』などの著者で国柱会講師。本書の主題となるのは、日蓮聖人の代表的門下四条金吾夫妻、その妻の信仰をめぐり正信にめざめて聖人の病患から、身延、池上、御入滅に至るまで、給仕第一の誠をつくした金吾の妻の、心に映じた渇仰恋慕の情をたどるもの。その内容は、一、内船で　二、鎌倉へ　三、竜口法難回想　四、池上へ　五、最後の講話　六、佐渡と身延の思い出　七、御涅槃の七章からなり、必要な御遺文を忠実に引用し、わかりやすい解説を交え、金吾の妻の心に映じた情景描写が生き生きと胸を打つ。数すくない女性の立場からのユニークな伝記。信仰教化に最適の好著。

B六判・上製箱入　予価二、五〇〇円（税込）　発行　真世界社

電話〇三―三六五六―七一一一

FAX〇三―三六五五六―九九八〇

釈尊のふるさと
インド仏蹟めぐりは
近畿日本ツーリストへ

近畿日本ツーリスト(株) 宗教法人担当支店

東京　東京団体旅行支店　〒101-0052 千代田区神田小川町2−2　Tel 03-3233-0015　Fax 03-3233-1674

京都　京　都　支　店　〒604-8005 京都市中京区河原町通三条上ル　Tel 075-221-7401　Fax 075-223-5192

インド国内コーディネートは
近畿日本ツーリスト㈱公認代理店
インデイアナ トラベル ジャパン
〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目25−14　Tel 03-5689-8161　Fax 03-5689-8118



Government of India
Tourist Office

भारत India

7th August, 2000

One can visit India any time of the year as there will always be a perfect destination for the particular season. A country of great diversity, different cultures interspersed in mountains, deserts, wildlife sanctuaries, and sea. I take this opportunity of inviting you to our country. I am sure, you will be in safe hand travelling with M/S Kinki Nippon Tourist Co.,Ltd.



(P.Sivakami)
Regional Director

一年中どの季節に訪れてもインドはそれぞれの季節の素晴らしい面をもって皆様を迎えてくれます。多用な文化、点在する山、砂漠、野生動物保護区、海などインドは多面性をもった国です。
この機会に私は是非皆様をインドにお招きしたいと思っております。
近畿日本ツーリスト㈱様のツアーで安全で快適な旅をお過ごしいただけることと思います。

インド政府観光局長
Pシバカミ

各派・教団 短信

法華宗真門流

◘2月18日教区所長会議・布教師会を開催。本年度各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。◘4月8日より27日まで、真門学林（春季）が開講。◘4月11日より三日間、総本山本隆時千部会厳修される。◘第一教区（田中良啓所長）第二〇回檀信徒の集い〈報恩の旅〉5月22日より三泊四日間、僧俗六十名が参加し、仏教伝来の地韓国を訪れた。◘6月21日、第十六回真門教学講習会開催。『宗法・宗憲及び伝統と教義』と題して宗学研究所所長、林日圓猊下の講義、『雅楽と春日若宮おん祭』と題して、南都楽所楽頭、笠置侃一師の講義が行われた。◘第二教区（遠藤昭栄所長）第十九回檀信徒研修会を真門学林長、上嶋智岳上人を講師に開催。◘第二教区護法会〈合掌の旅〉を6月29～30日に鎌倉方面にて実施。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘去る5月21日、法華宗管長、本成寺八十五世竹嶋日香猊下の任期満了による御退山式が総本山本成寺に於いて執り行われた。◘去る6月21日、鈴木日艸新貫首猊下が本山第八十六世として御入山された。新貫首猊下は静岡県鷲津の別院本興寺で長年御山主を努められ、法華宗の学校である「学林」に於いては、名誉教授として後進の指導に当たられていた。御入山式は、朝十一時の花火を合図に山門より行列を組み本堂へ入堂、本堂にて法楽一座の後「着座の儀」次いで「法灯継承の儀」が行われ、本堂にあふれんばかりの檀信徒が見守る中、無事御入山式は終了した。◘総本山本成寺第八十一世田邉日伸猊下が、去る5月24日御遷化された。世寿九十四歳であった。猊下は東京谷中本通寺から総本山本成寺へとお進みになられ、昭和60年に御退山され、以来本通寺にて隠居されていた。密葬儀は5月28～29日、本通寺にて、御本葬は7月6日、7日に総本山本成寺に於いて執り行われた。

（今井満良）

本門法華宗

◘第85回本門法華宗宗会は3月24日、京都全日空ホテルにて開催。宗門学院予決算等、第12号議案まで無事承認可決。飯田信栄大本山妙蓮寺執事長より、3月14日開催の本山役員会において、6月25日で任期満了の松本日望猊下の後任として、杉本日慈猊下が第百八世貫首に推戴さると報告。審議の結果、賛成多数をもって本門法華宗次期管長に推戴された。◘6月29日、大本山妙蓮寺では、松本日望猊下退任される、退蔵奉告法要が執り行なわれた。併せて、第百八世杉本日慈猊下の法灯継承式が同時に執行された。法要終了後、全日空ホテルに於て、宴席が設けられ、宗内寺院並びに、松本猊下自坊（京都市花園成願寺）杉本猊下（沼津市正見寺）の役員も参加した。杉本猊下の晋山式は11月に奉行予定。◘本門法華宗学院では第93・94回教学講習会が大本山妙蓮寺講堂で、3月28・29日、6月14・15日が開催された。

（木村光正）

法華宗本門流

◘第五十二次定期宗会は5月24～26日、ホテルベルクラシック東京において開催。予決算の承認可決、開宗七五〇奉讃事業として宗務院新庁舎の建設・宗門主催の法要イベント開催等18議案を議定して無事閉会。尚、平成12年度全国宗務所長会は5月31日・6月1日開催（同会場）。◘宗務院新庁舎は、日本橋人形町にある既存のビル（平成4年築、地上7階地下1階）を取得購入することが決定し、7月19日に契約及び調印が行われた。改修・改装後、移転して本年末には新庁舎において就業開始の予定。◘法華宗主催、四大本山後援、全国十三教区宗務所協賛による「開宗七五〇年・報恩感謝の集い」が、平成13年9月29日（土）、東京国際フォーラムを会場として開催される。慶讃法要のほか、語りと映像に合せ上行所伝の信条を同信の名優が演じる。◘本年度の教学講習会は次の五会場。北海道―8月27～29日（妹背牛・本尊寺）、千葉―10月3～5日（一宮・松濤軒）、京都―12月12～14日（京都・本能寺）、中国―10月23～25日（岡山・菩能寺）、九州―9月27～29日（佐世保・本尊寺）。◘第十四回法華宗教学研究発表大会は、10月31日、京都・大本山本能寺において開催予定。

（矢吹慈英）

本門佛立宗

◘去る7月2日、本山・宥清寺（京都）の御尊前に於いて、四年間にわたる任期ご満了を迎えられた、佛立第二十二世講有・日慶上人より佛立第二十三世講有・日丞上人への講有位継承と本山・宥清寺第五十五世住職を確定する「遺嘱伝承の儀（いしょくでんしょうのぎ）」が、宗内要職教講役員及び日丞上人有縁の方々、本山信徒代表等の参列のもと、厳かに執り行われた。◘佛立教育専門学校創立五十周年を祝う記念行事（特別講演会と祝賀会）が、去る3月14日、京都全日空ホテルを会場に行われた。特別講演は御講尊・日裔上人の「佛立の戦後五十年」というテーマで行われ、百六十余名の教務の参加があった。◘本山・宥清寺の門祖会が、去る4月23日、計四座奉修された。特に第三座では、昨年中に奉安教化五個以上を成就した、全国各寺院の優秀教化者九十四名に表彰がされた。◘佛立青年教務会では、7月10日～12日に、洋上錬成道場が実施された。旭ヶ森から百キロ沖の洋上より、昇る朝日のもと、上行所伝の御題目が口唱された。参加者は六十五師であった。

（前島照力）

日蓮宗

◘専任布教師・慶讃布教師を対象とした平成11年度中央講習会が2月17・18日、千葉県清澄寺研修会館で行われ、教師約七十人が参加した。講師に協同広告株式会社経営計画室長で取締役の石川哲也氏を迎えた。石川氏は「コミュニケーションのありかた」と題して講演し、広告をつくる立場から、相手にどうしたら感動を与えられるか、広告業界の若者は人との触れあいに欠けているため、その力が不足していると指摘、人と人との触れあいの大切さを強調した。◘永井祥文宗務総長が任期満了にともない退任、第八十二定期宗会で次期宗務総長に選出された渡邉清明師は新内局の布陣を固め4月4日、渡邉新内局の認証式を東京・池上の宗務院で行った。新内局は二年後に迫った立教開宗七五〇慶讃事業の総仕上げを行うと同時に三期十八年にわたるお題目総弘通運動の最後の区切りに臨む。◘平成12年度日蓮宗全国檀信徒協議会（桜内義雄会長）の第四十七回総会が5月10日、千葉県清澄寺研修会館で全国管区の代表者ら六十八人が出席して行われた。立教開宗七五〇年があと二年後に迫り、檀信協として「お題目総弘通運動」と「七五〇慶讃事業」を引き続き支援することになった。

（金子和正）

国柱会

◘全国各地方連合局において研修会、儀典講習会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。◘12月25日、大正天皇祭厳修。31日、福茶の会。送旧迎新式厳修。◘1月1日、明治神宮参拝、元旦大国祷・新年拝賀式、神酒拝戴式厳修。7日、昭和天皇祭、武蔵野御陵清掃奉仕。15日、中央同志新年大会、田中暉丘会長より年頭法話。◘2月11日、紀元節慶讃法要厳修。15日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。16日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。◘3月5日、婦人対象の申孝園の集い開催。二十日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会厳修。◘4月2日、申孝園桜まつり開催。8日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。28日、立正会慶讃法要厳修。28日～29日、第三十六回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団、田中暉丘会長以下昼夜不断の唱題行奉行。29日～30日、第七十回身延登詣団。◘5月12日、伊豆法難会慶讃法要厳修。◘6月24日、講師補任用試験、講師補研修会。◘7月9日、必武館剣道大会。15日、盂蘭盆開顕大供養会厳修。

（石見良教）

京都門連

◘1月21日理事会。平成12年度役員確認。会長＝妙蓮寺貫首松本日望猊下、副会長本山本法寺貫首金山日龍猊下、理事長＝妙蓮寺執事長飯田信栄師、副理事長＝日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師、事務局担当は、本門法華宗大本山妙蓮寺と決定。平成11年度決算報告。平成12年度予算案・会務事業計画。総会・降誕会の件。◘2月16日総会・降誕会。平成12年度役員確認紹介。平成11年度会務報告・決算承認。平成12年度会務事業計画・予算案承認。降誕会＝導師・松本日望猊下。法話は妙覚寺貫首頂岳龍乗猊下。◘3月6日理事会。開宗会・夏季大学の件。◘4月28日開宗会。法要：比叡山大講堂において奉行。導師：大本山妙蓮寺貫首松本日望猊下。法話は三木随法師。◘5月20日理事会。夏季大学・御会式の件。◘6月26日大本山妙蓮寺で、松本日望猊下から杉本日慈猊下に貫首が交替し、京門連の会長職も引き継がれた。◘今後の予定、8月26日本能寺会館において夏季大学、10月7日妙蓮寺において御会式がある。

（谷口真也）

顕本法華宗

◘2月23日～24日、総本山妙満寺に於いて「第五十五定期宗会」が開催された。初めに管長推戴で吉永日晴猊下が再任された。各決算・予算の審議等の後、宗門役職者の選任が行われた。内局員は次の通り。宗務総長、中村通義。宗務次長、渡辺昭夫。庶務部長、島田幸晴。社会部長、大塚正純。財務部長、藤崎行学。教務部長、大森俊栄。布教部長、早川義正。◘3月30日、東京天妙国寺を会場に全国教務所長会議が開催された。◘5月13日～14日、総本山妙満寺において、恒例の春季大法要が厳修された。宗祖開祖報恩法要・全国檀信徒大施餓鬼法要他六座厳修。清興として、「きらら」の和太鼓演奏が花を添え、甘露の雨に濡れる山内の参詣者を出迎えた。◘7月25日～28日、京都総本山妙満寺を会場に、顕本青少年錬成会が開催された。全国より応募した小学生から中・高校生を対象に、「助け合う心」をメインテーマに定め、信行からリクレーションまでバラエティーに富んだ内容の錬成に励んだ。

（多門顕正）

日蓮本宗

◘2月6日より一泊二日の日程で、教師研修会が伊豆長岡ホテルで開催された。全国から三十四名の教師が参加し、一日目は蓮慶寺の参拝、執事より伊豆伊東の法難についての講義を聴講した。二日目は富士北山本門寺に於いて、日興上人御正当御報恩法要に参列した。◘5月8日、御開山日尊上人第六百五十六年の御報恩法要が、本山要法寺に於いて、全国教師約四十名の出仕のもと、厳爾に奉修された。この日は三名の新部が初転法輪の儀式を行い、新たな教師が誕生した。◘立教開宗七五〇年記念事業委員会が発足し、宝蔵の新築と各種出版事業が承認され、全国末寺の檀信徒からの勧募が始まった。宝蔵は鉄筋コンクリート二階建てで、現在京都国立博物館に寄託されている重要文化財「渡金蓮唐草透刻経筥」が収蔵可能な設計となっている。

（柳下正則）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん 流通文 るつうぶん

先日、我が信徒から「ここ近年青少年のキレル言動、オウムをはじめとしたライフスペースなどと言うわけのわからないオカルト宗教の進出等々による世の中の乱れの原因は、宗派を問わずボウサンに責任がある。ボウサンがもっとしっかりしていればこんな世の中にならなかったんじゃないか、最近のボウサンは楽をしすぎている。葬儀や法事だけでなくもっと生きた人間を救ってほしい」と苦言を投げかけられた。

確かに我々は今、寺檀制度というものに守られているが、この制度がそろそろ崩れかけてきているのも現実である。もしこの世に日蓮大聖人がおられたら我々にどのような言葉を授けていただけるだろうか？

各門下とも平成十四年の開宗七五〇年に向い、さまざまなスローガンを打ち出し事業を展開している。宗門内での七五〇も必要であるが、建長五年四月二十八日宗祖がどのような気持ちで開宗を宣言されたのか、旭が森で初めて唱えられた「南無妙法蓮華経」の思いに立ち返り、「末代の人々の救済」を文面上でなく実行に移すことが、各門下共通の内面においての七五〇ではないだろうか。

（善）

門連結成四十周年を祝して

京都理事会報告　　平成12年11月27日　於 大本山妙蓮寺



全国日蓮聖人門下連合会結成四十周年記念法要

平成十四年、我々日蓮聖人門下では立教開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流教団で様々な企画が進行中である。今こそ門下総力を挙げて真実の仏法を伝え日蓮聖人の理想実現に向け邁進しよう。

当日は、正午より受付が開始され、遠近各地より関係者が集った。今年は門連結成四十周年の佳節に当たり、本門法華宗大本山妙蓮寺に於いて記念法要が奉行された。午後一時より記念法要の開式。当日の大導師は本門法華宗管長・大本山妙蓮寺貫首杉本日慈猊下である。



門連京都理事会

本堂内には、門連加盟各派教団の重鎮各聖及び、京門連の諸聖が参席される中、大導師より、御宝前において門連結成四十周年記念奉告文が表白された。次に、渡邉清明理事長より三十周年記念法要後に遷化せられた先師三十九霊位の法名が奏上され、各霊位に対し追善の誠が述べられた。

焼香は衆を代表して、本門法華宗宗務総長高邉信幸師、門連理事長渡邉清明師、京門連理事長飯田信栄師、京門連副理事長杉若恵隆師が、また回し焼香により参席の各聖が一香を献じた。

荘厳な記念法要後、本堂前に於いて記念撮影が行われた。ふと本堂の脇に目を向けると雨中にお会式桜が開花しており、三十九先師に対する報恩謝徳の意がつくされたことへの顕現ではないかと感じた。

少時休憩ののち、大本山妙蓮寺貫首杉本日慈猊下による「妙蓮寺の沿革」について講話が行われた。講話の中で妙蓮寺の歴史や移設の経緯について資料を配付し詳細に説明がなされた。次に日蓮宗本山本法寺貫首金山日龍猊下が門連結成四十周年記念講話「門連四十周年におもう」と題して所感を述べられた。



杉本日慈猊下

続いて午後三時より理事会に移行し、慣例により座長には渡邉理事長が選出就任。渡邉座長の挨拶の後、事務局より京都理事会次第が配布された。報告事項として、「上半期事業報告」「京都門連事業報告」「地方門連活動報告」があった。又、その他の報告事項で、お題目の商標登録について登録無効の審決が行われた旨の報告があった。本件は「南無妙法蓮華経」の文字を酒のラベル等に表示し、「酒類」を登録指定商品とするものであった。しかし、これを指定商品に使用したときは、仏教に関係する語を表示したものとは理解されるとしても、自他商品の識別標識として認識されることはないとみるのが相当である、との理由により登録無効の審決がされたものであった。

次に案件である「立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件」について討議に入った。長期に亘って検討をしてきた「法華文化展（仮称）」が昨年の身延理事会に於て、諸般の事情により計画を一旦白紙に戻すことが決定しており、新たに事業を検討することとなったが、加盟各派それぞれが既に独自で事業に着手しており、他の事業に参画する人的並びに経済的余裕がないといった事情もあり、特に新たな事業について代替案はなかったが、日蓮宗に対してフジテレビから「日蓮展（仮称）」の企画がきている旨報告があった。内容的には「法華文化展」と同様であるが、東博での展示と合わせて、その模様をフジテレビ番組内で放送することにより相乗効果が期待できる。しかし、展示品のリストがどこまで揃うかが問題であり、今後の話の進め方については、日蓮宗が窓口となって逐次報告を常任理事会へすることとし、門連加盟各派教団の合意を得て、推進する方向でいくこととした。

年に一度の京都理事会であるが、全門連参加者二十八名、京門連参加者二十七名、計五十五名が一同に集まり、意見を交わし、門連結束の思いを強くした。理事会終了の後一行は、懇親会の席を「中村楼」へと移し、晩秋の京都を満喫した。

今回色々とお世話いただいた京門連の各聖、妙蓮寺の皆様には厚く御礼を申し上げると共に、立教開宗七五〇慶讃事業の円成に向けて門下一同積極的に取り組んで参りたいものである。



四十周年記念法要

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せください。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地涌出

◆時は今から七四九年前の四月二十八日、場所は房州安房の国清澄において、日蓮聖人は立教開宗された。『法華経』に説かれた地涌の菩薩のご自覚を、日本国の中においてただお一人と信解され、昇りくる旭日に向かっての大法開宣であった。

先日、日蓮聖人のご生誕の地を訪れたが、壮大な太平洋から昇りくる旭日、周りに広がる房州の山々は、まさに虚空会の会座そのものであった。「日蓮は太陽の子」と聖人みずから仰有った。ならば、太陽は父・釈尊であり、そこから出る光は、大慈悲の光明であろう。その光明を毎日体に浴びながら、多くの人々は有り難いという感謝の気持ちや仏子としての自覚を持てないのが現実である。

◆我々門下にしても「一天四海皆帰妙法」という大誓願をかざし、護法活動を続けている気になってはいないか。何事も言うは易しで、自らの欲や我にとらわれて、誓願も机上の言葉にかわってきていまいか。誓願とともに今必要なことは、感ずることと行ずることである。日蓮聖人は、まさに「法華経の行者」であられた。ならばその弟子に連なる我らの行うことは一つ。日蓮聖人の意と同じお題目を身に読み、それを一人でも多くの人に伝えることが行ずることの第一歩である。自らが感ずることなく、人に伝えることはできない。日蓮聖人を師と仰ぎ異体同心するならば、我ら門下結集して報恩感謝の気持ちを持ち、二十一世紀に通用する行を実践していくべきであると思う。法華経に基づく「自行化他」。これが今世紀においての必要なキーワードであると感ずる。簡単なことばに表すのでなくまずは自分で行ずる。立教開宗七五〇を迎えるにあたり、全門下等しく心構えを一つにして実践すべきことであろう。

（石）

聖日蓮人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成13年2月16日
第23号

立教開宗
750年に向けて

「経巻相承・直受日蓮」を宗是とし布教伝道に総力をあげる

わが顕本法華宗では、来るべき平成十四年の日蓮聖人立教開宗七五〇年に向けて様々な事業を計画し、順調に進行中です。

慶讃事業の目的と理念について

日蓮大聖人立教開宗七五〇年を慶讃し、宗門・本山を挙げて、宗祖の報恩を旨に、わが顕本法華宗立教の根本を見つめ直し、顕本法華宗宗徒としての誇りを、僧俗ともに持てる運動を展開致します。

具体的には、「一、正しいご本尊をおまつりする運動」「二、本山の諸堂営繕」を二本の柱とします。更に、様々な慶讃事業を通じ、新しい布教の方法の検討や、法要式の充実、「正しいご本尊をおまつりする」という啓蒙運動を通じての、教学面の充実・後継者の育成等を端緒として参ります。

そして、何より念頭に置いておきたい事は、この慶讃事業は、継続性のある宗教活動の出発点であって、決して一時のお祭り騒ぎのイベントに終わらせないと言うことです。

慶讃事業の組織について

去る平成十年六月、慶讃事業の骨子を企画する為、奉行委員会が組織されました。

宗務総長を委員長に、宗務次長と本山総務を副委員長とし、本山総務は事務局長を兼務します。委員には、宗会議員・教務所長より四名が選任されました。

平成十一年四月、慶讃事業の企画が具体化され、実行組織として事務局長の下に総務部局、法要部局、布教部局、参拝部局が現在設置されております。

事業内容について

正しいご本尊をおまつりする運動

冒頭にも申し上げましたように、一番肝心な報恩運動の中心テーマは、檀信徒の皆様に「ご本尊を正しくおまつりする」ことを呼びかけることにあります。

本宗では、日蓮大聖人奠定のご本尊を本山より下附することにより、正しいご本尊の統一を図って参りました。しかしながら、末寺檀信徒の皆様の実情は、正しいご本尊をおまつりしていないご家庭も多く見受けられます。

本山では立教開宗七五〇年を記念して、新たな装丁のご本尊の下附を行ないます。

「正しいご本尊をおまつりする運動」を成功に導く為、後述の「巡回布教」「報恩のつどい」等の機会を通じて啓蒙に努め、リーフレット「立正」（受け持つべし）を檀信徒全戸に配布する予定です。

末寺住職には、寺院行事・法事・檀家回向等の折に個別に詳細な指導をお願いすることは申すまでもございません。そのためのチェック用紙も検討中です。

新たなご本尊の本山からの下附が、目に見えて増加した時、はじめてこの運動の成果があがったと評価されるでしょう。

総本山妙満寺の営繕事業

総本山妙満寺は、昭和四十三年に寺町二条より、現在左京区岩倉に遷堂。以来三十余年が経過し、諸堂老朽化が進んで参りました。

信仰の中心である総本山妙満寺の営繕は、本師釈迦牟尼仏を始め、宗祖日蓮大聖人、開祖日什大正師への報恩の誠を捧げる、宗門を挙げての大切な事業です。

当初、諸堂の屋根瓦葺き替え工事に着工。この資金には、本山会計の他、全国末寺様より寺院等級に応じた割り当て金をお願いし、完了致しました。

続いて、七五〇年慶讃事業の篤志寄付の勧募を行い、諸堂改修を予算計上させて頂きました。お陰さまで、宗門内外のご協力を頂きまして、寄付金は予算額を越えるお申し込みがあり、これも昨年平成十二年秋に当初計画分を完了することができました。

工事対象は、展示室・収蔵庫・本堂階段・渡り廊下・仏舎利塔・男子及び女子手洗所等です。

その他、本山の単独工事として、管長室・会議室・応接室・駐車場等の改修工事が完了致しました。

平成十四年に奉行される正当大法要にお参りになられる檀信徒の皆様をより気持ち良くお迎えできるでしょう。

日蓮大聖人立教開宗七五〇年慶讃「報恩のつどい」開催

「開宗七五〇年の歴史の節目に、祖願である『立正安国』のご精神を社会に顕現させるために、多様な角度から『法華経の精神』を説き、僧俗共に本宗宗徒としての自覚と連帯感を深め、感応の喜びを共有すること」を目的・理念に置き、「正しいご本尊をまつる」というご報恩運動の起点となる大会を目指します。

全国を東西に分け、昨年十月三十一日に岡山県倉敷市文芸館において西部地区大会を既に開催、東部地区大会は、本年六月二日に千葉県東金市文化会館での開催に向けて準備が進行中です。

構成は東西共に三部構成で、一部法要、二部講演・布教ビデオ放映（東部はパネルディスカッションを予定）三部清興です。特に一部の法要は、通常の寺院という空間から離れてホールを使用することにより、音響・照明等を駆使し幽玄な演出効果が得られ、西部地区では檀信徒の感想も上々で、大きな法悦を得ることができたと自負しております。東部地区では更に新しい試みを行なう予定です。

「慶讃大法要」奉行

平成十四年四月二十七日から二十九日の三日間の日程で、京都総本山妙満寺において「立教開宗七五〇年慶讃正当法要」を奉行します。文字通り立教開宗を慶讃するメインの行事であることは申すまでもありませんが、荘厳かつ厳粛な法要を目指す為、青年僧の法要所作研修、それに連動した声明本の出版、本山備品の法衣、雅楽器の新調等、各部署で活動が進行中です。

東京の別格山、天妙国寺の万灯奉納の他、楽しく思い出に残るイベントを行なうことが決定しました。その他、宗門内外に向け立教開宗七五〇年の慶讃をアピールできる手段を模索中です。

記念出版

本宗檀信徒用経本「朝夕のおつとめ」に連動して、古瀬日宇猊下に本宗の布教誌「心の宝」に連載頂いていた「おつとめのお経」「回向文の解説」を再編集し単行本化して出版します。

日蓮大聖人が我々の生きる指針としてお示しになられた法華経の心を、可能な限り平易に解説して、法華経・お題目の普及の資糧になればとのささやかな願いが込められております。

巡回布教

平成十二年度より平成十三年の二年間に亘り、教区単位の巡回布教をおこなっております。平成十二年は主に東日本地区教区（一～五教区）、平成十三年は西日本教区（六～八教区）を重点教区としました。

巡回布教師には、本宗の布教総監、特命布教師はもとより、宗務総長、本山総務等の宗門役職者に依頼し、前講として当該教区の布教師がその任に当っております。講演の主題を「正しいご本尊をまつろう」に統一し、ご本尊の啓蒙・普及運動と一体になるものです。

また、各寺院を廻り、檀信徒と直接触れ合うことにより、立教開宗七五〇年の報恩の意義、慶讃事業全体の啓蒙、ムード作りの一助にもなりうる事業と考えます。



立教開宗七五〇年慶讃事業実行委員会事務局長
大川定信

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

護法団参は、日蓮宗指定旅行社の
東急観光にお任せください。

豊かな感動のステージへ
東急観光
運輸大臣登録旅行業第38号　㊫日本旅行業協会正会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号
http://tour.tokyu.com
TEL:03-5704-3761



美しい時代へ
東急グループ

行ってらっしゃい、いい旅へ。

豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

―― 旅のすべてを知っている東急観光です。 ――

祈

立教開宗七五〇年

奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



（平成十三年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―二―一
池上本門寺朗峰会館内日蓮宗宗務院仮庁舎
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長　藤井　日光
宗務総長　渡邉　清明
宗務副総長　加賀美泰全
総合企画部長　篠原　智高
庶務部長　垣本　孝精
財務部長　野坂　法雄
教務部長　中里　観正

護法伝道部長　田端　義宏
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　田澤　元泰
現代宗教研究所所長　石川　浩徳
国際開教室長　川名　義顕
人権対策室長　藤崎　一明
参与　堀江　宏正
参与　浅井　玄裕
日蓮宗新聞社社長　菊池　泰瑞

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―十九―一
電話 〇三(五六一四)三〇五五
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

管長　岡本　日亘
宗務総長　原井　慈鳳
教化部長　圓成　淳龍
教学部長　桃井　晋城
財務部長　坂巻　顕導
庶務部長　矢吹　慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長　吉永　日晴
宗務総長　中村　通義
宗務次長　渡辺　昭夫
社会部長　大塚　正純
庶務部長　島田　幸晴
財務部長　藤崎　行学

教務部長　大森　俊栄
布教部長　早川　義正
主事　多門　顕正
主事　津村　乗信
主事　飯沢　道安
主事　小松　正学
主事補　前田　成明

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長　鈴木　日艸
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳
教化部長　佐古　大弦

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有　野﨑　日丞
講尊　梶本　日裔
講尊　井上　日慶
宗務総長　高尾　日音
宗務副総長　佐藤　日鳳
宗務副総長　藤本　博造
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長　嘉儀　日有
宗務総長　高見　正弘
総務部長　佐藤　哲夫
財務部長　岩崎　隆義
法務部長　岩崎　広義

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長　吉田　日襄
宗務総長　斎藤　隆彦
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　水野　智啓
財務部長　堀　智泰
社会部長　木村　完祥
主事　本多　信正
主事　足立　真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

管長　杉本　日慈
宗務総長　高遶　信幸
宗務部長　信隆　允忠
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　持地　光学

国柱会

宗教法人

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

会長　田中　暉丘
理事長　大橋　邦正
門連理事　秋場　善彌
門連理事　淀野　寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376
京都市左京区二条通川端東入
頂妙寺布教会館内
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長　金山　日龍
副会長　嘉儀　日有
理事長　杉若　恵隆
副理事長　高見　正弘

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

首座　塙　行幸
老師　石山　定光
老師　吉田　行典
老師　酒迎　天信
老師　今井　行康
老師　西堀　行施
老師　二宮　和嘉
事務局長　今井　行順

成円讃奉　年〇五七宗開教立・祈

（平成13年2月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　藤井日光
総務　伊藤通明
役職員一同
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六(二)一〇一一
FAX　〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三(三七五二)二三三一
FAX　〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　吉永日晴
総務　大川定信
執事　山本晃道
執事　津村乗信
執事　小松正学
執事　林孝瑞
執事補　前田成朋
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五(七九一)七一七一
FAX　〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　鈴木日艸
執事長　真保行宣
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主　吉田日襄
執事長　笹木研秀
執事　矢放眞文
執事　本多信正
執事補　足立真正
参事　小島玄城
参事　岩崎峻暉
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五(四四一)五七六二
FAX　〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　杉本日慈
執事長　飯田信栄
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五(四五一)三五二七
FAX　〇七五(四五一)三五九七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　高見正弘
執事　岩崎広義
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇
FAX　〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職二十三世講有　野崎日丞
執事長　佐々木日調
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX　〇七五(四六三)四六五一

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
立教開宗七五〇年慶讃団参奉行
別当　奥邨日鳳
執事長　東孝信
執事　宮崎雅宣
〒299-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話　〇四七〇(九四)〇五二五
FAX　〇四七〇(九四)〇五二七

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　山田一光
執事長　原光司
〒602-0005
京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話　〇七五(四一四)〇八〇八
FAX　〇七五(四一四)〇八四八

平成十四年
初転法輪　鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七(二二)〇七七七
FAX　〇四六七(二五)六九六七

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
参与　坪井親雄
参与　齊藤文曜
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四(五八)一〇〇四
FAX　〇五四四(五九)〇三〇三

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
執事長　渡辺貞観
参与　関観康
同　新井智清
同　広野観順
同　土田勝宏
〒272-0813
千葉県市川市中山二―十―一
電話　〇四七(三三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
貫首　金山日龍
〒602-0061
京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話　〇七五(四四一)七九九七
FAX　〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野日法
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三(三三一三)六二四一
FAX　〇三(三三一三)五〇〇七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　新井智清
同　安藤信行
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五(七七一)〇五六二
FAX　〇七五(七五一)一〇〇四

門連時報

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（飯田信栄理事長）は、八月二十六日(土)、法華宗本門流大本山本能寺（赤田日崇貫首）文化会館において京都門下連合会主催、京都門下本山会協賛の「第三十七回夏季大学」を開催した。参加者は百二十余名。メインテーマは「二十一世紀に向けての法華信仰の展開　日蓮聖人と共に語る」。

十時開講式、十時三十分、第一講「日蓮聖人と女人信仰」。講師は本門法華宗大本山妙蓮寺貫首・杉本日慈猊下。全員に渡された講演資料は、御遺文から代表的女性信者に送られたお手紙類を抜き出し、多方面からの解説を加えた十四頁にも及ぶ立派なもの。各信者のプロフィールから、当時の社会・経済情勢まで、鎌倉時代が身近に感じられ、聖人のこまやかなお心遣いがよくわかったと好評であった。

第二講「宗教と政治」。講師は日蓮宗専任布教師の中島光民師（金龍寺住職）。現政権のもとでの創価学会の勢力拡大を懸念された。資料には「創価学会系列各種団体一覧」があり、社会の隅々にまで浸透している状況が示され、その集金・勧誘活動に警鐘を鳴らされた。また池田大作氏の性格を一種の精神異常「サイコパス」と推定し、名誉欲が強く自己中心的で、他人を信用したり、共感したりできないがゆえに、今のような組織を作っていると分析された。

第三講、「記者の目が訴える、これでいいのか今の日本、『宗教・政治・教育』」。講師は京都新聞社会部次長の桑原毅氏。「ストーカー問題」について、事件が起こってからでないと動けない警察の対応の悪さ。また「京都の小学生殺害事件」について、マスコミの取材合戦、真犯人と間違われた青年と家族の被った被害、その容疑者の飛び降り自殺を防げなかった警察の不手際についてなど、現場で動いた人間ならではの興味深い話が聞けた。結論として今の日本に欠けている、宗教と教育の責任の重さを指摘された。

全門連京都理事会・懇談会
本門法華宗本山妙蓮寺で開催

平成十二年十一月二十七日(月)、本門法華宗本山妙蓮寺（杉本日慈貫首）で「全門連京都理事会・懇談会」が開催され、各本山貫首、門連理事、五十名が参加した。

午前十一時から「全門連常任理事会」を開催。昼食の後に午後一時から「法味言上」。杉本日慈貫首猊下が御導師、飯田信栄・杉若恵隆正副理事長を脇導師に、妙蓮寺式衆とともに『全門連開創40周年記念法要・全門連物故者追悼法要』が厳修された。その後本堂前で記念写真。二時半から杉本日慈猊下の講演「妙蓮寺の沿革」を拝聴した。資料として元禄四年の絵図を用いて妙蓮寺移転の跡をたどられた。また「天文の法乱」、秀吉の聚楽第造営のための替地令、さらに「天明の大火」などの転変の歴史を解説したレジュメも配布された。

引き続き、二時半から「理事会・懇談会」。全員の自己紹介に続き、まず全門連上半期事業の経過報告。京門連理事長による「京都門下連合会」の活動報告。「大阪日蓮聖人門下懇話会」の行事報告等。特に全門連の七五〇事業について、全門連が主体となっての企画であった「法華文化展（仮称）」は、正式に中止が決議・承認された。またその代替案として、日蓮宗とフジテレビの合同企画としての「文化展」が紹介され、全門連はこれに対して協賛・協力をするという形での参加を決定した。

理事会終了後、第二会場の「中村楼」に移動し、会員相互の親睦を深めた。



御会式
行脚、妙蓮寺を出発

第七百十八回京都門下連合会
合同御会式開催

京都門下連合会と後援の京都門下本山会は、平成十二年十月七日(土)、本門法華宗大本山妙蓮寺に於いて、「第七百十九回京門連合同日蓮大聖人御報恩御会式」を開催した。

午後十二時五十分、門下青年会と門下有志による「行脚隊」が、妙蓮寺から堀川通を渡り、妙顕寺・本法寺・妙覚寺の三本山を行脚巡拝した。

二時半から、妙蓮寺貫首杉本日慈猊下が大導師、京門連理事長飯田信栄(本門法華宗)師、同副理事長杉若恵隆(日蓮宗京一宗務所長)師の両師が脇導師、京都各本山貫首猊下御臨席のもと、「報恩法要」が厳修された。参加者総数は約百五十名。

三時十五分から、本山本法寺貫首、金山日龍(日蓮宗)猊下の法話。講題は「日蓮聖人の知恩報恩」。

同時に午後一時から四時の間、伏見共同作業所、並びに大山崎共同作業所（福祉施設）による恒例の「福祉バザー」が行われ、売上は両作業所に寄贈された。

全国日蓮門下青年僧
清澄結集　千葉大会

大会主旨

「青年僧　新たなるちかい」

宗祖日蓮大聖人が建長五年（一二五三年）清澄山旭ヶ森に登り、遙か東の海から昇る太陽に向かい「南無妙法蓮華経」と御題目を唱えられてより七五〇年を迎えようとしております。今、時代は混沌とし、多くの人々が不安を抱いています。その中で日蓮宗においては、平成十四年に立教開宗七五〇年を控え慶讃事業を展開しております。

この大切な節目を迎えるにあたり、脈々と受け継がれた宗祖の御心に感謝をし、新たなる出発の門出とする為に、「全国日蓮門下青年僧・千葉大会」を開催致します。

日蓮大聖人が熱い想いをもって初めて御題目を唱えられた聖地・清澄にて大聖人の魂を体感して頂き、私たち全国の御題目を唱える青年僧は立教開宗七五〇年を機に、「その想いを実現する為に、何をすべきか」を、自己を省みながら共に考え旭が森に昇る太陽に向かって、今後の私たちの活動への誓い（目標）を掲げる、そんな力強い第一歩となる大会をめざしております。

立教開宗聖地・清澄山へ参集して下さることを心よりお願い申し上げます。

日時：平成十三年五月十一日(金)～五月十二日（土）

開催場所：小湊ホテル三日月・大本山清澄寺～大本山誕生寺

集合場所：小湊ホテル三日月（午後一時）

申込要項

申込方法：郵送もしくは、ＦＡＸにて千葉大会事務局まで御申し込み下さい。

申込締切：平成十三年四月十二日

参加費：二〇、〇〇〇円（現金書留にて四月十二日迄に御送金願います。尚、四月二十日以後のキャンセルは、参加費全額を協賛金として申し受けますので予め御了承下さい）

持参品：行脚用具一式（天台笠不要）・団扇太鼓

荷物取扱：荷物を送付される場合は必ず宅急便（指定業者／クロネコヤマト・ペリカン便）の期日指定にて五月十一日午前中配達にて、ホテル三日月宛にお送り下さい。

千葉大会事務局

〒二九九－五五〇五　千葉県安房郡天津小湊町清澄三三一一　清澄寺内

事務局長　遠藤了暉

電話：〇四七〇－九四－〇五二五

ＦＡＸ：〇四七〇－九四－〇五二七

mail to:PXG00671@nifty.ne.jp

▼人事（事務局への連絡日も含む）

年月日	氏名	宗派（役職含）	門連役職	就任	退任
平一二・六・二二	竹嶋日香師	法華宗陣門流管長	顧問		退任
	鈴木日艸師	法華宗陣門流管長	顧問	就任	
六・二九	松本日望師	本門法華宗管長	顧問		退任
	杉本日慈師	本門法華宗管長	顧問	就任	
一〇・一七	丸茂龍正師	日蓮宗	幹事		退任
	渡辺言之師	日蓮宗	幹事	就任	
平一三・二・一四	片山日楽師	法華宗本門流管長	顧問		退任
	岡本日亘師	法華宗本門流管長	顧問	就任	

ＮＨＫ大河ドラマ「北条時宗」のメーンテーマ
鎌倉時代「元寇」という、国の一大事あり
「元寇（げんこう）」
土佐光貞



大地震と打ち続く飢饉・疫病。世は混迷し人心は悪に帰す亡国の嵐。遂に大蒙古国の襲来。日本全体を震撼させた未曾有の国難。巻き起こる雷雲、波涛に微塵となる大蒙古の巨船。他国侵逼難を予見し、戦乱に直面する人々の悲嘆を同一の苦として日本国を滅亡より救おうとされる日蓮聖人。伝承の奥に真実を描く入魂の一幅。

■「立正安国論」を唱えられた日蓮聖人のお姿がＮＨＫ大河ドラマ「北条時宗」にも登場！
■復刻版特別頒布／総縁 正絹牡丹唐草・中廻し 中金四重菱二重蔓牡丹・一文字 中金大燈金襴／軸先 金軸
軸総丈159㎝×幅51㎝　軸寸57㎝

頒価 60,000円（税・送料別）
特製桐箱収納（写真は仏表装仕立です）

お申し込み先 ㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3 電話 03-3755-5271 ＦＡＸ 03-3753-7028
※商品についてはお気軽にお問い合わせください／お申込み後、約二週間でお届けします

各派・教団 短信

日蓮本宗

◘平成12年7月29日より8月1日の三日間、本山要法寺に於いて未教師を対象にした夏期研修会が開催された。

◘10月13日、日蓮大聖人第七百十九年の御会式御報恩法要奉修。二座に於いて本山要法寺第七祖日住上人・第二十一祖日體上人の各御遠忌並びに第四十九祖日認上人の第十三回忌法要が厳修された。

◘11月15日、第三祖日目上人の荼毘所である岐阜県垂井の日目庵に於いて、第六百六十八年日目上人の御正当法要が、貫首猊下日有上人御導師のもと厳粛に奉修された。

◘来る平成14年の立教開宗七百五十年記念事業として勧められている、本山要法寺宝蔵の再建等の記念事業に対する浄財奉納額は、現在のところ予定金額の五割強が集まっている。来年に予定している落慶法要が無事成満出来るように、勧募活動が引き続き進行中である。（柳下正則）

法華宗真門流

◘各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が、8月23～29日まで総本山本隆寺にて開催された。

◘8月24日～30日、北海道支学林が開催され、宗務所派遣講師として、第一教区宗務所長田仲良啓師（奈良県八紘寺住職）が出講。

◘8月26日、総本山本隆寺にて、寺宝什物の虫払い会展観法要開催。

◘9月2日、第一教区講演会が開催され、吉田日襄貫主の講演及び「阪神淡路大震災」犠牲者第七回忌法要を厳修。

◘9月3日、第二教区教学講習会、第三教区講演会が開催される。

◘10月5日より秋季学林開講、三十数名の学林生が受講。

◘10月12、13日、総本山御会式奉修。

◘10月13日、総本山本隆寺にて、初転法輪挙行、本年は八名が初転法輪に臨んだ。

◘11月14日、立教開宗七五〇慶讃事業委員会・常任委員会開催される。

◘12月4、5日、平成12年度定期宗会開催。平成13年度宗務予算・布教師養成所長選任・布教師選任・その他寺院等級の変更等が審議された。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘7月28日、宗法審議委員会が行われた。

◘9月6～7日、新潟県三条市総本山本成寺に於て、中央行学講習会が行われた。当日は参加教師数、百二十名を数えた。本山本堂屋根葺き替え工事が完了したこともあり、参加者全員が大きな喜びを胸に本堂にて法楽一座、客殿に会場を移し、本山御董職鈴木日艸猊下による「本山一尊四士本尊と法壽院日芳上人について」の講話が行われた。講習会終了後、一同は佐渡島に移動し、大聖人ゆかりの御寺院を参詣した。

◘11月6日、布教研究所編集会議が行われた。

◘11月18～19日、東京都巣鴨の法華宗陣門流宗務院に於て、本宗当番のもと、三宗統合協議会・統合学院（後期）が開催された。講義は、両日共、法華宗（陣門流）宗学研究所所長鈴木正厳師で、講題は「信行について」であった。

◘11月28日、宗学研究所所員会、29日、学林教授会が行われた。

◘12月4～5日、新住職と学生による合同研修会、6日には昇級対象者の試験が巣鴨宗務院に於て行われた。（今井満良）

本門法華宗

◘平成12年11月13日、大本山妙蓮寺に於て、杉本日慈貫首（自坊静岡県沼津市正見寺）の法燈継承晋山式が執行された。杉本貫首に「歴代譜一」が継承され、大本山妙蓮寺第百八世に御晋山とともに、本門法華宗管長に就任された。京都日蓮門下連合会各派御貫首他、宗内外有縁の各上人、檀信徒約二百名が参列した。晋山式終了後、全日空ホテルにて、三百名を越える盛大な祝賀会が開催された。来たる平成14年4月13・14日に奉修される、立教開宗七百五十年法要に向けて、杉本貫首のもと新たなる宗門の出発となった。

◘本門法華宗では平成12年12月26日付で、宗会議員選挙に於て、第二区五名、第三区一名が決定。第一区五名は平成12年1月20日に決定した。

◘本門法華宗学院では第96回教学講習会を、大本山妙蓮寺卯木講堂で、平成12年12月1日・2日の日程で開催した。（木村光正）

法華宗本門流

◘大本山本能寺貫首赤田日崇猊下が9月21日法寿七十七歳をもって御遷化された。この後を受け選挙の結果、岡本日亘上人（神戸市久遠寺住職）が当選し、平成12年9月22日付をもって就任し、10月13日晋山式が奉修された。◘昨年10月31日、大本山本能寺で第14回法華宗研究発表大会が開催され、基調講演を含む七人の研究員の発表が行われた。今回は初の公開討論会が行われ、テーマは「現代布教」であった。◘開宗七五〇記念事業の一環として推進してきた、宗務院新庁舎建設事業は、12月1日をもって豊島区北大塚より中央区日本橋人形町へ移転し、建物改修工事も完了し事業計画を成就することができた。宗務院庁舎開堂落慶法要は1月31日の予定。◘大本山本興寺貫首貫名日諦猊下が健康上の理由により辞任。選挙の結果、有原日龍上人（兵庫県伊丹市妙宣寺住職）が当選し、平成12年12月13日をもって就任した。晋山式は2月25日の予定。

◘阪神淡路大震災第七回忌追善法要が大本山本興寺において、法華宗管長片山日樂猊下大導師のもと1月16日奉修された。◘本年2月14日付をもって法華宗管長（門連顧問）に大本山本能寺貫首岡本日亘猊下が就任。推戴式は2月15日大本山本能寺において奉修される。◘古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成13年度新入生募集中。

本門佛立宗

◘御講有・日丞（中道善信）

上人は平成13年本山宥清寺（京都）元旦会の、「年頭のことば」で「本因下種の題目が弘まることは、本宗の発展のみにとどまらず、仏祖の大願が成就することになり、真の世界恒久平和と人類永遠の福祉に貢献する大事業であると、宗門人各位は肝に銘じてください。特に本年は別修法要を中心に全力を傾注して報恩教化に邁進されんことを切望します」と述べられた。

◘平成12年10月13日附けで高尾日音導師が宗務総長に就任され、宗門の内局が御奉公態勢に入った。11月28日の一六五回臨時宗会で高尾内局と新宗会議員が初めて顔を合わせ、議会の構成・正副議長等が決定された。

◘高祖日蓮大士立教開宗七五〇年を前年、報恩御奉公六年目の本年、高野日豊弘通局長より弘通方針の説明がなされた。立教開宗七五〇年に向けて七万五千人の教化円成を目指し、①各寺院②支庁・布教区③本庁弘通局の御奉公にわたりきめ細かに示された。特に傾注する施策として下種結縁に力を注ぎ、特に信者一人十人下種を強力展開し、確実なものにする旨が確認された。（前島照力）

日蓮宗

◘ドイツ・ハノーバーで開かれている二十世紀最後の万国博覧会で6月23日から25日まで「国際フォーラム2000」が開催された。同フォーラムは「対話と統合の原理」「国際永久平和祈念祭典」の二部から成り、昼夜に分かれ行われた。日蓮宗は「国際永久平和祈念祭典」に日本仏教界の代表として参加し、法要では藤井日光管長猊下（身延山久遠寺法主）が導師をつとめられ、副導師加賀美泰全宗務副総長・川名義顕国際開教室長、声明師七十三人も参加した。

◘「火種を消すな　火種をなろう」をテーマに全国日蓮宗青年会（佐野前延委員長）の「みちのく結集」が6月28、29日、山形市内で開かれ、全国各地の青年僧約二百二十人が参集した。青年僧の力で日蓮聖人の教えをより一層、広めることを目的に毎年開かれているが、恒例の唱題行脚、教箋配布のほか、今年は有珠山への義援金活動に加え、新年拝賀式・神酒拝戴式厳修。7日、昭和天皇祭厳修。武蔵野御陵参拝。（石見良教）

京都門連

◘8月26日本能寺会館において「第37回夏季大学」。同日理事会。御会式の件。◘9月21日、本能寺貫首赤田日崇猊下が御遷化になり、10月13日岡本日亘猊下が御晋山された。◘10月5日、奉行委員会。御会式準備の件。◘10月7日、妙蓮寺において「第七百十九回門連合同御会式」。◘11月6日、理事会。全門連京都理事会・懇親会の件。◘11月27日、「全門連京都理事会」◘12月7日、会計監査。◘12月18日、理事会。平成12年度会務行事報告案・決算案作成。◘1月23日理事会。平成12年度会務・決算報告。平成13年度役員確認、会務行事計画・予算案について。総会・降誕会について◘2月16日頂妙寺において総会・「降誕会」。平成13年度役員紹介。会長＝本法寺貫首金山日龍猊下、副会長＝要法寺貫首嘉義日有猊下、理事長＝日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師、副理事長＝日蓮本宗宗務総長高見正弘師、事務局担当は日蓮宗と決定。平成12年度会務報告・決算承認。平成13年度会務事業計画・予算案の承認。同日「降誕会」。導師は頂妙寺貫首永田日洵猊下。法話は妙蓮寺貫首杉本日慈猊下。

【今後の予定】

◘京都門下青年会は、門下各本山を拠点に月例行脚を予定。4月2日本山頂妙寺、5月24日総本山妙満寺にて行脚。◘4月28日開宗会法要。比叡山大講堂において奉行。導師＝本法寺貫首金山日龍猊下。法話講師は未定。（谷口真也）

顕本法華宗

◘8月25日～9月8日の十五日間の日程により、総本山妙満寺において妙塔大学林が開講された。約二十名の学僧が本科（一年目）、研修科（二年目）に分かれ、学二道の研鑽に励んだ。◘10月12日、総本山妙満寺において本年度新任住職の奉誓式が行われた。◘10月12～13日、総本山妙満寺において宗祖日蓮大聖人第七百十九遠忌お逮夜法要、御会式が、本山並びに近隣寺院出仕のもと、千葉方面の参詣者も交え厳かに奉行された。◘10月31日、倉敷市芸文館において、立教開宗七五〇慶讃「報恩のつどい」西部地区大会が開催された。第一部、吉永管長猊下大導師の法要。第二部、古瀬日宇猊下の講演と布教ビデオ放映。第三部、人間国宝桂米朝一門の清興という構成。来年に迫った立教開宗七五〇正当に向けて、報恩感謝の士気向上に繋がる大会となった。尚、東部地区大会は本年6月2日、千葉県東金市文化会館で開催される。◘12月11日、東京別格山天妙国寺において妙塔学林研究科開講。大学林長山本学人上人より「法華経の記別について」（往生思想と対比して）の講義を頂いた。◘平成12年より13年にかけて、立教開宗七五〇巡回布教が始まった。主に十二年度は東日本地区、十三年度は西日本地区を中心に行なう。講師は、主に布教総監・特命布教師はじめ宗門役職者が勤め、「正しいご本尊をまつろう」をテーマにご本尊啓蒙運動を展開する。◘3月6日より8日の会期日程で、総本山妙満寺において第五六定期宗会が開催される。

国柱会

◘全国各地方連合局において研修会、儀典講習会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日・妙宗大霊廟例月供養会厳修。◘7月16日、宣正会慶讃法要厳修。28日～30日、少年少女夏期学校を裏磐梯にて開催。30日、田中会長以下、明治神宮参拝。◘8月3日、日本文化研修会一行宮沢賢治研究の為に国柱会本部来園、田中会長より賢治と霊廟についての法話あり。15日、田中会長以下、靖国神社参拝。26日、大白牛院謙宝日乗大居士五回忌追善法要厳修。◘9月2日、田中会長北海道連合局主催日蓮主義講習会へ出講。3日、婦人部主催「申孝園のつどい」開催、老人介護をテーマに研修。9日、申孝園ロータスヴィラ合同慰霊祭を田中会長督式のもと厳修。12日、龍口法難会慶讃法要厳修。16日、全国講師会・日蓮主義研究発表会。23日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。『四条金吾の妻』出版記念の集い開催。◘10月8日、国柱会中連婦人部主催バスハイク開催。9日、国柱会浜松霊廟建立80年記念式典開催。10日、佐渡法難会慶讃法要厳修。12日、日蓮主義池上屋外宣伝実施。13日、聖祖鶴林会慶讃法要厳修。◘11月3日、田中会長以下明治神宮参拝。明治節慶讃法要厳修。11日、小松原慶讃法要厳修。16日、恩師田中智学先生第62回忌御逮夜法要厳修。17日、田中会長督式のもと恩師田中智学先生第62回忌報恩大法要厳修、式後報恩の集い開催。18日、全国協議員会開催。◘12月10日、田中芳谷先生第28回忌追善法要厳修。23日、天長節慶讃法要厳修。25日、大正天皇祭厳修。31日、福茶の会、送旧迎新法要厳修。◘1月1日、明治神宮参拝。元旦大国禱・初の試みとして駅前商店街などの早朝清掃奉仕を行った。

◘立正大学へ通いながら寮生活の中で僧侶として基本を修得しようという日蓮宗宗立谷中学寮が開寮三十周年、熊谷学寮が同二十周年を迎え、6月15日、谷中学寮がある浄延院本堂で記念式典と物故者追悼法要が行われた。これまで卒寮生は合わせて約五百人にのぼり、海外をはじめ全国各地で布教活動に励んでいる。（金子和正）

流通文

るつうぶん

不作法な若者

不作法な若者を注意し、かえって暴力沙汰に巻き込まれる事件が、よく報道されます。

少し前、我々の子供の頃まではこうではなく、子供の躾は共同体の責務でした。現代の日本は子供を甘やかし過ぎるのではないでしょうか。愛すればこそ、厳しく躾をする必要があるのに、今、我が子が他人に叱られることを「おせっかい」ととらえ、許さない風潮があります。しかし、「怒る」と「叱る」は違うのであり、法衣を着た我々僧侶こそ、その任にあたりやすいのではないでしょうか。仮に、殴る蹴るの目にあっても「法難」だと思えばいいでしょう。

高祖のお言葉にも「父性」は「厳愛の義」とあります。「言わずば慈悲なきに似たり」。見て見ぬふりこそ法華の菩薩道に反するというべきでしょう。（谷）

（多門顕正）

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成13年8月15日
第24号

祖廟参詣

全門連身延理事会開催さる



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・理事会　平成13年6月4日

平成十四年、我々日蓮聖人門下では立教開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流教団で様々な企画が進行中である。今こそ門下総力を挙げて真実の仏法を伝え日蓮聖人の理想実現に向け邁進しよう。

身延山西谷常唱殿に各門下代表が参集する

平成十三年六月四日（月）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で「祖廟参詣・全門連身延理事会」が開催され、全門連顧問・常任理事・理事・監査・北海道門下連合会理事長・大阪門下懇話会理事長ら、計十五名が参加した。

午前十一時二十分、身延山西谷の常唱殿に集合した各門下代表は、初夏の風薫る中、撃鼓唱題にて祖廟並びに宗祖御草庵跡に参詣し、渡邊清明理事長導師のもと法味言上を行った。

祖廟前にて記念写真を撮影の後、一行は久遠寺に登山し、大本堂にて法味言上。新書院にて伊藤通明久遠寺総務より歓迎の御挨拶をいただき、昼食休憩となった。昼食後、参加者は宝物館を自由拝観。午後二時より身延山大学会議室に会場を移して理事会を開催。

先ず始めに出席者各自自己紹介後、慣例により渡邉理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より平成十二年度事業報告がなされ、理事会・常任理事会・機関紙編集委員会それぞれの開催日、門連役員人事の件、祖廟輪番奉仕（国柱会が三十六回目の奉仕）等について報告、了承された。

次に、平成十三年度決算について事務局より詳細報告の後、牧野監査より、去る五月十一日に行われた監査報告があり、承認された。また平成十三年度予算案については、平成十三年度事業計画案と併せて検討を行った結果、事務局原案通り承認された。

続いて監査任期満了に伴う「監査推薦の件」については、従来通り日蓮宗から一人、他の門下から一人の計二人を予め候補者として挙げ、この身延理事会に於いて承認することになっていたが、以前からの申し合せ事項にその対象者として過去に門連役員を経験した方、東京近郊在住の方、といったことがあり、今回もそれに則り人選を各派に依頼した。

しかし、各門下とも該当者の人選が困難であるとの返答があり、よってこれらの事情を鑑み、今後はその枠を外し、各派にお願いをすることになった。

この件については、事務局の方で次回の京都理事会までに候補者を選出しておくこととなった。

続いて地方門連活動に関する報告として、京都門下連合会（杉若恵隆理事長）より、御降誕会・立教開宗会・夏季大学・御会式について報告。大阪門下懇話会（藤村恵容理事長）は、今年で第六回を迎える京都十六本山巡拝日帰りツアー（本年は立本寺と本能寺）・合同御会式・研修会等の事業計画について報告。北海道門下連合会（佐藤光春理事長）は、会員の中でロータス会が結成された旨報告。

以上、それぞれの年間活動報告及び今後の活動方針について報告がなされた。

慶讃記念事業の進捗状況「日蓮展（仮称）」開催の方向へ

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関する件については、昨年の京都理事会で決定した「日蓮展（仮称）」の準備進捗状況について事務局より報告。開催日については前回の報告通り平成十五年一月から二月にかけて開催予定。

内容については現在東京国立博物館（以下、東博という）側と調整中である旨報告。また出展リストについて東博より提出されたものが理事会で配布された。

この日蓮展については、前号前々号にても記載された様に、ここ何年かに亘って門下連合会に於ける七五〇事業中の宿願であった。然しながらここに至るまでの道のりは必ずしも平坦ではなかったのである。

昨年五月三十日に開催された身延理事会に於いては、展示品に対する宗派の責任であるとか、準備期間不足の問題、又は開催期日の未確定など、様々な問題点を抱えた状況の中で、一旦白紙となり、展覧会開催への願いは一瞬潰えたかに見えたのである。

ところがその後、時を措かずして、フジテレビから日蓮宗に対して「日蓮展（仮称）」開催の企画について打診があったことから、もう一度仕切り直しの形でこの件について準備を進め、同年十一月二十七日に開催された常任理事会及び京都理事会に於いて、再度その企画内容について検討を行い、門下連合会の事業として承認されたのである。

現在、事務局が東京国立博物館と開催方（時期・予算等）について最終的な調整を行っており、実際の開催許可がおりた段階で、常任理事会に報告を行い、いよいよ開催に向けて実動することとなる。

その他の事業としては、門下青年会の結成について、その準備を進める事が確認された。

午後三時四十分閉会。この後、会場を下部ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催。会員相互の親睦を深めた。

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せください。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地涌出

◆これは大事だと思うことを、形にはめて子供を育てることを「しつけ」だと考えるのが一般的である。

ろくに挨拶もできない、老人に席を譲らない、といった事象を指して、「まるでしつけが出来ていない」と評される。「しつけ」ということをこの様にとらえるから、世の中全体の乱れがひどくなったと思われるのだろう。

語源的には「し続ける」ことが、「し慣れ」て「しつける」ととらえるべきである。「し続け」て「し慣れる」とやがて身に付いて、別に意識せずとも、身に付いた形で行動する、それを「しつけ」が身に付いていることだと理解すると、世の中の乱れの意味がわかってくる。

◆挨拶もできない子を「しつけができていない」と考えずに、いわば、マイナスの「しつけ」ができていると考えてみるのだ。習慣、つまり「し慣れ」てしっかり身に付いていることが、「しつけ」の成果である。

昔なりの押し付けることが「しつけ」と考え「しつけ」を実践すると、それが元々納得できる子に効果はあっても、それができないことを批難され続ける子は、「また言われた、くどいよ、もうわかったよ」と、うんざりして反発し、いわばマイナスの「しつけ」が、段々と身に付いてしまう。ここに今の子供の難しさがある。

◆身に付いてしまったマイナスの「しつけ」をプラスの「しつけ」に変えていくためには、一々やり直し続けるという「しつけ」を実践することにほかならない。今は、プラスの「しつけ」が本当に必要なときである。

（浩）

ポスト750　宗門布教の方向性　第3回　本門法華宗

つたえよう 広めよう お題目を



本門法華宗宗務総長
立教開宗七五〇奉賛会執行委員会委員長
高邊　信幸

今こそ大聖人の悲願達成を

いよいよ立教開宗七五〇年の聖日を明春にひかえて、日蓮聖人門下連合会加盟の各宗各派において、祖意に添う諸々の記念事業が、僧俗挙げて遅滞なく進められていますことは、誠に慶ばしく、この上は、それらが所期の如く円成されますことをお祈り申し上げます。

私ども「本門法華宗」におきましては、平成八年に「日蓮聖人立教開宗七五〇年奉讃会」を設け、当宗宗務院内に本部を、また各地区寺院を支部として、「お題目をいただいて七五〇年―ひろめよう　伝えようお題目を―」をスローガンにかかげて、このための記念事業、ならびに諸種の運動を展開いたしてまいりました。この奉讃会は、総裁に管長及び副総裁に閑士を推戴し、その本部に執行委員会が組織され、総長を委員長とし、宗会議長、学院長及び執事長の三名を副委員長として八名以上の執行委員をもって構成し、諸事業を企画、立案し、執行し、鋭意その具体化をすすめてまいりました。

私たちがお唱えしていますお題目は、七五〇年前の日蓮大聖人の第一声に始まりました。爾来、数多くの信仰の担い手を得て、長い歴史の流れの中で幾多の盛衰の時代を凌ぎ、お題目の灯火は、人々に受け継がれながら今に至っています。

その歴史は、外部においては聖人の遺教に信順する余り、時の権力と対峙し、内部的には、聖人の教判受容に相違を訴えて、分派・分立の時代が続いてきた。これらは、聖人の信仰を何処までも堅持して止まない信心為本にあり、教に信順するあまたの先師に導かれ、また、法華経・お題目の信仰に励まされて、人々に生きる力となり、心の拠り所として親から子に、子から孫へ脈々と息づいてまいりました。

この間、社会はますます混迷の色を濃くして、不透明の度はますばかりであります。明日に希望が、安心が抱けない人々の不安は、日々に加速している感があります。

大聖人が建長五年にお題目の第一声を叫ばれた時代、その当時と現在の様相はまことに酷似するものであると言われていますが、この行き詰まった世の中を建て直したいとの動きが高まり、このための変革・改革の声は、一世を風靡して論議がひろまってきましたし、従来のあり方に対する反省・改革の火の手は燃えさかっております。

「人々の苦悩を和らげたい、安心の日々を築かせたい」この大聖人の悲願こそ、その信仰を相続する私たちに課せられた大きな責務であります。社会に暗雲が立ちこめ、人々の心を塞ぎつつある今こそ、聖人の御心を、お題目のひびきをさらに高め、「心の変革、心の浄化」の重要さを叫びつつ、人々に「お題目のこころ」を大いに訴えることこそ、私たちの責務であります。

「日蓮が慈悲曠大ならば、南無妙法蓮華経は萬年のほか未来までもながるべし」

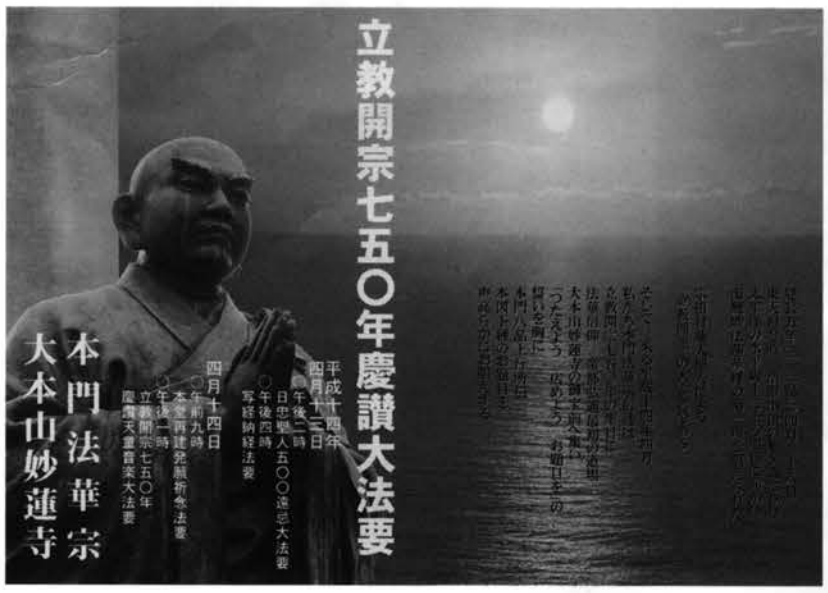
釈尊の誓願をわが一身の願いとされ、この実現のために聖人が、お題目をもって仏国土建設を疑われなかったお心を、私たちは決して忘失してはなりません。この「南無妙法蓮華経のお題目」は、七五〇年を経た今日、私たちの手に託されて祖願の成就が待たれていると自覚するべきでありましょう。

争いのない世界、お互いの生命を尊ぶ、自然の恩恵に感謝し環境をまもる。あるいは温かき家庭の回復、夫婦の信頼、親子の絆の回復など、今日言われている諸問題は、私たち一人一人の幸せのもとでありますし、これらの課題の解決に弛まぬ努力を惜しんではなりません。こうした見地から、今こそ私たちの有り様・動向が問われ、大いに注視されているとみなければなりません。世に言うところの社会の変革や、政治の構造改革も大切でありますが、今日何より叫ばなければならないことは、私たち一人一人の「こころの変革」ではないでしょうか。人としての生き方のなかに、一日も早く仏の心・本心を取り戻すことこそ、何より急務と言わなければならないでありましょう。

大聖人の

「汝、早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ」

とのお言葉こそ、私たちが改めてよく噛みしめ、心に身に刻むことが肝要であり、この大聖人のお心を原点として出発する「立教開宗七五〇年」にしたいと念願するものであると考えています。



未来を担う法器養成
復元立宗五〇年

この方針に添って、「未来を担う法器養成」「復元立宗五〇年」の二つのテーマをもって宗門教師のより一層の意識の深化をめざして記念出版事業に取り組んでおります。

すでに、前者においては元本門法華宗管長増田日紘猊下ご執筆の「法華経の虚空会説法―起顕竟法門―」上下二巻を平成十一年七月に刊行し、本宗教師の基礎教学、法門勉学研鑽の一助として立教開宗七五〇年記念出版として発刊いたしました。今日、当宗の純粋教学が時代を下るにしたがって、次第に希薄になっている現状を踏まえて、改めてその徹底を期する狙いから企画されたものであります。

後者においては「復元立宗五〇年」を迎えるにあたり、これまでの経緯を集約して、新たに『五〇年史』を発刊いたし、門末僧俗に八品下種の宗旨と、信心為本による信行の徹底を進めてまいりたいと存じます。また、門末檀信徒の啓蒙・信仰増進に資する狙いから、管長・杉本日慈猊下を煩わして、『立教開宗七五〇年―日蓮大聖人―』（仮題）の執筆により記念教本の出版を準備いたしています。この他、宗門の機関誌「生きる」「信行」をもって、立教開宗七五〇特集記事を載せて、意義の徹底をはかっています。そして記念法要に向け、「写経納経」の運動を進めてまいります。

明春4月13～14の両日、「日蓮聖人立教開宗七百五十年慶讃大法要」を、大本山妙蓮寺において奉行いたし、門末檀信徒を挙げてお題目の弘通に邁進する誓いをご奉告いたす予定で、すでにその準備に鋭意努力いたしています。

JTB For Your Travel & Life 世界をつなぐ旅と心
あなたの旅、実現させませんか？
旅の積立プラン たびたび

「たびたび」は旅の夢を確かなものにする、旅の積み立てプランです。

例えば 6カ月後の20万円で みんなそろって家族旅行
●毎月払いの場合 33,189円×6回+866円=20万円（旅行券） お支払い総額<199,134円> サービス額
●一時払いの場合 198,266円+1,734円=20万円（旅行券） 6カ月お預け入れ サービス額

例えば 1年後の80万円で 家族で海外へ
●毎月払いの場合 66,041円×12回+7,508円=80万円（旅行券） お支払い総額<792,492円> サービス額
●一時払いの場合 784,314円+15,686円=80万円（旅行券） 12カ月お預け入れ サービス額

例えば 1年後の4万円で 仲間といっしょに温泉
●毎月払いの場合 3,303円×12回+364円=4万円（旅行券） お支払い総額<39,636円> サービス額
●一時払いの場合 39,216円+784円=4万円（旅行券） 12カ月お預け入れ サービス額

例えば 3年後の30万円で 南の島へバカンス
●毎月払いの場合 8,054円×36回+10,056円=30万円（旅行券） お支払い総額<289,944円> サービス額
●一時払いの場合 279,070円+20,930円=30万円（旅行券） 36カ月お預け入れ サービス額

あなたの旅を着実に。
「たびたび」はあなたの目標に合わせて設定できます。
●お預け入れ期間:6～60カ月
●お預け入れ金額:「毎月払いコース」毎月3,000円以上、「一時払いコース」は預け入れ金額3万円以上。
満期時にはサービス額をプラスして、JTB旅行券「ナイストリップ」とお引き換えいたします。

「毎月払いコース」は便利な自動引き落し。
「一時払いコース」はサービス額がさらにお得。

JTB創業90周年記念
「たびたび」謝恩キャンペーン
サービス額 年利換算 4.25%（一時払いコース 60カ月お預入れ） いま824,743円をお支払いいただくと5年後の満期受取り時、旅行券サービス額が175,257円ついて100万円分の旅行券をお渡しします。
サービス額 年利換算 3.75%（毎月払いコース 60回払い） 月々15,217円を60回お支払いいただくと5年後の満期受取り時、旅行券サービス額が、86,980円ついて100万円分の旅行券をお渡しします。
キャンペーン期間:2001年6月から2002年3月25日まで（お申込日基準）
キャンペーンご契約条件:個人契約で旅行券面額50万円以上／支払い・預入期間1年以上
詳しくはJTB各店までお問合せください。
期間キャンペーン期間中の「たびたび」のサービス額を年平均利回りに換算すると以下のとおりになります。

お支払い（お預入れ）期間（月）	12～23	24～35	36～47	48～59	60
一時払いコース（%）	3.25	3.50	3.75	4.00	4.25
毎月払いコース（%）	2.75	3.00	3.25	3.50	3.75

※パーセントの数値は概算です。※満期日以降はサービス額がつきません。
※この表は、2001年6月から2002年3月までのキャンペーンのものです。
◆万一、お支払いに支障等ありましたら、ご遠慮なくご相談ください。旅行券購入プランの途中変更は可能です。ただし、お支払中止（解約）の場合には、当初の契約よりも契約条件はお客様に不利になる点がございますのでご注意ください。◆旅行券はお支払完了後30日以内に全国各地の当社店舗のどこでもお受け取りいただけるよう準備いたします。ただし、一時払いのコースの場合は、所定のお預入期間が経過した日以降となります。◆現金による払い戻しはいたしません。契約解除の場合にもお支払金額は、旅行券にて払い戻しいたします。

おかげさまで2002年春、JTBは創業90周年を迎えます。

残暑御見舞

平成十三年辛巳

日蓮聖人門下連合会



（平成十三年八月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―二―一
池上本門寺朗峰会館内日蓮宗宗務院仮庁舎
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 藤井 日光
宗務総長 渡邉 清明
宗務副総長 加賀美泰全
綜合企画部長 篠原 智高
庶務部長 垣本 孝精
財務部長 野坂 法雄
教務部長 中里 観正

護法伝道部長 田端 義宏
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 田澤 元泰
現代宗教研究所所長 石川 浩徳
国際開教室長 川名 義顕
人権対策室長 藤崎 一明
参与 堀江 宏正
参与 浅井 玄裕
日蓮宗新聞社社長 菊池 泰瑞

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―十九―一
電話 〇三(五六一四)三〇五五(代)
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

管長 岡本 日亘
宗務総長 原井 慈鳳
教化部長 圓成 淳龍
教学部長 桃井 晋城
財務部長 坂巻 顕導
庶務部長 矢吹 慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

教務部長 中山 日暁
宗務総長 中村 通義
宗務次長 渡辺 昭夫
社会部長 大塚 正純
庶務部長 島田 幸晴
財務部長 藤崎 行学

布教部長 大森 俊栄
主事 早川 義正
主事 多門 顯正
主事 津村 乗信
主事 飯沢 道安
主事 小松 正学
主事補 前田 成明

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 鈴木 日艸
宗務総長 土屋 善敬
総務部長 佐古 弘文
教学部長 門谷 東生
財務部長 八木 恵岳
教化部長 佐古 大弦

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

宗務本庁役員一同

講有 野﨑 日丞
講尊 梶本 日裔
講尊 井上 日慶
宗務総長 高尾 日音
宗務副総長 佐藤 日鳳
宗務副総長 藤本 博造

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六一
FAX 〇七五(四四一)五六六二

宗務総長 斎藤 隆彦
総務部長 上田 浩岳
教学部長 辻本 寛孝
教化部長 水野 智啓
財務部長 堀 智泰
社会部長 木村 完祥
主事 本多 信正
主事 足立 真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

管長 杉本 日慈
宗務総長 高邉 信幸
宗務部長 信隆 日系
財務部長 増田 隆雄
総務部長 藤井 宏長
庶務部長 土畑 信教
教務部長 音羽 隆全
門連常任理事 持地 光学

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀 日有
宗務総長 野間 正明
総務部長 長崎 秀要
教学部長 岩崎 広義
財務部長
法務部長 原 光明

日蓮本門下連合会

〒606-8376
京門連事務局
京都市左京区二条通川端東入
頂妙寺布教会館内
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長 金山 日龍
副会長 嘉儀 日有
理事長 杉若 恵隆
副理事長 野間 正明

日本山妙法寺大僧伽

〒206-0812
日本山妙法寺大僧伽事務局
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

首座 塙 行幸
老師 石山 定光
老師 吉田 行典
老師 酒迎 天信
老師 今井 行康
老師 西堀 行施
老師 二宮 和嘉
事務局長 今井 行順

国柱会

宗教法人

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

会長 田中 暉丘
理事長 大橋 邦正
門連理事 秋場 善彌
門連理事 淀野 寿夫



残暑御見舞

平成十三年辛巳

（平成13年8月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二二)一〇九四
法主 藤井日光
総務 伊藤通明
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)三三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 中山日暁
総務 大川定信
執事 山本晃道
執事 津村乗信
執事 小松正学
執事 林孝瑞
執事補 前田成朋
執事補 湯原法純

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇〇八
電話 〇二五六(三一)〇〇〇八
貫首 鈴木日舟
執事長 真保行宣
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
主 笹木研秀
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事補 足立真正
参事 小島玄城
参事 岩崎峻暉

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇(九四)〇五二五
FAX 〇四七〇(九四)〇五二七
別当 奥邨日鳳
執事長 東孝信
執事 宮崎雅宣

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七(三三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 新井智清
同 広野観順
同 田代浩敬
同 喜多村教雅

日蓮宗総本山
妙顕寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職 二十三世講有 野崎日丞
執事長 佐々木日調
事務局長 伊藤隆之

日蓮本宗本山
要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 野間正明
執事 岩崎広義
執事 原光明

鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七(二二)〇七七七
FAX 〇四六七(二二五)六九六七
貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五五四(五八)一〇〇四
FAX 〇五五四(五九)〇三〇三
貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 齊藤文曜
執事長 土橋興照

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一)一三三一
FAX 〇三(三三一)五〇〇七
山主 駒野日法

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話 〇七五(四一四)〇八〇八
FAX 〇七五(四一四)〇八四八
貫首 山田一光
執事長 原光司

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九七七
FAX 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

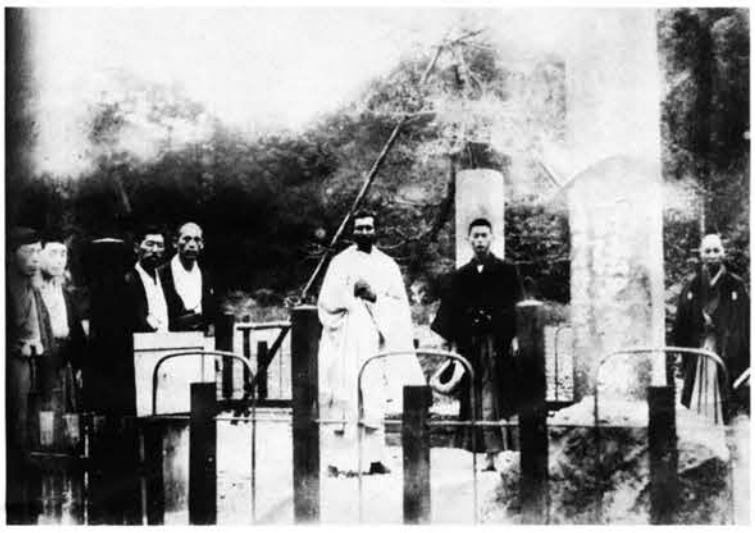
日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
FAX 〇七五(七五一)一〇〇四
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
同 安藤信行
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

門連時報

日蓮聖人鎌倉辻説法霊蹟
復興百年記念式と慶讃の集い

明治三十年、鎌倉要山に師子王文庫を創設された田中智学先生（国柱会創始者）は、日蓮聖人鎌倉御霊蹟の頽廃を慨嘆し、宗門内外にその復興を提唱されました。まず自ら、聖祖辻説法時に腰掛けられたと伝う「お腰掛石」を護持顕彰する「師子座石保存会」を結成し、やがて明治三十四年、鎌倉市小町に改めて地を相し、この「師子座石」を中心に奉祀して「日蓮大士辻説法之霊蹟」を復興されました。

本年、復興から百年という筋目を迎えて、今や、日蓮聖人史伝中の最重要な辻説法の古跡を、護持顕彰することは、日蓮聖人の遺徳、霊光を発揚するとともに、ひろく門下の風気を起こし、正法の威力を光揚していくものと確信いたします。ここに御霊蹟復興百年をとし、恩師田中智学先生の遺業に報恩感謝の誠を捧げ奉り、左記のごとく、国柱会主催により日蓮聖人辻説法御霊蹟復興百年を記念して、御事蹟のさらなる顕彰とともに御報恩、慶讃の記念法会を開催いたします。日蓮聖人讃仰の方はどなたでも参加できます。多数ご参加を期待いたします。



明治35年（1902）、鎌倉・小町霊蹟にて田中智学居士により
インド大菩提会創始者ダルマパーラと高山樗牛への授戒

日蓮聖人鎌倉辻説法
霊蹟復興百年記念法会

開催日時
　平成十三年九月九日（日）
　午前十時半　現地集合
※JR鎌倉駅東口改札口に案内者が出ております。

開催場所
　鎌倉市小町二丁目二十二
「日蓮聖人辻説法霊蹟」
記念式典
　午前十一時開式　現地御霊蹟に於いて
　大導師　国柱会会長・田中暉丘先生親修
慶讃懇親会
　会場・鎌倉「峰本」鎌倉市雪ノ下一ノ八ノ三五
　鶴ヶ岡八幡下
参加会費　六千円
　現地参加（懇親会午餐含む）
参加申込先
　主催・国柱会本部
　電　話〇三（三六五六）七一一一
　FAX〇三（三六五六）九九八〇
　（担当・石見）

京門連総会宗祖降誕会、開宗会開催

二月十六日午後一時より日蓮宗本山頂妙寺（永田恵遠日淳貫首）で京都門連の総会が開催された。二時半より永田貫首猊下導師のもと、門下本山会の貫首猊下を始め、門連会員と参列者合わせて約百二十余名が、宗祖降誕会を厳修した。また三時より、妙蓮寺貫首・杉本日慈猊下の御法話「日蓮聖人のご生誕について」が行われた。

四月二十八日、午前九時京都駅前を出発し、十時半より比叡山大講堂で三木随法上人の法話。続いて日蓮宗本法寺貫首・金山日龍猊下大導師、杉若恵隆・高見正弘正副理事長脇導師、日蓮宗雅楽会の伶倫出仕のもと、開宗会法要が厳修された。のち客殿と延暦寺会館に別れて昼食。午後一時半、定光院に参拝。本堂前で報恩法要を修した。その後叡山三塔のうち、普段はなじみの薄い西塔近辺を巡拝・観光した。

『佛立事典』配本開始―まず第一巻が

このたび、本門佛立宗・佛立事典刊行会より、『佛立事典』第一巻が発刊された。

『佛立事典』は本門佛立宗を開宗された長松日扇聖人（開導聖人）の視点から見た日蓮教学の解釈であり仏教の展開であって、開導聖人の御指南を基礎として、門祖日隆聖人・日忠上人の御指南、高祖日蓮大士の御妙判、さらには伝教の遺教、天台・妙楽の三大部、そして法華経というふうに、開導の信心を通して門祖を、門祖の信心を通して高祖を、高祖の信心を通して法華経をと逆観しつつ、蓮隆扇・三祖一轍の宗意を盛り込んでゆくというもの。

今後、全七巻の発刊を予定しており、全体は大きく三編に分かれる。

Ⅰ　索引編
日蓮大士遺文索引／日隆・日忠聖人指南索引　第一巻
日扇聖人全集用語索引（上）　第二巻
日扇聖人全集用語索引（下）　第三巻
日扇聖人御教歌／御教句類、同索引　第四巻
Ⅱ　資料編
蓮隆扇・三祖依用引用の文献（法華経、諸経、諸論、玄文止・三大部本末、伝教著書等）の資料集成　第五巻
Ⅲ　述語編
蓮隆（忠）扇の用語重要語彙解説（上）　第六巻
同重要語彙解説（下）、御教歌、御教句類、その他を含む全語彙解説　第七巻



このように本書は、佛立宗義に関する文献語彙十万余項目を蒐集整理し、さらに重要な語彙には解説を加えるという形で編集されて行く。

［お問い合せ先］
本門佛立宗・佛立事典刊行会
電　話〇七五（四六一）七三五一
FAX〇七五（四六四）五五九九
e-mail：nichiren@gold.ocn.ne.jp

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

NHK大河ドラマ「北条時宗」のメーンテーマ
鎌倉時代「元寇」という、国の一大事あり
「元寇（げんこう）」
土佐光貞
大地震と打ち続く飢饉・疫病。世は混迷し人心は悪に帰す亡国の嵐。遂に大蒙古国の襲来。日本全体を震撼させた未曾有の国難。巻き起こる雷雲、波涛に微塵となる大蒙古の巨船。他国侵逼難を予見し、戦乱に直面する人々の悲嘆を同一の苦として日本国を滅亡より救おうとされる日蓮聖人。伝承の奥に真実を描く入魂の一幅。
■「立正安国論」を唱えられた日蓮聖人のお姿がNHK大河ドラマ「北条時宗」にも登場！
■復刻版特別頒布／総縁 正絹牡丹唐草・中廻し 中金四重菱二重蔓牡丹・一文字 中金大燈金襴／軸先 金軸
軸総丈159cm×幅51cm　軸寸57cm
頒　価　60,000円（税・送料別）
特製桐箱収納（写真は仏表装仕立です）
お申し込み先　㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3　電話 03-3755-5271　FAX 03-3753-7028
※商品についてはお気軽にお問い合わせください／お申込み後、約二週間でお届けします


各派・教団 短信

顕本法華宗

◘4月25日、総本山妙満寺に於いて、顕本法華宗管長・総本山妙満寺第三〇四世貫首中山日暁猊下の法灯承継式が、僧員、檀信徒多数参列の中厳修された。

◘5月12日～13日、京都総本山妙満寺に於いて大導師新管長中山日暁猊下のもと恒例の春季大法要が厳修された。

◘6月2日、千葉県東金市文化会館に於いて日蓮大聖人立教開宗七五〇年慶讃「報恩のつどい」東部大会が東日本の檀信徒千二百人結集のもと開催された。レーザー光線とシンセサイザー、雅楽の演出による荘厳なステージに、僧俗ともに立教開宗の法悦に浸った。来年の正当に繋がるイベントに相応しく、盛況の内に幕を閉じた。

◘7月24日～27日の三泊四日の日程で、総本山妙満寺に於いて第三十八回顕本青少年錬成会が開催される。募集対象は小・中・高の児童・生徒で、定員は百人。ボーイスカウトの宗教章講座を兼ねる。（多門顕正）

日蓮本宗

◘2月7日に興師会法要と教師研修会が、本山要法寺にて開催され多数の教師が参加した。

◘3月1日に定期宗会・門末会が本山大書院で開催された。平成13年度宗政・山務行事計画及び経常部一般会計予算等がほぼ原案通り承認された。また、立教開宗七五〇年慶讃大法要は、本山にて平成14年4月28日奉修と決まった。

◘6月27日から28日に臨時宗会・門末会が開催された。議案は、日蓮本宗と本山要法寺の機構改革に伴う宗憲・規則等の全面改定についてであった。重要な問題であるので全教師に十分周知徹底する必要がある、との意見が大勢を占め継続審議となった。

◘7月1日より新内局が成立した。宗務総長・福島県蓮昌寺野間正明師、総務部長・島根県本妙寺長崎秀要師、財務兼教学部長・京都府長福寺岩崎廣義師、法務部長・大阪府本成寺（内）原光明師。（柳下正則）

法華宗真門流

◘2月23日教区所長会議、布教師会を開催、本年度各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。

◘3月25日より三日間、寺院子弟中心に僧風林を総本山本隆寺にて開催される。

◘3月30日立教開宗七五〇年慶讃唱題行脚（清澄山御尊像前より総本山本隆寺までをリレー方式にて）が実施された。

◘4月8日より27日まで、真門学林（春季）が開講された。

◘4月11日より三日間、総本山本隆寺千部会が厳修された。

◘6月3日第二教区主催『立教開宗七五〇年慶讃檀信徒結集大会』を福井県芦原町ホテル清風荘にて三百五十名の檀信徒の参加を得て開催された。

◘7月10日法華宗真門流管長、（総本山本隆寺百二世）吉田日養猊下遷化される（堀内浩善）

法華宗陣門流

◘2月3日、総本山本成寺に於いて「節分鬼踊り追儺式」が貫首鈴木日艸猊下御導師のもと厳修され、約一万人の参拝者で賑わった。

◘3月6・7日、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室に於いて、第九十八次定時宗会が開催された。

◘4月17日、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室に於いて、宗務所長会が開催された。

◘5月12日、伊豆・霊跡別院蓮着寺に於いて、「俎岩法難会」が厳修された。本年は表参道も拡張整備され、全国寺院よりの檀信徒が参拝につめかけた。

◘5月13日より6月21日までの四十日間、総本山本成寺に於いて、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。

◘5月18日より20日までの三日間、総本山本成寺に於いて、「祠堂法要」が貫首猊下御導師のもと厳修された。今年も全国寺院よりの団参で賑わった。

◘6月5日、総本山本成寺の渡り廊下改築工事地鎮祭が貫首猊下御導師のもと厳修され、完工予定の年末までの工事の無事が祈願された。（松吉慶憲）

本門法華宗

◘7月6日本門法華宗宗会が、大本山妙蓮寺卯木講堂で開催された。議題は、平成12年度本門法華宗決算の件。平成12年度本門法華宗学院決算の件。平成12年度立教開宗七五〇年奉讃会決算の件。総長選出の件。大本山妙蓮寺の件。その他で審議された。

◘大本山妙蓮寺では1月20日の本山総代会において、新本堂再建について提案がなされた。現本堂は天明8年（一七七八）の大火により、消失のため、敦賀本妙寺の祖師堂を解体移築したもので、建築以来三百有余年（移築以来二百有余年）が経過し老朽化して雨風にもちこたえるのに限界に達したため。建設委員会を発足させ、原案を作成、宗務当局と協議の上、宗会の議決を得て正式にスタートの予定。宗門本山合同で検討するが、主体は本山。

◘本門法華宗学院では、第97回教学講習会を平成13年3月26・27日に、第98回教学講習会を6月11・12日に、大本山妙蓮寺卯木講堂で開催した。

◘立教開宗七五〇奉讃会では「本門法華宗復元立宗五十年の歩み」（宗内版発行準備として、先に宗内各方面へ資料提供の協力を要請したが）編集作業に入るに際し、さらに正確な掲載のため、宗内各寺院にアンケート協力を要請。（木村光正）

法華宗本門流

◘第54次定期宗会は5月21～23日、本年一月開堂なった「法華宗宗務院新庁舎」において開催。新議長には石田智清師（沼津市・東之坊）、副議長には菅原隆岳師（吹田市・法華寺）、法務委員長には江頭正山師（武生市・久成寺）、財務委員長には渡辺俊岳師（北海道・本因寺）がそれぞれ選任され、予決算の承認可決、開宗七五〇奉讃事業として宗門主催の法要イベント開催等18議案を議定して無事閉会。尚、平成13年度全国宗務所長会は5月30日31日開催（同会場）。

◘本年二月（本能寺）、四月（本興寺）、六月（光長寺）と大本山を会場として開催した第13回教師養成特別講習会によって、新たに十八名の新発意が誕生。

◘法華宗主催、四大本山後援、全国十三教区宗務所協賛による「開宗七五〇年・報恩感謝の集い」が、本年9月29日（土）、東京国際フォーラムホールCを会場として開催される。第一部「慶讃大法要」のほか、第二部は同信の名優・緒形拳氏の「はなし」と「モンゴル・インド・ネパール　仏の道を歩く」ドキュメンタリービデオ上映（全席指定）。

◘本年度これからの教学講習会は次の三会場。北海道―8月25～27日（比布・本宣寺）、大阪―10月3～5日（ライオンズH大阪）、九州―10月16～18日（宮崎・妙経寺）。東北・東京・四国は、6月開講済。

◘第15回法華宗教学研究発表大会は、10月31日、東京・法華宗宗務院において開催予定。（矢吹慈英）

本門佛立宗

◘高祖日蓮大士立教開宗七五〇年慶讃法要奉修本部並びに奉修部会が、去る5月9日・10日の両日にわたり宗務本庁で開催され、「慶讃法要の大網」が正式決定された。本山（京都・宥清寺）三大会に全国寺院からの教講の参詣目標を四万人と定め奉修・参詣計画が進められることになっている。

◘更に、明年8月に全国の青少年が一堂に会し、3日は「ヤングフェスタ・イン・京都」と題し、国立京都国際会議場・イベントホールを会場に前夜祭を催し、翌4日には本山で「青少年総修大法要」が奉修されることになっている。

◘全国各支庁では、立教開宗七五〇年を前年に控え、別修大法要が奉修されている。

◘第五支庁（東京・千葉・茨城）では、4月28日・東京ベイNKホールにて、約六千名の参詣、特に、在京の五交響楽団から八十名を選抜して編成された「七五〇記念交響楽団」と東京混声合唱団及び信徒による〈佛立開導日扇聖人奉讃歌〉「いのち」は感動的であった。

◘第六支庁（埼玉・関越・甲信）では、去る、4月29日、大宮市民会館を、千三百もの参詣者で会場を埋め尽くした。

◘第八支庁（北海道）では、去る6月2・3日の両日にわたり、札幌・信廣寺に於いて奉修された。参詣者数は五千名を超えた。七五〇年に向けての教化運動では誓願数五千三百九十二個に対して八一パーセントの達成が奉告された。（前島照力）

日蓮宗

◘国内外で自然災害が相次いだ平成十二年（二〇〇〇年）の年が明けてまもなく、中米のエルサルバドルとインドで大地震が起き、多数の死傷者を出した。日蓮宗は日本ユニセフ協会（ユニセフ＝国際連合児童基金）から緊急援助の要請をうけ2月7日、田端義宏護法伝道部長らが東京・新宿のユニセフ協会を訪れ、日蓮宗の国際協力基金からインド大地震とエルサルバドル地震の義援金としてそれぞれ百万円を寄託した。

◘高齢社会になって、限りある命の末期を迎えた病める人の医療が重要になっている中で、「ビハーラ講座」を修了した僧侶たちが6月12日、日蓮宗内で全国的なネットワーク（NVN＝日蓮宗ビハーラ・ネットワーク）を結成した。日蓮宗現代宗教研究所が平成8年から12年まで五回開いた「ビハーラ講座」修了者が約二百人になったことをきっかけに、今後、いっそうビハーラ活動が積極的に行われ、また地域での社会活動も進められるよう、互いに横の連携をとりながら情報交換、協力連携を図るためネットワーク結成が浮上した。（金子和正）

国柱会

◘全国各地方連合局において、研修会、儀典講習会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。◘1月14日、田中暉丘会長、近畿連合局新年大会へ御西下。31日、大橋理事長、法華宗宗務院新庁舎落慶慶讃式へ。◘2月11日、紀元節慶讃法要厳修。15日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。16日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。◘3月7日、武蔵野御陵清掃奉仕。20日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会、田中会長督式のもと厳修。式後、大橋冨士子講師より「正しいお題目と大利益」の講演。24日、中央青年部、房州霊蹟参拝バスハイク。26日、大窪梅子大姉三回忌追善法会。◘4月1日、「申孝園桜まつり」開催。8日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。28日、第71回身延登詣団開催（30日まで）。立正会慶讃法要厳修。◘5月11日、大橋理事長、門連常任理事会へ。12日、伊豆法難会慶讃法要厳修。25日、名古屋局開教百十年記念全国婦人部信行の集い開催。◘6月8日、仏教伝来謝恩碑建立三十年記念青年使節団訪韓（11日まで）。9日、謝恩碑参拝国柱会訪韓団、田中会長以下訪韓。◘7月1日、第三十回必武館剣道大会開催。8日、顕正会慶讃法要厳修。11日、田中会長、スリランカでの大菩提会創立110年記念国際会議に出席。15日、盂蘭盆開顕大供養会厳修。（石見良教）

京都門連

◘1月23日、理事会。平成13年度役員確認。平成12年度決算報告。平成13年度予算案・会務事業計画。総会・降誕会の件。◘2月16日、頂妙寺にて総会・「降誕会」。平成13年度役員確認・紹介。会長＝本山本法寺貫首・金山日龍猊下、副会長＝要法寺貫首・嘉儀日有猊下、理事長＝日蓮宗京都府第一部宗務所長・杉若恵隆師、副理事長＝日蓮本宗宗務総長・高見正弘師、事務局担当は日蓮宗、と決定。平成12年度会務報告・決算承認。平成13年度会務事業計画・予算案承認。「降誕会」、導師は頂妙寺貫首永田日洵猊下。法話は妙蓮寺貫首杉本日慈猊下。「日蓮聖人のご生誕について」。◘3月14日、理事会。開宗会・夏季大学の件。また顕本法華宗総本山妙満寺から貫首・吉永日晴猊下が3月7日付けで引退、4月25日に綾部市の中山日暁猊下に法灯を継承する旨報告があった。◘4月28日、「開宗会法要」。比叡山大講堂において奉行。導師は本法寺貫首・金山日龍猊下。法話講師は三木随法師。◘6月20日、京門連主伴会。◘7月14日、理事会。夏季大学・御会式の件。年度替りによる役員交替の報告。また日蓮本宗総本山要法寺から宗務総長の高見正弘師が野間正明師に交替する旨報告があり、京門連副理事長職も交替となった。◘日蓮宗本山本法寺の金山日龍猊下が、在山20周年の12月20日に貫首職を退かれ、大塚泰詮新貫首猊下に法灯継承をされる予定。ならびに京門連会長職残りの任期は副会長の嘉儀日有猊下が代行することとなる。◘8月23日、本能寺文化会館で「第38回夏季大学」。講題と講師は、「日蓮聖人の修学について」日蓮宗本山妙覚寺貫首・頂岳日選猊下、「日蓮聖人の誓いと願い」日蓮宗現宗研前所長・石川教張師、「人間成功のコツ」PHP研究所副所長江口克彦氏。午後5時より理事会。御会式の件。

るつうぶん　流通文　るつうぶん

今年の夏は異常な暑さであるが、鎌倉時代の日蓮聖人御在世の時は、文献に残っているだけでも、いろいろと異常な気象現象が起こっている。

夏に雪や霙が降ったり、地震やそれに伴う疫病の流行。もちろん多くの人々が苦しめられた。日蓮聖人は何故にこのようなことが起こるのか、一切経を紐解かれて問題の解決にあたられた。その結論とも言えるものが『立正安国論』である。この中で、人々の仏法の受け取りに対する誤りを正された。では、現代の人々はどうであろうか。人は口々に政治が悪いと言うが、それ以前に、日本人の信仰心が希薄になっているように思えてならない。日蓮聖人お一人が初めて声を大にしてお唱えになられたお題目。お題目をお唱えする行というものを門下につらなる者は行い、自らの信心というものをあらためて見つめ直す時ではなかろうか。まずは自らの信を確立する。そこから行が生ずるのである。（谷口真也）

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成14年4月28日
第25号

立教開宗750年記念

「大日蓮展」開催決定

日蓮聖人門下連合会が、立教開宗七百五十年記念事業として進めてきた日蓮展（仮称）の開催について、その概要が左記の通り決定した。

一、**名称**　立教開宗七百五十年記念「大日蓮展」

二、**会期**　平成十五年一月十五日（水）～二月二十三日（日）

三、**会場**　東京国立博物館・平成館

四、**主催**　東京国立博物館・日蓮聖人門下連合会・産経新聞社

五、**内容**　日蓮聖人門下各派関係寺院等が守り伝えてきた霊宝、文化財を中心に展示。

六、**構成**

第一部「日蓮聖人とその門弟」
日蓮聖人の肖像、筆跡、伝絵及び門弟の肖像を出展。

第二部「法華経の美術」
法華経絵及び本尊を絵画化した曼荼羅など法華経を主題にした霊宝、文化財を出展。

第三部「外護者と信者」
日蓮聖人門下を支えた公家や武家の書状及び信者の画像を出展。

第四部「法華文化の精粋」
日蓮聖人門下の信者には狩野家、長谷川等伯、英一蝶などの優れた絵師や金工で有名な後藤家、刀剣目利きで知られる本阿弥家、書や諸工芸に卓越した本阿弥光悦など、各時代を代表する芸術家がいる。ここでは各寺に伝わる様々な文化財とともに彼らの代表作を出展する。



東京国立博物館　平成館

以上が決定した立教開宗七百五十年記念「大日蓮展」の概要であるが、前号にも報告したようにここに至るまでの道のりは決して平坦ではなかった。昨年九月に漸く東京国立博物館・日蓮聖人門下連合会・産経新聞社の三者主催が内定し、この展覧会の目的、内容、推定総額予算等について、門下各派に説明できるだけの、ある程度具体的な内容が整ったのは秋も深まる頃であった。

そして十一月の京都理事会と、それに先だって開催された常任理事会においてそれらの説明がなされ、席上活発な質疑応答がなされた。これについては、直接三者間の交渉に当たっている事務局より、推定総額予算は二億三千万円から四千万円であること、そのうち一億六千万円については日蓮宗が拠出すること、門下各派には、各寺院、檀信徒に対する動員について応分の協力を願い入場券の枚数割り当ては行わないこと、そして東京国立博物館が作成した展観希望リストに基づき門下各派各本山にまず出展協力の依頼状を送付し、その上で説明に伺うことなどが述べられ、常任理事会、理事会ともに異論はなく、門下連合会として本事業の推進が確認されたのである。

その後十二月から一月にかけて遵清明理事長名により門下各派各本山に出展協力の依頼状を送付し、事務局も要望により各所へ説明と協力依頼に伺っているが、これと並行して、東京国立博物館による出展希望リストに基づいた調査が行われている。

これはすべての所蔵寺院を対象としたものではないが、調査の過程では新たな発見もあり、担当の学芸員も驚きの声を上げている。これは過去において、日蓮聖人と法華経を中心とした展覧会がこれほどの規模で開催されたことがなく、そうした調査もあまり行われていなかったことによるものと思われる。

また一月二十八日には、野崎弘東京国立博物館長より本展覧会についての書面による開催承諾があり、これより三者による立教開宗七百五十年記念「大日蓮展」プロジェクトチームが立ち上げられいよいよ開催に向けての実動が始まったのである。今後は、予定された調査終了後リストを確定し、暦が夏を迎える頃から各所蔵寺院、または所蔵者に正式な出展依頼が行われることとなる。

三月十一日には、本展覧会の正式名称をはじめとした概要の了承を得べく常任理事会を開催し、現在の進捗状況も含めて報告を行った。この中で、推定総額予算が約二億四千万円となること、経費負担と予算執行については日蓮聖人門下連合会と産経新聞社間で協約書を締結していくことなどが報告された。

本年、日蓮聖人が清澄山上から昇り来る旭日に向かいお題目を始唱されてより七百五十年を迎え、更に、新たな未来へ一歩を踏み出す平成十五年の新春に立教開七百五十年記念「大日蓮展」を開催することは、我々門下にとってはもちろんのことだが、広く一般の方々にとって日蓮聖人とその信仰に触れていただく貴重な機会となろう。

この展覧会の開催にあたり、門下僧俗はもちろん、多くの未信の方々の展観がなされ、門下各派が更に異体同心、祖願達成に向けて邁進することが期待される。



日蓮聖人門下連合会京都理事会（平成13年11月27日、於・本山妙覚寺）

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地涌出

◆三年連続で自殺者が三万人を越えたとのニュース報道を耳にした。先の見えない平成不況下、失業・倒産と経済的事由で自らの命を絶つ中高年の方が多いらしいが、愕然とすべき数字である。カウンセリング機関の設置等識者からの指摘も出始めたが、これらの人々には心の拠り所がなかったのかと考える。命というものの大切さは、日蓮聖人『事理供養御書』に「いのちと申す物は一切の財の中に等一の財なり」のお示しの通りである。信仰の自由は憲法で保障されているし、各人の人生観死生観は多様であるが、人として生きていく上で最低の守るべきものがあるはずだ。戦後教育において宗教教育が否定された結果である。宗教心（この言葉は使いたくないが）の欠如である。◆開宗七五〇年の聖年を迎え門下各聖においては、慶讃事業が多く計画奉行されていることとは思うが、種々の現実的問題に即応すべきことは言うまでもないことである。昨年の米同時多発テロ。イスラム原理主義者タリバンによるものとされ、米国はアフガンを制裁。パレスチナ問題は未だくすぶり続けている。世界平和はほど遠いと言えよう。いずれの事例も根強い宗教的対立が背景に有る。しかし、無関係の市民が多数死傷し犠牲となっている。殺人を是認するような宗教は宗教ではない、許されるわけがない。だが、世界に戦火が止む日はない、悲しい現実である。◆これに対し、我ら日蓮聖人門下に連なるものは何をなすべきか。開宗七五〇年のこの時改めて、門下連合会結成の出発点に戻り日蓮聖人の理想を実現するためにも、門下各聖の活躍を祈念するものである。宗祖七百遠忌の門下連合会の成し遂げた諸浄業の成果を知るものとして、この聖年を機会に再び門下各聖の心を結集していただきたい。◆『異体同心事』「異体同心なれば万事を成し、同体異心なれば諸事叶うことなし……日蓮が一願は異体同心なれば、人人すくなく候へども、大事を成じて、一定法華経ひろまりなんと覚え候」の日蓮聖人のお言葉を肝に銘じ、「一天四海皆帰妙法」の実現に向って再スタートの開宗七五〇年としたいものである。

（光）

ポスト750　宗門布教の方向性　第4回　国柱会

未来を見据えて、750ネットワーク始動！

国柱会講師補　門連理事
石見良教

内における信力増進

いよいよ日蓮聖人立教開宗七五〇年の聖なる年を迎えました。

日蓮聖人は立教開宗以来正法正義を弘通するご化導に対し、他に類をみない多難迫害は、大難四か度、小難数知れずというまさに法華経勧持品の文の通りの色読でありました。ご生涯を南無妙法蓮華経の弘通で貫かれた聖人は、大慈大悲をもって、題目修行こそ成仏の直道たることをご教導下さったのです。

七五〇年という立教開宗のご聖日を記念して、本会では昭和六年より開催されている「身延登詣団」の第七十二回目を、四月二十八日の祥当日、特別の想いをもって実施いたします。身延の大祖廟に親しく拝跪して、ご報恩謝徳の至誠をこめ、「立正会慶讃式典」を挙行いたします。この佳き日を心ゆくまで慶讃し奉り、新たなる護法精進のお誓いをご廟前に立てるものであります。別してこの日は大東亜戦争の敗戦後、占領下にあった日本が、昭和二十六年にサンフランシスコにおける平和条約が昭和二十七年四月二十八日にその効力を発生して、ここに日本国は独立主権を回復いたしました。今年はこの条約が発効して文字通りの独立を回復してから五十年目にあたります。立教開宗のご聖日と日を同じくしたことは、実に吉祥なめぐり合わせであり、まさに法国冥合の感応の相であり、大事因縁の展開に感謝を深くするものであります。

この日、身延山大学の講堂において、特別講演として元参議院議員板垣正氏と元衆議院議員塚本三郎氏よりお話をいただきます。

また、九月二十二日・二十三日にかけて、聖祖立教開宗のみあとをお慕いして「全国会員房州霊蹟・本部秋季彼岸大法要参拝信行大会」を開催します。二十三日早朝、清澄旭が森に登詣。太平洋上に昇る日輪に向かい、声高らかにお題目を唱え、信力を養います。当日は国柱会本部で督式の秋季彼岸大法要に参列し、式後開宗七五〇年を記念して「信行増進、授戒の儀」を行い信行大会の結びとするのです。

さらに「インド仏蹟巡拝・体験学習の旅」を十一月二十七日より、一般の部は九日間、青年の部は七日間の予定で開催し、霊鷲山はじめ仏蹟を巡拝します。

国内各地においては、各連合局単位で会員決起大会を開催いたします。

新しい方向性への提言

日蓮聖人門下連合会では、すでに来年度初めに開催の「大日蓮展」に向けての準備が遺漏無く進んでおります。

日蓮聖人門下につらなる者としては、異体同心のもと、報恩事業の実践こそが、後世に範を示すことであると考えます。門下一丸となり、門下の統一を目指した報恩事業を今行うことが、日蓮聖人の御心にかなった意義ある行動なのです。

そのような考えから導き出したのが「異体同心、七五〇記念事業奉行、個人有志によるネットワーク作り」という構想です。国柱会ではこの構想を実現するために、有志が集い連絡機関を設置し、皆さんと手と手を携えて、いずれ訪れる七百五十遠忌をも視野に入れて共同事業の展開をはかりたく、種々の企画を立てました。あくまでも短期間の活動予定ですが、既成教団の組織枠にとらわれることのない活動を目指します。そのために、協賛者のネットワーク作りを目的として、事業を展開いたします。

具体的な活動として、三つの活動区分を決め、序分として新書版書籍『日蓮聖人とはいかなる人か―早わかり十五章―』の出版。施本・頒布活動を広く行います。

次の正宗分として、四月二十八日の立正会当日、産経新聞全国版一面に意見広告を掲載し、日蓮聖人の立教開宗の意義を広く世に訴えます。またホームページを開設し、和文英文により世界へ情報を発信します。今や、日蓮聖人の教えを広く全世界へと発信いたします。また当日首都圏においては、意見広告を教箋として宣伝活動を行います。

流通分としては、六月より九月に至るまで、全国十ブロックで講演会及び街頭宣伝活動を行います。

これらの構想を実施するための組織として、「開宗七五〇・日蓮聖人門下ネットワーク」を設立いたしました。

事務局は

〒一一三―〇〇三三
東京都文京区本郷一―二八―三六
―三〇一

[電　話03（5661）5395]
[FAX03（5661）5396]

本事業の目的は、これからの時代を担う日蓮聖人門下の結集を個人的なレベルではかり、広がりのあるネットワーク作りを目指し、広宣流布活動を行うことにあります。

三月開催の門連常任理事会でも、本ネットワークの趣旨を説明し、各派に協賛を求めました。本会単独の事業ではなく、日蓮聖人門下に呼び掛けてのネットワーク作りです。ぜひ皆様におかれましても、異体同心の実をあげるべく、新しい方向性をご理解いただき、率先してネットワーク作りの一員として活躍されますことを希望いたします。賛同者各位のお名前は、四月二十八日の産経新聞の意見広告で列記させていただきます。（原稿作成の関係上、締切りあり）協賛金は、一口一万円以上です。左記の口座にお振り込みいただくか、現金書留で事務局宛ご送金下さい。

立教開宗七五〇年は、一度限りの慶讃事業です。今を大切に、さらには未来を描き、一天四海皆帰妙法の実現に向けて、報恩行を遂行してまいりたいと思います。

郵便振替
０１２０―４―１３８０１１
日蓮聖人門下ネットワーク



橋本永邦画

九州では五月二十六日、博多の日蓮聖人銅像護持教会大堂を会場に、全九州国柱会会員決起大会を開催します。立教開宗七五〇年報恩慶讃式典はもとより、邦舞「日蓮聖人」講談「日蓮聖人の立宗と田中智学先生」を講談界の俊才神田松鯉が名調子にのせて語ります。

このように、まず内においては信力増進の行事を開催しますが、同時に対社会的に日蓮聖人の教えを広めることもなさねば、日蓮聖人門下とは言えません。

開宗750・日蓮聖人門下
ネットワークのロゴマーク

日本旅行

www.nta.co.jp

日本旅行は、ひとりひとりの夢をカタチにするために、
夢を実現するための新しい旅をお届いたします。

お得な宿泊予約サイトは下記ホームページをご覧下さい。
http://www.yadoplaza.com/AF90004491

祝　慶讃七五〇
平成十四年壬午
日蓮聖人門下連合会



（平成十四年四月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長	藤井日光	財務部長	中條令紹
宗務総長	渡邉清明	総長室長	篠原智高
伝道局長	市川智康	立教開宗七百五十年慶讃会事務局長	田澤元泰
総務局長	小松浄愼	現代宗教研究所所長	石川浩徳
伝道部長	田端義宏	参与	堀江宏正
教務部長	及川周介	参与	浅井玄裕
総務部長	曲山海弘	日蓮宗新聞社社長	西嶋宏明

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―十九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長	岡本日亘
宗務総長	渡辺俊岳
教学部長	佐々木明乗
財務部長	佐藤義賢
教化部長	高村法顕
庶務部長	有田秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長	中山日曉	教務部長	大森俊栄
宗務総長	中村通義	布教部長	早川義正
宗務次長	渡辺昭夫	主事	津村乘信
社会部長	大塚正純	主事	多門顯正
庶務部長	島田幸晴	主事	飯沢道安
財務部長	藤崎行学	主事	小松正学
		主事補	前田成明

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長	鈴木日艸	教学部長	門谷東生
宗務総長	土屋善敬	財務部長	八木恵岳
総務部長	佐古弘文	教化部長	佐古大弦

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有	野﨑日丞
講尊	梶本日裔
宗務総長	高尾日音
宗務副総長	佐藤日鳳
宗務副総長	藤本博造
	宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長	嘉儀日有	教学部長	岩崎広義
宗務総長	野間正明	財務部長	岩崎秀要
総務部長	長崎委明	法務部長	原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長	上川日乾	教化部長	水野智啓
宗務総長	斎藤隆彦	財務部長	堀智泰
総務部長	上田浩岳	社会部長	木村完祥
教学部長	辻本寛孝	主事	本多信正
		主事	足立真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長	杉本日慈	庶務部長	土畑信教
宗務総長	高邉信幸	教務部長	音羽隆全
宗務部長	信田隆日系	門連常任理事	持地光学
財務部長	増田隆雄		
総務部長	藤井宏長		

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主	田中暉丘	門連常任理事	大橋邦正
理事長	古知毅彦	門連理事	石見良教

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒604-8091
京都市中京区寺町通御池下る
本能寺内
電　話　〇七五（二三一）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八

会長	岡本日亘	理事長	桃井晋城
副会長	山田一光	副理事長	杉若恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電　話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

主座	塙行幸	長老	今井行康
長老	石山定光	長老	酒迎天信
長老	吉田行典	長老	西堀行施
長老	二宮和嘉	事務局長	森岡秀雄



祝慶讃750

平成十四年壬午

（平成14年4月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　藤井日光
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六（二）一〇一一
FAX　〇五五六六（二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中山日喨
総務　大川定信
執事　山本晃道
執事　津村乗信
執事　小松正学
執事　林孝瑞
執事補　前田成朋
執事　湯原法純
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　鈴木日艸
執事長　真保行宣
執事　鈴木顕正
執事　栗田孝之
執事　高橋俊二
執事　下間要一
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫首　上川日乾
執事長　笹木研秀
執事　矢放眞文
執事　本多信正
執事補　足立真正
参事　小島玄城
参事　岩崎峻暉
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙寺
貫首　杉本日慈
執事長　飯田信栄
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

日蓮本宗本山
要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　野間正明
執事　岩崎広義
執事　原光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十三世講有　野崎日丞
執事長　佐々木日調
事務局長　伊藤隆之
〒606-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一
電話　〇七五（四六三）四六二〇（代）
FAX　〇七五（四六三）四六五一

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
立教開宗七五〇年慶讃団参奉行
別当　奥邨日鳳
執事長　東孝信
執事　宮崎雅宣
〒209-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話　〇四七〇（九四）〇五二五
FAX　〇四七〇（九四）〇五二七

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首　山田一光
執事長　原光司
〒602-0005
京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話　〇七五（四一四）〇八〇八
FAX　〇七五（四一四）〇八四八

鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
参与　井出教道
参与　坪井親雄
参与　井野正文
執事長　土橋興照
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　長瀬日還
貫首代務　廣野日意
執事長　渡辺貞観
参与　関観康
同　新井智清
同　田代浩敬
同　喜多村教雅
同　渡辺行俊
〒272-0813
千葉県市川市中山二―十―一
電話　〇四七（三三四）三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
貫首　大塚泰詮
執事　西本泰然
〒602-0061
京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話　〇七五（四四一）七九九七
FAX　〇七五（四四一）七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　駒野日法
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　新井智清
同　安藤信行
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

門連時報

立教開宗七百五十年
京都日蓮聖人門下青年会
結成三十周年記念事業

京都日蓮聖人門下青年会は平成十四年結成三十周年を迎える。当会は平成十二年「750・30記念事業プロジェクトチーム」を発足させ、藤井照源実行委員長（日蓮宗）を中心に八項目の事業を策定し、計画を実行、本年の祥当を迎える。事業計画は、

①記念誌「京門青三十周年の歩み」の発行
②七五〇報恩行脚（市中リレー十六本山踏破）
③七五〇報恩と三十周年の集い
——平成十四年十二月十七日（発会メモリアルデー）会場・京都全日空ホテル（法要・講演・祝賀会）
④年間行事の積み重ね
⑤身延山祖廟参拝（誓願法要）
——平成十三年九月三日実行
⑥京門青のシンボルマークの作成
——平成十三年十二月策定
⑦京門青の題目旗作成
⑧団参・写経・インターネット・「門連だより」の活用

平成十四年の本年が日蓮聖人立教開宗七百五十年と京都日蓮聖人門下青年会結成三十周年の御正当を迎えるという深い仏縁に際会し、会員一同異体同心の心で事業達成に邁進している。

藤井委員長は「日蓮聖人の御報恩を原点に、京都日蓮聖人門下青年会を立ち上げ、今日までこの伝統と歴史を支えて下さった先輩各聖のご努力に感謝申し上げ、次の方々へこの思いを繋いで行きたい。願わくば、全国各地に門下青年会が誕生する事を願います」と語っている。

実行委員会の構成

実行委員長—藤井照源（日蓮宗）
実行副委員長—嘉儀吉裕（日蓮本宗）
実行委員—奥山文章（日蓮宗）、山本晃道（顕本法華宗）、川合陽雄（日蓮宗）、二之部知孝（日蓮宗）、阿南光節（本門法華宗）、梅本光祥（日蓮宗）、有田秀達（法華宗本門流）、真枝真光（法華宗真門流）

この事業は平成十二年度から平成十四年度の三ヶ年計画で進め、事業予算は四百万円。



身延山御廟所にて。誓願法要奉修。H 13.9.3

シンボルマーク決定



日蓮門下青年会

私たち門下青年会はこの度結成30周年を記念し、更なる団結と発展を創造し、門下青年会のシンボルマークを定めました。これからは、門青の顔として御認知いただきたく存じます。

顕本法華宗管長に就任して


顕本法華宗管長
総本山妙満寺貫首
中山日暁

いよいよ輝かしい御正当聖年（平成十四年壬午）の幕開けです。

顕本法華宗総本山妙満寺では、宗祖日蓮大聖人立教開宗七五〇年慶讃大法要を、来る四月二十七日より二十九日までの三日間厳修し、千載一遇ともいうべき大聖人の恩徳に感謝の誠を捧げます。本宗は、釈迦牟尼仏より日蓮聖人に受け継がれた正しい仏教の教えを、そのまま受け継いでいる「経巻相承、直受法水」の基本理念のもと、その御教えを流布すべく、門下総力を挙げて努力する新世紀弘通の聖年と致したく存じます。

昨年は、米同時多発テロ事件や、アフガンでの戦争等、我が国に於きましても経済低迷の困難な時に直面した年でしたが、一方では、争いのない平和な世界の重要性が改めて認識された年でもありました。

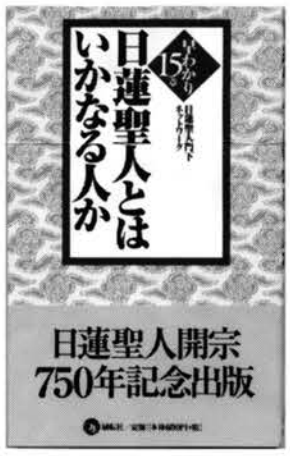
日蓮大聖人が立教開宗の際、心に誓われた「我れ日本の柱とならん」を始めとする三つの誓願は、仏陀釈尊の「一切衆生救済」の大願でもありました。

私たち人間の本当の願いとは、一切衆生すべての人々が、救われる事であります。今、地球世界は大きな危機に直面しており、現代社会に於きましても、二十一世紀は「心の時代」と云われるように、心の問題が声高に提起されています。

この混迷する現代社会の中で、宗祖のご聖年を迎えました事は、仏教徒として大変意義深い事であります。このご聖年を契機として、宗祖が達観された慈悲の心、相互受容、互いに信じ合い、尊敬し合い、万民平等の教え幸福感を多くの人々に伝えて行く事こそ、宗祖へのご報恩の誠を捧げる事になると思うのであります。

新刊紹介

日蓮聖人とはいかなる人か
早わかり15章
日蓮聖人門下ネットワーク編



立教開宗七五〇年という記念すべき年を迎え、その奉讃と日蓮聖人の教えや意義を広く世に訴えるため、コンパクトな〝日蓮聖人入門〟が刊行された。編集の「日蓮聖人門下ネットワーク」は有志の集り（2面参照）。内容は全十五章立てでわかりやく便利な構成となっている。今までにないタイプであり是非一読をお薦めしたい。

◆新書並製
120頁
定価630円
発行・展転社
全国書店で発売中。



立教開宗750年を
お慶び申し上げます

株式会社　日蓮宗新聞社

各派・教団・短信

顕本法華宗

▼8月25日～9月8日の15日間の日程で、総本山妙満寺において、妙塔大学林本科（一学年）・研修科（二学年）を開講。参加者十余名が本宗教師としての行学二道の修行を満了した。

▼11月17日～18日、顕本・陣門・真門による三宗派統合学院学生講座を、本宗当番により品川天妙国寺において開催した。講題は「開目鈔に学ぶ」、講師は本宗大学林長山本学人師。

▼僧員講習会が西部地区は11月9日、総本山妙満寺で、東部地区が11月19日、品川天妙国寺において開催された。東西各々若手教師による模擬講演形式で、パソコンなどを駆使した新しい講演手法の研究発表を行った。

▼2月18日～19日、千葉市のホテルサンガーデン千葉において、第57宗会が開催された。

（多門顕正）

法華宗真門流

▼立教開宗七五〇年記念結集大会が、各教区主催にて開催された。第一教区は平成13年9月16日、会場・大阪市「エルおおさか」にて開催、第二教区は6月3日、会場・福井県芦原町、ホテル清風荘にて開催。第三教区は9月9日、会場・姫路市、市民文化会館にて開催、第四教区は4月28日、会場・小樽市、小樽国際ホテルにて開催。

▼第一、二、三種講習会開催。8月23日より29日まで、総本山本隆寺に於て四十余名が受講し、講義、法要式の実習が続けられた。

▼北海道支学林が8月23日より30日まで開講された。

▼8月26日、総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展覧法要を開催。

▼10月12～13日、総本山本隆寺御会式奉修。13日、初転法輪挙行。

▼11月6日、貫首推戴会が開催され、総本山本隆寺住職、上川日乾師を推挙。尚、晋山式は、平成14年3月3日。

▼12月6日、総本山本隆寺にて定期宗会が開催された。（堀内浩善）

法華宗陣門流

▼6月16～17日に三宗統合協議会・統合学院学生講座が、巣鴨宗務院に於いて開催された。講師に法華宗（真門流）宗学研究所所員・学林学監田中諦史先生をお迎えした。講題は「日真大和尚の祈祷経について」であった。

▼9月6～7日、法華宗中央行学講習会が、大阪市中津に於いて開催され、百三十人余りの出席者がつどった。第一日目第一講義に清澄寺別當・奥郷日鳳師をお招きし、講題は「日蓮大聖人御題目始唱の血願」であった。第二講義は本宗宗学研究所所長・鈴木正厳先生で、演題は「寿量顕本の意義」であった。講習会二日目は本宗関西教区寺院、大阪・夕願寺・須磨・聖徳寺・中筋・妙玄寺の三ヶ寺を参詣した。

▼11月17～18日に三宗統合協議会・統合学院学生講座が、顕本法華宗・天妙国寺に於いて開催された。講師に顕本法華宗・妙塔学林長山本学人先生をお迎えした。

▼2月3日新潟県三条市総本山本成寺に於いて、節分会追儺式が鈴木日艸猊下御導師のもと執り行われた。本山に於ける節分は、法要後に本堂で行われる鬼踊りが一つの名物となっており、踊りが行われる時間に特に参詣者が集中する。しかし、集中する参詣者に十分対応しきれない場合があり、設備の充実が求められてきた。本年は5月に控えた立教開宗七五〇年千部大法要に向け、本堂に至る渡り廊下の全面改修事業と、多くの参詣者に対応する為の諸処の整備を終えたばかりで、多くの参詣者がより良くなった伽藍に喜ばれていた。

（今井満良）

本門法華宗

▼大本山妙蓮寺では、4月13日・14日に立教開宗七五〇年慶讃大法要を奉修する。13日午後2時・第一座日忠聖人五百遠忌大法要。午後4時・第二座写経納経法要。14日午前9時・第三座本堂再建発願祈念法要。正午稚児行列出発。午後1時・第四座立教開宗七五〇慶讃天童音楽大法要。以上の予定。

▼大本山妙蓮寺「秋の寺宝展」が去る9月14日より3日間、恒例の虫干しに伴い、開催された。宗祖日蓮大聖人御本尊・御消息他が一般公開された。

▼平成13年10月12・13日大本山妙蓮寺では、日蓮大聖人御会式法要奉修。12日遠夜法要には万燈会・奉納音楽。

▼同11月12日大本山妙蓮寺御開山日像菩薩御報恩法要を奉修。日慶・日忠・日応聖人三師会並びに歴代聖人年忌法要併修。

▼本門法華宗学院では、第99回教学講習会を平成13年9月6～7日に、第100回教学講習会を同11月26・27日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催。

（木村光正）

法華宗本門流

▼平成13年9月29日法華宗が主催する、開宗七五〇記念大法要が東京国際フォーラムにおいて、参加者約二千名の結集と共に奉修された。法要は「僧俗一体」「報恩感謝」をスローガンに、第一部は宗祖御真筆二十八紙大曼荼羅（光長寺蔵）、鷲巣の宗祖御尊像（日法聖人作・鷲山寺蔵）出開帳の御前において慶讃大法要が奉修された。第二部は法華宗信徒の俳優・緒形拳氏による「信心相続」の語りとドキュメンタリービデオ「モンゴル・インド・ネパール仏の道を歩く」が上映された。大法要の翌日9月30日には、僧俗約三百人が清澄山旭が森に集まり「報恩感謝」の唱題行が奉修された。

▼平成13年10月31日法華宗宗務院教学において第十五回法華宗研究発表大会が開催され、基調講演「法華天台両勝劣抄をめぐって（大平宏龍先生）」を含む七人の発表が行われた。最後に特別講演として田中俊弁護士による「少年犯罪をめぐる諸問題」の講演が行われた。

▼平成13年12月10日法華宗宗務院仏殿において、原井前内局退任式が執り行われた。原井内局は、平成9年12月に発足し原井慈鳳宗務総長、圓成淳龍教化部長、桃井晋城教学部長、坂巻顕導財務部長、矢吹慈英庶務部長の5名が職務につかれ、宗務院庁舎移転・開宗七五〇大法要をはじめとした数多くの事業を成就され、四年間の任期を満了された。引き続き同場所において、渡辺新内局就任式が行われた。新内局は、渡辺俊岳宗務総長（北海道・本因寺）、佐々木明乗教学部長（徳島・妙法寺）、佐藤義賢財務部長（東京・信隆寺）、高村法顕教化部長（今市・瑞光寺）、有田秀達庶務部長（京都・恵昇院）が新たに任命された。

▼平成14年、開宗七五〇を記念し各本山で大法要が奉修される。大本山光長寺（静岡県沼津市）4月5・6日、大本山鷲山寺（千葉県茂原市）4月6・7日、大本山本能寺（京都府京都市）5月4・5・6日、大本山本興寺（兵庫県尼崎市）5月6・7・8日。古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連錦とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成14年度新入生募集中。

（中道善信）

本門佛立宗

▼平成13年10月22日、法寿九二歳をもって、ご遷化された佛立第二十二世講有・井上日慶上人の宗葬儀が、去る2月22日、本山宥清寺で講有日丞上人の導師のもと厳修された。全国宗内外より一千名が会葬参列した。

▼宗務本庁弘通局では、平成13年度の全国寺院の弘通成績をまとめ発表した。報恩教化五人以上の成就者（三五七名）に対して、四月の本山宥清寺・総修大法要で随喜状が授与される。

▼三回にわたる高祖立教開宗七五〇年慶讃総修大法要が、4月21、22日を皮切りに奉修される。全国から約四万人の参詣を目標に、総修本部では、教化親子、家族参詣を促進している。その他、8月4日には青少年総修大法要が奉修される。なお、平成8年より開始された「一人ひとり・七万五千人教化」も誓願達成に近づいている。

（前島照力）

日蓮宗

▼立教開宗七百五十年のご正当を目前にして、明日を担う子供たちが日蓮聖人のみ心に触れるきっかけをつくり、信仰心を育むことを目的とした日蓮宗立教開宗七五〇年慶讃スカウトジャンボリー（日蓮宗宗務院・日蓮宗スカウト連絡協議会共催）が千葉県夷隅郡大多喜町・妙厳寺等を会場に八月十七日から十九日まで開かれた。小学生から大人までの日蓮宗スカウト・六団（目黒15団・大田17団・金沢12団・御殿場6団・市川8団・富士4団）総勢約二百八十人が参加。参加者は清澄寺でお経を唱えたりお題目を写経、旭が森では日蓮聖人像を参拝するなど、日蓮聖人のみ教えを心と体で感じた三日間を過ごした。

▼一人ひとりが世界の平和を願い、国際協力への一歩を踏み出して欲しいと日蓮宗宗務院は、日本ユニセフ協会の後援で十一月二十八日、東京・新宿常圓寺で「アジアンフェスタ二〇〇一　メコンを渡る～国際協力への道～」を開いた。文化交流会・タイの舞踏家による民族舞踏・チャリティーバザーが行われ、新宿駅西口では、アフガン難民救援募金を行った。募金等を合計して、十八万三千三百円がユニセフを通してアフガン難民救援基金に送られる。

（金子和正）

国柱会

▼全国各地方連合局において、研修会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎月17日、恩師田中智學先生報恩法要厳修。

▼平成13年7月16日、宣正会慶讃法要厳修。28日、田中暉丘会長北海道連合局開局記念大会へ。30日、明治天皇祭厳修。

▼8月4日、申孝園ロータスヴィラ納涼大会開催。6日、国柱会本部主催少年少女夏期学校を長野県黒姫高原にて開催（8日まで）。11日、国柱会「青年の集い」を本部において開催。15日、田中会長以下、靖国神社参拝。26日、大白牛院謙宝日乗大居士第六回忌追善法要厳修。

▼9月2日、婦人部主催・申孝園のつどいを本部で開催。9日、田中会長以下、日蓮聖人鎌倉辻説法霊蹟復興百年記念式典へ。式後慶讃の集いと小川泰堂居士墓参。12日、龍口法難会慶讃法要厳修。14日、申孝園ロータスヴィラ開設二十周年記念式典。15日、申孝園ロータスヴィラ合同慰霊祭厳修。田中会長、スリランカ大菩提会主催のダルマパーラ生誕一三六年記念式典へ。23日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。

▼10月7日、講師補任用試験開催。10日、佐渡法難会慶讃法要厳修。12日、池上本門寺にて日蓮主義宣伝開催。13日、聖祖鶴林会報恩法要厳修。20日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕開催。27日、第三十七回身延大祖廟輪番給仕開催（翌日まで）。

▼11月3日、田中会長以下、明治神宮参拝。4日、婦人部蓮華サークルを本部にて開催。11日、小松原法難会慶讃法要厳修。16日、恩師田中智學先生第六十三回忌御逮夜法要厳修。17日、恩師田中智學先生第六十三回忌報恩大法要厳修。式後、報恩の集い開催。18日、全国定例協議員会開催。29日、岩間日勇猊下本葬へ、田中会長以下参列。

▼12月2日、皇太子殿下内親王御誕生にともなう奉祝の集いへ同志参加。8日、式士任用試験開催（翌日まで）。16日、憶年会開催。23日、天長節慶讃法要厳修。31日、福茶の会。送旧迎新法要厳修。

（石見良教）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん
流通文
るつうぶん

第二十五号をお届けします。門下各派各聖のご協力にこの場をお借りし深謝申し上げます。さていよいよ立教開宗七五〇年を迎えました。一面でご報告した通り記念事業として「大日蓮展」の開催が決定しました。紆余曲折ありましたが、この展覧会の開催により日蓮聖人とその信仰が、広く一般の方々の目に触れていただく機会となれば、門下として喜ばしい限りです。一方、二面にありますように有志による「日蓮聖人門下ネットワーク」の設立もあります。メディアやインターネット、出版などの活用、全国十ブロックで講演会・街頭宣伝を行い、立教開宗の意義を広宣流布し、次代を担う門下の結集を計るという試みです。こちらも注目するところ大です。

（隆）

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成14年11月28日
第26号

立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」開催

平成十五年一月十五日～二月二十三日
於 東京国立博物館

既報の通り明年一月十五日から二月二十三日まで、東京国立博物館において立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開催されるが、今般十月十八日午後三時三十分より東京日比谷の日本プレスセンターにおいて新聞・TV等約六十社を集めて記者発表が行われた。

当日、日蓮聖人門下連合会からは渡邉清明理事長、東京国立博物館からは宮島新一企画部長、産経新聞社からは齋藤繁取締役事業局長がそれぞれ主催者を代表して挨拶、その後、展覧会の概要説明及び質疑応答が行われ、午後五時閉会した。

その中でとくに注目を集めたのは、今回の事前調査で新たに発見された長谷川等伯作品「鬼子母神十羅刹女像」である。その説明は後述するが、この作品を始めとして四部門構成で行われる本展覧会のそれぞれを代表する作品についても説明がなされた。

本展覧会の出品宝物・美術品については現在最終確定を急いでいるが、国宝・重文約五十件を含む百七十件程度になる見込みである。

現在門連加盟各派にポスター・チラシが配布され前売券の販売が行われているが、今後の団体の積極的な動員が期待される。

以下報道資料に基づき本展の概要と、その主要作品を示す。

〈以下報道資料〉


日蓮聖人坐像

展覧会概要

鎌倉時代には、禅宗、浄土真宗、時宗など多くの宗派が興りましたが、我々日蓮門下各教団の祖である日蓮聖人もまた、鎌倉時代に教えを興されました。日蓮聖人の布教スタイルが、他宗派を激しく批判するものであったため、一門は鎌倉幕府などからの激しい弾圧にさらされますが、ついに屈することはありませんでした。弘安五年（一二八二）、聖人は六十一歳の波乱に満ちた生涯を終えますが、その信仰は高弟たちによって広められ、今日の隆盛をみるにいたります。

今回の展覧会は、その日蓮門下のお寺に伝わる聖人ゆかりの品々、法華信仰にまつわる美術品、さらには、宗門に帰依した多くの芸術家たちの作品を取り上げ、一堂に展示しようとするものです。

教科書でおなじみの「立正安国論」（法華経寺　国宝）や、聖人の姿を忠実に写したとされる妙本寺の「日蓮聖人坐像」、今回新たに発見された長谷川等伯筆の仏画（鬼子母神十羅刹女像）などこれまで門外不出とされた品々が数多く陳列されます。日蓮聖人が法華経信仰の弘通（布教）を始めてから七五〇年を経た今、その歴史と文化をたどるこの展覧会を、ぜひ多くの方々に鑑賞していただきたいと思います。

開催要項

名称　立教開宗七五〇年記念　大日蓮展

会期　二〇〇三年一月十五日（水）～二月二十三日（日）

会場　東京国立博物館　平成館（上野公園）

開館時間　午前九時三十分～午後五時（入館は閉館の三十分前まで）

休館日　毎週月曜日

主催　東京国立博物館、日蓮聖人門下連合会、産経新聞社

後援　文化庁、フジテレビジョン、ニッポン放送、サンケイリビング新聞社

観覧料　一般一三〇〇円（一一〇〇／九五〇円）高校・大学生九〇〇円（八〇〇／五一〇円）小・中学生四〇〇円（三〇〇／二三〇円）

＊（　）内は前売り／二〇名以上の団体料金。

＊障害者とその介助者一名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

＊前売り券は加盟各団体の事務局、各宗務所より十一月上旬取扱い開始。

交通　JR上野駅公園口・鶯谷駅より徒歩十分、営団地下鉄日比谷線・銀座線上野駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩十五分

お問い合わせ

【会場案内】ハローダイヤル
〇三（五七七七）八六〇〇
ホームページ
http://www.sankei.co.jp/event/index.html

【広報案内】「大日蓮展」広報事務局
〇三（三五七八）三七九〇

記念講演会

■一月二十五日（土）午後一時三十分～三時「日蓮その人へ」
講師：立松和平氏（作家）

■二月十一日（火・祝）午後一時三十分～三時「法華経のたび人　日蓮」講師：中尾堯氏（立正大学名誉教授）

＊いずれも平成館大講堂にて。定員三八〇名（当日先着順）

関連イベント

■二月十五日（土）午後二時～三時
雅楽公演　橘雅友会

■二月十六日（日）午後二時～三時
聲明公演「法華懺法」聲明研究会

＊いずれも平成館大講堂にて。定員三八〇名（事前申込制・お申し込み多数の場合は抽選）

＊お申し込み方法：往復ハガキにご希望の日にちと公演名（雅楽か聲明）、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、〒一〇五―〇〇〇一　東京都港区虎ノ門三―六―二　第2秋山ビル7F　大日蓮展広報事務局イベント係までご送付ください。一月三十一日（金）締切（当日消印有効）

展覧会四部門の構成と主な展示宝物解説

一　日蓮聖人とその門弟

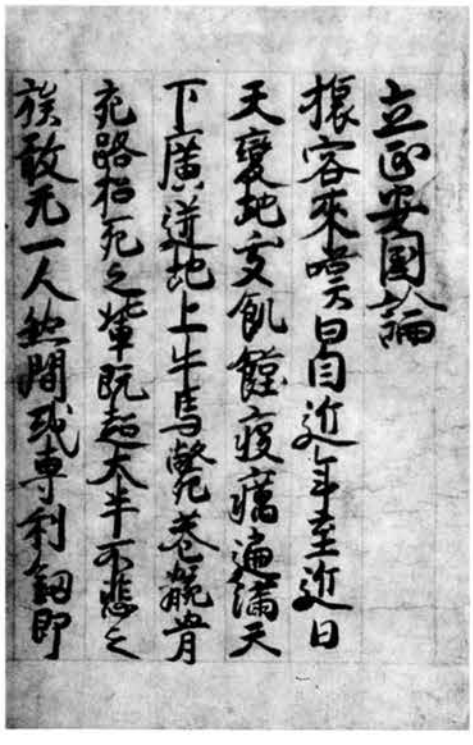
日蓮聖人は立教開宗以後、鎌倉幕府に「立正安国論」を上呈し、純粋な法華経信仰への回帰を求めたが受けいれられず、かえって弾圧や妨害にあった。しかしそれに屈することなく、着実に弟子や信者を増やしていった。日蓮聖人の肖像はいずれも骨太で、よくその人柄を伝えている。日蓮聖人の高弟である日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持の六人は、現在の山梨、静岡、鎌倉、千葉、東京を拠点に布教し、それぞれ教団を築いた。その後、日朗の門下である日像は京都に進出し、足利将軍家の後ろ盾を得て西国に勢力を拡大した。

ここでは、日蓮聖人と弟子たちの像や著者などをご覧いただく。

主な展示作品

日蓮聖人坐像（左上に奉掲）
鎌倉時代・十三・十四世紀、像高七六・八㎝、神奈川・妙本寺蔵

不屈の精神力を備えた日蓮聖人の面影を髣髴とさせる、等身大の堂々たる肖像彫刻。強装束のように角張った衣の表現は、鎌倉時代の武将像に通じる。没年の弘安五年（一二八二）をあまり隔たらない頃の作だろう。日蓮聖人像の代表作。


立正安国論（一部）

国宝　立正安国論（左に奉掲）
日蓮筆、鎌倉時代・十三世紀、二九・四×一五九八・五㎝、千葉・法華経寺蔵

日蓮聖人の遺した多数の著作のうちもっとも有名なもので、その信仰と思想をよく表している。文応元年（一二六〇）七月十六日に当時の幕府の権力者北条時頼に上呈した。その後、本書は日蓮聖人自身により何度も書き写されたことが知られるが、本巻は、奥書によって、文永六年（一二六九）十二月八日の書写本であることがわかる。

曼荼羅本尊　神奈川・妙本寺蔵
曼荼羅本尊は、日蓮聖人の信仰体験に基づく法華経の救済の世界を表したものである。この幅は、日蓮聖人が最晩年の弘安三年（一二八〇）三月に身延山で書き、同五年に武蔵国池上で入滅した時に、その枕頭にかけられていたものと伝えられる、臨滅度時の本尊として広く知られている。

二　法華経の美術

法華経では、造仏・造塔・写経などの功徳が説かれ、また経の内容自体も豊かな芸術的イメージに富んでいる。このため、鎌倉時代に法華信

従地涌出

◆「文永十一年十月に蒙古国より筑紫によせて、対馬の者……百姓等は男をば或は殺し、或は生取りにし、女をば或は取集めて手をとをして船に結付、或は生取にす。一人も助かる者なし」（一谷入道御書）。戦争とは、いつの世でも、女性や子供そしてお年寄りが一番被害を受ける。悲しいことに、宗祖の鎌倉時代と現代とは、時代は離れていても同じ末法であり、その様相において異なるところはない。◆平成十三年度の漢字コンテストで、一年を象徴する字として一番になったのは「戦」。平成十三年九月十一日のニューヨークの同時多発テロは世界を驚愕させた。三千人近い尊い人命を奪った犯人はウサマ・ビンラディンとして、米政府は報復のため、これをかくまうタリバンが支配するアフガニスタンを爆撃し、政権を崩壊させた。しかし、未だ犯人の生死も確認できず、爆撃は逆に一般市民数千人の死傷者をもたらした。◆このテロの背景には、イスラム教の過激派が存在する。イスラム教は六世紀にマホメットが教えを説いたことに始まり、彼は戦いをしながら布教したことが特色であり、スペインからインドまで支配した時代もある。アラーを唯一の神と崇め、偶像崇拝を禁止しているため、タリバンはバーミヤンの大仏を破壊する暴挙を行った。イスラム教徒は、一日五回の礼拝、喜捨、巡礼を行い、日常的にも禁酒、豚肉を食べず、女性のベールや一夫多妻などの習慣があり、斬首、手足切断などの刑罰を行うことも認められている。これを過激に実行したのがタリバンである。◆しかし、世界の平和は報復では決して訪れない。「恨みは恨みによって止まず、恨みは恨みなきによってのみ止む」「もし争いをもって争いを止めんと欲せば、ついに止まることを得ず」という釈尊のお言葉が示している。「命と申すは一切の財の中の第一の財なり」仏教の慈悲の教えにより、世界の一人ひとりの生命を大切にし、真の平和・立正安国が訪れることを念願する。

（小林正雄）

仰を鼓吹した日蓮聖人の門流では、さまざまな美術工芸品が制作された。その本尊を絵画にした絵曼荼羅をはじめとして、霊鷲山で説法する釈迦如来像の彫刻、法華経守護神像の絵画、さらに経の内容を描く法華経絵や、きらびやかな装飾経・経箱など、多彩な法華経美術を概観する。

主な展示作品

重要文化財　金銅宝塔
覚性作、南北朝時代・応安三年（一三七〇）、高九八・一cm、京都・本法寺蔵



木製黒漆塗基壇の上に、金銅製の宝塔を据えた大形で精巧な舎利塔。応安三年（一三七〇）、近江の守護六角氏頼が造営して、同国の慈恩寺に施入したことが銘文に記される。その後、文禄四年（一五九五）に本法寺の衆檀が買い求めた。現在は塔内に法華経一巻が納められている。

重要文化財　釈迦如来坐像
岡山・妙圀寺蔵
像底に記された銘文により、延文三年（一三五八）に蓮慶六代の孫を名乗る慶派仏師、康俊により造られたことがわかる。妙圀寺はこの時天台宗に属していたが、貞治五年（一三六六）本圀寺日伝との法論を経て改宗した。

三　外護者と信者

日蓮聖人の弟子とその門流によって広まっていった教えは、加藤清正や徳川家康の側室お万の方、そして水戸光圀といった熱心な信者の外護を受けて発展していった。ここでは日蓮聖人の教えを厚く信奉した人々の画像や、手紙、奉納品などゆかりの品々を展示する。「南無妙法蓮華経」の題目が記された肖像画などに、法華経信仰を軸とした生活がうかがえる。

また、長谷川等伯などの信仰と結びついて制作された作品を展示する。

主な展示作品

重要文化財　仏涅槃図
長谷川等伯筆、桃山時代・慶長四年（一五九九）、七九二・八×五二一・七cm、京都・本法寺蔵



本法寺の「大涅槃図」と称される巨幅で、描表装を加えた総寸は縦一〇メートル近い。長谷川等伯が六十一歳の時、一族の供養のために自身で描き本法寺に寄進したもの。等伯晩年の代表作で、開眼供養前に宮中で上覧された。

蓮池蒔絵舎利厨子　個人蔵
金粉を密に蒔き付けた金地に仕立て、金銀の高蒔絵で蓮池文様を描く。金色燦然たる豪華な厨子である。銘文によれば、蒔絵は五十嵐道甫、金工は後藤程乗が担当しており、熱烈な法華信者の合作であることがわかる。

四　法華文化の精粋

日蓮門下の信者に、幕府お抱えの狩野家や、長谷川等伯、英一蝶などのすぐれた絵師がいたことはよく知られている。また、他の分野をみても、稀世のアートディレクター本阿弥光悦をはじめ、やきものの尾形乾山、蒔絵の五十嵐家、金工の後藤家など、その顔ぶれはまさに多士済々の感がある。このコーナーでは、彼らの代表的な作品を集め、日蓮門下の寺院に伝わるさまざまな文化財とあわせて展観する。

主な展示作品

色絵紅葉図透彫反鉢
尾形乾山作、江戸時代・十八世紀、高一二・〇cm、口径二〇cm個人蔵
端を外に大きく反らせ、葉のあわいを透かした愛らしい形の鉢。白化粧をした地に、赤、黄、緑の色を用いて流水に楓の文様を描く。鮮烈な彩りが見るものの目に焼き付く、まことに印象深い作品である。



七面大明神応現図
茨城・妙光寺蔵
葛飾北斎は日蓮聖人への崇拝厚く日蓮聖人像を安置していた。日蓮聖人説法の場にいた妖艶な美女が七つの顔を持つ龍の姿に変わり、身延山の守護を誓ったという所伝にまつわる絵画で、動揺する人々とは対照的に日蓮聖人が泰然とした姿で描かれている。北斎八十八歳の作。

新発見

長谷川等伯の「鬼子母神」
―大日蓮展の調査で明らかに―

鬼子母神十羅刹女像
長谷川等伯筆、室町時代・元亀二年（一五七一）、絹本着色、掛幅
総寸法　縦一八五・〇cm　横五九・〇cm、画面寸法　縦一〇三・五cm　横三八・〇cm、富山・妙伝寺蔵



作品について
桃山時代の代表的画家・長谷川等伯（一五三九～一六一〇）の作品を新たに発見した。等伯が信春と称した時代に描いたものであることが本展覧会の調査で判明した。

中央に鬼子母神が描かれ、そのまわりには十羅刹女が立ちならんでいる。鬼子母神は下の方をみつめているが、その視線の先には、女性信者が、わが子が無事に生まれ育つようにと祈願している姿が想像できる。精妙で美麗な衣装の描写は、等伯がこの時期に制作した仏画に共通してみられる表現である。鬼子母神の顔の部分が特に磨耗しているが、これは御利益に与ろうとして信者が手で触れたためであろう。

画面に「元亀二年十一月十九日」とあるが、これは妙伝寺第三代住職の仏蔵院日敬（一五八四年没）が本作の開眼供養を行った日に記したものである。等伯は、翌年元亀三年（一五七二）には、郷里の七尾から京へ本拠を移していたはずで、本作の出現によって、彼が上洛したと考えうる最も遅い時期が示されることになり、等伯の年譜に新たな一行が記されることになった。

作者について
長谷川等伯は能登（石川県）七尾の生まれ。能登在住時には仏画や肖像画を描き、その後上洛。四十歳代に等伯と改号するまで信春と称した。等伯が興した長谷川派は狩野永徳が率いる狩野派と拮抗するまでとなり、作品に「雪舟五代」と記して雪舟正系を標榜した。また千利休、本法寺日通上人との交わりも深く、彼らの肖像画も描いている。代表作品は、国宝の松林図屏風（東京国立博物館蔵）、知積院障壁画など。

発見の経緯
本作は、制作当初から妙伝寺で寺宝として保管されていたが、近代以降長らく、掛けられる事もなく、また筆者など広く知られることはなかった。

「大日蓮展」開催にあたり、展覧会出品候補の調査のため、東京国立博物館の列品課・松嶋雅人研究員が平成十四年六月二十日に妙伝寺を訪問した。当日は、別の宝物を調査する予定だったが、同行の日蓮聖人門下連合会の関戸堯海師がたまたま本図を拝見したところ、「長谷川信春」の署名を確認することができた。

これまで寺外で公開されたことは一切なく、本展覧会が一般にお披露目される初の機会となる。



祝　慶讃七五〇
平成十四年壬午

日蓮聖人門下連合会

（平成十四年十一月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管　長　藤井　日光
宗務総長　渡邉　清明
伝道局長　市川　智康
総務局長　小松　浄愼
伝道部長　田端　義宏
教務部長　及川　周介
総務部長　曲山　海弘

財務部長　中條　令紹
総長室長　篠原　智高
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　田澤　元泰
現代宗教研究所所長　石川　浩徳
参与　堀江　宏正
参与　浅井　玄裕
日蓮宗新聞社社長　西嶋　宏明

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―十九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管　長　有原　日龍
宗務総長　渡辺　俊岳
教学部長　佐々木　明乗
財務部長　佐藤　義賢
教化部長　高村　法顕
庶務部長　有田　秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管　長　中山　日暁
宗務総長　中村　通義
宗務次長　渡辺　昭夫
社会部長　大塚　正純
庶務部長　島田　幸晴
財務部長　藤崎　行学

教務部長　大森　俊栄
布教部長　早川　義正
主事　津村　乗信
主事　多門　顕正
主事　飯沢　道安
主事　小松　正学
主事補　前田　成明

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管　長　鈴木　日艸
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳
教化部長　佐古　大弦

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東堅町一一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講　有　野崎　日丞
講　尊　梶本　日裔
宗務総長　高尾　日音
宗務副総長　佐藤　日凰
宗務副総長　藤本　博造
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　野間　正明
総務部長　長崎　秀要
教学部長　岩崎　広義
財務部長
法務部長　原　光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管　長　上川　日乾
宗務総長　斎藤　隆彦
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
財務部長　堀　智泰
社会部長　木村　完祥
主事　本多　信正
主事　足立　真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙　蓮　寺　内
電　話　〇七五（四五一）三三五二
FAX　〇七五（四五一）三三五九七

管　長　杉本　日慈
宗務総長　高邉　信幸
宗務部長　信隆　日系
財務部長　増田　隆雄
総務部長　藤井　宏長
庶務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
門連常任理事　山下　通雄

国柱会

宗教法人

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛　主　田中　暉丘
理事長　古知　毅彦
門連常任理事　大橋　邦正
門連理事　石見　良教

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒604-8091
京都市中京区寺町通御池下る
本　能　寺　内
電　話　〇七五（二三一）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八

会　長　岡本　日亘
副会長　山田　一光
理事長　桃井　晋城
副理事長　杉若　恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電　話　〇四一（三七八）三三九五
FAX　〇四一（三七九）〇七四四

主　座　塙　行幸
長　老　石山　定光
長　老　吉田　行典
長　老　酒迎　天信
長　老　今井　行康
長　老　西堀　行施
長　老　二宮　和嘉
事務局長　森岡　秀雄

祝慶讃750　平成十四年壬午

（平成14年11月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四

法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

貫首 中山日暁
総務 大川定信
執事 山本晃道
執事 小松正学
執事 林孝瑞
執事補 中村栄司
執事補 森田修応
執事補 湯原正純

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八

貫首 鈴木日艸
執事長 真保行宣
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

貫首 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

日蓮本宗本山
要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 野間正明
執事 岩崎広義
執事 原光明

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六一〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一

住職二十三世講有 野崎日丞
執事長 佐々木日調
事務局長 伊藤隆之

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒209-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇（九四）〇五二五
FAX 〇四七〇（九四）〇五二七

別当 奥邨日鳳
執事長 東孝信
執事 宮崎雅宣

立教開宗七五〇年慶讃団参奉行

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三

貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 井野上正文
執事長 土橋興照

鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七

貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七

山主 駒野日法

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四

貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
同 安藤信行
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
〒602-0061 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五（四四一）七九九七
FAX 〇七五（四四一）八一〇〇

貫首 大塚泰詮
執事 西本泰然

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六

貫首 廣野日意
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 新井智清
同 田代浩敬
同 喜多村教雅
同 渡辺行俊

門連時報

身延理事会開催さる

平成十四年六月二十四日（月）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会代表・北海道門下連合会代表など、計二十五名が参加した。

午前十一時半、常唱殿より行列にて御草庵へ。続いて、祖廟にて渡邉清明理事長御導師により立教開宗七百五十年事業円成を祈念し、法味言上。記念写真撮影後、久遠寺へ移動し法味言上。報恩閣にて昼食後、休憩中に宝物館を参観。

午後二時より、報恩閣にて理事会を開会。渡邉清明理事長座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より「平成十三年度事業報告」がなされ、理事会・常任理事会の開催、門連だよりの発行、理事等人事の変更、祖廟輪番等について報告があり諒承された。

次に、「平成十三年度決算」について事務局より詳細について報告があり、本日監査欠席のため併せて本年五月三十日に監査を行い、承認されているとの報告も加えられ、諒承された。

続いて、「平成十四年度予算並びに事業計画」について、事務局より報告。特に本年は「大日蓮展」開催の準備費用が計上されており、調査に関わる費用並びに開催中の門連役職者に関わる費用との説明を受け、諒承された。

次に、監査任期満了に伴い、新たに本門佛立宗・青木日斯師の推薦を承認。

続いて、「地方門連活動報告」に入り、京都門下連合会杉若恵隆師より、本年立教開宗七百五十年事業を行うため企画委員会を作り検討中との報告がなされた。また、大阪門下懇話会藤村恵容師からは、京都十六本山バスツアー並びに研修会の開催。特に、立教開宗七百五十年記念の「清澄寺並びに『大日蓮展』団参」を計画中との報告がなされた。最後に北海道門下連合会佐藤光春師より、地域的に活動が困難であるが努力していきたいとの報告があった。

続いて、「大日蓮展」について事務局より経過報告。その後、質問があり、特にチケット販売について各派での割り当て負担はないことが確認されたが、できるだけ協力をお願いすることとした。

午後四時閉会し、場所を「日本平ホテル」へ移し、懇親会を開催した。例年と会場が変わり和やかに懇親が深められた。



全門連身延理事会（平成14年6月24日）

本紙初代編集長 富川孝恭上人遷化さる

平成十四年十月七日　本葬にて

弔詞

謹んで富川孝恭上人のご霊前に永訣の辞を捧げます。

富川さんとの邂逅は、日蓮聖人第七〇〇遠忌をめぐってのことでした。国柱会の今は亡き田中香浦先生の紹介をいただき、当時日蓮宗宗務院においでになられた富川さんをお尋ねし、遠忌の記念事業につきあれこれと企てをめぐらせました。そして、その中から生まれたのが、「日蓮聖人門下青年の船」でした。

この企画を実現させるべく、日蓮聖人門下連合会の場で師子奮迅の活躍をなさったお姿が今も私の脳裏に焼き付いて離れません。

昭和五十七年三月二十六日、いよいよ船出の時がきました。横浜港に横づけされたコーラルプリンセス号に乗り込んだ時、これまでの苦労が胸をよぎり、よくぞここまでこぎつけたと手をとり喜こび合ったことも、今は懐かしい思い出です。

富川さんは青年の船・本部長に就かれ、五百名の若者を取り仕切る中心として見事その大役を果たされました。清濁併せのむ包容力を発揮され、悠揚迫らず難事に対処し、青年の船をして立正安国の世界と化せしめられました。

グァムでのこと。団員が砂浜でたわむれ、嬉嬉として泳ぎまわる中、本部長は一人端然と浜辺の小屋に腰掛け、全員の安全を見守らんとして、海辺をキッと睨んでおられました。

お側に近寄るのもはばかれるほど、全員の無事を見届けるのが、俺の役目だ、との厳しいお顔つき。この使命感こそ、富川本部長の真骨頂なのだとつくづく心に響いてきたことでした。

十一日間の航海を、一人の事故者を出すことなく果たし、横浜に帰港。その時は、あたかも戦いすんだののふの如く、大戦果を上げ只今帰国いたしました、そんな思いでありました。

富川さん、もう今生ではともに大戦果をあげることはかないません。永遠のお別れをいたさねばなりません。しかし、しかし富川さんが我々に遺された日蓮聖人への熱烈な、そして純粋な信仰心は未来永劫に不滅です。その不滅の信仰心に結ばれるひとりとして、いずれ又いつの世にか富川本部長におつかえができるよう、信行に励むことをお誓いいたします。

富川さん、霊山会上からおおきな目でキッと睨み付け、私らをお守りください。

（編集委員　相澤宏明）

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	役職含	門連役職	就任	退任
平成一三・七・一	高見正弘師	日蓮本宗	常任理事	就任	
平成一三・七・一〇	野間正明師				退任
平成一三・一二・一〇	吉田日襄師	法華宗真門流管長	門連顧問	遷化	
平成一三・一二・一〇	原井慈鳳師	法華宗本門総長	常任理事	就任	
平成一三・一二・一〇	渡辺俊岳師				退任
平成一三・一二・一〇	桃井晋城師	法華宗本門流	理事	就任	
平成一三・一二・一〇	佐藤義賢師				退任
平成一三・一二・一〇	矢吹慈英師	法華宗本門流	理事	就任	
平成一三・一二・一〇	有田秀達師				退任
平成一三・一一・二二	加藤淳真師	本門佛立宗	常任理事	就任	
平成一三・一一・二二	高野日豊師				退任
平成一四・一・一	金山日龍師	京都門下連合会	会長	就任	
平成一四・一・一	岡本日亘師				退任
平成一四・一・一	杉若恵遠師	京都門下連合会長	常任理事	就任	
平成一四・一・一	桃井晋城師				退任
平成一四・一・一	野間正明師	京都門下連合会	理事	就任	
平成一四・一・一	杉若恵遠師				退任
平成一四・二・二六	秋場善弥師	国柱会	理事	就任	
平成一四・二・二六	石見良教師				退任
平成一四・三・三	吉田日襄師	法華宗真門流管長	顧問	就任	
平成一四・三・三	上川日乾師				退任
平成一四・四・一	篠原智高師	日蓮宗	常任理事	就任	
平成一四・四・一	小松浄慎師				退任
平成一四・四・二五	長瀬日還師	元日蓮宗宗務総長	門連顧問	遷化	
平成一四・五・三〇	金山日龍師	日蓮宗	理事	就任	
	永田恵遠師				退任

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の伝道機関紙 **日蓮宗新聞**

毎月１日・10日・20日

年間購読料3,600円（送料込）

教誌 正法（しょうぼう）

一冊350円（送料別）

年間購読料1,700円（送料込）

○年４回発行

お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）

お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）

詳しくは…

㈱日蓮宗新聞社

〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3

TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028

nichiren@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/

（業務時間　午前９時30分～午後５時）

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1

TEL&FAX.03-3755-6462

（業務時間　午前10時～午後４時）

※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

国柱会

◆全国各地方連合局において、研修会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎月17日、恩師田中智學先生報恩法要厳修。毎月1日、初歩より学ぶ教学研鑽会開催。

◆平成14年1月1日、送旧迎新法要。田中暉丘賽主以下、明治神宮参拝。新年拝賀式・元旦大国椿・神酒拝戴式厳修。2月11日、紀元節慶讃法要厳修。15日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。16日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。国柱会本部において「立教開宗七五〇ネットワーク」結団の儀厳修。24日、スリランカ大使・カルナティラカ・アムヌガマ氏夫妻来園、田中賽主と懇談。3月8日、武蔵野御陵国柱会清掃奉仕奉行。10日、国柱会本部にて婦人部サークル「申孝園の集い」開催。21日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会厳修。宮澤賢治学会春季セミナー一行来園。

◆4月7日、申孝園桜まつり開催。8日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。28日、立正会慶讃法要。第七十二回身延登詣団開催、田中賽主以下身延へ。5月8日、田中賽主以下、日本・スリランカ修交五十年記念パーティーへ。12日、伊豆法難会慶讃法要厳修。

◆本年3月より本部若手職員の全国連合局巡回を行なっている。

(石見良教)

京都門連

◆平成13年7月10日、大本山本隆寺貫主・吉田日襄猊下ご遷化。8月23日午後9時半より「第38回夏季大学」(於・本能寺文化会館)。講題と講師は、「日蓮聖人の修学について」日蓮宗本山妙覚寺貫主・頂岳日選猊下、「日蓮聖人の誓いと願い」イベント・梵音声(春秋座)。12月17日、門青三十周年記念式典、門下青年会発会記念の日(全日空ホテル)。

(谷口真也)

顕本法華宗

◆7月23日～26日の四日間、京都総本山妙満寺において第39回顕本青少年れんせい会が開催された。全国より百九名の参加者が集まり、夏休みの小さな修行に励んだ。三日目には大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの見学もあり、参加者各々有意義な思い出を作り、来年の再会を誓い合っていた。

◆8月25日～9月8日の十五日間、総本山妙満寺において妙塔大学林を開催した。本年度は本科(一年生)七名、研修科(二年生)八名の計十五名の受講があり、酷暑の中早朝より深夜まで行学の二道に励んだ。

(多門顕正)

法華宗真門流

◆2月22日、教区所長会・布教師会開催。3月3日、総本山本隆寺百三世貫主川上日乾猊下晋山式執行。3月27日～29日、僧風林開催。

◆4月2日～21日、春季学林開講。4月5日～7日、総本山本隆寺に於いて立教開宗七五〇年慶讃大法要厳修。6月18日、真門教学講習会開催。6月30日、第二教区檀信徒研修会。

◆8月1日～3日、暁天講座開催。8月23日～29日、第一・二・三種講習会を総本山本隆寺で開催。8月23日～29日、札幌日泰寺にて北海道支学林開講。9月4日、宗会議員選挙投票日、即日開票。

(堀内浩善)

法華宗陣門流

◆2月3日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首鈴木日艸猊下御導師のもと厳修された。3月8・9日、東京巣鴨・法華宗宗務院において、第百次定時宗会が開催された。4月24日、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室において、宗務所長会が開催された。

◆5月12日、伊豆・霊蹟別院蓮着寺において、「俎岩法難会」が厳修され、全国寺院よりの檀信徒が参拝した。今年は立教開宗七百五十年を記念して、新たに日蓮聖人の銅像が建立された。5月13日より6月21日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・錬経・浄行などに励み、行学二道に精進した。◇5月24日より28日までの五日間、総本山本成寺において、日艸猊下御導師のもと「立教開宗七百五十年慶讃千部大法要」が厳修され、全国寺院よりの団参で賑わった。初日の24日には、記念事業としてなされた、大本堂屋根銅板葺替、欄間、渡り廊下、トイレ、冠木門等の大改修——『平成の大修理』の落慶式が併修された。参拝客は、改修のなった伽藍に口々に賛嘆と喜びの声をあげていた。

◆6月8・9日、三宗統合協議会統合学院学生講座が、本宗当番により、講師に元学林長・松吉範員師え迎えて、東京巣鴨の法華宗宗務院会議室において開催された。6月18・19日、平成14年度三宗統合協議会が、本宗当番により、伊豆・霊蹟別院蓮着寺において開催された。

(松吉慶憲)

本門法華宗

◆本門法華宗では去る4月13・14両日に、立教開宗七五〇年慶讃大法要が京都大本山妙蓮寺(杉本日慈貫首)で厳修された。13日、第一座法運中興日忠聖人五百遠忌大法要が杉本貫首導師として厳修。第二座松本日望開士導師により全国の檀信徒よりの写経の納経法要が厳修。14日第三座、本堂再建発願祈念法要、老朽化の進む本堂に対し、次世代の信仰の道場を築き上げる誓いを祈念。第四座、立教開宗七五〇年慶讃大法要、稚児行列を先頭に大導師杉本貫首以下式衆が山門に到着。慶讃天童音楽大法要として厳修。法要後、全日空ホテルにおいて祝賀会が開催された。

◆日蓮聖人立教開宗七五〇年法要奉行会より、4月14日奉修の『日蓮大聖人立教開宗七百五十年慶讃大法要』の記念ビデオが、門末各寺院に記念品として送付された。6月中。

◆本門法華宗立教開宗七五〇年奉讃会では門末各寺院檀信徒向けに、『日蓮聖人の御生涯—画集でつづる歴史と伝説』(杉本日慈貫首ご執筆)を発刊。門末寺院を通じ配布。

◆本門法華宗学院では、第百二回教学講習会を6月24・25日に、第百三回教学講習会を9月10・11日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催。

(木村光正)

法華宗本門流

◆宗祖日蓮大聖人開宗七五〇年慶讃大法要が、光長寺(4月5日・6日)、鷲山寺(4月6・7日)、本能寺(5月4～6日)、本興寺(5月6・7日)の四大本山において無事奉行された。5月13日、大本山本興寺貫首有原日龍猊下が、第一二四代法華宗管長に就任され、同本山において推戴式を奉修。仍って同日、門下連合会顧問に就任。第五十五次定期宗会が5月20～22日に宗務院において開催。渡辺新総長の施政方針に続き、予決算の承認可決等十四議案を議定して閉会。全国宗務所長会が5月28・29日に宗務院において開催。本年度の宗務執行等十八議題を協議して閉会。

◆法華シリーズ第九巻として、興隆学林教授・大平宏龍先生執筆による『法華経の略要品』が発行された。購入申し込みは宗務院(電話03・5614・3055)まで。価格は八〇〇円。

◆本年度の教学講習会は、次の五会場。北海道—8月24～26日(旭川・白蓮寺)、東海—9月30日～10月2日(H沼津キャッスル)、兵庫—10月16～18日(神戸メリケンパークオリエンタルH)、中国—10月28～30日(竹原・立正寺)、九州—10月22～24日(竹田・円福寺)。第16回法華宗教学研究発表大会が、11月6日京都・大本山本能寺を会場に開催される。

(矢吹慈英)

本門佛立宗

◆去る7月13・14日の両日にわたり、夏の本山開導会に併せて、立教開宗七五〇年総修大法要が奉修された。全国から、参詣当番の団参を含め、総合計一万一二二一名の参詣であった。

◆去る8月3・4日、高祖大士立教開宗七五〇年を記念して青少年大会が開催された。3日は、京都国際会館に、ヤング・フェスタ・イン京都として、佛立若人の祭典が催され、4日には本山宥清寺で、青少年総修大法要が奉修された。全国から一七〇〇名を超える若人が参集した。

◆本年度、定期叙任者が発表された。権大僧正に博多・光薫寺小林日進師をはじめ、権僧正に十七師、上座講師に二十七師が、10月5日の午前10時より、本山において、叙任式が厳かに執り行われた。

◆来る10月12・13・14日の三日間に亘り、本山高祖会に併せて、最後の高祖立教開宗七五〇年総修大法要が全十五座奉修。尚、報恩教化は8月6日現在、七八、八一二人成就。

(前島照力)

日蓮宗

◆日蓮聖人流謫の地・佐渡で高さ日本一の「日蓮聖人大銅像」(像高十三米)の建立が進められている。立教開宗七百五十年慶讃事業として、青年僧を中心に結成された佐渡銅像建立委員会(佐野前延本仏寺住職・代表)が取り組んでいる。きっかけは、平成10年10月、全国日蓮宗青年会が創価学会の佐渡進出を憂慮して「佐渡結集」にて唱題行脚を展開、行脚を目の当たりにした土屋辰治氏(根本寺檀徒)が全日青に土地四二〇坪を寄進したため。

◆平成14年4月28日、日蓮聖人お題目始唱の聖地、千葉県清澄寺では前日の27日から28日の二日間、宗門法要が厳かに営まれ、全国七十四管区から僧侶檀信徒代表者約千人が結集した。とくに28日、午前八時からは宗門法要に合わせ、全国各地の寺院・家庭で「誓願の灯」の赤いロープソクを灯し、それぞれの「立教開宗七百五十年慶讃」法要が営まれた。

(金子和正)

日蓮本宗

◆本山要法寺は、立教開宗七五〇年記念事業のひとつに宝蔵再建を掲げ、文化庁と京都府文化財保護課の指導助成によって施工を進め、延べ床面積二、一五〇㎡、鉄筋コンクリート造り、二階建、本瓦葺きの本格的な宝蔵が平成14年3月下旬に竣工落成した。

◆平成14年4月28日、本山要法寺にて立教開宗七五〇年慶讃大法要を厳修した。大法要は午前十時の受付開始と共に、新装となった宝蔵内において本山重宝・国の重要文化財「鍍金蓮唐草透刻経筥」の展観を行い、多くの見学者を魅了した。

正午、全国末寺寺院より募った五十名にもおよぶ若年檀信徒によって結成した「唱導隊」が、「立教の灯り」を奉持しながら都大路を本山まで唱題行を行い、このフレッシュな試みは多くの参詣者の目を見はらせた。

午後一時、嘉儀日有猊下を大導師として青年僧による式衆、法中が堂班を組み本堂へ入堂、「転法輪と音楽によるイメージ法要」を奉修した。

音楽法要は、仏教音楽家の天上昇氏を招いてシンセサイザーの演奏を奉納、読経や転法輪の間合いを荘重かつ幻想的な楽曲で彩り、とりわけ日蓮大聖人のご生涯をイメージして作られた新曲は圧巻であり、参詣者を心酔させた。

法要のクライマックスは「転法輪」、日有猊下が高座より大音声で熱弁を発せられると、千人にもおよぶ多くの参詣者は目を輝かせて熱心に聞き入り、感銘を心に深く刻んだ。

本山要法寺では、立教開宗七五〇年の大法要を「後世に語り継ぐ法要」として、新しい世紀の夜明けを、来る立教開宗八〇〇年につなぐ架け橋として歩みをおこした。

(柳下正則)

るつうぶん

流通文

るつうぶん

「大日蓮展」が明年一月より開催される。これにより多くの信者や一般の人々が、日蓮聖人の教えにあらためて触れることであろう。言葉を変えると、末法における下種がなされるわけである。しかし、単に日蓮聖人の教えに触れさせるだけでなく、そこから初めてその仏子の種を発芽させねばならないのが、私たち門下の役割である。その為に、七百五十一年より始まる、門下連合会としての活動を真剣に考えねばならない時にきている。流通とはそのようなものである。まさに激動の時代を迎え、我々はぼんやりできないのである。我々は、その御遺命を身に体して、これからの護法と広宣流布活動とに邁進せねばならない。

(良)

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成15年2月16日
第27号

立教開宗七五〇年記念

「大日蓮展」特集号

遂に開幕「大日蓮展」内覧会を開催。

平成15年1月15日～2月23日・東京国立博物館

平成十五年一月十五日、いよいよ立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開幕した。

これに先立ち前日の十四日午前十時からは、千葉県藻原寺から出展された一塔両尊四士像の前で日蓮聖人門下連合会渡邉清明理事長導師のもと、小松浄慎（日蓮宗）、佐藤義賢（法華宗本門流）、中村通義（顕本法華宗）、土屋善敬（法華宗陣門流）、斎藤隆彦（法華宗真門流）、山下通雄（本門法華宗）、大橋邦正（国柱会）の各常任理事出仕にて大日蓮展円成祈願の法味言上が奉修された。

午前十一時からは、各種報道機関に向け内覧会が行われ、三十五社五十五名の報道関係者が訪れ、本展に対する関心の高さがうかがわれた。午後二時からは平成館一階ロビーにて約八〇〇名の来賓と共に開会式が執り行われ、主催者挨拶の中で渡邉理事長が「立教開宗七五〇年記念事業のしめくくりとしてこの大日蓮展が開催されます。この機会に多くの方々に観覧していただきたいと思います。」と述べた。引き続きテープカットを行い内覧会へと進んだ。



大日蓮展円成祈願の法要（1月14日）

第一室に入ってすぐ正面には、本展ポスターの祖師像、鎌倉妙本寺の日蓮聖人坐像が安置され、その凛としたお姿が人々を惹きつけていた。また第四室には長谷川等伯が描いた仏涅槃図の巨幅が展示され、森喜朗前首相らも所蔵寺院である京都本法寺大塚泰詮貫首の説明に熱心に耳を傾け、壮大なスケールの描写に多くの人々が目をみはっていた。

明けて会期初日の十五日は、前日の暖かい日和とはうってかわり寒い日であったが、開催前から何名かの入場者が列をつくるなど一般の方々にとってもこの「大日蓮展」は高い関心がもたれていると言えよう。

展覧者の中には祖師像をはじめとした仏像の前で手を合わせてから拝観される人も多く、この展覧会が単なる美術展ではなく、まさに日蓮聖人の御生涯とその信仰を一所に再現した一つの道場であるとの感があった。会期限定の道場に、多くの方々が参集されることを期待するものである。

「日蓮聖人展」への招待

中尾堯文

一、法華信仰の世界

日蓮聖人開宗七五〇記念の「大日蓮展」が、東京国立博物館を会場に、一月十五日から二月二十三日までの四十日のあいだ開催され、一連の記念事業の掉尾を飾ります。日蓮聖人門下の諸宗寺院に伝来する、一五〇点を優に越える多くの重宝が、博物館の新館たる平成館の一堂に集うのです。

建長五年（一二五三）四月二十八日、日蓮聖人が清澄山で立教開宗されてから、七五〇年になります。この長い歴史のなかで営まれた、法華経信仰と文化の営みの道筋を、絵画や彫刻などの造形によってみることのできる、とても貴重な機会といえましょう。これにともなって、「大日蓮展」の豪華な図録を作製中で、開会と同時に出版される本書をひもときながら、法華信仰の世界に分け入っていただきたいものです。

二、至宝の中の至宝

「大日蓮展」では、いくつかの話題性のある事柄があり、特に注目を浴びています。すでにポスターでご承知のとおり、鎌倉の本山妙本寺に安置される日蓮聖人木像が遷座されることです。古くから聖人のご在世中に彫刻された「寿象の祖師」といわれ、恐らく事実を伝えていると見てよいと、専門家によって判断されました。同寺に伝来し、このたび宗務院の手で見事に修復された、「臨滅度時の御本尊」の立派な姿を拝することも出来ます。

中山法華経寺からは、国宝の『観心本尊抄』と『立正安国論』の両書が、そろって展覧されることは初めてのことです。日蓮聖人が、身命に及ぶ龍ノ口法難を蒙られた前と後とのご筆蹟を、十分に比較し味読されたいものです。ただし、両書とも会期の前半は最初の部分を、後半には最後の部分を開かれることに注意してください。両書の最後の部分は、これまでほとんど公開されたことはなく、実際に拝読した人はほんとうに数少ないはずです。

京都から、本法寺の重要文化財「仏涅槃図」が、はじめて寺内を離れてここに掲げられます。一代の画聖とたたえられた長谷川等伯が描いた、雄大な構図による特大の涅槃図で、その代表作として世に知られています。また、長谷川等伯がまだ信春と号して、北陸で活躍していた時代に描いた、富山の妙伝寺蔵「鬼子母神十羅刹女像」が紹介されます。

これまで催された「日蓮聖人展」では、ご真蹟の御曼荼羅本尊や著書・書状などを中心に、全体が構成されていました。しかし、このたびの「大日蓮展」では、ご真蹟を重視しながらも、彫刻・絵画など信仰上の造形に比重が置かれ、従来にない多彩で豊かな内容の展覧会となります。外にも特に注目すべき点は多いのですが、ここで全体の構成と概観を述べましょう。

三、四つの主題

この度の「大日蓮展」の構成は、「日蓮聖人とその門弟」「法華経の美術」「外護者と信者」「法華文化の精粋」の四つの主題からなっています。場内での陳列も、図録の叙述も、この区分にしたがっています。

I、「日蓮聖人とその門弟」では、日頃から宗祖と仰ぐ日蓮聖人のお姿を、ご真蹟と木像と絵像などによって、まず物語ります。ここに写し出された日蓮聖人のお姿は、常に聖人の謦咳に接していた弟子や、その教えを日ごろ拝聴していた信者たちが、十分に納得のいくものであったはずです。門弟は、後事を託された六老僧に限らず、日像・日親上人まで範

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地涌出

◆本年一月十五日より立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開催される。この開催にご尽力下さった本紙初代編集長の富川孝恭上人が、昨年十月に遷化された。ある酒席でこの「大日蓮展」について熱く語っていた師の姿が思い起こされる。この催しが盛会に無事終了することが、富川上人への最高のご供養になると思う。

◆上人本葬儀のお返しに『日蓮聖人とはいかなる人か』という本を頂戴した。これを読み、門下連合が組織された目的が「宗門の統合」「宗門の合同」であることを恥ずかしながら初めて知った次第である。

◆同じ法華経とお題目を唱えながら宗派が分裂していることは、僧侶から見ればそれぞれに言い分があろうが、俗人には「法論はどちらが負けても釈迦の恥」の如く理解し難いのではないだろうか。例えば、同じ地涌の菩薩でありながら「私は上行菩薩派」「私は無辺行菩薩派」と片意地を張っているようなものであり、そのような状態に対して、世尊は「善哉善哉、善男子、汝等よく如来において随喜の心を発せり」とは決して仰らないであろう。世界に目を転じるとキリスト教・イスラム教が二大宗教に成りつつある現代において、仏教徒としてつまらないセクト主義に固執することなく、如何にあるべきかを考えていかなくてはいけないと思う。

◆日本漢字能力検定協会が、六万通の応募をもとに選んだ平成十四年の「今年の漢字」は「帰」であった。拉致被害者五人が北朝鮮から二十四年ぶりに帰国した「帰」であることは言うまでもないが、門下連合もこの「大日蓮展」を契機に「皆帰妙法」の「帰」を念頭におき、世界に目を向けていくべきであろう。

◆平成十五年は羊年である。「羊」の字は「善」や「美」など良きものを表す言葉に多くついているそうである。今年こそ世界にとって美しく善い年になるよう、そして門下連合各派が一匹狼にならず、羊のように一群をなすことを念願する。

（金子和正）

囲を広げました。

Ⅱ、「法華経の美術」では、法華経信仰の足跡をたどる、仏像彫刻や絵画を展示しています。これは多方面にわたり、まず日蓮聖人のご在世以前の平安時代から、同時代の鎌倉時代前期にかけて制作され、天台宗寺院などに奉安されて、後世に日蓮聖人門下の寺院に伝わった仏像・仏画・経典等があります。

日蓮聖人門下諸宗の本尊は「十界勧請大曼荼羅本尊」と呼ばれ、日蓮宗宗宝の「臨滅度時本尊」にはこれを墨書で表現されています。この構図に則って彫刻した木像や描いた画像の、仏菩薩・天部の諸尊の姿が次に並びます。法華経の諸尊の多様さが窺われるはずです。

Ⅲ、「外護者と信者」信者と未信者とを問わず、宗門に対して有形無形の援助を行うものを、「外護者」といい、一応「信者」と区別して考えます。この部門は、資料的に一貫した展示が困難で、日蓮聖人門下の諸宗寺院に対する大名の書状や調度品、古い過去帳、寺院の文書などを幅広く展示しています。

Ⅳ、「法華文化の精粋」は、日蓮聖人の法華信仰を受け継いで、見事な文化的創造の活動を見せた、十七世紀、桃山文化の時代の営みを物語ります。天下統一にふさわしく、壮大な障壁画をはじめ美しい絵画や工芸品などが、法華信仰を内に秘めた作家たちの手によって、数多く創出されます。これらの豪華絢爛たる作品を、京都を舞台に花開いた法華文化を背景に、動的に味わっていただきたいものです。

以上のような概観のもとに、実際の作品を紹介しながら、注目すべき点をご紹介することとしましょう。ここに、躍動する法華信仰の伝統を、はっきりと見いだすことが出来ます。



内覧会で挨拶する渡邉理事長。右に森前首相。

四、豊かな展観

日蓮聖人のイメージを物語るのは、聖人のご在世中かご入滅間もない頃の肖像や絵巻物です。彫刻としては、鎌倉妙本寺「寿像の祖師」と本満寺の木像が安置されます。鎌倉で伝道された壮年時代の聖人を「寿像の祖師」にしのび、池上本門寺に詣でて老境の聖人像を拝するのも、一つのコースとしてえられるでしょう。

絵画では、重要文化財の浄光院「絹本著色日蓮聖人像（水鏡の御影）」と妙法華寺「絹本著色日蓮上人像」が掲げられます。ご一代記を描いた、「日蓮聖人註画讃」の写本は、京都本圀寺本と千葉鏡忍寺本が展覧され、活写された聖人の姿がうかがわれます。弟子や信者のイメージにある日蓮聖人像は、激しくも端正な姿勢を崩されない、聖者としての姿勢であったはずです。

京都にはじめて日蓮聖人の教えを広めた日像上人、身命をかけて伝道し本法寺を開いた日親上人の画像も、宗門史の上で注目されます。この主題のもとには、法華経の伝道に身命をかける、中世の僧侶の群像が登場しています。

②「法華経の美術」には、恐らく公家の家や天台宗の寺院に伝わっていて、後に日蓮聖人門下の諸寺院に移ったと見られる、優れた法華経の美術を展示します。京都の本法寺・本満寺に伝来する『妙法蓮華経』の装飾を施した写経、立本寺の『紺紙金銀泥法華経曼荼羅図』は、釈尊の法華経説法の姿を如実に示す、平安時代後期から鎌倉時代を代表する、優れた装飾経であり仏教絵画です。

日蓮聖人は、視覚的に展開される法華経の造形を背景に、墨書の文字による大曼荼羅本尊をあらわされたのです。一二〇幅あまりが現存する内で、日蓮宗の宗宝に指定されている妙本寺「臨滅度時の本尊」が、ここに掲げられています。「南無妙法蓮華経」のお題目を中央に高く掲げる大曼荼羅本尊に、数多く勧請されている仏菩薩・諸天・人師を、それぞれ絵で書き表したのが「法華経絵曼荼羅」で、三島妙法華寺・京都法華寺などに伝来するものが掲げられます。

大曼荼羅本尊に勧請された諸尊は、木像によって表現され、礼拝されました。その例として、千葉県の中山法華経寺や藻原寺にまつられる、「一尊四士」「一塔両尊」などの木像が安置されます。改宗以前の寺院で造立され、そのまま日蓮聖人門下寺院の本尊となった仏像も展観されます。また、法華経の広まる国土と人民を守護する、「鬼子母神十羅刹女」など、守護神の画像が注目されます。

③「外護者と信者」では、大外護者として有名な、加藤清正が用いた調度品、お題目を織り込んだ着衣などを展示します。渡辺浄慶夫妻が並んだ写真のような絵像、大名とその妻の写経と書状など、じつに多様です。千葉本土寺の『本土寺過去帳』や、京都頂妙寺で近年発見された「京都十六本山会合文書」は、寺院の多方面にわたる運営の実態を物語る史料として注目されます。

④「法華文化の精粋」では、近世の美術をとりあげます。熱烈な法華信者で、洛北の鷹峰で創作活動を展開し、時代を越えた芸術家としての令名をほしいままにした京都の本阿弥光悦がいます。作品としては、嵯峨本・蒔絵・書蹟などが出品されてます。立正安国論の筆写本には、力強い筆致に信仰の表出が窺えるのです。

北陸から上洛し、本法寺で起居して画業に励んで大成した、長谷川等伯の作品は、まことにすばらしいものです。仏涅槃図の大幅をはじめ、等伯画説と題する画論は、その高い画境を物語っています。信春といっていた北陸時代の作品、石川県妙成寺の「日乗上人像」や富山県大法寺の「涅槃図」も注目されます。

桃山時代の京都は、華やかな庶民文化にあふれていました。公家も武家も、庶民もともに都の四季を明るく味わったのです。その雰囲気を絵画にあらわしたのが、新潟県根本寺と妙法寺の「洛中洛外図屏風」で、金色に輝く画面の中に、日蓮諸宗の寺院や庶民の生活を探すのも、楽しみでしょう。

五、ガイドのしおり

日蓮聖人立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」は、厳寒の一月十五日から始まって、春先の二月二十三日まで、東京都上野の国立博物館で催されます。ただし、月曜日は休館日となっていますので、閉館です。開館は午前九時半から午後五時までですが、午後四時半には入場が締め切られます。

会場では、「大日蓮展」の詳しい図録が販売されているので、あらかじめこれを購入の上で入場されると、より充実した見学が出来るはずです。休憩室が館内一階と二階にあり、自由に利用出来ます。

◎個人で入場される場合には、混雑が予想されるので、なるべく早い時期に、しかも午前中に来館されるのがよいでしょう。『観心本尊抄』と『立正安国論』が、前期と後期に展示替えがありますので、前後二回入場されると理想的です。所要時間は、駆け足でまわって六〇分位ですから、やはり二時間から三時間はみておきたいものです。

◎団体の場合は、展覧会の内容や意義について、参加する方々にあらかじめよく解説したうえで入場してください。会場の内部は混雑することもあり、慣れていないと説明をすることは難しいものです。土曜・日曜と「友引」の日には、特に大勢の方が入場される見通しです。中山法華経寺の行堂に午前中に参詣し、昼食のあとに博物館の「大日蓮展」を見学するセットにして、団体で行動されるプランがあるようです。見学の所要時間は、約二時間程度が適当でしょう。

◎会期中に、数回ほどの催し物が計画されています。設備のよい大講堂で開催されますので、ぜひとも参加してください。また、日蓮聖人に関する書籍や写真も、館内で販売されています。

「大日蓮展」は、日蓮聖人門下諸宗の協力によって催す、大規模の展覧会です。この機会を、大勢の檀信徒の方々とともに来会され、日蓮聖人と法華経信仰について語る、絶好の契機とされることを熱望する次第です。

なお、本稿で用いる用語は、展覧会での名称によったので、伝統的な呼称とは異なるものが幾つかあります。念のために書き添えます。

立教開宗750年記念
大日蓮展
Nichiren
Art and Belief
今こそ伝えたいものがある。
2003年1月15日(水)～2月23日(日)
開館時間＝午前9時30分～午後5時（入館は閉館の30分前まで）　休館日＝毎週月曜日
東京国立博物館［上野公園］
お問い合わせ＝03-5777-8600（ハローダイヤル）
ホームページ＝http://sankei.co.jp/event/index.html
主催＝東京国立博物館、日蓮聖人門下連合会、産経新聞社
後援＝文化庁、フジテレビジョン、ニッポン放送、サンケイリビング新聞社
●観覧料
一般1,300円　高校・大学生900円　小・中学生400円
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
入場チケットは
JTB各支店
JTBトラベランドで
好評発売中！
重要文化財　釈迦如来坐像　康慶作　岡山・妙圀寺蔵
日蓮聖人坐像　神奈川県・妙本寺蔵
JTB
For Your Travel & Life
ホームページ＝http://www.jtb.co.jp

祝大日蓮展

平成十五年癸未



日蓮聖人門下連合会

（平成十五年一月現在）

日蓮宗宗務院

管長　藤井日光
宗務総長　岩間湛正
宗務役員一同

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管長　有原日龍
宗務総長　渡辺俊岳
財務部長　佐藤義賢
教学部長　佐々木明乗
教化部長　高村法顯
庶務部長　有田秀達

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―十九―一一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長　中山日曉
宗務総長　中村通義
宗務次長　渡辺昭夫
社会部長　大塚正純
庶務部長　島田幸晴
財務部長　藤崎行学
教務部長　大森俊栄
布教部長　早川義正
主事　津村乘信
主事　多門顯正
主事　飯沢道安
主事　小松正学
主事補　前田成明

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管長　鈴木日艸
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳
教化部長　佐古大弦
宗務参事　大島崇皷

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　野﨑日丞
講師　梶本日裔
宗務総長　高尾日音
宗務副総長　佐藤日凰
宗務副総長　藤本博造
宗務本庁役員一同

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東堅町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　野間正明
総務部長　長崎秀要
教学部長・財務部長　岩崎広義
法務部長　原光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管長　上川日乾
宗務総長　斎藤隆彦
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
財務部長　堀智泰
社会部長　木村完祥
主事　本多信正
主事　足立真正

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管長　杉本日慈
宗務総長　高邉信幸
宗務部長　信隆日系
財務部長　増田隆雄
総務部長　藤井宏長
庶務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
門連常任理事　山下通雄

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗教法人　国柱会

賽主　田中暉丘
理事長　古知毅彦
門連常任理事　大橋邦正
門連理事　石見良教

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五五）七一一一代
FAX　〇三（三六五五）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会長　山田一光
副会長　中山日曉
理事長　杉若恵隆
副理事長　大川定信

京門連事務局
〒606-8376
京都府京都市左京区二条通川端東入
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

主座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　二宮和嘉

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

今こそ伝えたいものがある。

Nichiren Art and Belief



織田信長屏風礼状（桃山時代）京都・本能寺（25.9×40.6）



釈迦如来立像（鎌倉時代、文永3年、1266）山梨・本遠寺（総高　約160　像高97.8　最大幅79.0　最大奥63.8）



法華経宝塔曼荼羅図（鎌倉時代）京都・立本寺（奈良博寄託）（各110.5×58.5）



釈迦如来像（英一蝶筆）（江戸時代）東京・承教寺（103.2×56.5）



立正安国論（本阿弥光悦筆）（江戸時代）京都・妙蓮寺（39.1×351.4）

平成15年1月15日(水)→2月23日(日)

於 東京国立博物館［上野公園］

開館時間＝午前9時30分～午後5時（入館は閉館の30分前まで）休館日＝毎週月曜日

『大日蓮展』出展リスト

日蓮聖人とその門弟

a=国宝、◎=重要文化財、○=重要美術品

指定	名称	員数	作者・伝来など	時代	世紀	地域	所蔵者	法量
	硯	1面	伝日蓮所用	鎌倉	13	千葉	清澄寺	
	念珠	1連	伝日蓮所用	鎌倉	13	千葉	法華経寺	
◎	**日蓮聖人像**	**1幅**		**鎌倉**	**14**	**静岡**	**妙法華寺**	**95.5×55.0**
◎	日蓮聖人像	1幅		鎌倉	13	千葉	浄光院	64.0×38.0
	日蓮上人註画讃	5冊		桃山	16～17	千葉	鏡忍寺（鴨川）	
	日蓮聖人註画讃	**3巻(5巻のうち巻1・4・5)**		**室町**	**16**	**京都**	**本圀寺（京博寄託）**	**①33.2×1702.8 ④33.1×1706.0 ⑤33.1×1795.0**
	日蓮聖人龍口法難図	1幅	狩野探幽筆	江戸	17	京都	本法寺	49.2×128.0
a	観心本尊抄	1帖	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	法華経寺	
a	立正安国論	1巻	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	法華経寺	
◎	愛染不動感見記	2幅	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	妙本寺（鋸南町）	
	御遺物配分帳	1幅	日興筆	鎌倉	13	東京	本門寺（池上）	28.6×43.1
	身延山守番帳	1幅	日興筆	鎌倉	13	東京	本門寺（池上）	28.1×37.6
	日乗上人像	1幅	長谷川信春(等伯)筆	桃山	16	石川	妙成寺	66.0×38.0
	日像上人像	1幅	大覚花押	南北朝	14	京都	妙顕寺	55.2×32.2
	白地蓮唐草模様錦横被	1領	伝日像所用	南北朝	14	京都	妙顕寺	73.0×202.0
	日禛上人像	1幅	狩野宗秀筆	桃山	16	京都	京都国立博物館	90.8×47.7
◎	日堯上人像	1幅	長谷川等伯筆	室町	16	京都	本法寺	97.5×49.0
	日親上人像	1幅	伝狩野正信筆	室町	15	京都	本法寺	96.0×41.2
	日鎮上人像	**1幅**	**伝狩野元信筆**	**室町**	**16**	**京都**	**本隆寺**	**88.2×38.0**
	日教上人像	1幅	信方筆	桃山	17	兵庫	青蓮寺	117.5×59.3
	弟子分帳	1冊	日興筆	鎌倉	13	静岡	本門寺（富士宮市北山）	30.1×21.4
	京都十六本山会合文書	2冊2通1箱		室町～明治	16～19	京都	頂妙寺	
◎	妙顕寺文書	1巻1幅		鎌倉～江戸	14～19	京都	妙顕寺	
	日蓮聖人坐像	1躯		鎌倉	13～14	神奈川	妙本寺（鎌倉市）	像高76.8　最大幅110.8　最大奥66.5
	富木日常坐像	1躯		室町	15	千葉	日本寺（多古町）	像高38.0　最大幅49.5　最大奥37.8
	日蓮聖人坐像	1躯		鎌倉	13～14	京都	本満寺	像高37.5　最大幅39.3　最大奥27.6
	日蓮聖人坐像	1躯		南北朝	14	千葉	日本寺（多古町）	像高39.5　最大幅50.3　最大奥33.3
	日蓮聖人像	1幅		室町	16	神奈川	浄永寺（鎌倉国宝館寄託）	119.5×76.2
	日蓮聖人像（波木井御影）	1面		室町	16	山梨	久遠寺	39.0×38.2
	日蓮聖人像	1幅	狩野元俊筆	桃山	17	山梨	本遠寺	124.4×90.3
	佐渡奇瑞之図	1幅		室町	16	山梨	久遠寺	100.8×44.1
◎	貞観政要巻第一	1巻（2巻のうち）	日蓮筆	鎌倉	13	静岡	本門寺（富士宮市北山）	29.5×996.9
◎	諸人御返事	1巻	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	本土寺（千葉）	31.9×138.7
	五輪九字明秘密義釈	1冊	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	法華経寺	24.6×15.8
◎	天台肝要文集	1冊	日蓮筆	鎌倉	13	千葉	法華経寺	
	蓮唐草鳳凰蒔絵三重箱	1合		江戸	17	千葉	法華経寺	
	蓮池蒔絵三重箱	1合		江戸	17	千葉	法華経寺	
	秘蔵宝鑰	2冊	日蓮加筆	鎌倉	13	静岡	受法寺	
	老翁奇瑞図絵馬	1面	魚屋北溪筆	江戸	19	東京	妙法寺（杉並区堀之内）	95.0×171.2

法華経の美術

指定	名称	員数	作者・伝来など	時代	世紀	地域	所蔵者	法量
	曼荼羅本尊	**1幅**	**日蓮筆**	**鎌倉**	**13**	**神奈川**	**妙本寺（鎌倉市）**	**158.5×101.8**
◎	十界勧請大曼荼羅（絵曼荼羅）	1幅		鎌倉	14	静岡	妙法華寺	156.0×83.7
◎	細字法華経	1巻	日野資朝筆	鎌倉	14	新潟	妙宣寺	5.8×1451.0
◎	釈迦如来坐像	1躯	康俊作	南北朝	14	岡山	妙圀寺（備前市）	像高62.8　最大幅51.3　最大奥47.2
◎	観音経絵	2幅		鎌倉	13	石川	本土寺（石川）	各124.6×90.1
◎	法華経曼荼羅図	6幅(21幅のうち)		鎌倉	14	富山	本法寺（富山）	各187.0～191.2×124.8～127.3
	絵曼荼羅	1幅	応安元年	桃山	16	福井	本境寺（福井）	
◎	**法華経曼荼羅**	**2幅(4幅のうち)**		**鎌倉**	**14**	**静岡**	**本興寺（静岡）**	**各180.0×86.0**
	宝塔絵曼荼羅	1幅		南北朝	14	神奈川	本興寺（横浜）	100.2×42.8
◎	釈迦多宝如来像・鬼子母神十羅刹女像・三十番神像・七字題目・日蓮聖人像	5幅	長谷川等伯筆	室町	16	富山	大法寺	釈迦86.0×40.0鬼子母神86.4×40.0三十番94.3×39.1七字99.0×39.5日蓮85.7×40.5
◎	**法華経要文和歌懐紙**	**1巻**	**光厳天皇他筆**	**南北朝**	**14**	**京都**	**妙満寺**	**27.3×889.0**
	法華経	1帖(7帖のうち)		元	14	京都	妙顕寺	32.4×11.5
◎	金銅宝塔	1基	覚性作	南北朝	14	京都	本法寺	総高52.4
◎	紫紙金字法華経	1巻(10巻のうち)	花唐草文経箱・光悦寄進状付	平安	11	京都	本法寺	26.5×798.5
	絵曼荼羅	1幅	大覚花押	南北朝	14	京都	法華寺	97.4×51.9
◎	**一字宝塔法華経**	**1巻(9巻のうち)**		**平安**	**12**	**京都**	**本満寺**	**28.5×2398.0**
◎	**法華経宝塔曼荼羅図**	**4幅(8幅のうち)**		**鎌倉**	**13**	**京都**	**立本寺（奈良博寄託）**	**各110.5×58.5**
	法華経	2帖(7帖のうち)		元	14	静岡	海長寺	各30.7×11.0
◎	釈迦八相図	3幅		鎌倉	13	山梨	久遠寺	115.8～117.5×80.5～82.7
	十羅刹女像	1幅		南北朝	14	千葉	浄光院	60.7×37.4
	仏涅槃図	1幅	命尊筆	鎌倉	14	兵庫	妙法寺	109.2×80.4
	釈迦および多宝如来坐像（一塔両尊像のうち）	2躯		南北朝	14	神奈川	大明寺（横須賀市）	像高（釈迦）42.3（多宝）39.5　最大幅（釈）44.7（多）最大奥（釈）33.5（多）35.9
	一塔両尊四士像	6躯		南北朝	14	千葉	藻原寺（茂原市）	像高（釈）45.3（多）45.2　最大幅（釈）41.2（多）44.3　最大奥（釈）38.1（多）37.2
	釈迦如来および両脇侍坐像（両脇侍は文殊菩薩像と普賢菩薩像のこと）	3躯		南北朝	14	神奈川	本覚寺（鎌倉市）	像高（中尊）105.1（左脇侍）57.5（右脇侍）56.4　最大幅（中）71.5（左）40.1（右）40.1　最大奥（中）63.2（左）34.2（右）35.6
	一尊四士像	5躯		鎌倉	14	千葉	法華経寺	像高（釈）16.7（四士）9.2前後
	釈迦如来坐像	1躯		鎌倉	13	山梨	本国寺	像高41.5　最大幅34.0　最大奥29.4
	釈迦如来立像	**1躯**	**覚慶作**	**鎌倉**	**13**	**山梨**	**本遠寺**	**総高　約160　像高97.8　最大幅79.0　最大奥63.8**
	金剛力士立像	2躯		鎌倉	13	山梨	久遠寺	総高各310　像高（阿）265.0（吽）266.0　最大幅（阿）（吽）160.0　最大奥（阿）（吽）115.0
	鬼子母神十羅刹女像	1幅	長谷川等伯筆	桃山	16	富山	妙伝寺	103.5×38.0
	葵梅鉢紋散蒔絵経箱	1合		江戸	17	東京	本門寺（池上）	縦36.8横26.6高22.3
	九名神立像	1躯		南北朝	14	京都	本圀寺	最大高77.5　像高55.0　最大幅39.0　最大奥28.0
	持国天・多聞天立像	2躯		鎌倉	14	京都	頂妙寺	（持国天）総高約300　像高213.5　最大幅137.0　最大奥102.9
	釈迦如来坐像	1躯		鎌倉	12～13	京都	本法寺	像高52.8　最大幅43.9　最大奥36.7
	妙見菩薩倚像	1躯		鎌倉	13	千葉	妙光寺（多古町）	像高49.4
	釈迦および多宝如来坐像（一塔両尊像のうち）	2躯	定慶作	南北朝	14	京都	本圀寺	像高（釈）69.5（多）68.2　最大幅（釈）60.0（多）59.1　最大奥（釈）56.1（多）55.2
	門流法度	1巻	日親加判	室町	15	京都	本法寺	33.7×261.0
	祈祷経	1巻	日親筆	室町	15	京都	本法寺	19.1×356.2

外護者と信者

指定	名称	員数	作者・伝来など	時代	世紀	地域	所蔵者	法量
	桔梗折墨紋散蒔絵調度	1具	加藤清正奉納	桃山	16	熊本	本妙寺（熊本）	一の膳縦37.6横38.0高13.6　一の椀径12.8高6.2
	桔梗折墨紋散蒔絵調度	1具	加藤光正遺品	桃山	16	岐阜	法華寺	一の膳縦36.3横36.3高16.0　一の椀径14.0高9.8
	題目文字模様紙衣陣羽織	1領		桃山	16	東京	東京国立博物館	
	加藤清正像	1幅	中川寿林筆	桃山	17	東京	大東急記念文庫	63.0×33.7
	遺言状	1幅	斉藤道三筆	室町	16	京都	妙覚寺	18.0×79.0
	渡辺浄慶妙慶夫妻像	1幅		室町	16	京都	妙蓮寺（京博寄託）	57.7×47.8
	後藤徳乗夫人像	1幅		桃山	17	東京	個人	68.0×34.2
	宝塔絵曼荼羅	1幅		室町	16	広島	妙政寺（広島）	119.3×64.5
	お万の方像	1幅		江戸	17	静岡	妙法華寺	74.7×39.6
	篠原一孝夫人像（夫人所持法華経）紺紙金字法華経	1幅（8巻）		桃山（平安）	17（12）	石川	妙法寺（石川県立美術館寄託）	61.0×35.8（各縦25.9）
	水戸光圀座像（陶製）	1躯		江戸	18	茨城	久昌寺（常陸太田）	総高28.6　像高26.8　最大幅27.6　最大奥24.3
◎	書状	2幅	後小松天皇筆	室町	15	京都	妙顕寺(京博寄託)	
	織田信長屏風礼状	**1幅**		**桃山**	**16**	**京都**	**本能寺**	**25.9×40.6**
	織田信孝書状	1幅	織田信孝筆	桃山	16	京都	本能寺	
	大過去帳	2冊（3冊のうち）		桃山	16	千葉	本土寺（千葉）	28.1×18.8
	金銅蓮華唐草透彫華籠	3枚（12枚のうち）		室町	16	千葉	本土寺（千葉）	各径27.4～27.9高3.7～4.3
◎	梵鐘	1口		鎌倉	13	千葉	本土寺（千葉）	総高130.4口径70.0
	色絵紫陽花図透彫反鉢	1口	乾山	江戸	18	京都	個人	高11.2　口径20.6－20.8　底径11.2
	加藤清忠夫人像	1幅		桃山	17	東京	大東急記念文庫	99.0×48.5
	刀　金象嵌銘　尻懸則長磨上之　本阿(花押)	1口	本阿弥光室象嵌	鎌倉	13	東京	個人	刃長70.4
	川上不白座像	1躯		江戸	19	東京	安立寺	
	本阿弥家折紙	3枚	光温・光忠・光勇筆	江戸	17～18	東京	東京国立博物館	
	仮名題目・細字法華経	各1巻	自昌院筆	江戸	17	広島	宗教法人・國前寺	

法華文化の精粋

指定	名称	員数	作者・伝来など	時代	世紀	地域	所蔵者	法量
	銅孔雀文磬	1面		南北朝	14	山梨	本国寺（東博寄託）	高12.3裾張20.5
◎	獅子牡丹造腰刀	1口	金具・後藤祐乗作	室町	15	東京	前田育徳会	総長60.0
	倶利伽羅文三所物	1組	後藤祐乗作	室町	15	東京	前田育徳会	笄長21.7
	獅子香炉図三所物	1具	後藤祐乗作	桃山	16～17	東京	東京国立博物館	笄長21.1
◎	刀絵図	1巻	本阿弥光徳作	桃山	16	山口	毛利博物館	38.3×2686.0
	刀 金象嵌銘 江磨上（名物 北野江）	1口	本阿弥光徳象嵌	南北朝	14	東京	東京国立博物館	刀長69.7
a	舟橋蒔絵硯箱	1合	本阿弥光悦作	桃山	17	東京	東京国立博物館	縦24.2横22.9高11.8
◎	花唐草螺鈿経箱	1合	本阿弥光悦作	桃山	17	京都	本法寺	縦32.8横28.5高12.5
	鹿下絵新古今和歌集和歌巻	1巻	本阿弥光悦筆	桃山	17	静岡	ＭＯＡ美術館	
	花卉摺絵新古今和歌集和歌巻	1巻	本阿弥光悦筆	桃山	17	静岡	ＭＯＡ美術館	
	蓮下絵和歌巻断簡	1幅	本阿弥光悦筆	桃山	17	東京	東京国立博物館	
	摺絵漁父辞	1巻	本阿弥光悦作	江戸	17	東京	個人	36.7×272.2
◎	**立正安国論**	**1巻**	**本阿弥光悦筆**	**江戸**	**17**	**京都**	**妙蓮寺**	**39.1×351.4**
◎	黒楽茶碗 銘 雨雲	1口	本阿弥光悦作	江戸	17	東京	三井文庫	高9.1 口径12.4 高台径6.1
○	後藤祐乗像	1幅		室町	16	東京	個人	83.7×44.3
	蓮池蒔絵舎利厨子	1基	五十嵐道甫・後藤程乗作	江戸	17	京都	個人	幅9.3奥行9.6高17.7
	春日山蒔絵箱	1合	五十嵐道甫　前田家寄進「観心本尊抄」を納める	江戸	17	千葉	法華経寺	
◎	錆絵観鴎図角皿	1枚	尾形光琳・深省合作	江戸	18	東京	東京国立博物館	高2.9 縦22.2 横22.2
	色絵藤原定家詠十二ヶ月和歌角皿	12枚	乾山	江戸	18	静岡	ＭＯＡ美術館	各 高2.2 縦16.8 横16.8
	色絵紅葉図透彫反鉢	1口	乾山	江戸	18	京都	個人	高12.0 口径20.0 底径9.8
◎	州浜梅樹双雉鏡	1面		鎌倉	13	京都	本能寺	径24.7
	五彩龍鳳花卉文大瓶	1対	景　鎮窯	明	16	京都	本能寺	
	花伝書	1巻（2巻のうち）	日甫画	江戸	17	京都	本能寺	
	十六羅漢図	4幅	狩野元信筆	室町	16	京都	本法寺（京博寄託）	114.0×174.5
◎	貝尽くし図	1幅	伝趙昌筆	明	16	京都	本法寺	19.5×35.7
◎	日通上人像	1幅	長谷川等伯筆	桃山	17	京都	本法寺	106.7×51.6
	鶏頭花図	1幅	伝銭選筆	明	15～16	京都	本法寺（京博寄託）	26.0×41.5
◎	仏涅槃図	1幅	長谷川等伯筆	桃山	16	京都	本法寺	792.8×521.7
◎	等伯画説	1冊	日通筆	桃山	16	京都	本法寺	27.3×20.0
◎	牛図	2幅	俵屋宗達筆	江戸	17	京都	頂妙寺（京博寄託）	各96.5×44.3
	黒漆葡萄栗鼠文沈金食籠	1合	琉球	桃山	17	京都	本満寺	総高38.0径33.4
	牡丹唐草螺鈿経箱	1合	朝鮮	桃山	17	京都	妙顕寺	基台縦35.3横24.1総高18.3　蓋縦34.3横23.0
◎	松桜図襖	4面（4枚）		桃山	17	京都	妙蓮寺	各176.5×115.8
◎	法華経	1巻（8巻のうち）	伏見天皇筆	鎌倉	14	京都	妙蓮寺（京博寄託）	
◎	本朝文粋	1巻（13巻のうち）		鎌倉	13	山梨	久遠寺	28.7×1905.0
◎	礼記正義	2冊		南宋	12	山梨	久遠寺	27.2×18.5
a	夏景山水図	1幅	伝胡直夫筆	南宋	12～13	山梨	久遠寺（東博寄託）	118.5×52.7
	釈迦如来像	**1幅**	**英一蝶筆**	**江戸**	**18**	**東京**	**承教寺（東京）**	**103.2×56.5**
◎	十六羅漢図	8曲1双	趙璚筆	元	13～14	千葉	法華経寺　東博寄託	各扇87.6×47.9
	七面大明神応現図	1面	葛飾北斎筆	江戸	19	茨城	妙光寺（古河）	132.4×59.3
	仏涅槃図	1幅	長谷川等伯筆	室町	16	石川	妙成寺	156.0×111.5
	洛中洛外図屏風	6曲1双	安南	江戸	17	新潟	妙法寺（佐渡）	153.0×69.2
◎	宝物集巻第一	1巻	日春筆	鎌倉	13	静岡	光長寺（沼津）	28.1×1097.0
◎	日本紀竟宴和歌	2巻		鎌倉	13	熊本	本妙寺（熊本）	
○	安南国書	2幅	安南	江戸	17	熊本	本妙寺（熊本）	
	銅鰐口	1口		室町	15	千葉	藻原寺（茂原市）	径約50
	釈迦涅槃図繍仏	1幅	戸塚七兵衛作	江戸	17	東京	法養寺	194×222.4
○	刀　村正	1口	銘が日蓮の命日	室町	16	東京	個人	刀長66.4
	釈迦三尊像	3幅	狩野派	室町	16	山梨	久遠寺	152.7×53.1
	洛中洛外図屏風	6曲1双		江戸	17	新潟	妙照寺	155,0×351.8
	銅孔雀文磬	1面		室町	15	三重	寿量寺	高約15裾張約20
◎	大般若経巻第246	1帖		奈良	8	京都	瑞光寺(奈良博寄託)	
	三人歌舞図絵馬	1面	二代鳥居清満筆	江戸	19	東京	法明寺（雑司が谷）	205.7×120.3
◎	日通上人像	1幅	長谷川等伯筆	桃山	17	京都	本法寺	106.7×51.6
	三十番神像	1幅	日親賛	室町	15	京都	本法寺	92.9×37.8

立教開宗750年記念

Nichiren Art and Belief

大日蓮展

主催　日蓮聖人門下連合会・東京国立博物館・産経新聞社
後援　文化庁・フジテレビジョン・ニッポン放送・サンケイリビング新聞社
協力　日本通運
ここに掲載した写真はリストにゴシック体にて表示してあります。

問い合わせ= 03-5777-8600（ハローダイヤル）
ホームページ= http://www.sankei.co.jp/event/index.html



曼荼羅本尊（日蓮筆）（鎌倉時代、弘安3年、1280）神奈川・妙本寺（158.5×101.8）



日鎮上人像（狩野元信筆）（室町時代）京都・本隆寺



日蓮聖人像（鎌倉時代）静岡・妙法華寺（95.5×55.0）

法華経要文和歌懐紙1巻（光厳天皇筆）京都・妙満寺（27.3×889.0）

一字宝塔法華経1巻（平安時代）京都・本満寺（28.5×2398.0）

法華経曼荼羅（鎌倉時代）静岡・本興寺（各180.0×86.0）



祝大日蓮展

平成十五年癸未

（平成15年1月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四
法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇
貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七
貫首 中山日暁
総務 大川定信
執事 山本晃道
執事 小松正学
執事 林孝瑞
執事 中村英司
執事補 森田修応
執事補 湯原正純

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八
貫首 鈴木日艸
執事長 真保行宣
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六
貫首 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七
貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇㈹
FAX 〇七五（四六三）四六五一
住職 二十三世講有 野崎日・丞
執事長 佐々木日調
事務局長 伊藤隆之

日蓮本宗本山
要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 野間正明
執事 岩崎広義
執事 原光明

立教開宗
出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
〒209-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇（九四）〇五二五
FAX 〇四七〇（九四）〇五二七
別当 奥邨日鳳
執事長 東孝信
執事 宮崎雅宣
執事 戸田教隨

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話 〇七五（四一四）〇八〇八
FAX 〇七五（四一四）〇八四八
貫首 山田一光
執事長 原光司

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六
貫首 廣野日意
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
参与 新井智清
参与 田代浩敬
参与 喜多村教雅
参与 渡辺行俊

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五五四四（五九）〇三〇三
貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 井野上正文
執事長 土橋興照

鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七
貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七
山主 駒野日法

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四
貫首 永田恵遠
参与 同 山田完修
参与 同 新井智清
執事長 安藤信行
執事 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄



門連時報

京都日蓮聖人門下青年会

七五〇慶讃と結成三十周年式典

京都日蓮聖人門下青年会（藤井照源会長―日蓮宗）は平成十四年十二月十七日結成三十周年を迎え、立教開宗七百五十年慶讃法要と共に、記念式典を京都全日空ホテルで開催、各宗各派の会員・OB・僧侶、檀信徒百名が参加した。

第一部立教開宗七百五十年慶讃法要では、藤井幹事長を導師に、副導師に実行委員の二之部知孝師（日蓮宗）・阿南光節師（本門法華宗）があたり報恩感謝の誠を捧げた。

第二部講演では、立正大学名誉教授、中尾堯先生が「日蓮聖人の実像と虚像」と題し、註画賛のスライドを用いて講演、門下一同の参加者は七五〇を通じ更なる聖人像を勉強した。

第三部三十周年式典に入り、まず藤井照源実行委員長（日蓮宗）が挨拶、「結成に到る迄の先輩各聖に感謝し、三十年の歴史と伝統をしっかり認識し、現状に即応したビジョンをもって活動し、その心を次の世代へ伝えて行きたい。三十周年の記念事業が無事完遂出来たのも、すべての皆様方の物心両面にわたるご協力があればこそで、この気持ちを大切に、今後も門青隆昌のために頑張って行きたい」と述べた。

来賓祝辞では、京都日蓮聖人門下連合会会長・法華宗本門流大本山本能寺貫首岡本日亘猊下、日蓮宗京都八本山会会本・本山頂妙寺貫首永田恵遠猊下、日蓮聖人門下連合会理事長（渡邉清明―日蓮宗）名代・日蓮宗宗務院教務部長及川周介師、京都日蓮聖人門下連合会理事長・法華宗本門流大本山本能寺執事長桃井晋城師より、三十周年を記念してそれぞれよりご祝辞があった。日蓮宗京都府第一部宗務所長杉若恵隆師のご発声で乾杯、祝賀の宴は進んだ。

結成当時のOB各聖をはじめ参加者は、懐かしい思い出を語りつつ、三十年の歴史を思い話ははずんだ。特に歴代幹事長・OBが壇上にあがり、思い出リレートークを行った時は、それぞれにその時代の出来事をトークし、歴史の重みを感じる一時であった。やはり、出発時の苦しみは大変なものであると実感した。

祝宴には、常日頃顕本法華宗総本山妙満寺の境内にて練習をし、演奏活動を行っている楽団「パルウインズ」が演奏し花を添えた。

最後には、現役会員が壇上に上がり、真枝真光副幹事長（法華宗真門流）が謝辞を述べ、歴代幹事長代表として、上田日瑞猊下（本山立本寺貫首―日蓮宗）の一本締めで式典を閉会した。参加者一同は、門下の健闘を讃え、これからの前途を誓い合った。

京都日蓮聖人門下青年会結成三十周年にあたり実行委員会を作り、記念事業を企画立案した。

実行委員会

実行委員長―藤井照源（日蓮宗）、実行副委員長―嘉儀吉裕（日蓮本宗）、会計―奥山文章（日蓮宗）、実行委員―梅本光祥（日蓮宗）阿南光節（本門法華宗）、二之部知孝（日蓮宗）、山本晃道（顕本法華宗）、有田秀達（法華宗本門流）、杉若恵亮（日蓮宗）、事務局―川合陽雄

記念事業

①京都日蓮聖人門下青年会三十周年史の編纂、②京都十六本山報恩唱題行脚・比叡山定光院唱題行脚、③門青お題目旗作成2本、④京都日蓮聖人門下青年会シンボルマーク作成、⑤メモリアルデー（十二月十七日）の式典「750法要・講演・祝賀会」を決定、その他、年間活動の充実、規約の改正、新会員の勧募、事務局便りの発行等、一致団結、異体同心で無事円成した。

（藤井照源）

全門連京都理事会・懇話会

法華宗（本門流）大本山本能寺で開催

平成十四年十一月二十七日（水）、法華宗（本門流）大本山本能寺（岡本日亘貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇話会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連理事ら五十名が参加した。

午前十一時より「全門連常任理事会」を開催。昼食後、午後一時より岡本日亘猊下御導師のもと法味を言上。本堂前において記念撮影の後、午後二時より会議室にて同じく岡本猊下による「本能寺の沿革」を拝聴した。資料として本能寺に所蔵される宝物の図録が配布され、開山上人以来連綿と受け継がれる本能寺の歴史や、殊に世によく知られるところの「本能寺の変」等、詳細に亘る説明がなされた。

引き続き、午後三時より「理事会・懇話会」が開催された。各自の自己紹介の後、渡邉清明全門連理事長を座長に議事を進行。まず全門連上半期事業報告。続いて京都門下連合会の活動報告。大阪日蓮門下懇話会の行事並びに活動報告があった。そしてこの門連の七五〇事業である「大日蓮展」について、事務局より出展リストの最終説明や、ポスター、チラシなどの広報促進のお願い。一月十四日に予定されているレセプションの案内などがなされた。

会議終了後、本能寺会館に席を移し懇親会が開かれた。この「大日蓮展」の成功に向け門下一同が異体同心の祖訓を体し邁進する決意をあらたにし、会員相互の親睦を深めつつ和やかなひとときを過ごした。



全国日蓮聖人門下連合会京都理事会（平成14年11月27日　於：大本山本能寺）

京門連立教開宗七五〇年記念

慶祝行事

京都日蓮聖人門下連合会は、立教開宗七五〇年正当を記念して、「開宗会・夏季大学・御会式」等の例年の業務をすべて休止し、記念法要「梵音聲～佛陀のみこえ～　日本仏教の音・法華の響き伝承コンサート」に一本化して、全力を傾注することとなった。

会場には当番事務局の本能寺に有縁の京都造形大学（京都市左京区）にある京都芸術劇場「春秋座」を借りることができた。ここは歌舞伎の市川猿之助丈や京舞の井上八千代氏らが顧問・客員教授となっており、伝統芸能の講義や公演も行われる、花道のある和風の舞台である。定員約九百名。

十四年十一月二十三日（土・祝）午後一時半開場、二時開演。

仏教伝来当時を偲ばせる伎楽の行列に始まり、声明・繰り弁・和太鼓・舞楽・和讃・題目踊り・万灯練り供養から現代声楽まで、途中一切の解説を加えずに、仏教音楽の歴史を二時間で一気に見せ、また聞かせる構成と演出が斬新であった。

満場の参加者は現在の自分の信仰が、連綿とした歴史の流れの中に位置づけられることを体感できたと、感動を新たにしていた。



「撃鼓唱題」舞台に全員集り、フィナーレを迎える。

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙 日蓮宗新聞
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）
教誌 正法
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）
詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
（業務時間　午前９時30分～午後５時）
日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間　午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

京都門連

◆7月23日、頂妙寺前貫首、土屋学優猊下ご遷化。10月28日、頂妙寺にて本葬。

◆9月3日、門下青年会「十六本山報恩行脚」。立本寺から本隆寺まで。

◆10月4日、「七五〇実行委員会」『梵音聲』打ち合わせ。21日、青年会「結成30周年七五〇慶讃報恩行脚」京都市左京区修学院から比叡山定光院まで。23日、「七五〇委員会」『梵音聲』の動員状況について。

◆11月22日、造形大学『春秋座』において「梵音聲」リハーサル。23日、造形大学『春秋座』において「門連七五〇法要『梵音聲』」開催。27日、「理事会・懇親会」。

◆12月17日、青年会、全日空ホテルにて「門青結成30周年記念講演・祝賀会」。講師＝中尾堯文師、講題＝「日蓮聖人の実像と虚像」。12月19日、「『梵音聲』スタッフ慰労会」。20日、「本山主伴会」

◆1月、「理事会・懇親会」。2月16日、「総会・宗祖降誕会」。

(谷口真也)

顕本法華宗

◆10月12～13日、総本山妙満寺において御会式御逮夜並びに正当法要が厳修された。

◆10月23日、千葉市浜野の本行寺において「東部僧員講習会」が開催された。本宗では「正しいご本尊をおまつりしましょう」を立教開宗七五〇の布教の中心テーマに活動している。今回は、本宗特命布教師を講師に、「ご本尊の意義を易しく伝える」ことを主眼に、法話の実例をもとに講習が行われた。

◆10月29日、京都の総本山妙満寺において「西部僧員講習会」が「東部」と同内容にて開催された。

◆11月29日～12月5日、宗務院主催により立教開宗七五〇の記念事業の締めくくりの意義を含め、中国研修旅行が開催された。妙法蓮華経の訳者でもある鳩摩羅什の御廟所のある西安の草堂寺を参拝した他、空路雲南省に飛び、チベットの影響の強い昆明・麗江の仏教、少数民族の文化に触れた。

(多門顕正)

法華宗真門流

◆第一、二、三種講習会開催。8月23日より29日まで、総本山本隆寺に於て四十余名が受講し、講義、法要式の実習が続けられた。

◆北海道支学林が8月23日より30日まで開講された。

◆8月26日、総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展覧法要を開催。

◆9月4日、宗会議員選挙施行、投票即日開票の結果十名の議員が確定する。任期四年。

◆10月5日より14日まで、秋季学林開講。三十一名が行学二道に精進。

◆10月12日・13日、総本山本隆寺御会式奉修。13日、学林本科生八名が、高座に上って初転法輪挙行。

◆12月6日、総本山本隆寺にて、平成13年12月6日、定期宗会が開催される。平成15年度歳入、歳出予算可決。真門学林長に田仲良啓師〔奈良県八紘寺住職〕を推薦。布教師十二名を推薦、任期二年。権大僧正に長老五師を推薦。

(堀内浩善)

法華宗陣門流

◆9月5～6日、法華宗中央行学講習会が千葉県鴨川市「鴨川グランドホテル」に於て行われた。一日目、第一講義には宗外より日澄寺御住職、天津小湊町長の片桐有而先生をお迎えした。講題は「清澄寺改宗秘話」であった。第二講義には宗内より願成寺住職、学林教授鈴木宏正先生で、講題は「日求聖人の問答」であった。百名を越す受講者はいずれの講義も興味深く聞き入っていた。講習会二日目は参加者全員早朝四時に起床し、清澄寺まで移動し旭ヶ森に登った。朝日を望みながらのお勤めを行う「暁天法要」を本成寺貫首鈴木日艸猊下御導師のもと行われた。あいにくの天候で朝日は拝めなかったが、立教開宗の御年に一同感慨深い面持ちで法要に臨んでいた。終了後は研修のため千葉県の宗内寺院玄徳寺及び萬徳寺生実布教所を見学、萬徳寺に於て開校式を行った。

◆11月16～17日、三宗統合協議会、統合学院（後期）が巣鴨・宗務院を会場に行われた。講師には両日共に、法華宗（真門流）教学部長辻本寛孝先生をお迎えした。講題は「五重教相対について」であった。本宗を含め三宗より多数の受講者が訪れ、二日間の講義を拝聴していた。

(石見良教)

国柱会

◆全国各地方連合局において、研修会、本化儀典研修会、婦人部の集いを開催。毎月第三日曜日に妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎月17日、恩師田中智学先生報恩法要厳修。毎月1日、初歩から学ぶ教学研鑽会開催。

◆「七五〇ネットワーク活動」平成14年7月20日～27日、北海道・東北における七五〇ネットワーク記念講演会と街頭演説活動。8月29日～31日、松山市において記念講演会。街頭演説を行う。9月12日、静岡市において記念講演会と街頭演説活動。28日～10月2日、大阪記念講演と九州各地街頭演説活動。10月12日、池上本門寺にて大宣伝。13日、日本青年館において、七五〇ネット成満式開催。

◆7月8日、顕正会慶讃法要厳修。7月30日、田中賽主以下、明治神宮参拝。明治天皇祭厳修。8月26日、田中香浦大居士第七回忌追善法要と追憶の集い開催。全国より同志多数参列。9月7日～8日、式士任用試験開催。12日、龍口法難慶讃法要厳修。田中暉丘賽主以下、スリランカ・ダルマパーラ生誕百三十四年祭へ。11月9日～10日、身延大祖廟輪番給仕奉行。16日、全国協議員会開催。16日～17日、恩師田中智学先生第64回忌報恩大会。27日～12月4日まで、ネパール仏蹟参拝。12月7日、高山樗牛居士没後百年追憶法会開催。

(石見良教)

本門法華宗

◆大本山妙蓮寺から「大日蓮展」に伏見天皇御宸翰（重文）・長谷川等伯の障壁画松桜の図（重文）・本阿弥光悦写筆の『立正安国論』・渡邊浄慶妙慶夫妻図（京都市指定文化財）の四宝物が出品される。

◆大本山妙蓮寺に故幸野楳渓氏（日展会友晨鳥社創立会員）筆の遺作「日蓮大聖人御一代記絵傳」が奉納された。昨9月の恒例「秋の寺宝展」にあわせて公開展示された。

◆本門法華宗学院では第百四回教学講習会が11月25日・26日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。

◆大本山妙蓮寺年中行事（3月以後）3月春分の日春季彼岸会・4月12日春季大法要・5月12日伊豆法難会・8月6日入盆晨朝法要・8月16日盂蘭盆施餓鬼会・9月12日忠慶会・龍口法難会・9月秋分の日秋季彼岸会・10月12日万燈会・逮夜法要・13日宗祖お会式・11月12日御開山会・12月12日成道会・12月31日歳晩会・除夜の鐘毎月12日本山婦人会定例法要毎月12日妙蓮寺境内にて楽市楽座（フリーマーケット）開催。

(木村光正)

法華宗本門流

◆四大本山のひとつ沼津・光長寺の貫首片山日楽猊下が任期満了により一月七日御退蔵。後任貫首に元宗務総長川口日唱上人（沼津・西之坊住職）が一月八日付をもって就任。晋山式は四月五日光長寺において奉修される。

▼宗門の僧侶養成機関である『興隆学林専門学校』と、教学研究機関の『法華宗教学研究所』のホームページがこのたび開設された。アドレス（URL）は、http://www.gakurin.ac.jp/（学林）。http://www.hokkesyu-kenkyusyo.ac.jp/（研究所）。

▼古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・本興寺内）の平成十五年度新入生募集中。

▼布教機関誌『無上道』（松井正孝編集長）が本年2月号をもって昭和二十四年の創刊以来六五〇号を迎えた。編集部ではプロジェクト「時代おこし」を立ち上げ、今年は発刊以来の五十余年にわたる歴史を振り返る。定期購読申込は法華宗宗務院まで。電話03（5614）3055。

(矢吹慈英)

本門佛立宗

◆平成15年元旦、御講有日丞上人が本山宥清寺に於いて、『本年からは、平成18年に迎える佛立開講一五〇年の記念御奉公が始まります。「御講から弘まる」をテーマとして、御講の改良を目指しています。妙法五字で苦悩する社会に光明を与えよ』とのお力強い「年頭のことば」を述べられた。

◆1月12日、本山宥清寺に於いて、平成8年から七年間にわたった、立教開宗七五〇年報恩御奉公を締めくくる、結実法要が厳修された。御講有上人より、八万二千六百七十三人の教化成就と昨年の総修法要の参詣者数四万四千七百三十六人の報告が御宝前になされた。

◆1月12日の結実法要では、同時に御講有上人より平成18年に迎える佛立開講一五〇年の奉賛御奉公の始動を内外に告げる「諭告」が発せられた。

◆1月24日、本山宥清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

(前島照力)

日蓮宗

◆日蓮宗宗務院主催の第三十二回宗門先師追悼法要が11月21日、東京池上本門寺本殿で営まれ、百二十六師に回向が捧げられた。法要は午前十時から藤井日光管長猊下（身延山久遠寺法主）を導師、井村大祐宗会議長、井出存祐審査会長を副導師に、全国三十八ヶ寺の八十九人の遺族遺弟ら渡邉宗務総長、内局各部長ら約百四十人が参列して営まれた。

◆「日蓮聖人その人へ」の題で全国を講演行脚（立教開宗七五〇年慶讃会主催）していた作家・立松和平氏の最終六回目の講演会が10月28日、東京大崎のゆうぽうとで開かれた。立松氏は法華経に説かれている忍辱の精神を、法華経成立時の動乱する時代背景から「新しい思想」と説明、10月26日から28日まで、山梨県身延町の檀信徒研修道場で開かれた。今回は全国から、三十九歳から七十八歳までの十九人（うち女性は八人）が参加した。三日間の研修を通して参加者は、法華経講義やご遺文講義、唱題行、法座などを行い、それぞれが地域の檀信徒の先達となるよう、心身の修練に努めた。

(金子和正)

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	役職含	門連役職	就任	退任
平成一四・一二・二二	佐藤光徳師	本門法華宗	理事	就任	
平成一五・一・二三	渡邉清明師	日蓮宗宗務総長	理事長	就任	退任
	岩間湛正師				
平成一五・一・一	岡本日亘師	京門連会長	顧問	就任	退任
	山田一光師				
平成一五・一・一	桃井晋城師	京門連理事長	理事長	就任	退任
	杉若恵隆師				
平成一五・一・一	杉若恵隆師	京門連副理事長	理事	就任	退任
	大川定信師				

るつうぶん

文通流

るつうぶん

平成十五（癸未）の年が明けた。前回の未年（辛未）には湾岸戦争が起こり、戦争を知らない世代に戦いの怖さを実感させた。干支が一回りし、また同じことが繰り返されようとしている。人間は戦いから離れることが出来ない生き物なのだろうか。

750年前鎌倉時代の乱れた世の中に唱題をもって、一石を投じられたのが、日蓮大聖人である。もし今平成の世に大聖人がおわしましたならば、日本に対し、世界に対しどのような一石を投げかけられたであろうか。

今「大日蓮展」が開催され、国宝『立正安国論』が出展されている。多分直筆にお会い出来るのも、最初で最後であろう。750年前の荒れた世の中でお書きになられた一字、一句より大聖人の「立正安国」の思い、願いを一分でも体感でき得るならばと、切に願う次第である。

(善)

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成15年8月31日
第28号

大日蓮展を終えて

「門連だより」前編集長　**生駒雅幸**

開幕の時よりも幾分か日足が延びたとは言え未だ寒さ厳しい中、東京国立博物館平成館の外壁に描かれた大きな蓮華に、冬の夕日が静かな光を注いでいる。平成十五年二月二十三日午後五時、最後の来場者を送り出して大日蓮展が幕を降ろした。

一月十五日から開催され三十六日間で十五万人を超える入場者を数えたこの展覧会は、まさに立教開宗七百五十年慶讃の掉尾を飾るにふさわしい記念の浄業であった。

最終日の八七六三名を含め、最後の一週間では四万数千人の入場者を数えたが、印象に残るのは、出展されている祖師像や御本尊の前で立ち止まり頭を垂れる多くの人々の姿であった。

そうした姿を見るにつけ「これは単なる展覧会ではなく日蓮聖人の御生涯を一所に再現した法華経の道場なんだなァ」と実感し、門下僧俗のみならず広く一般社会の人々にとっても此処が日蓮聖人そして法華経信仰の機縁となることの喜びを感じたのである。まさに日蓮聖人とその信仰に巡り遇う珠玉の三十六日間であった。

私はこれまで二十年に亘り日蓮宗宗務院に奉職してきたが、その中の何年かは門下連合会の幹事として、また門連だよりの編集長としての仕事をさせていただいた。現在はその職を離れたが、今回の大日蓮展円成を思うとき、受け難き人身を受け、値い難き法華経に値い、更にこの立教開宗七百五十年という佳節に巡りあわせていただいた幸せに深く感謝するものである。

今回この紙面についての原稿依頼を受けた折りに担当の方から「何かあれば」といった趣旨を伺ったが、自身の中では隠された苦労話でもあれば」といったことについて苦労と感じたことは一度としてなかったというのが正直なところである。むしろ多くの様々な難しい課題を一つ一つ解決していくことが、より質の高い展覧会の開催につながる道であり、そうすることが宗祖の誓願にも適うものであると考えたからである。もちろんその過程では多くの方々の御理解と御協力を頂きながら事を進めてきたのは今更申し上げるまでもない。

さて、無事円成した本展覧会だが、そこに至るまでの道のりは必ずしも平坦ではなかった。第二十五号にも記したが、この企画が実際門連として緒に就いたのは平成八年秋を迎えてからのことであった。当時門下教団の信者が東京国立博物館の次長（副館長）を務められていたこともあり、本展の実現に向け何が必要なのか初めて具体的な要件が示されたのである。

これを受けて常任理事会において検討が始まったのである。しかしながら門連としても大事業であり、その規模から考えて照らすべき経験もないため、計画当初に於いては議論も作業も遅々として進まなかったのが実状であった。

まず二百六十点に上る出展内容リストの作成に取りかかったが、すべての宝物は宗派や教団として所蔵しているものではなく、門下の各寺院や個人が所蔵しているものであり、そうした宝物を出展することが出来るかどうかについては、常任理事会及び理事会の場で軽々に判断・了承出来るものではなかったこと、また億単位の開催経費については、共催のマスコミがすべて負担し門連には一切費用負担が生じないというもの、チケットの割り当て等最終的な費用負担が生じてくるのではないかと云った費用面での懸念があるなど、それぞれの内部事情が異なる教団の連合組織であるが故の難しい課題が浮上してきたのである。

こうした中で積極的に会議を重ねたが、平成十二年五月の常任理事会において「御正當の平成十四年まで二年を切った現状を鑑みた場合開催の実現は不可能」として、ついに本展企画を中止にするとの決定がなされたのである。これが大日蓮展開催実現に向けた中でもっとも大きな危機であった。

ところが不思議なもので計画が白紙に戻った直後、フジTVから日蓮宗に日蓮展開催の企画が持ち込まれたのである。内容的には中止となった門連の企画案をスライドできるようなものであったので、これを以て再度日蓮宗より門連へその事業として行うべく提案、了承されたのが平成十二年十一月二十七日のことであった。

前回中止の状況と異なる点は、フジTVという共催マスコミが明確となっていること（後に共催は産経新聞社となる）。東京国立博物館の内諾を既に得ていること。日蓮宗からの発議でもありこの案が門連として了承されるならば、その運営及び予算については日蓮宗がある程度考えていることなどの点があった。

私はこれが大日蓮展開催を実現する最後のチャンスであろうと思った。と同時に今までも様々なアクシデントによって幾度も頓挫したこの企画が、今回またも新たにスタートしたことで、「これで必ず実現できる」との確信が生まれたのもまた事実であった。

そして平成十三年十一月に開催された京都における常任理事会・理事会において本展の開催推進が確認されたのを機に、愈開催に向けた具体的な作業へと入っていったのである。

今回の浄業円成に至るまでの道のりを顧みると、何事も目標をしっかりと見据え、信念をもって事に当たれば、まさに異体同心にして万事を成ずる事が出来ると改めて実感した次第である。



今回もう一つ感じたことは、こうした催しに一般社会の未聞の方々が接していただくことは、私たち伝統教団にとり、日蓮聖人そして法華経信仰を弘めていく布教手段として大変有効なのではないかということである。私たちは、日常的には法務を通じて檀信徒と接しているが、公の場所における効果的な布教という点では満足に出来ていない現状があると言えよう。





であるならば、法務を中心とした僧侶・教師としての直接的な布教を行うこととは別に、異なる観点、例えばこうした展覧会のように美術的な観点から一般社会にアプローチしていく中で、日蓮聖人そして法華経信仰への機縁を作っていくことが必要なのではないかと考える。展覧会に限らず様々な手法があると思うが、私たちも一旦宗教家としての視点を離れ、日常生活の中の一見宗教と無関係の部分で、自然な形で多くの人々に関わり、そこに心の安らぎを生み出す様な方途を新たな布教として考えていっても良いのではないだろうか。

私たちには七百五十年の歴史と伝統がある。その礎があればこそ今回の大日蓮展も円成することが出来得たのである。そしてそれは日蓮聖人門下連合会という形で門下が結束したからこそ出来得たのだと思う。

願わくば、本展の円成が立教開宗七百五十年慶讃事業の一つとして記憶されるだけではなく、今後の布教伝道に活かされていくことを期待するものである。

理事長就任にあたって



日蓮聖人門下連合会理事長
日蓮宗宗務総長　**岩間湛正**

わが身、徳薄垢重と雖も六月十二日、日蓮聖人門下連合会理事長という重職への就任を、宗祖のご下命と心得て関係各聖のご推挙を謹んで頂戴いたした次第であります。

時まさに、立教開宗七百五十年の嘉会を迎え、門下各派教団のご理解と力強いご協力のもと「大日蓮展」が開催できましたことは、宗祖以来の先覚諸師より伝わりし法華信仰の為せる仏作仏業であります。

かかる浄業によって数多の人々が恰も優曇華の開くに値えるが如き法悦を得、時を撰んで法運が興起薫発するものを感受すると共に、格段の法功に尽されし諸師に深甚なる感謝と敬意を表すものであります。

立教開宗七百五十一年目を迎えた私ども門下連合会は、閻浮提広宣流布の心構えを、祖廟中心・立正安国の誓願実現の理念を忘却することなく、規約に表明される事業の展開が望まれております。

「仏眼をかつて時機をかんがへよ、仏日を用いて国土をてらせ」とは『撰時抄』のお言葉であります。

茲に、一天四海もろともに法輪常に転じ、仏日益々輝かんことを願い、門下連合会の尚一層の連携と交流をはかり、次世代・未来際へ向け精進して参りたく誓願をあらたにするものであります。

従地涌出

◆今年もただひたすら予定をこなすだけの「お盆」のシーズンが終わった。もう二十年以上同じ事を繰返しているような気がする。私の地方では棚経は時間との勝負、一日五十軒、六十軒と廻らなければならない。それが終わると自坊と、近隣寺院の施餓鬼の手伝い。気が付くと秋の気配。

◆そんなある日、あるお婆さんからの電話。「御前さん、施餓鬼の日は○○教の集まりがあるのでお寺にはいけません。塔婆もいりません」と。申し訳ないと詫びるお婆さんに、「私に詫びてもらっても仕様がない。ご先祖様はそれでいいのですか」と尋ねると困惑の様子。お盆の棚経には来て欲しいとの事。このお婆さんは若い時からあまり近所付き合いもなく、寺墓地に墓もないからお寺に来た事もない。お寺に馴染みがないのだ。このお婆さんに限らず大方の新興宗教に入信している人にとって、先祖供養としての宗教と、個人の心の糧となる宗教は全く別なのだ。伴侶を数年前に亡くし、同居している家族とも疎遠なお婆さんにとって、○○教の集まりで友人等と過ごすひと時は楽しいに違いない。『妙法広布正法興隆』『一天四海皆帰妙法』などと口では唱えていても、一人のお婆さんをお寺に呼ぶ事もできない自らの無力さを情けなく思う。

◆日蓮聖人は、末法に法華経を広めるために『折伏』という手段を用いた事が強調される。日蓮聖人がどれだけ強い信念と、熱い情熱を持って衆生救済に全精力を傾注されたか、そのお姿の象徴であろう。しかし、『折伏』によって多くの敵を作った日蓮聖人には、多くの熱心な外護者や信者、そして多くの優秀で忠実なお弟子がおられたのも事実である。日蓮聖人の温かく細やかで、大きくて包容力に富んだお人柄＝『人徳』がなかったなら、教理教学だけで人は従って来なかったはずである。

◆お盆の棚経は、一軒あたり時間にして十分にもならない。そこで人と触れ合うのには限界がある。だからせめて法事や葬儀の時位は、「布教」とはほど遠いかもしれないが、出来るだけ時間を作り人と触れ合い、喜怒哀楽を共有できるような人間関係を作ることを心がけている。（顕）

ポスト750　宗門布教の方向性　第5回　法華宗本門流

啓蒙的布教活動と事業展開の必要性

法華宗（本門流）宗務総長
渡辺俊岳



価値観の変化・変動の中で

宗門布教の基本的考えは、日蓮門下各宗各派教義の論説は別として、特色ある事業の展開を課題テーマ（スローガン）を以って同信僧俗を喚起し、宗門の護持興隆を主眼としていることは衆目が承知するところであります。

この不変常識を堅持する中に、御生誕あり、御遠忌あり、開宗ありと聖年を奉迎し、また門流の祖に関わる同義聖年を相勤めるなど、その節目節目を大衆の心の昂揚と信行増進に繋げる熱あふるる時とするが常であり、これを基本的な考えとするは時移れど変らぬものかと思います。

我が門流とするならば永遠の目標である「お題目総下種運動」を主眼とし、この行為行動の中にあって如何に〝菩薩行の実践〟の意義を訴え衆知し、理解を促し、体験を経てその経験が実践されることへの願いを取り組みの旨としております。

しかし、「布教」とはと考えてみると教えを広布するとは言えども、受け入れる側は様変わりをし、意識の変化ありで従来の取り組みでは多くを望めないのが現代であるとも感じます。布教方法は、正攻法は堅持しつつも時代のニーズ的なものを感知しながら進むしかないような状況、時代であり、大衆の価値観の変化・変動は流れの早い水流の如く、一時一刻変化している現状を考えると尾に縋るが精一杯で複雑極まりない世相であります。

そこで、一点考えたいのはコンピュータ化社会の便利さは認めるとしても、人の血の通わないその動きに押し流される現況は如何ともしがたいと歯軋りしても受け入れざるを得ないところに難しさがあります。与えられるものの利便に満足をし、それにどっぷりつかり、努力の「ど」の字も見せることのできない輩の輩出は六度でいうところの忍辱心の欠如、我慢できない忍耐力のなさを助長していますし、耐える事の必要性がなくなれば短絡的な考えに陥り、安易な行動に走るは想像のつくことであります。

この事が現代世相の中にみる現象として無差別的殺傷事件など、多くの常識人にしてみれば理解に苦しむところであります。耐える、我慢する、一歩手前でブレーキを掛けることのできない者が起す現象であると捉えるならば、「どうしてかな」と考えた時、物質的に恵まれた高度成長の中に生まれた「忍耐」のいらない社会が、人心の変化を生み荒廃をし、そのまま時を刻んでいるものですから、正しくそれらの事件状況を作り出す者は時代の落とし子である感を覚えます。

立正安国・恒久平和への灯り

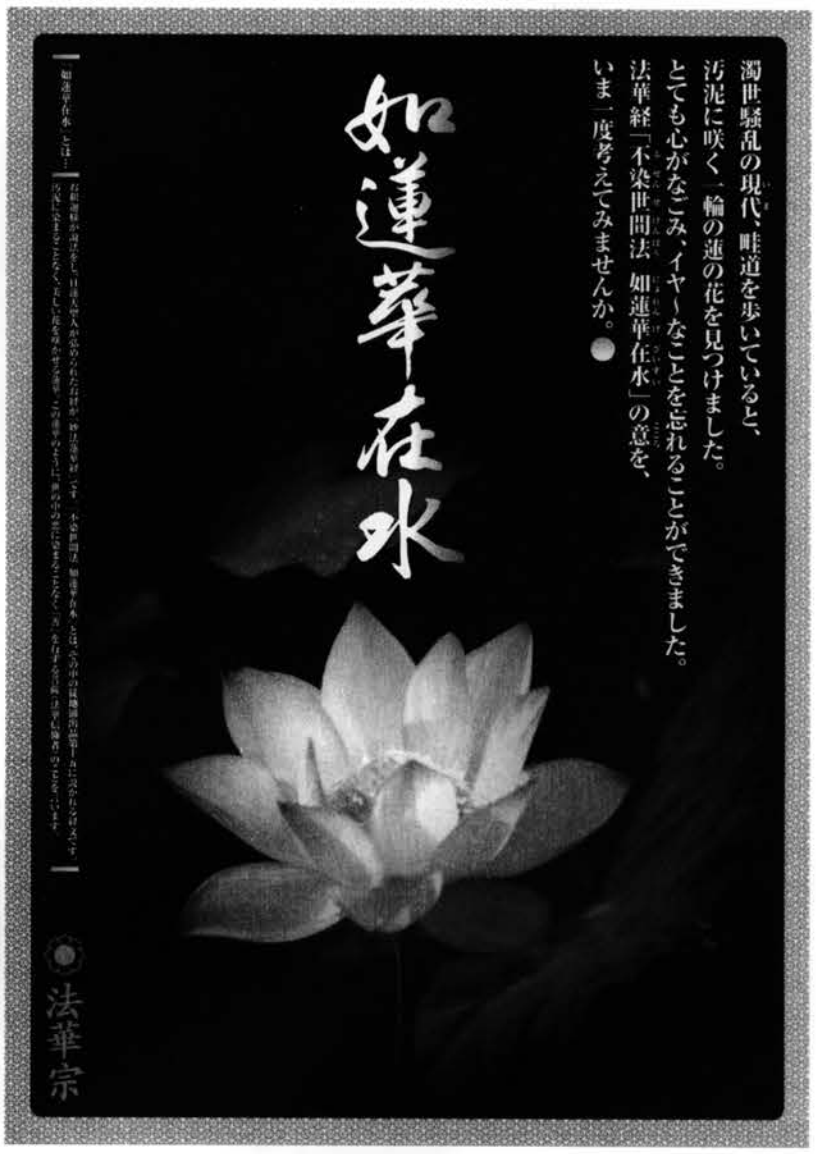
一方で、このような人心の荒廃をもたらした理由の一つに自然破壊、資源の枯渇など人間のエゴがなせる手前勝手な物質成長のみに励み、生産企業社会の多くが反省もなく突き進んだがための産物現象ではないでしょうか。それを受け入れた我々にも責任の一端はあるにしても、よくよく考えてみると遅くにきした感はありますが、この事に対処方法を考え、行動を起す、その時が訪れているように感じます。

そこで日蓮聖人門下連合会という連絡協議組織の活動の中で一宗一派の布教の方向性は各々が独自に考え行動すればよいので、法華経弘通という大願の視点から考えて、物質的現象による精神の衰微衰退、自然環境の破壊がもたらす多くの意味での困窮などは、我々の責任でありツケであると考え、素直に享受し深く受けとめ、広く大衆に理解を得る反省を促す意味での啓蒙的布教活動を、そのための事業展開の必要性を感じます。

開宗七百五十年を円成し、御生誕八百年の佳辰の奉迎を今思えど、聖年の時に人は変わり、時代の変革もあるでしょうから、不変の教えここにありと、胸を張って誇りをもちたいものです。

先に述べた危惧する社会現象がストップし、立正安国・恒久平和への灯りが輝きを増すことを希うものです。

合掌

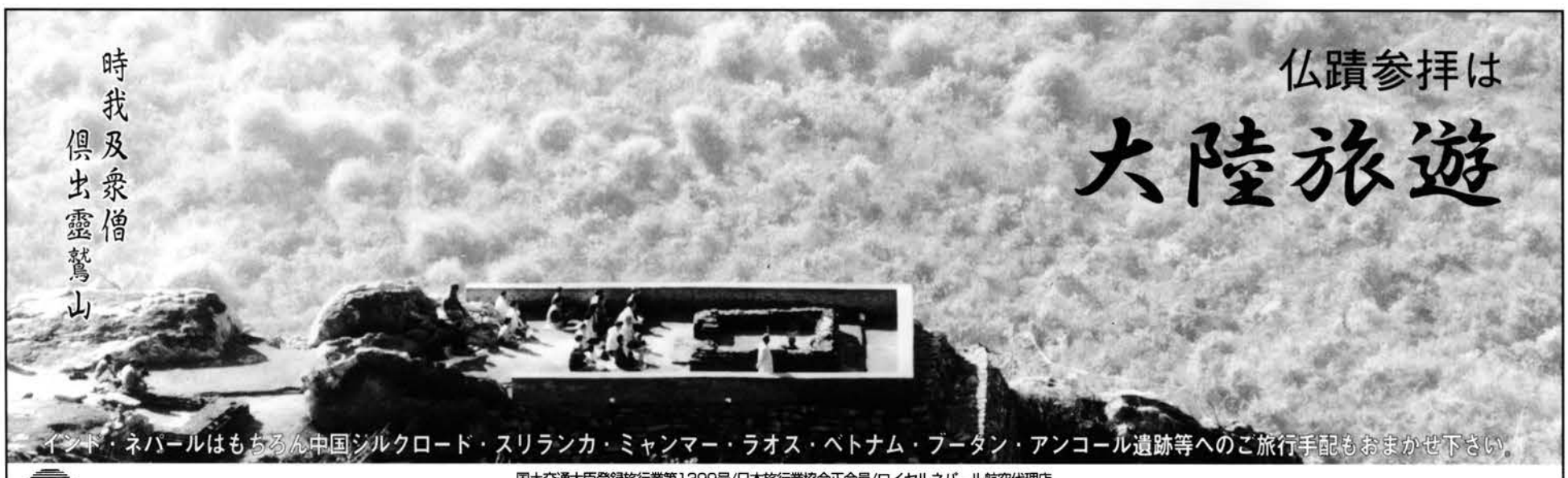


▶ポスト七五〇に向けて作成したポスター

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会



国土交通大臣登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員/ロイヤルネパール航空代理店
大陸旅遊
Tairiku Tours & Leisure co.,
株式会社 大陸旅遊
TEL 03-3376-2511　FAX 03-3376-5280　http://www.tairikuryoyu.co.jp　mail:tairikuryoyu@nifty.com
Royal Nepal Airlines
●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 西新宿旭ビル2階　●インド支社 8,Commercial circle.Jangpura Extension,NEW DELHI-110014

残暑御見舞



日蓮聖人門下連合会

（平成十五年八月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三（三七五一）七一八一
FAX 〇三（三七五一）七一八六

管長 藤井 日光
財務部長 中條 令紹
宗務総長 岩間 湛正
宗務総長室長 遠藤 文祥
伝道局長 藤崎 一明
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 田澤 元泰
総務局長 栗原 正震
現代宗教研究所長 久住 謙是
伝道部長 田端 義宏
参与 堀江 宏正
教務部長 三坂 惠人
参与 浅井 玄裕
総務部長 小倉 光雄
日蓮宗新聞社社長 西嶋 宏明

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話 〇三（五六一四）三〇五五代
FAX 〇三（五六一四）三〇五六

管長 大塚 日正
宗務総長 渡辺 俊岳
財務部長 佐藤 義賢
教学部長 佐々木 明乗
教化部長 高村 法顯
庶務部長 有田 秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

管長 中山 日暁
教務部長 桑村 信慶
宗務総長 中村 通義
社会部長 多門 顯正
宗務次長 渡辺 昭夫
宗務主事 小松 正学
庶務部長 島田 幸晴
宗務主事 田中 善翔
財務部長 藤崎 行学
宗務主事 湯原 正純
布教部長 早川 義正
宗務主事 中村 英司

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三（三九一八）七二九〇
FAX 〇三（三五七六）〇一二一

管長 鈴木 日艸
宗務総長 土屋 善敬
総務部長 佐古 弘文
教学部長 門谷 東生
財務部長 八木 恵岳
教化部長 佐古 大弦
宗務参事 大島 崇皷

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東堅町一一〇番地
電話 〇七五（四六一）一一六六代
FAX 〇七五（四六四）五五九九

講有 野﨑 日丞
講華 梶本 日裔
宗務総長 高尾 日音
宗務副総長 佐藤 日凰
宗務副総長 藤本 博造
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

管長 嘉儀 日有
宗務総長 野間 正明
総務部長 長崎 秀要
教学部長 岩崎 広義
財務部長
法務部長 原 光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

管長 上川 日乾
宗務総長 斎藤 隆彦
総務部長 上田 浩岳
教学部長 辻本 寛孝
財務部長 堀 智泰
社会部長 木村 完祥
主事 本多 信正
主事 足立 真正

本門法華宗宗務院

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

管長 杉本 日慈
宗務総長 高遶 信幸
宗務部長 信隆 日系
財務部長 増田 隆雄
総務部長 藤井 宏長
庶務部長 土畑 信教
教務部長 音羽 隆全
門連常任理事 山下 通雄

宗教法人 国柱会

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三（三六五六）七一一一代
FAX 〇三（三六五五）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主 田中 暉丘
理事長 古知 毅彦
門連常任理事 石見 良教
門連理事 井上 宝護
門連理事 相澤 宏明

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376 京都府京都市左京区二条通川端東入
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五（七六二）二四一一
FAX 〇七五（七五二）九三三八

会長 山田 一光
副会長 中山 日暁
理事長 杉若 恵隆
副理事長 大川 定信

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二（三七八）三三九五
FAX 〇四二（三七九）〇七四四

首座 塙 行幸
長老 石山 定光
長老 吉田 行典
長老 酒迎 天信
長老 今井 行康
長老 二宮 和嘉
長老 池田 行朗



残暑御見舞

日蓮聖人門下連合会

（平成15年8月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四

法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

貫首 中山日暁
総務 島田幸晴
執事 山本晃道
執事 林孝瑞
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事補 森田修応

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八

貫首 鈴木日艸
執事長 真保行宣
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

貫首 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 野間正明
執事 岩崎広義
執事 原光明

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一

住職二十三世講有 野崎日丞
執事長 佐々木日調
事務局長 伊藤隆之

日蓮聖人清澄寺
出家得度《報恩》立教開宗《弘教》の霊跡
大本山

別当 岡崎日泰

〒209-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄三三―一
電話 〇四七〇（九四）〇五二五
FAX 〇四七〇（九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、二百名様までOK。

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話 〇七五（四一四）〇八〇八
FAX 〇七五（四一四）〇八四八

貫首 山田一光
執事長 原光司

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六

貫首 新井日湛
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 田代浩敬
同 喜多村教雅
同 渡辺行俊

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三

貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 井野上正文
執事長 土橋興照

鎌倉開教七百五十年霊地
日蓮宗本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七

貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七

山主 駒野日法

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四

貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
同 安藤信行
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗 東身延 本山
藻原寺
〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三

貫首 持田日勇
総務 増田實泉
執事 冨永一道
役職員一同

門連時報

身延理事会開催さる

平成十五年六月十二日（木）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会代表など計二十三名が参加した。

午前十一時集合。常唱殿より祖廟並びに御草庵にて法味言上。続いて客殿にて記念撮影後、大本堂にて法味言上。報恩閣に移動。昼食後、参加者は宝物館を自由参観。午後二時より理事会が開催された。

会議に先立ち、平成十五年一月二十三日をもって門下連合会理事長・日蓮宗宗務総長を退任されたことにより、常任理事会により新たに理事長に推薦された日蓮宗宗務総長岩間湛正師が、理事会に諮られ正式に承認された。続いて、岩間湛正理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。

事務局より「平成十四年度事業報告」がなされ、常任理事会・理事会の開催、門連だよりの発行日、機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更、祖廟輪番奉仕実施等について報告がなされた。

次に、「平成十四年度決算」について事務局より決算報告後、持田監査より監査会の報告がなされ承認。

続いて、事務局より「大日蓮展」の収支報告がなされ、図録の残り七〇〇冊に関しては、各宗派に二〇冊づつ配布した上、図書館・公共施設等に寄贈、その残りは日蓮宗新聞社に委託して販売する。価格については、事後報告を行う。

次に「平成十五年度事業計画案」について、事務局より理事会開催、門連だより発行等の説明をし、地方門連である大阪門下懇話会・北海道門下連合会に全門連より活動・育成のため補助金が交付されることを報告し承認。

続いて、地方門連活動に関する報告として、京都門下連合会・杉若常任理事より、開宗会・夏期大学・御会式等が門下合同にて毎年開催されていることが報告され、大阪門下懇話会門谷光瑞師より、例年開催されている十六本山巡り等の活動を報告された。

午後四時に閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。



日蓮聖人門下連合会　祖廟参詣（平成15年6月12日）

●大阪日蓮聖人門下懇話会●
清澄寺参拝と大日蓮展拝観

大阪日蓮聖人門下懇話会では、日蓮聖人立教開宗七五〇年慶讃記念に清澄寺参拝と「大日蓮展」拝観の旅を実施しました。

当会は、毎年、日蓮聖人報恩合同御会式、会員対象の研修会、京都十六本山巡拝日帰りバスツアーが年中行事として定着しており、立教開宗七五〇年を記念して慶讃の気持ちを表すべく、初めての一泊二日の遠出となりました。

会員・寺族に一部信徒も加わり、二十六名が、平成十五年一月二十一日に東京国立博物館の「大日蓮展」を拝観、日蓮聖人のお姿をお木像や画像で拝し、ご真筆を目近に拝読し数多くの法華経文化に触れ、一同感激の面持ちでした。

その晩は、ホテル三日月うしお亭に宿泊、夕食の席には、当会顧問でもある清澄寺奥邨別当猊下（当時）や大阪出身の東孝信執事長にも同席いただき、和気靄々、当会の目的の一つである会員相互の親睦を深める実を大いにあげることができました。

翌年二十二日は、早暁清澄寺旭が森で見事な旭日の昇る中、至心の唱題行を行じさせていただきました。その後祖師堂にて奥邨別当猊下より藤村恵容理事長へ委嘱の儀があり、理事長導師で慶讃法要が営まれました。門下一同、強盛の菩提心をおこして御題目を唱え弘めるべく誓いを新たにしました。

（藤村恵容）



立教開宗七五〇年慶讃　大阪日蓮聖人門下懇話会　於・清澄寺（平成15年1月22日）

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一四・四・一	篠原智高師	日蓮宗	常任理事	就任	退任
	小松浄慎師				
平成一四・五・三〇	金山日龍師	日蓮宗	理事	就任	退任
	永田惠遠師				
平成一五・一・三〇	小松浄慎師	日蓮宗	常任理事	就任	退任
	栗原正震師				
平成一五・一・二二	渡邊清明師	日蓮宗	理事長	就任	退任
平成一五・六・一二	岩間湛正師				
平成一四・六・三〇	永野智啓師	法華宗真門流	理事		退任
平成一四・一二・二二	持地光学師	本門法華宗	理事	就任	退任
	佐藤光徳師				
平成一五・一・一	岡本日亘師	日蓮宗	顧問	就任	退任
	山田一光師				
平成一五・一・一	桃井晋城師	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
	杉若惠隆師				
平成一五・一・一	杉若惠隆師	京都門下連合会	理事	就任	退任
	大川定信師				
平成一五・三・三一	大川定信師	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成一五・四・一	島田幸晴師				
平成一五・三・三一	大橋邦正氏	国柱会	常任理事	就任	退任
平成一五・四・一〇	石見良教氏				
平成一五・三・三一	石見良教氏	国柱会	理事	就任	退任
平成一五・四・一〇	井上宝護氏				
平成一五・三・三一	淀野寿夫氏	国柱会	理事	就任	退任
平成一五・四・一〇	相澤宏明氏				
平成一五・八・一三	有原日龍師	法華宗本門流	顧問	就任	退任
	大塚日正師				

【良書紹介】
「大日蓮展」記録ビデオと図書

十五万人以上の拝観者を集め好評のうちに閉幕した「大日蓮展」（一月二十五日～二月二十三日、東京国立博物館）の記録ビデオが完成しました。また、すでに出版された図録の希望者が多かったため、新装新たにハードカバーとなりました。

ビデオは第一部「大日蓮展」記録映像（四十二分）と第二部「日蓮の生涯」会場ビデオ（十一分）に分かれ、一巻千円（税・送料は含まれております）。

図録は、展示品百六十一点すべてがカラーで解説付。A4版二六八頁、一冊三千円（税・送料は含まれておりません）。

希望者は、郵便番号、住所、氏名、電話番号と購入冊数を明記し、日蓮宗新聞社（〒一四六―〇〇八二　東京都大田区池上七―二十三―三または FAX〇三―三七五三―七〇二八）へ。



毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙 日蓮宗新聞
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）
教誌 正法
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）
詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
（業務時間 午前９時30分～午後５時）
日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間 午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

日蓮宗

◆4月22日、日蓮宗総本山の身延山久遠寺に世界各国、日本全国から三千五百人以上の僧侶・檀信徒が集い、宗祖日蓮聖人立教開宗七百五十年慶讃結願大法要が営まれた。藤井日光日蓮宗管長猊下は慶讃文の中で、慶讃事業の円成を奉告し、結願という千載一遇の法悦に出会えたことを悦ぶとともに、混迷を極める現代社会で、立正安国の祖願達成に精進することを誓った。法華経のみ教えを異体同心で全世界に――。お題目の声は大きく、力強く広がっていった。

◆6月21日、アメリカ・ハワイ州のオアフ島ホノルル市・ハワイ日蓮宗別院（小川如洋主任）で藤井日光管長猊下をお迎えし、立教開宗七五〇年・ハワイ開教一〇〇周年慶讃大法要が盛大に営まれた。また同日、昨年9月に完成したハワイ日蓮宗別院新本堂の洛慶法要もあわせて行われた。日蓮宗がはるか太平洋を越え、ハワイという異国の地でその信心を継承し、以来百年余。開教に尽力し、百年の歴史を築き上げてきた先師を顕彰するとともに、今後もその意志を受け継ぎ、新たな布教活動を展開する節目として行われた一連のテーマは、〝伝えよう過去から未来へ、弘めようハワイから世界へ〟。

◆ハワイに響き渡ったお題目は、「一天四海皆帰妙法」の祖願達成をめざして新たな道を切り開き、ハワイから全世界へと発信されることとなった。

◆6月22日、ハワイ島カパパラで日蓮宗近代開教顕彰除幕式が行われ、歴代開教先師の遺徳が顕彰された。

（大澤宏明）

国柱会

◆全国各地方連合局において、研修会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第3日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎月17日、恩師田中智學先生報恩法要厳修。毎週一回、日蓮聖人御遺文輪読会開催。毎月一回、「日蓮聖人の教義」勉強会開催。

◆平成15年1月1日、送旧迎新法要。田中暉丘賽主以下、明治神宮参拝。新年拝賀式・元旦大国祷・神酒拝戴式厳修。2月11日、紀元節慶讃法要厳修。15日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。16日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。3月22日、日蓮聖人門下ネットワーク街頭宣伝活動開始（以後、毎月一回実施）。30日、申孝園桜まつり開催。10日、国柱会本部にて婦人部サークル「申孝園の集い」開催。21日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会厳修。宮澤賢治学会春季セミナー一行来園。

◆4月8日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。28日、立正会慶讃法要。第七十三回身延登詣団開催、田中賽主以下身延へ。5月4日、婦人部対象の蓮華サークル例会、本部にて開催（年四回開催）。12日、伊豆法難会慶讃法要厳修。

◆7月7日より二泊三日で「佐渡霊蹟参拝」開催。8日、顕正会慶讃法要。昨年3月より本部若手職員の全国連合局巡回を、継続して行なっている。

（石見良教）

京都門連

◆平成15年1月23日、「門連理事会・懇親会」。［日蓮宗京都第一部宗務所］。平成14年度決算・監査報告。15年度新役員確認・行事予定・予算案。新役員＝山田一光新会長（大本山妙顕寺）。中山日暁副会長（総本山妙満寺）。杉若恵隆理事長（本栖寺）。島田幸晴副理事長（総本山妙満寺総務）。

◆2月16日、十一時から本山本法寺で「総会」。予算決算・各種議案を審議・承認。十二時から本法寺本堂で「宗祖降誕会」。導師・大塚泰詮猊下（本山本法寺）。法話講師・大川定信猊下（本山寂光寺）。

◆3月14日、「理事会」、［日蓮宗京都第一部宗務所］「開宗会・夏期大学」の件。

◆4月26日、「門連開宗会」。［比叡山大講堂］導師・永田恵遠猊下（本山頂妙寺）。法話講師・田仲良啓師（真門学林長）。講題「我もうつつに」。参加者は百余名。延暦寺会館で昼食後、比叡山山頂の「ガーデンミュージアム比叡」を観覧。

◆5月15日、本山妙伝寺貫首・藤井安国日栄猊下ご遷化。19日、「理事会」、［日蓮宗京都第一部宗務所］。「夏期大学・御会式」の件。

◆8月24日、午前九時半、「第39回夏季大学」［本能寺文化会館］。講題と講師は、「人生の目的は～仏教を極めて仏になり平和に貢献する～」日蓮宗本山本満寺貫首・伊丹日章猊下、『日蓮一門』として」日蓮宗現宗研所長・久住謙是師、「現代文明の影と宗教」龍谷大学名誉教授・田北亮介氏。参加者約百五十名。同日午後五時、理事会［本能寺客殿］。「御会式」の件。

「今後の予定」

◆10月3日、「お会式奉行委員会」。［本山妙覚寺］、4日、「第七百二十回門連合同御会式」。［本山妙覚寺］。導師は頂丘日選猊下。講師は未定。

◆11月、「門連理事会」。全門連京都理事会・懇親会の件。同月、「全門連京都理事会・懇親会」。［大本山本圀寺］

◆12月、「会計監査」。同月、「門連理事会」。平成15年度会務行事報告案・決算案作成。

（谷口真也）

顕本法華宗

◆2月25～26日の二日間、京都総本山妙満寺において第五十八定期宗会が開催された。平成14年度事業・決算報告、平成15年度事業・予算案等が審議された後、任期満了の内局役員人事が承認された。宗務総長　中村通義（再）宗務次長　渡辺昭夫（再）庶務部長　島田　幸晴（再）財務部長　藤崎行学（再）布教部長　早川義正（再）教務部長　桑村信慶（新）社会部長　多門顕正（新）

◆5月10～11日の二日間、京都総本山妙満寺に於いて、恒例の報恩大法要が大導師管長中山日暁猊下のもと厳修された。

◆7月23～26日の四日間、京都総本山妙満寺に於いて第四十回顕本青少年れんせい会が開催された。全国より八十五名の小中学生が参加した。勤行や唱題行、写経、作品作成等、小さな修行に励んだ。大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの見学は天候にも恵まれ、楽しい夏休みの思い出を作った。

◆8月25～9月8日の十五日間、総本山妙満寺において妙塔大学林を開講した。本年度も本科（一年生）、研修科（二年生）に分かれて、僧侶としての基本的な行学二道を学んだ。

（多門顕正）

法華宗真門流

◆2月21日、教区所長会議、布教師会を開催、本年度各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。

◆3月25日より27日まで僧風林開講。

◆4月9日より28日まで、真門学林（春季）が開講。11日より三日間、総本山本隆寺千部会厳修される。

◆6月2日より6日まで、城崎・本住寺において布教師養成所開講。19日・20日、研修員研修会開講。14・15日、三宗統合学院が顕本法華宗・天妙国寺にて開講される。20日、真門教学講習会開講。29日、第二教区檀信徒研修会を地村保氏を講師に迎え、北朝鮮「拉致事件」をテーマに開催。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆1月23日、第百一次臨時宗会が、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室において開催され、土屋善敬総長が再任された。

◆2月3日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首鈴木日艸猊下御導師のもと厳修された。

◆3月26～27日、第百二次定時宗会が、宗務院会議室において開催された。

◆4月7日、宗務所長会が、宗務院会議室において開催された。

◆5月12日、伊豆・霊跡別院蓮着寺において、「俎岩法難会」が厳修され、本年も全国寺院よりの檀信徒が参拝した。

◆5月13日より6月21日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。

◆5月23日より25日までの三日間、総本山本成寺において「祠堂法要」が日艸猊下御導師のもと厳修され、全国寺院よりの団参で賑わった。

（松吉慶憲）

本門法華宗

◆3月28日、第八十九回本門法華宗宗会が、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。立教開宗七五〇年慶讃法要会計決算の件他、第十四号議案まで、審議の結果、全員一致を以て承認可決された。

◆本年6月25日で任期満了を迎えた杉本日慈管長・貫首猊下は、前項の本門法華宗宗会並びに本山責任役員会の再就任要請を受諾され、本門法華宗管長・大本山妙蓮寺貫首を再任されることが決定した。6月26日付を以て就任。任期は三年間。6月30日、妙蓮寺に於いて継目式が行われ、就任祝賀会が京都全日空ホテルで開催された。

◆大本山妙蓮寺では本年5月、大本堂の屋根を補修した。屋根も老朽化が著しく、雨水漏れの兆候が診られる部位もある為、4月中旬より約一ヶ月間の工期で修復された。

◆本門法華宗学院では故小橋前学院長の後任として、藤井宏長師（大阪府本妙寺住職）が新学院長に就任。同学院では、第百五回教学講習会が6月16・17日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。

本門法華宗学院では立正大学教授北川前肇先生講述『法華天台宗両宗勝劣に聞く』第二巻を3月20日付にて刊行。

（木村光正）

法華宗本門流

◆第五十六次定期宗会が5月22～24日に宗務院において開催。渡辺総長の施政方針に続き、予決算の承認可決等十四議案を議定して閉会。

◆全国宗務所長会が5月28・29日に宗務院において開催。本年度の宗務執行等十八議題を協議して閉会。

◆東北選挙区の宗会議員補欠選挙が施行され、渡部隆善師（青森県川内町・本覚寺住職）が当選し、7月22日をもって就任。

◆8月13日、大本山鷲山寺貫首大塚日正猊下が第一二五代法華宗管長に就任、よって門下連合会顧問にも同日付をもって就任された。尚、推戴式は9月1日同本山において奉修される。

◆本年度の教学講習会は、次の五会場。北海道―8月26～28日（蘭越・幽泉閣）、千葉―10月8～10日（一宮・日松涛軒）、北陸―9月25～27日（金沢ガーデン日）、淡路―10月28～30日（津名・津名ハイツ）、九州―10月28～30日（鹿児島吹上・みどり荘）。

◆第十七回法華宗教学研究発表大会が、11月4日宗務院（東京・人形町）を会場に開催される。

（矢吹慈英）

本門佛立宗

◆5月25日、第一支庁・宥清寺布教区（京都）では、立教開宗七五〇年慶讃別修法要が奉修された。本山宥清寺は本堂御宝前の御修復、改修工事、全国各寺院からのご参詣を無事お迎えさせていただいた。又、この日を機に、宥清寺教講一同は宗門の中心として、佛立開講一五〇年奉賛御奉公へ精進する決意を新たにした。

◆8月3日、第十一支庁では青少年御会式が、神戸・本法寺で奉修された。御奉公の中心となる青少年委員会は、「自分達のために、自分達のことを考える、自分達の組織」として発足され、本年二年目となる。青少年が一八〇名集い、工夫を凝らしたアトラクション等、開講一五〇年奉賛御奉公盛り上げへの青少年の意気があがった。

◆去る3月の第一七三回定例集会で、次期宗務総長に選出された山内日開師（西宮・廣宣寺住職）は、その後10月13日付けで発足する次期内局の総局員（各局長）をほぼ確定した。宗務副総長に、石田日奥師、嶋田幾雄の両師氏、教務局長・中野日崇師、弘通局長・高須日良師、総務局長・石田日奥師、出版局長・岡本日盈師、財務局長・嶋田幾雄氏。開講一五〇年奉賛御奉公を担当する奉賛局長は長谷川日堯師となっている。

（前島照力）

るつうぶん
流通文
るつうぶん

今年七月の日照時間は記録的に短く、一九九三年以来十年ぶりの冷夏だそうである。まさに十年前も冷夏で、米不足との報道に多くの人々が国産米を我先にと買い、タイ米だブレンド米だと振り回されたのが思い出される。人は不確かな不安にさらされた時、利己的保身がはたらき、ときに人を出し抜いてまで自分だけは助かろうとする心が生ずる。現代の我々はとても大切な人としての基本的な心を見失う事がある。自分が困っている時にこそ、自分だけ助かろうとするのではなく、逆に人に施す心。その心とはつまり法華経の心であり、実行する事はすなわち行ではないか。こんな時代だからこそ、それらをお題目を通じて呼び覚まし、見失わせたままでいてはならない。（今）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人
門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成16年2月16日
第29号

ポスト750　宗門布教の方向性　第6回　法華宗真門流

行学二道の精進と時代にあった布教の実践

法華宗真門流宗務総長
竹内正道



御生誕八百年にむけて

法華宗真門流では「高祖、開祖の御心にかえろう。合掌しあう友をつくろう」のスローガンで合掌運動を展開しております。昨年十月には、後柏原天皇より「法華宗日像菩薩正統一門之開闢常不軽院日真者称大和尚也」との御宸翰を賜わりましてより五百年の聖年をむかえ慶讃法要を厳修いたしましたが、天皇陛下より御供物を御下賜いただきまして、御叡慮に報謝しつつ厳粛に記念法要をつとめさせていただき、日像菩薩や開祖の不惜身命の艱難、御苦労を想い破邪顕正、四海皆帰妙法の誓いに邁進する願いをあらたにいたしました。

これから日蓮聖人御生誕八百年にむけて、宗門護持興隆、合掌運動を展開しなければなりませんが、行学二道の精進と今の時代にあった布教の実践が必要なことはいうまでもありません。「行学の二道をはげみ候べし、行学絶えなば仏法あるべからず、われもいたし、人をも教化候え、行学は信心よりおこるべく候」の御教示はどんな時代になっても大切だと思います。信心と信念の教学を樹立し、時代のニーズに合致した布教を推進しなければなりません。この聖年を期にホーム・ページによる布教も開始いたします。

社会問題への統一見解、統一行動を

現在の日本は、明治維新よりももっと大きな変革期に突入しています。少子高齢化はついに毎年六十万人づつ人口が減少して百年後には、人口が半減することがほぼ確実になってきました。土地も財産も価値を下げて、その日の生活にも困る人が急増しています。若者のフリーターが四百五十万人になっており低所得層が増加していますし、精神病予備軍や覇気のない若者がどんどん増加しています。環境の問題も宇宙空間の有機物に含まれているウイルスの報告もあり、宇宙空間に異変が起っており、天災人災が急増するともいわれております。

今までの常識は非常識となり、世の中は「大濁世、大混迷の時代」です。先哲が「宗教を失った社会は道徳も崩壊し、人間は知的野獣となる」と予告した精神的危機に、われわれはあまりにも多岐にわたる課題の前に無力感にうちひしがれてしまいます。

しかしながら、「知法思国の伝統と死身弘法の学風」を継承したわれわれの使命を再認識して、立正安国の大法宣布に精進したいものです。かつてない混迷の社会で布教活動を実践することは不惜身命の信念が必要ですが、そのためには現代の社会に適合する教学が不可欠です。実証的な研究や歴史学的な研究は相当な成果があり、多くの論述が発表されていますが、それらの成果にたって、現代に宗祖がおいでならどうされたかという価値観の生きた教学が必要です。脳死・環境・テロ・人権などについて、あるいは男女共同参画社会についてどのように対応するかの統一見解がほしいものです。その課題で統一見解が成立すると門連の僧俗を喚起させることができ、統一行動も可能となり、立正安国の輪が広がります。

さて、現在の社会が危機的状況であるという認識は誰でも感じていることですが、国際競争力の低下、不況、失業、財政の悪化、特に治安の悪化は生命軽視の風潮となり、環境問題とともに極めて深刻になってきました。中国の李鵬元首相がオーストラリアで「日本をこのままの状態にしておけば二十一世紀には国の存在が急速に融けて地球上からなくなってしまう」と公言していたことが現実のことになるのでしょうか。「国際化」とか「グローバリゼーション」のうたい文句につられて、日本は国としてのアイデンティティを喪失して急速に融けてなくなるのでしょうか。

明治維新は文明開化に流されることなく、「和魂洋才」で日本の独立自尊を主張して近代日本を形成したのですが、大正時代以降になると日本の心を忘れて「洋魂洋才」を主張するものが多く、ついに戦争の敗北ということになりました。そして、その後の経済成長で「無魂洋才」となりエコノミックアニマルの国といわれていましたが、これもバブルの崩壊で「無魂無才」の危機の時代をむかえたのです。

一切の大事の中に国の亡ぶるは第一の大事なり

日蓮聖人は日本が世界に類例をみない国であることを鎌倉時代に見抜いておられました。「一切の大事の中に国の亡ぶるは第一の大事なり」といわれており、われわれの生き甲斐の根幹である日本人の精神の大切さを主張されたのです。今の日本は教育の荒廃、少年犯罪の増加、家庭の崩壊、児童虐待、環境破壊、そして何より愛国心も規範意識もないものが増加してきた精神的危機の時代であり、「国が融けてなくなる」のかも知れないのです。

日蓮聖人は災害と政治の混乱の時代に大衆の苦悩を憂い、国が亡ぶるのを憂いて迫害にひるむことなく仏心を覚醒されました。日蓮聖人の法華信仰の原点にたって、その精神を蘇らせる精神が最も必要な時ではないでしょうか。日本の仏教は世襲制で寺が相続されるようになり、儀礼と慣習に埋没し、葬祭中心に運営されていますので、精神性が衰弱しています。日本が融けてなくならないうちに、日本の心を蘇生させなければなりません。立正安国の精神で蘇生を願う人が次々と地より湧出されることを願うものであります。

本宗では「人類永遠の平和のため宗祖開祖の教義を宣布」することを目標にかかげていますが、これを理念だけで終わらせないように宗祖開祖のみ心に帰り、五百年の風雪に耐えた伝統を遵守しながら、日蓮聖人門下連合会との連帯を深め、諸課題を解決して合掌運動を実践していきたいものと念じています。



総本山本隆寺本堂

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

従地涌出

▼立教開宗七五〇慶讃事業が滞りなく円成した。門連の記念事業により、多くの日本人が日蓮聖人に接したことは疑いない。たくさんの宝物が、東京国立博物館の展示スペースに所狭しと並んだ。それらは日蓮聖人を師と仰ぎ、後世の人に何らかの正しきことを伝えたいという先人先師の、限りない努力と汗の結晶である。▼しかし、今の我々は果たしてどれだけのものを次の世代に遺せるのだろうか？別に形あるものをのこせと提言しているのではない。無形のものでも、例えば教育を施すことにより、多くの日蓮聖人門下を誕生させることができる。これとて今の私たちがなせばできる無形財産の創造である。▼教育はいうまでもなく、一朝一夕で貫徹するものではない。良き環境と長い時間が必要である。それも絶え間なく継続させなければ、まったく意味がない。ということは、強い意志をもって教育を施す覚悟がそこに必要となってくる。それも、日蓮聖人の教えに基づくものであれば、天下無敵の門下生が誕生する。地から涌き出る菩薩の出現を待つのではなく、我々が涌き出させなければならないのである。▼そこで七五〇を過ぎた今、きたる聖祖ご降誕八百年の佳年に向かって、次なる行動をおこす時機を迎えている。何も考えずに、ただ時の経過を待つのか。それとも明確なる指針のもと、行動するのか。ひとえに私たちの覚悟一つで未来は決まるのである。さてさて、どちらを選ぶか。▼日蓮聖人は弟子に次のように語られた。「諸仏の眼目たる妙法蓮華経の五字、末法の始に一閻浮提にひろまらせ給べき瑞相に日蓮さきがけしたり。わたうども二陣三陣つづきて、迦葉・阿難にも勝ぐれ、天台・伝教にもこへよかし」なんと勇気づけられる言葉であろうか。今まさしく私たちは、日蓮聖人の教えを、現代版「立正安国」運動として、それも自行としておこなわなければいけないのである。その意味では今年、門連の役割がなんと大きいことか。▼まさにぼんやりとしていてはいけない世の中である。（石）

大日蓮展決算報告



収入の部

項目	決算額	備考
入場料	160,214,029	当日券 75,278人・門下販売分 81,725人・その他
図録販売	45,520,970	販売総数 25,105冊
音声ガイド貸出	6,509,100	貸出総数 25,067台
グッズ販売	29,852,055	館内記念品販売
搬出金（日蓮宗負担）	160,000,000	80,000,000を 2 回に分けて
合計 (A)	402,096,154	

支出の部

項目	決算額	備考
調査・交渉費	5,041,182	調査出張交通費等
作品拝借料	685,391	拝借謝礼 8 件（門連寺院以外の美術館・個人所有等に）
作品修復費	2,542,940	修理・修復8件
作品保険料	6,944,200	保険評価額 67億470万円
輸送費	36,750,000	集荷・梱包・展示・撤去・返却一式
映像制作費	2,100,000	会場内ビデオルーム放映用テープ制作費
出張費	6,493,534	東博学芸員・門連事務局員・産経職員
レセプション費	4,921,614	H15.1.14.前日オープニング・パーティ代
イベント費	1,468,333	立松和平氏講演料・雅楽声明出演料
会場付帯設備	6,044,917	会場内電気・水道代、トイレ清掃費
会場運営・警備費	12,274,827	会場内事務局費、券売・監視人件費
会場設営・展示雑費	46,200,000	展示ケース・看板・パネル等
印刷費	13,000,000	ポスター・チラシ・チケット
媒体費	50,676,105	新聞・テレビ・雑誌・交通広告etc
媒体制作費	1,129,328	記者発表会場費・取材費を含む
図録制作費	42,000,000	28,000冊
グッズ製作・運営費	24,779,246	展示会グッズ製作費と物品販売の人件費
通信費	1,623,411	ポスター・内覧会案内状・発送費
社外者旅費	2,574,630	大塚工藝・美術出版・その他
雑費	948,159	ハローダイヤル通信・運営費・スタッフ会議費
業務委託費	2,100,000	ティーコムへPR事務局委託経費10月～2月（5ヶ月）
ビデオ撮影・編集費	8,400,000	展示会準備～終了までの撮影・編集・制作費
東京国立博物館への支払い	44,854,440	
産経新聞社手数料	17,844,445	
合計 (B)	341,396,702	

収益配分

収支　(A)－(B)	60,699,452	
産経新聞社の収益配分	12,139,890	収支の 2 割分
日蓮聖人門下連合会の収益配分	48,559,562	収支の 8 割分　……①

門連収益から使用した経費

贈呈図録及びVTR	18,727,071	図録・ビデオ制作費
物販制作費	1,181,250	携帯deミラー
送料	3,332,491	約8,000ヶ寺への図録・ビデオ配送費
大日蓮展事務局費	500,000	残務処理に関する経費
合計	23,740,812	……②

剰余金　①-②	24,818,750	2,000,000円を門連経常会計「７５０事業費」へ、22,818,750円を特別会計「日蓮聖人降誕８００年事業資金（仮題）」へ

この決算報告書は、平成十五年六月十二日に開催された身延理事会、そして平成十五年十一月二十七日に開催された京都理事会に於いて承認された決算報告であります。また本展の企画趣旨を御理解の上、御所蔵の御宝物を出展賜りました各御寺院、そして期間中に多くの法華経有縁の方々をお誘いの上、来場して頂きました門下各御寺院には甚深より感謝申し上げますと共に、紙面をお借りしまして盛大且つ成功裡に終えました事を御報告させて頂きます。

さて、この展覧会は、東京国立博物館・日蓮聖人門下連合会・産経新聞社の主催にて、立教開宗七五〇年記念事業として平成十五年一月十五日より二月二十三日まで、三十五日間に亘り東京国立博物館において開催されました。

本展は日蓮門下各派に格護される宗教遺産とともに信者による様々な美術工芸品を広く紹介し、法華経と日蓮聖人の文化的影響を検証しようとするものであり、日蓮門下に関わる霊宝がこれまで一堂に公開されたことはなく、多くの人々にとりまして千載一遇の機会となりました。

お蔭様をもちまして開催期間三十五日間で延べ一五一、六六〇人の入場者を数えました。収支報告は左表の通りです。

尚、剰余金のうち、二〇〇〇万円を記念事業残務処理での使用を目的として門連経常会計の「七五〇事業費」へ、残りの二二、八一八、七五〇円を特別会計「日蓮聖人降誕八〇〇年事業資金（仮題）」として門下連合会の今後の事業にあてることとなりました。

護法団参は、日蓮宗指定旅行社の
東急観光にお任せください。

豊かな感動のステージへ
東急観光
運輸大臣登録旅行業第38号 ㊫日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
http://tour.tokyu.com
TEL:03-5704-3761



美しい時代へ
東急グループ

**行ってらっしゃい、
いい旅へ。**

豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行までできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——

慶讃 日蓮聖人御降誕

平成三十三年は
御降誕八百年を
迎えます



日蓮聖人門下連合会

（平成十六年一月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　藤井日光
財務部長　中條令紹
宗務総長　岩間湛正
宗務総長室長　遠藤文祥
伝道局長　藤崎一明
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長　田澤元泰
総務局長　栗原正震
現代宗教研究所所長　久住謙是
伝道部長　田端義宏
参与　堀江宏正
教務部長　三坂惠人
参与　浅井玄裕
総務部長　小倉光雄
日蓮宗新聞社社長　西嶋宏明

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　大塚日正
宗務総長　渡辺俊岳
財務部長　佐藤義賢
教学部長　佐々木明乗
教化部長　高村法顕
庶務部長　有田秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中山日暁
宗務総長　中村通義
宗務次長　渡辺昭夫
庶務部長　島田幸晴
財務部長　藤崎行学
布教部長　早川義正
教務部長　桑村信慶
社会部長　多門顕正

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　鈴木日艸
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳
教化部長　佐古大弦
宗務参事　大島崇皡

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東堅町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　野﨑日丞
講尊　梶本日裔
宗務総長　山内日開
宗務副総長　石田日奥
宗務副総長　嶋田幾雄
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　野間正明
総務部長　長崎秀要
教学部長財務部長　岩崎広義
法務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　上川日乾
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　井上隆啓
主事　本多信正
主事　足立真正
主事　山口英泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　杉本日慈
宗務総長　高邉信幸
宗務部長　信隆日系
財務部長　増田隆雄
総務部長　藤井宏長
庶務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
門連常任理事　山下通雄

宗教法人 国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

総裁　田中暉丘
理事長　古知毅彦
門連常任理事　石見良教
門連理事　井上宝護
門連理事　相澤宏明

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8447
京都府京都市上京区紋屋町三三〇
法華宗真門流総本山本隆寺内
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

会長　上川日乾
副会長　久村日鑒
理事長　矢放眞文
副理事長　杉若恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

主座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　二宮和嘉
長老　池田行朗



慶讃 日蓮聖人御降誕

平成三十三年は御降誕八百年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成16年1月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四

法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

貫首 中山日暁
総務 島田幸晴
執事 山本晃道
執事 林孝瑞
執事 中村英司
執事補 湯原正純
執事補 筧就義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八

貫首 鈴木日艸
執事長 真保行宣
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

貫首 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一

住職 二十三世講有 野崎日丞
執事長 佐々木日調
事務局長 伊藤隆之

日蓮本宗本山
要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 野間正明
執事 岩崎広義
執事 原光明

日蓮聖人出家得度《報恩》立教開宗《弘教》の霊跡
清澄寺
大本山
別当 岡崎日泰
〒209-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄三三―一
電話 〇四七〇（九四）〇五二五
FAX 〇四七〇（九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、二百名様までOK。

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話 〇七五（四一四）〇八〇八
FAX 〇七五（四一四）〇八四八

貫首 南條孝仁
執事長 原光司

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三

貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 井野上正文
執事長 土橋興照

日蓮宗本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七

貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗大本山
妙蓮寺
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

貫首 杉本日慈
執事長 飯田信栄
役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七

山主 駒野日法

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗東身延本山
藻原寺
〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三

貫首 持田日勇
総務 増田實泉
執事 冨永一道
役職員一同

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四

貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 安藤信行
同 伊藤隆司
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六

貫首 新井日湛
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 田代浩敬
同 喜多村教雅
同 渡辺行俊

門連時報

日蓮聖人御遺文辞典『教学篇』遂に刊行

現代に生きる我々が七百余年の時を超え、日蓮聖人の御心に近づくためには、まず何よりも遺文を開き拝することが必要となる。しかし、遺文に尋ね、聖人の意図を汲み取ろうとするとき、そこには時間的・環境的・素養的隔たり等による言葉の壁が幾つもあることに気付く。そこで遺文と我々をつなぐ仲立ちとして、優れた解説書や辞典が必須となってくる。それらの参考文献が的確であり、確かな研究成果に裏付けられたものであればあるほど、我々は日蓮聖人の御心に、より近づくことが出来るわけである。

扨このたび、立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として『日蓮聖人遺文辞典教学篇』が身延山久遠寺より発行された。日蓮宗の協賛を得て、編集は立正大学日蓮教学研究所が行い、業務開始から十六年の歳月を経て平成十五年十月、完成に至った。さかのぼれば、昭和二十七年に立教開宗七百年記念事業として『昭和定本日蓮聖人遺文』が発行され、昭和六十年には宗祖七百遠忌記念事業として『日蓮聖人遺文辞典歴史篇』が刊行されたが、待望久しい『教学篇』が遂に完成を見たのである。

本書の総項目数は九六〇九項目、一頁は四段組で一二九二頁にのぼり、『歴史篇』と合わせると二〇三五九項目、二五一八頁に及ぶ。本書は宗義に関する語彙に止まらず、天台教学をはじめ諸宗教学の用語、遺文にみえる諸経の術語などを広く選定し解説している。大項目主義と小項目主義を併用し、「一念三千」「大曼荼羅」「謗法」等、三―四頁にわたる大項目がある一方、それらに関連する子項目も一項目として立てて解説している。引用経論釈の文については所収文献の巻数・頁・段まで表記し、利用者の便を図っている。また、真蹟遺文・疑偽書・講記のいずれを出典とする語彙か明らかとなるよう表記している等の特色を持つ。その内容は現時点における日蓮教学研究・御遺文研究の最新の研究成果を示している。本書を常に座右に置き、日蓮聖人遺文拝読の指南書として大いに活用されることをお勧めする次第である。

なお本書の販売は、身延山せいしん（〇五五六六―二―二〇三三）、日蓮宗新聞社（〇三―三七五五―五二七一）、山喜房佛書林（〇三―三八一一―五三六一）等で行われている。

全門連京都理事会・懇親会、日蓮宗大本山本圀寺で開催



平成15年11月27日　日蓮聖人門下連合会京都理事会　於日蓮宗大本山本圀寺

平成十五年十一月二十七日（木）、日蓮宗大本山本圀寺（久村日鑒貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約五十名が参加した。

午前十一時より「全門連常任理事会」開催。昼食後、午後一時より久村日鑒猊下御導師のもと法味を言上。本堂にて記念撮影の後、午後二時より書院にて同じく久村日鑒猊下による「本圀寺の沿革」について大変貴重なお話を拝聴した。

引き続き、午後二時四十五分より「理事会・懇親会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、岩間湛正全門連理事長を座長に議事を進行。まず人事の件について、門連相談役に日蓮宗・感應寺住職伊藤通明師、法華宗陣門流理性寺住職牧野琢成師の二名が理事会の推薦を受け、就任することが決定した。

続いて全門連上半期事業報告。そして京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。また門連の七五〇事業であった「大日蓮展」の決算報告について、事務局より決算報告書（二頁参照）が提示され、詳細にわたって収支報告がなされた。

会議終了後、懇親会の席を『菊水』へと移し、晩秋の京都を満喫した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、本圀寺の皆様には厚く御礼を申し上げると共に、今後とも門下発展の為にも御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

●『妙法の行進』行われる

第一回妙法の行進は、平成十五年六月三日～七日、門下有志により仏教国として戦乱より復興しつつあるカンボジア王国にて、総勢三百名を超える上座部僧侶と共に、現地語に翻訳された『要約妙法蓮華経』を町や村の家庭に施本しながら唱題行進を行いました。

仏教による世界平和実現のため、自ら参加を願う青年僧や信者の行列で町は溢れ、その模様は各新聞の一面記事となり、現地のテレビニュースでも放映されました。

そこで本年度も、首都プノンペンならびにアンコールワット遺跡のあるシェムリアップを訪れる、第二回『妙法の行進』の開催が左記の通り決定されました。

【第二回『妙法の行進』概要】

■**開催期間**：平成十六年五月三十一日（月）～六月五日（土）

■**募集人数**：約三十名

■**参加費用**：一人　十五万円予定（各空港一律往復渡航費・宿泊費・飲料水・朝昼食・救護スタッフ費込み）

■**申込締切**：平成十六年四月二十日

■**お問い合せ先**：

妙法の行進事務局　土屋信裕

〒818-0035　福岡県筑紫野市美しが丘北三-一〇-二一

電話&ファックス　092-926-8031

電子メール

shamon@myj.biglobe.ne.jp



第1回『妙法の行進』

藤井日光日蓮宗管長、全日本仏教会新会長に就任

全日本仏教会（東京都港区）は一月二十八日、京都市内のホテルで理事会を開き、新会長に日蓮宗の藤井日光管長（94）を推戴した。任期は二年。

▼御遷化（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職
平成一五・九・二	古瀬日宇	顕本法華宗	相談役
平成一五・九・一〇	山田一光	京都門連会長	顧問

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一五・九・九	斉藤隆彦	法華宗真門流	常任理事		退任
	竹内正道		理事	就任	
	木村完祥			就任	
平成一五・一一・一二	青木日斯	本門佛立宗	監査		退任
平成一五・一一・二七	牧野琢成	法華宗陣門流	相談役	就任	
平成一六・一・一	上川日乾	京都門下連合会	顧問	就任	
平成一六・一・一	矢放眞文	京都門下連合会	常任理事	就任	
平成一六・一・一	杉若恵隆	京都門下連合会	常任理事		退任
平成一六・一・一	杉若恵隆	京都門下連合会	理事	就任	
平成一六・一・一	島田幸晴	京都門下連合会	理事		退任

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の伝道機関紙　**日蓮宗新聞**

毎月１日・10日・20日

年間購読料3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　一冊350円（送料別）

年間購読料1,700円（送料込）

○年４回発行

お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）

お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）

詳しくは…

㈱日蓮宗新聞社

〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3

TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028

nichiren@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/

（業務時間　午前９時30分～午後５時）

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1

TEL&FAX.03-3755-6462

（業務時間　午前10時～午後４時）

※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

本門佛立宗

◆去る、10月12日、本山宥清寺（京都）高祖会に於いて、山内日開師を宗務総長とする第二十五期の総局員・宗務役員に対する10月13日付の任命辞令が下付され、平成18年の開講一五〇年を目指しての三年間にわたる山内新内局のご奉公がスタートした。

◆青年教務会では、昨年2月より、全国の各寺院へ、開講一五〇年奉賛御奉公成就に向けての、一五〇奉賛啓蒙全国助行を展開している。去る11月4～6日は大阪近郊の寺院へのお助行が展開された。二十数師の青教会員による熱烈な御題目の声が各寺院で響きわたった。

◆平成16年元旦、御講有日丞上人「年頭のことば」が示された。その中で「平成18年の開講一五〇年をめざして、全国の寺院教会で御講の改良を着実に進め、その結果、寺院等級が昇級するよう切望するものであります」と示された。

◆来る、2月20日、本山宥清寺に於いて、「一五〇全国住職決起大会」が開催される。全宗を挙げて、御講の改良・実践に取り組む、その第一として、全国の寺院住職方の意識の改革をはかり、一丸となって奉賛御奉公に立ち向かう決意を固めようとの目的で開催される。（前島照力）

日蓮宗

◆日蓮宗静岡県沼津市の妙海寺（笹津海道住職）で格護されている弘安3年5月の日蓮聖人曼荼羅本尊から聖人御自身のものとみられる指紋が見つかった。これは昨年3月から進められていた修復調査で明らかになったもので、中尾堯立正大学名誉教授が確認。聖人の実像を肌で感じることのできる大きな発見につながる可能性が高い。

指紋が見つかった曼荼羅本尊は、日蓮聖人六十歳の弘安3年（一二八〇）5月8日に顕示されたもので、大きさは丈九九センチ×幅五四センチ。指紋は向かって左下の「大増長天王」と中央下の花押の部分に合わせて約十ヵ所みられ、遠目では気づかないが、近寄って目をこらして見るといくつかの指跡を見ることができる。

中尾教授によると、日蓮聖人が曼荼羅本尊を揮毫される際、「大増長天王」の部分は四天王の中でも最後に書かれ、墨の乾かないうちに署名と花押に移る。その時〝天〟と〝王〟の付近に左手を添えられ、偶然にも指紋が残ったと推測される。また料紙の表面には、滑りのよいように木槌でたたいて紙の目を緻密に加工する「打ち紙」の技法が施され耐水性に優れているため、墨跡が乾きにくかったことも影響しているとみられる。

さらに花押部分の指跡に関しては、ちょうど同じ日に揮毫された日華上人授与の曼荼羅本尊（法華宗本門流大本山・京都本能寺蔵）の存在も関係しているという。すなわち日蓮聖人は本能寺蔵の曼荼羅本尊を先に揮毫されたために、二幅目（妙海寺の曼荼羅本尊）を書き上げ、最後に筆をおろした時には、その労力の大きさから思わずフラッと料紙に両手を付かれたという想像も成り立つとしている。

中尾教授は「文字中に残された指紋からは、日蓮聖人が渾身の力を込めて曼荼羅本尊を揮毫されていた尊いお姿が伺われ、聖人の実像を身近に感じることのできる数少ない例となるのではないか」と語っている。

◆日蓮宗は第五十代管長に身延山久遠寺法主の藤井日光猊下が二期目のご推戴を受け、昨年12月22日に就任奉告式が東京大田区の日蓮宗宗務院で、さらに同月24日には身延山の祖廟ならびに久遠寺本堂で行われた。

22日、午前十一時から宗務院五階講堂で管長就任奉告式が行われ、管長推戴委員会の委員長・副委員長をはじめ、各本山貫首・宗会議員・宗務所長ら僧侶約七十人が参列した。はじめに岩間総長が「藤井日光猊下にはご法体ますますご慈愛の上、立教開宗七百五十年以降に向けて伝道宗門いよいよ興隆ならしめたまえ」とご宝前に祈願なされ、一連の管長就任奉告式を修了した。（大澤宏明）

国柱会

◆全国各地方連合局において、講習会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎週一回、国柱会本部において、日蓮聖人御遺文輪読会開催。毎月一回、『日蓮聖人の教義』勉強会開催。

◆7月16日、宣正会慶讃法要厳修。19日、日蓮聖人門下ネットワーク街頭演説開催（毎月1回、都内主要箇所において）。30日、田中暉丘賽主以下明治神宮参拝、明治天皇祭厳修。

◆8月23～24日、国柱会本部において日蓮聖人門下ネットワーク講習会開催（青年育成の為の教学研鑽講習、田中暉丘賽主より特別講義）。

◆9月6～7日、京都にて全国青年の集い開催。12日、小松原法難会慶讃法要厳修。16日、田中賽主、スリランカ大菩提会主催ダルマパーラ師生誕祭へ出向。27～28日、式士任用試験開催。

◆10月10日、佐渡法難会慶讃法要厳修。12日、池上本門寺にて日蓮主義池上宣伝。13日、聖祖鶴林会報恩法要厳修。

◆11月1～2日、身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団奉行。11日、小松原法難会慶讃法要厳修。16～17日、恩師田中智学先生第六六回忌報恩大会開催。

◆12月24日、天長節慶讃法要厳修。31日、送旧迎新法要厳修。（石見良教）

顕本法華宗

◆9月30日～10月1日の二日間、京都総本山妙満寺において宗務院布教部主催の「全国布教師研修会」が開催された。時代の流れとともに、社会・各個人の価値観も変化し、仏教を取り巻く環境も変化している中、布教の活性化と布教師の資質向上を図ることを主な目的として開催された。当日は布教総監はじめ、全国各教区の布教師が参加した。来年度は、参加対象者を四十歳以下の全僧員に広げ、期間も二泊三日程度に延長したい考えだ。

◆10月29日、千葉市土気の善勝寺に於いて、「東部連合会先師報恩法要並びに講習会」が開催された。講師として島田幸晴本山総務をお迎えし、「本山の実情と将来」と題して、本山の歴史を踏まえた現状と、将来の展望が語られた。

◆11月4日、京都総本山妙満寺に於いて、宗務院布教部主催西部僧員講習会が、講師に京都文教大学臨床心理学科教授、濱野清志氏を、また、11月10日、東京品川別格天妙国寺に於いて、同東部僧員講習会を、講師千葉大教育学部助教授、諸富祥彦氏をそれぞれお招きして、「現代の様々のストレスに対して、人の心を癒すにはどうすれば良いか」をテーマに講演頂いた。

◆11月26日～27日、「日什門流懇話会」が、静岡県函南町日蓮宗妙高寺を会場に開催された。西片元證師を講師にお招きして、「『絵解き』なる表現法―五種法師『解脱』の模索」を講題に、OHPを用いて興味深い講演を頂いた。その後、会場を伊豆長岡温泉ささや竹翠亭に移して懇親の宴が催された。（多門顕正）

法華宗真門流

◆7月23日、臨時宗議会開催、斎藤総長任期満了に伴なう、次期総長推薦竹内正道師（兵庫県妙法寺住職）が、推薦される。

◆各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が、8月23～29日まで総本山本隆寺にて開催された。

◆8月24～30日、北海道支学林が開催され、宗務所派遣講師として、学林長、田仲良啓師（奈良県八紘寺住職）が出講。

◆8月26日、総本山本隆寺にて、寺宝什物の虫払い会展観法要が開催される。

◆9月9日、新内局発足。内局事務引会開催。

◆10月5日より秋季学林開講、三十数名の学林生が受講。同月12～13日、総本山本隆寺にて、初転法輪挙行、本年は3名が初転法輪に臨んだ。

◆12月4～5日、平成15年度定期宗会開催。内局提案の議案を慎重審議の上可決された。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆9月9日・10日、法華宗中央行学講習会が北海道・旭川に於いて開催された。この講習会は毎年この時期に行われるもので、宗内八教区が持ち回りで担当し、講師の先生をお招きし共に学ぶのはもとより、普段あまり訪れることのない他教区の寺院を訪れ親睦を深めるものである。本年も全国より百名を超す教師が集った。

◆11月15日～16日の二日間、東京・巣鴨宗務院を会場に統合協議会統合学院後期学生講座が陣門流当番宗のもと開講された。法華宗陣門流・法華宗真門流・顕本法華宗の三宗より多くの学生が訪れた。講師は法華宗陣門流・田端大久寺住職佐古弘文先生で、演題は「仏教学入門」であった。

◆12月2～3日、新住職学生沙弥合同研修会が巣鴨宗務院において開講された。陣門教学入門・布教方法の実際などの講義、法話実習が行われ、多くの学生と共に学んだ。（今井満良）

本門法華宗

◆大本山妙蓮寺（杉本日慈貫）では去る平成15年10月12～13日、日蓮大聖人御会式法要を奉修。12日御逮夜法要には万燈会（境内に彩色された紙燈籠を飾り付けするもの）が行われた。

◆平成15年11月12日、大本山妙蓮寺御開山日像菩薩御報恩法要を奉修。日慶・日忠・日応各聖人三師会並びに歴代上人年忌法要を併修。

◆本門法華宗学院（藤井宏長学院長）では、第一〇七回教学講習会を平成15年9月16～17日、第一〇八回教学講習会を11月17～18日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催。第一〇八回教学講習会においては、受講生の吉村光敬・真鍋圓隆各師より教学研究発表が行われた。

◆同布教部より本門法華宗布教紙『信行』第一六〇号正月号。同布教誌『生きる』第四一号雪華号がそれぞれ平成16年1月1日付で発刊。各末寺にて檀信徒に配布された。（木村光正）

法華宗本門流

◆管長・大塚日正猊下（茂原・鷲山寺貫首）の法話集『役に立たない命なぞない』が発行された。猊下は我が国最初の月刊仏教誌を発刊した獅子吼会の会長・導師でもある。本書には、「仏教に根ざした個々の人間の有り様、あるべき姿、如何に生きるか」といった本質的な内容の話がまとめられている。お求めは講談社出版サービスセンター（電話03・3941・5572）

◆昨年11月4日、宗務院において第十七回法華宗教学研究発表大会が催された。小西徹龍興隆学林学監による基調講演「日蓮聖人御遺文の参照資料について」に続き、五名の発表が行われた。今回は特別に、松田准一先生（大阪大学大学院理学研究科教授・宇宙地球科学専攻）が「星の輪廻転生と太陽系の前過去」と題して講演された。

◆同12月3日、全国寺庭婦人研修会が宗務院において開催された。全国より三十余名の参加者を得て、宗内の現状や動向について研修した後、院内を見学して懇親を深めた。

◆宗務院内に法華宗宗制・宗規の抜本的改正を見据えた「法制審議会（森智洪委員長）」が設置された。また、宗歌を制定するため院内に「宗歌検討委員会」を設置し、歌詞のみでも、作詞作曲あわせての作品でもと、広く一般に募集中。

◆古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も優れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・本興寺内）の平成十六年度新入生募集中。（矢吹慈英）

るつうぶん
流通文
るつうぶん

イラクの独裁者「サダム・フセイン拘束」という衝撃的な報道は、昨年12月14日（日）午後9時のことであった。逃亡八ヶ月目、故郷の小さな穴に隠れていたという。イラク国民は一体どんな気持ちでこのニュースを耳にしたのであろうか。人間は生まれながらにして邪悪な者はいない。生まれてきた時は皆仏子であったはずなのに……。何故一人の人間をここまで悪鬼にさせてしまったのであろうか。人の心には誰にも悪鬼が潜んでいる。その芽が出ないように生きることが大事である。人間国宝である武原はん氏の言葉に「かけた情けは水に流し、受けたご恩は石に刻め」とある。しかし今の世の中は「かけた情けは石に刻み、受けたご恩は水に流せ」という身勝手な人が多い気がしてならない。今こそ我々門下は法華経と出逢えたご恩を胸に刻み、お題目を世に弘めていくことが使命ではないか。（順）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人
門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成16年8月15日
第30号

三十号を迎えて——創刊時の志を問う——

門連理事・「門連だより」元編集委員
相澤宏明

本紙は、昭和六十一年四月に創刊されてより、今号で三十号をむかえる。

一口に三十号といっても、本紙の性格上よく続いてきたものと心底おもう。その性格とは、いうまでもなく、連合体の機関紙ということである。

連合会といえば、勿論それぞれの各加盟諸団体が独自の主張を持ち、そのうえで意見を述べあう訳だから、統一された明瞭な主張は元来述べにくい。ここに、おおきな関門がある。

それはそれとして本紙が創刊された背景には、昭和五十六年の日蓮聖人第七百遠忌がある。

ご遠忌の事業として門連によるさまざまな事業がおこなわれたが、その中で、とくに本紙の創刊に直結していることは、「日蓮聖人門下青年の船」である。いまも生々しく記憶に留められているが、この事業を通じて、とくに運営にたずさわった各派の青年僧が、その当時のいきおいを堅持持続させ、青年の船以降の事業として、この「門連だより」に情熱をそそいだのである。

門下連合で沸く創刊号の熱気

創刊号を手にしてみて、まず感じることは、全紙面に躍る意気込みと熱気である。当時の門連理事長の長瀬貫公師の「創刊の辞」に始まり、各派の管長猊下、京都門連理事長の寄稿と続く紙面には門下連合に向けた信仰のまごころがにじみ出ている。

そして、三面には、本連合会の結成に尽力した国柱会会長田中香浦先生の論文が掲載されている。いま、この論文を読みかえしてみると、はたして現代の門連において、門連結成の意義付けがきちっと為されているかどうか、議論の必要性を感じる。

そもそも、門下連合の必要性は、祖廟を中心とした門下の統一と結集であり、そのことが為されなければならない理由は、一にかかって七百年前の日蓮聖人鶴林会を再現し、聖人滅後のわが門下の状態にかえろうとする営みにある。

そのためには、門下連合会が単に各派の代表者のみの交流の場であってはならぬ、こうした呼びかけが、田中香浦先生により強調されているが、三十号を重ねても、なおわれらの現前に展開している様は、一向にかわっていないのではないか。

門下連合会の会合で提起されたのかどうか。理事の席を汚す私を含め、門連全体として、おおいに反省する必要があろう。

三十号にいたる各紙すべてを、ここで論ずるのは不可能である。また、そのような論評が必要ともおもわれない。創刊号及び二号のみで本紙三十号の歩みすべてを論ずるのも危険だ。

しかし、今見てきたように、たとえ二号だけでも示唆するところはおおきいのである。

創刊当時は、青年の船でつちかった団結心が実に上手く機能していたとおもう。青年の船実行委員長の富川孝恭師が初代編集長につかれ、各派派遣の編集委員にも青年の船の同志が参画した。

そして、ことあるたびに座談会を開き、意志の疎通をはかった。もちろん、それらの意見が紙面に反映しているのはいうまでもない。

各派の機関紙・誌の紹介、編集委員の自己紹介、そして各派本山紹介、各派宗務総長によるリレー提言、などは今後の編集にあたっての指針になりうるであろう。

声明文に誓った異体同心の祖訓

創刊号にもう少しこだわってみたい。

五面には、昭和六十年の秋におこなわれた、門連結成二十五年記念京都大会の報告がある。

この中で、特に目を引くのは、「声明文」である。

この声明文は、当日参加された各派要職の代表者全員が賛同し、「百尺竿頭さらに一歩を進め、僧俗一致以って異体同心の祖訓を体し、四海帰妙の祖願達成に一路邁進せんことを誓願する」ことを宗門内外・天下に誓ったものである。

二十五年の節目にあらわれた盛り上がり、と簡単に割り切ってもそれはそれで良い。しかし、本紙の創刊号に、この声明文が掲載された事実は、先師がたの強い信仰心の発露をうけとめるためのものであり、われらの信仰そのものでなければならないはずである。

蛇足ながら、その日の会場の末席を汚していた一人として言わせてもらえば、この声明文を起草され、その起草文を懐に、会まさにたけなわを迎えんとする刹那、おもむろに起立合掌、朗々と声明文を読み上げられた、門連相談役斉藤龍遵上人の神々しい姿がよみがえってくる。

紙面の歩みと今後への期待

創刊以後の各紙についても述べねばならない。第二号には「祖廟について」長瀬理事長が健筆を振るっておられる。長瀬理事長がこのテーマを取り上げられた背景には、当時の門連がかかえていた「祖廟」に対する共通の問題がよこたわっている。

すなわち、ご真骨のご奉遷問題である。

長瀬理事長によれば、このおおきなご奉遷問題は、

「七百遠忌には、まにあわなかったが、開宗七百五十年までには解決」をという旨の説明である。

しかし、開宗七百五十年の折り、この問題は解決したのか、どうか。解決したしないよりも、この点が、



創刊号第1面（昭和61年4月28日）

第三十号発行にあたって

日蓮聖人門下連合会理事長
日蓮宗宗務総長
岩間湛正



立教開宗以来御一門は数多の法難を法華色読と感得し、その度に結束を固め、お題目の燈を伝弘せられて七百五十年。

時を得て日蓮聖人門下連合会では誓願の赤誠を示さんと「大日蓮展」を奉行し、各派御本山秘蔵品をはじめ、広く聖人ゆかりの品々や法華信仰にまつわる美術品、そして帰依篤信の芸術家たちの作品を展観し、尊き結縁の機会をもつことができたのでありました。此の浄業が、わが国の美術や文化の歴史を辿るうえに於いても大いに意義ある催しとなったことは既報するところでございます。

係る慶讃事業によって私どもは、檀信徒にはより深い信行を勧奨すると共に、未だ仏縁を覚知せぬ人々にも値遇聞法の機縁へと導かん為には、本会設立の根本理念のもと堅固なる連携による展轉随喜の教化が不可欠であることを確信した次第であります。

「松は万年の齢を持つ故に枝をまげられる」との祖訓に示されるが如く、種々の困難が興起すると雖も本化門下の自覚を高め、各宗各会の門弟信徒までもが等しく日蓮聖人の御心と同心し一乗の妙法を宣令することが肝要でありましょう。此の機運と経験を生かし爾今、聖祖降誕八百年に向けて、日蓮聖人門下連合会特有の新たなる活動を進展して参りたく念願するものであります。

●これまでの紙面の主な内容●

連　載

「シリーズ　門連の進路をさぐる」（全4回）第2号～第5号
「シリーズ　門下御本山巡り」（全11回）第2号～第12号
「リレー提言　立教開宗750年を迎えるにあたって」
（全11回）第11号～第21号
「ポスト750　宗門布教の方向性」第22号～

座談会

「『門連の進路をさぐる』連載を終りて」第6号
「日蓮門下共通の課題を探る」第16、17号

特　集

「門連結成30周年記念」第7号～第10号
「立教開宗750年に向けての提言」第18号～第20号
「門連結成40周年を祝して」第22、23号
「大日蓮展特集号」第27号

従地涌出

▼私は毎年群馬県内のある酒造会社の酒造り始め（九月・洗いつけ）・造り納め（六月・皆造）の儀式に参加します。

その社長は日本酒造りについて、「ワインは葡萄を作り上げる天の恵み、いわゆる神（ゴッド）が造る酒である。対し日本酒は天の恵み＋魂で造る酒である」と語られます。また杜氏の方々も自然の恵み（水）に感謝し、酒という生き物に対し真心と愛情を注ぐことが信念であると言います。

私達の体には、眼（視覚）、耳（聴覚）、鼻（嗅覚）、舌（味覚）、意（心）など人間の知覚を構成する六つの感覚器官があり、その中で五感機能と意（心）が認識し思考することによって身心が功徳を満たすと言います。この六根という言葉の六番目の意（心）について次のような著述があります。

「日蓮大聖人は心は器なりと仰せになっております。器とは身体の中に心があるとすればその身体は心の器であります。次に心が器であると仰せられたのは心は魂の器であるということです。法華経では魂は心の中に入っているのだと説いてあります。（中略）魂が生きておれば何事も出来ます。日蓮大聖人も我が魂は南無妙法蓮華経にすぎたるはなしということですからその魂を現す為に、神力を現ずるために、お題目を唱えましたならば、私達の心の中の魂はいきいきしてくるのであります」（苅谷日任『心と魂の話』）。

「心の時代」。これは仏教諸宗派が二十一世紀に入る前から掲げられたスローガンで、ふたを開けたらどうでしょう、現代の世論に人々に我々の魂は届いているのでしょうか。大聖人の「日蓮がたましひ（魂）を墨にそめながしてかきて候ぞ、信じさせ給へ。日蓮がたましひ（魂）は南無妙法蓮華経にすぎたるはなし」、この魂という言葉こそが我らが日蓮聖人門下の特許ではないでしょうか。仕事でも勉強でも何事に対してでも一生懸命尽くす事によって何かが見えてくるはずです。世の中には命がけで仕事をしている人も数多くいます。その人々を救うということはそれ以上の情熱と魂がなければ人を導く事はできません。であるからこそ今一度、五感（身体）と心（魂）を一つに合せた「南無妙法蓮華経」を現代の人々の心に届かせたいものです。（善）

ポスト750　宗門布教の方向性　第7回　法華宗陣門流

永遠のテーマ 唱題報恩行の実践躬行

宗祖ご降誕八百年にむかって

法華宗（陣門流）宗務総長
土屋善敬



門連和合の象徴的祭典だった大日蓮展

日蓮聖人門下連合会（門連）が、去る六月七日揃って祖廟に参拝の後、理事会に於いて今から十七年後の平成三十三年（二〇二一）にお迎えする、宗祖ご降誕八百年慶讃の議を発議したことを確認いたしました。

私ごとではありますが、丁度卒寿となる齢で、生きているかも覚束ないことであります。門連の役員としても入れ替り代替りしていることでありましょう。申し送り申し伝えていきたいと思います。

これから十七年、私ども陣門流は門連各ご宗門との連帯感、一帯感の醸成につとめると共に、異体同心の祖訓を頂き、広宣流布の実現という祖願達成につとめて参ること肝要と心得、貞応元年（一二二二）のご降誕からはじまる宗祖のご生涯を思い、更にお題目の輪を世界に広げる努力をいたさねばならぬと思っております。

省みて思えば、本紙前編集長生駒雅幸上人が第二十八号紙上で述懐されたように、十五年余の紆余曲折を経て実現した「大日蓮展」は、立教開宗七百五十年慶讃の掉尾を飾るに相応しく、門連和合の象徴的祭典でありました。

偏に門連各ご宗門協調の賜物でありますが、日蓮宗ご当局が経費大半の予算を計上負担され、その事務局が事のはじまりから、総締めくくりの日までの一部始終にわたり精力的なご労作によるところ、一言添えて深甚の敬意を表します。

門連各ご宗門が、常に唱題修行をその中心テーマとされるように、私ども陣門流に於いてもやはり「唱題報恩行」を提唱し展開中であります。

宗祖日蓮聖人は、全精神を込めて法華経の真髄を探りあてられました。

曽谷入道殿御返事の中では、

「妙法蓮華経と申すは、文にあらず、義にあらず一経の心なり」

と仰せられました。お題目は法華経一部の魂であり、一言の中に法華経全体の功徳がもれなく収められているとの仰せであります。

私どもの門祖日陣上人のご指南は、

「ひたすら宗祖日蓮聖人の御書を鏡として、新奇を衒わず、すなおにその教えを伝えよ」

と仰せられております。

陣門流はこの門祖のご指南をもって宗是として参りました。

信行と和合を原点に置きて

昭和五十六年（一九八一）私どもは、ご門下各ご宗門と共に宗祖御入滅七百年ご遠忌をお迎え致しましたが、この聖なる年を私どもの「唱題報恩行」元年と位置づけました。

五日間の千部法要期間中は、ひたすらお題目をお唱えするよう提唱いたしました。

全国の檀信徒には、お題目を任意にお唱えした数を題目旗に記し、菩提寺を通して奉納することを薦めました。

各末寺からは、競って「お題目奉納旗」が寄せられ、総本山の総門（赤門）から大本堂向拝までの参道両側が、純白地に墨書された「お題目旗」でびっしりと埋まりました。

二十三年前のことでありました。

法華経一部は六九、三八四文字。七字のお題目を一万遍お唱えすると七万文字、法華経一部読誦に匹敵すると数えました。

単純素朴な唱題行、地域によって、講中によって趣を変え、その節廻しと音律の妙は、心に染み入る素晴らしい響きを醸し出しました。

この唱題報恩行は、平成九年の総本山本成寺開創七百年と、平成十四年の立教開宗七百五十年の、両慶讃大法要に引き継がれ、御題目旗奉納の倍増と共に定着いたしました。

私ども陣門流は、ひたすらなるこの唱題報恩行を、信行と和合の原点と置いて、宗祖ご降誕八百年に向かって出発いたします。

又、私どもには唯一の宗祖御霊蹟、伊豆伊東の俎岩の聖地があります。

今から六年後、平成二十二年五月十二日は、弘長元年（一二六一）の伊豆大法難より七百五十年の記念すべき聖日となります。

この聖日に向かっては、「お題目を唱えましょう」のビラと垂れ幕を全国末寺に配布しました。

口に唱え、心に念じて、黙唱があり、ただ一唱があり、三唱、十唱、百遍二百遍一部と、様々な唱題行がありますが、このたびは、「一日に一度は異体同心の祈りのお題目を捧げよう、平和への願いを込めて」をスローガンにいたしました。

この世に浄らかな仏国土を顕現することが宗祖の祈りであります。

五濁乱漫、末法の色濃い世界が、平和でありますように。人類が幸せでありますように。

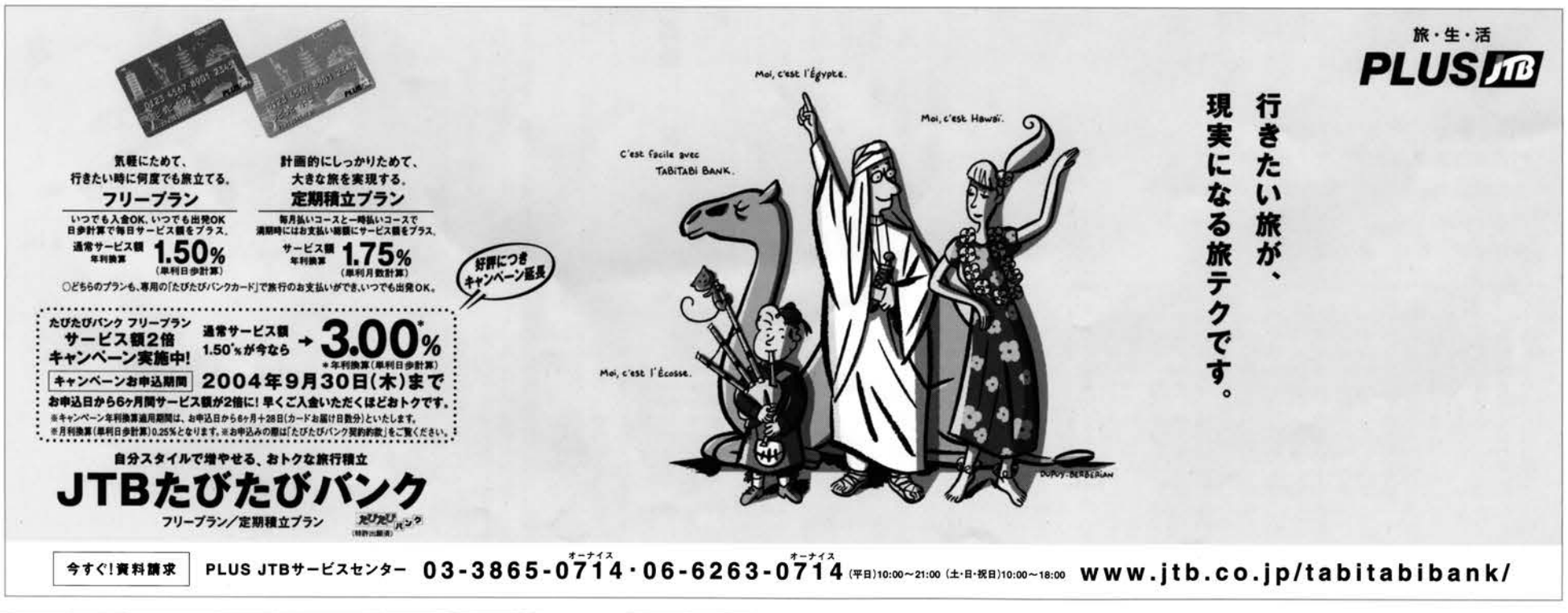
そして、汚染のすすむ地球環境を守るため、門連に寄せる期待と課せられた使命は、無限大に膨らんでいます。

日蓮聖人門下に連なる私ども、心底から異口同音に、異体同心のお題目を唱え、四海帰妙の美酒に酔い痴れるときを夢みて、前進することをご降誕八百年の佳辰に向かっての誓いといたします。



境内より本堂を望む

総本山本成寺本堂



残暑御見舞

日蓮聖人門下連合会

（平成十六年八月現在）



日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　藤井日光
財務部長　渡辺照敏
宗務総長　岩間湛正
宗務総長室長　遠藤文祥
伝道局長　栗原正震
現代宗教研究所長　田澤元泰
総務局長　中條令紹　参与　堀江宏正
伝道部長　田端義宏　参与　浅井玄裕
教務部長　中里観正
日蓮宗新聞社社長　長亮行
総務部長　垣本孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　大塚日正
宗務総長　渡辺俊岳
財務部長　佐藤義賢
教学部長　佐々木明乗
教化部長　髙村法顕
庶務部長　有田秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中山日暁
宗務総長　中村通義
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
布教部長　早川義正
教務部長　桑村信慶
社会部長　多門顕正
庶務部長　津村乗信

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　鈴木日艸
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳
教化部長　佐古大弦
宗務参事　大島崇皷

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講管長　有小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　山内日開
宗務副総長　石田日奥
宗務副総長　嶋田幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　野間正明
総務部長　長崎秀要
教学部長財務部長　岩崎広義
法務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　上川日乾
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　井上隆啓
主事　本多信正
主事　足立真正
主事　山口英泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　高邉日援
宗務総長　信隆日系
宗務部長　増田隆雄
総務部長　吉村頼彦
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　真鍋弘喜
門連常任理事　山下通雄

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中暉丘
理事長　古知毅彦
門連常任理事　石見良教
門連理事　井上宝護
門連理事　相澤宏明

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8447
京都府京都市上京区紋屋町三三〇
法華宗真門流総本山本隆寺内
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

会長　上川日乾
副会長　久村日鑒
理事長　矢放眞文
副理事長　杉若恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

主座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　二宮和嘉
長老　池田行朗



残暑御見舞

日蓮聖人門下連合会

（平成16年8月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六（二）一〇一一
FAX　〇五五六六（二）一〇九四

総法主　藤井日光
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

貫首　中山日暁
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事補　湯原正純
筧就義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

貫首　鈴木日艸
執事長　栗田孝之
執事　平井良正
執事　鈴木顕正
執事　高橋俊二
執事　荒川公孝
執事　西川聡達

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

貫主　上川日乾
執事長　矢放眞文
執事　本多信正
執事　足立真正
書記　笹木研吾
書記　永岡悠希

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

貫首　杉本日慈
執事長　飯田信栄
役職員一同

多寶富士山
日蓮本宗本山
要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　野間正明
執事　岩崎広義
執事　原光明

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代
FAX　〇七五（四六三）四六五一

住職二十四世講有　小山日誠
執事長　田中清希
事務局長　伊藤隆之

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

貫首　本間日諄
参与　井出教道
参与　坪井親雄
参与　井野上正文

日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

参与　永田恵遠
同　山田完修
同　安藤信行
執事長　伊藤隆司
同　藤井照源
執事　二之部知孝
同　合川陽雄

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗東身延本山
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

山主　嶋田日新

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒602-0005
京都市上京区寺ノ内通堀川東入
電話　〇七五（四一四）〇八〇八
FAX　〇七五（四一四）〇八四八

貫首　南條孝仁
執事長　原光司

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

貫首　新井日湛
執事長　渡辺貞観
参与　関観康
同　田代浩敬
同　喜多村教雅
同　渡辺行俊
同　植田観樹

日蓮聖人出家得度立教開宗《報恩弘教》**の霊跡**

大本山
清澄寺
〒209-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄三二一―一
電話　〇四七〇（九四）〇五二五
FAX　〇四七〇（九四）〇五二七

別当　岡崎日泰

団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、二百名様まで可。

門連時報

身延理事会開催さる

平成十六年六月七日（月）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表など計二十三名が参加した。

午前十一時に集合し、祖廟並びに御草庵にて法味言上。その後雨天の為、常唱殿前にて記念撮影。大本堂にて法味言上し、報恩閣に移動。昼食後、参加者は宝物館を自由参観。午後二時より理事会が開催された。

日蓮宗宗務総長岩間湛正理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より「平成十五年度事業報告」がなされ、常任理事会・理事会の開催、門連だより発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更、祖廟輪番奉仕実施等について報告がなされた。

次に、「平成十五年度決算報告」について事務局より決算報告後、斉藤隆彦監査より監査会の報告がなされ承認。

「平成十六年度事業計画案」については前年度同様祖廟参詣、理事会開催、門連だよりの年二回の発行について説明を行い、それに伴った予算案についても承認されたが、「七五〇事業企画調査費」で未使用であった二百万円については、新たに「降誕八〇〇年準備費（仮称）」として予算化されることが決定された。

続いて地方門連活動に関する報告として、京都門下連合会・矢放眞文常任理事より、門下合同による御会式が毎年開催されていることが報告された。また今年度の京都理事会の開催日程として十一月二十五日（木）の案が出された。次に大阪門下懇話会・門谷光瑞師より懇話会の諸活動について報告がなされた。北海道門下連合会の存続については、事務局が現状を調査してから報告することが要請された。

次に、「降誕八〇〇年準備企画」について、降誕八〇〇年に向けて、新たな事業を企画するため、現在の機関紙編集委員等、門連内の若い人達を中心にして準備がなされることが承認された。

その他に、機関紙編集委員会について、出席率の向上を図るため、開催通知と返信葉書を各委員に出すだけでなく、各派宗務院・宗務庁・事務局に開催日程の通知を出すこと、また、多少の旅費の援助が予備費で可能かどうか、事務局で試算し、次回の常任理事会で報告することが要請された。

午後三時二十分に閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。



日蓮聖人門下連合会　祖廟参詣（平成16年6月7日）

陣門流総本山本成寺にて御真蹟発見

法華宗（陣門流）総本山本成寺（新潟県三条市）に伝来する曼荼羅御本尊が、日蓮大聖人の御真筆であると、この程確認された。

本成寺には、佐渡の信徒より寄進された大小二幅の曼荼羅御本尊が御真筆として伝わり、その内、小型の一幅は既に御真蹟と認定され、『日蓮大聖人御真蹟』（立正安国会刊）にも紹介された。

立教開宗七百五十年を契機として、大型の一幅を修繕、調査したところ書式と筆跡などが決め手となって、確かに大聖人が佐渡で揮毫された御真筆と判明した。

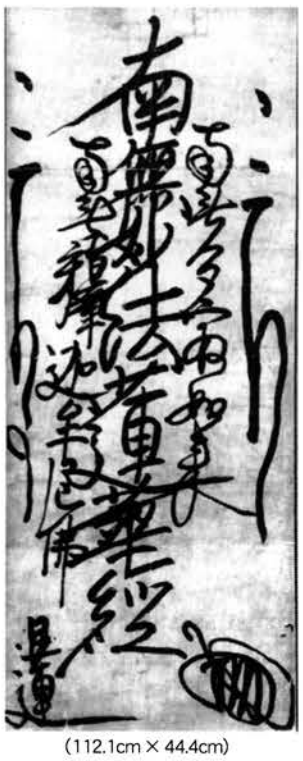
鑑定に携って下さったのは、立正大学名誉教授・中尾堯先生と身延山大学教授・寺尾英智先生である。

中尾先生によると、文永十年（一二七二）冬、佐渡一谷において書かれたもので、日蓮宗頂妙寺に伝わる御本尊と同時に揮毫されたと推定される。大型の曼荼羅御本尊は、一般に高く掲げて礼拝するもので、佐渡の信徒たちが大聖人に揮毫をお願いし、皆で唱題、礼拝していたと考えられるという。

この曼荼羅御本尊こそ、大聖人が流謫の身にありながらも、佐渡の人々への法華経の布教に心血を注がれた証なのである。

大聖人が、鎌倉幕府よりの執拗な監視や身の危険を省みず、佐渡の人々に弘教せんとされた、そのお志を受けつぎ、私どもは未来に向けて、曼荼羅御本尊と共に、いつまでも法華経の信仰を護りつづけ、伝えていきたい。

（陣門流宗務総長・土屋善敬）



（112.1cm×44.4cm）

●京都日蓮聖人門下連合会●

比叡山横川定光院本堂庫裡の上棟式

平成十六年六月二十五日、若き日蓮聖人が勉学に励まれた聖地、比叡山横川定光院（杉若恵隆主監＝定光院護持顕彰会会長）の本堂庫裡の上棟式が行われた。京都日蓮宗本山の貫首をはじめ、百人をこえる参列者が喜びを共にした。

式は導師に杉若主監、修法導師に大岩泰俊師、式衆には修法師が古式にのっとり勤めた。杉若主監は、「宗門先人の定光院に対する護持顕彰のご恩と、延暦寺の理解、立教開宗七五〇年慶讃局の賛助、宗門僧侶をはじめ、顕彰会会員、その他多くの方々に感謝したい」と語った。

この度の事業は、本堂、書院、庫裡の木造二棟の総改修の大事業で、平成十七年九月三十日の完成を目指す。東には清澄、中央には身延に研修道場があるが今後、関西の研修道場として活用されることが期待される。

『第四十回　夏季大学』～今、生きるよろこび 生かされるよろこび～

本年度も、日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐをテーマに『第四十回夏季大学』が開催される。日時は、平成十六年八月二十八日（土）午前九時三十分～午後四時で、場所は、本能寺文化会館（京都市　御池通り河原町西入る　京都市役所前　電話〇七五－二三一－二三一三）。受講料は、二千円（昼食代含む）。

午前十時からの開講式の後、『生きるよろこび』と題して真門流総本山本隆寺貫主の上川日乾猊下が講演され、午後十二時三十分より『法難に生きる』～日蓮聖人の御生涯から～と題して身延山大学教授文学博士の寺尾英智氏が講演、引き続いて、『古典にみる食と健康　過去、現在、未来』と題して京都府立大学助教授農学博士の佐藤健司氏が講演される。いずれも興味深い内容になっており、酷暑の京都で心にそよ風を入れて頂きたい。

三十三年ぶりに日蓮大聖人お会式万燈行列を復活

日蓮大聖人のお会式を厳修するにあたり、万燈提灯行列を三十三年ぶりに復活する。日蓮大聖人を偲び、釈尊の真実の声「南無妙法蓮華経」を共々に唱え、世界の平和を祈る。

平成十六年十月二日（土）午後五時（雨天の場合は大本山本能寺にて厳修）から、京都東山にある円山音楽堂にてお会式法要が厳修された後、万燈提灯行列が出発し、京都で一番賑やかな四条通りから河原町通り、御池通りと行列し、大本山本能寺へと向かう。当日は、人力車や太鼓隊、ブラスバンド、チアガールなども参加予定で、かなり賑やかなお会式になりそうだ。午後七時三十分に終了予定だが、その後、夕粗飯の接待もあるのでひとりでも多くのご参加を頂きたい。

（京都・教法院　三木天道）

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙 日蓮宗新聞
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）
教誌 正法
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）
詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
（業務時間 午前９時30分～午後５時）
日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間 午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

法華宗本門流

◆第五十七次定期宗会が五月十八・十九日の両日、宗務院において開催。渡辺宗務総長の施政方針に続き、予決算の承認可決等十四議案を議定して閉会。

◆全国宗務所長会が五月二十七・二十八日に宗務院で開催。本年度の宗務執行等十八議題を協議して閉会。

◆法華宗米国開教三十五周年を記念して渡辺宗務総長を団長とする巡拝団が、六月十日よりロサンゼルス、サンフランシスコの二教会を訪問。記念法要に併せ開宗七百五十年慶讃法要をアメリカの檀信徒とともに奉修。コルマ日系人墓地にも初めて参拝し回向を行った。

◆本年度開催の教学講習会は、次の六会場。北海道―八月二十五～二十七日（蘭越町・幽泉閣）。東北―九月九～十一日（盛岡市・ホテル大観）。東京―十月五～七日（中央区・法華宗宗務院）。京都―十二月十四～十七日（京都市・大本山本能寺）。中国―十月十八～二十日（岡山市・東光寺）。九州―九月二十八～三十日（鹿児島県・屋久島グリーンホテル）。

◆全国教区布教師研修会が九月十三～十五日、宗務院（東京・日本橋人形町）を会場に開催される。

◆教師養成特別講習会が、十月・光長寺、十七年二月・本能寺、四月・本興寺の各大本山を巡次会場に開催される。（矢吹慈英）

本門佛立宗

◆去る七月二日、本山宥清寺のご尊前では、佛立第二十四世講有・小山日誠上人への講有位の継承と本山・宥清寺第六十五世住職を確定する「遺嘱伝承の儀」が宗内要職教講役員及び歴代講有・日誠上人有縁の方々の参列のもと、厳かに執り行なわれた。日誠上人はこの日より四年間、ことには佛立開講百五十年奉賛御奉公の円成という重責を担われる。

◆佛立第二十三世講有・日丞上人は、去る七月四日、奈良本妙寺に於いて「ご講有ご退任御帰山式」が、寺内及び末寺の教講が参集し、挙行された。日丞上人は帰山の奉告文をもって、「任期四ヵ年の講有としての無事ご奉公成就の御礼」を言上された。

◆去る五月十九日より、二泊三日で「本山奉仕＝住職・担任の部」が開催された。開講百五十年奉賛御奉公は宗内挙げての大改良が叫ばれている。まず率先改良の姿勢を示すべく全国各地から二十三師の住職、担任が参集した。

◆去る八月六日より二泊三日の日程で、滋賀県今津市の佛立研修センターを会場とし、「青少年リーダー研修会」が開催される。全国各布教区からリーダーとして次代を担う二十前後の精鋭を八十七名代表して参加頂く。（前島照力）

日蓮宗

◆日蓮宗は平成十六年度第五十一回日蓮宗全国檀信徒協議会（江守幹男会長代行）の総会を五月二十一日、東京大田区の日蓮宗宗務院で行い、全国から五十五管区五十五人の代表が出席した。宗務院での総会は今回が初めて。総会では、平成十五年度事業及び会務報告、平成十五年度会計・監査報告、役員補充、平成十六年度事業計画案、平成十六年度予算案、その他について審議された。その中で昨年の桜内義雄会長逝去以降、江守副会長が会長代行を務めていた経緯を説明し、常任委員会で江守氏を会長に、副会長に斎藤文夫氏を推薦し、会計には三田村久弥氏が互選されたことを報告した。また来年度の総会開催地が宗務院に決定した。

◆日蓮宗として初めてとなる、一回目の「世界開教師会議」が五月二十六日、二十七日の両日、宗務院で開かれ、開教師十六人と国際開教対策委員八人らが出席した。存続の危機にある海外寺院がクローズアップされる中、「開教師とは何か」という根本の問題から審議を託された国際開教対策委員会が、現場の僧侶と対面するのは初めて。会議では、国際開教対策委員会が現状把握に終始する一方、これまで充分に発言する機会がなかった開教師から要望や訴えがあった。

◆「第四十二回全国日蓮宗青年僧秋田結集～伝える未来への道そして和～」が六月十日に開催され、僧侶約二百二十人が出席。秋田での開催は初めてで、今年のメインイベントとなる唱題行脚が町の注目を集めた。結集に先立ち行われた代表者会議・総会では、新執行部（委員長＝三浦海慧北海道小樽市妙光寺住職）の紹介にあわせ、従来の活動を継続しつつ、時代に即した新たな活動を進めていく決意が表明された。午後三時半、白い手甲に脚絆という行脚スタイルに〝日蓮宗〟と書かれたハチマキを締め、ホテルを出発。藤浩一前委員長と三浦新委員長を先頭に二列に並び、約一時間、唱題行脚を繰り広げた。買い物途中に足を止めた若い女性は「すごい。若いお坊さんがこんなにいるのは初めて見た。こうして見ると、若い人も捨てたもんじゃないと思いますね」と驚きの表情が見られた。（大澤宏明）

日蓮本宗

◆一月十五日、京都法華門流懇話会（ルビノ堀川）。二十九日、第四回慶讃法要検討委員会開催。

◆二月六日、二祖日興上人第六百七十二年御報恩御正当法要（興師会）奉修。七日、教師研修会開催。

◆三月十六日、御開山日尊上人御影遷座式、開山堂へ。

◆四月二十七日、第二回宝蔵収納委員会開催。

◆五月七日、第二回奉納囲碁大会開催。八日、御開山日尊上人第六百六十年御報恩御正当法要（開山会）奉修。十九日、第一回鐘楼堂・薬医門等修復委員会開催。

◆六月七日、第三十九回夏期研修会第一回運営委員会開催。十日、第七十九回臨時宗会・門末会開催。二十一日、第二回鐘楼堂・薬医門等修復委員会開催。二十四日、第一回王城開闢會法要委員会開催。（桐生信行）

国柱会

◆全国各地方連合局において、講習会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎週一回日蓮聖人御遺文輪読会開催。毎月一回『日蓮聖人乃教義』勉強会開催。

◆一月一日、明治神宮元旦参拝。新年拝賀式・元旦大国祷・神酒拝戴式厳修。七日、昭和天皇祭厳修。

◆二月十一日、紀元節慶讃法要厳修。十五日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。十六日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。二十一日、静岡地方にて日蓮主義街頭演説会開催。

◆三月二十七日、名古屋にて日蓮主義街頭演説会。

◆四月四日、申孝園桜まつり開催。八日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。二十一日、四国地方日蓮主義講習会、街宣活動。二十八日、立正会慶讃法要厳修。田中暉丘賽主を団長に第七十四回身延登詣団開催。

◆五月十二日、伊豆法難会慶讃法要厳修。二十一日、東北地方・常磐地方日蓮主義講習会・街宣活動。

◆六月五日、長崎・雲仙にて九州地方開教九十年記念大会開催。九日、田中賽主以下日韓仏教交流協議会鎌倉光明寺大会へ。（石見良教）

顕本法華宗

◆一月二十一日～二月三日、千葉県内の末寺を拠点として、顕本法華青年会の有志による恒例の寒修行（唱題行脚）が寒風の中行われた。

◆二月二十五日～二十六日の二日間、京都総本山妙満寺において第五十九定期宗会が開催された。平成十五年度事業・決算報告、平成十六年度事業・予算案等が審議された後、任期満了の管長、中山日曉猊下の再任が承認された。また、病気療養のため、渡辺昭夫宗務次長が退任された為後任人事として、新次長に庶務部長の島田幸晴師、新庶務部長に津村乗信師が選任された。

◆二月二十八日、木更津市の由緒寺院本立寺（大森俊栄住職）で、「東部連合会」主催の「開祖日什大正師報恩法要」（開山忌）が厳修された。法要に引き続き、全青協の神仁先生を講師にお招きし、仏教界の現状と将来の展望について講演を頂き、活発な質疑応答が交わされた。

◆五月十五日～十六日の二日間、京都総本山妙満寺に於いて、恒例の春季報恩大法要が大導師管長中山日曉猊下のもと厳修された。過日本堂のご本尊の修復が行われており、一段と荘厳味を増したご尊像を拝し、僧俗共に満堂盛大な法要となった。

◆七月二十四日～二十七日の四日間、京都総本山妙満寺に於いて第四十一回顕本青少年れんせい会が開催された。全国より多数の小中高生が集加した。勤行や唱題行、写経、作品制作、レクリエーション等、硬軟取り混ぜた小さな修行に励んだ。（多門顕正）

法華宗真門流

◆二月二十二日教区所長会、布教師会開催。本年度各教区の活動計画案報告、布教計画を作成。

◆三月二十六日～二十八日僧風林開催。

◆四月九日～二十八日春季学林開講。

◆五月一八日～十九日第三学区では、教区研修会を開催、奈良方面西門末寺院参拝、奈良国立博物館の特別展を見学した。

◆五月二四日～二十六日第一教区では、日像菩薩の足跡をたずねて金沢、能登方面にて『檀信徒の集い』研修旅行を開催。

◆六月十九日総本山本隆寺にて真門教学講習会開催。講習会後、東福寺を訪ね日蓮柱を参拝。

◆六月二十七日第二教区では、檀信徒研修会を開催。

◆八月一日～三日暁天講座開催。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首鈴木日艸猊下御導師のもと厳修された。

◆三月四日、前管長、南無日香聖人が遷化され、同十二日に東京日暮里の法光寺において密葬が営まれた。

◆三月八・九日、第百三次定時宗会が宗務院会議室において開催された。

◆四月七日、宗務所長会が、宗務院会議室において開催された。

◆五月十二日、伊豆・霊蹟別院蓮着寺において、「祖岩法難会」が厳修され、本年も全国寺院よりの檀信徒が参拝した。

◆五月十三日より六月二十一日までの四〇日間、総本山本成寺にかいて、「法華宗学林」が開催され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。

◆五月二十八日より三十日までの三日間、総本山本成寺において「祠堂法要」が、日艸猊下御導師のもと厳修され、全国寺院よりの団参で賑わった。とくに二十八日、先般御真筆と鑑定された、本成寺常什の宗祖御曼荼羅本尊の開眼法要が併せて虔修され、法要後の記者会見に多くの報道陣が集まった。

◆五月三十一日、総本山大本堂において南無日香聖人の本葬が厳修され、全国から寺院・檀信徒が多数参列した。

◆六月二十五日、元管長、南無日桂聖人が遷化され、二十九日に密葬が営まれた。（松吉慶憲）

本門法華宗

◆三月十五日、日蓮大聖人立教開宗七百五十年慶讃大法要記念事業の一環として計画されていた、本門法華宗復元立宗の五十年を記録した『本門法華宗復元立宗五十年の歩み』が出版された。立教開宗七百五十年奉賛会高邉信幸執行委員長名で門末寺院・教会・僧侶・教師に配布された。

◆六月二十八日、第九十一回本門法華宗宗会が、大本山妙蓮寺卯木講堂で開催された。本門法華宗平成十五年度決算の件他が審議された。同時に行われた本門法華宗宗務総長選出の選挙の結果、次期宗務総長に信隆日系師（大阪・妙尭寺住職）が選定された。

◆七月五日開催された本門法華宗管長に高邉日援師（大阪・久成寺住職）が推戴された。また、本門法華宗内局部長・責任役員に以下の各師が選任された。代表役員総長・責任役員信隆日系師（大阪・妙尭寺住職）、宗務部長増田隆雄師（大阪・久本寺住職）、総務部長吉村頼彦師（大阪・大願寺住職）、財務部長土畑信教師（大阪・本龍寺住職）、教務部長音羽隆全師（京都・恵光院住職）、庶務部長真鍋弘喜師（大阪・法華寺住職）。

◆本門法華宗学院・教学部では三月二十九日、三十日に第百九回教学講習会、六月十四日、十五日に第百十回教学講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。併せて教師資格検定試験が行われた。（木村光正）

るつうぶん

流通文

つうぶんる

いま、日本のプロ野球界は合併話で持ちきりだ。そもそもこの話は、あるプロ野球球団の赤字経営に悲鳴を上げた合併、そして一リーグ構想。その間、あるIT企業が赤字球団を買いたいと名乗り出たものの、各プロ野球球団のオーナー陣は話を聞こうとしない。それとプロ野球選手の意見や考え、そして多くのプロ野球ファンの気持ち、心を無視している。球団、いわゆる会社のトップに立つ人間はこのような行為をして良いのだろうか。この世の中のすべての生きとし生けるものはお互いに生かし生かされている、と受け取るのが仏教徒の基本的生活態度である。まずは各球団オーナー陣と選手陣が同じ机の上で議論し、良き答えを出せば、多くの野球ファンも納得し、明るい野球界がよみがえるだろう。（大）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成17年1月1日
第31号

京門連「日蓮大聖人お會式万燈行列」三十三年ぶり復活

京都日蓮聖人門下連合会理事長
矢放眞文



●活発な京門連の活動と組織

京都日蓮聖人門下連合会（京門連）の組織と運営から紹介させていただきます。京門連は、京都市内における「日蓮宗・法華宗本門流・顕本法華宗・法華宗陣門流・日蓮本宗・法華宗真門流・本門法華宗」の百八十ケ寺院（十五本山を含む）にて連合会を組織し、日蓮宗側と法華宗側とに大別して隔年にて当番を担当し、「降誕会・開宗会・夏季大学・お会式」の四大行事及び総会（年一回）・理事会（年六回）を年間事業として、それぞれの年会費をもって運営しております。

協賛として、日蓮宗側（大本山妙顕寺・大本山本圀寺・本山頂妙寺・本山本満寺・本山妙覚寺・本山本法寺・本山立本寺・本山妙伝寺）、法華宗側（法華宗本門流大本山本能寺・顕本法華宗総本山妙満寺・法華宗陣門流本山本禅寺・日蓮本宗本山要法寺・法華宗真門流総本山本隆寺・本門法華宗大本山妙蓮寺・顕本法華宗本山寂光寺）の十五本山で組織する京都日蓮聖人門下本山会があり、「主伴会」と称し、年二回の親睦会を開催しております。

また、日蓮宗側は「八山会」、法華宗側は「法華門流懇話会」をそれぞれに開催し、情報交換をしております。さらに五十歳を停年とする京都日蓮聖人門下青年会が組織され、幹事長・副幹事長が京門連の常任理事・理事に、京日青の委員長が理事となり、年間を通じ活発に活動をしております。このように全国でも稀に見る組織力並びに行動力を発揮し、もって連絡を密にしております。







●門下共通の研鑽の場として

「降誕会」は二月十六日に京都日蓮聖人門下本山会の当番本山が会場となり法要を厳修し、合わせて総会を開催して全てにおける決議がなされます。

「開宗会」は比叡山の定光院での法味勤上を主たる目的とし、合せて延暦寺大講堂に安置されています日蓮大聖人の御尊像の御前にて法味勤上の後、京門連会員から選出されました講師による講演会を行なっております。

「夏季大学」は法華宗本門流大本山本能寺を会場として、三部構成にて、第一部は降誕会同様、当番本山の貫首猊下を講師としてお迎えし御講義を頂戴します。第二部は、宗門大学より講師を派遣して頂き、専門分野の講義を聴講します。第三部は、一般大学等より講師依頼をして文化講座的な講義内容としております。

●三十三年ぶりの復活に向けて

「お会式」京門連設立当初は、円山音楽堂にて結集お会式法要を厳修後、祇園の石段下より京都繁華街の目抜き通りである四条通り―河原町通り―御池通りを経て、本能寺にて散会となる『日蓮大聖人お會式万燈行列』が何度となく奉行されておりましたが、諸事情により昭和四十六年を最後に中止せざるに至り以後、当番本山を会場としてご報恩お会式法要を奉修しております。いずれの諸行事も毎年二百ないし三百名の参加者があり、本年はそれぞれに第四十回を迎えますこと、京門連に関わる先師・先哲の先輩上人方の賜であることを念頭に法華経弘通、お題目の広宣流布のために尽力をつくしております。

この度の『日蓮大聖人お會式万燈行列』三十三年ぶり復活の機運は、先の立教開宗七百五十年の吉辰より、京門連の理事会等で語られるようになり、本年まさにその好機に恵まれ、約千人による万燈提灯行列を前例に従い無事遂行いたしました。当日の宣言文を記載し、筆を止めさせて頂きます。

宣言文

南無久遠実成・大恩教主・釈迦牟尼世尊のみ教えは三千年を経た今日もなお、生きとし生ける全世界の人々のともしびとなって燦然とかがやいております。その釈迦牟尼世尊の教えは、現実世界に、闘争と罪悪のすべてが消え果た、絶対平和の世界をうちたてる、妙法蓮華に帰することであります。

日蓮大聖人は釈尊の最後の、み教えである法華経にこそ、唯一の真実と救いがあることを示され、自らその教えの、実践者として、大難四ヶ度・小難数知れず、死生をふみこえ、法華経のやすらかな仏国土たらしめん、一天四海・皆帰妙法を祈られた聖者であります。七百二十一年前の弘安五年十月十三日、六十一歳の涙と慈悲の生涯を閉じられました。日蓮大聖人を偲びまいらすことは、正法を建立し・一閻浮提の人々を安穏にすること、すなわち立正安国の祈りである「南無妙法蓮華経」を心を一つにして、唱えることであります。

現代は豊かな社会といわれておりますが、心が豊かであるとはいえないでしょう。地球規模の自然破壊が進み、地震・台風等の災害、無惨な犯罪、子供への虐待など、悲惨な事件ばかりです。またいま同じ時に地球のどこかでは、戦争で命を失う人、飢えと病気に苦しむ数多くの人々があります。

大聖人は、「国土の盛衰はそこに住む人間の精神の反映である」と申されております。いま将にこのお言葉を真摯な態度で受け止め、私たち今一度、正しい信仰を持つことをお誓いし、法華経の心であり体であり所詮である「南無妙法蓮華経」の七文字を旗印に、本日の京都日蓮聖人門下連合会・京都日蓮聖人門下本山会主催「日蓮大聖人お会式・万燈行列」の意義とすることをここに宣言いたします。

平成十六年十月二日

京都日蓮聖人門下連合会理事長　矢放眞文



書・石橋湛山

従地涌出

▼平成十七年乙酉の歳を迎えた。そこで酉について話してみよう。

▼ちょっとその前に今年は二月九日が旧暦の元旦だが今は新暦が主流だ。中国から日本に伝えられて一四〇〇年。旧暦は繊細な季節の変化と寄り添いながら、徐々に姿形を調え、日本仕様のカレンダーとして定着した。明治六年に西洋歴が採用されてからも、旧暦は、農業・漁業・伝統芸の世界では、必要不可欠な自然暦として継承されている。勿論、宗教＝仏教の世界においてもそうに違いない。自然とともに生きる知恵に満ち、七十二もの季節をこまやかに味わい暮らすことができる旧暦は、まさにエコカレンダー。「日本人はみな昔から知っていたはず。月の力、太陽の動き、眼に見えない風のそよぎを感じ、暮らしに役立てることを……」（『旧暦と暮らす』松村賢二著）。旧暦愛好者の筆者としてはザンネン！　日本人の暮らしの知恵を忘れさせた、心のかよわぬ「西洋暦」斬り！

▼さて話は本題にもどして、酉の話を。「おとりさま」ってご存知？　東京・浅草において毎年十一月の酉の日に行われる「酉の市」。その舞台が、日蓮聖人門下の鷲在山長国寺（法華宗本門流）。門前に「鷲妙見大菩薩」の立て札があり、浅草田圃「酉の寺」と称されている。寺伝によると「文永二年（一二六六）日蓮大聖人が上総国鷲巣（千葉県茂原市）の小早川家（大本山鷲山寺）に滞留の折、国家平穏の祈願をこめたところ、十一月の酉の日に妙見さまが鷲に乗って示現したのがはじまり」という。この「鷲妙見大菩薩」は〈鷲大明神〉〈おとりさま〉とも呼ばれ、たいへん霊験があり、江戸に出開帳したところ、市がたつほどの信仰を集めてこのお寺が出来たという。となりの鷲（おおとり）神社は、明治政府の神仏分離令によりお寺と神社に分割されてできたもので、「鷲妙見大菩薩」は今尚、長国寺に安置されている。　（丈）

ポスト750　宗門布教の方向性　第8回　日蓮本宗

意識改革は「渇仰」と「恋慕」から

日蓮本宗 宗務総長
桐生信行



地震・台風などの災害や残虐な犯罪などが多発し、ますます混迷を深めている昨今であります。現代において布教の方向性はいかにあるべきかが、それぞれの日蓮聖人門下各宗各派にとって大きな課題となってきております。そうしたなか、平成十四年に立教開宗七百五十年という聖辰を迎えました。日蓮本宗における慶讃の弘宣活動と法要を紹介して、さらには宗門の展望を述べさせていただきます。

新しい形式での慶讃大法要を奉修

平成十三年には立教開宗第七五〇年慶讃大法要委員会（長崎秀要委員長）を設置して、大法要に向けての本格的準備に着手しました。立教開宗七五〇年を真に意義あらしめるために、日蓮の弟子檀越として祖山要法寺に一大結集し、末法救済の色読宣布、次代の礎を築くことを目標として掲げました。

法要委員会では、立教開宗七五〇年を意義あるものとするために大法要の聖日には檀信徒を本山に終結することを定め、清澄に赴いて採火することや建設完成予定の宝蔵での重文『経筥』宝物展観などの事業を実施した。

四月二十八日の慶讃大法要においては、新世紀劈頭と立教開宗の慶瑞にふさわしい清新な法要スタイルを構成し、青壮年教師と若年信徒多数を実行主体者として、従来の定形法式を脱却し、唱導隊・現代音楽の演奏・転法輪の多彩なプログラムを進行し、一千名をあげる参詣檀信徒に新鮮な驚きと感動を共有して、本宗教団の将来する展望に明るい燭光を得たと自負しております。（総括報告書より抜粋）

立教開宗七五〇年の記念事業

平成十一年から立教開宗七五〇年記念事業委員会（東山豊次委員長）を開催し、委員会において討議を重ね、七百五十年記念事業として『宝蔵』の建設、『本門宗綱要』の出版、檀信徒用『仏事の心得』の編集出版などの計画方針を決定しました。

『宝蔵』は本山所蔵の国指定重要文化財と、先に解体した『宝蔵』に収蔵されていた各種霊寶等並びに、『経蔵』に収蔵されていた各種経典、版木・古文書等を安全に一括収蔵し、永く後世に伝える施設として建設しました。

『本門宗綱要』は、昭和二年に出版が計画され、草案原稿が作成されましたが、諸般の事情により未刊行であったので、その草案原稿を活字版組みにし、布教の一助とする為に出版した。

『仏事の心得』は、全国檀信徒に本山要法寺の伝統的な仏事作法を在家版として再構成し出版した。

御降誕八百年に向けて

本宗は王城御開山日尊上人開闢會七百年慶讃大法要委員会を平成十六年六月二十四日に発足し、平成二十四年七月の法要奉修にむけて事業内容の詳細を検討中です。

宗門の目指すところは日蓮門下の僧俗をはじめ一般参拝者をも迎える前提で、長期計画し日蓮門下との親交を重ね、僧俗ともに広くは仏教界全体と門下の共存共栄の姿を内外に示す事を目標としています。

現状を観察すると法縁・血縁に依る寺院護持も困難な状況にあります。これを打破するためには早急な意識改革が求められています。

現在の社会情勢から寺院に求められている本来の役割を再確認するならば、寺院は常に地域文化活動の拠点であり、最新の情報発信源でありました。また、大衆の交流の場として公共性の強い面を維持できましたが、近年は寺院の世襲制と一般家庭の核家族化等の影響によって多種多様な形態が生じています。

この貴重な経験を基に優劣の争いから生じた分裂の歴史を個性の尊重へと意識改革を進め元来一体の姿を顕現する事こそ地湧の菩薩行と考えます。



本山要法寺〈本堂・開山堂（左）〉

御降誕會は渇仰と恋慕の心で

妙法蓮華経如来寿量品第十六に曰く、「故不為現身、令其生渇仰、因其心恋慕、乃出為説法、神通力如是（故に為に身を現ぜずして其れをして渇仰を生ぜしむ、其の心恋慕するに因って乃ち出て為に法を説く、神通力如是の如し）」とあるように、門下、弟子檀那一同の集団意識が渇仰と恋慕の心を持った時に其の処に日蓮聖人が御降誕されて法が説かれる。このように御降誕の意義を捉えて、我慢偏執の心を改め「渇仰」と「恋慕」の信仰を日々積重ねることが、御降誕會の実の報恩行であると確信して来たる平成三十二年を迎える事を誓います。



恭賀新春

平成十七年乙酉



日蓮聖人門下連合会

（平成十七年一月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―二二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　藤井　日光
財務部長　渡辺　照敏
宗務総長　岩間　湛正
宗務総長室長　遠藤　文祥
伝道局長　栗原　正震
現代宗教研究所長　田澤　元泰
総務局長　中條　令紹
参与　堀江　宏正
伝道部長　田端　義宏
参与　浅井　玄裕
教務部長　中里　観正
日蓮宗新聞社社長　長　亮行
総務部長　垣本　孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　川口　日唱
宗務総長　渡辺　俊岳
財務部長　佐藤　義賢
教学部長　佐々木　明乗
教化部長　髙村　法顕
庶務部長　有田　秀達

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中山　日暁
宗務総長　中村　通義
宗務次長　島田　幸晴
財務部長　藤﨑　行学
布教部長　早川　義正
教務部長　桑村　信慶
社会部長　多門　顕正
庶務部長　津村　乗信

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　鈴木　日艸
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳
教化部長　佐古　大弦
宗務参事　大島　崇皷

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山　日誠
講尊　梶本　日裔
講尊　野﨑　日丞
宗務総長　山内　日開
宗務副総長　石田　日奥
宗務副総長　嶋田　幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀　日有
宗務総長　桐生　信行
総務部長　岩崎　広義
財務部長　渡邊　光顕
教務部長　西尾　弘道

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　上川　日乾
宗務総長　竹内　正道
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　木村　完祥
財務部長　堀　智泰
社会部長　井上　隆啓
主事　本多　信正
主事　足立　真正
主事　山口　英泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　高邉　日援
宗務総長　信隆　日系
宗務部長　増田　隆雄
総務部長　吉村　頼彦
財務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
庶務部長　真鍋　弘喜
門連常任理事　山下　通雄

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中　暉丘
理事長　古知　毅彦
門連常任理事　石見　良教
門連理事　井上　寶護
門連理事　相澤　宏明

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8447
京都府京都市上京区紋屋町三三〇
法華宗真門流総本山本隆寺内
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

会長　上川　日乾
副会長　久村　日鑒
理事長　矢放　眞文
副理事長　杉若　恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

主座　塙　行幸
長老　石山　定光
長老　吉田　行典
長老　酒迎　天信
長老　今井　行康
長老　二宮　和嘉
長老　池田　行朗

恭賀新春

平成十七年乙酉

日蓮聖人門下連合会

（平成17年1月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　藤井日光
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六（二）一〇一一
FAX　〇五五六六（二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中山日暁
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事補　筧義就
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　鈴木日艸
執事長　栗田孝之
執事　平井良正
執事　鈴木顕正
執事　高橋俊二
執事　荒川公孝
執事　西山聡達
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
主上　上川日乾
執事長　矢放眞文
執事　本多信正
執事　足立真正
書記　笹木研吾
書記　永岡悠希
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　高邉日援
執事長　石崎光教
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十四世講有　小山日誠
執事長　田中清希
事務局長　伊藤隆之
〒606-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代
FAX　〇七五（四六三）四六五一

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　桐生信行
執事　岩崎広義
執事　渡邊光顕
執事　西尾弘道
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

日蓮聖人出家得度《報恩》立教開宗《弘教》の霊跡
大本山
清澄寺
別当　岡崎日泰
〒209-5505
千葉県安房郡天津小湊町清澄三三一―一
電話　〇四七〇（九四）〇五二五
FAX　〇四七〇（九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一名八千円、二百名様まで可。

京都八本山会
大本山　本圀寺　貫首　久村諦道
大本山　妙顕寺　貫首　南條孝仁
本山　頂妙寺　貫首　永田恵遠
本山　妙覚寺　貫首　頂岳龍乗
本山　本満寺　貫首　伊丹栄彰
本山　本法寺　貫首　大塚泰詮
本山　立本寺　貫首　上田尚正
本山　妙傳寺　貫首　野々垣泰典

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　新井日湛
執事長　渡辺貞観
参与　田代浩敬
同　喜多村教雅
同　渡辺行俊
同　植田観樹
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
参与　井出教道
参与　坪井親雄
参与　井野上正文
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗東身延本山
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
参与　永田恵遠
同　山田完修
同　安藤信行
同　伊藤隆司
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

門連時報

全門連京都理事会・懇親会、法華宗真門流総本山本隆寺で開催

平成十六年十一月二十五日（木）、法華宗真門流総本山本隆寺（上川日乾貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四十名が参加した。

正午に集合し、昼食後、午後一時より上川日乾猊下御導師のもと、法味を言上。宗務庁前にて記念撮影の後、午後二時より研修室にて上川日乾猊下による「本隆寺の沿革」について大変貴重なお話を拝聴した。

引き続き、午後二時半より「常任理事会」が開議された後、午後三時十五分より「京都理事会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、岩間湛正全門連理事長が座長となり、議題について議事を進行。全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。また、大日蓮展の全記録をDVDにして保存することが決定され、その他にも降誕八〇〇年慶讃事業に向けての活発な議論が展開された。

会議終了後、懇親会の席をセンチュリーホテル『瑞鳳の間』へと移し、京料理を堪能した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、本隆寺の皆様には厚く御礼を申し上げると共に、今後とも門下発展の為にも御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。



日蓮聖人門下連合会　京都理事会　平成16年11月25日　於　法華宗真門流　総本山　本隆寺

三十三年ぶりに復活!!
日蓮大聖人お會式万燈行列

京門連主催の「日蓮聖人お会式万灯行列」が三十三年ぶりに平成十六年十月二日開催された。参加した檀信徒は約六百名。京都東山にある円山音楽堂で法要が営まれた後、一人一人に手渡された提灯に火をともし、週末で賑わう京都一の繁華街、祇園・四条河原町を練り歩いた。行列の先頭には、京都明徳高校吹奏楽部のブラスバンド隊、続いて纏、日蓮聖人尊像、行脚隊、そして、人力車に乗った門下連合会の各本山貫首、そして集まった檀信徒が後に続いた。約二時間をかけて本能寺に到着。参加者は口々に「是非来年も続けて開催してほしい。また必ず参加させてもらいます」と語った。（理事長報告は第一面に掲載）　（三木天道）

『日蓮聖人の教義』復刊される

国柱会創業百二十年記念事業の一環として、昨年十一月、田中智学著『日蓮聖人の教義』が復刊された。本書は明治四十三年に初版が発行されるや、全編に横溢する信仰の情熱、分かりやすい簡潔平易な解説、百科辞典的な豊富な資料等によって宗門内外の注目を集め、じつに二十五版をかさねるベストセラーとなった。昭和十五年以降絶版となっていたが、今回新組みによって復刊したものである。

「その平易な内容は、今日でも十分な説得力を持って人々に受け入れられ、人生の指針となること疑いありません」

（藤井日光猊下）

「本化の教学の真髄を開法隨喜し略解言趣せしめる名著良書として、私は何度か精読し拙著に引用もし、その学恩を思い知るものです」

（伊藤瑞叡立正大学教授）

「初版から数えて九十七年目にして、不滅の名著がふたたび世に送られると聞いて、まことに慶賀に堪えません」

（渡邊寶陽立正大学元学長）

などの推薦の辞が寄せられ、予約の段階から好調な売れ行きを示している。宗門人はもちろん、広く一般の人々にもお勧めしたい。（石見良教）

『日蓮聖人の教義』A5判七三六頁
定価八千四百円（税込）
発売元・東京都江戸川区一之江六―十九―十八真世界社
☎〇三―三六五六―七一一一
FAX〇三―三六五六―九九八〇



▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一六・六・二八	杉本日慈師 高邉日援師	本門法華宗	顧問	就任	退任
平成一六・六・二八	高邉日援師 信隆日系師	本門法華宗	理事	就任	退任
平成一六・七・六	野崎日丞師 小山日誠師	本門佛立宗	顧問	就任	退任
平成一六・七・六 平成一六・一・一	野間正明師 桐生信行師	日蓮本宗	常任理事	就任	退任
平成一六・一一・一二 平成一六・一二・一三	大塚日正師 川口日唱師	法華宗本門流	顧問	就任	退任

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙 日蓮宗新聞
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）
教誌 正法（しょうぼう）
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）
詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
（業務時間 午前９時30分～午後５時）
日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間 午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

本門法華宗

◆平成十六年七月十三日に開催された大本山妙蓮寺責任役員会において新貫首として高邉日援猊下（久成寺住職）が選任され、八月二十六日に内晋山式を奉修し、石崎光教執事長（玉龍院住職）以下新役職が委嘱され就任した。

◆去る十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて、本門法華宗管長高邉日援猊下の妙蓮寺第百十四世の晋山式法要が門末各寺院・京都日蓮聖人門下連合会各聖御臨席のもと、自坊大阪久成寺檀信徒参集を得て奉修された。併せて御開山会並歴代年忌法要も厳修された。式典後会場を京都ブライトンホテルに移動し、盛大な祝賀の宴が開催された。

◆本門法華宗学院並びに教学部では平成十六年九月九、十日に第百十一回教学講習会、十一月二十九、三十日に第百十二回教学講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。本門法華宗学院では立正大学北川前肇先生講述『四帖抄に聞く（一）』が刊行された。

（木村光正）

法華宗本門流

◆十一月十三日、大本山光長寺貫首川口日唱猊下が第百二十六代法華宗管長に就任、同日推戴式が同本山において奉修された。併せて門下連合会顧問にも同日付をもって就任された。

◆第十八回法華宗教学研究発表大会が平成十七年二月十六日新大阪「メルパルク」を会場に開催される。

◆古来、門祖日隆聖人こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授し、かつ宗門の僧侶養成機関である「興隆学林専門学校」（尼崎・本興寺内）の平成十七年度新入生募集中。

（三浦賢秀）

日蓮宗

◆岩間湛正宗務総長を団長とする第十一次日蓮宗中国訪問使節団を結成、平成十六年六月二十二日から二十九日まで、北京市中国仏教協会への表敬訪問と、鳩摩羅什三蔵法師が日蓮宗徒の経典『妙法蓮華経』を翻訳した西安市草堂寺参拝・天台大師智顗開創による浙江省天台山国清寺参拝を三本柱に各地を訪問した。

◆平成十六年度第一回中央檀信徒研修道場を七月七日から九日まで、千葉県天津小湊町の清澄寺研修会館で開いた。清澄での開催は初となったが、全国十三管区から十九人（うち女性九人）が参加した。

◆平成十六年度日蓮宗国際青少年リーダー交流研修を七月二十二日から二十四日までの二泊三日で開催した。この研修にはアメリカ・韓国・マレーシア・インドネシアの国籍を持つ、十二歳から三十一歳までの男女二十一人が集い、共同生活の中で身心を研鑽し、日蓮聖人のみ教え、信仰の大切さを学ぶと共に仲間との交流を深めあった。

◆日蓮宗米国別院（アメリカ・ロサンゼルス＝金井勝海主任）は平成十六年で開創九十年を迎え、八月二十九日に岩間湛正宗務総長導師のもと慶讃大法要が営まれた。当日はアメリカ各地のみならず、カナダ・イギリスからも開教師と信徒が参集して共に慶事を喜び合い、日本からも多くの関係者らが出席し、永年の歴史と法功に対し、感謝と祝意を表した。

（大澤宏明）

日蓮本宗

◆七月一日、「日蓮本宗宗憲、規則、規程」および「本山要法寺規則」を施行。二日、宗会議員選挙発令。六日、第七十九回臨時宗会・門末会再開。八日、第二回法要委員会開催。十二日、文化財防火運動、本山を会場に山内、町内が参加し消火訓練。二十三日、夏期研修会運営委員会開催。十八時夏期研修会参加者集合、オリエンテーション。二十四日～二十六日、第三十九回夏期研修会開講。

◆八月十六日、本山盂蘭盆会法要奉修。十八日、第三回法要委員会開催。

◆九月一日、宗務所長会開催。十六日、宗・山責任役員会、本山総代会合同会議開催。十六日、第八十回臨時宗会開催。二十三日、本山秋季彼岸会法要奉修。二十九日、新・旧当局引継会。三十日、京都門連御会式スタッフ会議（本隆寺）。岩崎執事、野津主事出席。

◆十月二日、京都門連御会式法要万灯行列（円山公園～本能寺）。岩崎執事、野津主事出席。七日、全国日蓮聖人門下連合会東京理事会。桐生総長出席。十二日、御大会式逮夜法要奉修。第四回開闢会七〇〇年法要委員会開催。十三日、要法護持会本部役員選出会、本部研修会開催。高祖日蓮大聖人第七百二十三年御正当御報恩御大会式法要奉修。御歴代先師第十二祖日在上人第四百五十遠忌併修。十四日、御大会式御廟参。十七日、京都二条流茶会席開催、本山会場提供。

◆十一月三日～十三日、桐生総長、島根寺院御会式特派布教師として出向。十二日、京都門連本山妙蓮寺晋山式に日有猊下、岩崎執事出席。十五日、第三祖日目上人第六七二年御正当法要（目師会）奉修（岐阜日目庵・御霊蹟前）。岐阜本法寺参拝。二十五日、全国日蓮聖人門下連合会京都理事会（本山本隆寺）。岩崎執事出席。

（桐生信行）

国柱会

◆全国各地方連合局において、講習会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。都内はじめ日本全国日蓮主義街頭演説活動実施。毎月第三日曜日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。毎週一回日蓮聖人御遺文輪読会開催。毎月一回『日蓮聖人の教義』勉強会開催。

◆七月八日、顕正会慶讃法要厳修。十六日、宣正会慶讃法要厳修。十日、田中暉丘賽主以下、明治神宮参拝。明治天皇祭厳修。

◆八月四日、本会共催にて靖国問題シンポジウム（文京シビックホール）開催。五日、少年少女夏期学校開催（郡山自然の家にて七日まで）。八日、静岡地方日蓮主義街頭宣伝実施。

◆九月二日～七日、北陸・北海道・奥羽地方日蓮主義講習会及び街頭演説実施。十二日、龍口法難会慶讃法要厳修。二十五日、式士任用試験実施。二十八日、田中賽主、インド大菩提会の要請によりスリランカへ。

◆十月二日～三日、第四十四回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団実施。十日、佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、日蓮主義池上大宣伝実施。十三日、鶴林会報恩法要厳修。

◆十一月三日、本会創業百二十年記念大会開催（第一部明治神宮参拝、第二部慶讃大法要厳修、第三部祝賀午餐会）。十一日、小松原法難会慶讃法要厳修。十七日、田中智学先生第六十六回忌報恩大法要厳修。二十日、全国定例協議員会開催。

（石見良教）

顕本法華宗

◆八月二十五日～九月八日、総本山妙満寺に於いて、「妙塔大学林」（大学林長・山本学人師）が開講された。本年は、本科（一年生）三名、研修科（二年生）五名、研究科（三年生）八名、聴講生一名のあわせて十七名の受講者が参加し、行学二道の修練に励んだ。

◆九月九～十日、恒例の東部連合会主催の研修親睦旅行が行われた。本年度は会津の別格山妙法寺を主会場に、東山温泉で懇親会が行われた。参加者三十二名、益々の懇親を深めた。

◆十月十二日、総本山妙満寺に於いて、本年度に就任した新住職五名の「奉誓式」が挙行された。それぞれ檀家総代随伴の元、本山の御宝前において新住職の誓いを立てた。

◆十月十八日～十九日、総本山妙満寺に於いて、「全国教区布教師講習会」が開催された。初めに布教総監山本学人台下より「唱題修行の実践について」のご講義を賜り、次に各布教師の講演演習が行われた。その後将来の布教に対する意見交換が行われ、活発な議論が交わされた。

◆十月十九日、総本山妙満寺に於いて、「西部僧員講習会」、十月二十五日、東京品川の天妙國寺において「東部僧員講習会」が開催された。講師に第三教区千葉市本行寺住職の朝倉俊幸師、第二教区茨城県波崎町長照寺住職の吉本栄祀師を講師に迎え、「新宗教の実態と対策」を講師自身の体験を交えて講演頂いた。

◆十一月二十七日・二十八日の両日、第一教区東京品川の天妙國寺において顕本法華宗・法華宗真門流からなる「三宗統合学院」が開講された。妙塔学林教授・林孝瑞師を講師に「仏教の死生観」について講演頂いた。当学院は前期・後期の年二回開講している。本宗では、教学資金給付並びに貸与の学生に受講が義務づけられているが、一般僧員の受講も受け付けている。

◆十二月九～十日、第二十五回日什門流懇話会が、広島市本照寺（住職覚義章師）を会場に開催された。講師に津山市本蓮寺住職、藤本俊昭師をお招きし、「児玉日容上人と津山顕本講」についてお話し頂いた。その後懇親会場を宮島口の「安芸グランドホテル」に移し、参加者四十三名が親交を深めた。

（多門顕正）

法華宗真門流

◆各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が、八月二十三日～二十九日まで総本山本隆寺にて開催された。

◆八月二十四日～三十日北海道支学林が開催された。

◆八月二十六日総本山本隆寺にて、寺宝什物の虫払い会展観法要が開催された。

◆十月五日より秋季学林開講、三十数名の学林生が受講。

◆十月十二、十三日総本山本隆寺において秋期大法要開催。布教師の特派布教学林生による朗読劇、檀信徒による模擬店もあって賑いのうちに信心増進に励んだ。

◆十月十三日総本山本隆寺にて、初転法輪挙行、本年は二名が初転法輪に臨んだ。

◆十一月十三、十四日総本山本隆寺において華道部東山未生流華展が開催された。客殿、方丈会館を会場として日頃の精進を披露。多くの来場者で賑った。

◆十二月六、七日平成十六年度定期宗会開催。内局提案の議案を慎重審議の上、可決された。

◆元旦から八日まで国祷会・法華八講奉修。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆六月十二、十三日、法華宗宗務院に於いて、法華宗（真門流）・顕本法華宗・法華宗（陣門流）の三宗による、三宗統合協議会・統合学院が開催された。講師は、法華宗（真門流）宗学研究所・学林講師西岡完孝先生で、「三種教相と五時八教」の講題で講義が行われた。両日ともに三宗より多数の学生が集い、先生の話に耳を傾けていた。

◆七月十三日の新潟豪雨に於いて、総本山本成寺並びに塔頭、及び多くの新潟教区寺院が被災した。このことに対し、宗務院を窓口に宗内全寺院に対して救援金の勧募を呼びかけた。

◆九月九、十日、宗内各教区持ち回りで開催される中央行学講習会が本年は北陸教区に於いて開催され、全国より百名を超える教師が集った。第一講義には氷見市史編纂室嘱託・富山大学非常勤講師久保尚文先生をお招きし、「越中の陣門流法華宗の歴史」の講題でお話を頂いた。第二講義では宗内より学林教授鈴木顕正先生を講師に招き、講題は「陣門教学における信行論」であった。

◆十月二十三日の新潟中越地震に於いて、総本山本成寺並びに塔頭、及び多くの新潟教区寺院が被災した。このことに対し、宗務院を窓口に宗内全寺院に対し救援金の勧募を呼びかけた。

（今井満良）

るつうぶん 流通文 るつうぶん

書店をのぞくと仏教関連の本の多さに驚く。その中でも目にとまったのが上田紀行氏の『がんばれ仏教』である。本書はお寺や僧侶としての活動の可能性を示唆し、仏教者の生き方とは何かと問う指南書と見る事も出来よう。見方も千差万別、賛否両論があるかもしれないが現代仏教に対する警鐘として受けとめ、今、何が出来るのかを考えさせられる一冊である。

寺檀制度のなかで守られてきている旧態依然の伝統的仏教がこのままであることは、かなり難しい時代に来ていると痛感している。

経済成長の中で順風満帆のように見えた社会は困難な時代を迎えている。若者から中高年まで一人ひとりの生きる事の辛さが襲いかかってきている現状を考えるとき、この困難な時代に立ち向かい、未来を切りひらく行動が求められている。ご一読を。

（俊）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成17年9月23日
第32号

立正安国論奏進七五〇年　現代における教化活動とは

第一回 日蓮宗
『立正安国論』奏進七五〇年に向けての私見



日蓮宗伝道部伝道企画課長　浜島典彦

はじめに

私たち日蓮門下は往々にして「立正安国の精神を躰して」というフレーズを安易に使ってしまう。謂わば、「錦の御旗」としてその句を使ってしまいたがるが、果たしてそれで良いのであろうかという疑念が以前から私にはあった。時恰も、今年四月一日より日蓮宗ではご降誕八〇〇年に向けての新宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」をスタートし、これを契機として、『立正安国論』を習学しようとする気運が高まりつつある。殊に四年後の平成二十一（二〇〇九）年には、『立正安国論』奏進七五〇年を迎える。この慶年を迎えるに当たり今一度、私たちは真の立正安国とは如何なるものかを問う必要があろう。そこでこの紙面をお借りし、「蒼蝿」「碧蘿」の思いをなして、『立正安国論』について聊か微官を傾け、私見を述べることとした。

①『立正安国論』の評価

西暦二〇〇〇年の暮れ、読売新聞に中央公論の調査「知識人が二十一世紀に伝えたい書物」のアンケート結果が掲載された。それに依れば、第一位が『日本書紀』、第二位に『立正安国論』がランキングされた。また、内村鑑三の門下生で東京大学総長を務めた経済学者矢内原忠雄氏は著書『余の尊敬する人物』の中で「日蓮の公の生涯は立正安国論に始まり立正安国論に終わる」と日蓮聖人の事績を高く評価し、『立正安国論』と共にその生涯を送った人と断じた。私は卓見であると思う。

日蓮宗の歴史において、久遠成院日親上人、安国院日奥上人等が『立正安国論』を重要視し、幕末から明治期にかけて優陀那院日輝和上・桓叡日智上人・新居日薩和上等が「無用論」或いは重視しないと唱えた。後者の主張の理由は神道の台頭、神主仏従という社会的状況の中で仏教界の内部崩壊を防ぐという観点に立った結果と理解できよう。宗門史においての評価は、大筋で矢内原氏の見解と余り相違はない。

とにかく、『立正安国論』と現代社会との関わりを論じることは、教師として不可避の問題であり、二十一世紀においても継続してその評価をしながら立正安国の精神を再構築していかなければならない責務があるといえよう。

②鎌倉時代、特に日蓮聖人在世中の社会情勢について

貞応元（一二二二）年二月十六日のご降誕から、弘安五（一二八二）年十月十三日のご入滅に至るまで改元が十九回行われている。約六十年の間でこれほど元号が変更されたのは日本の歴史上余り例を見ない。改元される理由は様々あるが、その多くは自然災害の多発、社会情勢の不安定によるものである。このような改元の数の多さ、或いは『吾妻鏡』等の古文書や年輪測定から判断すると、日蓮聖人のご在世は気象異常、天変地夭、政情不安の真っ只中にあったと推察できる。

それに加えて蒙古来襲間近か。日本の歴史上初めて他国からの侵攻が目前に迫り（文永の役、弘安の役が現実となる）、国家の一大事に鎌倉幕府は総力を挙げて対処しなければならなかった。このような時、日蓮聖人は一人の求道者として自然災害・天変地夭の因由を明らかにしたのである。

③日蓮聖人の国土の捉え方

日蓮聖人は、『涅槃経』に説示された「依法不依人」をご自身の思想構築や行動の判断基準として用いられ、その結果、法華経を最勝の経典として選び、「南無妙法蓮華経」を衆生済度の良薬とされたことは周知のことである。最勝とされた法華経の特色の一つに永遠なる生命を有した仏陀釈尊の存在がある。私たちは如来寿量品一品にその存在を認めることが多いが、実は迹門、例えば方便品「久遠劫来」・化城喩品「三千塵点劫」・見宝塔品「二仏並坐」等に見ることが出来る。殊に化城喩品には三千塵点劫の昔、仏陀釈尊が第十六番目の王子として此娑婆世界、私たちの住む地球に遣わされたことが明かされている。

日蓮聖人はこの化城喩品から、この地球の主は仏陀釈尊であり、仏陀釈尊の御領であることを明示し、譬喩品と寿量品の文から仏陀釈尊が主・師・親の三徳を具備された唯一の方として捉えられた。この事実を蔑ろにする阿弥陀信仰、或いは他土の仏を敬う行為は仏陀釈尊を冒涜するものと断じられた。別けても、私たちの住むこの地球の主は仏陀釈尊であり、この地球を領するのは仏陀釈尊であることを再認識するように強く訴えられた建白書が『立正安国論』といっても過言ではない。

④一念三千と善神捨国

日蓮聖人の著書からはご自身が納得しなければ認められないという性格を窺うことができる。従って、その論調はしばしば三証（現証・文証・理証）により、殊に『立正安国論』はこの手続きをとった構成となっている。その冒頭で、先ず正嘉元年からの天変地夭という現証に触れられ、その文証を『薬師経』『仁王経』等に求められている。そして、現証と文証を繋ぐ理証を一念三千と神天上法門とされたのである。

『立正安国論』だけ拝読してもその本意は理解できない。日蓮聖人が佐渡配流中に認められた法開顕の書『観心本尊抄』の真意を知らなければ、『立正安国論』は解せないといわれる。つまり、『立正安国論』の基底に天台大師が『摩訶止観』第五に示された一念三千の観法があることを理解しなければならない。一念三千とは、わが一念と三千の世界の関わりについて論じたものである。殊に三千を構成する三世間（国土世間・衆生世間・五蘊世間）と一念との関連を考えなければならないとされたのである。私たちの一念が狂えば、三千の世界、三世間、特に国土世間に影響を及ぼすというのである。また、悪法が蔓延する世にあっては善神が良い法味（正法）を嘗めることが出来ず、その国を捨ててしまうという神天上法門によって今の鎌倉時代の状況が演出されたと日蓮聖人は捉えられていたのである。

日蓮聖人は、悪法、法然浄土教の日本国支配による仏陀釈尊軽視、仏陀釈尊御領の放棄という人心の乱れ、一念の乱れによる国土への悪影響、善神捨国へと繋がったという結論に至り『立正安国論』を奏進されたのである。

⑤文応元（一二六〇）年七月十六日奏進の理由と九問九答一領解

日蓮聖人は釈尊や天台大師に関わる聖日を大切にし、その日が持つ意を尊ばれた人である。例えば、文永十一年四月八日（釈尊降誕）の日を選び第三回目の国家諫暁をし、弘安四年十一月二十四日（天台大師忌）に身延に十間四面の大堂を落慶し、五・六本認められた『立正安国論』の中で中山本といわれるものは、文永六年十二月八日（釈尊成道の日）に書写されている。この他大曼陀羅始顕は七月八日（文永十年）であり、日蓮聖人はその日の持つ意味合いを大切にされながら、諸事にあたられた。ということは、七月十六日という日の持つ意義も考えなければならない。

前日の七月十五日は、布薩（ウポーサタ・懺悔滅罪）の日であり、道教でいう中元であり、中国で盂蘭盆会が始まった（西暦五三八年）日でもある。インドにおいては、四月半ばから人里離れた場所で約三ヶ月間一カ所に定住して瞑想議論、懺悔滅罪する期間であった。それが明け、街に出て沙門が布教する日が七月十六日といわれる。日蓮聖人は私見（五月二十二日に『立正安国論』校了）を開陳する日を七月十六日と設定されたのである。

日蓮聖人の御遺文には、問答体をしばしば見出すことが出来る。殊に『立正安国論』はその典型であり、十段、主人と旅客との問答、九問九答と旅客の一領解で構成されている。主人と旅客は別人とも考えられるが、日蓮聖人が鎌倉の街の有り様を観、悲惨な情景を一求道者として如何に解決すれば良いのかを自問自答、日蓮聖人自身がご自身に問うたといってもいいのである。つまり、ご自身の懺悔滅罪の発露からの『立正安国論』と見てもよいのである。

⑥天変地夭・疫病と人心との関わり

『立正安国論』の基底には、前述したように理証としての一念三千と神天上法門がある。殊に、一念三千について言及すれば、日蓮聖人は天台大師との違いを理と事に分けた。私たち教師は、現代における事の一念三千について深く思考しなければならない。事とは、日蓮聖人が『観心本尊抄』で「事行の南無妙法蓮華経」と表現されているが、その意は実践することに他ならない。事の実践とは、日蓮聖人流に言えば「我が身法華経の行者にあらざるか」との自省の念を抱きながらお題目を身・口・意の三業に受持することである。

地球誕生からの歴史は四十三億年といわれている。私たちの眼前に起きた災害・疫病等は、その歴史からすれば些細なことに違いない。ウェッゲナーのプレート移動説によれば、インド亜大陸がユーラシア大陸に衝突することによって八千メートル級のヒマラヤ山脈が造られ、幾度も想像を絶した大地震が起こったといわれ、三百万年前には大氷河期があり、六千万年前には小惑星の衝突により地球上の生物は危機に瀕したといわれている。しかし、これ等地球規模の変革によって生物が生まれ、育まれ、進化したともいわれている。また、養老孟司著『バカの壁』によれば現今の地球温暖化はまだ科学的にはその理由も実証されていないともいう。つまり、極論すれば地震・異常気象を災害と受けとるのは人であって、地球の営みからすれば至極当然の現象、マグマのマントル対流が起こり、プレートが移動し、大気の温度変化は地球が生きている証ともいえ、それによって新しい生物が育まれているともいえるのである。一切衆生中の人類にとって大切なことは、それをどう受けとめるかという人心の在り方にあるといえよう。

⑦わが一念について

日蓮聖人は、一求道者として鎌倉の世の惨状を観、その原因と対処法を『立正安国論』に明示された。日蓮聖人は地球物理学者でもなく、気象学者でもなく、経済学者でもなく、為政者でもなかった。真実を求める一人の法華経の行者として仏法を判断基準として世の乱れ、惨状の元凶と対治法を示されたのである。仏法の判断基準とは、天台大師提唱の一念三千であり、殊にわが一念と三千の世界の関わりを基として判断すべきだとされた。つまり、わが一念が間違うことによって、三千の世界も乱れると狂う、国土も五蘊の世界も乱れるとされた。今の世の人から見れば、全くバカげた主張といわれるかも知れないが、日蓮聖人が仏法によって正直に判断されたのである。『立正安国論』の第五段、主人の答えには「ここに知んぬ。徴（しるし）前に顕れ、災い後に致ることを」と示されている。『摩訶止観』第二・『弘決』第二の文章を引用されて、節度、礼儀、服装の乱れは一念により、その前兆があって国が滅びるとされているのである。

日蓮聖人が指摘されたこの一念の在り方を私たち日蓮門下は、わが一念は常に如何にあるべきかを真摯に考え行動しなければならないのである。

むすび

日蓮聖人は、『立正安国論』において『金光明経』『大集経』『薬師経』『仁王経』等の経典を文証として天変地夭の原因と対治法を明らかにされた。殊に、『薬師経』に説かれる七難の中の二難（自界叛逆難と他国侵逼難）の予見をし、その後の予見的中によって佐渡流罪を赦免される。この事実から、しばしば「予言者日蓮」と評されることが多いが、それは日蓮聖人を表象の部分でしか捉えていない判断といえよう。日蓮聖人には終末思想とかハルマゲドン的考え、人々に不安を与えて煽動し、法華経に帰依しろという布教法は全くされていない。「汝の寸心」、寸心とは少しの心という意と、心の一番中心という意があるが、その寸心を「実乗の一善に帰せよ」と日蓮聖人は仰った。天変地夭の続発。鎌倉の世の惨状は、あなたの一念が狂っているということを認識するための啓示であり、正しい法に帰依しなければ真の一念にはならないと訴えられたのである。

この娑婆世界、私たちの住む地球には永遠なる生命を有した仏陀釈尊がましまし、その仏陀釈尊は常に人々を救う主徳・師徳・親徳を備えた唯一絶対の方である。それを忘失したり、蔑ろにする人心に対して天界からの忠言が災いとなって現れる、私たちはいつの時代であってもそう考えなければならないと示されたのである。

私たち日蓮門下は、只「錦の御旗」、スローガンとしての立正安国ではなく、外に向かっての世相にあわせた立正安国だけでもなく、仏陀釈尊・法華経・日蓮聖人という帰依三宝の意に適った立正安国に取り組まなければならない。今世の中で起こっている事象、天変地夭をわが一念への啓示として捉え、われら教師は「我が身法華経の行者にあらざるか」、わが教団は「我が教団の人々は法華経の行者にあらざるか」という自省を常に考えなければならないといえよう。

従地涌出

▼今年の夏は、戦後六十年の節目にあたり、例年以上に反戦・平和の八月になるはずが、衆院の郵政サプライズ解散総選挙になり、個人的には、中途半端な印象が多少あります。八月六日広島原爆忌、九日長崎原爆忌、ソ連の参戦、十五日終戦と、マスコミは終戦記念として特集を組みます。またお盆の先祖供養と重なり、毎年、戦没者追悼の時期でした。総選挙のあおりで中韓注目の小泉総理の靖国神社参拝も中止となり、マスコミもワイドショー以下選挙中心の報道となりました。戦没者追悼儀礼を中韓が政治問題化し干渉し続けることも未解決のままです。小泉総理の「先の大戦で犠牲になった人々を追悼し、平和を祈念する」の答弁だけでは説明不足なのでしょうか。日本が加害者であったことは理解できますが、複雑な国際間の政治問題は私にはわかりません。このことに関しては、去る六月に天皇皇后両陛下がサイパン島への慰霊の行幸の際のお言葉「海外の地において、改めて先の大戦によって命を失ったすべての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道をしのび、世界の平和を祈りたいと思います」と述べられたお気持ちを銘記したいものです。先の大戦は我々に平和の尊さを教えました。戦後六十年間の平和と今日の繁栄は、何百万人という尊き命の犠牲の上にあることを忘れてはいけません。犠牲になった人々への追悼と感謝の念を八月だけでなく常に心に刻んでおく必要があります。日蓮聖人『立正安国論』に「汝須く一心の安堵を思はば、先ず四表の静謐を祈るべきか」とお示しなっております。四表の静謐すなわち国家社会世界平和を祈りなさいと。宮沢賢治はこれを「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と解説しています。世界の現状を見ると、世界を暗躍する国際テロ、地球規模での異常気象、天変地異、環境汚染、難民問題。日本では三万人超の自殺者、凶悪犯罪、倫理道徳喪失等混迷が続いています。今まさに「速やかに実乗の一善に帰せよ」のご意志を心すべき時であります。（光）

寺院・教団と個人情報保護法

(財)全日本仏教会・日蓮宗顧問弁護士　長谷川正浩

個人情報保護法は、平成十五年五月三十日に公布され、本年四月一日から全面的に施行されました。

「個人情報」というのは、氏名・年令・生年月日等、個人の特定につながる情報のことをいいます。具体的には、電話番号・電子メール・性別・学歴・趣味・嗜好・家族構成・血液型・身長・体重・血圧・出生地・本籍地・購読雑誌・職業・既婚未婚の別・好きな食べ物・嫌いな食べ物・好きなブランド品・喫煙の有無など、個人に繋がるあらゆるものが含まれると考えてよいでしょう。これらの個人情報は宗教団体がもっていても、これは宗教団体のものではありません。その個人から預かっているにすぎないのです。そして、この個人情報はその個人の人格権という基本的人権の一つなのです。他人のものを預かっているのですから、その利用目的を明確にしておかなければなりません。そして、利用目的を離れて利用したり、第三者に提供したりするときは、本人の承諾を得なければならないのです。

しかし、死亡した人に関する情報（これが生きている人の情報に繋がる場合には個人情報となります）とか、法人の情報（個人の識別に繋がる情報は個人情報となります）は個人情報に該当しません。

宗教団体がもっている個人情報が宗教活動や宗教活動に付随する活動に係わる場合には、宗教団体に個人情報事業者としての義務は適用されません。従って、主務大臣から勧告をうけたり、それに従わなかったときの罰則規定等は、適用されません。適用されませんけれども宗教団体も個人データの安全管理や蓄積の処理等個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な措置を講じたり、その内容を公表するように努めなければなりません（法五十条）。また、宗教団体でも、その個人情報を宗教活動や宗教活動に付随した活動に全く利用しないときは、即ち、専ら公益事業や公益事業以外の事業（収益事業）に利用する場合には、五千人以上の個人情報をもっていると、個人情報事業者としての義務を負うことになります。

以下に特に注意すべき点をいくつか述べてみましょう。

①開示の要求や問い合せに対しては、本人確認をしっかりします。電話で確認できなければ、直接会って免許証とパスポートを見せてもらいます。親戚と名乗る人に住所等を教えるのは、もっての外です。

②開示する場合、本人の個人情報だけを開示して下さい。問い合わせ以外の情報を開示してはいけません。

今直ちに行うべきこととしては次のようなことがあります。

第一は、宗門のご重役や住職が個人情報の重要性を認識して頂くことです。それによって、はじめて宗門の職員や山務員・寺院の意識を改革させることができるからです。

第二は、「個人情報に関する基本方針」を作ることです。これを宗務庁（院）内に貼り出したり、お寺の掲示板に掲載することにより、宗門の内外から信用を得ることができます（見本参照・右下）。

第三は、宗門やお寺に安全管理を内容とする管理規則を作成します。

第四は、管理責任者を設置します。この管理責任者により情報の収集・利用・管理を専門に担当してもらい、情報のアクセスできる人を決めておきます。そして、アクセスの履歴を残しておくことが大切です。

第五は、個人情報に関する教育を職員や山務員に実施します。レポートを出させるくらいのことをしないと徹底しません。

第六は、問い合せの窓口を設けます。窓口対応マニュアルを作成して、不手際がおきないよう訓練します。苦情処理の対応で問題が大きくなったり、小さくなったりします。大きくなると裁判にもなりかねません。裁判にならないよう次のことに注意して下さい。

①怒らない。怒ったら負けだ。②対応者は、個人情報保護法をよく勉強しておく。③窓口を一本化して、たらい回しにしない。④クレームの情報は複数で共有する（複数で証人となれるようにしておく）。⑤クレーム内容や対応内容は、その場で記録しておく（証拠として残す）。

第七は、損害賠償を請求されたときのために、この種の保険に入っておく。一件につき一万五千円という判例があります。漏洩するときは、数百、数千、数万の情報が一度に流れる危険があります。

以上大変ですが重要なことです。

○○宗　○○寺
個人情報保護に関する基本方針（例）

○○宗○○寺は、檀信徒の皆さま方からご提供いただいた個人情報の重要性を深く認識し情報の保護の徹底を図るため、以下の方針を定めます。

1、当山は、個人情報保護に関する法令及び他の関係法令を遵守いたします。

2、当山は、個人情報をご提供いただく際に、その利用目的を確認し、日蓮宗及び当山の活動の範囲内で適法かつ公正な手段で取得します。皆さまからいただいた情報は、以下の場合のみ利用し、それ以外に利用することはありません。

・○○宗及び当山の宗教活動に使用し、これに関連して電話郵便、電子メール・ファクシミリ等の手段によって連絡をとる目的

・○○宗及び当山の宗教活動・公益事業・その他の事業に関する情報を提供する目的

・○○宗及び当山の宗教活動を推進する目的

3、当山は、山務員・寺族等に個人情報の重要性を徹底させ、個人情報の漏洩、紛失などの防止につとめます。

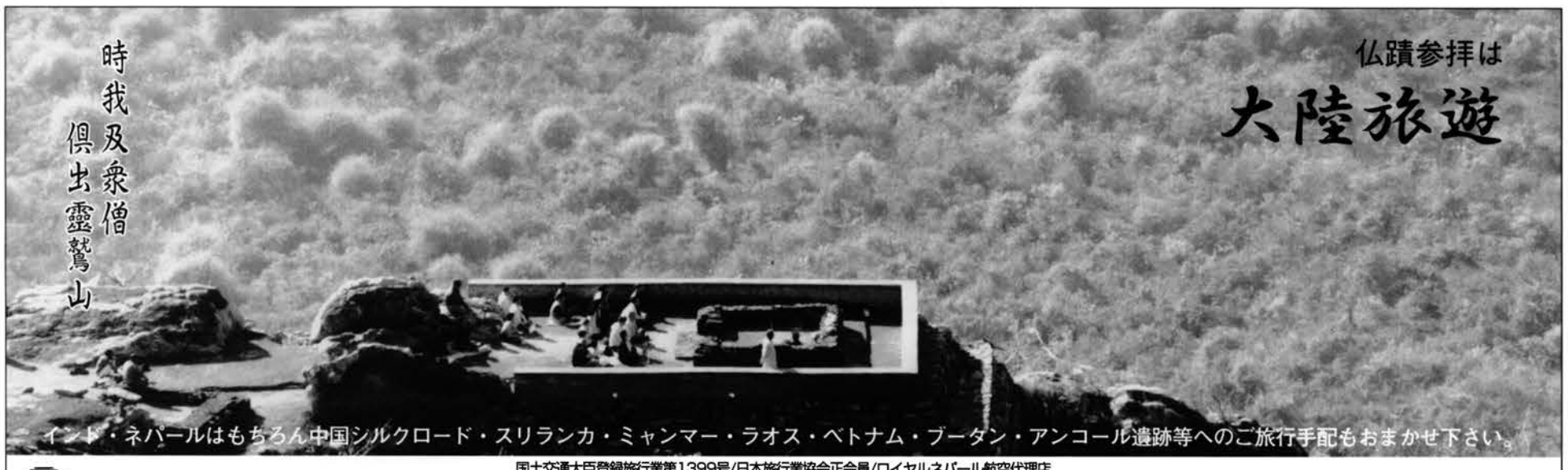
4、当山は、ご提供いただいた個人情報を正当な理由があったり必要性が認められる場合を除き、第三者に提供することをいたしません。

5、当山は、個人情報に関する問い合わせ、ご相談に対し、適切かつ迅速に対応できるようその体制を整備いたします。

以上

削除	← 本人からの問い合わせ	← 管理	← 取得	注意事項	対策
	①本人確認（免許証・パスポート・住民票の確認）を怠らない。 ②申請方法を定めてこれを本人にわかるようにするか、尋ねられたら答えられるようにしておく。 ③担当者を決めて担当者教育をする。 ④苦情には怒らない。	①安全管理措置（漏洩、毀損の禁止）（二十条） ②第三者への提供禁止（二十三条）第三者への提供は同意が必要 例外委託先への提供、グループによる利用 ③目的の変更は本人の同意が必要（十八条） ④利用目的範囲外の利用は本人の同意が必要　例外は令状での捜査や任意税務調査など	①利用日時を特定・明確化（十五条） ②あらかじめ利用日時を公表すること。公表しなかったときは直ちに公表するか、本人に通知する（十八条） 公表とは不特定多数の人が知りうる状態にすること ③本人から書面で取得するときは利用目的を明示すること（十八条） ④偽りその他不正の手段によって取得しないこと（十七条） ⑤公開されているもの（例えば電話帳）からの取得は、公開されているものの目的により、利用目的が拘束される。	注意事項	対策
	①本人確認（免許証・パスポート・住民票の確認）を怠らない。 ②申請方法を定めてこれを本人にわかるようにするか、尋ねられたら答えられるようにしておく。 ③担当者を決めて担当者教育をする。 ④苦情には怒らない。	①安全管理措置（漏洩、毀損の禁止）（二十条） ②第三者への提供禁止（二十三条）第三者への提供は同意が必要 例外委託先への提供、グループによる利用 ③目的の変更は本人の同意が必要（十八条） ④利用目的範囲外の利用は本人の同意が必要　例外は令状での捜査や任意税務調査など	①利用日時を特定・明確化（十五条） ②あらかじめ利用日時を公表すること。公表しなかったときは直ちに公表するか、本人に通知する（十八条） 公表とは不特定多数の人が知りうる状態にすること ③本人から書面で取得するときは利用目的を明示すること（十八条） ④偽りその他不正の手段によって取得しないこと（十七条） ⑤公開されているもの（例えば電話帳）からの取得は、公開されているものの目的により、利用目的が拘束される。	①管理担当者・管理方針を決める。 ②管理担当者を教育する。 ③管理の場所・管理道具（パソコン等）の特定 ④データの暗号化 ⑤委託先の監督 ⑥グループ利用のときは、あらかじめグループの範囲・利用目的、管理責任者について本人に通知するか、本人の知りうる状態にしていくこと。 ⑦知り合いだと言って檀家や、総代等の住所を尋ねられたら、その檀家や総代に直接尋ねてもらうように頼むこと（教えない）。	廃棄担当者を決める。

・過去帳…利用目的の限定（年回忌のお知らせ、回向供養）。問い合わせがあっても閲覧は不可。他の方法で内容を開示。公開は絶対に不可。永久保存。
・現在帳…利用目的の限定（行事案内、自宅案内）。本人の部分は閲覧可。不要なものは削除廃棄する。
・壇信徒名簿…利用目的の限定（行事案内）。本人の部分は閲覧可。不要なものは削除廃棄する。機関誌等発送委託を第三者にするときは十分注意すること。
・墓石簿…墓埋法十五条二項、死者に関係ある者の閲覧を拒んではならない。
・備付け書類…宗教法人法二十五条三項、正当な理由があり且つ不当な目的が無い限り、信者その他利害関係人に閲覧させなくてはならない。
・年回表…公表することを事前に明示しておくこと。
・寄付者名簿…公表することを事前に明示しておくこと。
・寺院名簿…宗派外の者に渡す場合は、そのことを事前に明示すること。渡さない場合は目的外利用を禁止して第三者の利用を禁止する旨、名簿に明示すること。
・アンケート…利用目的を限定し公表しておくこと。
・宗勢調査結果…調査のときに利用目的を公表する。
・団参や各種研修会等の名簿…利用目的を明示しておき、目的外に利用しないこと。



平成二十一年は立正安国論奏進七五〇年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成十七年九月現在）



日蓮宗宗務院

管　長　藤井　日光
財務部長　渡辺　照敏
宗務総長　岩間　湛正
宗務総長室長　遠藤　文祥
伝道局長　栗原　正震
現代宗教研究所所長　田澤　元泰
総務局長　中條　令紹　参与　堀江　宏正
伝道部長　田端　義宏　参与　浅井　玄裕
教務部長　中里　観正
日蓮宗新聞社社長　長　亮行
総務部長　垣本　孝精

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管　長　川口　日唱
宗務総長　渡辺　俊岳
財務部長　佐藤　義賢
教学部長　佐々木　明乗
教化部長　髙村　法顕
庶務部長　有田　秀達

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管　長　中山　日暁
宗務総長　中村　通義
宗務次長　島田　幸晴
財務部長　藤﨑　行学
布教部長　早川　義正
教務部長　桑村　信慶
社会部長　多門　顕正
庶務部長　津村　乗信

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管　長　椿澤　日壽
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　門谷　東生
財務部長　八木　恵岳
教化部長　佐古　大弦
宗務参事　大島　崇皷

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講　有　小山　日誠
講　尊　梶本　日裔
講　尊　野﨑　日丞
宗務総長　山内　日開
宗務副総長　石田　日奥
宗務副総長　嶋田　幾雄

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　桐生　信行
総務部長　岩崎　広義
財務部長　渡邊　光顕
教務部長　西尾　弘道

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管　長　上川　日乾
宗務総長　竹内　正道
総務部長　上田　浩岳
教学部長　辻本　寛孝
教化部長　木村　完祥
財務部長　堀　智泰
社会部長　井上　隆啓
主事　本多　信正
主事　足立　真正
主事　山口　英泰

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管　長　高邉　日援
宗務総長　信隆　日系
宗務部長　増田　隆雄
総務部長　吉村　頼彦
財務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
庶務部長　真鍋　弘喜
門連常任理事　山下　通雄

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

京都日蓮聖人門下連合会

会　長　久村　日鑒
副会長　福井　日進
理事長　杉若　恵隆
副理事長　赤塚　高明

京門連事務局
〒606-8376
京都府京都市左京区二条通川端東入
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首座　塙　行幸
長老　石山　定光
長老　吉田　行典
長老　酒迎　天信
長老　今井　行康
長老　二宮　和嘉
長老　池田　行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

宗教法人

国柱会

資　主　田中　勇一郎
理事長　安中　又六
門連理事　井上　建一
門連理事　相澤　宏明
「門連だより」編集委員　森山　真治

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp



平成二十一年は立正安国論奏進
七五〇年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成17年9月現在）

日蓮宗総本山 身延山久遠寺

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四

法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

法華宗（真門流）総本山 本隆寺

〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

貫主 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

日蓮宗大本山 池上本門寺

〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山 妙満寺

貫首 中山日暁
総務 島田幸晴
執事 山本晃道
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事 小川正義

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山 本成寺

貫首 椿澤日壽
執事長 栗田孝之
執事 平井良正
執事 鈴木顕正
執事 高橋俊二
執事 荒川公孝
執事 西山聡達

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八

日蓮宗大本山 京都八本山会

大本山 本圀寺 貫首 久村諦道
大本山 妙顕寺 貫首 南條孝仁
本山 頂妙寺 貫首 永田恵遠
本山 妙覚寺 貫首 頂岳龍乗
本山 本満寺 貫首 伊丹栄彰
本山 本法寺 貫首 大塚泰詮
本山 立本寺 貫首 上田尚正
本山 妙傳寺 貫首 野々垣泰典

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡 清澄寺

大本山
別当 岡崎日泰

〒209-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四（七〇九四）〇五二五
FAX 〇四（七〇九四）〇五二七

団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山 法華経寺

貫首 新井日湛
執事長 藤井智光
財務理事 村尾貞榮
庶務理事 滝本善孝
法務理事 阿部宇善
教務理事 高谷正之

〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六

日蓮宗大本山 池上本門寺

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

本門法華宗大本山 妙蓮寺

貫首 高邉日援
執事長 石崎光教
役職員一同

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

本門佛立宗本山 宥清寺

住職 二十四世講有 小山日誠
執事長 田中清希
事務局長 伊藤隆之

〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一

多寶富士山 日蓮本宗 本山要法寺

貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 桐生信行
執事 岩崎広義
執事 渡邊光顕
執事 西尾弘道

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺

貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 坪井親雄
参与 井野上正文

〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮宗本山 比企谷 妙本寺

貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七

日蓮宗本山 頂妙寺

貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 安藤信行
同 伊藤隆司
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 合川陽雄

〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四

やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺

山主 嶋田日新

〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮門下お題目初唱之霊場 日蓮宗東身延本山 藻原寺

貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 冨永一道
役職員一同

〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三

門連時報

身延理事会開催さる

平成十七年六月二十三日（木）日蓮宗総本山身延山久遠寺（藤井日光法主）で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表など計十八名が参加した。

午前十一時に集合し、祖廟並びに御草庵にて法味言上。その後、常唱殿前にて記念撮影。大本堂にて法味言上し、報恩閣に移動。午後二時より理事会が開催された。

日蓮宗宗務総長岩間湛正理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より「平成十六年度事業報告」がなされ、常任理事会・理事会の開催、門連だより発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更等について報告がなされた。

次に、「平成十六年度決算報告」について事務局より決算報告後、斉藤隆彦監査より監査会の報告がなされ承認。

「平成十七年度事業計画案」については前年度同様祖廟参詣、理事会開催、門連だよりの年二回の発行について説明を行い、それに伴った予算案についても承認された。また、降誕八〇〇年準備・企画について、平成十七年度はより具体的な組織作り、活動に取り組むよう要請された。

続いて地方門連活動に関する報告として、京都門下連合会・杉若恵隆常任理事より、門下による比叡山延暦寺の御頭講会への参加が報告された。また今年度の京都理事会の開催日程として十一月二十五日（金）の案が出された。次に大阪門下懇話会門谷端光師より、門下合同御会式等、懇話会の諸活動について報告がなされた。北海道門下連合会については、解散が了承された。

次に、「降誕八〇〇年準備企画」について、降誕八〇〇年に向けて、新たな事業を企画するため、現在の機関紙編集委員等、門連内の若い人達を中心にして準備がなされることが承認された（具体的な進行予定は左図を参照）。

午後三時三十分に閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。



日蓮聖人門下連合会　身延理事会祖廟参詣　平成17年6月23日

日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃に向けて

企画準備プロジェクト

①企画委員会設立までの期間、現在の「門連だより」編集委員会を拡大充実させて、企画準備プロジェクトを組織する。企画準備プロジェクトは、各派2名の委員で構成し、委員の参画意識を高めるために門連理事長より委嘱される。
この企画準備プロジェクトの内容については、毎年の理事会にて報告する。

↓

企画委員会

②「御降誕慶讃事業」の目的と現実に向けての事業内容を明確に打ち出す。

↓

実行委員会

③企画委員会で決定された事業の事業の実現に向けて向けて動く。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一七・六・二一	鈴木日艸師 椿澤日壽師	法華宗陣門流	顧問	就任	退任
平成一七・一・二三	田中暉丘氏 田中勇一郎氏	国柱会	顧問	就任	退任
平成一七・三・三一	石見良教氏	国柱会	常任理事		退任
平成一七・五・一〇	井上宝護氏 井上建一氏	国柱会	理事	就任	退任
平成一七・一・一	上川日乾師 久村日鑒師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成一七・一・一	矢放眞文師 杉若恵隆師	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成一七・一・一	杉若恵隆師 赤塚高明師	京都門下連合会	理事	就任	退任

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙 **日蓮宗新聞**
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）

教誌 正法（しょうぼう）
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）

詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
（業務時間 午前９時30分～午後５時）

日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間 午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

集会議が、熱海において本宗の幹事で開催された。二十七日、三派統合協議会が、伊豆長岡において本宗の幹事で開催された。

◆七月一日、伊豆・霊跡別院蓮着寺において、中野哲詳山主の晋山式が厳修された。

（松吉慶憲）

本門法華宗

◆三月十四日、第九十二回本門法華宗宗会（信隆日系宗務総長）が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催された。本門法華宗会議長に山下通雄師（大阪・妙覚寺住職）以下各役職の選任が承認可決された。また本門法華宗平成十七年度予算の件他、第十一号議案まで審議され、決議された。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺（高遵日援貫首）で、本山三大会の一つである春季大法要が奉修された。高遵貫首の御親教の後、春の志霊法要以下諸供養法要が奉修された。

◆本門法華宗宗学院・教学部（藤井宏長学院長）では三月二十九日～三十日に第百十三回教学講習会、六月十四日～十五日に第百十四回教学講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催された。第百十四回教学講習会より、法華宗（本門流）興隆学林教授大平宏龍先生を外来講師として講義が行われた。

◆三月五日、立正大学教授北川前肇先生講述『四帖抄に聞く（二）』が発行された。

◆七月一日、本門法華宗布教誌『生きる』第四十四水華号、信報『信行』第百六十三号発行。

◆本門法華宗学院では基礎的教学のテキストとして、『本門法華宗入門』の作成を計画し、宗内各師に執筆を依頼。四月十四日「編集合同会議」が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催された。

◆九月八日～九日、第七回本門法華宗地方研修会を、本門法華宗宗務院、学院、大本山妙蓮寺共催で大阪地区寺院を巡拝し、開催された。

（木村光正）

法華宗本門流

◆第五十八次定期宗会は五月二十三日～二十五日、宗務院で開催。新議長には菅原隆岳師（吹田市・法華寺）、副議長には平田義範師（千葉県・本興寺）、法務委員長には日種光顕師（南あわじ市・隆泉寺）、財務委員長には菊地恵祐師（岡山市・松壽寺）がそれぞれ選任され、予決算等十五議案を議定して無事閉会。

◆全国宗務所長会が五月三十日～三十一日に宗務院で開催。本年度の宗務執行等十七議題を協議して閉会。

◆本年度開催の教学講習会は、次の五会場。北海道―八月二十三日～二十五日開催済（札幌市・札幌サンプラザ）。東海―十月三日～五日（沼津市・ホテル沼津キャッスル）。大阪―十月二十四日～二十六日（大阪市・ホテル阪神）。四国―六月二十二日～二十三日に開催済（高松市・本堯寺）。九州―六月八日～十日に開催済（鹿児島県・屋久島グリーンホテル）。

（三浦賢秀）

本門佛立宗

◆去る六月十七日～七月一日、御講有・小山日誠上人はブラジル巡教をなされた。リンス・大宣寺、プルデンテ・日扇寺、サンパウロ・日教寺、モジ・隆昌寺等で佛立開講一五〇年の記念法要・お助行の御奉公をなされた。日教寺での参詣者は千七百名を超えた。

◆去る八月五日～七日、青少年リーダー研修会が（全国代表六十二名参加）、本山並びに滋賀県今津町の佛立研修センターに於いて開催された。プログラムの中では、参加者から御講有・日誠上人への様々な質疑応答が、また、御講尊・日裔上人からは参加者へ「開講百五十年以降の御奉公の中心となれ」との御法話等があった。

◆昨年十二月インド洋津波により甚大な被害を蒙った、スリランカでは、その後も福岡日雙師（神戸・香風寺）等の御奉公により、弘通が発展している。五月、福岡師が赴いた折には、新たに三ヶ所に弘通の拠点が設けられ、全土に佛立信仰が波及しつつある。

◆佛立青年教務会では、開講百五十年に向けて、全国各寺院へのお助行運動を展開している。六月は中部南・北布教区と北九州布教区へ。八月は東京常磐・房総布教区と静岡布教区へ。各寺院の弘通発展を願う御題目の口唱の声が響きわたった。

（前島照力）

日蓮宗

◆日蓮宗は平成十七年度第一回中央檀信徒研修道場を六月二十八日～三十日まで千葉県鴨川市の清澄寺研修会館で行い、全国六管区から集まった五十二歳から七十四歳までの合わせて九人の檀信徒が熱心に研修に臨んだ。

◆総本山身延山久遠寺は、終戦六十周年を記念した法要参拝団を結成し、太平洋戦争激戦地の一つで、三万人以上の兵士が戦死し、多くの民間人が犠牲になったサイパン島とテニアン島を六月二十一日～二十五日の日程で訪れ、総勢六十人の僧侶・檀信徒が慰霊法要を行った。

◆終戦六十年を迎えた八月十五日、日蓮宗では東京・千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「戦没者追善供養並びに立正平和祈願法要」を営み、僧侶檀信徒約五百人が参列し、戦争で尊い命を落とした犠牲者の冥福を祈ると共に、世界平和への誓いを新たにした。午前九時、ご遺骨が納められている陶棺を安置する六角堂内に曼荼羅ご本尊を掲げ、東京四管区の宗務所長、声明師会、修法師会、青年会員が出仕して法要が営まれた。昭和三十四年に同墓苑が建立されて以来、日蓮宗では毎年この法要を営んで、今年で四十六回目を迎えた。

（大澤宏明）

国柱会

◆元旦、午前九時より明治神宮参拝。本部講堂にて国祷新年拝賀式厳修。終わって講堂にて神酒拝戴式を挙行。七日、本部にて昭和天皇祭厳修。

◆二月十一日、紀元節慶讃法要厳修。

◆十五日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。

◆十六日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。

◆三月六日本部にて『申孝園の集い』開催。国柱会中央婦人部の勉強会。二十日、春季彼岸大供養会厳修。

◆四月三日『申孝園桜まつり』開催。地域住民に桜満開の園内を開放し、歌あり踊りありの恒例行事。八日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。十六日～十七日、輪番常勤給仕実施。近畿局、中央同志が集い、講習会とご修行研修。妙宗大霊廟への常勤給仕を開催。二十八日～二十九日、第七十五回身延登詣団を開催。全国同志参集し、祖廟で立正会慶讃法要厳修。二十九日は思親閣に登詣。

◆五月九日、賽主先生、スリランカ大使館へ出向される。津波被災の義援金を持参し、大使と面談される。十二日、聖祖伊豆法難会慶讃法要厳修。

（井上建一）

顕本法華宗

◆二月二十八日、木更津市の由緒寺院本立寺（大森俊栄住職）で、「東部連合会」主催の「開祖日什大正師報恩法要」（開山忌）が厳修された。法要に引き続き、東金市蓮成寺の小島顕明上人を講師にお招きし、「日什大正師と弟子たち」の講演を頂いた。

◆三月九日～十日の二日間、京都総本山妙満寺において第六十定期宗会が開催された。平成十六年度事業・決算報告、平成十七年度事業・予算案等が審議された。

◆五月十四日～十五日の二日間、京都総本山妙満寺に於いて、恒例の「春季報恩大法要」が大導師、管長中山日暁猊下のもと厳修された。本年は千葉県上総地区（上総七里法華）の教線の礎を築いた、心了院日泰上人の五百遠忌の聖年に当たり、日泰上人の報恩塔の開眼が行われ、千葉県内を中心に多数の参詣者が訪れた。

◆八月一日～四日の四日間、京都総本山妙満寺に於いて、第四十二回顕本青少年錬成会が開催された。全国より多数の小中高生が集加した。「助け合う心を大切に」を目標に掲げ、カリキュラムは「信行」と「学習に」大別され、普段家庭や学校では体験できない「お寺」ならではの小さな修行を行なっている。その他フィールドワークや、社会見学も行っていて毎年リピーターも多い。

※当錬成会は、宗門内にとどまらず、広く子供たちの健全育成を目的とした社会事業として開催しているもので、門連皆様のご参加をお待ち申し上げております。

（多門顕正）

法華宗真門流

◆二月二十三日教区所長会、布教師会開催。本年度各教区の活動計画案報告、布教計画を作成。

◆三月二十五日～二十七日僧風林開催。

◆四月九日～二十八日春季学林開講。

◆五月十八日～十九日第三教区では、教区研修会に上川日乾猊下を迎え開催。二十三日～二十五日第一教区では、日蓮聖人の御霊蹟をたずねて、鎌倉、伊豆、伊東を参拝。

◆六月六日～十日布教師養成所（村上秀瑛所長）が、兵庫県城崎本住寺に於いて第九期三年目が開所された。十五日総本山本隆寺にて真門教学講習会開催。十九日第二教区では、檀信徒研修会を開催。

◆八月一日～三日暁天講座開催。二十三日～二十九日第一種、第二種講習会。二十七日～二十九日第三種講習会を、総本山本隆寺にて開催。二十五日総本山本隆寺にて「霊宝虫払会」を執行。

るつうぶん　流通文　るつうぶん

今、世界情勢は混沌としている。地震・台風・洪水・津波・暴動が相次ぎ、かくいう日本でも各地で地震が相次いでいる。

被害の大小にかかわらず、普段から地震対策を万全にしながらも実際は、交通網・通信網・電気・ガス・水道といったライフラインに大きな影響を与え、改めて地震に対する脆さが浮き彫りになり、地震対策に課題を残す結果となった。

先代の発明家が苦労して発明し、次第に現在のかたちに出来上がったライフラインは、いわば「文明の利器」である。我々が普段、何気なく使えるのも、その先代によるものが大きい。現代の我々にとっては、それなしでは生きてはいけない現状である。

我々は、いま一度「文明の利器」たるライフラインがあることの尊さと、先代発明家の苦労に改めて感謝し、考えなければならない時が来ているように思える。相次ぐ地震がそれを強く訴えているのではないか！

（賢）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成18年2月16日
第33号

立正安国論奏進750年　現代における教化活動とは

第2回 法華宗本門流

「立正安国」に思う ―今こそ末法下種の時―



法華宗興隆学林専門学校 助教授　株橋隆真

（一）

現在の世界の情勢を見るとき、「混迷」、「不安」或いは「悲嘆」という言葉が脳裏を横切り、離れることはない。特にイラク戦争に象徴されるように、出口の見えないテロや殺害の連鎖の泥沼化した状態を目の当たりすると尚更である。

人は誰しも幸福や平和を願うものである。しかしそれに至る思想や方法はまちまちで、しばしばその過程で他との対立が起こる。目的が同じであるはずなのに敵対関係を生じてしまうことが大きな問題で、そこには利権や政治、また民族や宗教の問題も複雑に絡み合って、今の様相を呈しているのであろう。

こうした現状を踏まえた上で、日蓮聖人が約七五〇年前に主張された「立正安国」についての所感を述べたい。

（二）

先日、アメリカのデトロイトに行く機会があった。当地の空手家と縁があって法華の教えを弟子や友人達と聞きたいとの要望があり、出逢いから数年の時を経て訪問が実現した。

そもそも彼は有名な空手家にしてカイロプラッテクの医師でもあるが、デトロイトの最も貧しい地区の出身で、イタリア系アメリカ人でありながら、母親の北欧系の血を引き金髪にして青い目、また祖父と父がマフィアの関係者でもあったため、周囲の注目するところとなり、凄まじいいじめやケンカの繰り返しの中で青年期までを過ごした。やがて空手と出会ってからは鍛錬を重ねて心身を磨き、政府の要人警護の任に着くまでになるが、さらにその後、人の役に立ちたいと一念発起し、複数の大学で医療を学び学位を得て現在に至る。その波瀾万丈の人生は、口伝いに広がり小説になってベストセラーを記録し、映画化されるほどになった。

その様々な経験からくる問題意識と探求心は、次第に仏教に向かうようになる。臨済禅の指導を受け、日本の高名な作家からは浄土真宗を学び、座禅や般若心経を読誦する日々を送り、更に広く仏教を学び、実践したいという欲求は、たびたび日本を訪れ、寺寺を参拝するに至った。

偶々立ち寄った京都の本能寺の朝勤に参詣し、大太鼓と共に大音声で響く南無妙法蓮華経のお題目に感動し大変な衝撃を受けた彼は、当時山務職員であった小衲に対し、「南無妙法蓮華経に偉大なパワーを感じたが、唱える人に力があるのか、お題目そのものに力があるのか」との質問を投げかけてきた。「妙法経力といってお題目そのものに計り知れない力がある」と答えると、彼は「我々も唱えたい。今アメリカ人は特に九・一一の同時テロ以来、心が荒んでいる。禅や般若心経を実践しているが、心の指導を求めている。是非法華の教え、心を教えて欲しい」と要望してきたのである。

今回の渡米では、デトロイトの町を唱題して練り歩き、ミシガン州立大学の施設で彼の門下、関係者、友人など、年齢も人種も言葉も職業も宗教も様々に異なる人々の前で講演し、質疑応答を受け、道場では十界曼荼羅ご本尊の開眼法要を修して、精神的な交流を目指したが、予想を上回る反響があった。講演後や法要後の昼食時などにも、何人もの人々から質問攻めに会い、大抵「仏教に興味を持った」「日蓮聖人の教えを知りたい」、そして特に法要に参席した人からは、「南無妙法蓮華経に大変感動し、心に衝撃を受けた」といった言葉を頂いた。

道場長の彼の案内で、生家のあった場所やその周辺を車で巡った。デトロイトの住民でさえ、決して立ち寄るどころか近寄りもしない最も貧しく危険な地域で、当所の住人達も、同地域以外の人を見ることなく、一生を過ごすのだという。「この辺りの人たちと視線を合わさないように。銃か何かで襲ってくるかもしれないから」と注意をされ、戦々恐々としながら数時間を過ごした。

そこで目にしたものはどれもが大きな衝撃を受け、驚愕に値するものであった。例えば、一見町並みは建物も瀟洒でヨーロッパ風であるが、よく見ると手入れが行き届かず、庭には粗大ゴミが堆く積まれ、草木も生え放題、中にはドアがなかったり、半分焼けていたり、傾いていてもお構いなしといった具合である。聞けば、かつて自動車産業が当地に於いて華やかなりし頃、会社の重役達が居住していた地区であり、産業の斜陽と共にその人達が去り、低所得者達が住むようになったそうである。

また、街角にぽつりぽつり佇む十三、四歳の少女達は、生活のために身体を売っているのだそうで、ローティーンの妊娠率が高いこの地域の高校では、託児所が無いと女子高生は学校に通えない現状であるという。或いは又、町のあちこちの路上で寝ころんでいる男性達は、大抵アルコール中毒か麻薬中毒者で、明日になれば殆どが死に至る結果となり、彼が医者に成り立ての頃、この地域の病院での初仕事は、こうした死体を集めることから始まったそうである。

この地域の実情は、まさに経済大国アメリカにおけるカースト制度ともいうべきもので、それを眼前にしたとき、言葉を失い、僧として何ができるのだろうかと考え込んでしまった。

その時、「先生、この状況をどうしたら良いのでしょうか。私は仏教による心の救済が大切であり、仏教の広宣流布が必要だと思う。日蓮聖人のいう立正安国とはどういうことですか」と尋ねられ、「広宣流布」と「立正安国」が日本語であったのには正直驚いたが、何より彼がお題目や日蓮聖人の存在を知って数年にしてこれほどの問題意識を持っていたことに、逆に私自身慚愧に堪えない思いで一杯になった。

（三）

さて、日蓮聖人が『立正安国論』を上程された当時の状況は、天災地変による惨憺たるものであったことは広く知られるところであるが、果たして現代の世情の中でどれだけ実感を伴って把握できているだろうか。無論現在もいろんな災害があり、近年では、過去に経験したことのない大きな天災にも見舞われているが、命の危険に晒されない限り、どこか対岸の火事的、或いは喉元過ぎれば熱さ忘れる的な見方や感じ方があるのではないだろうか。ましてや外国のこととなると他人事と済ませてしまう傾向は否めないであろう。

当時日蓮聖人は、災禍の真っ只中にあって、自らも明日をも知れない状態にあるにも拘わらず、目前の劣悪な現状を如何に再興し、如何に人々の心を安らげ、社会・国家をいち早く平安にしなければならないという困難に心を摧かれ、僧として宗教者としての使命感を持たれたことは、まさに菩薩の御自覚であるとしか言いようがない。そこで、日蓮聖人は今一度一切経や諸経論等を閲覧研究し直されて、一つの確信に基づき『守護国家論』、『災難興起由来』、『災難対治抄』等の一連の著作をされ、更に現実的復興を図るには、第一に民衆及び国家全体の精神的支柱に、正当な仏教を据えなければならぬという意図を明確にするため、熟慮に熟慮を重ねられた結果、「立正」による「安国」という結論に至り、一編をものし、『立正安国論』と名付けられたのである。

従って「立正安国」とは、単に「立正による安国」というだけではなく、言い換えると「立正によってのみ実現される安国」と考えるべきで、それは「先ず国家を祈りて須く仏法を立つべし」と安国の確立が先決問題とする客人に対して、「謗法の人を禁じて正道の侶を重んぜば、国中安穏にして天下泰平ならん」と正法の確立が先決要件であり、「汝早く信仰の寸心を改めて速やかに実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏国なり。仏国其れ衰えんや…国に衰微無く、土に破壊無くんば、身はこれ安全にして心はこれ禅定ならん」と結論づける主人の言葉に充分言い尽くされているように思われる。

そこで問題は、現代の我々僧侶がどれほど真剣に正法の建立（＝立正）に真剣に取り組んでいるかである。目前の困難に直面した時、手練手管に走ることなく、心からお題目を信じ、口に唱え、他に聞かしめ、それによる解決を実際に目指しているだろうか。日々の信行により、自己の内に正法を確立して、他の人や地域、社会にどれだけ広宣流布し得ているであろうか。いずれにせよ、僧としての本分に徹しているか否かが、「立正安国」の顕現を大きく左右することになるであろう。

さらに『立正安国論』の結論とも解される『観心本尊抄』では次のように述べられる。

「今末法の初めは小を以て大を打ち、権を以て実を破し、東西共に之を失し、天地顛倒せり。…諸天其の国を弃て之を守護せず。此の時地涌の菩薩始めて世に出現し、但だ妙法蓮華経の五字を以て幼稚に服せしむ。因謗堕悪必因得益とは是なり」

とあって、末法に於いては、世の東西を問わず、皆正道を忘れて天地が顛倒してしまい、諸天が国を捨て守護しないため乱れた世情となる。このとき上行菩薩が出現され、是好良薬の南無妙法蓮華経を我ら末代幼稚に服せしめ、是が成仏の根本種子となるとされている。これはまさに現在がその時であり、逆縁の今こそ末法下種が必要なのであることを示された一節であって、題目下種の実践のみが仏国＝安国の実現を招く根本原因となることを改めて認識しなければならない。

そしてこの『立正安国論』で表された主人の布教態度は、惨状に嘆き、怒り、憤る客人に対し、常に冷静に慰め、静め、諭して、種々の経典・漢籍等を駆使して最終的に正法への帰依へと導き、その上更に他の人々の誤りを正し、真の仏法を弘めることを誓うにまで至らせるというものである。こうした対話を通しての教化の姿は日蓮聖人の教化そのものであって、これこそ今日の布教者の亀鏡としなければならないのではないだろうか。

（四）

一件の空手家は、最後の夜にこう語った。「法要に参席して、南無妙法蓮華経の素晴らしさに触れ、日蓮聖人の唱えられたお題目が七五〇年の時間と空間を超えて私の阿羅耶識に入った。長年探し続けた我が家に帰ったような気がして、えも言えぬ安心を感じている。言葉は通じなくとも、以心伝心でたくさんのものが伝わった」（阿羅耶識と以心伝心も日本語であった）と。

あのデトロイトの現状とこの彼の言葉によって、僧侶の原点に引き戻された気がして、知らぬ間に涙が溢れるのを覚えた。『祈祷抄』の「行者は必ず不実なりとも、智慧はおろかなりとも、身は不浄なりとも、戒徳は備えずとも、南無妙法蓮華経と申さば必ず守護し給うべし」の一句が頭に浮かび、僧としての有り難さと悦びにうち震えたためであろう。それはまさに三災七難に蠢く現在の混迷、不安を取り除き、真の平和を築くためには、上行所伝の題目の下種が不可欠であることを再認識させられた瞬間でもあった。

あと数年で迎える『立正安国論』奏進七五〇年に向かって、日蓮門下の布教者の一人として、「日蓮が慈悲広大なれば、南無妙法蓮華経は万年の外未来までも流るべし」（私の恩師の口伝の読み方である）の聖言を胸に、「安国」の実現を目指すべく唱題信行の歩みを進めたい所存である。

合掌

従地涌出

平成十七年の十二月は、観測史上五十年ぶりの寒さだった。そんな十二月のある日、凍てつく道を歩いていたらこんな言葉が目に飛び込んできた。「寒い日があるから、暖かい日がありがたい」。うん、そうだな、と思った。気温の変化があまりなく、同じような暖かな気候が一年中続く土地に住んでいたことがある小生にとっては、日本の冬の寒さは特に厳しく感じられる。ポケットに手をつっこんで冷たい空を恨めしそうに眺めつつ、暖かな陽が照る小春日和に和む自分を連想した。そして、歩きながら気づいた。気候になぞらえたこの言葉は、人生の真髄をついているな、と。「寒い日＝つらいことがあった日」、「暖かい日＝うれしいことがあった日」と置き換えてみるとぴったりとくる。人生には山あり谷あり、苦あれば楽あり、なのである。病気になって初めて健康のありがたさがわかる、というのも同じこと。ちょっとした風邪で寝込んだ時でさえ、そのように痛感するから、健康の大切さや、ふだん元気に生活できていることが実はどれほどありがたいことであるのか、を常に忘れずにいたいものだ。そうやって考えてみると、「暖かい日」はとりたててうれしいハプニングがなくてもよい、ただ何事もなく無事に過ごせた日と解釈してもよいのである。また、人はともすると、「寒い日」ばかりを嘆いて過ごしはしていないか？　何事もなく無事に過ごせた日であっても、過去に起きたつらいことを引きずって暗い気持ちで過ごしたりしていないか？　今日の新しい一日を、自分で「寒い日」にしてしまうなんて、なんともったいないことなのだろう。ふだんの何気なく過ぎていく平凡な日々、そんな日常を「ありがたい」と感じられる心を持つことができれば、自分にとっての今日この日を「暖かい日」にすることができるのではないか。四季がはっきりしていて変化の激しい日本の気候は、ある意味、身体的にはきついかもしれないが、別の意味では寒い日に感謝の念を思い起こさせてくれる風土であり、心の持ちようで寒い日さえも暖かく過ごせる感性を育む土地なのである。ふと見上げた空が、少し明るく見えた。

（尚）

《リレー提言①》

門連の歩みと次代への発信

門連でなければやれぬこと

門下連合会監査
日蓮宗本山藻原寺貫首　持田日勇



私が日蓮宗宗務院に入ったのは昭和三十八年三月一日であった。金子内局が成立して、佐久間智周師から推薦されて総務部に入らされた。そして早速与えられた仕事の一つが日蓮聖人門下連合会の幹事であった。

日蓮聖人門下連合会の発足は昭和三十四年のことである。

昭和三十四年十二月八日に日蓮聖人門下懇話会設立会議が日蓮宗宗務院で開催され、日蓮宗、法華宗陣門流、法華宗真門流、国柱会の各代表が出席して設立に同意した。日蓮宗・及川真学師、法華宗陣門流・村上恭学師、法華宗真門流・美崎智啓師、国柱会・星野武男先生の四名が設立準備委員となった。設立準備委員会は分担して日蓮聖人門下各派に参加を求める方針を決めた。

翌年一月二十九日に発足会議が日蓮宗宗務院で開催された。更に二月八日、二十五日に参加教団の全体会議を開き、名称を日蓮聖人門下連合会とし組織を整えた。

日蓮聖人門下連合会（以下、門連とする）はその後毎年の会議を開催して意思の疎通を図ってきた。

昭和三十七年九月十八日の門連会議は画期的で、御降誕七百五十年慶讃共同事業、身延山祖廟御真骨問題、輪番参拝の実施などが協議された。

このような経緯の中で、昭和三十八年に発足した金子内局は門連の強化を図ろうとした。

同年六月二十七日に門連会議を日蓮宗宗務院で開催し、規約を改正して理事長、常任理事、理事制を取ることとした。この時の素案作成に関与したのが私の門連との具体的関わりの初めであった。

私は宗務院を金子総長の退任と同時に昭和三十九年の十二月に辞めたが、その後、昭和四十七年の七月二十一日に総務課長として奉職した。

昭和四十七年は宗祖御降誕七百五十年後会の年であり、その総括りとして昭和四十八年の十一月末に日蓮宗の慶讃会の解散式を厳修し、昭和四十九年三月に慶讃紀要を発行した。また、この年は昭和五十六年に迎える日蓮聖人七百遠忌の報恩事業を企画立案する時機でもあった。

既に昭和四十七年三月の第二十七定期宗会で遠忌奉行準備委員会規程が制定されていたが、準備委員の任命事務から準備委員会に提案する素案の作成を行い、昭和四十九年三月の第三十二定期宗会において宗祖七百遠忌報恩奉行会規程が制定され、五月二十三日には報恩奉行会事務局が発足し、総務課長として事務局課長を兼任した。

総務課長の職責の一つが門連に関することであり、中山妙宗との合同、法華経寺の復帰、日蓮宗加行所の一本化、新荒行堂の建設の事務処理を行いつつ、門連共同事業の策定を開始した時期でもあった。

昭和五十年七月九日、神田学士会館に於いて門連常任理事会が開催され、門連の共同事業の大綱が決定された。その中に「オラトリオ日蓮聖人」制作と日蓮聖人劇の上演が含まれていた。

私は昭和五十年七月二十一日に宗会議員補欠選挙に立候補するために総務課長を退職し、門連の仕事から離れたが、昭和五十四年七月に日蓮聖人七百遠忌報恩奉行会の事務局長に就任して、また門連との関わりを持つようになった。

既に門連の最初の事業である日蓮聖人劇の第一部は、五月中旬の東京公演から始まり、大阪、京都でも行われ、名古屋公演を残しながら、地方各地での巡業、買い取り公演が始まったところであった。

百三十三ステージの公演が全国で行われ、約五万八千人の観客動員を記録したのである。

門連事業は従来総務部で行っていたが、私が遠忌事務局長に就任することによって遠忌事務局で取り扱うこととした。それが後に「青年の船」で効果を発揮することとなる。

日蓮聖人劇の第二部は、昭和五十六年七月から十一月にかけて百二ステージ公演が全国で上演され、約五万二千人が観劇した。

日蓮聖人展の開催は昭和五十一年に追加決定されたものであるが、読売新聞社の共催をえて、昭和五十六年の四月から五月にかけて大阪阪神百貨店、東京上野松坂屋、博多井筒屋において開催され、十万人余の観客を集めることが出来た。

日蓮聖人劇も日蓮聖人展も集客が大変なことであり、日蓮宗が六割から七割の動員を行ったとはいえ、門下連合会各教団の努力がなくしては十万を超す人々を集めることは難しい事であった。

「オラトリオ日蓮聖人」の作曲は黛敏郎氏によって昭和五十六年初頭には完成していたが、上演に至るまでが大変であった。何しろ関心が低いのである。「オラトリオ」って何だね、というところである。何が何でも上演しなければならないと、大変な編曲料を支払って演奏用にし、昭和五十七年の四月に新宿文化センターにて開演した。当初の心配はよそに、多大な感銘を受ける内容であった。費用の捻出と後世に残すためにライブレコードを制作したが、CD・MDの時代となった今ではあまり聞くことが出来ないのが残念である。

「青年の船」を浮かべるという発想が何時、何処から生まれたのかはつまびらかには知らない。昭和五十三年秋の京都理事会に提案されて、とにかく企画をだしてみろということになったらしいのである。何しろ核となる予算措置が講ぜられず、高額な参加費用を取ってまかなうというのでは、とても無理であろうというのは当然である。子供が大騒ぎをしているようなもので、その内熱も冷めるだろうと考えていたのが実情であったろう。しかし、惜しくも遷化した好漢・富川孝恭教務課長が事に触れ折に付け懇請し、陳情した。「門連に予備費がない。日蓮劇の収益金でも取っておけばともかく、準備金もないのに出来るわけがないだろう。日蓮宗で全部持つ覚悟でなければ出来ない。そんなこと出来るか」「それは分かっているのですが、ぜひ局長さんのお力で実現させて下さい」との一点張りであった。しかし、この企画は実現できたら素晴らしい。また、企画委員の熱気をみていると、やらしてみるかという気になってきた。二千万円余の新規支出を用意するからやってみろ、ということにした。

昭和五十五年五月二十二日に開催された常任理事会において、日蓮宗が責任を持つから実行させようではないかと主張した。各教団に持ち帰った結果、九月一日に再度開いた常任理事会において決定をみたのである。

それから大変であったのは、日蓮宗で三百人の参加者を確保することであった。各宗務所長の了解を得て宗務所ごとに参加者を割り当て、横浜までの車代と宿泊費を持つこととして協力を得たのである。

このような門連事業の経験から核となる〝かたち〟ができれば必ず成功することを学んできた。一宗派で出来ないこと、また一宗派でやってはいけないこと。それが門連という組織で協力しあえれば必ず出来るということが確信されたと思う。立教開宗七百五十年慶讃の門連共同事業「大日蓮展」の成功は、更にそれを裏付けたことであろう。

普段は毎年行う日蓮宗宗務院での常任理事会、身延山で行う祖廟輪番、京都で行う理事会でよい。五十年ずつ来る「降誕」「開宗」「遠忌」に向けて力を撓めて共同事業をいかに行うか。門連は昭和三十四年に発足してから四十六年になる。平成二十一年には門連結成五十年を、立正安国論奏進・国諫七百五十年を記念して、寿ぎたいものである。

世界は科学文明の進歩によってグローバル化が進み、宗教の影響するところが大変大きい。そのときにあって、日蓮聖人門下が「勝劣だ」「一致だ」といっている時代ではないと思える。日蓮聖人の本旨に立ち返って、共に手を携えていかなければならない。

また祖廟輪番についても、祖廟に御真骨が少ない、御真骨堂に多くが格護されているのは何事だという論がある。仏舎利は宝塔に格護されるのが相応しい。しかし、いま宝塔に格護されている仏舎利の如何にすくないことか。インドでは、ヒンズー教徒は火葬にしてガンジス河に流すから墓を持たない。イスラム教徒は土葬なので墓を持つ。東南アジアでは、焼骨は寺院の壁に棚を造って安置する。ヨーロッパのキリスト教国では、偉人は人が歩く寺院の床に棺桶に入って葬られている。いたずらに形式にとらわれずに理解しあいたいものである。

東急観光から
トップツアーへ
～夢へ翔びたつ青い鳥。わたしたちがトップツアーです。～
TOPTOUR
2006年1月31日、創立50周年、
「東急観光株式会社」は「トップツアー株式会社」へ社名を変更します。
いま私たちは新しい未来へ向かって羽ばたき始めました。

平成二十一年七月十六日は立正安国論奏進七五〇年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成十八年二月現在）



日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　藤井日光
財務部長　駒野教源
宗務総長　小松浄慎
宗務総長室長　長亮行
伝道局長　伊東隆司
現代宗教研究所長　田澤元泰
総務局長　張田珠潮
参与　堀江宏正
伝道部長　梶山寛潮
参与　浅井玄裕
教務部長　渡辺照敏
日蓮宗新聞社社長　伊東正光
総務部長　藤岡暎邦

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　岡本日亘
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
教化部長　杉村眞宏
庶務部長　矢吹慈英
財務部長　加藤信淨

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中山日暁
宗務総長　中村通義
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
布教部長　早川義正
教務部長　桑村信慶
社会部長　多門顕正
庶務部長　津村乗信

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　椿澤日壽
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　門谷東生
財務部長　八木恵岳
教化部長　佐古大弦
宗務参事　大島崇皡

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　山内日開
宗務副総長　石田日奥
宗務副総長　嶋田幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　桐生信行
総務部長　岩崎広義
財務部長　渡邊光顕
教務部長　西尾弘道

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　上川日乾
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　辻本寛孝
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　井上隆啓
主事　本多信正
主事　足立真正
主事　山口英泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　高邉日援
宗務総長　信隆日系
宗務部長　増田隆雄
総務部長　吉村頼彦
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　真鍋弘喜
門連常任理事　山下通雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　桐生信行
総務部長　岩崎広義
財務部長　渡邊光顕
教務部長　西尾弘道

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
顕本法華宗総本山妙満寺内
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

会長　中山日暁
副会長　久村日鑒
理事長　大川定信
副理事長　杉若恵隆

宗教法人

国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

養主　田中壮谷
理事長　安中又六
門連理事　井上建一
門連理事　相澤宏明
「門連だより」編集委員　森山真治

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

首座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　二宮和嘉
長老　池田行朗

平成21年7月16日は立正安国論奏進750年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成18年2月現在）

日蓮宗総本山 身延山久遠寺

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四

法主 藤井日光
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山 池上本門寺

〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇

貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山 妙満寺

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七

貫首 中山日暁
総務 島田幸晴
執事 山本晃道
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事 小川正義

法華宗（陣門流）総本山 本成寺

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八

貫首 椿澤日壽
執事長 栗田孝之
執事 平井良正
執事 鈴木顕正
執事 高橋俊二
執事 荒川公孝
執事 西山聡達

法華宗（真門流）総本山 本隆寺

〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六

貫主 上川日乾
執事長 矢放眞文
執事 本多信正
執事 足立真正
書記 笹木研吾
書記 永岡悠希

本門法華宗大本山 妙蓮寺

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七

貫首 高邉日援
執事長 石崎光教
役職員一同

多寶富士山日蓮本宗 本山要法寺

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四

貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 桐生信行
執事 岩崎広義
執事 渡邊光顕
執事 西尾弘道

本門佛立宗本山 宥清寺

〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一

住職二十四世講有 小山日誠
執事長 田中清希
事務局長 伊藤隆之

日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺

〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三

貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 藤先博明
参与 井野上正文

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡 大本山 清澄寺

〒209-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四（七〇九四）〇五二五
FAX 〇四（七〇九四）〇五二七

別当 岡崎日泰

団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、一六〇名様まで可。

京都八本山会

大本山 本圀寺 貫首 久村諦道
大本山 妙顯寺 貫首 南條孝仁
本山 頂妙寺 貫首 永田恵遠
本山 妙覚寺 貫首 頂岳龍乗
本山 本満寺 貫首 伊丹栄彰
本山 本法寺 貫首 大塚泰詮
本山 立本寺 貫首 上田尚正
本山 妙傳寺 貫首 野々垣泰典

日蓮宗本山 比企谷 妙本寺

〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七

貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七

山主 嶋田日新

日蓮宗本山 頂妙寺

〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四

参与 山田完修
同 安藤信行
同 伊藤隆司
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 合川陽雄

日蓮宗大本山 法華経寺

〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六

貫首 新井日湛
執事長 藤井智光
参与 田代浩敬
同 喜多村教雅
同 渡辺行俊
同 植田観樹
同 吉田文堯

日蓮門下お題目初唱之霊場 日蓮宗東身延本山 藻原寺

〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三

貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 冨永一道
役職員一同

門連時報

全門連京都理事会・懇親会、日蓮宗本山立本寺で開催

平成十七年十一月二十四日（木）、日蓮宗本山立本寺（上田尚正貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四十名が参加した。

午後一時半より客殿にて上田尚正猊下による「立本寺の沿革」についてお話をうかがった後、続いて京都造形芸術大学栗本徳子先生より「江戸期の立本寺の変遷と立本寺をささえた人々」というテーマで講演いただき、大変貴重なお話を拝聴することが出来た。

引き続き、午後二時半より常任理事会が開催された後、午後三時より京都理事会が開催された。参加者各自の自己紹介の後、中條令紹全門連理事長代理が座長となり、議題について議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。その他にも降誕八〇〇年慶讃事業に向けての活発な議論が展開された。

会議終了後、懇親会の席をホテル嵐亭へと移し、京料理を満喫した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、立本寺の皆様には厚くお礼を申し上げると共に、今後とも門下発展の為に御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。



●日蓮聖人門下連合会　京都理事会　平成17年11月24日

日蓮聖人門下青年会

日蓮聖人門下青年会は、「日蓮聖人の教風を奉じ、門下の青年僧を以て組織し、布教・教学・現代社会の諸問題の研鑽と、会員相互の連帯・親睦を図る目的とする」団体です。

前年度は、真門流総本山本隆寺を会処として、月一回の寺子屋を開催いたしました。今年度は、まだ方針が決定しておりませんが、当初の目的を胸に抱き企画したいと思っています。

今年度の役員は、左記の各氏です。

幹事長
日蓮宗妙蓮寺住職
清田学英師

副幹事長
日蓮宗法華寺住職
杉若恵亮師

副幹事長
法華宗真門流宣命院内
笹木研吾師

庶務
日蓮宗通妙寺内
谷口真也師

庶務
本門法華宗堅樹院住職
末本樹哉師

会計
日蓮宗勝光寺住職
藤田尚哉師

幹事
法華宗本門流本行院住職
高橋宏顕師

幹事
日蓮宗通妙寺内
谷口真生師

幹事
日蓮宗教法院住職
三木天道師

幹事
法華宗陣門流詮量院住職
三品亮徹師

幹事
顕本法華宗大慈院住職
小川正義師

幹事
日蓮本宗実報寺住職
嘉儀吉裕師

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一八・二・一三	川口日唱師 岡本日亘師	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成一七・一二・一五	渡辺俊岳師 原井慈鳳師	法華宗本門流	常任理事	就任	退任
平成一七・一二・一五	佐藤義賢師 矢吹慈英師	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成一七・一二・一五	有田秀達師 加藤信淨師	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成一八・一・一	久村日鑒師 中山日暁師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成一八・一・一	杉若恵隆師 大川定信師	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成一八・一・一	赤塚高明師 杉若恵隆師	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成一七・五・二〇	小林正雄師	門連事務局			退任
平成一七・一〇・一	渡邉言之師 木村朋寛師	門連事務局		就任 就任	

毎月３回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…
宗門唯一の伝道機関紙
日蓮宗新聞
毎月１日・10日・20日
年間購読料3,600円（送料込）
教誌 正法（しょうぼう）
一冊350円（送料別）
年間購読料1,700円（送料込）
○年４回発行
お正月（１月号）/春季彼岸（３月号）
お盆（７月号）/お彼岸・お会式（９月号）
詳しくは…
㈱日蓮宗新聞社
〒146-0082　東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://news.nichiren-shu.jp/
（業務時間 午前９時30分～午後５時）
日蓮宗新聞社のお店
〒146-0082　東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
（業務時間 午前10時～午後４時）
※いずれも土・日・祝・祭日休み

各派・教団・短信

布教師養成所所長・審査会員・権大僧正の推薦など、諸案件について審議された。

（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆平成十七年九月六、七日、毎年恒例の中央行学講習会が開催された。この講習会は法華宗全教師及び学生を対象にしたもので、宗内各教区を毎年順番に訪れる。本年は東海教区の浜松に会場を設けた。初日第一講義は本宗学林教授田中見成先生による「開・本両抄に学ぶ約束と本願」、第二講義は東洋大学文学部教授竹村牧男先生をお招きし、「『佛と自己と』法華経の人間観をめぐって」の演題で講義が行われた。二日目は大聖人様のご両親墓所、日蓮宗妙日寺様や東海教区寺院数ヶ寺を参詣した。

◆十一月十九、二十日、三宗統合協議会・統合学院（後期）が開催された。これは顕本・真門・陣門の法華宗三宗の学生を対象とした講習会で、教学研鑽の為に毎年年二回開催される。今回は両日とも法華宗（真門流）教学部長、辻本寛孝先生講師による、「高祖御妙判（如説修行抄）に就いて」の講義があった。

◆本年末で法華宗議員・所長の任期満了に就き選挙が発令され、各教区の議員及び所長が選任された。これにより宗務院内局も本年度で任期満了を迎える為、平成十八年一月に臨時宗会が開かれ新議会に於いて新内局が選任されることとなる。

（今井満良）

本門法華宗

◆大本山妙蓮寺（高邊日援貫首）では去る平成十七年十月十二、十三日、日蓮大菩薩御会式報恩法要を奉修。十二日、御逮夜法要（万灯会）では境内に彩色された紙燈籠が飾り付けされ、夕刻一斉に点灯された。

◆十一月十二日、大本山妙蓮寺御開山日像菩薩御報恩法要を奉修。並びに日慶・日忠・日応各聖人三師会法要、本山歴代上人の年忌法要が併修された。

◆本門法華宗学院教学部（藤井宏長学院長）では、第一一五回教学講習会を十一月二十八、二十九日に大本山妙蓮寺卯木講堂において開講。外来講師の講義、受講生からの教学研究発表が行われた。閉講式終了後、教師資格検定試験が実施された。

◆本門法華宗布教部より、平成十八年一月一日付で、布教紙『信行』第一六四号、同布教誌『生きる』第四五号雪華号が発刊され、各末寺にて檀信徒に配布された。

（木村光正）

法華宗本門流

◆平成十七年十二月九日、宗務院仏殿において、渡辺前内局退任式が執り行われた。渡辺内局は平成十三年十二月に発足し、渡辺俊岳宗務総長、佐藤義賢財務部長、佐々木明乗教学部長、高村法顕教化部長、有田秀達庶務部長の五名が職務につかれ四年間の任期を満了された。

◆十二月十三日、大本山光長寺において、原井新内局就任式が行われた。新内局は、原井慈鳳宗務総長（沼津・妙泉寺）、桃井晋城教学部長（京都・龍雲院）、杉村眞宏教化部長（青森・本門寺）、矢吹慈英庶務部長（福島・妙法院）、加藤信淨財務部長（千葉・教應寺）が新たに任命された。

◆平成十八年二月十三日付をもって法華宗管長（門連顧問）に大本山本能寺貫首岡本日亘猊下が就任。推戴式は二月二十五日大本山本能寺において奉修される。

◆二月十五日、宗務院において第十九回法華宗教学研究発表大会が開催される。

◆古来、門祖日隆聖人こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授し、かつ宗門の僧侶養成機関である「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成十八年度新入生募集中。

（三浦賢秀）

日本山妙法寺

◆平成十七年十月二日、広島美土里道場本堂開堂供養に僧俗二百数十名が参詣。

◆十月十五日～三十日、沖縄平和巡礼。二十九日、嘉手納米軍基地前にて木津博充師、沖縄警察によって不当逮捕。二十日間の拘留。十一月十七日、釈放。

◆十月二日、米国マサチューセッツ州ニューイングランド仏舎利塔二十周年記念法要。

◆十月一日、米国ニューヨーク州グラフトン仏舎利塔十二周年記念法要。

◆米国テネシー州グレート・スモーキー仏舎利塔祈念道場落慶。

◆十月二十九日、ネパールポカラ仏舎利塔記念法要。

◆十一月二日、ネパールルンビニ仏舎利塔記念法要。

◆十一月七日～二十五日、ネイティブアメリカン貝塚聖地巡礼に参加。

◆平成十八年一月九日、藤井日達聖人第二十二回忌追孝法要を熱海道場にて厳修。

◆十月二十八日、インド国ラジギール王舎城記念法要の後に、デリー仏舎利塔・舎利奉安式（予定）。

（牧野行暉）

日蓮宗

◆平成十七年十二月十四日、岩間湛正日蓮宗宗務総長が辞任を表明し、これを受け十二月二十日、第九十三臨時宗会が開かれ、宗務総長選出選挙の結果、後任に小松浄慎師（山梨県武井坊住職）が選出された。二十二日には新宗務総長就任に伴う新内局役員の認証式が行われ、小松内局がスタートした。

宗務総長・小松浄慎師（山梨県武井坊住職）、伝道局長・伊東隆司師（神奈川県常照寺住職）、総務局長・張田珠潮師（石川県妙立寺住職）、伝道部長・梶山寛潮師（山梨県蓮朝寺住職）、教務部長・渡辺照敏師（千葉県法蓮寺住職）、総務部長・藤岡暎邦師（滋賀県本像寺住職）、財務部長・駒野教源師（東京都常在寺住職）、宗務総長室室長・長亮行師（東京都長幸寺住職）、現代宗教研究所長・田澤元泰師（千葉県妙弘寺住職）、日蓮宗新聞社社長・伊東正光師（神奈川県浄蓮寺住職）

（大澤宏明）

国柱会

◆平成十七年七月八日、日蓮聖人顕正会慶讃法要厳修。十六日、宣正会慶讃法要厳修。十七日、盂蘭盆開顕大供養会。三十日、明治神宮参拝へ。

◆八月五日～七日、名古屋にて少年少女夏期学校開催。二十一日、例月供養会開催。二十六日、元赛主田中香浦先生十回忌法要厳修。

◆九月十二日、竜口法難会慶讃法要厳修。二十三日、秋彼岸大供養会。

◆十月十日、佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺にて街頭宣伝。十三日、鶴林会報恩法要厳修。十六日、例月供養会。二十二、二十三日、身延祖廟にて輪番給仕奉公。赛主先生以下四十名が給仕する。

◆十一月三日、明治神宮参拝。明治節慶讃法要厳修。十一日、日蓮聖人小松原法難会慶讃法要厳修。十六、十七日、第六十七回忌恩師田中智學先生報恩大会。十六日、御逮夜法要。十七日、報恩大法要厳修。後報恩集会開催。十九日、全国定例協議員会開催。二十日、例月供養会。

◆十二月十日、元赛主田中芳谷先生第三十三回忌追善法要厳修。十八日、例月供養会。憶年会。二十三日、天長節慶讃法要厳修。二十八日、本部事務局仕事納め。三十一日、送旧迎新式。

（井上建一）

顕本法華宗

◆平成十七年八月二十五日～九月八日、総本山妙満寺に於いて、「妙塔大学林」（大学林長　山本学人師）が開講された。本年は、本科（一年生）二名、研修科（二年生）三名の受講者が参加し、行学二道の修練に励んだ。

◆十月十九、二十日、総本山妙満寺に於いて、全国各教区の布教師を対象に、「全国教区布教師研習会」が開催された。布教総監、山本学人師をはじめ、四名の特命布教師の模範講演の後、「本宗布教のあり方」と題して、活発なディスカッションが行われた。

◆十月二十日、総本山妙満寺に於いて、「西部僧員講習会」が、同じく十一月一日、第三教区千葉市浜野町の本行寺において「東部僧員講習会」開催された。講師に金沢市本覚寺住職、白井謙光師を講師にお迎えし、「日経上人と慶長法難」と題してご講演を頂いた。本覚寺は日経上人の御廟所がある。御法難四百年を平成二十一年に控え、忘仁の乱以降、慶長法難に至る、身延派とは一線を隔する不受不施派の歴史的道筋を分かりやすく説明頂き、意義深い講演であった。

◆十一月十九、二十日の両日、第一教区東京品川の天妙國寺において法華宗陣門流・法華宗真門流・顕本法華宗からなる「三宗統合学院」が開講された。法華宗（真門流）教学部長、辻本寛孝師を講師にお招きし、「高祖御妙判（如説修行抄）に就いて」を講題にご講演頂いた。主に東京在住の三宗所属の大学生を中心に十三名（本宗六名）が参加した。

◆十一月二十二日～十二月三日、顕本法華宗主催で「第三回インド仏蹟参拝旅行」（団長中村通義宗務総長）が開催された。僧員を始め、寺族・檀信徒総勢二十七名が参加。霊鷲山では、檀信徒の祈願を記した散華数千枚を供養した。

（多門顕正）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

現在、この地球に住んでいる人々は、約六十四億人ぐらいだそうです。その中で、もっとも信仰されているのが、キリスト教で信者数は約二十二億人。次が約十二億人でイスラム教信者、次が約九億人でヒンドゥー教信者、仏教信者は約四億人だそうです。これは、地球の人間が百人いたら、三十五人がキリスト教信者、十九人がイスラム教信者、十四人がヒンドゥー教信者、六人が仏教信者という事に相当します。世界から見ると、お題目を信仰している信者数は微々たるものです。「一天四海　皆帰妙法」を唱える我々は、一丸となって広宣流布にとりくまねばなりません。

（天）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第3回 顕本法華宗

先師の足跡に学ぶ



顕本法華宗　教務部長　早川義正

安心安穏の実践行

日蓮聖人のご主張を一言で表すと「立正安国」の四字となり、そのご一生はこの立正安国に始まり、立正安国に終られたと言うことができます。

『立正安国論』の結文に、

「汝早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏国なり。……身は是れ安全にして心は是れ禅定ならん」とあります。このお言葉は承知のごとく、佐渡において著された如説修行抄の一文、

「天下万民諸乗一仏乗と成って妙法独り繁昌せん時、万民一同に南無妙法蓮華経と唱え奉らば、吹く風枝を鳴らさず、雨壌を砕かず、代は羲農の世となりて、今生には不祥の災難を払い、長生の術を得、人法共に不老不死の理、顕れん時を御覧ぜよ。現世安穏の證文疑いある可からざるもの也」のお言葉と一致するのであります。

「立正安国」、「正法の建立に依って国を安ぜんと」まさしく、天下萬民、世界の人々が、等しく法華経を信じ、一同に南無妙法蓮華経と唱え奉れば、現世安穏、真の佛国土が顕現されるのです。

さらに宗祖は、『如来滅後五五百歳始観心本尊抄』の中で

「釈尊の因行果徳の二法は咸く妙法蓮華経の五字に具足す。我等此五字を受持すれば自然に彼因果の功徳を譲り与え給ふなり」と教え示されております。

お釈迦様の功徳を譲り受けるということは、お釈迦様と同様になれることであり、これこそ、真の安心安穏の境涯であります。日蓮聖人の教えにおいて、最も大切なことは、先ず寿量品の本佛の実在を信じることです。さらには南無妙法蓮華経の七字の唱題修行の実践です。

不惜身命の弘通

本宗の開祖、日什大正師は自らの法脈を、宗祖に倣い、「経巻相承」と述べられています。「経巻相承」とは法華経と日蓮聖人の御書の真意を正しく相承してゆくことです。

開祖そして門流の先師が歩まれた道は、宗祖の「立正安国」のご精神そのままの布教伝道であり、また同時にそれは数々の法難に彩られた「不惜身命」の弘通でありました。真の「経巻相承」とはかくも厳しいものであり、それでもなお宗祖の御心そのままに歩んでゆくことを、什祖は我々に強く説き示されたのでした。

本宗においては、来る平成二十年は総本山妙満寺第二十七世、常楽院日経上人（一五六〇～一六二〇）が、耳そぎ鼻そぎの惨刑に処せられた「慶長法難」から四百年の聖年になります。また平成三十一年には日経上人が遷化されてより四百遠忌を迎えます。

徳川家康の命により、慶長十三年十一月十五日、江戸城にて日経上人と浄土宗とによる法論が取り行われようとしていました。しかしその直前、暴徒のために殴打され、半死半生の状態となられます。理不尽にも、家康は法論の延期を許さず、ついに一方的に浄土側の問答勝利を宣言します。

その後、日経上人が詫証文を書くことを堅く拒否すると、重科に処すとし、慶長十四年一月七日、日経上人と弟子五人は江戸より京都へ護送されます。そして二月二十日、師弟六人は京都六条河原において、耳鼻そぎの刑に処せられたのです。その時弟子日玄上人は、傷深く死に到ります。

日経上人はその後、迫害を受けながらも各地において布教されます。丹波（京都府）知見谷、若狭（福井県）小浜、さらに福井や小松を経て金沢に入られます。そこで前田家三輪志摩守長好の庇護を受けてしばしの間金沢に留まり、最後は富山へ行かれ、元和六年（一六二〇）十一月二十二日、神通川のほとりに遷化されます。遺骨は金沢本覚寺に葬られました。

日経上人創する寺五十有余。弟子五百八十余人、信徒十万人。そのご生涯はまさしく不惜身命の法華経弘通でありました。法難後の曼荼羅には花押のなかに「叶不惜身命之金言」と書き込まれています。

法灯を受け継いで

日経上人はまさしく、宗祖の『立正安国論』、『如説修行抄』のご精神にそって、破邪顕正、顕正即破邪の折伏布教に邁進されたのです。日経上人の弘通、教化によって創建、改宗した多くの寺院は今日まで脈々とその法灯を受け継いでおります。

今、その記念すべき聖年を迎え、関係する寺院が中心となり、報恩の会が結成され、終焉の地とその不惜身命のご弘通を顕彰する運びになりました。このような身命をなげうっての弘経があればこそ、数百年を経た今日私たちがお題目とのご縁をいただいているかと思えば身の引き締まる思いです。せめてもの報恩の微志を捧げたいものと念じております。

とはいえ、この事業に参画し、上人の「立正安国」の主張を貫かれたご生涯に触れるごとに、翻って今日におけるわれわれの布教の現状をみれば、自己を脇に置き、宗祖、開祖、経師の偉業をたたえたとして、果たして本当に報恩になるのか。自分は本当にその精神を受け継ぐ気概があるというのか？……自問することしきりです。

宗門としても、この報恩事業を後援し、共に顕彰する以上、宗祖・開祖・先師の正に身命を賭したご法難の歴史の重みを今一度再認識し、受け継がれた法灯を正しく継承し、何よりも広く檀信徒に伝える機会にしなければならぬと誓うところです。



日経上人墓所（金沢・本覚寺）



本覚寺正門

日蓮聖人門連だより
発　行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181
平成18年10月13日
第34号

「門連だより」リニューアルについて

「門連だより」は門連常任理事会との密接な連携の下、①本会創立以来培った共通の場を活かし、門下が等しくかかえる諸問題を考える場の提供②本会活動の報道、を基本路線として刊行を続けてまいりました。

昭和六十一年に創刊された本紙は、今回にて第三十四号を迎えます。このたび更なる飛躍を期し、本紙をリニューアルすることとなりました。

リニューアルは次の三点になります。

（一）カラー化

一・二・五・六面をカラー化し、門下の活動をよりダイナミックに伝えます。

（二）サイズの変更

ファイリングを考えてタブロイト判に変更いたします。

（三）文字を大きく

より見やすくをモットーに文字を大きく、記事をわかりやすく伝えてまいります。

いま降誕八百年に向けた新たな事業が検討されております。また前号より「門連の歩みと次代への発信」と題する連載にて、これまで門連活動にご尽力いただいた諸先輩にご執筆いただきます。

残すべきものと、変えていくべきものは何か。異体同心の祖訓を体し、四海帰妙の祖願達成に一路邁進する決意にて、「門連だより」は新たなスタートを切ります。

《リレー提言②》門連の歩みと次代への発信

門下連合会の歩みと今後



門下連合会相談役
法華宗陣門流前宗務総長
牧野琢成

祖廟で思い新たに

私が門下連合会の会合に責任を持って出席する様になったのは、昭和五十年代後半以降のことであり、それまでも宗務総長や部長のお供をして、時々顔を出させて頂いて居りました。

春の身延理事会に於いて、初めて祖廟に参詣させて頂き、合掌礼拝した時には一種の衝撃を受け、心から日蓮大聖人の御教を信じ、その伝導弘通に精進致さんと誓ったものでした。

祖廟参詣後、御宝前に於いて法味言上、そして御真骨堂を巡拝、又々別の衝撃に突き動かされました。

理事会では、十指に余る各宗派の代表が集まり、

・前年度事業及び決算の報告
・今年度事業計画及び予算の審議
・地方門連の活動報告（京・大阪には夫々門連が存在し代表が出席、時には北海道からも代表が出席）

等々の報告、審議がなされました。

秋には、京都におきまして、各本山を会場にして、京都門連・大阪門連と合同で理事会が開かれ、日蓮宗のみではなく、他宗派の本山においても開催される為、法味言上の次第や、仏前荘厳等の形式が多少異なるお山もあり、いろいろと参考になりました。ここでは関西方面の動きを説明して頂き、中央だけでなく各地で大聖人の御教の為に、活躍なさっていることを知って力強く感じたものであります。

それにしても出席者御一同の真摯な態度、理解の深さに感服致しました。

やがて身延山の大本堂が完成し、そこで法味言上が行われる様になりました。天井に描かれた巨大な竜が、目を見はらせ、階下に展示された各種御本尊や参考資料、美術品等が有益であります。

御遠忌での記念事業

私が出席させて頂く様になった頃は大聖人の七百御遠忌直前であり、御遠忌を記念し各宗各派において様々な記念事業や行事が計画されて居りました。門連におきましても、「オラトリオ日蓮聖人」「日蓮聖人劇」「青年の船」「日蓮聖人展」等々が計画され、どれ一つとっても実現には、多大な資力、労力、根気と熱意が必要なものばかりであり、門連参加の各宗が協力した為に夫々大成功を得ることが出来たのではないでしょうか。

「日蓮聖人劇」を観て大聖人の御生涯をより正しく身近に知ることが出来、「日蓮聖人展」によって御事蹟を理解し、同時に展覧された各宗派の資料等により自分の宗派と門連の各宗との関連を知り新たな認識を得たかも知れません。

「青年の船」においては各宗関係の若い方々が、船中で共同生活を営み、今後の宗団発展運営の為に大なる成果があったと思われます。

法華経弘通の大目的

人間は安穏や平和を願うものであります。その為世界には各地方、各民族において種々なる宗教が出現しました。それらが最終的に願う所は、人類の幸福であり、平和であります。夫々の教義、経典、修行、伝導等に差があったとしても最終の目的が、幸福、平和であったなら、その目的を共通のものとして、世界の宗教が手を結ぶことが出来ないものかと考えてしまいます。爾来、宗教戦争ほど激しく結末のつきにくい戦争はないと言われます。世界各地で行われている局地的な紛争や内乱等も根本には、宗教的対立や反発が存在すると思われます。

人間は勝手なもので、自分さえよければと考えてしまいます。しかし一人では生きてはいけません。全てのものの「おかげ」によって生存できるのであります。この事を人々に教えるのが宗教ではないでしょうか。宗教の目的もそこにあると言えましょう。時間は掛かるかと思いますが、各宗教が人間を正しく生かす為にも、力を合わせて行動すべきでありましょう。

門下連合会は今のところ、日蓮門下の教団のみとは言え、十余の教団が手をとり合って一つの目的に邁進することは大いに意義があることであります。

間もなく門連結成五十年を迎えるとの事であります。この秋に当たり日蓮聖人門下連合会のますますの発展を祈念するものであります。

門下の結束が求められる

実行することによって結束が得られます。それらの事業に対しても加盟の各宗は大は大なり、小は小なりに出来る限りの協力を致しました。力を合わせることが如何に肝要か、実証されたわけであります。

門連に参加している各宗門も夫々中心するところは、法華経であり、大聖人であります。各宗夫々の成立発展には、経典教義に対する解釈、広宣する人々、背景となる時代、信仰する大衆等、様々な相違がありますが、一度それらをまとめて、中心となるべき法華経と大聖人に考えを帰一すべきでありましょう。

前述の記念事業が何れも多大な人員を動員し成功裡に終幕出来たのも、各宗門が一つの目的に協力して向かったからでありましょう。最終の目的が一致していれば、考え方に多少の差があっても協力できる訳であり、記念事業の成功が、それを明示して居ります。

この様に見ますと、昔から言われる「一致」とか「勝劣」とか言う考え方には、根拠も信念もあったでしょうが、今は小異を捨て大同について行動を起こすべきでありましょう。門連の行動もこれによってスムーズに作動し、その目的達成もより早くなると思われます。





平成21年7月16日は『立正安国論』奏進750年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成18年10月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六六（二）一〇九四
FAX　〇五五六六（二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中山日暁
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壮玄
執事　鈴木顕正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫主　上川日乾
執事長　本多信正
執事　足立真正
執事　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　高邉日援
執事長　石崎光教
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　桐生信行
執事　岩崎広義
執事　渡邊光顕
執事　西尾弘道
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十四世講有　小山日誠
執事長　田中清希
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代

日蓮聖人立教開宗の霊跡
大本山
清澄寺
別当　岡崎日泰
〒209-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一名八千円、一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首　新井日湛
執事長　藤井智光
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　高谷正之
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

大本山　本圀寺　貫首　久村諦道
大本山　妙顯寺　貫首　南條孝仁
本山　頂妙寺　貫首　永田恵遠
本山　妙覚寺　貫首　頂岳龍乗
本山　本満寺　貫首　伊丹栄彰
本山　本法寺　貫首　大塚泰詮
本山　立本寺　貫首　上田尚正
本山　妙傳寺　貫首　野々垣泰典
京都八本山会
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　加藤日暉
執事長　大埜稔申
執事　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
参与　山田完修
同　安藤信行
同　伊藤隆司
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
参与　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗東身延本山
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

（平成十八年十月現在）



日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　酒井日慈
財務部長　駒野教源
宗務総長　小松浄慎
宗務総長室長　長亮行
伝道局長　伊東隆司
現代宗教研究所長　田澤元泰
総務局長　張田珠潮
参与　堀江宏正
伝道部長　梶山寛潮
参与　浅井玄裕
教務部長　渡辺照敏
日蓮宗新聞社社長　伊東正光
総務部長　藤岡暎邦

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　岡本日亘
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
教化部長　杉村眞宏
庶務部長　矢吹慈英
財務部長　加藤信淨

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中山日暁
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
布教部長　古瀬久馨
社会部長　阿曽久成
教務部長　早川義正
庶務部長　津村乗信

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　椿澤日壽
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　田邊円祥
教化部長　佐古大弦
財務部長　牧野秀成
宗務参事　金原孝宜

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　山内日開
宗務副総長　石田日奥
宗務副総長　嶋田幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　桐生信行
総務部長　岩崎広義
財務部長　渡邊光顯
教務部長　西尾弘道

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　上川日乾
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　箕輪渓玉
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　井上隆啓
主事　本多信正
主事　足立真正
主事　山口英泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　高邉日援
宗務総長　信隆日系
宗務部長　増田隆雄
総務部長　吉村頼彦
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　真鍋弘隆
門連常任理事　山下通雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　桐生信行
総務部長　岩崎広義
財務部長　渡邊光顯
教務部長　西尾弘道

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長　安中又六
門連理事　本間直暉
門連理事　相澤宏明
「門連だより」編集委員　森山真治

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
顕本法華宗総本山妙満寺内
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

会長　中山日暁
副会長　久村日鑒
理事長　大川定信
副理事長　杉若恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

首座　塙行幸
老長　石山定光
老長　吉田行典
老長　酒迎天信
老長　今井行康
老長　二宮和嘉
老長　池田行朗

門連時報

門連祖廟参詣 身延理事会開催さる

平成十八年五月二十三日（火）日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、門連顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表など計二十四名が参加した。

午前十一時に集合し、祖廟並びに御草庵にて法味言上。その後常唱殿前にて記念撮影。大本堂にて法味言上し、報恩閣に移動。午後二時より理事会が開催された。

小松浄慎日蓮宗宗務総長が座長となり議題に沿って議事を進行。事務局より「平成十七年度事業報告」がなされ、常任理事会・理事会の開催、門連だより発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更等について報告がなされた。

次に、「平成十七年度決算報告」について事務局より決算報告後、斉藤隆彦監査より監査会の報告がなされ承認。

「平成十八年度事業計画案」については前年度同様祖廟参詣、理事会開催、「門連だより」の年二回の発行について説明を行い、それに伴った予算案についても承認された。

続いて地方門連活動に関する報告として、京都門下連合会大川定信理事長並びに、大阪門下懇話会和田龍昌会長より、それぞれの諸活動について報告があった。

次に、「降誕八〇〇年準備企画」について、平成三十三年の御降誕八百年を迎える前に、平成二十一年七月十六日にお迎えする『立正安国論』奏進七百五十年の佳節にあたり、当紙第二面にて、各門下リレー提言をおこなっていくことが決定されており、既に二門下の提言が行われたことが確認された。

午後三時に閉会。会場を静岡の日本平ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催。会員相互の親睦を深めた。





妙法蓮華経漢訳一六〇〇年記念慶讃法要

今回の日蓮宗の使節団は団長に小松浄慎宗務総長、秘書長に長亮行宗務総長室室長を筆頭に団員総勢三十九名にて、六月二十三日から同月二十九日までの七日間にわたり中国に行ってまいりました。

初めに北京空港にて中国仏教協会副秘書長長張琳氏・日本課課長李賀敏氏による熱烈的な歓迎をうけました。その後の主な日程と致しましてはまず、広済寺にあります中国仏教教会の訪問をし、会長釈一誠法師・常務理事演覚法師との歓談をしました。

次に、北京から西安へと移動し午後大興善寺にあります陝西省仏教教会を表敬訪問をし住職界明法師・監院羅福法師・弁公室副主任性洋法師との歓談をしました。

そして、第十二次日蓮宗中国訪問使節団の一番の目的でありました『妙法蓮華経漢訳一六〇〇年記念慶讃法要』を草堂寺にて住職諦性法師ご臨席のもと厳修しました。

この団参で、私達は宗祖の訴願でありました『一天四海皆帰妙法』を肌で感じられたと共に、お題目の結縁で今回の中国訪問が出来た事に感銘を受けた大変有意義な七日間となりました。今後も日中交流を益々深めていき、両国のさらなる発展に努めていきたいと思います。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一八・二・二二	川口日唱師 岡本日亘師	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成一八・二・二三	中村通義師 藤崎広学師	顕本法華宗	常任理事	就任	退任
平成一八・四・一二	門谷東生師 門谷日悠師	法華宗陣門流	理事	就任	退任
平成一八・四・一五	門谷光瑞師 和田龍昌師	大阪門下懇話会		就任	退任
平成一八・四・一二	藤井日光師 酒井日慈師	日蓮宗	顧問	就任	退任
平成一八・五・一五	柳下義真師	日蓮本宗	理事		退任
平成一八・八・三一	木村朋寛師	日蓮宗	事務局		退任
平成一八・九・一	井上建一氏 本間直暉氏	国柱会	常任理事	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日蓮本宗

◆一月二十六日、全門連東京理事会（池上本門寺）桐生宗務総長出席。

◆二月六日、第十五回教師研修会開催（二日間）。七日、第二祖日興上人第六七四年御報恩御正当法要奉修。二十二日、第八十三回定期宗会開催（二日間）。

◆三月九日、勧学寮役員会開催。同日、宝蔵収納委員会開催。

◆四月十二日、鐘楼堂・薬医門等修復委員会開催。十四日、王城開闢会七百年法要委員会開催。

◆五月八日、第三十六回要法護持会全国分会長会議開催。同日、御開山日尊上人第六六二年御報恩御正当法要奉修。十五日、日蓮宗・小松宗務総長と長総長室長、渡邉宗務課長、関主事補が同行来山。二十三日、全門連理事会（身延山久遠寺）桐生宗務総長出席。三十日、身延山大学学長・宮川了篤師、望月泰幹師挨拶のため来山。

◆六月二十七日、平成十七年度日蓮本宗会計監査会。二十八日、第四回宝蔵収納委員会開催。同日、第五回霊蹟・宗宝護持委員会開催。

◆七月十三日、第三回法要式集編纂準備委員会開催。二十五日、平成十八年度第四十一回夏期研修会開講（三日間）。（桐生信行）

国柱会

◆元旦、明治神宮参拝・元旦大国祷・新年拝賀式厳修。同日午後、新酒拝戴式挙行。七日、昭和天皇祭厳修、武蔵野御陵参拝。

◆二月十一日、紀元節慶讃法要厳修。十五日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。十六日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。

◆三月五日、中央連合協議会主催の「申孝園のつどい」を本部にて開催。主なテーマは、「観音信仰」、「宮澤賢治と法華文学」。

◆四月二日、「申孝園桜まつり」開催。八日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。二十八日～三十日、第七十六回身延登詣団及び第四十二回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団を実施。二十八日、立正会慶讃法要厳修（本部及び身延大祖廟にて）。

◆五月七日、国柱会必武館剣道大会開催。十二日、伊豆法難会慶讃法要厳修。尚本年度より、原則として毎月第三日曜日（例月供養会の日）に、「日蓮教学研修会」を開催しています。会費は無料で、どなたでも参加出来ます。（森山真治）

法華宗真門流

◆二月二十二日、教区所長会議・布教師会を開催。本年度各教区の活動計画案の報告、布教計画を作成。

◆三月二十七～二十九日まで、一般信徒及びその子供達の錬成道場、寺院師弟の僧風林を開校。

◆四月九～二十八日まで、真門学林（春季）が開講。

◆四月十一日より三日間、総本山本隆寺子部会厳修される。

◆六月六～十日まで布教師養成所（在神信学所長）が、兵庫県氷上町妙寿寺に於いて開所された。

◆六月二十一日、真門教学講習会開催。

◆八月一～三日、総本山本隆寺にて暁天講座開催。

◆八月二十三～二十九日まで第一種、二種講習会。二十七～二十九日まで第三種講習会を総本山本隆寺にて開催。北海道支学林同期間開催。

◆八月二十五日、総本山本隆寺にて「重宝虫払会」を執行。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◆一月二十五日、第百六次臨時宗会が開催され、土屋善敬総長が再任された。

二月三日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首椿澤日壽猊下御導師のもと厳修された。

◆三月二十七、二十八日、第百七次定時宗会が開催された。

◆四月二十七日、宗務所長会議が開催された。

◆五月八日、布教誌『宝塔』通信員研修会が開催された。十二日、伊豆・霊跡別院蓮着寺において、「組岩法難会」が厳修され、本年も全国寺院より多くの檀信徒が参拝した。十三日～六月二十一日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。二十六日～二十八日までの三日間、総本山本成寺において「祠堂法要」が、日壽猊下のもと厳修され、全国寺院よりの団参で賑わった。

◆六月二十八日、布教研究所所員会が開催された。二十九日、寺録点数見直し委員会が開催された。

◆七月二十七日、宗法審議委員会が開催された。（以上、とくに断りのない場合は、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室において開催）（松吉慶憲）

本門法華宗

◆三月二十七日、第九十三回本門法華宗会（信隆日系宗務総長）が、大本山妙蓮寺卯木講堂で、高邉日援本門法華宗管長ご臨席のもと、開催された。本門法華宗平成十八年度予算の件他、第八号議案まで審議され、承認可決された。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺（高邉日援貫首）で、本山三大会の一つである春季大法要が奉修された。高邉貫首の御親教他、春の志霊法要以下諸法要が厳修された。

◆本門法華宗学院・教学部では（藤井宏長学院長）六月八、九日に第百十七回教学講習会が、大本山卯木講堂で開催された。本年度中に、九月二十九、三十日（第百十八回）、十一月十六、十七日（第百十九回）、平成十九年三月二十七、二十八日（第百二十回）教学講習会開催が予定されている。

◆本門法華宗学院布教部より、平成十八年七月一日付で、布教紙『信行』第百六十五号、同布教誌『生きる』第四十六号水華号が発刊され、各末寺にて檀信徒に配布された。（木村光正）

法華宗本門流

◆大本山光長寺貫首川口日唱猊下が任期途中で辞任。選挙の結果、大橋日紹上人（山梨県妙法寺住職）が当選し、二月十六日付をもって第七十七世貫首に就任、五月二日に晋山式が大本山光長寺において奉修された。

◆第五十九次定期宗会が五月十八、十九日に宗務院で開催され、原井総長の施政方針に続き、予決算の承認可決、奉讃会設立等十四議案を議定して無事閉会。

◆全国宗務所長会が五月二十九、三十日に宗務院で開催され、本年度の宗務執行等十九議題を協議して閉会。

◆本年度開催の教学講習会は、次の六会場。北海道―八月二十四～二十六日に開催済（札幌市・札幌サンプラザホテル）、千葉―十月三～五日（千葉県・ホテル松涛軒）、北陸―九月二十七～二十九日（金沢市・ガーデンホテル金沢）、兵庫―十月十七～十九日（神戸市・神戸オリエンタルホテル）、中国―十月二十三～二十五日（萩市・萩本陣）、九州―六月五～七日（佐世保市・西海橋コラソンホテル）に開催済。（三浦賢秀）

日本山妙法寺

◆一月三十日～二月十日、大分県日出生台の米海兵隊実弾砲撃演習に反対する御祈念。

◆二月十一日、茨城県航空自衛隊百里基地にて百里玄題宝塔十九周年法要。二月～三月、米国マサチューセッツ州平和巡礼。

◆「死の灰」被災五十二周年三・一ビキニデー平和祈念行脚（東京～焼津市）。

◆四月九日、奈良吉野山仏舎利塔三十周年記念法要。二十八日、立教開宗七百五十四年報恩東京～広島平和祈念行脚出発式。

◆五月三日、東京多摩道場釈尊御降誕会大祭。五日、佐賀肥前仏舎利塔二十周年祈念法要。二十七日、「宗教者九条の和」諸宗教者達と京都河原町通りを平和巡礼。

◆六月、米国ワシントン州シアトル平和巡礼。

◆七月二～九日、第十一回韓日平和巡礼。

◆八月二十四、二十五日、西天開教七十六周年祈念法要（熱海～身延）。

「日本の仏法、西天インドに還るべき瑞相に魁せんと欲す。（略）もし西天にこの法還らずば、高祖の預言地に墜ちなん。もし西天にこの法還らずば、我等が菩薩行立つべからず。もし西天にこの法還らずば娑婆の衆生は永く火刀血の牢舎を出づる期あるべからず」（藤井日達）

◆十月二十八日、印度デリー仏舎利塔、御佛舎利様奉安式（予定）。（牧野行暉）

本門佛立宗

◆皆が感動！歓喜！　百五十記念大法要

安政4年本門仏立講が開講され、本年で百五十年の正当を迎える宗門では日本国内の各布教区域単位、海外寺院でもそれぞれ大法要を奉修している。

未来に向け、弘通広宣の決意を新たにし、次代につながる法灯相続を願ってそれぞれ趣向をこらしたテーマで奉修。各地で大きな感動の声があがっている。

◆スリランカのHBS

HBS（本門佛立宗）スリランカの弘通（布教）から十年経過した本年で約一万人の仏立信徒が誕生している。上座部仏教が主流の国で、妙法蓮華経の本化仏教が信徒の生きる支柱になっている姿は、かつて日本国内の仏立発祥当時のような、ひたむきで素直な信心があふれている。

たとえ貧しくても、生活のなかに便利さや快適さはなくても、家族や地域全体が信仰で一体になっているスリランカから、現在学ぶべき点は多い。

◆「本山大屋根瓦ふきかえ」

宗門と本山宥清寺では仏立開講百五十年奉賛記念ご奉公の一環として「瓦一枚運動」を発願し、本山宥清寺の大屋根葺き替えをさせていただくべく、全宗門人に浄財の勧募をすることが決まった。（指田隆行）

日蓮宗

◆日蓮宗は終戦記念日の八月十五日、戦没者の遺骨が埋葬される千鳥が淵戦没者墓苑で「千鳥が淵戦没者供養並びに世界立正平和祈願法要」を導師に小松浄慎宗務総長、副導師には東京四管区宗務所長が務め、参列者と共に死者への冥福と世界平和を祈った。

◆日蓮宗総本山身延山久遠寺の藤井日光法主猊下が法主引退を表明、第九十二世の法主に選任された内野日総猊下の仮入山式が七月三十一日に行われ、僧侶檀信徒約三百人が参列した。関係機関や檀信徒へのお披露目となる「入山式」は十月三日、久遠寺本堂で行われる予定。

◆第五十一代日蓮宗管長に大本山池上本門寺（東京都大田区）の酒井日慈貫首が就任。五月九日、東京都大田区池上の宗務院講堂で管長就任奉告式が行われた。

◆「全国日蓮宗青年僧　身延結集～原点からの結縁」が五月二十日と二十一日に開催され、全国から青年僧と檀信徒合わせて約三百五十人が集結した。全国日蓮宗青年会の結集に檀信徒が参加したのは、第四十四回目となる今回が初めて。身延山での開催は三十年ぶりとなった。（大澤宏明）

顕本法華宗

◆二月二十二、二十三日の二日間、京都総本山妙満寺において第六十一定期宗会が開催された。平成十七年度事業・決議報告、平成十七年度事業・予算案等が審議された。

◆二月二十三日、藤崎広学宗務総長（千葉経胤寺）のもとに新内局が発足。新内局は島田幸晴宗務次長（広島妙詠寺）、藤崎行学財務部長（千葉大経寺）、古瀬久馨布教部長（京都妙祐久遠寺）、阿曽久成社会部長（千葉妙善寺）、早川義正教務部長（岡山本成寺）、津村乗信庶務部長（東京常福寺）が任命された。

◆五月十三、十四日の二日間、京都総本山妙満寺において「春季報恩大法要」が管長中山日曉猊下大導師のもと厳修された。本年は仏舎利大塔建立三十三周年を記念して全国の僧員檀信徒から塔外壁に奉納された仏像の開眼法要も奉修した。

◆七月二十五～二十八日の三泊四日間、京都総本山妙満寺を会場に、宗門主催「第四十三回顕本青少年錬成会」が開催された。（小島芳明）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成19年3月21日
第35号

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第4回 法華宗真門流

如世尊勅当具奉行!! 使命を達成しよう!!



法華宗真門流 学林長　辻本寛孝

一、末法の時

釈迦佛の「時」の概念は「正法・像法・末法」の三時である。佛滅後を三つの時代に分け、佛法の弘通の状況を述べるもので、経典にこの説が説かれているのは、未来の「時」即ち現代を踏まえての佛の予言である。

正像二千年の後「末法の時」は万年である。日蓮聖人生誕、貞応元年（一二二二）は佛滅後二一五一年に当たる。生誕の年すでに末法の時で「五箇の五百歳」からいえば「闘諍堅固の時」に当たり、形式的佛法も衰微し、人の心も乱れ争いが絶えず、佛法の代わりに邪法が起こる「白法隠没の時」をいう。第五の五百歳が末法に入った始めの五百年である。聖人は釈迦佛が一代五十年の説法の内、釈迦佛晩年の八年間に説かれた「法華経」を「皆是真実」の教として、実践信仰された。我々末法の衆生は、この経を佛の金言として「如世尊勅当具奉行」し、法華経をもって示教利喜しなければならないのが末法の時である。

二、時代苦の救済

聖人は、衆生の苦悩の因はどこにあるか、衆生の憂悲を除く方法がないかと考え、そして立教開宗後法華経を流布せんが為に伝導された。最初に「時代苦」という壁にぶつかり、一切経にその方法があると確信され、一切経閲読の結果「正法違背」という宗教的解答を見い出された。聖人は国家、社会、国土、衆生の平和、幸福、平等の為『立正安国論』を幕府に上申されたのである。

「旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで（中略）死を招くの輩、既に大半を超え、之を悲しまざるの族、敢て一人もなし」（昭定一〇九頁）。

この『立正安国論』は、聖人がまのあたりにした、時代の苦を同一の苦として共苦し、この時代に生まれ合わせた苦悩と、何故に悲惨なめに合うのかという怒りをこめて、北条時頼に建白されたのである。その『立正安国論』の言われる所は、「世皆正に背き、人悉く悪に帰す。故に善神国を捨てて相去り、聖人所を辞して還らず。是をもって魔来り鬼来り、災い起り、難起る」と。ではどう対処し救済方法は、「汝早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ、然れば則ち三界は皆佛国なり、佛国其れ衰えんや。国に衰微なく土に破壊なくんば、身は是れ安全にして、心は是れ禅定ならん。此の詞、此の言信ず可く崇む可し」（昭定一二六頁）佛は、迹門に「現世安穏後生善処」本門に「我此土安穏（中略）衆生所遊楽」と示され平和、幸福、平等を誓願し、聖人の衆生救済の願で、時代苦の目的である。

三、衆生謗法の戒め

「誹謗の科至って重く、毀法の罪誠に深し」と『立正安国論』に示すが如く、当時の衆生も、現代の七五〇年後の民衆も心性は変りがない。法華経は有難度いお経だと、その価値を認めながら爾前の念佛、禅、真言或いは律等に執着し、又新興宗教等に惑わされる人が多い。現代は、信仰の自由という法律に守られ、情報過多の時代で（新聞、テレビ、パソコン）あり、正法とは何かという疑念も起さず、世間の法に深く染り、三毒煩悩のまま行動に走るからではないかと思う。

法華経は最勝王経で、「法華最第一」（法師品）「一切諸経法中最第一」（薬王品）とあり、世間の法に染まる事なく、如説修行に精進すべきである。故に純一無雑の信でなくてはならない。

法華経を信受しないのは、正法を誹謗するという謗法罪を犯している。なぜなら娑婆世界の教主釈尊が法華経以前の教経を未顕真実（無量義経）とされ、唯一絶対たる法華経を開顕されたから、爾前の教経に心を寄せるは、久遠の釈迦佛の言に従わぬ行為であり、法華経を毀法しているに他ならない。「此の経を毀謗せば則ち一切世間の佛種を断ぜん」（譬喩品）と成佛の道が閉ざされると強い言で戒めておられる。慎しむべきは是なり。

法華信奉者は、高祖聖人を始め先師先聖が今日まで御苦労され伝えて下さった、法華経を八百年の未来に伝える使命がある。法華経を信じ一心に唱題し、大恩に応え、広宣流布令法久住の使命に精進しなければならない。

四、本果実証の題目（唯寿量）

「寿量品にいわゆる。然我実成佛已來の一句に本果証得の一念三千を具す。これ則ち佛界所具の一念三千にして十方法界のあらゆる人畜草木みな悉く釈尊体内所具の十界なり。故に我等即佛界所具の人間界なり。然れば則ち本果実証の妙法を唱え奉る者は、それその身即佛身なり」（『真門綱要記』六頁）

寿量品の「或説己身、或説他身、或示己身、或示他身、或示己事、或示他事」は佛界所具の所依の文なり。聖人、本尊抄に「或説己身、或説他身云々即ち佛界所具の十界なり」「無顧の悪人も猶妻子を慈愛す、菩薩界の一分也、但佛界計り現じ難し」（昭定七〇五～六頁）と述べられている。

当門開祖日真大和尚は、この法門こそ、本佛・聖人の御意であると確信され「一部修行・本勝迹劣・唯寿量・本果実証の題目」を旗印とされ、我々に教示して下されたのである。この意を得て唱え奉る題目は本果実証の妙法であると、法筵聴聞の人々も倶に題目を唱うるに同じ功徳を得る事が出来ると述べられている。

「これは当門の開祖発明の観心にして、蓮祖正弘通の法体、他家無類の法門なり（中略）本果とは、本は根本の義なり。果は因種によって発する所の果実の義なり」（『真門綱要記』一八頁）

本果
- ①諸佛平等の世界＝薬草喩の如し（安穏の楽・世間の楽・涅槃の楽）
- ②唯寿量の世界＝三世不変・常説法教化

久遠本佛の本果がそのまま現わるをいう。「六或示現」して、自らの身や他の身を説き示す。他の身を示すとは、本果実証の題目を唱える人は、本佛の他の身を示すと変らない。但し菩薩として本佛の意を行ぜられるという注が要る。故に難信難解である、聖人の「但佛界計り現じ難し」と云われる所以なり。「分身散体して十方の国土に遍じ」（無量義経）分身散体して、本佛の一面具現できる為に「不自惜身命」になる者は、一面の化現身の故に「本果実証」そのものとなる。「我此土安穏（中略）衆生所遊楽」の理想郷に遊楽する事が出来るのが、佛界所具の人間界なりの有難き法門なり。

当門流は、

「高祖開祖の御心にかえろう」

「合掌しあう友をつくろう」

を標語に合掌運動を展開している。例えば、池に石を投げ入れると「波紋」が四方八方に広がる如く、開祖日真大和尚の本果実証の題目唱題に励み、使命達成に邁進するのが、我々の今時果たすべき道で、個々に与えられた使命を遂行するのが大切である。佛の弟子であると共に菩薩の一員であって、本佛の一面の化現身である事を能く自覚し、四法を成就（勧発品）して法華経の広宣流布、令法久住の使命達成に精進するのが教化活動につながる道である。

合掌

従地ゆじゅつ

現在、世間を騒がせている少年犯罪。その中でも特に目立つ殺傷事件。「キレル」事から取り返しのつかない行動をしてしまう。その言葉がマスコミで取り上げられてから、子供による残虐な事件が目立って仕方ない。

子供というのは非常に素直な心を持ち、人と同じ事をしてみたいという欲望も強い。そんな中、お手本となるべき大人達が平気で罪を犯す。そういったマスコミの報道を毎日のように聞いていく中で、何事も吸収していく子供達にどういう結果をもたらすか想像がつくであろう。もう一つ言える事は、子供達の間で流行っているＴＶゲーム。非常にリアルな映像の中で、普通に敵を殺し、自分がやられた場合リセットを押す事で生き返る。つまり命のやり直しがきくのである。人間には錯覚という知覚があるが、成長段階である子供達の知覚の中には確実に人は死んでも生き返るというありえない錯覚が知らないうちに埋め込まれているように思えて仕方ない。日蓮聖人が示された末法の時代。人心が乱れ、仏の教えが正しく伝わらない困惑の時代。まさに今、その真っ只中なのである。日蓮聖人の御教えを受け継いだ我々僧侶はじめ檀信徒が、それを後世に正しく伝えて行く事で、子供達は命の尊さというものに初めて気付くのではないか。祖願達成の決意を新たにしたい。

（祐）

《リレー提言③》

門連の歩みと次代への発信
一層の結束と努力で進展を目指す

本門法華宗
門連常任理事　山下通雄

平成二十一年に五十周年を迎える

日蓮聖人門下連合会が結成されて明後年で五十周年を迎えます。この度門連だより第三十五号を刊行されるに当たり「門連の歩みと次代への発信」と題して所感の一端を申し述べます。

門連発足より大変なご苦心の中、各派をまとめられ門連による様々な事業が行われましたが、日蓮聖人門下連合会を立派に結束発展せしめられました先輩諸師に深く敬意を表し感謝申し上げます。

日蓮聖人七百遠忌の時には全門連を結束されて我が宗門から常任理事の木村光紹師・持地光学師等が出席し宗祖日蓮聖人七百遠忌記念事業に参画され、全門連をあげて開催された、日蓮展、オラトリオ日蓮作詩作曲、日蓮劇、青年の船等、大きな成果をあげられ往時のご活躍を認識いたしております。

異体同心の結束力

日蓮聖人のお題目を伝弘し立教開宗七百五十年の時にも全門連では誓願の誠を示さんがために記念事業を計画推進し、国柱会・大橋邦正先生が尽力、東京国立博物館の協力を得られ、門下各派格護のご宝物、聖人のゆかりの品、法華経信仰の美術品など格調の高いものを展観し、大日蓮展を企画開催、この大きな浄業報恩慶讃記念事業を本化門下僧俗一体となって理事長はじめ事務局諸師各派理事の結束を固め檀信徒にも大なる信行を勧知・仏縁をもたらし円成せしめられたことは周知の通りであります。

今日的視野に立つ

この機に乗じ、次のやがて迎える立正安国論奏進、国諫七百五十年への企画、聖祖降誕八百年に向けて次代門連でなければやれない発想を、先の常任理事会又昨年の京都理事会において大日蓮展の決算報告の時、次の浄行事業に充てる準備予算を組まれました。新しい活動を始動すべく進展するため、特に今日的課題現代の視野に立った全門連各派各聖の素晴らしい発想の提起されることをご期待するものであります。

全門連加盟宗団として教学上の違い各派団体の主張がありましょうが、日蓮聖人の御心と異体同心、次の世代への一層の結束と努力し進展していくことを念願するものであります。

発足の志を受け継ぎて

現今の社会情勢を見つめるに、宇宙開発、地球上の科学文化の進歩、核保有問題、内にあっては人権護持、命の軽視、格差社会と情報化時代の急激な変化の反面、我が国の美しい日本の独自の倫理観道徳の喪失、犯罪の多様化と物資的思考の先行、人と人との精神面の欠如など国をあげて教育の在り方（実際）も問われています。思いやりと慈悲の少ない自己中心主張、人は何のために生きるのかと自問自答しない人々の社会、構造にいかに各論にとりくむべきか、真摯に論じられ、釈尊・法華経・祖師の原点を見つめ、全門連発足当時の先師諸聖の遺志に基づき発会時の祖廟中心、異体同心の結束、立正安国・祖願達成へと次の門連でなければやれない報恩事業案を理事長を中心とした全門連事務局諸師で素案策定を提起される事をご提言申し上げるところであります。

益々の全門連各派他諸師の叡智を結集される事を信じます。

新刊紹介

『法華宗教学綱要』発刊される

本書は、著者である元法華宗興隆学林長株橋日涌上人が講義用として書かれ、長年使用されてきた『本門法華宗綱要』（謄写版）に生前、補筆訂正をされていたものを上人の二十三回忌にあたり、このたび刊行されました。

本書の内容は、宗名・血脈相承・教判・教意・宗旨・信行の七章で構成、詳細な項目をたててまとめられているほか、更には索引まで付されています。

本書は、天台法華教学との対比峻別に特色があり、日蓮門下においても類例のない書として、習学者の便利がはかられたコンパクトな日蓮教学の概説書です。



株橋日涌『法華宗教学綱要』
A5上製・函入・三〇九頁・三、九九〇円（税込）
発売元・東方出版　大阪市天王寺区大道一の八の一五
電話〇六（六七七九）九五七一ＦＡＸ〇六（六七七九）九五七三

《著者略歴》
株橋日涌（かぶはし　にちゆう）
明治四十二年（一九〇九）十一月二十日福井県大野町（現大野市）に生まれる。昭和三年、本門法華宗学林卒業。
以来、学林助教授・教授・学監、更に法華宗興隆学林長・法華宗教学研究所長を歴任。昭和十六年より同二十年にかけて軍国主義化の特高・司法当局の弾圧を受けたるも、宗祖日蓮聖人の本尊・遺文を死守。法華宗大隆寺第二十四世、大本山本興寺第百二十六世。大僧正。昭和五十九年（一九八四）一月七日遷化。
著書『本門法華宗綱要草案』『法華宗名目』『法華玄義要綱』『開目抄十講』『観心本尊抄講義』上下巻他、論文等多数。

一枚の切符から
国内・海外　団体参拝旅行まで



knt!
近畿日本ツーリスト
カタチにします。ときめき・キラメキ・おもてなし
www.knt.co.jp

本社　営業推進室（宗教）
〒101-8641
東京都千代田区神田松永町19-2
東京近鉄ビル7F
TEL 03-3255-7299　FAX 03-3255-2719

平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます



（平成十九年三月現在）

日蓮宗宗務院

管　長　酒井日慈　財務部長　駒野教源
宗務総長　小松浄慎　宗務総長室長　長亮行
伝道局長　伊東隆司　現代宗教研究所長　田澤元泰
総務局長　張田珠潮　参与　堀江宏正
伝道部長　梶山寛潮　参与　浅井玄裕
教務部長　渡辺照敏　日蓮宗新聞社社長　伊東正光
総務部長　藤岡暎邦

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管　長　岡本日亘
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
教化部長　杉村眞宏
庶務部長　矢吹慈英
財務部長　加藤信淨

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管　長　中山日暁
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
布教部長　早川義正
社会部長　阿曽久成
教務部長　古瀬久馨
庶務部長　津村乗信

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管　長　椿澤日壽
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　田邊円祥
教化部長　佐古大弦
財務部長　牧野秀成
宗務参事　金原孝宜

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講　有　小山日誠
講　尊　梶本日裔
講　尊　野﨑日丞
宗務総長　佐藤日鳳
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　嶋田幾雄

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東堅町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀日有
宗務総長　桐生信行
総務部長　岩崎広義
財務部長　渡邊光顕
教務部長　西尾弘道

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管　長　田中日生
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　養輪渓玉
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
主　事　足立真正
主　事　井上隆啓
山口英泰

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管　長　高邉日援
宗務総長　信隆日系
宗務部長　増田隆雄
総務部長　吉村頼彦
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　真鍋弘喜
門連常任理事　山下通雄

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗教法人　国柱会

賛　主　田中壮谷
理事長　安中又六
門連常任理事　本間直暉
［門連だより］編集委員　森山真治

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会　長　永田日洵
副会長　上川日乾
理事長　杉若恵隆
副理事長　本田信正

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首　座　塙行幸
長老　石山定光
長老　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　二宮和嘉
長老　池田行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812　東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

平成三十三年二月十六日は宗祖御降誕八百年を迎えます



（平成十九年三月現在）

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八
貫首 椿澤日壽
執事長 栗田孝之
執事 笹原壯玄
執事 鈴木顯正
執事 荒川公孝
執事 近藤正文
執事 五十嵐義昭

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六（二）一〇一一
FAX 〇五五六六（二）一〇九四
法主 内野日総
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇
貫首 酒井日慈
執事長 早水日秀
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七
貫首 中山日暁
総務 島田幸晴
執事 山本晃道
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事 小川正義

本門法華宗大本山
本隆寺
貫主 田中日生
執事長 本多信正
執事 足立真正
執事 永岡悠希
書記 笹木研吾

法華宗（真門流）総本山
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 桐生信行
執事 岩崎広義
執事 渡邊光顯
執事 西尾弘道

多寶富士山
日蓮本宗
本山妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七
貫首 高邉日援
執事長 石崎光教
役職員一同

本門法華宗大本山
京都八本山会
大本山 本圀寺 貫首 吉田宏遠
大本山 妙顯寺 貫首 南條孝仁
本山 頂妙寺 貫首 永田恵遠
本山 妙覚寺 貫首 頂岳龍乗
本山 本満寺 貫首 伊丹栄彰
本山 本法寺 貫首 大塚泰詮
本山 立本寺 貫首 上田尚正
本山 妙傳寺 貫首 野々垣泰典

日蓮宗霊跡本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二五）六九六七
貫首 加藤日暉
執事長 大埜稔申
執事 立野正泰
山務役職員一同

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
大本山
清澄寺
〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四（七〇九四）〇五二五
FAX 〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。
別当 岡崎日泰
執事長 佐々木光道

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇代
FAX 〇七五（四六三）四六五一
住職 二十四世講有 小山日誠
執事長 田中清希
事務局長 伊藤隆之

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三
貫首 本間日諄
参与 井出教道
参与 井野上正文
参与 藤先博明

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六
貫首 新井日湛
執事長 藤井智光
財務執事 村尾貞榮
庶務執事 滝本善孝
法務執事 阿部宇善
教務執事 髙谷正之

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗東身延本山
藻原寺
〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三
貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 冨永一道
役職員一同

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首 大橋日紹
執事長 久保木学洋
役職員一同

法華宗（本門流）大本山
光長寺
〒410-0011 静岡県沼津市岡宮一〇五五
電話 〇五五（九二一）〇四八四
FAX 〇五五（九二一）〇七三六

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七
山主 嶋田日新

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四（七〇九五）二六二一
貫首 石川日命

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 安藤信行
同 伊東隆司
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―五
電話 〇三（三八二一）四三七三
FAX 〇三（三八二一）七〇三三
貫首 井上日修

門連時報

全門連京都理事会・懇親会、顕本法華宗総本山妙満寺で開催

平成十八年十一月十七日（金）、顕本法華宗総本山妙満寺（中山日嘸貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四十名が参加した。

正午に集合し、昼食後、午後一時より中山日嘸猊下御導師のもと法味を言上。本堂前にて記念撮影の後、午後二時より客殿にて中山日嘸猊下による「妙満寺の沿革」、について大変貴重なお話を拝聴した。



京都理事会

引き続き、午後三時より「京都理事会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、小松浄慎全門連理事長が座長となり、議題に沿って議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告がなされた。その他にも「御降誕八〇〇年慶讃事業」に向けての活発な議論が展開された。また、事務局より平成二十一年に「立正安国論奏進七五〇年」を記念して京都国立博物館において、「大日蓮展（仮称）」を開催してはどうかとの提案があり、京門連の方々より種々意見が述べられ、今後は更に慎重に京門連と連絡を密にしながら進めて行くこととなった。

会議終了後、懇親会の席を宝ヶ池プリンスホテルへと移し、京料理を満喫した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、妙満寺の皆様には厚く御礼を申し上げると共に、今後とも門下発展の為にも御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

阪神淡路大震災十三回忌大法要

一月十七日午前零時、神戸市東遊園地で管内僧侶が慰霊塔「1・17希望の灯り」周辺で読経を開始。午前四時四十五分からは管内僧侶に加え、全国日蓮宗青年会と日蓮宗女性教師の会も合流し、読経・追悼式に参列、犠牲者へ祈りを捧げた。

午前八時半、東遊園地に全日青を中心とした青年僧約八十人の行脚隊が集合し、二つのコースに分かれ出発。小雨の中、若い僧侶たちの力強いお題目の声とうちわ太鼓の音が神戸の街中に轟いた。また日蓮宗女性教師の会の十五人は、午前九時から約二時間半かけて長田地区で精力的に行脚を行った。行脚と同時に午前九時からは東遊園地～三宮駅間で布教師会・社会教化事業協会による街頭布教とチラシ配布を行うなど、伝道大会に向け意識を結集していった。

十二時半、池田博英実行副委員長（尼崎市長遠寺住職）による開式宣言の後、「1・17希望の灯り」から採火された灯りを清水所長が御宝前へ献火。清水所長が「今こそ法華経の精神を広く世界に伝える時」と挨拶し、小松浄慎宗務総長を導師に阪神大震災十三回忌大法要が営まれた。厳粛な雰囲気の中、読経が響き渡り、清水所長が表白文を読み上げ、被災者へ一意専心の祈りを捧げ、僧侶檀信徒共に「立正安国・お題目結縁運動」に精励し、法華経とお題目の心を伝え世界平和を実現することを誓った。続いて修法師十八人による大衆法楽が行われた。唱題後、小松宗務総長が回向文を読み上げると、会場は祈りの心に包まれていた。

法要終了後には宗門を代表して張田珠潮日蓮宗宗務院総務局長が挨拶し、災害復興への尽力に感謝し、被災者の方々が安心した生活を取り戻すことが出来るよう祈念。また環境破壊が自然災害を加速させることに触れ「今こそ〝生命あり地球の尊厳〟を再確認し、生命の尊厳、人心の安寧、世界の平和のために邁進するとき。私たち生きとし生けるものは自然より様々な恩恵を受けていることを認識し、恩に報いるべき」と述べ、被災者の霊位に追善の誠を捧げると共に、参加者に〝環境・平和・いのち〟の誓いと祈りを込めた。



震災法要

清興では歌手のペギー葉山氏が夫を自宅で介護した体験を基に、介護問題について講演。また新聞詠み河内音頭家元の河内家菊水丸氏によって、心地よい太鼓の音色とともに楽しく河内音頭が歌われ会場は大いに盛り上がった。

最後に京都市本山本法寺の大塚日行貫首による御親教があり、参加者全員による唱題行が行われ、会場全体に平和への祈りが響き渡った。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一八・九・一	井上健一氏 本間直暉氏	国柱会	理事 常任理事	就任	退任
平成一九・一・一	中山日嘸師 永田日洵師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成一九・一・一	大川定信師 杉若恵隆師	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成一九・一・一	杉若恵隆師 本多信正師	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成一九・三・九	上川日乾師 田中日生師	法華宗真門流	顧問	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行　年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日蓮宗

◆日蓮宗・千葉県南部宗務所・宗門史蹟両親閣妙蓮寺の共催で日蓮聖人のご尊儀、妙日尊儀第七百五十遠忌報恩法要を平成十九年五月十三日～十四日の両日、千葉県鴨川市の両親閣妙蓮寺と大本山誕生寺で営む。

◆日蓮宗・岩本山実相寺・山静教区・静岡県中部宗務所の共催で日蓮聖人御入蔵七百五十年宗門法要を日蓮宗管長・酒井日慈猊下大導師のもと、六月十四日に大本山実相寺本堂で営む。

◆日蓮宗は全日本仏教会を代表して法要団（団長・伊東隆司日蓮宗伝道局長）を結成、昨年十二月二十六日、タイ南部のプーケット島カマラビーチで「インド洋津波犠牲者三回忌慰霊祭」を営んだ。法要は伊東団長が導師を務め、身延山久遠寺の杉浦則雄法務部長、国際開教対策委員や全国日蓮宗青年会のメンバーら十四人が出仕し、力強いお題目を唱え、南国の空に響かせた。

◆前日蓮宗宗務総長の岩間湛正師が一月一日遷化。七十二歳。智証院日道上人。昭和六十年に日蓮宗宗会議員に当選、長く宗政に携わる。日蓮宗綜合企画部長、宗務副総長など数々の要職を得て平成十五年に日蓮宗宗務総長に就任し、門下連合会理事長を務め、平成十七年末に総長を退任した。

（大澤宏明）

法華宗本門流

◆平成十九年二月二十日、サンシビック尼崎において、第二十回法華宗教学研究発表大会が開催された。本年度は二十回目の記念大会として、例年の宗門内教師諸師の研究発表に加えて、「海外布教について考える」というテーマで、ネパール出身の学林卒業生と同夫人、及び現在米国で布教に活躍している開教師二人による異なる文化の中での日頃の布教活動などについて発表講演された。

◆布教機関誌『無上道』が昭和二十四年一月創刊以来毎月連綿と続刊を重ね、この度本年四月号をもって七〇〇号を迎える。本記念号は、読者からの公募による「私と無上道」という題の作文、宗務総長と長谷川正浩弁護士との対談、内局部長対談、信仰体験など掲載予定。

◆三月十四日、宗門の僧侶養成機関である「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成十八年度卒業式が行われた。卒業生は今まで勉強したことを糧にして、新たな布教の第一線にたつ。

（三浦賢秀）

顕本法華宗

◆平成十八年八月二十五日～九月八日の十五日間、京都総本山妙満寺において「妙塔学林」が開講された。受講生は行学二道の修練に励んだ。

◆十月四日、総本山妙満寺で「西部僧員研修会」開催。同じく十六日、千葉浜野本行寺で「東部僧員研修会」が開催された。

◆十月十七日、前管長・妙満寺第二百三世永正院（吉永）日晴上人遷化。世寿八十八歳。十一月二十日、京都妙満寺で中山日暁猊下導師の下、本山葬が厳修された。

◆十月二十六日～二十七日、富山を会場に「全国布教師研修会」が行われた。平成二十年の「慶長法難四百年」を目前にし、常楽院日経上人ゆかりの霊跡参詣と研修会が開催された。

◆十一月三十日～十二月一日、岡山和気本成寺（住職・早川養正師）において「什門懇話会」が開催された。妙塔学林林長・大川定信師（京都寂光寺）を講師に「京都法華諸本山と慶長法難について」との講演が行われた。

（小島芳明）

法華宗真門流

◆平成十八年十月五日～十四日の間、総本山本隆寺に於いて秋季学林（辻本寛孝学林長）が開講され、宗門の若き僧侶たちが行学二道に精進した。

◆十月十二日～十三日の二日間、総本山本隆寺に於いて「秋の大会」が奉修された。十二日夜には、「高祖日蓮大菩薩御逮夜法会」が勤められ、境内にて御報恩献灯がなされた。十三日には、「高祖日蓮大菩薩御正当命日法会」が勤められ、境内には屋台の設置などもあって、多くの参詣者が集まった。また、法要に引き続いて、厳粛な雰囲気の中、所定の課程を終えた学林本科生四名が、高座に上って初転法輪（新説式）を挙行した。

◆十二月五日～六日の二日間「平成十八年度定期宗会」が開催され、平成十九年度歳入歳出予算案、布教師の選任、権大僧正の推薦など、諸案件について審議された。

◆十二月五日、総本山本隆寺に於いて貫主推戴会が開かれ、本隆寺第百四世貫主に田中諦常上人（兵庫県川西市、久成寺住職）が推戴された。晋山式は、平成十九年三月九日に挙行される。

◆一月一日～八日の間、総本山本隆寺に於いて年頭国祷会が修され、法華八講が催された。

（堀内浩善）

本門法華宗

◆平成十八年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（高邉日援貫首）で、日蓮大菩薩御会式報恩法要を奉修。十二日、逮夜法要（万燈会）、夕刻万燈一斉点燈。十三日、祥当法要、秋の志霊法要が厳修された。

◆十月十一日～十二日、大本山妙蓮寺御開山日像菩薩御報恩法要を奉修。並びに日慶・日応・日忠聖人の三師会法要、本山歴代上人の年忌法要が併修された。

◆本門法華宗学院教学部（藤井宏長学院長）では、第百十八回教学講習会を九月二十九日～三十日、第百十九回教学講習会を十一月十六日～十七日に、大本山妙蓮寺卯木講堂に於いて開講。講習会開講後、教師資格検定試験が実施された。

◆同学院教学部より平成十九年三月二十五日付で、『四帖抄に聞く（三）』が発行された。平成十六年三月の教学講習会における立正大学北川前肇先生の講義録。

◆本門法華宗学院布教部では、布教誌『生きる』第四十七号雪華号、信報『信行』第百六十六号お正月号を各々一月一日付で発行、各門末寺院に配布。

（木村光正）

国柱会

◆平成十八年六月十日～十一日、「宮澤賢治透き通る風の旅」開催。初日は、宮澤賢治記念館見学、身照寺訪問、その後大沢温泉・山水閣にて講習会及び宿泊。最終日は、高村光太郎記念館見学、宮澤家にて追善法要、イギリス海岸散策、羅須地人協会建物見学を実施。十八日、日蓮主義研修会（本部講堂）。テーマは、「一念三千説について」。二十一日、昭和聖徳記念財団評議員会（井上事務局長、賽主代理として出席）。二十四日、講師補任用試験実施。

◆七月八日、顕正会慶讃法要厳修。十五日、妙宗大霊廟盂蘭盆開顕大供養会勤修。同日午後より、作家・日本画家の出雲井晶先生講演会開催。十六日、宣正会慶讃法要。二十三日、理事会開催。三十日、明治天皇祭厳修。同日午後、明治神宮参拝。

◆八月六日、今年で二回目となる「申孝園夏祭り」開催。昨年よりも多くの地域住民の参加で盛り上がった。九日～十一日、第五十三回少年少女夏期学校開校。十三日、小樽霊廟創立七十周年記念法要厳修（北海道地方連合局主催）。二十日、日蓮主義研修会。テーマは「仏になるということ」。二十六日、田中香浦先生第十一回忌追善法要厳修。同日～二十七日、全国青年の集い開催（於本部）。

◆九月二日、申孝園ロータスヴィラ（国柱会の運営する有料老人ホーム）開設二十五周年記念式典・祝賀会開催（於本部講堂）。三日、申孝園のつどい（国柱会中央連合協議会主催）開催。十二日、龍口法難会慶讃法要厳修。二十三日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。三十日、式士任用試験実施。

◆十月二日、田中壮谷賽主、日蓮宗総本山身延山久遠寺、内野日総法主入山式に出席。十日、佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、純正日蓮主義屋外宣伝挙行（於池上本門寺）。十三日、鶴林会慶讃法要厳修。十五日、日蓮主義研修会。テーマは「常不軽菩薩の人間礼拝」。

（森山真治）

日本山妙法寺

◆平成十八年七月三十一日～八月八日、広島長崎デーに向けた諸宗教合同平和祈念行脚。米国ワシントン州タコマ～シアトル～バンガー原潜基地。

◆九月十四日～十九日、英国スコットランド平和行進。ファズレーン「トライデント原潜基地」～エジンバラ「スコットランド議会」。

◆十月九日～二十一日、第二回ネイティブ・アメリカン聖地貝塚平和巡礼。

◆十一月五日、恩師行勝院日達聖人御真骨遷座式法要（阿蘇道場御廟所）。

◆十二月十七日、インド国ムンバイ道場開堂五十周年記念法要。

◆平成十九年一月九日、行勝院日達聖人第二十三回忌報恩大法要（熱海道場）。「文明とは電灯のつくことでもない。飛行機のあることでもない。原子爆弾を製造することでもない。文明とは人を殺さぬことであり、物を壊さぬことであり、戦争しないことであり、相互に敬うことである」（藤井日達）。

◆五月八日～二十七日、広島～阿蘇平和巡礼。

◆五月二十七日、行勝院日達聖人第二十三回忌報恩追孝大法要（阿蘇道場）。

（牧野行暉）

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成19年9月23日
第36号

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第5回 本門法華宗

『立正安国論』奏進750年を控えて

本門法華宗　宗務総長　信隆日系

当宗では、来る平成十九年十一月に大本山「妙蓮寺」の別当初代「日應僧正」の五〇〇遠忌を迎えます。現在宗門・本山に於てその準備を鋭意進めており、去る平成十四年に奉修された「立教開宗七五〇年」の砌に掲げた「ひろめよう・伝えよう・お題目を」のスローガンを引続き受け、五〇〇遠忌の円成を目指しているところであります。

そもそも『立正安国論』は、日蓮聖人が文応元年（一二六〇）七月十六日に鎌倉幕府が百四十年余続いた内、百十年余に亘り政治を治めていた当時の執権北条時頼氏に『立正安国論』を献上されてよりあと二年余で七五〇年を迎えます。

立正安国の大理想

その『立正安国論』の文章の一々の内容、文言等の解釈・解説については、各法兄、識者諸氏に委ねることとし、同論の流れを簡単に記しますに、

全体の文章が十段に分けられていて、旅客と主人とを仮説して問答式に述べられています。

旅客の第一段の問いの答えでは、世の信仰が皆間違っている。

第二段の答えでは、金光明経、大集経、仁王経、薬師経等の文を引用して真実の仏教が廃れている。

第三段では、仁王経、涅槃経、法華経等の文を引用して当時の仏教が廃れている。

第四段では、浄土教法然が「選択集」を著し権教方便の浄土三部経に執着していて実教の法華経を排している。

第五段では、法然有徳の人と言えども正法に背いている。

第六段では、正法を妨げる教義を責める。

第七段では、正法を妨げる者には活動停止を願う。

第八段では、正法を妨げる者の保護をしない。

第九段に至って旅客これ等を領解する。

第十段では、旅客主人の説に感謝して「我が信ずるのみに非ず、又他人の誤りを戒めんかな」と捨邪帰正を明す。

これらを要約すると、天変地夭、飢饉、疫病等が連続して起るは、人々が正法に背き悪法に帰依した為と経を以って明らかにされ、次に当時の仏教は隆盛の如きであるようだが、浄土教法然の権教方便の教えが謗法を冒していると指摘し、このまま邪法を放置すれば、自界叛逆・他国侵逼の難が起ると予言警告し、日本国中が速やかに改心して法華経に帰依すれば仏国土となる。と立正安国の理想を述べ謗法の禁断を主張される。そして主人の正法を領解した旅客が謗法の禁断を誓って件の文章が終結する。



大本山妙蓮寺

三界は皆仏国土也

これが『立正安国論』の大意ですが、同論で表わされている有名なご遺文があります

「汝早く進行の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。然れば即ち三界は皆仏国土也。仏国土其れ衰えん哉。十方は悉く宝土也。宝土何ぞ壊れん哉。国に衰微なく、土に破壊なくんば、身はこれ安全にして、心は禅定ならん。此の詞此の言、信ずべく崇むべしと。」

このご遺文は七五〇年近くの年月を閲みした現在でも迫力と力強さを感じさせられます。

そして「立正安国」の四文字は、文字通り正法を立てて日本国民乃至一閻浮提の万民を安穏にして、仏国土とする。との内容と目的を明確に表現されておられ日蓮聖人の宗教観と人生観を表わされていると思いました。

法華経の行者

日蓮聖人は、本化地涌の上行菩薩の再誕と自覚され、法華経を弘めるには、迫害、法難等様々な困難が起るとの予言の中、法華経勧持品の「二十行の偈」の言を体され、又「如来滅後の法華経信仰者は、身命を捨てて正法の護持・弘通をすべき」との釋尊の教示に随い「我不愛身命・但惜無上道」の心を持たれて布教されておられ、聖人は迫害・法難に遭われる中でも「日蓮が法華経の知解は天台伝教には千万が一分も及ばざれど、難を忍び慈悲の勝れたることはおそれをも懐きぬべし」とも申されており、値難忍受による法華経弘通をされました。

日蓮聖人の生涯のご活躍についての話は与えられたこの数紙の中では到底語り尽くせるものではありませんが、以上が『立正安国論』及び聖人の弘教についてのおおまかな説明であります。

結論づければ、日蓮大聖人のご一生は、法華経の行者としての自覚のもと、「立正安国」のご精神をもって貫かれておられると思うのであります。

現代的意義を再発見

近年この『立正安国論』について、現在社会に於ては用を無さず、の「封印説」を述べる人が、少なからず有るやに風聞いたしますが、あと数年で「立正安国論奏進七五〇年」を迎えますが、これを機会として今一度この『立正安国論』を見つめることが必要かと感じました。

最後に、不肖の僧侶としての信仰・布教に対しての姿勢は、今後も倦まず・撓まず、水の流れるが如くの心境、信仰態度でもって、法華経随善、「五十展転」聞法随喜の功徳を求めて信仰を重ね、布教して行く事肝要かと存じております。

合掌

従地ゆじゅつ

今年の夏はとても暑かった。猛暑、酷暑の夏であった。

お盆の帰省は交通機関がマヒする。特に高速道路は停滞の連続である。何キロメートルの停滞と予測されるが、便利な車社会である。

高速道路での事故は常に起こり得ることであるが、特にお盆帰省の事故は普段より多いと感じるのは私だけだろうか。

事故のニュースを見るとき、私は色々な角度からその事故をとらえてしまう。事故を起こした車、その数秒前を走っていた車、事故車の数秒後を走っていた車、この三つの場所にいる車の動きは命をも動かす命運がある。

生かされている私たちの人生に命が表わされている大切な言葉が三つある。「寿命」「運命」「宿命」である。

「寿命」は、いのち、生命。「運命」は、吉凶などが人の命を超越して、人に廻ってくる現象、すなわちめぐりあわせ。「宿命」は、変えることのできない運命と辞書に書いてある。

生れてから亡くなるまでの命は寿命であろう。自分の人生が動いたり選ばれたり、命運をかけるその命を運命というのであろう。そして、宿命は前世から決まっている運命であろう。

日蓮聖人は、「人の寿命は無常なり。先臨終の事を習ふて後に他事を習ふべし」とお説きになられている。

だからこそ一日一日命のあることの悦びを、感謝せねばならない。

（照）

《リレー提言④》

門連の歩みと次代への発信

『立正安国論』の現代に於ける意義



法華宗本門流宗務総長
門下連合会常任理事　原井慈鳳

門下連合会の結成五十年は『立正安国論』進覧七百五十年の聖年に当り、『立正安国論』の精神に立脚して門連が存在する事は間違いありません。標榜された宣言等を見ればキーワードは「立正安国」「破邪顕正」「祖廟中心」「恒久平和」と拝する事ができましょう。

門連の目ざしたもの

『立正安国論』が七百年を迎えた昭和三十四年八月十九日（旧七月十六日）「立正安国論献諫七百年記念中央大会」が東京神田に於て開催され、その時門下十教団が結集しました。その大会宣言に「異体よく同心して信行の躍進を誓い迷信邪見を排除して立正安国の洪願を堅持し、もって理想の平和国土たらしめ、ひいて世界絶対平和の実現を期して真に奮起せんとするものである」と表明されました。翌三十五年二月二十五日「日蓮聖人門下連合会」は発足いたしました。追って昭和四十一年五月十一日、門連大講演会が日比谷公会堂で開催され「破邪顕正、立正安国、恒久平和の実現へ邁進することを強く誓うものである」と満場が高唱したのです。

更に昭和五十三年二月四日、時の理事長、松村寿顕師は御真骨の奉遷ならびに祖廟護持に関する決議文で、

「御門下の各派が立宗の精神を体して歩み寄る時、ともに仰ぐべき中心の聖標は「祖廟」をおいて他にはないのである」と宣言されました。

『立正安国論』の真意とは

今日『立正安国論』は大きな注目を集めており而して門下の中に諸論がある事も事実です。「立正安国と『立正安国論』は区別すべきか」とか「宗祖の本意は摂受か折伏か」とか「封印説」まで『立正安国論』の真意を問うものであります。

しからば『立正安国論』を我々は如何に心得るべきかは重要な問題でありましょう。

鎌倉の混乱した世相と今日の世相を単純に比較して同様とする見方がありますが、その背景内容は著しく変化している部分があります。特に世の中のしくみ、自然環境破壊の進行は比較すべくもありません。ただ今は、政・官の横暴と企業道徳の低下、教育の荒廃と命の軽視、戦争を容認する如き恒久平和に対する感覚の後退等、人々に利己主義が横行し、目前の「損か得か」「好きか嫌いか」を価値基準とし、国民や子孫のために「有益か否か」の判断が失われているのです。

鎌倉の世にそれまで日本人が持ち得なかった「国民」という概念、「国民の幸福」という概念を宗祖はすでにお持ちであった事を私は強調したいと思います。当時の国の指導層や、各宗派が自身の繁栄の為に鎧を競い国民を顧みない有様を宗祖は見過ごせなかったのです。国王・国土を念頭に置くと同時に「万民」「人民」の表現により「国民」を強く意識しておられます。国民が生きる道を正法の中に見出し菩薩行を示されたと考えられましょう。

宗祖が当時の為政者並びに僧俗に向い訴えられた『立正安国論』は「国民の苦難を作る悪しきシステムを打破し、真実の道理を打立てよ」との御心と拝されるのです。「仏法と申すは道理なり」と正法を持つことこそ真の豊かさとと説かれました。

今日の社会で仏教は如何なる影響力を持っているのでしょうか。一般的には結婚式はチャペルで、法事は寺院で、お祓いは神社で、仏生日よりクリスマスの方が盛大な国民的行事になっている表面上の仏教国。宗教や文化を大切にしない風潮は人の生き方をあいまいにして来ました。そして大人も子供も人が何のために生きるのか解らないのです。

「仏法やうやく傾倒しければ世間また濁乱せり、仏法は体の如く世間は影の如し。体曲れば影なゝめなり」との宗祖の金言は、今日でも生きております。仏法がしっかりしないと世は乱れます。

「上下こもごも利をとって国危うし」とは孟子の言葉です。

教義と菩薩行の実践

最近「勝劣」とか「一致」とか言っている場合ではないとの論調が散見されます。諸宗の融和のためですが、一方、教義には大きな意味がないのでしょうか。信仰も日々の実践も教義に裏打ちされてはじめて生きてきます。教義がなければ宗教はありません。お題目なら新興宗教も新々宗教も同じと容認できましょうか。「破邪顕正」の門連の誓言を思わずにはおられません。今日の世法、仏法が混乱していることを思う時『立正安国論』の次の一節は心に響きます。

「法師は諂曲にして人倫を迷惑し王臣は不覚にして邪正を弁づることなし」

「一仏の子と生まれ諸経の王に事う。何ぞ仏法の衰微をみて心情の哀惜を起こさざらんや」

宗祖は鎌倉の世に法然上人や為政者だけを難じているのではありません。『立正安国論』を近視眼的に拝してはなりません。時の僧俗、国民に説いております。そして「傍観者たるべからず」と今日の国民にも説いておられると思います。世の中が唯悪い悪いと言っているだけでは何も変わりません。

宗祖の真意はどこに存するか。『開目抄』に摂受、折伏ありと説かれております。化儀（導く形、方法）の面は摂受です。誰に対しても優しく接するべきと思います。しかし化法（教法の中身）の折伏は末法に仏の種をまくことと存じます。正法を唱え説くことです。決して強引に教法を押しつけるやり方ではありません。異体同心は正法の上にあり、世の不合理にも流されることではありません。即ち宗祖の真意は「化法の折伏」にありましょう。

今日の世に私達が直面する難問に鎌倉時代の『立正安国論』をそのままあてはめる事は困難です。宗祖の御心、根本精神を誤らずに今日の『立正安国論』を打立て実践する事が必要となっております。鎌倉時代に対応する「日蓮聖人教学」から現代のかかえる難問にも対応できる「日蓮教学」を求めて行かねばならないと存じます。

宗祖の大難小難を超越した信心のお姿を手本として、恒久平和のために教義の実践面で門下が協力できる面を協力し切磋琢磨できれば意義深いことと存じます。

「汝早く信仰の寸心を改めて実乗の一善に帰せよ」を胸に罪障消滅の供養を行じ、道を失った今日の社会に法華経の心「菩薩道」という「道」を示し行じて参りたいものです。

合掌



平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます



（平成十九年九月現在）

日蓮宗宗務院

管　長　酒井　日慈　　財務部長　駒野　教源
宗務総長　小松　浄慎　　宗務総長室長　長　亮行
伝道局長　伊東　隆司　　現代宗教研究所長　田澤　元泰
総務局長　張田　珠潮　　参　与　堀江　宏正
伝道部長　梶山　寛潮　　参　与　浅井　玄裕
教務部長　渡辺　照敏　　日蓮宗新聞社社長　伊東　正光
総務部長　藤岡　暎邦

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管　長　有原　日龍
宗務総長　原井　慈鳳
教学部長　桃井　晋城
教化部長　杉村　眞宏
庶務部長　矢吹　慈英
財務部長　加藤　信淨

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管　長　中村　日玄
宗務総長　藤﨑　広学
宗務次長　島田　幸晴
財務部長　藤﨑　行学
布教部長　早川　義正
社会部長　阿曽　久成
教務部長　古瀬　久馨
庶務部長　津村　乗信

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管　長　椿澤　日壽
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　田邊　円祥
教化部長　佐古　大弦
財務部長　牧野　秀成
宗務参事　金原　孝宜

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講　有　小山　日誠
講　尊　梶本　日裔
講　尊　野﨑　日丞
宗務総長　佐藤　日鳳
宗務副総長　梅田　日芳
宗務副総長　嶋田　幾雄

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　原　智功
総務部長　長崎　秀要
財務部長　原田　智光
教務部長　原　光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管　長　田中　日生
宗務総長　竹内　正道
総務部長　上田　浩岳
教学部長　養輪　渓玉
教化部長　木村　完祥
財務部長　堀　智泰
社会部長　井上　隆啓
主　事　足立　真正
主　事　山口　英泰

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管　長　高邉　日援
宗務総長　信隆　日系
宗務部長　増田　隆雄
総務部長　吉村　頼彦
財務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
庶務部長　真鍋　弘喜
門連常任理事　山下　通雄

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三三五二七
FAX　〇七五（四五一）三三五九七

日本法華宗大僧伽

首　座　塙　行幸
長　老　石山　定光
長　老　吉田　行典
長　老　酒迎　天信
長　老　今井　行康
長　老　二宮　和嘉
長　老　池田　行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電　話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

京都日蓮聖人門下連合会

会　長　永田　日洵
副会長　田中　日生
理事長　藤井　照源
副理事長　本田　信正

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電　話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

宗教法人

国柱会

総　主　田中　壮谷
理事長　安中　又六
門連常任理事　本間　直暉
「門連だより」編集委員　森山　真治

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四
法主　内野日総
総務　井上瑞雄

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壯玄
執事　鈴木顯正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代
FAX　〇七五（四六三）四六五一
住職二十四世講有　小山日誠
執事長　中西清乘
事務局長　伊藤隆之

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三
貫首　本間日諄
参与　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）三三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇
貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六
貫主　田中日生
執事長　本多信正
執事　足立真正
執事　永岡悠希
書記　笹木研吾

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
大本山
清澄寺
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。
別当　岡崎日泰
執事長　佐々木光道

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六
貫首　新井日湛
執事長　藤井智光
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同　吉田文堯

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
貫首　石川日命

法華宗（本門流）大本山
鷲山寺
〒297-0051
千葉県茂原市鷲巣四八
電話　〇四七五（二二）二九七八
FAX　〇四七五（二二）三〇三八
貫首　大塚日正
執事長　高橋洋山
役職員一同

本門法華宗大本山
妙本寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七
貫首　高邉日援
執事長　石崎光教
役職員一同

京都八本山会
大本山　妙顯寺　貫首　南條孝仁
大本山　本圀寺　貫首　吉田宏遠
本山　頂妙寺　貫首　永田恵遠
本山　妙覚寺　貫首　頂岳龍乘
本山　本満寺　貫首　伊丹栄彰
本山　本法寺　貫首　大塚泰詮
本山　立本寺　貫首　上田尚正
本山　妙傳寺　貫首　野々垣泰典

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七
山主　嶋田日新

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三
貫首　井上日修

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七
貫首　加藤日暉
執事長　立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　安藤信行
同　伊東隆司
執事長　藤井照源
同　二之部知孝
執事　川合陽雄

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七
貫首　中村日玄
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義

日蓮宗本山
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　原智功
執事　長崎秀要
執事　原田智光
執事　原光明

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます

（平成十九年九月現在）

門連時報

身延理事会開催さる

平成十九年五月二十九日（火）日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表など計二十一名が参加した。

午前十一時に集合し、祖廟並びに御草庵にて法味言上。その後常唱殿前にて記念撮影。続き、大本堂にて法味言上し、報恩閣に移動。午後二時より理事会が開催された。

日蓮聖人門下連合会 小松浄慎理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。先に「平成十八年度事業報告」を事務局より報告、常任理事会・理事会・監査の開催、門連だより発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更等についての報告がなされた。

次に、「平成十八年度決算報告」について事務局より報告後、斉藤隆彦監査より監査会での報告がなされ一同承認。

次に、「平成十九年度事業計画案」について事務局より報告、前年度同様祖廟参詣、理事会開催、門連だよりの年二回三十六号・三十七号の発行について説明を行い、それに伴い「平成十九年度予算案」についても承認。

また、「日蓮聖人御降誕八百年記念事業」について、平成十九年度はより具体的な組織作り、活動に取り組むよう要請された。

次に、地方門連活動に関する報告。京都門下連合会 藤井照源理事長より、京都門下では開宗会を恒久的に横川定光院に於いて開催することを平成十八年度理事会にて決定、との報告と伴に、今年度の京都理事会の開催日程として十一月中旬頃予定との案が出された。大阪門下懇話会 和田龍昌師からは、大阪門下合同御会式等、懇話会の平成十八年度諸活動について報告がなされ、第二十回総会や第十五回日蓮聖人報恩合同御会式等の平成十九年度事業計画案も出された。

その他の事項では、日蓮宗より、「『立正安国論』奏進七五〇年記念事業」として、「日蓮聖人展（仮称）」を提案し、京都国立博物館において『立正安国論』の展示を目玉とした期間平成二十一年十月十日～十一月二十三日の案が出され、今後は門下連合会と京都門連が前向きに事業を進めていくこととなった。

午後三時三十分に閉会。

会場を日本平ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。



身延理事会（平成19年5月29日）

〈日蓮宗京都八本山会企画〉日蓮宗京都八本山巡り御朱印軸スタート

古来より宗祖御遺命の帝都開教は先駆をなした日像上人以来、数多くの先師先聖が上洛し、天文元年の頃には二十一ヶ本山を擁して「京中大方題目の巷」と称されるに至りました。その隆盛に至るまでの法難は数知れず、安土法難や天文法難など、宗門内外の激しい対立を克服しながら、今日、日蓮宗八本山は確固とした団結の下に、この京の地に法域を護持しています。

しかし、昭和十六年の本末解消以来、各本山は厳しい現実に直面しています。今回企画提案された「京都八本山巡り」運動は、戦後六十年を経た現代の宗門の本山を総括し、これからの本山のあり方、未来への展望を見極めていく大きな意味を含んでいます。

この運動を契機に、法華経の信仰、ひいては日蓮宗宗門の真の方向性を模索し、積極的な社会参加を実現する一方針を示唆できればと考えています。

時あたかも宗祖比叡山横川定光院の御霊跡が甦り、『立正安国論』奏進七五〇年を迎えようとする今、光をはなつ八本山巡りをスタートします。

尚、日蓮宗京都八本山巡り御朱印軸は、八本山、日蓮宗新聞社で取扱っています。

（藤井照源）



八本山巡りチラシ

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成一九・四・一七	中山日曉師 中村日玄師	顯本法華宗	顧問	就任	退任
平成一九・五・一	杉若恵隆師 藤井照源師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成一九・五・二一	相澤宏明氏	国柱会	理事		退任
平成一九・五・二九	齊藤隆彦師	法華宗真門流	監査		退任
平成一九・六・一	岡本日亘師 有原日龍師	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成一九・六・三〇 平成一九・七・一	桐生信行師 原智功師	日蓮本宗	常任理事	就任	退任
平成一九・七・一七	別所日山師	本門法華宗	監査		退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日本山妙法寺

◆三月九日～十四日、英国オルニー村～ロンドン平和巡礼。
◆四月二十七日、千葉清澄山道場にて立教開宗会並びに得度式。
◆五月三日、東京多摩仏舎利塔記念法要。八日～二十四日、広島～阿蘇平和巡礼。二十六日、阿蘇山仙酔峡仏舎利塔第四十周年記念法要。二十七日、恩師日達聖人第二十三回忌追孝法要。並びに阿蘇御廟所開眼法要。英国元大ロンドン市議会議長イルテッド・ハリントン先生の挨拶、
「藤井グルジーは）その出家の当初からこの聖者は二十世紀の悲惨さをすでに見ていたのです。しかし、それがいかに怖ろしいものであろうと、聖者はけっして逃げなかったのです。藤井グルジーの明晰さと普遍性は、今日どの時代にも増して価値を持っています」。
◆六月十六日～八月三日、東京～広島平和祈念行脚。
◆七月十五日～八月六日、米国北西部諸宗教合同平和行進（オレゴン州ユージーン～シアトル・グランドゼロ）。
◆八月二十四日、西天開教記念法要（熱海道場）。二十五日、身延山奥之院記念碑参拝。
◆十一月十四日、インド国首都デリー仏舎利塔落慶大法要。（十三日前夜祭）
藤井日達「もし、西天にこの法、還らずば高祖の予言、地に墜ちなん。もし西天にこの法還らずば我等が菩薩行立つべからず。もし西天にこの法還らずば娑婆の衆生は永く火刀血の牢舎を出づる期あるべらず」。（牧野行暉）

日蓮宗

◆「立正安国・お題目結縁運動」発願大会が九月十日～十一日、総本山身延山久遠寺で開かれた。初日には酒井日慈管長猊下を大導師に発願法要が営まれ、僧侶檀信徒一体で立正安国・お題目結縁運動を展開していくこと決意した。
◆「千鳥が淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が八月十五日、千鳥が淵戦没者墓苑で小松浄慎宗務総長を導師に営まれた。法要には東京四管区の僧侶が出仕し、僧侶檀信徒が参列し、戦地で散った戦士の魂の安らぎと、二度と戦争を起こしてはならない決意を新たにした。
◆日蓮聖人が『立正安国論』の構想を練られた本山實相寺の一切経蔵に入蔵なされてから今年で七百五十年を迎え、「日蓮大聖人ご入蔵七五〇年報恩宗門法要」が六月十四日、静岡県富士市の本山實相寺（豊田日穂貫首）で酒井日慈日蓮宗管長（大本山池上本門寺貫首）を大導師で営まれた。
◆「行動～ムーブメント～」をテーマに全国日蓮宗青年会（河崎俊宏会長）は五月二十一日～二十二日、「第四十五回全国日蓮宗青年僧大阪結集」を大阪市内のホテルで開き、全国から青年僧約二百三十人が集結した。
◆日蓮聖人のご尊父、妙日尊儀がご入滅なされてから七五〇回忌の節目を迎え、「聖父妙日尊儀第七五〇遠忌報恩法要」が五月十三日～十四日に、千葉県鴨川市の宗門史跡妙蓮寺と大本山小湊誕生寺で営まれ、日蓮聖人の両親への思いを体し孝養の誠を捧げた。
（大澤宏明）

法華宗本門流

◆宗門の僧侶養成機関「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）学林長、三浦成雄先生が三月三十一日付で任期満了により退任。後任に小西徹龍学監（神戸市・法華寺住職）が四月一日付で就任した。小西学監の学林長就任に伴う後任の学監には、株橋祐史教授（枚方市・大隆寺住職）が同日付であわせて就任した。四月九日には平成十九年度入学式が行われた。本年の新入生は二十名。
◆五月十三日、大本山本興寺貫首有原日龍猊下が第二十八代法華宗管長に就任、同日推戴式が同本山において奉修された。あわせて六月一日付で門下連合会顧問に就任された。
◆第六十次定期宗会が二十一～二十三日に宗務院で開催され、原井総長の施政方針に続き、予決算の承認可決、法規の一部改正等、十五議案を議定して無事閉会。
◆全国宗務所長会が二十九、三十日に宗務院で開催され、本年度の宗務執行等十九議題を協議して閉会。
◆六月十八日、菩薩行研究所開所式が宗務院で行われた。昨年の宗会で承認された法華宗宗祖・開基・先師聖人報恩奉讃会の事業の一環として、法華宗の教義の現代的意義を解明し、時代に適応する菩薩行の実践（信心・奉仕・布施）に寄与する目的で宗務院内に設置された。去る三月九日には研究所主催で地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人である高橋シズヱ氏による講演会が宗務院で行われた。現代の社会問題の一つとして犯罪被害者の現状について発表された。（法華宗布教機関誌『無上道』五月号に発表内容掲載）
◆本年度開催の教学講習会は、次の五会場。北海道―八月二十五日～二十七日（札幌市・札幌サンプラザホテルで開催済）、東北―九月二十七日～二十九日（盛岡市・ホテル大観）、東京―十月三日～五日（東京都・法華宗宗務院）、淡路―十月二十二日～二十四日（淡路市・津名ハイツ）、九州―八月二十七日～二十九日（鹿児島市・エスポワールタナカで開催済）
◆六月初旬、法華宗のホームページをリニューアル。
URLは http://www.hokkeshu.or.jp
（三浦賢秀）

顕本法華宗

◆二月十六日、品川の天妙国寺で「妙塔学林研究科」が開催された。教学研究所所員・窪田哲正師を講師に、常楽院日経上人著『本迹勝劣問答記録』の拝読と解説をした。
◆三月八日～九日の二日間、京都総本山妙満寺において第六十二定期宗会が開催された。平成十八年度事業・決算報告、平成十九年度事業・予算案等が審議された。また、中山日暁猊下の任期満了に伴い新たに千葉・円寿寺住職・中村日玄猊下が管長に推戴された。
◆四月十九日、京都総本山妙満寺で顕本法華宗管長・総本山妙満寺貫首第三百四世・中山日暁猊下、第三百五世・中村日玄猊下の法灯承継式が厳粛に奉修された。祝賀会はグランドプリンスホテル京都で盛大に行われた。
◆五月十二日～十三日の両日、京都総本山妙満寺で春季大法要を厳修。併せて阪神淡路大震災犠牲者の十三回忌法要を奉修、俳優大村崑氏の記念講演も行われた。
◆七月二十四日～二十七日の間、京都妙満寺で第四十四回顕本青少年錬成会開催。お経練習・礼儀作法・USJ見学・伏見散策と九十名の小中学生が小さな修行を体験した。
（小島芳明）

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が、貫首・椿澤日壽猊下御導師のもと厳修された。
◆三月八日～九日、第百八次定時宗会が開催された。
◆四月十二日、布教研究所所員会が開催された。十二日、伊豆・靈跡別院蓮着寺において、「俎岩法難会」が厳修され、本年も全国寺院よりの檀信徒が参拝した。五月十三日～六月二十一日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、全国より寺院徒弟が集まり、行学二道に精進した。二十五日～二十七日までの三日間、総本山本成寺において「祀堂法要」が、日壽猊下御導師のもと厳修され、全国寺院よりの団参でにぎわった。
◆五月十日、布教研究所所員会が開催された。十二日、伊豆・靈跡別院蓮着寺において、「俎岩法難会」が厳修され、本年も全国寺院よりの檀信徒が参拝した。五月十三日～六月二十一日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、全国より寺院徒弟が集まり、行学二道に精進した。二十五日～二十七日までの三日間、総本山本成寺において「祀堂法要」が、日壽猊下御導師のもと厳修され、全国寺院よりの団参でにぎわった。
◆七月六日、宗学研究所所報編集会議が開催された。二十七日、宗法審議委員会が開催された。
（以上、特に断りのない場合は、東京・巣鴨の宗務院会議室にて開催）
（松吉慶憲）

法華宗真門流

◆二月二十二日、総本山本隆寺に於いて各教区所長、布教師の合同会議が開催され、本年度各教区の活動計画の報告と、布教計画の作成が行われた。
◆三月九日、総本山本隆寺第百四世、田中日生（にちき）猊下晋山奉告法要が、門末僧侶、檀信徒多数出席のなか日生猊下大導師のもと、古式に則り厳粛に挙行された。二十五日の能登半島地震により、一心寺（七尾市）、慈照寺（羽咋市）等、門末寺院に被害があった。二十六日～二十八日の三日間、総本山本隆寺に於いて第二十四回僧風林が開催された。
◆四月七日～二十六日まで、春季学林が開講された。十一日～十三日の三日間、総本山本隆寺に於いて「春季大法会」が厳修された。
◆五月十五日～十六日の二日間、第三教区研修会が開催された。二十日～二十二日の三日間、第一教区檀信徒の集いが開催された。
◆六月四日～八日までの五日間、兵庫県丹波市妙寿寺に於いて、第十期布教師養成所（左神信学所長）が開所された。二十一日、真門教学講習会が開催され、午前中「寺門の護持と税務について」と題して川中清司氏が講演され、午後は「『立正安国論』に学ぶ」と題して林日圓閑居猊下が講義をされた。
（森田量哲）

本門法華宗

◆三月二十七日、第九十四回本門法華宗宗会（信隆日系宗務総長）が、大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、高邉日援管長のお詞に続き、信隆総長の宗政方針の後、予決算他第十二号議案まで審議され、承認可決された。
◆四月十二日、大本山妙蓮寺で春季大法要が奉修された。春季志霊法要以下諸法要が厳修された。
◆本門法華宗学院（藤井宏長学院長）では第百二十回教学講習会を三月二十八日～二十九日、第百二十一回教学講習会を六月二十二日～二十三日に、大本山妙蓮寺卯木講堂に於て、開講。
◆同学院教学部より、平成十九年三月二十五日付で、立正大学北川前肇先生講述の『四帖抄に聞く（四）』、法華宗教学研究所所長大平宏龍先生講述の『日蓮教学の大綱―名目を考える（一）』が発行された。
◆本門法華宗学院布教部では、布教師『生きる』第四十八水華号、信報『信行』第百六十七号を各々七月一日付で発行。
（木村光正）

国柱会

◆平成十八年十一月十九日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。同日、第五回日蓮主義講習会開催。テーマは「摂受と折伏」。
◆十二月九日、申孝園ロータスヴィラ入居者合同慰霊祭厳修。十七日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。二十三日、天長節慶讃法要厳修。二十五日、大正天皇祭厳修。三十一日、送旧迎新式厳修。
◆平成十九年元旦、明治神宮参拝・元旦大国祷・新年拝賀式厳修。同日午後、新酒拝戴式挙行。七日、昭和天皇祭厳修、同日、武蔵野御陵参拝。二十一日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。
◆二月四日、理事会開催。十一日、紀元節慶讃法要厳修。十五日、釈尊涅槃会報恩法要厳修。十六日、聖祖降誕会慶讃法要厳修。十七日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。十八日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。同日、第六回日蓮主義講習会開催。テーマは「仏教教理の基礎知識」。
◆三月四日、中央連合協議会主催の「申孝園のつどい」を本部にて開催。主なテーマは、「ご本尊」。十八日、第七回日蓮主義講習会開催。テーマは、「仏の一大事因縁」。二十七日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会厳修。
（森山真治）

京門連

◆一月二十四日午後四時より、門連理事会・懇親会（本能寺文化会館）平成十八年度会務報告・決算・監査報告・平成十九年度会務予定。二月十六日、午後一時より頂妙寺客殿において総会。新年度役員紹介、各種議案審議・承認。午後二時三十分から、頂妙寺本堂にて導師永田日洵貫首猊下導師のもと宗祖降誕会。
◆三月十四日、理事会。開宗会・夏季大學について（日蓮宗京一宗務所において）。
◆四月二十八日、開宗会（比叡山横川定光院）。
◆六月二十五日、理事会。夏季大學の件、お会式の件。（日蓮宗京一宗務所において）
◆八月二十六日午前十時より夏季「第四十四回大学」（本能寺文化会館）。日蓮宗大本山妙顕寺貫首南篠日慈猊下「法華信仰の極意」、立正大学名誉教授中尾堯先生「立正安国論を読む」、平安女学院大学学長山岡景一郎先生「小乗（上座部）仏教の国スリランカに学ぶ」。同日午後五時より理事会（本能寺客殿）、御会式の件。
◆十月五日、御会式奉行委員会（日蓮宗本山妙傳寺）御会式の準備（万灯の搬入、組立て）。
◆十月六日御会式（日蓮宗本山妙傳寺）導師妙傳寺貫首野々垣日祐猊下、講師法華宗真門流総本山本隆寺貫主田中日生猊下。
◆十一月九日理事会。全門連京都理事会・懇談会の件（日蓮宗京一宗務所において）。
◆十一月二十九日予定、全門連京都理事会・懇親会。（頂妙寺）
◆十二月十九日午後四時より会計監査（本能寺文化会館にて）。同日午後五時より理事会。平成十九年度会務行事報告案・決算案作成。
（藤井照源）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。
●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他
●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成20年2月16日
第37号

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第6回　日本山妙法寺

末法万年の御諫暁

日本山妙法寺　**牧野行暉**

立正安国とは、建立正法、安穏国家を標榜したものであります。その仏国土成就の為には「一天四海がことごとく、妙法に帰せずばならず」と宣言されたわけです。国家と言っても狭義の国家ではなく、広くは一閻浮提に及ぶ国家を意味して居りましょう。

妙法に帰するとは、本門の教主釈尊が久遠の昔に開覚された真理の世界に帰依を捧ぐるということです。

立正安国論奏進以来七五〇年（平成二十一年）に近き今、世界の状況は如何でありましょうか？世界各地において戦争は止まず、飢饉、疫癘、環境汚染は地球規模で拡大して居ります。日蓮大聖人様が提唱された立正安国の国家は、更に更に希求され、要望されねばならぬ時であります。

法とは

論に曰く「国は法に依て昌え、法は人に因て貴し」国即地球と考えるならば、この地球上に共生する一切衆生が栄えて行く源は「法」に由ると宣明されています。その法とは如何なるものでしょう。いわゆる罪を裁く法律でもなく、物質的繁栄をめざす経済でもなく、各国家の憲法でもありません。その法とは釈迦牟尼世尊が久遠の昔に悟られた「難信難解」の法であり、舎利佛尊者、天台智者大師といった智者すらも、己が智分を以ては達することの出来ぬ法だと説かれています。けれどもその法は、一切衆生の己心中ばかりか、森羅万象の中にも通貫して用いている『妙法』だと説かれています。



その『妙法』に開覚するには

而れば如何なる方策に由って、われら五欲熾盛の荒凡夫が、その境界に到達することができるのでしょうか？　ただひたすらに信を以て、「意」に釈尊の御心を頂戴せんと「渇仰恋慕」し、「口」に南無妙法蓮華経とお唱え申し、「身」に一切の対境（法界）に対して礼拝を行ずる事です。

身口意の三業に受持する日々刻々は、やがてその暁に「我等此の五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与へ給ふ」と仏果を成就し、日々あさましき凡夫身のままに、「自から得たり」という即身成仏の大歓喜心が到来することでありましょう。



白法隠没、闘諍堅固の時代

釈迦牟尼世尊が滅度し給いて二千年も経過いたしますと、仏法の利生は漸くに失すれ、人心は荒廃し、無仏不信邪見熾盛の時代（末法）が到来します。

現代世界の人々は増々正法（本心）を見失って悪知識にたぼらかされています。

世界の大国は武力を以って世界を制圧することが正義かの如く錯覚しています。最も尊き真理（本尊）は科学主義の発達を以ってとらえることのできぬ世界です。にもかかわらず科学主義文明の向う所に、理想郷が在るかの如く錯覚しています。衆生一念の蒙昧は国土世間をも衆生世間をも汚濁に染めています。地球を数十回も亡ぼしても余りある核兵器の存在も、核廃棄物の処理も見つからぬままに運転し続ける原子力発電所の存在も、人類、十数億年の歴史が近々この百年の間に、その存亡が問われるまでになったのも、所詮衆生己心中の一念の転倒からです。



一言要法南無妙法蓮華経

この五濁爛漫の時代と人を救済せんが為に、仏陀世尊は久遠の昔より、弟子を教化して来ました。そしてその弟子たちに托されたのは一代の教説でもなく、一部八巻でもなく、南無妙法蓮華経の五字七字でありました。仏陀世尊の鳳勅に召されたのは大地から湧出した六万恒河沙とも説かれる大菩薩方でありました。

この菩薩方は仏心を失った衆生の心田に先ず、仏種を植えることを使命とした菩薩方です。釈尊御在世の妙法蓮華経は成仏の為の利益でありましたが、末法という今日に於ては種まきの利益です。

天鼓自然鳴と宝塔湧現

この宇宙には、仏陀の教説が天鼓となって自然に鳴り響き、天上界では諸天善神が法の鼓を撃って妙法を讃嘆していると説かれています。また太鼓の一音は「苦悩の衆生を度す」とも説かれています。日本山妙法寺の「撃鼓宣令」「但行礼拝」「立正安国」の御修行はこの経文の実践実修です。日本山妙法寺山主、藤井日達上人は「吾に行脚の修行ありて近くは西天開教の大誓願、遠くは一閻浮提皆帰妙法の大誓願海をみたすことを得せしむべし」（昭和八年二月二十六日「仏舎利縁起」）と仰せられています。

手に鼓を撃ち、口に南無妙法蓮華経の要法を唱え、身に礼拝を行じ、十方世界を周旋往返した行脚の功徳が、仏舎利塔建立ともなりまガンディー翁との会見ともなりました。やがてガンディー翁は自ら鼓を打ち、南無妙法蓮華経の祈りをアシュラム（道場）の朝夕の祈りの中に取り入れました。それを以て恩師上人は、西天開教すなわちインドの立正安国が成満したとお考えになりました。「見宝塔」の経文は経典上の単なる理の法門ではなく、事の法門としてこの地上界に湧現するのです。昨年十一月にインド国の首都デリーに大宝塔様が湧現いたしましたのも、法華経を如説修行した功徳として古仏、多宝如来が証明されたものと信じます。



南無妙法蓮華経は万年の外未来までも流るべし

日蓮大聖人様は娑婆一期の御化導を終えられて最後、御歳六十一歳の時に多摩川のほとり池上邸にて示寂されました。この人界最後の御寿命の際に、御身を柱に持たせ掛けられながら立正安国論を御講讃あそばされたと言うことです。如何にこの一事の中に本化上行菩薩としての大使命を果さんが為の大慈と、末法万年の苦患を救わんが為の大悲が隠されて居りましょう。

写真説明（中央・左下）デリー仏舎利塔落慶法要（平成19年11月14日）、（右上・左上）　ラジブラ～ニューデリー平和行進。

従地ゆじゅつ

昨年十二月、法務省は、三人の死刑囚の刑執行を発表した。今回の死刑執行では、死刑が適正に執行されていることについて国民の理解を得るためという理由で、三人の氏名等を初めて公表し、その事が新聞・テレビで大きく報道された。国内では、死刑廃止よりも死刑存続をのぞむ声のほうが大きいようだが、この話題が出るたびに必ず思い出すのが日蓮聖人の、「浅き罪ならば、我よりゆるして功徳を得さすべし。重きあやまちならば、信心をはげまして消滅さすべし。」という御遺文と、国柱会創始者田中智学居士の、「死刑を廃止せよ、ということは、法律上の議論でなくて、法律以上の人生道義観から来るもので、世に殺人が公認されない如く、国家も人を殺してはならぬ、ということを原則とする。せっかく世に生まれ出たものを、国家としてこれを殺すということは、天然理法に対する一種の反逆であって…死刑には悔悟の余地が残されない。極刑は殺さずともいくらでも課し得る。しかして悔悟の余地が与えられる。罪を憎んで人を憎まずと、けだし国家司直の精神である。」という言葉である。この意見自体には反論も出るだろう。しかし刑罰の問題に関わらず、現代の諸問題について考え、積極的に発言していくことは、これからの日蓮聖人門下には必要ではないだろうか。

（真）

《リレー提言⑤》

門連の歩みと次代への発信
日蓮聖人門下連合会の歩みと展望



日蓮聖人門下連合会理事
法華宗真門流　上田浩岳

発足当時の情熱

日蓮聖人門下連合会は発足当時の関係各位のご尽力によって発足したものですが、詳細については記録も知識もありませんので、間違い、失礼がありましたらお許しを頂きたいと存じます。私の場合は昭和四十年代当初から時折参加しながら四十年が経過したことになります。先輩各上人方が議論されていたいくつかの事を振り返ってみたいと思います。先ず最初に耳に入り記憶に残っていることは身延山の開放といった言葉で表現されていたことがらです。日蓮宗の方々は法主猊下に就任する法類の限定を無くそうという解釈だったように思えますし、法華宗関係の方々が懐いていた開放の意味するところは御廟所の開放だったと記憶しています。

御真骨を御廟所に移すことが妥当かどうかとか、山津波、盗難等、万に一つの危険はないか等々の議論をかなり真剣になさっていました。行き帰りの車中でも情熱的に話をされておられた貫首様もいらっしゃいました。しかし結論らしいものを見る事も無く当事者が退任されたり交代があったりして従来のままの護持がなされているようです。今となっては懐かしい思い出です。

次に身延理事会の次第の中に法主猊下とのご挨拶というか、ご対面というか大奥というところに伺っておもむろに襖が開けられてご対面といった感じのご挨拶が有ったように記憶しています。大奥で昼食を頂戴した記憶もあります。これもいつの間にかしなくなっていました。

全国での活動

その次には全国各地に門下連合会の活動単位を設置したいということでした。お手本というか雛型として京都日蓮聖人門下連合会が話題の中心を占めるようになりました。京都には昭和二十七年四月八日釈尊降誕会を奉行するに際し、法脈のこだわりを離れて大同団結し大成功に導いたことを端緒として、その気風は大切に温存されました。そしてそれは昭和三十二年京都聖祖門下連合会・昭和四十年以降京都日蓮聖人門下連合会として確固とした基盤を築き役職員、会員、檀信徒の入れ代わり交替はありましたが、今日までその活動は続けられています。

主な活動として御降誕会・比叡山での立教開宗会・夏期大学・御会式の四つの行事を奉行しています。どの行事にも寺院方、檀信徒こぞって多数の参加を得て京都法華門徒の力量を誇示しています。関係各位のご尽力に敬意を表します。これを見習って各地に支部をという要請をされたようです。結果としては大阪に法華門流懇話会が発足し、北海道に準備会のような協議会が持たれたようです。当時京都理事会の方々は先ず東京に京都のような連合体を作って独自の活動を始めるべきではないかという事を力説されていました。これも実現されずに今日に至っているようです。大阪の方々は日蓮聖人門下連合会と名付けると支部扱いにされてしまうからという理由で懇話会という少しばかりずらした位置を保持されていると承知しております。北海道についてはごく最近になって結成は無理だから準備会自体を解散する旨報告がなされたように伺います。

思いますのに京都の場合は法華宗側と日蓮宗側とが隔年毎に当番制を敷いて運営されています。しかも法華宗側には各宗・各派の総本山・大本山が含まれていますのでその単位で物事を処理するという他府県では真似の出来ない有利な面を持っています。このように京都ならではの背景を考慮に入れて他の地区の連合結成が如何に困難であったかを理解した方が分りやすいと思います。京都以外で連合体を結成するのは極めて困難な作業だったのだなと結成には至りませんでしたが各ブロックにおいて尽力された方々のご苦労をしのびます。これらの事例はその時々に於いて各宗、各派、各教団の代表の方々が真剣に思いを出し合って議論された事柄ばかりです。各グループごとにそれぞれ微妙なニュアンスのこだわりを含んでいて運営には綱渡りのような危うさをも感じたことがあります。このような経過を経て今日の日蓮聖人門下連合会が運営され、その過程に於いて日蓮聖人展、青年の船等の成功をみてきました。また新たな企画として法華経・立正安国論を含めた町衆文化の展覧が考えられていると聞き及んでいます。先輩諸上人方の思いを大切にして実りある結果が得られるように心を一にした相応の協力が必要と感じます。

いま何が必要なのか

立正安国論奏進七五〇年を目前にして安国論一辺倒でといった過激とも思えるご意見もあります。正法を建立して日本国民及び世界中の人々を安穏にすること。住んでいる人々の心が邪まであれば国を守る諸天善神がこの国を見捨てて禍が起こると諭されました。日蓮聖人の教をストレートに解釈するならば釈尊の魂は法華経に込められている。この法華経を信じることによって人々は幸せになれるしならなくてはならない。信じる人々の住む国土が平穏でなくてはならない。

日蓮聖人の心にいつも懐かれていたのは、釈尊（法華経）と人々と国土といえましょう。とき恰も地球の温暖化、環境破壊が緊急の課題になっています。南極の氷河の崩壊が象徴的に放映されたりしています。研究者、関係者は以前から警告を発していたのでしょうが国民は余り気に留めていませんでした。これは仏教を取り巻く環境が思いのほか劣化しているのに気付かなかったのと似通っているように思えます。法華経を信じる人々が安心して住める地球を守る為に立正安国論の出番かとさえ思えます。サッカーの日本チーム岡田武史監督は地球環境保全のため自分専用の割り箸を持参されているとか。振り返ってあなたは環境に優しい事を何かしていますか。人様に申し上げられるようなことは何一つありませんが、なるべく車に乗らずに公共交通機関を利用しているぐらい。日蓮聖人が愛された国土の安穏を願うため門下連合会として今日からでも明日からでも誰にでも出来る分りやすい提言を発信できたらと期待します。宗教法人の公益性が疑問視され今一歩のところで踏みとどまっているような状態です。寺院に直接公益活動をしなさいといっているわけではありませんが、税制の面で優遇すべき存在とは思えないというのが周辺の眼差しです。宗教は宗教本来の主体性、活動分野を持っていますが、檀家でも信者でもない人々から見た場合の存在価値・必要性も求められてもいるようです。美しい地球を子や孫にというスローガンも目にとまります。京都議定書に続く数値を含む次のステップが求められています。七五〇年の節目は立正安国論に示された日蓮聖人のお気持と生態系を充分に理解した上での緑豊かな地球保全へのステップとすべき好機到来かとも思うのです。寺院、仏教を取り巻く環境の劣化も気になります。無意識の内に先輩上人たちが蓄えて下さっていたエネルギーを使い果たさんとしているような気がしてなりません。各宗・各派・各教団にはそれぞれ教理、教義を堅持しておられます。そこのところは十分に考慮して仏教興隆、仏法広まれと願うものです。

人が行き、人が集う、それが旅。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋
旅は人と自然が触れ合う地球の扉
そんな旅を創造し、提案する［旅行インテリジェンス企業］
それがトップツアー株式会社のステージに立ちました。

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして
新たな第二幕のステージに立ちました。
みなさまから愛される企業をめざして・・・・・・・



TOPTOUR

東急観光株式会社は2006年創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

東急観光が社名を変えました。
トップツアー株式会社
TOPTOUR
国土交通大臣登録旅行業第38号　日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号　http://www.toptour.co.jp　http://toptour.jp

平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます



（平成二十年二月現在）

日蓮宗宗務院

管　長　酒井　日慈　　財務部長　駒野　教源
宗務総長　小松　浄慎　　宗務総長室長　長　亮行
伝道局長　伊東　隆司　　現代宗教研究所長　田澤　元泰
総務局長　張田　珠潮　　参与　堀江　宏正
伝道部長　梶山　寛潮　　参与　浅井　玄裕
教務部長　渡辺　照敏　　日蓮宗新聞社社長　伊東　正光
総務部長　藤岡　暎邦

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管　長　有原　日龍
宗務総長　原井　慈鳳
教学部長　桃井　晋城
教化部長　杉村　眞宏
庶務部長　矢吹　慈英
財務部長　加藤　信淨

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管　長　中村　日玄
宗務総長　藤崎　広学
宗務次長　島田　幸晴
財務部長　藤崎　行学
布教部長　早川　義正
社会部長　阿曽　久成
教務部長　古瀬　久馨
庶務部長　津村　乗信

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管　長　椿澤　日壽
宗務総長　土屋　善敬
総務部長　佐古　弘文
教学部長　田邊　円祥
教化部長　佐古　大弦
財務部長　牧野　秀成
宗務参事　金原　孝宜

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講　有　小山　日誠
講　尊　梶本　日裔
講　尊　野﨑　日丞
宗務総長　佐藤　日鳳
宗務副総長　梅田　日芳
宗務副総長　嶋田　幾雄

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　原　智功
総務部長　長﨑　秀要
財務部長　原田　智光
教務部長　原　光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管　長　田中　日生
宗務総長　竹内　正道
総務部長　上田　浩岳
教学部長　井上　隆啓
教化部長　木村　完祥
財務部長　堀　智泰
社会部長　足立　修学
主事〃　山口　英泰
〃　笹木　研吾

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管　長　高邉　日援
宗務総長　信隆　日系
宗務部長　増田　隆雄
総務部長　吉村　頼彦
財務部長　土畑　信教
教務部長　音羽　隆全
庶務部長　真鍋　弘通
門連常任理事　山下　雄喜

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

日蓮本宗宗務院

管　長　嘉儀　日有
宗務総長　原　智功
総務部長　長﨑　秀要
財務部長　原田　智光
教務部長　原　光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

宗教法人　国柱会

賛　主　田中　壮谷
理事長　安中　又六
門連常任理事　本間　直暉
門連理事　仲南　良夫
門連理事　石見　哲三
「門連だより」編集委員　森山　真治

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会　長　高邉　日援
副会長　永田　日洵
理事長　石崎　光教
副理事長　藤井　照源

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首　座　吉田　行典
長老　酒迎　天信
長老　今井　行康
長老　池田　行朗
長老　二宮　和嘉
長老　木津　博充
長老　川岸　行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812　東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四
法主　内野日総
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇
貫首　酒井日慈
執事長　早水日秀
役職員一同

法華宗（本門流）大本山
本能寺
〒604-8091
京都府京都市中京区寺町通御池下る
電話　〇七五（二三二）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八
貫首　岡本日亘
執事長　桃井晋城
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七
貫首　中村日玄
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壮玄
執事　鈴木顕正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六
貫主　田中日生
執事長　本多信正
執事　足立真正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代
FAX　〇七五（四六三）四六五一
住職　二十四世講有　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七
貫首　高邉日援
執事長　石崎光教
役職員一同

京都八本山会
大本山　妙顯寺　貫首　南條日慈
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　頂妙寺　貫首　永田日洵
本山　妙覚寺　貫首　頂岳日選
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
大本山
清澄寺
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七
貫首　加藤日暉
執事長　立野正泰
執事　高作泰寛
山務役職員一同

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六
貫首　新井日湛
執事長　藤井智光
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同　吉田文堯
同　布施慈範

日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明

日蓮宗大本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　安藤信行
同　伊東隆司
執事長　藤井照源
同　二之部知孝
同　川合陽雄

日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七
山主　嶋田日新

日蓮宗総本山
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
誕生寺
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五
貫首　石川日命
執事長　村田教清

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三
貫首　井上日修

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十年二月現在）

門連時報

全門連京都理事会・懇親会、日蓮宗本山頂妙寺で開催



京都理事会（平成19年11月25日、日蓮宗本山頂妙寺）

平成十九年十一月二十九日（木）日蓮宗本山頂妙寺（永田日洵貫首）に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四十名が参加した。

正午に集合し、昼食後、午後一時より永田日洵猊下御導師のもと法味を言上。本堂前にて記念撮影の後、午後二時より客殿にて立正大学名誉教授中尾堯先生による「頂妙寺の沿革」について大変貴重なお話を拝聴した。

引き続き、午後三時より「京都理事会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、小松浄慎全門連理事長が座長となり、議題に沿って議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告、その他では事務局より「御降誕八百年慶讃事業」に向けた平成二十一年の「立正安国論七百五十年」記念事業「日蓮展（仮称）」の報告がされた。

又「日蓮展（仮称）」では当展覧会に際する門下連合会の意思疎通をはかる為に京都事務局設立の報告がなされ、日程、名称等種々意見をいただき、今後は更に慎重に京門連と連絡を密に執りながら進めていくこととなった。

会議終了後、懇親会の席を南禅寺「菊水」へと移し、京料理を満喫した。

今回種々お世話頂きました京門連の各聖、頂妙寺の皆様には厚く御礼を申し上げると共に、今後とも門下連合会発展の為にも御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

平成二十年度の京都門連青年会

今年度、幹事長を勤めさせて頂きます日蓮宗の杉若恵亮でございます。当会門青の今年度活動方針と致しましては、二〇〇四年度から各本山のご理解ご協力頂きながら開設して参りました月一回お寺を開放しての寺子屋土曜学校を実施する予定であります。本来の目的を顧みれば、二〇〇二年四月から完全学校週五日制が新教育法で実施されて以来、保護者会や行政機関、民間機関、地域団体等土曜日を子供達の為にいかに有意義に活かすかという試行錯誤の中、継続性と場所提供の固定化がどこも最大の難関となり一過性の企画で対応せざるを得なくなり、もしくは各家庭や個人の自発性に任すという傾向に対し、一つの提案として各寺院開放推進を提唱したのであります。今年度で第五回となりますこの企画もさらに内容の充実を図り、各寺院で気軽に実施出来る「寺子屋土曜学校」モデルデータを記録して参りたく存じます。門連各聖のご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

拝

《平成二十年度京門青新役員》

幹事長	杉若恵亮（日蓮宗側）	
副幹事長	藤田尚哉（日蓮宗側）	
庶務	大川孝瑛（法華宗側）	
	谷口真也（日蓮宗側）	
	三品亮徹（法華宗側）	
会計	谷口真生（日蓮宗側）	
幹事	高橋宏顕（法華宗側）	
	嘉儀吉裕（法華宗側）	
	鈴木英文（日蓮宗側）	
	三木天道（日蓮宗側）	

▼御遷化・人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
御遷化					
平成一九・一一・七	石山善邦師	日本山妙法寺	常任理事		
人事					
平成一九・一〇・一七	藤崎行学師 阿曽久成師	顕本法華宗	理事	就任	退任
平成一九・一二・五	岡本誠教師 加藤乗安師	本門佛立宗	常任理事	就任	退任
平成一九・一二・五	佐藤誠泉師 川手誠廣師	本門佛立宗	理事	就任	退任
平成一九・一二・一七	仲南良夫氏 石見哲三氏	国柱会	理事	就任 就任	
平成二〇・一・一	永田日洵師 高邊日援師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二〇・一・一	藤井照源師 石崎光教師	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二〇・一・一	本田信正師 藤井照源師	京都門下連合会	理事	就任	退任

訂正（第三十六号第五面「人事」）
【誤】平成一九・七・一七　別所日山師　本門法華宗　監査　退任
【正】平成一九・七・一七　別所日山師　本門法華宗　監査　就任
※ご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日蓮宗

◆総本山身延山久遠寺で百二十九年ぶりによみがえる五重塔の上棟式が三月十四日に行われる。当日、工事の安全と無事に完成成就することを祈願する予定。

◆日蓮宗は三月四日から七日までの四日間、日蓮宗宗務院で第九六定期宗会を行う。平成二十年度の予算案や提出議案などが審議される予定。

◆「立正安国・お題目結縁運動」実動二年目を迎えた日蓮宗。その一環として「立正安国・お題目結縁運動」を意義深く推し進めるため、日蓮聖人の布教の原点である「辻説法」を埼玉県川越市で行った。

昨年十一月、伊東隆司伝道局長と日蓮宗教師三師が、「小江戸・川越」と称され、年間五百万人が訪れる観光の名所に立ち、行き交う人々を前に街頭布教を行った。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆大本山光長寺貫首大橋日紹猊下が任期途中で辞任。選挙の結果、石田日信上人（静岡県信教寺住職）が当選し、平成二十年二月十六日付で第七十八世貫首に就任、三月十二日に晋山式が大本山光長寺において奉修される。

◆二月十四日、第二十一回法華宗教学研究発表大会が宗務院で開催された。本年は宗門教師諸師による研究発表のほか、平成二十一年「立正安国論」進覧七五〇年を記念する年を迎えるにあたり、本年と明年の二年連続企画の第一弾特別講演として、宗外からは同論を深く研究されている常円寺日蓮仏教研究所主任の都守基一先生、宗内から興隆学林専門学校助教授の株橋隆真先生並びに宗務総長原井慈鳳台下がそれぞれ講演された。

◆古来、門祖日隆聖人こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授し、かつ宗門の僧侶養成機関である「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成二十年度新入生募集中。

◆三月五日、興隆学林専門学校の平成十九年度卒業式が行われる。卒業生は今まで勉強したことを糧にして、新たな布教の第一線にたつ。（三浦賢秀）

顕本法華宗

◆平成十九年八月二十五日～九月八日の十五日間、京都総本山妙満寺において「妙塔学林」開講。受講生は行学二道の修練に励んだ。

◆十月二十二日、千葉東金妙善寺で「東部僧員研修会」開催。十一月九日、京都総本山妙満寺で「西部僧員研修会」が開催された。

◆十一月十四日、千葉九十九里妙覚寺で「東部布教師研修会」開催。十一月十六日、総本山妙満寺を会場に「西部布教師研修会」が行われた。

◆十一月十七日～十八日の両日、品川天妙国寺で法華宗三派統合協議会「統合学院（後期）」開催。

◆十一月十九日～二十日、千葉大網本国寺を会場に「什門懇話会」が開催された。また、近隣の蓮照寺へも参詣。その後、会場を鴨川温泉「鴨川館」に移して懇親会が行われた。

◆十一月二十五日、ブラジル・サンパウロの顕本寺（主管・鍋田浄月師）において、開堂十五周年記念法要が行われた。日本からは、前主管の山本学人師を団長に九名の僧員が参列、盛大に音楽法要を勤めた。本山からも島田幸晴本山総務が参加、貫首猊下の祝辞をお伝えした。

◆十二月三日、品川天妙国寺で妙塔学林林長・大川定信師を講師に「妙塔学林研究科」開講。（小島芳明）

法華宗陣門流

◆平成十九年九月六日～七日、毎年宗内各教区持ち回りで開催される中央行学講習会が本年は東北教区教区・山形天童を会場に会期二日で開催され、全国より百名を超える教師が集った。

一日目、第一講義には立正大学より伊藤瑞叡教授をお招きし、「立正安国論について」の講題でお話を頂いた。第二講義は山形仏教文化研究者の北畠教爾先生を講師にお招きし、「慈恩寺の仏教文化について」講題でお話を頂いた。

例年講義二日目は開催教区の寺院を参詣・研修するのが通例だが、おりしも台風が本州直撃で、会場が台風の進路上の為、中止とした。

◆十月二十二日、宗務院に於いて、声明調査の為、比叡山延暦寺より講師として誉田玄光上人をお招きし、各宗派の声明についてお話を頂いた。

◆十一月十四日、宗務院に於いて、布教研所報編集会議が開催された。

◆十一月十七日～十八日、法華宗陣門流・顕本法華宗・法華宗真門流の三派合同で行われる「統合協議会統合学院・後期学生講座」が行われた。

本年は、顕本法華宗・天妙國寺を会場に多くの学生が参加した。（今井満良）

法華宗真門流

◆平成十九年七月二十五日、臨時宗会が召集され、宗務総長に現職の竹内正道総長が再任された。これに伴い、新内局が発足。

◆八月二十四日～三十日の間、立正寺（北海道旭川市）に於いて支学林が開講され、二十八日には併せて第四教区の教師講習会が開催された。

◆九月二日、姫路商工会議所に於いて、第三教区佛教大講演会が開催され、参加者約三百五十名の盛大な講演会となった。

九月二十八日～二十九日、第二教区合掌の旅と檀信徒研修会が開催された。

◆十月五日～十四日の間、総本山本隆寺に於いて秋季学林（辻本寛孝学林長）が開講され、宗門の若き僧侶たちが行学二道に精進した。

十月十二日～十三日の二日間、総本山本隆寺に於いて「お会式」が奉修され、多くの参詣者が集まった。十二日夜に、「高祖日蓮大菩薩御正当命日法会」が勤修された。引き続き、厳粛な雰囲気の中、新説式（初転法輪）が挙行され、所定の過程を終えた学林本科生六名が、高座に上った。

◆十二月五日～六日の二日間「平成十九年度定期宗会」が開催され、平成二十年度歳入歳出予算案、権大僧正の推薦など、諸案件について審議された。

◆一月一日～八日の間、総本山本隆寺に於いて年頭国祷会が修され、法華八講が催された。（森田量哲）

本門佛立宗

◆平成十九年七月十五日、本山宥清寺（京都市）で開導日扇聖人御正当会が四座に亘って厳修され、全国の信徒の参詣で賑わった。

今回は第四座に若い世代の信行相続を促進する一環として「青少年の一座」が企画され、当日は全国から一千二百余名の若人が集って「人間。生かす、生かされる命」をテーマに自己の信心を見詰め直す貴重な時間を持った。

◆九月二十八日、乗泉寺（東京都）で佛立研究所主催の公開講演会を開催。「こころのことば」と題した外山滋比古御茶ノ水女子大学名誉教授の講話が行われた。

◆十月九日、宗務本庁宗会議場において「インターナショナル・ミーティング」が開催され、ブラジルやスリランカ等、海外各地で活動する信徒の代表が意見交換を行った。

◆平成二十年は本門佛立宗の信徒がブラジルに移民し、弘通活動を始めて百年の節目となる。現在はブラジル教区に十一ヶ寺三千六百余戸の信徒を擁するが、今日までの先師先輩方の苦労を偲び、また今後の飛躍を期して、三月三十日には講有・小山日誠猊下を導師に戴き、リンス大宣寺で「ブラジル開教百周年記念法要」が厳修される。（吉田淳崇）

本門法華宗

◆平成十九年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（高邉日援貫主）に於て高祖日蓮大菩薩御会式法要が厳修された。十二日逮夜法要には、万灯点灯。十三日祥当法要並びに檀信徒志霊法要厳修された。境内にてづくり市、フリーマーケットが開催された。

◆十一月十日、御開山会並びに歴代年忌法要に引き続き別當初代日應僧正五〇〇遠忌大法要が厳修された。高邉日援管長を総裁に、奉行委員会が設立され、宗務内局・山内内局他役配が決定され、準備計画・大法要が厳修された。

◆本門法華宗学院（藤井宏長学院長）では第百二十二回教学講習会を九月六日～七日、第百二十三回教学講習会を十一月二十九日～三十日に、大本山妙蓮寺卯木講堂に於て、開講。

◆本門法華宗学院布教部より、布教誌『生きる』第四十九雪華号、信報『信行』第百六十八号お正月号を各々一月一日付で発行、門末各寺院に配布。（木村光正）

国柱会

◆平成十九年七月八日、日蓮聖人顕正会慶讃法要厳修。十五日、妙宗大霊廟盂蘭盆開顕大供養会厳修。七月十六日、日蓮聖人宣正会慶讃法要厳修。二十六日、身延山久遠寺にて田中智学先生法勲碑清掃奉仕。三十日、明治天皇祭厳修および明治神宮参拝。

◆八月五日、午後四時半より第三回申孝園夏祭り開催（一般開放）。十一日～十三日、第五十四回国柱会少年少女夏期学校開催。国柱会会員の子供達に、夏休みを利用して法要参加・ご修行の練習を実施した。十九日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研修会開催。二十五日～二十六日、妙宗大霊廟常勤給仕実施。二十六日、田中香浦先生第十二回忌追善法要厳修。

◆九月十二日、日蓮聖人龍口法難会慶讃法要厳修。十五日、国柱会本部理事会開催。十六日、国柱会中央有志清掃奉仕実施。同日、日蓮主義研修会開催。二十三日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。二十九日、熊本・本妙寺にて九州地方連合局会員主催による、六喜朝碑建立七十年慶讃法要を厳修。同碑は、加藤清正公の嗣子忠広公らの遺骨を納めた「六喜廟」に存在する。

◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上本門寺にて、日蓮主義屋外宣伝挙行。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩法要厳修。同日、蓮華サークル（国柱会婦人部主催）開催。テーマは「回向について」。二十日、妙宗大霊廟常勤給仕実施。二十一日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。同日、日蓮主義研修会開催。田中智学先生著『日蓮聖人之教義』（信行編）をテキストに用いた講義を行った。二十七日～二十八日、第四十三回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。（森山真治）

京門連

◆平成十九年十月六日、御会式（本山妙傳寺）。御会式の準備（万灯の搬入、組立）

◆十月六日、御会式（本山妙傳寺）。導師・妙傳寺貫首野々亘日祐猊下、講師・法華宗真門流総本山本隆寺貫首田中日生猊下。

◆十一月九日、理事会。全門連京都理事会・懇談会の件（日蓮宗京一宗務所）。

◆十一月二十九日、全門連京都理事会・懇談会（本山頂妙寺）

◆十二月十九日、午後四時より会計監査（本能寺文化会館）。同日、午後五時より理事会。平成十九年度会務行事報告案・決算案作成。今年度当番本門法華宗大本山妙連寺。

◆一月十五日、午後四時半より理事会（ルビノ堀川）。平成十九年度会務報告・決算・監査報告・平成二十年度会務予定・仮称「日蓮聖人展」について・その他。

◆二月十六日、午後一時より総会。新年度役員紹介・各種議案・審議承認。同日、午後二時半より降誕会（大本山大本山妙連寺）

《今後の予定》

◆三月六日、午後四時より理事会（大本山大本山妙連寺）。

◆四月二十八日、立教開宗会（横川定光院）。

◆六月六日、午後四時より理事会（大本山大本山妙連寺）。

◆八月三十日、午後十時より夏期「第四十五回大学」（本能寺文化会館）。同日、夏期大学終了後、理事会。

◆十月三日、御会式奉行委員会（大本山妙連寺）御会式の準備（万灯の搬入、組立）。

◆十二月十九日、午後四時より会計監査。（藤井照源）

日本山妙法寺

◆十月二十五日、ラジギール第三十八周年法要。

◆十一月十四日、デリー仏舎利塔落慶大法要。

「千年を越す昔からの歴史的建造物で名高いデリーに、平和の仏舎利塔がもう一つの新たな歴史的建造物として、そのリストに加わった。この仏舎利塔は、世界中に広がる平和仏舎利塔のうち八十二番目にあたり、マハトマ・ガンディーの盟友となった藤井日達上人のお弟子達によって、平和のメッセージを伝え広げるために建立されたものである。マハトマ・ガンディーは上人をフジイ・グルジーと命名した。平和塔に仏舎利を奉安したダライ・ラマは次のように語った。『仏舎利塔は、お釈迦様の心の象徴であり、人々を奮い立たせ、心の内に、まわりの社会に、平和を広げるものです』。」（ヒンドスタン・タイムズ紙）

◆十一月十七日、ネパール・ポカラ仏舎利塔八周年法要。

◆十一月十八日、インド・オリッサ仏舎利塔三十周年法要。

◆十一月二十日、ネパール・ルンビニ仏舎利塔六周年法要。

◆十月二十八日～十一月十二日、パンジャブ～デリー平和巡礼。

◆十月十三日～二十四日、ビルマの人々と国連に向けて平和行進。

◆十月十七日～二十九日、沖縄平和巡礼。（牧野行暉）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成20年9月23日
第38号

『立正安国論』奏進750年 現代における教化活動とは

第7回　国柱会

未来を切り開く『立正安国論』



国柱会講師　藤本坦孝



「立正安国」の石碑（国柱会本部）

●立正安国

日蓮聖人が『立正安国論』を著されてから間もなく七百五十年目を迎えようとしているが、国内外に今迄には考えられなかった様々な問題が山積し、頼りとしていた科学もその発達によって益々世界が混迷を深めている有様で、新しい指導原理が希求されている。この様な状況は、『立正安国論』が書かれた時代と類同しており、現代は、地球規模の末法時代と言ってもよい感がする。この様な閉塞状態を乗り越えて未来を切り開く為に、『立正安国論』を、現代的観点に立って再読することが必要であろう。

『立正安国論』は、客人と主人の問答によって進められているが、この書の主旨は、客人の言葉、

それ国は法に依って而して昌え、法は人に因って而して貴し、国亡び人滅せば、仏を誰か崇むべき、法をば誰か信ずべけんや。まず国家を祈って、すべからく仏法をたつべし。

および、主人の言葉、

汝早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。しからばすなわち三界はみな仏国なり。仏国それ衰えんや。十方はことごとく宝土なり。宝土なんぞ壊れんや。国に衰微なく、土に破壊なくんば、身はこれ安全にして心はこれ禅定ならん。この詞、この言、信ずべし、崇むべし。

に凝集されている。これらは通常、国家の安定こそ重要であり、先ず国家を祈らなければならない、と主張する客人に対し、主人がこれを諫め、正法を立てて安国を実現しなければならない、と説いたものと理解され、客人の言葉は軽視されている様である。結論は確かに「立正」にあるが、この客人の問題提起は重要な意味をもっている。一般に宗教は、穢れたこの現実から逃れて清らかな世界を求め、個人個人が安心を得るものと理解されているが、そのような考え方へのアンチテーゼとして問題提起が為されているのであり、主人は、客人のこの問題提起を踏まえて、それに応えうるものとしての「立正」を説いているのである。この意味において、客人の言う「国」を世界全体と置き替えて読めば、「立正安国論」は、当にこの混迷を極めた現代において問題提起を行っており、その解決には、『立正安国論』を全体にわたって熟読しなければならない。

●実乗の一善

ここで、立正の「正」が何を意味するかを確認しておこう。前掲の文における「実乗の一善」は、「法華経の教え」と理解される。それでは、具体的にどの様な教えを意味するのだろうか。

日蓮聖人の教えを継承しようとするものにとって、『法華経』の中の重要な教義として「方便品第二」及び「如来寿量品第十六」を取り上げることに異論はないだろう。

「方便品」では、「一乗の法のみあって、二もなく三もなし」として、「一仏乗」即ち「教法の統一」が説かれている。仏教には、よく八万四千の法門と形容される程多様な法門があるが、その目指すところは唯ひとつであり、「皆成仏道」、即ち、総ての存在に対し、「仏知見を開き、仏知見を示し、仏知見を悟らせ、仏知見に入らしめて」、仏道を完成せしめることである。種々の教えは、各人の状況や機根に合わせて、「仏の方便」として説かれたものであり、状況が変われば、正直に方便を捨てて無上の法に着くべきことを教えている。

また、「寿量品」においては、釈迦・多宝の二仏、十方分身の諸仏が集まった中で、久遠の昔から永遠の未来に渉って法を説き続ける「久遠実成の釈尊」が説かれ、「仏の統一」が説かれている。

●『立正安国論』の主張は排他的か

『立正安国論』において日蓮聖人は、法然が、主著『選択集』において、数ある仏典の中から浄土三部経のみを選択し、他の総ての経典を「捨、閉、閣、抛」すべきものと規定していることを強く糾弾しておられる。その一方で、日蓮聖人御自身、法華経一経を取り上げ最勝とし、余経は無得道として退けられた。これでは、自家撞着ではないかとの懸念ももたれるところである。

この問題も、前述の『法華経』の教義、特に「一仏乗の教え」を踏まえて理解すべきであろう。あらゆる存在を一体のものとして捉え、総ての存在を処あらしめて活かしていくべきであると説く「一仏乗の教え」からみれば、浄土教のみを選んでそれ以外は関知せず、と主張する法然は、謗法の徒と規定せざるを得ない。日蓮聖人が主張されたのは、法華経以外の諸教を、無視、若しくは撲滅するといった排他的な考え方ではなく、むしろその逆で、それぞれの教えが状況を踏まえて説かれたものであるにも拘わらず、その一つを絶対化し、他の教えを、或いは考慮外に追いやり、或いは撲滅しようとする、その様な排他的な態度を破折されたものと理解される。

●一天四海皆帰妙法

昨今、多発するテロとの関連から、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教等の一神教の排他性が問題になっているが、「一神教」の「一」と、「一仏乗」の「一」は根本的に異なる概念である。前者は、いくつもの中からひとつを取り上げた「一」であり、後者は、全体として一体のものであるという意味の「一」である。

日蓮聖人の教えに随う我々の任務は、世界全体が『法華経』の教えに帰依することにある。しかし、これを「一神教」で主張されている様に、ひとつの原理を立ててそれによって他を裁いていくことを目指すことではない。『法華経』の教えに帰依するとは、先ず世界全体が一体のものであることを信じることである。現代の多くの問題は、お互いが、それぞれの自己の価値観に固執することによって起こっている。価値観がぶつかり合う場合、そのいずれが是かを争って決着をつけることではなく、それぞれが共に活かしあう道があることを信じ、協力してそれを求めなければならない。我々の願業は、多様な価値観が、全体として一体のものと捉えられた中で、それぞれの持ち味が発揮される、この様な世界を求めること、当に「久遠の本仏」が統べる理想の世界を現出することである。

立正安国論奏進七五〇年記念特別展
日蓮と法華の名宝
―華ひらく京都町衆文化―
期間　平成二十一年十月十日～十一月二十三日
会場　京都国立博物館

従地ゆじゅつ

最近の話題といえば、原油価格の高騰とそれに連動した物価高。他方では食品の偽装が発覚し食品の安全性が問われている。相変わらず殺人など凶悪な事件も多い。なかなか「平穏な毎日」というわけにはいかない。不安が募る…。

しかし、今ここに挙げた不安は全て人によって作られるもの。つまり人間様に問題があるのだ。その根源は自己中心な考え方、いわゆる「ジコチュウ」ではないだろうか。私も人間のはしくれなので認めたくはないが…。

食品の偽装や殺人は、その最たるものであることは言うまでもない。思えば、昨年の「今年の漢字」には「偽」という字が選ばれていた。そんな状況は恥ずべきことであるのに。

例えば、ある人が自分の利益のことだけを考えて行動すると、多くの場合それは他人の損害、迷惑になる。人間は一人で生きているわけではないので他人に損害を与えると、抵抗を受けたり、嫌われたりする。そしてそれは回り回って自分に還ってくる。自業自得ということだ。最初は自分の得になると思ってしたことなのに…。

他人のことは見えても、自分の姿は見えないもの。しかし我々には唯一自分の姿を知る方法がある。経文に照らして自己を見つめるのだ。日蓮聖人は法華経を「明鏡」と仰せである。鏡は姿を映すもの。まずは、明鏡たる法華経の信心によって自己を見つめ、自己中心の考え方をやめて、みんなの幸せを願うことが立正安国への第一歩であろう。

（哲）

《リレー提言⑥》

門連の歩みと次代への発信
『立正安国』のご精神を今に



顕本法華宗
本行寺住職
朝倉俊幸

「青年の船」就航の思い出

振り返り見れば、昭和五十六年、宗祖日蓮大聖人第七百遠忌の聖年の砌、御報恩記念事業の一環として、「門下青年の船」の実施が決定された。各門下より準備委員が選任され、その前年より、池上の日蓮宗宗務院会議室に結集し、〝異体同心こころはひとつ〟のスローガンのもと「青年の船」就航へ向けて協議会合が毎月のように開催された。

私も宗門の代表としてその末席に連なり、各派代表の委員の方々と熱い討論を交換させて頂いたことは、今もって懐かしく心の奥深く記憶に残っている。

門下連合会理事・事務局役員レベルでの交流は、発足以来門下相互交流の成果を着実に重ねている最中、門下青年僧侶の交流を密にする絶好の機会であった。この交流の場は、「青年の船」の企画運営という課題にとどまらず、門下各派の活動状況や情報交換をする上でも格好の機会ともなった。各派代表委員の方々も、個性豊かで論客も多く、それぞれ議論が大いに盛り上がり、誠に有意義な体験でありました。

門下初の試みであった「青年の船」が無事就航出来たことは、参画された各派代表委員の方々の、この共同事業を完遂するのだと言う、信念と情熱に支えられたことであった。

特に事前準備段階から実施運営、そして記録整理保存の最終段階に至るまで、会議の中心にあって、委員相互の意見調整と相互理解の親睦の労を取られた、今は故人となられた富川孝恭上人の見事なリーダーシップは、宗我を超えて参画した各派の委員を鼓舞し、その後の人的交流に繋がった。

『立正安国』のご本意とは

昨今の社会世相を見渡すと、政局の混乱はもとより、〝賞味期限疑惑〟〝産地疑惑〟などの商道の乱れ、日々の報道に事欠くことのない〝殺人事件〟、教育の現場の興廃と生命の軽視等々。未だに止むことのない世界各地でのテロや戦争。まさに末法の極みと言える。殊にわが国は、いつからこんな精神後進国になってしまったかと憂慮するばかりである。

宗祖の御在世の鎌倉時代は承久の乱をはじめ秩序の崩壊、天災や飢饉、疫病などが相次ぎ、今日の世相と比較しても共通する混乱状況が見受けられる。但し、現代の科学文明に彩られた世のシステムや、自然環境破壊問題などは、同等に比較すべもありません。

しかし、末法という歴史認識は時代を超えて、眼前の社会現象の事実を見据えて、認識すべきことであろう。

日蓮大聖人は、その御主著『立正安国論』のなかで、

「国を失い家を滅せば、何れの所にか世を遁れん。汝須らく一身の安堵を思はば、先づ四表の静謐を祷るべきものか」

と、末法の人間の苦悩の元凶は個人苦でなく社会苦と認識され、汚染された環境にさいなまれる被害者の救済はゆるがせにはできないが、それにもまして大切なことは環境汚染そのものの根を断つことであり、社会の改造なくして真の救いになるのかという信念に発せられたものと考える。

とにかく、世の宗教は個人業としての〝別業対策〟を標榜するばかりで、社会業としての〝共業対策〟が欠けているといわれている。

「一切の大事のうちに国の亡ぶるが第一の大事なり」(蒙古使御書)と確信された、日蓮大聖人の一貫した御精神であろう。

現代危機の本質

先般の洞爺湖サミットにおける基本テーマは、「環境問題」であり、特に地球温暖化については深刻な状況下にある。科学技術の発展や消費経済の伸張が、石油の大量消費拡大、世界的エネルギー危機を招いた。

また、温暖化の影響下、世界各地での異常気象に伴う農作物の不作による食糧危機など、一層深刻な未来予想が警鐘されている。現代に生きるすべての人類に深くしみこんでいる文明の享受と基本的価値観が、最終的に今日の抱えている諸問題の根源であるように思われる。

この問題解決のためには、世界規模による経済秩序の整備と、地球規模の資源の分配システムを必要とし、なおかつ個人の価値観・生活様式・自然生態との調和など総合的な視点で変換を必要としよう。

特に、全ての人類が共通の視点に立って、危機的状況の共通認識を持ち、物的資源の使い捨てからリサイクルへの方向転換を一層努める必要があろう。生活の利便や利益を時代の子孫のために放棄する覚悟まで求められている。

古来、日本の日常倫理であった〝ものを粗末にしてはいけない〟〝もったいない〟と躾けられた教えは、価値観の転換の原点となろう。

共生の精神の啓発

正に、現代社会に突きつけられたテーマであり、改革のキーワードは「共生」という文字に集約されよう。

この「共生」のこころを啓発・実践するために必要なことは、『法華経』の教えに象徴される〝菩薩行〟の実践に行きつこう。〝自利利他〟の精神に立脚し、他者の為に何がなせるかを、われわれ法華経信仰に生きる者の使命として、その精神の高揚と、率先した社会実践の実を挙げることが切望されよう。

日蓮大聖人の『立正安国』の御主張を、業感の視点で捉えると、社会の様々な現象には自分自身の責任である〝別業〟と他者との連帯的な〝共業〟の二つが、人それぞれにあると考える。

共業には、家族や友人や社員としての共業もあれば、国民または人類としてのそれもある。例えば会社が倒産すれば、社員はその結果を共にするし、日本が〝非核国〟という立場を堅守しても、隣国の核実験による放射能の影響は避けることはできない。

これらの共業を根本的に解決するためには、国家あるいは世界全体が修正するのでなければ、人間ひとりの救いも完成されないという結論になる。

日蓮大聖人が、敢えて『立正安国』を強調される所以がこの点にあるといえる。

熱心な法華経信仰者であった宮沢賢治の有名な「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」という言葉も、菩薩道の精神を表している。

現代社会(世界)がもたらした種々の問題や試練に真っ向から向き合って、われわれ一人一人が時代の〝共業〟を真摯に受け止め切り開いて行く覚悟が大切であろう。

『立正安国』の御精神の一分でも、日蓮大聖人門下僧俗が一体となって、社会浄化の為に、恒久平和の為に、菩薩行の実践に精進して参りたいものです。　合掌



平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます



（平成二十年九月現在）

日蓮宗宗務院

管長　酒井日慈
宗務総長　小松浄慎
伝道局長　川名義顕
総務局長　張田珠潮
伝道部長　齊藤憲一
教務部長　酒井光雄
総務部長　藤岡暎邦
財務部長　駒野教源
宗務総長室長　長亮行
現代宗教研究所長　田澤元泰
参与　堀江宏正
参与　浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長　垣本孝精

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管長　大塚日正
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
庶務部長　矢吹慈英
財務部長　加藤信淨

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五代
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
布教部長　早川義正
社会部長　阿曽久成
教務部長　古瀬久馨
庶務部長　津村乗信

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管長　椿澤日壽
宗務総長　土屋善敬
総務部長　佐古弘文
教学部長　田邊円祥
教化部長　佐古大弦
財務部長　牧野秀成
宗務参事　金原孝宜

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　佐藤日鳳
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　嶋田幾雄

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六代
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　原智功
総務部長　長﨑秀要
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管長　田中日生
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　井上隆啓
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　安立修学
〃　山口英泰
主事　笹木研吾

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村頼彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　山田岳隆

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗教法人　国柱会

賛主　田中壮谷
理事長　安中又六
門連常任理事　本間直暉
門連理事　仲南良夫
門連理事　石見哲三
「門連だより」編集委員　森山真治

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一代
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会長　松下日肆
副会長　永田日洵
理事長　石崎光教
副理事長　藤井照源

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首座　吉田行典
長老　酒迎天信
長老　今井行康
長老　池田行朗
長老　二宮和嘉
長老　木津博充
長老　川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812　東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話　〇四二（三七八）三三九五
FAX　〇四二（三七九）〇七四四

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗（本門流）大本山
本興寺
貫首　有原日龍
執事長　圓成淳龍
役職員一同
〒660-0862
兵庫県尼崎市開明町三―一三
電話　〇六（六四一一）三三一七
FAX　〇六（六四一三）二四三六

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中村日玄
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壮玄
執事　鈴木顕正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　本多信正
執事　〃　足立真正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　石崎光教
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　原智功
執事　崎秀要
執事　原田智光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
執事　高作泰寛
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　山田完修
同　安藤信行
同　伊東隆司
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

京都八本山会
大本山　妙顕寺　貫首　南條日慈
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　頂妙寺　貫首　永田日洵
本山　妙覚寺　貫首　頂岳日選
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
執事長　藤井智光
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　髙谷正之
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十四世講有　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇代
FAX　〇七五（四六三）四六五一

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
大本山
清澄寺
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
執事長　藤井智光
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　髙谷正之
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十年九月現在）

門連時報

身延理事会開催さる

平成二十年五月二十八日（水）日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表など計十五名が参加した。


平成20年5月28日身延理事会

午前十一時に集合し、祖廟並びに御草庵にて法味言上。その後常唱殿前にて記念撮影。続き、大本堂にて法味言上し、報恩閣に移動。午後一時半より理事会が開催された。

小松浄慎理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。先に、「平成十九年度事業報告」を事務局より報告、常任理事会・理事会・監査の開催、門連だより発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更等についての報告がなされ、続いて、「平成十九年度決算報告」について事務局より報告がなされ一同承認。

次に、「平成二十年度事業計画案」について事務局より報告、祖廟参詣、理事会開催、門連だよりの年二回（三十八号・三十九号）の発行について説明し、続いて、「平成二十年度予算案」について事務局より報告がなされ一同承認。

次に、「地方門連活動に関する報告」を京都門下連合会・石崎光教理事長、並びに大阪門下懇話会・和田龍昌理事長より報告がなされた。

また、「日蓮聖人展」（通称）について、京都国立博物館並びに日本経済新聞社との協議の結果、立正安国論奏進七五〇年記念特別展の正式名称を「日蓮と法華の名宝～華ひらく京都町衆文化～」と決定したことを「日蓮聖人展」担当より報告がなされた。

「その他」の事項では、門下連合会予算の逼迫状況、来年度の「日蓮聖人展」における常任理事会開催等、諸経費の負担を考慮し、来年度より分担金の増額をしてほしい旨が事務局より報告され一同承認。また、「日蓮聖人展」において緊急を要する場合は常任理事会にて諮ることを一同承認した。

午後三時三十分に閉会。

会場を日本平ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。

《京都日蓮聖人門下連合会》立教開宗会奉行

立教開宗の聖日、四月二十八日、京都日蓮聖人門下連合会は比叡山横川定光院に於いて「立教開宗会」を奉行、門下連合会各派、本山貫首、僧侶、檀信徒百三十名が参加した。

法要に先立ち、日蓮宗京都府第一部布教師会長大西秀樹師が「蓮華の教え」と題し講話した。

法要は今年度当番の本門法華宗大本山妙蓮寺が担当、大導師に歴世貫首松本日望猊下を招請、副導師に理事長石崎光教師（大本山妙蓮寺執事長）、副理事長藤井照源（日蓮宗京都府第一部宗務所長）が務めた。

石崎理事長の開会のあいさつに始まり、立教開宗会を厳修、ご来賓を代表し比叡山延暦寺副執行小林祖承師（総務部長）があいさつ、藤井副理事長の謝辞をもって閉会した。

一行は昼食後、源氏物語千年紀で賑う石山寺を見学し解散した。

京都日蓮聖人門下連合会は年間四大事業として、降誕会・夏季大学・御会式・開宗会を奉行している。立教開宗会は長年にわたり比叡山大講堂で奉行してきたが、平成十七年横川定光院本堂大改修を機に当道場で行っている。

（藤井照源）



「日蓮と法華の名宝」開催決定

平成二十一年は、『立正安国論』奏進七五〇年の佳節にあたります。その記念として日蓮聖人門下連合会では、立正安国論奏進七五〇年記念特別展「『日蓮と法華の名宝』華ひらく京都町衆文化」を平成二十一年十月十日より十一月二十三日まで、京都国立博物館に於いて開催することとなりました。

日蓮聖人門下連合会では、平成十五年初頭、東京国立博物館に於いて宗祖ゆかりの宝物及び法華経信仰に関わる芸術品を一同に集め、立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」を開催致しましたが、そこは単なる展覧会ではなく、宗祖の御生涯と法華経信仰を目のあたりにする法華の道場として、門下僧俗をはじめ多くの一般の方々が展観されたのは記憶に新しいところです。

それより六年を経て開催される、この立正安国論奏進七五〇年記念特別展「『日蓮と法華の名宝』華ひらく京都町衆文化」は、『立正安国論』を軸に門下護持の宝物及び芸術品を中心に出展いたしますが、そこでは日像上人京都開教以降、町衆文化の形成に大きな影響を与えた日蓮門流と法華経信仰の精粋を展観して頂きます。

現在迄に日蓮聖人門下連合会をはじめとして京都国立博物館、日本経済新聞社の三者より、本展覧会開催に向けた準備を進めておりますが、平成二十年度内には出展内容を確定し、日蓮宗内をはじめ関係各方面に告知する予定です。

「大日蓮展」と同様にポスター、チラシ等により広く一般にも告知致しますが、門下僧俗に於かれましては、この展覧会を機縁として京都十六本山を参拝され、京都弘通の往時に思いを馳せながら紅葉の京都で法華経信仰を深められてはいかがでしょうか。

新刊紹介

『法華宗全書』第二回「妙経直談抄」発刊



本書は原文と訓み下し文とから成り、戦前刊行の『日忠聖人全集』第一巻・第二巻が未刊で稀覯書となっていたものを今回、法華宗宗祖・開基・先師聖人報恩奉讃会事業の一環として装いを新たに刊行。

「妙経直談抄」は全巻を四分冊とし、このたびは通出・寿量品釈と従来未刊の分別功徳・随喜功徳・法師功徳品釈を含めた第三巻とし、順次全巻刊行を目指すものです。

『法華宗全書』日忠1
妙経直談抄Ⅲ
B5上製函入●八六三頁
●定価一八、〇〇〇円
発行・法華宗（本門流）宗務院
東京都中央区日本橋人形町二の一九の一
電話〇三（五六一四）三〇五五
FAX〇三（五六一四）三〇五六

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二〇・七・一五	高邊日援師 松下日肆師	本門法華宗	顧問	就任	退任
平成二〇・七・一五	山下通雄師 藤井日靖師	本門法華宗	常任理事	就任	退任
平成二〇・八・一三	有原日龍師 大塚日正師	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成二〇・八・二六	高邊日援師 松下日肆師	京都門下連合会	顧問	就任	退任
御遷化 平成二〇・七・七	多門顕正師	顕本法華宗	編集委員		

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞
毎月1日・10日・20日
年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）
年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）
一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日本山妙法寺

◆平成二十年二月十一日～七月十一日、アメリカ・ロングストウォーク（サンフランシスコ～ワシントンDC）に参加。「アメリカは穢れた建国の歴史をもっている。そして現在、一番悪い人殺しの方法を考えている者がアメリカ。これを平和的に改革せねば世界に平和はこない。（中略）それでインディアンの人々と共にたって、まず世界の中でアメリカ合衆国から、平和で神聖な人類生活の道を、国家の存在の道を開かねばならない。」（藤井日達）

◆三月二十四日～五月四日、「九条ピースウォーク」（広島～幕張メッセ）に参加。

◆三月二十七日～五月四日、九条世界会議に向けて「命の行進」（秋田～幕張メッセ）。

◆四月一日～十日、九条世界会議に向けて「北海道平和巡礼」（旭川～札幌）。十三日、吉野山仏舎利塔三十二周年法要。二十七日、立教開宗七五六年法要（清澄山道場）。

◆五月三日、東京多摩仏舎利塔二十五周年法要。

◆六月十四日、東京～広島平和祈念行脚出発（東京・夢の島の第五福龍丸記念館出発）。同日、ロンドン仏舎利塔二十三周年法要。十五日、英国・ミルトンキーンズ仏舎利塔二十七周年法要。二十二日、オーストリア・ウィーン仏舎利塔二十五周年記念法要。二十九日、イタリア・コミソ仏舎利塔十周年法要。

（牧野行暲）

日蓮宗

◆終戦記念日の八月十五日、日蓮宗では東京・千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「戦没者追善供養並びに立正平和祈願法要」を営み、僧侶檀信徒約多数が参列した。この法要は昭和三十四年に同墓苑が建立されて以来、毎年営まれており今年で五十回目という節目を迎えた。第一回目の大導師は当時の望月恒匡宗務総長。

午前九時、ご遺骨が納められている陶棺を安置する八角堂内にご本尊を掲げ、小松浄慎宗務総長を大導師、東京四管区の宗務所長を副導師、東京四管区の声明師会員、修法師会員、青年会員が出仕して、戦争で尊い命を落とした犠牲者の冥福を祈ると共に、世界平和への誓いを新たにした。

◆日蓮聖人御廟のもとでご給仕を申し上げる祖廟輪番制度が始まって今年で五十年を迎え、七月一日、総本山身延山久遠寺で「祖廟輪番五十周年記念法要」が営まれた。輪番給仕は、日蓮聖人のご遺命によって直弟子である六老僧が交替して御廟所をお守りしたことに由来し、昭和三十三年七月一日、増田日遠法主猊下（第二十七代管長）から永倉唯嘉宗務総長に委嘱状が渡され最初の輪番が行われた。記念法要当日、祖廟輪番本部長の小松浄慎宗務総長をはじめ僧侶檀信徒百六人が参列し、「立正安国・お題目結縁運動」の一環である祖山総登詣とともに輪番給仕へのさらなる誓いを捧げた。

◆北海道松前郡松前町の法華寺（中里観止住職）が「日持上人開教及び奥羽二州触頭　法華寺」として宗門史跡に五月二十二日指定された。北海道内の寺院で宗門史跡の指定を受けるのは今回が初めて。法華寺が日蓮宗の北辺布教の基地になり、さらには、松前藩が支配する奥羽二州の日蓮宗を統括していた歴史が今回の指定の理由となった。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆任期満了により全国十三教区宗務所長が改選され四月一日付をもって次の者が就任。

北海道・圓成應龍（栗山町本門寺）
東北・桑山教善（大館市蓮荘寺）
千葉・高橋真純（大網白里町住本寺）
東京・吉崎長生（渋谷区立正寺）
東海・太田晴道（沼津市妙蓮寺）
北陸・二瓶海照（富山市信行寺）
京都・赤田泰宏（伏見区本成寺）
大阪・野坂文彦（大正区妙法寺）
兵庫・三島昭栄（神戸市妙興寺）
淡路・桃井隆城（淡路市西光寺）
中国・今川隆道（府中市本覺寺）
四国・岡村祥光（高松市本堯寺）
九州・成瀬英彰（佐世保市本尊寺）

◆審査局の異動により、局長に和田日攝師、局員に川口日唱・貫名日諦両師が四月一日付で就任。

◆四月十一日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において戦没者慰霊法要が行われた。法要終了後、原井宗務総長の挨拶があり、チベット問題を憂慮する声明を発表し、あわせて菩薩行の実践として恒久の平和を求め続けることを訴えた。

◆第六十一次定期宗会が五月十九日～二十一日に宗務院において開催され、原井総長の施政方針に続き、予決算の承認可決等、十三議案を議定して閉会。

◆全国宗務所長会が五月二十七日～二十八日に宗務院において開催され、本年度の宗務執行等十九議題を協議して閉会。

◆六月八日、米国桑港仏教会開堂四十周年の記念法要があり、七日より十二日までの六日間、二十七名の団体参拝を実施。当日は同教会において管長有原日龍猊下御導師のもと慶讃法要を奉修。法要終了後、団参の一行と桑港仏教会信徒及び関係者約百名によるレセプションがサンフランシスコ市内のホテルにて開催された。

◆「法華宗全書」第二回配本の『妙経直談抄III』が六月三十日発行され、その完成法要が六月三十日に興隆学林講堂において有原管長、原井総長、菅原宗会議長以下編集に当たられた先生方、宗務院及び学林関係者等が出席して奉修された。

◆八月十三日、大本山鷲山寺貫首大塚日正猊下が第一二九代法華宗管長に就任。推戴式が同本山において九月一日奉修された。あわせて門下連合会顧問にも八月十三日付をもって就任された。

◆本年度開催の教学講習会は、次の五会場。北海道―八月二十五日～二十七日（札幌市・ホテル札幌サンプラザ）、東海―十月七日～九日（沼津市・ホテル沼津キャッスル）、京都―十一月二十七日～二十九日（京都市・大本山本能寺）、中国―十月二十七日～二十九日（府中市・本覚寺、ウェルサンピア福山）、九州―八月二十六日～二十八日（熊本市・ホテル法華クラブ熊本）

（三浦賢秀）

顕本法華宗

◆一月二十六日、千葉県生実町本満寺で第三教区檀信徒連合会講習会が開催された。「智恩報恩の心」と題し、特命布教師・多門顕正師が講演。

◆三月八日～九日、京都総本山妙満寺において第六十三定期宗会が開催され、平成十九年度事業・決算報告、平成二十年度事業・予算案等が審議可決された。

◆三月二十六日、総本山妙満寺で教学研究所主催の公開研究例会が開催され、池上本門寺学芸員・安藤昌就氏の講義があった。

◆五月十七日～十八日の二日間、京都総本山妙満寺で春季報恩大法要が厳修された。本年は常楽院日経上人慶長法難四百年報恩法要を奉行、正司照枝さん・花枝さん（かしまし娘）の記念講演も行われた。

◆六月二十四日～二十五日、新潟県三条市の法華宗陣門流総本山本成寺を会場に「法華宗三派統合協議会」が開催された。

◆七月二十一日～二十五日の四日間にわたり、総本山妙満寺を会場に第四十五回顕本青少年錬成会が開催された。約百名の小中学生が、お経練習や礼儀作法などの修行体験と、USJ見学・京都散策を楽しんだ。（小島芳明）

法華宗陣門流

◆一月三日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が貫首椿澤日壽猊下御導師のもと厳修された。

◆三月七日～八日、第百九次定時宗会が開催された。

◆四月九日、宗務所長会が開催された。二十三日、法華宗三派統合協議会・本年度第一回聖訓カレンダー編集会議が本宗当番のもと開催された。

◆五月九日、布教研究所所員会が開催された。十二日、伊豆・霊跡別院蓮着寺において「祖師会」が厳修され、本年も全国寺院より多くの檀信徒が参拝した。十三日より六月二十一日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は、毎日、早朝より教学研究・練経・浄行などに励み、行学二道に精進した。二十三日より二十六日までの四日間、総本山本成寺において「千部大法要」が、日壽猊下御導師のもと厳修され、全国寺院よりの団参で賑わった。

◆六月十日～十一日、第二回聖訓カレンダー編集会議が本宗当番のもと熱海において開催された。二十一日～二十二日、法華宗三派統合協議会・学生講座が開講された。講題は「御遺文に見る中国の故事」。二十四日～二十五日、法華宗三派統合協議会が、総本山本成寺において開催された。

◆七月一日、日蓮大聖人伊豆法難七五〇年慶讃大法要実行委員会が開催された。二十九日、宗法審議委員会が開催された。（以上、とくに記載のない場合は、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室において開催）

（松吉慶憲）

本門佛立宗

◆三月二十七日、宗務庁（京都）で佛立教育専門学校と佛立研究所の共催の「第十七回研究発表大会」が開催され、今回は青山学院大学教授の福岡伸一先生より「生物と無生物のあいだ」と題する特別講演をいただいた。

◆三月三十日、リンス大宣寺では講有・小山日誠猊下を導師に戴き、ブラジル十一ケ寺から参詣を得て「ブラジル開教百周年記念大法要」が厳修された。これに先立つ二十八日には、サンパウロの中央寺院・日教寺で一千余名の参詣を集めて寂光祭が奉修された。

◆五月二十五日、本山宥清寺（京都）では、本山草創七百年慶讃大法要が厳修された。宥清寺は高祖十八中老日緋師が二条青柳家を教化し、その旧跡を寺院としたのが始まりで、京都における日蓮門下最古の寺院である。

◆七月二日、本門佛立宗第二十四世講有・小山日誠猊下の講有位再任言上式が本山宥清寺御宝前で執行された。

◆八月三日、乗泉寺（東京）を会場に「第二回青少年の一座」が開催され、全国から二千名近い青少年の参詣を集めた。今回は関東の青年信徒が実行委員会を組み、若い世代の感性で斬新な法要が企画され、感動を呼んだ。

（吉田淳崇）

日蓮本宗

◆本山要法寺（京都市左京区・嘉儀日有貫首猊下）では、今春、鐘楼修復工事が完了し、五月八日に落慶法要が厳修された。要法寺の鐘楼は元文二年（一七三七）の建立で、単層入母屋・照り屋根の建築様式を持つ貴重な建造物だが老朽化が進んでいた。本山要法寺では近年、本堂・開山堂大屋根修復、庫裏客殿新築の大規模事業が続き、鐘楼修復の実行を危ぶむ声もあったが、宗内関係機関の献身的後援により、総額八千九百万円を事業予算とする修復計画が立ち上がった。平成十八年秋より全国檀信徒に募金呼びかけを開始し、昨年八月修復着工。今回の修復は、本体と石垣基壇の全面解体、新材木の部分利用、瓦の全面葺き替えを経て再組成し、約二百七十年前に建立された当初の姿のままに復元された。落慶法要は毎年五月八日に行われる御開山会に併せて営まれ、久しぶりに東山三条の地に鳴り響いた梵鐘の妙音に、参列した多数の僧侶・檀信徒も感慨一入であった。

◆本山要法寺開山大夫阿闍梨日尊上人（一二六五～一三四五）が延慶元年（一三〇八）に京都醒ケ井の地に要法寺の前身である法華堂を建立してから七百年を迎える今年、本山要法寺では開闢会七百年慶讃大法要が六月八日に盛大に営まれ、全国から約七百五十人の檀信徒が参集した。大法要は日蓮本宗管長・本山要法寺貫首嘉儀日有上人猊下を大導師に厳修され、開闢七百年を記念して作られた日尊上人の波乱に満ちた布教の足跡を描いたオリジナルアニメーションの上映や、檀信徒代表による献灯・献花も行われた。晴天に恵まれたこの日、境内には巨大テントが設置され、多くの出店が京都の物産などを販売。また、今春に修復が終了したばかりの新しい鐘楼で、参加者による鐘撞きも自由に行われ、慶事を共に分かち合った。

（柳下真敬）

法華宗真門流

◆二月二十一日、総本山本隆寺において各教区所長、布教師の合同会議が開催され、平成二十年度布教計画の作成が行われた。

◆三月二十六日～二十八日の三日間、総本山本隆寺において第二十五回檀信徒の集い」が開催された。三十一日、第二教区では「第二十七回第二教区檀信徒研修会」が開催された。

◆六月二十日、総本山本隆寺において真門教学講習会が開催され、午前中「門流の基礎確立と興隆」と題して元宗務総長の藤井日尚上人が講義され、午後は「文化と文化財」と題して京都国立博物館館長・佐々木丞平先生が講演をされた。

（森田量哲）

本門法華宗

◆三月三十一日、第九十五回本門法華宗宗会（信隆日系宗務総長）が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、信隆総長の宗政方針に続き、予決算の承認可決他全十二議案を議定して閉会。

◆六月二十七日、第九十六回本門法華宗宗会が開催され、本門法華宗管長に、松下日肆上人（京都市常住院住職）が推戴され、同日付で就任。本門法華宗務総長に藤井日靖学院長（大阪市本妙寺住職）が選定された。同二十八日就任。七月四日、本門法華宗各内局部長及び内局主事が選定された。

◆大本山妙蓮寺は、平成二十年度京都日蓮聖人門下連合会の当番寺として、二月十六日に宗祖御降誕会を松本日望猊下を御導師に妙蓮寺にて奉修。四月二十八日には比叡山横川定光院にて立教開宗会を担当、妙蓮寺関係各位参加奉修。十月には京門連お会式も奉修の予定。

◆本門法華院学院では、第百二十四回教学講習会を三月二十八～二十九日、第百二十五回教学講習会を六月二十～二十一日に、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。

◆同学院教学部より一月三十日付で、法華宗（本門流）芹澤泰謙先生講述の『総名について　総別と広略要』、立正大学北川前肇先生講述の『四帖抄に聞く（五）』が発行された。

◆同布教部より、布教誌『生きる』第五十水華号、信報『信行』第百六十九号を各々七月一日付で発行。

（木村光正）

国柱会

◆一月一日、元旦大国祷・新年拝賀式・神酒拝戴式・明治神宮参拝。七日、昭和天皇祭・武蔵野御陵参拝。十二日、本部理事会。十九日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕（翌二十日まで）。二十日、妙宗大霊廟例月供養会・中央同志新年大会開催。二十一日、妙宗大霊廟常勤台解体新築工事開始。

◆二月十日、全国講師会開催（翌十一日まで）。十一日、紀元節慶讃法要・本部理事会。十五日、釈尊涅槃会報恩法要。十六日、聖祖降誕会慶讃法要。十七日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。

◆三月九日、国柱会中央有志による清掃奉仕実施。十七日、改築常勤台によるお勤め開始。二十日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。

◆四月六日、申孝園桜祭り（一般開放）。八日、釈尊降誕会慶讃法要。十二日、中央婦人部主催の絵手紙教室開催。十五日、妙宗大霊廟創建八十周年記念法要厳修。十九日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕（翌二十日まで）。二十日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。二十八日、立正会慶讃法要厳修。第七十八回身延登詣団実施（翌二十九日まで）。

◆五月十二日、伊豆法難会慶讃法要厳修。十七日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕（翌十八日まで）。十八日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。二十四日、「国柱会全国青年のつどい」開催。

（森山真治）

京門連

◆一月十五日、午後四時半より理事会（ルビノ堀川）。平成十九年度会務報告、決算・監査報告、平成二十年度会務予定、仮称「日蓮聖人展」について、その他。三十一日、「日蓮聖人展」全門・京門事務局・本山代表・京博・日経、初顔合わせ（京都国立博物館）。

◆二月十六日、午後一時半より総会。新年度役員紹介、各種議案審議・承認。同日、午後二時半より降誕会（大本山妙蓮寺）。

◆三月六日、午後四時より理事会（大本山妙蓮寺）。

◆四月二十八日、立教開宗会（横川定光院）。

◆六月六日、午後四時より理事会（大本山妙蓮寺）。十四日、「日蓮聖人展」京門事務局会議。

◆七月七日、「日蓮聖人展」京門事務局・本山代表合同会議（日蓮宗京都府第一宗務所）。

◆八月三十日、午後十時より「第四十五回夏期大学」（本能寺文化会館）。同日、夏期大学終了後、理事会。

《今後の予定》

◆十月三日、御会式奉行委員会（大本山妙蓮寺）、御会式の準備（万灯の搬入・組立）。四日、御会式（大本山妙蓮寺）、導師・大本山妙蓮寺貫首松下日肆猊下、講師・立正大学教授北川前肇先生、講師・幸人間研究所早川一光先生。

◆十一月上旬、理事会（大本山妙蓮寺）。下旬、全門連京都理事会（大本山妙蓮寺）。

◆十二月十九日、午後四時より会計監査（本能寺文化会館）。

（藤井照源）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成21年2月16日
第39号

特集「日蓮と法華の名宝～華ひらく京都町衆文化～」展

日蓮聖人と町衆文化の栄光



立正大学名誉教授　中尾堯文

京都法華宗の繁栄

室町時代の中ごろ、十五世紀のなかば、京都の町はお題目の信仰で満ち溢れていた。「法華宗の一門の盛んなることよ」と、『蔭涼軒日録』は目をみはる。日蓮聖人の法灯を継ぐ京都の寺を、当時は「法華宗」といい、その信者を「法華衆」「日蓮党」などといった。

日本の政治・経済の中心地として栄えた中世の京都には、法華宗の二十一ヶ本山が並び立ち、大勢の信者が参詣した。とくに十月十三日は日蓮聖人のお会式で、大変な賑わいであった。その大半が法華宗の信者であった。京都の商人や手工業者たちを、「町衆」という。

「二十一ヶ本山」の多くは、庶民が暮らす下京に集中していた。これらの寺院を『日蓮宗事典』によってあげると、妙顕寺・弘経寺・上行院・住本寺・本国寺・妙覚寺・妙満寺・本禅寺・本満寺・宝国寺・立本寺・妙蓮寺・本能寺・本法寺・頂妙寺・妙泉寺・学養寺・本覚寺・妙伝寺・本隆寺・大妙寺である。これらの本山は、各寺内に塔頭寺院があり、洛中に末寺をもっていた。寺院の外にも、「法華の僧房」や「弘通所」がいくつもあって、盛んに説法が行われていた。法華宗の盛況は、この事実によってよくわかる。

日像上人の事績

京都法華宗が、空前の繁栄をもたらす元を開いたのは、洛中に妙顕寺を開いた日像上人である。師の日蓮聖人から、『立正安国論』の趣旨を天皇に奏上するよう委嘱された日像上人が、京都で布教を始めたのは、永仁二年（一二九四）のことである。やがて柳酒屋など豪商の帰依を得て地盤を固め、いよいよ天皇に所信を奏上しようとした。ところが、かえって迫害を受け、三度にわたり洛中追放の憂き目にあった。辛苦の末、建武元年（一三三四）には、後醍醐天皇から綸旨を賜り、日像上人が開いた妙顕寺を勅願寺に定められ、「一乗円頓の宗旨弘めよ」と命じられた。法華宗の布教が公認されたのである。

この後、宗門の僧が次々と関東から上洛して布教し、有力な商工業者の帰依を受けて、大寺院を建てて活躍した。桓武天皇が平安京を開かれてから、京都の市中には寺院の建立が原則的に認められなかったので、天台宗の比叡山にとって、法華宗の寺院は非法なものであった。このため、法華宗の寺院は、比叡山から度々攻撃を受けたが、発展の勢いは止まらなかった。

法華の世

一四世紀の京都は、目まぐるしい変動の渦中にあった。鎌倉幕府が滅亡して、後醍醐天皇による建武政権ができると、それも瞬く間に南北朝に分かれて争い、次いで足利尊氏によって京都に室町幕府がはじまる。このようなはげしい変動の中で、京都の町には関東の武士の姿が急増する。朝廷と幕府が置かれた京都は、政治・経済・文化の中心都市となった。関東に生まれた日蓮聖人の「法華宗」を、京都の人々は新しい宗教として、期待をもって迎え入れた。「二十一ヶ本山」で語られる京都法華宗の繁栄は、十四世紀末から十五世紀に現出した。

京都の町を焼き尽くしたのは、応仁元年（一四六七）から十年間にわたる、京都の町を舞台に戦われた「応仁の乱」である。細川勝元と山名宗全が、都の東西に分かれて戦ったので、都はすべて灰燼に帰し、将軍は地方に落ち延びて幕府の権威は地におちた。京都の町は、ここに住む町衆自身によって再建し、守らなくてはならない。戦乱が都を離れて地方に及ぶと、町衆は早速復興に取り掛かり、町の秩序を自分たちの力で守るようになった。町衆による自治都市の出現である。

日蓮聖人二百遠忌の頃

京都の町が復興途上にあった文明十三年（一四八一）十月十三日に、日蓮聖人の第二百遠忌を迎えた。法華宗の各本山では、意義深いこの日を期して、大乱で焼失した伽藍の復興に余念がなかった。お会式の日になると、日蓮聖人をまつる木の香も新しい祖師堂に、大勢の町衆が陸続と参詣してにぎわった。

この頃、時代はまさに戦乱の世で、京都の町は周囲の諸勢力からの攻撃にさらされていた。

町衆は、町を防衛するために武装を整え、法華宗の寺院を拠点に要害を固めた。妙顕寺や本国寺など大寺院では、伽藍の周囲に深い堀をめぐらし、外敵からの襲撃に備えた。

天文法難と十六本山

天文五年（一五三六）七月、これまで対立していた法華宗と比叡山延暦寺は、鴨川をはさんで戦闘を始めた。互いに譲らなかったが、やがて近江国（滋賀県）の六角氏が比叡山側についたので、法華宗は劣勢になり総崩れになった。洛中に攻め入った比叡山側の軍は、法華宗の伽藍を次々と焼き払ったので、本寺は堺（大阪府堺市）の末寺を頼って難を逃れた。「天文法華の乱」がこれで、法華宗では「天文法難」と呼んでいる。

数年後、法華宗の本山は、避難先の堺から京都に帰り、復興に着手した。やがて昔日の景観に服した頃、永禄七年（一五六四）八月に、法華宗の本寺が会合を開き、盟約を結んで宗門の新しい方針を定めた。この時の本寺は十六ヶ寺で、「十六本山会合」という。その寺々は、妙覚寺・本満寺・妙伝寺・妙泉寺・要法寺・頂妙寺・妙伝寺・妙満寺・本能寺・本国寺・立本寺・本隆寺・妙蓮寺・妙顕寺・本法寺・本禅寺の十五ヶ寺で、後に寂光寺が加わる。

天正三年（一五七五）に法華宗の「洛中勧進」が行われた。この勧進は、町ごとに寄付金を集め、これを十六本山会合に持参するという方法でおこなわれたもので、町衆の力によって成就した。この『勧進帳』によると、当時上京の過半数が、法華宗の信者であった。

花開く法華文化

天文法華の乱後の法華宗は、京都町衆に担われて、再び繁栄の道を歩んだ。しかし、その歩みは以前とは大きく異なり、武装を一切排除した、非武装主義に徹していた。非武装の平和の中に、豊かな文化の華を咲かせた。それが「法華文化」ともいえる、絢爛豪華な「桃山文化」である。特に、本法寺を檀那寺とする本阿弥家の活動は注目され、光悦は異才を発揮し、京都鷹が峰に芸術村をつくった。狩野元信・永徳・探幽らは狩野派を盛んにし、尾形光琳は琳派をはじめた。本法寺日通上人の庇護を受けた長谷川等伯は、法華宗寺院に勝れた作品を多く遺している。

このように多彩な芸術家は、単に仏画を描くというのではなく、雄大な大自然と人間の営みを暖かく描写した。その作品には、日蓮聖人が指し示された、宇宙を観照する大きな心が息づいている。

京都に育まれた「法華文化」は、天下統一に相応しい、町衆の伝統の上に開花した「桃山文化」である。それは、織田信長や豊臣秀吉のような権力者に大きく受け入れられながらも、その圧政には屈することのない、輝かしい栄光の文化である。

立正安国論奏進七五〇年記念特別展
日蓮と法華の名宝
―華ひらく京都町衆文化―
期間　平成二十一年十月十日～十一月二十三日
会場　京都国立博物館

従地ゆじゅつ

昨年来の米国発の金融危機は、日本経済に大打撃を与え、円高、雇用難民、景気低迷は長期化している。政治は混迷を続けるのみで、景気回復への有効な政策は未だ見出されない。昨年の漢字は「変」であったが、プラス方向への変化なら良いが、マイナス方向では、日本のみならず世界中が大変である。米国のオバマ大統領は「チェンジ」と叫んで当選したが、世界経済の安定、温暖化等の地球環境問題、新型インフルエンザの出現、続発する民族紛争、国際テロ等、早くプラス方向にチェンジを要するものばかりである。他人まかせで、為政者のみに、危機克服を依拠期待するだけでは何も解決していかない。今この時こそ、我々一人一人が何ができるか、何をすべきか、自問自答する必要がある。本年は『立正安国論』奏進七五〇年に当る。「汝、早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。」今こそ宗祖のこの一節を胸に銘記し、我々自身がチェンジする時である。

「変」続きで述べると仏教の命題の一つ、「諸行無常」がある。「この世のあらゆる全ての現象、存在は移ろい変わりゆくもので、生滅変化を繰り返す常ならずにある」とされる。有名な平家物語の冒頭、「祇園精舎の鐘の声　諸行無常の響あり　沙羅双樹の花の色　盛者必衰の理をあらはす」とあるせいか、諸行無常が盛者必衰の理として受け取られることが多い。マイナス方向のイメージが強く、文字通り、諸行が、滅びる、衰えると解釈される。現実に、アメリカンドリームを宣揚し、巨額の富を手に入れた米経済界のリーダー達、日本でもヒルズ族ＩＴ長者、勝ち組といわれた人々が、今回の金融危機によって、身を以って実感していることだろうが。諸行無常を消極、悲感的なマイナス思考ではなく、積極的、楽観的な変化と考える、プラス思考も必要ではないか。危機のピンチを、変化へのチャンスととらえることもできるのではないか。雑感を述べさせていただいた。合掌

（光）

特集「日蓮と法華の名宝～華ひらく京都町衆文化～」展

「日蓮聖人展」に思う

京都日蓮聖人門下連合会理事長
門下連合会常任理事　藤井照源

『日蓮聖人展』の出発

平成十八年十一月十七日、顕本法華宗総本山妙満寺で日蓮聖人門下連合会京都理事会が開催された。その席上、事務局より「立正安国論」奏進七五〇年記念事業として京都国立博物館で平成二十一年秋仮称『日蓮展』を開催する計画が提示され決議となったが反応が鈍かった。いや、ほとんどの出席者が否定的見解であった。それは、平成十五年一月に東京で立教開宗七五〇年記念『大日蓮展』を開催してまだ四年（提示された年から計算）も経っていないことや、なぜ京都の開催なのか、開催月も観光シーズンの秋であること等、全く理解を得られる状況でなかった。門連事務局は常任理事会、理事会、京都門連理事会総会で開催趣旨・要項・運営等詳細に説明、幾多の会議を重ねるに至り、平成十九年門連身延理事会に於て仮称『日蓮展』を前向きに検討していく事を確認、事業を進めて行くこととなった。

『組織運営の難題』

前向きに検討していくと確認されても具体的に進む道は平坦ではなかった。

主催が京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社であるが、緻密な連携をはかる為、京都門下連合会にも仮称『日蓮展』の事務局を設置することが必要と判断承認された。メンバーは藤井照源（日蓮宗）西本泰然（日蓮宗）風間隋修（日蓮宗）本多信正（法華宗真門流）大川定信（顕本法華宗）赤塚高明（法華宗陣門流）の六名で構成された。又各本山より宝物展示に関して連携を図るべき、代表の方を選出、十六名が加わり仮称『日蓮展』に向けた体制が動きだした。

組織運営の難題を克服する為、主催者、京都事務局、各本山代表が何度も集まり協議を重ねてきた。

『教学・信仰の問題点』

運営方法の難しさもあったが教学的な問題や信仰的問題にも種々様々な意見が出た。祖師の讃仰を考える時「日蓮展」ではなく「日蓮聖人展」ではないのか立正安国論の「奏進」という言葉の決定は各宗派ではどうとらえていくのかを中心にタイトルについての希望、町衆の読み方、宗宝調査の動き方についても多くの意見が出た。多くの意見が出るということは、この企画に対して皆が前向きに考えている事の証でもあった。

平成二十年一月三十日京都国立博物館で門連事務局、京門連事務局、各本山代表そして博物館、日経新聞社が集まり顔合わせ、意見交換をし更に会合を重ね平成二十年二月十六日の京都門連総会にて主催者より報告、日程　平成二十一年十月十日～十一月二十三日迄、京都国立博物館で開催（月曜日休館）、タイトル『日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―』と決定した。日蓮聖人門下連合会としてはこの事業におけるすべての名称として『日蓮聖人展』とすることが付け加えられた。

『京都で開催する意義』

『日蓮聖人展』が開催される京都は帝都弘通を附嘱された日像上人が死身弘法で布教、京都法華信仰の基礎を築きあげられた。現在日蓮門下十六本山を擁し、各山、護山護持に邁進されている。顕本法華宗総本山妙満寺、法華宗真門流総本山本隆寺、日蓮宗大本山妙顕寺、日蓮宗大本山本圀寺、本門法華宗大本山妙蓮寺、法華宗本門流大本山本能寺、日蓮本宗本山要法寺、法華宗陣門流本山本禅寺、日蓮宗本山妙覚寺、日蓮宗本山本法寺、日蓮宗本山本満寺、日蓮宗本山立本寺、日蓮宗本山頂妙寺、顕本法華宗本山寂光寺、本門仏立宗本山宥清寺の十六である。（順不同）

『日蓮聖人展』が京都で開催されるこの機会に法華信仰の歴史ある道場に参拝し、祖師の御心に触れ信仰増進の仏縁を頂戴することの意味を含んでいる。又町衆文化の中で築きあげられた歴史・伝統・文化・芸術の名宝が展示され法華信仰に深い縁のある長谷川等伯、俵屋宗達、尾形光琳、尾形乾山の心にも触れて戴くことも大きな意義がある。

『日蓮聖人展の幕は開いた』

日蓮聖人が鎌倉幕府に「立正安国論」を奏進し七五〇年、幾多の法難を乗り越え祖師の信仰は厳然と護り伝えられている。今、正に京の地で開催される「日蓮聖人展」は千歳一隅の機縁である。

「そうだ日蓮聖人展に行こう」この言葉が全国各地に大音響で響いていくことを心から願うものである、なぜならば日蓮大聖人が必ずやお待ちになっておられる事を確信するからである。

「日蓮聖人展」に向け

京門連事務局

京都日蓮聖人門下連合会は、今年十月に開催される「日蓮聖人展」を、現状に即応した運営展開が出来るよう、京都門連事務局と十六本山各代表が設置された。この「日蓮聖人展」を成功に結びつけるため、縦横の連携と種々の課題を話し合う事によって、目的成就のレールがしっかりと敷かれる事の願いからである。またこの機会に十六本山はじめ、比叡山横川定光院や、京の法華信仰寺院に一人でも多く祖師の御心に触れていただきたい願いもこめてある。メンバーは次の通りである。

京都日蓮聖人門下連合会「日蓮聖人展」事務局（順不同）

藤井照源（日蓮宗）大川定信（顕本法華宗）赤塚高明（法華宗陣門流）本多信正（法華宗真門流）西本泰然（日蓮宗）風間隋修（日蓮宗）

「日蓮聖人展」十六本山各代表（順不同）

顕本法華宗総本山妙満寺―湯原正純　法華宗真門流総本山本隆寺―足立真正　日蓮宗大本山妙顕寺―原光司　日蓮宗大本山本圀寺―川口智康　本門法華宗大本山本能寺―高橋宏顕　本門法華宗大本山妙蓮寺―音羽隆全　日蓮本宗本山要法寺―原光明　法華宗陣門流本禅寺―三品亮徹　日蓮宗本山妙覚寺―藤岡智健　日蓮宗本山本満寺―大原孝宣　日蓮宗本山本法寺―西本泰然　日蓮宗本山立本寺―三木天道　日蓮宗本山妙博寺―谷口真也　日蓮宗本山頂妙寺―藤井照源　顕本法華宗本山寂光寺―大川定信　本門佛立宗本山宥清寺（未定）である。

設置以後、幾度となく会議を重ね、現在に至っている。各御本山の参拝、御朱印と開催期間中の各本山の予定、マップ作り、スタンプラリー等企画満載である。「立正安国論」奏進七五〇年の機会に、この京の地で開催される「日蓮聖人展」を何としてでも成功するよう努力して行きたい。それが日蓮大聖人に対する報恩感謝の誠である。京門連事務局は皆様方をお待ちしております。おこしやす「日蓮聖人展」へ。

（藤井照源）

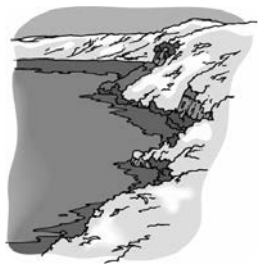
一枚の切符から
国内・海外　団体参拝旅行まで

knt! 近畿日本ツーリスト
カタチにします。ときめき・キラメキ・おもてなし
www.knt.co.jp

団体参拝推進部
〒101-8641
東京都千代田区神田松永町19-2
東京近鉄ビル5F
TEL　03-3255-7953　FAX 03-3255-7630



平成二十一年七月十六日は『立正安国論』奏進七五〇年を迎えます



（平成二十一年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　酒井日慈
宗務総長　小松浄慎
伝道局長　川名義顕
総務局長　張田珠潮
伝道部長　齊藤憲一
教務部長　酒井光雄
総務部長　藤岡暎邦
財務部長　駒野教源
宗務総長室長　長亮行
現代宗教研究所長　田澤元泰
参与　堀江宏正
参与　浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長　垣本孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　大塚日正
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
庶務部長　矢吹慈英
財務部長　加藤信淨

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　島田幸晴
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
社会部長　阿曽久成
布教部長　古瀬久馨
庶務部長　津村乗信

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　椿澤日壽
宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
宗務参事　今井満良

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　嶋田幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　原智功
総務部長　長﨑秀要
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六一
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　田中日生
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　井上隆啓
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　安立修学
主事　山口英泰
〃　笹木研吾

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村頼彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　山田岳隆

宗教法人

国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

総主　田中壮谷
理事長代務　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　仲南良夫
門連理事　石見哲三
「門連だより」編集委員　森山真治

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

会長　永田日洵
副会長　松下日肆
理事長　藤井照源
副理事長　石崎光教

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗（本門流）大本山
光長寺
貫首　石田日信
執事長　久保木学洋
役職員一同
〒410-0011
静岡県岡宮一〇五五
電話　〇五五（九二一）〇四八四
FAX　〇五五（九二一）〇七三六

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中村日玄
総務　島田幸晴
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壮玄
執事　鈴木顕正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　石崎光教
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　原智功
執事　崎秀要
執事　原田智光
執事　光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十四世講宥　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇㈹
FAX　〇七五（四六三）四六五一

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山重須本門寺
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同同　吉田文堯
同　布施慈範
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
執事　髙作泰寛
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

京都八本山会
本山　妙顕寺　貫首　南條日慈
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　頂妙寺　貫首　永田日洵
本山　妙覚寺　貫首　頂岳日選
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　安藤信行
同　伊東隆司
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

「日蓮聖人展」
紅葉の都 京都へ
いまふたたび京都町衆文化が華ひらく



（平成二十一年二月現在）

門連時報

京都理事会開催さる



平成20年11月27日 於 大本山妙蓮寺

平成二十年十一月二十七日（木）本門法華宗大本山妙蓮寺で、「日蓮聖人門下連合会理事会及び京都門下連合会との懇談会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・京都門下連合会代表・大阪門下懇話会代表及び京都門下連合会役員あわせて計五十二名が参加した。

正午に集合し、昼食後、午後一時より松下日肆猊下御導師のもと法味を言上。本堂前にて記念撮影の後、午後二時より客殿にて松下日肆猊下による「妙蓮寺の沿革」を拝聴した後、続いて宝物所蔵庫を拝観し、大変貴重なお話と普段目にすることの出来ない寺宝を拝観する事ができた。

引き続き、午後三時より「京都理事会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、小松浄慎理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。

全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下連合会の行事並びに活動報告があった。また、平成二一年十月より開催される「日蓮と法華の名宝」展に関して本展事務局より進捗状況を報告。京都十六本山の全てより出品して頂くよう要望すると共に、種々意見を交わし、各派各会が一致協力した事業として進めていくことを再確認して、午後四時十分閉会。

会場終了後、場所を京都ブライトンホテルに移して、懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めた。

今回種々お世話いただきました京門連各聖、妙蓮寺の皆様方には厚く御礼申し上げると共に、今後とも門下連合会発展に御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二一・一・一	松下日肆 永田日洵	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二一・一・一	石崎光教 藤井照源	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二一・一・一	藤井照源 石崎光教	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成二一・一・二二	土屋善敬 佐古弘文	法華宗陣門流	常任理事	就任	退任
平成二一・一・二三	佐古弘文 門谷光瑞	法華宗陣門流	理事	就任	退任

本門法華宗管長に就任して



本門法華宗管長　**松下日肆**

平成二十年六月九日、大本山妙蓮寺第百十九世の法燈を継承させていただき、同年六月二十七日、宗会に於いて本門法華宗第十九代管長に推戴、晋山式は十一月二日、京都十六本山の御貫首、執事長、随行の各聖、全門連理事長台下、薬師寺安田映胤管主を始め立正佼成会庭野日鑛会長、叡山山田能裕長老各関係朋友の御来駕を得、門末寺院総出座で準備万端滞りなく晋山の儀を終えましたこと誠に有り難く深く感謝申し上げます。

想えば、大阪妙堯寺信隆日遠猊下（妙蓮寺第八十七世）に随身し幾十有余年、宗門行政の道筋、信仰の象徴としての立場に置された今、善導教化の責任を実行する上で、つくづくと浅学不徳を感じさせられております。

私達には法華経の教えがあり、高祖大士の御教示があります。この教えを基にお題目を戴き勇猛精進の信念を持って努力を重ねて行きたいと念願致しております。

高祖大士が出世ましまして此の大法（お題目）を四海に弘通し給いてより、本年は七五七年。立正安国論奏進七五〇年の慶日を迎え門下連合加盟の各宗派がそれぞれ企画立案され、報恩の「まこと」を捧げられること喜ばしく存じます。

また京都十六本山、京都門連、全国門連が連携して十月十日より十一月二十三日まで、京都国立博物館に於いて、「日蓮と法華の名宝展―華ひらく京都町衆文化―」が開催されます。高祖大士がいかに国の安穏を祈り、私達にご教示下されたかを世に示す折と感じ、我が宗門も幾つかの計画を検討し準備を推進して行く考えであります。

「信心弱くして成仏ののびん時それがしをうらみさせ給うな　譬へば病者に良薬をあたうるに毒を好んでくいぬれば病いえがたき時我が（失）とがとは思わず　かえって医師を恨むが如くなるべし」とは日蓮大士の教え。現代人に多い責任逃れを放人しない。住みよい社会を造るために、宗門は小なりとも異口同音に唱えるお題目の信心は大であります。

宗門並びに妙蓮寺発展の歴史的事実を顕示し、百年の大計を真剣に考へていかねばと思っている次第です。

最後になりましたが門下連合会の益々の発展と緊密な連携に依って栄えますことを祈念致します。

（略歴・教学部長、学院教授、本山財務部長、執事長）（宗外活動・WCRP日本委員会評議員、同委員会非武装和解委員会委員長、保護司、京都ユネスコ協会会員等現）

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　**日蓮宗新聞**　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

法華宗本門流

◆平成二十年九月十七～十八日、第六十二次臨時宗会が宗務院で開催され、宗門法規の全面的再編成について慎重審議をし可決された。

◆平成二十一年二月二十日、第二十二回法華宗教学研究発表大会がキャンパスプラザ京都で開催予定。本年は昨年に引き続き「立正安国論」進覧七五〇年記念特別講演、例年の宗門内教師諸師の研究発表を予定。

◆平成二十一年三月五日、宗門の僧侶養成機関である「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成二十年度卒業式が行われる。卒業生は今まで勉強したことを糧にして、新たな布教の第一線にたつ。

◆古来、門祖日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成二十一年度新入生募集中。

（三浦賢秀）

顕本法華宗

◆平成二十年六月二日～三日、京都総本山妙満寺で「全国布教師研修会」が行われた。

◆八月二十五日～九月八日の十五日間、京都総本山妙満寺において「妙塔学林」開講。受講生は行学二道の修練に励んだ。

◆十月二十八日、千葉東金妙善寺で「東部僧員研修会」開催。十一月十四日、京都総本山妙満寺で「西部僧員研修会」が開催された。

◆十月二日、総本山妙満寺を会場に「西部布教師研修会」が行われた。

◆十一月十五日・十六日の両日、巣鴨法華宗陣門流宗務院で法華宗三派統合協議会「統合学院」が開催された。

◆十一月二十五日～二十六日、京都総本山妙満寺を会場に「什門懇話会」が開催された。その後、会場を「琵琶湖グランドホテル」に移して懇親会が行われた。

◆六月十九日・京都総本山妙満寺で、十一月二十日・千葉大網芳墳寺で、「行法講習会」が開講された。両日とも講師は妙塔学林林長・大川定信師と能化・大森俊栄師。

（小島芳明）

法華宗陣門流

◆九月十一・十二日、中部教区・名古屋において、中央行学講習会が開催された。

◆十一月十四日、布教研究所所報会議が、東京巣鴨・法華宗宗務院会議室において開催された。

◆十一月二十日、宗学研究所所員会が、宗務院会議室において開催された。

◆十一月二十一日、学林教授会が、宗務院会議室において開催された。

◆十一月二十六日、寺録点数見直し委員会が、宗務院会議室において開催された。

◆十二月一・二日、新住職・学生・沙弥合同研修会が、宗務院会議室において開催された。

◆十二月三日、僧階昇級・検定試験が、宗務院会議室において開催された。

◆一月二十二日、第百十次定時宗会が宗務院会議室において開催され、審議の結果、佐古弘文宗務総長が新たに就任し、新内局が発足した。

（松吉慶憲）

本門佛立宗

◆九月十四日、イタリア北部のミラノ近郊の町ヴィラーゼで新組発足記念御講が奉修され、二十名が参詣。イタリアでは昨年、フィレンツェに別院が設立され、北部中心に信徒が増えている。

◆十月十二日、本山宥清寺で高祖会が四座に亘って奉修され、全国からの参詣で賑わった。前日には平成二十年度の定期昇叙者に対する叙任式が行われ、権大僧正以下十九師が辞令を拝受した。

◆本山高祖会の式典に続き、本山宥清寺の大屋根瓦葺き替えと御宝蔵新築工事を実施する「平成の大改修、起工言上」が、講有日誠猊下より行われた。現在の本堂は、昭和六年建立の本格的な木造建築で、今回は約六億円の予算をかけ、一年の工期で改修する。

◆十月十九日、スリランカのコロンボ国際会議場で「スリランカ開教十周年記念法要」が奉修され、日本からは宗務副総長・梅田日芳師以下記念団参を実施。現地信徒千六百名が参詣した。

◆十一月十五日、佛立研究所の公開講演会が札幌信廣寺で開催された。今回は関西大学社会学部教授の木村洋二先生をお招きし、「笑いを科学する」という演題で講話をいただいた。

（吉田淳崇）

法華宗真門流

◆九月二十七日、福泉寺（大阪市）に於いて、第一教区仏教文化講演会が開催され、「笑う門には福来る」と題して、医師松村高勝氏の講演があった。

◆十月二十日～二十二日、「安国論奏進、伊豆法難七百五十年に向けて」と題して、第二教区主催護法会「合掌の旅」が開催され、百二十名の参加があった。

十月五日～十四日、総本山本隆寺に於いて秋季学林（辻本寛孝学林長）が開講された。

十月十二～十三日、総本山本隆寺に於いて「お会式」が奉修され、多くの参詣者が集まった。十二日には「三宝尊奉安四百年、本堂・祖師堂再建三百五十年記念法要」と「高祖日蓮大菩薩御逮夜法要」が、十三日には、「高祖日蓮大菩薩御正当命日法要」が厳修され、引き続き、新説式（初転法輪）が挙行された。

◆十二月四日～五日、「平成二十年度定期宗会」が開催され、平成二十年度歳入歳出予算案、並びに学林長、布教師養成所所長、布教師、権大僧正の推薦など、諸案件について審議された。

◆一月一日～八日、総本山本隆寺に於いて年頭国祷会が修され、法華八講が催された。

（森田量哲）

本門法華宗

◆二十年十月十二～三日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於て、高祖日蓮大菩薩の御会式法要が厳修された。十二日逮夜法要には万灯点灯。十三日に祥当会、普びに檀信徒志霊法要が厳修された。両日境内にて、てづくり市、フリーマーケットが開催された。

◆同十一月二日、大本山妙蓮寺第百十九世貫首松下日肆猊下の晋山報告法要が奉修された。松下新貫首は、六月九日に推戴され、同二十九日に本門法華宗管長に就任された。式典には宗内外より多数の関係者が参列した。会場を京都ホテルオークラに移して祝賀会が開催された。

◆十一月十二日、御開山日像菩薩御報恩法要並日慶日忠日応上人三師会並歴代上人年忌法要が奉修された。

◆本門法華宗会議員選挙が十二月六日付で、藤井日靖宗務総長より発令され、二十五日付で三区十一名の宗会議員が決定した。

◆本門法華宗学院では、渡辺日恩学務部長が学院長を代行。第百二十六回教学講習会を九月五、六日、第百二十七回同会を十一月二十八、九日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。

◆同布教部より、布教誌『生きる』第五十一雪華号、信報『信行』第百七十号を各々平成二十一年一月一日付で発行。

（木村光昭）

国柱会

◆平成二十年十一月三日、明治節慶讃法要。賽主先生以下有志による明治神宮参拝。

十一日、小松原法難会慶讃法要。

十四日、臨時理事会。十五日、午後一時から本部講堂にて全国協議員会。午後七時より妙宗大霊廟各局輪番給仕。十六日、第七十遠忌逮晨・恩師師子王院智学日謙大居士報恩大会・妙宗大霊廟例月供養会。午後七時から恩師・師子王院智学日謙大居士御逮夜法要。十七日、田中智学先生第七十遠忌報恩法要。

◆十二月十日、田中芳谷先生第三十六回忌追善法要。十三日、ロータスヴィラ合同慰霊祭。

十七日、恩師忌。常勤給仕。二十日、各局輪番常勤給仕。理事会。

二十一日、妙宗大霊廟第九百六十七回例月供養会。憶年会。二十三日、天長節慶讃法要。二十五日、大正天皇祭。二十九日、御用納め。

三十一日、福茶の会。送旧迎新式。

◆平成二十一年一月一日、元旦大国祷・新年拝賀式・神酒拝戴式。同日午後、国柱会有志による明治神宮本殿参拝。

（森山真沿）

日本山妙法寺

◆十月十三日～二十七日、英国平和巡礼（ロンドン～オルダーマストン核兵器工場）。

◆十月十四日～二十八日、アメリカ第四回シェルマウンド巡礼に参加。

◆十月十五日～二十八日、沖縄平和祈念行脚。

◆十月十九日、インド国ダージリン仏舎利塔十六周年法要。十月二十五日、インド国王舎城仏舎利塔三十九周年法要。

◆十一月一日、インド国、ニューデリー仏舎利塔一周年法要。

◆一月九日、藤井日達上人第二十五回忌御報恩法要、熱海道場。

「人々よよ、闇の深きを怖るるな。そは、やがて夜の明けんとする前兆である。夜は明けた、年は改まった、春は来た。我々は広野の若草のごとく柔軟に、梢にさえぐ小鳥のごとく明らかに、金光明鼓を撃って平和の祈り、希望の歌を大音声に唱いましょう。藤井日達」

（牧野行暉）

京門連

◆十月三日（金）御会式奉行委員会（大本山妙蓮寺）、御会式の準備（万灯の搬入・組立）

◆十月四日（土）御会式（大本山妙蓮寺）

導師・大本山妙蓮寺貫首松下日肆猊下

講師・立正大学教授北川前肇先生

講師・幸人間研究所早川一光先生

◆十一月二十七日（木）全門連京都理事会（大本山妙蓮寺）

◆十二月十九日（金）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）

◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）

平成二十年度会務行事報告

平成二十年度決算の件

平成二十一年度予算案の件

平成二十一年度役員確認の件

平成二十一年度会務行事の件

平成二十一年度総会の件

平成二十一年度降誕会の件

京門連会則変更の件

《今後の予定》

◆二月十六日（土）午後一時　京門連総会（本山本法寺）

平成二十一年度役員確認の件

平成二十一年度会務行事の件

平成二十年度決算の件

平成二十一年度予算案の件

平成二十一年度総会の件

平成二十一年度降誕会の件

京門連会則変更の件

◆同　二時三〇分　降誕会（本山本法寺）

導師　本山本法寺貫首　大塚日行猊下

講師　大本山妙蓮寺貫首　松下日肆猊下

◆三月九日（月）午後四時　理事会（京一宗務所）

立教開宗会の件

夏季大学の件

◆四月二十八日（火）立教開宗会（比叡山横川定光院）

導師　本山頂妙寺貫首　永田日洵猊下

講師　法華宗（予定）

◆六月九日（火）午後四時　理事会（京一宗務所）

夏季大学の件

◆八月二十九日（土）午前十時　第四十五回夏季大学（本能寺文化会館）

講師（本山）日蓮宗本山妙覚寺貫首　頂岳日選猊下

講師（大学）中尾堯（立正大学教授）予定

講師（一般）嵐圭史（前進座）

◆同日　午後四時　理事会（本能寺文化会館）

お会式の件

◆十月二日（金）午後三時　お会式準備奉行委員会（本山頂妙寺）

お会式準備

行脚、法要等打ち合わせ

◆十月三日（土）午後一時　お会式（本山頂妙寺）

導師　本山頂妙寺貫首　永田日洵猊下

講師　法華宗本山貫首猊下

◆十一月　全門連京都理事会（本山妙覚寺）

日蓮聖人門下連合会京都理事会

懇親会　別席

◆十二月十八日（金）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）

◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）

平成二十一年度会務行事報告

平成二十一年度決算中間報告

（藤井照源）

日蓮宗

◆総本山身延山久遠寺で五月十三日～十七日の五日間、五重塔の落慶式が営まれる予定。

◆日蓮宗では『立正安国論』奏進七五〇年を記念して六月八日、神奈川県の本山妙本寺で「鎌倉大法要」、同月十日には千葉県の大本山法華経寺で「中山大法要」が行われる予定。

（大澤宏明）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成21年9月23日
第40号

「立正安国論」奏進七五〇年記念　「日蓮と法華の名宝」展特集号

「日蓮と法華の名宝」展開催!!

―華ひらく京都町衆（まちしゅう）文化―

●期間　平成21年10月10日～11月23日　●会場　京都国立博物館

本年十月十日より京都国立博物館において「日蓮と法華の名宝」展が開催されるのは既報の通りだが、このたび京都と東京において記者発表会が行われ、広く一般への広報が始められた。京都では、六月三十日午後二時より京都国立博物館に二十三社、三十六名の記者を集めて発表が行われた。まず担当学芸員より、報道資料に基づいて本展概要及び資料掲載の出展宝物についての説明があり、それを受けて記者から何点かの質問がなされた。その後、展示室に移動し、実際に展示されている数点について拝観しながら各社による取材が進められた。中でも注目を集めたのは本展覧会の事前調査中新たに発見された高麗仏画「弥勒下生変相図」（顕本法華宗妙満寺蔵）である。報道資料等によると、釈尊の御入滅後五十六億七千万年を経て龍華樹の下で悟りを開かれる弥勒仏と、両親である王と王妃がその説法を聴聞して出家をされる場面が描いてあり、現存する高麗仏画の中では世界で三番目に古く更に宮廷画家の作とわかるものでは最古のものであるとのことである。

特に今まで存在が知られていなかった「画文翰署」という宮廷画家の組織に所属する最高級画家である李晟が画いた点について京博の大原嘉豊学芸員は「高麗の宮廷画家組織の存在を明らかにし、高麗仏画史を塗り替える重要文化財級の発見」としている。

その他「餓鬼腹茶入」（日蓮宗本圀寺蔵）は、足利尊氏から本圀寺第四世日静上人に送られたと伝えられる中国製の名物茶入れである。

また、「絵曼荼羅」（日蓮宗妙傳寺蔵）は、長谷川等伯がまだ能登にあり信春と称していた頃の作であり、これは越中本顕寺の日恵上人の需めに応じて画かれたものとされるが日蓮聖人のもとに日朗上人と日像上人が描かれているのが興味深い。

記者発表の翌日には、共催の日本経済新聞全国版を始めとして、各紙の関西版には新発見を中心に報道がなされ、反響の大きさを物語っていた。

一方東京での記者発表は、七月二日午後二時より有楽町の日本外国特派員協会を会場に行われた。当日は雨模様の天気にもかかわらず五十社、六十六名の媒体が出席し、本展が関東においても大きな関心を持たれていることが伺えた。

門下連合会からは小松浄慎理事長、京都国立博物館からは大原嘉豊学芸員、尾野善裕工芸室長の両名、日本経済新聞社からは山脇晴子文化事業局長が出席し、小松理事長挨拶の後両学芸員からの概要説明が行われた。東京では実物を展示することは出来ないためプロジェクターを使っての説明であったが多くの記者が熱心に耳を傾けていた。

さて、今回新発見の高麗仏画「弥勒下生変相図」が画かれたのは、元を建国したフビライ・ハンの最晩年期にあたる一二九四年だが、日像上人が京都で布教を始められたのも同じ一二九四年。恰も日像上人の帝都弘通にあわせるかのように画かれた弥勒仏が、立正安国論奏進七五〇年の記念の年に同じ京都の地で見出されたことは、単なる偶然なのだろうか。

釈尊出世の本懐である法華経を「最第一」と弘教された日蓮聖人と日像上人の魂魄が、七〇〇年の時を超えて京都に法華の道場を涌出される為の必然だったのではないかと思えてならない。であるならば門下僧俗は勿論のこと、出来るだけ多くの未聞の方々に京都国立博物館という道場にお出で頂き、法華経信仰への結縁を願うものである。

平成十五年初頭に東京国立博物館において開催された「大日蓮展」では、厳冬期でありながら十五万人を超える人々が来場されたが、それは、日常生活の中にあって葬儀や法要といった場面でしか仏教と接し得ない多くの現代人にとり、「大日蓮展」が法華経美術や文化を通して真の仏教とふれあい、自身の心を安らぎで満たしていく貴重な機会であったからに他ならない。

本展が再び多くの方々に取りその機会となることを期待するものである。

「日蓮と法華の名宝」展を開催するにあたり

日蓮聖人門下連合会理事長
小松浄慎



今年の十月十日から十一月二十三日まで、京都国立博物館に於きまして立正安国論七五〇年記念特別展「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化」が開催されるにあたりまして一言御挨拶申し上げます。

日蓮聖人が『立正安国論』を奏進され七百五十年という節目の年に、歴史ある京都の地において「日蓮と法華の名宝展」が開催されますことは、門弟一同喜びに堪えない所であります。

顧みますと、平成十五年に東京国立博物館にて開催されました「日蓮聖人展」は大成功のうちに幕を下ろし、未信徒の方々にも法華経との縁を結んで頂きましたことは、大変喜ばしいことであります。また、混迷する社会に対し、門下連合会と致しましては、日蓮聖人の大誓願である立正安国・仏国土顕現の実現に向け、法華経、お題目を社会に広めて行くことがその使命であると確信している次第であります。

日蓮聖人門下連合会においては、生きとし生けるもの全てが安穏に過ごせる社会の実現に向け、一人ひとり邁進していかなければなりません。

結びに、「日蓮と法華の名宝」展が開催されるにあたりご尽力を賜りました日蓮聖人門下連合会の各聖各位は、衷心より感謝申し上げ、この展覧会が皆様方と異体同心して無事に円成致しますことを祈念し御挨拶と致します。



平成21年7月2日「記者会見」・日本外国特派員協会にて

従地ゆじゅつ

◆わが日本列島では一年間に三万人余の人が自殺しているという。鳥やけものや樹木や花が、自らで自らの命を殺（た）つとは聞かないから、人間とは自然環境とかけ離れた自我の生活をしているものだと思う。

◆明治維新の時、日本は仏教を棄てて西洋文明を受け入れた。以来、科学文明は急速に発展したが、諸法無我を説く仏教文化を失ったとはいえないか？

◆オバマ大統領が誕生する少し前に小子はアメリカにいた。自国の武力一辺倒の国策に反対していた人々は熱狂的に新大統領の誕生を喜んだ。

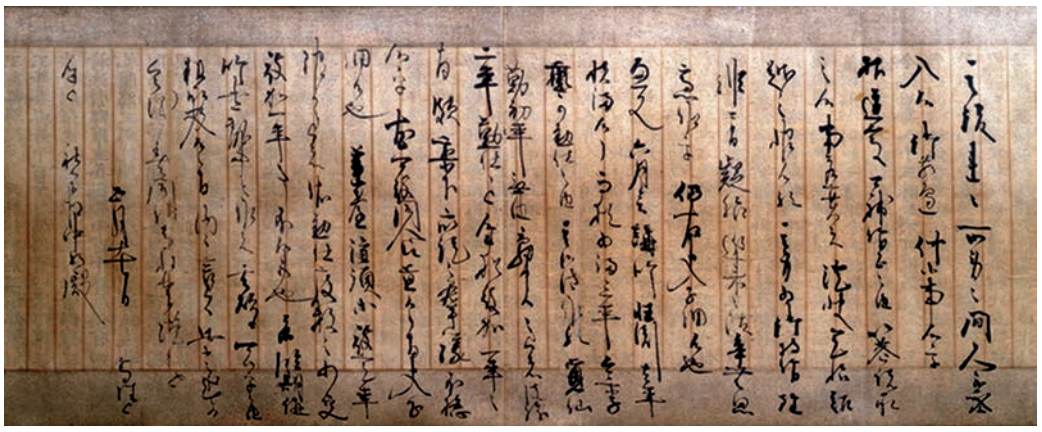
◆が、その大統領もアフガニスタンに増兵してテロリストをせん滅するという。一方「アメリカこそが世界最大のテロ国家だ」と侵略され、虐殺されたと信ずる人々は怒る。

◆もし人間ばかりか鳥やけものや山川草木までもが、縁（えにし）に由って結ばれあって共存共生しているとするならば、人間の欲望至上主義の哲学　宗教　国家は自から亡びの道を歩まねばならない。

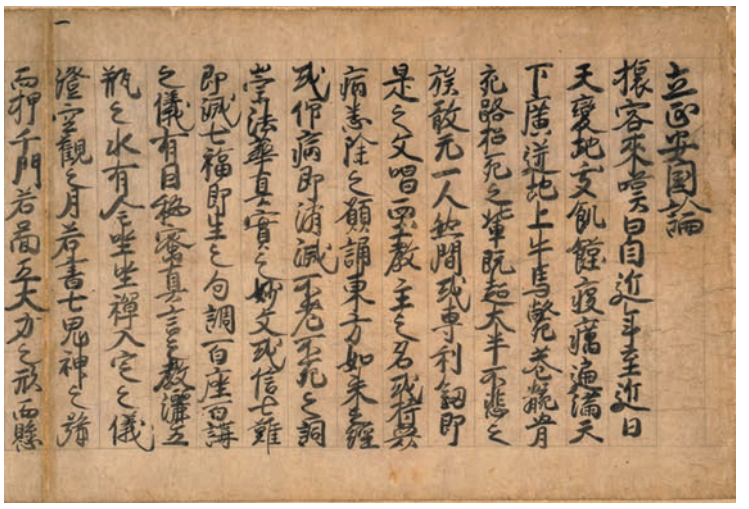
◆お釈迦さまの前世の物語には一切衆生を救わんが為に捨身供養した説話が累々（るいるい）とつづられている。暴力、武力からの解脱。

◆われらもまた大音声に南無妙法蓮華経とお唱え申し上げて、怨親平等にお互いの仏さまを拝み合うこと。これが絶対平和を創造する如来秘密神通の力ではなかろうか。

（暉）



法華経　紙背尊性法親王消息（鎌倉時代）尊性法親王筆
南・北真経寺



立正安国論（鎌倉時代、文永六年、1269年）　日蓮筆　法華経寺



弥勒下生変相図（高麗時代・1294年）
李晟筆　妙満寺

初公開!!

日蓮と法華の名宝

～華ひらく京都町衆文化～



日蓮坐像（鎌倉時代）院興作　妙覚寺



日蓮聖人坐像（元弘元年、1331年）　法華寺



絵曼荼羅（室町時代、永禄11年、1568年）長谷川等伯筆　妙傳寺

記者会見資料より

大本山 正中山 法華経寺蔵 国宝『立正安国論』奏進七五〇年記念企画のご案内

宗祖ご聖筆「立正安国」扁額



※写真はAタイプになります

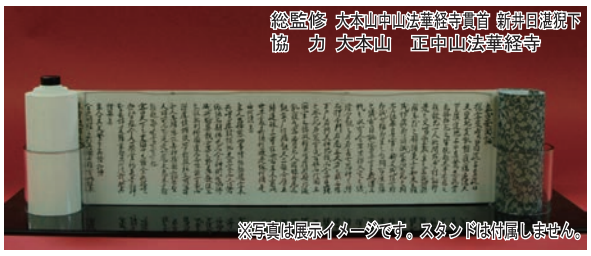
A 寺院向・特注品 サイズ 天地42.4cm×幅136.3cm
頒布価格 200,000円（税込・〒1,050円）
仕立　額縁　黒艶有カシュー漆仕上、アクリル樹脂板付
総縁　貴船緞子　（茶金・牡丹柄）
使用緞子　外廻　合金襴「納戸つば型蜀江紋」
中廻　新金襴「朱大橙雲」

B 寺院向 サイズ 天地36.3cm×幅115.1cm
頒布価格 100,000円（税込・〒1,050円）
仕立　額縁　黒艶有カシュー漆仕上、アクリル樹脂板付
使用緞子　外廻　合金襴「納戸八釜牡丹紋」
中廻　新金襴「朱大橙雲」

C 家庭・一般向 サイズ　天地26cm×幅80cm
頒布価格 38,000円（税込・〒1,050円）
仕立　額縁　黒艶有カシュー漆仕上、アクリル樹脂板付
使用緞子　外廻　合金襴「貴船緞子」
中廻　新金襴「朱大橙雲」

大本山正中山法華経寺恪護 日蓮聖人ご真筆
国宝『立正安国論』（縮刷版）

頒布価格 12,600円
（税込・〒別）
サイズ　天地11cm×全長607cm
（巻いた状態での幅・約4cm）
仕立　草花小紋
鳥の子紙使用
軸先　花梨
桐箱入



※写真は展示イメージです。スタンドは付属しません。

総監修　大本山正中山法華経寺貫首 新井日湛猊下
文字監修　東京都新宿区戒行寺住職 星　弘道　師
協　力　大本山正中山法華経寺
企　画　株式会社　日蓮宗新聞社

本扁額は、宗祖日蓮聖人のご真筆『立正安国論』より集字拡大して横に配列したものです。
上質な鳥の子紙（斐紙）を使用し、丁寧に本表装を施しました。

㈱日蓮宗新聞社　〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3 TEL03-3755-5271/FAX03-3753-7028

※注文よりお届けまで2週間ほどかかります

門連時報

身延理事会開催さる

平成二十一年五月二十五日（月）日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会代表など計十四名が参加した。

午前十一時に日蓮聖人御廟所常唱殿に集合し、祖廟及び御草庵にて法味言上及び記念撮影。続き、大本堂に移動し法味言上の後、報恩閣に移動。午後一時半より理事会が開催された。

小松浄慎理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。先に「平成二十年度事業報告」を事務局より報告。常任理事会・理事会・監査の開催、「門連だより」発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更、祖廟輪番の報告がなされ、続いて、「平成二十年度決算」について事務局より報告の後、別所日山監査より監査会の報告がなされ承認。

次に、「平成二十一年度事業計画」を事務局より報告。祖廟参詣、理事会開催、「門連だより」の年二回（第四十号・第四十一号）の発行について事務局より説明し、続き、「平成二十一年度予算案」についての報告がなされ、前年度の身延理事会で決定された各派分担金の増額による予算案の変更、「日蓮聖人御降誕八百年事業資金」より三百万円を特別会計として本年開催の『立正安国論』奏進七百五十年記念特別展「日蓮と法華の名宝」展事業費として計上することが提案され承認。

次に、京都門下連合会理事長藤井照源理事長及び大阪門下懇話会中村日游理事長より活動報告がなされた。

次に、「日蓮と法華の名宝」展の進捗状況を日蓮宗生駒雅幸担当より報告、各派に本展への協力を要請すると共に、六月三十日京都国立博物館・七月二日日本外国特派員協会（プレスクラブ）にて記者会見が行われることが報告された。午後三時に閉会。

会場を日本平ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催、会員相互の親睦を深めた。



平成21年5月25日 於 身延山久遠寺

立教開宗会奉行
比叡山横川定光院本堂にて
京都日蓮聖人門下連合会

京都日蓮聖人門下連合会（藤井照源理事長）では四月二十八日、比叡山横川定光院で宗祖立教開宗会を開催し、門下連合各派本山貫首と僧侶檀信徒約百三十人が参加した。

晴天の中、バス二台で京都市の本山頂妙寺を出発し、一同は法要は京都門連会長の永田日洵京都市本山頂妙寺貫首を導師、藤井理事長、石崎光教副理事長（本門法華宗）を副導師に、比叡山当局、各本山貫首等を来賓に迎え、厳かに行われた。永田貫首は、九十四歳とは思えぬしっかりとした口調で報恩回向を読み上げられた。

続いて、比叡山の武覚超執行（しぎょう）が祝辞を述べ、閉会にあたり藤井理事長がお礼の挨拶をした。その後、大原三千院を散策し、春の息吹きを満喫した。

（藤井照源）



▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二一・三・一一	阿曽久成 朝倉俊幸	顕本法華宗	理事	就任	退任
平成二一・三・一一	島田幸晴 古瀬久馨	顕本法華宗	理事	就任	退任
平成二一・七・二六	原　智功 原　光承	日蓮本宗	常任理事	就任	退任
平成二一・三・三一	和田龍昌 中村日游	大阪門下懇話会	理事長	就任	退任

良書紹介



日蓮聖人略伝
相澤宏明著

日蓮聖人の人格や宗教については、現在のわが国およびわが国が置かれている世界情勢を視野に入れつつ検討しなければ意味がない。本書は聖人の再評価をめざし、独自の方法論でアプローチする聖人研究の入門書。

発行・展転社／新書並製／1050円（税込）

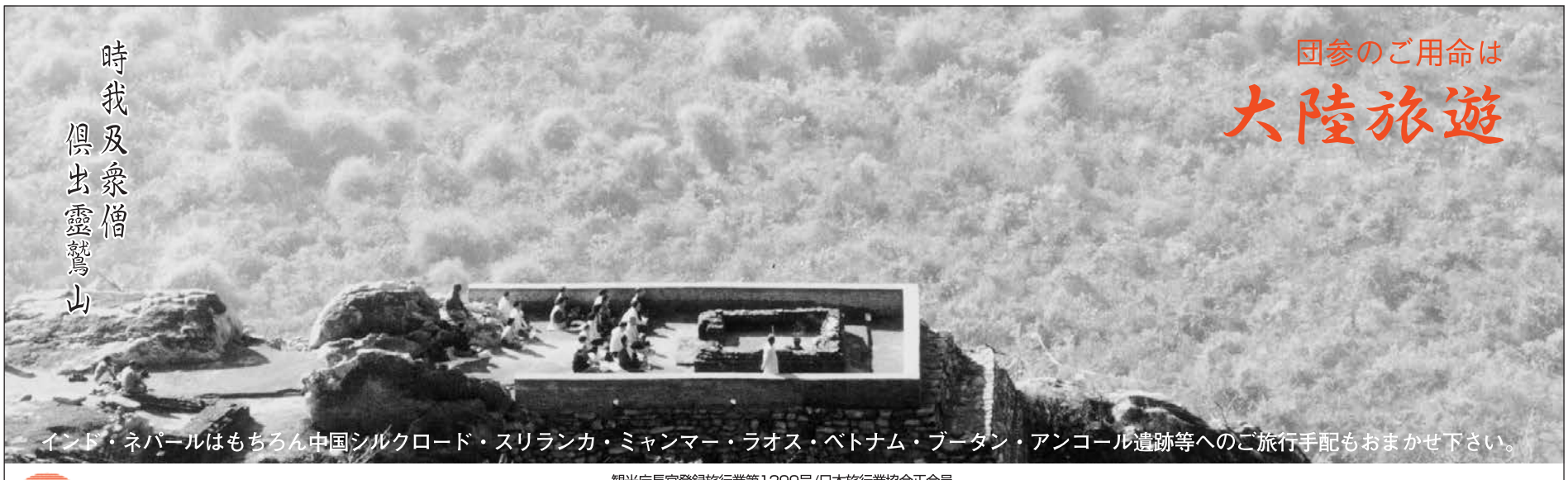


団体参拝をはじめ、
ご旅行のご相談と手配は
JTBグループに
お任せください。

ホームページ　http://www.jtb.co.jp

『日蓮と法華の名宝』展　出品リスト

確定No.	展示テーマ	指定	作品名	制作年代	世紀	作者 筆者	員数	所蔵者	展示 前期	展示 後期	展示 備考
1	法華文化の展開	重文	紫紙金字法華経并開結　巻第八	平安時代	11		一巻　十巻のうち	本法寺	●		
2	法華文化の展開	重文	法華経并観普賢経（藍紙本）　巻第一	平安時代　寛治元年（1087）移点奥書	11		一巻　七巻のうち	立本寺		●	
3	法華文化の展開	重美	法華経并開結　巻第六・観普賢経	平安時代　久寿三年（1156）	12		二巻　十巻のうち	霊友会妙一記念館	●	●	
4	法華文化の展開	重文	一字宝塔法華経并観普賢経　巻第六	平安時代	12		一巻　九巻のうち	本満寺	●		
5	法華文化の展開	重文	法華経開結共　巻第一	平安-鎌倉時代	12-13		一巻　十巻のうち	本隆寺		●	
6	法華文化の展開	重文	法華経　巻第一 伏見天皇宸翰、紙背後深草天皇宸翰消息	鎌倉時代	14		一巻　八巻のうち	妙蓮寺	●		
7	法華文化の展開	重文	金字法華経　巻第五　巻首伏見天皇宸翰	鎌倉時代	14		一巻	妙顕寺		●	
8	法華文化の展開		法華経　巻第一　伝伏見天皇宸翰	室町時代	14-15		一巻　八巻のうち	本興寺	●		
9	法華文化の展開	重文	法華経　巻第六　紙背寛性法親王消息	鎌倉時代	14		一巻　八巻のうち	本禅寺		●	
10	法華文化の展開	重美	法華経　巻第一・第二・第六・第八	鎌倉時代　正応五年（1292）刊記	13		四巻　八巻のうち	霊友会妙一記念館	●	●	
11	法華文化の展開	重文	法華玄論　巻第十	奈良-平安時代	8-9		一巻　十巻のうち	本隆寺	●		
12	法華文化の展開	重文	花園天皇宸翰消息	南北朝時代　暦応二年（1339）	14		一幅	本能寺	●	●	
13	法華文化の展開	重文	法華経要文和歌懐紙	南北朝時代　文和三年（1354）	14	光厳天皇宸翰他	一巻	妙満寺		●	
14	法華文化の展開	重文	法華経宝塔曼荼羅図　第一・第二・第三・第八幅	鎌倉時代	13		四幅　八幅のうち	立本寺	●	●	
15	法華文化の展開	重文	金銅蓮華唐草文透彫経箱	室町時代　天文二十四年銘（1555）	16		一合	要法寺	●	●	
16	法華文化の展開		蓮池輪宝沈金経箱	室町時代	16		一合	長源寺	●	●	
17	法華文化の展開	重文	法華経曼荼羅図　第三幅（譬喩品）　第五幅（薬草喩品）　第十一幅（見宝塔品）　第十七幅（不軽品・神力品）	鎌倉時代 嘉暦元－三年（1326-28）	14		四幅　二十一幅のうち	本法寺	●	●	
18	法華文化の展開	重美	仏涅槃図	室町時代	14	足利持氏在判	一幅	妙立寺	●		
19	法華文化の展開		十六羅漢図　第六跋陀羅尊者・第十一囉怙羅尊者	南北朝時代	14		二幅　十六幅のうち	本満寺	●	●	
20	法華文化の展開		十六羅漢図	南北朝時代	14		四幅　十六幅のうち	本隆寺	●	●	
21	法華文化の展開	重美	釈迦三尊・羅漢図	南北朝－室町時代	14	詫間栄賀筆	二幅	京都国立博物館	●	●	
22	法華文化の展開		天台大師像	南宋時代	13	張思本筆	一幅	本圀寺	●		
23	法華文化の展開		出山釈迦図	元時代	14	伝張思恭筆	一幅	本圀寺		●	
24	法華文化の展開		華厳説相図	朝鮮時代	16		一幅	本圀寺		●	
25	法華文化の展開		弥勒下生変相図	高麗時代　至元三十一年／忠烈王二十年（1294）	13	李晟筆	一幅	妙満寺	●	●	
26	法華文化の展開	重文	釈迦如来坐像	南北朝時代　延文三年（1358）	14	康俊作	一躯	妙圀寺	●	●	
27	法華文化の展開		釈迦如来坐像	鎌倉時代	12-13		一躯	本法寺	●	●	
28	法華文化の展開		聖観音立像	平安時代	12		一躯	瑞光寺	●	●	
29	法華文化の展開		釈迦・多宝如来坐像	南北朝時代　貞治五年（1366）	14	定慶作	二躯	本圀寺	●	●	
30	法華文化の展開		釈迦如来立像	鎌倉時代	13		一躯	本法寺	●	●	
31	法華文化の展開		九名神立像	南北朝時代	14		一躯	本圀寺	●	●	
32	法華文化の展開		三十番神像	室町時代	15		一幅	談山神社	●	●	
33	法華文化の展開		三十番神像	室町時代	15	日親賛	一幅	本法寺	●	●	
34	法華文化の展開		三十番神像	室町時代	15	日親賛	一幅	妙満寺	●		
35	法華文化の展開		三十番神像	桃山時代	16		一幅	頂妙寺		●	
36	法華文化の展開		三十番神像	桃山時代　天正四年（1576）	16	日重賛	一幅	本満寺	●		
37	法華文化の展開		三十番神像	桃山時代	16		一幅	本圀寺		●	
38	法華文化の展開		神道深秘伝	室町時代　永禄三年（1560）	16	吉田兼右筆	一巻	頂妙寺	●	●	
39	法華文化の展開		吉田兼右書状	室町時代	16		一幅	頂妙寺	●	●	
40	法華文化の展開		神道私鈔	江戸時代	17		一冊	頂妙寺		●	
41	法華文化の展開	重文	日弁起請文（「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　暦応三年（1340）	14		一通　一巻のうち	妙顕寺	●		
42	法華文化の展開	重文	番神問答（「妙顕寺文書」のうち）	桃山－江戸時代	17		一巻	妙顕寺	●	●	
43	法華文化の展開		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　弘安元年（1278）	13		一幅	本圀寺	●		
44	法華文化の展開		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　弘安元年（1278）	13		一幅	本圀寺		●	
45	日蓮とその時代		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　建治元年（1275）	13		一幅	妙顕寺	●	●	
46	法華文化の展開		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　建治二年（1276）	13		一幅	本満寺	●	●	
47	法華文化の展開		日輪曼荼羅本尊	南北朝時代　康永三年（1344）	14		一幅	妙光寺	●		
48	法華文化の展開		日像曼荼羅本尊	南北朝時代	14		一幅	妙顕寺		●	
49	法華文化の展開	重文	十界勧請大曼荼羅（絵曼荼羅）	鎌倉時代	14		一幅	妙法華寺	●		
50	法華文化の展開		絵曼荼羅	南北朝時代　延文二年（1357）	14	大覚妙実署判	一幅	法華寺		●	
51	法華文化の展開		宝塔絵曼荼羅	鎌倉時代	14		一幅	本法寺	●		
52	法華文化の展開		宝塔絵曼荼羅（法華曼荼羅）	室町時代	14		一幅	奈良国立博物館		●	
53	法華文化の展開		釈迦三尊十羅刹女像	室町時代	15		一幅	立本寺	●	●	



観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員
株式会社 大陸旅遊
大陸旅遊 Tairiku Tours & Leisure co., LTD.
TEL 03-3376-2511　FAX 03-3376-5280　http://www.tairikuryoyu.co.jp　mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp
●東京本社 〒160-0023　東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

確定No.	展示テーマ	指定	作品名	制作年代	世紀	作者 筆者	員数	所蔵者	展示		
									前期	後期	備考
54	法華文化の展開		本成寺本尊供養日記	鎌倉時代　永仁六年（1298）	13	日印筆	一巻	本成寺	●	●	
55	法華文化の展開		絵曼荼羅	室町時代	15-16		一幅	本成寺	●	●	
56	法華文化の展開		絵曼荼羅	桃山時代　永禄十一年（1568）	16	長谷川等伯	一幅	妙傳寺	●	●	
57	法華文化の展開		一遍首題	室町時代	16		一幅	大法寺	●	●	
58	法華文化の展開	重文	釈迦多宝如来像	室町時代　永禄七年（1564）	16	長谷川等伯筆	一幅	大法寺	●		
59	法華文化の展開	重文	鬼子母神十羅刹女像	室町時代　永禄七年（1564）	16	長谷川等伯筆	一幅	大法寺		●	
60	法華文化の展開	重文	三十番神像	室町時代　永禄九年（1566）	16	長谷川等伯筆	一幅	大法寺		●	
61	法華文化の展開	重文	日蓮像	室町時代　永禄七年（1564）	16	長谷川等伯筆	一幅	大法寺	●		
62	法華文化の展開		日経曼荼羅本尊及上臈同乳母追善供養像	江戸時代　慶長十七年（1612）	17		一幅	妙満寺	●	●	
63	日蓮とその時代	重文	日蓮像	鎌倉時代	14		一幅	妙法華寺		●	
64	日蓮とその時代		天台大師・伝教大師・日蓮聖人像	江戸時代	17	狩野永納筆 元政・慧明賛	三幅	妙顕寺	●		
65	日蓮とその時代		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　弘安三年（1280）	13		一幅	妙法華寺		●	
66	日蓮とその時代		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　文永十一年（1274）	13		一幅	妙満寺	●		
67	日蓮とその時代		日蓮曼荼羅本尊	鎌倉時代　建治元年（1275）	13		一幅	妙顕寺	●	●	
68	日蓮とその時代		五輪九字明秘密義釈	鎌倉時代　建長三年（1251）	13	日蓮筆	一帖	法華経寺	●	●	
69	日蓮とその時代		三教指帰注抄 巻上	平安-鎌倉時代	12-13		一帖	法華経寺	●	●	
70	日蓮とその時代	国宝	立正安国論	鎌倉時代　文永六年（1269）	13	日蓮筆	一巻	法華経寺	●	●	
71	日蓮とその時代		蓮池蒔絵三重箱	正保三年（1646）	17		一合	法華経寺	●	●	
72	日蓮とその時代		日蓮消息断簡	鎌倉時代	13		一幅	頂妙寺	●	●	
73	日蓮とその時代	重文	神国王書　天巻	鎌倉時代	13	日蓮筆	一巻	妙顕寺	●		
74	日蓮とその時代	重文	盂蘭盆御書	鎌倉時代	13	日蓮筆	一巻	妙覚寺		●	
75	日蓮とその時代		一代五時図	鎌倉時代	13	日蓮筆	一巻	本圀寺	●		
76	日蓮とその時代		守護国家論　奥書後土御門天皇宸翰	室町時代	15		一巻	長源寺		●	
77	日蓮とその時代		日蓮坐像	鎌倉時代	13-14		一躯	本満寺	●	●	
78	日蓮とその時代		日蓮坐像	鎌倉-南北朝時代	14	院興作	一躯	妙覚寺	●	●	
79	日蓮とその時代		日蓮坐像	鎌倉時代　元弘元年（1331）	14		一躯	法華寺	●	●	
80	日蓮とその時代		日蓮坐像	室町時代　文明五年（1473）	15		一躯	十林寺	●	●	
81	日蓮とその時代		日蓮聖人註画讃　巻第一・第四・第五	室町時代　天文五年（1536）	16	窪田統泰筆	三巻　五巻のうち	本圀寺	●	●	
82	日蓮とその時代		日蓮上人龍之口法難図	江戸時代　寛文十三年（1673）	17	狩野探幽筆	一幅	本法寺		●	
83	日蓮とその時代		日蓮入滅図	江戸時代	18		一幅	ハーバード大学 燕京図書館	●	●	
84	日蓮とその時代	重文	日朗書状（「妙顕寺文書」のうち）	鎌倉-南北朝時代	14		一幅	妙顕寺	●		
85	京都開教と西国への展開	重文	日朗遺骨分与状并一味同心連署起請文 （「妙顕寺文書」のうち）	鎌倉時代　元応二年（1320）	14		一巻	妙顕寺		●	
86	京都開教と西国への展開	重文	日像書状 （「妙顕寺文書」のうち）	鎌倉時代	14		一通　一巻のうち	妙顕寺	●		
87	京都開教と西国への展開	重文	日像置文（「妙顕寺文書」のうち）	鎌倉時代	14		一通　一巻のうち	妙顕寺		●	
88	京都開教と西国への展開	重文	後醍醐天皇綸旨 （「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　建武元年（1334）	14		一幅	妙顕寺	●		
89	京都開教と西国への展開	重文	後光厳天皇綸旨（「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　延文二年（1357）	14		一幅	妙顕寺		●	
90	京都開教と西国への展開	重文	足利直義御判御教書 （「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　建武三年（1336）	14		一通　一巻のうち	妙顕寺	●		
91	京都開教と西国への展開	重文	足利義詮御判御教書（「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　貞和六年（1350）	14		一通　一巻のうち	妙顕寺		●	
92	京都開教と西国への展開		日像像	南北朝時代	14	大覚妙実在判	一幅	妙顕寺	●	●	
93	京都開教と西国への展開		白地蓮牡丹唐草文様横被	南北朝時代	14	伝日像所用	一肩	妙顕寺	●	●	
94	京都開教と西国への展開	重文	日輪書状 （「妙顕寺文書」のうち）	鎌倉時代	14		一通　一巻のうち	妙顕寺	●	●	
95	京都開教と西国への展開		伝釈迦如来立像（阿弥陀如来立像）	鎌倉時代	13		一躯	南真経寺	●	●	
96	京都開教と西国への展開		日像坐像	鎌倉-南北朝時代	14		一躯	北真経寺	●	●	
97	京都開教と西国への展開		日像曼荼羅本尊　（「御霊宝」のうち）	南北朝時代　元徳四年（1332）	14		一幅	南真経寺・北真経寺	●	●	
98	京都開教と西国への展開		秘蔵集（「御霊宝」のうち）	鎌倉時代	13-14	日像筆	三帖	南真経寺・北真経寺	●	●	
99	京都開教と西国への展開		伝日朗像（「御霊宝」のうち）	南北朝時代	14		一幅	南真経寺・北真経寺	●	●	
100	京都開教と西国への展開		伝日蓮像（「御霊宝」のうち）	南北朝時代	14		一幅	南真経寺・北真経寺	●	●	
101	京都開教と西国への展開	重文	法華経　紙背尊性法親王消息（「御霊宝」のうち）	鎌倉時代	13		十巻	南真経寺・北真経寺	●	●	
102	京都開教と西国への展開		板倉勝重判物（「御霊宝」のうち）	江戸時代　慶長十年（1605）	17		一幅	南真経寺・北真経寺	●	●	
103	京都開教と西国への展開		鶏冠井両真経寺法式（「御霊宝」のうち）	江戸時代　寛文元年（1661）	17		一幅	南真経寺・北真経寺	●	●	
104	京都開教と西国への展開		日像坐像	室町-江戸時代	16-17		一躯	妙泉寺	●	●	
105	京都開教と西国への展開		大覚妙実坐像	室町-江戸時代	16-17		一躯	妙光寺	●	●	
106	京都開教と西国への展開	重文	洛中洛外図屏風（歴博甲本）	室町時代	16		六曲一双	国立歴史民俗 博物館	●		10/10- 10/25
107	京都開教と西国への展開		洛中洛外図屏風	江戸時代	17		六曲一双	大阪市立美術館		●	10/27- 11/23
108	日蓮とその時代		宝塔	江戸時代	17		一基	京都国立博物館	●	●	
109	京都開教と西国への展開		大覚妙実曼荼羅本尊	南北朝時代　延文四年（1359）	14		一幅	妙顕寺	●	●	
110	京都開教と西国への展開	重文	妙顕寺禁制（「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　暦応四年（1341）	14	日像筆	一通　一巻のうち	妙顕寺	●		
111	京都開教と西国への展開	重文	日像・大覚妙実譲状 （「妙顕寺文書」のうち）	南北朝時代　康永元年（1342） 延文元年（1356）	14		一幅	妙顕寺		●	
112	京都開教と西国への展開	重文	後小松天皇宸翰消息	室町時代　応永二十年（1413）	14		二幅	妙顕寺	●	●	
113	京都開教と西国への展開		日乗像	室町～桃山時代	16	長谷川等伯筆	一幅	妙成寺	●		
114	京都開教と西国への展開		日蓮像	桃山時代　天正十七年（1589）	16	伝長谷川等伯筆	一幅	妙成寺		●	
115	京都開教と西国への展開		得田版法華経板木 巻第八巻末後跋	室町時代　応永二十二年（1415）	15	願主得田章光	一枚　六十四枚のうち	妙成寺	●	●	
116	京都開教と西国への展開		絵曼荼羅	南北朝時代　応安元年（1368）	14	朗源署判	一幅	本境寺	●		
117	京都開教と西国への展開		絵曼荼羅	南北朝時代	14	朗源署判	一幅	本境寺		●	
118	京都開教と西国への展開		餓鬼腹茶入	南宋－元時代	14		一口	本圀寺	●	●	
119	京都開教と西国への展開		本圀寺柿本社額字原字	江戸時代　文政十二年（1829）	19	一条忠良筆	二幅	本圀寺	●	●	
120	京都開教と西国への展開		加藤清正像	江戸時代	18-19		一幅	本圀寺	●	●	
121	京都開教と西国への展開		大覚妙実書状	南北朝時代	14		一幅	蓮昌寺	●	●	
122	京都開教と西国への展開		市村隼人佐寄進状	室町時代　宝徳二年（1450）	15		一通	岡山県立博物館		●	
123	京都開教と西国への展開		日禎等一遍首題本尊	桃山時代　天正十八年（1590）	16		一幅		●	●	
124	京都開教と西国への展開		日親像	室町時代	15	狩野正信筆	一幅	本法寺	●	●	
125	京都開教と西国への展開		立正治国論	室町時代　永享十二年（1440）	15	日親筆	一巻	本法寺	●	●	
126	京都開教と西国への展開		日親徳行図	江戸時代	17	片山尚景筆	一巻	本法寺	●	●	
127	京都受難の時代		山門決議関連文書 （「田中穣氏旧蔵古文書」のうち） （1）山門三院執行代連署状（2）山門三院大衆衆議案（3）山門三院大衆衆議案（4）山門三院大衆衆議案（5）山門三院大衆衆議条々案（6）山門三院大衆衆議案（7）寺門三院大衆衆議案	室町時代 天文五年（1536）	16		一巻	国立歴史民俗 博物館	●	●	
128	京都受難の時代		本国寺跡出土品	鎌倉－室町時代	14-16		鬼瓦：一個 墨書土師器皿：一枚 磬：一面 土師器皿：三九枚	京都市考古 資料館	●	●	
129	京都受難の時代		本能寺跡出土品	室町時代	16		鬼瓦：一個 軒丸瓦：一個 卒塔婆：七本 軸端：一個	京都市	●	●	

確定No.	展示テーマ	指定	作品名	制作年代	世紀	作者 筆者	員数	所蔵者	展示 前期	展示 後期	備考
130	京都受難の時代		瓦経　本能寺跡南出土	室町時代	16		一点	京都市考古資料館	●	●	
131	京都受難の時代		鉄水盤	桃山時代　天正五年（1577）	16	与二郎作	一口	本能寺	●	●	
132	京都受難の時代		弘決外典抄	平安時代	12		二帖	久遠寺	●	●	
133	京都受難の時代		三好長慶書状	室町時代	16		一幅	頂妙寺	●	●	
134	京都受難の時代		斉藤基速像	室町時代　永禄三年（1560）	16	惟高妙安賛	一幅	頂妙寺	●	●	
135	京都受難の時代		日珖像	江戸時代	18-19		一幅	本法寺	●	●	
136	京都受難の時代		三好義賢像	室町時代	16		一幅	妙國寺	●	●	
137	京都受難の時代		日珖僧正伝	江戸時代　文化十二年（1815）	19	日遂筆	一巻	頂妙寺	●	●	
138	京都受難の時代		日珖書状	室町時代　永禄四年（1561）	16		一幅	妙國寺	●	●	
139	京都受難の時代		曜変天目　油屋天目	金時代	12-13		一口	徳川美術館	●	●	
140	京都受難の時代	重文	信長公記　巻第十二	江戸時代	17	太田牛一筆	一冊　十五冊のうち	建勲神社	●	●	
141	京都受難の時代		己行記	室町-桃山時代	16	日珖筆	一冊	妙國寺	●	●	
142	京都受難の時代		聖誉貞安書状　（「西福寺文書」のうち）	桃山時代　天正七年（1579）	16		一巻	西福寺	●	●	
143	京都受難の時代		紫地亀甲に裏菊文様五条袈裟	桃山時代	16	伝日珖所用	一肩	頂妙寺	●	●	
144	京都受難の時代		前田玄以判物	桃山時代　天正八年（1580）	16		三巻	頂妙寺	●	●	
145	京都受難の時代		京都諸寺定条々（「京都十六本山会合文書」のうち）	桃山時代　天正七年（1579）	16		一通	頂妙寺	●	●	
146	京都受難の時代		京都十六本山会合文書箱	桃山-江戸時代	16-17		一合	頂妙寺	●	●	
147	京都受難の時代		日奥曼荼羅本尊	江戸時代　寛永三年（1626）	17		一幅	幸福寺	●	●	
148	京都受難の時代		妙正物語	江戸時代　寛文二年（1662）刊	17		二冊	京大文学研究科	●	●	
149	京都受難の時代		日禎像	桃山時代　文禄五年（1596）	16	狩野宗秀筆	一幅	京都国立博物館	●	●	
150	京都受難の時代		日禎書状	桃山時代	16		一幅	岡山県立博物館	●		
151	京都受難の時代		日禎書状	桃山時代	16		一幅	岡山県立博物館		●	
152	京都受難の時代	重文	金銅宝塔	南北朝時代　応安三年（1370）	14	覚性作	一基	本法寺	●	●	
153	復興と近世文化の開花		日淵自賛寿像	慶長十二年（1607）	17		一幅	寂光寺	●		
154	復興と近世文化の開花		本因坊算砂日海像	江戸時代	17		一幅	寂光寺		●	
155	復興と近世文化の開花		元政自賛寿像	江戸時代	17		一幅	瑞光寺	●	●	
156	復興と近世文化の開花		定家卿遠忌和歌	江戸時代　寛永十八年（1641）	17		一冊	瑞光寺	●	●	
157	復興と近世文化の開花		身延のみちの記断簡	江戸時代　万治二年（1659）	17	元政筆	一幅	瑞光寺	●	●	
158	復興と近世文化の開花		片玉集	江戸時代	17	元政筆	一冊	瑞光寺	●		
159	復興と近世文化の開花		建礼門院右京大夫集	江戸時代	17	元政筆	二冊	瑞光寺		●	
160	復興と近世文化の開花	重文	立正安国論	江戸時代　元和五年（1619）	17	本阿弥光悦筆	一巻	妙蓮寺	●	●	
161	復興と近世文化の開花	重文	始聞仏乗義	江戸時代　元和五年（1619）	17	本阿弥光悦筆	一巻	妙蓮寺	●		
162	復興と近世文化の開花	重文	法華題目抄	江戸時代	17	本阿弥光悦筆	一巻	本法寺		●	
163	復興と近世文化の開花	国宝	書巻（本能寺切）	平安時代	11	藤原行成筆	一巻	本能寺	●		
164	復興と近世文化の開花	重文	鶴下絵三十六歌仙和歌巻	江戸時代	17	本阿弥光悦書 俵屋宗達画	一巻	京都国立博物館		●	
165	復興と近世文化の開花	重文	赤樂茶碗　加賀光悦	江戸時代	17	本阿弥光悦作	一口	相国寺	●	●	
166	復興と近世文化の開花	重文	黒樂茶碗　銘「時雨」	江戸時代	17	本阿弥光悦作	一口	名古屋市博物館	●	●	
167	復興と近世文化の開花		赤樂茶碗　銘「鵺」	江戸時代	17	樂道入作	一口	三井記念美術館	●	●	
168	復興と近世文化の開花		黒樂茶碗　銘「残雪」	江戸時代	17	樂道入作	一口	樂美術館	●	●	
169	復興と近世文化の開花		本阿弥光悦消息	江戸時代	17		一幅	京都国立博物館	●	●	
170	復興と近世文化の開花		黒樂茶碗　銘「亀毛」	江戸時代	17-18	樂宗入作	一口	樂美術館	●	●	
171	復興と近世文化の開花		色絵氷裂文角皿	江戸時代	17-18	尾形乾山作	五枚	京都国立博物館	●	●	
172	復興と近世文化の開花		色絵花唐草文水注	江戸時代	17-18	尾形乾山作	一口	妙法寺	●	●	
173	復興と近世文化の開花		五彩花卉雲龍鳳凰文尊式瓶 五彩蓮華唐草雲龍文角香炉	明時代	16-17		一対一合	本能寺	●	●	
174	復興と近世文化の開花		瓢箪茶入　銘「玉津島」	南宋－元時代	13-14		一口	徳川美術館	●	●	
175	復興と近世文化の開花		茶屋四郎次郎坐像	江戸時代	17		一躯	本能寺	●	●	
176	復興と近世文化の開花	重文	異国渡海御朱印帳	江戸時代	17	以心崇伝筆	一冊	南禅寺金地院	●	●	
177	復興と近世文化の開花		蓮紙織画	朝鮮時代	19		一幅	頂妙寺	●	●	
178	復興と近世文化の開花		刀装具製作関係遺物 同志社大学今出川校地遺跡出土 （図書館地点出土）　目貫・小柄型　4個 （寒梅館地点出土）　金薄板片　2片 青銅素材　1本　砥石　1個 刀子鎚　1個　坩堝　4口	江戸時代	17-18	後藤家工房か	一括	同志社大学歴史資料館	●	●	
179	復興と近世文化の開花	重美	後藤祐乗像	桃山時代	16		一幅		●		
180	復興と近世文化の開花		獅子図三所物	室町時代	15	銘：紋祐乗/光美（花押）	一揃	徳川美術館	●	●	
181	復興と近世文化の開花	重文	刀	南北朝時代	14	金象嵌銘：本多美濃守所持/義弘本阿（花押）	一口	京都国立博物館	●	●	
182	復興と近世文化の開花	重文	金梨地木瓜紋蒔絵糸巻太刀	江戸時代 承応三年（1654）	17	銘：出羽大掾藤原国路　御大工躰阿弥/祇園社御太刀 承応三年甲午年九月吉日	一口	八坂神社	●	●	
183	復興と近世文化の開花	国宝	舟橋蒔絵硯箱	江戸時代	17	本阿弥光悦作	一合	東京国立博物館	●		
184	復興と近世文化の開花	重文	舞楽蒔絵硯箱	江戸時代	17	本阿弥光悦作	一合	東京国立博物館		●	
185	復興と近世文化の開花	重文	花唐草螺鈿経箱	江戸時代	17	本阿弥光悦作	一合	本法寺	●	●	
186	復興と近世文化の開花		青花芙蓉手蜥蜴文大皿	明時代	16-17		一枚	本法寺	●	●	
187	復興と近世文化の開花	重美	古今和歌集巻十八断簡　（本阿弥切）	平安時代	11-12		一幅	京都国立博物館		●	
188	復興と近世文化の開花		蓮池蒔絵舎利厨子	寛文十二年（1672）	17	五十嵐道甫 後藤程乗作	一基	東京国立博物館	●	●	
189	復興と近世文化の開花	国宝	蓮池水禽図	江戸時代	17	俵屋宗達筆	一幅	京都国立博物館		●	
190	復興と近世文化の開花	重文	牛図	江戸時代	17	俵屋宗達筆	二幅	頂妙寺	●	●	
191	復興と近世文化の開花	重文	太公望図屏風	江戸時代	17-18	尾形光琳筆	二曲一隻	京都国立博物館	●	●	
192	復興と近世文化の開花	重文	八橋図	江戸時代	17	尾形乾山筆	一幅	文化庁	●		
193	復興と近世文化の開花		観世音菩薩像	江戸時代　文化十二年（1815）	19	酒井抱一筆	一幅	妙顕寺	●	●	
194	復興と近世文化の開花	重文	松桜図襖	桃山時代	16-17	長谷川派	四面	妙蓮寺	●	●	
195	復興と近世文化の開花		厩図屏風	桃山時代	16-17		二曲一双	本圀寺	●	●	
196	復興と近世文化の開花		十六羅漢図	室町時代　天文二十年（1551）	16	狩野元信落款	四幅	本法寺	●	●	
197	復興と近世文化の開花		樓閣山水図屏風	江戸時代	17	狩野山楽筆	六曲一双	妙顕寺		●	
198	復興と近世文化の開花		唐獅子図屏風	桃山時代	16-17	狩野山楽筆	四曲一隻	本法寺	●	●	
199	復興と近世文化の開花		四季竹図屏風	江戸時代	17	伝狩野山楽筆	六曲一双	寂光寺	●		
200	復興と近世文化の開花		諸寺勧進帳（「京都十六本山会合文書」のうち）	桃山時代　天正四年（1576）	16		一冊	頂妙寺	●	●	
201	復興と近世文化の開花		日鎮像	桃山時代	16	元信印	一幅	本隆寺			10/10-10/26
202	復興と近世文化の開花		日澄像	室町時代	16	狩野派	一幅	本法寺			10/27-11/8
203	復興と近世文化の開花		日淳像	室町時代	16	狩野派	一幅	本法寺			11/10-11/23

☆展示期間前期は10/10～11/3、後期は11/5～11/23です。

平成二十一年は『立正安国論』奏進七五〇年の年です



（平成二十一年六月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

管長　酒井日慈
財務部長　駒野教源
宗務総長　小松浄慎
宗務総長室長　長亮行
伝道局長　川名義顕
現代宗教研究所長　田澤元泰
総務局長　張田珠潮
参与　堀江宏正
伝道部長　齊藤憲一
参与　浅井玄裕
教務部長　酒井光雄
日蓮宗新聞社社長　垣本孝精
総務部長　藤岡暎邦

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　大塚日正
宗務総長　原井慈鳳
教学部長　桃井晋城
蓮池光洋
庶務部長　矢吹慈英
布教部長　加藤信淨
財務部長　渡辺明博

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　椿澤日壽
宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
宗務参事　今井満良

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　佐藤日鳳
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　嶋田幾雄

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　原光承
総務部長　長﨑秀要
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　田中日生
宗務総長　竹内正道
総務部長　上田浩岳
教学部長　井上隆啓
教化部長　木村完祥
財務部長　堀智泰
社会部長　安立修学
主事　山口英泰
〃　笹木研吾

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村日彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　山田岳隆

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長代務　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　仲南良夫
門連理事　石見哲三
「門連だより」編集委員　森山真治

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

会長　永田日洵
副会長　松下日肆
理事長　藤井照源
副理事長　石崎光教

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　栗田孝之
執事　笹原壮玄
執事　鈴木顕正
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

法華宗（本門流）大本山
光長寺
貫首　石田日信
執事長　久保木学洋
役職員一同
〒410-0011
静岡県岡宮一〇五五
電話　〇五五（九二一）〇四八四
FAX　〇五五（九二一）〇七三六

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中村日玄
総務　古瀬久馨
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　石崎光教
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

日蓮宗大本山
京都八本山会
大本山　妙顯寺　貫首　南條日慈
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　頂妙寺　貫首　永田日洵
本山　妙覚寺　貫首　頂岳日選
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　原光承
執事長　崎秀要
執事　原田智光
執事　原光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十四世講有　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇㈹
FAX　〇七五（四六三）四六五一

日蓮宗大本山
日蓮聖人立教開宗出家得度の霊跡
清澄寺
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三一二一―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　永田恵遠
参与　安藤信行
同　伊東隆司
執事長　藤井照源
同　二之部知孝
執事　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
貫首　本間日諄
執事長　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同　吉田文堯
同　布施慈範
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

「日蓮聖人展」
紅葉の都　京都へ
いまふたたび京都町衆文化が華ひらく

（平成二十一年六月現在）

十六本山紹介と団参受入れ体制
アンケートおよび各本山行事予定

アンケートQ&A

一、団参御開帳の受入れ→できる・できない・日による
二、団参御開帳予約が→必要・不必要
三、御首題御朱印が→できる・できない・事前書き紙
四、御開帳料一人→何円・心持ち
五、御朱印代一押→何円・心持ち
六、宝物館→ある・ない
七、拝観料一人→何円・心持ち・なし
八、宝物館展示予定→ある・ない

妙覚寺（日蓮宗）

歴史　日像聖人によって創建された「妙顕寺」の流れを汲み、永和四年（一三七八年）に開創。二十一世日奥上人は、法華経信者以外からは施しを受けず、施しもしないという不受不施派の開祖として知られている。

見どころ　予約をすれば、本堂でのお焼香、そして庭園や日蓮聖人ゆかりの「華芳塔」の拝観が可能。一面を覆う杉苔の上に楓の木がゆったり植えられた前庭は、どの季節もはっとするほど美しい眺めを見せてくれる。お茶とお菓子をいただいて、安らかな時が過ごせる場所で。

★上京区新町通鞍馬口下ル下清蔵口町一三五　℡〇七五（四四一）二八〇二　九時半～十五時半　境内自由　本堂・庭園拝観五百円（要予約）　Pあり　市バス「天神公園前」バス停から徒歩三分　地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅から徒歩十分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円以上　五、三百円以上　六、ない　八、ある

妙顕寺（日蓮宗）

歴史　日蓮大聖人に帝都開教を委嘱された日像聖人が、元亨元年（一三二一年）に創建。建武元年（一三三四年）には、後醍醐天皇の御綸旨により、勅願寺となった。

見どころ　境内中央の本堂は、御所の紫宸殿と同様に蔀戸が使われ、堂々とした雰囲気。また希望すれば庭園も拝観可能。白砂にもみじと桜を配した客殿前庭、老松の名木が存在感を放つ書院前庭。どちらも四季折々の優美な表情が、見る者の心を奪う。また孟宗竹を使った坪庭の清らかな風情も格別。

★上京区寺之内通新町西入ル妙顕寺前町五一四　℡〇七五（四一一四）〇八〇八　九時～十六時　境内自由、庭園拝観五百円（庭園拝観は事前連絡がベター）　Pあり　市バス「堀川寺ノ内」バス停から徒歩五分　地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩十分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円　五、三百円　六、ある　七、五百円　八、ある

★10月11～12日（日・月）同志社大学茶会、13日（月）西山宝塔参拝、17～18日（土・日）檀信徒研修道場、24～25日（土・日）檀信徒青年会研修、26日（月）いのちの会シンポジウム、29日（木）聲明師会研修、11月8日（日）14時～鬼子母神八日講、13日（金）13時～御会式

本法寺（日蓮宗）

歴史　将軍・足利義教の迫害で、焼鍋を頭に被せられたことから「なべかぶり」の名で知られる日親上人が、永享八年（一四三六年）に開創。本阿弥光悦の曽祖父が日親上人に帰依して以来、本阿弥家と関係深い菩提寺。

見どころ　巴（渦巻きのような模様）を表す島や、流れる滝を表す石組みを配した「巴の庭」。本阿弥光悦が作庭した豊かな芸術性にあふれたこの庭は、法華経の教えを表現しているという。また宝物館では、長谷川等伯が描いた「佛涅槃図」（重要文化財）をはじめ多彩な寺宝を公開。

★上京区小川通寺之内上ル本法寺前町六一七　℡〇七五（四四一）七九九七　十時～十六時　境内自由、庭園・宝物館拝観五百円　Pあり　市バス「堀川寺の内」バス停から徒歩三分　地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅から徒歩十二分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円　五、三百円以上　六、ある　七、五百円

★10月16日（金）御会式（拝観休）

妙蓮寺（本門法華宗）

歴史　日像聖人によって永仁二年（一二九四年）に創建された寺院。鎌倉から京都へ上られた聖人へ、深く帰依した造酒屋・柳屋仲興の屋敷内に建立された庵が発祥。

見どころ　豊臣秀吉が寄進した名石「臥牛石」を中央に配した「十六羅漢石庭」は、桂離宮造園時に指示を行われた「妙蓮寺」の僧、玉淵坊日首上人の作。穏やかな風情の枯山水庭園を、書院に座って心静かに鑑賞できる。また予約をすれば、収蔵庫も拝観可。展示物の内容については要問い合わせ。

★上京区寺之内通大宮東入ル妙蓮寺前町八七五　℡〇七五（四五一）三五二七　十時～十六時　水・年末年始休　境内自由、方丈・庭園拝観五百円、収蔵庫拝観は追加三百円（要予約）　Pあり　市バス「堀川寺ノ内」バス停から徒歩三分　地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩十四分

一、できる　二、必要　三、事前書き紙　四、心持ち　五、三百円　六、ある　七、八百円（ガイド付）

★10月11日（日）御会式準備、12日（月）17時～万燈会逮夜法要、13日（火）午前11時～御会式法要、14日（水）御会式後片付け、11月12日（木）御開山式※各日団参開帳中止

本隆寺（法華宗真門流）

歴史　長亨二年（一四八八年）に日真上人によって開創された寺院。江戸時代、二度の大火の中でも本堂と祖師堂が焼失を免れたため、「焼けずの寺」と異名が付く。

見どころ　明暦三年（一六五七年）再建当時の姿を残し、壮大な雰囲気の本堂は京都十六本山で最古のもの。本堂前には大火の時、堂内に祀った鬼子母神が人となり、井戸から水を汲んで防火に勤めたと伝説が残る「千代の井戸」も現存。鬼子母神は今も信仰を集め、その姿を映した火ふせのお札も授与している。

★上京区智恵光院通五辻上ル紋屋町三三〇　℡〇七五（四四一）五七六二　六時～十八時　境内自由　Pあり　市バス「今出川浄福寺」バス停から徒歩三分　地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩十六分

一、日による　二、必要　三、できる　四、心持ち　五、心持ち　六、ある　七、なし

★10月12日（月）日蓮大菩薩御逮夜法要、13日（火）日蓮大菩薩御命日法要・新説式

妙傳寺（日蓮宗）

歴史　身延山への参詣が遠い関西以西の檀信徒、彼らのため

祝
『立正安国論』奏進750年記念特別展
「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」
旅のお世話は日本旅行へお申しつけ下さい
日本旅行 NIPPON TRAVEL AGENCY
国土交通大臣登録一般旅行業第2号
http://www.nta.co.jp
お問合せは最寄の日本旅行へ
銀座法人営業本部 TEL 03-5565-5553(代)

に身延山を彷彿させるような寺として、日意上人が文明九年（一四七七年）に開創。

見どころ　御真骨堂では、身延山から日意上人が持ち帰られた日蓮大聖人の御真骨を大切に祀っている。本堂では身延山の七面大明神と同じ木を使い、姿も同じにつくった御神体を安置。そういったことから「妙傳寺」は「西身延」「関西身延」とも呼ばれている。

★左京区東大路二条下ル北門前四八一　TEL〇七五（七七一）二〇八八　本堂・御真骨堂拝観は寺務所に相談　Pなし　市バス「東山二条」バス停下車すぐ　地下鉄東西線「東山」駅から徒歩十分

一、できる　二、必要　三、できる・（人数によっては）事前書き紙　四、千円　五、三百円から心持ち　六、ない　八、ない

★10月19日（月）14時～七面天例祭、11月13日（金）14時～御会式、19日（木）14時～七面天例祭

頂妙寺（日蓮宗）

歴史　下総（現千葉県）の法華経寺から上洛された日祝上人が、文明五年（一四七三年）に開創。寺院前を通る仁王門通の名は「頂妙寺」の仁王門から付けられたという。

見どころ　安土宗論で法難を受けた日蓮聖人門下寺院だが、後に豊臣秀吉から宗門布教を全面的に許された。「頂妙寺」の仁王門には、その際の許状の扁額が掲げられている。また寺務所で希望すれば、江戸後期に刻された「頂妙寺版法華経」の版木も見学可能。

★左京区仁王門通川端東入ル大菊町九六　TEL〇七五（七七一）〇五六二　六時～二十時　境内自由　Pあり　京阪本線「三条」駅、地下鉄東西線「三条京阪」駅から徒歩五分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円以上　五、三百円以上　六、ない　七、ない　八、ない

★10月8日（木）14時～唱題行・鬼子母神祭、15日（木）14時～妙見祭、11月8日（日）14時～唱題行・鬼子母神祭、11日（水）11時～先師法要、15日（日）14時～妙見祭

寂光寺（顕本法華宗）

歴史　天正六年（一五七八年）に日淵上人によって創建。二世の日海上人は囲碁の名人で、信長・秀吉・家康も師事したほど。かつての塔頭の名をとり本因坊算砂と名乗られた。

見どころ　本因坊ゆかりの囲碁にまつわる宝物や囲碁関係の資料を展示。予約をすれば住職から説明を受けることができ、寺の歴史や宝物のいわれについてよりよく知ることができる。なお、本因坊発祥の頃に伽藍があった寺町二条付近には、由来を記した駒札と石の碁盤が置かれている。

★左京区仁王門通東大路西入ル北門前町四六九　TEL〇七五（七七一）六九六二　九時～十六時　境内自由、団体拝観は要予約（本堂・宝物拝観は事前連絡がベター）　Pあり　市バス「東山仁王門」バス停下車すぐ　地下鉄東西線「東山」駅から徒歩九分

一、できる　二、必要　三、事前書き紙　四、心持ち　五、心持ち　六、ない　七、心持ち　八、ある

★11月8日（日）日蓮聖人御会式

要法寺（日蓮本宗）

歴史　延慶元年（一三〇八年）日興上人の付弟であった日尊上人が帝都弘通の拠点として法華堂を開かれたことにはじまり、「教学の山」と「師厳道尊」の遺風を誇る根本道場として現在に至っている。

見どころ　古来より「松の寺」との異称がある寺院。土壁を使わない総ケヤキ造りの本堂が飛騨工匠の粋を伝え、市中の俗塵をはらう威厳ある姿に静謐さが漂う。鴨川の水を引いた本堂前の池水では連年、カルガモ親子の戯れに出会え、まさに一服の清涼剤。

★左京区法皇寺町四四八　TEL〇七五（七七一）三三九〇　九時～十七時　境内自由　堂内拝観は要予約、志納　Pあり　市バス「東山三条」バス停下車すぐ　地下鉄東西線「東山」駅から徒歩五分

二、必要　三、できる・事前書き紙　六、ない　八、ない

★10月12日（月）18時～御会式御逮夜法要、13日（火）10時～御会式御正當法要

本満寺（日蓮宗）

歴史　公家出身の日秀上人が応永十七年（一四一〇年）に創立。歴世の中で十二世日重、十三世日乾、十四世日遠の三師はそれぞれ、身延山の第二十、二十一、二十二世法主となられ、その活躍から「中興三師」と称されている。

見どころ　歴史家が多く訪れるという。戦国武将・山中鹿之介の墓や、御所から寄贈された西山門などの見どころがある寺院。また、知る人ぞ知る桜の名所で、境内各所に桜がある。

中でも降るように咲く方丈前のしだれ桜は圧巻。

★上京区寺町通今出川上ル二丁目鶴山町一六　TEL〇七五（二三一）四七八四　境内自由　Pあり　京阪鴨東線「出町柳」駅、叡山本線「出町柳」駅から徒歩八分

一、できる・日による　二、必要　三、事前書き紙　四、千円　五、心持ち　六、ない　八、ない

★10月11日（日）月例施餓鬼、19日（月）七面宮祭、11月1日（日）妙見宮祭、8日（日）月例施餓鬼、15日（日）御会式、19日（木）七面宮祭

本禅寺（法華宗陣門流）

歴史　応永十三年（一四〇六年）日陣聖人によって創建。天文八年（一五三九年）には、後奈良天皇に召された日覚聖人が宮中で法華経を講じられたことから、勅願寺となる。

見どころ　境内に足を踏み入れれば、まず白くて大きな本堂が目にとまる。市内でも珍しい白壁の本堂は、漆喰の蔵づくり。現在地に伽藍ができるまで四度の火災にあったことから、これ以上焼け落ちないようにと蔵づくりにした。

★上京区寺町通広小路上ル北ノ辺町三九四　TEL〇七五（二三一）八六五〇（心城院）　七時～十七時　拝観は要問い合わせ　京阪鴨東線「出町柳」駅、叡山本線「出町柳」駅から徒歩十四分

一、できる　二、必要　三、事前書き紙　四、心持ち　五、三百円。六、ない　八、ない

★10月18日（日）御会式（団参開帳予約なしで可、個人も可）

立本寺（日蓮宗）

歴史　日像聖人ご建立の「妙顕寺」が叡山僧兵に破却され、明徳四年（一三九三年）日実上人がその地に再建。「本寺を立てる」との意味を込め「立本寺」と改名された。「妙顕寺」「妙覚寺」とともに「三具足山」という。

見どころ　本堂では、戦国武将・松永弾正の家臣がかぶとを被せて戦勝を祈ったため「冑の祖師」と呼ばれる日蓮聖人像や、須弥壇背面に描かれた「十六羅漢図」が拝観可（要予約）。また二十世日審上人が母親の幽霊に飴で育てられたとの伝説から「幽霊子育飴」も授与。

★上京区七本松通仁和寺街道上ル一番町一〇七　TEL〇七五（四六一）六五一六　九時～十七時　境内自由　本堂・客殿拝観五百円（要予約）　Pあり　市バス「北野天満宮前」バス停から徒歩十分　嵐電北野線「北野白梅町」駅から徒歩十五分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円　五、五百円　六、ない　八、ない

★10月11日（日）高祖大士御会式四座奉修、17日（土）佛立開導日扇聖人御命日総講会、24日（土）門祖日隆聖人御逮夜総講会、11月1日（日）月始総講・一万遍口唱会、8日（日）

宥清寺（本門佛立宗）

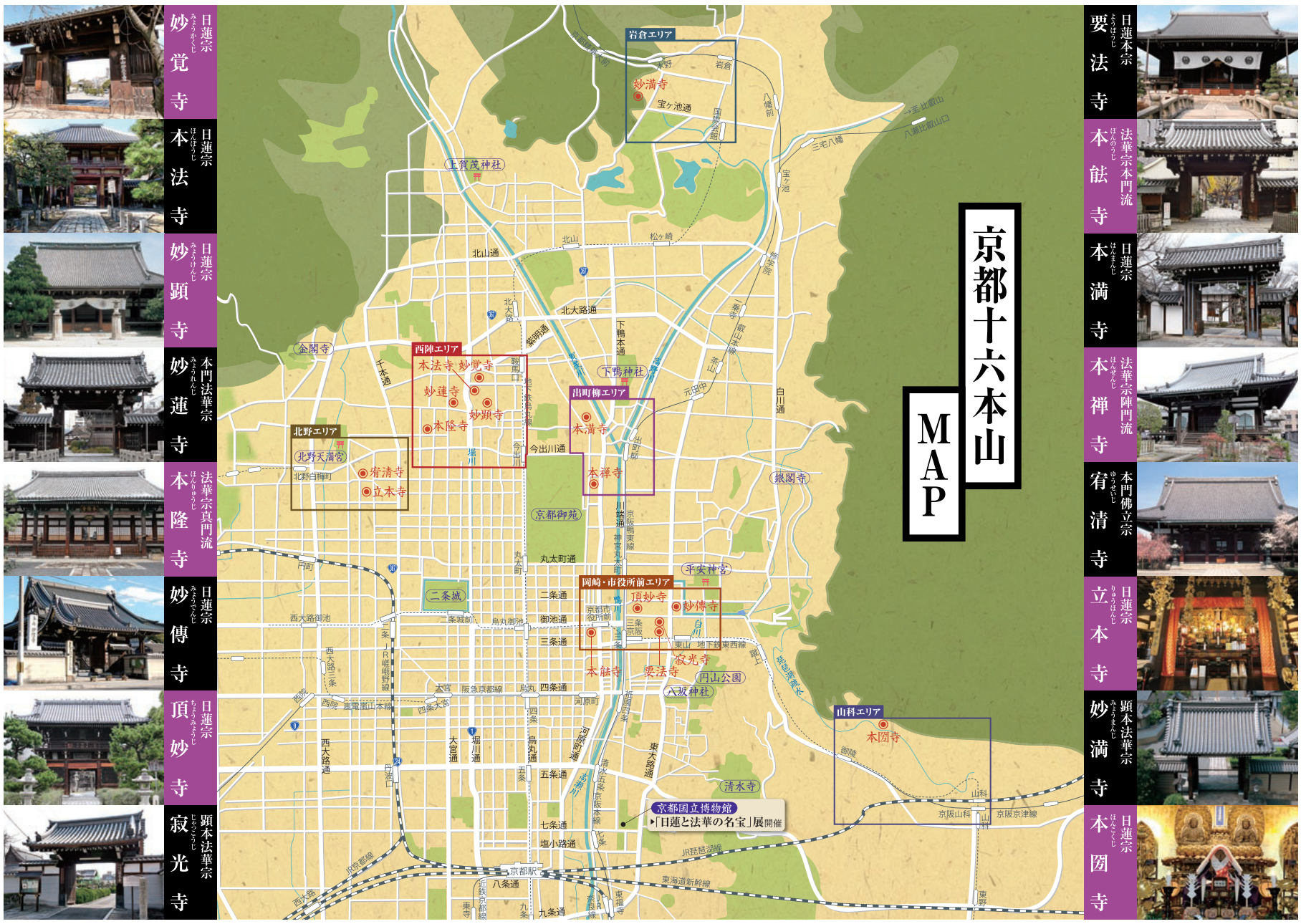
歴史　延慶元年（一三〇八年）、日蓮大士の直弟子の一人、日辯上人が藤原定家の子孫を教化され、定家卿の旧跡を寺院に。明治二年（一八六九年）、本門佛立宗の開導・日扇聖人が、ここを佛立講の根本道場と定められた。

見どころ　本堂内部の御宝前には、日蓮大士が自ら開眼された最古の「日蓮聖人坐像」（非公開）が奉安され、国の重要文化財に指定されている。春には本堂前のしだれ桜をはじめ幾種類もの花で境内が彩られ、その見事な姿を遠方から見物に訪れる人も多い。

★上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一　TEL〇七五（四六三）四六二〇　五時～十八時　境内自由（本堂ほか拝観は寺務所へ相談）　Pあり　市バス「北野天満宮前」バス停から徒歩三分　嵐電北野線「北野白梅町」駅から徒歩十分

一、できる　二、必要　三、できる　四、千円　五、五百円　六、ない　八、ない

★10月11日（日）月例施餓鬼、19日（月）七面宮祭、11月1日（日）妙見宮祭、8日（日）月例施餓鬼、15日（木）七面宮祭



七五三無事成長御礼参拝、13日（金）10時～高祖大士御命日総講会、17日（火）佛立開導日扇聖人御命日総講会、22日（日）9時半～弘道研修会

妙満寺（顕本法華宗）

歴史　日什大正師が康応元年（一三八九年）に創建。天正十一年（一五八三年）から四百年にわたり寺町二条にあったが、昭和四十三年に市街地の喧騒をさけ、現在地へ移転。

見どころ　四月初めにしだれ桜、五月初めにはツツジの見頃を迎える「妙満寺」。境内では、インド・ブッダガヤ大塔を模した仏舎利大塔が目を引く。ほかにも、「安珍・清姫の鐘」や宝物が並ぶ展示室、俳諧の祖・松永貞徳が作庭した「雪の庭」など見どころ多彩。本堂に参拝すれば、壮大な比叡山が正面に臨める。

★妙満寺左京区岩倉幡枝町九一　℡〇七五（七九一）七一七一　九時～十六時　境内自由　本堂・庭園・展示室拝観三百円　Pあり　京都バス「幡枝」バス停から徒歩三分　叡山鞍馬線「木野」駅から徒歩五分　地下鉄烏丸線「国際会館」駅から徒歩二十分

一、できる　二、必要　三、できる　四、心持ち　五、三百円　六、ある　七、三百円

★10月12～13日（月・火）宗祖御会式（団参開帳要相談）、11月7日（土）月例法要（団参開帳要相談）

本圀寺（日蓮宗）

歴史　日蓮大聖人が立教開宗後に鎌倉でお住まいになった法華堂を発祥とする寺院で、貞和元年（一三四五年）に京都へ移遷された。水戸黄門で有名な水戸光圀公ゆかりの寺院でもある。

見どころ　大聖人が肌身離さず拝んでおられた立像釈尊像を祀る本師堂、安置された釈迦如来像と多宝如来像のやさしい表情が印象的な本堂。どちらも堂内を拝観できる。また「日蓮と法華の名宝」展開催時には、壁画に彩られた桃山時代の経蔵内部を公開予定。

★山科区御陵大岩六番地　℡〇七五（五九三）九一九一　十時～十六時　境内自由　Pあり　地下鉄東西線「御陵」駅から徒歩十分

一、必要　二、できる　三、必要　四、千円　五、三百円　六、ある　七、五百円　八、ない

★10月13日（火）御会式、11月24日（火）清正公大祭

一枚の切符から
国内・海外 団体参拝旅行まで
knt! 近畿日本ツーリスト
カタチにします。ときめき・キラメキ・おもてなし
お問い合わせは:団体参拝推進部
〒101-8641　東京都千代田区神田松永町19-2 東京近鉄ビル5F
東京 TEL 03-3255-7953
京都 TEL 075-255-1425

～上質な「旅の時間」の贈り物メイトペアご宿泊ギフト券～
ベストセレクション
お二人様でご一泊の旅が
お楽しみいただけるギフト券。
大切なあの人や
お世話になった方々に、
上質な「旅の時間」を贈ります。
◆日本全国から厳選した100軒の旅館・ホテル。
※旅館・ホテルの件数は変更になる場合があります。
◆大切な方へのお祝いやプレゼントにも最適です。
◆ギフト券に込められた、ささやかながらも粋な心遣い。
ご利用方法
ご選択　専用宿泊カタログからご希望の旅館またはホテルを選択。
ご予約　全国の近畿日本ツーリスト、KNTツーリストにて、ご希望の宿泊日などをご予約。（ご来店またはお電話にて）
お渡し　ご予約完了後、ご予約確認書類※をお渡し、またはお送りさせていただきます。
※ベストセレクション宿泊施設券とご宿泊クーポンなど
ご出発　ご予約確認書類を旅館または、ホテルのフロントにご提示ください。
ベストセレクションのお求めお問合わせは
全国のKNTグループ各支店（近畿日本ツーリスト、KNTツーリスト）詳しくはホームページで…　KNTギフト　検索
http://www.knt.co.jp/kanren/support.html#gift

各派・教団・短信

顕本法華宗

◆二月二十四日～二十五日、総本山妙満寺において第六十四定期宗会が開催され、平成二十年度の決算、平成二十一年度の予算案などが承認された。また、藤﨑広学宗務総長の二期目となる再任が承認され、新体制の内局人事も承認された。

◆二月二十八日、開祖日什大正師御開山会が、総本山妙満寺において中村日玄猊下大導師のもと厳修された。関東教区では、品川本光寺（二十七日）と、木更津本立寺（二十八日）において奉行された。

◆五月十六日～十七日の二日間にわたり、総本山妙満寺において春季報恩大法要を厳修。全国から多数の檀信徒が参詣、『立正安国論』奏進七五〇年奉讃法要も奉行され、境内は大変な賑わいを見せた。また、期間中「安珍清姫の鐘」鋳造六五〇年の記念法要も併修、鐘供養に引き続き、金剛流二十六世宗家・金剛永謹氏による奉納舞、和歌山県道成寺院代・小野俊成師による記念講演があった。

◆五月二十八日、寛文法難顕彰参拝（事務局長・世良隆善師）が行われ、中村日玄猊下をはじめとする十四名が、日英・日応上人が配流された宮崎県飫肥の顕彰碑を訪れ、強風の吹く悪天候の中で報恩法要を修行した。

◆六月九日、総本山妙満寺において、教学研究所主催「公開研究例会」が開催され、若手研究員が日頃の研究成果を発表した。また、園田学園女子大学教授・岩崎日出男氏を講師に招き、「日蓮聖人の真言宗祖師たちに対する批判について」と題する講演が行われた。

◆七月一日～二日、総本山妙満寺において、全国布教師研修会が行なわれた。本宗布教の現場で活躍する布教師各師が参加、相互に講演を行うなど研鑽を深めた。また、布教師会の総会も併せて開催された。

◆七月二十七日～三十日の三泊四日、総本山妙満寺を会場に、第四十六回顕本青少年錬成会が開催される。約百名の小・中学生が参加、短期間ながら読経や行儀作法・清掃奉仕など、本山での小さな修行に汗を流した。（吉本栄昶）

法華宗真門流

◆二月十七日、総本山本隆寺において各教区所長、布教師の合同会議が開催され、平成二十一年度布教計画の作成が行われた。

◆四月七日～二十六日まで、総本山本隆寺に於いて春季学林が開講された。十一日～十三日の三日間、総本山本隆寺に於いて「春季大法会」が厳修され、千部会法要、御開祖日真大和尚御命日法会、総本山歴代聖人年忌法要など、多くの法要が営まれた。

◆五月十七日、第四教区「合掌運動北海道大会」開催。二十三～二十六日、第一教区「第二十九回檀信徒の集い」開催。二十六～二十七日、第二教区「合掌の旅」開催。二十六～二十七日、第三教区「第二十五回教区研修会」開催。

◆六月十九日、総本山本隆寺に於いて真門教学講習会が開催された。午前の部は「布教研究について」講師、学林長岩崎峻暉上人。午後の部は「立正安国論の現代的意義について」講師、宗学研究所長林日圓猊下。（森田量哲）

本門法華宗

◆三月九日、第九十七回本門法華宗宗会（藤井日靖宗務総長）が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、藤井総長の宗政方針に続き、宗会議長以下の役員人事、予決算の承認可決他全十六議案を議定して閉会。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於て、本山三大会の一ツである春季大法要が奉修された。松下貫首の御親教に続き、春季志霊法要・檀信徒志霊法要・永代供養法要が奉修された。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）では、第百二十八回教学講習会を三月二十六・七日、第百二十九回同会を六月十九・二十日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。両講習会閉講式後、教師資格検定試験が行なわれた。

◆同学院教学部より三月二十五日付で立正大学北川前肇先生講述の『四帖抄に聞く（二八）』が、三月三十一日付で、法華宗（本門流）興隆学林専門学校大平宏龍先生講述の『日蓮教学の大綱（二）』と、学院にて編集された初学者向け学院テキスト『本門法華宗入門（三）』が発行された。

◆同布教部より、布教紙『生きる』第五十二水華号、信報『信行』第百七十一号を各々平成二十一年七月一日で発行。（木村光正）

国柱会

◆二月一日（日）月旦大国祷。十一日（水）紀元節慶讃法要。十四日（土）～十五日（日）妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十日（金）妙宗大霊廟春季彼岸開顕大供養会。

◆四月一日（水）月旦大国祷。五日（日）申孝園桜まつり開催八日（水）釈尊降誕会慶讃法要。十七日（火）恩師忌。常勤給仕。十八日（土）理事会。十八日（土）～十九日（日）妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十九日（日）妙宗大霊廟例月供養会。二十八日（火）立正会慶讃法要。二十八日（火）～二十九日（水）第七十九回身延登詣団実施。

日本山妙法寺

◆二月二十三日スリランカ国ゴール四周年法要。

◆二月二十五日　スリランカ国仏足山三十一周年法要。

◆二月二十七日。スリランカ国ワラパネ二十六周年法要。

◆三月三十一日　スリランカ国アンパーラ二十一周年法要。

◆二月十三日～四月八日　第八回米国東海岸「新春を迎える行進」

◆二月十四日～十七日「止めよ。山頂の破壊を！」行進（米国ケンタッキー州）

◆二月十四日～三・一ビキニデー平和祈念行脚（東京～焼津）

◆四月二十七日　清澄山仏舎利塔四十五周年記念法要。

◆五月七日　熊本・花岡山仏舎利塔五十五周年記念法要。

◆「法華経の折伏修行の肝心は、不軽菩薩品第二十に諦かに説かれてある。その行儀は法華経乃至一代聖教を読誦する事ではない。およそ人を見てはわざわざ其の人の許に往いて但行礼拝する事である。すべて但行礼拝に結論されざる講義や折伏は、みな論語読みの論語知らずの類である。藤井日達」

◆五月十七日　成田仏舎利塔八周年記念法要　（牧野行暉）

京門連

◆一月二十四日（土）午後三時理事会（京一宗務所）

平成二十一年度役員確認の件
平成二十一年度会務行事の件
平成二十一年度決算の件
平成二十一年度会務行事案の件
平成二十一年度予算案の件
平成二十一年度総会の件
平成二十一年度降誕会の件
京門連会則変更の件

◆二月十六日（土）午後一時京門連総会（本山本法寺）

平成二十一年度役員確認の件
平成二十年度会務行事の件
平成二十年度決算の件
平成二十一年度会務行事案の件
平成二十一年度予算案の件
平成二十一年度降誕会の件
京門連会則変更の件

◆同二時三〇分降誕会（本山本法寺）

導師本山本法寺貫首大塚日行猊下
講師大本山妙蓮寺貫首松下日肆猊下

◆三月九日（月）午後四時理事会（京一宗務所）立教開宗会の件、夏期大学の件

◆四月二十八日（火）立教開宗会（比叡山横川定光院）

導師本山頂妙寺貫首永田日洵猊下

講師法華宗陣門流本山本禅寺執事長赤塚高明

◆五月二十五日（月）全門連身延理事会（身延山久遠寺）

◆六月十五日（月）午後四時理事会（京一宗務所）立教開宗会の件、夏期大学の件

◆六月二十四日（水）午後四時「日蓮聖人展」京門連事務局・十六本山代表会議（京一宗務所）

《今後の予定》

◆八月二十九日（土）午前十時第四十五回夏期大学（本能寺文化会館）

講師（本山）日蓮宗本山貫首猊下
講師（大学）中尾堯（立正大学教授）予定
講師（一般）嵐圭史（前進座）予定

◆同日午後四時理事会（本能寺文化会館）お会式の件

◆十月二日（金）午後三時お会式準備奉行委員会（本山頂妙寺）お会式準備、行脚、法要等打ち合わせ

◆十月三日（土）午後一時お会式（飯山頂妙寺）

導師本山頂妙寺貫首永田日洵猊下
講師法華宗本山貫首猊下

◆十一月二十四日（火）全門連京都理事会（本山妙覚寺）

懇親会別席

◆十二月十八日（金）午後四時会計監査（本能寺文化会館）

◆同日午後五時理事会（本能寺文化会館）

平成二十一年度会務行事報告
平成二十一年度決算中間報告
（藤井照源）

日蓮宗

◆日蓮宗は日蓮聖人が『立正安国論』を鎌倉幕府に奏進されて七五〇年を記念して六月八日に鎌倉法要を本山妙本寺、十日に中山法要を法華経寺でそれぞれ営んだ。また六月九日に立正大学石橋湛山記念講堂で『立正安国論』奏進七五〇年記念講演＆シンポジウム」を開催した。

◆宮城県仙台市にある本山孝勝寺の貫首に谷川海雅師（石巻市久円寺前住職）の就任が決まり、六月一日、東京都大田区の日蓮宗宗務院で辞令伝達式が行われた。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆現代の世相に対応するために審議されていた法規の抜本的な改正が、第六十二次臨時宗会において可決され、平成二十一年一月二十三日付けをもって文部科学省より改正の認証を受け施行した。

◆法規改正に伴い、責任役員が一名増員され、蓮池光洋（東京　眞源寺）が就任。また、教化部が布教部と名称変更し、加藤信淨が財務部長から布教部長に転任。渡辺明博が総務主事から財務部長に就任。

◆第十五回教師養成特別講習会が昨年より開催され、全三回の講習を受け検定試験に合格した受講生十八名が資格を得て教師となった。

◆法華宗青年伝道隊の第八期隊員養成特別訓練が、茂原市大本山鷲山寺において三月六日～十日まで開催され、二十八名の青年僧が新伝道隊員として布教の第一線に立つこととなった。

◆宗会議員の任期満了により、十三選挙区全てにおいて選出し、また大本山議員も選定され下記の者が四月一日をもって就任した。

一、教区選出議員

北海道・若林弘基（赤平市・日現寺）
東北・土田隆英（秋田市・信隆寺）
千葉・平田義範（千葉県・本興寺）
東京・三吉廣明（東京都・妙壽寺）
東海・鏡東学（静岡県・浄泉寺）
北陸・中村日珠（石川県・宣龍寺）
京都・中山孝明（京都市・信正寺）
大阪・富岡諦昭（高槻市・常行寺）
兵庫・金井孝顕（神戸市・感應寺）
淡路・山本恵彦（洲本市・本妙寺）
中国・菊地恵祐（岡山市・松壽寺）
四国・佐々木明乗（徳島市・妙法寺）
九州・詠田日守（宮崎市・妙経寺）

二、大本山選出議員

光長寺・久保木学洋（沼津市・山本坊）鷲山寺・小山孝正（千葉県・不動寺）本能寺・青木日政（鹿児島市・蓮隆寺）本興寺・清水常光（尼崎市・本成院）

◆四月七日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において戦没者慰霊法要が行われ、法要終了後、原井慈鳳宗務総長の挨拶があり、今日の様々な諸問題は、我々現代人が患っている心の問題であり、そのためには宗祖の「立正安国」の御心に気がつかなければいけないと訴えた。

◆第六十三次定期宗会が五月十八日～二十日に宗務院において開催され、原井総長の施政方針に続き、議案を議定して閉会。

◆全国宗務所長が五月二十六日～二十八日に宗務院において開催され、本年度の宗務執行等二十議案を協議して閉会。

◆七月二日、『立正安国論』進覧七百五十年を記念して、「誓願の集い」が東京都・獅子吼会において開催され、御導師に管長大塚日正猊下、四大本山御貫首御臨席し多数の参詣があった。光長寺石田日信猊下が「大悲菩薩の誓願を拝す」と題し、講演された。『立正安国論』の御魂・精神を今日の世に照らし、現代の私達が再び世法に仏法を発信する目的で、多くの僧俗が集う。お題目総下種のため、当日早朝より、午後二時の法要に間に合うべく、青年伝道隊が中央区の宗務院から、新宿区の獅子吼会まで唱題行脚を実施した。（平田義生）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人
門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成22年2月16日
第41号

日蓮と法華の名宝
～華ひらく京都町衆文化～

「門連だより」元編集長
展覧会事務局　生駒雅幸



平成二十一年十一月二十三日午後六時、最後の来場者を見送り「日蓮と法華の名宝」展が幕を降ろした。会場となった特別展示館は静けさを取り戻し、ライトアップの中、レンガ色の美しい姿で佇んでいる。十月十日の開会の日にはまだ色づきはじめたばかりの紅葉が、日を追って、広く深く京都の町を染めていったように、拝観された人々の心が安らぎと感動に彩られた四十五日間であった。

期間中多くの方々に日蓮聖人とその門弟ゆかりの御霊宝、法華信仰と京都町衆文化の精粋にふれて頂いた本展の総入場者数は、当初目標の七五〇〇〇人を大きく上回り八八一八七人を数えた。

全ての来場者が帰られた後、小松浄慎日蓮聖人門下連合会理事長導師のもと大本山法華経寺新井日湛貫首猊下をはじめ関係者約三〇名が参席し、本館中央室において「日蓮と法華の名宝」展円成奉告法要が執り行われた。静謐な館内の隅々にまで読経の声が広がると、四十五日間に亘り多くの方が訪れたこの博物館が、今は結縁の道場としての荘厳さを具えたようにも感じられる。

この展覧会は、今から四年前の平成十八年十一月の京都における門下連合会理事会でその企画が示されスタートしたのだが、当初は様々な課題を抱えて必ずしも順調なすべり出しではなかった。しかし日蓮聖人門下連合会、京都日蓮聖人門下連合会、十六本山会などが幾度となく前向きな検討を重ねた結果、広く一般社会に向けた本展遂行は記念の年にふさわしく意義深きこととの考えに至り、異体同心にして進捗を見せたのは平成十九年の夏頃からであった。

実際の準備を進める中での大きなポイントは二点。一つは本展のコンセプトに基づく出展構成。もう一つは広報である。出展構成については主として京都国立博物館の本展担当学芸員が企画を行い、それについて門連側と協議しながら内容を作成していった。しかし当然のことながら出展構成が作成されても所蔵者の了解を頂かなければ出展の確定には至らない。

大切な宝物を門外に遷すということは所蔵者にとっては勿論依頼する主催者にとっても大きな覚悟を必要とするが、立正安国論奏進七五〇年という意義をご理解いただき所蔵の方々の快諾を頂けたことは誠にありがたいことであった。そのようにして全ての宝物が展示された会場はまさに法華の道場であり、初めて会場を訪れた時の感動は本当に大きなものであった。



次に広報であるが我々門下にとってはこれを一つの大きな布教の機会と捉え、出来るだけ広く一般社会に伝えることを目指した。直接的な布教ではないが、「日蓮聖人」「法華信仰」「京都町衆文化」といったキーワードが未聞の人々の目にとまり記憶に残る事、そして来場した方々が展覧会を機縁としてその内容を深く理解していただくことが重要であると考え京都、大阪をはじめとした近畿圏だけでなく東京の主要駅や空港、全国の郵便局など、またテレビ、ラジオ等を含め様々な広報を行った。

こうして日蓮聖人門下連合会各団体、京都十六本山が歩を共に進め本展覧会の円成となったわけだが、多くの方々が本展の展観だけではなく併せて十六本山に参拝されたことにもう一つの大きな意義があろう。十六本山は、京都に於ける他の観光主体の寺院とは異なる信仰の寺院であり、それだけに一般の方や檀信徒でも訪れることが少なかった感がある。しかしながら今回の展覧会を機に博物館で御霊宝にふれつつ各本山で帝都弘通の歴史を体感出来たことは、多くの檀信徒にとって貴重な機会になったのではないだろうか。



また会期中は、博物館に門連事務局より二名が常駐し美術的、学術的内容以外の来場者の様々な質問に対応した。その中では宗教的な疑問、質問ばかりでなく自身の信仰に疑問を持つ不安の中で僧侶と話がしたいというような方々も多くおり、一般の方々にとっては博物館という公共の場で気軽に話が出来るというメリットもあったように感ずる。これについては博物館側からも「これだけの人数が入った展覧会としては、過去の例と比較して学芸員に回ってくる質問が驚くほど少なかった」とその対応に感謝されている。

いずれにしてもこうした催しは、法事や葬儀などの宗教行事とは異なる環境の中で宗教とふれあうことが出来る貴重な機会であり、宗教者の立場からするとこれからの布教の一つの形として捉えることもできよう。

平成十五年初頭に東京国立博物館において開催された「大日蓮展」、そして今般京都国立博物館に於いて円成した「日蓮と法華の名宝」展。この二つの展覧会が物語ることは、伝統教団はただ宗教団体としてあるだけではなく文化の継承者として大きな役割を担っているということ。そしてその文化を「目で見」「心で感じる」ことを求める人が多くいるということの二点である。

時には時代の荒波に翻弄されてきた信仰とそれに支えられてきた仏教文化ではあるが、現在では普遍の価値を有するものであり様々な形で次代へと伝えていかなければならない大切なものであろう。

大聖人の意を体された日像上人が帝都弘通の大きな一歩を標された京都。その地に於いて円成した「日蓮と法華の名宝」展は、今を生きる人々に一筋の光明となり四海帰妙への大きな道標になり得たと感じる。そしてそうなり得たのは日蓮聖人門下が異体同心にして本展円成を目指したからであろう。

願わくば門下連合会であるからこそ出来る様々な形での布教活動が、日本のみならず世界各地で展開されることを期待するものである。

従地ゆじゅつ

◆「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海、皆帰妙法の祖願成就のために、更なる結束を果たさねばならない。

◆古代ギリシャより続く「昔は良かった」との懐古思想。紀元前から少しずつ悪くなっているならば現代は如何なる時代なのか？

◆民主党への政権交代。新政権への多くの国民の希望と期待の現れであったが、実際の施策と変わらない政治家の姿勢。どこまで政治不信は進むのか？

◆世界的な金融危機はまだ続く。紛争と内戦は止まらない。環境問題への有効な解決策は見えてこない。慢性的な不安と恐怖が人々を支配する。

◆世紀末のノストラダムスに続いて、二〇一二年のマヤ文明の世界滅亡の流行。神の元の終末論では、世界の終わりの時に、信じる者のみの救済を説く。世界の滅亡は、神を信じる人々にとっては待ち遠しいものなのか？

◆仏教の説く末法思想とは、世界の終わりではない。末法とは、お釈迦様の滅後より二千年から始まり、現代へ、そして未来永劫続く時代。その時代には、正しい仏の教えさえも廃れること。

◆その末法であるからこそ、宗祖は、正しい仏の教えである法華経へと、南無妙法蓮華経へと人々を導かねばならないと言われた。混迷の時代だからこそ、今を生きる人々への「未来は良くなる」との希望の灯りを示さねばならない。

（義）

《リレー提言⑧》

門連の歩みと次代への発信

半世紀を迎える日蓮聖人門下連合会



国柱会講師
(元門連常任理事)　大橋邦正

(旧暦七月十六日第一国諫の聖日)東京神田の共立講堂において『立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会』が、日蓮聖人門下各派共催という画期的な共同連帯の姿をもって、満堂にあふれるご門下の聖祖讃仰の志を結集、大会は盛儀裡にご報恩の万一に擬し奉った。

この感激のさめやらぬ同夜、門下統合の気運のおもむくところ、参加各派の首脳者による懇談の場がもたれ、談論おのずからご門下大同団結をめざす意見の一致を見、この大会を機に各派交流連絡の組織を常設することとなった。すなわち門下連合会の前身「日蓮聖人門下懇話会」がここに誕生したのである。

門下連合会結束の経過

日蓮聖人門下連合会が結成されて、近く五〇年の節目を迎える。ご門下の大同団結を目指し、各派連合して精進をかさねたかずかずの共同事業は、顧みてその内容と意義のふかさに、連合ならではの重みと力を感ずる。

ここで、門下連合会が発足に至った経過をふりかえってみよう。去る昭和三十四年は、あたかも日蓮聖人第一国諫たる『立正安国論』上書よりかぞえて七〇〇年という、聖祖ご門下にとって、意義まことに重要な記念すべき年であった。この年こそ『立正安国』の大義を宣揚する千載一遇の好機であり、まさしくご門下大同団結を促す時の到来であった。

この時を重視して、世にあまた存在する聖祖ご門下が、ここに大同団結し、「立正安国論献諫」の意義をひろく世に顕彰する大会を、盛大に開催し、以てご報恩の万一に資するべきであると、ご門下各派に提唱されたのは国柱会会長田中香浦先生であった。

田中先生は、まずときの日蓮宗山田日真管長を訪ね、誠心誠意の提唱に深甚なる共感をえられて、さらに京都の各派本山を歴訪し、各派の誠虔なる賛同をえられたのである。

かくてご門下十一教団結束のもと、昭和三十四年八月十九日を「日蓮聖人門下連合会」と改めることを決定し、ここに今日の日蓮聖人門下連合会が正式発足をみたのである。ときに昭和三十五年二月二十五日であった。

連合会規約の目的には、本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。目的を達成するための共同事業として

一、祖廟護持の組織強化
二、教育事業の提携
三、布教の連合強化
四、懇談会、研究会、講演会等の開催
五、各種出版物の刊行
六、海外布教の提携及び交流
七、対外的各種の運動
八、その他

が明示され、会の目的を明確に定義づけ、ご門下各派が連帯共同して異体同心の実践に、大いなる意欲をもやして結束をめざしたのである。

かくして門下連合会としてとりくむ初の事業が、日蓮聖人伊東法難七〇〇年の聖紀にあたり、ご門下一体となって記念行事を奉仕し、聖祖の威徳を万代に高揚するとともに、宗門の高風を現代社会に宣揚するべく、伊東霊蹟道場における対外伝道の好機と捉え、同年五月十二日のご聖日を期して、伊東の日蓮宗仏現寺において「伊東法難七〇〇年記念大法要」が、大導師・日蓮宗管長山田日真師、副導師・各派教団代表により厳修された。

一方篠見の俎岩ご霊蹟法華宗陣門流蓮着寺では、陣門流管長山岸日勢師大導師のもとに門連各派代表が副導師をつとめ、ご法難七〇〇年記念の大法要が厳修され、別して伊東市西小学校講堂と蓮着寺にては記念講演会と「まないた岩」聖史劇等が上演されるなど、この記念すべき聖なる一日を昼夜分かたず展開した門連共同の諸行事は、いずれも多大な成果をあげて成満した。聖祖ご法難を偲び奉る意義まことに深く、各派連帯の意識はいやが上にも高まったのであった。

門下懇話会から門下連合会

翌昭和三十五年は、日蓮聖人伊豆法難七〇〇年の記念の年にあたるところから、再びご門下共同して聖祖ご法難の意義を世に顕彰すべく、門下懇話会の共同事業としてご霊蹟伊東を舞台に、伊豆法難七〇〇年を顕彰する対外行事に取り組んだ。

そのためにご門下連帯の組織の充実と拡大は、最要急務であった。この年の二月八日に開催の日蓮聖人門下懇話会において、もはや懇話会の域を超え、連帯組織の発展への機が熟したとして、規約をはじめ諸制を整備し、懇話会を発展解消して、その名

連合の誓い新たに結成奉告式

昭和三十八年、門連各派交流のふかまるなか、門下連合の意義いよいよ熟し来たったとし、連合の気運を伸展せしめるために、規約を改正して新たな組織化を図ることとなった。

改正の主なるものは、各派教団から宗務総長を含む三名の代表を選出して、各宗務総長は常任理事とし他を理事とする実に意欲的な理事制を敷いたことである。新組織による初の行事は、門連規約の目的に明示の、祖廟中心の精神的実践であった。ことに身延祖廟は、一日蓮宗、一身延山のみが護持するものに非ず、全日蓮門下のひとしく崇敬護持すべき祖廟であって、門下連合の一円環の組織の要である。この意義において連合会の新発足にさいし、この年十一月二十八日、門下連合会各派管長、宗務総長(常任理事)連合会理事の各聖が祖廟に参集してここに、「日蓮聖人門下連合会結成誓願奉告式」を厳修、連合会活動の誓いを新たにしたのである。式中御廟前に奏上の「奉告文」の要旨は次の通りである。

伏して惟みるに教風の宣揚は門下僧俗の一致結束に存し、門下僧俗の一致結束は一に祖廟に結帰し奉るに在り。(中略)慶讃疏に三願を掲げ、大衆同賛の下に盟って曰く「曰く挙宗一致祖廟中心の宗是を興起して一宗崇敬の標的を確立せん。曰く、挙宗一致、弘通中心の宗是を充実して正法宣揚の大旗を輝かさん。曰く挙宗一致、宗門の経編を整斉して永く人法の睽離を絶たん」と。この三願は直ちに是れ、今日我等の誓願に非ずして何ぞや。現に立正の勅額は燦として廟頭に輝く。豈に協同結束、祖廟中心の宗是を興起し、正法を宣揚し、経編を整斉せざる可けんや。(中略)幸いにして時運の趣く所、道念の興起する所、近年頓に祖廟に結帰し、門下結集して立正安国の教風を宣揚せんとの動きあり。その議茲に熟し、門下十教団を打って一丸となし、「日蓮聖人門下連合会」の結成に至る。その教団の名を顕本法華宗、本門法華宗、日蓮宗、日蓮本宗、法華宗本門流、本門仏立宗、法華宗陣門流、法華宗真門流、国柱会、日本山妙法寺という。(下略)仰ぎ願わくは宗祖大聖人の尊霊、哀愍納受して冥鑒加被を垂れ、この結束をして金剛不壊ならしめ給わんことを。昭和三十八年十一月二十八日日蓮聖人門下連合会理事長金子辨浄敬白

門下連合会発足以来、今日に至るまで共同して実践してきた数多くの事業は、門連という共同体であったればこそ実現できた業績であった。今回は紙面の都合上門下連合会誕生の経過に限られてしまったが、機会があれば本命の、ご門下連帯して実践し、実績を挙げた門下連合の正法護持、教風宣揚の歴史を記録に掲げたいと思っている。



観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員
株式会社 大陸旅遊
大陸旅遊 Tairiku Tours & Leisure co., LTD.
TEL 03-3376-2511　FAX 03-3376-5280　http://www.tairikuryoyu.co.jp　mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp
●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

平成三十三年二月十六日は宗祖御降誕八百年を迎えます



（平成二十二年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏　財務部長　米田宣雄
伝道局長　関谷泰教　宗務総長室長　渡邉義生
総務局長　駒野教源　現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　古河良晧　参与　渡邉一之
教務部長　塩崎望巳　参与　吉田海心
総務部長　梶山寛潮　日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　石田日信
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駄
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　椿澤日壽
宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
宗務参事　今井満良

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
講尊　野﨑日丞
宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　伊藤隆之

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長　原光承
総務部長　長﨑秀要
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　田中日生
宗務総長　寺田宗英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村宗完
財務部長　安立修学
社会部長　山口英泰
主事　笹木研吾
主事　永岡悠希

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村日彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　音羽隆全
庶務部長　山田岳隆

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒604-8091
京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町五二二
大本山本能寺内
電話　〇七五（二三一）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八

会長　岡本日旦
副会長　頂岳日選
理事長　吉本宣文
副理事長　藤井照源

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長代務　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　仲南良夫
門連理事　石見哲三
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗(本門流)大本山
鷲山寺
貫首　大塚日正
執事長　高橋洋山
役職員一同
〒297-0051
千葉県茂原市鷲巣四八
電話　〇四七五（二二）二九七八
FAX　〇四七五（二二）三〇三八

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中村日玄
総務　古瀬久馨
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　鈴木顯正
執事　笹原壮玄
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　高谷正之
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二二）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

本門佛立宗本山
宥清寺
住職二十四世講有　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首　椿澤日壽
執事長　鈴木顯正
執事　笹原壮玄
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
別当　中條令紹
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　高谷正之
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
貫首　椿澤日壽
執事長　鈴木顯正
執事　笹原壮玄
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
執事長　井出教道
参与　井野上正文
参与　藤先博明

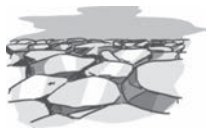
日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
役職員一同
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

日蓮宗本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二二）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　安藤信行
参与　伊東隆司
同　宇根海静
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

日蓮宗大本山
京都八本山会
大本山　妙顕寺　貫首　南條日慈
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　妙覚寺　貫首　頂岳日選
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山　頂妙寺　貫首　安藤日瑛

平成二十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十二年二月現在）

門連時報

京都理事会開催さる

平成二十一年十一月二十四日（火）、日蓮宗本山妙覺寺で、「日蓮聖人門下連合理事会及び京都門下連合会との懇談会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・京都連合会代表・大阪門下連懇話会代表、並びに京都門下連合会役職員など計六〇名が参加した。

正午に集合し、昼食。午後一時より頂岳日選貫首猊下御導師のもと法味言上、記念撮影。続き、午後二時より本堂にて頂岳日選貫首猊下より妙覺寺沿革を拝聴した。

午後三時、理事会開催。小松浄慎理事長が座長となり議題に沿って議事を進行。上半期事業報告を事務局より報告。続き、京都門下連合会藤井照源理事長より京門連活動及び「日蓮と法華の名宝」日蓮聖人展のラジオでの広報など報告及び大阪門下懇話会中村日游理事長より地方門連活動が報告された。

次に、「日蓮と法華の名宝」展担当より展覧会報告がなされ、開催期間四十一日で入場者数が概算八万人に及んだことが報告された。また、駅・新聞・雑誌等、多くの場所で広報宣伝を目にし、多岐にわたる展覧会門成の活動がなされていたことが知り得たとの意見があった。午後四時閉会。

会場を全日空ホテルに移し、午後五時半より懇親会を開催、会員相互の親睦を深めた。



平成21年11月24日　日蓮聖人門下連合会　京都理事会　於：本山妙覚寺

日蓮と法華の名宝～華ひらく京都町衆文化～　大成功

立正安国論奏進七五〇年を記念し、宗門運動の柱でもある『日蓮と法華の名宝』が四十五日間の開催を経て幕を閉じた。

開催中の観覧者数は『八八〇〇〇人』であり、当初の目標から言えば大成功であった。

事業企画のスタートは大変厳しく困難な壁にぶつかりながらも、多くの議論の積み重ねが実を結び十月十日出発した。

開催当日、入場時間には一五〇人以上の行列が出来る程上々のスタートであった。

日蓮聖人が命をかけて国家諫暁し、正しき生き方を示された国宝『立正安国論』は常に人だかりで、手を合わす人々も多く見られた。『立正安国論』は展示物では無く、日蓮聖人の命の財産であることが伺われる。京都・本山妙覚寺蔵の日蓮聖人座像は初公開で、一四世紀前半に活躍した仏師法印院興の作で貴重な座像である。

参拝者が自然と合唱礼拝する姿に感動を覚えた。

この日蓮聖人展の調査において又新発見された、顕本法華宗・総本山妙満寺蔵の高麗仏画「彌勒下生変相図」はちぎり家からの寄贈で、町衆の存在感を深く表していた。

約二〇〇点の内容を振り返れば『日蓮聖人展』の意義が間違いなく、重く、深いものであったことが位置付けられる。

立正安国論奏進七五〇年の機縁を得たことはまさしく「時のしからしむるのみ」である。

そして、本阿弥光悦、尾形光琳、長谷川等伯、俵屋宗達等の熱烈な法華信者の法華の文化・芸術が町衆の力として法華信仰を支えていった。その作品が展示されたことも大成功の要因となっている。更に「日蓮聖人展」が京都で開催される意義は日像上人の京都弘通に始まり今日に至るまで十六本山を中心とした日蓮諸宗にも大きな光を輝かせた。

日蓮聖人展のみならず京洛の十六本山を中心とした日蓮諸宗への参拝や日蓮聖人近畿御遊学の霊地比叡山横川定光院への護持顕彰参拝は多くの人々の共感を呼んだ。

この「日蓮聖人展」の大成功の状況を深く受け止め更に伝道教化に邁進していかなければならない。それが日蓮聖人への御報恩であり「立正安国論」奏進七五〇年記念の意義である。

（藤井照源）

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
御遷化					
平成二一・八・一二	永田日洵	日蓮宗京都門下連合会	理事顧問		
人事					
平成二一・九・九	竹内正道 寺田完英	法華宗真門流	常任理事	就任	退任
平成二一・九・九	上田浩岳 堀　智泰	法華宗真門流	理事	就任	退任
平成二一・一〇・一三	加藤乗安 川手誠誓	本門佛立流	常任理事	就任	退任
平成二一・一一・一三	大塚日正 石田日信	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成二一・一二・一〇	原井慈鳳 二瓶海照	法華宗本門流	常任理事	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞

毎月1日・10日・20日
年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）

年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）
一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

法華宗真門流

◆六月二十二日～二十六日、函館・妙見寺にて「第十一期布教師養成所」開所。
◆七月二十二日、臨時宗会開催。新宗務総長に寺田完英師。
◆八月二十二日～二十八日、札幌・日泰寺にて、支学林並びに第三種講習会開講。
◆八月二十三日～二十九日、総本山本隆寺にて各種（一～三種）講習会開講。
◆九月六日、灘市民センターにて、第三教区仏教大講演会開催。歯学博士高石佳知先生による「健康長寿のこころえ」、布教師養成所所長岡眞行師による「孝養に三種あり」の講演。
◆九月九日、寺田完英宗務総長による新内局発足。
◆十月五日～十四日、総本山本隆寺にて秋季学林（岩崎峻暉学林長）開講。
◆十月十二日～十三日、総本山本隆寺にて「御会式」奉修。十二日には「立正安国論奏進750年記念法要」も厳修。
◆十月三十一日、第一教区佛教講演会開催。京都国立博物館で「日蓮展」を見学の後、総本山本隆寺と日蓮宗大本山妙顕寺にて法要各一席。
◆十二月十日～十一日、「平成二十一年度定期宗会」開催。
◆一月一日～八日、総本山本隆寺にて年頭国祷会、法華八講開催。

本門法華宗

◆二十一年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が厳修された。
十二日御逮夜法要に併せ、有志青年僧侶による唱題行が行われた。
◆同十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要、並びに三師会・歴代上人法要が松下日肆貫首御導師のもと、奉修された。法要後、本堂前の天水受を寄贈された山口県本國寺檀信徒に感謝状が授与された。
◆同十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、『開迹顕本妙法蓮華経直談抄』が本門佛立宗本山宥清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日忠聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。
◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百三十回教学講習会（基礎教学講習会）を、九月三・四日、第百三十一回同講習会を、十一月二十七・八日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。
◆同学院教学部より七月三十一日付けで学院テキスト『本門法華宗入門（三）宗門史』が発行。
◆同布教部より、布教誌『生きる』第五三雪華号、信報『信行』第百七十二号を平成二十二年一月一日付で発行。
◆役員移動
平成二十二年一月一日付
大本山妙蓮寺執事長
退任　石崎光教
新任　音羽隆全

国柱会

（木村光正）
◆八月二日、申孝園夏祭り開催。十五日、旧盂蘭盆開顕大供養会厳修。十五～十六日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕実施。十六日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。
◆九月五日、申孝園の集い開催。十二日、日蓮聖人龍口法難会慶讃法要厳修。二十二～二十三日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕実施。二十三日、妙宗大霊廟秋季彼岸大供養会厳修。二十六～二十七日式士任用試験実施。
◆十月十日、日蓮聖人佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、池上大坊本行寺有志参拝・本門寺屋外宣伝実施。日蓮聖人御逮夜法要厳修。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩大法要厳修。十七～十八日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕実施。十八日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。三十一～十一月一日、身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団挙行。
◆十一月三日、明治節慶讃法要厳修。明治神宮参拝。十一日、日蓮聖人小松原法難会慶讃法要厳修。十二日、田中壮谷賽主、今上陛下ご即位二十周年記念式典出席。十四日、国柱会全国定例協議員会開催。十四～十五日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕実施。十五日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。十六日、恩師田中智学先生御逮夜法要厳修。十七日、恩師田中智学先生第七十一遠忌報恩大会厳修。
◆十二月十九～二十日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕実施。二十日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。憶年会開催。二十三日、天長節慶讃法要厳修。三十一日、福茶の会、送旧迎新式（除夜法要）厳修。

日本山妙法寺

◆九月二十七日、橿原仏舎利塔落慶法要
◆十月三日、ニューヨーク州グラトン仏舎利塔十六周年記念法要
◆十月四日、ニューイングランド仏舎利塔二十四周年記念法要
◆十月四日、美土里仏舎利塔十周年記念法要
◆十月二十二日、ダージリン仏舎利塔十七周年記念法要
◆十月二十七日、ヴァイシャリ仏舎利塔十三周年記念法要
◆十月三十一日、ネパール・ポカラ仏舎利塔十五周年記念法要
◆「殺人破壊の戦争、人類全滅の戦争も、元来、人間の本性から犯さんとする大罪悪ではありませぬ。ただ此の殺人破壊の戦争を、或は独立国家自衛のために、或は自由主義、共産主義擁護のためには、正当の手段なりとする邪見を苛折し、摧破する精神的権威が存在せなかったがためであります。換言すれば、現代文明は卑近なる動物的欲望の奉仕に終始し、崇高なる人間の精神的発展の経路を実践することを忘れてしまいました。藤井日達」
（牧野行暉）

法華宗本門流

◆平成二十一年十一月十三日、大本山光長寺貫首石田日信猊下が、第百三十代法華宗管長に就任し、同日、推戴式が沼津市大本山光長寺にて厳修された。
◆平成二十一年十二月九日、法華宗宗務院仏殿において、原井前内局退任式が、石田管長により執り行われた。原井内局は、平成十七年十二月に就任、永年の課題であった当宗法規の全面再編成、『立正安国論』進覧七五〇年奉讃事業の完遂、菩薩行研究所の新設と数多くの事業を遂げられ、四年間の任期を満了された。
◆同日、二瓶内局の就任式が執り行われ、新内局には、二瓶海照宗務総長（富山市・信行寺）、佐藤義賢庶務部長（東京・信隆寺）、久永晃顕財務部長（赤穂市・福泉寺）、斎藤舜駒布教部長（尼崎市・一乗院）、金井孝顕教学部長（神戸市・感應寺）が任命され、また総長推薦の責任役員として松本義仙（沼津市・西之坊）が就任し、十二月十日より発足。
◆当宗教学を総合的に研究し、宗旨宣揚を目的とする「法華宗教学研究所」から「桂林学叢」第二十一号が刊行された。本号は、大平宏龍所長以下九編の論文を掲載し、また十一号より二十号までの総目録並編集者別目録が纏められ今後の研究への活用が期待される。お問い合わせは、宗務院（〇三―五六一四―三〇五五）まで。
◆平成二十二年三月五日、「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）の平成二十一年度卒業式が行われる。卒業生は、行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。
◆平成二十二年三月十一日、第二十三回法華宗教学研究発表大会が東京神田「フォーラムミカサ」にて開催。聴講希望の方は宗務院（〇三―五六一四―三〇五五）まで。
◆古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授していた「興隆学林専門学校」が平成二十二年度新入生を募集中。
（平田義生）

日蓮本宗

◆日蓮本宗宗務総長に大阪府箕面市本成寺住職の原光承師が就任した。これは前宗務総長の任期一年余を残した退任に伴うもので、昨年十一月五日に本山要法寺にて嘉儀日有管長から辞令が交付され、本年六月末日までの残任期間を任期とする新宗務内局がスタートした。原新総長は宗政施政方針として①教団への忠誠意識の強化、組織の引き締め②法器の湧養、人材の育成教化③教化活動の拡充と活性化などを掲げている。また内局各部長職は、前内局からの再任命となる左記の各師が就任した。
総務部長・長崎秀要（島根県本妙寺）
財務部長・原田智光（山形県妙國寺）
教務部長・原光明（大阪府本成寺）
（柳下真敬）

日蓮宗

◆五月十二日、宗門法要として伊豆法難七五〇年記念法要が伊東の佛現寺で営まれる予定。
◆昨年十二月十七日に第九九特別宗会が、翌十八日に第百臨時宗会が開かれ、新宗務総長に渡邊照敏師（千葉県市川市法運寺住職）が決まった。
▽伝道局長・関谷泰教師（愛媛県大法寺住職）▽総務局長・駒野教源師（東京都常在寺住職）▽伝道部長・古河良晧師（東京都常圓寺住職）▽教務部長・塩崎望巳師（千葉県法蓮寺住職）▽総務部長・梶山寛潮師（山梨県蓮朝寺住職）▽財務部長・米田宣雄師（島根県連紹寺住職）▽宗務総長室長・渡邉義生師（千葉県長胤寺住職）▽日蓮宗現代宗教研究所所長・三原正資師（広島県妙長寺住職▽日蓮宗新聞社社長・草ヶ谷秀人師（東京都正覚寺住職）
（大澤宏明）

顕本法華宗

◆八月二十五日～九月八日、総本山妙満寺において妙塔学林が開講された。残暑厳しい京都で、若手僧員が行学二道を実践した。布教教学の第一線で活躍することを期待。
◆十月一日～二日、「万治法難三五〇年」にあたり顕彰参拝（事務局・飯沢道安師）が行われた。有志九名が参加、会津妙法寺第二五世・正統院日尚上人配流の地・三宅島を訪れ、墓前で法味言上を行った。
◆十月十日～十一月二十三日まで、京都国立博物館「日蓮と法華の名宝」展の期間中、総本山妙満寺宝物室において、京友禅の老舗で四〇〇年来の妙満寺檀越・㈱千總（西村家）の「千總コレクション展」を開催。それぞれの時代を彩った美しい着物の数々を展示、拝観者の目を楽しませた。
◆十月十二日～十三日、総本山妙満寺において中村日玄猊下大導師のもと常楽院日経上人報恩法要が厳修され、僧俗五〇名を越える参詣者があった。法要後、常楽院日経上人報恩の会（会長・山本学人師）の総会を開催、今後の活動方針が協議された。
◆十月二十九日に西部教区僧員研修会（会場・総本山妙満寺）が、十一月四日に東部教区僧員研修会（会場・東金妙善寺）がそれぞれ開催され、本宗布教の第一線で活躍する特命布教師・教区布教師による講演があった。
◆十一月十六日から二日間にわたり、妙塔学林研究科が開講された。教学研究所所長・妙塔学林教授の窪田哲正師より「天台・日蓮教学の基礎を学ぶ～日迢著『法華宗略名目』を拝読しつつ、我々に「引導」が可能かということを考える」と題する講義があり、受講生一同研鑽を積んだ。
◆十二月五日、総本山妙満寺において釈尊成道会を奉行した。また、四年目となる恒例の「大根だき」を振る舞い、境内は大勢の参詣者で賑わいを見せた。
（吉本栄昶）
◆八月二十一日、布教誌『宝塔』編集会議が開催された。
◆九月二日・三日、中央行学講習会が、横浜・鎌倉において開催された。
◆十一月十六日、布教研究所所報編集会議が開催された。
◆十一月十九日、宗学研究所所員会が開催された。
◆十一月十九日・二十日、第一回研究発表会が別院本妙寺において開催された。
◆十一月二十日、学林教授会が開催された。
◆十一月二十八・二十九日、三派統合学林後期学生講座が本宗の当番で開催された。
◆十二月一日・二日、新住職学生沙弥講習会が開催された。
◆十二月三日、昇級・検定試験が行われた。
◆一月二十九日、臨時宗会が開催された。
（以上、ことわりのない場合は、東京・巣鴨の宗務院会議室にて開催）
（松吉慶憲）

法華宗陣門流

京門連

◆一月二十日（水）午後五時、理事会（本能寺文化会館）。
平成二十二年度役員確認の件、平成二十一年度会務行事の件、平成二十二年度決算の件、平成二十二年度会務行事案の件、平成二十二年度予算案の件、その他。
◆同二時三十分、降誕会（本能寺文化会館）。
導師・大本山本能寺貫首岡本日亘猊下。講師・本山妙覚寺貫首頂岳日選猊下。
◆三月十日（木）午後四時、理事会（本能寺文化会館）。
立教開宗会の件、夏季大学の件。
◆四月二十八日（水）立教開宗会（比叡山横川定光院）。
導師　未定。講師・日蓮宗講師上人。
◆五月、全門連身延理事会（身延山久遠寺）。
◆六月十日（木）午後四時、理事会（本能寺文化会館）。
立教開宗会の件、夏季大学の件。
◆八月二十八日（土）午前十時開講、第四十六回夏季大学（本能寺文化会館）。
講師（本山）法華宗本山貫首猊下。講師（大学）。講師（一般）。
◆同日午後四時、理事会（本能寺文化会館）。
お会式の件。
◆十月一日（金）午後四時、お会式準備奉行委員会（大本山本能寺）。
お会式準備、行脚・法要等打ち合わせ。
◆十月二日（土）午後一時、お会式（大本山本能寺）。
導師・大本山本能寺貫首岡本日亘猊下。講師・日蓮宗本山貫首猊下。
◆十一月、全門連京都理事会（大本山本能寺）。
懇親会・別席。
◆十二月十四日（火）午後四時、会計監査（本能寺文化会館）。
◆同日午後五時、理事会（本能寺文化会館）。
平成二十二年度会務行事報告、平成二十二年度決算中間報告。
（藤井照源）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。
●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他
●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成22年9月23日
第42号

日蓮聖人門下連合会結成五十周年を迎えて

「立正安国」の大義を宣揚し、日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下加盟教団、地方門下連合会の更なる邁進をねがう。

そもそも日蓮聖人門下連合会は、昭和三十四年二月四日『立正安国論』上書より七百年の佳節、国柱会田中香浦主幹の提唱によりご門下十一教団の賛同を受け、一致協力のもと「日蓮聖人立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」を開催、当大会が盛大裡に成功をおさめ、各門下結束の気運が高まったことに始まる。

当初、門連は「日蓮聖人門下懇話会」と称し、懇話会の充実発展を期して事業企画推進委員会を設置、種々協議を重ね大同団結の挙宗一致を目指していた。昭和三十五年二月二十五日、懇話会はいよいよ機熟したとして、名称を「日蓮聖人門下連合会」と改め正式な発足をみるに至った。提唱より約一年、誠に獅子奮迅の気を伺えるものである。

昭和三十八年十一月二十八日、祖廟奉告式には、顕本法華宗、本門法華宗、日蓮宗、日蓮本宗、法華宗（本門流）、本門佛立宗、法華宗陣門流、国柱会、法華宗真門流、日本山妙法寺の十教団が祖廟に拝跪し、日蓮宗金子辨浄理事長より、

「曰く、挙宗一致、祖廟中心の宗是を興起して一宗崇敬の標的を確立せん。

曰く、挙宗一致、弘通中心の宗是を充実して正法宣揚の大旆を輝かさん。

曰く、挙宗一致、宗門の経論を整斉して永く人法の瞭離を絶たん」

と、謹んで宗祖に門下連合の誓いを奉告した。

つらつら門連五十年の共同事業を顧みれば、結成以後年をおうごとに各教団の意識は充実成長し、昭和四十一年、日比谷公会堂にて破邪顕正の「日蓮聖人門下連合会大講演会」を開催し、二千数百名が立正安国・恒久平和への実現に邁進することを誓った。続き昭和四十五年、「日蓮聖人龍口法難七〇〇年記念大会」では九段会館にて龍口法難の意義を講じ、琵琶師による演奏、聖史劇の上演がなされた。昭和四十六年、門連は芸術伝道を以て大衆に讃仰せしむることを目的とし、脚本小幡欣治、主演松本幸四郎による明治座「日蓮聖人降誕七五〇年慶讃『聖伝劇日蓮』」を主催し三万余の動員をはかる一ヶ月の公演を行った。後に聖祖七百遠忌報恩記念事業の一環として、前進座による聖伝劇全国公演に結実した。昭和四十九年、全国日蓮聖人門下連合会（通称、全門連）が東京を本部とし活動を行ってきたが、十六本山を有する京都日蓮聖人門下連合会との団結をはかり、東西拡大理事会が開催され、春は身延山にて、秋は京都にて理事会を開催することが決定された。所謂、現在における加盟十一教団が団結したのである。以後、日蓮聖人七百遠忌報恩事業としての四大事業の展開について各教団が論議を重ね、昭和五十四年、五十六年と二度に渡り全国公演された「日蓮聖人劇」二百三十五ステージ、大阪・東京・九州にて開催された「日蓮聖人展」十万人動員、昭和五十七年、新宿文化センターにて公演された「オラトリオ日蓮聖人発表演奏会」は作詞西川満、作曲黛敏郎を迎え、五年の歳月をかけ制作、五部十五章六十四ページにわたる珠玉の超大作となった。又昭和五十七年、青年シンポジュームを目的としたコーラルプリンセス号はサイパン・グアム島へ五百名が乗船した「青年の船」として出航し、若人の門連結集と統合を培い、社会貢献の決意を堅固にする成果を収めた。昭和五十七年、身延山久遠寺祖廟にて日蓮宗塩田義朗理事長より四大事業の円成が奉告され「御祖廟『七百遠忌報恩記念事業』円成式」が厳粛に執り行われた。昭和六十年、日蓮聖人門下連合会結成二十五周年を迎え、妙顕寺にて「日蓮聖人門下連合会結成二十五周年記念大会」大法要及び記念講演を開催、門連関係遷化先師三十一霊位に追悼回向を捧げ、国柱会田中香浦主幹より「門連回顧と今後の展望」が意義深く行われた。昭和六十二年、天台宗より開創一二〇〇年記念法要の要請があり、日蓮聖人遊学の地比叡山根本中堂にて「日蓮聖人門下連合会主宰叡山開創一二〇〇年記念大法要」を奉行した。平成二年、身延山久遠寺にて「日蓮聖人門下連合会結成三十周年記念祖廟奉告式」を奉行、日蓮宗伊藤通明理事長より「真の門下として死身弘法に精進し、僧俗一体となり祖意を顕揚し、新世界、新世代に対応しうる活動を目指す」と次世代への飛躍発展を誓願された。平成十二年、門連結成四十周年を迎え、妙蓮寺にて記念法要を奉行、三十周年記念法要後に遷化された先師三十九名に対し追善の回向が述べられた。平成十五年、東京国立博物館にて「立教開宗七五〇年慶讃記念『大日蓮展』」を開催。各教団にて格護する霊宝が一同に集められ三十五日間で十五万人を越える拝観者があったことは一般社会に広くアピールする大事業であった。平成二十一年、「大日蓮展」につづき京都国立博物館にて「立正安国論奏進七五〇年記念特別展『日蓮と法華の名宝』展」を開催。四十一日間で八万八千人を越える拝観者があり、特筆すべきは海外拝観者が多く来たことにあったことは周知の如くである。

門連の五十年は足早にもかずかずの大事業を展開していった。

これからは、門連が五十年を歩む中で培われてきた「立正安国」の精神を、門下一人ひとりが再確認し、芸術・文化・思想等、伝統と格式が薄れゆく現代社会において更なる飛躍を施し、皆帰妙法の祖願達成へと導かれることを切に願うものである。

【機関紙「日蓮聖人門連だより」】

日蓮聖人門下連合会結成二十五周年を迎えた昭和六十年、門連各派相互の連絡を密にし、情報の伝達、門下共通の自由論壇の場として、門連共同連帯の意識をたかめていくことをめざし、機関紙編集委員会を設置、初代編集長を富川孝恭師として翌六十一年に「日蓮聖人門連だより」を創刊した。以来今号で第四十二号に至る。

現在まで、「るつうぶん」、「従地ゆじゅつ」、「シリーズ門下御本山巡り」、「シリーズ門連の進路をさぐる」、「リレー提言立教開宗七五〇年を迎えるに当って」、「ポスト七五〇宗門布教の方向性」、「リレー提言門連の歩みと次代への発信」、「『立正安国論』奏進七五〇年現代における教化活動とは」と時機に合わせたテーマを決め各派教団それぞれのご意見を掲載、又門連の活動及び報告、各教団の短信等、創刊の理念と編集方針をふまえ、次代に向けた展望も盛り込んできた。

機関紙編集委員会では、本年の結成五十周年を記念し、「門連だより」の更なる展開と「門連結成五十周年記念『五十年の歩み』」を発刊することが身延理事会にて決定、現在、各編集委員会が本年度発行に向け鋭意取り組んでいる。

門下連合会理事長就任挨拶



渡邊照敏

今般、五月三十一日の日蓮聖人門下連合会身延理事会にて各会派教団より御推挙を賜り理事長の重責を担うこととなりました日蓮宗宗務総長渡邊照敏でございます。

門下連合会は、昭和三十五年に日蓮聖人門下懇話会として発足以来、本年五十周年を迎えることとなりました。この間の足跡をたずねる時、その責務の重大さをあらためて感じる次第であります。

又、近年の門下連合会を顧みますと、日蓮聖人が示された一天四海・皆帰妙法の祖願達成に向け様々な記念事業を展開しており、記憶に新しいところでは、昨年「日蓮と法華の名宝展」が盛大に開催され予想を上回る入場者に来館して頂いた事は、門下連合会が一致団結した大変大きな成果であると感じる次第であります。

更に、本年は門下連合会結成五十周年という節目の年であり、門下連合会と致しましては、「結成五十周年記念誌」発行等の事業を検討しております。

まさに今、門下連合会結成五十周年を期に、今一度結成当初の熱き思いを至し、祖願達成に向け門下連合会の尚一層の連携と交流をはかり、次世代・未来へ向け異体同心して邁進して行くことを切に願い、理事長就任の挨拶と致します。

従地ゆじゅつ

◆「坊主丸儲け」と言われると、私は「坊主丸禿げ」と答える。なぜなら多くの僧侶がそのような生活とは無縁だからだ。情けないことだが、世間一般から我々僧侶はこのように見られている。

◆いつから、どうして、こうなってしまったのだろうか。社会での我々の役割を考えた時、非常に悩んでしまう。

◆宗教は今や地域活動に容易に入っていくことができない。小学校でも地域活動でも、宗教と名があるだけで戸惑われてしまう。関係ないと思う僧侶も一部いるだろうが、私は大きな問題であると考えている。なぜなら、このような仏教離れという課題が上がってきて十数年、これといった解決策が見つからないからだ。安易に解決できるものでないことは承知しているが、問題は僧侶一人一人の自覚である。

◆言うのは簡単であるが行うことは難しい。地域活動・地域貢献をすべきという者、一方で僧侶として朝夕のお勤めをして給仕だけやればいいという者、さらに何か収入をという者もいる。たしかに生活の厳しいお寺はお勤めだけではとうてい成り立たない。しかし、何か収入をといっても失敗すれば大きな痛手を被ってしまう。

◆このような現実の中で、多くの僧侶はいろいろと模索しながら必死に取り組んでいる。当然のことながら金があるから偉いわけではないのだが、余りにも偉そうにしている僧侶が多い。偉そうに見せるよりも、偉く見られるようにしたいものだ。

◆今もどこかで必死に取り組んでいる僧侶のためにも「坊主丸儲け」と言われるような行動は慎んでいただきたいと願う。それが仏教離れの最大の原因かもしれないのだから。　（吉）

《リレー提言⑨》

門連の歩みと次代への発信
過去に学ぶ門連の未来



日蓮本宗宗務総長　岩崎広義

日蓮本宗は、日蓮大聖人の法孫二位法印日尊上人が延慶元年（一三〇八）に京都夷川醒ヶ井に現在の本山要法寺の起源となる法華堂を建立されたことから歴史が始まりました。

その後、日目上人（日尊上人の師）は天奏を果たすべく日尊上人を伴って上洛の旅に向かわれますが、美濃国垂井において体調を崩され、正慶二年（一三三三）十一月十五日遷化されます。

日目上人から後事を託された日尊上人はその翌年の建武元年（一三三四）の春、後醍醐天皇の拝謁を賜り、日蓮大聖人の教えを奏上したところ、天皇は大いに感銘され、日尊上人を二位法印に叙せられるとともに、六角油小路に京都止住の地を下賜され、やがてこの地に上行院を建立されました。

同年に日像上人も天奏を果たされ、これらの快挙は関東方面の日蓮門下にも強い影響を与え、天奏を目指す各宗、各本山の布教活動が盛んとなり、京都市内の民衆に法華信仰が根付いていくことになりました。

それからおよそ百年後に当たる一四〇〇年代になると、それぞれの門下や本山の布教活動にも限界が訪れるところとなったことから、教義上の本迹勝劣論議やその他諸々の確執などが起こるようになり、それぞれの発展を阻止しあうような風潮があったといわれています。

第一次盟約

寛正七年（一四六六）同じ日蓮大聖人門下が袂を分かち、敵対的な関係になっていたが、この頃になると同じ門下で争っても意義はなしと目覚め、日蓮大聖人門下の諸門が集まり結束して、日蓮大聖人の教えを弘めていこうという諸門和融の会議がもたれることになりました。

この年に第一次の各門下同盟が成立し、これが門下連合会の歴史の原点といえるかもしれません。

天文五年（一五三六）比叡山延暦寺は京都洛中に攻め入り日蓮大聖人門下の寺院を攻め入ったことから、門下の二十一本山は大阪堺へ避難し、やがて、その戦乱も収拾し京都の町に平穏が戻った数年後、二十一あった本山のうち十六本山が京都へ帰り、本宗は本山上行院と本山住本寺を合併して「本山要法寺」として復興を果たしたのです。

第二次盟約

寛正の第一次同盟から百年が経過したこの頃は、同門結束の盟約も色あせて、武力を背景にして道場正嫡を主張する本山やそれを阻止しようとする本山の間で論争対抗の争いが極限に達したといわれています。

「夫れ永禄年中三箇条目を定む。京師一宗の諸寺今に至るに印を加え、その興起を尋ねるに永禄の頃一致勝劣の諍論都に隆起して確執止むこと無し」（『本迹雪謗』本圀寺日達著）

そこで調停に乗り出したのが三好修理太輔長慶で、永禄七年（一五六四）八月二十日に第二次の盟約が交わされました。

その盟約「一致勝劣都鄙和睦之条目」の内容はつぎの通りです。

一、法華経一部八巻二十八品肝心上行所伝南無妙法蓮華経を以て一味同心広宣流布を祈り奉る事。

一、法理既一統之上者自讃毀他私曲謗言互停止せられるべし。

一、諸門和談之間本末衆徒檀那誘致すべからざるの事

右の条々この旨を堅く守られるべき、もし違反の仁あるは、其の寺と為し沙汰あるべし、許容においては、諸寺の儀を以て申達の者なり、仍末代不易連署件の如し。

永禄七年八月二十日

妙顕寺役者	十乗院日円判	
妙覚寺役者	蓮乗院日徳判	
妙蓮寺役者	仏乗院日勝判	
妙伝寺役者	妙法房日祝判	
妙満寺役者	真如房日現判	
妙泉寺役者	定泉房日円判	
本圀寺役者	松林院日叡判	
本隆寺役者	証誠院日雄判	
要法寺役者	真乗房日敬判	
本満寺役者	幸蔵房日利判	
本禅寺役者	乗泉房日政判	
頂妙寺役者	真乗院日棟判	
本法寺役者	教行房日受判	
本能寺役者	本像院日富判	
立本寺役者	正覚院日鍵判	

この後に本山寂光寺が加盟して京都の十六本山会が組織されたようです。

寛政法難

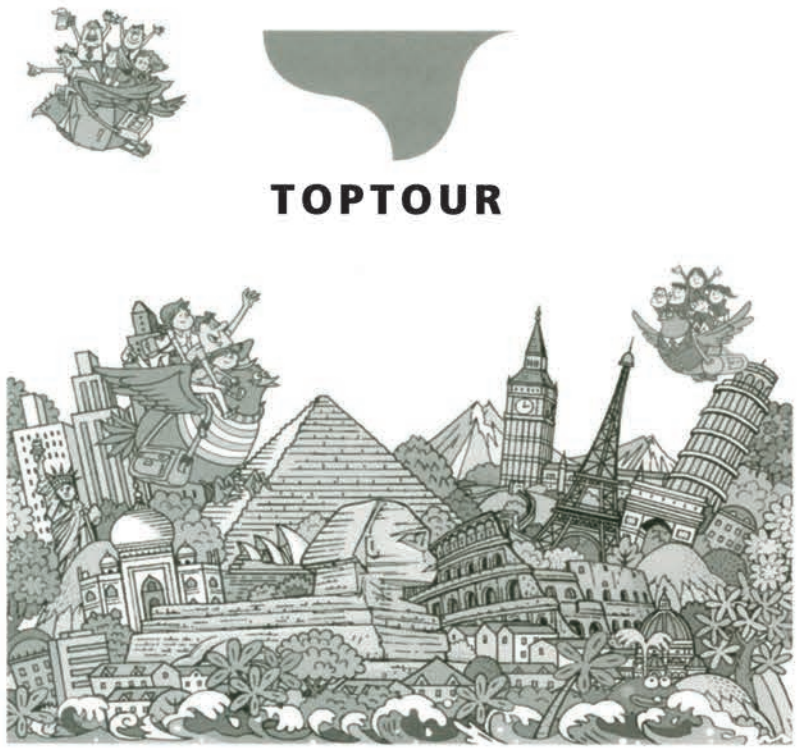
この盟約が結ばれてから約二百三十年後の寛政七年（一七九五）「要法寺儀は組合規約に違背し宗義上胡乱云々」と十五山から寺社奉行に訴えられるという事件が起こり、要法寺の主張は認められず十五山の勝訴と裁定が下されたのです。

この事件の歴史的背景を研究すると、要法寺を陥れるために十六山の会則を巧みに利用した構図が浮かんできます。

この事件を本宗では寛政法難として歴史にとどめています が、これは、遠い遠い過去に起こったことで、今日ではその遺恨もなく、門下連合会の一員として本宗も可能な限り協力させていただいております。

未来への提言

過去から学ぶとすれば、①教義上の問題で門下同士が論議を戦わせないこと②時の権力者と結託しないこと③自宗の利益と発展のために門連組織を利用しないこと、これらの鉄則を守り続けていただくことを未来への提言とさせていただきます。



東急観光株式会社は2006年創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

東急観光が社名を変えました。
トップツアー株式会社
TOPTOUR
国土交通大臣登録旅行業第38号　㊅日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号　http://www.toptour.co.jp　http://toptour.jp

立正安国論　奏進七五〇年記念特別展
「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」
《決算報告》

日蓮聖人門下連合会は、京都国立博物館におきまして京都国立博物館・日本経済新聞社・京都新聞社と共催し、平成二十一年十月十日より十一月二十三日の四十五日間、立正安国論奏進七五〇年記念特別展「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」を開催いたしました。

今日まで京都において日蓮聖人門下各教団が格護する御霊宝、御宝物が一堂に展観されたことは無く、この度の催しは日蓮聖人、そして日像上人を始めとする帝都弘通先師への報恩事業であると同時に、多くの方々が法華経信仰とその美術に接する貴重な機会でありました。門下各御寺院、関係各位には甚深の感謝を申し上げます。

さて、左記の決算報告は、平成二十二年五月三十一日に開催された身延理事会にて承認された決算報告です。

お陰様をもちまして開催期間四十五日間で延べ八八、一八七人の入場者を数え、剰余金も八、二〇三、七八六円となり、特別会計「日蓮聖人降誕八〇〇年事業資金」として門下連合会の今後の事業にあてることになりました。

皆様には、決算報告と共に改めて御礼申し上げ、日蓮聖人門下連合会の更なる発展に御協力賜ります様お願い申し上げます。

日蓮と法華の名宝展　収支決算書（税込み）

［開催日数４１日、入場者数８８，１８７人（有料６０，１４４人のうち一般３０，２９４人、特別観覧２９，８５０人）（招・障・優２８，０４３人）］

収入の部

部門	科目	決算	内訳
入場料収入	入場料収入	79,905,496	一般30294枚・特47966枚
図録他収入	図録売上げ	19,753,508	8,812冊
	グッズ・音声ガイド	7,700,000	音声ガイド17087台
その他収入	日蓮聖人門下連合会	100,000,000	
	日本写真印刷	4,000,000	協賛金
収入合計		211,359,004	

支出の部

部門	科目	決算	内訳
一般宣伝費	交通広告	30,725,146	JR,私鉄車内・駅張り他
	紙（誌）面媒体広告費	18,186,000	JR時刻表
	ポスター、ちらし印刷費	6,160,455	ウインダム　日本写真印刷
	映像制作費	1,340,000	会場ビデオ
	HP制作費	210,000	日経ＮＥＴ関連
会場関係費	会場装飾費	17,656,065	伏見工芸　ひかり装飾　フジヤ
	パネル・キャプション・看板制作費	2,047,500	〃
	もぎり・看視等人件費	9,348,700	日本パナユーズ（会場内）
	臨時警備費・会場費	2,097,605	ビーイング（会場外）
	清掃費	482,790	サンクリーンサービス
	光熱水費	1,063,765	京博支払い　10，11月分
企画運営費	入場券（招待券含む）制作費	2,474,010	日本写真印刷　丹輪アート
	デザイン料	1,433,833	西岡氏
	関係者旅費	4,660,000	京博・学芸員
	監修・翻訳協力費	1,575,000	中尾先生他
	関連イベント費	550,000	御即位２０周年記念切手
	広報業務委託費	3,640,708	ウインダム業務委託費、実費ほか
	写真・デュープ代	1,933,702	フォトミハラ
	通信連絡費	0	
	事務局関係費	4,882,347	ポスター発送、梱包費
	レセプション経費	338,300	からふね屋珈琲
図録他制作費	図録制作費	15,078,000	12000部制作　正誤表
	撮影・現像・使用料	68,150	
	原稿料	854,666	翻訳、校正、謝礼含む
グッズ製作費		1,953,000	
出品関係費	作品輸送・陳列・撤収費	21,100,000	日本通運（ハーバード含む）、作品修理費
	展示一貫保険料	2,860,625	
	出品謝礼	5,775,000	借用料（出品寺社、美術館）
郵便料	郵便料	1,050,000	DM費
交際費	打合せ会議費　手土産代	380,000	出品願い、返却時挨拶用手土産
交通費、出張旅費		1,415,714	
販売委託手数料	入場券、図録	0	
入場料　京博	京都国立博物館分	18,359,350	京博支払い
グッズ販売手数料	京都国立博物館分	2,211,855	〃
日経収入分	入場料の15%	11,985,824	79,905,496円の15%
雑費		0	
支出合計		193,898,110	

差益	割合	17,460,894	
日蓮聖人門下連合会	70%	12,222,626	・・・①
日本経済新聞社	30%	5,238,268	

門連収益から使用した経費	いのちのコンサート	1,575,840	
	会場内ビデオDVD	1,743,000	
	事務局費	700,000	
合計		4,018,840	・・・②
剰余金	①―②	**8,203,786**	



平成三十三年二月十六日は宗祖御降誕八百年を迎えます



（平成二十二年九月現在）

日蓮宗宗務院

宗務総長　渡邊照敏　財務部長　米田宣雄
伝道局長　関谷泰教　宗務総長室長　渡邉義生
総務局長　駒野教源　現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　古河良晧　参与　渡邉一之
教務部長　塩崎望巳　参与　吉田海心
総務部長　梶山寛潮　日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

〒146-8544　東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管長　石田日信
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

〒606-0015　京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管長代行宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
企画部長　今井満良

〒170-0002　東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　小山日誠
講尊　梶本日裔
宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　伊藤隆之

〒602-8377　京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

〒606-8362　京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管長　田中日生
宗務総長　寺田完英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

〒602-8447　京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

貫長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村日彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

〒542-0015　大阪市中央区中寺二―一―四一久成寺内
本門法華宗宗務院大阪事務所
電話　〇六（六七六三）三一四五
FAX　〇六（六七六三）三一四六

宗教法人　国柱会

総裁　田中壮谷
理事長代務　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

〒132-0024　東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒604-8091　京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町五二二　大本山本能寺内
電話　〇七五（二三一）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八

会長　岡本日亘
副会長　頂岳日選
理事長　吉本宣文
副理事長　藤井照源

日本山妙法寺大僧伽

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六（六二）一〇一一
FAX 〇五五六（六二）一〇九四
法主 内野日総
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇
貫首 酒井日慈
執事長 野坂法雄
役職員一同

法華宗（本門流）大本山
本能寺
〒604-8091 京都府京都市中京区寺町通御池下る
電話 〇七五（二三一）五三三五
FAX 〇七五（二一一）二八三八
貫首 岡本日亘
執事長 吉本宣文
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七
貫首 中村日玄
総務 古瀬久馨
執事 山本晃道
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事 小川正義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX 〇二五六（三二）〇〇五九
貫首代行 佐古弘文
執事長 鈴木顯正
執事 笹原壮玄
執事 栗田孝之
執事 荒川公孝
執事 近藤正文
執事 五十嵐義昭

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六
貫主 田中日生
執事長 足立真正
執事 本多信正
〃 永岡悠希
書記 笹木研吾

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒604-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七
貫首 松下日肆
執事長 音羽隆全
役職員一同

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四（七〇九五）二六二一
FAX 〇四（七〇九五）二〇五五
貫首 石川日命
執事長 村田教清

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七
山主 嶋田日新

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―五
電話 〇三（三八二一）四三七三
FAX 〇三（三八二一）七〇三三
貫首 井上日修

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
FAX 〇四六七（二二五）六九六七
貫首 早水日秀
執事長 立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗大本山
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五（七七一）三三九〇
FAX 〇七五（七七一）五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 岩崎広義
執事 原田智光
執事 原光明

日蓮宗大本山
本山 頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四
貫首 安藤信行
参与 伊東隆司
同 宇根海静
同 新林錬昭
執事長 藤井照源
執事 二之部知孝
同 川合陽雄

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六
貫首 新井日湛
参与 田代浩敬
同 渡辺行俊
同 植田観樹
同 吉田文堯
同 布施慈範

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇（代）
FAX 〇七五（四六三）四六五一
住職 二十四世講有 小山日誠
執事長 中西清乗
事務局長 伊藤隆之

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人 出家得度 立教開宗 の霊跡
〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四（七〇九四）〇五二五
FAX 〇四（七〇九四）〇五二七
別当 二宮將泰
執事長 佐々木光道
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

法華宗（陣門流）総本山
富士山法華本門寺根源
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX 〇二五六（三二）〇〇五九
貫首 旭日重
執事長 井出教道
参与 井野上正文
参与 藤先博明

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三
貫首 日重
執事長 井出教道
参与 井野上正文
参与 藤先博明

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六
貫首 新井日湛
参与 田代浩敬
同 渡辺行俊
同 植田観樹
同 吉田文堯
同 布施慈範

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三
貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 冨永一道
〃 中川貫泰

京都八本山会
大本山 妙顕寺 貫首 南條日慈
大本山 本圀寺 貫首 吉田日厚
本山 妙覚寺 貫首 頂岳日選
本山 本満寺 貫首 伊丹日章
本山 本法寺 貫首 大塚日行
本山 立本寺 貫首 上田日瑞
本山 妙傳寺 貫首 野々垣日祐
本山 頂妙寺 貫首 安藤日瑛

平成二十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十二年九月現在）

日蓮聖人門下連合会顧問就任

日蓮宗管長就任挨拶



内野日総

平成二十二年五月九日、日蓮宗管長としての重責を拝命し、又同じく日蓮聖人門下連合会顧問として就任いたしましたこと、誠に身の引き締まる思いであります。

申し述べるまでもなく、昨年は『立正安国論』奏進七百五十年を迎え、門下連合会では、特別展「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」を京都国立博物館にて開催し、立正安国の精神を弘く世界の人々に知らしめる機会を得ましたことは、誠に法悦きわまることと感ずる次第であります。

しかしながら、今なお社会の様相はあらゆる分野で混迷し、人類有史以来、人々が常に希求して参りました「生きとし生けるものが共に生き共に栄える」平和への大道を見失っているといえます。

然らば、門下連合会設立五十周年の佳節を迎えた本年、宗祖日蓮大聖人の大願であった「立正安国」の大旆を胸に、十一教団が大同団結して祖意に応えんと勇猛精進しなければならないと深く感ずるものであります。

願うならば、これを契機として更なる立正安国、世界平和に向け、当会が発展することを、心よりお祈りいたす次第であります。

法華宗（本門流）管長就任挨拶



石田日信

昨冬十一月十三日法華宗（本門流）管長に就任いたしました。一宗一本山という御宗門と異なり四大本山貫首が遍次輪番管長職をお勤めしますので、この「たより」紙上皆様にお目にかかる機会はあまりないかと思いますが、まずよろしくお願い致します。

さる大戦争中、国の強力な施策で各宗団の合同ということが行われ、曲折の末、私どもは陣門流さん、真門流さんと合同し一宗となりました。一管（長）一総（監）、一管（長）三総（監）などと変遷があり、昭和二十七年その歴史は十一年、合同は解消されました。日蓮宗さん等々においても同じような経緯があったと承知しております。

合同するに当たって、先師は教義のすり合わせに真摯な努力をされたと承っています。教場には明日からの授業があって行われた合同が十年で解消となった理由は、外圧によって行われた合同であったということに極まるであろうが、どういうことがあって解消に至ったか、解消して各教団にどういうことが残ったか、その検証は十分に行われてはいないようです。

なせこんなことを書くのか、門下連合会はどこまでも連合会であることは承知の上で、なお私は門下連合会というと、このかつての合同のことを思い合わせます。

門下連合会として何が出来るのか、各宗団は門下連合会に加入して何をしたいのか。時代の要請の中で、もう一つ積極的な存在意義のある組織でなくてよいのか、各宗団はそういうことを主体的に考える必要が出てきているように思います。

思い起こす言葉があります「学に妥協無し、人に妥協あり」と。もう六十年近く前のこと、家永博士のいわゆる教科書裁判についての話しの中であったか、学窓の恩師福井康順先生の言葉です。世に処するにはいろんな努力がいる、しきりにそう思っております。

擱筆

門連時報

身延理事会開催さる

平成二十二年五月三十一日（月）日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会代表など計十七名が参加した。

午前十一時に日蓮聖人御廟所常唱殿に集合し、祖廟及び御草庵にて法味言上及び記念撮影。続き、大本堂に移動し法味言上の後、報恩閣に移動。午後一時半より理事会が開催された。

理事長不在の為、先に理事長の選出を諮る。常任理事会にて推挙された日蓮宗理事渡邊照敏師が理事会にて正式に承認。挨拶の後、座長となり議題に沿って議事を進行。先に「平成二十一年度事業報告」を事務局より報告。常任理事会・理事会・監査の開催、「門連だより」発行に関する機関紙編集委員会の開催、各派門連役員の変更、祖廟輪番の報告がなされ、続いて、「平成二十一年度決算」について事務局より報告の後、持田貫宣監査より監査会の報告がなされ、承認。

また、日蓮宗担当生駒雅幸より、平成二十一年十月十日から同年十一月二十三日の四十五日間、京都国立博物館に於いて開催された『立正安国論』奏進七百五十年記念特別展「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文



平成22年5月31日　日蓮聖人門下連合会　身延理事会　於：久遠寺

京都日蓮聖人門下連合会四大事業

化」について、開催期間前からの宣伝広告による効果が大きく、多数の一般来場者を獲得し、各門下間の連携・協力もあり、拝観者数八八、一八七人を数え大成功を収めた旨が報告された。さらに特別展「日蓮と法華の名宝」展収支決算報告もなされ、剰余金を特別会計「日蓮聖人御降誕800年事業資金」に繰り入れる予算案が事務局より説明され、承認。

次に、「平成二十二年度事業計画」を事務局より報告。祖廟参詣、理事会開催、「門連だより」の年二回（第四十二号・第四十三号）の発行について事務局より説明し、続き、「平成二十二年度予算案」についての報告がなされた。また、平成二十二年は日蓮聖人門下連合会結成五十周年という慶年であり、その記念事業として『日蓮聖人門下連合会五十年の歩み』を発刊したく、機関紙編集委員会に於いて編纂を行いたい旨が事務局より提案され、承認。今後、門連だよりの編集以外に『五十周年の歩み』発刊を目指し、各派機関紙編集委員より各派役員に原稿依頼することとなった。

次に、京都門下連合会理事長藤井照源副理事長及び大阪門下懇話会中村日游理事長より活動報告がなされた。

午後三時十五分に閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後六時より懇親会を開催、会員相互の親睦を深めた。

降誕会

日蓮大聖人七百八十九回御降誕会が二月十六日、法華宗本門流大本山本能寺で奉行され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百名が参列した。法要に先立ち総会が開催され、事業報告、会計報告、役員改選等承認された。降誕会法要は、岡本日亘貫首導師、吉本宣文（京門連理事長）、藤井照源（京門連副理事長）副導師のもと進められ、日蓮大聖人御降誕に御報恩の誠を捧げた。法要後、京門連副会長、日蓮宗本山妙覚寺貫首頂岳日選猊下による「日蓮聖人の御心」と題した講話があり、日蓮大聖人の御降誕の意義を学んだ。



第四十六回夏季大学(本能寺文化会館)

立教開宗会

第七百五十八回立教開宗会が、日蓮大聖人近畿御遊学十二年比叡山横川定光院で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百二十人が参加した。法要に先立ち、日蓮宗京都府第一部布教師会長大西秀樹師が「蓮華の教え」と題して法話。「曼荼羅は、すべてが成仏した姿であり、お題目を唱えることで曼荼羅と同体になって下さい」と力説された。法要は、大導師に京門連副理事長、定光院主監藤井照源師、副導師に京門連理事長吉本宣文師、京門連理事二之部知孝師を屈請、京都雅楽会が出仕して営まれた。参列者一同、藤井導師の慶讃文に耳を傾け、建長五年の清澄寺旭が森に思いを馳せ、そこに辿り着くまでの定光院での日蓮大聖人の苦労を偲んだ。法要後は、宇治平等院を見学、一同親睦を深めた。

夏季大学

京都日蓮聖人門下連合会主催の第四十六回夏季大学が本能寺文化会館で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約二百名が参加し、聴聞した。「日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐ―今、生きるよろこび、生かされるよろこび―」のテーマのもと、三講師のお話を聞き、学んだ。

法華宗本門流大本山本能寺貫首岡本日亘猊下は「本能寺の歴史」と題し、今日までの本能寺の歴史と共に、人生の生き方、挨拶の大切さを説かれた。法華宗興隆学林専門学校名誉教授本唱寺住職三浦日脩師は「日蓮大聖人の上行菩薩御自覚の推移と伊豆法難」と題し、日蓮大聖人の御生誕から御入滅に到るまでの御一代を述べられ、上行菩薩としての自覚をされた推移を力説された。

毎日放送スペシャリスト制作局チーフプロデューサー石田英司氏は、「最近の気になる事件から」と題し、円高、株価等の社会状況や年間の無縁仏について総合的な角度から講演があった。

尚、十月二日（土）に大本山本能寺に於て御会式を奉行する。

（藤井照源）

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二二・一二・二〇	小松浄慎 渡邊照敏	日蓮宗	理事	就任	退任
平成二二・一二・二〇	張田珠潮 渡邉義生	日蓮宗	常任理事	就任	退任
平成二二・一・一	岡本日亘	京都門下連合会	顧問	就任	
平成二二・一・一	藤井照源 有田秀達	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二二・一・一	石崎光教 藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成二二・三・三一	頂岳日選	日蓮宗	理事	就任	
平成二二・七・一	原　光承 岩崎広義	日蓮本宗	常任理事	就任	退任
平成二二・七・八	仲南良夫 藤本坦孝	国柱会	理事	就任	退任
平成二二・七・八	石見哲三 原田義彦	国柱会	理事	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞　毎月1日・10日・20日　年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）　年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）　一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

本門法華宗

◆三月二十六日、法華宗宗会（藤井日靖宗務総長）が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、予決算の承認可決他議案を議定して閉会。来たる平成二十五年の大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌奉賛会より企画立案されていた、大本山妙蓮寺本堂屋根葺替営繕他御遠忌記念事業関連議案が承認可決された。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、本山三大会の一つである春季大法要が奉修された。法話に続き、春季志霊法要・檀信徒志霊法要・永代供養法要が奉修された。

◆毎年春秋に実施される「京都非公開文化財特別公開」の公開寺社に、大本山妙蓮寺が今春初めて選ばれた。長谷川派の絵画を目当てに拝観者が連日訪ずれた。

◆大本山妙蓮寺では四月より宿泊業務、参篭「宿坊」を再開。

◆本門法華宗学院では、第百三十二回教学講習会を、三月三十、三十一日に、第百三十三回同講習会（基礎教学講習会）を、六月月二十一、二日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。

◆同学院教学部より三月二十五日付で、立正大学北川前肇先生講述の『四帖抄に聞く（七）』が発行された。

◆同布教部より、布教誌『生きる』第五十四水華号、信報『信行』第百七十三号を平成二十二年七月一日付で発行。

（木村光正）

国柱会

◆平成二十二年四月一日、月旦大国祷。四日、申孝園桜まつり開催。八日、釈尊降誕会慶讃法要厳修。十七日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十八日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。二十八日、立正会慶讃法要厳修。第八十回身延登詣団開催。

◆五月一日、月旦大国祷。十二日、日蓮聖人伊豆法難七百五十年記念慶讃法要厳修。十五日、本部理事会開催。妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十六日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。二十八日、渡邊昭敏日蓮宗宗務総長猊下本部来園。

◆六月一日、月旦大国祷。本部・ロータスヴィラ合同消防訓練実施。十九日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗大霊廟例月供養会厳修。

◆七月一日、月旦大国祷。八日、日蓮聖人顕正会慶讃法要厳修。十一日、中央連合協議会主催清掃奉仕実施。十四日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十五日、妙宗大霊廟盂蘭盆開顕大供養会厳修。十六日、日蓮聖人宣正会慶讃法要厳修。三十日、明治天皇祭厳修・明治神宮参拝。

◆八月一日、月旦大国祷。申孝園夏まつり開催。

（森山真治）

日本山妙法寺

◆四月二十七日、清澄山道場、立教開宗会法要。

◆五月二日、国連本部へ向けた核廃絶平和行進三コース（北ルート、南ルート、東ルート）ニューヨーク市に到着、合流。

◆五月三日～四日、ニューヨーク国連本部前にて核廃絶を祈り終日断食祈念。

◆四月四日、福岡久山仏舎利塔二十四周年記念法要。

◆五月九日、熊本花岡山仏舎利塔五十六周年記念法要。

◆五月十六日、成田仏舎利塔九周年記念法要。

◆六月五日、東京―広島平和行進、東京夢の島出発。

◆六月十九日、ロンドン仏舎利塔記念法要。

◆六月二十日、英国ミルトンキーンズ仏舎利塔三十周年記念法要。

◆六月二十七日、オーストリアウィーン仏舎利塔記念法要。

◆七月四日、イタリア、コミソ仏舎利塔記念法要。

「とにかく御題目を唱えることに代わる仕事は、世の中に何もない。御題目を唱えることを怠ってはいけない。我々は、他に何の取り柄もない。御題目を唱えることだけが生きていく道だし、世の中で生きていかれる道だと信じて唱える。悪いことか善いことか、こりゃ判らぬ。仏様がそう仰る。御祖師様がそう仰ったから、それを信じて私がした仕事は、あるいは永遠の生命を持つかもしれない。人類がお題目で救われたならば、私の仕事は永遠に生きる。藤井日達」

（牧野行暉）

京都門下連合会

◆一月二十日（水）午後五時、理事会（本能寺文化会館）。

平成二十二年度役員確認の件、平成二十一年度会務行事の件、平成二十一年度決算の件、平成二十二年度会務行事案の件、平成二十二年度予算案の件、その他。

◆二月十六日（火）午後一時、京門連総会（本能寺文化会館）。平成二十二年度役員確認の件、平成二十一年度会務行事の件、平成二十二年度会務行事案の件、平成二十二年度予算案の件、その他。

◆同二時三十分、降誕会（本能寺文化会館）。導師・大本山本能寺貫首岡本日亘猊下。講師・本山妙覚寺貫首頂岳日選猊下。

◆三月十日（水）午後四時、理事会（本能寺文化会館）。立教開宗会の件、夏季大学の件。

◆四月二十八日（水）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　藤井照源師（京門連副理事長・比叡山横川定光院主監）。講師　大西秀樹師（日蓮宗京都府第一部布教師会長）。

◆五月三十一（月）、全門連身延理事会（身延山久遠寺）。

◆六月十日（木）午後四時、理事会（本能寺文化会館）。立教開宗会の件、夏季大学の件。

◆八月二十八日（土）午前十時開講、第四十六回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）法華宗大本山本能寺貫首岡本日亘猊下。講師（大学）。講師・法華宗興隆学林専門学校名誉教授三浦日脩師（一般）毎日放送スペシャリスト制作局チーフプロデューサー石田英司氏。

◆同日午後四時、理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。

◆十月一日（金）午後四時、お会式準備奉行委員会（大本山本能寺）。お会式準備、行脚・法要等打ち合わせ。

◆十月二日（土）午後一時、お会式（大本山本能寺）。導師・大本山本能寺貫首岡本日亘猊下。講師・日蓮宗本山貫首猊下。

◆十一月五日（金）、全門連京都理事会（大本山本能寺）。懇親会・別席。

◆十二月十四日（火）午後四時、会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日午後五時、理事会（本能寺文化会館）。平成二十二年度会務行事報告、平成二十二年度決算中間報告。

（藤井照源）

日蓮宗

◆日蓮宗第五十二代管長に総本山身延山久遠寺の内野日総法主猊下が管長推戴委員会の満場一致によりご推戴を受け、「就任奉告式」が五月十日に東京大田区池上の日蓮宗宗務院で、翌十一日には「祖廟奉告式」が山梨県身延町の総本山身延山久遠寺の祖廟で行われた。

◆幕府に『立正安国論』を奏進された日蓮聖人が伊豆に流罪となって七百五十年。宗門法要「宗祖日蓮大聖人伊豆法難七五〇年報恩音楽大法要」が五月十二日、静岡県伊東市にある伊豆法難ゆかりの霊蹟本山佛現寺（板垣日祐貫首）で内野日総管長猊下を導師に営まれ、渡邊照敏宗務総長をはじめ全国の僧侶檀信徒約千四百人が参列し、報恩のお題目を捧げた。

◆日蓮聖人が出家・得度された立教開宗の聖地の清澄寺（千葉県鴨川市）別当の辞令伝達式が七月一日、身延山久遠寺（内野日総法主）で行われ、第十三代別当に二宮将泰師（千葉県浄光寺住職）が就任した。

◆「千鳥が淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が八月十五日、千鳥が淵戦没者墓苑で渡邊照敏宗務総長を導師に営まれた。法要には東京四管区の僧侶が出仕し、僧侶檀信徒が参列し、戦地で散った戦士の魂の安らぎと、二度と戦争を起こしてはならない決意を新たにした。また本年は世界の平和を願い全国の檀信徒が折った千羽鶴が御宝前に捧げられた。

（大澤宏明）

顕本法華宗

◆二月二十八日、総本山妙満寺において中村日玄猊下大導師の下、御開山会（開祖日什大正師御命日忌）を厳修。近末寺院や什青会の若手僧員など多数出仕。法要後、第六教区布教師・大川孝瑛師（京都寂光寺裡）の法話があり、参列の檀信徒は熱心に聞き入っていた。

◆三月四～五日、総本山妙満寺において顕本法華宗第六十五定期宗会を開催。平成二十一年度の決算、平成二十二年度の事業計画・予算案などについて審議された。また、平成二十五年にお迎えする「開祖日什大正師御生誕七〇〇年」慶讃事業についての予算案、事業基本方針が承認された。さらに、任期満了に伴う管長推戴が行われ、中村日玄猊下が満場一致で再任された。

◆四月三日、総本山妙満寺において中村日玄猊下大導師の下、花まつり（釈尊降誕会）が奉行された。法要後、恒例の妙満寺檀信徒の会「満山会」主催の観桜会を開催。境内の桜が満開に咲き誇る中、春のひとときを満喫した。

◆四月十日、総本山妙満寺において「桜大吟行」と題し、春の妙満寺句会「花の会」を開催。約五十名が参加、うららかな春の好天に恵まれた吟行となった。佛教大学教授で俳句グループ船団の会代表・坪内稔典先生の他、三名のゲストコメンテーターが講評し、秀句を選出した。

◆五月十五日～十六日、総本山妙満寺において中村日玄猊下大導師の下、春季報恩大法要を厳修。境内のツツジが満開に咲く中、大勢の参詣者があり山内は賑わった。二日目には霊宝「安珍・清姫の鐘」鐘供養を奉行、和歌山道成寺院代・小野俊成上人が参列された。法要後、茨城長照寺（住職吉本栄昶師）有縁の「つつみ連合波崎はやうち太鼓保存会」による郷土芸能「祭囃子はね太鼓」が奉納された。

◆五月二十四日、教学研究所主催「公開研究例会」を開催。所員と一般公募の僧員が日頃の研究成果を発表した。また、特別講師として法華宗（本門流）教学研究所所長・大平宏龍上人をお招きし講演いただくなど、出席者は大いに教学の研鑽を積んだ。

◆五月二十七日～二十八日、中村日玄猊下をはじめ全国から有志十八名が参加して寛文法難先師顕彰参拝が行われ、日英上人・日応上人配流の地・飫肥（宮崎県日南市北郷町）に建つ顕彰碑前で報恩法要を営んだ。翌日には宮崎県庁を表敬訪問、口蹄疫義捐金を県職員へ手渡した。その後、柳川妙経寺（住職中村侑司師）を参拝した。

◆六月十五日～十六日、全国布教師研修会が開催された。本年は平成二十五年にお迎えする「開祖日什大正師御生誕七〇〇年」を前に、「什祖誕滅の霊場」会津妙法寺を会場に開催、初日は住職の多門事正上人より妙法寺の歴史・沿革について講演をいただいた。併せて布教師会総会を開催、今後の布教計画等が協議された。二日目は、産清水や妙国寺什祖廟、羽黒山東光寺跡など市内の什祖ご霊蹟を巡拝した。

◆七月二十六日～二十九日、総本山妙満寺を会場に第四十七回顕本青少年錬成会が開催された。約六十名の小中学生が参加、短期間ながら勤行や清掃奉仕など本山での小さな修行に励んだ。

（吉本栄昶）

法華宗陣門流

◆一月二十九日、第百十三次臨時宗会が東京巣鴨・法華宗宗務院において開催された。

◆二月三日、総本山本成寺において「節分鬼踊り追儺式」が、法華宗管長椿澤日壽猊下御導師のもと厳修された。

◆三月四～五日、第百十四次定時宗会が宗務院において開催された。

◆四月十九日、宗務所長会並びに伊豆御法難七百五十年大法要実行委員会が宗務院において開催された。

◆五月十一日～十二日、霊跡別院山蓮着寺（静岡県伊東市）において日蓮大聖人伊豆御法難七百五十年大法要が厳修され、全国寺院から多くの団参で賑わった。十一日は土屋善敬実行委員長による新設記念石碑の除幕式、前管長鈴木日卿猊下大導師による本堂での大法要が行われた。翌十二日は本堂において日壽猊下大導師のもと、導師に法華宗真門流管長田中日生猊下、顕本法華宗管長中村日玄猊下を迎え、さらに日蓮聖人門下連合会各宗より多くのご来賓を迎え、盛大に大法要が執り行われた。

◆五月十五日～六月二十三日までの四十日間、総本山本成寺において、「法華宗学林」が開催され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

◆五月二十四日、布教研究所所員会が宗務院において開催された。

◆五月二十八～三十日の三日間、総本山本成寺において「祠堂大法要」が日壽猊下御導師のもと厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。三十日には日壽猊下の退山式が執り行われ、平成十七年六月より五年間の任期を満了された。

◆七月四日、雅楽講習会が宗務院において開催された。

◆七月二十九日、宗法審議委員会並びに第百十五次臨時宗会が宗務院において開催された。

（田辺尚志）

日蓮本宗

◆任期満了に伴う新内局の選出が行われ、新たな宗務総長に岩崎広義師（京都府京丹後市長福寺住職）が就任した。また財務部長には原田智光師（山形県高畠町妙國寺住職）、教務部長には原光明師（大阪府箕面市本成寺）がそれぞれ再任し、総務部長は岩崎新総長の兼任という構成で、新内局として七月一日よりスタートした。

（柳下真敬）

法華宗真門流

◆三月二十五日～二十七日、総本山本隆寺において、第二十七回僧風林開催。

◆四月七日～二十六日、総本山本隆寺において、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、総本山本隆寺において、春季大法会厳修。

◆五月十二日、伊東市蓮着寺（法華宗陣門流）において「日蓮聖人伊豆御法難七五〇年大法要」厳修。

◆五月十七日～十八日、第三教区では、「第二十六回教区研修会」開催。

◆五月二十五日～二十六日、青年僧交流会として、各教区青年会による、各会対抗のソフトボール大会開催。

◆五月二十九日、第一教区では「第三十回檀信徒の集い」開催。

◆五月三十日、札幌妙珖寺において「平成二十二年度北海道合掌運動札幌大会」開催。「足るを知る」と題して記念講演があった。

◆六月二十二日、門真教学講習会開催。講題は「京町衆の法華信仰について」と、「現代における佛教儀礼の意義について」。

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成23年2月16日
第43号

門連結成五十周年を迎えて

門連のあり方を考える



元編集委員
相澤宏明

門連発生の背景

日蓮聖人が非滅の滅を現じられてより、聖人の弟子檀那による教線の拡大は目を瞠るものがあつた。その拡大は有力な門下が存在してゐた地域を中心として図られたといつてよい。六老僧をはじめとした直弟子の時代、または、後世に輩出した教傑、派祖と目される先師の因縁地などにおける時代など、通じてわが国を席巻する勢ひがあつた。ことに室町期における京都では、諸宗折伏の大運動が奏功し、一国同帰が確実に視界に入るがごとく、聖人の宗教が実現されようとした。

そして、教線の拡大と発展といふ過程で、残念ながら聖人門下は分派していつた。分派や分立は厳格な教義・教学論争や、宗旨の継承における正統性などが原因してをり、当事者にとつては抜き差しならない大問題であつた。他に対して布教する場合、これらのテーマは忽せにできない根本問題と認識した結果、それぞれがそれぞれの立場で聖人の宗旨を弘通しなければならないといふ使命感が一因をなし、さうした行動に打つて出たのであらう。

かうした対立や分派は、必ずしもマイナス材料ではない。まして悪などではない。なぜなら、日蓮門下の教線が発展するためには必要な現象と捉へられるからである。分派により教線が衰退したのなら未だしも、さうではなく、いよいよ発展した歴史がある。分派のいい面がここに現れてゐるのであるから、さう捉えてこそ事の実相が把握でき、また先師に対する報恩の誠が尽されるのではと、愚考する。

しかし、分派がもたらした発展期に終了を告げ、沈滞期・受難期ともいふべき安土桃山期、徳川期をへて、明治の開化期を迎へた。西洋の文物にまじり、本格的にキリスト教や他の宗教哲学がどつと流入した結果、それまでの門下の分派が必要であつたのか、その分派が固定されてゐてよいのかが問はれたのは、聖人の宗教と世界との邂逅といふ点から見ても、これまた時代の必然といへる。

この流れに沿つて、戦後の昭和の混乱期を一応克服し、現憲法下における信教の過度の自由、および厳格な政教分離時代下で、日蓮聖人門下が再度結集して連合していかうと企図されたことも十分に理解できる動きといはねばならない。

◆対外活動を視野に入れる

さうした戦後の昭和三十年代、日蓮聖人門下結集の動きは、多分に対外的な視点を持つてゐたといへる。なぜなら、相互融和のため、たんなる親睦を主にし、相互の利害にもとづき、必要に応じて集まり、お茶のみ話で終るといふ内向けの理由ではなく、当時の社会体制を視野に入れ、いかに時代社会に聖人の宗教を関係づけていくべきか、この視点が重要であり、門下全体でこの問題解決をめざさうとの合意が認められるからである。

再述になるが、日蓮聖人門下連合会（以下門連）結成に尽力した各派の先師がたにより、門下の歴史を踏まへ、かつ軋轢をいかに克服すればいいのか、真剣な討議が重ねられたこと、この点を重視するべきである。そして、先師がたが到達した結論は「祖廟中心」「立正安国の祖願成就」であつたことも注目に値する。

聖人の誓願を継承するための連合の必要性は、かうして確認されたのだ。したがつて、門連の前身である門下懇話会の発生は、昭和三十四年にお迎へした立正安国論献諫七百年を記念した対外講演をもつてその基礎としてゐるのである。

外に向けた姿勢があれば、内なる世界の問題も解決に導かれるといふ化他即自行の法門が実践されたわけである。

◆七百年遠忌のをりの合意

門連は今年結成五十年の節目を迎へる。この間、昭和五十六年にお迎へした七百遠忌は、門連の蓄積された経験が全面開花した節目といへる。記念事業の企画は目白押しで、「日蓮聖人劇」「日蓮聖人展」「オラトリオ日蓮」「日蓮聖人門下青年の船」などである。しかも一つひとつが成功裏に円成された。

これらの記念事業のなかで、昭和五十七年四月に実施された「日蓮聖人門下青年の船」は、各派から二名選ばれた青年らによる企画推進委員が全般の企画案作成を担当した。この委員会はのちに大幅に増員され実行委員会に移行し、青年の船推進の原動力となつた。そして、各委員間に戦友意識が芽生へ、見事に発芽し大きく開花したのである。

七百遠忌事業達成により確認された事は、たとへば洋上研修最後の日の「青年の船宣言」に認められる。そこには

「日蓮聖人門下の結集と統合を目指して最大の努力を傾け、さらに社会のために尽すことを決意して、関係各位に強くアピールする」

と謳はれ、また、身延祖廟前での円成奉告式のをりの「奉告文」には

「各ブロックに於いて虚心坦懐様々な課題について語り合い、友情のきずなをたしかめあい、ひとつの意識となったのであります」

と成果を強調してゐるのである。

ともあれ、そのをりの組織が、現今の「門連だより」発行の編集委員会の基礎をなしてゐる。このことからしても、七百遠忌時の一過性の成果でなかつたことを証明してゐるといへるので はなからうか。

◆今後の展望と方向

あれから約三十年が経過した。そして結成三十年からまた二十年が経過した。

門連としてこれから何をなすべきか、編集部からいただいたこの課題に対し、気づくままにいささか愚見を披露することをお許しいただきたい。

まづは組織の活性化を目指すべきではなからうか。そのために、門連に関係し、時満じて卒業された方がた、すなはち常任理事・理事・編集委員の再結集を目指すべきであらう。その組織の名称は何でもいいから、春秋二回は会合を催し、横の連絡をとることである。

常任理事・理事制の隙間を埋め、なほかつ編集委員と常任理事間の橋渡し役となり、各派内に於ける門連の宣伝役を果たす、そのやうな組織を考へてみてはいかがであらうか。

つぎには結成三十年のをりに点検した門連の今後の課題を、今一度再点検することである。三十年の節目に点検された問題点が、その後二十年間、なにが解決し、なにが解決されてゐないか、このための検証小委員会を常任理事会内に設置し、真剣に討議することで現在抱へてゐる問題点の多くが解決されるはずである。『門連30年の歩み』はそのための絶好の教科書と思ふがいかがであらうか。

そのほかにも考へが無いわけではない。しかし、実現可能な課題として以上の二点の提案をもつて、編集部から頂戴した課題への返答とさせていただきたい。

従地ゆじゅつ

◆第一回の本屋大賞に輝いた『博士の愛した数式』という小説がある。数年前に映画化もされたのでご存じの方も多いはずだ。交通事故に遭い、事故の日以後の記憶が八十分しか維持できなくなった数学博士と、シングルマザーの家政婦とその息子の、数学と日常を通した心の交流が生き生きと書かれた作品である。

◆その中のエピソードの一つに直線の話がある。博士に直線を書いてみなさいと言われた家政婦が、鉛筆で紙にまっすぐ線を引くのに対して、博士は「直線の意味を理解はしているが、それは直線ではない。太さもなく、始まりも終わりもない本当の直線を現実の紙に描くことは不可能なのだ」と言う。

◆つまり書いた線が少しでも曲がっていれば曲線だし、始まりと終わりがあれば線分だし、太さがあれば線ではなく面になってしまうということだ。ならば直線はどこにあるのか。それは私たちの心の中、概念としてしか存在し得ない。しかし、その直線の概念のおかげで様々な物が設計され、私たちの生活に役立っている。

◆博士は自分の八十分しか維持出来ない記憶を線分、実際に経験した全てのことを直線と譬喩して話したようにも思える。八十分しか無いように見える記憶も本当はずっと前から、そしてこれからも、全部有るんだよ、と。その八十という数字が釈尊の生涯八十年に重なって見えるのは私が仏門にいるせいであろう。

◆幾何学を教えてくれた中学時代の恩師が最初に教えてくれたのも直線の定義であったと記憶している。試験の回答においては式や図に過不足が無いかだけでなく、字の綺麗さや字配りでも減点され、平気で○点をつけられた。生活態度、服装、姿勢についても厳しく指導を受けた。当時は随分厳しい先生だと思ったが、自分が指導を受けていたのは幾何学だけでなく人生であったことに気付いたのは成人してからであっただろうか。

◆その恩師もずいぶん前に故人となった。しかしその教えは今も直線の様に私の胸に生きている。仏とはまさに斯くの如きを言うのであろうか。（敬）

《各派のページ》第一回「日蓮宗宗門内外で活躍する僧侶」



日蓮宗大明寺住職
楠山泰道さん

（プロフィール）
くすやま・たいどう　昭和22年、神奈川県生まれ。立正大学仏教学部卒業。日蓮宗大明寺の住職を務め傍ら、社会福祉法人立正福祉会「青少年こころの相談室」室長として、不登校やひきこもり、自殺未遂、カルト入信トラブルなど、青少年の心の問題に取り組む。
「青少年こころの相談室」
http://www.daimyoji-n.or.jp/kokoro_sodansitu

子どもの自立のために親自身が意識を変えて

私は元高校教師。以前は非行に走る子どもも多く、私もその更正に取り組むようになりました。「せっかくの未来がある若者を助けなければ」……その思いから、さまざまな問題を抱える青少年とその家族からの相談に応じてきました。そして世間を騒がせたオウム真理教の事件後、仏教者として信者の脱会への協力を求められ、その脱会活動に取り組みました。数多くのオウム信者と会い、脱会の手助けをしたのです。これを発端に、脱カルトの活動にも数多く取り組んできました。

母親が安心するような〝いい子〟が実は危険！

〝カルト〟と聞くと、みなさんは自分には関係のない話だと思うかもしれません。しかし、決して特別なことではないのです。ひきこもり、自殺未遂、リストカット、麻薬……現代の若者が抱えるこれらのトラブルは、実はカルトとイコール。社会の中に自分の存在理由を見出せない若者たちは、夢や希望が持てなくなり、心を病んで生きることがイヤになります。病めば何かにすがるのは当たり前。救いを求めようとカルトに走るのは、むしろ正常な行為ともいえます。カルトに救いを求める者もいれば、ひきこもりやリストカットなどで自分を守ろうとする者もいます。世の中が病めば病むほど、こうした若者が増えていくのです。

今は昔のような非行はなくなりました。だから今、トラブルを抱えるのは悪い子ではなく、むしろいい子。何事にも疑問を持たず、自分で考えることをしない現代の子どもたちです。素直ないい子は、お母さんから見ればホッとするかもしれません。でもそれは自分を出せないということ。言われるままに信じてしまうということは、カルトなどにも走りやすいということです。そうした子どもになってしまう要因の一つは親。子育てを勘違いして、子どもを抱え込みすぎるのも問題なのです。

トラブルが生まれる前に予防することが大切

我が子をカルトや自殺未遂などのトラブルから守るためには4つのポイントがあります。

子どものことを一番わかっているのは自分だと思わないこと。理解していると思うから本当の悩みが見えないし、子どもも話しにくくなるのです。

子どもに疑問を持たせること。自分で考えることは自立への第一歩でもあります。

本当の宗教とは何かを学ぶこと。宗教を特別視してはいけません。ファザーレス（＝父親不在）にしないこと。反抗期や自立期は特に父親の出番。社会に飛び立つ術を教えるのは父親の役目です。母子家庭の母親は父親の分もがんばろうとするかもしれません。でも一人では無理。周囲に父親にかわるサポート役を作っておくべきです。

親が意識を変えれば子どもも変わります。子どもにとっても家族にとっても再生となるのです。



（プロフィール）
とざわ・そうじゅう　昭和12年、東京都生まれ。33歳のとき、夫が交通事故死。悲しみの中で仏教と出会い、法華経信仰へ。46歳で日蓮宗の尼僧として出家、布教師として全国を回る。平成15年、悩める女性の駆け込み寺として「サンガ天城」を設立。

駆け込み寺「サンガ天城」
庵主　日蓮宗尼僧
戸澤宗充さん

人に「ありがとう」と言ってもらえることが一番の生きがいなのです

私が三十三歳のとき、夫が突然、交通事故で亡くなりました。私が次男を出産した二日後のこと。私は夫の死を受け止められず、「死のう」とばかり思っていました。

家の近くの踏み切りの前に立ち、「今だ！」と思ったときです。私より先に飛び込んだ人がいたのです。悲惨な状況を見た私は死を思いとどまりました。後に仏様の教えを知ってから、「不幸だったけれど、すべては私にとって必要なことだったのだ」と思えるようになりました。

駆け込み寺を求める女性たちのために……

夫を亡くした悲しみの中で、私は「仏教はすばらしい」と言っていた夫の声を思い出しました。夫はクリスチャンでしたが、教義に対して疑問を持っていたのかもしれません。書棚には法華経や日蓮聖人の教えの本がありました。それが仏教との出会いでした。

最初は信者として、お題目にすがって生きました。そして四十六歳で出家。「このすばらしい教えを、少しでも多くの人に伝えることが私の使命だ」と思えるようになったのです。私は布教師として全国を回って歩きました。でも、「説教してるだけでいいのかな？」という思いにかられたのです。語るだけでなく、何か自分でできることはないだろうか……。当時、DV（家庭内暴力）の問題が世間をにぎわせていました。逃げ場を探している女性がたくさんいる。私にできることは？……そして私は駆け込み寺「サンガ天城」を設立しました。

何となく生きるのではなく自分にできることを考えて

ここに来る女性たちは、DVやうつ病など、大きな問題を抱えています。そんな大変な問題ではないにしろ、誰もが問題や悩みを抱えているでしょう。みんなに共通しているのは「生きがい」がないということ。何のために生きてるのか、わからないのです。

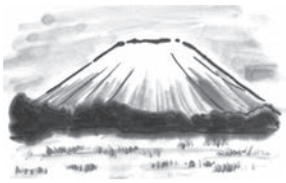
例えば、「働く」という字は「人のために動く」と書きますね。あなたが働いたことによって、人がどれほど喜ぶか。単にお金を儲ければいいということではなく、自分の存在を人に喜んでもらえるということ……それが働くということです。そして、人に喜ばれることが「生きがい」になるのです。

家族の間でも同じです。夫は、妻は、子どもは、何を望んでいるのだろうか？　この人のために私は何をしてあげられるだろうか？　……相手の心を考えてあげる気持ちを育てることが大切です。

本当の喜びは、人に喜んでもらうことです。自分の存在が人に喜びを与えること、「ありがとう」と言ってもらえる生き方ができること。それが一番の「生きがい」。小さなことでいいのです。いま、あなたにできることは何ですか？



平成三十三年二月十六日は宗祖御降誕八百年を迎えます



（平成二十三年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏
伝道局長　関谷泰教
総務局長　駒野教源
伝道部長　古河良晧
教務部長　塩崎望巳
総務部長　梶山寛潮
財務部長　米田宣雄
宗務総長室長　渡邉義生
現代宗教研究所長　三原正資
参与　渡邉一之
参与　吉田海心
日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　菅原日桑
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長代行宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
企画部長　今井満良

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　伊藤隆之
教務局長　亀井日魁
弘通局長　長谷川日堯
総務局長　岡本日盈
出版局長　藤本日涌
財務局長　西村勲

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長務部長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六八

管長　田中日生
宗務総長　寺田完英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

本門法華宗宗務院

〒542-0015
大阪市中央区中寺二―四一久成寺内
本門法華宗宗務院大阪事務所
電話　〇六（六七六三）三一四五
FAX　〇六（六七六三）三一四六

貫長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　吉村日彦
宗務部長　増田隆雄
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

会長　伊丹日章
副会長　菅原日桑
理事長　藤井照源
副理事長　吉本宣文

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首代行　佐古弘文
執事長　鈴木顯正
執事　笹原壮玄
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗(本門流)大本山
本興寺
貫首　小西日遶
執事長　吉本宣文
役職員一同
〒660-0862
兵庫県尼崎市開明町三―一三
電話　〇六（六四一一）三二一七
FAX　〇六（六四一三）二四三六

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　中村日玄
総務　古瀬久馨
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

本門法華宗大本山
多寶富士山日蓮本宗 本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　岩崎広義
執事　原田智光
執事　原光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

日蓮宗大本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫首　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人（出家得度 立教開宗）の霊跡
別当　二宮將泰
執事長　佐々木光道
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

本門佛立宗本山
宥清寺
住職（二十四世講有）　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
貫首　旭日重
執事長　川名義顯
参与　吉田日綱
参与　井野上正文
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同　吉田文堯
同　布施慈範
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　村田教清
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

京都八本山会
大本山　妙顯寺　貫首
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
本山　妙覚寺　貫首
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
本山　本法寺　貫首　大塚日行
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山　頂妙寺　貫首　安藤日瑛

祝 門連結成五十周年

（平成二十三年二月現在）

京都理事会開催さる

平成二十二年十一月五日、法華宗（本門流）大本山本能寺（菅原日桑貫首）にて、日蓮聖人門下連合会及び京都日蓮聖人門下連合会との懇談会が開催され、各本山貫首、門連顧問・常任理事・理事等六十七名が参加した。

正午受付開始。昼食後、午後一時より法味言上。菅原日桑貫首猊下御導師のもと、渡邊照敏全門連理事長、藤井照源京門連副理事長が脇導師を勤め、本能寺式衆とともに「日蓮聖人門下連合会結成五十周年記念法要・遷化上人追悼法要」が営まれた。

その後本堂前にて記念撮影。午後二時から菅原日桑本能寺貫首の講演「本能寺の沿革」を拝聴した。午後三時理事会開催。全員の自己紹介に続き、全門連上半期事業報告、京都門下連合会事業報告、大阪日蓮聖人門下懇話会より地方門連活動が報告された。その他の議題では、持田貫宣日蓮宗本山藻原寺貫首より「オラトリオ日蓮聖人」公演開催の承諾、及び後援・協賛の申請が出された。理事会終了後、「ホテル本能寺」に場所を移し、会員相互の親睦を深めた。



平成22年11月5日　日蓮聖人門下連合会京都理事会　於：法華宗（本門流）大本山本能寺

無間地獄の道をふさぐ法華経の修行を

京都日蓮聖人門下連合会
京都日蓮聖人門下本山会
御報恩会式法要開催

京都日蓮聖人門下本山会・京都日蓮聖人門下連合会主催による第七百二十九回御会式法要が、十月二日法華宗本門流本山本能寺で開催され、僧侶檀信徒約百名が参加して、宗祖に報恩の誠を捧げた。

法要に先立ち秋晴れの中、各宗僧侶檀信徒四十名により唱題行脚が行われた。

一行は、本能寺を出発し秋の観光シーズンに入り賑やかな寺町通りから二条通りを行脚し、頂妙寺、妙伝寺御真骨堂、囲碁の本因坊で有名な顕本法華宗寂光寺、日蓮本宗要法寺の前でそれぞれ法味言上した。

本能寺帰山後、大本山本圀寺の吉田日厚貫首が、「供養のこころ」と題して法話。師は、供養には法供養と財供養があり、父方母方上七代まで塔婆を立てて回向し、亡くなった人は鳥や



星となって残された者たちを守ってくれるのだから、真心のこもった香華灯燭茶菓飯食で応えてほしい、と説いた。

法要は本能寺出仕により、しめやかに執り行われ、最後に吉本宣文理事長が「無間地獄の道をふさぐ修行をしてください」と挨拶して、一同各派の交流を深めた。（藤井照源）





▼人事（事務局への連絡日を含む）

人事	年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
御遷化	平成二三・一・一五	頂岳日選	日蓮宗　理事 京都門下連合会　顧問			
	平成二二・九・二一	岡本日亘 菅原日桑	京都門下連合会	顧問	就任	退任
	平成二二・一一・五	牧野琢成 土屋善敬	法華宗陣門流	相談役	就任	退任
	平成二三・一・一	菅原日桑 頂岳日選	京都門下連合会	顧問	就任	退任
	平成二三・一・一	吉本宣文 藤井照源	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
	平成二三・一・一	藤井照源 吉本宣文	京都門下連合会	理事	就任	退任
	平成二三・一・二九	伊丹日章	京都門下連合会	顧問	就任	

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の伝道紙　日蓮宗新聞

毎月1日・10日・20日
年間購読 3,600円（送料込）

教誌　正法（しょうぼう）

年4回発行 年間購読 1,700円（送料込）
一冊350円（送料別）

お正月（1月号）　春季彼岸（3月号）　お盆（7月号）　お彼岸・お会式（9月号）

お申込みは　日蓮宗新聞社まで　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

国柱会

◆平成二十二年九月五日、中央有志園内清掃奉仕。午後中央婦人部主催、唱題法座。十二日、龍口法難会慶讃法要。二十二日～二十三日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十三日、妙宗大霊廟秋季彼岸開顕大供養会。二十五日、国柱会式士任用試験二十六日迄実施。

◆十月十日、佐渡法難会慶讃法要。十二日、日蓮聖人御逮夜法要。午前中、田中賽主以下国柱会有志にて池上、大坊参拝。参拝後、中央有志此経難事坂上で屋外宣伝挙行。十三日、聖祖鶴林会報恩法要。十六日～十七日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十七日、妙宗大霊廟例月供養会。二十三日～二十四日、第四十六回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催。

◆十一月三日、明治節慶讃法要。田中賽主以下中央有志午前中明治神宮参拝。六日、田中賽主、日蓮聖人門下連合会京都理事会出席。十一日、小松原法難会慶讃法要。十四日、国柱会全国定例協議員会開催。十六日、恩師田中智学先生御逮夜法要。十七日、恩師師子王院智学日謙大居士第七十二遠忌報恩大会。二十日～二十一日妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十一日、妙宗大霊廟例月供養会。

◆十二月十八日～十九日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十九日、妙宗大霊廟例月供養会。二十三日、天長節慶讃法要。三十一日、福茶の会。送旧迎新式厳修。

（森山真治）

京門連

◆一月二十日（木）午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十三年度役員確認の件、平成二十二年度会務行事の件、平成二十三年度会務行事案の件、平成二十三年度予算案の件、平成二十三年度総会の件、平成二十三年度降誕会の件、その他。

◆二月十六日（水）午後一時　京門連総会（日蓮宗本山本満寺）。平成二十三年度役員確認の件、平成二十二年度会務行事の件、平成二十三年度会務行事案の件、平成二十三年度予算案の件、平成二十三年度総会の件、平成二十三年度降誕会の件、その他。

◆同日二時三十分　降誕会（日蓮宗本山本満寺）。導師　本山本満寺貫首　伊丹日章猊下、講師　大本山本能寺　貫首　菅原日桑猊下。

◆三月九日（水）午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。立教開宗会の件、第四十七回夏季大学の件。

◆四月二十八日（木）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　京門連会長（日蓮宗本山貫首猊下）、講師　法華門流　布教師、昼食　峰道レストラン予定、観光は未定。

◆五月　全門連身延理事会（身延山久遠寺）。

◆六月十四日（火）午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。第四十七回夏季大学の件、お会式の件、その他。

◆八月二十七日（土）午前十時開講　第四十七回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）日蓮宗本山立本寺　貫首　上田日瑞猊下。

◆同日午後四時　理事会（本能寺文化会館）。お会式の件、その他。

◆九月三十日（金）午後二時　お会式準備奉行委員会（本山立本寺）。お会式準備（万灯の搬入、組立）、会場設営、御宝前荘厳、法要等打ち合わせ、清掃。

◆十月一日（土）午後一時　市中唱題行脚（予定）。

◆同日午後二時三十分お会式（日蓮宗本山立本寺）。導師　日蓮宗本山立本寺、貫首　上田日瑞猊下、講師　法華門流本山貫首猊下。

◆十一月午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。全門連京都理事会の件、その他。

◆十一月午後一時　全門連京都理事会（日蓮宗本山妙傳寺）。全門連理事会・先師法要導師・講演（日蓮宗本山妙傳寺　貫首　野々垣日祐猊下）。懇親会別席。

◆十二月十六日（金）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十三年度会務行事報告、平成二十三年度決算中間報告、その他。

（藤井照源）

日蓮宗

◆総本山身延山久遠寺の古式豊かな「御年頭会」が一月十三日に行われ、六老門跡寺院貫首をはじめ宗務内局ら僧侶檀信徒約四百五十人が参列し、祖師堂で年頭会法要、法要後には境内で「曳馬式」があり、装束をまとった二頭の白馬が内野日総法主猊下から人参を頂戴した。

◆東京都大田区池上の本山大坊本行寺の貫首に中野日演師（静岡県伊東市廣宣寺住職）の就任が決まり、日蓮宗宗務院で昨年十二月二日、辞令伝達式が行われた。

◆初転法輪の地、インド・サルナートにある日月山法輪寺で仏舎利塔が完成し、昨年十一月二十五日、渡邊照敏宗務総長を導師に落慶法要が営まれた。

法華宗本門流

◆四月九日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において戦没者慰霊法要が行われ、法要終了後、二瓶海照宗務総長の挨拶があり、ご自身の尊父も戦地にて亡くなっており、この墓所に一片のお骨が埋葬されていることへの感慨をお話しになられ、平和の大切さを訴えられた。

◆第六十四次定期宗会が五月十八日～二十日に宗務院において開催された。

◆全国宗務所長が五月二十六日～二十七日に宗務院において開催された。

◆大本山本能寺貫首岡本日亘猊下が、二期十年の任期を満了され御退蔵された。選挙の結果、前宗会議長菅原日桑上人（吹田市法華寺住職）が当選し、平成二十二年九月二十二日付けで第百三十九代貫首に就任、十月十三日に晋山式が奉修された。

◆大本山本興寺貫首有原日龍猊下が、二期十年の任期を満了され御退蔵された。選挙の結果、前興隆学林長小西日遶上人（神戸市法華寺住職）が当選し、平成二十二年十二月十二日付けで第百三十四代貫首に就任、平成二十三年二月二十五日に晋山式が奉修される。

◆平成二十三年二月十三日、大本山本能寺貫首菅原日桑猊下が、第百三十一代法華宗管長に就任し、同月二十四日、推戴式が京都市大本山本能寺にて厳修される。

◆平成二十三年三月七日、「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）の平成二十二年度卒業式が行われる。卒業生は、行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。

◆平成二十三年二月二十二日、第二十四回法華宗教学研究発表大会が京都「キャンパスプラザ京都」にて開催予定。聴講の希望者は、宗務院（03-5614-3055）まで。

◆平成二十三年四月より、吉崎隆生師が法華宗サンフランシスコ仏教会の第八代開教師として赴任する。

◆古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授していた「興隆学林専門学校」が平成二十三年度新入生を募集中。他門流・一般信徒よりの入学生も受け入れ中。

顕本法華宗

◆十月十九日、浜野本行寺において東部教区連合会が開催された。先師報恩法要を虔修した後、寺院デザイン代表取締役・薄井秀夫氏による「永代供養と寺院活性化」と題する講演があった。

◆十月十九日（会場・京都総本山妙満寺）、十一月十六日（会場・東金妙善寺）の両日、東西教区に分かれて僧員研修会を開催した。昨年本宗へ帰入された河村孝照師（元東洋大学教授・文学博士）を講師に、「摂受と折伏」と題する講義があり、大勢の僧員が出席した。

◆十月二十五日・二十六日の二日間にわたり、京都総本山妙満寺において妙塔学林研究科を開講した。

◆十一月二十七日・二十八日の両日、品川天妙国寺において法華宗三派統合協議会「統合学院（後期）」が開催された。窪田哲正師（教学研究所所長・妙塔学林教授）を講師に、「日沼著『法華宗略名目』講読（その2）」と題する講義が行われた。

◆十二月八日、横浜常玄寺において日什門流懇話会が開催された。研修会では、長谷川正浩先生（全日本仏教会顧問弁護士）を講師に、宗教法人の税務・会計についての講演が行われた。

◆十二月九日、品川天妙国寺において、教学研究所「公開研究例会」が開催された。研究所員による研究発表に引き続き、立正大学文学部教授・安中尚史先生を講師に、「明治期における日蓮教団諸門流の動向」と題する特別講義が行われた。

（小島芳明）

本門佛立宗

◆佛立第二十四世講有大僧正小山日誠猊下が発願された開講二百年（二〇五六）の「佛立倍加」（教務信徒の倍増）を目指し、宗門は宗務総長佐藤日鳳師のもとに平成二十五年の「門祖日隆聖人五五〇回御遠諱」に向かって邁進している。

◆報恩御奉公の初年度である昨年の二月には、全寺院の住職および事務局長が本山へ参集して決起大会を挙行し、教務員の増加、正宗徒の充実、助行（信徒宅巡回）御奉公者の増加について、本山御宝前に立誓した。本年度は、御奉公のさらなる発展を図る。

◆門祖五五〇回御遠諱の記念として、宗門は第一九四回臨時宗会において、宗務本庁を置く第一佛立会館の震災対策として新たに会館造営を議決し、本年の着工、明年の完成を目指す。

　記念行事としては本山宥清寺（京都）に全国の青少年が参詣する「青少年の一座」を平成二十四年に開催するため、本年から弘通局に実行委員会を組織する。青年会員も企画実行に参加し、次世代信徒の養成を促進する。同二十五年のご正当にも大法要を計画中である。

◆かねてより特別委員会を設置し熟議を重ねていた宗制改正については、本年度内に具体的な改正と施行の段階に入っている。

◆弘通においては各寺院で活発に御奉公が進められ、宗内に向けて機関誌に逐次報告がなされ、宗門人の弘通意欲はさらに向上している。

◆そして、海外に寺院の拠点がある韓国、台湾、ブラジル、アメリカでの弘通活動のため積極的に国内から信徒が団参をされている。

　また、海外で居住する信徒が現地でも折伏教化をされ、インド、スリランカ、フィリピン、シンガポール、タイ、オーストラリア、イタリア、イギリス、フランス、ポルトガル、チリ、ペルー等で本門の本尊を奉安され、教務が当地へ招かれ御講を勤めている。

◆高祖日蓮大士の四海帰妙の大誓願達成に向かい、本門佛立宗は本年も積極的に御奉公を進める方針である。

法華宗真門流

◆六月一日～五日、函館・妙見寺にて「布教師養成所（第十一期生・二年目）」開所。十一名が参加。

◆八月二十二日～二十八日、旭川・立正寺にて、支学林並びに第三種講習会開講。

◆八月二十三日～二十九日、総本山本隆寺にて夏季講習会開講。

◆九月四日、大阪国際会議場にて、第一教区宗務所主催「秋の佛教講演会」開催。日蓮宗専任布教師の村尾泰孝師による講演。七十六名が参加。

◆九月五日、神戸市立西区民センターなでしこホールにて、第三教区仏教大講演会開催。大谷大学前学長の木村宣彰名誉教授による講演。約二百名が参加。

◆十月五日～十四日、総本山本隆寺にて秋季学林開講。十三日には四人が新説式を挙行。

◆十月十二～十三日、総本山本隆寺にて「高祖日蓮大聖人御報恩御会式法要・伊豆御法難７５０年慶讃法要」奉修。

◆十月十二～十四日、第二教区合掌の旅護法会開催。池上本門寺参拝。百四十名が参加。

◆十二月六日～七日、「平成二十二年度定期宗会」開催。

◆一月一日～八日、総本山本隆寺にて年頭国祷会、法華八講開催。

（森田）

本門法華宗

◆二十二年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が厳修された。併せて、天明の大火以来途絶えていて、復興して十六回目の万灯会が開催された。

◆同十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師会・歴代上人法要が松下日肆貫首御導師のもと、奉修された。

◆第四十六回京都非公開文化財特別公開の寺社に妙蓮寺が選ばれ、長谷川派障壁画が特別公開された。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百三十四回教学講習会（基礎教学講習会）を、九月十三・十四日、第百三十五回同講習会を、十一月二十九・三十日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。併せて、教師資格取得検定試験が開催された。

◆同学院教学部より十一月二十五日付けで、法華宗本門流興隆学林大平宏龍先生の「法華宗名目」の講義録、『日蓮教学の大綱―名目を考える―（三）』が発行された。

◆大僧正六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌奉賛記念事業の一環である増田日紘猊下著『宗門史（前編）・勝劣派の系譜』が十一月二十五日に出版された。

◆同布教部より、布教誌『生きる』第五十五雪華号、信報『信行』第百七十四号を平成二十三年一月一日付で発行。

（木村光正）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人
門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成23年9月23日
第44号

門連結成五十周年を迎えて
門連の過去と未来

本門法華宗
編集委員　木村光正

「夫れ仏法を学せん法は必ず先づ時をならうべし」（日蓮大聖人『撰時抄』）。

そもそも仏教を学び修行する方法は、どうしてもまず第一に「時」を知るということから始めなければなりません。

この「門連の過去と未来」との題をいただいて思い出したのは、この御妙判の一節でした。日蓮大聖人ほど時を意識されて、行動された鎌倉期の祖師はいません。この視座をもって門連五十年の歴史を振り返ると、節目の聖年で行われてきた門連各記念行事は刮目すべきものがあります。昭和五十六年の七百遠忌の「日蓮聖人門下青年の船」に参加し、諸行事の一端を知るものとして、あの感激は忘れられません。

一方、時代は平成の御代となり、日本国も従前とは違う国になってきたと感ずることも多いです。殊にこの度の東日本大震災の惨状を聞く度にこの念を強くします。二十一世紀を迎えてもこの大災害、一人の人間としてのおのれの無力さに落ち込むばかりでした。しかしながら、菅民主党の呆れるばかりの無能さに対して、絶望の状況下で、泣き喚くのではなく、諦念ともいえる悟りにも近い心持ちで、復興に尽力する多くの人々の姿に接し感動しました。戦後日教組による曲解された民主主義・個人主義の果ての無縁社会ではなく、自らを犠牲にして助け合う絆社会。全世界を感動させた、緊急時における日本人の行動規範・品格。決して、自虐的になる必要などないと思いました。

戦後の価値観が激変しつつある現状を鑑み、今後日蓮聖人門下連合会の未来は？　一人の無能な人間としてとても答えを出すことはかなわない課題ですが、あえて述べさせていただきます。もちろん日々門下各人・寺院・宗門で多様な対応・努力・精進は承知しておりますが、五十年前に門下各宗派・門流・教団は、歴史・伝統・教義を超えて、お互いを尊敬しつつ困難を克服して大同団結した経緯がございます。個人的にも門連だよりの一編集員として各宗派・門流・教団の門連に対する、様々な対応の度合いは存じております。ご宗内の事情もあり、対宗外のお付き合いの度合いの濃淡は仕方がないことと了承しております。宗門・門流・教団を代表して出席しているものの、宗門・門流・教団の総意を代表しているわけではなく、個人的な安易な発言等、制限があるのは当然のことです。

五十年に渉り先師が築いてきた日蓮聖人門下連合会という組織を活性化させて、日蓮大聖人の理想の実現に近づく方策は多々あるとも想われます。先号の相澤先生のご提案にあった、過去に門連に関係された方々のOB会的な組織など是非とも進めて頂きたい施策です。門連に理解ある旧知の方々の人脈・知識を活用化すべきと思います。

例えば「門下青年の船」の大同窓会の開催の企画。三十年を経て参加団員の方々はいずれも住職または、宗内・門流・教団にても要職に就かれていると考えられるので、これを門連の活性化の為に活用する。身延山・京都・東京など門連理事会開催地を中心に各地で、継続的に毎年開催する。宗派・門流・教団を超えて全国に青年であった団員が、存在するわけで、門連の各地区出張所となり得るのではないでしょうか。未来を語るにはいささか年長者かもしれませんが、この組織人脈を見逃すわけにはいかないと思います。

高度情報化社会と言われているのに逆に、寺離れ・直葬・無縁社会・無宗教と現在の状況を考えると、きめ細やかな情報発信の対応が必要です。五十年の伝統ある門下連合会という組織を活用し、一般大衆に日蓮大聖人の大願を広める為にも、反省すべき点、改良すべき点、総括し時代に即応した体制を構築する為の特別委員会の設置が必要だと思います。これも相澤先生のご提言と同じですが、今後の門連の発展のためにも是非設置の検討をすべきです。

門連の過去と未来という大きな命題のまえに、答えにならないものでしたが、日蓮大聖人の「時をならうべし」を念頭に愚考し、雑感を述べさせていただきました。

法華宗（陣門流）管長就任挨拶



法華宗本山本成寺貫首　石丸日然

さる四月十四日、法華宗（陣門流）総本山本成寺にて八十八世貫首・石丸日然猊下の入山式が執り行われ、管長に就任された。

石丸新管長は昭和九年、静岡県湖西市の本山本興寺塔頭光明院に生まれ、同十五年、師僧転住に伴い山形県酒田市の真量院へ。東洋大学文学部仏教学科を卒業し、昭和四十六年五月に師僧より真量院十四世の法灯を継承、以来四十年間寺檀の繁栄に尽力された。その間、東北教区宗務所長、宗会議員、布教研究所所員等の宗門重職を多年に亘り歴任、また地域にあっても町内会理事や、子供会会長等を勤め、地域社会にも甚大な貢献をされた。

座右の銘は「日々是精進」。

この度、推されて法華宗管長、総本山本成寺の貫首となりました石丸日然でございます。もとより浅学非才な私でありますら故、内局の皆様方のお荷物にならねば良いが、と心配しております。

それはさておき、まず最初にこの度の東日本大震災の被災者、犠牲者の方々に対しまして謹んでお見舞い申し上げます。命のあったのが幸運と感謝しなければなりません。どうぞ一日も早い復興を祈りおります。

長引く経済不況の中で皆様もあえぎながら日々お暮しのことと存じます。さて世相は世界的な視野で見ますと、かのリーマンショック以来、サブプライムショック、ドバイショック、ギリシャショック等でショックが来るたびに痛い目に遭って破産する人が後をたたず、輸出低下、円高経済とデフレ傾向の悪循環に陥り、おまけに原発ショックが追い打ちをかけ、皆様方、経済的にも精神的にも非常に苦しんでおられます。

これを正すには今までの奢り高ぶりを捨てて、皆一丸となって南無妙法蓮華経と唱題行をなすことでございます。

「かかる重病をたやすく癒すは、独り法華の良薬なり、ただすべからく汝仏にならんと思わば慢の幢（おざりはたほこ）を倒し、念の杖（いかか）を捨てて偏に一乗に帰すべし」（持妙法華問答鈔定378）と日蓮聖人は示されております。ひたすらこの尊い良薬を受持し、妙法を信じ唱題の功徳を重ねるべきなのでございます。そして吾々は一切の慢心を捨てて偏見を捨てて一心に修行すべきであります。とお諭しになっておられます。

大聖人様は「正直に方便を捨てて只法華経を信じ南無妙法蓮華経と唱える人の煩悩、業、苦の三道は……云々」とお示しになっておられるではございませんか。吾々も大聖人様にならって唱題行に邁進すべきではないのでしょうか。

甚だ簡単ではございますが、ご挨拶の一端まで。

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

従地ゆじゅつ

◆東日本大震災直後、「想定外」という言葉をよく耳にした。

◆確かに、映像で見たあの大津波の様子は、想像を絶するもので、あらゆることが想定外であったように思える。大自然の力がいかに大きいか、それに比べて、人間の力がいかに小さなものであるかを思い知らされた。エネルギーとして安全に利用する技術が確立されたかのように言われてきた原子力でさえも、人間の能力では制御しきれないことが露呈した。

◆しかし、このような事態を想定できなかった最大の理由は、震災が起こるまでの毎日が平穏無事であったということではないのか？それまでは、大地が暴れることなく、海が溢れることもなく、生命の危険を感じることもなかったからだ。それは何者かによって護られていたということではないのか。

◆三月十一日、千年に一度とも言われるその大地震は起こった。「なぜ今年に限って？」そういう疑問が残る。

◆日蓮聖人が、正嘉元（一二五七）年の大地震を契機とし述作された『立正安国論』によれば、天変地夭の原因は、日本国を守護すべき諸天善神が去ってしまうからだという。それは、正法たる法華経の教えが廃れて法味を味わうことができないためであり、人々に善悪・正邪を見分ける能力が無くなることによって起こる。

◆これを踏まえて震災を考える時、我々は諸天に守護されるにふさわしい立派な考えを持ち、立派な行いをして来たといえるだろうか。物・金・名誉などに執着して、素晴らしい教えがあるにも拘らず、それを捨て去り、人間としてあるべき姿を忘れてはいないだろうか。

◆この度の震災は、多くの犠牲者と物的被害を出したが、そこから得ることもあるだろう。何かメッセージを発しているようにさえ思える。今、人間のあり方が問われているのではなかろうか。

◆我々は、当り前に得られるものについて、その有り難みが分からない。大自然に守られ、諸天の守護を受けていてもその自覚は薄いのではないか。それは、病気になって初めて健康の有り難さが分かるのと同じだ。教えも同じで、目の前に法華経という立派な教えが伝えられているにも拘らず、軽んじたり謗ったりしてはいないだろうか。この国に正法が流布し、国土も衆生も安らかである事を切に願う。（量）

東日本大震災
現状報告および活動内容

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。ここに日蓮聖人門下連合会加盟団体の現状と震災に対する活動内容を報告いたします。

日蓮宗

本年三月十一日、日蓮宗では第百二定期宗会最終日の最中、二時四十六分に震災が発生した。渡邊照敏宗務総長を災害対策本部長とする日蓮宗では、直ちに被災地域における安否確認及び情報収集が行われ、日蓮宗ポータルサイトに情報が掲載された。

首都圏計画停電が実施されることとなった十四日、「義援金勧募依頼」や「計画節電に伴う宗務院業務体制」等、大震災に対する義援金や宗門体制について全国七十四管区宗務所へ通達された。続き、十七日には阪神大震災と同様に、日本赤十字社に対し第一次義援金壱千万円を寄付した。

震災より初七日にあたる十八日、東京都大田区の日蓮宗宗務院講堂にて震災物故者諸霊位慰霊法要並びに東日本被災者に対する祈願回向が行われた。

二十三日、日蓮宗では「東北地方大震災」を大規模災害と指定し、被災地に見舞金及び運営資金等を拠出した。翌二十四日、日蓮宗管長内野日総猊下は全国寺院・教会・結社へお見舞いと激励のメッセージを発した。

二十六日、渡邊宗務総長を始め役職員による蒲田駅前募金活動を実施。

四月五～七日、宗務役職員による現地調査開始。

二十一日、宗務総長が東北三県の宗務所長と宮城県にて合同会議。

二十六日、東日本大震災対策会議を設置。

二十九日、宗務総長の呼びかけにより各寺院・教会・結社にて四十九日忌法要を実施。

六月十八日、仙台孝勝寺にて百箇日忌法要実施。

総合的に日蓮宗では、全壊十三ヶ寺、被害約七百ヶ寺との報告を受け、各方面に義援金を配布している。


百箇日忌法要

法華宗本門流

三月十一日　地震発生。宗務院より電話にて安否確認及び情報収集。

宗務内局職員の帰宅難民化。

十四日「東北地方太平洋沖大地震災害対策本部（現　東日本大震災災害対策本部」設立。宗内の被害状況の確認（福島県二ヵ寺　茨城県二ヵ寺）。

十五日　宗内寺院教会へ被害状況報告と義捐金ポスターの発送。宗内有志より緊急救援物資を宗務院に搬入開始。

十七日　茨城県二ヵ寺と北茨城市役所へ救援物資の搬送。

二十一日　福島県一ヵ寺・宗内関係地・相馬市役所へ救援物資の搬送。

四月　宗門機関誌「無上道」四月号　お見舞い文掲載。

四日　福島県一ヵ寺・避難所・宗内関係地へ救援物資の搬送。

十一日　宗門年中法要である千鳥ヶ淵墓苑戦没者慰霊法要に併せ東日本大震災慰霊法要を奉修。

下旬　義捐金ポスター第二弾の発送

五月　宗門機関誌「無上道」五月号　震災記事掲載（被災寺院より報告等）。

二日　第一回目の義捐金集計（約三千四百万円）。

六月　宗門機関誌「無上道」六月号　震災記事掲載（宗内僧侶の支援記等）。

十四日　岩手県庁を訪問し、義捐金七百万円を寄付。

十五日　宮城県庁を訪問し、義捐金七百万円を寄付。

十八日　宗内機関「菩薩行研究所」百ヶ日忌法要を仙台要所にて奉修。

二十三日　福島県庁・茨城県庁を訪問し、義捐金各七百万円を寄付。宗内被害寺院に支援金各二百万円を寄付。

二十四日　宗内青年会、仙台にて慰霊法要を奉修。

七月　宗門機関誌「無上道」七月号　震災記事掲載（宗内僧侶の支援記等）。

上旬　義捐金ポスター第三弾の発送。

八月　宗門機関誌「無上道」八月号　震災記事掲載（宗門義捐金活動報告等）。

＊以外にも各教区宗務所及び各青年会等が街頭にて募金活動及び慰霊法要等を実施。



法華宗本門流ポスター

第十一次岩沼派遣隊

顕本法華宗

◆顕本法華宗では、震災直後より被災者義援金の募集を開始。六月には朝倉俊幸宗務次長はじめ内局員が開祖日什大正師誕滅の地・福島県会津若松市の市役所を訪問、被災者支援に直接役立てていただけるよう菅家一郎市長に義援金を手渡す。その他、関係各機関を通じて宗内から寄せられた義援金を送っている。今後も数回（数年）にわたり、義援金の募集を継続していく。

◆三月十三日～四日間、顕本法華宗青年僧侶の会「顕青会」が、茨城県神栖市において炊き出しを実施。食料千四百人分、水二トンを提供。以降、四月中旬まで神栖・鹿島地域の復興支援を行う。

◆四月十九日には、宗内有志による第一次被災地復興支援団が石巻へ入る。以降、五月二日第二次＝南相馬、五月九日第三次＝石巻・東松島、五月十九日第四次＝岩沼、五月二十四日第五次＝塩釜、六月五日第六次＝陸前高田、六月十四日＝第七次岩沼、六月十八日第八次＝気仙沼・南三陸町、六月二十八日第九次＝南相馬、七月四日第十次＝岩沼、七月十一日第十一次＝陸前高田と計十一回にわたって現地入りし、それぞれ三～四日の日程で各被災地域の仮埋葬場清掃・瓦礫の撤去・イベント補助・写真の清掃などを行う。また、各所へ水・食料・土嚢・電機工具・スーツ・下着・虫よけスプレー・長靴・ウエットタオル・花などの支援物資をお届けした。

◆関西においては、四月一日～四日、京都府向日市で「京都災害ボランティア支援センター」が行った救援物資仕分けボランテイアに本山から二名が参加。また、四月二十日～二十一日と六月一日、関西青年僧侶の会「什青会」が中心となり、京都・四条河原町において街頭募金を実施した。

法華宗陣門流

東北教区では宮城県の寺院において本堂の壁、窓ガラスや仏具が破壊され、倒壊の危険性有り。その他、参道の地割れ、墓石の倒壊など甚大な被害があった。福島県の檀信徒も多数被災し、家屋内部の崩壊が激しい。

新潟教区では二寺院において微少な被害が有り、また数軒の檀信徒宅が被災した。

関東教区では、茨城県の二寺院が被災し、漆喰、壁、タイル等々がひび割れ、仏具の破損著しく、数多くの石灯籠や墓石が倒壊した。また檀信徒も数多く被災し、農林水産業に従事する檀信徒は福島原発の影響を受けている。東京都でも一寺院で天蓋の落下、本堂壁の崩落など大きな被害があった他、一都二県でも八寺院において建物、仏具、墓石、灯籠等に数多くの被害があった。また、三軒の檀信徒宅が安否不明である。

これらの被害寺院への支援のために宗門において義援金を募り、現在七百七十万円の寄付をいただき、最も被害が甚大であった宮城県の寺院に五百万円が送られた。また、赤十字や各地方自治体への寄付は教区や寺院単位で行われており、関西教区から宗務院を通して赤十字へ百万円、北陸の教区寺院、題目講、

五面へ続く

一枚の切符から
国内・海外 団体参拝旅行まで
近畿日本ツーリスト 団体参拝実施部
knt! 近畿日本ツーリスト
カタチにします。ときめき・キラメキ・おもてなし
www.knt.co.jp

東　京
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-13 住友商事神田和泉町ビル 11F
TEL 03-6891-9513　FAX 03-6891-9516
京　都
〒604-8005 京都府京都市中京区河原町通三条上ル 近畿日本ツーリスト河原町ビル 6F
TEL 075-255-1425　FAX 075-255-4968

東日本大震災からの
一日も早い復興を
心から祈念申しあげます

（平成二十三年九月現在）

日蓮宗宗務院

宗務総長　渡邊照敏　財務部長　米田宣雄
伝道局長　関谷泰教　宗務総長室長　渡邉義生
総務局長　駒野教源　現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　古河良晧　参与　渡邉一之
教務部長　塩崎望巳　参与　吉田海心
総務部長　梶山寛潮　日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管長　菅原日桑
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駄
教学部長　金井孝顕
松本義仙

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
企画部長　今井満良

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　伊藤隆之
教務局長　亀井日魁
弘通局長　長谷川日堯
総務局長　岡本日盈
出版局長　藤本日涌
財務局長　西村勲

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長・総務部長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管長　田中日生
宗務総長　寺田完英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

貫長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三三五二七
FAX　〇七五（四五一）三三五九七

宗教法人　国柱会

総主　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会長　伊丹日章
副会長　菅原日桑
理事長　藤井照源
副理事長　赤田泰宏

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六（六二）一〇一一
FAX 〇五五六（六二）一〇九四
法主 内野日総
総務 井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三（三七五二）二三三一
FAX 〇三（三七五二）三三五〇
貫首 酒井日慈
執事長 野坂法雄
役職員一同

法華宗(本門流)大本山
本興寺
〒660-0862 兵庫県尼崎市開明町三―一三
電話 〇六（六四一一）三二一七
FAX 〇六（六四一三）二四三六
貫首 小西日遶
執事長 圓成淳龍
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五（七九一）七一七一
FAX 〇七五（七九一）七二六七
貫首 中村日玄
総務 古瀬久馨
執事 山本晃道
執事 中村英司
執事 湯原正純
執事 小川正義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX 〇二五六（三二）〇〇五九
貫首 石丸日然
執事長 鈴木顯正
執事 笹原壮玄
執事 栗田孝之
執事 荒川公孝
執事 近藤正文
執事 五十嵐義昭

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五（四四一）五七六二
FAX 〇七五（四四一）五六六六
貫主 田中日生
執事長 足立真正
執事 本多信正
〃 永岡悠希
書記 笹木研吾

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五（四五一）三五二七
FAX 〇七五（四五一）三五九七
貫首 松下日肆
執事長 音羽隆全
役職員一同

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-5501 千葉県鴨川市清澄一八三
電話 〇四（七〇九五）二六二一
FAX 〇四（七〇九五）二〇五五
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首 石川日命
執事長 村田教清

日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四（七〇九四）〇五二五
FAX 〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。
日蓮聖人出家得度立教開宗の霊跡
別当 二宮將泰
役職員一同

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一
電話 〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX 〇七五（四六三）四六五一
住職二十四世講有 小山日誠
執事長 中西清乘
事務局長 伊藤隆之

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四（五八）一〇〇四
FAX 〇五四四（五九）〇三〇三
貫首 旭日重
執事長 川名義顯
参与 吉田日綱
参与 井野上正文

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七（三三四）三四三三
FAX 〇四七（三三四）一七九六
貫首 新井日湛
参与 田代浩敬
同 渡辺行俊
同 植田観樹
同同 吉田文堯
同同 布施慈範

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026 千葉県茂原市茂原一二〇一
電話 〇四七五（二二）三一五三
FAX 〇四七五（二二）一一七三
貫首 持田日勇
総務 増田寶泉
執事 冨永一道
〃 中川貫泰

日蓮宗霊跡本山 比企谷
妙本寺
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七（二二）〇七七七
貫首 早水日秀
執事長 立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三（三三一三）六二四一
FAX 〇三（三三一三）五〇〇七
山主 嶋田日新

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―五
電話 〇三（三八二二）四三七三
FAX 〇三（三八二二）七〇三三
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首 井上日修

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五（七七一）〇五六二
FAX 〇七五（七五一）一〇〇四
貫首 安藤日瑛
参与 伊東隆司
同 宇根海静
同 新林錬昭
執事長 藤井照源
執事 二ノ部知孝
同 川合陽雄

京都八本山会
本山 本満寺 貫首 伊丹日章
大本山 本圀寺 貫首 吉田日厚
大本山 妙顕寺 貫首 和田日佑
本山 立本寺 貫首 上田日瑞
本山 妙傳寺 貫首 野々垣日祐
本山 頂妙寺 貫首 安藤日瑛
本山 妙覚寺 貫首 及川日周
本山 本法寺 貫首 瀬川日照

東日本大震災からの
一日も早い復興を
心から祈念申しあげます
（平成二十三年九月現在）

二面より続く

婦人会から北日本新聞を通して百万円の義援金が送られた。

日蓮本宗

福島県を中心に構成される日蓮本宗第三教区の寺院は、御開山日尊上人有縁の地であることから十四カ寺を数える。沿岸部に建つ寺院はないため津波の被害はないが、地震による建物損壊が著しい。

福島市の本法寺（野津智龍住職）は本年五月に本堂・庫裏の落慶法要を迎える予定であったが、新築された本堂二階の回廊部分天井が落下、仏具の破損に加え、建物には亀裂が生じ、墓石倒壊などの被害を受けた。

福島県伊達郡桑折町の妙藏寺（佐藤智憲住職）は本堂の内部構造が破壊され、柱と梁がずれたり、壁・天井・瓦が落下した。境内では参道の地割れや陥没、灯篭・墓石・門柱などが倒壊し、被害は多々に及んだ。

その他、当教区内の殆どの寺院で建物や墓地を中心に被害がでており、また十世帯以上の檀信徒が避難所生活を送った。

この状況を受け、京都の本山要法寺と宗務院では、全国末寺・教師・檀信徒からの見舞金総額三百七十八万円あまりを本年七月に第三教区に届けた。

法華宗真門流

大震災直後に宗務庁より門末各寺院に、大震災義援金の勧募を募り、三月末日までに集められた義援金を、日本赤十字社に寄託。

総本山本隆寺では、春季大法要中の四月十二日、「東日本大震災犠牲者追悼法要」を営み、この法要に際し、門末各寺院、檀信徒より寄せられた義援金等を、京都新聞社に寄託。

北海道、福井県、兵庫県等より青年僧有志が四月二十六日、大震災四十九日を迎えるにあたり、盛岡市に結集し、市内日蓮宗法華寺様本堂にて慰霊法要を営み、翌二十七日より大船渡市を最初に訪れた後、二班に分かれ岩手県全域、宮城県気仙沼市、南三陸町までの遺体安置所、遺骨安置所、海岸等で水、餅、パン等を供え慰霊供養行脚を行った。今後は、青年壮年僧を主体として、慰霊行脚を行う予定。

本門法華宗

本門法華宗では、東北・北関東地方に寺院・教会がないため、被災の報告はありませんでした。

五月より、東日本大震災に関する本門法華宗「義援金」への協力をお願いしています。

国柱会

合掌

この度の東日本大震災においてお亡くなりになられた精霊位全ての菩提増進を虔んでお祈りいたしますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

国柱会では、三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震の翌日より、遭難者諸霊位のご回向を始めました。また、当会の機関誌『真世界』誌上において義援金の受付を開始し、全国の国柱会会員よりお寄せ頂いた義援金は、国柱会本部理事会の決定で、震災の被災状況に応じて分配し直接東北地方在住の会員同志の皆様にお渡しいたしました。東北地方在住会員の被災状況は、ご家族が行方不明（一件）、家屋流出（一件）、家屋半壊（七件）となっており、福島県の会員宅においてはその後の大きな余震によって半壊となったという報告がございました。

被災地支援の活動としては四月以降、国柱会賛主田中壮谷自ら法務の合間を縫って、宮城県仙台市、同塩釜市、岩手県釜石市にて救援物資のお届け、被災地お見舞い、遭難者慰霊、現地行政と協力しての瓦礫撤去作業に奉仕させていただいております。

（記　森山真治）



【国柱会】遭難者慰霊法要（釜石市）

日本山妙法寺

原子力発電所の廃炉や核兵器の廃絶、米軍基地の撤退、憲法9条の堅持などを訴え、僧侶らが東京から広島までを歩く「平和行進」が2日、名古屋に入った。

今年で54回目。6月11日に東京を出発し、8月6日の広島での平和記念式典までに各地で平和を訴える。

行進には日本山妙法寺（東京都）の僧侶や地元の支援者ら約20人が参加した。県内には6月29日に入り、この日は名古屋市役所、愛知県庁、中部電力本社前、平和公園などを歩いた。

団長で同寺僧侶の武田隆雄さん（58）は「今年は震災の被害者の慰霊と脱原発を特に訴えている。例年に比べて励ましの言葉をかけられることが多い」と語った。

3日には陸上自衛隊守山駐屯地や航空自衛隊小牧基地などを訪れ、岐阜に入る予定。（川村真貴子）

※朝日新聞名古屋版7月3日付より

京都門下連合会からのお知らせ

京都日蓮聖人門下連合会（藤井照源理事長）は、平成二十三年八月二十七日（土）第四十七回夏季大学を本能寺文化会館を会場に開催した。テーマは日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐ―今生きるよろこび生かされるよろこびで―三人の講師を招く。

第一講は、日蓮宗本山立本寺貫首上田日端猊下「お自我偈の心」。

第二講は、身延山大学学長浜島典彦先生「東日本大震災を考える―立正安国論と現代―」。

第三講は、社会福祉法人立正福祉会・青少年こころの相談室室長楠山泰道師「仏教のあり方を考える―カルト問題の実態と予防―」。

三講とも東日本大震災をどのように受けとらえ、我々のなすべき事は何かをテーマに講演された。会場は京都市役所前の本能寺文化会館で、八月二十七日（土）九時三十分受付、十時より京都日蓮聖人門下連合会会長・日蓮宗本山本満寺貫首伊丹日章猊下導師のもと開講式。

第一講上田日端猊下は十時三十分から十一時三十分。

昼食の後、第二講浜島典彦先生は十二時三十分から十四時。

第三講楠山泰道師は十四時三十分から十六時。

終了後閉講式が行われた。参加者は、僧侶、檀信徒合わせて百五十名。

沿って議事を進行。「平成二十二年度事業報告」「平成二十二年度決算報告」を事務局より報告。決算については持田日勇師より監査会で精査されたことが告げられ一同承認。次に、「平成二十三年度事業計画案」「平成二十三年度予算案」を事務局より報告、一同承認。

次に、「京都門下連合会活動報告」を藤井照源師、「地方門連活動に関する報告」を中村日游師より報告された。

「その他」の事項では、持田日勇監査より、日蓮宗本山藻原寺で開催が予定されている「オラトリオ日蓮聖人」の進捗状況が報告される中、全国の門下連合会へ協力が求められた。午後三時閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後六時より門連結成五十周年記念誌「五十年の歩み」発刊奉告祝賀会が厳かに開催された。

門連結成五十周年記念誌「五十年の歩み」発刊奉告並びに身延理事会開催さる

平成二十三年七月六日（水）、門連結成五十周年記念誌「五十年の歩み」発刊奉告が日蓮宗総本山身延山久遠寺内、日蓮大聖人祖廟において厳修され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長等、二十五名が参加した。

午前十一時半、全門連渡邊照敏理事長の導師のもと、「五十年の歩み」を祖廟に奉呈し法味を言上。その後記念撮影が行われた。続き、大本堂に場所を移し法味を言上。午後一時半より理事会が開催された。

渡邊理事長が座長となり議題に

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二三・三・二四	頂岳日選	日蓮宗	理事	就任	退任
	伊丹日章				
平成二三・四・一四	佐古弘文（代理）	法華宗陣門流	顧問	就任	退任
	石丸日然				
平成二三・五・一	吉本宣文	京都門下連合会	理事	就任	退任
	赤田泰宏				

施餓鬼小旗セット

頒布価格 7,875 円（税込・送料別）



※ イメージ
頒布品は臨滅度時御本尊一遍首題です

施餓鬼小旗　（約縦 202 mm × 横 67 mm）
経文入各色（緑・白・赤・青・黄）×20 枚、
臨滅度時御本尊一遍首題入
（白のみ）×10 枚、
経文無各色 ×20 枚
（白のみ 10 枚）
合計 200 枚・箱入
竹　串　（約 24 cm）100 本

※本体箱



お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3
TEL 03-3755-5271
FAX 03-3753-7028

各派・教団・短信

日本山妙法寺

◆平成二十二年九月十一日から二十一日　第九回九・一一米国平和行進（米国ニューヨーク・グランドゼロからトロイ）を実施。
◆十月十二日　米国ニューイングランド仏舎利塔二十五周年記念法要を厳修。
◆十月十八日から三十日　二〇一〇沖縄平和祈念行脚（辺戸岬から摩文仁平和公園）を実施。
◆十月二十五日　インド国王舎城仏舎利塔四十一周年記念法要を厳修。
◆十一月十三日から二十三日　第十一回アメリカ軍事学校閉鎖のための平和行進（米国ジョージア州アトランタからフォート・ヘニング基地）を実施。
◆平成二十三年一月九日　尊師行勝院日達聖人第二十七回忌追孝報恩大法要を千葉県清澄山道場にて厳修。
◆二月二日から十四日　山頂破壊を止めるための行脚（米国ケンタッキー州）を実施。
◆二月十四日から七月八日　第三回ロンゲスト・ウォーク（米国カリフォルニア州サンディエゴからワシントンDC）を実施。
◆二月十三日から三月一日　二〇一一・三・一ビキニデー平和行進（東京都江東区夢の島「都立第五福竜丸展示館」から静岡県焼津市弘徳院）実施。
◆二月二十三日　スリランカ国ゴール道場開堂供養を厳修。
◆四月十日から四月二十六日　核のない世界に向かうピースウォーク（米国ニューヨーク州インディアン・ポイント原発からバーモント州バーモント・ヤンキー原発）を実施。
◆四月十六日から四月二十六日　米国諸宗教合同平和行進（米国ラスベガスからネバダ核実験場）を実施。
◆五月八日　熊本・玉名仏舎利塔落慶法要を厳修。
◆五月九日　尊師行勝院日達聖人　阿蘇御廟所第二十七回忌追孝報恩法要を厳修。

京都門下連合会

◆三月九日（水）午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。立教開宗会の件、第四十七回夏季大学の件。
◆四月二十八日（木）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　京門連会長（日蓮宗本山貫首猊下）、講師　法華門流　布教師、昼食　峰道レストラン予定、観光は未定。
◆五月　全門連身延理事会（身延山久遠寺）。
◆六月十四日（火）午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。第四十七回夏季大学の件、お会式の件、その他。
◆八月二十七日（土）午前十時開講　第四十七回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）日蓮宗本山立本寺　貫首　上田日瑞猊下。身延山大学　学長　浜島典彦先生。社会福祉法人立正福祉会楠山泰道師。
◆同日午後四時　理事会（本能寺文化会館）。お会式の件、その他。
◆九月三十日（金）午後二時　お会式準備奉行委員会（本山立本寺）。お会式準備（万灯の搬入、組立）、会場設営、御宝前荘厳、法要等打ち合わせ、清掃。
◆十月一日（土）午後一時　市中唱題行脚（予定）。
◆同日午後二時三十分お会式（日蓮宗本山立本寺）。導師　日蓮宗本山立本寺、貫首　上田日瑞猊下、講師　法華門流本山貫首猊下。
◆十一月午後四時　理事会（日蓮宗京一宗務所）。全門連京都理事会の件、その他。
◆十一月二十五日午後一時　全門連京都理事会（日蓮宗本山妙傳寺）。全門連理事会・先師法要導師・講演（日蓮宗本山妙傳寺　貫首　野々垣日祐猊下）。懇親会別席。
◆十二月十六日（金）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）。
◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十三年度会務行事報告、平成二十三年度決算中間報告、その他。

日蓮宗

◆終戦記念日の八月十五日、東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「千鳥ヶ淵戦没者追善供養並世界立正平和祈願法要」を開催し、戦没者への供養と世界平和が祈られ、また東日本大震災で亡くなられた方への回向と被災地の復興も祈願された。
◆平成二十三年一月以降に貫首に就任された方々（認証日順）
・滋賀県瑞龍寺鷲津日英貫首・京都市妙顕寺和田日祐貫首・山梨県小室妙法寺小倉日教貫首・京都市妙覚寺及川日周貫首・京都市本法寺・瀬川日照貫首・千葉県多古町日本寺清瀬日草貫首・静岡県湖西市吉塚日心貫首

法華宗本門流

◆四月十一日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において太平洋戦争戦没者並びに東日本大震災犠牲者慰霊法要が行われた。当宗では、毎年四月十一日に戦没者の慰霊法要を執り行っている。奇しくも、本年は、未曾有の大災害をもたらした東日本大震災より一月を迎えることもあり、併せて犠牲者のための慰霊法要も奉修。
◆第六十五次定期宗会が五月十七～十九日に亘り、宗務院において開催され、二瓶総長の施政方針に続き、本年度予決算の承認議決等、十三議案を議定して閉会。
◆全国宗務所長会が五月二十四～二十五日の両日、宗務院において開催され、本年度の宗務執行等二十一議題を協議して閉会。
◆大本山鷲山寺貫首大塚日正猊下が、二期十年の任期を満了され御退蔵された。宗会法務委員長　平田日範上人（長生郡本興寺住職）が当選し、平成二十三年四月二十八日付けで第百一代貫首に就任、六月十一日に晋山式が奉修された。
◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す教学講習会の本年度日程は、九州教学講習会（七月二十六～二十八日）、北海道教学講習会（八月二十三～二十五日）、東海教学講習会（十月五～七日）、淡路教学講習会（十月四～六日）。お問い合わせは、宗務院（03-5614-3055）まで。
◆九月二十七日～二十八日に亘り、全国寺院教会の檀信徒代表者が一同に会して互いの信仰を深め、研鑽に励む「全国檀信徒代表者研修会」が東京・シェラトン都ホテル東京にて開催。

顕本法華宗

◆二月二十八日、総本山妙満寺において、中村日玄猊下大導師の下、御開山会（開祖日什大正師御命日忌）を厳修。近末寺院や若手僧員が多数出仕。法要後、古瀬久馨本山総務より、平成二十五年の「開祖日什大正師御生誕七〇〇年」をひかえて、什祖の偉大なご遺徳を偲ぶ法話があり、参詣者一同熱心に聞き入っていた。
◆三月十日～十一日、総本山妙満寺において顕本法華宗第六十六定期宗会を開催。平成二十二年度の決算、平成二十三年度の事業計画・予算案などが審議された。
◆五月九日、品川天妙国寺において戦後二度目となる臨時宗会を開催。東日本大震災による宗内被災寺院の支援を目的とした補正予算が可決された。また、本宗社会事業の一環である「顕本青少年錬成会」について、今次大震災の諸々の影響を考慮し、中止が認められた。
◆五月二十一日～二十二日、総本山妙満寺において、中村日玄猊下大導師の下、春季報恩大法要を厳修。期間中激しい雨に見舞われる時もある中、大勢の参詣者で境内が賑わった。二日目には恒例の「安珍清姫の鐘」鐘供養を奉行。法要後、長唄吉住流吉住会・吉住小三代氏はじめ総勢三十六名による長唄奉納があり華を添えた。
◆五月三十一日、総本山妙満寺において教学研究所（所長・窪田哲正師）主催「公開研究例会」を開催。三名の研究発表に続き、「河村孝照先生に仏教の基礎を学ぶ座談・茶話会」と題する懇談会が行われ、「アビダルマの研究回顧」などをメインテーマに長年仏教学の第一線で活躍された河村孝照師の興味深い話を伺った。
◆六月八日～九日、中村日玄猊下はじめ十四名の僧員が参加して寛文法難先師顕彰参拝が行われた。好天の中、日英・日応両上人配流の地・飫肥（宮崎県日南市北郷町）に建つ顕彰碑の前で報恩法要を奉修した。
◆六月十三日～十四日、総本山妙満寺において全国布教師研修会が開催された。元東洋大学教授・文学博士の河村孝照師を講師に「顕本教学について」と題する講義が二日間にわたって行われ、什祖以来の本宗先師の教学について研鑽した。併せて布教師会総会を開催、本年度の布教方針について協議した。（吉本栄昶）

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺にて節分大祈願会が前貫首、椿澤日壽猊下導師のもとに営まれ、約二万三千人の参詣者が訪れた。
◆三月十日、十一日、宗務院にて第百十六次定時宗会が行われた。
◆四月十四日、総本山本成寺にて、八十八世貫首、石丸日然猊下の入山式が執り行われた。
◆五月二十七日～二十九日、総本山本成寺にて祠堂大法要が新貫首、石丸日然猊下導師のもとに営まれた。
◆五月十三日～六月二十二日、総本山本成寺にて学林が開講され、十二名が行学二道に励んだ。
◆六月十八日、十九日、宗務院にて統合協議会学生講座が開講された。講師は陣門流松吉慶憲師。法華宗各派の学生、教師十四名が参加した。
◆七月三日、宗務院にて宗内講師を招き、雅楽練習会が行われた。
◆本迹同異決会本刊行委員会が発足し、宗務院にて三回、会議が行われた。

日蓮本宗

（嘉儀日有貫首）では、平成二十三年五月八日に御開山日尊上人第六六七年御報恩法要にあわせて「東日本大震災犠牲者霊位追悼法要」が営まれ、多数の参列者が献灯を捧げた。また宗務院（岩崎広義宗務総長）では、今回の地震で被害の大きかった第三教区宗務所（福島市・野津智龍宗務所長）に対し、全国から寄せられた見舞金三百七十八万円あまりを奉呈した。
◆福島市佛眼寺（丹治日遠住職）では、平成二十三年四月二十八日に立教開宗会にあわせて「東日本大震災被災死者追悼式」を多数の檀信徒参列のもと奉修し、この日の募金活動で寄せられた義援金七十四万五千円を日本赤十字社へ寄託した。

法華宗真門流

◆三月二十八日～三十日、総本山本隆寺に於いて、「第二十八回僧風林」開催。
◆四月七日～二十六日、総本山本隆寺に於いて、春季学林開講。
◆四月十一日～十三日、総本山本隆寺に於いて、春季大法会厳修。
◆五月十一日～十二日、奈良・法光寺に於いて、青年僧交流会として、各教区青年会による、各会対抗のボーリング大会開催。
◆五月二十五日～二十六日、第三教区は、「教区教学研修会」開催。宗学研究所所長・上嶋智岳上人による「京町衆の法華信仰についてその②」の講義。
◆五月二十九日、第一教区は「第三十一回檀信徒の集い」開催。淡路島・薫寿堂に於いて線香工場見学の後、『阪神・淡路大震災十七回忌、東日本大震災慰霊法要』を厳修。
◆六月七日、総本山本隆寺に於いて真門教学講習会開催。立正大学教授・北川前肇先生による『観心本尊抄』の講義。

本門法華宗

◆三月十一日、第九十九回本門法華宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催された。
◆三月三十～三十一日、本門法華宗学院第百三十六回教学講習会、六月二十日～二十一日、第百三十七回教学講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開講された。
◆二月二十八日、『本門法華宗入門（一）仏教史』本門法華宗学院編、三月二十五日『四帖抄に聞く（八）』北川前肇先生講述を発行された。
◆七月一日、布教誌『生きる』第五十六号、信報『信行』第百七十五号を発行。（吉村光敬）

国柱会

◆平成二十三年一月一日（土）元旦大国祷。新年拝賀式。神酒拝戴式。賽主先生以下、本部員、中央有志明治神宮参拝。
◆七日（金）昭和天皇祭。賽主先生、昭和聖徳記念財団主催式典に御出席。午後、若杉日出雄講師以下中央有志昭和天皇御陵参拝。
◆九日（日）賽主先生、近畿地方連合局新年会、天業館御出向。
◆十五（土）～十六（日）各局輪番常勤給仕。
◆十五日（土）熊本局、大橋冨士子講師逝去の為、賽主先生通夜法要、本化正葬儀督式御出向泊。
◆十六日（日）妙宗大霊廟例月供養会。中央同志新年大会。
◆十七日（月）恩師忌。常勤給仕日。
◆二月一日（火）月旦大国祷。
◆八日（火）賽主先生、静岡地方連合局大会に御出席泊。
◆十一日（金）紀元節慶讃法要。
◆十二日（土）日本易学連合会の要請にて国柱会雅頌部、鎌田義孝楽頭以下十名、明治記念館（東京・港区）に出向奏楽。
◆十五日（火）釈尊涅槃会報恩法要。
◆十六日（水）聖祖降誕会慶讃法要。
◆十七日（木）恩師忌。常勤給仕日。
◆十九日（土）～二十日（日）妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。
◆二十日（日）妙宗大霊廟例月供養会。
◆三月一日（火）月旦大国祷。
◆二日（水）「日本を立て直す懇談会」（於自民党本部）賽主他本部員出席。
◆十一日（金）東北地方太平洋沖地震の為、ロータスヴィラ入居者含め妙宗大霊廟前勝縁台に一時避難。
◆十二日（土）朝拝及び正中法座にて、東北地方太平洋沖地震遭難者諸霊位回向を開始。
◆十七日（木）恩師忌。常勤給仕日。
◆二十日（土）～二十一日（日）各局輪番常勤給仕。
◆二十一日（月）妙宗大霊廟春季彼岸大供養会。
◆二十七日（日）故大橋冨士子講師納鎮式。
◆四一日（金）月旦大国祷。
◆三日（日）～五日（火）賽主先生、随行松下陽一本部員、東日本大震災（今回は主に宮城県）同志巡教見舞いに御出向泊。
◆八日（金）釈尊降誕会慶讃法要。
◆十三日（水）法華宗陣門流管長本成寺（石川県）石丸日然上人入山式に、賽主先生御出席泊。
◆十六日～十七日（日）各局輪番常勤給仕。
◆十七日（日）恩師忌。妙宗大霊廟例月供養会。午後二時から、御遺文講座、大橋邦正講師担当『守護国家論』。
◆二十三日（土）～二十六日（火）東日本大震災、国柱会同志他お見舞いに賽主先生、随行松下本部員車にて御出向泊（今回は主に岩手県）。
二十八日（木）立正会慶讃法要・
◆第八十一回身延登詣団実施。団長賽主先生以下、会員有志代表登詣。
（記　森山真治）

日蓮聖人
門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成24年2月16日
第45号

京都日蓮聖人門下連合会の歴史を紐解く



京都日蓮聖人門下
連合会　理事長
藤井照源

日、京都御所の東門に立ち昇り来る旭日に向かい「南無妙法蓮華経」と声高らかに唱えた日像上人、これが京都開教の第一歩である。京都宗門の歴史的始まりは、日蓮聖人が経一丸（日像上人）に託した京都弘教である。

以後法華弘通の実を挙げ続々と日蓮聖人門下の僧侶が上洛、目覚しい町衆の支持と外護を受け、公家堂上家にも信者は増え多くの法華寺院を建立、「洛中二十一ヶ本山」と称され全盛を極めた。

その後、天文法難で堺へ避難するも後奨に力を注ぎ、十六本山中心の時代へ入っていく。

大正十三年（一九二四）四月十九日、十六本山の協力で、比叡山横川定光院に聖人の銅像が建立され、開眼法要が行われた。

同年京都十六本山会は「京都立正会」を結成、教学の研修と布教に尽力。また毎年十月十三日御大会式正当には「連合御大会式万灯提灯行列」が行われ、市中で高らかに唱題し大行進。戦争で宗教活動が難しくなるが、門連有志が「立正安国」の精神を護り、復興、再興して新しい出発へ向かうのである。

◆立教開宗に始まる

京都日蓮聖人門下連合会の歴史を紐解く時、出発点は日蓮聖人の比叡山横川定光院を主たる道場として勉学された近畿御遊学十二年と考える。「釈尊出世の本懐」は何かを探求すべく、八宗兼学され、法華経こそが真実の教えである事を悟られ立教開宗へと繋がっていく。


御会式

◆京都弘通

日蓮聖人は法華経こそが、「釈尊出世の本懐」と悟られ「一天四海皆帰妙法」を目標に法華経弘通に向けて歩まれた。

しかし、近畿遊学で得られた法華経を帝都弘通で伝えたいとの思いは、かなり深いものと思われる。自分の力でその願望を叶えることが出来ず、その思いを弟子経一丸（後の日像上人）に託されたのである。

◆京都の歴史と土壌

今を去る七百十七年前の永仁二年（一二九四）に上洛され、同五年（一二九七）四月二十八日、京都御所の東門に立ち昇り来る旭日に向かい「南無妙法蓮華経」と声高らかに唱えた日像上人、これが京都開教の第一歩である。京都宗門の歴史的始まりは、日蓮聖人が経一丸（日像上人）に託した京都弘教である。

以後法華弘通の実を挙げ続々と日蓮聖人門下の僧侶が上洛、目覚しい町衆の支持と外護を受け、公家堂上家にも信者は増え多くの法華寺院を建立、「洛中二十一ヶ本山」と称され全盛を極めた。

その後、天文法難で堺へ避難するも後奨に力を注ぎ、十六本山中心の時代へ入っていく。

大正十三年（一九二四）四月十九日、十六本山の協力で、比叡山横川定光院に聖人の銅像が建立され、開眼法要が行われた。

同年京都十六本山会は「京都立正会」を結成、教学の研修と布教に尽力。また毎年十月十三日御大会式正当には「連合御大会式万灯提灯行列」が行われ、市中で高らかに唱題し大行進。戦争で宗教活動が難しくなるが、門連有志が「立正安国」の精神を護り、復興、再興して新しい出発へ向かうのである。

◆京門連との団結

釈尊御降誕花まつりが日蓮宗・法華宗派合同で営まれ、昭和三十二年（一九五七）十月九日聖祖門下連合会として復活第一回日蓮大聖人お会式万灯行列が盛況裏に奉行。円山公園音楽堂から大本山本能寺迄大行進した。聖祖門下連合会も盛大に運営されるが、各宗・各派・各教団の教学、組織等の問題をうけて、協議を重ね、同三十八年（一九六三）「聖祖門下連合会規約」を成文化した。

そして時は経ち、機は熟し、昭和四十年（一九六五）三月十八日京都日蓮聖人門下連合会の名の下、日蓮宗京都本山会、宗務所、法華宗陣門流本禅寺、法華宗本門流本能寺、法華宗真門流本隆寺、顕本法華宗妙満寺、本門法華宗妙蓮寺、日蓮本宗要法寺、本門仏立宗宥清寺、日蓮宗（五十音順）は連名で「京都日蓮聖人門下連合会ご案内」を送付、三月三十日顕本法華宗総本山妙満寺で総会が開催された。これが、京都日蓮聖人門下連合会の組織的スタートであった。

会則役員も決定し実質上の運営展開が始まった。以後京都日蓮聖人門下連合会は歴史と伝統を認識し、年間行事として二月十六日は立教開宗会（比叡山横川定光院）八月夏季大学（本能寺文化会館）、お会式（十月第一土曜日）、また、事務局会議理事会、お会式奉行委員会、全門京都理事会、十六本山主伴会をおこなっている。

運営は当番制とし、表当番・裏当番に日蓮宗、法華門流懇話会が順次当たっている。

今日までの歴史を振り返り、年を数えて幾星霜、昭和二十六年（一九五一）「宗教法人法」が公布・施行、同二十七年（一九五二）釈尊御降誕花まつりを奉行したことを鑑み、これらを正式な設立と考えれば平成二十五年に設立六十周年を迎えることになる。

◆これからの門連

京都日蓮聖人門下連合会は大きな歴史と土壌の中で築き上げて来た。京都には、京都日蓮聖人門下青年会の組織があり青年僧との交流、勉学も盛んである。全国都道府県には、多くの門下寺院が存在している。今こそ地方から門下の心を弘め、門連活動の組織化を進めていく事が必要である。その目標達成が「一天四海皆帰妙法」の祖師の願業に繋がっていく。一歩一歩の積み重ねを希うものである。


立教開宗会



市中行脚

従地ゆじゅつ

◆年が明けたということは、あの想像を絶する大災害「東日本大震災」から、早一年が経とうとしているということでもある。

◆第二次大戦以来の甚大な被害とも言われる災害で、一度に大変多くの人命が失われるのを目にし、まず浮かんだのが、大聖人の「人の寿命は無常なり。出る気は入る気を待つ事なし。風の前の露尚譬にあらず。賢きもはかなきも、老いたるも、若きも定め無き習ひなり」という『妙法尼御前御返事』の一節であった。

◆しかしその一方で、被災地住民の方々同士、お互いに助け合いながら復興に力を注いでいる様子や、日本国内は勿論全世界から多数寄せられる復興支援に、何ら絶望するようなことではないとも教えられた。

◆メディアに取り上げられることは無いが、門連所属教団をはじめ、大変多くの宗教団体が復興支援を行っている。復興への道のりは遠い。地道に、絶えることなく続けていくことが何よりも大切であると思う。

◆臨終についての聖訓である『妙法尼御前御返事』には、「法華経の名号を持人は、一生乃至過去遠々劫の黒業の漆変じて白業の大善となる。況や無始の善根皆変じて金色と成り候なり。しかれば故聖霊最後臨終に南無妙法蓮華経と唱へさせ給ひしかば、一生乃至無始の悪業変じて仏の種と成り給ふ。煩悩即菩提、生死即涅槃、即身成仏と申す法門なり」と記されている。

◆将来復興が一段落したとき、生き残った人々は、残りの人生に対する不安や、死の恐怖に苛まれるのではないだろうか。そんな彼らを救わなければならないのは、大聖人の教えを信じる私達である。

（真）

《各派のページ》

第二回「法華宗（本門流）宗門内外で活躍する僧侶」



興隆学林専門学校学林長
法華宗教学研究所所長
香川県・國祐寺住職

大平宏龍さん

（プロフィール）
おおひら　こうりょう　昭和十八年（一九四三）、香川県生まれ、早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修卒。同大学院文学研究科修士課程修了。法華宗興隆学林研究科卒。現在、興隆学林専門学校学林長。法華宗教学研究所所長。香川県・國祐寺住職。
日蓮教学に精通し、宗派を越えて広く活躍されている。
著書に『日隆聖人を読む』『法華経の略要品』『法華宗の教えを語る』（以上、東方出版）最新著に『心が温かくなる日蓮の言葉』（ＰＨＰ新書）等がある。

「宗学」のことども

本欄の原稿を依頼されて引き受けてしまったものの、参考にと示された前号の記事をみて反省しきりである。私などよりこの紙面にふさわしい人が、私達の宗門にも多かったのにと。
もし私が一般の僧侶方と少し異なる点があるとすれば、寺の住職でありながら、宗門の子弟養成機関である興隆学林（私の関わった当初は法華宗興隆学林、現在は興隆学林専門学校）の教師として宗学を教えてきたということであろうか。それは必ずしも外に対しての面が皆無ではなかったが、むしろ宗内に向かっての面が大きかったと言わざるを得ない。本欄には私は不適格かと考える理由である。
しかし、どういう宗教でも固有の教えはあるであろう。まして仏教の伝統宗派には宗学があり、それぞれ「宗学」することが求められていることには変わりはないと思われる。ただ現実には「宗学」の旗色は悪い。一般的仏教学からは宗学は「宗派の学」であって学問でないように言われる向きがある。宗内にあっても、教学上の問題が起こったような時以外は敬遠される。私の宗学の恩師株橋日涌先生も「宗学をやっても金にならない、社会的名声を得られるわけでもない、物好きか変わり者で、人づきあいも悪いと言われるのがオチだ」とおっしゃった。「それでも誰かがやらねばならない。」それが御自身の決意であり、教え子に対する訓戒であったのだ。
私は身辺の事情で学術研究は僅かな分野に限定せざるを得なかった。悩みは「宗学」をどう考えたらよいのだろうということであった。これについて私なりの考えを持つことができるようになったのは、慶林坊日隆上人（一三八五～一四六四）の著述に向かうようになってからである。
隆師の著作の底に一貫してあるものは、宗祖日蓮聖人の教学思想と隆師当時の時代思潮である天台本覚思想とを対峙し、時代思潮を厳しく批判しながら宗祖の教学思想を再確認し、それを自分のもの（自宝）としてゆくことを求めることである。この隆師の姿勢と方法こそが、隆師最大の功績は日蓮教学の存在理由を明確にした点である、という今日の評価をもたらしたのではないか。
宗学とは「ボク一番」の御先棒でも、単なる宗乗の伝承でもない。ましてや「宗論はどちら負けても釈迦の恥」と揶揄される宗派の自己主張の理論でもない。宗学とは、宗祖が命をかけて求められた〝衆生〟の「生死を生きる」生き方を、現代に問い続ける営為なのではないか。そうであれば「宗学」とは「宗とすべき学問」と読みかえるべきなのではないか。それが私のささやかな考察から得た結論である。
仏教各宗は各自の教学に基づくそれぞれの生き方を提示すべきであり、そのどれが地球人としてのこれからにふさわしいか、その意味での現代の宗論をすべきではないか、と私は曽てある新聞に書いたこともある。
私も大学でその講義を受けた宮本正尊博士は「仏教学が盛んとなって仏教が衰える」旨のことを言われたと記憶する。最近も佐々木閑博士が『生物学者と仏教学者七つの対論』の中でスリランカとかタイの上座仏教について「すべてを頭に入れた、何を聞いても教えを説いてくれるような〝教えの達人〟はいくらでもいるのですが、客観的にその宗教を分析して解体していくような、いわゆる学問として取り扱うような人はほとんど出ません。」と言われている。学問は大切なものであるが、それのみでは人は救えない。私共は日蓮聖人の示された本門の法華者としての生き方を現代に問い続け、その共鳴者が増えるよう努力しなければならないのではなかろうか。
何ほどもなし得ない自らを恥じつつ、折角の機会ゆえに日頃の思いを記させて頂いた次第である。



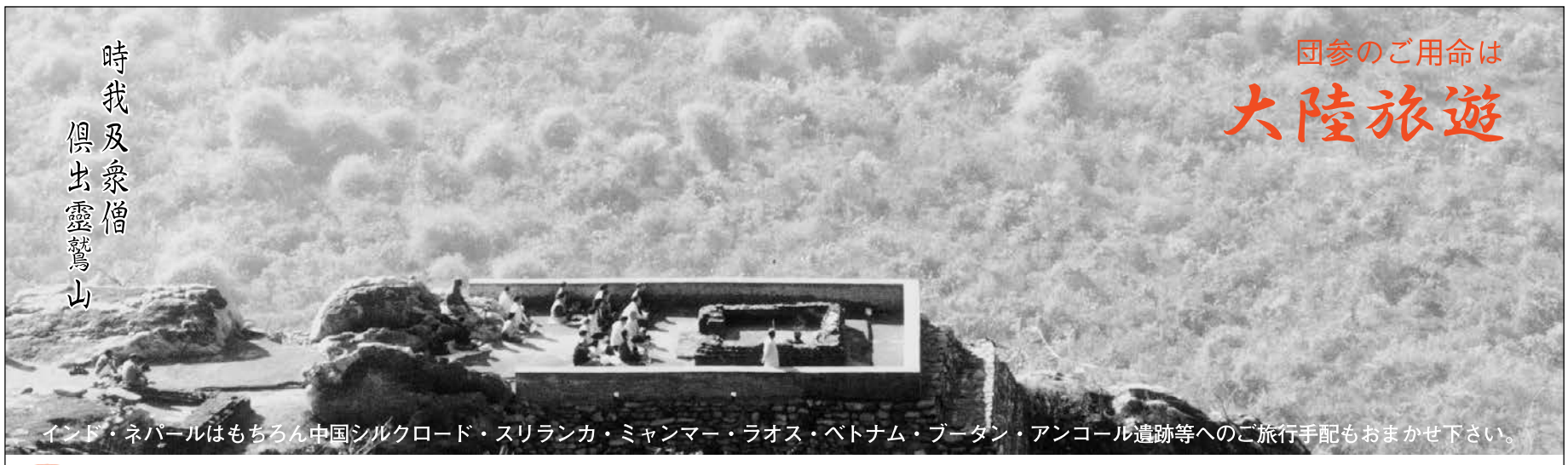
法昌寺住職
立正大学客員教授

福島泰樹さん

（プロフィール）
ふくしま　やすき　昭和十八年（一九四三）、東京下谷法昌寺住職、歌人、絶叫ミュージシャン、立正大学客員教授。早稲田大学文学部卒、法華宗興隆学林研究科卒。
「短歌絶叫コンサート」を創出、千三百ステージをこなす。毎月十日、東京吉祥寺「曼荼羅」で月例絶叫コンサート開催して二十七年。「日蓮紀行」を「大法輪」に連載中。近著に『わが心の日蓮』（春秋社）。

立松和平の墓

初めて会ったのは、一九七〇年三月、君は、日雇労働をしながら小説を書く貧乏学生だった。私は、修行を終えたばかりの坊主の卵で、大塚にあった宗務院の書記をしていた。酒場の樽に腰かけて君は、放浪体験を語り、全共闘を語った。
やがて私は愛鷹山麓の小村柳沢の妙蓮寺に入る。初めての訪問者は君だった。寒行中の私と共に君は、題目を唱え団扇太鼓を叩き、村を回った。傾きかけた本堂で君は、村のお婆さんたちと初めて法華経を読誦した。
新妻を残してのインド放浪、郷里宇都宮への都落ちと、君の七〇年代は、波瀾のうちに過ぎて行った。しかし、君は、食えなくとも書くことをやめなかった。崩壊してゆく農村を舞台にした小説『遠雷』は、作家の地歩を確かなものとした。
再起を期しての上京。報道番組「心と感動の旅」で君は一躍、国民的人気を獲得する。語り口から滲みでる木訥な人柄が、人々の心をとらえたのだ。環境問題にも積極的に取り組んだ。
時代と心の闇を書き続ける作家の闘いは、昭和が平成となり、二十一世紀に至っても変わることはなかった。
人々が足早に立ち去った連合赤軍粛清事件を、正面に見据えて書き始めたのである。しかし雑誌連載『光の雨』は、盗用問題を生み、メディアを沸かせた人気作家は、世間の苛烈な指弾に曝されることとなる。「謝るな立松！」と私は叫んだ。当事者による総括の書は、すでに歴史的資料で、断じて盗用などではない。
作家は、真摯に苦悩した。苦悩は光明をもたらせた、仏陀との出会いである。君の歩みは、「求道」へと向かってゆく。聖徳太子、木食五行、大作『道元』。良寛、鳩摩羅什、そして日蓮へと君は、書き進めてゆくはずであった。そして刮目すべきは、苦難の歳月を経て君は、君の作家生命を危うくしたあの『光の雨』を美事に書き上げたことである。
毎月三日は、君が講元をつとめる下谷法昌寺の毘沙門講である。境内に建つ「たこ地蔵（たこ八郎）」に酒を浴びせ、私たちは新春の盃を揚げた。
残念でならないのは、君が東北地方を襲った大地震、大津波、原発事故を作家として体験せずに旅立っていってしまったことである。
行動する作家立松和平は、率先して足尾の植林運動などを手がけていたからだ。想えば、栃木県足尾は、作家の先祖の土地であり、足尾鉱毒事件に憤然と立ち向かった田中正造は、作家のライフワークであった。この地上の命あるもののすべてを死地に追いやる福島第一原発事故は、足尾鉱毒事件に次ぐ国家的犯罪である。
立松、君と別れて二度目の正月を迎えた。君の不在は、真底痛い。君は震災を闘うことによって、日本文学の幹をさらに太くしていたはずである。「俺、死んだら泰樹さんと墓並べて建てるんだ」と君は言った。命日の二月八日、君の墓が建つ此処法昌寺で作家の三回忌法要がおこなわれる。



観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員
株式会社 大陸旅遊
大陸旅遊
Tairiku Tours & Leisure co., LTD.
TEL 03-3376-2511　FAX 03-3376-5280　http://www.tairikuryoyu.co.jp　mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp
●東京本社 〒160-0023　東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

東日本大震災からの
一日も早い復興を
心から祈念申しあげます

（平成二十四年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏
伝道局長　齊藤憲一
総務局長　塩崎望巳
伝道部長　中井本秀　参与
教務部長　川口久雄　参与
総務部長　池田弁岳

財務部長　川口智康
宗務総長室長　渡邉義生
現代宗教研究所長　三原正資
参与　渡邉一之
参与　吉田海心
日蓮宗新聞社長　村上俊正

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管　長　菅原日桑
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管　長　中村日玄
宗務総長　藤﨑広学
宗務次長　朝倉俊幸
財務部長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
布教部長　吉永義康
庶務部長　阿曽久成
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管　長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　門谷光瑞
教学部長　布施義高
教化部長　佐古大弦
財務部長　金原孝宜
企画部長　今井満良

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

宗務総長　佐藤日凰
宗務副総長　梅田日芳
宗務副総長　伊藤隆之
教務局長　亀井日魁
弘通局長　長谷川日堯
総務局長　岡本日盈
出版局長　藤本日涌
財務局長　西村勲

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管　長　嘉儀日有
宗務総長
総務部長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管　長　田中日生
宗務総長　寺田宥英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

貫　長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

国柱会

宗教法人

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

総　裁　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一　妙満寺内
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

会　長　中村日玄
副会長　伊丹日章
理事長　古瀬久馨
副理事長　藤井照源

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電　話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首　座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

法主　内野日総
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同

法華宗(本門流)大本山
光長寺
〒410-0011
静岡県沼津市岡宮一〇五五
電話　〇五五（九二二）〇四八四
FAX　〇五五（九二一）〇七三六

貫首　石田日信
執事長　久保木学洋
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

貫首　中村日玄
総務　古瀬久馨
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

貫首　石丸日然
執事長　鈴木顯正
執事　笹原壮玄
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

住職（二十四世講有）　小山日誠
執事長　中西清乗
事務局長　伊藤隆之

京都八本山会

本山　本満寺　貫首　伊丹日章
大本山　本圀寺　貫首　吉田日厚
大本山　妙顕寺　貫首　和田日佑
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山　頂妙寺　貫首　安藤日瑛
本山　妙覚寺　貫首　及川日周
本山　本法寺　貫首　瀬川日照

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

貫主　田中日生
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同

日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

別当　二宮將泰
執事長　宮崎雅宣
役職員一同

日蓮聖人出家得度立教開宗**の霊跡**

多寶富士山
日蓮宗本山
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　岩崎広義
執事　原田智光
執事　原光明

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

貫首　石川日命
執事長　村田教清

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

山主　嶋田日新

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
同　渡辺行俊
同　植田観樹
同　吉田文堯
同　布施慈範

日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二ノ部知孝
同　川合陽雄

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

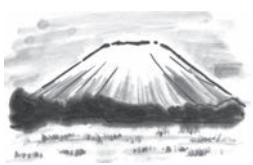
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

貫首　井上日修

除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十四年二月現在）

京都理事会開催さる



日蓮聖人門下連合会 京都理事会　平成23年11月25日　於. 本山 妙傳寺

京都理事会が十一月二十五日、日蓮宗本山京都府妙傳寺（野々垣日祐貫首）で開催され、渡邊照敏理事長をはじめとする役員、門下本山貫主猊下の五十名が出席した。

先師法要では、野々垣貫主が導師となり、京都日蓮聖人門下連合会理事長藤井照源師［日蓮宗京都府第一部宗務所長］、副理事長赤田泰宏師［法華宗（本門流）大本山本能寺執事長］が副導師となり厳修、参加者一同香を手向けた。

法要後、本山妙傳寺の沿革を執事長谷口真也師が自身の立正大学での論文を資料とし講話、歴史ある妙傳寺の沿革を紹介した。

続き、理事会開催。渡邊理事長が座長となり議事を進行。一、上半期事業報告を事務局より報告。二、京都門下連合会活動報告を理事長藤井照源より報告。三、地方門連の活動報告を理事長中村日遊師より報告。殊に地方門連である大阪門下懇話会は、平成二十四年十二月六日に「結成五十周年記念式典」を開催することが報告され、門連各派団体の参加が要望された。

その他の事項では、日蓮宗本山千葉県鏡忍寺原日透貫主より、平成二十五年に「宗祖日蓮大聖人小松原法難七五〇年」御正当を迎えるにあたり、門連各派団体への参詣を要望された。また、日蓮宗本山千葉県藻原寺持田日勇貫主より、オラトリオ日蓮についての現況報告がなされ、終了後には復刻版を門下連合会に寄贈し、広く門下にて活用してほしいとの要望がなされた。

終了後、全日空ホテルへ場所を移し、相互の懇親を深めた。

「明治の日」署名活動のお願い

合掌　各聖におかれましては、時下益々御清祥にて、為法御精進の事と大慶に存じます。

日蓮聖人門下連合会におきましては、一方ならぬ御芳情にあずかり、深くお礼申し上げます。

さて、先日の門連京都理事会の席で申し上げましたが、このたび小生は「明治の日推進協議会」に参加する事と相成りました。

昭和二年三月三日に、明治節（十一月三日）が制定されました。この「明治節」制定運動は、国柱会創始者田中智学師が運動を起こされ、その請願運動が日本全国に広がり無事成満されたという経緯がございます。智学師は、明治天皇を「国ばかりではない、世界全体の時局の進運といふものに対抗して、よく其の取るべきを取り、捨つべきを捨てて、世の中の進歩に遅れないようにといふ其の洗煉の発揚された、是が実に尊い所である。明治天皇は国体の権化として、古往今来かつて類例を絶したる偉大な聖人であります」と称え、「明治節」を制定し、明治天皇の御聖徳を全国民が仰ぐことによって、国民精神の啓発と、民心の向上を図る標的とされました。しかし敗戦に伴い、十一月三日の祝日は、残念な事に「文化の日」という名称に変更され今日に至っております。

このような折り、昨年十一月三日に「明治の日を実現しよう！　国民集会」が有志により挙行され、「明治の日推進協議会」が塚本三郎元民社党委員長を会長として結成されました。当日掲げられた今後の活動目標を左に記させていただきます。

・一千万署名運動の推進
・国会議員への働きかけ
・地方における活動組織化
・日刊紙への意見広告掲出

などでございます。

小生は、この運動の一請願者として運動を展開する決意を致しました。

つきましては、日蓮聖人門下連合会所属の各御宗派におかれましても「明治の日」に改める請願の署名活動に御賛同戴きたく誌面を拝借して御願い申し上げます。諸事御多端のことと存じますが、何卒趣意を御理解いただき御協力賜りますよう謹んで重ねて御願い申し上げます。

再拝

宗教法人国柱会
賽主　田中壮谷

（署名用紙は国柱会本部へ）

京都日蓮聖人門下連合会結成六十周年プロジェクトを設立

京都日蓮聖人門下連合会が結成され平成二十五年に六十周年を迎えることとなり、プロジェクトチームが設立された。

結成六十年記念事業の企画立案に向けて話し合いがなされ、骨子をまとめていくこととなる。

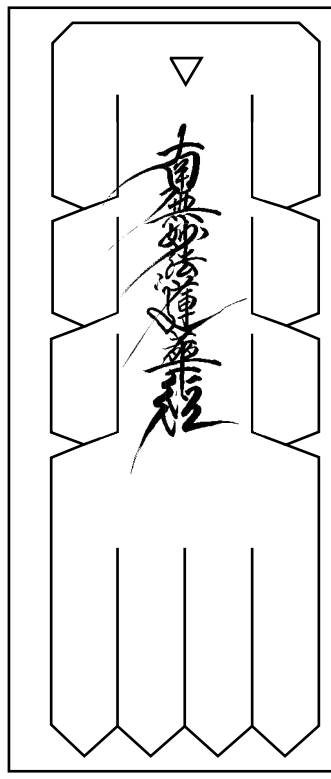
委員は下記のメンバーである。

（藤井照源）

松下日肆（本門法華宗）
藤井照源（日蓮宗）
赤塚高明（法華宗陣門流）
二之部知孝（日蓮宗）
橋本一妙（日蓮宗）
赤田泰宏（法華宗本門流）
山本晃道（顕本法華宗）

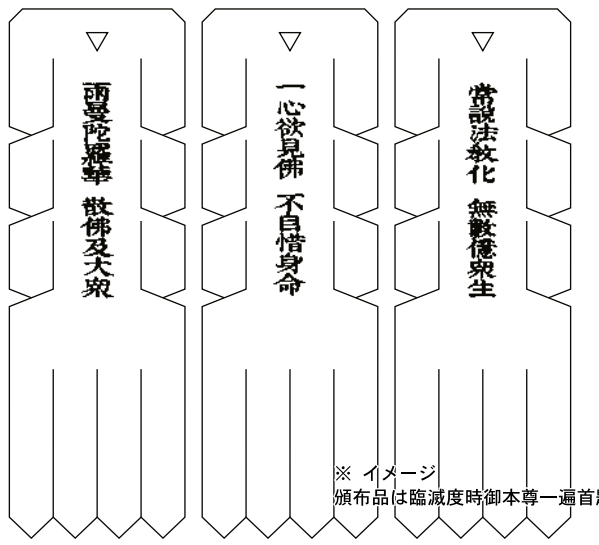
▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二四・一・一	伊丹日章 中村日玄	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二四・一・一	藤井照源 古瀬久馨	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二四・一・一	赤田泰宏 藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任



施餓鬼小旗セット

頒布価格 7,875 円（税込・送料別）



※ イメージ
頒布品は臨滅度時御本尊一遍首題です

施餓鬼小旗　（約縦 202 mm × 横 67 mm）
経文入各色（緑・白・赤・青・黄）×20 枚、
臨滅度時御本尊一遍首題入
（白のみ）×10 枚、
経文無各色 ×20 枚
（白のみ 10 枚）
合計 200 枚・箱入
竹　串　（約 24 cm）100 本

※本体箱



お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3
TEL 03-3755-5271
FAX 03-3753-7028

各派・教団・短信

京門連

◆平成二十四年度。会長　顕本法華宗総本山妙満寺貫首　中村日玄猊下。副会長　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。理事長　顕本法華宗総本山妙満寺総務　古瀬久馨師。副理事長　日蓮宗京都府第一部宗務所長　藤井照源師。◆一月二五日（水）午後五時理事会（本能寺文化会館）。平成二十四年度役員確認の件、平成二十三年度会務行事の件、平成二十三年度決算の件、平成二十四年度会務行事案の件、平成二十四年度予算案の件、平成二十四年度役員確認の件、平成二十四年度総会の件、平成二十四年度降誕会の件◆二月十六日（木）午後一時京門連総会（顕本法華宗総本山妙満寺）。平成二十四年度役員確認の件、平成二十三年度会務行事の件、平成二十三年度決算の件、平成二十四年度会務行事案の件、平成二十四年度予算案の件◆同二時三〇分、降誕会（顕本法華宗総本山妙満寺）。導師　総本山妙満寺貫首　中村　日玄猊下。講師　本山本満寺貫首　伊丹　日章猊下。◆三月、理事会（顕本法華宗総本山妙満寺）。立教開宗会の件、夏季大学の件。◆四月二十八日（土）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　顕本法華宗総本山妙満寺貫首　中村　日玄猊下。講師　日蓮宗（予定）。◆六月、理事会（顕本法華宗総本山妙満寺）。夏季大学の件。◆八月二十五日（土）午前十時第四十九回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）顕本法華宗総本山妙満寺貫首　中村日玄猊下。講師（大学）講師（一般）。◆同日午後四時、理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。◆十月五日（金）午後三時、お会式準備奉行委員会（顕本法華宗総本山妙満寺）。お会式準備、行脚、法要等打ち合わせ。◆十月六日（土）午後一時　お会式（顕本法華宗総本山妙満寺）。導師　顕本法華宗総本山妙満寺貫首　中村日玄猊下。講師　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹　日章猊下。◆平成二十四年度。会長　顕本法華宗総本山妙満寺貫首　中村日玄猊下。講師　日蓮宗本山本満寺貫首。◆十一月、全門連京都理事会（顕本法華宗総本山妙満寺）。日蓮聖人門下連合会京都理事会懇親会別席。◆十二月、会計監査（本能寺文化会館）。◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十四年度会務行事報告、平成二十四年度決算中間報告。（藤井照源）

日蓮宗

◆昨年十二月六日に日蓮宗宗務役員の退任並びに就任証式が開かれた。新たに就任したのは伝道局長に齊藤憲一師、総務局長に塩崎望巳師、伝道部長に中井本秀師、教務部長に川口久雄師、総務部長に池田弁岳師、財務部長に川口智康師。宗務総長室長の渡邉義生師と現代宗教研究所長の三原正資は再任。また日蓮宗新聞社社長には村上俊正師が就任した。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆宗門の各機関及び宗内寺院の近現代の歴史を記録として後世に残すべく「法華宗宗門史編纂委員会」を設立。◆九月七日、東日本大震災犠牲者追悼慰霊法要を法華宗管長　菅原日桑猊下を大導師に、名取市文化会館及び閖上地区日和山にて奉修。宗内僧侶、一般檀信徒が多数参詣。◆十月二十四日、「昭和法難70周年記念遺徳顕彰報恩法要」を京都市大本山本能寺を会場にして、四大本山御貫首猊下御臨席のもと奉修。先の戦時下、宗祖のみ教えを護るために拘束され艱難辛苦に遭われた先師の遺徳を偲び、後身の我々の更なる護法愛宗の想いを強くした。◆平成二十四年二月八日、第二十五回法華宗教学研究発表大会が東京国際フォーラムにて開催。特別企画として立正大学教授寺尾英智先生による「岡宮光長寺の聖教世界」の講演、大本山本興寺貫首　小西日遶猊下による「東朝西隆とその後の経緯について」の特別講演が行われた。◆三月五日、「興隆学林専門学校」（尾崎市・大本山本興寺内）の平成二十三年度卒業式が行われる。卒業生は、行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。◆古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授していた「興隆学林専門学校」が平成二十四年度新入生を募集中。他門流よりも受け入れる。お問い合わせは、宗務院（03-5614-3055）まで。

顕本法華宗

◆七月下旬、茨城長照寺住職・吉本栄祝師が中心となり、「自転車届け隊」を結成。九月四日、原発被害で会津若松市内に避難している大熊町の方々へ、自転車百六十台を寄付した。さらに、九月七日には浪江町の方々へ十数台を寄付。自転車は「避難所に籠らず健康的に、そして前向きに」との願いを込めてお贈りした。他にも、宗内若手僧員を中心に様々な形で被災者の救援活動を継続している。◆九月四日、顕立雅楽会の主催で、避難所となっていた南相馬市立原町第二中学校体育館において「復興応援コンサート」を開催。相馬市民三百人が観賞、復興への祈りを込めて奏でた雅楽の音色に涙を流す方もあった。（以上、東日本大震災救援活動報告）◆十月十二～十三日の両日、中村日玄猊下大導師の下、第七三〇回となる御会式が厳修された。全国から僧員が出仕、大勢の檀信徒とともに厳かに執り行われた。十三日には、特命布教師・朝倉俊泰師（千葉覚行寺住職）より、東日本大震災被災地におけるボランテイア体験を基にした熱のこもった法話があり、参詣者一同真剣に耳を傾けていた。◆十月二十日、総本山妙満寺において「西部教区僧員研修会」が開催された。布教総監・河村孝照師（元東洋大学教授・文学博士）を講師に「顕本教学について」と題する講義が行われ、出席の僧員は熱心に聞き入っていた。講義後には、質疑応答や活発な意見交換が行われた。◆十月二十六日、東京天妙国寺において教学研究所主催「公開研究例会」が開催された。河村孝照師・小松正学師（教学研究所研究員、千葉経胤寺裡）・藤崎裕学師（千葉大経寺裡）による興味深い研究発表があり、さらには公開講座として河村師による倶舎論の講義が行われた。（小島芳明）

法華宗陣門流

◆九月十五日～十六日、毎年宗内の各教区が持ち回りで会場となる中央行学講習会が、本年は新潟教区にて開催された。十五日は総本山本成寺において、石丸日然新管長猊下のもと開講式が執り行われ、その後教区寺院を参詣した。翌十六日はホテルオークラ新潟を会場にして講義が行われた。第一講義は法華宗本門流興隆学林専門学校学林長・大平宏龍先生をお招きし、「『三箇の銘文、五但法門』について」と題して、お話を頂いた。また第二講義は宗内より法華宗学林元学林長・松吉範員先生をお招きして「『定業能転』と本宗の祈祷書について」との講題でお話を頂いた。今年も百名を超える参加者が集い、教学を学ぶと共により一層の親睦を深め合った。◆九月三十日、『本迹同異決』会本刊行委員会が法華宗宗務院において開催された。◆十月三十一日、第百十七次臨時宗会が宗務院において開催された。◆十一月十二～十三日、宗務院において法華宗（真門流）・顕本法華宗・法華宗（陣門流）の三宗による、三宗統合協議会・統合学院が開講され、三宗より多くの学生が参加し学んだ。講師は法華宗（真門流）宗学研究所員・木田慧明先生で、「『立正安国論』から東日本大震災を観る」「祈祷について」と題して、講義をしていただいた。◆十一月十七日～十八日、別院巣鴨本妙寺において研究発表会が開催された。この発表会は、宗内全教師を対象に発表者を募集し、本宗の教学・教学史・教団史をはじめ、仏教学各分野や教化学など、最新の研究成果を公表し合うために開催され、本年も十二名の教師が発表し、参加者との活発な議論が交わされた。◆十一月十七日、宗学研究所所員会が宗務院において開催された。◆十一月十八日、学林教授会が宗務院において開催された。◆十一月二十九～三十日、宗務院において新住職・学生・沙弥合同研修会が開講された。新住職や学生は講義を通じて、陣門教学はもとより、講師の体験を交えた布教活動の実際などについて学んだ。（田邉尚志）

本門佛立宗

◆昨年（平成二十三年）は三月十一日の東日本大震災を受け、宗務本庁（京都）に対策本部を設置。講有日誠上人をはじめ宗門要路の現地視察を行うとともに、乗泉寺（東京）に前線本部を置いて支援物資を集積。被災地への物資の分配、および人材派遣を行った。宗内に呼びかけた義捐金は二億円を上回り、被災三県（岩手、宮城、福島）と日本赤十字社に対して寄付金を送り、宗内の被災寺院や被災信徒に義捐金を届けた。◆七月には本山宥清寺で復興祈願の大口唱会を実施。また、大震災後半年を経過して、復興資金や物資を中心とする緊急支援から、長期戦を視野に入れた弘通支援に軸足を移行。全国の布教区が被災地の寺院を個別に支援し、弘通拠点の復興と、その地域の被災者と妙法の縁を結ぶことによる「妙法の功徳による復興の後押し」を開始した。◆平成二十五年に五百五十回御遠諱を迎える門祖日隆聖人の記念法要も、平成二十四年八月のプレ大会、同二十五年二月の御正当法要、四月の記念大法要等の日程や概要が決まり、七月には推進母体となる奉修本部が発足。平成二十四年は三年間の報恩ご奉公の最終年度でもあり、その仕上げと同時に、各種記念法要の準備が進行している。（吉田日景）

日本山妙法寺

◆平成二十三年五月二十二日　熊本県花岡山仏舎利塔五十七周年記念法要を厳修。◆六月十一日から八月九日二〇一一東京～広島・長崎平和行進を実施。◆六月十八日　英国ロンドン仏舎利塔二十六周年記念法要を厳修。◆六月十九日　英国ミルトンキーンズ仏舎利塔三十一周年記念法要を厳修。◆六月二十八日　オーストリア国ウィーン仏舎利塔二十八周年記念法要を厳修。◆七月三日　イタリア国シチリア島コミソ仏舎利塔十三周年記念法要を厳修。◆七月二十日から八月八日　核のない未来を祈る米国北西部平和行進（オレゴン州ユージンからシアトル近郊のトライデント原潜基地）を実施。◆八月二十四日　静岡県熱海仏舎利塔五十周年記念法要を厳修。◆九月十一日　新潟県佐渡仏舎利塔三十周年記念法要を厳修。◆十月一日　米国グラフトン仏舎利塔十八周年記念法要を厳修。◆十月二日　米国ニューイングランド道場新本堂開堂供養を厳修。◆十月八日米国グレート・スモーキー・マウンテン仏舎利塔御仏舎利奉安法要を厳修。◆十月十八日から三十日　二〇一一沖縄平和祈念行脚（辺戸岬から摩文仁平和公園）を実施。◆十月二十五日　インド国王舎城仏舎利塔四十二周年記念法要を厳修。◆十月二十七日　インド国パイシャリ仏舎利塔十五周年記念法要を厳修。◆十月三十日　インド国ダージリン仏舎利塔十九周年記念法要を厳修。◆十一月六日から十五日　ネパール国ポカラ～ルンビニ平和行進を実施。◆十一月十七日　ネパール国ルンビニ仏舎利塔十周年記念法要を厳修。◆十一月十九日　ネパール国ポカラ仏舎利塔十二周年記念法要を厳修。◆十一月二十七日　千葉県成田仏舎利塔十周年記念法要を厳修。◆平成二十四年一月九日　尊師行勝院日達聖人第二十八回忌追孝報恩法要を静岡県熱海道場にて厳修。

法華宗真門流

◆六月十八日、越前・本興寺にて、第二教区檀信徒研修会開催。◆六月十九日、第三教区仏教大講演会開催。第五十回を迎え、参加者は四百四十名を超えた。◆七月三日、小樽・宣誠寺にて、第二十七回合掌運動北海道大会開催。◆八月二十二日～二十八日、札幌・日泰寺にて、支学林並びに第三種講習会開講。◆八月二十三日～二十九日、総本山本隆寺にて夏季講習会開講。◆九月九日、臨時宗会開催。総本山本隆寺本堂平成大改修等について審議。◆十月五日～十四日、総本山本隆寺にて、秋季学林開講。十三日には四人が新説式挙行。◆十月十二～十三日、総本山本隆寺にて、お会式奉修。十二日には特別法要として「明治天皇第百年忌祭」を厳修。◆十月十九～二十日、第二教区合掌の旅、護法会開催。テーマは「仏教伝来の地古都奈良で御題目を」。◆十月二十六日、総本山本隆寺第一〇五世、吉田日孝猊下入歴法要を厳修。◆十二月六日～七日、「平成二十三年度定期宗会」開催。七日には貫主推戴会が開かれた。◆一月一日～八日、総本山本隆寺にて年頭国祷会、法華八講開催。（森田量哲）

本門法華宗

◆平成二十三年九月十五日大本山妙蓮寺では本堂大屋根改修のため本堂閉堂式・遷座法要が厳修された。◆二十三年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が方丈仮本堂にて厳修された。◆同十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師会・歴代上人法要が松下日肆貫首御導師のもと、奉修された。◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百三十八回教学講習会を、九月十二日、第百三十一回同講習会を、十一月二十八・九日、大本山妙蓮寺卯木講堂にて開講。◆同布教部より、布教誌『生きる』第五十七雪華号、信報『信行』第百七十六号を平成二十四年一月一日付で発行。（木村光正）

国柱会

◆平成二十三年九月三日（土）申孝園ロータスヴイラ創業三十周年記念式典・祝賀会を本部二階講堂にて開催。十日（土）国柱会式士任用試験、十一日（日）午前迄。十二日（月）龍口法難会慶讃法要。御聖日集会、山田友重講師担当。十三日（火）国柱会賽主、東日本大震災復興ボランティア活動参加の為東北へ（十六日迄）。十七日（土）恩師忌。常勤給仕日。午後、賽主・松下陽一・森山真治両講師補、近畿地方連合局天業館へ秋季彼岸供養会御出向泊。十八日（日）申孝園内中央有志清掃奉仕。二十二日（木）～二十三日（金）妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十三日（祝）妙宗大霊廟例月供養会第一千回記念慶讃・秋季彼岸開顕大供養会。式後記念式典開催。◆十月十日（月）佐渡法難会慶讃法要厳修。御聖日集会、担当、森山真治講師補。十二日（水）日蓮聖人御逮夜法要厳修。賽主以下有志、池上大坊本行寺参拝。秋場昿雄講師他中央有志純正日蓮主義屋外宣伝挙行（於本門寺境内）。十三日（木）鶴林会慶讃法要厳修。十五日（土）～十六日（日）各局輪番常勤給仕。十六日（日）妙宗大霊廟例月供養会。二十一日（金）祖廟輪番給仕先発隊、身延へ出発。二十二日（土）第四十七回大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団開催、二十三日迄。二十九日（土）賽主、松下陽一講師補、山陰・山陽地方連合局（簸川局・余子局・庭瀬局）御巡教（三十一日まで）。◆十一月三日（木）明治節慶讃法要。賽主先生、「明治の日を実現しよう！国民集会」へ御出席、於、ベルサール九段。若杉日出雄講師以下中央有志明治神宮参拝。五日（土）国柱会本部理事会。六日（日）賽主、東日本大震災復興ボランティア活動に御出発、松下陽一本部員随行、九日迄。十一日（金）小松原法難会慶讃法要。御聖日集会。担当、東條秀隆講師補。十二日（土）国柱会全国定例協議員会開催。十六日（水）恩師田中智学先生御逮夜法要。追憶の集い。十七日（木）第七十三遠忌　恩師師子王院智学日謙大居士報恩大会。式後、報恩の集い。十九日（土）～二十日（日）各局輪番常勤給仕。合同消防訓練。二十日（日）例月供養会。二十四日日蓮聖人門下連合会機関誌編集会議へ森山講師補・的場部員出向。於、京都頂妙寺。二十五日（木）日蓮聖人門下連合会理事会へ賽主先生以下本部員出席。於、京都妙傳寺　（森山真治）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成24年9月22日
第46号

仏教伝来謝恩碑参拝 国柱会訪韓団

宗教法人国柱会
門連編集委員　森山真治

◆仏教伝来謝恩碑建立四十年記念慶讃法要

宗教法人国柱会は、五月二十九日から六月一日までの四日間、田中壮谷・国柱会賽主以下五十名からなる訪韓団を結成しました。五月三十日には今回の韓国訪問の主目的である、古代朝鮮半島に栄えた百済国の旧都扶余（現大韓民国忠清南道扶餘郡扶餘邑）、に建立された「仏教伝来謝恩碑」の前で、建立四十年を記念する慶讃法要を執り行いました。法要当日は雷雨にもかかわらず、扶餘郡庁から李竜雨・扶餘郡守、秋貞鎬・文化観光課長他、扶餘郡庁職員と李泓坡・大韓佛教観音宗総務院長が、来賓としてご参列されました。団長挨拶、来賓祝詞の後、差定（献香・三礼・散華・自我偈・唱題・奏白・三礼）の通り法要は滞りなく行われ、当時建碑事業に尽力された大橋邦正・国柱会講師（元国柱会理事、当時は総務局長）の「仏教伝来謝恩碑」建立の経緯について臨場講話と記念撮影をもって無事終了しました。


仏教伝来謝恩碑建立40年記念慶讃法要集合写真

◆百済の恩誼千載に忘るべからず

上代日本は朝鮮半島から、大陸の文化・民生の百般に至るまでを学ぶことによって、成長発展してきた歴史的事実があります。特に日本文化の精華である仏教は、『日本書紀』によれば欽明天皇の十三（西暦五五二）年に、百済国王二十六代の聖明王（韓国では聖王と称す）から仏像経巻等がわが朝廷に贈られたと記されています。

仏教を我が国に伝えてくれた聖明王の恩誼を千載に忘れることのないよう、百済の古都扶餘に謝恩碑を建て、謝恩の至誠を表示することを、明治三十六（一九〇三）年に国柱会の創始者田中智学先生によって初めて日本仏教界に提唱されました。しかし、日韓併合・世界大戦など激動の時が続いたため一時中断、建碑事業は、日韓国交回復後の昭和四十一（一九六六）年、全日本仏教会による訪韓仏教親善使節団の現地歓迎式典において、副団長として渡韓した田中香浦・国柱会会長（田中智学先生令孫）が謝恩碑建立案を披露し、韓国仏教界・学界の賛意を得た事によって、ようやく再開することとなりました。


仏教伝来謝恩碑除幕式典記念撮影（昭和47年5月10日）

◆全日本仏教徒総意のもとに

昭和四十五（一九七〇）年三月、「仏教伝来謝恩事業会」が正式に発足しました。全日本仏教界の各代表を網羅して、百七十四名の発起人と事業会役員から構成され、事業会会長に曹洞宗管長佐藤泰舜師を推戴、実行委員長に発起人の田中香浦先生、副会長に真言宗豊山派管長平林宥高師と日韓親和会会長鈴木一氏が就任し、実行委員十五名のほか協賛団体も全日本仏教会以下十団体が参加して運動を展開していく事となりました。韓国側においても、昭和四十六（一九七一）年に「仏教伝来謝恩事業協賛会」（会長・金元泰氏、副会長・金興培氏、金璿圭氏、事務局長・金光泰氏）が発足しました。


仏教伝来謝恩碑（主碑）


仏教伝来謝恩碑（副碑）

両者の誠心の協力により、昭和四十七（一九七二）年五月十日、「仏教伝来謝恩碑」の除幕式が盛大にとり行われました。式典には、日韓両国の仏教代表、李方子元妃殿下はじめ韓国学術院院長李丙燾博士、金鍾泌国会議員、鄭燦璟扶餘郡守、日本大使館から大使代理、地元扶餘の名士ほか邑民一千余の大衆が参列されました。

「仏教伝来謝恩碑」は、韓国産の烏石を用いた主碑と副碑で構成され、主碑の背面には、日付に並んで「発願者　日本仏教徒　田中智学」の文字が刻まれており、また副碑は建碑の趣意を、日韓英三カ国語で次のように刻まれています。

「日本の仏教は　日本国欽明朝（西暦五五二年）に百済国聖明王により始めて伝来され　爾来発展を重ねて日本文化の精華となった　日本の仏教徒はその恩義を千載に忘れることが出来ない　よってここに感謝の誠を現わすため　韓国仏教徒の御好意のもと　聖明王の旧都であるこの地に謝恩碑を建立し　もって日韓両国民の永遠にわたる親善の証とし　延いて世界平和の象徴たらしめたいと念願するものである。

西暦一九七二年五月一〇日
日本仏教伝来謝恩事業会」

宗教法人国柱会は、扶餘郡の要請もあり、訪韓団を今後も実施していく予定ですが、謝恩碑建立の趣意に鑑み、国柱会単独での開催ではなくかつてのように日蓮聖人門下教団はじめ、日韓仏教徒交流の場となるよう力を尽くしていく所存です。

◆仏教伝来謝恩事業会発起人の一部

（門連関係・敬称略・昭和四十五年五月時点）

【日蓮宗】
管長　藤井日静
宗務総長　片山日幹
総務部長　渡部公允

【法華宗本門流】
宗務総長　福島泰信

【顕本法華宗】
管長　吉永日洋
宗務総長　朝倉俊夫

【法華宗陣門流】
管長　中沢日襄
宗務総長　水本大岳

【本門仏立宗】
講有　小山日幹
宗会議長　木村日玄
宗務総長　田中日広

【日蓮本宗】
管長　原　日認
宗務総長　今村開要

【法華宗真門流】
管長　木下日等
宗務総長　上島日敬

【国柱会】
霊廟賽主　田中芳谷
主幹　田中香浦
総務局長　大橋邦正

従地ゆじゅつ

◆七月二十四日午前八時、全国に衝撃のニュースが駆け抜けた。シアトル・マリナーズの顔とも言えるイチローが名門ニューヨーク・ヤンキースに電撃トレードとの一報。このニュースには誰もが驚いたと思うが、さらに驚いたのが記者会見から三時間後に、ヤンキースのユニホームを着て、それも三時間前まで在籍していたマリナーズとの試合に出場したこと。米国ベースボール界ではあり得るらしい。

◆三回表イチローのヤンキースでの初打席。球場はマリナーズの本拠地。どのような雰囲気になるのか？　球場に「イチロー・スズキ」とコールされると、観客はスタンディングオベーション。拍手が止まない。するとイチローはヘルメットをとり、深々と二度頭をさげ、多くのファンの声援に応えると共に「感謝」を伝えた。

◆かたや回りの声に耳を傾けない人もいる。東日本大震災直後に起こった福島第一原発の事故を契機に、日本国内で「反原発・脱原発デモ・集会」が相次いでいるが、先日も首相官邸周辺で「原発反対デモ」が行われ、大勢の日本人がシュプレヒコールを発した。この声に日本の首相は「大きな音だね」と言ったそうだ。我が国の未来のことなのに。国民の声にそんな対応でいいのか。

◆日蓮聖人は「教主釈尊の出世の本懐は人の振舞にて候けるぞ」とおっしゃった。人間として自らの身の振る舞いは大切だと説いている。

◆ファンに愛され、移籍する一選手の姿勢と、人ごとのような言動をする一首相。両者ともチームや国を代表する人なのに両極端の振る舞いである。国を率いる国務大臣の首長たる者。もう少し国民の声に耳を傾けてはくれないものか。　（明）

《各派のページ》

第三回「顕本法華宗宗門内外で活躍する僧侶」



東頭山妙覚寺住職

河野時巧さん

（プロフィール）

昭和二十二年生まれ。埼玉大学理工学部応用化学科卒。私立玉川学園中学部に就職。昭和五十一年に千葉県立高校化学教員に採用、平成六年に退職。顕本法華宗総本山で一年半修行、妙覚寺に入る。現在、保護司、民生児童委員、老人ホーム理事、九十九里ライオンズクラブ会長。

◆私ごと

県立高校の化学の教師をしていました。生徒との拘わりが好きで、問題と言われる生徒の指導に長く携わってきました。

平成六年突然教師を辞め、得度をし、本山で若い僧と共に寝起きをし、顕本法華宗の僧になったのが、四十七才の時です。

その時の心情は「寺で生まれ、仏飯を頂き、今の自分がある、残りの人生を仏様に奉公していきたい」ということです。

五年後、師匠の後を継ぎ、九十九里浜の海辺の寺の住職を拝命しました。

三十年ぶりの生まれ故郷での生活に戸惑いながら、お檀家さんとの交流、布教活動に全霊を注いでいます。

◆「寺の解放」その1
～コンサート～

大正年間から本堂と庫裡が一緒の建物が一つであった境内に檀信徒の悲願であった新本堂が昭和五十六年に落成、その後庫裡など寺観が前住職と檀信徒の努力によって徐々に整って参りました。

その時期に、私が住職を拝命したのです。浄財を集めて結晶させたこの大きな財産を生かすには、布教活動はもちろんですが、新しい試みを思索しました。

境内地の一角にあった坊室にカナダ人の大学教授が下宿をしていました。この教授がカナダに帰国することになって、その記念に本堂でコンサートをしたいとの話が持ち上がり、本堂を開放し、日加親善コンサートを開催、質のいい音楽を提供できれば、ご本尊様と至福の一時を共有できることを確信しました。

また、お檀家さんはじめ、地域の人々にもこのコンサートが大いに期待され始めました。

布教の新たな方法として、先覚的な試みと自負しています。今や寺コンサートは各地で執り行われています。

その後お釈迦様の誕生日を祝う花祭コンサートとして今年で十六回を数えます。

年々参加者が増え、七間五間の本堂に二百名が入ります。

回を重ねると地域の方々も自主的に、野点や地域で栽培した花々の販売など境内を利用した小さなイベントを企画実行してくださいます。

さらにこのコンサートは新しいコンサートを作り上げつつあります。

それは、年四回を目標に妙覚寺ジャズコンサートが立ち上がり、もう十回程実行されています。友引前の土曜日夜、たくさんの熟年の男性が憩いのライブに耳を傾けています。

さらに、自分たちも歌おうと、月二回の歌う会「やまぼうし」を発足し、境内にきれいな歌声が響いています。

◆寺解放その2
～陶芸村つくり～

お寺の近くに偶々、各地から陶芸家集まり、それぞれが窯を築き、作家活動をし始めました。このマンパワーを借りて新しい企画を考えました。それが九十九里陶芸村構想です。

住職も陶芸に嵌り、境内に、陶芸小屋をつくり、薪の焚く穴窯を近くの陶芸家の指導で作り上げ、地域の愛好家に開放、また、九十九里陶芸村を開村し、陶芸家と地域の橋渡しをしています。九十九里陶芸村をめざした観光客を集めています。

◆寺の在り方

このような活動を住職の趣味の延長だという批判も聞こえます。生きた寺とはいつも人々が集い、心の救済のきっかけになるのではとの思い一筋です。

さて、昨今、寺のあり方が喧しく話題になっていますが、寺離れなどという、フレーズで語られ、寺の存在は問われています。

しかしご本尊様はいつもそこにいらっしゃるのです。

そのご本尊様の存在に「気付かせよう」と私たちは一生懸命に布教に邁進しています。

しかし、「気付かせよう」でなく、寺に足を運ぶことで自然に「気づく」のではないでしょうか？お寺を閉鎖的な空間でなく、解放された場にし、信仰のきっかけのハードルを低く、低くしていくのも住職の務めではないでしょうか？　我が寺での写経、お経読誦会の人数が増えたのも、自然に信仰に目を向けた人々であると思いたいのです。



恵日山長照寺住職

吉本栄昶さん

（プロフィール）

昭和五十四年生まれ。立正大学宗学科卒。現在、妙塔学林准教授、専任布教師、寺小屋長照寺塾長、ＷＣＲＰ会員。寺小屋を立ち上げ不登校、いじめの問題に取り組む。また落語家有難亭南夢明としての顔ももつ。また震災だけでなく、地元ではおめこ住職として呼ばれ、多くの地域行事の復興に努める他、宗教被害の対策にも通じる。

「行動力をもて、質をあげろ」

僧侶としてまだまだな私が何を語ればいいのか？　悩む……。

十数年前から僧侶の質の低下、僧侶の行動力の弱さがいわれているが、何も変わっていない。むしろ悪化しているように感じる。

ある全国の宗教者が集まる会議に参加した時のことだ。何人もの僧侶が頭を揃えた結果、行動が伴わない文章でまとめられてしまう。その紙を見て大きな期待に胸震わせている。当然、成果などついてくるわけもなく「深刻な問題」として片付けられる。さらに、「遅ればせながらやっております」なんてことが通用する。頭で考え口に出すなら学生でもできる。どこかの委員会や団体のようである。社会的に未熟な者、行動力のない事に誰がついていくのだろうか。

震災が起きた。いじめが起きた。すると心理学者や教育学者ばかりがクローズアップされて、僧侶の存在は皆無だ。もはや、意見を聞くという対象ではなくなっているのだ。

我々僧侶は社会を先導していく立場ではないのか？　その人間が行き詰ってどうする。

ある脳学者がいっていたが、「モノの生滅には一定の流れがある。今の仏教や日本は滅の流れである」という。またある学者は、「こういう時こそ、日本の伝統や風習を子供に教える必要がある」という。

教育現場ではダンスが必須となった。そしてダンスができない教育者の教育に時間を費やす。これこそが頭だけの発想である。そういうことより、今やらなければならないということに目を向けて体験し、これからに繋ぐことのできるものを現場で教える必要があろう。

しかし、問題は行動力があっても質が伴っていないということだ。

私はいつも不思議に思うことがある。僧侶になると常識がなくなり、社会から優位に立っていると思うのか、言葉も文章も難しくしたり、チンピラの雰囲気や偉そうな態度をとる者がいる。賢いとはいえない。我が顕本法華宗の大先輩から「こういう人は実際には何も本質を知らない」と言われたが、まさしくその通りだ。いいのか、それで。

千葉県で初高座をした際、「寿限無」という演目を披露させていただいた。これは僧侶が大きく関係している話で、次のような手厳しい会話がなされる。

妻「名前、いっそのことお寺のお坊さんにつけてもらったらどう？」

夫「よそうよ、寺っていうのはね、人がくたばっちまうと葬式あげてなんか喜んで」

その時、会場から「その通り」というまさかの合の手がはいった。落語には、洒落や滑稽、時にはいやみをもって笑いをとるが、御陰であろうか師匠だけでなく会場も笑いに包まれ幕を下ろした。これが現実の一般が抱いている大多数の仏教イメージである。

しかし、カルト宗教の信者はこういうイメージを自己の信仰にはもたない。仏教はどうした、行動力の無さが目立つが為の結果であろう。

一人一人が本腰を入れて、カルト宗教を地域の中に入れない、地元の子供問題だけでも取り組むなど、僧侶としての知識や繋がりを持って行動してほしい。目先の事ではなく、未来までも続く記憶に残ることをやらなければ、滑稽な僧侶ばかりいる洒落にならない状態で幕が閉じるのではないか。

日蓮聖人門下には多く奮起して頑張っている僧侶がいる。決してその火を消すことのないように皆で行動をとらなければならない。

トップツアーは
皆さまの人生をより豊かにする
時間と体験を創造するパートナーでありたい、
と考えています。

トップツアーでは半世紀を越える経験と実績を活かし、様々な法要や催事へのご参拝の企画、準備、実施を専門にお手伝いさせていただく団参旅行センターを平成二十年に設け、皆さまのご要望にお応えできるよう日々精励しております。実りある団参旅行となりますよう、真心を込めて・・・



出逢い、発見、そして感動。
トップツアー株式会社
観光庁長官登録旅行業第38号　ＪＡＴＡ正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 目黒区東山３丁目８番１号
http://www.toptour.co.jp
TOPTOUR

東日本大震災からの
一日も早い復興を
心から祈念申しあげます

（平成二十四年九月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏
伝道局長　齊藤憲一
総務局長　塩崎望巳
伝道部長　中井本秀
教務部長　川口久雄
総務部長　池田弁岳
財務部長　川口智康
宗務総長室長　渡邉義生
現代宗教研究所長　三原正資
参与　渡邉一之
参与　吉田海心
日蓮宗新聞社社長　村上俊正

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五(代)
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　小西日遶
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　中村日玄
宗務総長　朝倉俊幸
宗務次長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
庶務部長　阿曽久成
布教部長　桑村信慶
財務部長　河野時巧
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　牧野秀成
教学部長　布施義高
教化部長　今井満良
財務部長　金原孝宜
企画部長　山岸観深

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六(代)
FAX　〇七五（四六四）五五九九

講有　山内日開
講尊　梶本日裔
講尊　小山日誠

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　嘉儀日有
宗務総長務部長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　田仲日紘
宗務総長　寺田完英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

宗教法人
国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一(代)
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一　妙満寺内
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

会長　中村日玄
副会長　伊丹日章
理事長　吉永義康
副理事長　藤井照源

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

法主　内野日総
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同

法華宗(本門流)大本山
鷲山寺
〒297-0051
千葉県茂原市鷲巣四八
電話　〇四七五（二二）二九七八
FAX　〇四七五（二二）三〇三八

貫首　平田日範
執事長　佐藤正純
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

貫首　中村日玄
総務　吉永義康
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

貫首　石丸日然
執事長　笹原壮玄
執事　平井良光
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル
紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

貫主　田仲日紘
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾

京都八本山会
本山本満寺　貫首　伊丹日章
大本山本圀寺　貫首　吉田日厚
大本山妙顕寺　貫首　和田日佑
本山立本寺　貫首　上田日瑞
本山妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山頂妙寺　貫首　安藤日瑛
本山妙覚寺　貫首　及川日周
本山本法寺　貫首　瀬川日照

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

住職（二十五世講有）　山内日開
執事長　小野山日住
事務局長　伊藤隆之

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

貫首　石川日命
執事長　橋本宏信

日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

別当　二宮日敬
執事長　宮崎雅宣
役職員一同

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　岩崎広義
執事　原田智光
執事　原光明

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七

貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

貫首　新井日湛
財務執事　村尾貞榮
庶務執事　滝本善孝
法務執事　阿部宇善
教務執事　髙谷正之

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

山主　嶋田日新

日蓮宗総本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二ノ部知孝
同　川合陽雄

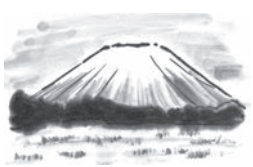
日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

貫首　井上日修

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十四年九月現在）

祖廟参詣及び身延理事会開催さる

平成二十四年六月十三日（水）、日蓮宗総本山身延山久遠寺内祖廟において、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長等、二十八名が参列し法味を言上。続き、報恩閣にて身延理事会が開催された。



日蓮聖人門下連合会　身延理事会　平成24年6月13日

午後一時半、渡邊照敏理事長が座長となり議事を進行。「平成二十三年度決算報告」を事務局より報告。決算報告では持田日勇師より監査会で精査されたことが告げられ一同承認。次に、「平成二十四年度事業計画案」「平成二十四年度予算案」を事務局より報告、一同承認。

続き、「京都門下連合会活動報告」を藤井照源師、「地方門連活動に関する報告」を東孝信師より報告された。

「その他」の事項では、持田日勇監査より、日蓮宗本山藻原寺で開催が予定されている「オラトリオ日蓮」の進捗状況が報告される中、全国の各派教団へ協力が求められた。午後三時閉会。

会場を下部ホテルに移し、午後五時半より各派教団による懇親会が催された。

京都日蓮聖人門下連合会四大事業開催



◆降誕会

二月十六日、日蓮大聖人七百九十一回御降誕会が顕本法華宗大本山妙満寺で奉行され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百名が参列した。法要に先立ち総会が開催され事業報告、会計報告、役員改選等承認され迎り着くまでの定光院での日蓮大聖人の苦労を偲んだ。法要後は、大原三千院を見学、一同親睦を深めた。

◆夏季大学

八月二十五日、京都日蓮聖人門下連合会主催の第四十八回夏季大学が本能寺文化会館で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約二百名が参加し、聴聞した。日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐ――今、生きるよろこび、生かされるよろこび――のテーマのもと、三講師のお話を聞き、学んだ。

顕本法華宗総本山妙満寺貫首中村日玄猊下は「お題目の信仰と共に――私の歩んだ僧侶の道――」と題し講演。顕本法華宗布教総監・元東洋大学文学部教授河村孝照師は「私が学んだ仏様の教え」続いて仏教大学文学部教授・「船団の会」代表・俳人である坪内稔典先生は「言葉の力（ちから）――松永貞徳など――」と題し講演された。

尚、十月六日（土）に総本山妙満寺に於て御会式を奉行する。

（藤井照源）

◆立教開宗会

四月二十八日、第七百六十回立教開宗会が日蓮大聖人近畿御遊学十二年比叡山横川定光院で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百二十人が参加した。法要に先立ち、日蓮宗京都府第一部布教師会事務局長三木天道師が「東日本大震災と立正安国論」と題して法話。法要は、大導師に京門連副会長本満寺貫首伊丹日章猊下、副導師に京門連理事長古瀬久馨師、京門連副理事長藤井照源師を屈請、京都雅楽会が出仕して営まれた。参列者一同、建長五年の清澄寺旭が森に思いを馳せ、そこに信仰・文化の全貌を描くものです。今後二度と完成させることができない完全版となっています。

全体の構成は第一巻（南の巻）「曼荼羅本尊」・第二巻（無の巻）「日蓮聖人の真蹟遺文」・第三巻（妙の巻）「典籍と古文書」・第四巻（法の巻）「彫刻」・第五巻（蓮の巻）「絵画」・第六巻（華の巻）「仏具と荘厳」・第七巻（経の巻）「日蓮聖人註画讃」からなります。編集にあたっては日蓮聖人の教義と法華信仰のあゆみに広く思いを致し、まずその信仰と精神を論稿で明らかにし、これまでの豊かな資料及び新発見の資料とあわせて、平易な解説でその現状と意味を明らかにしました。これによって日蓮聖人以来約七五〇年にわたる法華信仰の姿を仏教文化の総体のなかで明確に意味づけし描き出しました。

『日蓮聖人と法華の至宝』の主な特徴

●宗門の全面協力により実現した全集。

●曼荼羅本尊、彫刻、遺文、文書、絵画、荘厳具、註画讃など国宝、重要文化財等の宝財をカラー写真で完全収録。

●見るだけでも楽しく、読んでよくわかるカラー図説。基本要目から所見・伝承などの細部まで、くわしい解説。

●荘厳の仕方など日々の実用書としても役立つ情報を満載。

●いざと言うとき便利に役立つ寺宝として、僧侶、檀信徒の方々必備の全集。

■監修／川添昭二（九州大学名誉教授）、坂輪宣敬（立正大学名誉教授）、中尾堯（立正大学名誉教授）、渡辺宝陽（立正大学名誉教授）

編集代表／中尾堯

◆全七巻セット価格

一四万円（税込）一巻当り二万円

各巻一八四頁予定（四色一三六頁・一色四八頁）サイズ二二・四×二九・七㎝

お申込は日蓮宗新聞社まで

電　話　03-3755-5271

FAX 03-3753-7028

日蓮門下必須の文献
図説『日蓮聖人と法華の至宝』全七巻



平成十五年に東京国立博物館で、平成二十一年に京都国立博物館、神奈川県立歴史博物館で日蓮聖人の門徒諸宗の名宝が一堂に展覧され、多くの人々に偉観と感動を与えました。『日蓮聖人と法華の至宝』はそれらの至宝に、新発見の新たな名宝を加え、日蓮聖人の真蹟をはじめとする典籍・古文書、法華信仰の焦点に位置する仏像・仏画、信仰の場を整える仏具など、伝来する『日蓮聖人と法華の至宝』を集大成し、法華

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二四・二・一三	門谷光瑞 牧野秀成	法華宗陣門流	理事	就任	退任
平成二四・三・三	田中日生 田仲日紘	法華宗真門流	顧問	就任	退任
平成二四・三・六	藤崎広学 朝倉俊幸	顕本法華宗	常任理事	就任	退任
平成二四・三・六	朝倉俊幸 藤崎行学	顕本法華宗	理事	就任	退任
平成二四・四・一	古瀬久馨 吉永義康	顕本法華宗 京都門下連合会	理事 常任理事	就任	退任
平成二四・四・一三	中村日游 東　孝信	地方門連	大阪門下 懇話会理事長	就任	退任
平成二四・五・一三	菅原日桑 小西日遶	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成二四・七・二	小山日誠 山内日開	本門佛立宗	顧問	就任	退任

施餓鬼小旗セット

頒布価格 7,875 円（税込・送料別）



※ イメージ
頒布品は臨滅度時御本尊一遍首題です

施餓鬼小旗　（約縦 202 mm × 横 67 mm）
経文入各色（緑・白・赤・青・黄）×20 枚、
臨滅度時御本尊一遍首題入
（白のみ）×10 枚、
経文無各色 ×20 枚
（白のみ 10 枚）
合計 200 枚・箱入
竹　串　（約 24 cm）100 本

※本体箱



お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3
TEL 03-3755-5271
FAX 03-3753-7028

各派・教団・短信

本年度は宗務所長の改選期にあたり、全国十三教区で選挙が行なわれ、新たに九名の所長（再選四人）が誕生し、宗門興隆、地方宗務行政の円滑化について意見交換。

◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す教学講習会の本年度日程は、九州教学講習会（七月十七～十九日）、北海道教学講習会（八月二十二～二十四日）、京都教学講習会（九月十～十二日）、北陸教学講習会（九月二十六～二十八日）、千葉教学講習会（十月三～五日）、中国教学講習会（十一月六～八日）。お問い合わせは、宗務院（03-5614-3055）まで。

◆九月四日、教学研究所設立五十年を記念し、小西日遶管長猊下を大導師に、他三大本山貫首猊下、総長台下御臨席のもと大本山本興寺にて先師先哲の遺徳顕彰報恩法要を奉修。

◆法華宗ホームページを刷新。http://www.hokkeshu.or.jp（平田義生）

顕本法華宗

◆十一月九日、日経上人終焉の霊蹟・富山市音川教会において、「常楽院日経上人報恩の会」（会長・山本学人師）主催による日経上人報恩法要が奉修された。法要後、総会が開催された。

◆十一月二十二日、千葉県大網白里町芳墳寺において、東部教区連合会主催の先師報恩法要及び講習会が開催された。法要後、中央セレモニー社長・大杉実氏を講師に「直葬の後悔」と題する講演が行われた。

◆一月二十日より二月二日まで、千葉県内八ヶ寺を巡拝する寒中修行が地元有志によって行われた。

◆二月七日・八日の両日、浜松市内において、妙塔学林研究科を開講した。妙塔学林特別講師の河村孝照師を講師に「倶舎論」についての講義が行われた。

◆三月五日・六日の両日、総本山妙満寺において、第六十七定期宗会が開催された。平成二十三年度宗務事業報告及び決算、平成二十四年度事業計画及び予算案が承認された。また、任期満了により藤崎広学宗務総長が退任、後任に朝倉俊幸新宗務総長が就任し、新内局が発足した。新内局の顔ぶれは左記の通り。

新内局人事…管長中村日玄猊下・朝倉俊幸宗務総長・藤崎行学宗務次長・早川義正教務部長・阿曽久成庶務部長・桑村信慶布教部長・河野時巧財務部長・飯澤道安社会部長。

◆四月十日、千葉市本行寺において、東部教区連合会による先師報恩法要奉修した。法要後、定期総会が開催された。

◆五月十二日・十三日両日、総本山妙満寺において、春季報恩大法要を厳修、併せて東日本大震災一周忌追悼法要と霊宝「安珍清姫の鐘」鐘供養を奉修した。

◆六月十一日・十二日の両日、寛文法難先師顕彰参拝が行われ、宮崎県日南市にある顕彰碑前において報恩法要が奉修された。

◆七月二十四日～二十七日の三泊四日にわたり、総本山妙満寺を会場に「第四十八回・顕本青少年錬成会」が開催された。

◆九月五日、千葉市五日堂において、東部教区連合会主催の先師報恩法要並びに講習会が開催された。講習会では、勝桂子氏を講師に「一人称の救済からの脱却」と題する講演が行われた。（橘無限）

法華宗陣門流

◆一月二十四日、第百十八次法華宗臨時宗会が東京巣鴨・法華宗宗務院で開催され、佐古弘文宗務総長が再任された。

◆二月三日、総本山本成寺（新潟県三条市）で「節分会鬼踊り追儺式」が、本成寺貫首・石丸日然猊下導師により厳修された。

◆三月二十六日・二十七日の二日間、第百十九次法華宗定時宗会が宗務院で開催された。

◆三月二十八日、『本迹同異決』会本刊行委員会が宗務院で開催された。

◆五月二日、宗務所長会が宗務院で開催された。

◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺（静岡県伊東市）で「伊豆御法難会」が中野日仁山主導師により厳修された。

◆五月十三日から六月二十一日までの四十日間、「法華宗学林」が総本山本成寺で開講され、今年も全国より寺院徒弟が集まった。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

◆五月十四日、布教研究所所員会が宗務院で開催された。

◆五月二十五～二十七日の三日間、総本山本成寺で「祠堂法要」が日然猊下導師により厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。

◆六月十二日、会計監査会が宗務院で開催された。

◆六月二十五日、『本迹同異決』会本刊行委員会が宗務院で開催された。

◆七月一日、雅楽練習会が宗務院で開催された。

◆七月二十七日、宗法審議委員会が宗務院で開催された。（田邉尚志）

法華宗真門流

◆二月十七日、総本山本隆寺において貫主推戴会開催。次期貫主に奈良・八紘寺 田仲良啓上人。

◆三月二十六日～二十八日、総本山本隆寺において、「第二十九回僧風林」開催。

◆四月七日～二十六日、総本山本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、総本山本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆四月二十五日～二十九日、福井・本承寺に於いて、第十二期布教師養成所開所。

◆五月二十日～二十二日、第一教区では「第三十二回檀信徒の集い」開催。

◆五月二十四日～二十五日、第三教区では、「教区教学研修会」開催。宗学研究所所員 吉田公明師の講演「日真大和尚伝の検討―御開山日真大和尚　久代御布教並びに久成寺開創について」。

◆五月三十日～三十一日、福井・常眼寺に於いて、青年僧の交流会として各教区青年会対抗のソフトボール大会開催。

◆六月七日、総本山本隆寺に於いて真門教学講習会開催。午前は、真門学林長 岩崎峻暉師の講演「唯寿量と本果実証についての一考察」。午後は、法華宗陣門流教学部長 布施義高上人の講演「日蓮聖人の本門思想と天台本覚思想」。

本門法華宗

◆三月十二日、第百回本門法華宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催。

◆三月二十六～二十七日、本門法華宗学院第百四十回教学講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開講。

◆六月十八日、任期満了による宗務総長選出臨時宗会が卯木講堂において開催され、藤井日靖総長ならびに内局部長もそれぞれ再任。

◆七月一日、布教誌『生きる』第五十八号、信報『信行』第百七十七号を発行。

◆平成二十五年五月十一・十二日大本山妙蓮寺に於いて、大覚大僧正第六五十遠忌・日隆大聖人第五五十遠忌大法要を奉修する。（吉村光敬）

国柱会

◆一月一日、元旦大国祷。新年拝賀式。神酒拝戴式。賽主先生以下中央有志明治神宮参拝。七日、昭和天皇祭。武蔵野御陵へ若杉日出雄講師以下中央有志参拝。十四日、故大橋冨士子大姉霊位一周忌追善法要正中併修。大橋冨士子先生を偲ぶ会開催。十四日～十五日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十五日、妙宗大霊廟例月供養会。中央同志新年大会。十七日、恩師忌。常勤給仕日。二十一日、賽主先生、東日本大震災被災地応援ボランティア活動へ、二十五日迄。

◆二月十一日、紀元節慶讃法要。十五日、釈尊涅槃会慶讃法要。式後、御聖日集会開催。担当、賽主先生。十六日、聖祖降誕会慶讃法要。式後、御聖日集会開催。担当、森山真治講師補。十七日、恩師忌。常勤給仕日。十八日～十九日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十九日、妙宗大霊廟例月供養会。十七日、恩師忌。本部常勤給仕。二十八日、第八十二回身延登詣団（二十九日まで）開催。団長、賽主先生式長にて立正会慶讃法要（大祖廟前）。秋場昿雄講師式長にて本部立正会慶讃法要・御聖日集会。二十九日、身延山思親閣前にて山頂慶讃式典挙行。（森山真治）

京門連

◆平成二十四年度。会長 顕本法華宗総本山妙満寺貫首 中村日玄猊下。副会長 日蓮宗本山本満寺貫首 伊丹日章猊下。理事長 顕本法華宗総本山妙満寺総務 古瀬久馨師。副理事長 日蓮宗京都府第一部宗務所長 藤井照源師。

◆一月二五日（水）午後五時 理事会（本能寺文化会館）。平成二十四年度役員確認の件、平成二十三年度会務行事の件、平成二十三年度決算の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度予算案の件、平成二十四年度役員確認の件、平成二十三年度決算の件、平成二十三年度会務行事の件、平成二十四年度予算案の件、平成二十四年度予算案の件。

◆同日 二時三十 降誕会（顕本法華宗総本山妙満寺）。導師 総本山妙満寺貫首 中村日玄猊下。講師 本山本満寺貫首 伊丹日章猊下。

◆三月九日（金） 午後四時 理事会（顕本法華宗本山寂光寺）。立教開宗会の件、夏季大学の件。

◆四月二十八日（土）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師 日蓮宗本山本満寺貫首 伊丹日章猊下。講師 日蓮宗専任布教師 三木天道師。

◆六月八日（金） 午後四時 理事会（顕本法華宗本山寂光寺）。夏季大学の件。

◆八月二十五日（土）午前十時 第四十九回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）顕本法華宗総本山妙満寺貫首 中村日玄猊下。講師（大学）顕本法華宗布教総監 河村孝照師。講師（一般）仏教大学文学部教授 坪内稔典師。

◆同日 午後四時 理事会（本能寺文化会館）。お会式の件

◆十月五日（金）午後三時 お会式準備奉行委員会（顕本法華宗総本山妙満寺）。お会式準備、行脚、法要等打ち合わせ。

◆十月六日（土）午後一時 お会式（顕本法華宗総本山妙満寺）。導師 顕本法華宗総本山妙満寺貫首 中村日玄猊下。講師 日蓮宗本山貫首。

◆十一月二十六日（月）全門連京都理事会（顕本法華宗総本山妙満寺）。日蓮聖人門下連合会京都理事会、懇親会別席。

◆十二月 会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日午後五時 理事会（本能寺文化会館）。平成二十四年度会務行事報告、平成二十四年度決算中間報告。（藤井照源）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

平成25年2月16日
第47号

法華経の修行

――日本山妙法寺藤井日達山主法話より――

日本山妙法寺僧侶　武田隆雄

南無妙法蓮華経

日本山妙法寺藤井日達山主の法話をご紹介申し上げます。

◆現代の経済について

「本来、市場の交換手段に過ぎなかった貨幣をもって、地上の神とあがめ、かえって金銭が人間を支配するがごとき、顛倒現象を生じ、結局、金融資本主義の段階にいたって、個人も、国家も、世界も、金銭にしばられて自由を失う。日本国が米国に追随せざるべからざる所以も、この金融資本の束縛をこうむったがためである。勤労者は機械の奴隷となり、資本家は利潤追求の奴隷となった。文明社会はすべて奴隷となった。文明の甘き酒は、人間をして、此の顛倒の酔狂を生ぜしめた。現代文明がまさに毒発悶乱して、大地に蜿転する時となった。この解毒剤として、教主釈尊が末法にとどめ置かれたる良薬が、すなわち南無妙法蓮華経の五字七字である」。

◆日蓮大聖人様の御一代について

「私らは、日蓮大聖人様の御一代そのままを考えて見ねばならない。文字に表現すれば立正安国、ただこれだけ。正法を起こして国家を安穏にする。国家に悩みがある時、どうしてこれを救うて行くか、我々はこのことだけ考えて一生を通らねばなりません。そのほか、寺を建てることの、寺の留守番をすることの、回向まわりをすることだのは、至極一代の運命を誤り、本化の菩薩の末法に出現した趣旨を恥ずかしめる。これこそ泥棒であり、法師の皮を着たる畜生であります。日蓮大聖人様が、そういうことをせよと仰ったこともなければ、御自身なさっておりません。

佐渡の国から鎌倉へお帰りなさる時も、国を諫めて、何とかして日本国の国難を救わねばならないという誓願から帰られたのであります。幕府の人が『国難退治の御祈念をして下さい』と頼みましたけれども、信仰は妥協の問題ではありません。それを断られました。北條が本当に信仰をしないために、『経文にかぎりあれば力なし。蒙古の国が来る時に私の言葉がわかるだろう』と言って鎌倉をたたれました。そして身延の山にお住まいなさったのだ。お寺持ちになろうといえば、その時に幕府は、一千町の上田を御祈祷料にあげて、日蓮大聖人様は愛染堂という戦争を調伏する降魔の神様の住職になるはずでありました。それにならなかったのだ。そして身延の山で一生を寒いやらひもじさやらの中におすごしなさったのであります。信仰とは、こういうものであります」。

「国を諫め、人を諫めて行くことが法華経の修行であります。これは形に見えない、国のなげき、人のなげきを救うて行く方法を自らよく考えることであります。力のあるなしは論ぜられない。力があってもなくても、ただ御題目を唱えて、その国難を自ら引き受けて立つ。これが日蓮大聖人様の教えであります。」

◆現代の憲法について

「人類の生きていく道は、平和に暮らすこと。争いをしないこと。これだけを仏様の教えによって習いきわめて、現在の憲法を宗教的な信念によって持たねばなりません。南無妙法蓮華経と唱えて、この憲法を守ります」。　合掌

☆日本山妙法寺 藤井日達山主の法話の出典は、『天鼓要文集』より掲載申し上げました。

法華宗（真門流）管長就任挨拶

法華宗（真門流）総本山本隆寺貫主　田仲日紘（にちおう）



一言ご挨拶。……その前に思い起こすと、それはもう十五年或いは二十年も以前になりますが、時の貫主第九十六世林日圓猊下から「田仲君、君が今やろうとしている仕事が完成したら御前さんやの」とお言葉をかけていただいたことがあり、そんな大それたことある筈がないとばかりに日々を送っておりました。その間第百三世上川日乾猊下からは「折角そこまでやるのならば他宗の嫌がる経文「四十余年未顕真実」を含む開経『無量義経』もやってくれんか」とのご指摘などもあり、結局門流の御開祖が後柏原天皇の勅命を拝受して訓点を付された所謂『奉詔訓点法華経開結十巻』に随って読み下した経本がようやく出来上がりました。しかし、残念なことに前記の両猊下は昨年秋、相次いで踵を接するようにご遷化をなされました。

本題に掛りますと、昨年二月に自坊奈良県御所市八紘寺に於いて総本山より正副執事・総代、並びに宗務庁より総長・部長立会の下、厳粛に請待式が奉行された折、ここに至るに紆余あり曲折ありで貫主推戴に相当な苦労を経て漸くに定まったとの経緯を耳にしました。元より浅学、こんな大役が務まろう筈もなく多分に危うい綱渡りになる事は火を見るよりも明らか、然しながら承知の返事をしたからにはウジウジとした事も言えまいと臍を固めた処、昨年四月の晋山式直前に急性脳髄膜炎を発症し周囲や関係者の方々を大いに心痛させ、ご迷惑をお掛けすることとなってしまいました。二十日余りの入院を経て退院しましたが後遺症として記憶力が大減衰してしまい、現状足腰の筋肉も力弱く認知症の疑似体験をしている如くであります。

これも宿業のなせるワザと言うべきかもしれませんが「溝に似たる水」の言葉通り非才の小物はそれらしくあれとの先輩諸聖の御忠告と受け止め、及ばずながら誠心誠意努めさせていただく覚悟でございます。御鞭撻の程お願い申し上げ粗辞御挨拶と致します。

本門佛立宗講有就任挨拶

本門佛立宗　第二十五世講有　山内日開



ありがとうございます。私は昨年三月の定例宗会にて推戴を受け、同七月二日に講有位を遺嘱伝承いたしました。もとより、野衲はその器になく、この大任を全うするため御宝前のご加護を希い、日夜御題目口唱に励んでおります。

さて、本門佛立宗は、開導日扇聖人が今を生きる人への教化を正意として、葬儀や死者回向に偏した仏教界の改革を提唱し、開講されたことを起源とします。以来一五六年を経過して、「本来の仏教とは何か」を問う改革の精神を見失ってはいないかと、顧みること頻りであります。この御意を受け継ぎ、現代社会に起こる諸問題に鋭く切り込んでいく意識がなくては、生きた仏教としての役目は果たせないのです。とくに僧侶は、人々の悩みや苦しみを受け止め教導する説得力を養うため勉強し、研鑽を重ねるべきであります。

本来、人間の苦は貧病争に由来しますが、経済が豊かで教育制度が進んだ今日、なぜ、人間関係や家庭の問題が絶えないのか。これを解明するには、時代ごと異なる社会の様相を見極めねばなりません。

また、東日本大震災の大津波と原発事故、その他自然災害に多くの方が被災されていますが、自然環境の厳しい我が国では、誰もが同様の災害に遭う可能性があるのです。被災された方々のご苦労をひと事と思わず、我が身にも起こりうることと自覚して、もっと多くの人が積極的な援助活動に立ち上がるべきと考えます。

折しも本年は門祖日隆聖人五五〇回御遠諱を迎え、本宗は過去三年に及ぶ「佛立菩薩を育てる運動」により後継者育成に成果を上げ、この動きは平成二十九年に迎える開導日扇聖人ご生誕二百年を慶讃する「佛立開花運動」へ継続する計画であります。

これらのご奉公を進め、四海帰妙の祖願達成のため、微力ながら小職は責務を果たす所存であります。

合掌

従地ゆじゅつ

◆昨今、体罰についての是非が取り沙汰されている。「草を打って蛇を驚かす」ではないが、それが他の部員のため、ということもあったようだ。

◆私自身も学生時代に運動部へ所属していたため、こういった指導をたくさん受けた。だが、不満としている父兄は多くなかった様に思う。そんな時は、かえって父兄側が先生に謝罪に行くことも少なくなかった。だから恥ずかしく感じ、失敗をしないように気を付けていた。同時に、失敗の内容についても考え始め、結果、自分の目指すプレーが定まっていったのだ。

後に、周りの方々の真剣な態度への感謝が芽生えた。少なからず影響を受け、今の自分があることにも気付く。一瞬一瞬の成功の思い出より、時間はかかりながらも何かに気付けることが大切ではなかろうか。

◆そんな話は蛇足。時代は変わった、そんな指導は時代遅れだ。そういう意見が出ても当然な世の中である。では、変化している時代ならば、今一度自分自身の信仰や布教も考え直す時がきているのではなかろうか。

◆日蓮大聖人は、天台宗の僧として出家される。後にそれが誤りであったことをはっきりと示され、南無妙法蓮華経のお題目を残された。御自身の失敗も伝えながら、正しい教えを見つけ出された態度。そして、想像をはるかに超える覚悟と信念をお持ちになった態度。正しい教えも当然であるが、この態度が人々の心を動かしてきたのであろう。現代まで脈々とお題目は伝わっている。

◆『広宣流布の大願』への態度をもう一度考える。私自身、本年もたくさんの失敗をするであろう。失敗よりも多くのお題目を唱え、少しでもたくさんの人へお題目の下種をしなくてはならない。ただ「正しいから、ありがたいから、唱えましょう」の布教ではいけない。失敗しながらも自身の信仰の態度を強く示さなくては、と自戒を記す。「竜頭蛇尾」とならぬよう。

（宮）

《各派のページ》第四回「法華宗陣門流宗門内外で活躍する僧侶」



法華宗陣門流宗務総長
『シリーズ日蓮』刊行会会長
東京・大久寺住職
佐古弘文さん

（プロフィール）
さこ　こうぶん　昭和二十六年、静岡県生まれ。東洋大学文学部仏教学科卒。法華宗学林研究科卒。元法華宗学林教授。宗学研究所所員。東京都・大久寺住職。宗派・門流の垣根を越えた日蓮教学の研究を呼びかけ、自らも学術研究を積極的に行い、宗務総長と学術研究を両立する異色の存在。日蓮教学、天台教学に精通。最近の学術論文・学会発表としては、「守護国界章に於ける仏身論の一考察」「凝然と天台宗」等。

スローガン

「教学第一」をスローガンにして四年が経過した。このスローガンを宗内外に宣伝したところ、各方面からの反響があり、当然のことながら賛否も分かれた。しかし、現在もこの方針が揺らぐことはない。それどころか、就任当初はその重責に不安を感じながらも、私自身がこの言葉に突き動かされながら、多くの方々のご協力とご教導のお陰で今日を迎えられている。

　このスローガンは、宗内の子弟教育の充実と教師の質向上のために掲げたものであり、五年、十年先を見据えた人材の育成に主眼をおいている。専門性が問われる現代の職業観においては、僧侶の中でも教学の研究は研究機関に所属している教師がすればよいと考えているのが実情である。しかし、それは我々僧侶側の見方であって、檀信徒にしてみれば、僧侶・住職としてきちんとした宗学や仏教学を修めて欲しいと願っているのが本音であろう。勿論、僧侶は教学や学問だけではなく、多様な能力を要求されるので、どのような分野であれ、常に研鑽を怠らずに精進しなければならない。このスローガンのもと、宗内の催事ではあるが、年に一度、全国寺院を対象に「研究発表会」を開催し、今回で四回目となった。この研究発表会は宗学や仏教学に限らず、布教・教化といった様々な分野にも開放されている。

　門祖・円光坊日陣聖人（一三三九～一四一九）の教学研鑽は、常に一貫した姿勢が示されている。その研鑽態度は、「日陣の私曲にあらず」と明言されているように、私利を捨てて宗祖の真実を追求し、御遺文に直参することであった。この門祖の祖書を中心とする教学研鑽は、現代の研究方法論と比較しても何ら遜色のないものである。

　近年では、新たな日蓮聖人研究誌『法華仏教研究』や『日蓮仏教研究』、『興風』が相次いで創刊され、日蓮聖人に関する議論が活発に展開されている。また、私自身、東洋大学の西山茂先生や花野充道先生との出会いにより、西山先生の主催する「本化ネットワークセンター」の月例研究会ともご縁を頂き、花野先生の呼び掛けにより『法華仏教研究』に発起人・編集委員として参加させて頂いている。

　その一方で、日蓮聖人研究の国際化という新たな潮流も生まれている。プリンストン大学のジャクリーン・ストーン先生や、ロンドン大学のルチア・ドルチェ先生らによる、中古天台本覚思想や密教思想などから日蓮聖人を捉えた研究が発表されており、すでに傾聴すべき成果を挙げている。このような国内外の日蓮聖人研究に関する最近の動向は、従来の伝統的な教学研究の枠に収まりきらない広がりを見せているといっても過言ではない。

　そして、この一連の流れの中で、門下教団の垣根を越えた一大プロジェクト、『シリーズ日蓮』（全五巻）の公刊が春秋社により計画されている。約四十年前に、当時の立正大学を中心に『講座日蓮』が叡智を集結して出版された。しかしながら、その後の日蓮聖人研究は大きな進展を遂げているにも拘わらず、同様の出版企画は存在しなかった。そこで、最新の学術的成果を踏まえながら、本書が日蓮聖人研究の学際的集大成として企画されたのである。

　私も旗振り役として刊行会に参画させて頂いているが、編集陣には日本思想史から末木文美士、宗教社会学から西山茂、日蓮研究からは、小松邦彰、花野充道、上杉清文といった錚々たる先生方を擁し、平成二十六年春からの出版を予定している。

　日蓮聖人門下各教団の教理と実践上の課題を明確にし、日蓮聖人思想の現代化をめざし、東日本大震災後どのように我々は向き合うべきかといった、現実的な時代の課題にも応答しながら、日蓮聖人御生誕八百年に向けた新たな日蓮聖人像を提示することを目標にしている。日蓮聖人門下が協力して本書を刊行することが、門下史上極めて意義のある出版活動になると信じ、その刊行に向けて邁進する所存です。皆様のご指導ご鞭撻を伏してお願い申し上げる次第であります。



薬王寺住職
小林明雄さん

教誨師として

「おーい、明雄、ちょっと来なさい。」師匠の呼ぶ声に、寺務所に入ると、見知らぬ恰幅の良いお坊さんを目にした。師僧が、「この方は、先日の市の仏教会でご一緒していただいた、ウキス興源寺の田宮黎友先生です。何かお前に願い事があるそうです。出来るだけ、御役に立つように」と、話すと、師僧はスッと席を立たれた。これが、教誨師と呼ばれる仕事に出合った最初である。

（プロフィール）
こばやし　みょうゆう　昭和二十六年（一九五一）富山県富山市長蓮寺にて生まれる。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了。法華宗学林研究科卒、法華宗広報誌「宝塔」第五十一集より「おしゃかさまのおしえ」四十回連載。昭和六十三年三月新潟刑務所所属教誨師となる。平成元年一月新潟・薬王寺住職に任命される。

　田宮先生から、教誨師の仕事、管区大会の事などを伺った。師僧の助言もあり、お受けすることとした。大学時代、担任の先生から依頼を受け、出版社に出入りし、多少の出版は出来るようになっていたので、お手伝いすることとなり、昭和六十三年三月に教誨師を拝命した。

　私が最初に携った事は、第三十三回東京矯正管区管内教誨師研修新潟大会の大会資金を調達する為、広報誌の発行であった。田宮先生と相談して、その名前を「笹だんご」とした。このお菓子は、新潟の銘菓で笹でくるまれていて、菅で縛られている。草餅にくるまれた餡子が甘さを引き立てている。縛られているけれども、一皮むいたらその中はとっても甘い、人は表ではなく、中身で判断する、との意味合いで名付けた。今年で二十五号になった。最初は、お菓子業界の新聞と間違われたりしたが、この「笹だんご」に広告を出して下さる業者の方々の尽力により、漸く教誨師会の広報誌と理解をされつつある。

　此の新聞の見開きの中心にこんな言葉が印刷されている。「教誨師とは、刑務所や少年院などに収容されている人たちの心の支えとなり、罪を犯して苦しんでいる人を正しい道に導く為に、宗教を通じ奉仕する人です。」教誨師は、罪を犯し施設に収容されている人々に、二度と罪を犯すことのないように教え諭し正しい道に共に歩むことを目的としている。

　施設内における宗教教誨は、新しく制定された「刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律」によって、収容者の権利として認められるようにはなったが、基本的には刑罰としての矯正教育が主眼であるため、何でも認められるということではない。教誨を受けたいと思っても自由に受けられるものではない。教誨師は、ボランティアであるため、勝手に施設内に立ち入ることは出来ない。刑務所長の許可を得て後に訪問することが出来る。つまり、施設からの要請により教誨に赴くことが出来るのである。先年、全国教誨師連盟の海外研修に参加した折、ドイツの刑務所の教誨師は、専任常駐であり、施設の七割近く開く鍵を持っているとのことであった。教誨師の判断で、直接収容者に合うことが出来るのである。我々は、引率されて施設内に入るのとは大きな違いが感じられる。欧米の宗教者に対する信頼の大きさ、信仰心の強さであると思う。クリスマスだ、バレンタインだと浮かれ、大切な先祖供養を忘れている日本人とは大きな違いを感じる。

　施設収容者には、宗教体験を持っているものは少ない。子供の時に、父母に付き添われ神社仏閣に御参りをした経験がないのである。収容者の中には、親兄弟、親戚知人などの命日に回向をしてほしいと願い出るものもいる。教育課から、我々に連絡が入り、日程を調整したうえで施設を訪れる。これを忌日教誨という。全く宗教心が無いわけではない。然し、他人を顧みることなく、自分だけが良ければという心が見え隠れする。

　教誨の種類は、忌日教誨だけではない。新しく入所した者には新入教誨、お盆法要や彼岸法要等大勢の収容者を集めての集合教誨、宗派の話をするグループ教誨、一対一で向き合う個人教誨、病気等で刑務所内で死亡し引き取り手が無い場合の棺前教誨等、教誨の種類は色々ある。我々教誨師が、被収容者に一番願うことは、二度と施設に戻ってこないことである。我々の教誨が、彼らが再び罪を犯さない事は無論であるが、罪を犯そうとした時、心のブレーキが働くように、役立つ事を願っている。



本年三月十一日は東日本大震災第三回忌を迎えます。犠牲者諸霊位に御回向し、被災地域の一日も早い復興をお祈り申し上げます。合掌

（平成二十五年二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏
財務部長　川口智康
伝道局長　齊藤憲一
宗務総長室長　渡邉義生
総務局長　塩崎望巳
現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　中井本秀　参与　渡邉一之
教務部長　川口久雄　参与　吉田海心
総務部長　池田弁岳
日蓮宗新聞社社長　村上俊正

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管　長　小西日遶
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管　長　中村日玄
宗務総長　朝倉俊幸
宗務次長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
庶務部長　阿曽久成
布教部長　桑村信慶
財務部長　河野時巧
社会部長　飯澤道安

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管　長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　牧野秀成
教学部長　布施義高
教化部長　今井満良
財務部長　金原孝宜
企画部長　山岸観深

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

宗務総長　木村日覚
宗務副総長　西村日要
教務局長　植松常二郎
弘通局長　亀井日魁
総務局長　植田日事
広報局長　藤本日唱
財務局長　澤田日松
特別局長　西村勲
藤本日涌

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管　長　嘉儀日有
宗務総長
総務部長　岩崎広義
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管　長　田仲日紘
宗務総長　寺田完英
総務部長　掘智泰
教学部長　堀内浩善
教化部長　木村完祥
財務部長　安立修学
社会部長　上田泰源

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三三五二七
FAX　〇七五（四五一）三三五九七

管　長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電　話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

会　長　伊丹日章
副会長　嘉儀日有
理事長　藤井照源
副理事長　岩崎広義

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電　話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首　座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛　主　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四
法主　内野日総
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同

法華宗(本門流)大本山
本能寺
〒604-8091
京都府京都市中京区寺町通御池下る
電話　〇七五（二三一）五三三五
FAX　〇七五（二一一）二八三八
貫首　菅原日桑
執事長　赤田泰宏
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七
貫首　中村日玄
総務　吉永義康
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九
貫首　石丸日然
執事長　笹原壮玄
執事　平井良光
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六
貫主　田仲日紘
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾

京都八本山会
本山本満寺　貫首　伊丹日章
大本山本圀寺　貫首　吉田日厚
大本山妙顕寺　貫首　和田日佑
本山立本寺　貫首　上田日瑞
本山妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山頂妙寺　貫首　安藤日瑛
本山妙覚寺　貫首　及川日周
本山本法寺　貫首　瀬川日照

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一
住職　二十五世講有　山内日開
執事長　小野山日住
事務局長　伊藤隆之

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三
貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二五）六九六七
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

日蓮宗大本山
清澄寺
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。
別当　二宮日敬
執事長　宮崎雅宣
役職員一同

日蓮宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　岩崎広義
執事　原田智光
執事　原光明

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五
貫首　石川日命
執事長　橋本宏信

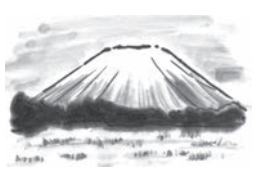
やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七
山主　嶋田日新

日蓮宗霊跡本山
頂妙寺
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四
貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　合川陽雄

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三
貫首　井上日修

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
参与　渡辺行俊
参与　植田観樹
参与　吉田文堯

平成三十三年二月十六日は宗祖御降誕八百年を迎えます



(平成二十五年二月現在)

門連時報

京都理事会開催さる

平成二十四年十一月二十六日（月）、顕本法華宗総本山妙満寺（中村日玄貫首）において、全国日蓮聖人門下連合会京都理事会が開催され、全門連役員及び京門連各聖、大阪門下懇話会理事長の五十七名が参列した。

午後一時、会場寺院の中村日玄貫首を導師に仰ぎ、副導師に京門連理事長吉永義康師、京門連副理事長藤井照源師とし、参加者一同が慎んで法味を言上した。

午後二時、妙満寺沿革を中村貫首により講義し、その後映像を取り入れた説明を行った。

続き、理事会を開催。渡邊理事長が座長となり議事を進行。一、役員の件につき事務局より報告。顧問欠員に伴い、理事長経験者の伊藤通明師・奥邨正覚師・小松淨慎師の三名が就任した。二、上半期事業報告を事務局より報告、了承。三、京都門連事業報告を京門連理事長吉永義康より報告。四、地方門連活動に関する件を大阪門下懇話会理事長東孝信師より報告。五、その他の件につき、①本門佛立宗福岡日雙師より自著「声に出して笑える法話」が紹介された。②日蓮宗本山藻原寺持田日勇師より「オラトリオ日蓮聖人演奏会」について、平成二十五年十月六日に茂原市民会館、十月十九日に錦糸町トニホニーホールで開催されることを事務局を介し報告、また各派の協力を要請された。③本山会及川日周貫首より、門連における宗祖御降誕八百年に向けた事業として、京都の本山が有する伝統を考慮した事業も推進して欲しいとの要望が出され、今後検討することとした。会議終了後、「グランドプリンスホテル京都」へ場所を移し懇親会が開催された。

日蓮宗いのりんぴっく京都で開催

日蓮宗「いのりんぴっく」が平成二十四年十一月二十三日、京都本山頂妙寺を会場に開催され、約二千人の参加者が祈りを捧げた。

いのりんぴっくは「環境・平和・いのち」の大切さを考える祈りの祭典で、毎年開催され、今回は京都が会場となった。

日蓮宗京都府第一部宗務所（藤井照源宗務所長）が中心となり、日蓮宗宗務院、日蓮宗近畿教区、京都府第一部檀信徒協議会の後援を得て企画運営となった。京都は、十六本山という歴史かつ伝統の本山があり、その道場を生かした「いのりんぴっく」をと実行委員会が形成され、成功に向けた会議が重ねられた。

会場となった本山頂妙寺が鎌倉時代一色となり「仁王門をくぐるとそこは鎌倉時代だった」の雰囲気をかもし出し「あれからの祈り、これからの祈り」を再現した。すべてのスタッフが鎌倉時代の衣装に身を包み、境内では鎌倉の市を出店した。本堂でオープニングの幕開けをし、藤井委員長から声高らかに開会の辞が届けられた。内容は豊富で、震災地の流木で作られたヴァイオリンの演奏会、落語家露の団姫（つゆまるこ）さんの法華経落語、紙芝居や子供向けのゲームが行われた。諸堂では、震災犠牲者供養の写経、唱題行、雅楽演奏、和讃奉納があり、瀧本光静師、関戸堯海師の講演が行われた。また、日蓮聖人が「立正安国論」の筆を執られる経緯を再現した映画の撮影もあり、塔頭寺院では、仏画展、絵画展、茶席、香道が催された。

最後には、参加者の祈りを全世界に届ける為、渡邊照敏日蓮宗宗務総長導師のもと「いのりんぴっく音楽大法要」が厳修され、参加者全員心からの祈りを捧げ幕を閉じた。

更に、「いのりんぴっく」を通じ日蓮宗京都府第一部宗務所は、動画制作編成配信として、Ｈｏｋｋｅ・ＴＶ（ホッケ・ティビー）を開局し、この企画を全世界に配信した。今後、法華経布教に関するすべての行事、企画を配信していく予定である。

お問い合わせ先：
namu@hokke.tv
Hokke.TV公式サイト：
http://hokke.tv/

（藤井照源）





鎌倉時代一色となった会場

法華宗（本門流）日隆聖人五五〇遠忌法要

本年は、法華宗再興唱導師門祖日隆聖人の第五五〇遠忌をお迎えすることにより、尼崎市大本山本興寺（平成二十五年五月三日～五日）、京都市大本山本能寺（五月五日～七日）、日隆聖人生誕の地富山県射水市御廟所誕生寺（六月十六日）、及び全国門末寺院教会にてそれぞれ大法要が奉修される。

日隆聖人は、至徳二年（一三八五）十月十四日に越中国射水郡に御生誕、大本山本能寺と大本山本興寺を創建されたばかりでなく、北陸地方さらに近畿地方から瀬戸内を経て西国に布教され、十数ヶ寺を創建・改宗された。また教学について、宗祖日蓮大聖人の正義を求めて、宗祖の御遺文と天台三大部等の研究を行い、大聖人の教学の再興を計り三千余帖という多数の著作（御聖教（おしょうぎょう））を残された。さらに、その教えを後世に伝え、後進を指導すべく勧学院を本興寺内に創設され、寛正五年（一四六四）二月二十五日、八十歳で入寂された。

現在、勧学院は、興隆学林専門学校としてその伝統を絶やすことなく、宗門後継者の育成と宗祖の教学を護っている。

宗門は、僧俗一体となって「本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経」をお唱えさせていただき、宗祖大聖人・門祖聖人の御恩に報いるために、大法要を奉修いたします。皆さまのご参詣をおまちしております。

（平田義生・宮村光明）



御聖教『本門弘経抄』大本山本興寺蔵

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二五・一・一	中村日玄	京都門下連合会	顧問	就任	退任
	伊丹日章				
平成二五・一・一	吉永義康	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
	藤井照源				
平成二五・一・一	藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任
	岩崎広義				

施餓鬼小旗セット

頒布価格 7,875 円（税込・送料別）



※ イメージ
頒布品は臨滅度時御本尊一遍首題です

施餓鬼小旗　（約縦 202 mm × 横 67 mm）
経文入各色（緑・白・赤・青・黄）×20 枚、
臨滅度時御本尊一遍首題入
（白のみ）×10 枚、
経文無各色 ×20 枚
（白のみ 10 枚）
合計 200 枚・箱入
竹　串　（約 24 cm）100 本

※本体箱



お申し込みは 日蓮宗新聞社
〒146-0082 東京都大田区池上 7-23-3
TEL 03-3755-5271
FAX 03-3753-7028

各派・教団・短信

法華宗本門流

◆平成二十五年二月二十二日、第二十六回法華宗教学研究発表大会がキャンパスプラザ京都にて開催。六名より日頃の研究の成果の発表がされた。また本年は、法華宗再興唱導師日隆聖人の第五百五十遠忌を奉迎することにより、特に日隆聖人の西国布教に関する講演の部が設けられた。

◆三月六日、「興隆学林専門学校」（尼崎市・大本山本興寺内）の平成二十四年度卒業式が行われる。卒業生は、行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。

◆古来、門祖・日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授していた「興隆学林専門学校」が平成二十五年度新入生を募集中。他門流よりも受け入れる。お問い合わせは宗務院（03-5614-3055）まで。

◆三月十一日、東日本大震災三回忌追悼慰霊法要を茂原市大本山鷲山寺を会場に、管長小西日遶猊下を大導師に、四大本山御貫首猊下、総長台下御臨席のもと奉修される。

（平田義生）

法華宗真門流

◆六月三日、第三教区仏教講演会開催。

◆六月九日、第三十一回第二教区檀信徒研修会開催。

◆八月二十二日～二十八日、旭川・立正寺にて、北海道支学林開講。二十五日には、同寺にて第四教区の教師講習会も開講。

◆八月二十三日～二十九日、総本山本隆寺にて夏季講習会開講。

◆九月八日、大阪国際会議場にて、第一教区仏教講演会開催。

◆九月十日、総本山本隆寺に於いて、第百六世田仲日紘猊下法燈継承晋山奉告法要奉修。

◆十月五日～十四日、総本山本隆寺にて、秋季学林開講。

◆十月十二～十三日、総本山本隆寺にて、お会式奉修。十三日には六人が新説式挙行。福井県鯖江市。

◆十月十四日、本山平等会寺にて、千部会並びに日蓮大聖人龍ノ口御法難九月講大法会厳修。

◆十月三十～十一月一日、第二教区合掌の旅護法会開催。テーマは「小松原御法難七五〇年を迎えて」。

◆十二月五日～六日、「平成二十四年度定期宗会」開催。

◆一月一日～八日、総本山本隆寺にて年頭国祷会、法華八講開催。

《遷化》

総本山第九十九世　真枝日世聖人　六月二十一日御遷化。

総本山第百三世　上川日乾聖人　十月三日御遷化。

総本山第九十六世　林日圓聖人　十月二十六日御遷化。

（森田量哲）

顕本法華宗

◆十月十二日・十三日の両日、総本山妙満寺において、第七三一遠忌宗祖日蓮大聖人報恩御会式法要を奉修した。

◆十月二十六日、千葉県九十九里町妙覚寺において、東部僧員研修会。十一月七日、総本山妙満寺において、西部僧員研修会が開催された。両日とも布教総監河村孝照師による「仏界縁起について」と題する講義が行われた。

◆十月三十一日、日経上人終焉の霊蹟・富山市音川教会において、「常楽院日経上人報恩の会」（会長・山本学人師）主催による日経上人報恩法要が奉修された。

◆一月二十日より二月二日まで、千葉県内数ヶ寺を巡拝する寒中修行が地元有志によって行われた。

◆一月二十五日、品川天妙国寺において、公開研究例会が行われた。三名による研究発表後、布教総監河村孝照師による「仏界縁起の思想系譜」と題する特別講義が行われた。

法華宗陣門流

◆九月四日～五日、毎年宗内の各教区が持ち回りで会場となる中央行学講習会が本年は関西教区にて開催された。四日は京都・ホテル本能寺において開講式の後、講義が行われた。第一講義は東洋哲学研究所主任研究員の菅野博史先生をお招きし、「『法華玄義』の思想的特色」と題して、お話を頂いた。また第二講義は常圓寺日蓮仏教研究所主任・立正大学講師の都守基一先生をお招きして「『立正安国論』と東日本大震災』との講題でお話を頂いた。五日は本能寺よりバスにて横川・定光院、比叡山延暦寺を巡り、京都・本禅寺において閉講式が行われた。今年も百名を超える参加者が集い、教学を学ぶと共により一層の親睦を深めあった。

◆九月二十八日、『本迹同異決』会本刊行委員会が法華宗宗務院において開催された。

◆十一月十七日～十八日、宗務院において法華宗（真門流）・顕本法華宗・法華宗（陣門流）の三宗による、三宗統合協議会・統合学院が開講され、三宗より多くの学生が参加し学んだ。講師は法華宗（陣門流）宗学研究所所員・学林教授の光林孝玄先生で、「日蓮教学の基礎」と題して、講義をしていただいた。

◆十一月十九～二十日、別院巣鴨本妙寺において研究発表会が開催された。この発表会は、宗内全教師を対象に発表者を募集し、本宗の教学・教学史・教団史をはじめ、仏教学各分野や教化学など、最新の研究成果を公表し合うために開催され、本年も十六名の教師が発表し、参加者との活発な議論が交わされた。

◆十一月十九日、宗学研究所所員会が宗務院において開催された。

◆十一月二十日、学林教授会が宗務院において開催された。

◆十一月二十九～三十日、宗務院において新住職・学生・沙弥合同研修会が開講された。新住職や学生は講義を通じて、陣門教学はもとより、講師の体験を交えた布教活動の実際などについて学んだ。

（竹内敬雅）

本門法華宗

◆平成二十四年十月十二日～十三日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が方丈仮本堂にて厳修。

◆十月三十日、卯木講堂に於いて松下貫首、藤井日靖総長と金剛組の間にて本堂の改修引渡しが執り行われた。なお、平成二十五年四月十二日に御本尊・御尊像をお迎えし、開堂法要を奉修する。

◆十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師会・歴代上人法要が奉修。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百四十二回教学講習会を九月十・十一日、第百四十三回同講習会を十一月二十七・八日、卯木講堂にて開講。

◆布教誌『生きる』第五十九号、信報『信行』第百七十八号を平成二十五年一月一日付けで発行。

◆平成二十五年五月十一・十二日大本山妙蓮寺に於いて、大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌大法要を奉修する。

（吉村光敬）

国柱会

◆五月一日、月旦大国祷。賽主先生、松下陽一本部員随行にて、社会福祉法人鑑石園の新設特別養護老人ホーム、「まかど」落成式出席。十日、「日蓮聖人門下連合会」常任理事会に本間直暉理事出席。於、日蓮宗宗務院。十二日、伊豆法難会慶讃法要。御聖日集会（担当、若杉日出雄講師）。北海道地方連合局儀典講習会の指導のため、若杉講師と松下講師補出向（十四日迄）。十七日、恩師忌。常勤給仕日。十九日～二十日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗大霊廟第千八回例月供養会。中央連合協議会御修行練習（若杉講師指導）。二十九日、「仏教伝来謝恩碑」建立四十年記念国柱会訪韓団開催団長田中壮谷先生以下五十一名、韓国へ出発（六月一日まで）。三十日、「皇室の伝統を守る国民の会」設立総会に、賽主先生代理にて秋場講師出席。於、明治記念館。

◆六月一日、月旦大国祷。七日、寛仁親王殿下御逝去により、東京港区・青山御用地へ賽主先生御記帳（十日、秋場講師記帳）。第二回「明治の日を実現しよう集会」に森山真治講師補出席。於、参議院議員会館一〇一会議室。十二日、日蓮聖人門下連合会身延理事会に賽主先生出席。随行松下陽一講師補。十四日、東京・豊島岡墓地に於ける、寛仁親王殿下「斂葬の儀」に賽主先生名代にて秋場講師一般参列。十六日～十七日、各局輪番常勤給仕。十七日、恩師忌。妙宗大霊廟第千九回例月供養会。二十四、必武館剣道大会開催。

◆七月一日、月旦大国祷。五日、賽主先生、松下陽一講師補、東日本大震災復旧応援ボランティア活動（福島県南相馬市）七日まで。八日、顕正会慶讃法要。御聖日集会、担当、田中建夫講師補。中連有志、中孝園内除草奉仕。十四日～十五日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十五日、妙宗大霊廟孟蘭盆開顕大供養会。十六日、宣正会慶讃法要。御聖日集会、担当・井上陽市講師補。十七日、恩師忌。常勤給仕。三笠宮崇仁親王殿下問病祈念開始（朝拝）。江戸川区教育委員会来園。三十日、明治天皇百年祭。午前、賽主先生以下中央有志、明治神宮参拝。

◆八月一日、月旦大国祷。十二日、申孝園夏まつり。賽主先生、北海道地方連合局御親教・賽主先生式長にて小樽霊廟孟蘭盆開顕供養会厳修。松下陽一講師補随行（十四日迄）。十五日、妙宗大霊廟孟蘭盆（旧盆）開顕大供養会。賽主先生以下中央有志・靖国神社参拝（午後）。十七日、恩師忌。常勤給仕日。十八日～十九日、各局輪番常勤給仕日。十九日、妙宗大霊廟第千十一回例月供養会厳修。二十六日、大白牛院謙宝日乗大居士（田中香浦先生）第十七回忌追善法要。

（森山真治）

日本山妙法寺

◆平成二十四年二月四日～八月六日　全国の原発を巡る「命の行進」を歩む。二月十日茨城県百里基地～三月一日焼津ビキニデーに向けての平和祈念行脚を歩む。

◆二月十日～十五日　米海兵隊実弾訓練即時中止を求める日出生台御祈念を勤める。

◆二月二十二日～三月十一日　インド平和行進を歩む（ゴラクプール原発予定地から首都デリー・ガンディー翁御廟所）。

◆二月～三月　スリランカ国内のゴール、仏足山、ワラパネ、バンダラウェラ、アンパーラの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆三月二日～三月二十二日　ノーモア・フクシマ脱原発ピースウォーク（米国ニュージャージー州オイスター・クリーク原発からバーモント州バーモントヤンキー原発）を歩む。

◆四月二十八日　千葉県小湊仏舎利塔四十周年記念法要を厳修。

◆五月二十七日　日本山妙法寺　先師道人廟　開眼法要を厳修（熊本県阿蘇道場）

◆六月九日～八月九日　二〇一二東京～広島・長崎平和行進を歩む。

◆六月～七月　ヨーロッパの英国ロンドン、英国ミルトンキーンズ、オーストリア国ウィーン、イタリア国コミソの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆七月十一日～八月十一日　ノーモア・フクシマ平和行進を歩む（米国・カナダのオンタリオ湖のまわりを歩む）。

◆七月二十二日～八月六日　米国北西部平和行進（オレゴン州ポートランドからバンガー原潜基地）を歩む。

◆八月二十二日～九月一日　英国平和行進（オルダーマストン核兵器製造工場からヒンクレイ・ポイント原発建設予定地）を歩む。

◆十月七日　大分県別府仏舎利塔二十五周年記念法要を厳修。

◆十月十四日　日本山妙法寺大阪道場　再建新築落慶法要を厳修。

◆十月十八日～十月三十日　沖縄平和祈念行脚を歩む。

◆十月～十一月　インド国内の王舎城、ダージリン、デリー、オリッサの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆十一月二日　インド国デリー仏舎利塔平和館起工式を厳修。

◆十一月　ネパール国内のルンビニ、ポカラの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆十一月二十一日　韓国・曹渓宗仏教人権委員会より第十八回仏教人権賞を受賞。

◆平成二十五年一月九日　尊師行勝院日達聖人第二十九回忌追孝報恩法要を静岡県熱海道場にて厳修。

（武田隆雄）

京門連

◆平成二十五年度。会長　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。副会長　日蓮本宗本山要法寺貫首　嘉儀日有猊下。理事長　日蓮宗京都府第一部宗務所長　藤井照源師。副理事長　日蓮本宗本山要法寺執事長　岩崎広義師。

◆一月二十五日（金）午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十五年度役員確認の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度会務行事案の件、平成二十五年度予算案の件、平成二十五年度総会の件、平成二十五年度降誕会の件。

◆二月十六日（土）午後一時　京門連総会（日蓮宗大本山本圀寺）。平成二十五年度役員確認の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度会務行事案の件、平成二十五年度予算案の件。

◆同日　二時三十分　降誕会（日蓮宗大本山本圀寺）。導師　大本山本圀寺貫首　吉田日厚猊下。講師　本山要法寺貫首　嘉儀日有猊下。

◆三月四日（月）午後五時　理事会（日蓮宗大本山本圀寺）。立教開宗会の件、夏季大学の件。

◆四月二十六日（金）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。講師　選考中。

◆六月十四日（金）午後四時　理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）。夏季大学の件。

◆八月三十一日（土）午前十時　第五十回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）日蓮宗大本山妙顕寺貫首　和田日佑猊下。講師（大学）選考中。講師（一般）選考中。

◆同日午後四時　理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。

◆十月四日（金）午後三時　お会式準備奉行委員会（日蓮宗大本山妙顕寺）。お会式準備。行脚、法要等打ち合わせ。

◆十月五日（土）午後一時　お会式（日蓮宗大本山妙顕寺）。導師　日蓮宗大本山妙顕寺貫首　和田日佑猊下。講師　選考中。

◆十一月　全門連京都理事会（日蓮宗本山本法寺）。日蓮聖人門下連合会京都理事会、懇親会、別席。

◆十二月十六日（月）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十五年度会務行事報告、平成二十五年度決算中間報告。

（藤井照源）

日蓮宗

◆小松原法難七五〇年記念法要が宗門法要として十一月十一日、千葉県鴨川市の本山鏡忍寺で営まれる予定。

◆総本山身延山久遠寺で第二祖佐渡阿闍梨日向上人の第七〇〇遠忌報恩法要が九月一日から三日間営まれる予定。

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成25年9月23日
第48号

小松原法難七五〇年



小松原法難とは

文永元年（一二六四）十一月十一日の夕方、日蓮聖人と弟子信者十余名が安房国東条の郷松原大路（千葉県鴨川市広場付近）において東条景信らの襲撃を受けた事件を指し、東条法難とも呼びます。

弘長三年（一二六三）二月、伊豆流罪を赦免されて鎌倉に帰った聖人は、翌年の文永元年、安房へ帰郷されました。『可延定業御書』というお手紙に「日蓮悲母(はは)をいのりて候ひしかば、現身に病をいやすのみならず、四箇年の寿命をのべたり」とありますから、母親の病を見舞われたものと考えられます。

母親の回復を祈り、少し回復に向かった為、十月花房蓮華寺を訪れ以前の師匠であった道善房に面談し、十一月十一日、天津の工藤吉隆公の屋敷に招かれ向かう途中、松原大路において、地頭東条景信の襲撃に遭われました。東条景信にとって聖人は、地頭の権力の前に立ちはだかる敵対者であると同時に、浄土教を批判し宗教生活の根本を非議する極悪人でありました。

景信の聖人に対する憎しみは強く、聖人の帰郷を機会に迫害を加えんとしたものでした。

松原は東条郷の一画にあり、当然ながら地頭東条景信の支配下にある場所です。

聖人一行の動静は十分探知しての襲撃であったと思われます。

十余名の聖人の一行の中でも応戦できるものは三～四人でありました。

降る雨のように矢を射かけられ、電光のように太刀を斬りつけられるなかで、弟子一人が殉死し、二人が重傷を負い、聖人自身も頭に傷を受け、左の手を打ち折られました。

応戦が功を奏したか、救援が駆けつけたものか、景信自身が目的を達成したと判断して手を緩めたか、ともあれ、襲撃の中で命を落すことなく危機を逃れました。

この事件について、約一ヵ月うちもらされていままでいきてはべり。

いよいよ法華経こそ信心まさり候へ」

と、当時のありさまを具体的に記述されています。

殉死した弟子とは鏡忍房、工藤吉隆、重傷を負った二人は乗観房・長英房と伝え、後に襲撃のあった地に鏡忍寺が建立されました。

更に聖人は身延入山後、多難な弘教活動を振り返り「文永元年甲子十一月十一日頭にきず（瘡）をかほり左の手を打ちをらる」（『聖人御難事』）と記されています。

聖人は天津に逃れ、翌年、鎌倉に帰られました。

建長五年（一二五三）の信仰告白以来、清澄寺の追放、更に文応元年（一二六〇）の『立正安国論』の上申を経て松葉谷草庵の焼打、伊豆流罪、今回の東条景信の襲撃、と聖人に対する迫害の連続は、聖人自信の法華経の行者意識を高めていきました。以前は「法華経の持者」「法華経の行者」と表現していたものが、この法難を通して「日本第一の法華経の行者」と表明するに至りました。

本年十一月十一日は小松原法難のご正当をお迎えます。お題目を唱える多くの方々が、聖人をはじめとする鏡忍房、工藤吉隆の法華経に対する熱い信仰心、そして、み仏より授けられた使命を感得し、菩薩道に歩みを寄せては如何でしょうか。

報恩団参開催要項

◎報恩法要
開催人数　十名以上
報恩料　一名　二、〇〇〇円
所要時間　約二時間半程度
※所要時間は旅程のご都合に合わせご相談に応じます

◎特別開帳
開催人数　一名より
開帳料　一名　二、〇〇〇円

◎その他
和讃奉納　等
※お申し込みいただいた方には、改めて詳細を記した開催要項をお送り致します

報恩団参各種お申し込み

◎報恩写経納経
写経納経料　二、〇〇〇円
※含　写経用紙等一式

◎報恩塔婆奉納
殉教二聖者　五、〇〇〇円

◎祈　願
法難光臨鬼子母札　三、〇〇〇円
読み上げ祈願のみ　一、〇〇〇円

◎回　向
卒塔婆回向　三、〇〇〇円
読み上げ回向のみ　一、〇〇〇円

◎献　香（境内三祖墓前　並　上人塚）
献　華（境内三祖墓前　並　上人塚）

◎護持献金
法難霊場護持　一口　一、〇〇〇円

◎記念写真
八ツ切りサイズ　一枚　一、〇〇〇円

※各お申し込みの詳細は、開催要項にてご確認ください

お申し込み／お問い合わせ
電話　〇四―七〇九二―〇六〇四
本山鏡忍寺まで

交通のご案内

JR　：　外房特急「わかしお号」
東京駅より安房鴨川駅（終点）まで約２時間

車　：　東京湾アクアライン～君津ＩＣ～房総スカイライン～鴨川有料道路から鴨川（東京より約２時間）





従地ゆじゅつ

◆「一つになろう」「一致団結」「目標は一つ」「少局を捨て大道に……」。一つにまとまる言葉は沢山ある、でも中々その結果を出す事は難しい。先の参議院選挙でも野党が一つになってまとまって戦えば状況は違っていたであろう。

ことわざに「三人寄れば文殊の知恵」とあるが、文殊は知恵を司る菩薩で凡人でも三人集まって相談すれば何とかいい知恵が浮かぶものだという意味である。

◆人間、特に日本人はグループを作る意識が強いのではないかと感じる。島国根性ではないだろうが、気の合うもの同志が集まる習性なのだろうか。

◆日蓮聖人のご生涯はどうであっただろうか。

常に真実の教え、正法を捉えるに当たっては妥協のない生き方をされた。法華経の行者たる者の自覚を持たれ、歩まれる状況の中には大難四ヶ度少難数知れずと常に命がけの日々であった。

小松原、伊豆、竜ノ口、佐渡ヶ島の大難は、命を落とすべき程の大難だったが大難が起これば起こる程、法華経の行者日蓮としての自覚が高まっていった。

その大難には必ず変化の力が現れた。小松原では鏡忍房、竜ノ口では自然界の光り物、伊豆では弥三郎、佐渡では阿仏房等々。

◆一人でスタートされた日蓮聖人、敵、味方あれども法華経の行者として、法華経の教えを釈尊出世の本懐として布教伝道され多くの人を教化された。

「一天四海皆帰妙法」を目標に向い、日蓮聖人の心を伝えるべく二陣三陣と続いていく。

◆「教学」は受け継ぐ弟子達の捉え方により、一つのグループが生まれてくる。

日蓮聖人の教えを継承し伝道するも、各宗、各派、各教団の教学が次々と誕生する。

各宗、各派、各教団は違いがあってもその頂点には日蓮聖人、法華経があることは絶対である。

門下連合という素晴らしい組織が誕生し昨年結成五十年を迎えた。

門下連合会の存在意義は何にもまして深く甚大である。

◆教義、伝道教化、広報、護持運営等、其々に違いがあるが、「一つになろう」が実現出来れば祖願に近づける。

日蓮聖人ご降誕八百年は「一つになろう」のスローガンである。（源）

顕本法華宗管長就任挨拶



総本山妙満寺貫首
山本日恵

去る第三十八定期宗会に於いて決定され、三月十五日の招戴式を経て妙満寺の第三百六世の法灯を継承いたしました山本日恵でございます。

門連は、私が二十代のころから手伝いをしてきた、大変懐かしく、そして思い出深いことの多々ある団体であります。まだ一介の寺院住職として、行事毎に刈り出されて妙蓮寺の貫首さんの松下猊下、亡き今村師等と御会式の前宣伝に、寺町の電気屋で自家用車にマイクを取り付けて、市内一円を周回したのも遠い思い出の一つです。門連の御会式も当時は大変盛況で、「本能寺」を出発した先頭が、目的地の「丸山音楽堂」に到着しているのに、最終がやっと出発できるほどでした。叡山への開宗会も、バス六台、時には七台ということもありました。一時の盛況ぶりから見ると、近年は大変寂しくなってまいりました。

近年いわゆる「ほとけごと」と言われる、仏事全般が簡略化という美名のもとに、ないがしろにされている実態を見るたびに、今のままでは遠くない将来、多くの仏教行事が埋没してしまうのではなかろうかと危惧しております。原因のない結果はないわけで、数えればいくつか挙げられるでしょうが、今はそれよりもどうすることがあるべき姿を取り戻す道かを探求すべきかと思います。これは決して門連のみの問題ではなく、私たち皆の上にのしかかっている大問題でありましょう。

葬儀式の簡略化・法事等の簡素化等、私たち出家者が安易に見過ごしてきたツケが舞い込んできたのです。もっと厳粛にあらねばならなかったと思います。まず葬儀式の簡略化には、私たちは絶対抗議すべきであります。誕生・成人式・結婚・第一子誕生という、人生の大きな節目とも言うべき一人の「人の終焉の場」は、最も大切な儀式の一つであってほしいものです。六十年なり七十年の、歴史を刻んだ一人の人間の最期なのですから、華美にする必要はないものの、亡き人の矜持を傷つけない式典は、子孫としてなすべき当然のことであろうと思います。なまじ通知を絞ったために、後から恥ずかしい思いをしたという話もよく聞くところです。法事の簡素化については、私たち坊さんもその場に加わる一人として進言すべきだと思います。もちろん当家の経済状況も考えるべきでしょうが、案内をしない理由が単に顔を知らないからとか、忙しそうだからというのは見せかけの理由であって、それは準備をしてなかったのが最大の理由であります。私たちはその家の大事な仏様をお預かりしているのですから、その方の節目の御法事は前もってわかるのですから、二、三年前から準備をするようにアドバイスするのです。私はそれが、本当の親切であろうと思っております。これは親戚関係にある檀信徒同士から聞く話ですが、親戚の疎遠になる一つの原因にもなっているように思います。

私たちの生活環境は、歳毎に狭くなりつつあります。親戚との交際もうるさい一面もあるもの、普段の付き合い次第で大切な問題も相談できるのです。大きいことが良いとは限りませんが、親戚との付き合いは大事にしておきたいと思います。

就任の挨拶が大変下世話なものなりましたが、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

「オラトリオ日蓮聖人」演奏会開催



昭和五十七年に日蓮聖人門下連合会が宗祖七百遠忌報恩事業の一つとして初演した「オラトリオ日蓮聖人」が三十年ぶりに再演されることになりました。

この演奏会は、門下連合会相談役・日蓮宗本山藻原寺貫首持田日勇師が六老僧日向聖人第七百遠忌報恩事業として主催し、茂原交響楽団・「オラトリオ日蓮聖人」を歌う合唱団・立正大学グリークラブ・日蓮宗谷中学寮の協力により、茂原市民会館、墨田トリフォニーホール（錦糸町）の二箇所で開催されることが決定しました。

「オラトリオ日蓮聖人」は、作詞に西川満氏、作曲に黛敏郎氏が担当され、宗教上の偉人の生涯を劇的に音楽に乗せて物語る聖譚曲として、五年の歳月をかけ完成しました。五部十五章からなる構成は、

◆第1部「海」　1誕生　2立志　3開宗
◆第2部「花」　4折伏　5俎岩　6合戦
◆第3部「光」　7諫言　8寂光　9降星
◆第4部「雪」　10配所　11開顕　12赦免
◆第5部「山」　13禅定　14勤行　15入滅

とされ、日蓮聖人の波瀾に満ちた生涯を朗読の展開によって、独唱、合唱、オーケストラの伴奏に太鼓が加わり壮大に表現されております。

現在、日蓮聖人門下連合会でもこの演奏会に向けて力強く後押しをしておりますが、門下僧俗をはじめ多くの一般の方々までもが、宗祖の生涯と法華経の精神に思いを馳せながらご試聴されては如何でしょうか。

〈開催日〉
平成二十五年十月六日（日）午後二時
千葉県茂原市茂原市民会館
平成二十五年十月十九日（土）午後二時
墨田トリフォニーホール（錦糸町）

〈チケットお申込・お問合せ〉
日蓮宗本山　藻原寺
〒二九七―〇〇二六
千葉県茂原市茂原一二〇一
℡〇四七五（二二）三一五三

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二四・一一・二六	門谷日悠 布施義高	法華宗陣門流	理事	就任	退任
平成二五・三・七	中村日玄 山本日恵	顕本法華宗	顧問	就任	退任
平成二五・五・三〇	伊藤通明 持田貫宣	日蓮宗	相談役	就任	退任
平成二五・五・三〇	持田貫宣 遠藤文祥	日蓮宗	監査	就任	退任
平成二五・八・一三	小西日遶 平田日範	法華宗本門流	顧問	就任	退任

推薦図書

第百四十八回直木賞受賞作品
安部龍太郎著『等伯』（上下巻）・日本経済新聞出版社
各一六八〇円（税込）

絵師「等伯」の誕生を骨太に描く傑作長編。

三十三歳で能登から上洛。物事の本質を極めたいという絵師の性と、荒ぶる武家の血が、妻子とともに苦難の道を歩ませる。そして、本能寺の変が運命を変える。

都に出て天下一の絵師に。



義父母の非業の死により故郷を追われ、焦熱の道へ。激動の戦国の世と法華の教えが、画境を高みに誘う。「あなたの絵には真心がある」やがて信長の天下が終わり、大手を振って京へ……。

愛と鎮魂の「松林図」。等伯がたどりついた境地。

都で地歩を固め、信長が重用した狩野永徳と対決。長男・久蔵の狩野派入りと秀吉の朝鮮出兵を巡り、永徳の死後、両派の確執は深まる。「松林図」はなぜ描かれたのか。

誰も見たことのない絵を。

狩野派との暗闇、心の師、千利休の自刀……秀吉の世に台頭する長谷川派を次々と襲う悲劇。窮地に立たされた等伯は、命をかけた一枚に挑む。亡き者たちを背負い、名刹を離れ、おのれの画境へ。

（藤井照源）

赤い風船
MACH マッハ
Best Excellent ベストエクセレント
Best ベスト

仏教関係の
ご旅行に詳しい担当が
お手伝いします。

・全国各地や海外への団体参拝
・各種研修会会場やパーティー会場手配

日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY
http://www.nta.co.jp

新宿法人営業部
TEL: 03-5369-3929　FAX: 03-3225-1005
masaharu_kaneko@gnta.jp
担当：営業７課　金子 雅晴
遠方のお客様には近隣の支店をご案内いたします

本年十一月十一日は小松原法難七百五十年を迎えます

（平成二十五年九月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　渡邊照敏
伝道局長　齊藤憲一
総務局長　塩崎望巳
伝道部長　中井本秀
教務部長　川口久雄
総務部長　池田弁岳
財務部長　川口智康
宗務総長室長　渡邉義生
現代宗教研究所長　三原正資
参与　渡邉一之
参与　吉田海心
日蓮宗新聞社社長　村上俊正

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管　長　平田日範
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　佐藤義賢
財務部長　久永晃顕
布教部長　斎藤舜駒
教学部長　金井孝顕
松本義仙

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管　長　山本日恵
宗務総長　朝倉俊幸
宗務次長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
庶務部長　阿曽久成
社会部長　湯原純勇
布教部長　桑村信慶
財務部長　河野時巧

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管　長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　牧野秀成
教学部長　布施義高
教化部長　今井満良
財務部長　金原孝宜
企画部長　山岸観深

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

宗務総長　木村日覚
宗務副総長　西村日要
教務局長　亀井日魁
弘通局長　植田日事
総務局長　藤本日唱
広報局長　澤田日松
財務局長　西村勲
特別局長　藤本日涌
植松常二郎

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管　長　嘉儀日有
宗務総長　岩崎広義
総務部長
財務部長　原田智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管　長　田仲日紘
宗務総長　堀智泰
総務部長　木村完祥
教学部長　堀内浩善
教化部長　加藤順正
財務部長　土田泰源
社会部長　峰尾泉栄

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管　長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

宗教法人　国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

理事長　田中壮谷
理事長　田中勇一郎
門連常任理事　本間直暉
門連理事　藤本坦孝
門連理事　原田義彦
「門連だより」編集委員　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376　京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内
電　話　〇七五（七六二）二四一一
FAX　〇七五（七五二）九三三八

会　長　伊丹日章
副会長　嘉儀日有
理事長　藤井照源
副理事長　岩崎広義

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町八―七
電　話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首　座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗（本門流）大本山
本興寺
貫首　小西日遶
執事長　圓成淳龍
役職員一同
〒606-0862
兵庫県尼崎市開明町三―一三
電話　〇六（六四一一）三二一七
FAX　〇六（六四一三）二四三八

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　山本日恵
総務　吉永義康
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

日蓮宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　石丸日然
執事長　笹原壮玄
執事　平井良光
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫主　田仲日紘
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
書記　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

京都八本山会
本山本満寺　貫首　伊丹日章
大本山妙顕寺　貫首　和田日佑
大本山本圀寺　貫首　伊藤日慈
本山立本寺　貫首　上田日瑞
本山妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山頂妙寺　貫首　安藤日瑛
本山妙覚寺　貫首　及川日周
本山本法寺　貫首　瀬川日照

本門佛立宗本山
宥清寺
住職　二十五世講有　山内日開
執事長　小野山日住
事務局長　伊藤隆之
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　川合陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　嘉儀日有
大学頭　丹治日遠
執事長　岩崎広義
執事　原田智光
執事　原光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　橋本宏信
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗大本山
清澄寺
別当　二宮日敬
執事長　宮崎雅宣
役職員一同
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。一六〇名様まで可。

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

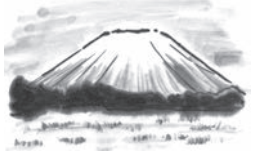
日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
参与　渡辺行俊
参与　植田観樹
参与　吉田文堯
参与　田中貞奨
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十五年九月現在）

門連時報

祖廟参詣及び身延理事会開催さる

平成二十五年五月三十日（木）、日蓮宗総本山身延山久遠寺内祖廟において、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長等、二十八名が参列し法味を言上。続き、報恩閣にて身延理事会が開催された。

午後一時四十五分、渡邊照敏理事長が座長となり議事を進行。「平成二十四年度事業報告」「平成二十四年度決算報告」について事務局より報告。決算報告では別所日山師より監査会で精査されたことが告げられ一同承認。次に、「平成二十五年度事業計画案」「平成二十五年度予算案」を事務局より報告、一同承認。続き、「京都門下連合会活動報告」を藤井照源理事長より、「地方門連活動に関する報告」を東孝信理事長より報告された。「その他」の事項では、「オラトリオ日蓮聖人」における各教団の参加が、藻原寺貫首持田日勇師より求められていることを事務局より報告し、十一教団が異体同心して協力することが確認された。午後三時閉会。会場を日本平ホテルに移し、午後六時より各派教団による懇親会が催された。

本門法華宗 大覚大僧正第六五〇遠忌 日隆大聖人第五五〇遠忌 御報恩法要

五月十二日、大本山妙蓮寺において、大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌御報恩法要が奉修されました。

当日は初夏を思わせる快晴となり、天童稚児練り供養行列が本隆寺様より正午に出発、七十二名のお稚児さんとその保護者・ご寺院方・檀信徒など総勢二百八十名の大行列となりました。

午後一時、松下日肆貫首大導師のもと、京都日蓮聖人門下各本山代表・教学講習の先生方・工事関係諸氏をご来賓に迎え開式。本山総代による献茶、本山婦人会による献花がなされ、天童稚児代表の稚児問答により本堂が荘厳、大導師日肆貫首より御遠忌の慶讃文が奏上され、読経、参列者献香、唱題。

続いて式典へ移り、御遠忌奉讃会委員長藤井日靖総長より、御報恩事業として記念出版した『宗門史(前編)・勝劣派の系譜』を執筆された増田日紘閑士、同じく御報恩事業として本堂大屋根改修工事を施工した金剛組に感謝状が贈られました。最後に御報恩感謝のお気持ちを捧げていただき、閉式となりました。

（吉村光敬）



京都日蓮聖人門下連合会 四大事業開催

御降誕会

日蓮大聖人七九二回御降誕会が二月十六日　日蓮宗大本山本圀寺で奉行され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百名が参列した。法要に先立ち総会が開催され事業報告、会計報告、役員改選等承認された。降誕会法要は、吉田日厚貫首導師、藤井照源（京門連理事長）岩崎広義（京門連副理事長）副導師のもと進められ、日蓮大聖人御降誕に御報恩の誠を捧げた。法要後、京門連副理事長、岩崎広義師による「日蓮聖人の御生涯」と題し講話があり、日蓮大聖人の御降誕の意義を学んだ。

立教開宗会

第七六一回立教開宗会が、四月二十六日、日蓮大聖人近畿御遊学十二年比叡山横川定光院で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百二十人が参加した。法要に先立ち、日蓮本宗本山要法寺執事長岩崎広義師「立教開宗について」と題して法話。法要は、大導師に京門連会長日蓮宗本山本満寺貫首伊丹日章猊下、副導師に京門連理事長藤井照源師、京門連副理事長岩崎広義師を屈請、京都雅楽会が出仕して営まれた。参列者一同、建長五年の清澄寺旭が森に思いを馳せ、そこに辿り着くまでの定光院での日蓮大聖人の苦労を偲んだ。法要後は、石山寺を見学、一同親睦を深めた。



夏季大学

京都日蓮聖人門下連合会主催の第四十九回夏季大学が八月三十一日、本能寺文化会館で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約二百名が参加し、聴聞した。日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐ―今、生きるよろこび、生かされるよろこび―のテーマのもと、三講師のお話を聞き、学んだ。

日蓮宗本山本法寺貫首瀬川日照猊下は「御題目の尊さ」―日親上人の生涯を通じて―と題し講演。立正大学名誉教授中尾堯先生は「法華本尊の諸仏像」続いて直木賞作家安部龍太郎先生が「長谷川等伯と法華信仰」と題し講演された。

尚、十月五日（土）に日蓮宗大本山妙顕寺に於て御会式を奉行する。

（藤井照源）

日蓮聖人註画讃
小松原山 鏡忍寺 宝蔵



日蓮宗を代表する貴重な御伝記を初めて解読・読み下し、現代語訳を添えました。





A４判上製本箱付／112頁／
オールカラー
発願・小松原山本山鏡忍寺
監修・中尾堯
頒価5,250円（税込・送料別）



（株）日蓮宗新聞社　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　FAX 03-3753-7028　TEL 03-3755-5271

各派・教団・短信

顕本法華宗

◆二月二十日・二十一日の両日、静岡県浜松市内において、妙塔学林研究科が開講された。布教総監河村孝照師による倶舎論の講義が行われた。

◆二月二十八日、千葉県木更津市本立寺において、開祖日什大正師の開山会法要が奉修された。法要後、特命布教師・小松正学師による講演が行われた。

◆三月六日・七日の両日、総本山妙満寺において、第六十八定期宗会が開催された。平成二十四年度宗務事業報告及び決算、平成二十五年度事業計画及び予算案が承認された。宗会において、二期にわたり管長を勤めた中村日玄猊下がご勇退され、新たに推挙された山本日惠猊下が、新管長・第三〇六世貫首となられた。

◆四月十五日、総本山妙満寺において、前管長中村日玄猊下より新管長山本日惠猊下への、顕本法華宗管長・総本山妙満寺貫首の法燈承継式が執り行われた。承継式終了後、グランドプリンスホテル京都において、賑やかに祝賀会が行われた。

◆四月二十七日・二十八日の両日、総本山妙満寺において、「開祖日什大正師御生誕七〇〇年慶讃大法要」が厳修された。また正当法要・春季報恩大法要・併せて東日本大震災三回忌追悼法要と霊宝「安珍清姫の鐘」鐘供養が併修された。鐘供養後に、奉納演奏として雅楽師・東儀秀樹氏による記念公演が開催された。その他、天童稚児行列など、二日間に渡る慶讃法要が賑やかにとり行われた。

◆五月二十日、総本山妙満寺において、公開研究例会が開催された。三名の研究発表後、布教総監河村孝照師、立正大学講師の藤野泰二氏による特別公開講義が行われた。

◆五月二十三日・二十四日の両日、寛文法難先師顕彰参拝が行われ、宮崎県日南市にある顕彰碑前において報恩法要が奉修された。

◆七月二十五日～二十八日の三泊四日にわたり、総本山妙満寺を会場に「第四十九回・顕本青少年錬成会」が開催された。

◆八月二十五日～九月八日の十五日間にわたり、総本山妙満寺において、妙塔学林が開催された。

(橘無限)

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺（新潟県三条市）で「節分大祈願会」が、本成寺貫首・石丸日然猊下導師により厳修された。今年も大勢の参詣者で賑わい、午後一時と三時の祈願終了後には恒例の鬼踊り、豆まきが行われ参詣者を楽しませた。

◆三月六日・七日の二日間、第百二十次定時宗会が宗務院（東京巣鴨）にて開催された。

◆四月二十六日、宗務所長会が宗務院にて開催された。

◆五月八日、宗研所報編集会議が宗務院にて開催された。

◆五月八日、布教研究所所員会が宗務院にて開催された。

◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺（静岡県伊東市）で「伊豆法難会」が中野日仁山主導師により厳修された。本堂での法要に引き続き、俎岩を間近に臨む奥の院にて法要が営まれた。

◆五月十三日～六月二十一日までの四十日間、「法華宗学林」が総本山本成寺にて開講された。今年も全国より多くの寺院徒弟が集まった。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

◆五月二十四日～二十六日の三日間、総本山本成寺で「祠堂法要」が日然猊下導師により厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。

◆五月三十一日、会計監査会が宗務院にて開催された。

◆六月三十日、雅楽練習会が宗務院で開催された。

◆七月三十日、宗法審議委員会が宗務院にて開催された。

(田辺尚志)

法華宗真門流

◆三月二十五日～二十七日、総本山本隆寺に於いて、「第三十回僧風林」開催。

◆四月七日～二十六日、総本山本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日～十三日、総本山本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆四月十六日～二十日、福井・本承寺に於いて、布教師養成所（岡眞行所長）開所。

◆五月一日、第二教区青年会設立総会開催。

◆五月十九日、第二十九回合掌運動北海道大会開催。

◆五月二十日、第三教区教学研修会開催。

◆六月六日～七日、総本山本隆寺に於いて、研修員研修会開催。

◆六月七日、総本山本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。午前は、真門学林長 岩崎峻暉師の講演「観心本尊抄概論」。午後は、顕本法華宗宗学研究所所長 窪田哲正上人の講演「日蓮聖人修行時代の教風について 清澄～叡山」。

◆七月二十二日、臨時宗会開会（会期一日）。

(森田量哲)

本門法華宗

◆三月十二日、第百二回本門法華宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催。

◆三月二十九日、大本山妙蓮寺において遷座法要を奉修。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺において春季大法要、併せて本堂開堂法要・大覚大僧正御尊像開眼法要を奉修。

◆五月十一日、大本山妙蓮寺において、御遠忌法要第一座写経納経法要を高邉日援閑士大導師のもと奉修。第二座万人講法要を松本日望閑士大導師のもと奉修。

◆五月十二日、大本山妙蓮寺において、御遠忌法要第三座大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌御報恩大法要を松下日肆貫首大導師のもと奉修。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百四十四回教学講習会を三月二十五・六日、第百四十五回同講習会を六月二十四・五日、卯木講堂にて開講。

◆布教誌『生きる』第六十号、信報『信行』第百七十九号を七月一日に発行。

(吉村光敬)

国柱会

◆四月一日、月旦大国祷。七日、釈尊降誕会慶讃法要。御聖日集会、担当・秋場昿雄講師。十三～十四日、賽主御夫妻、国柱会弘前局御親教、及び弘前霊廟供養会督式（於、青森県弘前市）。十七日、恩師忌。常勤給仕日。二十日、安部晋三内閣総理大臣主催「桜を見る会」（於新宿御苑）に賽主出席。二十日（土）～二十一日（日）妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十一日、妙宗大霊廟例月供養会。二十八～二十九日、第八十三回身延登詣団開催。二十八日、立正会慶讃法要。御聖日集会、担当・秋場昿雄講師。

◆五月一日、月旦大国祷。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。十二日、伊豆法難会慶讃法要。御聖日集会。担当・松本充子講師補。十七日、恩師忌。「明治の日」推進協議会実行委員会（於、衆議院議員第二議員会館）、森山真治講師補出席。十八～十九日、各局輪番常勤給仕。十九日（日）妙宗大霊廟例月供養会。二十一日、日本会議野崎様本部ご来園。二十四日、賽主御夫妻、九州地方連合局御親教。随行・森山真治講師補、二十六日迄。二十九日、賽主、日蓮聖人門下連合会身延理事会御出席。随行・松下陽一講師補。

◆六月一日、月旦大国祷。十三日、賽主、東日本大震災被災地復興支援活動（福島県南相馬市）。十五日迄。十五～十六日、妙宗大霊廟例月供養会。十七日、恩師忌。常勤給仕日。二十一日、日本会議野崎様本部ご来園。二十四日、賽主御夫妻、九州地方連合局御親教。随行・森山真治講師補、二十六日迄。二十九日、賽主、日蓮聖人門下連合会機関誌編集委員会（於、日蓮宗宗務院）に森山真治講師補出席。三十日、中央連合協議会御修行練習開催。指導・若杉日出雄講師。

(森山真治)

京門連

◆平成二十五年度。会長　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。副会長　日蓮本宗本山要法寺貫首　嘉儀日有猊下。理事長　日蓮宗京都府第一部宗務所長　藤井照源師。副理事長　日蓮本宗本山要法寺執事長　岩崎広義師。

◆一月二十五日（金）午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十五年度役員確認の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度予算案の件、平成二十五年度総会の件、平成二十五年度降誕会の件。

◆二月十六日（土）午後一時　京門連総会（日蓮宗大本山本圀寺）。平成二十五年度役員確認の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度会務行事案の件、平成二十五年度予算案の件。

◆同日二時三十分　降誕会（日蓮宗大本山本圀寺）。導師　大本山本圀寺貫首　吉田日厚猊下。講師　本山要法寺執事長　岩崎広義師。

◆三月四日（月）午後五時　理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）。立教開宗会の件、夏期大学の件。

◆四月二十六日（金）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。講師　日蓮本宗本山要法寺執事長　岩崎広義師。

◆六月十四日（金）午後四時　理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）。夏期大学の件。

◆八月三十一日（土）午前十時　第五十回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）日蓮宗本山本法寺貫首　瀬川日照猊下。講師（大学）立正大学名誉教授　中尾堯先生　講師（一般）直木賞作家　安部龍太郎先生。

◆同日午後四時　理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。

◆十月四日（金）午後三時　お会式準備奉行委員会（日蓮宗大本山妙顕寺）。お会式準備。行脚、法要等打ち合わせ。

◆同日　理事会（日蓮宗大本山妙顕寺）。全門連京都理事会について。

◆十月五日（土）午後一時　お会式（日蓮宗大本山妙顕寺）。導師　日蓮宗大本山妙顕寺貫首　和田日佑猊下。講師　選考中。

◆十月九日（水）京門連設立六十周年記念式典（ＡＮＡクラウンプラザホテル京都）。

◆十月二十四日（木）全門連京都理事会（日蓮宗本山本法寺）。日蓮聖人門下連合会京都理事会、懇親会（京都ホテルオークラ）。

◆十二月十六日（月）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日　午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十五年度会務行事報告、平成二十五年度決算中間報告。

(藤井照源)

日蓮宗

◆小松原法難七五〇年記念法要が宗門法要として十一月十一日、千葉県鴨川市の本山鏡忍寺で営まれる。

◆身延山久遠寺で第二祖佐渡阿闍梨日向上人の第七〇〇遠忌報恩法要が九月一日と三日に営まれた。

◆「千鳥が淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が八月十五日、千鳥が淵戦没者墓苑で渡邊照敏宗務総長を導師、東京四管区の宗務所長が副導師で営まれた。

(大澤宏明)

法華宗本門流

◆二月十五日、沼津市大本山光長寺貫首　石田日信猊下が任期満了を迎え、十六日、重任された。

◆二月二十五日、法華宗再興之唱導師日隆聖人第五五〇遠忌御正當。

◆三月十一日、東日本大震災第三回忌奉修（於　茂原市　大本山鷲山寺）。

◆三月十二日、東日本大震災第三回忌・角塔婆法要奉修（於　福島市立正院）。

◆三月三十一日、本宗の教義を総合的に研究し、宗旨の宣揚を目的とする「法華宗教学研究所」より、機関誌『桂林学叢』第二十四号が発行。

◆四月二日、日隆聖人により享徳三年（一四五四）に創立され、現在まで続く「興隆学林専門学校」の入学式が行われた。

◆四月十一日、戦没者慰霊法要奉修（千鳥ヶ淵墓苑）。

◆本年は法華宗再興之唱導師日隆聖人の第五五〇遠忌に当たり、大本山及び御廟所で大法要が厳修された。

五月三日～五日、尼崎市　大本山本興寺（日隆聖人開山）。

五日～七日、京都市　大本山本能寺（日隆聖人開山）。

六月十六日、射水市　誕生寺（日隆聖人御生誕地）。

◆五月二十一日～二十三日、第六十七次宗会が開催。本宗会においては、「興隆学林専門学校」の耐震改築が決議された。

◆五月二十九～三十日、平成二十五年宗務所長会開催。

◆八月十三日、茂原市　大本山鷲山寺貫首　平田日範猊下が法華宗第一三三代管長に就任。

◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す、教学講習会の本年日程は次の通り。

四国（六月十七日～十九日）、九州（七月二十三日～二十五日）、北海道（八月二十八日～三十日）、大阪（九月九日～十一日）、東北（九月十日～十二日）、東京（十月二日～四日）。

◆本年より、僧侶の布教技術の攻究を目指す、布教法式研修会が開催される。日程と内容は次の通り。

(法話) 九月四日～五日　於　尼崎市　大本山本興寺。

(法要式) 九月二十七日～二十八日　於　沼津市　大本山光長寺。

(宮村光明)

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日　蓮　宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　本門法華宗
国　柱　会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人
門連だより

平成26年2月16日
第49号

明日を開く



本門法華宗管長（大本山妙蓮寺貫首）
松下日肆

ある新聞が「国を滅ぼす大将、馬鹿な大将、利口過ぎる大将、臆病なる大将、強すぎた大将のタイプ」を紹介していた。私達仏徒はどれに該当するのかを考えさせられる。ここで先ず妙蓮寺を紹介したい。

妙蓮寺は日像菩薩の開基で永仁二年（一二九四）の創立で華洛最初脱履の道場と称し、一時廃寺の運命にあったが、応永年間（一四二〇頃）仏性院日慶聖人に依って再興、永享十二年（一四四〇）に堀川四条に移りしも、秀吉の聚楽第造営で現在地に移転して四〇〇年となる。本能寺日隆聖人の勧学を経た妙蓮寺日忠聖人は、本門八品の教意を伝承するため学室道輪を創立し、その教学を今日私共は昼夜勉学に励む次第です。



日漢聖人墓

天文五年（一五三六）妙蓮寺日漢聖人の活動は、天文法乱松本問答記にも見え、本満寺文章にも記されているように、国を滅し、法華衆徒に害を施す大将を諫める行為と思う。天文法華の乱は『座中天文記』に、一揆に全く無関係の一般市民にも被害が及んだとあり、その中に僧中では一乗寺日耀、妙覚寺日兆、妙顕寺日将、妙蓮寺日漢らが乱兵に殺害され、花の都は修羅場と化したとあり、法華一揆は殆ど英雄的な防戦であるとも記している。先に記した、国を滅ぼす大将を、馬鹿でもない、臆病でもない、先師が活動した時代を振り返って見ました。以来幾十年、歴代先師先哲上人は、聖祖の遺訓を守り続け、明治の廃仏毀釈、慶応四年（一八六八）の仏教排撃運動は寺院、仏像破壊僧侶の還俗強制と発展した。先師の御苦労を思う時、その時代時代の教訓を私共が学ばなければならない点は多々あると思う。

京都日蓮聖人門下連に至っても、法華経の弘通、お題目の広宣流布のため、各々尽力してきた。十六本山の活動は、昭和三年十一月十日十六本山会主催で提灯行列大行進を実施したとあり、十六本山会は別に京都立正会を結成して布教に努め、昭和二十年十月一日から共同募金赤い羽根運動を始めている。昭和二十七年京都仏教会主催の四月八日釈尊御生誕の聖日、花まつりを奉修し各宗派輪番で行う当番寺が日蓮宗であると伝達あり、京都日蓮宗第一部宗務所長は、日蓮宗独自でなく法華各派共同で奉行してこそ、本当の花まつりとなることを力説して法華各派十六本山結集を呼びかけ、花まつりを厳修し、これを期して聖祖門下連合会が発足。昭和三十二年十月九日復活の御会式報恩万灯提灯行列が毎年執り行われた。また昭和三十六年七月二十五日から四日間、京都会館に於いて世界宗教者平和会議が開催され、これを期に聖祖門下十六本山会の復活にも尽力した先師は本山立本寺の細井日苑猊下でもあった。私も妙蓮寺衆徒としてお手伝い致し、現在も細々と平和会議に参加しています。昭和三十八年聖祖門下連合会夏季講習、昭和四十年聖祖門下連合を発展させ、京都日蓮聖人門下連合会と改名し、充実した組織作りに着々と進み現在の京都門連の時代となりました。昭和四十六年この年は日蓮大聖人御降誕七五〇年に当たり、京都門連は京都新聞社との主催で十月十九日より二十四日までの十六日間、京都府立総合資料館に於いて「生誕七五〇年記念・日蓮展」を開催しました。京都門連は今も明日へ向かって前進を続けている。

平成二十五年十月九日京門連六十周年記念大会を開催、全門連の先師多くの先達を迎えて盛大に開催されたことは喜ばしい限りでありました。討論会では教学的な問題、現世の問題、歴史社会等の問題と様々でしたが、パネラーと出席者の間の討論は、現在世相に対してどう対処すべきか等々が話題となりました。門連ゆえに出来る事業の実施も話し合われ、その中での感じは、聖祖の「夫れ仏法を学せん法は必ず先ず時をならうべし」の教訓である事を痛感しました。前に記した、「馬鹿な大将」はいないが、今は「臆病なる大将」が多くて困るでは何事も進まない。残すところ七年、聖祖の御降誕八〇〇年（二〇二二）を門下が一丸となって事業を企画するのか、また各宗派毎に企画実施するのかも今は未知数である。全国の各門連が提唱し、各派が積極的に研究し実行していく事も考えられる。全門連は「利口過ぎる大将」を解けば、頭は切れる能力は結集して明るい、人々の意見は先に聞いている。良くも悪くも後は実行のみでは何も進まないと思うので、聖祖の御降誕八〇〇年は、門下が等しく抱える問題を考える場の提供として、万全を期して企画案を想定するか、門連全体会議で案を練ること等を考慮してほしいと今は願うのみであります。



妙蓮寺本堂

従地ゆじゅつ

◆教育基本法第九条宗教教育第一項に宗教は尊重すべきこととされている。第二項は憲法の政教分離の規定を受けて、国公立学校の宗教的中立性が示されている。私立学校では時間を設けている学校もあるが、公立ではあまり教えられていない。尊重されてしかるべき宗教なのに……。日本はやはり仏教を学んでもらいたい。子供のころから仏教教育を徹底すべきである。

◆日本人はマヒしている。宗教を嫌いながらも、一方では宗教団体を与党にしている。今や、それがおかしいとも思われていない。政教分離を理解していない、そのような某団体の教義を学ぶ必要はない。仏教の根幹である思想を取得することが重要なのだ。教えていいことといけないことの境を教育者はなぜ分からないのか。

◆オウム・アレフや富士大石寺顕正会などによる宗教被害がある。子供のころから先祖や仏教に身近に接している人間であればバカバカしいと被害にあわないだろう。被害にあう人はそのバカバカしさに気が付かない。それは仏教を学んでいないからで、悩んだ時だけ神頼みをするからだ。仏教を学んでいないと変な宗教であっても、それが正当だと思い込む。そしてどっぷり入ったら最後、友達もいなくなり依存してしまうのだ。

◆人間らしく生活するためにも、仏教を簡単に教えられる環境づくりと、仏教が身近にあるという意識改革が必要であろう。これにより日本の教育は誇れるものとなる。

◆某国のように排他的・攻撃的ではなく、静かに観察する日本の姿勢は仏教の教えに通じる。自由気ままにやられても平然と対処する日本人は、一方で苦湯を呑むこともあるが、それは協調性・社会性に特化したものであり、素晴らしい結果を招くことにつながる。

◆僧侶ももっと教育をうけ、自慢ではなく自信をもってもらいたい。ある宗派が髪の毛を伸ばしている。理由は「なぜ坊主にする必要があるのか」という発言からだと聞く。髪の毛を伸ばすどうこうは別にして、そのような意見が出ることがいささか疑問だ。ただ、遊びに行くときに僧侶であることを知られたくないからであろう。僧侶こそ仏教教育を叩き込まないといけない。布施行も檀家ばかりに行わせ、本来行うべき僧侶が行っていないということもある。近所に、朽ちた本堂の脇に近代的な庫裏？　が立ち高級車を洗車している僧侶がいる。それでは仏教は嫌われる。我々僧侶が身をもって仏教を示し、教えていかなければならない。（吉）

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話（03）3751-7181

《各派のページ》

第五回「法華宗真門流宗門内外で活躍する僧侶」



法華宗真門流総本山本隆寺執事長
総本山塔頭・本城院住職

足立真正(光嶽)さん

重文指定（本堂・祖師堂）

現在、総本山本隆寺執事長を拝命して二期六年目になります。平成二十年に「総本山本隆寺造営準備会」なるものを立ち上げ、本堂大改修の必要性を吹聴し始めました。

平成二十三年三月に念願の「総本山本隆寺平成大改修委員会」が宗内を網羅して組織されました。そして、平成二十四年一月に趣意書発送となったのです。当門流にとりましては、破格な金額勧募の大事業となりましたが、御開山日真大和尚の御加護を信じてひたすら奔走する日々でありました。

ところが、平成二十五年初頭から思わぬ展開を見せます。三百五十年強の歴史を有する総本山本隆寺本堂・祖師堂が、並列に建つ様式も含めて「歴史的価値の高いもの」であるとして、国の重要文化財指定の方向に動き出したのです。半信半疑のまま春夏が過ぎ秋になり、十月十八日に新指定の答申が新聞紙上に掲載され、テレビ・ラジオでも放送されました。私達にとりましても、余りにも唐突で何か狐につままれたような出来事でした。大変感激しておりますが、今春大改修着工の予定がずれ込むのは残念ではあります。

（プロフィール）
あだち　しんしょう（こうがく）昭和二十五年一月京都市生れ。大谷大学文学部卒。総本山塔頭で生まれ育ち、宗務・山務の事務方として長年活躍する。「書」を古谷蒼韻（芸術院会員）に学び四十年。日展会友（入選二十八回）・読売書法展常任理事（審査員二回）・日本書芸院評議員。

「読売大賞」受賞

全く非力な私が立場上あれやこれやと、身に過ぎる責任を負っているのですが、案外心平静に乗り越えることが出来ています。これは一にも二にも宗内の皆々様の御尽力のお蔭、御開山日真大和尚の御加護であると感謝しております。それと今一つは、大好きな「書」が心の杖になってくれたからではと感じております。

大改修の雲行きが思いにまかせず、心に暗雲が立ちこめることは度々でしたが、たとえ十分でも二十分でも時間があると、筆を手にして半紙に向っていました。好きな古典を臨書していると一瞬にして至福の時が訪れ、心の憂さが晴れるのです。

そんな中、昨年の夏読売書法展第三十回記念展に於いて、グランプリの「読売大賞」を受賞しました。まさに青天の霹靂、本人も含め誰も予想しなかった結果でした。今振り返ると、十分書き込む時間は無かったのですが、その分下品な欲も出なかったのでしょう。受賞作を書いた時のことを思い返してみると、作品の山場で筆が割れ過ぎ「あッ」と声がもれた後、どう書いたか覚えていないのです。その覚えていない部分が無心で書けていて、大変良いとの評でありました。


読売新聞掲載「心」

運・鈍・根

習い事・芸事が成就するには、巡り合いの運、目移りしないでこれしかないといった不器用さ、それに根気が必要だと言われます。私は二十三歳の時、先輩の紹介で古谷蒼韻先生の門下に加えていただきました。先生がどんな方だか何も知らないままでした。「言葉で伝えられる事はしれたものです。後は自分で盗め」と繰返し聞かされたものです。先生の教えは「花は心、種は態（わざ）なるべし」（風姿花伝）の言葉に収斂すると理解しています。

私は二十歳の頃、突然寺を継ぐ立場に立たされ、何も彼も一からの勉強でしたが、取分け字には劣等感がありました。字形は言わずもがな、まともに線が引けなかったのです。柳の葉のように、一つの線の頭と尻尾が止まらなくて尖ってしまうのです。見るも無惨なものでした。

そこで、何とかせねばと大学で書道クラブに入部したのが「書」との出合いでした。ところが基礎的な勉強はそっち退けで、作品を書く面白さにはまってしまいました。「書は散なり」と言いますが、下手でも何でも構わず作品を書く壮快感に病み付きになりました。その歳まで何一つまともに出来てこなかった慙愧の念もからまり、字ばかり書いていた時代がありました。継続は力なりと言いますが、四十年も続けていますとそれなりに恰好が付くようです。

いつの日か、法華の僧として何かが自然に発露した作品が書けることを夢見ています。



法華宗真門流総本山本隆寺執事
総本山塔頭・正寿院住職

本多信正(功身)さん

寺で生まれ育った私ですが、子供のころからお経を習うより、やっぱり絵を描くのが好きだった。強いて言えば物作りの方がより好きだった。

僧侶は人々に法話をするのが務めであるのに、絵描きはおしゃべりが苦手・嫌い等の人たちが作品を通して自己主張、何か言おうとする。そんな相反する世界の中にいる私に非常な矛盾を感じる。世間一般では、お寺さんで絵を描いておられるっていいですね、と相通ずるものがあるかのように言われます。

（プロフィール）
ほんだ　しんしょう（いさみ）昭和二十五年京都生れ。昭和四十八年青塔社入塾、池田遥邨先生に師事。昭和四十九年日春展入選。昭和五十年日展入選。現、青塔社会員

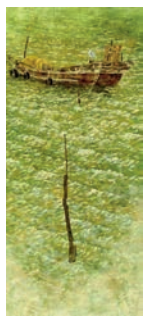
十六歳の時より日本画を学んだ。それまで日本画というものは水墨画だと大きな勘違いをしていた。依って初めて手にした絵具には驚きでした。試験管のような容器に入った片栗粉や砂に色が付けられたような絵具は美しかった。今でも忘れられません。

日本画をやり始めて、七年目に池田遥邨先生の塾に誘われ青塔社に入塾させていただいた。その当時は師匠（当時あちこちに先生という人々がいたので我が塾の者だけが勝手に他とは違う呼び方をしようということで）の絵は好きではなかった。でもその絵を視るたび徐々に精神性や思考性に惹かれていった。私はこの池田遥邨師匠なしにはありません。師匠と尊い縁があったからこそ今の私があるのだと思っています。師匠は天性の絵描き馬鹿で天衣無縫でスケッチ帳は絶対に離さなかった。美しい風景・花だけでなく、食事に出てくる皿に載った焼き魚、入院時はベッドの周りのあらゆるもの尿瓶までも、毎日の散歩の際の犬の糞も「色や形が違っていてなかなか面白い」と七～八冊ほど描かれたと聞いております。

師匠はよく「作品は作家の分身だ」と言われた。美術教育学者のローエンフェルド氏は「美しいものはどこにでもある。ただそれを美しいと感じる心がないだけだ」と言っている。それは師匠の美意識と同様で豊かな感性から自由な発想が生まれると思う。また作画に対する精神的葛藤などの長い年月にわたる混迷の渦中にあってなお真の美を追求してきた作家としての誇りがあったからに違いない。自然を外から眺める目と対象物のうちから見る優しい目によって自らのかけがえのない尊いものを育ててきたのです。

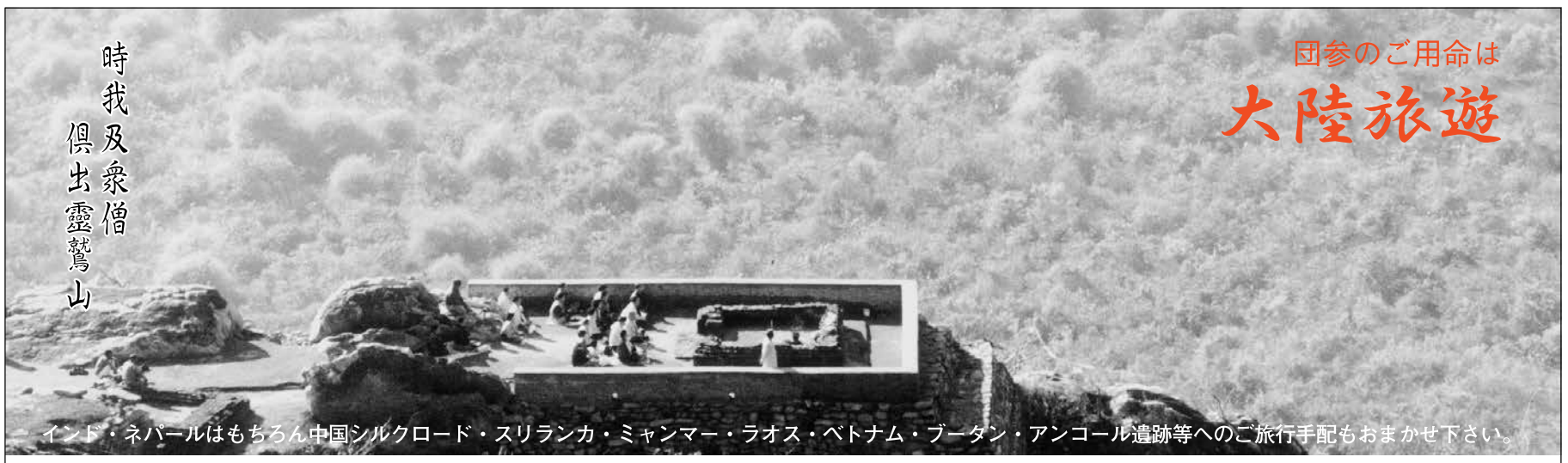
そんな師匠の背中を見て、僅かな間でも同時代にいられたことを糧に今も描き続けているのです。作品を描き出すと思い通りに行かない歯がゆさ腹立たしさがいつも起こります。それが面白い楽しい快感なのかも知れません。自然の中で写生をするのが好きです。五感に触れ合える自然の中にいると時間を忘れます。そんな意識と感性をもっていつも作品制作にかかるのですが……。

感性豊かで情熱を持ち続ける心があってこそ今を描き続けているのです。師匠のように何を見ても感動できる深い精神性を身に付けたいものです。こうしてまた絵を描き続けさせていただけることは万物万人すべてに感謝しなければなりません。


第56回青塔社展「水温風」


第46回日春展「或る日或る時」


2012年こころの京都百選「茶源郷」



観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員
株式会社 大陸旅遊
大陸旅遊 Tairiku Tours & Leisure co., LTD.
TEL 03-3376-2511　FAX 03-3376-5280　http://www.tairikuryoyu.co.jp　mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp
●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電　話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

宗務総長　小林順光
財務部長　中川法政
伝道局長　齊藤憲一
宗務総長室長　小林正雄
総務局長　塩崎望巳
現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　大塩孝信
参与　山口裕光
教務部長　田中文教
参与　吉田海心
総務部長　風間隨修
日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

法華宗（本門流）宗務院

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電　話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

管長　平田日範
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　金井孝顕
布教部長　久永晃顕
教学部長　三吉廣明
財務部長　清水常光
山田庸温

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電　話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

管長　山本日惠
宗務総長　朝倉俊幸
宗務次長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
庶務部長　阿曽久成
社会部長　湯原純勇
布教部長　桑村信慶
財務部長　河野時巧

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電　話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

管長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　牧野秀成
教学部長　布施義高
教化部長　今井満良
財務部長　金原孝宜
企画部長　山岸観深

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電　話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

宗務総長　木村日覚
宗務副総長　西村日要
宗務副総長　植松常二郎
教務局長　亀井日魁
弘通局長　植田日事
総務局長　藤本日唱
広報局長　澤田日松
財務局長　西村勲
奉賛局長　藤本日涌

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電　話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

管長　丹治日遠
宗務総長　原田智光
財務部長
総務部長　二瀬智光
教務部長　原光明

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

管長　田仲日紘
宗務総長　堀智泰
総務部長　木村完祥
教学部長　堀内浩善
教化部長　加藤順昭
財務部長　上田泰源
社会部長　峰尾泉栄

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電　話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

管長　松下日肆
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通五辻上ル紋屋町三三〇
電　話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六二

会長　田仲日紘
副会長　伊丹日章
理事長　足立真正
副理事長　藤井照源

宗教法人　国柱会

〒132-0020
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電　話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

賛主　田中壮谷
理事長　原田義彦
門連理事　本間直暉
門連常任理事　藤本坦孝
門連理事　森山真治
「門連だより」編集委員　的場春奈
「門連だより」編集委員

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電　話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

大阪日蓮聖人門下懇話会

〒582-0020
大阪府柏原市片山町一九番二一号　欣心寺内
電　話　〇七二（九七七）九八〇六
FAX　〇七二（九七八）〇一八四

理事長　東孝信
副理事長　原光承
顧問　奥邨正寛
顧問　三田村宗鳳
顧問　木下恵温
顧問　藤村恵容
顧問　門谷光瑞
顧問　中村日游

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主　内野日総
総務　井上瑞雄
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

法華宗(本門流)大本山
光長寺
貫首　石田日信
執事長　久保木学洋
〒410-0011
静岡県沼津市岡宮一〇五五
電話　〇五五（九二一）〇四八四
FAX　〇五五（九二一）〇七三六

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫首　山本日恵
総務　吉永義康
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　小川正義
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
貫首　石丸日然
執事長　笹原壮玄
執事　平井良光
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
貫主　田仲日紘
執事長　足立真正
執事　本多信正
〃　永岡悠希
執事補　笹木研吾
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル
紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗大本山
妙蓮寺
貫首　松下日肆
執事長　音羽隆全
役職員一同
〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
貫首　丹治日遠
執事長　原田智光
執事　二瀬智光
執事　原光明
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職二十五世講有　山内日開
執事長　小野山日住
事務局長　奥順作
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇(代)
FAX　〇七五（四六三）四六五一

京都八本山会
本山本満寺　貫首　伊丹日章
大本山妙顕寺　貫首　伊藤日慈
大本山本圀寺　貫首　上田日瑞
本山立本寺　貫首　野々垣日祐
本山妙傳寺　貫首　安藤日瑛
本山頂妙寺　貫首　及川日周
本山妙覚寺　貫首　瀬川日照
本山本法寺　貫首

京都
法華門流懇話会
法華宗（真門流）総本山本隆寺　貫主　田仲日紘
顕本法華宗　総本山妙満寺　貫首　山本日恵
本門法華宗　大本山妙蓮寺　貫首　松下日肆
法華宗（本門流）大本山本能寺　貫首　菅原日桑
本門佛立宗　本山宥清寺　講有　山内日開
日蓮本宗　本山要法寺　貫首　丹治日遠
法華宗（陣門流）本山本禅寺　貫首　福井日進
顕本法華宗　本山寂光寺　貫首　大川日仰

日蓮宗大本山
清澄寺
別当　二宮日敬
執事長　宮崎雅宣
役職員一同
出家得度立教開宗
日蓮聖人の霊跡
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三一二一―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
貫首　石川日命
執事長　橋本宏信
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
山主　嶋田日新
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二二五）六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首　安藤日瑛
参与　伊東隆司
同　宇根海静
同　新林錬昭
執事長　藤井照源
執事　二之部知孝
同　合川陽雄
〒606-8376
京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話　〇七五（七七一）〇五六二
FAX　〇七五（七五一）一〇〇四

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺
貫首　持田日勇
総務　増田寶泉
執事　冨永一道
〃　中川貫泰
〒297-0026
千葉県茂原市茂原一二〇一
電話　〇四七五（二二）三一五三
FAX　〇四七五（二二）一一七三

日蓮宗大本山
中山法華経寺
貫首　新井日湛
参与　田代浩敬
参与　渡辺行俊
参与　植田観樹
参与　吉田文堯
参与　田中貞奨
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首　井上日修
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

門連時報

京都理事会開催さる

平成二十五年十月二十四日（木）、日蓮宗本山本法寺（瀬川日照貫首）において、日蓮聖人門下連合会京都理事会が開催され、全門連及び京門連役職員各聖、地方門連として大阪門下懇話会理事長の計五十名が参列した。

午後一時、会場寺院の瀬川日照貫首を導師に仰ぎ、副導師に京門連理事長藤井照源師、法華宗真門流総本山本隆寺執事長足立真正師とし、参加者一同が謹んで法味を言上した。午後二時、本法寺の沿革について瀬川貫首より講義があり、午後三時より理事会を開催。渡邊照敏理事長が座長となり議事を進行した。

一、上半期事業報告について事務局より報告、承認。二、京都門連事業報告を京門連理事長藤井照源師より報告、了承。三、地方門連活動に関する件を大阪門下懇話会理事長東孝信師より報告、了承。四、その他の件につき、①「オラトリオ日蓮聖人」演奏会について、日蓮宗本山藻原寺持田日勇貫首より各派協力への御礼が述べられ、楽譜は門連に寄贈されることが報告された。②法華宗真門流総本山本隆寺より、文化庁の社寺について二十年ぶりの重要文化財として指定されたことが報告された。③日蓮宗本山妙覺寺及川日周貫首より、門連の宗祖御降誕八百年事業に向けた活動の中で、現在も京都に残る伝統文化を推進して欲しいとの意見が出された。④京門連藤井照源理事長より、今後の宗祖御降誕八百年事業に向け、機関紙編集委員会を企画立案する場として活用してはどうか、などの提案があり、活発な意見交換を行った。

平成二十五年十月二十四日　日蓮聖人門下連合会京都理事会、於本山本法寺

大阪日蓮聖人門下懇話会事業開催

第二十一回合同御会式

日蓮大聖人合同御会式が十一月三日、大阪市中央区の妙徳寺において開催、東理事長導師にて法要を奉行され、多数の会員教師と檀信徒が列席した。法要後、有本智成師による「久遠の子」と題した講演と、旭堂南啓師匠による「由比ケ浜」の一節の講談が行われた。

第二十四回研修会

研修会が十一月十五日、ホテルアウィーナに於いて文学博士中尾堯先生の講師で開催された。講題は「日蓮聖人門下の分立と展開」で、京都町衆の門下の分立と展開の役割や各本山への護持のあり方が講義され、後、先生を囲んでの懇親会が開かれ、会員の親睦を深めた。

最後に全国門連監査別所日山師の万歳三唱でにぎやかに終了した。門下連合会の大切さを感じる記念式典であった。

この式典の企画立案は、記念プロジェクトによるもので、そのメンバーは左記の通りである。

松下日肆（本門法華宗）
藤井照源（日蓮宗）
赤塚高明（法華宗陣門流）
二之部知孝（日蓮宗）
橋本一妙（日蓮宗）
赤田泰宏（法華宗本門流）
山本晃道（顕本法華宗）

（藤井照源）

京都日蓮聖人門下連合会結成六十周年記念式典開催

京都日蓮聖人門下連合会結成六十周年記念式典が、十月九日ＡＮＡクラウンプラザホテル京都で開催され、約百名の僧侶が出席し、慶事を祝った。

京都の歴史を遡ると、日蓮聖人の近畿御遊学十二年、又法孫日像上人の帝都弘教に始まるが、各宗・各流の教化活動の歴史の中、昭和二十七年四月八日、京都仏教界花祭り当番宗派が日蓮宗に当たった年、日蓮宗のみならずお題目教団すべてが団結して奉行しようと訴えまとまり、花祭り法要が無事成就したことから、京都門下連合会スタートとし六十年を迎える事となった。あたかも昭和二十七年は立教開宗七百年の御正当であったことも大きな機縁となっている。



第一部は記念法要で導師日蓮宗本山本満寺貫首伊丹日章猊下、副導師は京都門連理事長藤井照源師、法華宗真門流総本山本隆寺執事長足立真正師が屈請され、報恩法要が奉行された。

第二部はパネルディスカッションで「京門連六十年を振り返って」のテーマで行われた。パネラーは顕本法華宗総本山妙満寺貫首山本日恵猊下、本門法華宗妙蓮寺貫首松下日肆猊下、日蓮宗本山立本寺貫首上田日瑞猊下、法華宗陣門流本山本禅寺執事長赤塚高明師、日蓮宗宗会議員風間隨修師、そしてコーディネーターを藤井照源師がつとめ、京門連六十年の歴史を熱く語り合った。

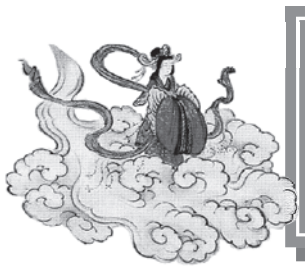
三部祝賀会では、全国門下連合会の渡邊照敏理事長はじめ、御来賓の御挨拶を頂戴し、全国門連顧問の日蓮宗伊藤通明師の発声で乾杯、出席者一同親睦を深めた。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二五・九・九	寺田完英 堀　智泰	法華宗真門流	常任理事	就任	退任
平成二五・九・九	堀　智泰 堀内浩善	法華宗真門流	理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	岩崎広義 原田智光	日蓮本宗	常任理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	柳下正則 二瀬智光	日蓮本宗	理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	原　光明	日蓮本宗	理事	就任	
平成二五・一〇・七	岩崎広義 原田智光	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成二五・一〇・一三	嘉儀日有 丹治日遠	日蓮本宗	顧問	就任	退任
平成二五・一二・一〇	佐藤義賢 久永晃顕	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成二五・一二・一〇	斎藤舜駒 山田庸温	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成二六・一・一	伊丹日章 田仲日紘	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二六・一・一	藤井照源 足立真正	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二六・一・一	原田智光 藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任

日蓮聖人註画讃

小松原山 鏡忍寺 宝蔵



日蓮宗を代表する貴重な御伝記を初めて解読・読み下し、現代語訳を添えました。





A４判上製本箱付／112頁／
オールカラー
発願・小松原山本山鏡忍寺
監修・中尾堯
頒価5,250円（税込・送料別）



（株）日蓮宗新聞社　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　FAX 03-3753-7028　TEL 03-3755-5271

各派・教団・短信

日蓮本宗

◆丹治日遠上人（福島市佛眼寺住職）が新たに本山要法寺第五十二祖ならびに日蓮本宗管長に就任され、平成二十五年十月十三日、本山御大会式において法灯継承の座替式が行われた。なお、丹治日遠猊下の晋山式は平成二十六年五月八日に行われる御開山日尊上人生誕七五〇年慶讃大法要に併せて奉修される予定。

◆旧内局の退任に伴い、新たに原田智光師（山形県妙國寺住職）が宗務総長兼財務部長に就任。新内局の構成は総務部長に二瀬智光師（京都府眞如院住職）、教務部長に原光明師（大阪府本成寺）がそれぞれ就任した。（柳下真敬）

法華宗真門流

◆六月二十九日、第三教区仏教大講演会開催。

◆六月九日、第三十一回第二教区檀信徒研修会開催。

◆八月二十三日～二十九日、札幌・日泰寺にて、北海道支学林並びに第三種講習会開講。二十七日には、同寺にて第四教区の教師講習会も開講。

◆八月二十三日～二十九日、総本山本隆寺にて夏季講習会開講。

◆九月七日、大阪社会福祉会館にて、第一教区仏教講演会開催。

◆九月九日、堀智泰宗務総長による新内局発足。

◆十月五日～十四日、総本山本隆寺にて、秋季学林開講。

◆十月十二～十三日、総本山本隆寺にて、お会式奉修。十三日には四人が新説式（初転法輪）挙行。

◆十月十八日、国の文化審議会が、本隆寺本堂並びに祖師堂を国の重要文化財に指定するよう答申。

◆十月二十一～二十二日、第二教区護法会合掌の旅開催。テーマは「日蓮大聖人の御霊跡身延山で御題目を」。

◆十二月五日～六日、「平成二十五年度定期宗会」開催。

◆一月一日～八日、総本山本隆寺にて年頭国祷会、法華八講開催。（森田量哲）

本門法華宗

◆九月十四日、京都市と遺族会主催の秋季慰霊祭が深草霊園において開催され、大本山妙蓮寺が慰霊供養の法要式を担当した。

◆十月十二日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が厳修。

◆十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師会・歴代上人法要が奉修。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百四十六回教学講習会を八月二十九・三十日、第百四十七回同講習会を十一月二十五・六日、卯木講堂にて開講。

◆布教誌『生きる』第六十一号（創刊より三十周年）、信報『信行』第百八十号を一月一日に発行。（吉村光敬）

国柱会

◆十月一日、月旦大国祷。十日、佐渡法難会慶讃法要。御聖日集会・担当、藤本坦孝講師。「明治の日」推進協議会実行委員会（於、衆議院議員会館）、森山真治講師補出席。十二日、池上屋外宣伝。日蓮聖人御逮夜法要。十三日、日蓮聖人鶴林会報恩大法要。御聖日集会・担当、若杉日出雄講師。十七日、恩師忌。常勤給仕日。十九日、「オラトリオ日蓮聖人」（於、すみだトリフォニーホール）公演に賛主他出席。佛教大学・大谷栄一氏、舞鶴工業高等専門学校、吉永進一氏本部へ資料調査の為ご来園。十九日～二十日、各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗大霊廟例月供養会。蓮華サークル開催。二十四日、日蓮聖人門下連合会京都理事会（於、日蓮宗本山本法寺）に賽主先生ご出席、随行森山講師補。二十六日～二十七日第四十九回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団実施。

◆十一月一日、月旦大国祷。三日（日）明治節慶讃法要。若杉日出雄講師以下有志明治神宮参拝。十一日、小松原法難会慶讃法要。御聖日集会・担当・森山真治講師補。十六日、恩師田中智学先生御逮夜法要。式後追憶の集い。妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十七日、第七十五遠忌恩師田中智学先生報恩大会。妙宗大霊廟例月供養会。式後報恩の集い。佐藤家（武蔵野局会員・佐藤隆夫善男子）本化正葬儀督式に秋場旷雄講師出向執行。二十一日、ロータスヴィラ消防訓練実施。二十七日、国柱会山陰地方連合局賽主御親教。随行・松下陽一講師補。二十九日、中尾堯立正大学名誉教授叙勲祝賀会に、賽主御主席。随行・森山講師補。（森山真治）

日本山妙法寺

◆平成二十五年二月一日～二月二十四日　「石炭採掘のための山頂破壊止め持続可能な未来に向けて」平和行進を歩む。

◆二月十一日～三月一日　二〇一三ビキニデー平和祈念行脚を歩む。

◆二月から三月　スリランカ国内のゴール、仏足山、ワラパネ、バンダラウェラ、アンパーラの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆三月一日～八月六日　全国の原発を巡る「命の行進」を歩む。

◆三月一日～四月六日　ノーモア・フクシマ平和行進（米国ニューヨーク州グラフトン道場からワシントン道場）を歩む。

◆五月三日　東京・多摩仏舎利塔三十周年記念法要を厳修。

◆五月十二日　熊本県花岡山仏舎利塔六十周年記念法要を厳修。

◆五月十九日　大分県臼杵仏舎利塔四十周年記念法要を厳修。

◆六月八日～八月九日　二〇一三東京～広島・長崎平和行進を歩む。

◆六月から七月　ヨーロッパの英国ロンドン、英国ミルトンキーンズ、オーストリア国ウィーン、イタリア国コミソの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆七月七日　イタリア国シチリア島コミソ道場新本堂開堂供養を厳修。

◆七月二十五日　静岡県富士仏舎利塔五十周年記念法要を厳修。

◆七月二十六日～八月十一日　米国北西部平和行進（米国オレゴン州～ワシントン州）を歩む。

◆九月八日　奈良県斑鳩道場開堂供養を厳修。

◆十月五日　米国グラフトン仏舎利塔二十周年記念法要を厳修。

◆十月六日　長崎県大村仏舎利塔二十五周年記念法要を厳修。

◆十月十九日～十月三十一日　沖縄平和祈念行脚を歩む。

◆十月　インド国内王舎城、ダージリンの各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆十一月十四日～十一月二十四日　アメリカス軍事学校閉鎖のための平和行進（米国ジョージア州内）を歩む。

◆十一月二十三日　千葉県成田仏舎利塔十二周年記念法要を厳修。

◆十一月　ネパール国内ルンビニ、ポカラ各仏舎利塔記念法要を厳修。

◆平成二十六年一月九日　恩師行勝院日達聖人第三十回忌追孝報恩法要を静岡県熱海道場にて厳修。（武田隆雄）

京門連

◆平成二十六年度。会長　法華宗真門流総本山本隆寺貫主　田仲日紘猊下。副会長　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。理事長　法華宗真門流総本山本隆寺執事長　足立真正師。副理事長　日蓮宗京都府第一部宗務所長　藤井照源師。

◆一月二十四日（金）午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十六年度会務行事の件、平成二十五年度決算の件、平成二十六年度予算案の件。

◆同日　二時三十分　降誕会（法華宗真門流総本山本隆寺）。導師　総本山本隆寺貫主　田仲日紘猊下。講師　日蓮宗本山本満寺貫首伊丹日章猊下。

◆三月七日（金）午後五時　理事会（法華宗真門流総本山本隆寺）。立教開宗会の件、夏期大学の件。

◆四月二十六日（土）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師　日蓮宗本山本満寺貫首　伊丹日章猊下。講師（未定）。

◆六月十二日（木）午後四時　理事会（法華宗真門流総本山本隆寺）。夏期大学開催の件、お会式の件。

◆八月三十日（土）午前十時　第五十一回夏季大学（本能寺文化会館）。講師（本山）法華宗真門流総本山本隆寺貫主　田仲日紘猊下。講師（大学）立正大学教授　北川前肇先生　講師（一般）服飾評論家　市田ひろみ先生。

◆同日　午後四時　理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。

◆十月三日（金）午後三時　お会式準備奉行委員会（法華宗真門流総本山本隆寺）。お会式準備。行脚、法要等打ち合わせ。

◆同日　理事会（法華宗真門流総本山本隆寺）。全門連京都理事会について。

◆十月四日（土）午後一時　お会式（法華宗真門流総本山本隆寺）。導師　法華宗真門流総本山本隆寺貫主　田仲日紘猊下。講師　選考中。

◆日程未定　全門連京都理事会（法華宗真門流総本山本隆寺）。日蓮聖人門下連合会京都理事会、懇親会（未定）。

◆十二月十九日（金）午後四時　会計監査（本能寺文化会館）。

◆同日　午後五時　理事会（本能寺文化会館）。平成二十六年度会務行事報告、平成二十六年度決算中間報告。（藤井照源）

日蓮宗

◆小林順光宗務総長就任に伴い、新たに宗務役員も決まった。伝道局長に齊藤憲一師（再任）、総務局長に塩崎望巳師（再任）、伝道部長に大塩孝信師、教務部長に田中文教師、総務部長に風間隨修師、財務部長に中川法政師。宗務総長室長に小林正雄師。現代宗教研究所長の三原正資師（再任）。また日蓮宗新聞社社長には草ケ谷秀人師が就任した。

◆岡山県吉備中央町の妙本寺（平野信行住職）が「西国弘通最初の法華道場」として宗門史跡に指定された。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆平成二十五年十月十八日興隆学林専門学校、新校舎地鎮式を奉修。四大本山貫首、宗務総長などが列席する中、百名近くが参列に訪れた。（尼崎市・大本山本興寺隣接予定地にて）

◆十二月十日　九日の二瓶内局任期満了に伴い、新たに第二次二瓶内局が発足。就退任式が執り行われた。第二次内局の組閣は次の通り。

二瓶海照宗務総長（富山市・信行寺）金井孝顕庶務部長（神戸市・感應寺）久永晃顕布教部長（赤穂市・福泉寺）三吉廣明教学部長（東京・妙壽寺）清水常光財務部長（尼崎市・本成院）山田庸温責任役員（千葉・玉蔵寺）

◆平成二十六年三月六日　興隆学林専門学校の平成二十五年度卒業式が行われる。卒業生は行学二道に励んだ学林での経験を糧に、新たな布教の第一線に立つ。

◆三月十四日　第二十七回法華宗教学研究発表大会が東京国際フォーラムにて開催される。聴講希望の方は宗務院（03-5614-3055）まで。

◆門祖日隆聖人創立の「勧学院」以来五百六十余年、正しい教えと伝統を受け継いできた「興隆学林専門学校」が平成二十六年度の新入生を募集。他門流・一般信徒よりの入学生も受け入れ、現在通学中。問い合わせは宗務院（03-5614-3055）まで。（宮村光明）

顕本法華宗

◆九月五日、千葉県印旛郡酒々井町経胤寺において、東部教区布教師研修会を開催。特命布教師・小松正学師による「日什大正師のご家系を考える」と題する講義が行われた。

◆九月十一日、京都市左京区総本山妙満寺において、西部地区布教師研修会を開催。本山総務・吉永義康師による「開祖日什大正師御生誕七〇〇年の聖年をお迎えして」と題する講義が行われた。

◆九月十一日、千葉市緑区善勝寺において、東部連合会先師法要及び僧員講習会が開催された。僧員講習会では、小谷みどり氏による「現代の葬式事情とこれからの寺院」と題する講義が行われた。

◆十月二十八日、千葉市中央区本行寺において、東部教区僧員研修会を開催。宗務総長・朝倉俊幸師による「布教実践に関する一提案について」と題する講義が行われた。

◆十一月七日、総本山妙満寺において、西部教区僧員研修会を開催。講義内容は東部に同じ。

◆一月二十日より二月一日まで、千葉県内数ヶ寺を巡拝する寒中修行が地元有志僧員によって行われた。

◆一月二十七日、東京都品川区天妙国寺において、教学研究所主催「公開研究例会」を開催。一般応募の川崎英真師による「什門伝承の祈祷経について」、教学研究所研究員・児玉常陽師による「什門先師の本迹論に対する研究者の論評」と題する二名の研究発表が行われた。引き続き、特別講義として立正大学講師・片山由美先生による「サンスクリット原典から見た『法華経』の世界―舎利弗の愁いと救い―」、布教総監・河村孝照師による「仏界縁起論考（序品の巻）」と題する講義が行われた。（橘無限）

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人 門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成26年10月13日

50号

――門連だより五十号に寄せて――
門連活動に情熱を注ぐ人材の出現を望む

門連相談役　本山藻原寺住職
持田日勇



「門連だより」が五十号を迎えたということは素晴らしいことである。日蓮聖人七百遠忌が終了し、将来の五十年を見据えて、門連各派が情報を交換し、多角的な交流を続けていく中で、団結の絆を固くしていくための機関紙として役割を果たしていったわけであるが、門連事務局と編集委員会の絶えない努力を称賛する次第である。

この二十六年の間に、門連は二つの展覧会を開催した。これも身延理事会と京都理事会を毎年開催して協議を重ねてきた結果であると共に、機関紙「門連だより」の発行を続けた成果といえる。

七年後の平成三十三年には宗祖ご降誕八百年を、その十年後には七百五十遠忌を迎える。日蓮聖人門下として世界に、日本社会にその意義をどう説いていくか問われるところであろう。

日中韓仏教徒の連携が深まっている。日中韓仏教友好交流会議は今年十一月第十七回の大会を韓国で開催し黄金の絆を固くしている。また、中国は三回の世界仏教フォーラムを開催し、世界仏教界の中心となろうとしている。

世界仏教徒連盟（ＷＦＢ）も今まで開催されなかった韓国で一昨年、今年十月には中国で開催される。上座部仏教中心であったのが、大衆部仏教と交流を深めている。そこでの祈りは南無本師釈迦牟尼仏の称名である。

日蓮門下各派が久遠の本師釈迦牟尼仏の誓願と、法華経とその精神をどう伝えていくか考察が急がれるところである。

提言したいことがいくつかある。門下連合会の連帯を深めるために門連各寺院の名簿を作ってもらいたい。すでに全仏傘下の各仏教会にあるのであるから無理ではないと思える。

そして名簿掲載寺院の教師と子弟が門下各派の教育機関には入れることを可能としたい。

日蓮聖人のオペラを作りたい。オペラ「夕鶴」は木下順二作、団伊玖磨作曲の二幕物であるが出演者は四人で合唱付、簡素な舞台である。

日蓮聖人の得度から法華経信仰の確立に至るまでの求道と苦悩の青春時代を描きたい。

全国公演したら素晴らしい。この様なことを成し遂げる人材が欲しい。

最後に初代編集長の富川孝恭承認と予算化の為に毎日のように訴えてきた。

「門連だより」の発行も同じである。（結）

門下連合会理事長就任挨拶

日蓮宗宗務総長
小林順光



先般、六月十日に開催されました日蓮聖人門下連合会身延理事会にて加盟各会派教団より御推挙を賜り、理事長に就任いたしました日蓮宗宗務総長の小林順光でございます。重責を担い身が引き締まる想いがいたしますが、当会益々の発展に尽力していく次第であります。

さて、当会は『立正安国論』奏進より七〇〇年の佳節を迎えた昭和三十四年、当時国柱会主幹であられた田中香浦氏の提唱により行われた「日蓮聖人立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」をきっかけに創立されました「日蓮聖人門下懇話会」が前身であり、その後「日蓮聖人門下連合会」に改組されたものです。

爾来、門下連合会は日蓮聖人御降誕七五〇年の折に『聖伝劇日蓮』、七〇〇遠忌には『日蓮聖人劇』『日蓮聖人展』『オラトリオ日蓮聖人演奏会』『青年の船』の四大事業、立教開宗七五〇年では『大日蓮展』更には、立正安国論奏進七五〇年においては『日蓮と法華の名宝展』を開催するなど、その時節に応じて大きな事業を成し遂げて参りました。

そして、私共は平成三十三年にお迎えする日蓮聖人御降誕八〇〇年を目前として、諸先師先輩方が行ってきた浄業を手本とし、立正安国の誓願実現の理念をもとに、閻浮提広宣流布を目指した慶讃事業の展開が望まれる時であると考えております。

『撰時抄』の「仏眼をかつて時期をかんがへよ、仏日を用いて国土をてらせ」のお言葉を胸に刻み、御降誕八〇〇年を目途に、祖廟中心の門下連合会は、尚一層の連携と交流をはかり、次世代・未来へ向け前進して参りたく存じます。

日蓮本宗管長就任挨拶

日蓮本宗本山要法寺貫首
嗣法第五十二祖
丹治日遠



平成二十四年十二月に前管長嘉儀日有上人が御退隠されることとなり、二十五年十月十三日座替式を挙行して日蓮本宗管長並びに本山要法寺貫首に就任し、本年五月八日、御開山日尊上人御生誕七五〇年慶讃大法要に際し晋山式を執り行って本山要法寺嗣法第五十二祖に就座致しました。素よりその任には非ず先行き心もとない限りでありますが、仏祖三宝尊の御加護と万般各位の御指導御鞭撻を賜って、及ばずながらその任を果たしてまいりたいと存じております。何とぞ宜しくお願い申し上げます。

私の出身地福島は、平成二十三年三月の東日本大震災により甚大な被害を蒙りましたが、地震・津波の被害もさることながら「原発」事故による被害に悩まされ続けております。原発事故に関連する経済損失は今や天文学的数値などと揶揄され、積算不能とまで言われております。この先も如何ほどかかるものやら……。経済的損失ばかりではありません。避難に伴う家族離散・家庭崩壊・地域滅裂・風評被害・自己喪失……。文字どおり筆舌に尽くすことができません。これほどの社会的・経済的リスクを負いながら、尚且つ経済活動を優先して「原発」を再稼働させようとするのか、「原発」をなくそうとしないのか、全く理解に苦しみます。幸いに直接死はゼロでありましたが、こんな危険なものを地球上に置いてはなりません。「原発」は止めましょう！「原発」が無くても生活の出来る社会をつくりましょう！

この世から「原発」がなくなるのは何時か。その時までに、地球上の何処においてでも《原発事故》が起こらないことを願うや切なるものがあります。

従地ゆじゅつ

◆戦後日本は、経済大国と呼ばれるほど目覚ましい経済復興を遂げた。今日の日本の繁栄は「平和憲法」といわれる憲法により、平和立国を目指したことによる。一九九〇年代に入り「平和憲法」の解釈が議論されだし、国際協力ということで自衛隊の海外派遣が実施され、国連平和維持活動（ＰＫＯ）協力法に基づくＰＫＯ活動は、カンボジアに始まり、モザンビーク、ゴラン高原、東ティモール等におよんでいる。本年、安倍内閣で集団的自衛権行使を容認する憲法解釈を変更し、自国が攻撃を受けていなくても、他国への攻撃を実力で阻止する集団的自衛権の行使を決定し、日本の存在が脅かされるなどの「武力行使三要件」を満たせば、必要最小限度の武力行使は憲法九条の下でも許されるとのこと。一九五四年に自衛隊が発足して以来の安全保障政策の大転換であるといえる。本化上行菩薩の応現高祖日蓮大聖人は『立正安国論』に「それ国は、法に依って昌え、法は人に因って貴し」と示されておられる。「法は人に因って貴し」ということは、素晴らしい法であっても、それを解釈し運用する人によってその国が悪国にもなりかねない。高祖日蓮大聖人が示されておられる「法」とは「教え」の意味であり、国が栄える根本は、国に素晴らしい教えがいき渡っているかにかかっている。教えを実際に運用するのは国の指導者ではあるが、その教えの素晴らしさを我々国民一人ひとりが正しく理解することによって国がますます栄えていくのではないだろうか。とにかく我々仏教徒は「不殺生」が大前提である。いかなることがあろうとも武力を行使して問題を解決することは許されない。アメリカ等の友好国の主張に同調するのは如何なものであろうか。

◆ところで我々日蓮門下はどうであろう。「それ宗門は法に依って昌え、法は人に因って貴し」となるが、果たして如何に。「新興宗団は盛んに活動し昌えているのでは」と思うのは私だけか。

◆今高祖御降誕八百年に向けての最重要課題は、門下一人ひとりが高祖の御心に帰り『立正安国論』の「正法」とは何かを再確認し、周知徹底していくことである。高祖日蓮大聖人は『報恩抄』で「問うて云く、天台伝教の弘通し給わざる正法ありや。答えて云く、有り。求めて云く、何者ぞや。答えて云く三あり」「一には日本乃至一閻浮提一同に本門の教主釈尊を本尊とすべし。所詮宝塔の内の釈尊・多宝、外の諸仏、並びに上行等の四菩薩脇士となるべし（本門の本尊）」「二には本門の戒壇」「三には日本乃至漢土月氏一閻浮提に人ごとに有智無智をきらはず一同に他事をすてて南無妙法蓮華経と唱うべし（本門の題目）」と正法を三大秘法にしてお示しになっておられる。

◆御降誕八百年に向けて我々日蓮門下が一つとなりなすべきことは、この三大秘法について共通認識をもって広宣流布していかなければならないのでは。（浩）

《各派のページ》

第六回「本門佛立宗宗門内外で活躍する僧侶」



本門佛立宗ブラジル中央寺院
日教寺住職
ブラジル教区第十五代教区長

コレイア日友さん

（プロフィール）

これいあ　にちゆう。昭和四十二年ブラジル国サンパウロ州生。十一才の時、本門佛立宗ブラジル教区中央寺院 日教寺に入寺。十五才の時、日本へ留学。平成四年まで十年間滞在。その間、奈良市立一条高等学校、佛立教育専門学校、仏教大学文学部を卒業。ブラジル帰国後、ブラジル南部三カ寺院の住職を経て、平成二十二年本門佛立宗ブラジル教区教区長に就任。平成二十四年ブラジル仏教連合会々長、ブラジル翻訳グループ委員長、ロータス仏教誌編集長に就任。その他、ブラジル国内で仏教文化高揚に関する行事を開催参加するなど幅広く活動を行っている。

仏教の世界性

仏教が完全に世界中に広まっていなくても、仏教は世界宗教として最も世界的だと言い切ることができます。ただし、仏様や日蓮聖人のように信心修行をすればの話です。

仏教にもいろいろな修行法がありますが、日蓮聖人から教えられた御題目を口に唱える修行が、慈悲に基づいていて最も純粋で宗教的だと認められます。多くの場合、他の修行法は時代や人に適していません。それ故に西洋、特にブラジルでは一種の気休め的精神修養法としか見られないことが多いのです。

海外布教は、日蓮門下では六老僧の一人・日持上人が初めて北国シベリアへ渡り弘通を試みておられますが、南米ブラジルへは明治四十一年、日本からブラジルへの移民を企画した本門佛立宗の信徒・水野龍（りょう）氏が、未開の地に赴く日本人の心の支えには信仰が必要だと、本門佛立宗東京清雄寺住職・御牧日教に一名の僧侶の派遣を依頼しました。この求めに応じ茨木日水上人が派遣され渡伯しました。奇しくもこれがブラジルに初めて仏教を伝えることになりました。私たちはこの事実を以て日水上人を南米ブラジルの開祖としてお敬いしていますが、この南米に仏教が伝来したことがすべての発端なのです。

本門佛立宗は日蓮聖人、日隆聖人と幕末仏教改革者と称される日扇聖人の流れを汲んでいます。この法をされる姿を見ては魅力的だと深く感じたものです。それから三十数年が経ちました。この間、法要式の文言などのポルトガル語訳は進み、非日系人の信徒が増え、得度者が生まれました。ブラジル佛立宗の教務たちの顔ぶれはカラフルです。白・黒・黄色と人種の枠を超え、みな御題目のもとで共に信行に励んでいるのです。御題目以外はほとんどがポルトガル語となり、いまブラジルで佛立仏教が一番ブラジルに馴染んできたところを見るとすばらしく思えます。









その根拠は、特に僧侶方の仏様はじめ蓮隆扇三祖や日水上人を心からお慕いする姿勢にあります。いかなる教義や伝統より皆が仏祖にひれ伏す姿が美しい。この信心なら安心して布教活動に没頭できる。ブラジルを拠点にもう一度仏教が世界に弘められる、広まるべき宗教だとの自信と確信が湧いてくるのです。

現在、本門佛立宗ブラジル教区は、国内に十数カ寺の寺院を有しています。住職は任期制にして常に活性化をはかり、人材育成に力を注いでいる最中です。また、三十代前後の僧侶は、日水上人が艱難辛苦の中で人種を越え人々に寄り添い救ってきた姿に憧れ、フロンティアスピリットに溢れ、寺院のない遠い地域に派遣を願い出る者も少なくありません。

それでいてすべてにおいて京都の本山宥清寺の中心性を保っています。日本の宗制に則りながらもブラジルで培ってきた宗制規則を守り、南米ブラジル弘通に取り組んできました。ブラジルへ渡った仏教は、当初は日本人の宗教、日系人の仏教でした。それが、戦中戦後の紆余曲折を経て現在にいたり、ブラジル人の仏教となってきました。百年かかってあらゆる均衡がバランスよくとれはじめたこれからが一番の楽しみです。

八年前の平成十八年、ブラジル移民百周年と共に仏教伝来百周年を開催しました。この時、ブラジル教区では、「ブラジル全国各州に寺院の拠点設立」や「現役ブラジル人僧侶五十名に増加」、「六十万坪の佛立聖地の入手」を誓願。佛立聖地はサンパウロ州郊外にすでに入手できました。敷地内には資源、水源豊かな緑地に高さ二十五メートルの法塔を建設し、来年七月には佛立第二十五世講有山内日開上人をお迎えして開眼式を挙行予定になっている。そして、全国全世界の佛立信徒の修行・参詣の場、教育福祉等の拠点としていく計画でいる。さらに、広島市公認の平和の鐘を建立し、ブラジルと日本、地球の両極から鐘の音と唱題の音声を響かせ、平和への思いを世界に届けたいと考えている。

この達成は、ブラジル弘通初祖・茨木日水上人、御五十回忌の平成三十二年までという誓願であります。一天四海皆帰妙法の前では塵ほどにもならないご奉公かもしれませんが、これで勢いづくことができれば前進できる、報恩とさせていただけると確信しています。

日蓮聖人の仏教文化、これこそが世界を遍く平和に導くことができる特性を持っています。人々を幸せに導くことができる世界性を十分有しているのです。

しかも、今を逃しては後がない。夢は見るためにあるのではなく生きるためにある。だから今でなければならないと心から常精進を誓い、報恩のご奉公をさせていただきたいのであります。

【コレイア日友師　講演会】

京都佛立ミュージアム主催
テラコヤスコラ vol.16
『ブラジルの仏教』
講師：コレイア日友師
二〇一四年十月十二日（日）
開演：一四：〇〇
入場：無料

本門佛立宗ブラジル教区第十五代教区長・中央寺院日教寺住職。イタリア系ブラジル人にして南米ブラジルにはじめて仏教を伝えた茨木日水（いばらぎにっすい）の後継者。十年間日本で修行し培った関西弁は関西人以上！ブラジルと日本、ブラジルの仏教についておもしろく熱く語っていただきます。

会場　京都佛立ミュージアム
（京都市上京区御前通一条上ル東竪町一一〇）
TEL　〇七五―二八八―三三四四
website:
http://www.hbsmuseum.jp



日蓮宗宗務院

宗務総長　小林順光　財務部長　中川法政
伝道局長　齊藤憲一　宗務総長室長　小林正雄
総務局長　塩崎望巳　現代宗教研究所長　三原正資
伝道部長　吉田見悠　参与　山口裕光
教務部長　田中文教　参与　吉田海心
総務部長　風間隨修　日蓮宗新聞社社長　草ケ谷秀人

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話　〇三（三七五一）七一八一
FAX　〇三（三七五一）七一八六

法華宗（本門流）宗務院

管長　平田日範
宗務総長　二瓶海照
庶務部長　金井孝顕
布教部長　久永晃顕
教学部長　三吉廣明
財務部長　清水常光
山田庸温

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
電話　〇三（五六一四）三〇五五㈹
FAX　〇三（五六一四）三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長　山本日恵
宗務総長　朝倉俊幸
宗務次長　藤﨑行学
教務部長　早川義正
庶務部長　曽久成
社会部長　湯原純勇
布教部長　桑村信慶
財務部長　河野時巧

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

法華宗（陣門流）宗務院

管長　石丸日然
宗務総長　佐古弘文
総務部長　牧野秀成
教学部長　布施義高
教化部長　今井満良
財務部長　金原孝宜
企画部長　山岸観深

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話　〇三（三九一八）七二九〇
FAX　〇三（三五七六）〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長　木村日覚
宗務副総長　西村日要
宗務副総長　植松常二郎
教務局長　亀井日魁
弘通局長　植田日事
総務局長　藤本日唱
広報局長　澤田日松
財務局長　西村勲
奉賛局長　藤本日涌

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話　〇七五（四六一）一一六六㈹
FAX　〇七五（四六四）五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　丹治日遠
宗務総長　原田智光
財務部長
総務部長　二瀬智光
教務部長　原光明

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

法華宗（真門流）宗務庁

管長　田仲日紘
宗務総長　堀智泰
総務部長　木村完祥
教学部長　堀内浩善
教化部長　加藤順昭
財務部長　上田泰源
社会部長　峰尾泉栄

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

本門法華宗宗務院

管長　松下日隷
宗務総長　藤井日靖
総務部長　増田隆雄
宗務部長　吉村日彦
財務部長　土畑信教
教務部長　山田岳隆
庶務部長　髙邉晶啓

〒602-8418
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電話　〇七五（四五一）三五二七
FAX　〇七五（四五一）三五九七

宗教法人　国柱会

賛主　田中壮谷
理事長
門連理事　原田義彦
門連常任理事　森山真治
門連理事　藤本坦孝
「門連だより」編集委員　的場春奈

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話　〇三（三六五六）七一一一㈹
FAX　〇三（三六五六）九九八〇
http://www.kokuchukai.or.jp

京都日蓮聖人門下連合会

会長　田仲日紘
副会長　伊丹日章
理事長　足立真正
副理事長　橋本一妙

京門連事務局
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

日本山妙法寺大僧伽

首座　吉田行典
責任役員　酒迎天信
同　今井行康
同　池田行朗
同　二宮和嘉
同　木津博充
同　川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045
東京都渋谷区神泉町八―七
電話　〇三（三四六一）九三六三
FAX　〇三（三四六一）九三六七

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長　東孝信
副理事長　原光承
理事・会計　松井英光
理事　門谷光瑞
理事　中村日游
理事　佐野貫順
理事　神谷行俊
理事　山田玄精
理事　木村完祥
理事　渋谷正龍
理事　吉永義康
理事　村木光男

〒582-0020
大阪府柏原市片山町一九番二一号　欣心寺内
電話　〇七二（九七七）九八〇六
FAX　〇七二（九七八）〇一八四

第五十号特別企画「門連だより」を振り返って～一面縮小版（抜粋）～



創刊号（昭和六十一年四月二十八日）



三十号（平成十六年八月十五日）



四十号（平成二十一年九月二十三日）



十三号（平成八年二月十六日）



四十四号（平成二十三年九月二十三日）



二十五号（平成十四年四月二十八日）

第五十号特別企画「門連だよりを振り返って～『従地ゆじゅつ』抜粋」

今号で「門連だより」は五十号を迎えました。毎号に掲載されている「従地ゆじゅつ」は、機関紙編集委員として加盟団体より派遣された編集委員が、その時代時代にふれて問題提起をしています。昭和六十一年四月二十八日の創刊号より、平成の世となり四半世紀の時代を推移する中で、宗派の立場は違えども、日蓮聖人を宗祖と仰ぐ編集委員の思いをご覧ください。

六号
（平成元年一月十五日付）

◆歴史的に戊辰の年は、社会大乱激動の年であると言われるが、正しく前年六十三年は、日本社会世相全般にわたりその様相顕著であった。◆そして新春早々、昭和天皇裕仁陛下が崩御され、日本国民にとって悲しい年の幕開けとなった。元号も『昭和』から『平成』へと改元され、新たな時代の一歩が記された。◆昭和の六十余年は、日本史上稀にみる激動の日々で大事件、戦争、波瀾の数々は枚挙にいとまがない。◆その『昭和』も終焉を迎え、見直しが必然的に求められている。◆しかし、その時の流れに常に、我々日本人の支柱として、社会、国家の安泰と人々の幸福を願い、終始無私公平を心がけ、産業文化の発展と国際親善に務められ、平和の保持を熱望されたのが、天皇陛下である。◆天皇制、戦争責任のあり方など、諸々の立場に多少議論の余地はあろうが、その間、長期にわたる在位年数の過程、平和国家の建設と社会復興に尽され、日本の安定に大きく寄与された陛下の存在と、そのお人柄と事績を通じて「昭和」という時代を見つめ直すことは我々にとり大切であろう。◆戦後の日本は経済的発展の面においては他の追随を許さず、反映の極に達し、我々はその恩恵を満喫している。◆反面、家庭の崩壊、教育の荒廃、政治の腐敗、宗教界の混濁、自然破壊等々山積する課題は多い。◆これらの諸問題を克服せねば、未来は開かれない。今こそ日蓮聖人の「立正安国」の本願を問い直す時であろう。

（A記）

十三号
（平成八年二月十六日付）

◆昨年一月十七日未明の阪神大震災に続いて、三月二十五日には東京で戦後最悪のテロ事件、オウム真理教による地下鉄サリン事件が発生した。この二つの大きな出来事は、数々の教訓を残すことになる。◆就中オウム教団によるサリン事件は、宗教界にとって衝撃的であった。新興宗教とはいえ、一宗教団体が警察・国家に対して、テロ行為を犯していたからだ。◆それにしても将来有望な若者をそこまで暴走させてしまった原因は何であろう。一口に学歴偏重による「ひずみ」と、簡単に結論づけて良いであろうか。教育機関にのみ責任転嫁させる訳にはいかない。今こそ既成宗教がこの機に立ち上がるべきではないか。◆残念な事は、オウム教団のこの一連の事件に対して、門連としての統一見解が未だに発表されていないことだ。一教祖のカリスマ性があれだけ多くの若者を魅きつけたということは、潜在的に誰でもオウム的信者に成り得るのである。◆宗教の本質とは愛と慈悲の実践である。生きとし生ける者への哀れみを注ぐことにある。宗教本来の目的を忘れてしまえば、今後既成宗教に対して風当たりが強くなるだろう。◆元検事の堀田力氏は、人間の心には元来「助け合う遺伝子が汲みこまれている」と、平素から話されていた。阪神大震災では、全国から延べ二十万人もの人がボランティアに駆けつけた事でそれが証明された。心の底に眠っていた慈悲の心が、今回の大震災で甦ったのである。◆平成十四年には立教開宗七百五十年を迎える。この大事業を名実共に成就するには、日蓮大聖人の御意志に恥じぬ決意が門下全体の急務であり、僧俗が異体同心する機会でもある。

（柳）

二十六号
（平成十四年十一月二十八日付）

◆「文永十一年十月に蒙古国より筑紫によせて、対馬の者……百姓等は男をば或は殺し、或は生取りにし、女をば或は取集めて手をとをして船に結付、或は生取にす。一人も助かる者なし」（一谷入道御書）。戦争とは、いつの世でも、女性や子供そしてお年寄りが一番被害を受ける。悲しいことに、宗祖の鎌倉時代と現代とは、時代は離れていても同じ末法であり、その様相において異なるところはない。◆平成十三年度の漢字コンテストで、一年を象徴する字として一番になったのは「戦」。平成十三年九月十一日のニューヨークの同時多発テロは世界を驚愕させた。三千近い尊い人命を奪った犯人はウサマ・ビンラディンとして、米政府は報復のため、これをかくまうタリバンが支配するアフガニスタンを爆撃し、政権を崩壊させた。しかし、未だ犯人の生死も確認できず、爆撃は逆に一般市民数千人の死傷者をもたらした。◆このテロの背景には、イスラム教の過激派が存在する。イスラム教は六世紀にマホメットが教えを説いたことに始まり、彼は戦いをしながら布教したことが特色であり、スペインからインドまで支配した時代もある。アラーを唯一の神と崇め、偶像崇拝を禁止しているため、タリバンはバーミヤンの大仏を破壊する暴挙を行った。イスラム教徒は、一日五回の礼拝、喜捨、巡礼を行い、日常的にも禁酒、豚肉を食べず、女性のベールや一夫多妻などの習慣があり、斬首、手足切断などの刑罰を行うことも認められている。これを過激に実行したのがタリバンである。◆しかし、世界の平和は報復では決して訪れない。「恨みは恨みによって止まず、恨みは恨みなきによってのみ止む」「もし争いをもって争いを止めんと欲せば、ついに止まることを得ず」という釈尊のお言葉が示している。「命と申すは一切の財の中の第一の財なり」仏教の慈悲の教えにより、世界の一人ひとりの生命を大切にし、真の平和・立正安国が訪れることを念願する。

（小林正雄）

三十九号
（平成二十一年二月十六日付）

◆昨年来の米国発の金融危機は、日本経済に大打撃を与え、円高、雇用難民、景気低迷は長期化している。政治は混迷を続けるのみで、景気回復への有効な政策は未だ見出されない。昨年の漢字は「変」であったが、プラス方向への変化なら良いが、マイナス方向では、日本のみならず世界中が大変である。米国のオバマ大統領は「チェンジ」と叫んで当選したが、世界経済の安定、温暖化等の地球環境問題、新型インフルエンザの出現、続発する民族紛争、国際テロ等、早くプラス方向にチェンジを要するものばかりである。他人まかせで、為政者のみに、危機克服を依拠期待するだけでは何も解決していかない。今この時こそ、我々一人一人が何ができるか、何をすべきか、自問自答する必要がある。本年は『立正安国論』奏進七五〇年に当る。「汝、早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。」今こそ宗祖のこの一筋を胸に銘記し、我々自身がチェンジする時である。◆「変」続きで述べると仏教の命題の一つ、「諸行無常」がある。「この世のあらゆる全ての現象、存在は移ろい変わりゆくもので、生滅変化を繰り返す常ならずにある」とされる。有名な平家物語の冒頭、「祇園精舎の鐘の声　諸行無常の響あり沙羅双樹の花の色　盛者必衰の理をあらはす」とあるせいか、諸行無常が盛者必衰の理として受け取られることが多い。マイナス方向のイメージが強く、文字通り、諸行が、滅びる、衰えると解釈される。現実に、アメリカンドリームを宣揚し、巨額の富を手に入れた米経済界のリーダー達、日本でもヒルズ族ＩＴ長者、勝ち組といわれた人々が、今回の金融危機によって、身を以って実感していることだろうが。諸行無常を消極、悲観的なマイナス思考ではなく、プラス思考も必要ではないか。危機のピンチを、変化のチャンスととらえることもできるのではないか。雑感をのべさせていただいた。合掌

（光）

四十四号
（平成二十三年九月二十三日付）

◆東日本大震災直後、「想定外」という言葉をよく耳にした。◆確かに、映像で見たあの大津波の様子は、想像を絶するもので、あらゆることが想定外であったように思える。大自然の力がいかに大きいか、それに比べて、人間の力がいかに小さなものであるかを思い知らされた。エネルギーとして安全に利用する技術が確立されたかのように言われてきた原子力でさえも、人間の能力では制御しきれないことが露呈した。◆しかし、このような事態を想定できなかった最大の理由は、震災が起こるまでの毎日が平穏無事であったということではないのか？　それまでは、大地が暴れることなく、海が溢れることもなく、生命の危険を感じることもなかったからだ。それは何者かによって護られていたということではないのか。◆三月十一日、千年に一度とも言われるその大地震は起こった。「なぜ今年に限って?」そういう疑問が残る。◆日蓮聖人が、正嘉元（一二五七）年の大地震を契機とし述作された『立正安国論』によれば、天変地天の原因は、日本国を守護すべき諸天善神が去ってしまうからだという。それは、正法たる法華経の教えが廃れて法味を味わうことができないためであり、人々に善悪・正邪を見分ける能力が無くなることによって起こる。◆これを踏まえて震災を考える時、我々は諸天に守護されるにふさわしい立派な考えを持ち、立派な行いをして来たといえるだろうか。物・金・名誉などに執着して、素晴らしい教えがあるにも拘らず、それを捨て去り、人間としてあるべき姿を忘れてはいないだろうか。◆この度の震災は、多くの犠牲者と物的被害を出したが、そこから得ることもあるだろう。何かメッセージを発しているようにさえ思える。今、人間のあり方が問われているのではなかろうか。◆我々は、当り前に得られるものについて、その有り難みが分からない。大自然に守られ、諸天の守護を受けていてもその自覚は薄いのではないか。それは、病気になって初めて健康の有り難さが分かるのと同じだ。教えも同じで、目の前に法華経という立派な教えが伝えられているにも拘らず、軽んじたり謗ったりしてはいないだろうか。この国に正法が流布し、国土も衆生も安らかである事を切に願う。

（量）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593
山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話　〇五五六（六二）一〇一一
FAX　〇五五六（六二）一〇九四

法主　内野日総
総務　井上瑞雄

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576
東京都大田区池上一―一―一
電話　〇三（三七五二）二三三一
FAX　〇三（三七五二）三三五〇

貫首　酒井日慈
執事長　野坂法雄
役職員一同

法華宗（本門流）大本山
鷲山寺
〒297-0051
千葉県茂原市鷲巣四八
電話　〇四七五（二二）二九七八
FAX　〇四七五（二二）三〇三八

貫首　平田日範
執事長　佐藤正純
役職員一同

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話　〇七五（七九一）七一七一
FAX　〇七五（七九一）七二六七

貫首　山本日恵
総務　吉永義康
執事　山本晃道
執事　中村英司
執事　湯原正純
執事　土持悠孝

法華宗（陣門流）総本山
本成寺
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話　〇二五六（三二）〇〇〇八
FAX　〇二五六（三二）〇〇五九

貫首　石丸日然
執事長　笹原壮玄
執事　平井良光
執事　栗田孝之
執事　荒川公孝
執事　近藤正文
執事　五十嵐義昭

法華宗（真門流）総本山
本隆寺
〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話　〇七五（四四一）五七六二
FAX　〇七五（四四一）五六六六

貫主　田仲日紘
執事長　足立真正
執事　本多信正
執事　永岡悠希
執事補　笹木研吾

京都八本山会
本山　本満寺　貫首　伊丹日章
大本山　本圀寺　貫首　伊藤日慈
大本山　妙顯寺　貫首　三田村日正
本山　立本寺　貫首　上田日瑞
本山　妙傳寺　貫首　野々垣日祐
本山　頂妙寺　貫首　安藤日瑛
本山　妙覺寺　貫首　及川日周
本山　本法寺　貫首　瀬川日照

京都
法華門流懇話会
法華宗（真門流）総本山本隆寺　貫主　田仲日紘
顕本法華宗　総本山妙満寺　貫首　山本日恵
本門法華宗　大本山妙蓮寺　貫首　松下日肆
法華宗（本門流）大本山本能寺　貫首　菅原日桑
本門佛立宗　本山宥清寺　講有　山内日開
日蓮本宗　本山要法寺　貫首　丹治日遠
法華宗（陣門流）本山山本禅寺　貫首　福井日進
顕本法華宗　本山寂光寺　貫首　大川日仰

本門佛立宗本山
宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話　〇七五（四六三）四六二〇（代）
FAX　〇七五（四六三）四六五一

住職二十五世講有　山内日開
執事長　小野山日住
事務局長　奥順作

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
宗祖御降誕八百年に向かっての祈り
〒299-5501
千葉県鴨川市小湊一八三
電話　〇四（七〇九五）二六二一
FAX　〇四（七〇九五）二〇五五

貫首　石川日命
執事長　橋本宏信

日蓮宗霊跡本山　比企谷
妙本寺
〒248-0007
鎌倉市大町一―一五―一
電話　〇四六七（二二）〇七七七
FAX　〇四六七（二二五）六九六七

貫首　早水日秀
執事長　立野正泰
山務役職員一同

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013
東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話　〇三（三三一三）六二四一
FAX　〇三（三三一三）五〇〇七

山主　山田日潮

日蓮宗大本山
清澄寺
日蓮聖人出家得度立教開宗の霊場
〒299-5505
千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話　〇四（七〇九四）〇五二五
FAX　〇四（七〇九四）〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

別当　二宮日敬
執事長　宮崎雅宣
役職員一同

日興上人御聖廟
日蓮宗大本山
富士山法華本門寺根源
〒418-0112
静岡県富士宮市北山四九六五
電話　〇五四四（五八）一〇〇四
FAX　〇五四四（五九）〇三〇三

貫首　旭日重
執事長　川名義顕
参与　吉田日綱
参与　井野上正文

多寶富士山
日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話　〇七五（七七一）三三九〇
FAX　〇七五（七七一）五九一四

貫首　丹治日遠
執事長　原田智光
執事　二瀬智光
執事　原光明

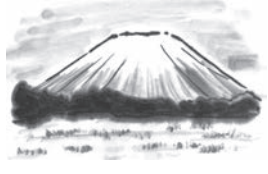
徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺
除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
〒110-0001
東京都台東区谷中四―二―五
電話　〇三（三八二一）四三七三
FAX　〇三（三八二一）七〇三三

貫首　井上日修
執事長　稲荷泰雅

日蓮宗大本山
中山法華経寺
〒272-0813
千葉県市川市中山二―一〇―一
電話　〇四七（三三四）三四三三
FAX　〇四七（三三四）一七九六

執事　新井日湛
執事　村尾貞榮
執事　滝本善孝
執事　高谷正之
執事補　三上智顯
執事補　田中見定

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



（平成二十六年八月現在）

門連時報

祖廟参詣及び身延理事会開催さる



日蓮聖人門下連合会　身延理事会　平成26年6月10日

平成二十六年六月十日（火）、日蓮宗総本山身延山久遠寺で、「日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・身延理事会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長など二十七名が参列した。

午前十一時半、御廟法務所に集合し、祖廟にて法味言上及び記念撮影。続き、報恩閣へ移動し、午後一時四十五分より理事会が開催された。

渡邊照敏理事長退任のため、先に理事長の選出を諮り、常任理事会にて推挙された全門連理事・日蓮宗宗務総長の小林順光師が理事会にて正式に承認。挨拶の後、座長となり議題に沿って議事を進行。「平成二十五年度事業報告」「平成二十五年度決算報告」について事務局より報告。決算報告では別所日山師より監査会で精査されたことが告げられ一同承認。次に、「平成二十六年度事業計画案」「平成二十六年度予算案」を事務局より報告、一同承認。続き、「京都門下連合会活動報告」を橋本一妙京都門下連合会副理事長より、「地方門連活動に関する報告」を東孝信大阪門下懇話会理事長より報告された。「その他」の事項では、平成三十三年に迎える日蓮聖人御降誕八〇〇年について、日蓮聖人門下連合会としての取り組みを企画・検討するため、若い人材の集まる機関紙編集委員会を企画立案することが提案され、承認された。

午後二時四十五分に閉会。会場を下部ホテルに移し、午後六時より各派教団による懇親会が催された。

「オラトリオ日蓮聖人」開催報告

「オラトリオ日蓮聖人」の演奏会が、昨年十月六日（千葉県茂原市民会館）と十月十九日（東京都すみだトリフォニーホール）の二回にわたり開催された。初演から三十二年ぶりとなる演奏会には、両会場合わせて約二千四百人が来場し、観客は明朗な曲にのせられた日蓮聖人の御一代記に思いを馳せ、会場は大いに盛り上がった。

この「オラトリオ日蓮聖人」は、日蓮聖人七〇〇遠忌を記念して制作され、作曲に黛敏郎氏、作詞に西川満氏を迎え、五年の歳月をかけて完成し、昭和五十七年四月二十二日に初演されたものである。

今回の演奏会は、制作当初より深く関わる日蓮聖人門下連合会相談役の持田日勇師（日蓮宗本山藻原寺貫首）が、昨年迎えた日向上人七〇〇遠忌報恩事業の一つとして再演を熱望し、実現したものである。演奏会への総出演者は約二百五十名、公募で集められた合唱団は四十回以上にわたる練習を重ね、その規模の大きさを物語る。また、再演にあたりオーケストラ用の譜面が紛失していたため、日蓮宗宗務院に残されていたパートの譜面を基に専門家へ譜面の補作を依頼し、今回の再演が可能となった。

新たに製本されて完成した譜面は、門下連合会へ寄贈されることとなり、本年八月五日、日蓮宗宗務院において楽譜の寄贈式が行われ、持田相談役より門下連合会理事長の小林順光師（日蓮宗宗務総長）へ寄贈された。持田相談役は「日蓮聖人門下連合会には管理体制を整え、素晴らしい曲を多くの人に鑑賞してもらえるよう、貸出にも応じてほしい」と挨拶し、門下連合会事務局（日蓮宗宗務院）にて管理されることとなった。

大阪日蓮聖人門下懇話会総会開催

大阪日蓮聖人門下懇話会総会が五月十五日　大阪市中央区妙徳寺に於いて開催され、多くの会員の出席をみる。はじめに東孝信理事長導師のもと法味言上、福島正堯師による「宮澤賢治　法華堂建立勧進文を読む」の講演が行われた。引き続き案件に入り、平成二十五年度事業・会計報告並びに平成二十六年度事業計画が承認される。その後、懇親会に移り、会員相互の親睦が深められた。

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二五・一二・一九	渡邊照敏	日蓮宗	理事長	退任	
平成二五・一二・一九	渡邉義生	日蓮宗	常任理事	退任	
平成二五・一二・一九	太田順祥 小泉顯應	日蓮宗	幹事	就任	退任
平成二五・一二・一九	関　勝道 庄中卓弥	日蓮宗	幹事	就任	退任
平成二五・一二・二〇	小林順光	日蓮宗	理事	就任	
平成二五・一二・二〇	小林正雄	日蓮宗	常任理事	就任	
平成二六・四・八	本間直暉 森山真治	国柱会	常任理事	就任	退任
平成二六・五・一四	増田隆雄	本門法華宗	理事	就任	
平成二六・五・二一	藤井照源 橋本一妙	京都門下連合会	副理事長	就任	退任
平成二六・六・一〇	小林順光	日蓮宗	理事長	就任	



日蓮聖人註画讃

小松原山 鏡忍寺 宝蔵

A４判上製本箱付／112頁／
オールカラー
発願・小松原山本山鏡忍寺
監修・中尾堯
頒価 5,400円（税込・送料別）





日蓮宗を代表する
貴重な御伝記を
初めて解読・読み下し、
現代語訳を添えました。



（株）日蓮宗新聞社　〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3　FAX 03-3753-7028　TEL 03-3755-5271

各派・教団・短信

日蓮本宗

◆本年は、日蓮本宗本山要法寺開山日尊上人がご生誕された文永二年（一二六五）から、ちょうど七百五十年を数える節目の聖年となる。日蓮本宗と本山要法寺では、かねてより計画されていた記念事業「御開山日尊上人御生誕七五〇年慶讃大法要」を五月八日に奉行し、またこの大法要に合わせて、昨年十月に本山要法寺貫首・日蓮本宗管長に就任された丹治日遠猊下の「嗣法第五十二祖日遠上人晋山式」も併修され、僧侶・檀信徒合わせて約五百人が参集した。大法要終了後、会場を京都市内のホテルに移し、「丹治日遠上人晋山祝賀会」が催され、大本山法華本門寺根源貫首・旭日重猊下、大本山妙蓮寺貫首・松下日肆猊下をはじめとする日蓮門下各派本山の貫首猊下が来賓としてご出席され、日蓮本宗僧侶・檀信徒ら合わせて約二百五十人出席の下、共に慶事を盛大に祝した。（柳下真敬）

法華宗真門流

◆三月二十六日～二十八日、本隆寺に於いて、第三十一回僧風林・錬成道場開催。◆四月七日～十四日、本隆寺に於いて、春季学林開講。◆四月十一日～十三日、本隆寺に於いて、春季大法会厳修。◆四月十三日、第二教区主催「第三十三回檀信徒研修会」開催。◆四月十六日～二十日、福井・本承寺に於いて、布教師養成所（岡眞行所長）開所。◆四月二十六日～五月六日、京都古文化保存協会主催の春季京都非公開文化財特別公開にて、本隆寺を一般公開。◆五月二十一日、第一教区主催「第三十四回檀信徒の集い」開催。◆五月二十日、第三教区教学研修会開催。◆五月二十五日、「合掌運動北海道大会　第三十回記念大会」開催。◆六月二日～三日、本隆寺に於いて、研修会開催。◆六月三日、本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。◆八月一日～三日、本隆寺に於いて、暁天講座開催。◆八月十六日、本隆寺に於いて、盂蘭盆会法要奉修。◆八月二十三日～二十九日、本隆寺に於いて、夏期講習会開催。《遷化》総本山第百五世　吉田日孝聖人　四月一日御遷化。（森田量哲）

本門法華宗

◆三月二十五日、第百三回本門法華宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催。◆四月十二日、大本山妙蓮寺（松下日肆貫首）において春季大法要を奉修。◆四月二十三日、大本山妙蓮寺において大本山妙蓮寺第百二十世山下日竣猊下加歴晋山奉告法要を奉修。◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百四十八回教学講習会を三月二十七・八日、第百四十九回同講習会を六月二十三・四日、卯木講堂にて開講。◆布教誌『生きる』第六十二号、信報『信行』第百八十一号を七月一日に発行。（吉村光敬）

国柱会

◆一月一日、元旦大国祷。新年拝賀式。神酒拝戴式。賽主先生以下有志明治神宮参拝。七日、昭和天皇祭。賽主先生以下中央有志武蔵野御陵参拝。十二日、近畿地方連合局新年会に賽主先生御夫妻ご出席。松下陽一講師補随行。十六日、「明治の日」推進協議会運営・実行委員会（於、衆議院第二議員会館）開催。賽主先生、森山真治講師補出席。十七日、恩師忌。常勤給仕日。日蓮主義講習会開催。十八～十九日、各局輪番常勤給仕。十九日、妙宗大霊廟例月供養会。中央同志新年大会開催。二十三日、日蓮聖人門下連合会機関紙編集委員会（於、日蓮宗宗務院）開催。森山講師補出席。◆二月一日、月旦大国祷。二日、賽主先生、東日本大震災復興支援活動（福島県南相馬）五日迄。十一日、紀元節慶讃法要。十五日、釈尊涅槃会報恩大法要。十五～十六日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。十六日、聖祖降誕会慶讃大法要並びに妙宗大霊廟例月供養会。十七日、恩師忌。常勤給仕日。◆三月一日、月旦大国祷。四日、神社本庁にて「昭和の日をお祝いする集い」開催打ち合わせ。森山真治講師補出席。十一日、東日本大震災殉難之諸精霊位追善法要厳修。十七日、恩師忌。常勤給仕日。二十～二十一日、妙宗大霊廟各局輪番常勤給仕。二十一日、妙宗大霊廟春季彼岸大供養会。二十四日、日蓮主義講習会開催。三十日、申孝園桜まつり（本部・二階講堂）開催。◆四月一日、月旦大国祷。二日、明治神宮昭憲皇太后百年祭式典に賽主先生御出席。森山真治講師補、永野公一本部員随行。五日、賽主先生、九州地方連合局御親教。随行に森山講師補。七日迄。八日、釈尊降誕会慶讃法要。御聖日集会担当、森山講師補。十七日、恩師忌。常勤給仕日。十九～二十日、各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗大霊廟例月供養会。二十七日、身延登詣団先発隊出発。二十八日、立正会慶讃法要。第八十四回身延登詣団開催。翌日身延思親閣登詣。（森山真治）

京都門下連合会

◆一月二十四日（金）新年理事会（本能寺文化会館）会長田仲日紘猊下　副会長伊丹日章猊下　理事長足立真正師　副理事長藤井照源師。◆二月十四日（金）総会・御降誕会（法華宗真門流総本山本隆寺）導師田仲日紘猊下　講師伊丹日章猊下。◆三月七日（金）理事会（総本山本隆寺）立教開宗会の件。◆四月二十六日（土）立教開宗会（比叡山横川定光院）導師伊丹日章猊下　講師堀田泰盛師　観光琵琶湖博物館。◆六月十日（火）身延理事会（日蓮宗総本山身延山久遠寺・下部ホテル）。◆六月十二日（木）理事会（総本山本隆寺）第五十回夏季大学の件。◆八月三十日（土）第五十回夏季大学（本能寺文化会館）講師田仲日紘猊下（総本山本隆寺貫主）北川前肇師（立正大学教授）市田ひろみ様（服装評論家）。同日　理事会（本能寺文化会館）お会式の件。◆十月四日（土）お会式（総本山本隆寺）導師田仲日紘猊下　講師及川日周猊下。◆十月六日（月）理事会（総本山本隆寺）京都理事会の件。◆十月二十三日（木）京都理事会（総本山本隆寺・京都ブライトンホテル）。◆十二月十九日（金）理事会（本能寺文化会館）行事報告　会計報告の件。◆四月三日（木）日蓮宗大本山妙顯寺第六十六世三田村日正猊下御晋山第六十七世三田村日佑猊下（妙行院日佑上人）御本葬。◆五月八日（木）日蓮本宗本山要法寺第五十二世丹治日遠猊下御晋山。（橋本一妙）

日蓮宗

◆アメリカ合衆国ロサンゼルス米国別院で内野日総管長猊下大導師のもと、北米開教百周年慶讃法要が宗門法要として六月二十九日に営まれた。また前日には早水日秀日蓮宗声明導師が導師、現地の開教師が式衆を勤め「北米開教布教先師報恩声明法要」が、さらには東京都修法師会が中心となり、金井勝海北米教区長を導師に「世界平和祈願法要」が行われた。◆「千鳥ヶ淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が八月十五日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で小林順光宗務総長を導師、東京四管区の宗務所長が副導師で営まれた。（大澤宏明）

法華宗本門流

◆四月八日　応永二十七年（一四二〇）に創立され、現在まで続く「興隆学林専門学校」の入学式が行われた（宗学科五名、宗学研究科六名入学）。◆四月十一日　戦没者慰霊法要奉修（千鳥ヶ淵墓苑）。◆六月十六日　法華宗再興之唱導師日隆聖人　御正当法要奉修　射水市　誕生寺（日隆聖人御生誕地）。◆五月二十～二十二日　第六十八次宗会開催。◆五月二十七～二十八日　平成二十六年宗務所長会開催。◆六月二日　興隆学林専門学校　新校舎上棟式奉修（尼崎市）。◆六月六～十日法華宗米国開教四十五年記念法要を奉修（於　法華宗桑港仏教会）。◆九月二十九日　興隆学林新校舎落成慶讃法要を奉修（尼崎市）。◆十一月十三日　沼津市　大本山光長寺貫首　石田日信猊下が法華宗第百三十四代管長に就任。推戴式は翌十四日に厳修される（於　大本山光長寺）。◆僧侶の布教技術の攻究を目指す、布教法式研修会の日程と内容は次の通り。（法話）九月十七～十八日　於　ホテル札幌サンプラザ（法要式）十一月六～七日　於　北九州市　妙應寺◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す、教学講習会の本年日程は次の通り。九州（七月二十八～三十日）　北海道（八月二十八～三十日）　兵庫（九月二～四日）　東海（十月一～三日）　中国（十月二十八～三十日）（宮村光明）

顕本法華宗

◆二月二十八日、千葉県木更津市本立寺において、開祖日什大正師の開山会法要を奉修。法要後、落語家の三遊亭圓窓師匠による「落語と仏教」と題する講演が行われた。◆三月六日・七日の両日、総本山妙満寺において、第六十九定期宗会が開催された。平成二十五年度宗務事業報告及び決算、平成二十六年度事業計画及び予算案が承認された。◆四月二十六日・二十七日の両日、総本山妙満寺において、春季報恩大法要を厳修、併せて霊宝「安珍清姫の鐘」鐘供養を奉行した。鐘供養後には、歌舞伎俳優・中村橋之助丈による奉納舞が披露された。◆五月十五日、総本山妙満寺において、教学研究所主催「公開研究例会」を開催、二名の教師が日頃の研究成果を発表した。研究発表に続き、布教総監・河村孝照師と立正大学仏教学部講師・本間俊文先生による特別講義が行われた。◆五月二十五日、山本日恵猊下大導師のもと、開祖日什大正師誕滅の霊場である福島県会津若松市の別格山妙法寺において、「開祖日什大正師御生誕七〇〇年慶讃大法要」が厳修された。また、東日本大震災で大きな被害を受けた妙法寺本堂の修復落慶法要と東日本大震災物故者追悼・被災者復興祈念法要が併修された。翌二十六日には、會津風雅堂において、「慶讃の集い」を開催。会津参詣の僧員・檀信徒、約千二百名が参加した。地元の郷土芸能・会津彼岸獅子の演舞にはじまり、布教ビデオの上映、慶讃音楽大法要、布教総監・河村孝照師の布教講演、雅楽師・東儀秀樹氏の記念公演が行われ、参加者一同、法悦極まるといった様子であった。◆七月二十八日～三十一日の三泊四日にわたり、総本山妙満寺において、「第五十回・顕本青少年錬成会」を開催、六十三名の小中学生が参加した。◆八月二十五日～九月八日の十五日間にわたり、総本山妙満寺において、平成二十六年度妙塔学林（本科・研修科）を開講。（橘無限）

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺（新潟県三条市）で「節分大祈願会」が、本成寺貫首・石丸日然猊下導師により厳修された。今年も約二万人の参詣者で賑わい、午後一時と三時の祈願終了後には恒例の鬼踊り、豆まきが行われ参詣者を楽しませた。◆三月六日・七日の二日間、第百二十一次定時宗会が宗務院（東京巣鴨）にて開催された。ここで、本年一月よりユネスコを中心に開始された、ネパールのティラウラコット遺跡の発掘調査に、本宗寺院のリッショウイン・シャンティビハール（住職 村上東俊）が宿泊施設を提供することで発掘プロジェクトに参加することが報告されるとともに、法華宗陣門流としても発掘チームを率いるイギリスのダラム大学に協賛として資金援助を行うことが決定した。◆四月十七日、宗務所長会が宗務院にて開催された。◆五月九日、宗研所報編集会議が宗務院にて開催された。◆五月九日、布教研究所所員会が宗務院にて開催された。◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺（静岡県伊東市）で「伊豆法難会」が中野日仁山主導師により厳修された。本堂での法要に引き続き、俎岩を間近に臨む奥の院にて法要が営まれた。◆五月十三日～六月二十一日までの四十日間、「法華宗学林」が総本山本成寺にて開講された。今年も全国より多くの寺院徒弟が集まった。学林生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。◆五月二十三日～二十六日の四日間、総本山本成寺で「千部大法要」が厳修された。二十三日・二十四日を現貫首日然猊下、二十五日・二十六日を前貫首椿澤日壽猊下が大導師を勤められ、日蓮大聖人御真筆大曼荼羅御開帳法要・鐘楼改修竣工式・御歴代法要・写経塚開眼法要等々の法要が営まれ、連日全国より多くの檀信徒が参詣した。また、「本成寺本堂再建百年のあゆみ展並びに石川雲蝶秀作展」と題し、本堂再建に関わる当時の貴重な資料や、本成寺と縁の深い彫刻家・石川雲蝶の作品のうち、本成寺や塔中寺院の所蔵作品に加え、県内外の所蔵家の協力による作品を加えた十数点が展示された。◆五月二十七日、会計監査会が宗務院にて開催された。◆七月六日、雅楽練習会が宗務院で開催された。◆七月二十八日、宗法審議委員会が宗務院にて開催された。（田辺尚志）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日　蓮　宗　　法華宗本門流
顕本法華宗　　法華宗陣門流
本門佛立宗　　日　蓮　本　宗
法華宗真門流　　本　門　法　華　宗
国　柱　会　　日本山妙法寺
京都門下連合会

日蓮聖人門下連合会 加盟教団所在地

● 日蓮宗務院
〒一四六－八五四四
東京都大田区池上一―三二―一五

● 法華宗（本門流）宗務院
〒一〇三－〇〇一三
東京都中央区日本橋人形町二―一九―一

● 顕本法華宗宗務院
〒六〇六－〇〇一五
京都市左京区岩倉幡枝町九一

● 法華宗（陣門流）宗務院
〒一七〇－〇〇〇二
東京都豊島区巣鴨五―三五―六

● 本門佛立宗宗務本庁
〒六〇二－八三七七
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇

● 日蓮本宗宗務院
〒六〇六－八三六二
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八

● 法華宗（真門流）宗務庁
〒六〇二－八四四七
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇

● 本門法華宗宗務院
〒六〇二－八四一八
京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内

● 宗教法人 国柱会
〒一三二－〇〇二四
東京都江戸川区一之江六―一九―一八

● 京都日蓮聖人門下連合会
〒六〇六－八三七六
京都市左京区二条通川端東入大菊町九六
頂妙寺布教会館内　日蓮宗京都府第一部宗務所内

● 日本山妙法寺大僧伽
〒一五〇－〇〇四五
東京都渋谷区神泉町八―七

日蓮聖人門下連合会　役員

※〈 〉内、門連役職名

内野 日総	日蓮宗	〈顧問〉	
小林 順光	日蓮宗	〈理事長〉	
小林 正雄	日蓮宗	〈常任理事〉	
伊丹 日章	日蓮宗	〈理事〉	
桃井 日英	法華宗（本門流）	〈顧問〉	
二瓶 海照	法華宗（本門流）	〈常任理事〉	
久永 晃顕	法華宗（本門流）	〈理事〉	
三吉 廣明	法華宗（本門流）	〈理事〉	
山本 日恵	顕本法華宗	〈顧問〉	
島田 幸晴	顕本法華宗	〈常任理事〉	
吉永 義康	顕本法華宗	〈理事〉	
秋葉 敬真	顕本法華宗	〈理事〉	
門谷 日悠	法華宗（陣門流）	〈顧問〉	
西山 英仁	法華宗（陣門流）	〈常任理事〉	
牧野 秀成	法華宗（陣門流）	〈理事〉	
布施 義高	法華宗（陣門流）	〈理事〉	
髙須 日良	本門佛立宗	〈顧問〉	
蓑田 清文	本門佛立宗	〈常任理事〉	
江口 淳節	本門佛立宗	〈理事〉	
長松 清潤	本門佛立宗	〈理事〉	
丹治 日遠	日蓮本宗	〈顧問〉	
渡邉 光顕	日蓮本宗	〈常任理事〉	
野津 哉輪	日蓮本宗	〈理事〉	
佐藤 勧行	日蓮本宗	〈理事〉	
上田 日献	法華宗（真門流）	〈顧問〉	
堀　智泰	法華宗（真門流）	〈常任理事〉	
木村 完祥	法華宗（真門流）	〈理事〉	
堀内 浩善	法華宗（真門流）	〈顧問〉	
別所 日山	本門法華宗	〈顧問〉	
香川 日憲	本門法華宗	〈常任理事〉	
佐藤 光徳	本門法華宗	〈理事〉	
増田 隆雄	本門法華宗	〈顧問〉	
田中 壮谷	国柱会	〈理事〉	
原田 義彦	国柱会	〈顧問〉	
森山 真治	国柱会	〈常任理事〉	
藤本 坦孝	国柱会	〈理事〉	
伊丹 日章	京都門下連合会	〈顧問〉	
橋本 一妙	京都門下連合会	〈常任理事〉	
赤塚 高明	京都門下連合会	〈理事〉	
吉田 行典	日本山妙法寺	〈顧問〉	
木津 博充	日本山妙法寺	〈理事〉	
川岸 行孝	日本山妙法寺	〈理事〉	
伊藤 通明	日蓮宗	〈顧問〉	
奥邨 正寛	日蓮宗	〈顧問〉	
小松 浄慎	日蓮宗	〈理事〉	
渡邊 照敏	日蓮宗	〈理事〉	
持田 日勇	日蓮宗	〈理事〉	
遠藤 文祥	日蓮宗	〈顧問〉	
福島 泰樹	法華宗（本門流）	〈常任理事〉	
富川 大亮	日蓮宗	〈理事〉	
小泉 顕應	日蓮宗	〈理事〉	
庄中 卓弥	日蓮宗	〈幹事〉	

日蓮聖人門下連合会 機関紙編集委員

大澤 宏明　日蓮宗
平田 義生　法華宗（本門流）
後藤 妙扇　法華宗（本門流）
吉本 栄昶　顕本法華宗
橘　無限　顕本法華宗
田邉 尚志　法華宗（陣門流）
竹内 敬雅　法華宗（陣門流）
長松 清潤　本門佛立宗
柳下 真敬　日蓮本宗
堀内 浩善　法華宗（真門流）
森田 量哲　法華宗（真門流）
木村 光正　本門法華宗
吉村 光敬　本門法華宗
森山 真治　国柱会
的場 春奈　国柱会
橋本 一妙　京都門下連合会
武田 隆雄　日本山妙法寺
江上　彰　日本山妙法寺
藤本 隆之　展転社
荒岩 宏奨　展転社

〔事務局〕
富川 大亮　日蓮宗
小泉 顕應　日蓮宗
庄中 卓弥　日蓮宗

（平成二十九年八月現在／敬称略）

日蓮聖人御降誕八〇〇年慶讃記念
「門連だより」合本（創刊号～第五十号）
〈非売品〉

平成二十九年十月十三日発行

編集者　日蓮聖人門下連合会

編集協力　機関紙編集委員会

発行所　日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上一－三二－一五
日蓮宗宗務院内
TEL　〇三－三七五一－七一八一（代）

印刷製本　株式会社　光邦